平成21年度放送大学学部開設予定授業科目講義内容

平成20年11月発行
第　26　版

放送大学学園
教務部教務課

目　　次

1．基礎科目

番号		頁	メディア	単位
1	生活とリスク（’０７）……	1	R	2
2	かしこくなる患者学（’０７）……	4	R	2
3	運動と健康（’０９）……（２００９年度開設科目）…	7	TV	2
4	こころとからだ（’０７）－人間を理解する－……	10	R	2
5	市民と社会を生きるために（’０９）－実践のすすめ－……（２００９年度開設科目）…	13	R	2
6	市民と社会を知るために（’０８）－名著に触れよう－……	17	R	2
7	市民と社会を考えるために（’０７）……	21	R	2
8	問題発見と解決の技法（’０８）……	25	TV	2
9	哲学への誘い（’０８）……	28	R	2
10	歴史と人間（’０８）……	31	TV	2
11	コミュニケーション論序説（’０７）……	34	R	2
12	日本語表現法（’０７）……	37	R	2
13	アジアと漢字文化（’０９）……（２００９年度開設科目）…	40	TV	2
14	世界の名作を読む（’０７）……	43	R	2
15	人類の歴史・地球の現在（’０７）－文化人類学へのいざない－……	46	TV	2
16	初歩からの生物学（’０８）……	51	TV	2
17	初歩からの物理学（’０８）－物理へようこそ－……	54	TV	2
18	物理の考え方（’０７）……	58	TV	2
19	初歩からの化学（’０８）……	62	TV	2
20	科学的な見方・考え方（’０７）……	65	R	2
21	エネルギー学の基礎（’０７）……	68	TV	2
22	物質循環と人間活動（’０７）……	71	TV	2
23	初歩からの数学（’０８）……	74	TV	2
24	数学再入門（’０７）……	76	TV	2
25	身近な統計（’０７）……	79	TV	2
26	基礎からの英文法（’０９）……（２００９年度開設科目）…	82	R	2
27	英語の基本（’０８）……	85	TV	2

2．共通科目（一般科目）

	（人文系）			
28	基礎教育学（’０７）……	88	R	2
29	学校教育論（’０８）……	91	R	2
30	心理学入門（’０６）……	94	TV	2
31	認知心理学概論（’０６）……	97	TV	2
32	教育心理学概論（’０９）……（２００９年度開設科目）…	100	R	2
33	社会心理学の基礎と応用（’０８）……	103	R	2
34	精神分析入門（’０７）……	106	R	2
35	心理臨床の基礎（’０８）……	109	R	2
36	人格心理学（’０９）……（２００９年度開設科目）…	112	R	2
37	現代を生きる哲学（’０７）……	115	R	2
38	生命と人生の倫理（’０５）……	118	TV	2
39	音楽理論の基礎（’０７）……	121	TV	2

		頁	メディア	単位
40	日本近現代史（’０９）……（２００９年度開設科目）…	124	R	2
41	地中海世界の歴史（’０９）－古代から近世－……	127	TV	2
42	国文学入門（’０８）……	130	R	2
43	文学の愉しみ（’０８）……	132	R	2
44	人文地理学（’０８）……	135	TV	2
45	博物館概論（’０７）……	138	TV	2
	（社会系）			
46	仕事・所得と資産選択（’０８）……	141	R	2
47	現代世界の結婚と家族（’０８）……	144	TV	2
48	住まい学入門（’０７）……	147	TV	2
49	社会福祉入門（’０８）……	150	TV	2
50	現代の生活問題（’０７）……	154	R	2
51	経済学入門（’０８）……	157	R	2
52	経済社会の考え方（’０７）……	160	R	2
53	２１世紀の社会学（’０５）……	166	TV	2
54	社会調査（’０９）……（２００９年度開設科目）…	169	TV	2
55	社会統計学（’０７）……	172	R	2
56	市民社会と法（’０８）……	175	R	2
57	日本国憲法（’０５）……	178	TV	2
58	政治学入門（’０７）……	181	TV	2
59	経営学入門（’０７）……	184	R	2
60	グローバル経営戦略（’０６）……	187	R	2
61	現代の会計（’０８）……	190	TV	2
62	技術者倫理（’０９）……（２００９年度開設科目）…	193	TV	2
63	社会と知的財産（’０８）……	196	TV	2
	（自然系）			
64	疾病の成立と回復促進（’０５）……	200	TV	2
65	人体の構造と機能（’０５）……	203	TV	2
66	疾病の回復を促進する薬（’０７）……	206	TV	2
67	情報科学の基礎（’０７）……	210	TV	2
68	生物集団と地球環境（’０７）……	213	TV	2
69	物理の世界（’０７）……	216	TV	2
70	基礎化学（’０６）……	221	TV	2
71	実験科学とその方法（’０６）……	224	TV	2
72	変化する地球環境（’０４）……	228	TV	2
73	宇宙観の歴史と科学（’０８）……	231	TV	2
74	惑星地球の進化（’０７）……	233	TV	2
75	初歩からの微積分（’０６）……	236	TV	2
76	入門線型代数（’０９）……（２００９年度開設科目）…	239	TV	2
77	解析入門（’０８）……	242	TV	2

３．共通科目（外国語科目）		頁	メディア	単位
	（英語）			
78	英語講読（’０８）……	245	R	2
79	英語中級Ｂ（’０６）－ＢＢＣドラマで学ぶー……	247	TV	2
80	英語総合Ａ（’０５）－歴史・文化・社会－……	250	R	2
81	英語総合Ｂ（’０７）－Poem into Song－ ……	253	R	2
	（ドイツ語）			
82	ドイツ語入門Ⅰ（’０６）……	256	TV	2
83	ドイツ語入門Ⅱ（’０６）……	259	R	2
84	ドイツ語基礎（’０６）……	261	R	2
	（フランス語）			
85	フランス語入門Ⅰ（’０６）……	264	TV	2
86	フランス語入門Ⅱ（’０６）……	267	R	2
87	フランス語基礎（’０６）……	270	R	2
	（中国語）			
88	中国語入門Ⅰ（’０５）……	273	TV	2
89	中国語入門Ⅱ（’０５）……	276	R	2
90	中国語基礎（’０８）－ラブレターは書きますかー……	279	R	2
	（スペイン語）			
91	スペイン語入門Ⅰ（’０７）……	281	R	2
92	スペイン語入門Ⅱ（’０７）……	284	R	2
	（韓国語）			
93	韓国語入門Ⅰ（’０６）……	287	TV	2
94	韓国語入門Ⅱ（’０６）……	290	R	2
	（日本語）			
95	日本語基礎Ａ（’０６）……	293	TV	2
96	日本語基礎Ｂ（’０７）……	296	R	2
	（アラビア語）			
97	初歩のアラビア語（’０６）－アラブ・イスラーム文化への招待ー……	300	TV	2

４．共通科目（主題科目）

		頁	メディア	単位
	（主題科目）			
98	情報と社会（’０６） ……	304	TV	2

５．専門科目

	生活と福祉	頁	メディア	単位
	（生活）			
99	生活知と科学知（’０９）㊥ ……（２００９年度開設科目）…	306	TV	2
100	家族のストレスとサポート（’０８）㊥ ……	309	R	2
101	人口減少社会の生活像（’０６）㊥ ……	312	R	2
102	衣生活の科学（’０６）㊥ ……	315	R	2
103	食と健康（’０６）－食品の成分と機能－ ㊥……	318	TV	2
104	食品の安全性を考える（’０８）㊥ ……	322	R	2
105	暮らしの防犯と防災（’０６）㊥ ……	325	TV	2
106	失敗予防の住まい学（’０９）㊥ ……（２００９年度開設科目）…	329	TV	2
	（健康）			
107	公衆衛生（’０９）㊥ ……（２００９年度開設科目）…	332	R	2
108	脳科学の進歩（’０６）－分子から心まで－ ㊥……	336	TV	2
109	感染症と生体防御（’０８）㊥ ……	340	R	2
110	がんの健康科学（’０６）㊥ ……	344	TV	2
111	リハビリテーション（’０７）㊥ ……	348	R	2
112	看護学概説（’０５）㊥ ……	351	R	2
113	基礎看護学（’０４）㊥ ……	354	TV	2
114	在宅看護論（’０４）㊥ ……	357	TV	2
115	身体福祉論（’０７）－身体運動と健康－ ㊥……	360	TV	2
	（福祉）			
116	少子化時代の児童福祉（’０７）㊥ ……	363	R	2
117	高齢期を支える社会福祉システム（’０７）㊥ ……	366	TV	2
118	地域福祉論（’０６）㊥ ……	369	R	2
119	市民生活における社会保険（’０８）㊥ ……	372	R	2
120	アジアの社会福祉（’０６）㊥ ……	375	R	2
121	障がいと共に暮らす（’０９）－自立と社会連帯－ ㊥……（２００９年度開設科目）…	378	TV	2

㊥：旧「生活と福祉専攻」の科目です。

	心理と教育	頁	メディア	単位
	（教育）			
122	教育の社会史（’０８）㊘	382	R	2
123	教育社会学（’０７）㊘	385	TV	2
124	大学と社会（’０８）㊘	388	TV	2
125	道徳教育論（’０９）㊘ （２００９年度開設科目）	391	TV	2
126	地域教育の創造と展開（’０８）㊘	394	R	2
127	生涯学習と自己実現（’０６）㊘	397	R	2
128	転換期の教師（’０７）㊘	400	R	2
129	特別支援教育基礎論（’０７）㊘	403	R	2
130	発達障害の教育支援法（’０６）㊘	406	TV	2
131	特別支援教育総論（’０７）㊘	409	R	2
132	生徒指導（’０６）㊘	412	TV	2
133	授業研究と談話分析（’０６）㊘	415	R	2
	（心理）			
134	心理学研究法（’０８）㊘	418	R	2
135	心理学史（’０５）㊘	421	TV	2
136	認知科学の展開（’０８）㊘	425	TV	2
137	計量心理学（’０６）㊘	429	TV	2
138	基礎発達心理学（’０６）㊘	432	R	2
139	神経心理学（’０６）㊘	435	R	2
140	感情の心理学（’０７）㊘	438	R	2
141	記憶の心理学（’０８）㊘	441	TV	2
142	子ども・青年の生活と発達（’０６）㊘	444	TV	2
	（臨床心理）			
143	乳幼児・児童の心理臨床（’０７）㊘	448	TV	2
144	思春期・青年期の心理臨床（’０９）㊘ （２００９年度開設科目）	451	R	2
145	心の健康と病理（’０８）㊘	454	R	2
146	心理カウンセリング序説（’０９）㊘ （２００９年度開設科目）	457	R	2
147	スクールカウンセリング（’０５）㊘	460	TV	2
148	保育カウンセリング（’０８）㊘	463	R	2
149	発達障害児の心と行動（’０６）㊘	466	TV	2

㊘：旧「発達と教育専攻」の科目です。

	社会と産業	頁	メディア	単位
	（社会・経済）			
150	現代経済学（’０９）㊍ ……（２００９年度開設科目）…	469	TV	2
151	労働経済（’０８）㊍ ……	472	TV	2
152	日本経済史（’０８）㊍ ……	475	R	2
153	財政学（’０５）㊍ ……	478	TV	2
154	ジェンダーの社会学（’０８）㊍ ……	481	R	2
155	社会階層と不平等（’０８）㊍ ……	483	TV	2
156	現代コミュニティ論（’０６）㊍ ……	486	TV	2
157	自我の社会学（’０５）㊍ ……	489	R	2
	（法律・政治）			
158	現代の犯罪と刑罰（’０９）㊍ ……（２００９年度開設科目）…	492	R	2
159	現代環境法の諸相（’０９）㊍ ……（２００９年度開設科目）…	495	TV	2
160	裁判の法と手続（’０８）㊍ ……	498	TV	2
161	雇用・福祉・家族と法（’０７）㊍ ……	500	TV	2
162	企業の組織・取引と法（’０７）㊍ ……	503	R	2
163	市民生活の財産法（’０６）㊍ ……	506	TV	2
164	行政法と市民（’０６）㊍ ……	509	R	2
165	国際関係法（’０６）㊍ ……	512	R	2
166	著作権法概論（’０６）㊍ ……	514	R	2
167	西洋政治理論の伝統（’０９）㊍ ……（２００９年度開設科目）…	517	R	2
168	比較政治－中南米（’０８）㊍ ……	520	R	2
169	現代の国際政治（’０８）－９月１１日後の世界－ ㊍……	523	TV	2
170	現代行政分析（’０８）㊍ ……	526	R	2
171	現代日本の政治（’０７）㊍ ……	528	R	2
172	日本政治外交史（’０７）－転換期の政治指導－ ㊍……	531	TV	2
173	ヨーロッパ政治史（’０５）㊍ ……	534	R	2
174	現代東アジアの政治（’０４）㊍ ……	536	R	2
	（産業・経営）			
175	２１世紀の女性と仕事（’０６）㊎ ……	538	TV	2
176	マーケティング論（’０８）㊎ ……	541	R	2
177	国際経営（’０９）㊎ ……（２００９年度開設科目）…	544	R	2
178	管理会計（’０６）㊎ ……	547	R	2
179	簿記入門（’０６）㊎ ……	550	R	2
180	ビジネス・ファイナンス（’０８）㊎……	552	R	2
181	アーツ・マネジメント（’０６）㊎ ……	555	TV	2
182	企業統治と企業倫理（’０７）㊎ ……	558	TV	2
183	企業戦略と企業文化（’０８）㊎ ……	560	TV	2
184	官民の人的資源論（’０９）㊎ ……（２００９年度開設科目）…	562	TV	2
185	ＮＰＯマネジメント（’０７）㊎ ……	565	R	2
186	アグリビジネスと農業・農村（’０６）－多様な生活への貢献－ ㊎……	568	R	2
187	組織運営と内部監査（’０９）㊎ ……（２００９年度開設科目）…	572	TV	2

		頁	メディア	単位
	（社会技術）			
188	社会技術概論（’０７）㊭ ……	575	TV	2
189	エネルギー工学と社会（’０６）㊭ ……	578	TV	2
190	物質・材料工学と社会（’０５）㊭ ……	583	TV	2
191	バイオテクノロジーと社会（’０９）㊭ ……（２００９年度開設科目）…	586	TV	2
192	日本の技術革新（’０８）㊭ ……	590	TV	2
193	デザイン工学（’０８）㊭ ……	593	TV	2
194	都市と防災（’０８）㊭ ……	596	TV	2
195	環境デザイン論（’０９）㊭ ……（２００９年度開設科目）…	599	TV	2

㊮：旧「社会と経済専攻」の科目です。
㊭：旧「産業と技術専攻」の科目です。

	人間と文化	頁	メディア	単位
	（哲学・芸術）			
196	日本の思想（’０８）㊥	602	R	2
197	実存と現象学の哲学（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	605	R	2
198	芸術の理論と歴史（’０６）㊥	610	TV	2
199	芸術・文化・社会（’０６）㊥	613	TV	2
200	日本美術史（’０８）㊥	616	TV	2
201	現代日本社会における音楽（’０８）㊥	619	R	2
202	演劇入門（’０６）－古典劇と現代劇－ ㊥	621	TV	2
	（歴史・地域文化）			
203	考古学（’０９）－その方法と現状－ ㊥ （２００９年度開設科目）	624	TV	2
204	日本の古代（’０５）㊥	627	TV	2
205	日本の中世（’０７）㊥	630	TV	2
206	日本の近世（’０７）㊥	633	R	2
207	北東アジアの歴史と朝鮮半島（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	637	R	2
208	中国社会の歴史的展開（’０７）㊥	640	R	2
209	前近代の東南アジア（’０６）㊥	643	R	2
210	中央アジアの歴史・社会・文化（’０４）㊥	647	R	2
211	ヨーロッパの歴史と文化（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	650	TV	2
212	アメリカの歴史と文化（’０８）㊥	653	TV	2
	（人類学・比較文化）			
213	文化人類学（’０８）㊥	656	TV	2
214	資源人類学（’０７）㊥	660	TV	2
215	博物館資料論（’０８）㊥	663	TV	2
216	博物館経営・情報論（’０８）㊥	666	R	2
	（文学・言語文化）			
217	日本語学～母語のすがたと歴史～（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	669	R	2
218	日本語基礎Ａ（’０６）－文法指導法と学習－ ㊥	672	TV	2
219	日本語基礎Ｂ（’０７）－コミュニケーションと異文化理解－ ㊥	675	R	2
220	日本の古典－古代編（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	679	R	2
221	日本の古典－散文編（’０６）㊥	682	R	2
222	日本の古典－江戸文学編（’０６）㊥	685	R	2
223	日本文学の読み方（’０９）㊥ （２００９年度開設科目）	688	R	2
224	２０世紀の中国文学（’０５）㊥	691	R	2
	（情報）			
225	コンピュータのしくみ（’０８）㊦	694	TV	2
226	文献学（’０８）㊥	697	TV	2

㊥：旧「人間の探究専攻」の科目です。
㊦：旧「産業と技術専攻」の科目です。

	自然と環境	頁	メディア	単位
	(生命・生態)			
227	分子生物学（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	700	TV	2
228	生物界の変遷（’０６）㊎ ……	703	TV	2
229	植物の科学（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	706	TV	2
230	動物の科学（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	709	TV	2
231	細胞生物学（’０７）㊎ ……	713	TV	2
	(物質・エネルギー)			
232	現代物理（’０８）㊎ ……	716	TV	2
233	力と運動の物理（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	720	TV	2
234	光と電磁場（’０５）㊎ ……	724	TV	2
235	熱と温度（’０８）㊎ ……	727	TV	2
236	量子物理（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	730	TV	2
237	物質の科学・有機化学（’０６）㊎ ……	734	TV	2
238	量子化学（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	737	TV	2
239	分析によって知る世界（’０７）㊎ ……	740	TV	2
	(宇宙・地球)			
240	進化する宇宙（’０５）㊎ ……	743	TV	2
241	宇宙からの情報（’０５）㊎ ……	745	TV	2
	(数理)			
242	空間とベクトル（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	748	TV	2
243	数学基礎論（’０８）㊎ ……	751	R	2
244	自然と社会を貫く数学（’０７）㊎ ……	754	R	2
245	数学とコンピュータ（’０６）㊎ ……	757	TV	2
246	統計学（’０９）㊎ …… （２００９年度開設科目）…	760	R	2

㊎：旧「自然の理解専攻」の科目です。

6．総合科目

		頁	メディア	単位
247	変動する社会と暮らし（’０７）㊥	763	R	2
248	国際共生に向けた健康への挑戦（’０８）㊥	767	TV	2
249	社会福祉における権利擁護（’０８）㊥	771	R	2
250	欧米の社会福祉（’０７）㊥	774	TV	2
251	進化と人間行動（’０７）㊦	777	TV	2
252	消費者と証券投資（’０７）㊧	780	TV	2
253	途上国の開発（’０７）㊧	783	TV	2
254	幸福の社会理論（’０８）㊧	786	R	2
255	日本のマスメディア（’０７）㊨	788	R	2
256	社会の中の科学（’０８）㊥	792	R	2
257	数理ファイナンス（’０８）㊤	795	R	2
258	技術革新を支える物質の科学（’０８）㊤	798	TV	2
259	バイオサイエンスで豊かな暮らし（’０８）㊤	801	TV	2

㊥：旧「生活と福祉専攻」の科目です。
㊦：旧「発達と教育専攻」の科目です。
㊧：旧「社会と経済専攻」の科目です。
㊨：旧「産業と技術専攻」の科目です。
㊦：旧「人間の探究専攻」の科目です。
㊤：旧「自然の理解専攻」の科目です。

７．夏季集中科目

	司書教諭資格取得に資する科目	頁	メディア	単位
260	学校経営と学校図書館（’０９）……（２００９年度開設科目）…	804	R	2
261	学校図書館メディアの構成（’０５）……	807	R	2
262	学習指導と学校図書館（’０５）……	810	TV	2
263	読書と豊かな人間性（’０９）……（２００９年度開設科目）…	812	R	2
264	情報メディアの活用（’０５）……	815	TV	2

	看護師資格取得に資する科目			
265	成人看護学（’０５）……	818	R	2
266	老年看護学（’０９）……（２００９年度開設科目）…	821	R	2
267	小児看護学（’０５）……	824	TV	2
268	母性看護学（’０５）……	827	TV	2
269	精神看護学（’０９）……（２００９年度開設科目）…	830	R	2

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1222716	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生活とリスク（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　奈良　由美子（放送大学准教授）〕

講義概要

現代はリスク社会、危機の時代などと呼ばれ、また複数の世論調査が生活者の不安の高まりを報告している。生活上のリスクや危機について理解し対処することは生活を送るうえで優先順位の高い課題といえよう。この授業では、生活の安全・安心を阻害するリスクについてその概念と現代的特徴をおさえ、さらにリスクの発生局面と管理局面における生活の関わりを考えていく。

授業の目標

この授業科目のねらいは、現代における生活の特性や生活者のあり方について、「リスク」という切り口によって論じることで、受講者の気づき、理解、考察を引き出すことである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リスクを考える	現代はリスク社会であると言われる。リスクの本質・成分、発生のメカニズム、分類方法、安全と安心の違いなど、その概念をおさえたうえで、現代社会のリスクの特徴を、ハザード（危険事情）を整理しながら考察する。また、リスク研究についての基礎学と関連学問領域におけるアプローチを紹介する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
2	生活とリスクマネジメント	リスクを最少化するためのリスクマネジメントについて、その意義および具体的な方法を提示する。また、生活価値をふまえベネフィットやコストにも目配りするといった、生活においてリスクマネジメントを実践する際の留意点についても検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
3	自然災害と生活	阪神・淡路大震災を例示するまでもなく、わが国は世界有数の自然災害国である。また、都市化はさらに新たなリスクを生む。これらに対して社会と生活者はどのような対応をとろうとしているのか、その実態と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
4	犯罪と生活	日本の安全神話は崩壊したと言われる。生活者の体感治安が悪化していることも指摘されている。生活の安全・安心を脅かす犯罪について、その実態と課題を考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	交通事故と生活	生活者が自家用車を所有し運転することは、人身リスク・財物リスク・賠償責任リスクを負担することでもある。被害者だけでなく加害者の立場にもなる可能性がある生活者にとっての、交通事故の実態と課題を考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
6	化学物質とリスク	医薬品を始めとして、現代の衣食住に化学物質は欠かせない。これらの多くは健康増進や生活向上のために開発され、実際に大きな利便性を私たちは享受してきた。一方で、それらが想定外のリスクをもたらす場合があることも経験してきた。私たちは化学物質にどのよう向かい合ったら良いのであろうか。いくつかの例を提示して考えたい。	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
7	家族とリスク	生活の基本単位のひとつである家族は、生活リスクに対処する単位である。家族構成員は互いにリスク対処資源を提供する。そのいっぽうで、家族はリスクの発生源ともなる。家族と生活リスクの発生局面と管理局面について考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
8	生活経済とリスク	わたしたちの生活は経済活動を伴うが、その過程ではさまざまなリスクが発生する。生活経済とリスクについて、失業、多重債務、消費者被害、死亡リスク、疾病リスクなどをとりあげながらその実態と対応の可能性について検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
9	食生活とリスク	高齢社会のわが国において、人々の健康に対する関心はきわめて高い。食習慣の改善によって、がんや動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病発症のリスクを予防し、食による健康の維持・増進への期待は大きい。近年における O157, BSE（牛海綿状脳症）、偽装表示、の問題は消費者に対し、食品の安全性、表示などに関して強い不安や不信感を与えた。このような社会的背景の中で、食生活におけるリスクについて概説し、食の安全・安心確保のリスクアセスメント、リスク管理を考察し、消費者、生産者、流通関係者と行政が意見を交換する場・リスクコミュニケーションの重要性を論ずる。	中谷　延二（放送大学教授）	中谷　延二（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）
10	建物の安全性とリスク	建物の耐震性能を取り上げ、建物の安全とは何かを考える。安全には様々なレベルがあること、そして費用対効果の問題でもあることを述べる。さらに耐震基準は、常に過去の被害を下に改定されてきた経緯があり、現行の基準に不適格な建物の危険性と耐震改修の必要性について述べる。	本間　博文（放送大学教授）	本間　博文（放送大学教授） 奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	インターネットとリスク	インターネット空間では、リアルな空間と比べて顕著だと認識される特性（匿名性と非対面性）ゆえのリスクが発生する。それらの実態をおさえるとともに、情報社会に参画する生活者の課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
12	ライフサイクルとリスク	わたしたちは生まれてから死ぬまでに様々なリスクを負担することになる。人間の生活について長期的な視点からライフサイクルを整理したうえで、各ステージに特有のリスクとしてとくに若者にとってのリスクおよび高齢者にとってのリスクについて考察する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
13	リスク文化と生活	リスクについての考え方や対処のし方は、集団や社会によって異なる。日本におけるリスク観やリスク対応の特徴およびその背景を考察しながら、リスク文化について考える。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
14	リスクコミュニケーション	わたしたちは普段どのようにリスクをとらえ判断しているのか。ここでは、生活者によるリスク分析・評価の特徴を整理し、それらと専門家によるリスク分析・評価との相違を解説する。これをふまえ、リスクをめぐる関係者によるリスクコミュニケーションの意義と課題を検討する。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
15	リスクに強い生活の構築に向けて	これまでに生活をめぐるリスクについて、その概念や具体的な実態、分析・評価のされ方や管理の方法等について述べてきた。最終回では、リスクに強い生活の構築にむけての課題を総括したい。ここでは３つの課題－①リスク情報のリテラシー、②安全目標の共有、③相互扶助体系への参画－について示す。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1138200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　かしこくなる患者学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：高柳　和江（日本医科大学医学博士，文京学院大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）　　〕

講義概要

かしこくなる患者学では，医療を患者の視点から考えていきます．初めの回の「エンパワメント」では，体の持つ健康を強めていくことを学びます．しかし，その基盤にあるのは生き物としての人間の自己治癒力です．この自己治癒力をしっかり理解し，笑いや統合医療などで高める方策を知ったうえで，わが国の医療のシステムの特徴を把握し，さらに医療情報の評価や選択の基礎を学びます．この科目の後半では「患者としての権利」，「EBMとNBM」，「患者から社会への発信」，「ヘルスリテラシー」さらにはヒトの「死」などを取り上げ，徹底的に人間の立場から，わかりやすく解説していきます．

授業の目標

人間として幸せに生きる心や身体を保持増進する方策を患者の視点から学習します．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エンパワーメント	病人を力づけるエンパワーメントや人間の尊厳などの概念を学習する．エンパワーメントの効果を学び、エンパワーメントの方法としてコーチングやアニメーションについても言及する．	高柳　和江	高柳　和江
2	生まれ，生き，そして死ぬ運命の細胞－自然治癒する身体	生まれ、自然治癒をしながら生き、そして死ぬ運命の細胞の営みを細胞レベルで学ぶ。このために細胞の生命、細胞の損傷と継続、細胞の死、さらに 免疫の仕組みと自然治癒の仕組みが理解できるようになる．こういう基礎知識の中で、 利己的な遺伝子、利己的な胎児、利己的ながんについて考えることができるようになる．	高柳　和江	高柳　和江
3	自己治癒力（1）－病気としてのストレスと自己治癒力	ストレスとしての病気について学ぶ．ストレスとストレッサーの違いがわかり、ストレッサーについて理解できるようになる．さらに、ストレスを低減するためのコーピングについて説明できるようになる．	高柳　和江	高柳　和江

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	自己治癒力（2）－環境と自己治癒力	患者をとりまく環境が自己治癒力に及ぼす悪い影響，またよい影響について考える．	高柳　和江	高柳　和江
5	笑い	笑いの基礎知識を学問的に学ぶ。このために、笑いを脳科学的，あるいは社会学的に分析するための基礎知識を学習し、笑いの医学的効果を知る．そして笑いの病人に対する影響を知り、応用が可能になるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
6	統合医療と自己治癒力	ストレスを減らし，自己治癒力を高める統合医療についての一般的知識や，医学的根拠に基づいた伝統的統合医療，さらに今後の方向性などについて学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
7	医療サポート（1）－医療システムの利用の仕方	わが国の現在の医療システムについて学び，患者としての医療の利用法，問題となっている医療政策などを理解する．	高柳　和江	高柳　和江
8	医療サポート（2）－医学医療教育の質の変化	医療提供者に対する教育の質の変化を学ぶ．医学教育や医師国家試験の変貌，研修医制度や専門医制度の発展，およびコメディカルの教育内容の変化についても理解できるようにする．	高柳　和江	高柳　和江
9	医療の選択（1）－医療の情報	病院の情報は最近少しずつ公開されるようになってきたが，医療の結果（成績）の正確な評価とその公開は十分でない．そのため，いわゆる病院のガイド本やテレビの情報番組などでの健康情報などが氾濫している．かしこい患者として，医療情報の内容とその情報収集や選択をどのように行えばよいかを学ぶ．	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	医療の選択（2）－医療の質の安全と評価	医療の質を患者安全という視点で取り上げる．医療の質の評価とその利用法，患者安全のために患者自身がなすべきことなどを学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江
11	患者としての権利	患者が主体的に医療に参加することが，かしこい患者となる第一歩である．ここでは，患者の権利，アドボカシー，インフォームド・コンセント，セカンド・オピニオンなどの概念とその重要性について学ぶ．さらに，権利だけでなく患者が果たすべき役割も考える．	仙波　純一	仙波　純一
12	EBM と NBM	医学が証拠に基づいた医療（EBM）と患者の語りを基盤とした医療（NBM）があることを学ぶ．EBM は医師の経験や勘によるのではなく，医学的な根拠に基づき医療を行おうとするものである．一方，NBM はナラティヴ・ベースド・メディシンの略である．患者個人の社会的背景や生活史などを理解し，患者の症状を固有の“ものがたり”としてとらえていくという立場である．両者は一見対立するようであるが，実際は医療を行う上で，EBM と NBM は車の両輪の役割を果たしている．	仙波　純一	仙波　純一
13	患者から社会への発信	患者アドボカシーについて考える．患者の側から直接あるいは間接に医療に参加することを学ぶ．模擬患者や医療におけるボランティア活動を理解する．	高柳　和江	高柳　和江
14	ヘルスリテラシー	ヘルスリテラシー（健康や医療情報の読み取り方）を高めるための基本的理解をめざす．医療情報を得た後，それをどう理解し評価するかは重要である．最近は，インターネット上から疾患の治療ガイドラインや薬剤情報などが容易に得られるようになってきた．健康診断の意義や病院情報をどう読み取るかも学習する．	仙波　純一	仙波　純一
15	死を前向きに考える	自然科学的死や社会的死のとらえ方を知り，人間の尊厳を理解し，よりよく死ぬための基礎知識を学ぶ．	高柳　和江	高柳　和江

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目ｺｰﾄﾞ	1411403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 運動と健康 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：臼井永男（放送大学　准教授）　〕

講義概要

近年、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進を目的としたスポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。本講義では、からだを動かすことの重要性を述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示する。

授業の目標

この講義によって、運動の重要性に関する知識を修得するにとどまることなく、スポーツを始めるきっかけをつかんでいただけることを目標としている。

履修上の留意点

これまでの「保健体育（’05）」と同様に「運動と健康（’09）」を履修することによって保健体育科目を履修したことになります。したがって、「保健体育」の単位を取得する必要がある場合には、この科目を履修してください。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヒトのからだの特徴	ヒトは、直立・二足歩行という特有の移動様式を呈する。人類の歴史は究めて短いが、からだのかたちや仕組みには、2足歩行に都合よくできている箇所がいくつか観察される。本章では、このようなヒトのからだの特徴について概説する。 【キーワード】 直立・二足歩行	臼井永男	臼井永男
2	神経系の構造と働き	神経系は、構造上から中枢神経系と末梢神経系とに区分される。また、その働きから、運動神経系、知覚神経系ならびに自律神経系に区別される。本章では、からだの各器官を連結し、制御する神経系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 統合、制御	臼井永男	臼井永男
3	呼吸器系、循環器系の構造と働き	ヒトは、栄養素の分解に必要な酸素を取り入れ、その分解によって生じた二酸化炭素を排出している。本章では、これらのガス交換と、その運搬に関わっている呼吸器系ならびに循環器系の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 ガス交換	臼井永男	臼井永男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	運動器の構造と働き	骨格筋は、関節を介して2つ以上の骨に付着している。中枢から運動神経を介して刺激を受けると、筋は収縮し、運動が励起される。本章では、運動に携わっている骨、関節、筋肉の構造と働きについて概説する。 【キーワード】 骨、関節、筋肉	臼井永男	臼井永男
5	基礎的な動作の発達	複雑な応用動作を獲得する前に、立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的な動作を身につけなければならない。本章では、誕生から成人と同様な歩容を獲得するまでの変化の様相（発達の様相）について概説する。 【キーワード】 幼児期、運動発達	臼井永男	臼井永男
6	成長期の体力	体力とは、からだの外部に働きかける能力であり、巧みさ、ねばり強さ、力強さに分類される。これらの体力要素は、成長期によって発達時期が異なる。本章では、神経系、内臓、筋線維の発達、ならびに身長の年間増加量の変化と体力の発達との関係について概説する。 【キーワード】 身長の年間増加量、体力	臼井永男	臼井永男
7	運動のエネルギー	筋収縮に必要な直接のエネルギーは、アデノシン三リン酸である。この物質を再合成するためにはエネルギーが必要である。本章では、運動に必要なエネルギー供給機構ならびに栄養摂取について概説する。 【キーワード】 エネルギー供給機構、無酸素性作業閾値	臼井永男	臼井永男
8	トレーニングの基礎原理	からだには多様な機能があり、その適応能力は、性、年齢、健康・体力状態などによって異なる。本章では、安全で有効なトレーニングを行うために留意しなければならない、基本的な考え方について概説する。 【キーワード】 オーバートレーニング、オーバーロードの原理、特異性の原理	臼井永男	臼井永男
9	巧みさの向上	体力のなかで、技術に関連した構成要素として、敏捷性、バランス、協調、瞬発力、反応時間、スピードなどがあげられる。本章では、いわゆる「うまい」と称される巧みさの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 スキル、運動制御、神経系	臼井永男	臼井永男
10	ねばり強さの向上	ねばり強さは部分的な筋持久力と全身持久力として評価される。ねばり強さのトレーニングによってその向上が認められる。本章では、ねばり強さの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 持久力、呼吸循環器系	臼井永男	臼井永男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	力強さの向上	筋線維を構成しているたんぱく質が破壊されると、新しいものに作りかえられる。活動している筋肉は、破壊が大きいが修復も大きくなる。トレーニングによって破壊された筋線維は、修復によってさらに大きくなる。本章では、力強さの向上に必要な要素について概説する。 【キーワード】 筋力、筋の可塑性	臼井永男	臼井永男
12	加齢と体力の低下	体力は、20歳代をピークにして、その後は加齢に従って低下傾向を示す。しかし、その様相は体力要素によって異なる。本章では、体力の加齢現象と、体力低下を軽減するための、中高年者に勧められる運動について概説する。 【キーワード】 加齢、体力	臼井永男	臼井永男
13	スポーツの文化	スポーツは、人間らしさを表現したり、味わったりすることができる重要な文化のひとつでもある。大きく、競技志向型スポーツと健康志向型スポーツに区分されることがある。本章では、人間とスポーツの関わりについて、またスポーツは人類に何をもたらしたのかについて概説する。 【キーワード】 競技志向型スポーツ、健康志向型スポーツ	臼井永男	臼井永男
14	リハビリテーションと体育・スポーツ	運動は、ケガや病気から社会復帰するために究めて有効であることが知られている。本章では、ケガや病気の治療を目的に実施される体育・スポーツ、さらに、障害者が人生をより豊かにするために実施しているスポーツについて概説する。 【キーワード】 リハビリテーションスポーツ	臼井永男	臼井永男
15	生涯スポーツへの誘い（いざな）	不活動による弊害（運動不足の影響）については、広く周知されているところである。本章では、生活習慣病の予防と改善、生活の質のさらなる向上が期待されるスポーツを、日常生活に取り入れることの重要性や課題について概説する。 【キーワード】 HQOL、生涯スポーツ、廃用性症候群	臼井永男	臼井永男

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目ｺｰﾄﾞ	1113313	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　こころとからだ（‘07）＝（R）
－人間を理解する－

〔主任講師（現職名）：　岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　滝口　俊子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

講義概要

われわれにとって、人間という存在は最も身近な存在であり、かつ森羅万象のすべてを理解するための基礎となる基準でもある。しかし、一方、われわれにとって人間はあらゆる意味で最も不可解な対象でもある。そうした容易には理解することのできない人間をどう読み解いていくか‥‥それはまさに学問の根源にもつながる永遠の重要なテーマであるともいえる。この講義では、人間理解に際して欠くことのできない概念である精神と身体について、その基本的な意味と仕組みに関する基礎知識および視点と考え方について、初歩から学習する。さらに、こころとからだの発達とその障害についても、基本的な事柄を学習する。その意味で、本科目は生活と福祉および発達と教育に関わるすべての科目の履修の基礎となる科目である。

授業の目標

人間のあり方をこころとからだの両面から理解するための基礎的な諸概念を知り、さらにそれら相互の関係を理解してもらう。また、人間のこころとからだに関わる諸事象を調べ、検討し、考察するに際して必要とされる最も基本的な認識方法も概略学習する。その上で、人間の発達を巡る諸問題を具体的に検討し、人間理解の魅力と奥深さを感じ取って欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間を理解する	人間を理解するとはどういうことか、人間を構成する肉体と精神をどのように把握したらよいのか、そもそも、人間とはどのような存在だと考えればよいのか‥‥人間理解の出発点として、そうした基礎的な枠組みを確認する。	岩永　雅也	岩永　雅也 佐藤　禮子 滝口　俊子
2	生物としてのヒト	いうまでもなくヒトは霊長類ヒト科の生物である。種々の生物の中で、ヒトはどのような系統に属し、どのように発生し、どのような特徴を持った生き物なのか、といった事柄を検討し、その上で、そのことがいかなる生物的生理的な特性となって今のわれわれに現出しているのかを探る。	松本　忠夫	松本　忠夫
3	体の成り立ち	ヒトの身体は、きわめて精密に組み上げられた有機的なシステムである。その全体像と、ヒトとしての特徴や機能特性を解剖・生理学的な視点から理解する。	仙波　純一	仙波　純一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	こころのとらえ方	人間の精神は、生物学的にいえば脳の機能そのものである。しかし、「こころ」と表現される抽象的な存在とそのありようは、必ずしも脳内の物理的な物質移動や電位差では説明し尽くせない不可解さを持っている。そうしたこころの不思議さとそのとらえ方について、心理学的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
5	社会の中の人間	人間が他の生物と決定的に異なるのは、生まれつきの性能部分がきわめて少なく、誕生後にその大半を所属する集団から与えられることである。ここでは「社会化」概念を中心に据え、ヒトが人間になることの基礎を学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
6	ライフサイクル	人間が生まれ、肉体的な成熟を果たし、子孫を残し、やがて死を迎えるというライフサイクルの中で、「成長」や「発達」という概念が何を意味するのか、また、それらが人間の一生にどう位置付けられるのかについて考察する。	岩永　雅也	岩永　雅也
7	からだの発達	人間にとって、体が発達するとはどういうことか‥‥成熟と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、身体の発達の概念とそのプロセスについて、生活する人間としての観点から考察する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子
8	こころの発達	人間にとって、こころが成熟するとはどういうことか‥‥発達と成長という概念との関わりも視野に入れつつ、精神的な発達の概念とそのプロセスについて、心理学的な観点から考察する。	星　薫	星　薫
9	社会化と教育	教育とは、体系化された社会化の一形態である。人間の発達と成長、生活全般、あるいは一生のすべてに関わる教育の意味と重要性、あるいは付随する問題点などを大局的に検討する。	岩永　雅也	岩永　雅也
10	健康と病気	人間の身体は必ずしも常に健康な状態にあるわけではない。そもそも健康であるということはどういうことなのか、それが阻害された状態、つまり病気の状態とはどのようなものなのか、医学的な観点に限定せず、心理的、社会的な側面も含めて概括的に検討する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	保健と医療	人間は、個人として身体の健康を維持するだけでなく、集団としても相互の関わりの中で健康を維持する活動を行う。また、ひとたび怪我をしたり病気にかかってしまったりした場合には、医療が施される。そうした保健と医療の基本的な考え方について学習する。	多田羅浩三	多田羅浩三
12	こころの健康	人間の諸相のなかで最も理解が困難だと思われる「こころ」も、また身体と同様に病んでしまうことがある。こころの「病み」とは何か、どのように規定されるのかを理解し、翻って、そうでない場合、つまりこころの健康とは何かについても考察を深める。	齊藤　高雅	齊藤　高雅
13	心理臨床の視点	心の病みに深く関わる分野が心理臨床である。ここでは心理臨床が対象とするクライエントのありようを、さまざまな事例を通して理解し、心理臨床的なまなざしの意味と有効性について基礎的な理解を試みる。	滝口　俊子	滝口　俊子
14	集団への不適応	人間は社会的に存在するという際立った特徴を持っている。たとえ個体として身体も精神もともに健康であったとしても、集団との関係性の不十分さや齟齬が、不幸な状況を引き起こしてしまうことは決して少なくない。ここでは、そうした集団や社会への不適応について、原理的に学習する。	岩永　雅也	岩永　雅也
15	自立と調和	人間は、一方で個としての自立を求め（求められ）つつ、他方で非常に強く集団内での相互の調和と相互依存を求める（求められる）存在である。そのバランスの上に、われわれ人間は生きているといっても過言ではない。しかも、そのバランスは、時代によって、また社会によって大きく異なっている。われわれはその二つの課題とそのバランスをどう考えていったらよいのか‥‥本講義の最後に、自立と調和という重い課題をディスカッションしていきたい。	岩永　雅也	岩永　雅也 滝口　俊子 佐藤　禮子

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1223615	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民と社会を生きるために （’０９） ＝ （R）

―実践のすすめ―

〔主任講師（現職名）：高橋和夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：坂井素思（放送大学准教授）〕

講義概要

私たちが現代社会のなかで生きるためには、社会の実践に関わらなければならない。先の見えない混沌とした現実のなかで、生き方を模索しなければならない。社会に現れる人間の実践は、つねに不確実でリスクを負ったものである。だからこそ、社会を生き抜くには、企業に勤めていても社会的視点をもつ戦略が必要であり、情報を集めて戦術を立てなければならない。グローバリゼーションの進む社会のなかでもローカルな発想が必要とされる。国境を越えた思想や、正義を考慮した根本的な思考が重要となる。広く総合的な視点を持つと同時に、緻密で技術的な表現方法も身につけなければならない。知は力なりであると同時に、実践は知を生み出してきた。この科目では、実践的な人物や社会的な生き方を提示しながら、「社会のなかでの表現技術」や「社会生活の実践」について考えていきたい。

授業の目標

この科目は、現代社会を基礎的なところで学んでいただくための社会科学シリーズの第3弾である。政治学・法学・経済学・社会学について、学生の方がたの関心を呼び起こすために制作されてきた「市民と社会を考えるために（’07）」と「市民と社会を知るために（’08）」に続く、「市民と社会」シリーズ最後の完結を目指した科目である。私たちは、これまでの科目で現代社会の現実を考え、その考え方を知る意義を見てきた。もちろん、これらの科目はそれぞれ独立しているので、履修の順番は問わない。この講義では、私たちの実践活動が現代社会といかに関わっているのかについて考えることを目標にしている。講義内容は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察されている。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ実践編				
1	社会のなかの実践とは？	この講義は、社会科学の内容をなす政治学・法学・経済学・社会学につき、学生諸氏の関心を高めてもらうために、これまで行われてきた「市民と社会を考えるために」（’07）ならびに「市民と社会を知るために」（’08）という講義に続く第3弾として位置づけられる。われわれは、すでに社会科学を「考え」、それを「知る」ことの意義を学習してきた。第3弾としてのこの講義は、いよいよそれらを「実践」に移す段階を学ぶ。講義は、「実践編」、「技術編」、「総合編」に分けて考察される。技術編では実践のための方法論を提供する。それは、具体的には資料検索の手順や、読書の仕方、さらに自分の思考の成果の論文、あるいは口頭発表という形式での発信の方法を包括している。 【キーワード】 社会科学、実践、技術、生き方、社会	高橋和夫（放送大学教授）、坂井素思（放送大学准教授）	高橋和夫（放送大学教授）、坂井素思（放送大学准教授）
2	企業の友愛的実践	企業は利潤を上げることを目的に、NGOは何らかの社会的貢献をすることを目的に、それぞれ設立される組織であるが、その両者を合体したような組織が現れ始め、社会的企業と呼ばれるようになった。なぜ、このような組織が現れ、注目されるようになってきたのか。競争が激化し経済合理的行動に徹しないと、企業の存続は危うくなるという味気ない社会の中で、人は自己を見つめ直し、新たな生き方を模索しようとしているのではないだろうか。ここでは、社会的企業に焦点を当て、更なる展開が期待できるのか考えてみたい。 【キーワード】 企業、社会的貢献、NGO・NPO、社会関係資本、社会的企業	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	情報をいかに扱うか	私たちは、日々情報的実践を行って、生活を成り立たせている。検索を行って知識を探ったり、テレビや新聞を使ってニュースを得たりしている。情報をいかに受け入れるのか、あるいは情報をいかに操作するのか、さらに情報操作はいかにあるべきかが問われている。このことを考えたメディア論のマクルーハンの人物像を振り返りながら、このような情報生活と実践との関係について、この章では考えてみたい。 【キーワード】 情報メディア、情報検索、データベース、オートメーション生活	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
4	経済のグローバリゼーションを生き抜く	さぬきうどんの原産地はオーストラリア、携帯電話にも、自動車にも必ず外国産の材料や技術が使われている。反対に、米国の財務省証券を最も多く保有している国は日本、日本の自動車とオタク文化は世界を席巻している。このような日本の中に世界が入り込み、世界の中に日本が入り込むグローバリゼーションの時代に、私たちは消費者として、勤労者として、企業人として、そして市民としてどう生きていけばよいのだろうか。激化する国際競争と高齢社会の大波の中で、私たちは市民としてどのようにすれば安心できる暮らしを築いていけるのだろうか。（アナウンサーとの対話形式を想定） 【キーワード】 グローバリゼーション、国際競争、安心・安全、市場経済	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
5	国境を越えて生きる	人々は一つの国内にだけ生きているわけではない。近代日本の初期には外国からお雇い外国人が日本の発展を助け、国内からも国際的活躍をする人材も生み出された。国内のエリートのほかにも、国内の事情で外国への移民も数多く出てきた。これら国境を越えて生きた人々の役割を考える。 【キーワード】 お雇い外国人、近代化、移民	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
6	正義の現実性	正義の問題は、ともすると主に理想のみが関わるように思われるが、正義の要求は深刻な仕方で現実的な意味をもつ。なぜ正義が問題になるのか、どのような具体的な問題が正義に関わるのか、ということを、主としてアリストテレスとJ.ロールズの議論を紹介しながら、明らかにする。その上で、一見、理想に過ぎないようなテーマが現実の社会の構成・運用に与える影響を考察する。 【キーワード】 正義、配分、安定性、共生	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
7	コミュニティづくりにむけて	コミュニティが現在かかえている問題（育児、介護、安全・安心など）に対応して、どのようなコミュニティづくりが可能なのかについて考えます。そのために、コミュニティの現状と課題を明らかにし、それにかかわる集団・組織そして個人の役割を検討し、「住みよいまちの条件」を具体的に考察し、そこから新しいコミュニティの生活、文化、コミュニケーションのあり方などについて考えていきたいと思います。 【キーワード】 コミュニティづくり、住みよいまちの条件	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	法の実践	19世紀後半に、ドイツ生まれの法学者であるRv.イエーリングは、『権利＝法のための闘争は、権利者の自分自身に対する義務である』『誰もが、社会の利益のために権利＝法を主張すべき生まれながらの戦士なのだ』と説いた。この言葉は、市民と社会における実践の重要性を法的側面から指摘したものといってよい。それでは、「法の実践」とはどういうことか 【キーワード】 法の実現、裁判規範、行為規範、権利と義務	原島良成（放送大学准教授）	原島良成（放送大学准教授）
Ⅱ技術編				
9	政府の活動を調査する	企業活動、国際政治の動き、コミュニティの実態等、市民と社会に関する情報調査が今回のテーマである。新聞、テレビ放送、インターネットと情報の媒体は多種多様であるが、ここでは、社会の仕組みと政治を考える上で要となる「政府の活動」に焦点を絞り、情報を収集し活用するテクニックを紹介する。このような情報調査手法を学ぶことは、単に技術を身につけ役立てることを目ざしているのではない。「政府活動の透明性」や、社会における「確かな情報へのアクセス」の重要性を認識することにこそ、講義の目的がある。 【キーワード】 情報公開、公聴会、パブリック・コメント、透明性、住民訴訟	原島良成（放送大学准教授）	原島良成（放送大学准教授）
10	社会調査の技法	社会調査の技法について、コミュニティ・メディアの現状と課題を明らかにすることを例にして考えてみます。調査の企画、関係者および住民への聴き取り調査、調査票の作成、調査対象者の決定、調査の実施（面接、郵送、集合、電話、インターネットなど）、回収・集計・分析、報告書の作成、および報告会の開催などについて具体的に検討していきたいと思います。 【キーワード】 社会調査、調査の技法、コミュニティ・メディア調査	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）
11	実践的読書術	読書生活の実践について考える。社会活動を行うなかで、読書の実践的な意味と重要性について考える。図書館を利用する技術、本を読む技術、知識を縮減する技術などのような、社会を考察する上での「読書術」のあり方について整理検討したい。 【キーワード】 活字文化、ネットワーク、知識のレポジトリー、教養文化	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
12	論文の書き方	論文とは人類の知識に新しい何かを付け加える壮大な行為である。その壮大な企てに必要な方法を論じる。具体的にはテーマの選択、議論の展開、注の付け方、そして文章作法について解説する。さらには論文と「研究」との違いなどを指摘し、テーマを絞りに絞り込む重要性を強調する。筆者の経験に基づいての体験的な論文論である。 【キーワード】 論文と「研究」、小さいことは良いことだ、的は撃ってから描け	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションとは何だろうか。いかにすればプレゼンテーションは成功するのだろうか。プレゼンテーションに関する技術論と精神論を語る。強調するポイントは、事前準備の大切さ、パワーポイントの功罪、場を読む視点などである。筆者の経験を踏まえた体験的なプレゼン論である。 【キーワード】 場を読む、 ストップ・ウォッチ、パワー・ポイント	高橋和夫(放送大学教授)	高橋和夫(放送大学教授)
Ⅲ総合編				
14	現代社会に生きる:まとめ(1)	21世紀の展望を得るために、20世紀を振り返る。20世紀を特徴づけるものとして特に、戦争と全体主義に着目し、それを、世界史的な視点と日本史的な視点から概観する。これを背景として人権や平和のような価値の意義を検討し、それらの価値がこれからの我々の生活に対してもつ意味、そしてそれらの価値の実現に関する展望を探る。その上で、普通の市民に何ができるのかを考えてみたい。 【キーワード】 戦争、全体主義、人権、平和	天川晃(放送大学教授)、山岡龍一(放送大学准教授)	天川晃(放送大学教授)、山岡龍一(放送大学准教授)
15	現代社会に生きる:まとめ(2)	かつてケインズは1932年大恐慌のどん底で、「われわれの孫たちのための経済的可能性」を展望した。今度は未来に立って今を考えてみよう。50年後私たちの次の世代はどのような社会に暮らしているだろう。そこに立って21世紀初頭を振り返ってみれば、何が見えるだろうか。21世紀の不安、グローバリゼーションの光と影、齢をとることは「問題」か、働くことの意味、地球環境、安全安心社会はどうなっているだろう。市民と社会は今よりも幸せになっているだろうか。 【キーワード】 未来からの回顧、現在の選択、将来の選択肢	林敏彦(放送大学教授)、高木保興(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)、高木保興(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120301	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 市民と社会を知るために （’０８）＝ （R）

－名著に触れよう－

〔主任講師（現職名）：林敏彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：原島良成（放送大学准教授）〕

講義概要

最初の11回分で社会科学に接近するための「素材」を学生に提供する。学生は、各素材を担当講師がどう調理するかを追体験し、学問の醍醐味に触れる。素材は、学生の興味を引き易いものから順に並べる（物語・エッセイ→各分野の古典素材・純理論的素材）。
残りの4回では、テキストと学問体系との間の架橋という方法論の問題を「～学のあんな本・こんな本」として取り上げ（放送教材は座談形式もあり）、古典の読み方との対比で鮮明に印象付ける。また、自著を語るという形態で執筆の苦労話なども披露する。

授業の目標

「市民と社会を考えるために（’07）」は、社会における身近な現象と社会科学との密接な結びつきをややカジュアルな形で提示しつつ、学生の興味関心を引き出すものであった。本講義は、その一歩先の段階として（必ずしも「市民と社会を考えるために」の履修を前提とはしないが）、冒険物語から本格的な研究書まで多様なジャンルの著作を取り上げ、社会科学の問題関心を浮かび上がらせ、学問との架橋を図る。最終的には、様々な問題意識と方法による社会科学研究のカタログを学生に示すことで、各専門科目を学習する際の導きの糸となることを目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民と社会を知るとは―著者に聞いてみよう―	日常的に観察されるさまざまな社会現象を、いざ学問的に切り分けて体系的知識として整理するとしたら、何を手がかりにすればよいのか。社会科学の諸分野から、理論化を目指した書物が著されているが、最初から難解な専門書にひとりで当たるのは苦痛である。親しみやすい物語・エッセイから入って、研究論文を読み解く各講師の職人芸に触れ、テキストを味わう学習方法を体験してみよう。 【キーワード】 社会科学の学習方法、文献解題	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授） 山岡龍一（放送大学准教授） 原島良成（放送大学准教授）
2	『ハジババの冒険』―文学と政治	19世紀に英外交官がイラン人をかたって出版した本書は、やがてペルシア語に翻訳され、当時の腐敗した政治を批判する道具とされた。また本書のストーリーの背景は19 世紀における欧州列強の中東をめぐる対抗関係であった。文学が当時の国際政治や国内政治の雰囲気の追体験を可能にする場合がある。本書は、そうした例である。つまり、ハジババは文学が政治に影響を与えた例であり、同時に文学から政治に接近する道筋を示唆している。」 【キーワード】 文学、政治、「翻訳」、国際関係、社会	高橋和夫（放送大学教授）	高橋和夫（放送大学教授）
3	『ロビンソン・クルーソー』と近代の生活	社会のなかで、ひとりの生活とふたり以上の生活と、どのように異なるのだろうか。近代のヨーロッパ人は、自分たちの世界がグローバルな規模に拡大していくときに、まず自分の生活が気になった。孤島でのひとりの生活との比較を通じて、近代の社会生活というものの特徴を考えてみたい。また、ちょうど英国では、バブル騒動が起きつつあるときに、この本が出版されている。本の内容と時代背景との関連についても考察してみたい。 【キーワード】 冒険、労働、経済人、近代、他者	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	我妻栄『法律における理窟と人情』	「法律」というものの評判は、古今東西あまり芳しいものではない。古くから、「法律は世間の不合理を合理化しようとする」、「良き法律家は悪しき隣人である」などの誹りを受けてきた。これは、一体どういうことか。法律を学ぼうとする者は、その意味を解明しなければならない。結論をいえば、これらは、とりもなおさず法律の社会的存在価値を示しているのである。そして、それらの格言は、法律を学び、法律を取り扱う者の「謙虚さ」を求めたものでもあろう。今回学ぶ名著の著者の我妻栄博士は、紛れもなく、日本の法学史上第一等の法学者であった。そして謙虚な方であったらしい。その第一人者が本著の冒頭に「追うべき兎は二匹いる」と恐るべきことをいわれた。不遜の故であろうか。いや、そうではないのだということを学んでみよう。法律の出発点（そして多分終着点）もここにある。 【キーワード】 追うべき兎は二匹いる、嘘の効用、法律論と常識論、綺麗な理屈と常識的結論、謙抑主義と介入主義	中嶋士元也（放送大学教授）	中嶋士元也（放送大学教授）
5	成果を左右する組織―堺屋太一『組織の盛衰』	新技術導入や制度変更はこれまでの組織を非効率にすることが多いが、組織を新たな状況に応じて適切に作り直すことは至難の業である。ある目的遂行のために作られた組織は、作られたときから組織を拡大し強化しようとするそれ自体の目的を持つようになり、本来の目的が軽視されるということも起こりうる。堺屋太一氏の組織論を参考にして、現代の問題点を探ってみたい。 【キーワード】 組織、共同体、機能体、成功体験	高木保興（放送大学教授）	高木保興（放送大学教授） ゲスト：原島良成（放送大学准教授）
6	政治家のあり方―岡義武『近代日本の政治家』	政治リーダーが時代を作り、時代がリーダーを求める。近代日本を作ったのはどのような人物だったのだろうか。本書は、伊藤博文、大隈重信、原敬、犬養毅、西園寺公望という5人の政治家の生涯をたどりながら、政治家の性格や個性がその政策や経歴にどのように関係するか、日本の政治の発展の中で彼らはどのような役割を果たしたのか、を冷静に分析する。今日の政治と政治家のあり方を考える上にも示唆するところが多いだろう。 【キーワード】 リーダーシップ、政治家、伝記	天川晃（放送大学教授）	天川晃（放送大学教授）
7	民主政治のゆきすぎを警戒した先人―『ザ・フェデラリスト』	市民の生命財産を守り社会の安寧を確保するためには、権力を集約し政府を組織することが欠かせない。その政府権力は当然、民主的にコントロールされなければならないが、民主的であれば安心、というわけにもいかないようである。アメリカ連邦政府の結成過程で、建国の父たちは法（正しきこと、権利）の擁護にも意を尽くした。そのことは、彼らが市民に向けて語りかけた新聞紙上連載から窺い知ることができる。 【キーワード】 権力分立、連邦制、法の支配	原島良成（放送大学准教授）	原島良成（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	マキアヴェッリ『君主論』	「政治家は信義を護るべきなのか」「目的は手段を正当化するのか」「支配者は被支配者に愛されるべきなのか」、16世紀イタリアの思想家が発した問いは、現代の我々にとっても興味深いものだといえよう。『君主論』においてマキアヴェッリが「統治＝支配」や「権力」について語ったことの現代的な意義を、本講ではその著作が書かれた時代の考察を通じて明らかにしたい。『君主論』は単に〈政治〉のみならず、〈人間〉や〈人間関係のあり方〉に興味のある人々にも、魅力的な著作であることを示したい。 【キーワード】 新しい君主、人文主義、政治的道徳、政治的自由	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
9	『三民主義』と中国革命	孫文と彼が主張した三民主義は、大陸中国と台湾双方から支持されている。中国革命における国民党と共産党との激しい対立にもかかわらず、なぜ三民主義が両者によって尊重されているのか。ここに、現代中国を理解する鍵がある。 【キーワード】 孫文、三民主義、中国革命	山田辰雄（放送大学教授）	山田辰雄（放送大学教授）
10	社会的自我論の古典－『精神・自我・社会』	自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成される。この自我の社会的形成について論じた本書は、G・H・ミード（1863-1931）のシカゴ大学での講義を受講した学生のノートを編集したものである。したがって、内容的にあいまいであるとか、一貫していないとか、また、むずかしいといわれてきている。しかし、丁寧に読んでいくと、時代を先取りしたミードの見識の広さと深さに大きく圧倒されてしまうことになる。 【キーワード】 ミード、自我、コミュニケーション	船津衛（放送大学教授）	船津衛（放送大学教授）
11	冷静な頭脳と温かい心情－『経済学原理』	120年前ケンブリッジ大学に経済学研究を確立したマーシャルの大著を通して、冷静な頭脳の学問としての経済学と、温かい心情の実践としての社会的苦難との格闘について考えてみたい。同時代の問題とのマーシャルの戦から、今日の私たちは、何を学ぶことができるのだろうか。私たちは、マーシャルの意に反して、温かい頭と冷静な心を持ってしまったのではないだろうか。現代の私たちが取り戻すべきマーシャルの精神とは何だろうか。 【キーワード】 経済学原理　理論と現実　経済学と生物学　有機的成長、新古典派、需要と供給	林敏彦（放送大学教授）	林敏彦（放送大学教授）
12	法律学のあんな本，こんな本	法律学の学習においては、条文や判決文に直接あたることが求められる。しかし闇雲に法律を頭から読み下すのでは学習効果は薄く、その背景にある法的思考にまで触れることはできないであろう。今回は、具体的な裁判事例を実際に取り上げて読み解く中で、条文や判決文を読む際の作法を学ぶ。さらに、身近なトラブルと法律とのかかわり、その法的解決を引き受ける裁判官の悩みにまで接近し、学説を整理した体系書・教科書類の参照についても一言したい。 【キーワード】 裁判、六法、条文	原島良成（放送大学准教授）	中嶋士元也（放送大学教授） 原島良成（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	政治学のあんな本,こんな本	放送大学の印刷教材も含めた、政治学関係の著作への接近方法を考える。政治学を学習するうえでのコツをふまえて、政治学の著作や資料を読んでいく際に必要だと思える心得を紹介する。いくつかの具体例を挙げながら、本や資料の選択・利用の方法、知識のまとめ方等について、アドヴァイスもしたい。 【キーワード】 学問の体系性、方法的多様性、古典、市民のための政治学、友と敵、ラディカル・デモクラシー	山岡龍一(放送大学准教授)	山岡龍一(放送大学准教授)
14	社会学のあんな本,こんな本	社会学はとてもとりつきやすい学問であるといわれる。しかし、少し学んでいくと、とたんにわかりにくくなる。それは研究対象である社会現象の変化が急速であることともに、それを取り取り扱う社会学の見方が多様であり、ときには対立することもあることが、その大きな理由と思われる。そこで、ここでは、そのような社会学的見方を理解するために役に立つ文献をいくつか紹介していくことにしたい。 【キーワード】 社会学的想像力、リアリティ・コンストラクション、自我の社会学	船津衛(放送大学教授)	船津衛(放送大学教授)
15	経済学のあんな本,こんな本	一人の経済学者が出会った本を通じて、出会いの必然と偶然、さらに学問と社会との格闘の一端を紹介したい。取り上げるのは、学部・大学院時代に出会ったあんな本を4点と、著者となって世に送ったこんな本の3点である。最後に、主任講師3人で、本を読むことは社会を知るための著者との対話だということの意味について、考える。 【キーワード】 サムエルソン経済学、ヒックス価値と資本、熊谷尚夫経済政策原理、ミクロ経済学、需要と供給の世界、大恐慌のアメリカ、	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) 山岡龍一(放送大学准教授) 原島良成(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1223011	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　市民と社会を考えるために（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：天川　晃（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：高木　保興（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：浅川　達人（明治学院大学教授）〕

講義概要

本講義は「基礎科目」であり、「専門科目」への架橋を目指すという位置づけにある。そのために、講義は第1部「社会的な関心・興味を養う講義」と第2部「社会科学の各分野によって異なる基本テーマを取り上げる講義」という2部構成とした。第1部においては、①具体的な社会現象を取り上げ、現象の推移などについて簡単に紹介した上で、②その社会現象を理解するために必要な専門用語やアプローチの方法などについて概説し、③さらに理解を深めるために必要な文献や研究方法などについて説明する、という授業構成とした。第2部については、各分野・領域における基本的なテーマを取り上げ、専門科目への橋渡しを目指した。

授業の目標

本講義の目的は、社会科学の勉学に対する関心と意欲を引き出し、政治学・法学・経済学・社会学の各専門科目について、勉強してみたいという気持ちに導くことにある。したがって、学習の目標は、本講義受講後に、受講者自身が、自ら学びたい専門領域を自覚し、自らの力で学習の指針を構想できるようになることとなる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	イントロダクション	この科目のねらいを明らかにするとともに、講義全体の概要を説明する。新聞やテレビ・ラジオなどを通じて接する社会の問題に関心を向けるところからはじまり、さまざまな社会的現象を社会科学の概念や理論と関連づけて理解することに至るまでの間に出てくる諸問題について説明をする。	天川　晃（放送大学教授）	天川　晃（放送大学教授） 高木　保興（放送大学教授） 浅川　達人（明治学院大学教授） ゲスト： 原島　良成（放送大学准教授）
2	秩序の形成と変動(1) ー新しい政権の誕生	近代社会の発展過程において多くの国民国家が誕生し、その潮流は今日においても続いている。新しい政権が誕生した時、われわれはどのような観点からそれを見るのか、そこには共通した要素が存在している。この講義は、中華人民共和国の成立と現在形成されつつあるアフガニスタンの新政権に例をとりながらこの問題を論じる。政権成立の歴史、反対勢力の排除と権力の浸透、イデオロギー的方向性、制度化、国際的地位の確立などの要素が検討される。	山田　辰雄（放送大学教授）	山田　辰雄 高橋　和夫（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	秩序の形成と変動(2) ー経済発展と民主化	経済発展をすれば民主化は必ず起こるのか、途上国は民主主義的でないほうが発展しやすいのか、を議論するために、民主主義、権威主義的政府、長期政権の是非などについて東アジアや東南アジア諸国の実例を挙げながら、異なった考え方があることを明らかにする。最後に、中国は近い将来民主化が期待できるかという多くの人が関心を持つが難しい問題も考えてみることにする。	高木　保興	高木　保興 山田　辰雄 山岡　龍一 (放送大学准教授)
4	秩序の形成と変動(3) ーメディアと社会	イラク戦争報道を題材にメディアが社会で果たす役割を検討する。ポイントの第一はメディアの変化である。カタールのアルジャジーラに代表されるような衛星放送局の多様化である。CNNやBBCなどの英語メディアによる寡占状況は過去のものとなった。またインターネットに代表される新しいメディアがジャーナリズムの風景を確実に変貌させてきた。第二は日本の大手メディアに見られる戦争報道の特徴である。具体的には大手メディア各社は協定によってイラク戦争開戦前に自社の社員をイラクから撤退させた。代わりにフリーのジャーナリストたちが危険を冒して大メディアのために現地から報道するという日本的なジャーナリズムの形が成立した。第三に「ワイドショー」と呼ばれる形態のテレビ番組の報道の特徴と人気の理由を考える。最後にメディアの問題を社会学者がいかに見つめてきたかを代表的な文献に言及しながら紹介する。	高橋　和夫	高橋　和夫 船津　衛 (放送大学教授)
5	成長と環境(1) ー豊かさと市民	私たちは、「豊かさ」を求めて経済成長を遂げた。所得は増大し、労働時間は減り、余暇が増えた。ところが、現実には「失業」問題や、「過労とストレス」の問題が起こってきている。市民として生活する上で、豊かさとはいったい何なのだろうか。豊かさの基本的な要件としての「働くこと」について、法学と経済学の観点から考える。特に、雇用関係のなかでの「過労死・過労自殺」という現代社会のトピックに注目にして、市民と社会に関する「豊かさ」のあり方と考え方を探究したい。	坂井　素思 (放送大学准教授)	中嶋士元也 (放送大学教授) 坂井　素思
6	成長と環境(2) ー先進国と途上国	途上国の環境問題としてダム開発（インドのナルマダ・ダム）、森林破壊、大気汚染を採り上げ、異なった角度から見直すことでいろいろな解釈が可能なことを明らかにする。そして、途上国は特にひどいことをしているわけではなく、貧困から脱出しようとする工業化が環境悪化の主要原因となり、国際社会の一員として先進国や国際機関の勧告に従った政策が却って環境を悪化させていることがある点を指摘する。	高木　保興	高木　保興

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	成長と環境(3) ーなぜ今でも成長か	産業革命以来経済成長を至上命題としてきた先進国経済は、これまでにも幾度か資源の限界や環境の制約に直面してきたが、その都度科学技術の発展とその応用で乗り越えてきた。しかし、経済発展が多数の国や地域に及び、世界全体として人口の拡大に歯止めがかからないいま、世界経済は改めて地球環境の制約のもとで持続的な発展の道を求めている。これからも成長は可能なのか。成長に代わる新たな目標はあるのだろうか。	林　敏彦 (放送大学教授)	林　敏彦 (放送大学教授)
8	自己と他者(1) ー自分とは誰か	自我は自分一人ではわからない。他の人がどう見ているのか、どう評価しているのかを知ることを通じて初めて知ることができる。つまり、自我は他者の人間とのかかわりにおいて社会的に形成され、展開する。 このような人間の自我のあり方について、「鏡に映った自我」、「多面的・流動的自我」、「本当の自我、うその自我」、「役割形成」などの概念を通じて具体的に明らかにしていきたい。	船津　衛 (放送大学教授)	船津　衛 浅川　達人
9	自己と他者(2) ー「市民」と「市民社会」	日本の近代化において、社会科学、特に政治学のなかに現れてきた人間観をたどることで、さまざまな領域で現在注目されている「市民」や「市民社会」といった言葉の意味を検討する。「臣民」「社会」「民衆」「階級」「民族」「大衆」といった言葉の意味を歴史的に解明することで、「人間」の見方が社会や歴史に規定されていることの意味と、「社会」の認識にとって人間論を提起することの意義を確認したい。	山岡　龍一	山岡　龍一 船津　衛
10	自己と他者(3) ーグローバル化とローカル化	「グローバル化」「情報化」「ローカル化」などの言葉を、近年よく耳にする。これらは、どのような現象であり、相互にどのように関連しているのであろうか。これらについて、日常生活における具体的な例を通して、まずは考えてみる。次に、概念の整理を行い、それらの現象を捉えるための社会学的アプローチについて紹介する。最後に「グローバル化」した社会が抱えている問題を指摘し、それを乗り越えるための方途を、「ローカル化」というキーワードとともに検討する。	浅川　達人	浅川　達人 船津　衛
11	需要と供給の世界	「官から民へ」あるいは「政府から市場へ」は、政治的な新保守主義と軌を一にして、２０００年代日本の合い言葉となった。確かに、市場機構は人類最大の発明と呼ばれることもある。しかし、自由契約を基本とする市場経済は万能ではない。もう一度、需要と供給の世界で達成できることと達成できないことについて思いをめぐらし、市場制度を支え、それを補完するソーシャルキャピタルについて考えてみよう。	林　敏彦	林　敏彦

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人間－この社会的なるもの	人間はたった一人でこの世に生きていくことができない。常に、人間は親、兄弟姉妹、友達、先輩、先生など他の人間とのかかわりにおいて生きている。人間は本質的に社会的存在である。 このことを「アベロンの野生児」や「ロビンソン・クルーソー」の行動に関して考察しながら明らかにするとともに、その具体的あり方として、「第一次集団」や「官僚制組織」などを中心に、人間と集団や組織との関係について、具体的に考えていきたい。	船津　衛	船津　衛
13	日常と人生の法－医者と法律はないほうが…	法・法学・法学者の価値に対する評判は，古今東西必ずしもはかばかしいものではない。しかし、「われわれが社会生活をいとなむことが価値あることであるならば、これを合理的に規律しようとする学問が無価値なはずはない」（山田晟『法学[新版]』6頁）と信じよう。信ずるだけではない。手始めに、日常（「起きてから寝るまで」と人生（「生まれるときから天に召されるまで」）において、法がいかにそれらと隣り合わせて存在し、社会生活上有価値なものであるかを検証し、法のあるべき姿を考えてみよう。	中嶋士元也 原島　良成（放送大学准教授）	中嶋士元也 原島　良成（放送大学准教授）
14	グローバル化と国際政治の新しい主役たち	国境を越えて活動するコストの低下が引き起こす様々な現象をグローバル化と定義すると、その影響は国際政治の面でも顕著である。これまで国家によって独占されてきた国際政治に、民間が、NGOが、地方自治体が参入している。たとえば2001年にアメリカで同時多発テロを行ったアル・カーエダは政府でも国家でもない、民間人の組織である。またイラクでは、アメリカやイギリスは民間軍事会社と契約を結び、その多数の「社員」が、施設の警備、要人の警護、警察の訓練などに当たっている。実質上、戦争が民営化されている。あるいはイスラエル軍と戦うヘズボラというレバノンの組織は、国家ではない。国家以外の組織が団体が個人が、国際政治に直接に関与する時代が到来している。こうした「国」際政治という言葉が表しきれなくなった状況を語ろう。	高橋　和夫	高橋　和夫 ゲスト： 山本　隆（ピースボート共同代表）
15	まとめ	この講義から伝えたいメッセージを明らかにし、各章がそれぞれどのような役割を果たしているかをまとめるとともに、社会科学に興味をもつ読者に、今後考えられる展開について、いくつかの選択肢を提供する。	高木　保興	天川　晃 高木　保興 浅川　達人 ゲスト： 原島　良成（放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1120409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 問題発見と解決の技法 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：柴山　盛生（国立情報学研究所准教授）〕

〔主任講師（現職名）：遠山　紘司（神奈川工科大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕

講義概要

私たちは職場だけでなく、地域や個人の生活においてもさまざまな問題に直面し、何とか解決方法を見つけようと悩んでいる。問題解決の仕方に方法があるのであろうか。ここでは問題とは何かから始まり、問題の見つけ方、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を学ぶ。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題解決の具体的な事例を集めて紹介する。

授業の目標

この授業の目標は、「問題とは何か、どのようなとらえ方が適切か、そしてどのようにして発想を広げ、必要な情報を収集・整理し、解決策を見出していくのか、そこにおける一連の科学的技法を学ぶ」ことである。また、「それらの過程において思考や発想などを目的に応じて伝達するための基本的な表現技術を習得する」ことも、この授業のねらいとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	問題とは何か	私たちが仕事や生活の場で直面する事柄を通して「問題とは何か」問題の定義と捉え方を考える。さらに、それらをどのような形で解決へと進めるのか、概略を述べる。 最後に、この授業の構成を紹介した後、放送授業における事例紹介の見方について述べる。 【キーワード】 問題の定義、科目の構成、事例の視点	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
2	問題の発見	自分から問題を見つけるにはどうすればよいのか。問題にはどのような種類があるのか。また、問題を解決するためには問題を明確化する必要もある。問題が複数ある場合は何が重要なのか、緊急性等を考慮し、取り掛かる順番を決める。 【キーワード】 問題の発見、問題の種類、問題の明確化、優先順位	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
3	目標の設定	問題を見つけたら最終的にどのレベルに達したいのかという目標を設定する必要がある。ここでは目標設定の必要性、達成可能な目標をどう設定するか、目標設定にあたって制約される条件は何か等を述べた後、いくつかの基本的設定方法について述べる。 【キーワード】 目標の条件、達成可能目標、制約条件、目標設定の方法	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）	遠山 紘司（神奈川工科大学教授）
4	問題解決の手順	組織の場合の問題解決を中心とし、目標に向けて、目的の明確化、情報収集、具体的立案、発表・伝達という問題解決の手順について説明する。特に企業戦略について触れる。個人の問題解決の手順についても説明する。 【キーワード】 問題解決の手順、企画、戦略、個人の問題解決	大林 康二（北里大学教授）	大林 康二（北里大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	情報の収集と整理	問題解決に向けて、必要な情報を集めそれらを整理・分析する。情報収集では、収集の目的、収集の方法、情報検索について説明する。情報の整理では、収集した情報の記録・整理方法について説明する。 【キーワード】 情報収集の目的、情報収集の方法、整理の視点	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)
6	情報の分析	集めた情報を基に、データの質的・量的な意味を考えて問題解決に向けて分析する。情報分析の方法として有効な統計的な処理や推計について紹介する。 【キーワード】 情報分析の考え方、情報分析の方法、統計的処理、推計	東 千秋(放送大学教授)	東 千秋(放送大学教授)
7	発想の手法Ⅰ:発散的な手法	解を導く上で、事柄を発散的に考えたり、収束的に考えたりすることが有効である。発散的に考える例として、概念や分類、ものとものとの対応を考える思考について紹介し、代表的な発散的な技法としてブレーンストーミングなどを説明する。 【キーワード】 メタファー思考、アナロジー思考、ブレーンストーミング	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)
8	発想の手法Ⅱ:収束的な手法	もう一つの発想の方法である収束的な手法について説明する。収束的に考える手法として、演繹的推論、帰納的推論、確率判断などについて紹介し、いくつかの収束技法を説明する。 【キーワード】 演繹、帰納、推論、確率判断	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)	柴山 盛生(国立情報学研究所准教授)
9	グラフによる表現	問題の解決で何故「表現が必要なのか、表現することの位置づけ」を述べた後、基本的なグラフとその活用法について述べる。比較する、時間的な経過を見る、内訳を知る、分布を見る、関連を探るなどの目的のためには、いろいろなグラフをどのように利用するのが適切か説明する 【キーワード】 数量表現、グラフの種類、グラフの見方、グラフの描き方	大林 康二(北里大学教授)	大林 康二(北里大学教授)
10	図解による表現	文章で書くと分かりにくい内容を一目見て全体像が理解できる図解について学ぶ。図解は詳細を説明するには必ずしも適さないが、全体像、概略を説明するのによい。自分や自分のグループの考えを聞き手に短時間で正確に理解してもらう手段として有効である。 【キーワード】 図解表現の目的、図解の種類、論理図解	遠山 紘司(神奈川工科大学教授)	遠山 紘司(神奈川工科大学教授)
11	コミュニケーション	人と人の情報伝達の基本であるコミュニケーションは、問題発見と解決において効果的でなければならない。コミュニケーションが効果的でないとき、さらに新たな問題も発生する。効果的なコミュニケーションはどうあればよいのか、文章による表現方法といろいろな場面でのコミュニケーションを考える。 【キーワード】 効果的なコミュニケーション、文章表現、いろいろな場面	東 千秋(放送大学教授)	東 千秋(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	プレゼンテーション	調べたことや自分の考えなどを発表するためのプレゼンテーションについて理解する。ここでは、効果的なプレゼンテーションにおける話し方、資料の作り方、口頭発表とそのまとめ方、質疑応答などを取り上げる。 【キーワード】 聞き手の分析、話し方、資料の作り方、口頭発表、まとめ方	東　千秋 （放送大学教授）	東　千秋 （放送大学教授）
13	評価	問題が解決したのか、またどの程度達成したのかを判断するための評価方法について学習する。ここでは、評価の対象と種類および数値的でない評価方法、数値的な評価法などの理論と手順について説明するとともに、それらに対応した例を考える。 【キーワード】 対象と種類、非数値的評価、数値的評価、評価の理論と手順	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授）
14	総合事例Ⅰ・Ⅱ	組織や地域における問題の特徴、そこではどのような問題が起こりやすいか、それにどのように取り組み、どのように解決したかを説明する。事例として、商店街における町おこしと看護師教育を取り上げる。 【キーワード】 職場での問題解決、地域での問題解決	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）	柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康二 （北里大学教授）
15	総合事例Ⅲとまとめ	3つ目の総合事例として神戸市役所における「明日の豊かな神戸」を目指した目標設定と具体的なプラン、それに向けた取組みの様子を学ぶ。最後に、この授業を実際に生かす方法について述べる。 【キーワード】 神戸市役所	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授） 東　千秋 （放送大学教授） 柴山　盛生 （国立情報学研究所准教授） 大林　康司 （北里大学教授）	遠山　紘司 （神奈川工科大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 哲学への誘い （’０８） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授） 〕

講義概要

哲学を学ぶことが敬遠されがちなのは、その用語や思考法が、いわゆる哲学用語や哲学的概念の世界に閉じこもっており、それが部外者の理解を拒んでいるかのように見えるという理由からではないかと思う。しかし、哲学的なものに対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。この授業では、哲学以外の所に題材を求めながら、そこに哲学的な問題を探るという基本方針を取ることにする。対象は、多岐にわたるが、哲学の部分は、50%以下に留め、これまで哲学に触れたことがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えるようにしたい。

授業の目標

最初の部分では哲学の源流である古代ギリシャの文化的背景について展望し、それとギリシャ哲学との関連を考える。二番目では近代社会に生きる私たちの現実の問題が哲学という場面でどのように捉えられるのかを考える。そこでの知見は、私たちが日常の生活で出会う問題に対処する際にも有益なはずである。最後は、文学や芸術との関連で、哲学の問題を考える。文学作品においていかなる哲学主張がされているか、また、絵画を支える遠近法のような技法の持つ哲学的内容は何かについて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(1)ヘロドトスの『ヒストリア』	歴史の父ヘロドトスの『歴史』は、古代ギリシャの最盛期の文化を成立させるきっかけになったペルシャ戦争についての記述である。それは、歴史学的に重要であるというだけではなく、その思想内容という点でも魅力的である。そのことを明らかにしたい。 【キーワード】 ヒュブリス（驕慢）への諫め	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(2)トゥキュディデスとペロポネソス戦争(上)	トゥキュディデスは、アテネとスパルタとの間におこったペロポネソス戦争の記述を行った。最後にはアテネの敗北に終わるこの戦争についてのトゥキュディデスの記述である『戦史』が、最盛期ギリシャの最高の知性の産物であるゆえんを明らかにする。 【キーワード】 歴史記述の客観性	同上	同上
3	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(3)トゥキュディデスとペロポネソス戦争(下)	いよいよ『戦史』の記述は佳境に入り、ペリクレスの演説、シシリー遠征を通じてギリシャ思想の心髄が示される。 【キーワード】 理想と現実	同上	同上
4	第Ｉ部　古代ギリシャの知恵　(4)ギリシャ悲劇	ギリシャ悲劇はギリシャの生み出した文化遺産のなかでも最も魅力的なものの一つであり、アリストテレス、ヘーゲル、ニーチェ等の哲学者によって様々に論じられてきたものである。アイスキュロスの『アガメムノン』を題材にしてその魅力に迫りたい。 【キーワード】 運命と自由	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	第Ⅰ部 古代ギリシャの知恵 (5)恋愛小説としてのプラトン	プラトンのイデア論は西洋哲学史の最重要主題の一つであるが、イデアを論ずるにあたり、プラトンは、「エロス(愛)」について論じている。それは、古代文学最上の恋愛文学とも言えるものなので、もっぱらその側面からプラトンの思想を扱ってみたい。 【キーワード】 エロス	佐藤康邦(放送大学教授)	佐藤康邦(放送大学教授)
6	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 (1)法の哲学	近代国家は所有の自由他様々の自由を擁護しているが、それは、どのような哲学的根拠を持つのか。ホッブズ、ロック、ルソー、カント等の自然法思想を参照しつつ、それと対比する形で、ヘーゲルの『法の哲学』を検討してみる。そこで、たとえば時効という法学概念も哲学的に検討される。 【キーワード】 法の哲学	同上	同上
7	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 (2)道徳と自由、(3)家族	(2)では、近代国家における自由の問題を個人の内面の自由の次元に遡って検討する。(3)では、近代家族の問題を扱う。双方において、自己決定の射程距離について検討する。 【キーワード】 自己決定の境界線	同上	同上
8	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 (4)市民社会	近代国家を支える一方の柱は資本主義である。近代法もこの資本主義経済に対応する性格を備えている。その哲学的探究のために、ヘーゲルの市民社会論を軸としつつ、スミス、マルクス等の思想を検討する。 【キーワード】 経済と倫理	同上	同上
9	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 (5)国家	近代の国民国家について検討する。一方で官僚制を始めとした国内体制について検討するとともに、戦争の問題を考える。カントの永久平和論と戦争を不可避のものと考えたヘーゲルの思想との比較を軸にすえながら考察を進める。 【キーワード】 国家と戦争	同上	同上
10	第Ⅱ部 近代国家の現実と哲学 (6)日本の近代国家	明治以降の日本という国家を哲学の観点からどう捉えるか。一方的なイデオロギーに流されることなく語ることはむずかしいが、できるだけ多面的で公平な観点から扱う。和辻哲郎の『倫理学』を軸に考える。 【キーワード】 和辻哲郎	同上	同上
11	第Ⅲ部 文学と哲学 (1)ロシア文学と哲学	日本近代に対しても、ロシア文学は単に文学的ということを超えた哲学的影響を与えた。そのなかでも、ドストエフスキーの存在は大きなものであった。彼の『地下生活者の手記』から哲学的主題を引き出してみる。 【キーワード】 不条理と反抗	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	第Ⅲ部　文学と哲学 (2)日本近代文学と哲学	森鴎外の「空車」という概念や小林秀雄のベルグソン解釈を通じて、日本近代において、哲学を専門とするわけではなかった人々の哲学的発言について考える。 【キーワード】 翻訳文化	佐藤康邦(放送大学教授)	佐藤康邦(放送大学教授)
13	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(1)絵画と遠近法	第Ⅳ部では、絵画における遠近法技法を介して、芸術と科学、さらに哲学との関係を検討する。始めは、ルネッサンスにおける遠近法の成立について検討する。 【キーワード】 象徴形式としての遠近法	同上	同上
14	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(2)デカルトからセザンヌまで	絵画技法としての遠近法が、近代科学の成立の先駆的位置にあることを検証した後、最後には、セザンヌに代表される遠近法解体期の絵画について考察する。 【キーワード】 機械論的自然観	同上	同上
15	第Ⅳ部　絵画空間と哲学　(3)始源的奥行きの哲学	奥行き知覚についての哲学的考察を行った後で、現代絵画を含めた、東西古今の絵画における奥行き表現の比較検討をする。 【キーワード】 始源的奥行き	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1110403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 歴史と人間 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：草光俊雄（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学准教授）〕

講義概要

本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える基礎科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、世界史・日本史上で顕著な活動を残した人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。また特論として人間を視点においた歴史のありかたを考える。

授業の目標

歴史については中学・高校と学習してきており、特に高校では世界史が必修となっているという現状を踏まえるならば、大学の基礎科目として何がふさわしいのかが問題となる。そこでこの科目では、歴史的なものの見方を養うことに重点をおくが、その際に歴史が人間の諸活動の所産であることから、具体的な人物を通して人間が歴史にどう関わっていたのかを探ってゆくものとする。こうした学習をとおして、専門科目を学ぶ前提としての基礎的な知識や方法を身につけることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史と人間との関わり（特論1）	歴史を探る意味を考え、歴史がどう書かれてきたのかを中国・ヨーロッパ・日本の古代に生まれた歴史書で探って、歴史と人物との関わりについて触れる。歴史で人間というと英雄の名が思い起こされるが、民衆の存在も重視したい。 【キーワード】 歴史書・国家・戦争	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
2	司馬遷	司馬遷は中国の歴史家、紀元前2世紀の前漢武帝の時代に「紀伝体」という独創的な歴史記述の形を考案して『史記』を著した。以来今日までの長い期間、この書は多くの人々によって読み継がれてきた。それは何よりもそこに人間が描き出されているからだとされる。この点に留意しつつ『史記』と司馬遷について考える。 【キーワード】 司馬遷、史記、紀伝体	浜口允子（放送大学客員教授）	浜口允子（放送大学客員教授）
3	聖徳太子（厩戸皇子）	聖徳太子（574～622）の実像と虚像を通じて、歴史的に人間像がどのように作られていったのかを考える。用明天皇の皇子・厩戸皇子は古代国家の形成期において政治的・文化的に大きな足跡をのこしたが、皇子はその死後に聖徳太子といつしか称されるようになり、後世に大きな影響をあたえるようになった。その実情を探ることにする。 【キーワード】 聖徳太子　厩戸皇子　日本書紀　太子信仰	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
4	源頼朝と北条政子	武家政権を東国に形成したのは、源頼朝（1147～1199）と北条政子（1157～1225）の夫婦であった。夫婦で武家政権をどのように形成し、幕府として発展させていったのかを、二人の活動を詳しく記す幕府の歴史書『吾妻鏡』の性格を考えつつ探る。 【キーワード】 源頼朝　北条政子　吾妻鏡　武家	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	交流と人間（特論2）	歴史の転換点には、他の文明や文化との交流が大きな意味をもっていた。その交流のなかで大きな足跡を残した人物をとりあげ、その活動を追い、いかに後世に大きな影響をあたえたのかを考える。本章ではモンゴルの襲来をとりあげ、その攻防と影響について考える。 【キーワード】 フビライ　北条時政　モンゴルの襲来	五味文彦（放送大学教授）	五味文彦（放送大学教授）
6	ルターとクラーナハ	マルティン・ルター（1483～1546）は、ドイツの神学者で、宗教改革の中心人物である。ルターによる改革思想を通じてドイツ社会は大きく変わるが、その思想伝達にはルーカス・クラーナハという北方ルネサンス画家の寄与も少なくなかった。改革思想の伝達のしくみを考察しながら、宗教改革の歴史的意義についても考える。 【キーワード】 マルティン・ルター、ルーカス・クラーナハ、宗教改革、プロテスタント	森田安一（日本女子大学教授）	森田安一（日本女子大学教授）
7	天正遣欧使節 －16世紀の日欧交流－	1582（天正10）年、イエズス会東インド巡察師ヴァリニャーノは、日本の有力大名の名代という名目で4名の少年をヨーロッパに派遣した。これが天正遣欧使節であり、16世紀におけるヨーロッパと非ヨーロッパ世界の関係を考える上で重要な出来事であった。この天正遣欧使節を通して、16世紀のヨーロッパと日本の歴史について考える。 【キーワード】 天正遣欧使節、イエズス会、ローマ教皇	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
8	梅津政景 －秋田藩政の確立者－	梅津政景（1581～1633）は、17世紀初頭に秋田藩の家老を務めた人物である。『梅津政景日記』という優れた記録を残しており、近世史研究のうえでは重要な人物として知られている。その生きた時代は、日本の歴史が戦国から近世へと大きく転換した時代であった。この梅津政景をとおして、転換期における人間について考える。 【キーワード】 梅津政景、日記、秋田藩	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
9	近代社会と人間（特論3）	「近代」という言葉を検討し、主としてルネサンス以降のヨーロッパ社会において、人間観がどのように変遷してきたかを探る。 【キーワード】 近代、ルネサンス、古代、中世、社交、懐疑主義	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）
10	ブルネルとオスマン	ブルネル（1806～1859）は鉄道、橋梁、造船等の建設・建造においてイギリスの産業革命の成果を最大限に活用し、19世紀を代表する技術者。オスマン（1809～1891）はナポレオン3世治下、パリの都市計画を推進し、今日見られる都市景観を作り出した人物で、近代社会のインフラの整備における一つのモデルを提供した。実際に自らの知力と技術を駆使して近代社会を作り上げていった人々の代表として採り上げる。 【キーワード】 ブルネル、イギリス、産業革命、オスマン、パリ、都市計画	草光俊雄（放送大学教授）	草光俊雄（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	福澤諭吉	福澤諭吉(1834～1901)は、近代日本を代表する思想家・教育者であり、その人物像については改めて説明を要しないであろう。福澤諭吉が生きた19世紀という時代は、日本と東アジアにとって、それまでの比較的安定した体制が大きく変化した時代であった。福澤諭吉をとおして、主として19世紀の日本と世界の歴史について考える。 【キーワード】 福澤諭吉、19世紀	小室正紀(慶応義塾大学教授)	小室正紀(慶応義塾大学教授)
12	山川健次郎 －旧会津藩士の東京帝国大学総長－	山川健次郎(1854～1931)は、東京帝国大学の総長を務め、日本の物理学の基礎を築いた人物である。会津藩の家老の家に生まれ、政府留学生としてアメリカのエール大学に学んだ。妹の山川捨松は、津田梅子とともに明治政府によって派遣された最初の女子留学生である。山川健次郎とその兄弟の人生をとおして、日本の近代化について考える。 【キーワード】 東京帝国大学、教育、会津藩、戊辰戦争	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)
13	ケマル・アタテュルク	アタテュルク(1881～1938)は20世紀初頭のトルコ革命の指導者。トルコ共和国の初代大統領として独裁的な力をもち、日本の明治維新をモデルに言語、教育、文化にもおよぶ大胆な欧化政策をすすめ、脱イスラム国家化をはかった。その後の歴史とあわせ、イスラム世界における近代化のかたちについて考える。 【キーワード】 ケマル・アタテュルク、トルコ、イスラム	坂本勉(慶応義塾大学教授)	坂本勉(慶応義塾大学教授)
14	マハートマ・ガンディー	インドを大英帝国からの独立に導いたガンディー(1869-1948)。彼は、ナショナリズムを掲げた政治指導者か。人としての道徳と神への真摯な信仰を説いた精神的改革者か。党首や首相にはならず、「マハートマ(大いなる魂)」と呼ばれて尊敬され、「バープー(お父さん)」と呼ばれて親しまれた。そうした彼の人物像を20世紀史の中に位置づけてみる。 【キーワード】 ガンディー、インド、独立	竹中千春(立教大学教授)	竹中千春(立教大学教授)
15	まとめ －歴史と人間を考える－	講義全体のまとめとして、主任講師3名で討論を行い、歴史と人間について考える。 【キーワード】 歴史、人間	草光俊雄(放送大学教授)・五味文彦(放送大学教授)・杉森哲也(放送大学准教授)	草光俊雄(放送大学教授)・五味文彦(放送大学教授)・杉森哲也(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1112317	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　コミュニケーション論序説（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　大橋　理枝（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：　根橋　玲子（明治大学准教授）〕

講義概要

「人から人へと何かを伝えるというのはどういうことか」「人から人には何が伝わるのか」という2点をテーマに、コミュニケーション学の枠組みを骨格に据えつつ分野横断的な内容を組み立てる。毎回のテーマにそったゲストをお呼びして、それぞれの分野で、何をどう伝えようとしているのか、何がどう伝わっているとみなされているのかを話して頂く。様々な分野への興味を開花させるきっかけとなるような話題の提供を心がけたい。

授業の目標

人間は生きている限り周囲とのメッセージのやりとりを行い続けているのだということにもっと自覚をもつことを第一の目標とする。また、普段何気なく使っている「コミュニケーション」という言葉をもっとはっきりとした意味をもった言葉として把握できるようになることを目指す。更に、コミュニケーションというものがいかに多様な分野と関わるものであるかを理解し、専門分野を学ぶ際にここで学んだことを活かせることが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニケーションとは:伝えること、伝わること	「コミュニケーション」という言葉の意味や、コミュニケーションについて考えるときに必要な概念などについて解説し、基本的な導入を行う。また、この科目の全体構想や、科目設立の意図について述べる。	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）	根橋　玲子（明治大学准教授） 大橋　理枝（放送大学准教授）
2	自我とコミュニケーション:多様性の向こう側	社会学の立場から、コミュニケーションとは何なのか、という点や、私達人間にとってコミュニケーションが不可欠である理由などを検討する。	同上	同上 ゲスト：船津衛先生（放送大学教授）
3	身体とコミュニケーション:指差す先にあるものは	コミュニケーションは言語によって行われるものと言語を使わないものとがある。非言語コミュニケーションについて概観すると共に、日本の舞台芸術を例に、言語を使わずに何を伝えることができるのかを探る。	同上	同上 ゲスト：渡辺保先生（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	被服とコミュニケーション：ファッションかしきたりか	自分がある衣服を着ることによって他人に何が伝わるのか、何を伝えようとして特定の衣服を選ぶのか、などを考えることを通じて、人は何のために服を着るのか、という問いに対する答えの一つである「服装を通じてのメッセージの発信と受信」に焦点を当てる。	同上	同上 ゲスト： 藤原康晴先生（放送大学教授）
5	建築とコミュニケーション：ホーム・スイート・ホーム	建築という分野において、「建物」という手段を使って人は何を伝えようとしてきたと考えられているのか、現代に生きる私達は過去の建築からどのようなメッセージを受け取り、またどのような影響を受けるのかなどを探る。	同上	同上 ゲスト： 香山壽夫先生（東京大学名誉教授）
6	演奏とコミュニケーション：人と人を繋ぐ音楽	私達は、絵画・写真・音楽などには作者の意図が込められており、その意図を受け取ることでコミュニケーションが成り立っていると思いがちだが、果たしてこの前提は正しいのか？コミュニケーションに対する新しい見方を紹介する。	同上	同上 ゲスト： 徳丸吉彦先生（お茶の水女子大学名誉教授）
7	非言語コミュニケーションのまとめ：メッセージは五感を通して	第3回から第6回で扱った分野を振り返りながら、非言語コミュニケーションについて再考しつつ、触れることのできなかった非言語コミュニケーション分野（時間学・近接学など）についても触れる。	同上	同上
8	言語学とコミュニケーション：都心で会うタヌキとは？	言語について概観すると共に、コミュニケーションの基本とされる対人コミュニケーションに於いて、私達は何をどうやって伝えようとし、相手からのメッセージにどのような内容を読み込んでいるのかを、認知言語学や談話分析の分野で扱っている内容に基づいて考える。	同上	同上 ゲスト： 坂原茂先生（東京大学教授）
9	マスメディアとコミュニケーション：表舞台の「裏」話	私達が日々接しているマスメディアでは、何がどのように伝えられようとしているのか。普段「情報源」として接しているマスメディアを「コミュニケーション」をキーワードに見た場合、そこで何が起こっているのかを探る。	同上	同上 ゲスト： 柏倉康夫先生（放送大学教授）
10	組織とコミュニケーション：理想の上司、嫌な部下	組織の中での対人関係には、多くの場合上司や部下、同僚といった役割が存在する。そのことがコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを考えながら、私達の日頃のコミュニケーション行動を振り返る。	同上	同上 ゲスト： 山口生史先生（明治大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	外国語教育とコミュニケーション:ムニャムニャムニャ…が正しい場合	言語を学ぶことは文化を学ぶことだとよく言われるが、それはどういう意味なのか。外国語教育を通じて炙り出される言語と文化の問題に焦点を当てながら、コミュニケーション手段としての言語を考える。	同上	同上 ゲスト: 姫野昌子先生(放送大学教授)
12	言語コミュニケーションのまとめ:言葉の背後にあるもの	第8回から第11回で触れることのできなかった言語コミュニケーション分野に言及しつつ、これまでに扱った分野を振り返りながら言語コミュニケーションについて再考する。	同上	同上
13	教育とコミュニケーション:納得のための説得	学校や家庭で、子供は親や教師からどのようなメッセージを受け取っているのか、子供からのメッセージはどこに隠されているのかを探ると共に、説得について扱う。	同上	同上 ゲスト: 岡崎友典先生(放送大学准教授)
14	カウンセリングとコミュニケーション:伴奏(走)つきの自分語り	カウンセリングの現場では、カウンセラーがクライアントに向き合う際に受信する全てが情報として機能する。クライアントの言葉だけでなく、身体表現をも通じてメッセージを掬い取る、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの融合の現場を垣間見る。	同上	同上 ゲスト: 佐藤仁美先生(放送大学准教授)
15	文化とコミュニケーション:コミュニケーションの根底にあるもの	コミュニケーションについてこれまでに扱い切れなかった部分に触れると共に、私達のコミュニケーションがいかに文化的な影響を受けているかを述べる。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1112503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語表現法（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学准教授）〕

講義概要

小論文やレポート類などを、考えを表現する文章ととらえ、その書き方を実作の分析を通じて学ぶ。特に生涯学習の観点から、表現したいことがらを持っていながら、それを意識して顕在化し具体的な言語表現としてまとめる術がわからない、という学生を念頭に置き、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方途の基礎を、【基礎】【応用】【発展】各５回の段階を追って身に付けていく。各段階は、模擬的な実作を分析・解説する形で進めると共に、表現の力と表裏関係にある、文章を読み取る力を養うことにも配慮する。

これらの学習を通じて、文章表現の基本的な手法を身に付けると共に、自らの言語表現に自覚的になっていくための視点を提供する。

授業の目標

漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、何をどのように考え、進めていけばいいのかについての具体な方途を身に付け、自覚的な言語表現のための態度と力を身に付ける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	【基礎】 考えを書き表す	小論文やレポートの類を、「自分の考えを納得してもらえるように説明する」ための文章と位置づけ、典型的な文章の例を掲げてその特色を示す。実作の第一歩として、書こうとする文章の中心となる自分の「考え」を文として表現する最も基本的な形式として「○○は△△である。なぜならば～～」という形を示し、実際にその実作例を掲げて解説する。	杉浦克己（放送大学准教授）	杉浦克己（放送大学准教授）
2	【基礎】 納得してもらえるように説明する	文章を言葉の一単位としてとらえ、それを構成する要素として文を位置づける。文章の構成を考えるには、個々の文の働きを認識することが重要である。先ず大きく、考えを述べる文と理由を説明する文の二種に働きを大別し、自分の考えを筋道立てて説明するための第一歩として、考えを表す文の後に理由を説明する文を書き継ぐ方途を示す。	同上	同上
3	【基礎】 根拠を挙げる	考えは、考えの形で表現しただけでは読み手に理解されない。どのように説明を筋道立てていくかが小論文類の書き方の最も重要な方途であることを、実際の文章例を用いて示し、根拠となる事実等の挙げ方の典型を分析・説明する。これをふまえ、根拠となる事実をのべつ働きを担う個々の文の役割を理解し、実作例を通じて具体的な表現の仕方を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	【基礎】 構成を考える	考え・理由・根拠を、この種の文章を構成する要素の代表的な三種と位置づけ、どのような順序で全体を構成するかについて、基本となる「頭括式」「尾括式」及びその併用の形を、実際の文章例で示す。実作例の内容に応じて、効果的な構成を選ぶ具体的な方途を示し、文章全体の構成を立てるための考え方を示す。	同上	同上
5	【基礎】 全体をまとめる	1～4回で考えた事項を、実際に一編の文章としてまとめる際の様々な配慮事項を、実例に則して概説し、併せて細部を推敲する際の重要な着眼点を示す。実作例では、基礎編全体の総まとめとして、これまでに示した考え方を再確認し、細部の表現に留意しつつ整った一編の小論文としてまとめ上げる。	同上	同上
6	【応用】 問題提起と答え	文章構成の類型の一つとして、冒頭に問題提起を置き、それに答える形で全体をまとめる形式の特色と留意点を実際の文章例に則して示す。併せて、問題提起を外から与えられた上で、その答えを小論文にまとめるような要求に対する対処法を示す。これらを通じて、言語表現としての「問い」と「答え」を文章のレベルで考える。	同上	同上
7	【応用】 課題作文	特定のテーマ等の課題を与えられて書く場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。出題者の意図を短い課題文の中から的確に把握するための着眼点と、その対処法を具体的に考える。特に「自分のことばで」「～～について」「～～に即して」などの課題文に見られる常套句を的確に理解することに留意する。	同上	同上
8	【応用】 字数制限への対応	字数制限を課せられた場合の対処の仕方の基本的な要件を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。特に字数制限は、単に長さの問題だけではなく、内容や構成、具体的な表現などにある特定の意図を持った要求として行われる場合が多いことに留意する。	同上	同上
9	【応用】 キーワード作文	特定のキーワードを用いること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。キーワードをどのように用いるかを、論の中心となる考えをまとめる段階、構成を考える段階、具体的な表現の段階の各々で、実作例を通じて示し、キーワードにどのような役割を与えて行くことが重要なのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	【応用】 読解型作文	ある文章を読んだ上で、その全体または一部について論ずること課せられた場合の対処の仕方を、具体的な実作例を通じて分析・解説する。課題となる文章の内容の的確な理解と課題の意図を把握する上での着眼点を示し、その上にたって、何についてどのように考えをまとめ、構成し、表現すべきかを考える。	同上	同上
11	【発展】 効果的な表現・構成	論じようとする内容に応じて、表現や構成にどのような工夫を凝らすことが必要か。様々な方途を実際の文章例で示し、各々の工夫とその効果、用いる上での留意点などを概説する。特に、それらが、読み手にはどのように映るかを、書き手の立場からどのように把握すればいいのか、について考え、推敲の重要性の様々な意味を自覚的にとらえる。	同上	同上
12	【発展】 補助資料の利用	論本文の補助となる図表や写真などの効果的な用い方を、実際の文章例で示し、図表や写真と文章との表現としての質的な違いを的確に把握して利用することを、具体的な例に即して考える。補助資料の有無で、文章表現の何がどのように変わってくるのかに着目する。	同上	同上
13	【発展】 要約	自らが書いた文章の要約、他から与えられた文章の要約の各々について、その方途を具体的な文章例で示すと共に、キーワード付けのための基本的な考え方と方途を併せて示す。要約文に必須な事項は何かを、要約という行為自体の意味を改めて考えることによって見いだしていく。	同上	同上
14	【発展】 口頭発表の技術	自らが書いた文章の内容を口頭発表する際の具体的な方途を、実際の文章例を用いて考える。特に、話し言葉と書き言葉、音声言語と文字言語の質的な違いを認識した上で、口頭発表のための基本的な必須事項を示す。併せて補助提示資料の有効な使い方についても考える。	同上	同上
15	【発展】 様々な表現法	１～１５回で学んできた事項を再確認し、それらを総合して、実際に小論文を書き表す、つまり、漠然とした自らの考えを具体的な言語表現として文章に書き表すには、どのように考えを進めていけばいいのかを改めて考え、鍵になる事項を、自分なりに見いだして行く。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目ｺｰﾄﾞ	1110101	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アジアと漢字文化 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　徹（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：大西　克也（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

東アジアから東南アジアにかけての広い地域に対して、中国文明は過去から現在に亘り深甚なる影響を与え続けてきた。その文明の優位性を保証していたのが書記体系としての漢字である。本科目は、中国における漢字の成立と歴史的展開を軸としつつ、あわせて周縁地域に対する漢字の諸方面における影響を俯瞰することを通じ、我々が生きるアジアにおいて漢字文化が果たしてきた役割とその将来についていま一度考え直す視点を提供する。

授業の目標

漢字についての基本的知識の習得を図ると同時に、その歴史的展開について理解を深める。さらに、アジアにおいてインド系・アラビア系文字と並んで広く使用される漢字を例にとって、言語と文字の関係及び文字を共有する文化圏の歴史的意味を考察するとともに、この文化圏の一員である私たちに与えられた今日的課題を解決する視座を獲得することを目標とする。

履修上の留意点

履修に際して特に前提とされる知識はないが、中国史についてのごく基礎的な知識があればなおよい（参考：「中国社会の歴史的展開（’07）」）。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	漢字の誕生――骨と甲羅に刻まれた文字――	古代中国語の表記体系としての漢字の基本的性質を理解した上で、現在確認される最古の漢字である甲骨文字について概説する。甲骨の作成方法や文章の読み方についても言及する。 【キーワード】 字体、書体、表語文字、甲骨文字、占卜、殷、殷墟	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 松丸道雄（東京大学名誉教授）　平勢隆郎（東京大学東洋文化研究所教授）
2	漢字の起源――甲骨文字のしくみと陶文――	甲骨文字は中国語をどのように可視化したかという観点から、甲骨文字の成り立ちと特徴とを考察する。甲骨文字以前から見られる新石器時代の土器に記された符号や文様と漢字の起源との関わりについても考える。 【キーワード】 甲骨文字、解読、表意文字、表音文字、陶文	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
3	青銅器に鋳込まれた漢字――金文の誕生と展開――	殷周時代の青銅器に鋳込まれた金文について、器の製作方法をふまえた上で、甲骨文と比較しつつその特徴を解説する。 【キーワード】 金文、青銅器、陶模法、皮型	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 松丸道雄（東京大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	多様化する漢字――戦国時代の文字展――	分裂の時代を背景に多様化した戦国時代の文字について、現地ロケをふまえた豊富な資料を基に解説する。多様化の諸相とその要因について考える。 【キーワード】 戦国文字、多様化、正字、俗字	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
5	屈原の書いた漢字――戦国時代の楚の言語表記システムと国毎の違い――	楚簡に記された筆写文字に基づき、戦国時代の楚の国における漢字の諸相を考察する。他の国の文字と比較し、国毎にどのような相違があったのか考える。 【キーワード】 戦国文字、楚簡、俗字、周圏分布	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
6	隷書の誕生と文字統一――古代文字の終焉――	隷書の誕生によって、象形的な古代文字が画一的な筆画によって構成される近代的な漢字に変貌する様を考察する。秦始皇によって成し遂げられた文字統一の歴史的意義とその実際を、湖南省や湖北省の出土資料を基に解説する。 【キーワード】 隷書、隷変、文字統一、秦始皇、馬王堆帛書	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授） 横田恭三（跡見女子大学教授）
7	漢字の完成――楷書の誕生と規範化――	今日我々が用いている書体がいかにして成立したかを、漢代の簡牘や南北朝時代から唐代の碑文や墓誌などに基づいて解説する。 【キーワード】 草書、行書、楷書、碑文、墓誌、石経、印刷用書体	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
8	字書の変遷――漢字史からみた字書――	字書の起源とその変遷を漢字の書体の歴史から解説する。 【キーワード】 字書、『説文解字』、六書、部首、楷書、『玉篇』、『字彙』、『康熙字典』	大西克也（東京大学大学院准教授）	大西克也（東京大学大学院准教授）
9	漢字と漢字音	文字としての漢字が周縁諸民族に受容されたとき、その読音である漢字音がどのような変化を遂げたかを、原音と日本漢字音との関係を中心に解説する。 【キーワード】 反切、韻書、中古音、漢字音、呉音・漢音・唐音	宮本徹（放送大学准教授）	宮本徹（放送大学准教授）
10	漢字と近代化	国民国家の成立と近代化の時代、中国で行われた漢字を巡る様々な議論と文字改革の運動について、漢字の標音化と簡略化を中心に解説する。 【キーワード】 近代化、文字改革、標音化、簡化字	宮本徹（放送大学准教授）	宮本徹（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	漢字と漢字系文字	漢字はその周縁部においてさまざまな「漢字系文字」を生み出したが、その特徴について、中国西北部を中心に見られる「擬似漢字」と中国東南部を中心に見られる「派生漢字」との違いを中心に解説する。 【キーワード】 漢字系文字、西夏文字、チュノム(字喃)	岩月純一 (東京大学大学院准教授)	岩月純一 (東京大学大学院准教授)
12	韓国・朝鮮の漢字	韓国・朝鮮における漢字の受容と歴史的展開について、現在における文字状況も含め説明する。 【キーワード】 韓国木簡、金石文、吏読、ハングル	福井玲 (東京大学大学院准教授)	福井玲 (東京大学大学院准教授)
13	日本語と漢字(1)	日本における漢字の伝来と吸収について、単に文字の受容という観点のみならず、日本語における漢語の存在という側面からも漢字文化について考察を加える。(漢字の伝来と吸収／万葉仮名／日本漢字の特徴／国字・方言字) 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛 (目白大学教授)	陳力衛 (目白大学教授)
14	日本語と漢字(2)	第13回の続き。 (日本語における漢語／近代における日中の語彙交流) 【キーワード】 金石文、万葉仮名、日本漢字、国字・方言字、漢語	陳力衛 (目白大学教授)	陳力衛 (目白大学教授)
15	現代アジアと漢字	漢字文化をめぐる座談会。①漢字が東アジアで果たした役割、②文字と言語の相関関係、③漢字文化の将来。 【キーワード】 東アジア／漢字文化圏／文字と言語	宮本徹 (放送大学准教授)	大西克也 宮本徹 岩月純一 福井玲 陳力衛

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1115901	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　世界の名作を読む（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：工藤　庸子（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大石　和欣（放送大学准教授）〕

講義概要

文学講義の入門編。だれでもタイトルは知っているけれど、いきなり読むのは荷が重いという超大作から、はかりしれぬ含蓄のある珠玉の短編小説まで、それぞれの講師が、自分自身の読書経験に照らして作家と作品の魅力を語る。放送授業では、全体の3分の1程度を声優による朗読にあてた。生き生きとした朗読と講師の解説を通して作品の世界に親しみ、テキストを読み込んでゆくことの面白さを実感していただきたい。「世界の名作」とは、各自が身近なテーマを発見し、自分なりの「読書の愉しみ」を経験できるような文学作品をいうのである。印刷教材には朗読を収録したCD-ROM（MP3ファイルを使用）を添付し、大学のホームページにも補助教材を立ち上げた。

授業の目標

講義で取りあげられた作品を、履修者が自力で積極的に読むことが求められる。義務教育の「感想文」とは異なる「文学の読み方・語り方」とはいかなるものか。講師はその具体例を提案する。履修者は、授業の内容を十分に理解したうえで、それを考える材料にしていただきたい。この科目は、教養のための読書という意味で、文学好きの人はいうまでもなく、文学離れした若者世代も射程に入れて構成されている。また、教員、図書館司書、ヴォランティアなど、読書指導の現場にいる人たちが、指導の技法を学ぶためにも活用できる。通信指導および期末試験は、記述式で行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	セルバンテス『ドン・キホーテ』	・はじめに ― 文学作品を耳で愉しむ。 ・音読か黙読か ― 物語文学と翻訳の問題。 ・講談ヴァージョンで聴く「風車の冒険」 ― あまりにも有名なエピソードのどこが面白いのか。 ・アラビア人の原作者シデ・ハメテ・ベネンヘリと謎の「第二の作者」。	工藤　庸子（放送大学教授）	工藤　庸子（放送大学教授）
2	同	・『ドン・キホーテ』後篇を読む ― 錯綜する幻想と現実。 ・村の知識人サンソン・カラスコと従者サンチョ・パンサ。 ・講談ヴァージョンで聴く「森の騎士との決闘」。 ・狂気の終わりと主人公の死と物語の幕切れ。	工藤　庸子（放送大学教授）	工藤　庸子（放送大学教授）
3	エミリー・ブロンテ『嵐が丘』	・18世紀以降の女流小説の興隆。 ・語りの形態。 ・崇高美に見るロマン主義的風景。 ・屋根裏の女たち ― 特に財産権をめぐる女性差別の問題。 ・映画で観る小説の面白さと虚しさ。	大石　和欣（放送大学准教授）	大石　和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ドストエフスキー 『罪と罰』	・ドストエフスキーの日本でのこれまでの読まれ方。 ・「犯罪小説」であると同時に、形而上的観念の小説でもある『罪と罰』。 ・ ドストエフスキーの独自のリアリズムと幻想。 ・ ペテルブルクを舞台とした都会小説。 ・ 繊細な言葉の芸術としてのテキスト。	沼野 充義（東京大学教授）	沼野 充義（東京大学教授）
5	チェーホフ 『ワーニカ』 『可愛い女』 『犬を連れた奥さん』	・ チェーホフの短編のうち特に『ワーニカ』『可愛い女』『犬を連れた奥さん』の３篇を取り上げ、その魅力と現代的意義について考える。 ・「手紙は届かない」「可愛い女は本当に可愛いか？」「愛はいつ始まるのか？」 ・ チェーホフは人情味豊かなユーモアとペーソスの作家だったのか？	沼野 充義（東京大学教授）	沼野 充義（東京大学教授）
6	メルヴィル 『バートルビー』	・ アメリカ精神の陰画。 ・ バートルビーとは何者か。 ・ 壁・墓場の意味。 ・ 語り手の（そして我々の）中で何が変わるか？	柴田 元幸（東京大学教授）	柴田 元幸（東京大学教授）
7	マーク・トウェイン 『ハックルベリー・フィンの冒険』	・南北戦争後のアメリカ ― 郷愁の発生。 ・トム・ソーヤーとハック・フィンの違い。 ・文体の新しさ・重要性。 ・ ユーモアとメランコリー。	柴田 元幸（東京大学教授）	柴田 元幸（東京大学教授）
8	プルースト 『失われた時を求めて』	・ 「記憶」とは何か ―「無意志的な記憶」と「知性の記憶」について。 ・ マドレーヌのエピソードを読む。 ・ 「見出された時」という奇蹟。 ・ 物語をいかに書き始めるか。 ・ 眠りと目覚めと「身体の記憶」。	工藤 庸子（放送大学教授）	工藤 庸子（放送大学教授）
9	同	・ 人生について考える「モラリスト」の小説。 ・ 身近な人間類型としての登場人物たち。 ・ 悲劇の描き方と喜劇の混在 ― 祖母の死をめぐって。 ・ 「心の間歇」 ― 悲しみと忘却と甦る記憶。	工藤 庸子（放送大学教授）	工藤 庸子（放送大学教授）
10	ヴァージニア・ウルフ 『ダロウェイ夫人』	・ 小説の技法としての「意識の流れ」。 ・ 女性小説の伝統とフェミニズムの曖昧さ。 ・ シネマトグラフィーの小説への応用。 ・ 大戦間のイギリスと文学。	大石 和欣（放送大学准教授）	大石 和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	カフカ 『変身』	・ 無名のサラリーマン作家としての生涯。 ・ 平凡な営業マンの日常におきた「変身」という事件。 ・ 虫男のおかしさ ― 変身ぶりの不思議と当人が不思議に思わぬことの不思議。 ・ 身近なテーマとしての「変身」。	池内 紀（ドイツ文学者）	池内 紀（ドイツ文学者）
12	カフカ 『断食芸人』	・ 実在した「断食芸」― 何もしない、食べることすらしないという芸。 ・ なぜ断食は40日なのか。 ・ カフカの笑い。 ・ 断食芸人の死と作者の死。	池内 紀（ドイツ文学者）	池内 紀（ドイツ文学者）
13	イタロ・カルヴィーノ 『魔法の庭』 『楽しみはつづかない』	・ 戦争体験はどのように物語となったのか。 ・ 子どものまなざしが教えるもの。 ・ 民話との出会いから空想と歴史の融合へ。 ・ 短篇か長編か ― 表現形式の選択をめぐって。	工藤 庸子（放送大学教授）	和田 忠彦（東京外国語大学教授）
14	同 『ある夫婦の冒険』 『ある詩人の冒険』	・ 小説という形式そのものへの問い。 ・ 「ポストモダン」という魔法の効き目。 ・ 果てしない断片化の先に待つ物語とは。 ・ 詩か小説か ―「不在」と「ことば」。	工藤 庸子（放送大学教授）	和田 忠彦（東京外国語大学教授）
15	（まとめ） 読書の愉しみ	・ 全体の復習をかねて「文学の読み方・語り方」を考える。 ・ 作品分析の基礎概念 ― 物語の構造と作中人物の描き方。 ・ イタロ・カルヴィーノ ― 「古典」とは何か。 ・ プルーストの読書論 ― 「友愛としての読書」。	工藤 庸子（放送大学教授）	工藤 庸子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1113909	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　人類の歴史・地球の現在（‘０７）＝（TV）
－文化人類学へのいざない－

〔主任講師（現職名）：　本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　棚橋　訓　（お茶の水女子大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　三尾　裕子（東京外国語大学教授）　〕

講義概要

この講義では、人間の探究専攻の学生、あるいは人類学を修める予定の学生だけを想定せず、全専攻の学生を対象とする基礎科目とします。世界各地を視野に人類学で蓄積されてきた多くの知見・データ・理論が私たちの日常生活に関与することを国内外の具体的な事例をとおしてみる授業です。古典的な理論と最先端の学説をまじえながら、人類の歴史からはじまり、さまざまな人間の行為をキーワードに、ほかの学問領域との接続を意識して、幅の広い知識と解釈を提供します。

授業の目標

なるべく多くの受講生に文化人類学的な考え方に接してもらい、人種、民族、宗教などの研究分野で他専攻生も活用されることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学へのいざない 授業のねらい	「近代」とともに歩んできた文化人類学が、現在当然視されるさまざまな概念や観念、カテゴリー（人種、民族、国民、宗教、世界観など）を生み出した時代背景を紹介します。そして現在、文化人類学がどのように私たちの日常生活に関わり、役立つかについて、具体的な事例をまじえて考えます。	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト： 山下　晋司（東京大学大学院教授）
2	うまれる 生物としての人間の成立	人類の進化史を概観し、古典的な4段階発展論と、多地域進化説・単一起源説をめぐるミトコンドリア論争をとり上げます。これを基礎にして、人類の生物史の概略をふまえ「人種」概念を考察します。	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） ゲスト： 海部　陽介（国立科学博物館研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	うむ 生殖をめぐる視点と諸問題	「人間をうむ、うみだす」という現象を文化と社会の多様性の観点から考察し、「うむこと」を概観します。民俗生殖理論と近現代の生物医学の生殖理論を対比しながら、「人間をうむ、うみだす」という視点から現代の地球社会に生じている諸問題（例えば、生殖医療・技術、生命観・家族概念の変遷と転換など）に、どのように挑み得るのかを考えます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 上杉　富之（成城大学教授）
4	まなぶ 「ことば」と／でつくる世界	人間は「ことば」“を”学び、「ことば」“で”学びます。人間は「ことば」を生み、「ことば」は人間をつくります。“人間”と「ことば」の多元的な関わりを、文化の普遍性と多様性の視点から考えていきます。言語習得から人間の認知世界の形成までの過程を文化の側面から考え、言語の多様性をめぐる最新の議論にふれます。「ことば」の視点から現代世界の諸問題に接近していきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 井上　京子（慶應義塾大学教授）
5	つくる・つかう 人とモノの関係	人間はさまざまな道具・技術を用いて、モノをつくりだしてきました。有形から無形まで、リアルからヴァーチャルまで、DIYから先端科学技術まで、モノはその時どきの知識・経験・技術の結節点となってきました。作り手や使い手はモノに意味を込め、社会的な役割を負わせます。ここでは、人間にとってのモノと技術の意味を考えていきます。	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授）	棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） ゲスト： 櫻井　準也（尚美学園大学教授） 朽木　量（千葉商科大学准教授）
6	そだつ 幼児から大人へ	人はどうやって社会の中で成長し、一人前になり、仕事を持って働き、社会を支え、そして支えられるようになっていくのでしょうか。ここでは、社会化の過程や通過儀礼などを見ていく中で、現在の日本の成人式をめぐる問題、パラサイト・シングル、ニートとよばれる若者たちの問題などの問題を考えてみましょう。	三尾裕子（東京外国語大学教授）	三尾裕子（東京外国語大学教授） ゲスト： 宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	つながる 社会的な存在としての人間	人間社会の基礎的要素は「家族」をはじめとする「親族」の関係と、それにもとづく集団です。「親族」のあり方は、狩猟採集段階から、初期農耕・牧畜をへて、産業社会へと至る人類史を貫いて、さまざまな形態をとりますが、その基本的構成には不変のものがあります。この講義では、人間社会の多様性と共通性を、家族と親族に的をしぼり、社会進化史的観点から見てゆきます。	内堀基光(放送大学教授)	内堀基光(放送大学教授) ゲスト: 山極 寿一(京都大学大学院教授)
8	つどう 群れることで生みだす世界	「つどう」という人間の特質について総合的に考えます。母子関係にはじまる人間関係のネットワーク形成(社会組織)に関する理論研究を概観して足場を固め、そのうえで集団、民族、都市、国家の概念を再検討します。また、エスニシティ、境界性など、「つどう」ことが必然的に生みだしてしまう差別と排除のロジックについても考察していきます。	棚橋 訓(お茶の水女子大学大学院教授)	棚橋 訓(お茶の水女子大学大学院教授)
9	うごく 人の移動が生みだす世界	人は、古来、活発に移動し、さまざまな環境に適応してきました。移動はモノの交換や交易を生み、異なる集団との出会いが新しい文化を生みだしてきました。この回では、人の移動を歴史的に概観することから出発して、昨今の観光、トランスナショナリズム、グローバリゼーションなどの現象が生みだす多民族、多元文化状況、逆に文化の均質化などの人間の思考や文化の多様性を消し去りかねない側面について考えます。	三尾裕子(東京外国語大学教授)	三尾裕子(東京外国語大学教授) ゲスト: 床呂 郁哉(東京外国語大学准教授) 陳 天璽(国立民族学博物館准教授)
10	あらそう 戦争について	戦争はなぜ起こり、なぜ繰り返されるのでしょうか。このことについては、多くの説明が提示されてきました。その中の一つにシュンペーターの戦争論があります。本授業では、この戦争論を紹介します。この回のもうひとつの狙いは現代の戦争の特徴を提示する点にあります。それは非国家主体による戦争です。「民間軍事会社」やアルカーエダというNGO的な組織活動などに注目したいと思います。	高橋 和夫(放送大学准教授)	高橋和夫(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	きりひらく 「開発」をめぐって	開発論、NGO・NPO活動、自然環境、資源論などを自然と社会、そして政治の側面から解きます。グローバリゼーション、「近代化」、エコ主義などの視点をまじえて「開発」の多様性を論じます。	本多　俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)	本多俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授) ゲスト： 石井　洋子 (聖心女子大学専任講師)
12	きずく 少数・先住民族の今	この回では、植民地的な状況における少数・先住民族の歴史を通観して、いくつかの地域や国家における少数・先住民族、エスニック集団の運動と現状について国内外の事例を紹介します。	本多　俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)	本多俊和 (スチュアート　ヘンリ) (放送大学教授)
13	いやす 病と癒し	人々は、近代医療（バイオメディスン）が発達していなかった時代や場所でも、さまざまな方法で病に対処していました。文化人類学で扱う「病と癒し」は、医学的な疾患と治療よりもずっと広い概念です。わたしたちの身の回りにある「癒し」の体験を振り返ってみましょう。すると、バイオメディスン以外にも、いろいろの選択肢があることに気づくでしょう。	松岡　悦子 (奈良女子大学教授)	松岡　悦子 (奈良女子大学教授) ゲスト： 鶴岡　優子 (自治医科大学助教)
14	まつる 信仰の世界	科学が発達していく中でも、人は、自分に降りかかる理不尽に思える災難を理解して克服していくために、人知を超えた力に頼ることがあるでしょう。また、自分の死を恐怖なく受け入れ、魂の永続性を得たいと願うこともあるでしょう。私たちは何を信じ、何に頼り、またそのような気持ちをどのような行動で表現するのか、神や祖先などの霊魂観、宗教、儀礼、系譜観念や葬制などを通して考えてみましょう。	三尾　裕子 (東京外国語大学教授)	三尾裕子 (東京外国語大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総括・再び文化人類学へのいざない	以上の14回をふりかえながら要点を確認します。また、改めて文化人類学の方法論、性格、他の学問分野との関連性、現代的な意義などを整理するとともに、充分に議論し尽くすことができなかった問題にも展望を広げて全体を総括します。	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾　裕子（東京外国語大学教授）	本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 棚橋　訓（お茶の水女子大学大学院教授） 三尾　裕子（東京外国語大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130404	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの生物学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学・准教授）〕

講義概要

生物学は20世紀後半に劇的な展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでになり、生物学の基本的な知識なしには、日々直面する食料・医療・育児・環境などをめぐる問題に対処することすら出来なくなってきた。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える精妙な仕組みとについて、基本的な事柄を中心に講ずる。講義にあたっては、なるべく日常生活に関わりのある生物科学上の題材をとりあげることとする。

授業の目標

本講義は、これまでに生物学を学ぶ機会の少なかった方たち、あるいはごく若い頃に生物学に接しただけの方たちに、現代生物科学の基礎を習得してもらうことを目標としている。看護師などの医療分野における専門技術者を目指す方たちには、専門的な教育の前提として必須な生物科学の基礎知識を身につけていただくことになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ生物学を学ぶか	この講義全体を通じて、ヒトは何処から来て何処に行くのかを考えるうえでのよすがとなることを目指している。初回は全体の序として、生物学を学ぶ意義について考えるとともに、生物学とはどのような学問分野であり、どのような歴史を経て形成されてきたのか、その大筋を学ぶ。 【キーワード】 生物学、生物学の略史	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
2	生命と生物	生命すなわち生きているということと、生物すなわち生きているものとは分かちがたく結びついており、しばしば同義に用いられている。生命・生物の世界が非生命・非生物の世界とどのように異なるのかを学ぶ。 【キーワード】 生命と生物、生きているものと生きていないもの	星　元紀（放送大学・教授）	星　元紀（放送大学・教授）
3	生物の誕生と歴史	太古の地球において最初の生物が誕生し、長い年月をかけて徐々に変化し、現在のような多種多様な生物たちが共存する世界が形成された。このような生物の歴史と、生物の時間的な変化、すなわち進化のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 進化	二河成男（放送大学・准教授）	二河成男（放送大学・准教授）
4	多様な生物の世界（1）	現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、大分類について説明する。2回にわたるが、この回では単細胞生物に関して、その栄養獲得様式と、生活型について説明する。また、多細胞生物では、光合成生物、従属栄養生物などにふれる。	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多様な生物の世界(2)	前回に引き続いて、現在の地球にはどのような生物が存在しているのか、特に動物についてその栄養獲得様式と生活型について説明する。さらに動物の形態、生理、生態などの適応放散にふれる。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
6	細胞:生命の最小単位	私たちの体も、他の生物と同様に細胞からできている。細胞といっても多種多様なものが存在する。その一方で、細胞全般に共通するしくみもたくさんある。このような相違点と共通点について、細胞のかたちや中身などの構造面と、分裂などの機能面から理解する。 【キーワード】 細胞、細胞小器官、細胞骨格、細胞分裂、核	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
7	生命活動を支える物質	生物は細胞からできている。では、細胞は何から構成されているのであろうか。細胞も、われわれの身の回りにある物質と同様に分子から構成されている。細胞を構成する分子には非生物世界を構成する分子とは違った特徴があること、さらに地球上のすべての細胞は基本的には共通の分子を利用して共通のしくみで活動していることを学ぶ。 【キーワード】 分子、水、タンパク質、糖、脂質、核酸	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
8	生命活動を支える化学反応	さまざまな生命活動は、体内で営まれる物質代謝やエネルギー代謝などの、良く制御された複雑な化学反応の連鎖によって支えられている。生物が営む化学反応の特徴と、主な反応経路について学ぶ。 【キーワード】 代謝、光合成、呼吸、酵素	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
9	個体の統合と維持	多細胞体制においては、個々の細胞のみならず、個体全体がひとつのシステムとしてよく調節されており、その誕生から死に至るまで破綻することなく、個体としての統一性が維持されている。ここでは、個体としての統一性を支える仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 組織、器官、内部環境、恒常性、統合、個体性	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
10	個体の再生産	種は同じような個体を再生産し、世代を超えた個体の連鎖として維持されている。ここでは、生物が次世代の個体をどのようにして形成しているのか、すなわち生殖と発生とについて学ぶ。 【キーワード】 生殖、性、発生	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
11	世代を越えた情報の伝達	子は親に似る。このことはすべての生物に共通に見られる現象である。これは遺伝情報を担ってるDNAが親から子に受け渡されるためである。この遺伝のしくみと、細胞がDNAの持つ情報を読み取る方法について学ぶ。 【キーワード】 遺伝、DNA	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	情報の交換(1) ～個体内の情報伝達～	細胞は、さまざまな分子を利用してお互いの間での情報伝達を行っている。その結果、われわれの体全体の細胞が協調して働くことができる。さらに細胞の中でも分子を介した情報の伝達が行われている。ここでは、いくつかの代表的な細胞間と細胞内の情報伝達について学ぶ。 【キーワード】 シグナル分子、受容体、神経	二河成男(放送大学・准教授)	二河成男(放送大学・准教授)
13	情報の交換(2) ～個体間の情報伝達～	生物は個体間でさまざまな手段を使って情報交換を行っているが、その様相を同種間の場合、異種間の場合で説明する。そして、それらの情報交換の機能や進化的由来について考察する。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
14	生物群集の成り立ち	生物は多数の種が競争、共生、寄生、捕食、擬態などの関係をもって同所的に存在して群集を構成している。そして、群集はさらにそれぞれのおかれた地域環境とともに生態系をなしている。群集の構造、安定性、遷移そして人間活動が生物群集に与える影響等について説明する。	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
15	ヒトは何処に行くのか	ヒトの活動が地球という環境にどのような影響を与えているのかを見た後に、人口問題を始めとする人類が直面している諸難問の解決に向けて、ヒトという生物の特徴を考えてみる。 【キーワード】 ヒト、人口爆発、環境問題、食糧問題	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの物理学 （’０８）＝（ＴＶ）
－物理へようこそ－

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：鈴木　久男（北海道大学大学院准教授）〕

講義概要

物理によって私たちは、原子・分子やもっと小さな世界から宇宙のような大きい世界まで、長さの違いが60桁以上も違う範囲の自然の様子を理解することが出来るようになった。皆さんが日常的に使う携帯電話の仕掛けや、飛行機が飛ぶ理由、脳の働きや遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。世界は物理であふれているといってもよい。そこでこの科目では、物理に関するいろいろな謎を出していって、それらの謎がどう解かれていくかを見ながら、皆さんを物理の世界へ誘いたい。また、物理の基礎的概念を、単にその内容だけでなく、何故必要とされたか、どう発展していったかまでを含め、皆さんと一緒に理解して行くつもりである。そのために、身の回りの物で出来る実験を紹介したり、課題を出して行く。是非自分の力でやって欲しい。安全にかかわることについて、物理がいかに大切な働きをするかも見てゆこう。

授業の目標

高校から大学へ進む人たちが物理を学ぶときに感ずるギャップを埋めたり、物理を学んだことはない人や物理を知りたいが後込みしている人たちを、物理の世界に誘う招待状になることおよび物理の楽しみを味わうことを目標にする。内容としては、高校までで学ぶことになっている物理を、広い範囲で紹介するとともに、現代物理の柱となる相対論や量子の論理に触れる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は生きている	物理とはなんだろう。Q&A 形式と身近にあるもので皆さんも出来る実験をやりながら、日ごろ接するものや現象の中から、特に安全にかかわる事柄を取り上げ、物理がいろいろなところでいかに生き生きと活躍しているかを見てゆこう。たとえば音をとって考えよう。音とはなんだろうと考え、出来る範囲で実験してみる。物や現象について、なんだろう、なぜ、どうしてと問うのが物理の考え方なのである。記号や数式を怖がらずに物理と仲良くなろう。 【キーワード】 物理を知って安全な暮らしを、物理の考え方、音とは何だろう	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	力とはなんだろう	力の作用のうち、支える(つりあい)、動かす(運動)、形を変える(変形)の3つについて考える。つりあいを見ると、力には大きさと方向が大事な要素であること(力はベクトル)、広がりのある物体に作用するときは、作用点が大事であること(力のモーメント)、作用が面を通してのときは、面積あたりの力(圧力)が重要なことを、実験しながら見て行く。次に運動に移る。力は運動の何を変えるのだろうか。この疑問を突き詰めると、ニュートンに迫ることが出来、運動の基本法則に行き着く。運動の例として、等加速度運動、等速円運動を考え、重力と落下の謎を解こう。 【キーワード】 力、つりあい、運動、変形、ベクトル、作用点、支点、力のモーメント、圧力、パスカルの原理、速度、加速度、ボール回し(等速円運動)、等速直線運動、運動の基本法則、等加速度運動、重力、落下	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	力はいつも仕事をするか	実感に基づいて仕事の定義を与え,前回解いた落下運動を分析すると、自然に位置エネルギーと運動エネルギーという概念が出て、全エネルギーの保存則に導かれる。 キャッチボールをやりながら、運動するものを受け取る際の衝撃が、運動量という概念でうまく表せることを見よう。運動量が保存することを体験するとともに、運動量保存則が第3法則によることを示す。ロケットがなぜ飛ぶかも理解できる。 【キーワード】 仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則、ロケット	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	まわるコマはなぜ倒れないか	コマを作って回してみよう。速くまわるコマは、どうやれば出来るのだろうか。コマを手で倒そうとしてもなかなか倒れない。なぜかを考えると、自然と角運動量という量に行き着き、角運動量の保存則に導かれる。惑星の運動の経験法則(ケプラーの法則)、運動の基本法則と第2回のボール回し(等速円運動)で学んだ事柄を使うと、万有引力の法則を導くことが出来、ニュートンに行き着く。こうして落下の原因が判る。 【キーワード】 コマ、角運動量、角運動量保存則、惑星の運動、ケプラーの法則、万有引力、重力加速度	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
5	アインシュタインの考えたこと	アインシュタインがどのようにして相対性理論を考えたかをコンピュータグラフィックスで体験していきましょう。光の速さは、どんなにスピードが速い人がみても変わりません。この実験事実から驚くべき結果が導かれることを主にCGで見ていきます。 【キーワード】 座標系、慣性系、ガリレイ相対性、速度の合成、光速不変、ローレンツ変換、静止エネルギー、ドップラー効果、赤方偏移	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)
6	温度ってなんだろう	温度は温度計で測るものです。でもいったい温度とは物質のどういった量なのでしょうか？また金属にさわると冷たく感じます。この理由を考えると温度と分子の意外な関係も見えてきます。温度を目に見えるようになりましょう。こうしたことを通じて大気の温室効果が起こる仕組みも勉強していきましょう。 【キーワード】 熱、温度、熱平衡　理想気体、絶対温度、分子、絶対零度	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)
7	自動車の燃費はどこまで上げられるか？	日常ではほとんどのエネルギーは熱になっていきます。その意味で熱は特殊です。熱はなぜ特殊なのかをCGで理解していきましょう。自動車は熱を力学的なエネルギーに変えています。熱のエネルギーを力学的なエネルギーに変えるのに限界があることを感覚で理解できることが目標です。 【キーワード】 熱と仕事、ジュールの関係、熱機関、効率、熱力学の基本法則、エントロピー、不可逆変化、ヒートポンプ、開放系	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男(北海道大学大学院准教授)
8	波を見て場を知ろう	音でも光(電波)でも、情報伝達の主役は波である。では波とは何か、実験をしながら見てゆこう。池の真ん中に石を落とすと、円く波が広がって進むが、水面の小さな木の葉は上下に振動するだけで、波と一緒に進むことはない。媒質の場所ごとの振動が、次々に広がるのが波なのである。振動と波の基本的な性質を見て行こう。振動と波にかかわる現象の中で、安全に必要なことにも触れる。 【キーワード】 振動、波、振動数、波長、波の速度、重ねあわせ、回折、干渉、うなり、反射、屈折、ドップラー効果	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	光の正体は何か	普通に見る光は、直進し、物に影を作り、水やレンズで曲げられる。まず光のこの粒子的な局面を取り上げ、レンズやカメラの作用を考える。一方、シャボン玉や光ディスクのきれいな色模様は、前回見た干渉によるから、光は波でもある。実は光は、波長のごく短い波(電磁波)なのである。波なら、私たちは光を音と同じように感ずるのだろうか。遠い星の光まで見えるのはなぜか。この疑問は、量子の世界にかかわる。答は第14回までまとう。 【キーワード】 屈折率、レンズ、幾何光学、全反射、にじ、薄膜、偏光、回折格子、光速度、視覚	生井澤 寛 (放送大学教授)	生井澤 寛 (放送大学教授)
10	物はなぜ温度で姿を変える	物は、なぜ温度によって固体、液体、気体と姿(相)を変えるのだろう。温度は、分子の運動エネルギーの目安だったから、温度を分子の間の相互作用のポテンシャルエネルギーと比較すればよさそうである。相が違えば密度が変わり分子間の平均距離も変わることに注目して温度と相の変化を見て行こう。水の不思議な性質や、磁石、超流動・超伝導などの不思議な相についても見て行く。 【キーワード】 相、相転移、分子間相互作用、密度、対称性、相図、3重点、臨界点、水素結合、磁気相転移、超流動・超伝導	生井澤 寛 (放送大学教授)	生井澤 寛 (放送大学教授)
11	電気とは何だろう	電気の力は日常的には静電気などのように希な力です。でも本当に希な力なのでしょうか？電気の力の本当のすごさを知っていきましょう。電気には場の考え方が重要になってきます。そこで、なぜ場の考え方をするかや、電圧などの考え方も理解していきましょう。 【キーワード】 静電気、電荷、静電誘導、分極、磁力線、磁場、クーロンの法則、電気力線、電場、電位、ガウスの法則、電荷の保存	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)
12	電流はすごい	電流は電車を動かすくらい強いものです。この電流の性質を勉強していきましょう。電流の基本は意外に簡単です。電流を目で見えるように主にCGで説明していきます。また、磁石の仕組みも学習しましょう。そして、電流もまた磁石になることを見てみます。 【キーワード】 電池、電圧、電流、電気分解、電気メッキ、イオン、ファラデイ定数、電気抵抗、オームの法則、ジュール熱、アンペールの法則	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)
13	電気をどう作るか	電流が磁場を作るなら、電場も電流を作ります。この電磁誘導の法則により発電がどのようにして行われているのか見ていきます。電磁気学のすごさはそれだけではありません。電磁波を予言し、光は電磁波であることを見ていきます。その結果として光の性質が電磁気学からどのように説明されるのかもCGで見てみましょう。 【キーワード】 電磁誘導、ファラデイの法則、発電機、モーター、変圧器、自己誘導、電気回路、キルヒホッフの法則、電磁波、光、光速	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)	鈴木 久男 (北海道大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	量子ってなに	電気分解やイオンの存在から、物質を作るのは電気力らしい。ではその源の電荷は何か。その主役が電子であり、原子が電子と重い核(原子核)から出来ることがわかって、ミクロの世界が開けた。では、原子はどうやって出来るか。この謎は、古典物理では解けなかった謎(原子からのとびとびの光、低温で0となる比熱、光電効果、熱放射)と合わせて、ミクロの世界ではエネルギーがとびとび(エネルギー量子)であることで解けることを見よう。量子の世界は、電子が波のように振る舞ったり、光が粒子のように振る舞ったりする不思議な世界である。 【キーワード】 電子、原子、原子核、とびとびの光、低温比熱、光電効果,温度と色、エネルギー量子、光子、ボーアの原子模型、電子スピン、周期表、ドブロイ波、電子の波動性、不確定原理、磁性の起源	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
15	世界はなにで出来ているか	原子がなにから出来ているかは判ったが、では原子核はなにから出来るのか。この疑問を、どんどん小さな世界にぶつけて行って得た現在までの結果を示そう。逆に、目を大きい世界に向けると、太陽を初めとする恒星がなぜ燃えるか、宇宙がどうやって出来たかなど、いくらでも疑問が出る。これらに対する物理の理解も示そう。鉄より重い元素が出来たのも、爆発や衝突を繰り返す星と銀河の歴史の産物であることが判る。私たちの体にもある重い元素が、いつ、どの星で出来たのかを想像するのも物理の楽しみ方のひとつである。 【キーワード】 核子、中間子、素粒子、基本的相互作用、クォーク、レプトン、重力子、核融合、恒星、銀河、宇宙、元素の起源	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1134507	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物理の考え方（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：木村　龍治（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：大石　和欣（放送大学准教授）〕

講義概要

物理学の入門講義。物理学に馴染んでいない文系の学生にも分かる内容を意図する。日常生活の中に現れるさまざまな物理的事象を取り上げ、日常的視点と物理学的視点を対比させることによって、物理学的思考の特徴を示す。放送大学では、既に、物理学関連の科目がいくつも開講されているが、本講義は、それらの前段階として位置付けられる。

本講義の特色は、理系の講師と文系の講師とのコラボレーションである。毎回、専門の異なる２人の対話形式で、講義を進める。講義の中に、「文学の目で見た物理学」のコーナーを設け、大石講師が文学的な視点からコメントする。

講義の構成

講義は、毎回、物理の原理と直結する特定のテーマを扱う。スタジオを喫茶コーナーと実験コーナーに分け、喫茶コーナーでは対話形式で講義を進める。実験コーナーではオリジナルな実験をスタジオで行う。スタジオの外で行う実験や施設見学も行う。大石講師のコーナーでは大石講師が文学の視点からコメントする。

授業の目標

これまで、物理学を学んでいない学生、物理学が嫌いな学生、物理学は自分と無関係と思っている学生に、物理学の面白さを伝えるのが目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理学の発想法‥‥舞台の表と裏	私たちは自然に取り囲まれて生活している。自分自身も自然の産物である。複雑で常に変化する自然は、一見、捕らえどころがないように見えるが、物理学の発想法では、私たちの目に映る世界は、舞台の表で演じられている自然の姿と見る。その裏には、演出家に当たるものが存在する。その演出に従って、舞台の面で、複雑な自然現象（私たちの存在も含めて）が展開されるのである。その演出家とは何か。それを探るのが物理学である。	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）
2	バランス感覚‥‥釣り合いと安定性	私たちはごく自然に二本足で歩くが、物理の目で見ると、二足歩行は、驚異的な現象なのである。その証拠に、本田技研は、二足歩行のロボットを開発するのに、10年以上の基礎研究が必要であった。二足歩行よりもさらに驚異的なのは、鳥のバランス感覚である。スズメは、何気なく電線に留まるが、そのようなことのできるロボットはまだ開発されていない。 この講義では、いかにバランスを取るか、という問題をテーマにして、力とは何か、力の釣り合いとは何か、釣り合いの安定性とは何か、考察する。	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）	木村龍治（放送大学教授） 大石和欣（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	体重ゼロ‥‥重さと質量	無重力状態のスペースシャトルの内部にいる宇宙飛行士の体重はどのようにして測るのか。無重力状態にあるやせた飛行士と太った飛行士の身の動きは同じになるのだろうか。この問題は、重力質量と慣性質量の違いを教えてくれる。 この講義では、放送大学の8階の廊下に線路を敷いて、8階から落下するおもりの荷重で線路上を動く台車の実験を行うことにより、慣性力を理解させる。慣性を利用して無重力状態でも体重が測れることを示す。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
4	慣性航法‥‥微分と積分の考え方	慣性航法とは、目的地に到達するために飛行機が自分の位置を検出しながら飛行する方法である。船の航海術と似ているが、船の場合は、星(天測)や人工衛星(GPS)など、外部との相対関係から自分の位置を検出する。それに対して、飛行機では、外部からの情報を全く使わないで、自分の現在位置が分かる慣性航法が用いられている。それは、飛行機の加速度を測定し、加速度を積分することによって、速度や飛行距離を求める方法である。この方法の基本になるのが、微分と積分の考え方である。逆に、慣性航法を通じて、微分と積分がどのような意味をもつのか理解することができる。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
5	force‥‥力の原因を探る	この世界には、さまざまな力がある。その力によって、物体は引きつけられ、反発しあい、重力に逆らって空中を浮遊する。力の中には、筋肉による力のように、物体に接触して力を伝えるものもある。相撲はその一例である。ロケットの推進力のように、運動量の変化が力になることもある。重力、電磁気力など接触しないのに働く力もある。そのような力を遠隔力という。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
6	宇宙の秩序を支配するもの‥‥万有引力と回転	月は地球の周りを巡っている。地球は太陽のまわりを公転している。太陽系の惑星は、すべて、太陽のまわりを公転している。銀河は渦を巻いているものが多いが、星の集団が回転していることを示している。宇宙には、回転しているものが沢山あるのはなぜだろうか。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
7	永久機関‥‥エネルギーと仕事	燃料を全く使わないで無尽蔵に発電ができるような発電機があれば、大変便利である。現在はそのようなものはできないことがわかっているが、エネルギー保存則が発見される以前には、多くの人が永久機関の夢に取り付かれて無駄な努力をした時代があった。エネルギーとは、一見、人工的な概念であるが、あらゆる自然現象にエネルギー保存の性質が見られるのは不思議な感じがする。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	熱と温度‥‥ミクロがもたらすマクロな性質	私たちは、寒い暑いを感覚的に感じることができる。その感覚を数値で表すのが温度計であるが、温度とは何かと質問されれば、直感的には、よくわからないだろう。温度と熱の関係も分かりにくい。この問題は物理学の中でもかなり難しく、熱と温度の本質が理解されたのは19世紀になってからである。私たちが日常生活で当たり前と思っている熱と温度の本質について考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
9	流体の世界‥‥その法則を探る	水、空気など、流れるものを総称して流体という。流体は私たちの体内を循環する一方で、川の流れ、風なども流体の運動である。コップの水も流体、風呂の湯も流体である。このように考えると、この世界は、流体に満ちている。一見、つかみ所のない流体は、物理の目で見ると、どのような実体なのか。物理学は流体をどのように捕らえるのか。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
10	波動を記述する言葉‥‥三角関数	タガメという水性昆虫のオスは、水面を独特のリズムでたたいて、遠くのメスに自分の存在を知らせるという。水面をたたくと、波が発生して、波紋を描いて、遠くに伝播していく性質を利用しているのである。水面の波は、水の上下振動が遠くに伝播する現象である。振動が伝播する現象は水面だけに限らない。音も光も波動なのである。そこには共通の性質がある。物理学は、自然界に存在するさまざまな波動を、波の振動数、波長、位相速度などの概念を使って、きわめて統一的に記述する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
11	波の基礎理論‥‥すべての波に共通する性質	一見、関係がない音波と地震波は、物理の目でみるとかなり似ている。音波は、気体、液体、固体内部を自由に伝わる波であり、地震波は、地震がきっかけで、地面の中に発生する音波のようなものである。動物の多くは、音声をコミュニケーションに用いるように進化した。人間の場合は、それが複雑な言語になり、文字によって記録することもできるようになった。音楽は人生の楽しみでもある。一方、地震波は、大きな災害をもたらすと同時に、その伝播の性質を調べることにより、地球の内部構造が見えるようになった。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
12	音‥‥情報を伝える波	暗闇の中に置いたリンゴはリンゴの形をしているが、赤くない。バナナはバナナの形をしているが、黄色ではない。色は、形と同じような物体の属性に見えて、実は、違うものである。色は、私たちの視覚が作り出した感覚である。色の情報源になっている光とは何だろうか。光の中には、紫外線や赤外線など、私たちの視覚に捕らえられない光もある。光を物理の目で見ると、見えない光も見えるようになる。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	光‥‥暗闇のリンゴの色は何色か	この世界は物質から出来ている。もしも物質がなければ、地球もないし、私たちもいない。地球上には、無数の種類の物質があるように見えて、その素材を調べると約 100 種類の原子の組み合わせであることが知られている。原子とは何か。なぜ、100 種類なのか。素材の問題を考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
14	電子と電気‥‥現代社会の裏方	電気と磁気は、電場、磁場という力の広がりをもった現象である。その振動によって電磁波が発生し、その振動数によって、電波になったり、光になったりする。目に見えないので、直感的には分かりにくい現象であるが、発電機が発明されていなければ、夜がこれほど明るい生活はできないであろう。また、ＩＴ機器に囲まれた便利な生活を支えているのも電磁気である。その原理について考察する。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)
15	自然の階層性‥‥自然観の構築	自分とは何か客観的に認識するためには、自分を宇宙の中に位置付けることが必要である。そのためには、自然観をもつ必要がある。宗教の多くは私たちの経験を越えた世界を描くが、物理学にも似た側面がある。物理学の描き出す自然観を想像してみよう。	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)	木村龍治(放送大学教授) 大石和欣(放送大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130609	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの化学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：荻野　博　（放送大学副学長）　〕
〔主任講師（現職名）：大野　公一　（東北大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：吉良　満夫　（東北大学名誉教授）　〕

講義概要

化学の理解に必要な基礎知識を全15回にわたって講義する。この講義では物質の成り立ちとふるまいを解説し、それらを通じて化学そのものを学ぶとともに化学的なものの見方・考え方を学習する。講義には演示実験（デモンストレーション）や化学工場の現場ロケなども取り入れ、楽しく学習が進められるような配慮がなされている。

授業の目標

この講義は化学を全く学習したことのない人や、少し学んだことはあるが改めて学習し直し知識を確実なものにしたい人などが主な対象である。したがって、特に化学の予備知識なしに学習を始めても基本的な知識と考え方が身につくようにすることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の世界	自然科学の中で化学は自然界のさまざまな物質に対する見方・考え方にもっとも大きな責任をもっている学問であるといえる。物質の成り立ちとふるまいを理解し、利用するための化学の方法論・基礎的概念を学ぶ。 【キーワード】 純物質、単体、化合物、元素、原子、分子、原子量、分子量、物質量	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一
2	物質とは？ ～原子の構造と性質～	元素の周期律が原子核の周りに存在する電子の配置に関係することを学ぶ。また、原子番号順に元素を並べたとき、周期的な性質の変化が見られる例として電子親和力、イオン化エネルギーをとり上げる。 【キーワード】 周期律、電子配置、電子親和力、イオン化エネルギー	荻野　博	荻野　博 大野　公一
3	物質とは？ ～原子の結びつき～	原子やイオンどうしが結びついて結合ができる仕組みを学ぶ。また、イオンからなる物質や金属の構造、化学組成を示す組成式と式量の使い方などを学習する。 【キーワード】 共有結合、電子式、原子価、イオン結合、金属結合、結晶格子、組成式と式量	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
4	物質の状態 ～固体、液体、気体～	物質には固体、液体、気体の三態があることを密度や粒子の運動と結び付けて学ぶ。気体の諸法則を学び、理想気体と実在気体の違い、分子間力と融点・沸点との関係、蒸気圧と沸点の関係について理解する。 【キーワード】 物質の三態、気体の法則、状態方程式、理想気体、分子間力、水素結合、蒸気圧曲線	大野　公一	大野　公一 荻野　博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	溶液とその性質	液体（溶媒）に他の物質（溶質）が溶け込んでできる溶液の基本的性質について学ぶ。また、溶液と関連して、コロイドの種類と性質について学ぶ。 【キーワード】 溶液、濃度、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、コロイド	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
6	化学反応と熱の出入り	熱エネルギーの授受と温度の関係を学習し、化学反応にともなって出入りするエネルギー（反応熱）に関連し、熱化学方程式とヘスの法則について学ぶ。 【キーワード】 比熱、反応熱、熱化学方程式、ヘスの法則	大野　公一	大野　公一 荻野　博
7	酸性・アルカリ性	酸と塩基との反応は化学の基本反応の一つである。酸・塩基と関連する酸性とアルカリ性（塩基性）あるいはpHについて学び、酸と塩基との反応である中和反応や反応の結果として生成する塩の性質について学ぶ。 【キーワード】 酸性、アルカリ性（塩基性）、水素イオン濃度、中和反応、塩	荻野　博	荻野　博 大野　公一
8	燃焼・さび・電池 ～酸化還元～	酸化還元反応も酸・塩基の反応と並んで重要な化学の基本反応である。酸化還元は物質の燃焼、金属の溶解やさびの発生、電池の中の反応などわれわれの生活と密接に関係する現象である。酸化還元反応が電子の授受によって理解できることを学ぶ。 【キーワード】 電気陰性度、酸化数、酸化剤と還元剤、イオン化列、電池、電気分解	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
9	化学反応の速さと平衡	化学反応の速さが、触媒、濃度、温度、圧力によって変わることを学ぶ。また、逆向きの反応が同時に起こる場合について、化学平衡の法則と平衡の移動を学ぶ。 【キーワード】 反応速度、活性化エネルギー、触媒、化学平衡の法則、平衡定数、ルシャトリエの原理	大野　公一	大野　公一 吉良　満夫
10	金属元素の単体と化合物	周期表上の元素の約80%が金属元素である。金属元素は典型金属元素と遷移金属元素に大別することができる。これら金属元素の単体（金属）と化合物の性質や用途について学ぶ。 【キーワード】 典型金属、アルカリ金属、アルカリ土類金属、遷移金属、錯体	荻野　博	荻野　博 吉良　満夫
11	非金属元素の単体と化合物	非金属元素は水素を除いて周期表の右側上方にある元素で、それ以外の元素はすべて金属元素である。ここでは非金属元素の単体と化合物の性質を学び、それぞれの元素のもつ個性を知る。 【キーワード】 水素、炭素とケイ素族、窒素とリン、酸素と硫黄、ハロゲン、希ガス	荻野　博	荻野　博 大野　公一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	有機化合物とその構造 －炭化水素－	炭素は様々な元素と共有結合を作るので、炭素を中心元素とする化合物（有機化合物）の数は驚くほど多い。有機化合物を考える上で基礎となる炭化水素分子の結合の様式、立体構造、運動、基本的な反応について学ぶ。 【キーワード】 アルカン、アルケン、アルキン、正四面体構造、分子模型、コンホメーション	吉良　満夫	吉良　満夫 大野　公一
13	さまざまな有機化合物	アルコール、エーテル、ケトン、カルボン酸、アミンなどのように、炭化水素の水素を窒素、酸素、ハロゲンなどの原子やグループで置換した有機化合物の性質について学ぶ。 【キーワード】 官能基、極性、溶解度、不斉、極性反応、油脂、アミノ酸、天然物、有機金属化合物	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
14	ベンゼンとそのなかま	ベンゼンやポリアセチレンのように分子内を広く動きまわる電子（π電子）をもつ一群の有機化合物がある。これらの性質と反応の特徴を理解し、電気を通す有機化合物がどのようにして生まれたかを学ぶ。 【キーワード】 非局在化、芳香族性、フラーレン、カーボンナノチューブ、ポリアセチレン、有機伝導体	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博
15	現代の化学とこれから	高分子化学の基礎を学び、私たちの日常生活を支える合成繊維、プラスチックなどの化学工業製品はどのようにしてつくられるのか、化学の知識がどのように応用されているのかを理解する。さらに、持続可能な社会をつくるためのこれからの化学の役割を考える。 【キーワード】 高分子化学、タンパク質、ナイロン、ポリエチレン、環境問題	吉良　満夫	吉良　満夫 荻野　博 大野　公一

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1132407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　科学的な見方・考え方（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

私たちの生きる環境はますます複雑になり、さまざまな情報が溢れている。意図的に本質を覆い隠すような宣伝もある。何が正しく何が根拠のないものであるかの判断が極めて重要になっている。科学的な見方・考え方が、そのような判断をする場合の有益な指針になると考える。特に自然科学で鍛えられ、経済現象や社会現象にも適用できる強固で確かな見方・考え方を身につけることが重要と考える。この講義では、自然科学での考え方を中心にしつつ、それ以外の分野でも重要と思われる事柄を、なるべく例を挙げながら考えていくこととする。

授業の目標

科学的・論理的な見方や考え方を実例に即して紹介し、日常生活にも役立つような見方・考え方を身につけることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	科学とは何か	科学的だから絶対正しいとか、科学ですべてがわかるわけではないとかいう議論がある。科学とはどのようなものか、またその守備範囲はどの程度かをはっきりさせておく必要がある。また科学の成り立ちや科学の現状を知っておくことも重要である。	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授）
2	科学的方法	日常生活で起こるさまざまな事柄や自然現象に規則性や法則性を見出して、なぜそのようになるのかを説明し、将来はどうなるのかを予測することが科学の役割の１つである。その場合に、どのような方法論があるかを紹介する。そして、それぞれの長所と短所を理解しておくことが大切である。	同上	同上
3	情報の分類	多くの現象では複数の要因が絡んでおり、それらの要因の質を見分けて分析することが重要である。日常生活においても、議論の前提あるいは対象を明確に区別しないで、物事を論じたり批判したりすることが意思不疎通の原因にもなっている。これらについて考えて見よう。	同上	同上
4	領域の拡大	私達の認識や言葉は五感を通じた情報をもとに形成されてきた。しかし、自然や現代社会の現象の範囲はそれ以上の広がりを持っている。見えないものを見えるようにするはどのような方法があるか、また独断や誤謬に陥ることを避けるにはどのような工夫があるのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	原因と結果	複数の現象の間に関連があるかどうかを判定する必要が生じることがある。特に原因と結果の関係を導くときに注意しなければならない。環境問題のように複雑に絡み合った問題には、これらの混同あるいは検証なしの議論に陥りやすいように思われる。また、たくさんの要素は単純に集合し、勝手に運動しているのではなく、さまざまな原因で影響しあっていることにも注意する必要がある。	同上	同上
6	分析と統合	物事の成り立ちや働きを解析する場合、要素に分けてその性質を調べ、それらの結果を総合して判断するという「要素から総合へ」という科学の伝統的な方法がある。一方で、全体の性質あるいは目的を把握し、それはどのような成分が関わりあった結果であるかを分析する方法もある。これらのアプローチの仕方の違いについて考える。	同上	同上
7	真実とは何か	私達が見聞きし、そこから得た生の結果は事実であったとしても、必ずしも求める真実そのものとは限らない。測定にはさまざまな誤差が絡んでいる。また、求める真実の姿は予め明確になっているわけではない。真実に近づく方法について学ぶ。一方、そもそも真実とは何かについても、理科系的事柄と文科系的事柄では異なる場合があるので、それらについても考える。	同上	同上
8	モデル化	調査によってデータが得られたら、それらを説明するモデルを構築する。そのモデルが妥当なものかどうかは実際の現象によって判定される。一方、モデルに含まれるパラメーターをどの範囲まで拡張して良いのか、すなわち、モデルの適用範囲も検討する必要がある。モデルとは何かについても考えてみる。	同上	同上
9	抽象化と概念化	個別の現象は事実ではあっても、それらを無限に数え上げられるものではないし、物事を理解したことにはならない。本質的な部分を法則として確立しておき、具体的な説明や予測は、それに必要な条件を入れて実行できるはずである。抽象化あるいは概念化によって、個別の数え上げでは到達しえない地平に理解を拡張することができる。	同上	同上
10	要素とシステム	現実世界は多数の要素から成り立っている。それらは単なる集合ではなく、さまざまな要素とその集合が階層的に積み重なり、連動している。各階層では、独自の論理・法則が形成される。個人から社会への発展はその典型的である。これらの階層性が生じるメカニズムおよびシステムの特徴について考えたい。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	普遍性と多様性	少ない法則でたくさんの事柄が説明できれば、それだけ有効な説明手段を持ったことになる。一方、このような普遍性では汲みつくせぬ豊かで多様な世界もある。これは科学の部門による違いも反映しているが、現実のどの側面を見るかによっても異なってくる。	同上	同上
12	巨視的見方と微視的見方	巨視的見方と微視的見方はどの分野にも必要な観点である。自然現象のみならず、例えば、経済現象、社会生活といった場合でも、国、地域、家族や個人で問題の質が変わってくる。これらをどのように整理するか、分析するかで答えの出し方も異なってくるであろう。	同上	同上
13	科学と教育	科学は自然・社会現象を観察（実験・調査）して、データを分析し、法則を導き出す行為である。その結果は自然言語と数理論理で述べられる。したがって、科学の理解には自然言語論理および数理論理をどの程度駆使できるかが重要である。特に教育段階では、その影響は大きい。このような問題について、教育、言語などの立場からも検討する。	同上	同上
14	科学の使命	技術や科学の社会に対する影響に関して、否定的な意見もある。それは科学・技術がわれわれの日常生活に大きな影響を及ぼしていることの現われでもある。技術の進歩と社会が調和していないこと、環境問題など負の影響が出ていることによると思われる。科学の役割について考える。	同上	同上
15	役に立つ見方・考え方	科学的な見方や考え方は科学のための理論あるは解釈に留まるものではない。日常生活のあらゆる場面で用いることのできる優れたものである。どのように用いたら良いのか、実例を挙げて考えてみたい。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1133900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　エネルギー学の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：吉岡　一男（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：林　　敏彦（放送大学教授）　〕

講義概要

エネルギー資源や省エネルギーあるいは地球温暖化等、エネルギーに関わる問題は現在いろいろな方面で取り上げられており、その対策が論じられている。エネルギー問題は誰にとっても避けることのできない問題といえよう。本科目ではこの問題を考える際に不可欠な、エネルギーに関わる現象の科学的な基礎知識を与える。そして、その知識が現実の問題を考えるのに際してどのように適用されるのかを、産業、技術、社会、経済、日常生活のいくつかの場面での問題で示し、合わせてこれらの問題の理解を深める。講義はどの専攻の学生にも理解できるように、初歩的な事柄から話を進める。

授業の目標

エネルギーとその保存法則やエントロピーとその増大の法則あるいは熱平衡・非熱的平衡等の熱力学・統計力学の基礎的な概念や法則の本質を理解する。そして、これらの法則をもとに実際のエネルギー問題を考えるに際して、概念や法則を正しく適用し、ある程度の定量的な見積もりができるようにし、また、正しい適用と定量的な見積もりが重要であることを理解させる。物理化学的および数学的予備知識は、必要に応じて解説し、これらの知識に疎い学生も、エネルギーに関わる科学的知識の骨格を身に付けて、正しく応用できるようになることを目ざす。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	エネルギーとは何か？	「エネルギー」という用語がわれわれの生活でよく使われる。いろいろな場面における「エネルギー」の使われ方を吟味し、この用語の科学的な意味を辿る。そして、エネルギーの変換とエネルギーの保存則の理解が重要であることを示す。	林　敏彦（放送大学教授） 吉岡一男（放送大学准教授）	林　敏彦（放送大学教授） 吉岡一男（放送大学准教授）
2	熱や温度や仕事とは何か？	「熱」や「温度」や「仕事」という用語も日常生活でよく使われるが、これらの概念も必ずしも正しく理解されてはいない。いろいろな場面における使われ方を吟味し、「熱」や「仕事」がエネルギーの一形態であることについての科学的な理解を与える。さらに「温度」は、時間的に変化せずいつまでも保たれている状態（熱平衡状態）で成り立つ概念であることを述べる。	吉岡一男（放送大学准教授）	吉岡一男（放送大学准教授）
3	ミクロの世界から見た熱現象	これまではエネルギーに関わる現象を日常生活の尺度からのマクロな眼で考えてきた。これを原子・分子の尺度からのミクロな眼で眺めると、これらの現象の本質が理解できる。ここでは、ミクロの立場から解説する。	吉岡一男（放送大学准教授）	吉岡一男（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	元に戻れる変化と戻れない変化	状態のいろいろな変化には、元の状態に戻ることが可能な変化と元の状態に戻ることの不可能な変化とがある。後者の変化には熱が関わっていることを学び、この変化を定める基礎的な自然法則も学ぶ。さらに、この法則が熱機関の効率の上限値を決めていることを解説する。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
5	変化の方向を示すエントロピー	どの変化が元に戻ることが可能かあるいは不可能かの指針を与える量が「エントロピー」である。「エントロピー」という用語は日常生活にでもしばしば使われるが、ここでは、エントロピーの性質とその意味をミクロな立場からの理解も含めて学ぶ。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授) ゲスト: 杉本大一郎(放送大学名誉教授)
6	変化のない状態で使われる物理量	熱平衡状態で成り立つ物理量は、温度の他にもいろいろある。ここでは熱平衡状態で成り立つ代表的な概念やそれらの物理量の間の関係を表す代表的な法則についてまとめる。さらにこれらの法則が、熱平衡状態を調べるのにどのように用いられているかについても述べる。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
7	変化している状態とその法則	ここでは変化しつつあって熱平衡状態にない状態(非平衡状態)における現象を科学的に扱うために、どのような法則や概念が用いられているかを概観する。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授)
8	異なる状態が共存するメカニズム	現実の世界では、異なる温度や密度等の物理量の熱平衡状態が共存している場合が多い。宇宙から日常生活に至るいろいろなスケールでの例を挙げて、このような状態が保たれるメカニズを考える。この知識は、地球温暖化問題を考える上でも重要である。	吉岡一男(放送大学准教授)	吉岡一男(放送大学准教授) ゲスト: 杉本大一郎(放送大学名誉教授)
9	エネルギーと生活文化	前章までに学んだ科学的知識をもとに、以後の章ではわれわれの生活から社会全体に至るエネルギーに関わる問題を考える。電化製品や交通機関あるいは発電等では、ある形態のエネルギーが他の形態に変換されている。エネルギーはどのような生活を支えているのだろうか?	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト: 豊田尚吾(大阪ガス㈱エネルギー・文化研究所主席研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	エネルギーと食生活	われわれがものを食べる大きな理由は、生きていくために必要なエネルギーを得るためと見ることができる。ここでは食生活に焦点を当てて、いろいろな食料の生産から摂取や消化そして廃棄に至るエネルギーの流れから食料確保の問題等、「食」に関わる問題をエネルギーの観点から眺めてみる。	中谷延二(放送大学教授)	中谷延二(放送大学教授)
11	いろいろなエネルギー資源とその特徴	われわれが用いているエネルギー資源には、化石燃料、核燃料から水力、風力、太陽光等いろいろのものがある。ここでは、それらの代表的なものを取り上げて、その総量や利用効率あるいは廃棄物等の面での特徴を挙げて、その将来性を考える。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト予定: 西村陽(大阪大学大学院客員教授)
12	原子力エネルギーの展望	関西電力や九州電力では、既に、発電量の44～45%を原子力に依存している。原子力発電は二酸化炭素排出量が少ないという利点も持っている。他方、原子力発電に対する社会的受容には大きな問題もある。原子力エネルギーの制御方法と社会的利用のあり方について考えよう。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授) ゲスト: 浜口智志(大阪大学教授)
13	エネルギーの需要と供給	経済活動におけるエネルギーの役割、一次エネルギー源への国際的な需要と供給。エネルギー価格の長期的な推移。生活、生産、輸送、産業構造における省エネの意味やエネルギーリサイクル等についても考えてみる。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)
14	エネルギーと国際政治	中進国の工業化、先進国の生活水準の向上などの要因によって、エネルギー需要は拡大を続けると予想されるが、資源の存在地域と資源の需要地域とは地理的に隔たっている。そのためエネルギー資源をめぐっては国際紛争が起こりやすい。どうすればよいだろうか。	高橋和夫(放送大学准教授)	高橋和夫(放送大学准教授)
15	将来のエネルギー問題の展望	ここでは、これまで学んだことの整理と応用を兼ねて、近い将来起こることが予想されているエネルギー問題とその対策を中心に、遠い未来の予測も含めて考える。	林敏彦(放送大学教授) 吉岡一男(放送大学准教授)	林敏彦(放送大学教授) 吉岡一男(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1135309	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　物質循環と人間活動（‘０７）＝（TV）

〔主 任 講 師（現職名）：東　　千秋（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：鈴木　基之（放送大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

講義概要

生物の活動は、地球の陸水、海洋、大気そして土壌における物質循環に大きく依存している。一方、生物の活動、特に人間の活動もまた自然環境や物質循環に大きな影響を与えている。時間と空間をスケールとする物質循環をこの地球を舞台に生命との関係とりわけ人間活動との関係について、地球の誕生から現代に至るまで歴史的に把握し、さらにその将来をも展望する。この科目は、人間活動がもたらす環境問題を直接扱うものではないが、これからも生命活動が持続できるために人間は何を目指せばよいのか、その考え方の材料を提供する。

授業の目標

このテーマは、高等学校では地球と生態系における物質循環の内容で学習されている。このことを入り口として放送大学でのこの分野の学習テーマに結びつくようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物質循環と人間活動の視点	物質循環と人間活動について、この科目の視点は何か、そしてこの科目の全体像は何かを示す。	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　千秋	鈴木　基之 濱田　嘉昭 東　千秋
2	地球の成り立ち	生物の体をつくり、働きを決めているものは地球の物質である。どのような物質を利用できるかは、その構造と物質分布、すなわち地球の成り立ちに依存する。地球が微惑星の衝突によってできたことを説明し、物質の基本である元素がどのように生成し、分布したのかを学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：杉浦　直治（東大宇宙惑星講座教授）
3	生きている地球	火山や地震は地球が活発に運動していることの直接的な証拠である。地球内部の構造と運動について紹介し、その結果、どのような物質の移動や循環が起こるのかについて学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：井上　徹（愛媛大地球深部ダイナミックスセンター准教授）
4	大気と海洋	大気の構造と運動、海洋の流れと物質運搬能力について紹介する。水を媒介として海洋と大気および大地の間に生じる物質循環について学ぶ。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演：池田　元美（北大地球環境科学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	生命の誕生	地球上の生物がどのような物質を前提にして発生したのかに関する最近の学説を紹介する。生命活動と物質環境・物質循環との関わりを考察する。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト出演： 小林　憲正 (横浜国大工学部教授)
6	生態系の成り立ち	生物社会における植物、動物の関係と役割、生物の絶滅の歴史を例に生態環境の変遷と生物社会の多様性の意味を知る。また、約500万～700万年前といわれる人類誕生当時の生物社会の様相を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 濱田　隆士 (東京大学名誉教授)
7	土と生物	生物による大きな物質循環として土と生物が係わる炭素や窒素などの物質循環を知り、さらに土がどのようにつくられていったのか、また森と海洋生物の関係について知る。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 波多野隆介 (北海道大学大学院農学研究科教授)
8	農業の起こり	人類が自然の一部として進化し、約1万年前に何故に定着して農業を始めることになったのか。農業の特徴を生態系の視点で耕地生態系として自然生態系との比較で学ぶ。農業の多様性と農業の問題点を生態系の視点で物質循環とエネルギーの流れから考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
9	農業の発展	物質循環とエネルギーの流れから農業という人間活動をどのようにしていけばよいのか、ということについて考えていく。そこで耕地生態系における作物の栽培の問題を、物質循環とエネルギーの流れという視点で、エネルギーの流れ、炭素の循環、窒素の循環、リンの循環、水の循環から考える。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授)
10	農業と環境	農業の進展とともに、人口の増大を抱え、食料増産の必要性に端を発する近代工業的農業、化学肥料、農薬などの利用による農業がどのように物質循環を規定しているのかを知り、さらに農業は自然環境にどのような影響を与えているのか、農業で人間を支えることが可能なキャパシティーはどうなのか、農業と環境の関係を考え、農業の将来像を展望する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演： 森田　茂紀 (東大農学部教授) および 稲永　忍 (国際農業水産研究センター理事長)
11	産業革命と工業化社会	産業革命の起こりとそれ以降の工業の発展の歴史から物質循環における産業革命と工業化社会の影響を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演： 道家　達将 (東京工業大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	現代産業活動と資源循環	20世紀後半から現代までの産業活動における資源循環について、水産資源などの生物資源、石油に依存する工業活動と資源循環、採掘資源と活用物質の関係を知り、資源の有限性と再生可能性を考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：原田　幸明（独立行政法人物質・材料研究機構材料ラボ ラボ長）
13	都市と物質循環	都市の形成と都市への人口集中、都市の物質循環とエネルギーの消費から都市と物質循環について廃棄される物質とその循環を中心に考える。	鈴木　基之	鈴木　基之
14	都市と水	現在の都市の活動における水の循環を産業活動、人間生活、都市周辺の生態系維持など多様な水の働きの観点から把握し、水道と下水道などの役割を含めて水の総合的な姿について考える。特に都市の発展との関連も重視する。	鈴木　基之	鈴木　基之 ゲスト出演：渡辺　義公（北海道大学教授）
15	持続可能な社会を目指して	この科目の総括として、持続可能性のためにこれから人間は何を目指せばよいのか、人間活動の抑制は可能か、そしてそのためのパラダイムシフトは何かを考える。	東　千秋	東　千秋 ゲスト出演：丹保　憲仁（放送大学前学長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1130803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 初歩からの数学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡本　和夫（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：長岡　亮介（放送大学客員教授）〕

講義概要

数学は、体系性を重んじる科学諸分野の中でも、際立って論理性を重視する学問である。そのために、論理的に積み上げていくという過程の1ステップを踏みはずしただけで、その後の展開がまったく理解できなくなってしまう、という側面があり（実はこれが全面的に正しいわけでは決してないのだが）、そのために数学を不得手と思い，その後の学習を諦める多くの人々を作ってきた。

さらに近年は、中等教育における数学の学習が「大学入試のために」を口実に，数学的には意味の乏しい些末な基本問題とその解法の技巧の機械的な暗記に傾く流れが全国的に定着してきたせいであろうが、大学において数学の基礎知識を必要とする分野を専攻する学生の中にも、その基礎となる数学の基本的な知識が十分しっかりしているとは言えない人が増えてきた。

本講義は、工学系、社会科学系をはじめ、数学的な知識と技術を必須とする専門分野を目指す人々、言い換えれば数学のユーザである人々に、微積分や線型代数の基本を、グラフィクスをはじめコンピュータの先進的機能を利用したり，知的で親しみやすい対話，鼎談を講義の基本スタイルとして採用することで分かりやすく、かつ、数学的に見通し良く解説するものである。

「三角関数、対数関数で躓いてしまったが、それまでは数学はそこそこであった」、「もう少し高校で頑張っておけば良かった」、そう思っている人々が講義で想定する学生である。

授業の目標

文部科学省「学習指導要領」に厳密に従うという意味ではないが、受講生には、高校1年生程度までの数学の知識（たとえば，1次，2次方程式，不等式の解法，1次，2次関数のグラフ，ピュタゴラスの定理（三平方の定理）などの初等幾何の基本的事実）を仮定し，他方，高校2年生以上の数学の知識に関しては．「多少記憶がある」という程度であってもしっかりと学習に取り組むことで十分理解できるように基本から解説する．

高校数学の範囲にある数学の基礎知識を，大学で役に立つレベルの確実なものとするのが目標である．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ベクトルと1次変換（1）	高校では「ベクトル」も「1次変換」も教科書にある単元であるが、両者を統合的に扱うことの意味はほとんど扱われてこなかったと言えよう．ここでは、ベクトルの考え，あるいは線型性の概念と方法が数学において如何に重要なものであるか述べる．	岡本　和夫（東京大学大学院教授） 長岡　亮介（放送大学客員教授）	岡本　和夫（東京大学大学院教授） 長岡　亮介（放送大学客員教授）
2	ベクトルと1次変換（2）	前回を受けて，やや発展的な話題を紹介する。コンピュータグラフィクスなどで必須の線型変換など、具体的な応用例を含めて紹介する．	長岡　亮介（放送大学客員教授）	長岡　亮介（放送大学客員教授）
3	多変数関数入門	高等学校では潜在的にしか扱われていない多変数関数を，2変数の場合に限定して，1変数関数と扱いの似ている部分、異っている部分を際立たせるように解説する．	同　上	同　上
4	三角比	三角関数の概念を確実に理解するために，測量の基礎となっている三角法の基礎を講ずる．	岡本　和夫（東京大学大学院教授）	岡本　和夫（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	三角関数	三角関数のグラフ，三角関数の間の諸関係を，公式暗記ではなく，理解することを目指す.	岡本 和夫(東京大学大学院教授)	岡本 和夫(東京大学大学院教授)
6	加法定理とその応用	三角関数の加法定理とそれに関係する諸公式を，それぞれの持つ数学的な意味が理解できるように解説する.	同 上	同 上
7	有限から無限へ	極限について解説し、微分法の学習への橋渡しとする. 関数の和に関する不思議な世界を紹介する.	同 上	同 上
8	微分法の基礎(1)	微分の基礎概念(微分係数、導関数、接線、増減、凹凸)を見通し良くまとめる. 積，商の微分公式と合成関数，逆関数の微分公式をもとに，有理関数，代数関数までの微分計算が出来るようにする.	同 上	同 上
9	微分法の基礎(2)	三角関数初等超越関数の微分法を講ずる.	長岡 亮介(放送大学客員教授)	長岡 亮介(放送大学客員教授)
10	微分法の基礎(3)	指数・対数関数をその定義から出発して、これらについて，微分法からのアプリーチを理解する.	同 上	同 上
11	積分法の基礎(1)	原始関数、不定積分、定積分、など積分のついての基本概念を講ずる.	長岡 亮介(放送大学客員教授)	長岡 亮介(放送大学客員教授)
12	積分法の基礎(2)	置換積分、部分積分など計算の発展的な基本技法を学ぶ.	同 上	同 上
13	積分法の基礎(3)	積分法の本来の意味である区分求積法的なアプローチを紹介する. 様々な図形の面積、体積、長さなどを求めるための基本的な考え方を理解する.	同 上	同 上
14	微分方程式入門	現象を数学的に記述するためのもっとも基本となる方法を初歩から講ずる	岡本 和夫(東京大学大学院教授)	岡本 和夫(東京大学大学院教授)
15	曲線とその表現	高校では、関数のグラフと曲線について体系的に扱っているとは必ずしも言えない. 曲線という幾何学的対象に対して、数学的に可能な様々なアプローチを紹介する.	同 上	同 上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1135503	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 数学再入門（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 長岡 亮介（放送大学教授）〕

講義概要

小学校の中学年以下では算数は体育と並んで人気科目であるという。それが中学、高校へと進むに連れて「苦手」や「嫌い」な人が増えてくるという。確かに「数学はいったん分からなくなるとその先が続かない」という科目である。その内容が理解できない抽象的な議論の《理解という名の暗記》を‘勉めて強い’られたなら確かに数学の学習は苦痛でしかないだろう。「一体数学は何に役立つのか？」という問はしばしばこのような苦痛体験と重なっている。

数学が分からなくなるには、いろいろな理由がある。その中で特に深刻なのは、現代の学校における数学教育が、数学的な概念、理論、方法の意味のより深い理解というよりは、些末な数学的計算や問題解法の技巧の知識の伝達に傾かざるを得ないことである。確かに、外国語を習得するのと同じように、数学にも退屈な反復練習が必要であるが、肝腎なことは、数学の理論を広い視野から展望して意味を理解することである。そういう理解があってはじめて数学は美しさも有用性も分かってくる。

たまたま、理解の体験の機会に恵まれなかったために、本来であれば高等数学の世界を探訪できたはずの人々、数理的な知性や発想を仕事で活用できたはずの人々が、その可能性を高等学校くらいで自ら断ってしまっているとすればまことに残念なことではないだろうか。

本講義は、最初はわかっていたはずの中学数学、急に分からなくなった高校数学の内容を、大学の立場から俯瞰的に見直すことを通じて、個々の数学の主題のエッセンスの理解と数学的思考法の面白さと楽しさと威力の再発見を目指すものである．放送授業では、数学の技術的な修練には力点をおかず、数学的な思想と方法の豊かさを具体的な素材を利用して分かりやすく伝え、他方、印刷教材には難易の異なるレベルの演習問題を用意し、これに対して付属 DVD-ROM による映像解説をつけて多様な学力の学生諸君の多様なニーズに弾力的に応えることを目指している（一般的な DVD プレーヤーでは見ることができません。DVD-ROM ドライブを搭載したパソコンが必要です）。

授業の目標

本講義の目標は、様々な分野で活躍する放送大学の学生諸君が、数学の必要性を感じつつも「敷居の高さ」のために大学の数学の学習に逡巡している状況を考慮し、中学高校で学んだ数学を高い立場から見通し良く整理することによってより本格的な数学の勉強に向かう基礎知識と勇気をつけてもらうのが本講義の最終目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	式とはなにか	数学が苦手な人は「数式が分からない」という人が多い。数式は、人工的な記号を使った数学の言語であるから、その意味がしっくりと分からないと単なる「抽象的で意味不明の記号」に映ってしまう。数を表す文字（未知数の考え方）、演算を表す記号（代数的記号法）の意味を考え直す。	長岡 亮介（放送大学教授）	長岡 亮介（放送大学教授）
2	数とはなにか	数学における基本対象は数である。しかし数と数を表現する記号(もっとも簡単なものは数字)の区別も曖昧な人も多い。ここでは数と数記号の基本を学ぶ。0.999999……=1 や正の数、負の数の積のような初等的な話題から超越数の話題まで、数についての興味深い話題を追い掛ける。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	方程式・不等式とは何か	方程式、不等式は、中学、高校では、その解法の習得に重点がおかれ包括的に意味を考える機会は滅多にない。ここでは、方程式、不等式の話題を現代の集合論の立ち場を踏まえて概観する。	同上	同上
4	関数とはなにか	関数は、変化を記述するための数学の必須の道具である。しかし、関数の捉え方は多様である。様々な関数へのアプローチを通じて、関数の概念を内容豊かに理解してもらうことを目指す。	同上	同上
5	指数・対数とはなにか	指数、対数は、自然や社会の現象にもっとも頻繁に登場する関数である。しかし、技術的な詳細に埋もれがちで、その理論的意味を正しく捉えることに失敗することが多い。ここでは、指数関数、対数関数の数学的な意味を講ずる。	同上	同上
6	三角関数とはなにか	「サイン、コサインから数学が苦手になった」という人は少なくない。指数関数、対数関数と並んで、三角関数は確かに特有の難しさをもつ。他方、応用面でのその重要性において三角関数は抜きん出ている。自然科学の諸領域で三角関数なしに記述できるものは存在しないといっても過言でないであろう。ここでは、「加法定理」をはじめとする三角関数の基本の理解を目指す。	同上	同上
7	解析幾何とはなにか	図形は数と並んで数学のもっとも基本的な対象である。しかし図形へのアプローチは多様である。ここでは、初等的な幾何の話題に対し、古典的な総合幾何のアプローチと近代的な解析幾何のアプローチを取り上げ、それぞれの特質を比較しながら、両者の基本的な理解を目指す。	同上	同上
8	ベクトルとはなにか	物理学をはじめ、自然系諸科学で必須のベクトルの概念を高等数学の立ち場を踏まえて紹介する。「大きさと向きをもった量」といった学校数学的な理解を深化させて大学で学ぶ線型代数を展望する。	同上	同上
9	場合の数とはなにか	ものごとを判断するにあたって、すべての可能性を列挙することは、しばしばもっとも重要な議論の出発点である。「すべての可能性を列挙する」ための効率的な方法が「場合の数」あるいは「順列組み合わせ」と呼ばれるものであり、これはいわゆる「有限数学」の基礎である。ここでは、順列組合わせの基本的な考え方を学ぶ。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	確率とはなにか	今日、確率は天気予報のような日常生活にも登場する数学的概念であるが、その意味を正しく捉えることは意外に難しい。ここでは「順列組み合わせ」に基づく初等的な組合わせ論的確率を中心に、確率の基本的な考え方を講ずる。	同上	同上
11	数列とはなにか	わが国の教育では、数列について、等差数列、等比数列ばかりに力点がおかれているが、ここでは微積分を視野において差分（階差数列）、和分（数列和）の考え方を講ずる。	同上	同上
12	数学的帰納法とはなにか	フランスでは「完全帰納法」と呼ばれるこの論法は、数学的な思考の原点ともいうべき重要なものであるが、自明な場合への適用練習を超えてその本質的な意味を理解するのは難しい。ここでは情報処理言語でも重要な再帰関数の考え方を視野に入れて数学的帰納法の考え方を学ぶ。	同上	同上
13	微分とはなにか	微分の基礎人類が手にいれた数学的な技法の中で微分ほど奥深くかつ単純なものはない。ここでは、微分の考え方に至る歴史を踏まえ、微分という計算（calculus）の根本の理解を目指す。	同上	同上
14	積分とはなにか	古来より面積や体積を求める問題は、実用的な意味からも多くの文化圏で研究されてきた主題であった。17世紀に発見された積分法は、このような伝統的なアプローチがすべて単なる無駄であったと総括されるほど革新的な方法であった。ここでは、近代数学の華ともいうべき微積分の意味の理解を目指す。	同上	同上
15	「数学再入門」を超えて	数学再入門の範囲の数学の限界を述べる。その先に開かれる目眩めくすばらしい数理世界を展望するため、最近は高校数学からも排除されてしまった微分方程式の話題を入門的に紹介する。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1132903	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 身近な統計（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：熊原　啓作　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：渡辺　美智子（東洋大学教授）〕

講義概要

高度情報化社会が謳われる中で，私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では，統計の基本的な考え方，データの統計的活用の理論と方法を解説するだけではなく，諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例を（VTR映像で）紹介します。また，更に具体的な理解を深めるため，身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。

授業の目標

統計の考え方と記述統計・推測統計の基礎を，理論だけではなく，具体的にそれらが社会で活用されている事例（実務家のショートレクチャーを含めた現場のVTR映像）や表計算ソフトを活用した分析操作を通して学んでいきます。とくに，諸種の具体的な統計グラフや統計数字に関して，具体的な意味を知り，そこから正しく情報を読み取ることができるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	論より数字， 勘より統計 ～私たちの身近で活躍する統計情報～	スーパーの棚割の決定から新薬の認定，政府の行政施策，コンピュータウイルス・不正アクセス等の検出，プロスポーツの戦略分析，企業活動を支える品質管理活動など，社会で活用される統計の役割を紹介し，統計の一般的な定義と機能，Fact Control や Evidence Based Practice の考え方，情報化と統計環境の変化，統計分析とコンピュータソフトウェアの関係を解説し，科目の全体構成を説明します。	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）	熊原啓作（放送大学教授） 渡辺美智子（東洋大学教授）
2	データのばらつきを表やグラフで要約する（質的データの場合） ～度数分布表とパレート図～	統計データの特徴と分布の意味，質的データに対する度数分布表とそのグラフ（パレート図）の作り方と読み方を解説します。とくに，ばらつきのあるデータをまとめることと，分布という視点を持てるようになることを目指します。 キーワード： 度数分布表（質的データ），ケースと変数，データのばらつきと分布， 質的データと量的データ，度数分布表と相対度数・累積度数，パレート図	同上	同上
3	データのばらつきを表やグラフで要約する（量的データの場合） ～度数分布表とヒストグラム～	量的データに対してそのデータのばらつきの様子（分布）を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説します。具体的には，量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法，ヒストグラムの形状の特徴などを説明します。 キーワード： 度数分布表（量的データ），階級・階級値・階級幅，ヒストグラム，単峰性・多峰性，歪んだ分布，外れ値	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	データのばらつきを数字でまとめる ～平均値・中央値と箱ひげ図～	分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し，代表値としての平均値，中央値，最頻値の特徴を説明します。この回では，それらを目的やデータの状況に応じて，使い分けができるようになることを目指します。また，簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介します。 キーワード： 基本統計，平均値と中央値，四分位数，箱ひげ図	同上	同上
5	ばらつきの大きさを測る ～シグマ（標準偏差）の活用～	ばらつきの大きさの尺度である。分散と標準偏差を解説し，とくに，標準偏差の活用として，正規分布と１シグマ２シグマ３シグマの法則との関係，標準得点（ｚスコア），偏差値を説明します。 キーワード： 偏差，分散，標準偏差，標本分散（不偏分散），偏差値，１シグマ２シグマ３シグマの法則	同上	同上
6	格差を測る ～ローレンツ曲線とジニ係数～	分布の形状を測る基本統計量として，歪度と尖度を紹介します。 また，ばらつきの大きさを評価する指標として変動係数を解説し，とくに格差の尺度としても使用されるジニ係数やローレンツ曲線などを解説します。 キーワード： 歪度，尖度，変動係数，ジニ係数，ローレンツ曲線	同上	同上
7	不確実な出来事を確率で考える ～2項分布～	確率の定義と身近な確率の使われ方，確率変数の定義とその期待値の意味を解説します。次に，理論分布としての２項分布を解説し，具体的な確率計算と適用場面を紹介します。 キーワード： 確率　大数の法則　確率変数　期待値　２項確率　２項分布	同上	同上
8	不確実な出来事を確率で考える ～正規分布～	確率分布モデルとしての正規分布を解説し，正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説します。 キーワード： 正規分布　標準正規分布　上側(下側)確率　両側確率　統計数値表，NORMDIST 関数	同上	同上
9	統計を作る－部分から全体を知る ～標本調査～	母集団と標本，全数調査と標本調査，標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説します。 キーワード： 母集団と標本（サンプル），無作為標本（ランダムサンプル），無作為標本抽出（ランダムサンプリング），乱数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	調査結果の誤差を知る ～推定値と標本誤差～	標本調査における誤差の評価の仕組みを解説します。具体的に，標本分布と標準誤差の関係を説明し，比率の調査，平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習します。 キーワード： 標本分布，標準誤差，標本誤差，母比率，母平均	同上	同上
11	標本から仮説の真偽を判断する ～統計的仮説検定の考え方～	母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説検定のロジックを解説します。とくに，帰無仮説と対立仮説の違い，検定の方向性，検定統計量と棄却域，有意水準などの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学習します。 キーワード： 統計的検定，帰無仮説，対立仮説，2種類の過誤，有意水準，危険率，有意確率	同上	同上
12	データから関係を探る ～クロス集計表の読み方～	2変数の間の関係をデータから記述する方法として，とくに質的変数に対して，クロス表の読み方，列効果と行効果，交互作用効果の意味を解説し，独立性の検定としてカイ2乗検定の方法を説明します。 キーワード： 連関，クロス集計表，行（列）比率，特化係数，独立性，期待度数	同上	同上
13	関係のパターンを読む ～相関関係と傾向線～	量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読み方を説明し，とくに相関関係と相関係数を解説します。また，傾向腺としての単回帰直線を学習します。 キーワード： 散布図，相関関係，相関係数，傾向線，単回帰直線	同上	同上
14	時系列データの分析 ～変化の記述と将来の予測～	時間に依存して取られるデータの記述の方法として，時系列グラフの描き方と読み方，時系列データの構成要素を説明します。また，傾向や変化の大きさをつかむための加工系列として，指数，移動平均を学習し，移動平均を利用した季節調整の考え方を学びます。 キーワード： 時系列データ，時系列グラフ，トレンド，季節変動，移動平均，季節調整	同上	同上
15	知識創造社会を支える統計 ～全体のまとめ～	高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型の社会の中で，既に私たちの身近な生活と深く係わっている統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して，再度，学習します。また，問題練習を通して全体の講義の要点を復習します。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	基礎科目	科目ｺｰﾄﾞ	1310100	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　基礎からの英文法　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大石和欣（放送大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）　　〕

講義概要

英語を基本的な文法から学ぶことができる講義である。当たり前のことだが、外国語としての英語は日本語とは大きく構造的に異なっているし、それを統括する法則も異なる。その差異を認識することによって母国語である日本語への意識と感性を高め、同時に異文化に対する理解を深めることも可能になろう。本講義では、そうした観点に立ちながら、平易な会話や英語圏の文化についても学習し、言葉のもつ文化的な意義や深い味わいについても考えてみる。英語が苦手な学生にとっても、違和感を覚えることなく、外国語を学ぶ楽しさと価値を再認識できる内容である。

授業の目標

英語の文法の基本事項を学び、またそれを基礎にして平易な英語でコミュニケーションをする楽しさを知ること。
同時に、英語と日本語との言語構造の違いや背景にある文化的な差異についても理解を深めること。
英語の基礎を学ぶことで、日本語においても言葉に対する意識と感性を高めること。
異文化を理解する能力を高め、異文化と交流するためのコミュニケーション能力の素地を磨くこと。

履修上の留意点

文法は重要事項であるが、文法だけで言語が成立しているわけではない。人間同士のコミュニケーションの手段として機能しているのが言語であるということを踏まえて、毎回の授業に臨んでほしい。そうすることで、言葉のもっている社会的・文化的な意味がより深く理解できるようになろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	おしゃれに形容詞粋に副詞	形容詞と副詞を中心に文法項目を学習した後、パーティーの場面に設定されたスキットを用いて初対面時の会話などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、原田順子先生のお話を伺う。 【キーワード】 形容詞、副詞、社交に関する表現	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト： 湯野川祐子フローレンス（声優）
2	知的に名詞	名詞の種類や冠詞の付け方などを中心に文法項目を学習した後、書道展の場面に設定されたスキットを用いて、名詞を用いた基本的な構文などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、草光俊雄先生のお話を伺う。 【キーワード】 普通名詞、集合名詞、固有名詞、物質名詞、抽象名詞、代名詞、冠詞	同上	同上
3	キッパリ否定、飽くなき疑問	be 動詞と一般動詞の違い、平叙文の肯定形と否定形、一般動詞を使った疑問文及び疑問詞を使った疑問文などを中心に学習した後、手紙をめぐるやりとりが行われる場面に設定されたスキットを用いて、肯定文・否定文や疑問文などを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、高橋和夫先生のお話を伺う。 【キーワード】 be 動詞、一般動詞、肯定形平叙文、否定形平叙文、一般疑問文、疑問詞疑問文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	移り気な動詞	自動詞と他動詞、動詞の現在形・過去形・過去分詞形・現在完了形・進行形、受動態、命令文などを学習した後、探していたものの置き場を思い出すという場面に設定されたスキットを用いて、動詞の様々な変化の形を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、生井澤寛先生のお話を伺う。 【キーワード】 自動詞、他動詞、現在形、過去形、過去分詞形、現在完了形、進行形、受動態、命令文	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト：湯野川祐子フローレンス（声優）
5	形が大切	主語、述語動詞、目的語、補語、修飾語句などの概念、基本5文型、単文・複文・重文・混文の違いを学習した後、体調が優れない人に声をかけるという場面に設定されたスキットを用いて、様々な文の形を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、吉岡一男先生のお話を伺う。 【キーワード】 S、V、O、C、M、第1文型、第2文型、第3文型、第4文型、第5文型	同上	同上
6	時間厳守	現在形、過去形、未来形、進行形、完了形、完了進行形、時制の一致などを学習した後、予約や申し込みに関するやりとりの場面に設定されたスキットを用いて、動詞の時制についてを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、岩永雅也先生のお話を伺う。 【キーワード】 現在形、過去形、未来形、進行形、完了形、完了進行形、時制の一致	同上	同上
7	未来予想図	単純未来、意志未来、近接未来、will や shall の使い方などを学習した後、観光地でのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、未来に関する表現の仕方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、齋藤正章先生のお話を伺う。 【キーワード】 単純未来、意志未来、近接未来、will 及び shall、be to V、be about to V	同上	同上
8	ビミョーな助動詞	can、may、must、should、などの助動詞を学習した後、原稿用紙の使い方を聞くという場面に設定されたスキットを用いて、様々な助動詞の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、星薫先生のお話を伺う。 【キーワード】 助動詞、can、may、must、have to、should、would、ought to、used to	同上	同上
9	英語の解体新書 ー語、句、節	語、句、節などについて学習した後、日本の歴史について語るという場面に設定されたスキットを用いて、文の構成を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、齋藤高雅先生のお話を伺う。 【キーワード】 前置詞、接続詞、名詞句、形容詞句、副詞句、独立節、主節、従属節、名詞節、形容詞節、副詞節	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	フィーリングの前置詞	様々な前置詞を学習した後、携帯電話がみつからないという場面に設定されたスキットを用いて、前置詞の使い方や意味の違いを学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、高木保興先生のお話を伺う。 【キーワード】 at、in、on、by、from、to、for、of、with、about、over	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） Stuart Vernam-Atkin（作家・俳優・翻訳家）	大石和欣（放送大学准教授） 大橋理枝（放送大学准教授） ゲスト： 湯野川祐子フローレンス（声優）
11	達人技の不定詞・分詞・動名詞	不定詞、分詞、動名詞などを学習した後、休暇の計画を話し合うという場面に設定されたスキットを用いて、動詞の様々な形を使った表現方法を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、木村龍治先生のお話を伺う。 【キーワード】 to 不定詞の名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法、分詞の形容詞的用法・補語の用法、分詞構文、動名詞の名詞的性格・動詞的性格、動名詞と不定詞の名詞的用法	同上	同上
12	赤い糸の関係代名詞・関係副詞	関係代名詞と関係副詞を学習した後、映画についてのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、関係代名詞や関係副詞の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、内堀基光先生のお話を伺う。 【キーワード】 関係代名詞、関係副詞、制限用法、非制限用法	同上	同上
13	気配りの使役表現、現場の知覚表現	使役表現と視覚表現を学習した後、探していた人を見かけたという場面に設定されたスキットを用いて、知覚動詞の使い方や使役表現を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、林敏彦先生のお話を伺う。 【キーワード】 let、make、have、get、知覚動詞	同上	同上
14	無類な比較	比較の表現などを学習した後、食料品の日米比較に関するやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、比較表現の使い方を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、奈良由美子先生のお話を伺う。 【キーワード】 同等比較、比較級、最上級	同上	同上
15	ひょっとすると仮定法	仮定法の表現を学習した後、京都観光でのやりとりという場面に設定されたスキットを用いて、様々な仮定の表現を学ぶ。 インタビュー・コーナーでは、岡部洋一先生のお話を伺う。 【キーワード】 仮定法過去、仮定法過去完了、wish を使った表現、if it were not for、if it had not been for、as if、as though、were to、should、would rather	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	基礎科目	科目コード	1310305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語の基本 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝 （放送大学准教授） 〕

〔主任講師（現職名）：斎藤兆史 （東京大学大学院准教授） 〕

講義概要

言語と文化は切っても切り離せない関係にあるという認識に基づき、背景となる文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを主題とする印刷・放送教材を用い、受講者の英語力強化のための授業を行なう。授業においては、「旅」、「宿」、「食」をはじめ、文化的な主題に関するエッセイと、それに関する会話やインタビューの語学的・文化的解説などを中心的に行なう。

授業の目標

英語に関する基礎的な点を復習しつつ、受講者の英語力を総合的に伸ばすことを目標とする。エッセイを読む部分では、異文化理解までを可能ならしめる読解力（当然ながら、それを支える語彙力と文法能力）を育成し、インタビューの部分では、単なる日常会話を超えた文化的なやり取りを可能ならしめるような聴解力・会話力を養成することを目指す。授業内ではそのための勉強の指針などを随時提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	課 (Lessons)	授業の趣旨、レベル設定などを概論的に説明したのち、本講義の受講に当たっての英語学習の心得を講じ、日常的に実践すべき英語の学習法（発音記号の読み方、音読、素読、暗唱、物まね発声など）を具体的に解説する。 【キーワード】 introduction、英語学習法	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授） 大橋理枝 （放送大学准教授）
2	業 (Studies)	本講義の受講に当たって知っておくべき文法上の概念などを具体的に解説する。 【キーワード】 文法学習	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 大橋理枝
3	飲 (Drinking)	国や地域によって「飲む」（drink）という言葉の意味するものは違う。この回の授業では、「飲む」ということが何を意味するかや、何か飲み物を頼むときの注文の仕方などを題材として英語を学ぶ。 【キーワード】 drinking, drink, beverage, brewery	斎藤兆史 （東京大学大学院准教授）	斎藤兆史 大橋理枝
4	食 (Eating)	この回では、最近はやっているイギリスの料理や、伝統的なイギリス料理の作り方を紹介しながら、料理や調理にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 eating, food, modern British, traditional cooking	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	飲食 (Review and Practice 1)	3, 4章の内容に基づき、飲食に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
6	家 (Houses)	イギリス人の家に対するこだわりはかなりのものがあるようだ。この回ではごく普通のイギリス人が、自分の家を自分の好みに合わせていく姿を紹介しながら、家にまつわる英語を学んでいく。 【キーワード】 house, housing, remodeling, DIY	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
7	庭 (Gardens)	ガーデニングと言えば、イギリスの庭作りは有名だが、イギリス人の御自慢の庭は大抵家の後ろ側にあるのでなかなか外からは見られない。この回ではごく一般的な家庭の庭の姿や庭造りの極意を紹介しながら、庭にまつわる表現を学ぶ。 【キーワード】 garden, gardening, plants	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
8	家庭 (Review and Practice 2)	6, 7章の内容に基づき、家や庭に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	大橋理枝	斎藤兆史 大橋理枝
9	旅 (Trip)	日本と英語文化圏における旅のイメージの違いや共通点を考察し、英語圏に旅行をするときに必要な英語表現などを勉強する。 【キーワード】 trip, travel	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史	Tom Gally (東京大学教養学部特任准教授) ＜分担執筆担当講師＞ 斎藤兆史
10	宿 (Accommodation)	宿、あるいは宿泊ということに関する日本と英語圏とのイメージの違いや共通点を考察し、英語圏で宿を取る場合に必要な英語表現を勉強する。 【キーワード】 accommodation, inn, hotel	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
11	旅宿 (Review and Practice 3)	9、10章の内容に基づき、旅行や宿泊に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	訳 (Translation)	最近の英語教育においては、翻訳という作業はあまり好まれない傾向にあるが、日本人が高度な英語力を求められるのは、外国人の言葉を日本側に伝えたり、あるいは日本の代表として外国と交渉をしたりという異文化状況であり、そのなかで翻訳能力は重要な語学力となり得る。この回では、英語学習・異文化理解における翻訳の意味を改めて考える。 【キーワード】 translation, interpretation	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
13	文 (Letters)	詩文を分析することで文学的なテクストの読み方を勉強したり、英文学の文豪について学ぶことで、文学を通じて英語を勉強する面白さを学ぶ。 【キーワード】 literature, poetry	Tom Gally 斎藤兆史	斎藤兆史 Tom Gally
14	訳文 (Review and Practice 4)	12, 13章の内容に基づき、文学翻訳に関する英語を実際に使いこなす練習をする。	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝
15	課業 (Conclusion)	いままで習った英語を現場で生かすため、発展的な自主学習のやり方を学ぶ。 【キーワード】 study, review	斎藤兆史	斎藤兆史 大橋理枝

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111604	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　基礎教育学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　江原　武一（立命館大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　山崎　高哉（佛教大学教授）　〕

講義概要

日本の教育は、今、「危機」に瀕していると言われ、様々な改革が実施されている。しかし、その改革は時代や社会の変化に適切に対応するとともに、教育の本質に適ったものであろうか。

転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探るために、グローバル化・ＩＴ化・知識社会化が進むなかで、教育の「基礎・基本」をどう捉え、子どもと家庭や学校（大学を含む）、社会などをめぐる諸問題をどう解決するべきかについて多角的に考察する。

授業の目標

「基礎教育学」の授業は、私たちの身近なところに横たわっている教育の生きた現実や具体的事例から出発して、それらが何を私たちに問いかけ、呼びかけているかを明らかにし、受講者の教育および教育学への興味・関心を喚起するように進めたい。

授業の基本的な進め方としては、講師が各テーマについて質問者との対談の形で講義するとともに、今後の研究課題を提示したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育と学習	今日、教育や学習の意義が曖昧になり、その必要性すら疑われている。そこで、「教育」と「学習」という言葉の分析を通して、教育とは何か、学習とは何かについて考察するとともに、人間が人間らしく生きていくために、教育と学習が不可欠であり、「いつでも、どこでも、誰にでも、学びたい時に学べる体制」をつくることが求められていることを明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
2	発達と教育	今日、「発達」という概念に様々な批判が寄せられている。そのような批判に応えるためにも、「発達」の概念について検討を加え、それには多様な位相と意味があることを明らかにするとともに、人間の生涯にわたる発達と教育の関係のあり方を探る。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）
3	子ども観と教育観（1）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、西洋の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山崎高哉（佛教大学教授）	山崎高哉（佛教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	子ども観と教育観（2）	今日、「子どもは変わった」と嘆き、どう子どもとかかわったらよいのか、分からないという声が大きくなりつつある。どのような「子ども一大人」関係を築いていけばよいのかを考えるために、ここでは、日本の代表的な子ども観と教育観の変遷をたどりながら、その基本的な捉え方を明らかにする。	山﨑高哉（佛教大学教授）	山﨑高哉（佛教大学教授）
5	家庭と教育	今日、家庭と教育をめぐって様々な問題が指摘されている。家庭の教育力の低下、児童虐待、ひきこもり、アダルト・チルドレン等々、挙げ始めると切りがないほどである。このような問題を未然に防ぐためにも、子どもの豊かな人間性をはぐくむ家庭のあり方と家庭に固有の教育課題について明らかにする。	山﨑高哉（佛教大学教授）	山﨑高哉（佛教大学教授）
6	学校教育の社会的役割	今日、学校は厳しい状況にある。2005年の調査では、学校に満足していない保護者は27.5%（文科省）ないし43.2%（内閣府）にも達する。不登校の子どもや、不就学の外国籍の子どもなど、学校に行っていない子どもも多い。こうした状況のなか、「なぜ学校に行くのか」を問い、学校教育の社会的役割を明らかにする。	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）
7	多文化社会と市民性の育成	近年の大きな社会変化の一つは、多文化社会の進展である。そして（人種間の対立を含む）多文化社会の現実への対応として、市民性の育成が改めて注目されている。主に日英の市民性教育の状況を比較しながら、多文化社会における教育のあり方を考える。	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）	片山勝茂（仁愛女子短期大学専任講師）
8	教育課程と学力観	学校の教育目標を達成するために編成されているのが、教育の全体計画としての教育課程である。そして教育課程に示された教育内容をどの程度習得しているかによって規定されるのが、学力である。学力にかかわる社会の考え方がどのように変容してきたのかを明らかにし、教育課程のあり方を探る。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
9	教育評価の構造	教育評価は、教育実践を通して児童生徒がどのような学力を獲得したのかを明らかにする取り組みであるが、その目的や方法は一様ではない。教育評価の構造を整理したうえで、教育課程や学力についての考え方とともに教育評価のあり方がどのように変化し、いかなる今日的課題を抱えているのかを明らかにする。	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）	深堀聰子（京都女子大学短期大学部准教授）
10	宗教と学校	今日の学校教育では、基礎的な教科を中心とした認知的教育と並んで、子どもが多文化社会にふさわしい知識や考え方を学ぶ価値教育を充実することが求められている。この価値教育の意義や課題を、世界の教育現場で宗教はどのように教えられているのかを調べることを通して考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	大学教育の改革	近年、大学教育の充実や各大学での個性的な教育の展開が叫ばれ、様々な改革が進められている。大学教育のあり方について、大学の機能、日本における大学教育の変遷、大学教育をめぐる評価といった観点から考える。	南部広孝（長崎大学准教授）	南部広孝（長崎大学准教授）
12	生涯学習の展開	1960年代に登場した生涯学習（生涯教育）という考え方は、今日の教育を考える重要な視点を提供している。生涯学習の理念と日本における展開をふまえて、今後生涯学習活動を進めていくうえでの課題を明らかにする。	南部広孝（長崎大学准教授）	南部広孝（長崎大学准教授）
13	国際化と教育	日本における国際化と教育をめぐる諸問題を、国際化のための教育（国際理解教育、外国語教育、日本語教育など）と教育システムの国際化（教育システムの標準化、海外子女教育・帰国子女教育、在日外国人教育、国際学校など）を中心に考察し、国際化時代における教育のあり方を考える。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
14	転換期の教育改革	世界の多くの国ぐにでは、現在、大規模な教育改革が進められている。それは英国や米国、日本などの先進諸国だけでなく、発展途上諸国でも同時進行の形でみられる。この転換期の教育改革の背景を国際比較の観点から分析し、望ましい教育改革の方向を探る。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）
15	日本の教育のゆくえ	第二次世界大戦後の日本の教育改革の歩みをたどるとともに、これまでの講義の内容をふまえて、教育の基本的な捉え方、子どもと家庭や学校、社会などをめぐる諸問題を明らかにし、今後の日本の教育のあり方を展望する。	江原武一（立命館大学教授）	江原武一（立命館大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目コード	1110608	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校教育論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：田中　統治　（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：庄司　一子　（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：浜田　博文　（筑波大学大学院教授）〕

講義概要

わが国ではこれまでになかったほど学校教育に注目が集まっている。特に、これまで看過されてきた学校内部の問題、たとえば、カリキュラム(学習内容)、学校・学級での生活や人間関係、そして学校改革の可能性などへの関心は高い。この科目では、学校社会学、学校心理学、及び学校経営学を専門とする立場から、学校教育をその基礎から理解し、現下の問題の本質と背景、発生のメカニズムを把握した上で、今後を実践的に展望する。

授業の目標

この授業では、学校教育の「在り方」を論ずるのでなく、その「在り様」をできるだけ客観的に深く理解することを目指す。このため、学校教育の抱える問題点を切り口としながらも、それが社会現象として、他の組織・集団・関係においても共通して現れる問題であることに注目し、その原因に迫れるように工夫した。受講者がテキストを端緒として、関連する参考文献を読み進めて、学校教育に関してより深い理解に達することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校教育を考える視点	学校教育は誰もが経験しているために、その経験を相対化して考えることが難しい。そこで、学校を研究対象とする学校社会学の立場を例に取り上げながら学校教育を考えるための視点を示し、講義の概要に触れる。 【キーワード】 学校教育学、学校社会学、学校経験、社会化	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
2	学校の社会的機能	学校教育が全体社会にとって果たしている役割について、社会的機能の観点から解説し、この機能が過去どのように変化してきたかを跡付け、現代の学校教育が直面している課題をマクロ(巨視的)な視点から考える。 【キーワード】 社会的機能、国民教育、人材の選抜・配分、逆機能	同	同
3	学校教育の過程	学校教育をその入力ー出力系で考えてきた機能主義に代わって登場した、ミクロ(微視的)な研究の立場を解説し、「教育過程」(教師ー教育内容ー生徒の三者による相互作用)の視点が注目する問題を検討する。 【キーワード】 教育課程、相互作用、ブラック・ボックス、生活世界	同	同
4	学校文化とカリキュラム	学校文化(学校に特有の生活・行動様式)の視点から、それが生徒や教師に及ぼす人間形成(社会化)作用とその実態を考える。そして、生徒にとってカリキュラムが学校文化を学習する経験であることを明らかにする。 【キーワード】 学校文化、カリキュラム、教師文化、生徒文化	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	隠れたカリキュラム	公式のカリキュラム(教育課程)に対して、学習者が結果的に学んでいる内容(隠れたカリキュラム)に注目し、その特徴を解説する。文化伝達の機関である学校が学習者のアイデンティティまで規定するメカニズムに迫る。 【キーワード】 隠れたカリキュラム、公式のカリキュラム、学習経験、アイデンティティ	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	田中　統治（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
6	居場所としての学校	子どもにとって学校は居場所としての機能を果たすが、現代ではとくに学校に通う上で重要な意味をもつ。では、居場所とは何か？子どもにとって学校は居場所になっているのか、またどのように居場所になりうるのか、その環境づくりについて考察する。 【キーワード】	庄司　一子（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	庄司　一子（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
7	学校生活とストレス	学校ストレスの研究から、学校は子どもに様々なストレスを与える場であることが明らかになっている。子どもにとって学校はどのようなストレスを感じる場であり、その結果、学校ストレスが子どもにどのような影響を及ぼすのか、その実態を考える。 【キーワード】	同	同
8	教師と生徒の関係	学校教育の場面で教師と生徒は多様な関係をもつ。それは彼らにどのような影響を及ぼしているのだろうか。ここでは教師による授業中の「雑談」をとりあげ、その影響を中心に考える。さらにこうした人間関係の悩みが教師に及ぼす影響についても論じる。 【キーワード】	同	同
9	生徒の内面世界	現代の学校は不登校、いじめ、非行、人間関係の問題などに直面している。学校関係者がこれらに対応するとき、生徒の内面を十分理解して対応することが求められる。では、生徒はどのような悩みを抱え、援助を求めているのか、ここではそれを考える。 【キーワード】	同	同
10	学校での教育相談	前四回で論じてきた、子どもにとっての学校、学校生活のストレス、教師と生徒との人間関係、生徒の内面世界に関して振り返り、これらを理解した上でどのような教育相談が求められ、配慮すべき点は何かについて解説し、事例をとりあげて検討する。 【キーワード】	同	同
11	現代学校の制度原理	「子どもはみんな学校へ通う」ということは、長い間、当然と見なされてきた。しかし近年、「不登校」現象など、そこに変化の兆しがみられる。ここではまず、現代の学校を成り立たせている制度上の基本原理について考える。 【キーワード】	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	教員職務の特徴と「やりがい」	教員は、「子どもに教えること」を専門的に担う職業として、学校制度とともに形成され発展してきた。ここでは、学校教育の要とも言える教員職務の特徴を理解するとともに、その課題状況と「やりがい」について考えてみたい。 【キーワード】	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）	浜田　博文（筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授）
13	教員養成の仕組みと課題	教員としての優れた専門的力量はどのような要素で構成されるのか。その養成教育では、どのような知識内容が習得されるべきか、そして、そのためにはどんな養成の仕組みが必要か。これまでの教員養成に関する諸論議から、これらの点について考える。 【キーワード】	同	同
14	「組織」としての学校とその特質	現代の学校は、一つの組織としての力をますます必要としている。学校を「組織」と見ることの意義は何か、学校という組織にはどのような「力」があるのか、学校はいったいどのような組織なのか、について考える。 【キーワード】	同	同
15	学校のマネジメントと親、地域との連携	「学校の自律性」確立を求める教育改革のもとで、学校のマネジメントのあり方がどう捉え直されているかを理解するとともに、学校と親・地域との連携のあり方について検討する。 【キーワード】	同	同

＝　心理学入門（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　星　　薫　　（放送大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　山口　勧　　（東京大学大学院教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　青木　紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）〕

全体のねらい

この授業は、初めて心理学に触れようとしている人を対象とする。心理学が人の心をどのように把握しようとしているのか、またどのような方法で、人の心に接近しようとしているのかについて、できるだけ身近で日常的な例を挙げながら紹介していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学者が考えてきたこと	現代の心理学は、「科学」であることを標榜している。「科学的」であるためには、中立的であること、客観的であることが、心理学者には求められている。これを実現するために、具体的にどのように、そしてどのような対象に対して、研究が行われているのか紹介する。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授） 山口　勧（東京大学大学院教授） 青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）
2	生物としてのヒト	心は単独で存在するわけではなく、必ず体と共にある。心と体との関係について考える。また、人間行動についての進化論的分析についても、考えよう。さらに、今日急速に進展してきている脳科学の知見を、人の心や行動に対応付けることの難しさについても、考えてみたい。	同上	星　薫（放送大学准教授）
3	社会の中の人	社会の中で人は他の人や集団の行動を理解するように努めている。また、他者や集団に働きかけたり他者から影響を受けたりしながら生活を営んでいる。このように社会的な存在としての人がどのように環境を理解し、その中で行動しているかについて考えることにする。	山口　勧（東京大学大学院教授）	山口　勧（東京大学大学院教授）
4	大きくなること、老いること	人の一生には多くの変化が伴う。こうした発達的変化は、連続的なものと考えるべきなのだろうか、それとも、不連続なものだろうか。また、人のこうした変化には、体の成長、おかれた環境の影響はどのくらいあるのだろうかといった、発達心理学の基本的な問いについて考える。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	目で見る、脳で見る	人は、自分の安全の確保や生命の保持のために、感覚器官を通じて常に、自分の周囲にある物や人に対して、「それは何?」、「それはどこ?」、さらに「それは安全?」、「それは何かの役に立つ?」などのことを確認し続けている。こうした、知覚の働きの特徴について考える。	星　薫（放送大学准教授）	星　薫（放送大学准教授）
6	憶える・忘れる	記憶というのは、何でも放り込んでしまえる一つの大きな「袋」なのではなく、いろいろな種類からなる、複数の働きの集合であると、心理学では考えている。だから、忘れるといってもその様態は一通りではない。記憶の働きについて、心理学の考え方を紹介する。	同上	同上
7	学ぶ・習う	動物が芸を覚えるときには、「ご褒美」が必要である。動物の条件付け研究から出発した学習の考え方は、心理学の中では大きな位置を占めている。だが人間が勉強をしたり、新しい技能を身につけるときにも、同じように「ご褒美」が有効かといえば、そうでもない。人の学習の特徴についても考える。	同上	同上
8	考える	私たちは、与えられた問題の答えを見つけようとして考えたり(問題解決的思考)、今ある情報から、今は分かっていない何かを推理しようとしたり(推論)して、考える。また、考えるとき、私たちは概念を利用する。私たちが持つ概念とは、どのようなものなのか、どうやって形成されるかについても、考える。	同上	同上
9	知能と頭の良さ	ビネによって、世界で初めて知能テストが考案されて以来、知能テストが辿ってきた歴史を紹介する。また、「頭の良さ」と知能テスト得点とが、同じものなのかどうか、さらに知能テストで測定される要素以外に指摘されている「頭の良さ」の要素についても紹介する。	同上	同上
10	感情	感情は、いったい何種類に分類できるのだろうか。また、身体的変化とどう関係しているのだろうか。感情は、人の認知にどう影響するのだろうか。人は感情をどう表現し、人の感情表現をどう解釈しているのだろうか。さらに、攻撃性という感情の特徴についても考えてみたい。	同上	同上
11	人それぞれ	人の個性は、それぞれ独自のものでありながら、同時に他者と共通するところも多い。その人らしさをどのように説明すればよいか。特性か?タイプか?それを測るにはどうしたらよいか。さらに、パーソナリティはどのようにして形成されるのか?などについて考える。	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	希望と悩み	人は、希望を持つことで、未来に向かって前向きに生きることができ、またつらい体験も克服していくことができる。一方で、どんな人にも心の中に葛藤や悩みが生じる。これらの心の成り立ちや機能について、身近な例を取り上げながら考える。	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）	青木紀久代（お茶の水女子大学大学院准教授）
13	心の不調	身体の健康と同じように、心の不調は誰にでも起こりうる。一生の間に起こりがちな心の不調には、どのようなものがあるかを整理する。そして、これらが生じる心のメカニズムを考え、心の状態を知るための方法について紹介する。	同上	同上
14	心理臨床的援助	人の心の健康と育ちを援助する場と方法は、多種多様な展開を見せている。ここでは、心理臨床的援助心理療法）の歴史、代表的な学派を解説しながら、その共通原理を考える。また様々な援助の場とその実際について、具体的な事例を紹介する。	同上	同上
15	文化と人	文化によって人の心の働きや行動は大きく異なると考えられているが、同時に多くの点で文化を超えた共通性も存在する。日本人は本当に異質なのだろうか。ここでは、文化的な視点から、西洋とアジアの違い、さらには日本人の心について考えてみる。	山口　勧（東京大学大学院教授）	山口　勧（東京大学大学院教授）

＝　認知心理学概論（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　高野　陽太郎（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

認知心理学とは何か。認知というのは英語の cognition, cognitive の訳で、これは「環境の状態や変化を知り、それを（個体の生存や種の維持に）利用する」、といった程度の意味である。これを司っているのが心（といっても、英語の mind のほう）だから、「心を実験的に研究する学問」でよさそうだが、これだとただ「心理学」というのと区別がつかない。そこでもう少し付け加えるとすれば、現在の心理学の主流で、人間の心を「認知系」の代表としてとらえ、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて明らかにしようという立場をとる心理学、ということになる。

この科目では、実験心理学的知見を中心に、認知心理学の各分野においてどのようなトピックが研究されているかを概観し、そのうちの少数を選んで詳しく解説する。ただし、受講者の知的好奇心を刺激するよう、できるだけ日常生活から生じる疑問を最初に提示し、後でそれに対する理論的・実証的説明をおこなう、という方針を採用したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知心理学とは何か？	認知心理学の紹介。主な研究分野、日常的なトピックスとの関連、情報処理アプローチと適応論アプローチなどについて論じる。認知心理学の研究・知見が、単に実験室という人工的な場面での人間行動の特殊な観測でもなく、常識の再確認に留まるものでもないことを、実例によりしめす。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授） 高野陽太郎（東京大学大学院教授）
2	イメージ －認知心理学の研究方法－	認知心理学を学ぶためには、ただそこで見い出されている事実を知るのでなく、そうした事実を見い出すための研究法を知る必要がある。ここではイメージ研究を例に、イメージの実験的研究の歴史を、認知心理学的研究法という視点から跡づける。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	高野陽太郎（東京大学大学院教授）
3	視知覚	知覚について概観したあと、視覚情報処理に焦点を合わせて、物体認知などパタン認識の機能を担う腹側系と空間における対象への働きかけや運動のための認知機能を実現している背側系の作用について論じる。	横澤　一彦（東京大学大学院教授）	横澤　一彦（東京大学大学院教授）
4	注意	視覚的注意に焦点をあて、前注意段階と選択的注意段階を想定する特徴統合理論のほか、分散的注意と焦点的注意の協調により視覚認知が成立するという相互作用理論についても述べる。最後に、注意の分割や自動化について、一般的な形で論じる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	記憶の型と神経的基盤	さまざまな型の記憶（長期記憶／作動記憶、意味記憶／エピソード記憶、処理水準、潜在記憶）の実験的研究、モデル、神経的基盤などについて紹介する。	梅田　聡（慶應義塾大学准教授）	梅田　聡（慶應義塾大学准教授）
6	日常記憶	これまでの実験室での記憶研究から、日常記憶をも含めることによりどんな進展があったのか、目撃証言、自伝的記憶、展望記憶、虚記憶などの現象を取り上げる。合わせて、記憶の状況依存性にも触れる。	同上	同上
7	知識と表象	認知の構築材料ともいうべき、記号的表象と知識についての実験心理学的知見を要約するほか、高次の知識の単位である概念（カテゴリ）、命題、スキーマ（スクリプト）などについて説明する。あわせて、ここ20年ほどの間にめざましく発展した非記号パラダイムによる研究例について学ぶ。	波多野誼余夫（元放送大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）
8	言語・談話理解	単語認知、構文解析、談話理解に関しては、それぞれ膨大な実験的検討がなされてきた。ここでは、そのうちでとくに理論的に重要な研究例をみるとともに、その日本語への適用例について学ぶ。	同上	同上
9	言語と思考	言語（例えばある現象を表す語彙の豊富さ）により思考（その現象をどれほど分化して概念化しうるか）が決定されるという言語相対性仮説のほか、バイリンガルの知能、外国語で作業する際の同時処理課題での成績低下などをめぐる実験的証拠を総覧する。	高野陽太郎（東京大学大学院教授）	高野陽太郎（東京大学大学院教授）
10	言語と脳	神経科学との相互浸透・影響は、認知心理学の多くの分野において生じているが、なかでも言語の脳科学に注目が集まっている。脳損傷患者についての詳細な症例分析と脳画像計測・解析技術の進歩についての初歩的解説のほか、失語、失読、失書などの認知学的説明を行う。	福沢　一吉（早稲田大学教授）	福沢　一吉（早稲田大学教授）
11	問題解決	思考の研究では、問題解決が中心となる。初期の問題解決はもっぱら人工的問題を用いていたが、最近ではもっと自然な状況での問題解決も増えている。人工知能、エキスパート・システムとの関連についても触れるほか、洞察や創造の実験的研究も紹介する。	波多野誼余夫（元放送大学教授）	波多野誼余夫（元放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	推論	思考研究のもう1つの柱は、推論研究である。人間が演繹推論、帰納推論の課題を解く過程、進化心理学や文化心理学からの示唆などについて、実験的証拠に基づいて論じる。	山　祐嗣(神戸女学院大学教授)	山　祐嗣(神戸女学院大学教授)
13	意思決定	いくつかの可能な選択肢のうちから一つを選ぶまでの過程を意味する意思決定は、認知研究と経済、経営、社会などの研究との接点になっている。人間が行う意思決定にはさまざまな心理的要因やバイアスが働くため、「規範」からの逸脱が生ずることや、人間が最適解を求めるのでなくヒューリスティクスを用いることなどが知られている。	小橋　康章(大化社代表取締役)	小橋　康章(大化社代表取締役)
14	社会的認知	認知心理学と社会心理学の境界領域で、情報処理アプローチと適応論(進化的)アプローチが競合する分野でもある社会的認知を扱う。個人の所属する社会的カテゴリに関する知識や社会的事象に関する知識が果たす役割、社会的推論の方略など。	高野陽太郎(東京大学大学院教授)	高野陽太郎(東京大学大学院教授)
15	認知研究の将来	これまでの14回の講義を総括するほか、心理研究と脳研究の関係をめぐって議論をかわす。両者が無関係だとする論や、心理研究が脳研究に吸収されるとする論を退け、両者が相互に促進的な影響を及ぼしうる可能性を追求する。	波多野誼余夫(元放送大学教授) 高野陽太郎(東京大学大学院教授)	波多野誼余夫(元放送大学教授) 高野陽太郎(東京大学大学院教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111906	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）　＝　教育心理学概論　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：太田　信夫（学習院大学教授）　〕

講義概要

教育心理学は、4領域より成り立っている。発達、学習、集団・適応、評価である。本講義では、すべての領域を満遍なく取り上げ、いろいろな角度から、いろいろな問題に言及する。ここでは、教育を狭い意味の学校教育だけに留まらず、家庭教育も成人・高齢者に対する教育も考慮の範囲に収めて、講義を進める。また、現代の教育におけるさまざまな問題も視野にいれた講義をする。このように、本講義では、広い視野から、現代に生きる子どもから大人までの教育に関して、心理学の観点から考察を進める。

授業の目標

本授業を通して、心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心理学的な考え方を身につけることを目標とする。さらに、教育心理学の研究法についても、若干の学習をするので、講義中に興味が湧いた問題には、講義が終了しても、自ら研究をする意欲が湧くような態度の形成が望まれる。

履修上の留意点

「心理学入門（’06）」の科目を学習することが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育心理学概観	教育心理学とはどのような学問か、ということについて概観する。最初に教育心理学の目的と内容について述べ、次に教育心理学の誕生から今日までの歴史について触れる。そして、教育心理学の理論と研究法について、概略、説明する。 【キーワード】 教育心理学の内容、教育心理学史、行動主義、認知主義、心理学研究法	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
2	発達の諸相	生涯発達をふまえて基盤となる発達理論を紹介する。人格形成、思考、道徳性の発達について古典的な研究から最新のものまで多様な理論を紹介する。発達を概観することによって「人間」のユニークな諸相を考察する。 【キーワード】 愛着、ライフサイクル、思考、道徳性	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）
3	自己理解の発達	「自己」についての意識をいつからもつのか、また自己の概念がどのように変化し、他者理解と関連していくのかについて概観する。さらに、自己意識に伴う意識としてジェンダーが考えられ、教育や環境による影響について講義する。 【キーワード】 自己意識、自尊心、心の理論、セルフ・コントロール、ジェンダー	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	対人関係の発達と教育	対人関係の発達のメカニズムを理解するとともに、教育的な介入の効果を明らかにすることによって、健全な対人関係を形成することが可能となる。親子関係、仲間関係を築き維持するうえで重要なものはなにかに言及し、不適応の予防に有効な新しい教育実践を紹介する 【キーワード】 しつけ、心理的離乳、社会的視点調整能力、ソーシャルスキル、	渡辺弥生（法政大学教授）	渡辺弥生（法政大学教授）
5	学習の基礎	内容：まず初めに，学習の基礎となっているオペラント条件づけについて取り上げる。その中でも，報酬と罰がどのように人間の行動に影響を及ぼすのか理解する。罰（特に体罰）によって子どもの行動を変えるより，報酬をうまく利用することを学んでもらいたい。大人は多くのことを子どもに観察学習されていることにも留意したい。 【キーワード】 学習，オペラント条件づけ，強化，消去，連続強化，部分強化，強化子，報酬，罰，観察学習	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
6	学習意欲	いわゆる「やる気」のメカニズムについて理解する。他者から与えられる報酬や罰によって行動が生起する外発的動機づけではなく，知的好奇心など，内側から起こる内発的動機づけの方が一般的には望ましい。ただし，初めから内発的動機づけが強い学習者ばかりではないので，動機づけを高め，維持できるための働きかけ方についても知っておく必要がある。 【キーワード】 外発的動機づけ，内発的動機づけ，二要因モデル，達成動機づけ，自己効力感，原因帰属，言葉がけ	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
7	学習の進め方	効率よく学習を進めるために，知識や技能の獲得に関わる記憶の理論について概説する。記憶は一枚岩ではなく，現象や特徴によって様々に分類され，記憶の種類によって効果的な獲得法が異なることを知る。この回では主に，知識を獲得するために有効な「方略」を紹介していく。 【キーワード】 短期記憶，作動記憶，長期記憶，手続記憶，意味記憶，エピソード記憶，リハーサル，精緻化，体制化	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
8	授業の方法	7回目の授業で取り上げた「方略」を使いこなすという観点から，教材研究と授業の方法との関連について説明する。低学年の子どもは，大人と同じように方略を使えるというわけではないので注意が必要である。学習者自身が自分の学習を振り返るという点で，メタ認知の促進が重要となる。コンピュータなどのITツールを本質的に活用するための視点も獲得してもらいたい。 【キーワード】 学習方略，リハーサル方略，精緻化方略，メタ認知，モニタリング，振り返り，e-ラーニング	藤田哲也（法政大学教授）	藤田哲也（法政大学教授）
9	学級集団	子どもは学校生活の大部分を過ごす学級で，仲間関係，対教師関係，そしてその他の外部環境からの影響を強く受ける。そこで，仲間関係の発達的特徴と測定方法，対教師関係の諸相，教師のリーダーシップ，教師のもつ期待の効果，ならびにインターネットなどの環境的影響を解説する。 【キーワード】 学級集団，ソシオ・メトリー，教師のリーダーシップ，教師期待効果（ピグマリオン効果），放課後	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	不適応児の理解 －いじめ、不登校と発達障害－	いじめのタイプは集団型から個人型へと変容してきていることに呼応して，不登校も増加してきた。そのため，いじめと不登校の関係についても検討する。国際的に見ても，集団型のいじめは日本で特徴的に見られる攻撃行動であるが，いじめへの対処方法も集団を中心に考えることになる。また，学習困難児や発達障害児がいじめの対象になることも多いが，ここではいじめとの関連については触れず，学習困難児，発達障害児に関する基礎的な理解を目的とする。 【キーワード】 いじめ、不登校、養育態度、適応、ストレス、ソーシャルサポート	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）
11	体験活動、教師のストレスと心理療法	体験活動の重要性はつとに指摘されているが，具体的なデータをいくつか示す。また，体験活動は教師の多忙さを高める一つの要因でもあるので，教師の生活とストレスについて解説する。それとともに，教員になる前の教員希望段階や教員になった後の職能発達にもふれる。また，ストレスなどへの対応と関連して，代表的なカウンセリングの考え方を含む心理療法についても紹介する。 【キーワード】 体験活動，体験学習，教師のストレス，カウンセリング，心理療法	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）	杉森伸吉（東京学芸大学准教授）
12	知能	知能の定義や考え方の移り変わりを紹介し，知能という概念あるいは考え方に対する理論的な位置づけを知ってもらう。そして，知能をとらえるための知能検査について，その考え方や方法を解説する。さらに，知能は学力や適性などとどのように異なるかについて理解を深める。 【キーワード】 知能，スタンバーグの三頭理論，ガードナーの多重知能理論，知能検査，知能指数，知能偏差値	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
13	学力	教育活動で常に話題になる学力について理解を深めていく。学力とは何かを定義づけ，それをとらえるにはどのような考え方でどのような方法があるかを紹介する。また，いろいろな学力の考え方が出てきているがそれらが何でどのような背景があるのかも解説していく。 【キーワード】 学力，基礎学力，学力不振，教育目標分類，学力評価	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
14	評価と測定	教育評価や教育測定にはいろいろな考え方や方法がある。本章では教育活動の中で測定と評価をどのような流れで行っていくのか，評価や測定にはどのような特徴があるかについて理解を深めていく。そして，適切な評価，適切な測定とはどのようにすればよいのかを解説していく。 【キーワード】 教育評価，教育測定，アセスメント，相対評価，絶対評価，ルーブリック，妥当性，信頼性	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）
15	学習指導とその実践	まず，学習指導をどのようにとらえたらよいかを明らかにし，伝統的な学習指導の考え方から学習指導の理論的基盤，そして新しい学習指導までを解説していく。次に，学習指導の際に考慮する必要がある要因として，児童・生徒の個性や個人差対応した指導のあり方を，学習スタイルと適性処遇交互作用(ATI)を中心に紹介する。 【キーワード】 学習指導，有意味受容学習，発見学習，問題解決，協同学習，学習スタイル，適性処遇交互作用(ATI)	岸学（東京学芸大学教授）	岸学（東京学芸大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1110705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会心理学の基礎と応用　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：村田　光二（一橋大学　教授）　〕
〔主任講師（現職名）：坂元　章　（お茶の水女子大学　教授）　〕
〔主任講師（現職名）：小口　孝司（千葉大学　准教授）　〕

講義概要

現代の社会心理学は、多くの領域で社会認知的視点を採用していること、他の研究分野との連携を推進していること、そして経済行動や政治行動など幅広い分野に応用が広がっていることに特徴がある。こういった社会心理学の全体像を初学者がよく理解できるように簡潔にまとめ、基本的な考え方と研究事例をわかりやすく紹介したい。そのために、前半では社会心理学の基礎を社会的認知を中心に紹介し、後半では社会心理学の代表的な応用研究を紹介する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、社会心理学の基本的考え方と研究領域を理解してもらい、それが現代のさまざまな社会的現象の理解や社会問題の解決のために役立つ可能性を知ってもらうことがこの授業の目標である。また、社会心理学研究のおもしろさや楽しさを知ってもらい、心理過程にも焦点を当てながら社会的出来事の分析や解明をする方法を知ってもらうことも目標である。以上を通じて、受講者が自己理解を深めることにもつながるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会心理学への招待	現代の社会心理学について、その歴史的背景、中心となる社会認知的視点、実験や調査などの実証的方法論についてわかりやすく紹介する。そして、さまざまな分野に応用されていることを話し、この講義のねらいと構成について説明する。 【キーワード】 社会心理学、社会認知的視点、実験や調査、基礎と応用	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
2	社会的自己	自分自身によって捉えられた自分を自己という。自己を意識して捉えるためには他者が不可欠であり、自己は社会的文脈の中で明確になる。ここでは、自己定義に応じて社会的行動や認知が異なることについて、研究例を挙げながら解説する。 【キーワード】 社会的自己、自己と他者、社会的文脈、自己スキーマ	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
3	社会的認知	社会的場面で遭遇するさまざまな他者や他者が生む出す出来事を、私たちはどのように認知するのだろうか。ここでは、対人認知を中心に他者に関する情報処理の過程とその帰結について、既有知識との関連を中心に紹介する。 【キーワード】 社会的認知、対人認知、性格や能力の帰属、スキーマ、ステレオタイプ	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）
4	社会的推論	私たちは獲得した知識を元に、直接は知り得ない他者の未知の側面や、自己の将来について推測することがある。ここでは、推論の前提としてステレオタイプや自己が考えられること、バイアスが生じやすいこと、また直観的で簡便な方略の利用について紹介する。 【キーワード】 社会的推論、確証バイアス、自己中心的視点、ヒューリスティクス	村田光二（一橋大学　教授）	村田光二（一橋大学　教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	社会的感情	社会生活では、喜怒哀楽といったさまざまな感情を経験する。ここでは、これらの基本的感情に加え、より高次の感情として、恥、罪悪感など自分に対する意識（自己意識）と他者との関係から生じる社会的な感情とその働きを解説する。 【キーワード】 感情の機能、自己意識、感情、感情制御、感情表出	木村晴（帝京大学専任講師）	木村晴（帝京大学専任講師）
6	対人コミュニケーション	人と人との関わりにおいてコミュニケーションは欠かすことのできない重要なものである。ここでは、言語的な対人間のコミュニケーションに焦点を当てて、その中でも特に自らのことを他者に伝える自己開示について考察する。 【キーワード】 対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション、自己開示、外傷体験	小口孝司（千葉大学 准教授）	小口孝司（千葉大学 准教授）
7	集団過程	社会心理学では、個人の社会的行動や対人関係の問題だけでなく、集団に関するさまざまな問題にも強い関心が持たれてきた。ここでは、集団に関する代表的な理論や研究のいくつかを紹介する。 【キーワード】 集団生産性、集団意思決定、集団間葛藤	坂元章（お茶の水女子大学 教授）	坂元章（お茶の水女子大学 教授）
8	ジェンダーの心理学	社会的な性別を示す「ジェンダー」を理解することは、社会や私たち自身を理解するためにも重要である。ここでは、ジェンダーという社会の仕組みが人々の自己及び他者理解と社会的行動にどのように影響しているかを説明する。 【キーワード】 ジェンダー，社会的役割，地位と勢力，ジェンダー・アイデンティティ	坂田桐子（広島大学 准教授）	坂田桐子（広島大学 准教授）
9	社会的不適応の心理学	社会の中で適応的に生きるためには、他者とよい関係を築く必要がある。しかし、ときに私たちは、他者との関係を損なうような行動を自らとってしまう。ここでは、このような社会的不適応に関連する身近な話題を取り上げて、解説する。 【キーワード】 攻撃行動、対人不安、抑うつ、社会への適応	高比良美詠子（メディア教育開発センター 准教授）	高比良美詠子（メディア教育開発センター 准教授）
10	産業・組織の心理学	産業・組織心理学は、独自の心理学領域のひとつであるが、社会心理学との関わりが深い。ここでは、社会心理学にとっても興味深い話題である「組織行動」「人的資源管理」「消費者行動」を取り上げて、概説する。 【キーワード】 組織行動、人的資源管理、ワーク・モティベーション、職場のストレス	小口孝司（千葉大学 准教授）	小口孝司（千葉大学 准教授）
11	広告の心理学	社会的情報による説得のひとつとして、広告コミュニケーションを取り上げ、広告の送り手の技法、受け手の心理過程や行動を、社会心理学の視点から説明する。また、説得場面で生じる受け手の意思決定の誤りについても解説する。 【キーワード】 広告メッセージの処理、説得、要請技法、意思決定のバイアス	田中知恵（昭和女子大学専任講師）	田中知恵（昭和女子大学専任講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	インターネットの心理学	コンピュータ・ネットワークは、単に便利なコミュニケーションの道具にとどまらず、私たちの心理や行動を変容させうるものと考えられる。ここでは、こうしたインターネットの特質と役割について、社会心理学の視点から説明する。 【キーワード】 電子ブレーンストーミング、社会的文脈手がかり、インターネットの影	坂元章(お茶の水女子大学 教授)	坂元章(お茶の水女子大学 教授)
13	環境問題の心理学	ゴミ問題や地球温暖化問題のように、解決すべき地球環境の課題は山積みである。しかし、必要な行動は必ずしも実行されていない。なぜだろうか。ここでは、環境配慮行動を普及させていく方法を心理学の視点から考察し、説明する。 【キーワード】 環境配慮行動、社会的ジレンマ、行動変容、コミットメント、環境教育	杉浦淳吉(愛知教育大学 准教授)	杉浦淳吉(愛知教育大学 准教授)
14	観光の心理学	現代社会において観光は非常に大きな意義をもっている。観光は人が大きくかかわる現象であるために心理学とのかかわりも深い。ここでは、観光が社会心理学の観点からどのように研究されるのかを解題していく。 【キーワード】 誘因要因、発動要因、新奇欲求、インターネット、口コミ	小口孝司(千葉大学 准教授)	小口孝司(千葉大学 准教授)
15	異文化理解の心理学	日本人と外国人のように、異なる文化的背景を持つ人の間では誤解が生じやすく、意思疎通のために特段の注意が必要な場合がある。ここでは、そうした誤解の事例や異文化間のコミュニケーションに関する研究などを紹介する。 【キーワード】 コミュニケーション・ギャップ、異文化適応、国際理解教育	坂元章(お茶の水女子大学 教授)	坂元章(お茶の水女子大学 教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1113100	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　精神分析入門（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　牛島　定信（東京女子大学教授）〕

講義概要

精神分析は、神経症の治療法として登場したが、実践を重ねる中で人間を理解する心理学理論となり、人格を探求する研究方法として発展した。20 世紀の思想界に大きな影響を及ぼしたことは周知の通りである。その一方では、時の経過とともに人の人格のあり様が変貌する中で、精神分析的理論もまた大きく変化した。本講座では、精神分析がどのようにして生まれて実践に供されるようになったか、さらにその後の発展を辿ることにしたい。

授業の目標

・無意識を理解する
・精神分析的本能論を理解する
・自我の機能を理解する
・対象関係を理解する

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	フロイトの生涯と精神分析	学問が理論家の人格や生涯と密接にかかわることを発見したのは他ならぬ精神分析である。ここではフロイトの生涯を辿りながら、精神分析理論の展開を考える。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）
2	深層心理学（無意識の発見）	精神分析は無意識の発見に始まった。それは催眠療法を起点とするが、フロイトをして無意識の存在を確信させたのは「催眠後暗示」体験と、O・アンナの症例（ブロイエル）であるとされる。その経緯に触れ、無意識の力動をどう考えたかを説明する。	上別府圭子（東京大学大学院准教授）	上別府圭子（東京大学大学院准教授）
3	深層心理学（無意識へ至る道）	フロイトは、無意識に至る方法として、催眠、自由連想法、夢解釈、失策行為や症状行為の分析を上げ、その研究に勤しんだ。フロイトの夢理論、失策行為の精神分析を中心に具体的な形でその実践に触れる。	上別府圭子（東京大学大学院准教授）	上別府圭子（東京大学大学院准教授）
4	リビドー理論	フロイトが幼児にも性欲があると主張して世を驚かせたことは周知のところである。リビドー理論といわれるものであるが、口愛期、肛門期、男根期がそれである。それと関連した性格論がある。それらを具体的に説明していく。	生地　新（北里大学大学院教授）	生地　新（北里大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	エディプス・コンプレックス	フロイトは人間存在の基盤にある普遍的葛藤としてエディプス・コンプレックスを発見した。これが精神分析理論の中核をなすことになる。その展開の中で明らかとなる男女差とともに、その後の女性心理に関する発展についても検討する。	平島奈津子(昭和大学准教授)	平島奈津子(昭和大学准教授)
6	神経症論	精神分析を生み出したのはヒステリーであるが、その一方では強迫神経症についても詳しい理論がある。神経症発生のメカニズム、さらには、各神経症の特徴などを「ドラの症例」や「症例鼠男」を通じて説明を行う。	平島奈津子(昭和大学准教授)	平島奈津子(昭和大学准教授)
7	精神病論	フロイトは精神分析を神経症に有効な治療であるが精神病には無効であるとした。しかし、うつ病や統合失調症に対する理論的展開にも怠りはなかった。シュレーバ症例等を通じてフロイトの考え方を論じ、その後の発展を論じる。	奥寺崇(クリニックおくでら院長)	奥寺崇(クリニックおくでら院長)
8	パーソナリティを理解する	無意識が意識の世界の下層に位置するという考え、本能(リビドー)活動が外界や自我との力関係の中でなされる、さらにはイド・自我・超自我といった構造論が展開するさまを説明し、さらに自我の防衛について触れる。	生地新(北里大学大学院教授)	生地新(北里大学大学院教授)
9	精神分析療法の実際	催眠療法から発展した自由連想法が確立されたとき、治療法として精神分析が確立した。その中でどのような展開があるか(抵抗、転移、洞察)を説明し、精神分析家の養成に触れる。その後の発展についても論じる。	奥寺崇(クリニックおくでら院長)	奥寺崇(クリニックおくでら院長)
10	文学、芸術を理解する	精神分析は、生きている人間心理に関する理解を越えて、世の仕組み(トーテムとタブー)や幻術作品の理解にも特有の世界を形成した。小説や芸術作品を通じて作者の心理を追求する病跡学の道を拓いたのである。これらの発展にも触れる。	生地新(北里大学大学院教授)	生地新(北里大学大学院教授)
11	精神発達理論をたどる	フロイトがリビドー発達として口愛期、肛門期、男根期を描いたことはよく知られているが、その後、クライン、ウイニコット、マーラー、エリクソンといった精神分析的発達論が展開された。これらを比較検討する。	上別府圭子(東京大学大学院准教授)	上別府圭子(東京大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	米国における発展	フロイトの精神分析は、アメリカでもっとも発展したと云われている。自我、超自我という概念の完成に続いて発展した自我機能に関する研究（自我心理学）があり、フロイトが病的として自己愛を再評価した自己心理学の発展がある。	平島奈津子（昭和大学准教授）	平島奈津子（昭和大学准教授）
13	英国における発展	フロイトが終焉の地となった英国では、アメリカとは一味違った理論の展開があった。フェアバーン、クライン、ウイニコットといった人たちが発展させた対象関係論がそうである。我が国にもなじみのものである。	奥寺　崇（クリニックおくでら院長）	奥寺　崇（クリニックおくでら院長）
14	我が国における発展	我が国における発展にも特異なものがある。アメリカや英国からの輸入といった面が強い一方で、アジャセ王の悲劇にまつわる罪悪感、依存や甘え（土居）といった概念で語られる母子関係を前面に出した理論的発展もまた注目に値する。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）
15	現代と精神分析	精神分析は 19 世紀末のヒステリー患者の多発に刺激された学問であるとされる。20 世紀末はどうか。同じく境界性パーソナリティ障害の流行は今なお続いている。時代も大きく変わった。19 世紀から 20 世紀、そして 21 世紀において内的価値観（良心など）の変遷をたどりつつ、精神分析の意義を論じる。	牛島定信（東京女子大学教授）	牛島定信（東京女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1110900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理臨床の基礎 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：小野けい子(放送大学教授) 〕

講義概要

本講義では、心理臨床の基礎として、心理臨床を支えている基礎理論を学ぶとともに、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助といった心理臨床実践について、また、心理臨床の研究・調査法の基礎について学ぶ。

授業の目標

本講義を通じて、心理臨床実践と、学問としての臨床心理学についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理臨床について	心理臨床と臨床心理学について説明し、心理臨床の専門性について、心理臨床と臨床心理学の歴史、心理臨床の専門家資格と教育プログラムについて概説する。 【キーワード】 心理臨床、臨床心理学、臨床心理士、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
2	心理臨床の基礎理論1発達心理学理論	発達心理学の視点から、人間発達の特性と発達の節目としての乳児期と青年期の意義を論じ、乳児期における発達と愛着理論、青年期における発達と自我同一性理論について概説する。 【キーワード】 二次的就巣性、アタッチメント、自我同一性、モラトリアム	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
3	心理臨床の基礎理論2学習理論・認知理論	心理臨床の基礎理論としての学習心理学理論・認知心理学理論について学ぶ。学習心理学の領域では、2つの条件付け理論（古典的条件付け・オペラント条件付け）と観察学習、認知心理学の領域では感情ネットワークモデルを中心にとりあげる。 【キーワード】 条件付け理論 観察学習 感情ネットワークモデル	越川 房子（早稲田大学教授）	越川 房子（早稲田大学教授）
4	心理臨床の基礎理論3深層心理学理論	心理臨床の基礎理論として、深層心理学と呼ばれる精神分析学と分析心理学の理論について学ぶ。精神分析理論では、無意識の発見と心理療法、、無意識の構造と機能、性格の発達理論を概説し、分析心理学理論では、言語連想検査とコンプレックス、普遍的無意識と元型、、性格の類型論について概説する。 【キーワード】 無意識、防衛機制、コンプレックス、内向・外向	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	臨床心理アセスメント1	心理臨床におけるアセスメントとは何かを3章にわたって概説する。その第1回目として、面接法を中心に、アセスメントのポイントを例示しながら解説していく。 【キーワード】 見立て　正常と異常　わかるということ	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
6	臨床心理アセスメント2	心理検査法について、知能検査と質問紙法を中心に、作業法・構成法・描画法なども織り交ぜながら概説する。 【キーワード】 知能検査　質問紙法　作業法	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
7	臨床心理アセスメント3	投影法について、ロールシャッハテストなどを取り上げ、テストバッテリーを含めて概説する。 【キーワード】 投影法　テストバッテリー　主観と客観	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
8	心理療法1　精神分析療法	フロイトによって創始された精神分析療法は、私たちの意識領域だけでなく無意識領域を重視し、その解明を目指すところに特徴がある。心理療法過程で生じるおもな現象やそれに対処するための技法について概説する。さらに、精神分析療法の発展形態として、遊戯療法、集団心理療法、家族療法について簡潔に説明する。 【キーワード】 無意識 自由連想法 転移・逆転移	小田切 紀子（東京国際大学教授）	小田切 紀子（東京国際大学教授）
9	心理療法2ユング派分析療法	ユングの創始した分析心理学的心理療法は、日本ではユング派心理療法と呼ばれるが、その基本である目的論的視点と個性化の過程、イメージの重視、夢分析、箱庭療法について学ぶ。 【キーワード】 個性化、イメージ、夢分析、元型、箱庭療法	小野 けい子（放送大学教授）	小野 けい子（放送大学教授）
10	心理療法3　クライエント中心療法・パーソンセンタード・アプローチ	クライエント中心療法の創始と発展について、基本になる自己理論およびカウンセラーの条件について概説する。さらに実際のカウンセリングの経過について具体例を挙げながら述べる。最後にパーソンセンタード・アプローチの概要について触れる。 【キーワード】 自己理論　人格変容のための必要・十分条件　エンカウンターグループ	田畑 洋子（人間環境大学教授）	田畑 洋子（人間環境大学教授）
11	心理療法4認知行動療法	認知行動療法の基本理論と主要技法について学ぶ。認知的アプローチの基本理論としてABC理論を、情動的技法の基本理論として古典的条件付けと感情ネットワークモデルを、行動的技法の基本理論としてオペラント条件付けをとりあげる。主要技法としては、認知的再体制化、自己教示法、自己強化法などをとりあげる。 【キーワード】 ABC理論　学習理論　認知的技法　情動的技法　行動的技法	越川 房子（早稲田大学教授）	越川 房子（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	心理療法5遊戯療法	遊戯療法を成立させる"あそび"の意味やセラピストの基本的態度について考え、遊戯療法の経過と各時期において起こってくる事象について概説する。また、遊戯療法を支える親の役割について述べる。 【キーワード】 子ども中心療法　八つの基本原理　並行面接	田畑　洋子 (人間環境大学教授)	田畑　洋子 (人間環境大学教授)
13	コミュニテイ援助1学校と地域	コミュニティとは、コミュニティ援助とは何かを概説する。主に、学校教育場面・精神医療場面にかかわる地域援助について考えてみる。 【キーワード】 危機介入　協働　支援づくり	佐藤　仁美 (放送大学准教授)	佐藤　仁美 (放送大学准教授)
14	コミュニテイ援助2子育て支援	少子化や共働き夫婦の増加により、家族や家庭の中だけでの子育てが難しくなっており、心理臨床家による子育て支援が求められている。母親と子どもを取り巻く社会的状況にふれたあと、心理臨床家が子育て支援を行う意義と援助の具体的方法について、コミュニティ援助の視点から概説する。 【キーワード】 少子化、育児不安、予防活動	小田切　紀子 (東京国際大学教授)	小田切　紀子 (東京国際大学教授)
15	臨床心理学研究法	臨床心理学研究は、心理的援助の実践活動を通して研究を行うことが基本となるため心理学研究の中では独自な位置づけとなる。臨床心理学研究の方法とその社会的意義、および倫理問題を概説する。さらに、卒業論文などの学術論文を執筆する場合の具体的方法について解説する。 【キーワード】 守秘義務、実践型研究、事例研究	小田切　紀子 (東京国際大学教授)	小田切　紀子 (東京国際大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1113003	履修制限		単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人格心理学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大山泰宏（京都大学大学院准教授） 〕

【担当専任教員：滝口俊子（放送大学教授） 】

講義概要

人格（personality）は，臨床心理学のほか，発達心理学，社会心理学など，心理学の諸分野に深く関わる概念である。この講義では，心理学において「人格」という概念が，どのように措定され，どのように探求されているのか，また，その変容と生成に対してどのように関わっているのかを，総括的に論じる。

このように人格の緒理論に関して探求することを通して，心理学的な人間理解の発想や方法ということに関しても，深い理解を醸成していくことをめざしている。

授業の目標

1. 人格という概念に関する基本的な知識の習得と，この概念を生み出すに至った心理学の発想法を理解する
2. 人格の成立に関わるさまざまな事柄を，心理学的に理解する
3. 人格という概念をもとにした，心理学（とりわけ臨床心理学）の理論や技法について理解する
4. 私たちの日常生活の中での人格概念に関して自分なりに理解できるようになる

履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人格心理学をはじめるにあたって	人格という概念が心理学で用いられるのはなぜか。20世紀以来，人格概念が重要となった経緯を論じる。あわせて，その流れの中で，本講座の目的を概観する。（1．人格という概念の定義，2．人格という概念の歴史的背景，3．この科目の目的と概観） 【キーワード】 人格，性格，気質，個人差心理学	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
2	人格を理解する観点と理論	人格というものに対して，私たちはどのように接近していくのか。人格を把握するための私たちの認識の特徴を省察することをもとに，類型論的発想，特性論的発想の特徴とその限界を明らかにする。（1．人格理解の方法，2．類型論と特性論，3．力動論） 【キーワード】 類型論，特性論，力動論	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
3	人格を映し出す －心理査定	他者の人格を知るため，あるいは自己自身の人格を知るために，心理査定がおこなわれる。質問紙法，投映法のそれぞれの仕組みを知ることで，心理学において人格がどのように考えられているのかをより深く理解する。あわせて，心理査定の意義と範囲について論じる。（1．観察法，2．質問紙法と投映法3．人格は理解できるのか） 【キーワード】 観察法、質問紙法、投映法、ワーディング	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	人格理論の現在	近年の心理学は，人格に関してどのようなとらえ方をしているのか。自己組織システムとしての人格のとらえ方，脳科学での知見社会的構成としての人格の考え方などを紹介する。（1．システム論的な人格理解，2．脳科学から見た人格，3．ジェンダーと人格） 【キーワード】 社会構成主義，ジェンダー	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
5	人格と関係性	人格は単独で存在するものではなく，必ず他者との関係の中にある。そうした対人関係の場において，人格はどのように現出し把握されるのか。またその関係性を支える次元とは何なのか。（1．対人関係の理論，2．対自自己と対他自己，3．間主観性と人格） 【キーワード】 印象形成，社会集団対自と対他，間主観	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
6	人格のはじまり	ヒトが誕生して成長していくとき，どのような要因が人格形成に影響を与えているのであろうか。遺伝と環境をめぐるこれまでの研究，また，最近の乳幼児と養育者の交流の研究等を通して考察する。（1．遺伝と環境，2．情動と調律，3．愛着の理論） 【キーワード】 双生児研究，情動調律，愛着	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
7	人格の育ち	やがて人は「わたし」という意識をもち，それを核として人格が形成されていく。その際，エディプス期での大きな人格変化，また，前思春期における「わたし」の目覚めなどを通して，私が「わたし」になっていくプロセスを考察する。（1．エディプスコンプレックス，2．自我体験と前思春期） 【キーワード】 エディプス期，エディプスコンプレックス，自我体験	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
8	人格が閉じるとき	人生の後半において，人は自分の人生をどのように閉じていくのかということが大きな課題となってくる。中年期の危機，そして老年期のテーマ等に関して述べるとともに，死に直面する人々の心のあり方について述べる。（1．中年期の課題，2．老年期，3．死の準備） 【キーワード】 ライフサイクル，中年期の危機，老年期	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
9	人格とかたり	人は自分自身の物語をかたることで，自分の歴史を，あるいは自分自身を構成していく。そうした語られる内容ばかりでなく，私が「わたし」として語り出でることに，人格を構成する根本がある。発話に関する理論等を参考にしつつ，かたりの意義について述べる。（1．語られる人格，2．発話行為としての人格，3．心理療法とかたり） 【キーワード】 ナラティヴ，かたり，発話，主体，反復	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	人格が病むということ，傷つき	人格のまとまりというものを崩し開いていく，さまざまな出来事。私たちの誰もが必ず多かれ少なかれ抱えたり直面したりする心の課題を，私たちはどう理解し，どのように取り組んでいくべきなのか，臨床心理学の観点から論じていく。（1．欲求不満，2．神経症と精神疾患，3．トラウマ） 【キーワード】 欲求不満，神経症，精神病，PTSD	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
11	人格の探求と文化	人格を，そして自分自身を探求するために，臨床心理学ではどのような考え方が用いられるのか。自己認識の学としての，その手法や発想に関して，先人たちの仕事に言及しつつ論じていく。（1．精神分析のはじまり，2．分析的心理学） 【キーワード】 ヒステリー，精神分析，夢，元型	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
12	人格の変容	私の人格の今のあり方に行き詰まったとき，カウンセリングや心理療法がおこなわれることがある。こうした営みにおいては，人格はどのように捉えられ，またどのように変容や人格の十全な発現が促されていくのか。その理論ばかりでなく事例を引きつつ論じる。（1．カウンセリングと心理療法，2．心理療法の過程，3．非言語療法） 【キーワード】 非指示的療法，心の補償作用，プレイセラピー，芸術療法	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
13	物語にみる人格の変容	人格の成長と変容は，誰もが体験することである。これまで先人たちが語り伝えたり創作したりした物語の中にも，そのテーマは多くみられる。いくつかの物語を臨床心理学的に読み解くことで，臨床心理学や心理療法における人格理解と変容に関して深めたい。（1．教養，2．小説童話とファンタジー，3．神秘主義と錬金術） 【キーワード】 人格陶冶，物語，ファンタジー，錬金術	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
14	人格と存在	テロや戦争，ジェノサイド。人間自身によって人格が否定される不幸は，現代でもあとをたたない。その中で，人は人格の尊厳を保ち，祈りと希望を失わないでいることができるだろうか。実存主義的な人格理論を概観し，このことを論じたい。（1．人格の否定と祈り，2．実存主義的人格，3．未来へ向かう人格） 【キーワード】 実存，希望，人間の尊厳	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）
15	人格心理学の展望	電子メディアに囲まれた現代社会において，人格のあり方は変わっていくのであろうか。それに対して心理学も，新たな視点と理論を持つべきなのだろうか。こうした問題に言及しつつ，本講義のこれまでの過程を，省察する。（1．現代社会と人格，2．人格に関する私たちの課題，3．展望） 【キーワード】 電子メディア，解離，抑圧	大山泰宏（京都大学大学院准教授）	大山泰宏（京都大学大学院准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1113607	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代を生きる哲学（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐藤　康邦（放送大学教授）〕

講義概要

哲学という言葉は、古代ギリシャのプラトンの語ったピロソピアという言葉に由来するフィロソフィーの日本語訳である。この言葉は「知を愛する」という意味を持つが、すでにプラトンの段階で、それには単に日常生活に役立つ知識とか専門科学の知識を超える知という位置が与えられていた。そのような哲学的知識および哲学的思索というものがそもそもいかなるものであるのかを、理論哲学、実践哲学、宗教哲学、芸術哲学の各場面に従って紹介するとともに、それが現代を生きる私たちにどのような意味を持つのかを検討する。

授業の目標

まず、哲学の基礎知識や基礎的考え方について、西洋哲学の歴史に現れた哲学者および日本近代の哲学者の思想内容を踏まえた上で学ぶ。といっても、単に哲学史についての知識を得るということに留まることなく、そのような哲学的思索が、今日の科学や社会や芸術、宗教について考える際に、私たちにどのような示唆を与えてくれるかという観点に立って学ぶことを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	序　哲学的知とはどのようなものなのか	哲学という学問の独自性を、他の専門諸科学と比較することによって示し、あわせて、哲学が包摂する理論哲学、倫理学、宗教学、芸術学の諸領域について説明する。その際、西洋思想史を概観した上で、今日の哲学の課題について考える。	佐藤康邦（放送大学教授）	佐藤康邦（放送大学教授）
2	第Ⅰ部　科学的知性と哲学 （１）自然科学的知性の目覚めと哲学	古代ギリシャにおいて最初の哲学的思惟は自然哲学として現れた。それに対する現代の科学者による評価を紹介した上で、プラトンのイデア論とアリストテレスの自然学を頂点とする古代科学、古代哲学の意義について考える。	同上	同上
3	（２）近代科学の成立と哲学	１６、７世紀に西洋において近代科学のもとになるような自然研究が現れた。それを代表するガリレオおよびデカルト、ホッブズ、スピノザ等の自然観を検討するとともに、この新たな自然観がどのような哲学的思索と結びついたのかを検討する。	同上	同上
4	（３）カント『純粋理性批判』の検討	近代哲学を代表するカントの『純粋理性批判』は、ニュートンによって完成された近代科学を前提としながら、人間の立場からの哲学を展開したものである。その全貌を先駆者であるヒュームに遡って検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	（4）近代哲学における有機体論の系譜	ガリレオ、デカルト以来近代科学を導いてきた機械論的自然観に対抗して、有機的生命の観点から自然を見る有機体論の系譜を、ライプニッツ、ゲーテ、カントの『判断力批判』等を踏まえた上で、現代のエコロジーと結びつけて考える。	同上	同上
6	（5）実証主義的科学の制圧と哲学の使命	１９世紀以降、自然科学は哲学者の手を離れて、専門科学者の実証主義的研究の支配下に置かれた。この系譜を、コント、ダーウィン、マッハ、フロイト等の実証主義的科学の主張に見るとともに、それへの反発の例を現象学の哲学に見る。	同上	同上
7	第Ⅱ部　社会的正義と哲学 （1）プラトンとアリストテレス	西洋の倫理思想についても、国家論についても、プラトン、アリストテレスを語らずにははじまらない。ソフィストに対するソクラテスの意義、プラトンの国家論、アリストテレスの徳と幸福の定義を通して西洋倫理思想の正系について見る。	同上	同上
8	（2）トゥキュディデスとマキャベッリ	トゥキュディデスのペロポネソス戦争の記述とマキャベッリの『君主論』は、この世の弱肉強食の実体を暴き出したことにより倫理学的思考のなかで独自の位置を占めている。これらを通じ、西洋倫理思想の反正統の系譜について見る。	同上	同上
9	（3）カントとヘーゲル	道徳的評価というものを個人の自由意志の上にすえる近代に特徴的な考え方をカントの道徳法則に見、それに対抗して、倫理の問題を個人を超えた社会的なものと考えた例をヘーゲルの人倫概念に見ることにする。	同上	同上
10	（4）スミスにおける倫理学と経済学	一方において、共感という感情の基礎の上に独自の倫理学を打ち立てたスミスは、近代における最も成功した社会理論である経済学の確立者でもあった。この両側面のつながりを哲学の観点に立って検討する。	同上	同上
11	（5）マルクスとウェーバー	今なお私たちの生活を決定づけるものである資本主義について、マルクスは否定的、マックス・ウェーバーは肯定的に評価を下した。この両者の思想を比較、検討してみることは、今日の社会を理解する上でも不可欠の課題である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	（6）社会システムの時代の倫理学	私たちは、現代社会において、一方では自己決定の権利を与えられていながらも、他方では否応もなく社会システムのうちに組み込まれている。そのことの学問的解明の例を社会システム論に見る。	同上	同上
13	第Ⅲ部　哲学にとっての宗教と芸術 （1）宗教と哲学	哲学は、自然についての認識の真理の問題、社会的正義の問題に関わるものであるとともに、また、同時にそれらに解消しきれない個人の内面の問題も扱う学問でもある。ここでは宗教の問題を、実存主義思想などを参照しつつ検討する。	同上	同上
14	（2）芸術と哲学	プラトン、アリストテレスの昔から、哲学者は美や芸術の問題に深い関心を寄せてきた。ここでは、この二人に加えて、カント、シェリング、ヘーゲルの古典的美学の検討を踏まえた上で、現代における芸術の状況について考える。	同上	同上
15	第Ⅳ部　近代日本の哲学的自己主張	近代の日本人は、他の学問同様に西洋から哲学も受け入れてきた。しかしそれと同時に、それを通じて自己表現の途も探ってきた。そのことを、西田幾多郎、和辻哲郎、三木清等の思想を通じて検討する。	同上	同上

＝　生命と人生の倫理（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　清水　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　伊坂　青司（神奈川大学教授）〕

全体のねらい

生命操作技術の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題を対象とする生命倫理学と、人生全体の中で医療を位置づけつつその倫理を考える方向（ここでは「人生の倫理」と呼ぶ）との間を架橋しつつ、医療者と患者・家族とが出会う医療現場における倫理の方向付けを目指す。生物学的生命と物語られるいのち（人生）の間、また高度化した技術と日常的生活の間を行き来しつつ、諸問題を考えたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物学的生命と物語られるいのち	私たちが《いのち》について考え、語る際に、二つの観点がある。身体に注目しつつ「生きている」という時に、注目している生命は、「生活し」「人生を送って」いる私たちのいのちを支えている。この二つの見方を説明し、本授業のタイトルの意味を提示するとともに、以下の授業内容を説明する。	清水　哲郎（東京大学大学院教授）	清水　哲郎（東京大学大学院教授）
2	生命操作の技術と倫理(1) 生命の誕生をめぐって	今回から４回に亙って、生命操作技術の高度化に伴って、新たなタイプの倫理的問題が起きてきた状況と、それに対処すべく成立した生命倫理学について概観する。今回はまず、人工授精や体外受精などの生殖補助技術、およびクローン技術をめぐる倫理的問題を考える。	伊坂　青司（神奈川大学教授）	伊坂　青司（神奈川大学教授）
3	生命操作の技術と倫理(2) 遺伝子の情報と操作	最先端の生命操作技術と目される遺伝子情報と操作をテーマとして、それが医療に有効に使われる可能性とともに、プライバシーについての新たな問題や、出生前診断による妊娠中絶の問題などを、倫理的側面から考える。	同　上	同　上
4	生命操作の技術と倫理(3) 脳死と臓器移植	脳死と臓器移植についての現状を理解し、倫理的諸側面を検討する。「脳死をもってヒトの死とする」という理解の妥当性、臓器移植をめぐる提供側（ドナー）、受け手側（レシピエント）のあり方等を検討し、人間全体を見る立場から問題にアプローチする。	同　上	同　上
5	生命操作の技術と倫理(4) 終末期と死の選択	耐え難い苦痛や人間としての尊厳を理由に、自らの死を選択する自己決定権の主張がされている。生死のコントロール技術が進んだことによって、問題は複雑になっている。そうした諸状況を概観し、終末期における安楽死や尊厳死の選択を考える手掛かりを探る。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	個体としての人間	今回から 3 回に亘って、前回までに見てきた生命倫理の典型的諸問題の根本にある、《人間》をどう捉えるかという問題を考える。今回は、《個体・個人》がテーマであり「個体はどのようにして個体か？」を、生物学的視点から、および個体史の視点から考える。	清水　哲郎	清水　哲郎
7	人間とその尊厳	《人間》について、価値という面から考える。人格と尊厳、人権、自律、QOL（quality of life；生の質）、生命の価値、人生の価値等々について理解した上で、「（いろいろなことが）できないよりできたほうが良い」と「できなくても良い」という価値観が並存する可能性を探る	同　上	同　上
8	個人はどこまで自由か	生物学的生命体としての個々人は互いに独立している。が、人生の物語を生きる者同士の生は互いに絡み合い、浸透しあっている。そこで個人はできる限り自由であるべきだとはいえ、「私の身体なんだから、どうしようと私の勝手だ！」と言い切れない事情が生じる。この点を考える。	同　上	同　上
9	規範倫理学の諸理論	今回から 3 回に亘って、生命と人生の倫理を考える基礎となる諸理論を学ぶ。まず今回は、規範倫理学のさまざまな概念や立場（義務論、目的論、結果主義、功利主義、選好功利主義、状況倫理、徳倫理等々）を概観する。	同　上	同　上
10	倫理原則	「いかにすべきか？」を考えるにあたって、倫理規範を参照しながら考えるのが通常である。諸規範の中でももっとも基礎となり、他の諸規範を支えているようなものを《倫理原則》と呼ぶ。今回は倫理原則について、医療現場で医療従事者に課せられたものを中心に考える。	同　上	同　上
11	社会の中の個人	《社会倫理》をテーマとする。構成員それぞれの福祉のために、社会としてどのような体制をとるべきであるかといった問題の医療・福祉に関連する側面を探る。人権、正義、共同体、自己決定、個人主義、自由主義、共同体主義等の概念をとりあげる。	同　上	同　上
12	ケアという活動	今回以降は、人間同士が共同で進める活動としての医療や福祉のあり方について、倫理面からの考察をする。まず、《ケア》という活動への哲学的アプローチを試み、そこから医療・看護・福祉などに共通して倫理的に押さえておくべき点について基礎的なことを検討する	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	相手の最善を目指す	医療・福祉の活動においては、何をするかという意思決定のプロセスが倫理的に重要である。今回はそのプロセスの要の一つである「相手の最善を目指す」検討について考え、利害のアセスメント（一般的および個別化した）、益と害の双方が見込まれる時にどうするか（二重結果論、均衡性論）といった問題を検討する。	清水　哲郎	清水　哲郎
14	合意を目指すコミュニケーション	医療等の現場における意思決定のプロセスにおけるもう一つの要となる、当事者たちが合意を目指すコミュニケーションのあり方について考える。パターナリズムを脱して共同の決定を目指す場合、インフォームド・コンセント、事前指示、リビングウィルといった事柄をどう理解したらよいかを検討する。	同　上	同　上
15	全体のまとめ 医療現場の個別事例に臨む	最終回は、全体のまとめとして、最後の３回で検討したような倫理的視点から、生命操作技術を駆使した医療における決定について振り返って考える。いくつかの事例を提示して、これまでの検討を活かした検討を試みる。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114905	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　音楽理論の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：笠原　潔　（放送大学教授）（平成20年10月ご逝去）〕
〔主任講師（現職名）：徳丸　吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）〕

講義概要

音楽を学ぶにあたって最低限必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。西洋音楽のみならず、日本の音楽や世界の伝統音楽を理解する上で必要な概念について説明し、それを通じて世界の多様な音楽に対する理解を深めることを目標とする。講義は、多くの曲例を紹介しながら、また具体的な実演映像を交えながら進める。

授業の目標

全15回の講義を通じて、音楽研究を進める上で最低限必要な用語が理解でき、かつ、五線楽譜を読んだり、書いたりすることができるようにすることを目標とする。また、この講義を通じて世界の様々な音楽の概略が把握できるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「音」をめぐって	音楽で使用される「音」に関して、音高・音価（音の長さ）・強度・音色といった様相やその測定方法を紹介し、音楽によって重要な様相が異なることを説明する。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
2	五線記譜法の基礎	西洋音楽の記譜に広く使われている五線記譜法に関して、音符や休符の書き方をはじめ、音部記号・臨時記号・調号の使い方、音価表記の仕方、拍子記号の使用法など、基本的知識を紹介し、五線楽譜が一応読譜・記譜できるようになるまでにする。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
3	西洋の音律	音律に関して、音程の紹介から始まり、音程と周波数比との関係、西洋のピタゴラス調律や古代中国の三分損益法などを紹介した後、西洋の種々の調律法を実演を交えながら紹介する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
4	音律の問題	西洋以外の文化圏における音律の問題を紹介する。音律が意味をもたない音楽様式を含め、音律や音階、とりわけオクターヴ音階の概念の問題点を扱う。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	西洋の旋法	西洋音楽で使われてきた旋法に関して、西洋近代の音楽で使用された長調・短調という２種類の旋法をはじめ、それ以前に使用されていた「教会旋法」や、西洋近代の音楽で使用された長調・短調以外の旋法について、実例に基づいて論じる。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
6	旋律の動かし方	旋律を示す用語の問題から、独立した旋律型をもつ長唄を扱い、さらに、イラン伝統音楽を例にして、旋律の動かし方が多様であることを学ぶ。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
7	西洋近世の和声	西洋近代の調性音楽で使用された機能和声法の原理とその根幹にある現象について講義し、機能和声法の概略を紹介するとともに、機能和声法独特の考え方を説明する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
8	西洋の対位法	西洋中世以来の対位法音楽の歴史を追いながら、オルガヌム、モテートゥス、フーガ、カノン、クオドリベトなどその主要な創作ジャンルを紹介する。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）
9	人はなぜ「合わせる」のか	世界には、ポリフォニーやヘテロフォニー以外にも、様々な音楽の「合わせ方」がある。長唄における声と三味線の関係や、ガムランにおけるあわせ方、日本の「御祝」における謡と民謡の合わせ方など、具体的な例を紹介しながら、合唱と合奏の問題など、世界の音楽における「合わせ方」について学ぶ。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
10	リズムと時間構造	音楽のリズムとその背後にある時間構造を巡って、西洋音楽を出発点に、パルス、拍、拍子、リズムの概念を明らかにする。	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
11	西洋楽譜の歴史	古代ギリシャ以来の西洋記譜法の歴史を辿りながら、西洋の各時代の記譜法（タブラチュア譜を含む）について学ぶ。	笠原　潔（放送大学教授）	笠原　潔（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	東アジアの楽譜	西洋と並んで楽譜の伝統をもつ東アジアを例にして、多様な楽譜を知り、楽譜によって、音楽のどのような様相が記録されるかを知る。	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)
13	「唱歌(しょうが)」の世界	世界には、日本の「唱歌(しょうが)」や口三味線のように、「楽譜」を言葉で歌う技法がある。同様の技法は、西洋のソルフェージュにも見られる。実例によってそうした歌い方の例を学びながら、こうした技法がもつ意味を考える。	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)
14	楽の器	「楽器」というと「音楽」を演奏するための道具と考えられがちであるが、「楽器」が開く音の世界はそれよりもはるかに多様であり、豊潤である。この講義では、人類の歴史の中の最初期の楽器の紹介に始まり、「楽器」が切り開く多様な音世界や音楽の演奏に使われる様々な媒体について紹介しながら、「音楽」という概念の再検討を試みる。	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授) 笠原潔(放送大学教授)	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)
15	「音楽」という概念	一口に「音楽」といっても、西洋でいうmusicと日本でいう「音楽」との間には概念上のずれがあるし、世界に目を向けると、さらに違った概念で「音楽」という現象を捉えている文化もある。全15回のまとめとして、世界における多様な「音楽」概念とそれらを知るための方法を考える。	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授) 笠原潔(放送大学教授)	徳丸吉彦(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本近現代史　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：小風　秀雅（お茶の水女子大学教授）　〕

【担当専任教員：五味　文彦（放送大学教授）　】

講義概要

幕末開港から第二次大戦後の高度成長まで、日本の近・現代史の基本的な流れを、政治・経済・国際社会の視点から、概観する。歴史事実を並べるのではなく、歴史の変化の基本線を追いながら、日本の社会がどのように変化したのか、を構造的に理解できるように構成した。

授業の目標

近・現代史の各時期の特徴を概括的に把握した上で、基本的な変化を理解しつつ、歴史がどのように推移し、現在にいたっているのか、を理解できるようにする。

履修上の留意点

各回ごとに話題が独立しているように見えるが、密接に関係しつつ講義がすすめられるので、全体の構成をみわたしつつ受講してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	開国と開港	幕末の開国と不平等条約の締結は、日本が国際社会に従属的に組み込まれたとされてきたが、不平等条約の機能や、維新以後の国際関係の実態をみると、植民地化の危機があったとはいいにくい状況がみえてくる。この論点を掘り下げる。 【キーワード】 不平等条約、開港、居留地、自由貿易、植民地化の危機	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）
2	近代化の構想－大久保利通と殖産興業－	東アジアの近代化は、歴史的実態としては、自由貿易の実現による世界市場への包摂であった。日本の近代化にとって、不平等条約の改正とともに経済的自立が最大の目標であった。その実態を、大久保の殖産興業の構想とともに解明する。 【キーワード】 近代化、殖産興業、大久保利通、交通網形成、東北開発	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）
3	憲法発布と条約改正	明治憲法の制定は、近代的法治国家であることを世界に示し、不平等条約の改正を実現するきっかけとなっただけでなく、日本における近代国家の確立の起点となった。憲法制定と条約改正の歴史的意義を考える。 【キーワード】 明治憲法、条約改正、領事裁判権、井上馨、大隈重信、青木周蔵	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	日清戦争とアジア	日清戦争は、世界史的には、日本の勝利と言うよりは中国の敗戦によるアジアの国際秩序の解体というようそのほうが重要であった。日清戦争によって、アジアの国際関係がどのように変化したのかを考える。 【キーワード】 下関条約、三国干渉、中国分割、日英同盟	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)	小風秀雅(お茶の水女子大学教授)
5	日露戦争前後の日本外交	幕末以来の朝鮮半島確保という「目標」のため、日本は日露戦争にふみきった。しかし、日露戦後は韓国を保護国化、さらには併合をする一方、日本外交の焦点は満州(中国東北部)の問題に移っていく。その変化を見ていく。 【キーワード】 満韓交換論、日露戦争、満州(中国東北部)、多角的同盟・協商網、韓国併合	千葉功(昭和女子大学准教授)	千葉功(昭和女子大学准教授)
6	「帝国」日本の植民地政策	日本は日清戦争の結果、新たに台湾を領有し、また日露戦争の結果、大韓帝国を保護国化し、さらには併合するに至った。これら新たに「植民地」となった地域の問題を、日本はどのように扱おうとしたのかを見る。 【キーワード】 台湾、朝鮮、植民地、特別統治主義、内地延長主義	千葉功(昭和女子大学准教授)	千葉功(昭和女子大学准教授)
7	上昇期の政党勢力と政治	帝国議会の開設以後、政党(民党)が力をまし、反政党的な藩閥政府も提携せざるを得なかった。さらに、両者が縦断して提携する政党が誕生した。この流れを、自由党―立憲政友会系と改進党―非立憲政友会系の相克から見てみる。 【キーワード】 藩閥政府、民党、縦断政党、立憲政友会、立憲同志会	千葉功(昭和女子大学准教授)	千葉功(昭和女子大学准教授)
8	対中政策の破綻と国際協調の受容	第一次世界大戦中における対中外交の極端から極端へのぶれは、大戦終了とともにその破綻を明らかにしていた。大戦後の日本政府はパリ講和会議・ワシントン会議において、どのように国際協調政策を受容して行ったかを見る。 【キーワード】 反袁政策、援段政策、パリ講和会議、ワシントン会議、国際協調	千葉功(昭和女子大学准教授)	千葉功(昭和女子大学准教授)
9	昭和初期の経済政策論争	第一次世界大戦後の慢性的な不況に対し、政治の主役に躍り出た政党はかつてないほど、自党の政策を国民に積極的にアピールした。それが立憲政友会の産業立国論と民政党の金解禁論である。この論戦の模様を紹介し意味を考える。 【キーワード】 政党内閣　金解禁　昭和恐慌　産業立国	季武嘉也(創価大学教授)	季武嘉也(創価大学教授)
10	「満州国」	満州事変が起こり、そして1932年「満州国」が建国を宣言した。世界注視の中、日本としては立派な国家を建設することが要求され、様々な方面で新たな試みがなされた。その試みと崩壊を検証する。 【キーワード】 満州　関東軍　石原莞爾　溥儀　協和会　新京	季武嘉也(創価大学教授)	季武嘉也(創価大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	選挙粛正と翼賛選挙	1925年から選挙粛正運動が展開された。この目的は買収など選挙違反を徹底的に防止することにあったが、実際は社会のあり方や国民生活を、行政が直接に掌握しようという意図も含まれていた。翼賛選挙につながるその展開過程を探る。 【キーワード】 選挙粛正　翼賛選挙　内務省　町内会　部落会	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
12	近衛文麿と昭和の戦争	若き日に「英米本位の平和主義を排す」を発表して多くの期待を集めた近衛文麿はその後も順調に政治家の道を歩み、ついには1937年に首相の座につき、以後困難な外交問題に立ち向かうことになった。その彼の軌跡を紹介する。 【キーワード】 近衛文麿　大政翼賛会　近衛上奏文　終戦工作　日米交渉	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
13	戦後文化とメディア	戦後文化とよばれるものには、ラジオ・映画・テレビなどのメディアを通じて広まったものが多い。各メディアの特徴と展開を踏まえながら、どのような文化が形成され、受容されたかを見る。 【キーワード】 ラジオ　映画　テレビ　メディア　戦後文化	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）
14	転換点としての安保改定問題	1951年サンフランシスコ講和会議で調印された日米安全保障条約は、岸信介首相の強い希望で1960年に改定された。その際に大規模な反対運動が起こったが、改定が決定した瞬間から運動は急速に衰えた。その転換の意味を考える。 【キーワード】 日米安全保障条約　安保闘争　岸信介	季武嘉也（創価大学教授）	季武嘉也（創価大学教授）
15	高度成長−源流からその後まで−	昭和30年に始まる日本の高度成長は、世界でも突出した経済成長であったが、その原形は第二次大戦期の統制経済にあった。日本株式会社の源流を探るとともに高度成長以後の経過についてたどる。 【キーワード】 所得倍増計画、戦時経済、高度成長、石油ショック	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）	小風秀雅（お茶の水女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1114115	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地中海世界の歴史 （’０９）＝（ＴＶ）
－古代から近世－

〔主任講師（現職名）：本村　凌二　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：高山　博　（東京大学大学院教授）〕
【担当専任教員：草光　俊雄　（放送大学教授）】

講義概要

地中海世界は、古代から現代までヨーロッパのみならず西アジア・北アフリカをその中に取込み、独自の風土と文化、歴史を築いてきた。ギリシア、ローマ、エジプトやマケドニアなどの古代文明はその後のこの地域のみならず世界の歩みの中でも特色ある文明を支えてきたし、イスラムの成立以降はヨーロッパの歴史にも複合的な性格を与えてきた。A・ピレンヌの『シャルルマーニュとマホメット』、F・ブローデルの『地中海』などが明らかにしているように、地中海の歴史は世界史にとって魅力的で豊富な歴史研究の題材を提供してくれる。この講義は、こうした地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観する。

授業の目標

第一の目標は、地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観しながら、風土や文明が歴史の中に刻まれた足跡をたどり、歴史学の魅力を学生たちに伝えることである。第二の目標は、多様な文化的背景をもつ人びとが接触・交流・衝突してきた地中海の歴史を振り返ることにより、グローバル化する現代世界の異文化共存や衝突の問題を考察するための材料を提供し、自らが生きる世界の現在と未来を把握するための視座を提供することである。

履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地中海世界と文明の創造力	地中海世界は人類の文明史にとって、とてつもない意味をもっている。そこで文字が生まれ、アルファベットが開発され、一神教信仰が誕生した。その影響は現代にいたるまで地球規模の影響をあたえている。この創造力豊かな地中海世界の国家・社会・文化の底流にひそむものをさぐってみたい。 【キーワード】 地中海、島　船、都市国家、オリーブ、ワイン	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）
2	オリエント世界	現代人の目から見れば、文明の誕生から2千年以上の間、人々は無意識のなかで生きていたという見解がある。この時代の人々には神々の声が聞こえ、ときにはその姿を見ることができたともいう。その痕跡は今日、どのような形で残っているのか。メソポタミアの「ギルガメッシュ叙事詩」やエジプトの「死者の書」などを手掛かりに、神々の世界に生きていた人々の心性にふれてみたい。 【キーワード】 楔形文字、ジッグラト、、ヒエログリフ、ピラミッド、心性	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
3	東地中海世界の激動と波及	前2千年紀後半になると、メソポタミアとエジプトの狭間にあるシリア・パレスティナ地方は大きな混乱期をむかえる。そこに生きる人々にはもはや神々の声は失われつつあったという。だが、それとともに唯一神をあがめる信仰が生まれ、少数の文字で記述するアルファベットが誕生する。このころ人類は新しい意識に目覚めつつあったと言うべきだろうか。混迷の時代を克服する形で成立した世界帝国として、アッシリアやペルシアがあった。その周辺には、一神教のユダヤ人も海洋立国のフェニキア人もポリス成立期のギリシア人もいた。 【キーワード】 アルファベット、アクエイアテン、ハビル、海の民	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）

回		内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ギリシア世界	高度なオリエント文明の辺境に生まれたポリスはやがて独自の力をもつギリシア文明を築いた。古典期のギリシア世界は世界史のなかで特異であった。このポリス社会のなかで培われた民主政と普遍的・論理的思考は周辺地域に大きな影響をおよぼすようになる、それはヘレニズムとよばれる文明の推進力であった。 【キーワード】 ポリス、民主政、アレクサンドロス、シンクレティズム	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
5	共和政期ローマ	西地中海のイタリア半島に成立したローマはいかにして地中海世界全域に覇権を築くことができたのか。前2世紀までのローマを共和政ファシズム国家としてとらえながら、やがてまごうことなき世界帝国となっていくローマの興隆史をたどる。 【キーワード】 S・P・Q・R、「父祖の遺風」、内乱の百年、カエサル	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
6	ローマ帝国と多神教世界	ローマ興隆史の頂点で登場するカエサルという経験を通じて、ローマ人は何を学んだのだろうか。初代皇帝アウグストゥスがもたらした国家の在り方とは？　その後、二百年以上もつづく平和と繁栄の時代は人類史にとっても前例のない体験であった。それにもかかわらず、混迷と危機は忍びよっていた。 【キーワード】 権力と権威、「パンとサーカス」、多神教世界帝国	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
7	一神教世界帝国と古代末期	3世紀の財政危機、経済危機、政治危機が重なり、社会不安が増幅するなかで、キリスト教信仰は飛躍的な成長期をむかえる。国政の再建はやがて一神教世界帝国という人類史上の新たな局面をむかえる。それは古典古代文明の変貌でもあった。この「古代末期」という時代は20世紀末以後の現代文明と酷似した一面をもっている。その現代史的意味も考える機会にしたい。 【キーワード】 「三世紀の危機」、グローバリズム、地域分裂	本村　凌二（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授）
8	西地中海の新たなる秩序 ～古代から中世へ？～	古代から中世への移行期は今や大きく書きかえられようとしている。それは文明の没落というよりも変質であった。グローバル化と地域細分化が同時に進むなかで、この時期に向けるまなざしは多種多様である。古代史家と中世史家とのそれぞれの目に映る時代相の異同を語りあう機会にしたい。 【キーワード】 地中海世界の東部と西部、古代末期、中世初期	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）
9	東地中海の覇者 ～東ローマ帝国（ビザンツ帝国）の千年～	東ローマ帝国は、西ローマ帝国と異なり、ゲルマン諸族の大移動以後も滅亡することなく、一千年ものあいだ存続した。旧西ローマ帝国領の大半を再征服して東ローマ帝国の基礎を築いたと考えられているユスティニアヌス一世とその皇妃テオドラに焦点を当てて、その理由を考察する。 【キーワード】 東ローマ帝国、ビザンツ帝国、ユスティニアヌス、ギリシア正教	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	三つの文化圏	7～8世紀にイスラーム勢力が北アフリカとスペインを支配するようになると、地中海周辺地域は、ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏が鼎立した状態となる。これら三つの文化圏はどのような違いをもっていたのか。比較して、それぞれの特徴を考える。 【キーワード】 ラテン・カトリック文化圏、ギリシア・ビザンツ文化圏、アラブ・イスラーム文化圏	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
11	ノルマン人と地中海	北フランスのノルマンディから傭兵として南イタリアへやってきたノルマン人たちは、この地に定着して自分たちの国を築き、12世紀にはノルマン・シチリア王国が成立する。イスラム文化、ビザンツ文化、ヨーロッパ文化が並存して栄えたこの王国の特徴を考える。 【キーワード】 ヴァイキング、ノルマン人、南イタリア征服、ノルマン・シチリア王国の成立	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
12	シチリア王国 ～文明の交差点～	中世の地中海周辺地域では異文化に属する人びとの接触は広い範囲にわたって生じていたが、恒常的な接触・交流がなされた場所として注目すべきは、異なる文化圏の境界地域、とりわけ、イベリア半島とシチリア島である。ここでは、シチリア島に焦点を当てて、その異文化交流の実態にせまりたい。 【キーワード】 シチリア島、異文化交流	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
13	地中海における文明の衝突　～十字軍～	地中海における文明の衝突として多くの人びとの脳裏に最初に浮かぶのは、十字軍だろう。この十字軍の歴史のなかで、唯一戦闘を交えず、交渉によって聖地エルサレムを取り戻した十字軍がある。神聖ローマ皇帝フリードリヒ二世の十字軍である。この十字軍に焦点を当てて、「文明の衝突」を考えてみたい。 【キーワード】 十字軍、フリードリヒ二世、文明の衝突	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
14	地中海ネットワーク	ローマ帝国が地中海に君臨していたとき、ローマ人は地中海を「われらの海」と呼んだ。実際、彼らは地中海のほぼ全域を支配下におき、地中海全体の制海権を手にしていた。しかし、西ローマ帝国が滅びた後、地中海は複数の政治勢力が相対立する場となった。この時期、人びとや商品の移動は、どのように変化したのだろうか。 【キーワード】 交易路、交易圏、制海権、商品、商人、旅人	高山　博（東京大学大学院教授）	高山　博（東京大学大学院教授）
15	地中海世界の歴史	現代世界は古代史家には「古代末期」と重なり、中世史家には「中世」的なものを潜ませた世界に映るという。地中海の歴史は、現代に生きる私たちに何を語り、何を教えてくれるのか。歴史家である二人の講師が、自らの研究と体験にもとづいて、それぞれの想いを語る。 【キーワード】 グローバル化、地中海史、地中海研究、時代区分、歴史	高山　博（東京大学大学院教授）	本村　凌二（東京大学大学院教授） 高山　博（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 国文学入門 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：林　達也（駒澤大学教授）　〕

講義概要

国文学全般について広い視野から展望するとともに基本的な教養に必要な事項や定説とされる知見に関する情報を提供する。また、学問の基礎作業について注意を喚起する。さらに、先進的な問題をも紹介しつつ概説を超えて研究のスタイルについても参考となるように全体を歴史的に通観する。

授業の目標

日本という風土に生きてきた(あるいは現に生きている人々の生活感覚・風習伝統・感性・息吹をこの国の言葉に託して相対として表現した文学、それは、人間の根源の表現も言うべきものといえる。その日本の文学のありようを、古代から現代に至る流れを相対的に、系統的に学ぶことによって、私たちがどのような表現を獲得し、その可能性に真摯に向かい合ってきたか、私たちの祖先がどのように生きてきたかを把握し、現代に生きる私たちの依って立つ基盤の認識にいたることが、この授業の遠大な目標である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	本講義の目的と方法について述べる。時代別の構成をとらずに、韻文・散文・漢詩文の三分野を柱として講義を展開していることの理由を説くことからはじめて、全体の配置・構成を紹介する。そして、特に、日本古典文学における韻文の問題点がどのあたりにあるのかについて、基本的な考えを示す。	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）	林　達也（放送大学客員教授・駒澤大学教授）
2	歌謡と和歌	韻文の初発に位置付けられる上代歌謡についてその特質を叙述し、万葉集和歌との連続と不連続について考察する中から、和歌原初の形質、万葉集和歌について考察する。さらに、平安から近世までの歌謡についても概観し、歌謡の特質と時代性について言及する。	同上	同上
3	勅撰集の時代	古今集から新古今集までの勅撰集の和歌に即しながら、平安から鎌倉初期に至る時代の和歌について、歌詞や和歌表現の形成、和歌と物語の関わり、和歌の詠まれる場、和歌と評論（歌論）等の諸問題を取り上げ、和歌の定着と展開、その価値について考える。	同上	同上
4	和歌の諸相	勅撰集では新勅撰集・玉葉集・風雅集を取り上げ、中世の自然詠・恋歌を概観する。さらに、応仁の乱以降の和歌について、貴族・連歌師・武人・地方歌人相互の関わりを通して考察し、近世の和歌については、堂上と地下との関連、儒学や国学との交渉の過程からいかなる状況が生じていたのかに言及し、幕末の和歌に及ぶ。	同上	同上
5	連歌と俳諧	平安末期の勅撰集『金葉集』にはすでに連歌が収録されているが、慰み物のであった連歌が、中世中期に至って文芸として盛行する過程を追いながら、連歌の文芸としての価値を見定める。また、連歌から派生し、江戸期に入って文芸の主流となった俳諧については、主要な俳諧師の活動を把握し、俳諧の文芸性、俳諧盛行の意味を考察する。	林　達也（駒澤大学教授）	林　達也（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	王朝の漢文学	日本文学において漢文学の果たした役割を概観した上で、平安時代を中心に、奈良時代から鎌倉時代前期に至る、主に貴族が担い手となった漢文学について、ジャンルとの交流をも視野に入れつつ考える。	堀川　貴司（鶴見大学教授）	堀川　貴司（鶴見大学教授）
7	禅林の文学	鎌倉時代中期になって新たに漢文学の担い手として登場した禅僧たちの文学について、禅宗寺院という場と社会・政治、特に武家政権との関わりに注意しながら、その変遷をたどっていく。	同上	同上
8	近世の漢文学	儒学者たちによって担われた江戸時代の漢文学について、禅林の文学の継承と否定、同時代の中国の学芸との関わり、学問と文学の分離、漢詩の大衆化など、様々な視点から考え、近代文学との接点についても触れる。	同上	同上
9	ひらがな文学の成立と日記文学の流れ	どのようにしてひらがな体の文章が成立したか、『土佐日記』を例にして考え、以降の日記文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
10	物語文学の流れ1	歌物語も含め『竹取物語』、『伊勢物語』に始まる物語文学の成立を考え、平安中期の『源氏物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
11	物語文学の流れ2	『夜の寝ざめ』など平安後期から江戸期の『雨月物語』までの物語文学の流れをみる。	同上	同上
12	説話文学と随筆文学の流れ	『日本霊異記』、『枕草子』に始まる説話、随筆文学の流れをみる。	古橋　信孝（武蔵大学教授）	古橋　信孝（武蔵大学教授）
13	歴史文学と語り物文学の流れ	『古事記』、『日本書紀』、『大鏡』など歴史文学と、『平家物語』など語り物文学の流れをみる。	同上	同上
14	近代の詩歌	明治以降、西洋の「ポエトリー」の概念が「歌ト詩トヲ総称スル」ものとして導入され、近代文学のジャンルとして誕生した「詩」の、成立と展開、口語自由詩への変容の過程を概観する。	勝原　晴希（駒澤大学教授）	勝原　晴希（駒澤大学教授）
15	近代の小説	明治以降、西洋文明の影響のもとに形成されてきた「小説」というジャンルは、近代社会のあり方に規定される一方で、たとえば言文一致体の創出のように、近代社会を支えてもきたし、さらには近代社会の批判者でもあった。近代社会との相互交渉という観点から、明治以降の小説の様々な様相を概観する。	高橋　博史（白百合女子大学教授）	高橋　博史（白百合女子大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　文学の愉しみ　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：柴田　元幸（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：沼野　充義（東京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：野崎　歓（東京大学准教授）〕

講義概要

専門を異にする複数の主任講師・分担講師によって、20世紀から現代を中心に、世界の文学を概観するリレー形式の講義。3人の主任講師はそれぞれの専門である英米文学、フランス、ロシア・東欧文学を中心に、それ以外の領域も視野に入れて講義をし、現代世界の様々な地域の文学をカバーする。またファンタジー、推理小説などの分野については分担講師が講義する。さらに現在活躍している日本の作家をゲストとしてお迎えして話をうかがい、書き手と読み手の対話を行なう。

授業の目標

現代世界の文学の多様性に触れ、その現代的意義を理解する。また、日本文学も世界文学の中に位置づけて考え、多様でありながら、同時に国境や文化の壁を越えて享受される文学のグローバルなありかたを探る。ただし、何よりも大きな目標は、授業で取り上げた作品を受講者が自分でできるだけたくさん読み、文学を読む愉しさを実際に体験することである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	全体のイントロダクション＋英米文学① 20世紀末の文学	1980～90年代アメリカの小説を取り上げる。1960年代くらいまでは現代文学といえば前衛、という風潮があったが、70年代なかばごろから、一見素朴なリアリズム小説が主流になってくる。レイモンド・カーヴァーなどの作品を取り上げ、その保守性・現代性を検討しながら、当時のアメリカ社会に流れていた空気もあわせて考えたい。 【キーワード】 ポストモダン、the me decade	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
2	英米文学②　21世紀の英米文学	世紀の変わり目ころから、リアリズム中心だったアメリカ文学が、急速に非リアリズム化してくる。それとともに、ポップカルチャーのさまざまなアイテムが小説の重要な要素となる場合も増えてきた。ポール・オースター、ケリー・リンクなどを取り上げて、近年のアメリカ小説における「現実」の変容について考える。 【キーワード】 ポップカルチャー	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
3	英米文学③　英語で読む現代世界文学	カズオ・イシグロのように英語で書く日系作家や、村上春樹のように英訳されて広く読まれている作家など、英語圏から見ても「日本」はさまざまな形で見えてくる。「日本」をはじめとして、英語圏からはどのように「世界」が見えるのかを考える。 【キーワード】 グローバリゼーション	柴田　元幸（東京大学教授）	柴田　元幸（東京大学教授）
4	推理小説	古典的探偵小説の代表的な例として、アガサ・クリスティーの『オリエント急行の殺人』を精読し、その小説技法を検討しながら、英米推理小説史の概略についても触れる。推理小説を題材にして、小説一般にも広く応用できるような読み方を提供したい。 【キーワード】 古典的探偵小説	若島　正（京都大学教授）	若島　正（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	日本の作家を迎えて①ゲスト:川上弘美さん	川上弘美さんの代表的作品に即して、その創作方法や文学観をめぐって、書き手と読み手の間で対話を行い、作品の理解を深める。また、この授業で扱う世界の様々な文学を川上さんがどう読んできたか、語っていただき、授業の中間的なまとめとする。 【キーワード】 作家固有の文体、翻訳可能性、日本的幻想	柴田　元幸(東京大学教授)	(聞き手) 柴田　元幸(東京大学教授)
6	フランス文学とその他①	戦後のフランス小説の大きな傾向として、「わたし」による語りが顕著になったことがあげられる。カミュ『異邦人』をその一つの起源として、80年代のポストモダン小説から、近年の「オートフィクション」にいたるまで、フランス流「私小説」の多様さと一貫性を探る。 【キーワード】 オートフィクション、一人称、私小説	野崎　歓(東京大学准教授)	野崎　歓(東京大学准教授)
7	フランス文学とその他②	現代のフランス文学は、むしろ「フランス語文学」と呼ぶべき広がりを示している。旧植民地国出身の作家たちばかりでなく、さまざまな形で移民してきた作家、フランス語を選び取った作家たちが文学を活気づけている現況に焦点を当てる。 【キーワード】 移民、亡命、越境	野崎　歓(東京大学准教授)	野崎　歓(東京大学准教授)
8	フランス文学とその他③	忘れられた過去を掘り起こしたり、現代史のタブーに挑んだりする試みが、近年のフランス小説で注目すべき成果をあげている。文学作品が今日、共同体にとってはたしうる役割のありかを、それらの作品をとおして探ってみたい。 【キーワード】 記憶、現代史、文学と共同体	野崎　歓(東京大学准教授)	野崎　歓(東京大学准教授)
9	日本の作家を迎えて②ゲスト:辻原登さん	現代における「物語」の可能性を意欲的に探求し続ける辻原さんのこれまでの歩みを振り返りつつ、主要作品をめぐって対談を行う。また、辻原さんの文学創造にとって翻訳文学、世界文学を読むことがどのような刺激となってきたかを語っていただく。 【キーワード】 物語、翻訳文学、世界文学	野崎　歓(東京大学准教授)	(聞き手) 野崎　歓(東京大学准教授)
10	ロシア文学	20世紀後半のロシア文学の中から、何人かの傑出した作家や詩人を選んで、それぞれの代表的作品の主題や書き方について検討する。またソ連・ロシアの歴史的背景も視野にいれ、社会と文学の関係を探る。取り上げる作家は、ソルジェニーツィン、ブロツキー、ドヴラートフなど。 【キーワード】 社会主義リアリズム、「反体制」知識人、亡命文学	沼野　充義(東京大学教授)	沼野　充義(東京大学教授)
11	東欧文学	20世紀の東欧文学から、何人かの際立って興味深い作家の代表作をとりあげて、東欧的な特徴とその魅力について考える。取り上げる作家は、カフカ、クンデラ(チェコ)、シンボルスカ、レム(ポーランド)、パヴィチ(セルビア)など。 【キーワード】 中欧と東欧	沼野　充義(東京大学教授)	沼野　充義(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	世界文学	現代世界の文学には、国や言語を越えて国際的に活躍した作家たちもいれば、その逆に狭い一国の中にとどまりながら、世界的な普遍性を獲得した作家たちもいる。その両者に注目しながら、現代の世界文学のありかたについて考える。取り上げる作家は、ナボコフ、イスカンデル、ガルシア＝マルケス、大江健三郎、リービ英雄、多和田葉子など。 【キーワード】 世界文学	沼野　充義（東京大学教授）	沼野　充義（東京大学教授）
13	ファンタジー	『ハリー・ポッター』、『ロード・オブ・ザ・リングス』、『ナルニア国物語』、『ゲド戦記』など、ファンタジー作品がなぜこれほど読み継がれ、隆盛をほこっているのか。現代社会とファンタジーの関係について振り返ってみる。 【キーワード】 現実と幻想、魔法、成長物語、聖杯探求	小谷　真理（評論家）	小谷　真理（評論家）
14	日本の作家を迎えて ③ゲスト：池澤夏樹さん	世界文学に対する広い視野を持ち、世界各地を旅行し、ギリシャ、沖縄、フランスなどに居住してきた池澤氏に、自身の文学をそういった世界的な文脈で語っていただく。また外国語文学を読むことと、翻訳の役割について討議する。 【キーワード】 世界文学全集、「地理型」想像力と「歴史型」想像力	沼野　充義（東京大学教授）	（聞き手） 沼野　充義（東京大学教授）
15	まとめ（共同討議）	3人の主任講師（柴田・野崎・沼野）による共同討議。全体のまとめ。この講座でとりあげられた主要な話題について再検討し、最後に3人の講師それぞれの「文学の愉しみ」方を語って、聴講者に対するメッセージとする。 【キーワード】 日本文学と外国文学、翻訳、言語・文化の境界、文学における伝統とグローバゼーション	柴田・野崎・沼野（共同執筆）	柴田・野崎・沼野

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1111205	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 人文地理学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「人文地理学(’04)」の一部改訂科目です。
改訂回は、1, 8, 9, 10, 11, 12, 14回です。

〔主任講師（現職名）：小林　茂　（大阪大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉浦　芳夫　（首都大学東京教授）〕

講義概要

グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、まずその古典的視角の解説からはじめて、人間の環境への適応や環境改変、立地論、人間の空間行動などに関する枠組みを概観するとともに、それにあわせて発展してきた計量的手法や地理情報システム(GIS)を紹介する。さらにそれを基礎として今日の世界や日本の多彩な問題の理解にむけた課題を検討する。

授業の目標

現代の人文地理学の理解に必要な知識を身につけるとともに、変化の急速な社会の理解に有用な地理学的枠組みや手法について概観をえる。またこれらの理解の上に、福祉やジェンダーなど、現代的問題へのアプローチの方法に接することもめざす。あわせて、高等学校までの地理のイメージのリニューアルをはかりたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する世界へのアプローチ―人文地理学とはどんな学問か― **（※改訂回）**	グローバル化がすすむ今日、地球上の多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかは私たちの大きな課題となっている。近年の変化を大きく「時間と空間の圧縮」としてとらえ、人文地理学がその理解にどのように貢献できるか検討し、あわせて本講義の概要を示す。 【キーワード】 時間と空間の圧縮、国際化、流行病の拡散	小林　茂 (大阪大学大学院教授)	小林　茂 (大阪大学大学院教授)
2	地理的知識の発展と地図	世界の人びとは、自分たちの居住地に関する地理的知識を蓄積し、それをさまざまな手段で表現してきた。地図はそれらを視覚的に統合する媒体として大きな役割をはたし、正確さをましながら多彩に発展してきた。地理的知識の発展について、その地図的表現の歴史をみながら概観したい。 【キーワード】 地図、先住民、探検、測量、世界観	久武哲也 (甲南大学教授)	久武哲也 (甲南大学教授)
3	人文地理学の先駆者と古典理論	19世紀には、人文地理学の基礎となる3つの課題に関心が展開した。第1は人類の環境への適応および環境の改変で、アレクサンダー・フォン・フンボルトらによって展開された。第2は「地域の個性」の認識で、カール・リッターらによって推進された。第3は「空間と立地」で、フォン・チュウネン以降、立地論として進歩する。時代的背景と結びつけてこれらを概観する。 【キーワード】 環境、適応、地誌、立地論	久武哲也 (甲南大学教授)	久武哲也 (甲南大学教授)
4	環境への適応	人びとの環境への適応が、さまざまな戦略や方法で実現されてきたことを、具体例(ネパールの中間山地農村におけるマラリアに対する文化的適応と生物学的適応)を紹介しつつ解説する。その生活様式、民族分布、集落分布との関係など、関連する問題を概観し、環境への適応の意義を考える。 【キーワード】 マラリア、文化的適応、生物学的適応、集落立地	小林　茂 (大阪大学大学院教授)	小林　茂 (大阪大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	資源利用と景観	環境への適応の一局面である資源利用が、景観の形成に密接にむすびついていることを、具体例(福岡県太宰府市の農業水利と里山利用)を紹介しながら解説する。また資源利用の変化が景観をどのように変化させるかについても具体例に即して示し、景観のもつ意味について考える。 【キーワード】 農業水利、里山、土地利用、都市化	小林 茂 (大阪大学大学院教授)	小林 茂 (大阪大学大学院教授)
6	農村・定期市・都市－中心地論からみた地理空間－	農村空間を背景に都市的集落が成立するプロセスを中心地論から説明する。まず経済発展の低い段階では定期市システムが成立することを、スタインのモデルを用いて説明する。ついで、定期市システムを克服して都市的集落の階層的配置(中心地システム)が成立することを、クリスタラーのモデルを用いて説明する。 【キーワード】 中心地、定期市、都市、商業	石原 潤 (奈良大学教授)	石原 潤 (奈良大学教授)
7	計量革命	1950年代中葉のアメリカ地理学界で起こった計量革命(地理学の理論化・数量化の動き)は、世界の地理学の学問内容を刷新した。計量革命の背景を当時のアメリカの社会や地理学界の現況と関係づけて説明するとともに、計量革命がめざした新しい地理学(「空間の科学」としての地理学)について概説する。 【キーワード】 戦時地理学、地域科学、コンピュータ、計量地理学	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)	杉浦芳夫 (首都大学東京教授)
8	都市システム **(※改訂回)**	都市のシステム論的な記述・分析は、1960年代から人文地理学にとりこまれる。複数の都市間の機能的な関係を特定する都市群システムの視点と、都市内部の部門間の関係から1つの都市をシステムとみなす都市内部システムの視点から研究が推進された。これらにより、都市システムが、どのように記述・説明され、さらには予測されているかを述べる。 【キーワード】 都市群システム、都市内部システム、因子生態研究、都市モデル	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
9	GIS革命 **(※改訂回)**	1980年代後半に始まる地理情報システム(GIS: Geographic Information Systems)革命は、紙地図からデジタル地図というIT技術の地理学の導入にとどまらず、地理情報システムを地理情報科学へと展開させた。この革命がどのように進展したのかを紹介し、バーチャル空間などの新しい概念の地理学への影響などについても言及する。 【キーワード】 地理情報システム、地理情報科学、バーチャル空間	矢野桂司 (立命館大学教授)	矢野桂司 (立命館大学教授)
10	生活空間と福祉 **(※改訂回)**	生活の質(QOL)や福祉について、人文地理学に特徴的な見方(地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係など)が、福祉の問題の把握・理解・解決に有効であることを、具体例によりGISを使いながら説明する。 【キーワード】 福祉、地域的不平等、空間的近接性、身体－環境関係	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)	宮澤 仁 (お茶の水女子大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ジェンダーと都市空間 （※改訂回）	現代社会の理解にジェンダーの視点は欠かすことができない。それは、現代の都市空間とそこでの生活を理解する上でも同様である。ジェンダーの視点から、都市の空間構造や居住地選択、生活行動の時空間パターンなどの特徴を、GISによりながら明らかにする。 【キーワード】 ジェンダー、居住地選択、時間地理学	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
12	情報と現代空間 （※改訂回）	交通・通信技術の発展と普及は、移動やコミュニケーションにかかる時間を大幅に短縮することで、現代の経済活動と社会生活に利便性と大きな可能性を与え、その空間構造を変化させている。複数のトピック（産業立地やセキュリティ）を取り上げ、情報と現代空間の関係に言及する。 【キーワード】 情報、バックオフィス、遠隔医療	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）	宮澤 仁 （お茶の水女子大学准教授）
13	発展途上国の都市生活	郊外化・情報化のすすむ先進国の都市に対して、発展途上国では、農村から都市への人びとの移動が継続し、そのなかには国境を越える場合もすくなくない。その結果発生してきた都市のスコッター地区の生活にくわえ、施設の未整備や不充分な行政サービスなどの問題を検討する。 【キーワード】 発展途上国　都市、スコッター、コミュニティー形成、	池谷和信 （国立民族学博物館教授）	池谷和信 （国立民族学博物館教授）
14	発展途上国の環境問題－サハラ以南アフリカからの展望－ （※改訂回）	自然保護思想が普及し、世界遺産（自然遺産）や国立公園のような自然保護区の面積が増えている。野生動物観光が盛んなアフリカでは、保護区の設立にともない住民は区外へ移住を余儀なくされたり、住民と政府との間で軋轢が生まれている。アフリカでの自然と人との関係の地域性に注目して、保護区における持続的な資源利用のあり方について考える。 【キーワード】 自然保護区、先住民、資源利用、観光	池谷和信 （国立民族学博物館教授）	池谷和信 （国立民族学博物館教授）
15	人文地理学と現代	現代社会における人文地理学研究の役割の例示にむけて、多摩ニュータウンを対象に、前章までに示された手法を援用して分析し、その人々の居住との関係を検討する。ベッドルーム・タウンとして開発されたニュータウンが、高齢者や既婚女性にとってはかならずしも住みやすくないことを示し、場所の理解にいたる人文地理学研究の道を示す。 【キーワード】 ニュータウン、高齢者、既婚女性、場所の理解	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）	杉浦芳夫 （首都大学東京教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（人文系）	科目ｺｰﾄﾞ	1212907	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 博物館概論（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：佐々木 利和（国立民族学博物館教授）〕
〔主任講師（現職名）：松原 茂（㈶根津美術館学芸部長）〕
〔主任講師（現職名）：原田 一敏（東京国立博物館上席研究員）〕

講義概要

博物館には、大規模博物館と小規模の博物館とがある。博物館の基本は地域に根ざした小規模博物館にあると考えている。そして博物館が拠って立つ所以は「モノ」にある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場でしかない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した博物館について、資料取り扱いを中心とした博物館の業務について講義し、あわせて実践的な活動を行っている小規模博物館をみながら、博物館の現実的なあり方を考える。

授業の目標

博物館員の資質は「モノ」について熟知していることである。「モノ」の熟知とは、そのもののもつ特性、来歴等をよく知り、かつ、十分に安全で確実な取り扱いができることである。加えて、そのものを現実の展示の中で、よく生かすことである。展示の基本である「モノをして語らしめよ」という視点から、モノと展示に関して過不足のない知識の享受してほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館とは	博物館のさまざまな形態およびその運用の実際について講義する。博物館の拠って立つ基盤は「モノ」にあるということを意識しながら、博物館法などを読み、博物館のありかたについて考える。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
2	博物館史	日本の博物館の歴史について略述する。この場合、日本の中央博物館として、特殊な存在形態であった帝室博物館について述べ、ついで、日本で最初の人類学博物館であった銅駝坊陳列館に触れて、日本初期博物館について考える。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
3	博物館資料取扱論1（美術品）	博物館員にとってモノの取り扱いが正しくできるかどうかは、きわめて重要な問題だが、その技術を持つものは意外に少ない。ここでは日本美術や日本史の基礎資料である巻子（巻物）や掛幅（掛け軸）、屏風などの取扱法を学び、あわせてそれらの調書の取り方についても学習する。	松原 茂（㈶根津美術館学芸部長）	松原 茂（㈶根津美術館学芸部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	博物館資料取扱論2(彫刻)	日本彫刻は仏像によって代表されるが、それが信仰の現実的な崇拝の対象であることに考えが及ばないことがままある。ここでは仏像の取り扱い方法について講義する。あわせて調書の取り方についても考える。	岩田　茂樹(奈良国立博物館学芸課美術室長)	岩田　茂樹(奈良国立博物館学芸課美術室長)
5	博物館資料取扱論3(工芸品1)	日本工芸の一方を代表する金工品に着目し、その取り扱い法を講義する。あわせて、刀剣の取り扱い方、手入れについても論じ、効果的な展示方法についても述べる。金工品や刀剣の調書の取り方についてもふれてみたい。	原田　一敏(東京国立博物館上席研究員)	原田　一敏(東京国立博物館上席研究員)
6	博物館資料取扱論4(工芸品2)	日本工芸の代表するものとして人気の高い陶磁器を取り上げ、その取扱いについて伊藤嘉章が講義する。あわせて、漆工品についての取扱方法を竹内奈美子が講義する。そして調書の取り方についても触れる。	伊藤　嘉章(九州国立博物館企画課長) 原田　一敏(東京国立博物館上席研究員)	伊藤　嘉章(九州国立博物館企画課長) 竹内奈美子(東京国立博物館)
7	博物館資料取扱論5(工芸品3)	日本を代表する工芸のひとつでありながら、意外に取り扱いがむつかしい甲冑の取扱方法および展示法について池田宏が講義する。 また染織とりわけ小袖についての取扱法を小山弓弦葉が論ずる。そいてこれらの調書の取り方についても触れる。	池田　宏(文化庁美術学芸課主任文化財調査官) 原田　一敏(東京国立博物館上席研究員)	池田　宏(文化庁美術学芸課主任文化財調査官) 小山弓弦葉(東京国立博物館)
8	博物館資料取扱論6(考古・歴史資料)	日本考古学において比較的取り扱いがむつかしい土器および金属器について井上洋一が講義し、日高慎がそれを助けるかたちでの授業をおこなう。調書の取り方についても述べる。 歴史資料という範囲は広いが、その資料の多くは絵画や工芸と共通する取り扱いである。ここでは地図・絵図の取り扱いを中心に版本・写本についても述べる。また調書の取り方についても考える。	井上　洋一(東京国立博物館事業企画課長) 佐々木利和(国立民族学博物館教授)	井上　洋一(東京国立博物館事業企画課長) 佐々木利和(国立民族学博物館教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	博物館資料取扱論７（保存修復）	資料の保存について臨床保存学という観点から講義する。臨床保存学とは損傷した資料を安全に修理し、輸送や展示に際して環境変化から安全を確保する予防措置を施すことであるが、その具体例をあげながら保存、保護について考えていく。	神庭　信幸（東京国立博物館）	神庭　信幸（東京国立博物館）
10	博物館資料取扱論８（梱包法）	博物館活動において資料を貸借により移動することがままある。その際には梱包という作業が必要となり多くの場合、業者委託という手段がとられる。しかし、身の回りの素材を活用しながら、安全梱包を博物館員おこなうという観点から梱包方法について講義する。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授） 岩淵　建夫（東京国立博物館）
11	地域博物館の活動１	地域博物館にはさまざまな活動を行っている博物館がある。それらの活動を紹介しながら博物館活動のありかたについて考えていく。 ここでは北海道白老町にある財団法人アイヌ民族博物館をとりあげ、日本における異文化とその伝承、展示について考えていく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
12	地域博物館の活動２	日本最北の博物館である利尻町立博物館を訪れ、その地域に根ざさした活動および学芸員の仕事についてみていく。また、にかほ市立象潟民俗資料館は芭蕉との関連で著名な存在であるが、意外な地域活動を持っている。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
13	地域博物館の活動３	日本最南端の八重山博物館および与那国民俗資料館にうかがい、琉球の先島の文化について考える。また、与那国民俗資料館はもっとも西に位置する私立博物館であり、その運営法についても学んでいきたい。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
14	地域博物館の活動４	沖縄県に新しい県立博物館が誕生する。ここでは新たな博物館ができるまでのさまざまな活動についての方法を学んでいく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）
15	博物館の現在的課題－教育・普及活動	博物館の現在的課題、地域住民と博物館とのありかた、あるいは地域ボランティア、住民のための陳列などといった視点からひとつの博物館に注目し、地域博物館の将来について考えていく。	佐々木利和（国立民族学博物館教授）	佐々木利和（国立民族学博物館教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1120204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　仕事・所得と資産選択　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：大藪　千穂　（岐阜大学准教授）　　〕

講義概要

会社に就職しまじめに働いていれば終身雇用が保証され年功序列型賃金体系のなかで給料は上がり、貯蓄をして、退職金をもらい年金を受給して・・・・という時代はもはや終わった。今日では、主体的に仕事と所得を考え、資産を選択することの必要性がますます高まっている。本科目では、主体的に生活およびその経済的側面のありかたをデザインするてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

授業の目標

全15回の講義を通じて、様々なライフステージ、ライフサイクル、ライフスタイルで必要となる生活とお金との関係を理解し、自ら自立した人間として、自分の生活とお金をコントロールできる力を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	戦後の経済変化と生活	第二次世界大戦から60年以上が過ぎたが、その間にわが国は高度経済成長期、石油ショック、バブル経済を経て、長い不況期と好況期等様々な経済の変化を経験してきた。このような経済の変化によって生活は常に影響を受けている。経済の変化と生活は密接な関係にあることを解説する。 【キーワード】 高度経済成長、バブル経済、平成不況	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
2	外国の家計研究の歴史	外国の家計研究の歴史を、エンゲル以前、エンゲル、そしてエンゲル以後に分けて学び、エンゲル法則の活用について理解する。 【キーワード】 エンゲル、エンゲル係数、エンゲル法則、エンゲル関数	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
3	わが国の家計調査の歴史	家計簿が何のために何時ごろから使われ始めたのかをわが国の歴史から紹介し、どのように家計分析が国家経済のために活用されてきたかを理解する。また、現在よく使われる家計関連の調査とその活用方法を紹介する。 【キーワード】 政治算術、家計調査、生計費、家計	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
4	家計収支と家計簿の活用	国民経済の中の家計の位置を確認する。また、家計の収支関係に基づいて、一般的に用いられている家計簿のつけ方について紹介する。また家計簿を用いた家計分析について理解する。また家計をめぐる様々な法則について理解し、それらを家計チェックに活用できることを目指す。 【キーワード】 国民経済、家計収支、必需品、消費水準、消費者物価指数	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	ライフサイクルと貯蓄、負債	人生にはそれぞれのライフステージがある。幼少時代、学校教育期間、就職、結婚、出産、熟年時代、退職、老後・・・・。人によって異なるが、一般的に通過するステージとその時にかかる費用を紹介し、生涯賃金との関係で貯蓄、負債の現状を理解する。 【キーワード】 ライフサイクル(生活周期)、ライフステージ(家族周期段階)、貯蓄、負債	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
6	社会保障と家計	一生、健康で元気に働ければよいが、人生には病気やケガなど予期せぬ出来ごとがおこるものである。そのような時のために、どのような保障があるのか、また自助努力で準備しなければならない保険にはどのようなものがあるか、その金額はどれほど必要なのかを紹介する。 【キーワード】 社会保険、社会福祉、公的扶助	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
7	若い人の仕事と生活設計	フリーターやニートという言葉が一般化してきたが、近年、若い人の就職が大きな問題となっている。日本型雇用制度が崩れている今、若い人の就職に対する意識、就職率、離職率の推移から、若年層のライフスタイルと経済について紹介する。そして自立した生活をするにはどのような生活設計をたて、またそれらの支援策はどうあるべきかを考える。 【キーワード】 フリーター、パート、アルバイト、ニート、ロストジェネレーション	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
8	結婚と離婚の経済	女性は24歳頃に結婚し、寿退職、専業主婦になり、子どもを育てる・・・という時代はほぼ終わった。今や女性の平均初婚年齢は27歳を超え、仕事を続ける女性も増えた。結婚は、経済的安定を得る方法ではなくなりつつある。また、女性の経済的安定ゆえか離婚率も上昇している。現在の結婚観と離婚観から、結婚と離婚の経済について紹介する。 【キーワード】 晩婚化、パラサイト・シングル、熟年離婚、年金分割制度	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
9	共働き世帯と片働き世帯の経済	女性の自立や経済的安定のために共働き世帯が増加しているが、共働きと言っても、特に女性の就労形態によって、家計はかなり異なる。また、片働き世帯との家計の中身の比較を行うことによって、家計の何が違ってくるのかを理解する。 【キーワード】 共働き世帯、専業主婦世帯、母子世帯、父子世帯	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
10	教育と子への投資効果	子どもを生むだけでもお金はかかるが、近年は教育期間が長いので、大学まで卒業すると軽く1000万円を越す時代となった。どの教育段階で、どれほどの資金が必要で、その資金をどのように準備すればよいのか、また、それだけの投資効果は果たしてあるのか等、教育費が家計に与える影響について紹介する。 【キーワード】 義務教育費、学校教育費、学校外活動費、教育費の準備	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	団塊世代と資産運用	団塊世代の大量退職が現実となってきているが、今後、その世代が消費や資産運用に及ぼす影響は大きい。団塊の世代の退職後の生活設計とそれを実現するために必要な資産運用について紹介する。 【キーワード】 団塊の世代、2007年問題、資産運用	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
12	高齢者世帯の生活と家計	高齢者世帯と言っても、勤労者の場合と無職の場合、単身の場合と夫婦の場合等、家計状態が様々であることを紹介する。また、高齢期の生活に必要な金額の算出方法を知り、どれほどの貯蓄が必要か、高齢期の生活設計の必要性を理解する。 【キーワード】 超高齢社会、少子高齢社会、社会保障費、消費者問題	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
13	生活者を取り巻く新たな経済・社会情勢	生活者は、綿密な生活設計をしていても、社会政策や経済変動など、手の届かない場所で生じする変化の影響を直接受けてしまう。近年の格差社会の出現はその例である。また、情報不足から、多重債務や自己破産などの消費者問題にも巻き込まれる人が増加している。このような新たな社会情勢について紹介する。 【キーワード】 格差社会、新しい貧困、多重債務、自己破産、電子マネー	大藪千穂(岐阜大学・准教授)	大藪千穂(岐阜大学・准教授)
14	情報化社会の生活	コンピュータやケイタイが広く普及した現在、情報は、日常生活のあらゆる局面を左右するに至っている。本章では、仕事や資産活用をはじめとして、生活の様々な事柄に対して、私たちは情報をどのように利用したらよいか、さらに、生活者の側から、どのような情報化社会を創っていけばよいかを考える。 【キーワード】 情報活動、意思決定、インターネット、セキュリティ、リスク・マネージメント、デジタル・デバイド、ユビキタス	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)
15	持続可能な社会と生活	資源やエネルギー問題は家計と無関係ではない。21世紀が真に豊かな時代となるためには、私たちひとりひとりが、価値観やライフスタイルを見直す必要がある。本章では、日常生活の視点から、地域社会、そして地球規模の課題への生活者の寄与のあり方を考え、持続可能な社会を展望する。 【キーワード】 つながり、人的資産、社会的責任、社会的事業、パートナーシップ、持続可能、ライフスタイル	杉原利治(岐阜大学・教授)	杉原利治(岐阜大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代世界の結婚と家族　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：宮本　みち子（放送大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：善積　京子（追手門学院大学教授）　　〕

講義概要

先進国では、社会システムとしての結婚と家族の大きな変動が、その他の社会システムに大きな影響を及ぼし、人々の生活や人生の様相を変えつつある。晩婚化・同棲の一般化、婚外出産の増加、高い離婚率、出生率の低下、家族の脱制度化と個人化が進行し、いまや標準的な家族モデルは消失しつつあるといわれている。一方、経済発展の続くアジアの国々でも、結婚と家族の変容は顕著で、しかも変化のスピードは欧米諸国の経験より早い。そこで、この科目では、現代の結婚と家族の動向を比較文化の視角で見ていきながら、社会タイプの違いを超えて共通する傾向と、独自の特徴を整理する。

授業の目標

現代社会の動態と、それにともなってどのような課題があるかを学ぶ。授業を通して、結婚と家族のゆくえを広い視点から展望することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口統計からみた世界の結婚・家族	欧米の先進諸外国の後を追って、日本、そして他のアジア諸国でも人口転換による少子高齢化が進んでいる。結婚年齢・婚姻率・同棲率・世帯形態などの人口動態統計資料から、日本の結婚・家族の特徴と変容を世界の地域や欧米・アジア諸国との比較から考察していく。 【キーワード】 婚姻率、同棲率、世帯構成、少子化、高齢化	善積　京子（追手門学院大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授）
2	結婚と家族形成	欧米諸国でも工業化するアジアでも、晩婚化が進み、結婚の形態も変化している。そこで、結婚と家族形成に関する意識と行動を日本・欧米・アジアの国々を比較しながらみる。また、離婚・再婚とそれにともなう諸現象をみていく。また、変動する結婚・家族を対応した社会的サービスについて述べる。 【キーワード】 制度としての結婚、ライフスタイルとしての結婚、個人化する結婚、結婚観、離婚	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
3	親密なパートナー関係の多様化と結婚	欧米諸国では、法律婚以外の親密なパートナー関係として、異性間や同性間の同棲やパートナーシップ登録が制度的に認められている。その変化の背景を概観し、法的保障の内容を紹介する。さらに、日本における法律婚以外の親密なパートナー関係に対する歴史的対応および現状を捉える。 【キーワード】 法律婚、事実婚、同性婚、パートナーシップ登録制度	善積　京子（追手門学院大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授）
4	グローバル化する家族	欧米諸国でもアジアでも、現代の家族はグローバル化の影響を強く受けている。外国人家事労働者の雇用が一般化している社会も多く、国際結婚も急増している。子どもの教育のための教育移民という現象もある。とくにアジアの事例を中心に紹介しながら、日本の現状を振り返る。 【キーワード】 国際移動の女性化、再生産のグローバル化、外国人家事労働者、国際結婚、越境結婚	落合恵美子（京都大学大学院教授）	落合恵美子（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	子育てと家族(1) ―アメリカ―	子育ては私事として基本的に家族にまかされるアメリカ社会であるが、父親の育児参加率は北欧と並んで高く、民間の育児支援活動も盛んに行われている。育児期の男女がどのようにして家庭と仕事を両立させているのか、さまざまな階層や民族の背景に注目しながら具体的にみていく。 【キーワード】 働く母親、1人親家族、自由主義、二重構造、NPO、家族と医療休暇法、ファミリー・フレンドリー企業、祖父母の孫育て、父親の育児	舩橋　惠子 （静岡大学教授）	舩橋　惠子 （静岡大学教授）
6	子育てと家族(2) ―フランス―	子どもは社会の宝として育児の社会保障を早くからすすめてきたフランス社会であるが、父親の育児参加率はアメリカや北欧と比べて停滞気味である。豊富な保育・教育制度を利用して、育児期の男女が家庭と仕事のバランスをとっていく様を、階層や歴史文化に注目しながら具体的にみていく。 【キーワード】 親子関係、母親の就労継続、家族手当、エコール・マテルネル、保育、育児休業、選択の自由	舩橋　惠子 （静岡大学教授）	舩橋　惠子 （静岡大学教授）
7	子育てと家族(3) ―スウェーデン―	スウェーデンでは、子どものいる家族への社会的支援制度の充実を図り、社会全体で子どもを育むシステムを構築している。その先駆的な取組を、①家族の多様性を認め、子どもの権利を保護する社会制度、②公教育としての保育の充実と子育をめぐる経済的支援、③男女とも仕事と家庭の両立が可能なシステム、という3つの側面から考察する。 【キーワード】 スウエーデン、多様化する家族、子どもの権利、子育て支援、ワークライフ・バランス	高橋美恵子 （大阪大学准教授）	高橋美恵子 （大阪大学准教授）
8	子育てと家族(4) ―アジア・日本―	南欧や東アジアと並んで、日本は家族主義という類型にしばしば入れられる。ではそれらの社会の子育ての現状はどのようなものだろうか。アジアのいくつかの社会と日本の子育ての現状を比較しながら、家族主義がしばしば自由主義とセットになっていること、日本はその例外であることを明かにする。 【キーワード】 子育て、ケア、ネットワーク、ライフコース、アジア	落合恵美子 （京都大学大学院教授）	落合恵美子 （京都大学大学院教授）
9	アジアの高齢者と家族	アジアの高齢者は、依然として子どもを中心とした親族のケアに依存している。しかしそのケアのパターンは日本の常識と異なる部分がある。また、とりわけ外国人の介護労働者の雇用も日本との違いである。社会保障制度が未発達な家族主義体制下でのアジアの高齢者の現状を見る。 【キーワード】 家族主義レジーム、自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、社区	落合恵美子 （京都大学大学院教授）	落合恵美子 （京都大学大学院教授）
10	スウェーデンの高齢者と家族関係・社会関係	高齢化の将来推計について確認する。次に高齢期を①自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、スウェーデンの高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、成人子との別居が基本のスウェーデンで、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。 【キーワード】 高齢化社会、高齢社会、インフォーマル・サポート、フォーマル・サポート、高齢者虐待	西下　彰俊 （東京経済大学教授）	西下　彰俊 （東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	日本の高齢者と家族関係・社会関係	高齢化の将来推計について確認する。次に高齢期を①自立的な時期と②要介護の時期の2つに分けた上で、日本の高齢者の家族関係を実証的に論じる。とりわけ、②については、ライフスタイルが多様化している日本で、フォーマル・サポートとインフォーマル・サポートがどのように提供されているかを明らかにする。最後に高齢者虐待について現状と課題を明らかにする。 【キーワード】 高齢化社会、高齢社会、フォーマル・サポート、インフォーマル・サポート、高齢者虐待	西下　彰俊（東京経済大学教授）	西下　彰俊（東京経済大学教授）
12	男性と家族 －父親政策の視点から－	育児休暇制度のデザイン、家族政策のあり方、ワークフェアを志向する社会福祉政策、男女協働参画社会形成などの社会政策が交錯する焦点のひとつに「父親政策」がある。仕事とのバランス、家族的責任のあり方、男性役割との関係、ケア能力養成、父親の権利をめぐる社会運動の視点から国際比較を試みる。 【キーワード】 父親政策、父性機能、稼ぎ的役割、男性性	中村　正（立命館大学大学院教授）	中村　正（立命館大学大学院教授）
13	家庭内暴力と家族関係 －男性・父親の視点から－	ドメスティック・バイオレンス（デートバイオレンスやストーキングも含む）、子ども虐待、高齢者虐待などの家庭内暴力と家族のあり方について検討をくわえる。親密な関係性という視点から家族関係を把握し、独特の暴力発現機制を明らかにする。さらに、家庭内暴力対策の国際比較もおこなう。 【キーワード】 DV、子ども虐待、高齢者虐待、被害者ケア、加害者対策	中村　正（立命館大学大学院教授）	中村　正（立命館大学大学院教授）
14	貧困・社会的排除と家族	脱工業化・脱近代化が、家族の福祉追求機能を困難にし、新たな課題を提示している。また、これらの現象は、家族の多様化・個人化・脱制度化とも関係している。このような実態を、子どもの問題を中心にして、家族の貧困化と社会的排除という切り口でみていく。 【キーワード】 貧困と家族、社会的排除と家族、子どもの貧困、家族政策	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
15	結婚・家族のゆくえ	欧米とアジアの世界を中心に、親密なパートナー関係・親子関係・家族のあり方がどのように変容し、また現在どのような問題を抱えているかについて、これまでの講義を踏まえて総括するとともに、結婚・家族の今後のゆくえを探る。 【キーワード】 近代結婚、結婚制度、近代家族、親密圏、新しい家族像	善積　京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）	善積　京子（追手門学院大学教授） 宮本みち子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1121804	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　住まい学入門（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　本間　博文（放送大学教授）〕

講義概要

住居は日常生活における基盤的な空間である。日常生活の安全性、利便性、快適性、保健性のあらゆる側面にわたって住居のあり方が関係している。さらに住居は住文化として生活文化の中核を占め、日本人の行動様式や生活様式を規定するなど、日常生活と一体的に成り立っており、不即不離の存在である。本講義は放送大学の共通科目として、はじめの５章で日本の伝統の住まいが確立した空間の構成原理を東アジアの中国、韓国のそれと比較し、わが国の住文化の特殊性を明らかにする。このような伝統をふまえた上で後半の１０章で住居に関わる現代的な課題、中でも話題性が高い項目をトピックス的にとりあげ概観する。このような構成を通して日常生活において常に伝統を意識しながら現代の住居に高い関心を持って暮らす生活慣習を涵養したい。さらには住居に関連する専門科目や総合科目の履修への導きになることを期待する。

授業の目標

住居は日常生活の基盤をなす空間であり、生活者に対して安全、快適で、健康な利便性の高い日常生活を保障する場を提供することが求められている。本講義は生活と福祉専攻の学生に限らず広く放送大学の学生が、住居に対する関心を高め、主体的に空間改善に取り組もうとする態度を養成することを目指している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の伝統の住まい	第１章では、はじめにこの講義全体の狙いと課題を解説する。その上で日本における伝統の住まいの二大様式の一つである寝殿造が平安時代に完成するまでの経緯を概説する。和風の住まいの基本的な空間構成はこの寝殿造に由来する。当時の文学作品や絵巻物などを題材として寝殿造の構成原理を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
2	書院造から和風の住まいへ	鎌倉時代以後寝殿造の原則を受け継ぎつつ時代の変化に対応して柔軟に構成を変えながら江戸初期の書院造りへと至り、「和風の住まい」が完成する。その変化の過程を通して、わが国の住まいの基本原理を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）
3	中国の住文化	中国における漢民族の代表的な居住様式である四合院形式の住居を取り上げ、伝統的な漢民族の家族生活の様子を紹介する。さらに山西省のヤオトンや福建省に現存する客家の円楼（土楼）を紹介し、気候風土と住居との関連を考える。これら代表的な漢民族の住居形式を通して中国における住文化や住様式を規定する要件を探る。	本間博文（放送大学教授）	本間博文（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	韓国の住文化	韓国における住文化を現在に伝える代表的な民家集落である河回村を題材として取り上げ、韓国の伝統的な集落や民家がどのような構成原理によって成立しているかを検証する。木造で造られ、履き替えも行うなど一見日本の住まいと共通のルーツに思えるが、本質的に異なる韓国の住文化を考える。	本間博文(放送大学教授)	本間博文(放送大学教授)
5	東アジアの住文化と日本	中国や韓国の住文化とは異なる日本の住文化を探る。和風の住まいを構成する部材を通して、寝殿造りから書院造りへの変遷の過程で一貫して受け継がれた基本原理を明らかにする。さらに世界に例を見ない工業化住宅が江戸初期に完成していた一方で中国のカンや韓国のオンドルなどのような優れた暖房装置が普及しなかったのは何故かといったことを考える。これの作業を通してわが国の生活文化の中核を占める住文化の独自性を明らかにする。	本間博文(放送大学教授)	本間博文(放送大学教授)
6	住まいの計画学(1)～家族と住まい～	住文化は気候・風土・歴史の基盤に立ち、社会の変化に対応しつつ成り立っている。この半世紀、わが国では欧米の生活様式が急速に浸透してきたが、少子高齢化や経済など社会構造の変化で、住まいの様態も家族の実像も急速に変化しつつある。その変化を把握し、住まいの在り方と住まいづくりに今後求められる諸条件について考える。	福井正明(岩手大学特任教授)	福井正明(岩手大学特任教授)
7	住まいの計画(2)～近隣と住まい～	日常の生活環境は個人・家庭・近隣社会の相互関係で成り立っている。今日の超高層共同住宅や戸建住宅団地にあっても、住まいと近隣空間の相互関係が生活の質を規定する。その相互関係のなかに、より快適な生活環境を創り出そうとする数々の考え方を探り、わが国にはどのような近隣と住まいの計画が求められるかを考える。	福井正明(岩手大学特任教授)	福井正明(岩手大学特任教授)
8	環境と住居(1)	これからの住宅地には、屋外空間を含めて快適な生活ができ、周辺環境へできるだけ負荷を与えないことが求められよう。本章では、都市・建築気候に焦点をあて、ヒートアイランド現象を抑制でき、夏涼しく冬暖かい住宅地をつくり出すための規範を示すとともに、それを達成するための手法とそれらの効果を考える。	梅干野晃(東京工業大学教授)	梅干野晃(東京工業大学教授)
9	環境と住居(2)	8章に引き続き、本章では具体的な住居環境のあり方を考える。まず初めに、屋上緑化や壁面緑化、そして蒸発冷却手法など、いろいろな環境共生的手法を取り上げて、それらの効果を視覚的にわかりやすく示す。さらに、設計支援のための熱収支シミュレーション手法を紹介しながら、具体的な事例を取り上げて、環境共生的な住宅地のあるべき姿を考える。	梅干野晃(東京工業大学教授)	梅干野晃(東京工業大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	自立と共生の国・デンマークの障害者・高齢者	ノーマライゼーション理念発祥の地であるデンマークの障害者・高齢者の生活紹介を通して、ノーマライゼーション理念の神髄が「自立と共生」ということにあること、空間的には「居住の場」と「日中生活の場」という２つの生活空間の核を分けてもつという基本原則にあること等を解説する。また、「自立と共生」を支える社会の仕組みについて解説する。	桜井康宏（福井大学教授）	桜井康宏（福井大学教授）
11	わが国における新たな試み―グループホーム型居住施設―	わが国における高齢者および障害者福祉の動向と関連する居住施設の動向を概略し、制度的には未だ不十分な状況ではあるものの、ようやく本格的な居住施設の整備が始まりつつあることを述べ、今後の基本課題を解説する。その上で、ハード・ソフトの両面で「食」のあり方に着目して居住施設の改善に取り組む「グループホーム型居住施設」の事例を紹介する。	桜井康宏（福井大学教授）	桜井康宏（福井大学教授）
12	集合住宅の管理（１）―マンションのマネジメント―	集合住宅、なかでも区分所有集合住宅の管理のマネジメント方法を解説する。わが国でマンションと呼んでいる、区分所有集合住宅の所有方法、管理方法、具体的には以下について説明をする。マンションの定義、区分所有、区分所有法、専有部分と共用部分、管理組合、管理規約、総会、理事会、管理者、管理会社の役割、管理費と修繕積立金、マンション管理適正化法について。	齊藤広子（明海大学教授）	齊藤広子（明海大学教授）
13	集合住宅の管理（２）―マンションのメンテナンス―	集合住宅、なかでも区分所有集合住宅の管理のメンテナンス方法を解説する。わが国でマンションと呼んでいる、区分所有集合住宅の計画修繕、特に大規模修繕の進め方と具体的な事例を紹介する。	齊藤広子（明海大学教授）	齊藤広子（明海大学教授）
14	住まいの防災（１）	地震国であるわが国では、建物の耐震性能は極めて重要な住宅の性能である。地震が建物に及ぼす影響と建物が地震に抵抗するメカニズムと工夫を様々な建物の構造形式と合せて具体的に解説する。あわせて，現在の耐震設計法の概要を紹介する。	川口淳（三重大学准教授）	川口淳（三重大学准教授）
15	住まいの防災（２）	わが国における地震被害の歴史とそこから得られる教訓を解説し、あわせて耐震設計の変遷を解説する。また，わが国における地震のリスクを地球物理学的見地で概説する。さらに，わが国の地震防災対策の現状として，国の取組や地域の取組について実例を交えて紹介する。	川口淳（三重大学准教授）	川口淳（三重大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　社会福祉入門　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：大橋　謙策（日本社会事業大学長）　　〕

講義概要

経済的貧困を救済することを主たる課題として発展してきた社会福祉は、21世紀に入り、それとは異なる社会生活上何らかの援助を必要とする人々の地域での自立生活を支援することを目的に、新たな理念、思想と社会福祉援助活動とが求められている。

人々の社会生活を安寧にするための方策としては、教育や住宅、雇用の保障に関わる社会サービス、医療保険や年金等の社会保険もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接な関わりももちつつ、それとは相対的に独立した、自立生活を送る上で困難を抱えている人々への対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである社会福祉を学ぶ。

授業の目標

社会福祉の目的は、生活上の様々な困難を抱えている人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図ることである。したがって、社会福祉の制度を学ぶだけではなく、それらの社会福祉制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについて学ぶ。また、社会福祉が求める社会哲学や福祉文化についても考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	私たちの暮らしと社会福祉	私たちの日常生活においても、また出生から死に至るまでのライフコースにおいても多様な事故に遭遇する危険を孕んでいる。人間はひとりでは生きていかれない今日では、家族や地域の力だけでもそれらの事故に対応できず、生活の不安定さへの補強や万が一の生活上の事故に対する一種の保険として、「社会の制度」として多様な社会福祉サービスが作られている。この章では生活上に起きる事故と「社会の制度」としての社会福祉との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 生活上の事故、家族機能、ライフコース、社会の制度	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
2	「社会の制度」としての救済制度の思想と社会哲学	人類の歴史において、「鰥寡孤独」（かんかこどく）は常に大きな課題であった。それらに対し、家族や村落共同体が有していた自然発生的な相互扶助機能では対応できなくなり、かつ個人的な慈善に頼ることもできず、「社会の制度」として社会福祉が確立されてくる。最近では、「介護の社会化」とよばれ、介護保険制度が作られてきたのもその1つである。人々が抱える自立生活上の困難な課題に対し、どのような「社会の制度」が確立してきたのか、その背景となる社会思想やこれから求められる社会哲学について学ぶ。 【キーワード】 社会装置、社会哲学、社会統制、共済活動	同上	同上
3	社会福祉の考え方と目的	社会福祉は何を目的としているのか、社会福祉の語源も探りながら、目的としている自立、自己実現について学ぶ。また、アブラハム・マズローの欲求階梯説や生きることと生命維持との違いなども含めて社会福祉が目的とする6つの自立の捉え方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉の語源、6つの自立要件、社会サービス、社会保障制度審議会報告	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	社会福祉の歴史：日本の展開	近代以降の日本の社会福祉は精神性と物質性の間を揺れ動いた歴史である。戦前の井上友一と小河滋次郎の考え方の違い、積極的社会事業と消極的社会事業といった考え方や民間社会事業実践のミッションについて学ぶ。戦後は憲法第25条の理念から、入所型社会福祉施設の整備、市町村における在宅福祉サービスの整備を経て、今日では地域福祉がメインストリームになっていることを学ぶ。 【キーワード】 風化行政、第25条、入所型社会福祉施設、地域福祉	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
5	社会福祉の歴史：外国のケース	社会福祉の歴史を学ぶにあたって、我が国以外でどの国の歴史を取り上げるかは大きな課題である。本章では、イギリス、アメリカの歴史を取り上げるとともに、我が国にとって社会福祉の発展との関わりの中で、思想的に大きな意味を持つ”プロイセン”における社会保険の歴史や考え方とデンマーク、スウェーデンを中心に発展したノーマライゼーション思想を取り上げることとしたい。なお、イギリス、アメリカなど諸外国の歴史や考え方を取り上げるといっても、本章ではあくまでも日本の社会福祉の考え方や制度に影響を与えた事項に絞って述べるにとどめたい。 【キーワード】 救貧法、慈善信託法、ベヴァリッジ報告、コミュニティケア	同上	同上
6	市町村社会福祉行政とソーシャルアドミニストレーション	これからの社会福祉は市町村を基盤として、行政と住民との協働が求められる。住民参加による地域福祉計画づくり、地方分権と福祉アクセシビリティ、福祉サービス供給組織の多元化の中でのソーシャルアドミニストレーションのあり方を学ぶ。 【キーワード】 地域福祉計画、ソーシャルガバナンス、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルアドミニストレーション	同上	同上
7	施設の社会化と在宅福祉サービス	日本の社会福祉は、1970年～1989年までいわば社会福祉施設整備の時代を迎える。2005年には約9万5千ヵ所になった。これらの社会福祉施設を社会福祉のメインストリームになりつつあった地域福祉の観点からどう位置づけるかは大きな課題であった。「施設の社会化論」から在宅福祉サービスへの展開のプロセスを学ぶ。と同時に、入所型福祉施設への批判も含めて展開されてきた在宅福祉サービスの考え方、提供のあり方、サービス内容について学ぶ。 【キーワード】 施設の社会化、施設の地域化、必要即応の原則、在宅福祉サービスの構成要件	同上	同上
8	在宅福祉サービスのあり方と保健・医療・福祉の連携システム	地域で在宅で生活できるように支援するという目標は崇高である。しかしながら、それは単純に在宅福祉サービスの量を増やし質を高めるということだけでは対応できない。日本的家族観や生活観、あるいは近隣関係が、地域での自立生活支援にどのような影響をもたらしているのかを明らかにすると同時に介護家族の負担をどうしたら軽減できるかを学ぶ。と同時に、在宅での自立生活には多様な専門職種によるアプローチが必要となる。その課題についても学ぶ。 【キーワード】 家族介護の負担軽減、ICF（国際生活機能分類）、エンパワーメント、チームアプローチ、保健・医療・福祉の連携、ワーカビリティ	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	地域自立生活支援とソーシャルワーク	日本の社会福祉は地域自立生活を支援する地域福祉がメインストリームになった。そこでは、世界保健機関（WHO）の国際生活機能分類（ICF）の視点に基づき、ケアマネジメントを手段としたコミュニティソーシャルワークが重要になってきている。ICFの視点に基づくケアマネジメントの考え方をアセスメント、援助方針の立て方を中心に学ぶ。 【キーワード】 生活課題分析、援助方針の立案、求めと必要と合意、ICF、ケアマネジメント、インフォーマルケア、在宅福祉サービス	大橋　謙策（日本社会事業大学長）	大橋　謙策（日本社会事業大学長）
10	社会福祉におけるニーズの考え方とソーシャルワークの実践	社会福祉活動を展開していく上で、何が生活上の困難なことなのかを明らかにすることが大きな課題であり、かつそれを誰が、どのような基準で、どのような方法で把握、判断するかを考えることが社会福祉そのものを学ぶことであるといっても過言ではない。イギリスのブラッドショウのソーシャルニーズの類型を参考にしながら、社会福祉ニーズの考え方、とらえ方を学ぶ。その際には、日本的文化の背景も大きいのでそれも含めて考察する。 【キーワード】 社会福祉ニーズの分類、世間体、タテ社会、ニーズキャッチの方法	同上	同上
11	コミュニティソーシャルワークの考え方と機能	地域自立生活支援を行ううえでは、コミュニティソーシャルワークという機能がもっと意識化される必要がある。コミュニティソーシャルワークという考え方は、1982年のイギリスの「バークレイ報告」で整理され、打ち出されてきた。ここではそれらコミュニティソーシャルワークについて学ぶ。 また、地域自立生活支援においては介護福祉士など、ケアワークとの関わりも大きい。それについても学ぶ。 【キーワード】 コミュニティソーシャルワーク、バークレイ報告、ソーシャルサポートネットワーク、インフォーマルケア	同上	同上
12	生活支援に必要な社会福祉の制度	本章は対人援助としての社会福祉を展開するにあたって、どのような社会資源としての社会福祉制度が活用できるかという視点からまとめられている。したがって詳しい制度の理解は別の機会に行ってほしい。 【キーワード】 生活保護制度、障害者自立支援法、児童福祉法、介護保険制度	同上	同上
13	ソーシャルケアサービス従事者の養成課題と専門職制度および職業倫理	対人援助としてのソーシャルケアサービス従事者にはソーシャルワーカーとしての社会福祉士、ケアホーカーとしての介護福祉士等がある。それらの専門職制度の内容とそれら専門職としての社会的評価、職業倫理、行動規範、養成教育のあり方について学ぶ。 【キーワード】 社会福祉士及び介護福祉士法、倫理綱領、行動規範	同上	同上
14	社会福祉における住民参加と福祉コミュニティづくり	地域での自立生活を支援していくためには、専門職者だけでは対応できない。社会福祉の分権化と地域自立生活支援において、いかに住民参加が必要であるかを学ぶ。と同時にそのことは自分の住んでいる地域を福祉コミュニティへと転換させる営みであり、それらの最もシンボリックなものが住民参加による地域福祉計画づくりであることを学ぶ。 【キーワード】 福祉コミュニティ、地域福祉計画、住民参加、福祉アクセシビリティ、ソーシャルサポートネットワーク	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	国際的ヒューマンセキュリティと博愛の哲学	国際化が進んでいる時代にあって、「福祉国家」としての一国ソーシャルセキュリティだけを考えていればいい時代ではなくなった。国連が提唱しているヒューマンセキュリティ（人間安全保障）を考えていくためにも、日本国民の福祉文化を見直し、博愛の哲学や寄付の文化の醸成をしていくことが必要である。福祉国家から福祉社会への転換と福祉社会づくりについて学ぶ。 【キーワード】 ヒューマンセキュリティ、博愛、寄付の文化	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1223518	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代の生活問題（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：中川　清（同志社大学教授）〕

講義概要

今日われわれが直面している生活問題は、21世紀にはいって突然引き起こされたわけではない。この講義では、これまでの日本の生活経験を振り返ることによって、現代の生活問題を3つの視点から考えてみたい。まず、最も伝統的な貧困問題の系譜を取り上げ、現代の貧困の特徴を明らかにする。次に、ごく普通の生活がどのような問題を抱えながら今日にいたっているのかを検討する。最後に、誕生から死にいたる生涯のいくつかの局面が、そのまま新たな生活課題となりつつある現状を展望する。

授業の目標

4つの点に心がけたい。①理論的な説明にとどまらず、具体的なデータや記述などをできるだけ駆使して生活問題の理解を深める。②ある生活問題が解決されることによって、また新たな課題が生み出される。生活問題を固定的にではなく、絶えず変化していく課題として把握する。③日本での生活問題に絞って論じるが、東アジアの地域に共通する経験や課題にも注目する。④必要に応じて、生活問題と直接関係する政策や制度にも言及する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活問題という捉え方―生活研究の伝統―	生活という言葉は曖昧で未分化な用語だが、日本では、生活構造論や生活学、生活科学や生活福祉などの生活研究が積み重ねられてきた。生活問題という捉え方も、このような伝統の延長に位置している。なぜ日本では、生活が研究や学問の対象となってきたのかを、この講義の導入として考える。	中川　清（同志社大学教授）	中川　清（同志社大学教授）
2	異質な生活世界への関心―貧困問題の系譜(1)―	貧困という概念が形作られる以前、あたかも「未開社会」に向うかのように、異質な生活世界への関心が喚起された。19世紀末から20世紀初めの「貧民窟踏査」の記述をとおして、生活問題への初発の認識について考える。貧困が多元化した今日、このような方法が再び見直されているからでもある。	同上	同上
3	近代の貧困概念の形成と展開―貧困問題の系譜(2)―	19世紀末から20世紀にいたる貧困の実態は、思いのほか大きな変化を遂げてきた。しかも、その変化の性格は、一般的な社会生活の変化とも密接に関係していた。ここでは、貧困状態の変化を分析するとともに、近代の貧困認識と政策基盤がどのように形作られてきたのかを考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	貧困への対応と生活保護法―貧困問題の系譜(3)―	戦争と戦後の混乱によって生活は大きな打撃を受け、とくに都市部では貧困というべき生活状態が拡がった。そのため1950年には、現行の生活保護法が成立し、最低限度の生活保障が制度化された。生活保護法以前の恤救規則や救護法を含め、日本における貧困への対応の歴史を振り返る。	同上	同上
5	「中流社会」と貧困の性格変化―貧困問題の系譜(4)―	高度成長以後になると、所得の低さによる生活状態から、変動への対応能力の不足へと、貧困認識の力点が移行するとともに、特定の地区や地域として貧困を捉えることが困難になる。この事情を、生活保護の実施状況や保護基準の変遷、さらに貧困調査の関心の推移などをとおして明らかにする。	同上	同上
6	多元化する貧困と社会生活―貧困問題の系譜(5)―	高齢単身者、ひとり親世帯、ホームレス、傷病や障害を抱える世帯、困難に直面する若者など。現在の貧困が、社会関係からの孤立や排除と深くかかわっていることを示し、貧困と社会生活一般との関係をあらためて考える。あわせて、相対的剥奪や社会的排除などの、貧困をめぐる新たな議論を紹介する。	同上	同上
7	生活構造の不安定さ―生活変動と生活問題(1)―	20世紀前半の生活変動は、近代という新たな環境に対応する緊張に満ちた過程であった。ごく普通の家計において、しばしばエンゲル法則が妥当しなかった事実から、この間の生活変動が構造的な不安定性をともなっていたこと示す。当時の生活言説が、貧困によって彩られていた理由でもある。	同上	同上
8	生活変動の転機と妊娠中絶―生活変動と生活問題(2)―	日本の生活変動の転機として、1950年代における出生率の半減、年間100万件におよぶ人工妊娠中絶を取り上げる。この時期を境に、生活問題はかつてのように直接外部化されるのではなく、生活の内部においても処理されるようになるからである。この転機は、日本社会の少子高齢化の先駆けでもあった。	同上	同上
9	「よりよい」生活への自己組織化―生活変動と生活問題(3)―	20世紀後半の生活変動は、世帯の規模を自らの手で縮小することで、豊かな生活を実現するという特徴をもっていた。この事情を、世帯人員別の家計データ、世帯規模や出生の動向などで確認する。生活を営む単位の自己組織化は、それまでの家族あり方や生涯像にも大きな影響を及ぼすことになる。	同上	同上
10	生活モデルの揺らぎと生涯像の主題化―生活変動と生活問題(4)―	20世紀後半には、男性稼ぎ手家族を生活モデルとして社会政策が体系化されるとともに、未曾有の少子高齢社会を迎え、21世紀には人口の減少局面に直面する。「よりよい」生活への努力と、政策展開が重ねられるほど、モデルとは乖離した状況が生み出され、生涯像が主題化される事情を検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	産み育てることの変容と負荷―生涯像と生活課題(1)―	子どもを産み育てることが、生涯の当然の出来事ではなくなり、これほど意識的に選ばれる事柄となった時代はない。その背景と意味について、人生途上での選択の対象となる出産、子供を持つことの関係と意味の変容、産み育てることの負荷などの視点から検討するとともに、負荷という文脈からの離陸についても探ってみたい。	同上	同上
12	若者の「生きにくさ」と生涯デザイン―生涯像と生活課題(2)―	80年前後におよぶ長い生涯の確実さと、これまでの生活モデルの揺らぎと不確かさ。この乖離を最も鋭く感じているのが、子どもや若者にほかならない。しかも彼/彼女らは、かつてないほど「本当の自分」をと促されている。若者の「生きにくさ」という観点から、21世紀の社会像についても考える。	同上	同上
13	近代家族の揺らぎと家族の関係のゆくえ―生涯像と生活課題(3)―	近代家族という視点から20世紀の家族の特徴を整理するとともに、近代家族の特徴ゆえに引き起こされる課題について検討する。同時に、何らかの形での家族的な関係は、人が生まれ育ち、ケアを受け与え、それぞれの生き方を模索する場として、これからも代替が困難である事情を考察する。	同上	同上
14	高齢者の生活世界と社会的受容―生涯像と生活課題(4)―	未曾有の高齢化と長寿化について概観し、そこでの高齢者像や高齢社会像について検討する。様々な生活経験を積み重ねてきた高齢者の生活が、健康状態や社会的条件において、実に多様な性格を帯びていることを確認するとともに、かつてない長い生涯の社会的な受容について手がかりを得たい。	同上	同上
15	生活問題と生活課題―20世紀から21世紀へ―	20世紀の生活問題を2つの視点から整理し振り返ることによって、21世紀に直面する生活課題の特徴をあらためて考える。その上で、生涯のそれぞれの局面の主題化をとおして、21世紀社会の一つのあり方を展望してみたい。	中川　清（同志社大学教授）	中川　清（同志社大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120700	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 経済学入門 （’０８）＝ （R）

※この科目は「経済学入門（’04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、第12回です。

〔主任講師（現職名）：林　敏彦（放送大学教授）〕

講義概要

経済学は生まれて230年の比較的若い学問ですが、一方で社会科学の女王と呼ばれるほどの論理的厳密性を追究すると同時に、他方で実社会の問題解決という要請に応えようとしてきました。この講義では現代経済学の基本的な考え方と、その応用の仕方について考えてみましょう。

授業の目標

履修生の皆さんは現実の経済については多くの知識をお持ちですが、この授業では、現象の意味を解釈したり、問題の本質を洞察したりするための「認識の枠組み」についてお話しします。ねらいは、経済学という学問への入門と、日本経済を見る眼を養うことの二つです。この講義のビフォーとアフターでは、世の中を見る眼が変わるかもしれませんから、ご注意下さい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済学の考え方	私たちは皆乏しさの中に生きています。お金がありあまっている人でも、許された人生は70万時間にすぎません。経済学はその乏しさの問題を解決しようとして誕生した学問です。では経済学を極めれば実社会で成功するでしょうか。経済学の頭脳とハートについても考えてみましょう。 【キーワード】 経世済民、希少性、選択、市場、価格	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
2	消費と消費者	経済の主役は消費者です。究極的に消費者を満足させられない経済活動は、消滅する運命にあります。では、消費者は何を求めて、どう行動するのでしょうか。消費者行動には法則性があるのでしょうか。また、大勢の消費者の動きは、市場にどのような情報をもたらすのでしょうか。 【キーワード】 需要法則、限界効用、文化、ネットワーク、道徳的危険	同　上	同　上
3	生産と企業	消費と並んで大切な経済活動は生産です。今の日本では毎日何億種類もの商品が生産され、消費されています。生産活動の担い手は企業ですが、企業は何を求めて、どのような技術を用い、何をどれだけ生産しようとするのでしょうか。企業ではどのようなコストの概念が重要なのでしょうか。 【キーワード】 会社、企業、最大利潤、限界費用、費用関数、独占、企業の社会的責任	同　上	同　上
4	市場の役割	多数の売り手と買い手が相まみえるのが市場です。市場の重要な役割は価格を決めることです。買い手と売り手、あるいは需要と供給の間で、市場価格はどう決まるのでしょうか。単にものの値段を決めるだけの仕組みが、どうして世界中の国が採用する経済システムとなったのでしょうか。 【キーワード】 市場均衡、最適資源配分、社会的余剰、料金規制、公益事業のジレンマ、ネットワーク競争	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	政府の役割	すべてを市場取引にゆだねるだけでは真の豊かさは実現されません。現代の社会では、政府の役割が高まっています。市場の失敗と呼ばれる現象はどのようなものでしょうか。政府はどこまで市場に介入し、あるいは市場に代わって人々のニーズに応えなければならないのでしょうか。 【キーワード】 市場の失敗、外部効果、公共財、分配の公正さ、安定性、政府の失敗	林　敏彦	林　敏彦
6	マクロ経済	個別の登場人物の動きを観察して社会全体を理解しようとするミクロ経済学に対して、国全体の総生産や所得水準の動きに法則性を見いだして社会全体を理解しようとするのがマクロ経済学です。GDP、失業率、国際収支、成長率など、マクロ経済学の考え方を見てみましょう。 【キーワード】 GDP、GNP、貯蓄と投資、消費関数、乗数効果	同　上	同　上
7	お金と金融	お金はものの生産、流通、消費の流れの逆方向に動いています。誰でも知っているはずのお金ですが、それはいったい何なのでしょうか。お金の流れをコントロールする仕組みはどのようなもので、銀行などの金融機関はどのような役割を果たしているのでしょうか。 【キーワード】 円の起源、支払い手段、価値貯蔵、銀行、金融仲介、預金者保護、金融システム、金融政策	同　上	同　上
8	物価の話	さまざまなものの値段の平均値を物価といいます。物価が持続的に上がることはインフレーション、下がることはデフレーションと呼ばれます。なぜ、物価は変動し、物価が変動するとどのような問題が起こるのでしょうか。日本銀行が物価の番人と呼ばれるのはなぜでしょうか。 【キーワード】 インフレ、デフレ、功罪、狂乱物価、バブル、物価の国際比較	同　上	同　上
9	景気の話	経済活動が活発になれば好景気、沈滞すれば不景気と呼ばれます。なぜ景気は変動するのでしょうか。景気の動きをなだらかにするために、政府や日本銀行はどのようなことができるのでしょうか。経済活動が国境を越えて広がった今日、景気対策には何か難しい問題が起こっているのでしょうか。 【キーワード】 景気動向指数、在庫循環、設備投資循環、長期波動、投資の二面性	同　上	同　上
10	日本の経済成長	長期にわたって経済活動が拡大していくことが経済成長です。1960年代から80年代はじめまでの日本の高度成長はなぜ起こったのでしょうか。高成長を可能にした社会的メカニズムの解明と、なぜ私たちは成長したかったのかという成長の社会心理についても考えてみましょう。 【キーワード】 成長と構造変化、高度成長、環境条件、内的条件、成長政策、高速道路の定理	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	バブルと恐慌	経済の累積過程はときにバブルと呼ばれる過熱現象を生みます。有名な1920年代のアメリカのバブルと30年代の大恐慌の顛末について振り返っておきましょう。同じ現象が日本の80年代から90年代以降についても、90年代から2000年代のアメリカ経済にも見られるのでしょうか。 【キーワード】 歴史的バブル、大不況、政策レジーム、平成デフレ	同上	同上
12	安全安心を求めて （※改訂回）	1985年の阪神・淡路大震災は、高度に発達した都市経済を直撃しました。市場経済の機能が部分的に麻痺したとき、どのような経済活動が人々の暮らしを支えたのでしょうか。自然災害、人為的災害、社会的災害にどう備え、生活の不安から逃れるためにはどうすればいいでしょうか。本当に安全安心は至高の価値でしょうか。 【キーワード】 リスクとハザードからの自由、不安からの自由、社会保険の考え方、リスクと不安との共存	林　敏彦	林　敏彦
13	世界の中の日本経済	今日企業活動は国境を超えて相互に入り組み、私たちは世界中のものを消費して暮らしています。GDPでは中国は日本を追い越して世界第2位の経済大国になりました。アジア諸国でも高度成長が始まりました。そうした中で、私たちの生活水準を維持するためにはどうすればよいのでしょうか。 【キーワード】 日本経済の貿易構造、経常収支、貿易理論、開放マクロ経済学	同上	同上
14	持続可能な開発	水、大気、種の多様性など、地球環境が成長の制約条件になってきました。これまで農業生産や資源の限界を乗り越えてきた人類は、これからも技術進歩によって唯一の地球の制約を乗り越えられるでしょうか。それとも池のメダカから鯨に成長した人類には、新しい考え方が必要なのでしょうか。 【キーワード】 成長の限界、持続可能な開発、グローバルな課題	同上	同上
15	幸せの経済学	経済学は乏しさを解消し、物質的に豊になることが個人にとっても社会にとっても幸せの前提条件だと考えてきました。それでは、所得が上昇すれば人々は幸せになるのでしょうか。実は、そうではないようです。経済学入門の最後に、究極の社会生活の目的である幸せの問題を考えてみましょう。 【キーワード】 豊かさ、幸福研究、幸せの経済学	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目コード	1128515	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 経済社会の考え方（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学准教授）〕

講義概要

経済社会は変化の激しい社会である。このような社会のなかで、人びとはどのような考えを持ち、これらの考え方をどのように使っているのだろうか。わたしたちの働く場で、生活する場で、さらには公共の場で日々変化し作用している経済学の考え方を集めて比較検討してみたい。なぜ働くのか、なぜ生産を行うのか、なぜ消費するのかなどのような、日常に存在する思想を振りかえり、将来の経済生活を考える礎を提供したい。

授業の目標

経済社会の成り立ちと考え方について、人間関係の経済組織化という視点から把握する。経済は、物質と人間との間の営みであると同時に、人と人の連鎖的な関係であるという社会特有の性格をもっている。日常見られるわたしたちの経済活動が人間間の関係としてあらわれるのはなぜか、という点をこの講義では追究したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経済社会はなぜ変化するのか―どこまで広がりどこまで深まるのか	経済社会とはどのような社会なのか。変化に次ぐ変化をみせるなかで、「経済社会の考え方」とはどのような性質のものなのか。近代経済はどのような社会的基礎のもとに形成されてきたのかについて考え、さらにシュムペーターが指摘するようなヴィジョンなどの近代社会における経済的思考の広がりと深化の本質をみていく。 キーワード 理論と実践、実行文化と思考文化、ヴィジョン、イデオロギー、思考実験、思考習慣、時間効果、交換、互酬、経験と思考	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
2	消費者はどれだけ満足できるか―快楽は幸福を導くか	わたしたちが日常の経済生活のなかで、よく利用している考え方に「功利（Utility）」がある。楽しいことは良いことである、という論理であり、享楽的な行動を正当化するときにはつねに用いられる。たとえば、消費者は、商品・サービスから快楽を得ようと物を購入するが、そのことでどれだけ満足するのであろうか。 わたしたちの生活のなかで、ある行為は良いこと（善）であり、他のある行為は悪いこと（邪）である、という判断が求められる。このときに、最も使われる考え方のひとつが、功利思想である。この功利という考え方は経済社会の特徴を典型的に現わしている。はじめの段階で、この考え方が現代社会でどの程度有効であるのか取り上げてみたい。 キーワード 快楽主義、禁欲主義、功利主義、幸福、苦痛、便宜、効用、社会調和	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	商業が結ぶ人間関係とはどのようなものか	分業と交換がもたらす経済関係について、この章で考える。わたしたちの現代社会では、自給自足の社会とは異なり、自分の労働によって生み出された生産物だけでは、自分の必要とする生活品のごくわずかしか満たされないことを知っている。ほとんどの生活品は、他者の労働によって生み出された生産物を利用している。つまり、商業社会という仕組を利用しなければ、近代人は自分の生活が成り立たない。このような状況は、なぜ成立したのか。ここで、分業という仕組は、なぜ必要なのか。商業社会が形成される根本的な問題について、A.スミスを中心にして、現代にいたるまで続いている関係をこの章で考えていきたい。 キーワード 分業、交換、産業、商業、重農主義、重商主義、商業社会	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
4	市場とはなにか	経済は、どのように調整されるのだろうか。この調整の過程で、経済組織としての「市場メカニズム」が形成され、財貨の調整と同時に、需要者と供給者との間で社会的関係が結びつけられ、経済全体が秩序づけられることになる。この経済社会特有の考え方について考える。 市場というもののイメージには、どのようなものがあるのだろうか。最も具体的なイメージは、地方都市の道筋で商われている「朝市」のようなものかもしれない。最も抽象度の高いイメージは、L・ワルラスの「一般均衡」という考え方であろう。 市場では生産と消費を取引によって調整するには、たいへん不確実が伴うことも事実である。それにもかかわらず、これらの不確実な状態を乗り越えるためにこそ、人間は経済関係を結び直し、市場を形成してきたといえる。このような市場という仕組には、どのような特徴があるだろうか。この章では、市場を特徴付ける考え方について検討したい。 キーワード 市場、計画、調整メカニズム、需給一致、価格情報、自動調節、競争原理、分権、リスクと不確実性	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
5	なぜ人は働くのか	今日ほど、働くことが問われている時代はない。なぜ労働を行うのか。人びとは、労働を行うなかで組織へ参加し、社会を形成する。ジョン・ロックをはじめとする労働論を展望しながら、労働が経済社会の中で持つ意味を考える。「勤労という考え方」がいかに経済社会を形成していくのかをみたい。 人は働くことで、個人生活から出て、社会との結びつきを得ることになるが、そこで人びとを働く気にさせるものは何か、という点が重要である。勤労の成果をその本人の所有物にする、という考え方が	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		起こってきたのが、近代からである。この結果、労働インセンティブは、利得観念や所有と関係を持つようになった。 働くことがこれほど問われているのはなぜだろうか。1980年代～90年代にかけて、労働とりわけ雇用の内容が多くの場面で変わってきた。この変化は、現在から将来にわたっての勤労社会というものを変質させる大きな要因となっている。現代において働くことは、何を意味しているのか、そしてどのようにわたしたちは働くのかについて考えたい。 キーワード 勤労、労働インセンティブ、帰属本位、業績本位、所有権、共有権、利得観念、世俗内禁欲、労働力商品		
6	生産は何を目指すのか	現代の経済社会のなかで、経済的な人間関係を拡大するうえで大きな機会を作り出しているのは、まぎれもなく「生産」のなかで取り結ばれる関係である。自給自足経済に始まる生産の変化は、効率性を最大限追求する「大量生産方式」を生み出すことになるが、この生産における経済関係で見られる考え方について、この章でみていきたい。 近代になって、生産の目的に、より多くの生産を行うことという考え方が加わった。生産の増大と生産性の高いことが望まれるようになるが、この中で19世紀から20世紀にかけて特別に追求された生産の考え方は、「規模の経済」という大量生産を目指す方式であった。 キーワード 規模の経済、範囲の経済、大量生産、収穫逓減、科学的管理法、動作研究、フォーディズム、適正規模	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
7	会社はどこまで人びとを支配できるのか	経済社会のなかでは、人が他者を支配し、また他者に支配されるという関係が見られるが、このとき利用されるのがヒエラルヒー（階層制）という考え方である。この章では、ウェーバーの「支配」という考え方とその後の展開を見ていきたい。 上下関係を原理とするヒエラルヒーは過去の遺物のように考えられる傾向があるにもかかわらず、現在でも経済社会を動かすエンジンの一部を形成している。とりわけ、組織的な動きを得意とする企業内では、このヒエラルヒーの考え方については盛衰があるものの、今日でも重要視され続けてきている。 なぜ近代においても、階層制が存在するのか、また階層制にはどのような限界が存在するのかなどの点について考えたい。じつは、このヒエラルヒーの考え方に変化が起こってきたことが、現代の資本主義の変質をも引き起こす原因にもなった。バーリとミーンズなどによって指摘された「所有と経営の分	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		離」現象などの議論についても検討を行いたい。 キーワード 支配、ヒエラルヒー、階層制、上下関係、権力、官僚制、専門性、動機づけ、信頼、プリンシパル、エージェント、所有と経営の分離		
8	組織社会はどのように考えられてきたのか	組織社会がなぜ生ずるのかについて、この章でみる。現代の企業組織の基礎に存在する「組織の考え方」を検討したい。そして、それが社会的な連関をどのようにして保持するのかについても考えてみたい。 組織全体を生き生きとした活動主体にするには、上下関係を合理的に設定すればよいというだけではない。貢献意欲、労働意欲、動機付けなどのような、いわば「機械のなかの幽霊」と呼ぶことのできるものの存在がここで問われている。これらの組織という考え方について、この章で考えてみたい。 キーワード 組織社会、有機体、貢献意欲、共通目的、協働、士気、取引費用	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
9	貨幣とはなにか	貨幣はどのような起源を持つのか、なぜ人は貨幣社会を形成するのだろうか。貨幣が社会のなかで担っている役割について考える。貨幣使用が他者の存在を意識しなければありえなかった現象であるという視点から考えると、貨幣は経済社会の結節点として重要な働きを行っている。 紙幣や硬貨の持ち主を次々にたどっていけばわかるように、その源泉は中央銀行の債務となって最後には消えることになる。また、そもそもその紙幣や硬貨でさえ、貨幣全体のわずかな一部を構成しているものでしかなく、貨幣全体をあらわすものではない。信用創造によって生み出された貨幣のように、紙や金属のような実体をもたない貨幣の方が、現代の経済社会ではより大きな力を持っている。しかしそのことは、貨幣が将来の生産可能性という、たいへん不確かなものなどによって成り立っていることを意味している。 キーワード 交換機能、支払機能、貯蔵機能、価値尺度機能、販売可能性、流動性、信頼性、信用	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
10	金融は人びとを幸福にするか	現代経済社会の特徴は金融という特性に現れているといっても過言ではないほど、生活のなかに金融システムが浸透している。金融は、はたして経済社会をどのような方向に導いていこうとしているのか。特に注目したいのは、将来の不確実性や危険(リスク)に対して、金融がいかに対処するのか、とい	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		う観点である。高利論争など、利子の持つ意味などにはじまり、今日の金融社会のあり方について、歴史を振り返りながら、利得と利潤という考え方についてみていく。 キーワード 利得と利潤、家政術と貨殖術、ウズラ、リスクとリターン、企業欲、新結合、創造的破壊、企業結合		
11	経済社会ではどのような分配が行われてきたか	わたしたちが経済生活を行ううえで、「公正」な生活とはどのような状態のことを言うのであろうか。経済的正義という考え方がありうるならば、それは何を規準とするか、などについて、この章では考えてみたい。 成果主義、能力主義などの競争的な分配に対して、平等主義、社会民主主義的な分配法則についてもみる。経済的分配の考え方を整理し、さらに、ロールズなどの分配論の根拠となるような学説を考察する。 キーワード 福祉、配分的正義、矯正的正義、分配の公正、貢献原則、必要原則、メリットクラシー、パレート最適、格差原理	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
12	政府はどれだけ福祉を与えることができるか	政府は人びとの経済活動にどのような影響を与えるか。経済社会にとって、公共的な資源配分とはなにか。この章では、政府の経済的な役割について整理検討していくことにする。 また、政府活動は経済システムのなかで、どのように位置づけられるか。政府活動に現れる人と人の関係とはどのようなものか。福祉国家・福祉政策をめぐる経済システムのモデルを取り上げ、比較検討したい。そして、最も基本的なところでの政府活動の特徴を解明していくことにする。 キーワード 政府、ネットワーク組織、公共財、公共事業、公企業、規制、社会契約、黙約、アソシエーションとコミュニティ、一般意思、一般ルール	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
13	経済社会は環境を維持できるか	今日の経済社会は大きな広がりをもっている。かつてのように、個人は、物質的な幸福を追求するだけでは、経済社会に生きる妥当性は得られない。経済社会でも、「市場以外の取引」の重要性が認識されてきている。この章では、外部性の考え方を見るなかで、「コモンズの悲劇」や「コースの定理」などのエピソードに注目したい。今日の環境思想を辿りながら、現代の経済社会に見られる「環境問題」についての考え方を探ることにする。	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		キーワード 希少性、過剰原則、枯渇性資源、外部性、道徳的危険、コモンズの悲劇、コースの定理		
14	なぜ経済は社会組織を形成するのか	家族・コミュニティなどの社会経済組織がどのようにして社会関係を取り結ぶのかについて、この章では考える。なぜ人びとは社会のなかで集団を形成して、経済的な問題に対処しようとするのだろうか。家族の形成する家計集団や、地域で組織化される社会関係資本の考え方を見るなかで、人びとの間に生成される社会的ネットワークの役割を考察したい。 キーワード 分断、経済の分離、埋め込み、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、家族、コミュニティ、プーリング、ソーシャル・キャピタル、ネットワーク、互酬性	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)
15	経済社会はなにを目指しているのか	現代の経済社会を動かす要因について、この章で考える。サービス経済社会、情報社会、脱工業社会などの系譜を辿って、批判的に展望する。社会学者ベルなどによって提出されている経済社会の将来像について、比較検討を行う。そのなかで、経済社会があたかも見えざる目的を持っているかのように作用を及ぼす「経済秩序」という視点について、最後に見ておきたい。 キーワード 個人目的、経済社会の目的、経済秩序、機械の中の幽霊、サービス経済化、脱工業化、見えざる手、ネットワーク、不確実性、予期	坂井素思(放送大学准教授)	坂井素思(放送大学准教授)

＝　２１世紀の社会学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　船津　　衛（放送大学教授）　〕
〔主任講師：　山田真茂留（早稲田大学教授）　〕
〔主任講師：　浅川　達人（明治学院大学教授）〕

全体のねらい

社会学とはどのような学問なのかを知るために、自我・自己　都市、集団・組織、集合行動、ジェンダー、宗教、情報、災害、高齢者、病い、死などの新しい社会現象について具体的に考察し、そこから、21世紀の社会学の課題を明らかにして、社会学への理解を深めることを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	21世紀の社会学とは	21世紀を迎えた現代社会はグローバル化、地球規模の環境破壊、家族の少人数化・高齢化、情報化、また人々の自我の変容など、変化・変動がきわめて著しいものとなっている。このような中での21世紀の社会学の新しいあり方について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
2	現代社会における自己の諸相	社会学自己論の潮流を、他者の視点を束ねて問題を解決してゆくミードの自己論、脱中心化され状況次第で流動するポストモダンの自己論、そして、流動性を持ちながらも状況を越えた行為を展開しようとする物語自己論などに整理し、その特徴を論じる。	伊藤　智樹（富山大学准教授）	伊藤　智樹（富山大学准教授）
3	都市空間の社会学	現代大都市が経験している社会変動の多くは手で触れ、直接目で見ることもできないが、人々の日常生活に及ぼした影響は痕跡として空間構造に刻み込まれている。都市の空間構造とその変化を可視化する道具として社会地図を用いて、都市社会の構造の変動を考えていく。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
4	集団・組織と新しい関係性	集団・組織の役割は個人主義化が進行している現代社会においても、なお重要性を増している。他方、ネットワークや集合的アイデンティティなど、既存の集団や組織の枠を超え出た現象も見られるようになってきている。このような新しい動きを見据えながら、集団・組織現象の最前線に迫っていく。	山田真茂留（早稲田大学教授）	山田真茂留（早稲田大学教授）
5	集合行動へのアプローチ	パニック、流言、流行、リンチ、都市暴動、反戦運動や環境運動などの集合行動について、集合行動と日常行動との異同、集合行動の生成と進展を規定する社会構造、個人の信念や相互作用と集合行動のダイナミズムという観点から考察していく。	田中　淳（東京大学大学院教授）	田中　淳（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	共同性と公共性	19世紀から20世紀にかけての近代社会の成立期において、個人化の進展に直面して、「共に同じである」という意味での「共同性」をいかに再び確保するかが問題とされてきた。20世紀から21世紀にかけての近代社会の成熟期においては、個人化を前提としたうえで、「公を共にする」という意味での「公共性」をいかに新たに構築するかが問題となってきている。これから2つの概念を軸として、近代社会の変動にともなう社会編成のあり方について考察する。	澤井　敦(慶應義塾大学准教授)	澤井　敦(慶應義塾大学准教授)
7	ジェンダーと現代	まず、1970年代にジェンダーという言葉が登場したことの意味を論じ、次いで、ジェンダーには個人にとって違和感のあるものとそうでないものがあることを指摘する。そして、身近な事例を通して、潜在化しているジェンダーの問題を論じ、現代においてジェンダーが揺らぎの中にあることを明らかにする。	早川　洋行(滋賀大学教授)	早川　洋行(滋賀大学教授)
8	身体感覚とリアリティ	今日の癒やしブームに共通する点は人々の五感に働きかけ、希薄化した身体感覚のリアリティを快適さとともに回復することにある。このような観点からすると、現代はあらゆる活動が視覚中心に編制されている。本章では、近代における視覚による身体管理の系譜を辿りつつ、癒やしブームの意味について明らかにする。	出口　剛司(立命館大学准教授)	出口　剛司(立命館大学准教授)
9	世俗化と現代宗教	本章では宗教社会学の根本をおさえ、現代宗教がどのような様相を呈しているかについて考察する。世俗化のイメージとして宗教の衰退と見る視角と宗教の変容と見る視角の2通りがあるが、今日の状況を見たときどちらが妥当なのだろうか。伝統的に制度化された宗教だけでなく、新宗教運動の展開も射程におさめ、宗教と社会の関係性の今日的な位相を見定めていく。	山田真茂留	山田真茂留
10	情報とコミュニケーション	従来、パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーションが区別されてきたが、インターネットの普及によって、この区別が再検討されるべき段階に至っている。情報の過剰がもたらす弊害とコミュニケーション不全の問題に言及し、人が生きていく上で、情報とコミュニケーションがもつ意味を考える。	早川　洋行	早川　洋行
11	災害と社会	都市化や高齢化といった社会構造の変化が被害の大きさや形態に与える影響、地域構造や組織構造が対応行動に与える影響、社会が内包する災害文化が事前の準備度や避難に与える影響という側面から、災害の被害軽減に社会学が果たしてきた貢献と今後期待される領域について論じていく。	田中　淳	田中　淳

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	高齢者の社会関係	社会的に孤独な高齢者というステレオタイプが人々の意識の中に根強く埋め込まれているが、実証研究はそれはきわめてまれなことを明らかにしている。高齢者が他者との間に有意味な関係を維持していることを前提に、他者との関係を支配しているメカニズムや他者との関係が高齢者に及ぼす影響を考察する。	浅川　達人	浅川　達人
13	健全さと病いの物語	医療の発展によって、われわれは多くの恩恵を被る一方で、健全さと病気に関する偏った見方を抱くようにもなった。21世紀の社会において、近代社会に流通する回復の物語に生きがたさを感じる人々が、自分にあった物語を探っていくことを問題とする。	伊藤　智樹	伊藤　智樹
14	〈死〉の受容と〈生〉の技法	近代社会は死を合理的に身体的＝精神的活動の絶対的終焉とし、死にまつわる事柄をすべてタブーとし、身近な生活から死の痕跡を排除してきた。本章では、近代が成し遂げた死の無意味化について解明し、そこから現代における生の意味について考察する。	出口　剛司	出口　剛司
15	２１世紀社会のゆくえ―モダニティとポストモダニティ	社会学においては、近代社会の編成を「モダニティ」として整理し、モダニティを離脱、再編成しようとする動きを「ポストモダニティ」として把握する試みがなされている。本章では、モダニティとポストモダニティのせめぎあいを概観し、２１世紀社会の様相を展望する。	澤井　敦	澤井　敦

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1121200	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会調査 （’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「社会調査（’05）」を一部改訂した科目です。
改訂回は8・11・15回です。

〔主任講師（現職名）：原　純輔（東北大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：浅川達人（明治学院大学教授）〕

【担当専任教員：船津　衛（放送大学教授）】

講義概要

現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りからさまざまな情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

授業の目標

本科目を履修し社会調査の基本的な考え方を身につけると，これまで経験と勘を頼りに決めていたさまざまなことがら，たとえば行政の政策，企業の経営方針や販売戦略，NPOの事業方針などを，実証的な基盤に立って決めることの大切さ，意義を理解することができるようになります．その点を理解しないままに，小手先だけの技術，たとえば多変量解析などの分析手法などを身につけても，それらの活用は困難となります．まずは，本科目で基本的な考え方を身につけましょう．

履修上の留意点

高度な数学の知識は必要ありません．とはいえ，Σを見るたびに冷や汗をかいていると，履修を続けるのが嫌になってしまうかもしれません．数学に関する苦手意識を多少なりとも緩和する努力をされるとよいかと思います．（放送大学の科目では「社会統計学」があります）．なお，この授業は基本的な考え方を身につけることを目標としています．実際に調査や分析をやろうとする場合に必要なさまざまな技法等については，専門書をみて下さい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と社会調査	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その情報収集方法としての特質を、心理学実験や個人の耳目と比較しながら把握する。また、社会調査結果が，おおよそどのような手順で得られたものであるかを知る。 【キーワード】 社会調査の氾濫，統計集団，調査票調査，ホーソン効果	原　純輔（東北大学大学院教授）	原　純輔（東北大学大学院教授） 浅川達人（明治学院大学教授）
2	社会調査の用途と歴史	社会調査をその用途によって行政調査，福祉調査，世論調査，市場調査，学術調査の5つに類別して，それぞれの歴史を学ぶとともに、初期の代表的な成果について知る。 【キーワード】 国勢調査，家計調査，模擬投票，シカゴ学派	同上	原　純輔
3	調査内容の決定(1)	調査票調査を中心にテーマの選び方，調査事象を項目として概念化する方法を学ぶ。また、調査データを用いた「説明」がどのような論理で行われるのかを知る。 【キーワード】 記述項目，説明項目，コントロール項目，基礎項目，作業仮説，因果関係と相関関係	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	調査内容の決定(2)	調査における質問と回答の役割と、質問文が備えるべき性質について知る。また、選択回答と自由回答を比較し、それぞれの長所と短所を把握する。調査における量的変数の作り方についても学ぶ。 【キーワード】 調査票の構成, 妥当性, 信頼性, 選択回答、自由回答、量的変数	原 純輔	原 純輔
5	調査対象の決定(1)	全数調査と比較しながら、統計調査における標本調査の重要性を知り、標本抽出の考え方, とくに無作為抽出の考え方と具体的方法を学ぶ。また、母集団と標本との関係を考察する。 【キーワード】 全数調査, 標本調査, 無作為抽出, 割当抽出, 系統抽出法, 多段抽出法, 層別抽出法, 母集団と標本	同上	同上
6	調査対象の決定(2)	無作為抽出によって得られる標本統計量のサンプリング分布の性質について知り、比率の差の統計的検定を例に、サンプリング分布理論を用いた統計的推測の考え方を学ぶ。項目間の独立性の検定についても学ぶ。 【キーワード】 母集団統計量, 標本統計量, サンプリング分布, 正規分布, 検定統計量, 危険率(有意水準), 独立性の検定, $\chi 2$ 分布	同上	同上
7	調査の実施と処理(1)	社会調査実施の具体的手順と, 訪問面接調査, 留置調査, 郵送調査, 電話調査, 集合調査など, さまざまな実査方法および長所と短所を知る。とくに訪問面接調査の実際を知り, 調査員の役割について考える。 【キーワード】 個別訪問面接調査, 調査員マニュアル, 調査場面のコントロール, 面接者の影響, 虚偽(ウソ)への対応	同上	同上
8	調査の実施と処理(2) **(※改訂回)**	調査終了後の点検, コーディング, データ・ファイルの作成, データ・クリーニング作業における留意点を知る。また, これらの作業や集計・分析において重要な役割を果たす, コンピュータ・ソフトについて紹介するとともに, テキストデータの統計的分析法についても研究事例を紹介する。 【キーワード】 コーディング, アフターコーディング, コードブック, データ入力, カテゴリーエラー, SPSS, テキストデータの統計的分析法	浅川達人	浅川達人
9	結果の集計と分析(1)	量的データと質的データのそれぞれについて, 集計の方法, 基本統計量(代表値, 分散, 相関係数)について知る。また, 基本統計量とデータのタイプとの適合性、量的データと質的データの基本統計量間の関係ついて考える。 【キーワード】 柱状図, 散布図, 外れ値, 平均値, 中間値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 積率相関係数, 属性相関係数	原 純輔 浅川達人	原 純輔
10	結果の集計と分析(2)	クロス集計表のエラボレーションを例に, 真の相関関係を発見して、因果分析を行ってゆく方法と問題点について把握する。また, 量的変数に関する多変量解析法の考え方と実例を学ぶ。 【キーワード】 疑似相関関係, 第3変数のコントロール, 付加効果, 交互作用, 多変量解析法	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	聴取調査の方法 （※改訂回）	聴取調査の手順を知り，調査票を用いない非構造化面接の特質と意味について考える。また、聴取調査が社会調査として成立するためには、対象あるいはテーマが社会性をもつ必要のあることを学ぶ。 【キーワード】 聴取調査の手順，非構造化面接，調査結果の個別性，事例調査，テーマの社会性	原　純輔	原　純輔
12	調査報告をまとめる	調査報告書における，表やグラフの作り方，数値の扱い方の注意点を知る。また、調査結果を「報告する」ということが、調査者の主体的な認識行為としてしかありえないことを、実例を通して学ぶ。 【キーワード】 調査報告書の構成，統計図表の作成，比率の差の扱い，報告者の主張の展開，データの公開	同上	同上
13	さまざまな社会調査(1)	社会の変化をとらえるためは継続調査が重要であること、その方法としての時系列調査とパネル調査の方法および実例を学ぶ。また，国際比較調査についても、その実施上の問題点と実例を学ぶ。 【キーワード】 世代効果，加齢効果，時系列調査，パネル調査，国際比較調査	同上	同上
14	さまざまな社会調査(2)	さまざまな社会問題の告発と解明は，社会調査の起源の1つであったが，その役割は現代社会においても失われていない。社会問題についての代表的な調査研究の例と成果を知り，社会調査の社会的責務について考える。 【キーワード】 貧困，公害，少子高齢化，災害，水俣病，受益圏と受苦圏，災害コミュニティ	浅川達人	浅川達人
15	調査者と被調査者 （※改訂回）	近年の低回収率をもたらした背景について知るとともに，社会調査に対する人びとの反発を，調査者と被調査者との関係の中でとらえなおし，社会調査という活動が許される条件について考える。 【キーワード】 調査不能，協力拒否，プライバシー，個人情報保護法，社会調査士資格，調査者の特権，社会調査を支える信念	原　純輔	原　純輔 浅川達人

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1124102	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 社会統計学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：片瀬　一男（東北学院大学教授）〕

講義概要

社会調査や実験から得られたデータをもとに、統計的分析を行なうための基礎を学ぶ。その際、因果推論の方法、すなわちクロス表分析、t検定、分散分析（F検定）および回帰分析による仮説検定を中心に講義をすすめる。そして、初等統計学の基礎知識に関する理解を十分深めた上で、実践的な分析技法にすすむ。また、講義のなかでは、実際の分析例を数多く紹介し、受講者には単に講義を聞くだけでなく、例題や練習問題を解くことを課す。したがって、受講に際して、とくに3回目以降は、電卓（平方根を開く機能とメモリー機能のあるもの）および筆記具を用意すること。

授業の目標

社会調査や実験のデータに関して、基本的な統計的分析を行なうための技法を身につけることが主要な目標となる。そして、仮説の検定によって因果推論を行う思考力の習得を目指すとともに、統計的分析をもちいた既存の論文や報告書などを読みとる力を養う。さらに、実際の分析例に数多く触れることで、統計的分析をつうじて社会現象の背後にある因果関係を解明する愉しみを体験することも授業の目標となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	調査はどのように行われるか	社会調査の目的は何か、また調査から得られるデータにはどのような種類があるか、またデータ分析において理論や仮説がどんな役割を果たすのか説明した上で、さかのぼって調査の設計から因果図式・仮説の構成、質問文の作成など一連の社会調査の流れを解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
2	調査データをどう分析するか	社会調査データの分析における記述と説明を具体例をもとに解説し、度数分布や記述統計による記述、統計的説明の意味を示す。また、統計的説明において仮説の検定がもつ意味をサンプリングという考え方も踏まえて解説する。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
3	度数分布表を作成する	社会調査データ分析の出発点となる記述の基礎として、度数分布表の作成、百分率（パーセンテージ）の計算法などを変数の性質（離散変数・連続変数）ごとに解説し、累積度数分布やパーセンタイル、分位数の概念についても理解を深める。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	度数分布を記述する	作成された度数分布表をもとに、これを記述する統計量として、代表値（最頻値・中央値・平均値）と変動の測度（多様性指数・範囲・分散・標準偏差）の計算の方法、またそれがもつ意味について紹介する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
5	クロス表を作成する	２つの離散変数の関係から因果推論をするために、クロス集計を行う方法について解説する。そして、標本に基づく母集団に関する推定の考え方を紹介しながら、仮説の統計的検定の意味について理解を促す。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
6	クロス表を分析する：カイ二乗検定	クロス表から因果関係に関する仮説検定を行う技法として、カイ二乗検定の方法を学ぶ。カイ二乗検定統計量の標本分布から検定統計量のもつ意味を説明し、自由度の概念を理解したうえで、実際にカイ二乗検定による仮説の検討を行う。	片瀬　一男（東北学院大学教授）	片瀬　一男（東北学院大学教授）
7	２つの平均の差を検定する(1)：正規分布	標準誤差が既知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的にみて有意な差があるか検討するために正規分布を利用する方法を紹介する。正規分布の性質を理解したうえで、実際に正規分布を利用した仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
8	２つの平均の差を検定する(2)：ｔ検定	標準誤差が未知の場合に、連続変数における２つの平均の間に、統計的に有意な差があるか検討する方法としてｔ検定を紹介する。検定統計量としてのｔ分布の性質を理解したうえで、実際にｔ検定による仮説の検討を行う。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
9	複数の平均の差を検定する：分散分析	複数の標本平均の間に差があるかどうかを検討するための統計的手続きとして、分散分析について学ぶ。連続変数全体のばらつきを、独立変数による群効果とそれ以外の誤差によるばらつきとに分離して、F比を求める手順や考え方を解説していく。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
10	２つの連続変数間の関係を推定する(1)：回帰分析の基礎	２つの連続変数の関係から因果推論を行う方法として単回帰の基礎を学ぶ。散布図や回帰直線に関する理解を深めた後、最小二乗法により線形回帰方程式を推定する方法を実際の研究例を示しながら解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）
11	２つの連続変数間の関係を推定する(2)：回帰分析の応用	回帰分析から計算される関連の測度である決定係数と相関係数がどんな意味をもつか説明し、併せてその検定の仕方を学ぶ。さらに、標準化された回帰係数（ベータ係数）を計算することの意味を解説する。	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）	阿部　晃士（岩手県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	離散変数間の関連を測定する：関連係数	クロス表における２つの離散変数の関連の強さを示す関連係数とその計算法や使い方を説明する。具体的には最適予測係数、コンティンジェンシー係数、ファイ係数、ユールの関連係数などを取り上げる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
13	多重クロス表を分析する(1)：エラボレーション	独立変数と従属変数の関係を明らかにする方法として、第３変数を用いて多重クロス表を作成し、分析する方法――エラボレーションについて学ぶ。エラボレーションによって、疑似相関や付加効果、交互作用などの変数間の関連が解明されることになる。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
14	多重クロス表を分析する(2)：エラボレーション	第３変数の影響を除去して２変数間の相関を捉える方法として、偏相関係数を取り上げ、その考え方や計算方法について学ぶ。また、この偏相関係数が、もとの単純関連（単相関）や分割関連、周辺関連とどのような関係にあるのかを明らかにする。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）
15	講義のまとめ：調査報告書や論文の読み方・書き方	現代の情報化社会における統計リテラシーという観点から、これまで学習してきたことを振り返り、比較・検討していく。そして実際に調査報告書や論文を読んだり、自分で作成したりする際の注意点を取り上げる。さらに、社会統計学や社会調査について、今後の学習指針を示す。	高橋　征仁（山口大学准教授）	高橋　征仁（山口大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1120808	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　市民社会と法　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：広渡　清吾(東京大学社会科学研究所教授)　〕

講義概要

「市民社会」という概念は、近代の世界の中で様々に解釈されてきている。法の世界、法のあり方を理解する上でも、「市民社会」の概念は、一つの重要な役割を果たすものである。「市民社会」とは、自由で平等、独立の個人が相互に交流し、自分たちの社会のあり方を決めていく社会であると考えられる。市民社会の概念をそのように位置づけたうえで、現代における社会と法のあり方について、一般的な問題から、具体的な問題まで多様にとりあげて、考察する。

授業の目標

市民社会概念の歴史的含意、社会と法のあり方にとっての市民社会概念の意義などを理解した上で、現代の社会において、社会と法のあり方を決定するのが社会の構成員としての「市民」であることを、法の形成と実現に関わる基礎理論や具体的な法領域毎の問題にそくして学ぶことを目標にする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	市民社会という考え方	本講義の初回として、「市民社会と法」というテーマの下で、何をどのように論じるのかを説明する。近代の市民社会を自由で、平等で、独立の市民から構成される社会であると定義した上で、そのような市民社会の考え方を出発点にすると、近代の法のあり方がどのように把握されるかについて考える。 【キーワード】 市民社会、市民と国民、市民の法の抽象的性格	広渡清吾	広渡清吾
2	市民社会と国家	市民社会の考え方にとって、市民社会と国家の関係をどのように位置づけるかはもっとも重要な論点である。これまで歴史的に論じられてきた市民社会の二つのタイプ、および最近の新しい市民社会論、ならびに戦後日本の法律学における市民社会論をとりあげ、そこにおいて国家がどのように位置づけられたかを検討する。 【キーワード】 civil society 、新しい市民社会論、市民社会と国家の一元論	広渡清吾	広渡清吾
3	市民社会と法体系	市民社会は自由を原理とするが、同時に平等の実現を課題とする。法の体系は、自由を原理とする法領域と自由を規制して平等を保障しようとする法領域の両者を含む。法はまた、公共の利益を確保することをも目的にする。このような多様な法領域の編成について考える。 【キーワード】 法体系、民法、商法、労働法、行政法、刑法	広渡清吾	広渡清吾
4	市民社会における裁判	裁判は、市民が自己の権利を擁護するプロセスであると同時に、社会の法秩序を具体的に実現するプロセスでもある。日本国憲法は市民に「裁判を受ける権利」を保障している。この権利の具体的実現のために、裁判制度がどのように展開しているかを検討しよう。 【キーワード】 裁判を受ける権利、三審制、違憲立法審査権、法律扶助	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	市民による司法の利用	市民は、自己の権利を擁護し、実現するためにどの程度、どのように裁判を利用しているだろうか。日本社会は裁判の利用が少ない社会であるといわれるが、平成の司法改革は、その状況を変えることを狙いとした。この改革の中身を検討し、とくに市民に一番身近な法曹である弁護士について考える。 【キーワード】 司法改革、法科大学院、訴訟嫌い、権利意識、弁護士	広渡清吾	広渡清吾
6	市民の司法参加	司法の職務は、国民主権に基づいて専門家としての裁判官が担っている。裁判官による司法、とくに刑事裁判に直接に市民が参加する制度が諸外国では設けられており、日本でも「裁判員制度」が実施されることになった。この新しい制度について考える。 【キーワード】 裁判と民主主義、陪審制度、参審制度、裁判員制度、	広渡清吾	広渡清吾
7	市民社会と行政	行政は、法律に基づいて市民のために公共的な活動を行うものであるが、しばしば市民に優越する1つの権力のように扱われ、振る舞っている。そこには、戦前来の「お上」的行政観が残存している。近年では、市民と行政のパートナーシップが強調されだした。このような状況を検討し、市民と行政の関係について考える。 【キーワード】 行政の法律適合性、行政訴訟、行政手続法、情報公開法	広渡清吾	広渡清吾
8	市民と地方自治	地方自治制度は、日本国憲法によって導入されたものである。地方自治における市民と行政の関係は、より直接的であり、協働して地域を形成するという側面が次第に重要になってきている。市民のボランティア組織の役割が期待されている。地方自治の意義と制度を検討し、そこにおける市民と行政の関係を考える。 【キーワード】 地方公共団体、地方分権、NPO，市町村合併、市民と行政の協働	広渡清吾	広渡清吾
9	市民社会と企業	企業は市民社会における経済活動の担い手である。多くの市民は、企業で従業員として働く。現代の企業は、会社の形式をとることが普通であり、日本ではほとんどが株式会社である。経済活動の担い手であり、市民の働く場所である、株式会社としての企業について考える。 【キーワード】 株式会社、株主、取締役、従業員、社員、経営参加	広渡清吾	広渡清吾
10	市民と労働者	労働者は使用者に対して実質上、従属的な関係に立たされる。そこで労働者を使用者と対等な立場にするために労働基本権が与えられ、労働法が整備されている。近年の労働法制の改革を検討しながら、労働者の権利と労働法の役割について考える。 【キーワード】 労働三権、労働組合、労働時間、正社員と非正社員	広渡清吾	広渡清吾

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	市民社会と消費者	市民は、自給自足をしないかぎり、消費者としてモノやサービスを購入する。購入するモノ・サービスの安全性、品質や価格などをめぐって消費者と事業者の間には様々な紛争が生じうるが、そこでは消費者が弱い立場に置かれている。消費者をめぐる問題と法制度について検討する。 【キーワード】 消費者の権利、消費者契約、消費者団体、約款	広渡清吾	広渡清吾
12	市民社会と外国人	日本の市民社会は、日本国籍をもつ市民のみならず、外国籍をもつ市民も居住している。外国人である市民は、滞在の目的や期間などを異にするが、日本国籍者である日本国民と区別される法的に限定された地位を与えられる。外国人市民の状況と法的地位、その問題性について考えてみる。 【キーワード】 国籍、帰化、在留資格、外国人登録、永住者、移民	広渡清吾	広渡清吾
13	市民社会と女性	市民社会の市民は、自由で平等とされるが、実際には様々な差別が存在する。その中でもっと基本的な問題は、男女の差別である。日本の歴史の中で、男女の平等が認められたのは、やっと日本国憲法によってであった。男女平等をめぐる問題と法の対応を考える。 【キーワード】 雇用機会均等、性別分業、セクシュアルハラスメント、男女共同参画	広渡清吾	広渡清吾
14	市民社会と家族	家族は、市民の生活の基礎単位であるが、その役割は男女の関係の社会的あり方に規定されている。日本の家族法は、戦後改革で根本的に変えられるが、それ以降大きな変化なしに現在に至っており、改革の必要性が高まっている。婚姻制度を中心にこの問題を考える。 【キーワード】 離婚、破綻主義、夫婦別姓、非嫡出子の差別、少子化	広渡清吾	広渡清吾
15	市民社会と平和	市民社会の平和と安全は、市民社会にとっての最高の目標である。日本国憲法は、戦争の放棄および戦力の不保持を規定し、平和確保への道筋を示しているが、その改正を求める意見も強まっている。あらためて憲法の平和のための道筋について考える。 キーワード 戦争放棄、戦力の不保持、自衛権、日米安保条約、PKO	広渡清吾	広渡清吾

＝　日本国憲法（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　大石　眞（京都大学大学院教授）〕

全体のねらい

比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ（１～３）、現行の日本国憲法が定めている統治構造（４～９）と権利保障（１０～15）について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることを通して、憲法に対する理解をより深めることができるよう努めたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	憲法の考え方	憲法の意味やそのあり方について概説する。すなわち、憲法の概念（実質的意味の憲法・形式的意味の憲法・立憲的意味の憲法）、その法源（憲法典・憲法附属法・憲法判例）、そして憲法解釈の方法などについて説明する。	大石　眞（京都大学大学院教授）	大石　眞（京都大学大学院教授）
2	明治立憲制の成立と運用	かつて公式に帝国憲法と略称され、今日一般に明治憲法といわれる大日本帝国憲法は、東洋で初めて制定された憲法典である。明治立憲制はこれを中心に成立するが、ここではその制定経緯や特色を明らかにし、実際の運用における問題点なども検討する。	同　上	同　上
3	現行憲法の制定と基本原理	ポツダム宣言の受諾に始まり、占領管理体制の下で進められた現行の日本国憲法の制定経過をたどり、その特色を浮き彫りにするとともに、基本原理といわれるものと憲法改正問題との関係などを検討する。	同　上	同　上
4	半直接民主制－国民と国会	日本国憲法の第一の特色を「半直接民主制」とみる立場から、国民と国会との関係を明らかにする。そのため、国民主権や参政権の内容をみた後、公民団（有権者団）の構成原理、国民発案・国民表決などの意義、具体的な国政選挙のあり方、政党の位置づけなどを検討する。	同　上	同　上
5	議院内閣制（１）－国　会	現行憲法の第二の特色を「合理化された議院内閣制」とみる立場から、国会と政府との関係を明らかにする。まず、両議院の組織や両院制のあり方について検討を加えるとともに、その立法・財政・政府統制などの権能や国会両議院の手続などを取り扱う。	同　上	同　上
6	議院内閣制（２）－天皇と内閣	政府を形づくる天皇と内閣の地位・権能・手続を概観する。具体的に言えば、皇位継承法や天皇の国事行為をめぐる問題点を探るとともに、内閣の構成（内閣総理大臣と閣僚）と権限（行政組織統轄権・総合調整機能など）について検討を加える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	司法審査制 －政治と裁判	現行憲法の第三の特色を「アメリカ型法の支配」とみる立場から、国会・内閣などの政治部門と司法裁判所との関係を明らかにする。そのため、司法組織の概要を説明した後、司法権の意味と限界、合憲性審査制度のあり方などを検討する。	同　上	同　上
8	財政民主主義 －国家と財政	財政立憲主義ともいわれる財政民主主義の原則を形づくる憲法規定の内容を概説する。ここでは、租税制度・予算制度をめぐる問題点を中心的に取り上げるが、財政作用に対する憲法上の制約などについても検討する。	大石　眞	大石　眞
9	地方自治 －国と地方自治体	地方自治の原理と構造について検討する。すなわち、地方分権の理念、地方自治体の組織と機関、国の法令と条例との関係といった伝統的な論点に加えて、自治事務と法定受託事務、地方自治体に対する国の関与のあり方といった最近の論点を検討する。	同　上	同　上
10	人権と権利保障	人権・基本権・基本的人権といったさまざまな観念を整理した後、権利主体、権利保障の方法・関係・限界といった権利保障に関する通則を検討するとともに、国際人権保障のしくみや人権条約などについて概説する。	同　上	同　上
11	包括的権利	現行憲法13条が包括的に定めている幸福追求権及び適正手続保障の具体的内容について検討するとともに、いろいろな場面で問題となる憲法14条が定めている平等原則のもつ意味や効果について、最高裁判所の主要な憲法判例を紹介しつつ、考察する。	同　上	同　上
12	人身の自由と 私生活の保護	いろいろな権利や自由の中で、最も基本的な権利に位置づけられる人身の自由を確保するための基本原理と人身拘束の典型的な場面に対する制約を意味する「憲法的刑事手続」の考え方を検討するとともに、私的生活を形づくる居住の自由と住居の不可侵、通信の秘密などについて検討を加える。	同　上	同　上
13	精神的自由	学問・教育といった人格形成に関する自由、宗教的自由、表現や放送といった情報に関する自由、そして集会・結社といった集団行動に関する自由について、主要な論点に着目し、最高裁の憲法判例を踏まえつつ、検討する。	同　上	同　上
14	経済的自由	職業の選択、財産権の行使、契約といった生活営為のための諸活動を検討するとともに、こうした経済活動に対する制約を予定している憲法規定（労働三権など）のもつ意味についても吟味する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	国務請求権	ここでは、国民が国家の不作為を求める自由権の保障とは異なって、国家の積極的な作為を求める場面を対象とする。すなわち、裁判請求権のような伝統的な国務請求権や、生存権などのように比較的新しい請求権などの概要について検討する。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1123807	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　政治学入門（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　良彰（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　武司（慶應義塾大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：山岡　龍一（放送大学准教授）　〕

講義概要

「政治」を理解するうえで不可欠の、基本的な政治学的概念や理論について紹介することにしたい。特に、政治における重要なテーマである「民主主義」を軸にしながら、政治思想における重要な概念や民主政治を支える様々な制度、マスメディアや利益団体といった中間集団、選挙制度と投票参加・投票行動について説明していきたい。

授業の目標

履修者が、一市民として「政治」について自律的に理解し、判断できるようになるうえで必要な知識と考え方を紹介したい。さらには、政治学のより専門的な部門や、他の社会科学的学問を学習するうえで必要となる、基本的知識を提供することにしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	政治とは何か	「政治とは何か」という問いを、「政治学とはどのような営みなのか」という問いを出発点として提示する。政治学の方法論的特性に関して簡単に紹介し、探究の前提でありかつ目標である「政治的なるもの」の基本的な意味を、共通善、権力、正当性といった論点を中心に概観する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
2	政治の正当性Ⅰ－民主主義とは何か	「政治はいかにあるべきか」という規範的な問いを、政治を正当化する原理の考察によって考える。現代において最も支配的な政治の正当性原理である民主主義の思想を、歴史的変遷をたどりつつ、その主要な要素を明らかにすることで検討する。その上で、現代民主主義理論の展開についても紹介する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
3	政治の正当性Ⅱ－自由主義とは何か	もう一つの支配的な政治の正当性原理である自由主義の思想を、「自由」概念の解釈を軸に、歴史的展開をふまえて検討する。さらに、ロールズを中心とする現代自由主義理論とその批判の展開を紹介し、現代自由民主主義の課題について考察する。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）
4	政治の空間	我々が政治現象を総体的に捉える際、「政治的なるもの」の単位を不可避的に前提とする。この単位の変遷を、「政治的共同体」の現実と思想に関する歴史的類型を使って説明する。主として近代国民国家の形成と意義を考察し、それに対する現代的な挑戦として、市民社会論やグローバリゼーション論を取り上げる。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	民主政治を支える諸制度	今日民主制の現実的形態としての代議制民主主義は、選挙と政党とを駆動させる両輪の輪としているが、この２つ以外にも、統治を委された者が恣意的に権力を行使し得ないように、様々な制度的仕組みを用意している。権力の分立の仕組みや情報公開、オンブズマン制度などである。ここではそのような民主制を支える制度的仕組みについて概観する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
6	政治過程における利益団体	ほとんどの市民の政治参加は選挙における投票によってなされるが、別の参加の形態として利益団体政治がある。一部の私的・特殊利益が組織化された集団としての政治参加に他ならないが、このような利益団体の存在は代議制民主主義にとってプラスの側面もあるがマイナスの側面もある。ここではそのような利益団体に関する理論を紹介する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
7	政治過程におけるマスメディア	新聞やテレビをはじめとするマスメディアには、政府の行動を監視する番犬としての役割を果たすことが期待されている。一方でそのようなマスメディアは、政治過程において独立した存在としての市民の思考や行動に大きな影響を及ぼすという単なる番犬以上の役割も果たしている。ここではマスメディアの政治的機能や影響力に関する議論を概観する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
8	政治過程における新しい中間集団	かつて政治過程において、いわゆる普通の市民の役割は選挙を通した代表の選出に留まっていた。しかし今日、市民社会と呼ばれる領域において、われわれと同じ普通の市民が、選挙に留まらず、国家と社会をつなぐ新しい架け橋を作りつつある。公共利益団体、ＮＰＯ、ＮＧＯなどである。ここでは、上記のような新しい中間集団の出現によって新たな展開を迎えている現代の市民社会の動態を理解する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
9	国家と社会の架け橋としての政党	これまで選挙と並んで代議制民主主義を駆動させる両輪の輪の一つとされ、国家と社会の架け橋という役割を担うことが期待されていた政党は、今日ではその機能不全から様々な問題点を抱えることになった。ここではそのような政党の歴史的発展の経緯、機能、分類、及び政党システムについて概観した後、その問題点を考察する。	河野武司（慶應義塾大学教授）	河野武司（慶應義塾大学教授）
10	多数決原理と民主主義－どうしたら多様な民意から社会的決定を生み出せるのか？－	民主主義社会においては、多様な個々人の意見から一つの社会的決定を作り上げなくてはならない場合があり、そのための方法として多数決原理を採用している社会が多い。しかし、多数決民主主義を確保するためには、この多数決原理の運用にあたって様々な慎重な配慮をしなくてはならない問題があることについて考察することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	選挙制度と民主主義－どうしたら民意を反映することができるのか？－	有権者の意見を正しく政治に反映するために選挙制度がある。どのような選挙制度が民意を反映するのかを考えるために、選挙制度の分類を説明し、世界の主な国の選挙制度を紹介することで、各国が民意を反映させるためにどのような工夫をしているのかを考えることにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
12	投票参加と棄権－人は何故、投票参加するのか？また何故、棄権するのか？－	折角、自分の意見を政治に付託する機会として選挙があっても、投票に参加しないで棄権してしまう有権者がいる。そこで、有権者の投票参加を促進する要因と阻害する要因について考察したい。また全国の自治体が行っている投票率を向上するための試みについて紹介することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
13	投票行動の決定要因－人は何によって投票を決めているのか？－	選挙に際して、有権者はどのような要因によって自分の投票行動を決めているのだろうか。また、そうした要因は時代とともにどのように変化しているのだろうか。これまでの政治学におけるコロンビア学派やミシガン学派などの研究を紹介しながら、社会的属性や政党支持、争点態度、業績評価などが投票行動の決定に与える影響について考えることにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
14	地方自治と民主主義－地方自治体ではどのように民意が反映しているのか？－	民主主義は、国政だけでなく地方自治体においても重要な課題である。そこで、住民の民意がどのように地方自治体における行政に反映することができるのかを考えることにしたい。また首長と地方議会の関係や三位一体改革などの地方分権改革についても紹介することにしたい。	小林良彰（慶應義塾大学教授）	小林良彰（慶應義塾大学教授）
15	政治と非政治のあいだ	「政治的なるもの」とそうでないものを区別する境界線が、現在揺らいでいる。自由民主主義が前提としてきた「公と私」の区別に対する種々の挑戦を、ジェンダー、宗教、自然環境といったテーマをつうじて検討する。最後に「〈非政治〉の政治化」という観点から、現代政治の課題を考える。	山岡龍一（放送大学准教授）	山岡龍一（放送大学准教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1124307	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　経営学入門（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　弘（神戸大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：奥林　康司（摂南大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子（放送大学准教授）　〕

講義概要

経営学入門として、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っている。従って、これらの経営要素を組み合わせる仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人事労務管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

授業の目標

経営学の出発点として、経営の概念を明らかにする。経営学の基礎概念として企業、経営、管理、組織、経営効率、事業などを日常生活の中から明らかにする。そこから、経営学的視点はどのようなものかを示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営とは何か	経営学の出発点としての経営概念を明らかにする。経営学は経済学とどのように異なるのか。経営学的な視点はどのようなものか。更に、経営学の基本概念である企業、経営、管理、組織などについて説明し、本講義の全体像を紹介する。	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
2	株式会社の仕組みと組織	経営学の主要な対照となる株式会社制度について、その仕組みと基本的な特徴を明らかにする。株式会社は、行政の組織や学校などとどのように異なるか。株式会社は何を目指して運営されているか。誰にどのように役立っているか。なぜ株式会社は社会から注目を集めているかなどを学習する。	同上	同上
3	コーポレート・ガバナンス	会社を運営する経営者の役割とその行動を規制する仕組みを明らかにする。会社は誰のものか。誰が会社の運命を決定する権限を持っているか。経営者と株主はどのような関係にあるか。経営者はどのような考え方に基づいて会社を運営しているか。社会にとって良い会社の運営とは何かなどを学習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業集団とグループ経営	会社は他の会社とどのような協力関係を結んでいるかを学習する。住友・三菱系などの企業集団の意義と役割は何か。なぜ企業は集団を形成するのか。企業集団と区別された企業グループの特徴は何か。グループ経営の仕組みはどのようになっているか。会社はなぜ会計面でも結び付けられているかなどを学習する。	同上	同上
5	生産システム	商品を効率的に生産する方法とその基本的な考え方を明らかにする。製品を安く、かつ質も高く生産する方法としてどのような仕組みが工夫されてきたか。大量生産方式の特徴はないか。多品種少量生産方式といわれるセル生産システムの特徴は何か。それらがなぜ効率性を高めるかなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
6	企業の組織構造	企業がその目的を効率的に達成できるように工夫してきた組織について学習する。官僚制組織やフラット型組織、マトリックス組織などはどのような考え方に基づいて設計されてきたか。それらの組織はいかにして効率を上げているか。どのような条件の下で夫々の組織は効率性を発揮しているかなどを学習する。	同上	同上
7	企業組織における人間行動	企業組織の中で社員や管理者はどのような行動をしているかを明らかにする。社員はなぜ会社の中で一生懸命働くのか。社員は何を考えて熱心に働くのか。どのような管理者の下で部下は良く働こうと思うのか。部下の意欲を引き出すために管理者はどのような行動をするのがよいかなどを学習する。	同上	同上
8	賃金制度	我が国の賃金制度の特色について考える。年功的賃金制度とは、年齢とともに上昇する傾向があり、各種手当などの生活給要素を含むものである。第二次世界大戦後の賃金制度の変遷を概観し、いわゆる日本的賃金制度について学習する。さらに、1990年代以降の成果主義賃金についても解説する。	原田　順子（放送大学准教授）	原田　順子（放送大学准教授）
9	非典型労働者の雇用管理	正社員以外の雇用形態（パート、アルバイト、派遣等）で働く人は、劇的に増加している。従来、非典型労働者は女性に多かったが、近年では若年・高年齢の男性にも広がっている。その背景、問題点について考える。また、非典型労働者の積極的活用を行う企業の事情についても学習する。	同上	同上
10	企業の資金調達	資金は企業活動に投下され、さまざまな財やサービスに変換され、また次の資金として回収される。このように資金は企業活動を支える大切な資源としての大きな役割を担っている。 講義では、企業の資金調達について、その制度や資金調達方法を中心に解説する。	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	財務情報の活用	企業活動の成果は最終的に財務諸表という計算書類に集約される。したがって、財務諸表を理解し、その分析方法を知ることは企業活動の理解を深めることとなる。 講義では、まず財務諸表にはどのようなことが記載されているかを解説し、後に具体的な分析を行う。	同上	同上
12	企業評価	「よい企業」とはいったいどんな特色を備えた企業だろうか。また、「よい企業」があるとすれば、「悪い企業」はどのような症状に陥っているのだろうか。講義ではコーポレート・ガバナンスの視点から企業評価の手法について解説する。	齋藤　正章	齋藤　正章
13	グローバル経営	今日では、企業経営は世界市場を前提にして展開されている。海外で活躍している日本企業は日本で行っているのと同じ経営を行っているのか。海外で通用する日本的経営はどのようなものか。グローバルに活躍する日本企業はどのような経営を行っているのか。国際市場における日本企業の競争力の源泉は何かなどについて学習する。	奥林　康司	奥林　康司
14	良き「企業市民」としての企業	企業に対する人々の関心は近年大きく変わりつつある。「誠実な」企業、「環境にやさしい」企業、「志の高い」企業等が次第に高く評価され、かつ、業績も伸ばしつつある。本章では良き「企業市民」としての企業、「社会的責任投資」「フェアートレード」等の新しい動きを述べたい。	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）	佐々木　弘（神戸大学名誉教授）
15	経営学のさらなるフロンティアを求めて	経営学の領域でこれまでに蓄積された知見やマネジメント的視点は非営利組織をはじめ、都市経営、病院経営、学校（大学）経営、協同組合の経営等、より広い組織体にも広く適用され、有用な分析用具として活用されつつある。 経営学はさらなるフロンティアを求めて、その外延を拡大しつつ発展している。講義ではこの辺の動向を説明してみたい。	同上	同上

＝　グローバル経営戦略（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　吉森　賢（放送大学教授）〕

全体のねらい

グローバル企業とは国境にとらわれず世界を単一の市場と考え、グローバル市場地位の持続的維持を目指す企業である。このためにグローバル企業は最も有利な条件を提供する市場で販売、生産、研究開発などに必要な経営資源を活用する。この講義では日本の視点からグローバル企業としての基本的戦略とその周辺領域を考察する。現在及び将来国際経営に従事ないし従事したいと考える受講生のために、できるだけ実務に適用できる具体的指針を日本企業、米欧アジア企業の実例に基づき提供する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	グローバル企業への条件	グローバル企業を戦略的機能とこれを実現するための参入戦略の視点から定義する。実例に基づきグローバル企業の発展過程を考察し、各段階に要求される企業の戦略とその参入戦略を理解する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	日本企業の比較優位性と弱点	グローバル企業に必要な条件の一つは本国で確立される製品の比較優位性である。日本企業はいくつかの産業分野で世界的な競争力を堅持している。その要因を分析し、弱点をも理解する。	同　上	同　上
3	グローバル市場参入戦略	グローバル市場を製品・技術・サービスを提供する市場としてのみならず、必要な経営資源を調達する市場と定義し、基本的な市場参入戦略を示し、選択するための基準を明らかにする。	同　上	同　上
4	輸出とOEM	最も基本的なグローバル経営であり、ほぼ全ての企業のグローバル戦略はこれから始まる。直接および間接輸出、OEM、委託販売などについて理解し、この戦略の利点と限界を考察する。	同　上	同　上
5	ライセンス契約－1	特許、商標などの知的所有権やノウハウなどの実施権供与によるグローバル戦略である。日本企業と外国企業間のライセンス取引の戦略的利点と問題点を明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	ライセンス契約－2	ライセンス契約の内容について具体的に示す。またライセンス契約の一種であるフランチャイズ契約について具体的により理解する。また知的財産権に伴う法務リスクについて概観する。	同上	同上
7	合弁会社－1	合弁会社はより高度なグローバル経営戦略である。その利点と限界を参入企業と現地企業の視点および折半出資、支配的出資比率、少数出資比率の視点により理解する。	同上	同上
8	合弁会社－2	合弁会社の経営管理について企業統治、取締役会の構成、最高経営責任者の機能、経営計画、親会社との人的・取引関係、合弁会社契約の改定ないし解消の視点から検討する。	同上	同上
9	子会社設立	グローバル戦略と組織の関連性と発展段階、本社と子会社との関係、グローバルなネットワーク組織、管理と調整方式の類型、海外子会社の戦略的役割などを日米欧の事例に基づき考察する。	同上	同上
10	グローバル戦略提携	戦略提携は自動車、電子機器などの分野で広く実施されている戦略である。その目的、提携当事者間の関係、成功要因を理解する。典型的実例としてトヨタとGMの戦略提携NUMMIを取り上げる。	同上	同上
11	グローバルM&A戦略	現地企業の合併・買収は利点も大きいがリスクも大きい戦略である。これらを明確にし、M&Aの成功例と失敗例を日本企業と外国企業の事例により理解する。	同上	同上
12	グローバル・マーケティング戦略	グローバル企業は進出国に適した製品の適応化か、世界標準製品かの選択を迫られる。この矛盾をいかに克服するかを理解する。デファクト標準戦略の成功要因を日本のVTRの事例で理解する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	グローバル生産戦略	グローバル企業の本国と外国との生産拠点の配置に関して考慮するべき戦略的要因を検討する。関連する領域として部品などの国際調達に関する戦略についても理解する。	同　上	同　上
14	グローバルリスク管理	グローバル企業は事故、製造責任、違法行為、知的財産権を巡る係争などさまざまなリスクに曝されている。これらに対処するための方策を事例により理解する。	同　上	同　上
15	グローバル企業の管理、統治、倫理	グローバル企業の管理と統治制度のあるべき姿、進出国における倫理的問題とその対応、企業の社会的責任の実践、グローバル企業への批判とその対応などについて考察する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1121006	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の会計 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：石川純治（駒澤大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：斎藤正章（放送大学准教授）〕

講義概要

会計上のトピックスが一般紙にもしばしば登場してくる。会計および監査が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計制度の大変革いわゆる「会計ビッグバン」が社会経済に大きなインパクトを与えている。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。

授業の目標

個々の新しい会計基準を知ることよりも、大きく変容する現代の会計をトータルに理解することがより大切である。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか、変容する現実社会のなかで会計がどのように機能しているか、といった点の学習が大切である。本講義をとおして、変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見に役立つことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史のなかの簿記会計 ～温故知新～	講義のプロローグとして、会計を歴史の文脈で学習することの大切さを知っていただく。現代の会計を真に理解するには、過去の会計を知ることが大切だからである。 【キーワード】 複式簿記の起源と伝播、口別損益計算、期間損益計算、近代会計、現代会計、会計士会計学	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
2	簿記とは何か ～単式、複式、三式～	会計の基礎には複式簿記があり、複式簿記のない会計は考えられない。講義では簿記の常識・通念を根本的に問う「思考簿記」の面白さに焦点を当て、「検定簿記」の学習を相対化する。 【キーワード】 単式簿記、複式簿記、複式簿記の内容と形式、展開表簿記、三式簿記	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
3	キャッシュフローの簿記会計 ～第3の基本財務表～	損益計算書、貸借対照表に次ぐ第3の基本財務表であるキャッシュフロー計算書を取り上げる。本章では、特にその記録計算の仕組み（構造）に焦点を当てる。 【キーワード】 キャッシュフロー計算書、直接法、間接法、キャッシュフロー経営、キャッシュフロー革命	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）
4	損益計算とキャッシュフロー計算 ～同型性と相対性～	損益計算書とキャッシュフロー計算書はその計算目的を異にしている以上その会計形態を異にしているが、その形態の基底には相共通する構造が存在すること（記録・計算の同型性と相対性）を明らかにする。 【キーワード】 変動貸借対照表等式、財産法と損益法、間接法と直接法、複式仕訳、振替、同型と相対	石川純治（駒澤大学教授）	石川純治（駒澤大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	複式簿記のサイエンス ～複式簿記とは何であり、何でありうるか～	これまでの議論をふまえて、複式簿記とは「何であったか」(過去)、「何であるか」(現在)だけでなく、さらに「何でありうるか」(未来)という問にも答えるために、複式簿記のサイエンスといった方法について議論する。 【キーワード】 構造と形態、同型と相対、技術性と歴史性、記録媒体と記録方式、複式簿記のスケルトン、複式簿記と数学	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)
6	企業会計の基本的な考え方 ～「企業会計原則」の立脚点～	今日の企業会計の変容を考える際、議論の出発点をどこにおくかが極めて重要になる。そこで、その出発点をこれまでの会計ルールの基礎にある「企業会計原則」、とりわけその立脚点(基本的考え方)に求めて議論を進める。 【キーワード】 企業会計原則、動態論、静態論、会計変容	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)
7	会計ビッグバン(1) ～金融商品会計と「企業会計原則」～	「会計ビッグバン」にともない新たな会計基準が次々に導入されたが、本章ではその代表格である金融商品会計を取り上げ、前回での「企業会計原則」の基本的考え方に照らして、それとの整合・非整合性の問題を考える。 【キーワード】 企業会計原則の変遷過程、実現主義、金融商品会計、会計の制度性、計算と開示	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)
8	会計ビッグバン(2) ～退職給付会計と「企業会計原則」～	前回は金融商品会計を取り上げたが、今回は退職給付会計を取り上げる。ここでも、この新たな会計基準が「企業会計原則」の部分修正の延長上にあるかどうか、とりわけ「発生」で説けるかが問われる。 【キーワード】 発生主義、退職給付会計、引当金、負債と費用、実態開示と損益計算	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)
9	変容の全体をどう見る ～3つの見方～	従来の会計基準と新たな会計基準とからなる今日の企業会計の全体をどう見るか、その見方に大きくは3つあることを示す。そして、それが変容の度合いの見方の相違でもあることを明らかにする。 【キーワード】 ハイブリッド・アカウンティング、会計配分、CAAモデル、収益費用中心観、資産負債中心観	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)
10	変容の形と方向 ～ハイブリッド性～	今日の企業会計の変容がどのような「形」になっているか、さらにその変容がいかなる「方向」(ベクトル)を向いているかを、その基礎から明らかにする。 【キーワード】 会計枠組み、配分と評価、記録と情報、計算と開示、企業価値	石川純治(駒澤大学教授)	石川純治(駒澤大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	新たな会計秩序を求めて ～会計基準の憲法作り～	新たな会計秩序の構築に向けた概念フレームワーク作りを取り上げ、そこでの基本的な考え方をこれまでの考え方との比較において議論する。 【キーワード】 企業会計原則、日本版概念フレームワーク、2つの整合性問題	石川純治 （駒澤大学教授）	石川純治 （駒澤大学教授）
12	トライアングル体制の変容 ～規範と現実～	企業会計と密接にかかわっている商法（会社法）および税法の変容をみることで、企業会計、商法会計、税務会計のいわゆる「トライアングル体制」の今日的変容を取り上げる。 【キーワード】 企業会計、商法会計、税務会計、トライアングル体制	石川純治 （駒澤大学教授）	石川純治 （駒澤大学教授）
13	経済のグローバル化と会計 ～社会と会計（1）～	経済のグローバス化に応じて、会計もグローバル化する。そこで、企業会計の国際化の事例も交えて、会計国際化の問題を取り上げる。 【キーワード】 国際会計基準、EUと2009年問題、会計外交	斎藤正章 （放送大学准教授）	斎藤正章 （放送大学准教授）
14	中小会社と会計 ～社会と会計（2）～	株式会社の9割以上は中小の非公開会社である。公開大会社むけの企業会計が限りなく国際化するなか、それとは自ずと性格を異にする中小会社の会計を取り上げる。 【キーワード】 中小会社会計、非公開と会計、ダブルスタンダードとシングルスタンダード、新会社法、会計参与、融資と会計	斎藤正章 （放送大学准教授）	斎藤正章 （放送大学准教授）
15	自治体と会計 ～社会と会計（3）～	今日、地方自治体の財政破綻が問題になっているが、東京都は発生主義など企業会計の手法を取り入れた新たな財務諸表を作成することにした。そこで、いくつかの事例をとおして自治体行政に会計がどこまで役立ちうるかを検証してみたい。 【キーワード】 自治体、行政、公会計	斎藤正章 （放送大学准教授）	斎藤正章 （放送大学准教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1122908	履修制限		単位数	2

科目名（メディア） ＝ 技術者倫理 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：札野　順　（金沢工業大学教授）〕

【担当専任教員：鈴木　基之（放送大学教授）】

講義概要

科学技術は、新しい「価値」を生み、社会と環境に大きな影響を与えます。それゆえ、技術を実践する「行為者」である技術者は社会に対して特別の責任を負っています。本科目では、技術者がその職務を遂行する上で、必要な新しい「倫理」について考察します。技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、スペースシャトルチャレンジャー号事故などの具体的な事例を通して紹介します。また、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学びます。特に、技術者が重視すべき「価値」（安全など）を、学協会の倫理綱領を通して検討します。これらの学習を踏まえ、21世紀の技術者に求められる倫理的な判断能力について考えます。

授業の目標

1. 科学技術の発展に伴い、人間の「行為」の領域が拡大たので、技術を実践する「行為者」である技術者には、新しい「倫理」が必要であることを理解できる。 2. 技術的解決の結果が、社会や環境に与える影響の範囲と大きさを理解できる。 3. 技術に関する意思決定を行う際に、考慮すべき種々の「価値」について認識できる。 4. 技術者が担う特別の責任について、その歴史的背景を含めて、理解できる。 5. 技術を実践する上で、発生し、技術者が直面する可能性のある倫理的問題を認識できる。 6. 倫理問題を分析する手法について理解すると共に、それらの手法を種々の事例に適用できる。 7. 倫理問題に唯一絶対的な解はなく、複数の視点が存在し得ることを理解する。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	技術者倫理とは何か 学習目標： 1. 科目概要：技術者倫理を学ぶ目的 2. 科目の学習・教育目標の理解 3. 技術者倫理の定義の理解	1. 技術倫理に関わる事例のフラッシュ映像の提示　2. 問いかけ「あなたが現場の技術者であるとしたらどのように行動しますか。」　3. 科目概要、科目の学習・教育目標の提示 4. 技術者倫理の定義の説明　5. 科学技術と価値 6. 技術者倫理の4つのレベル（メタ、マクロ、メゾ、ミクロ） 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）
2	技術者が意思決定を迫られる状況とは（1）	1. 技術者倫理における事例検討の重要性 2. 事例研究（スペースシャトル・チャレンジャー号に関する解説） 3.あなたが現場技術者ならいかに行動するか。 4. 現場の技術者の視点（ロジャー・ボジョリー氏に聞く） 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）	札野　順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）
3	技術者が意思決定を迫られる状況とは（2） （事例を通した用語/概念などの解説）	1. 本事例におけるステークホールダーと価値 2. 本事例をメタ・マクロ・メゾ・ミクロの視点から考える 3. マクロ・レベル：科学技術と行為の拡大 4. メゾ・レベル：組織の問題、制度、権限の問題など 5. ミクロ・レベル：技術者はいかに行動すべきか：倫理的意思決定の方法 【キーワード】	札野　順 （金沢工業大学・教授） 栃内文彦 （金沢工業大学・准教授）	札野　順（金沢工業大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	なぜ今、技術者倫理か(1)	1. 科学技術の歴史、エンジニアリングの歴史、特質に関する解説 2.科学技術の発展に起因する社会の変容 3. 近代科学の成立と「内なる自然（人間の本能など）」を理解し制御するものとしての新しい倫理学（義務論、功利主義など）の台頭 4. 職業としてのエンジニアリングの発達 【キーワード】	札野 順 （金沢工業大学・教授） 夏目 賢一 （金沢工業大学・講師）	札野 順 （金沢工業大学・教授） 夏目 賢一 （金沢工業大学・講師）
5	なぜ今、技術者倫理か(2)	1. 科学技術の進展による行為の拡大と新しい倫理の必要性 2.科学技術と社会の新しい関係：科学技術社会論の視点 3. 科学技術に関連する「価値」に関する議論 4．環境倫理学、生命倫理学、情報倫理などが明らかにした事柄に関する議論 ゲスト：　加藤尚武氏（京都大学名誉教授） 【キーワード】	札野 順 （金沢工業大学・教授） 栃内文彦 （金沢工業大学・准教授）	札野 順 （金沢工業大学・教授） 栃内文彦 （金沢工業大学・准教授）
6	技術者としていかに行動すべきか(1)	1. 倫理的問題とは何か－ジレンマ問題を手がかりに 2. 倫理的思考の特徴 3. 倫理原則と倫理問題の解決方法 4. 倫理と法の関係 【キーワード】	金光秀和 （金沢工業大学・講師）	金光秀和 （金沢工業大学・講師）
7	技術者としていかに行動すべきか(2)－行為の設計と価値	1. 技術者が重視すべき価値とは何か 2.「社会契約説」と倫理綱領 3. 倫理綱領の歴史 4. 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値 5. 設計問題と倫理問題 【キーワード】	金光秀和 （金沢工業大学・講師）	金光秀和 （金沢工業大学・講師）
8	技術者としていかに行動すべきか(3)－倫理的意思決定の方法	1. 黄金律テスト、普遍化可能性テスト、その他倫理テストなどに関する解説 2. セブンステップガイドの解説と応用 3. 倫理的判断を行う際に技術者が知っておくべき法律 4. 倫理的判断を妨げる要因と促進する要因 【キーワード】	札野 順 （金沢工業大学・教授） 金光秀和 （金沢工業大学・講師）	札野 順 （金沢工業大学・教授） 金光秀和 （金沢工業大学・講師）
9	優れた意思決定がもたらすもの	1. 技術者の倫理的な意思決定が良い結果をもたらした事例に関する理解 2. 事例研究（ホンダCVCCエンジンの開発） 3. 事例研究（シティコープタワービルの危機） 4. 二人の技術者の比較 【キーワード】	札野 順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）	札野 順 （金沢工業大学・教授） 大場恭子 （金沢工業大学・研究員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	組織の中の技術者(1)－公益通報をめぐって	1. 事例紹介(ギルベイン・ゴールド簡略版) 2. 組織の中の技術者－その責任と権利 3. 公益通報が倫理的に許される条件 4.公益通報をめぐる諸問題 【キーワード】	札野 順(金沢工業大学・教授) 夏目 賢一(金沢工業大学・講師)	札野 順(金沢工業大学・教授) 夏目 賢一(金沢工業大学・講師)
11	組織の中の技術者(2)－技術者倫理と企業倫理	1. 事例研究(内部告発によって明らかになった事例の紹介) 2. 倫理的な技術者が公益通報をしなくてもよいように企業は何をすべきか。 3. 企業倫理プログラムとは何か 4. 優れた倫理プログラムに含まれる要素 ゲスト:梅津光弘氏　慶応義塾大学商学部 【キーワード】	札野 順(金沢工業大学・教授) 大場恭子(金沢工業大学・研究員)	札野 順(金沢工業大学・教授) 大場恭子(金沢工業大学・研究員)
12	組織の中の技術者(3)－すぐれた取り組み	1. 東京電力の取り組み 2. 日本テキサスインスツルメンツの取り組み 3. 雪印乳業の取り組み 4. 東芝の取り組み 5. 日立製作所の取り組み ゲスト:村松邦子氏(テキサス・インスツルメンツ) 【キーワード】	札野 順(金沢工業大学・教授) 大場恭子(金沢工業大学・研究員)	札野 順(金沢工業大学・教授) 大場恭子(金沢工業大学・研究員)
13	高度技術社会における技術者の新しい役割	1. 科学技術とリスク 2.個別技術(原子力技術、遺伝子組み換えなど)に関する検討 4. リスクの不確実性と社会的意思決定 4. 社会とのコミュニケーション ゲスト:班目春樹(東京大学・教授)／小林傳司(大阪大学・教授) 【キーワード】	札野 順(金沢工業大学・教授) 夏目 賢一(金沢工業大学・講師)	札野 順(金沢工業大学・教授) 夏目 賢一(金沢工業大学・講師)
14	責任ある研究活動とは何か	1. 研究倫理の事例(ベル研論文捏造、韓国ES細胞、東大事件)に関する考察(ゲスト:村松秀氏　NHK) 2.「責任ある研究」に関する解説 3.研究における価値の変容:なぜ、不正は起こるのか 4. 研究における不正行為:FFP(捏造、改竄、剽窃) 5. 責任ある研究を推進するためには 【キーワード】	札野 順(金沢工業大学・教授) 栃内文彦(金沢工業大学・准教授)	札野 順(金沢工業大学・教授) 栃内文彦(金沢工業大学・准教授)
15	技術者の新しい役割:社会のなかの、社会のための技術者:Philosopher-Engineerを目指して	1. 技術／技術者倫理の諸相 2. ミクロからマクロへ:宇宙の歴史を1年にたとえると 3. 高度技術社会における技術者倫理の重要性の解説(Howの知識から、whatとwhyの知恵へ;総合的な問題解決能力としての、「技術者倫理」の重要性) 4. Philosopher-Engineerを目指して:技術者の優れた意思決定がもたらすもの　(本田CVCC、ルメジャー、等) 【キーワード】	札野 順(金沢工大・教授) 大場恭子(金沢工大・研究員)	札野 順(金沢工大・教授) 大場恭子(金沢工大・研究員)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（社会系）	科目ｺｰﾄﾞ	1542303	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会と知的財産 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：生越　由美（東京理科大学教授）〕

講義概要

21世紀の情報社会(知識社会)における「知的財産」の意味を考え、工業社会とは異なる各産業や経営モデルにおける「知的財産」の現状と課題を概観する。また「創造」「保護」「活用」からなる知的創造サイクルを早く・大きく・強く回すための知財マネジメントのポイントを理解する。ただし、ここでいう知的財産とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権などの「産業財産権」を中心とするが、著作権、育成者権、不正競争防止法に基づく権利なども含む（著作権法については別科目を参照されたい）。

授業の目標

全15回の講義を通じて、前半においては、情報社会における「知的財産」の意味、現状と課題や政策における知的財産の役割に関する最低限必要な知識について理解する。後半においては、知財マネジメントについての基本的な考え方を学ぶ。修了後の受講生は、実生活や仕事における知的財産に関する一般知識を修得すると共に、新聞・雑誌・TV等の知的財産に関する報道等について概要を把握できるようになる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	知的財産とは何か	21世紀は知的財産の時代である。日本は、2002年2月4日の小泉首相の施政方針演説以来、「工業社会」に誕生した知財制度を「知識社会」に適合させるべく知財改革を行っているところである。国際競争力の源と考えられている知的財産の性質や知財改革の意義を理解する。内閣官房知的財産推進事務局の役割も学ぶ。 【キーワード】 知的財産、知的財産基本法、産業競争力、知財立国、知財改革、知財政策、国会、知的財産戦略本部	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
2	知財制度の概要	3つの国際条約と8つの知的財産法から知財制度を概観する。人間の知的活動から生み出された独創的な成果を総称して知的財産という。発明にはじまり、著作物、そして経営・製造ノウハウなど、いわば「知的な汗の結晶」である。これらの権利がどのような要件を満たす場合に保護されるか、また取り消されるかの概観を理解する。特許庁の特許審査部や知的財産高等裁判所についても学ぶ。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、育成者権、不正競争防止法にかかる権利、特許庁、知的財産高等裁判所	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
3	第一次産業と知的財産	農作物に関する特許権、商標権、育成者権などの実例を学ぶ。税関で種苗法違反の農作物を止めるDNA鑑別法の技術開発の重要性やさくらんぼの農作物の流出問題、菊のライセンスビジネスなどを通して、農林水産業を支えている知的財産の概要を理解する。また、地方自治体の農林水産業の知財戦略についても学ぶ。 【キーワード】 特許権、育成者権、ブランド農作物、DNA鑑定、税関、農林水産省、地方自治体、精興園、福岡県	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	第二次産業と知的財産	日本の屋台骨を支える工業における知的財産の役割と問題点を重点8分野の視点から考える。パソコン、携帯電話などに代表されるファンモーター、振動モーターや日本発の世界的技術である光触媒などの最先端技術と、創意工夫により進化し続ける化粧筆などの伝統技術における特許や営業秘密の役割を考える。 【キーワード】 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、営業秘密、伝統技術、先端技術、ベンチャー企業、産学連携、白鳳堂、シコー技研、神奈川サイエンスパーク・光触媒ミュージアム	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
5	第三次産業と知的財産	日本は「製造業」単発から「製造業」と「サービス産業」の「双発エンジン」へと切り替えを目指している。サービス産業とは、農林水産業、工業以外の産業と定義されているが、具体的には金融、医療、福祉、司法、観光、エンターテイメント、教育などである。そこで、これらの分野における知的財産の現状と課題と取り組みについて学ぶ。 【キーワード】 ビジネスモデル特許、医療方法特許、電子商取引、サービス産業、経済産業省、SEICA、イヤホンガイド、名古屋大学医学部	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
6	文化産業と歴史資源	「クールジャパン」という言葉が普及したように、「文化」が産業創出、地域振興、企業経営に影響を与えることが理解されてきた。これは、「文化資本」が「社会資本」や「経済資本」としての側面を有するからである。今、「文化資本」である「歴史資源」、「地域資源」、「コンテンツ資源」を活用することが求められている。これらの時代背景と課題を、知的財産の視座から考える。 【キーワード】 文化産業、文化資本、歴史資源、国宝、伊勢神宮、善光寺、彦根屏風、ソールワーク、日本デザインの遺伝子展	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
7	文化産業と地域資源	地域で特色のある農作物、酒、焼酎、伝統工芸品、伝統技術など「地域資源」から、知的財産を創造、保護、活用することが重要である。これらは単に物が売れて経済状況が好転するということに止まらず、地域の活性化、観光にも好影響が期待される。成功した各地域の取り組みを通じて、地域資源と知的財産の関係について学ぶ。 【キーワード】 地域資源、地域ブランド、農林水産品、伝統工芸品、地域団体商標、地方自治体、特許庁、国税庁、白山菊酒、車多酒造、博多万能ねぎ	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）
8	文化産業とコンテンツ資源	アニメなど、日本のコンテンツは競争力が強いといわれているがまだまだ十分に生かされていない。アニメ以外でも、日本の伝統文化や祭りの価値がまだまだ知られていない。日本の「歴史・コンテンツ資源」と知的財産の関係を見ることにより、文化産業の広がりについて学ぶ。また、物を売る時代から時間を売る時代に変化している。観光立国の観点から知的財産の生かし方を考える。 【キーワード】 クールジャパン、コンテンツ産業、アニメ、映画、デジタルシネマ、ポケモン、シネマ歌舞伎、無形文化遺産、観光立国	生越　由美（東京理科大学教授）	生越　由美（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	情報社会における知的財産	後半は、経営における知財に焦点を合わせていく。歴史的マクロの観点から、知的財産が21世紀の情報社会にとって重要な理由を探る。人類は、100年毎に科学技術の概念の発見を起点として社会イノベーションを起こす。21世紀は「情報」を重視する社会になる。情報の中で最も価値ある「知」の代表が「技術」と「ブランド」、つまり「知的財産」なのである。 【キーワード】 情報社会、知識社会、技術、ブランド	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）
10	イノベーションと知財マネジメント	イノベーションとは従来モデル（仕組み、仕掛け、仕切り）を新規モデルに替えてしまうことを言う。米国をはじめ先進諸国や企業はイノベーションを軸とした競争力強化に邁進を始めている。成長と発展、イノベーションと生産性等の議論を整理し、イノベーションにおける知財の関係を考える。 【キーワード】 イノベーション、インプルーブメント	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）
11	世界的中堅企業の知的財産戦略（1）	近年、知財マネジメントと技術経営の重要性は、大企業のみならず、技術基盤型の中堅・中小企業においても認識され始めている。そこで2回にわたり、日本が誇る世界的な中堅企業を事例として取り上げる。今回は和歌山県の島精機製作所、栃木県のレオン自動機を取り上げる。 【キーワード】 中堅・中小企業の事業戦略と知財戦略	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）
12	世界的中堅企業の知的財産戦略（2）	今回は、岡山県の林原グループを取り上げる。高い技術力を誇り、高い利益率と高い市場占有率を維持し続ける、世界的に著名な地場の中堅企業の知財マネジメントと技術経営を見ていくことによって、いかに知的財産が企業の競争力にとって重要なことかを知ることができる。 【キーワード】 中堅・中小企業の事業戦略と知財戦略	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）
13	事業戦略と知財マネジメント（1）	「事業戦略」「研究開発戦略」「知財戦略」の一体化、「事業戦略」に資する知財マネジメントの基本的前提、事業競争力強化（リスクミニマムとチャンスマキシマム）と知財、分野別の知財戦略等の側面から、企業経営における事業戦略と知財マネジメントとの関係について考察をしていく。 【キーワード】 事業戦略と知財マネジメント、分野別知財戦略	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）
14	事業戦略と知財マネジメント（2）	前回に引き続き、事業戦略と知財マネジメントの関係を考察する。前半は「標準化」を取り上げる。今日、イノベーションを誘導する手だてとして標準化と知財マネジメントが密接に関係するようになった点を概観する。後半は、それを踏まえて、「製品ライフサイクル」モデルを基に事業戦略と知財マネジメントとの関係を具体的に考察していく。これらを参考に、企業、産業、社会がどのように動きつつあるかを俯瞰されたい。 【キーワード】 標準化と知財、製品ライフサイクルと知財	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）	妹尾　堅一郎（東京大学特任教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	知的財産「人財」の育成	日本では「知的創造サイクル」の活性化に必要な制度が急速に整備されている。しかし、制度が整備されただけで「知財立国」ができるわけではない。その制度を活かして活躍する「人財」等が必要である。どのような人財をどのように育成していけばよいのか。その点を概観する。 【キーワード】 知財人財、知財関連人財、知財民度	妹尾 堅一郎(東京大学特任教授)	妹尾 堅一郎(東京大学特任教授)

＝　疾病の成立と回復促進（‘０５）＝（ TV ）

〔主任講師：　北村　聖　（東京大学教授）　〕
〔主任講師：　仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）〕
〔主任講師：　松尾　ミヨ子（大阪府立大学教授）　〕

全体のねらい

疾病の成立と回復の促進では、疾病のある状態を全人的にとらえ体内の環境変化から、生活過程の変化まで大きくとらえて理解する。その上で、病的状態からの回復に向けての生活調整の視点から、疾病を予防し回復を促進する要素を理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	概論：何を学ぶのか	疾病の成立と回復促進のコースのオリエンテーションとなっている。疾病は臓器別の理解や病理的理解だけではなく、全人的な理解に基づいてとらえられなければならない。全人的理解によって初めて有効な回復を促すことができる。これがコースを貫く軸である。意欲を持って、自ら問題解決をするような学習を要望する。	松尾ミヨ子（大阪府立大学教授） 北村　聖（東京大学教授） 仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	松尾ミヨ子（大阪府立大学教授） 北村　聖（東京大学教授） 仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
2	疾病の成り立ち看護の立場から	健康から疾病にいたる変化のなかで、生体の反応、疾病からの回復、個人の反応について、生活との関連で述べる。疾病の誘因と日常生活への影響、生体の回復力と身体心理社会的因子、疾病の個人とその生活への影響に焦点を当てる。	松尾ミヨ子	松尾ミヨ子
3	疾病の成り立ち医師の立場から	医師と看護師は車の両輪となって医療を行う。医師の立場から、医学的視点で健康から疾病への変化をどのように考えるかを述べる。看護の視点からの理解と比較しながら学んで欲しい。	北村　聖	北村　聖
4	異常状態の特徴	健康状態と比較した疾病のある状態の特徴について述べる。急性の疾病と慢性の疾病の違いなど、異常のある状態に共通の特徴、個別の特徴、異常状態に適応する作用などについて学ぶ。	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	疾病に対する診断および治療とそれに伴う変化	身体機能の異常をどのように検査し診断するか、それらをどのような方法によって治療するかについて看護の視点から述べる。治療法としては、薬物・手術・放射線などによるものがある。これらの効果と有害な作用などについてのべる。	仙波　純一	仙波　純一
6	感染と人体防御機構：看護の視点	人は微生物から多くの恩恵を受けており、人に感染症をおこすものはごく一部にすぎない。このような人と微生物のかかわりを正しく理解した上で、人に備わった微生物に対する防御のしくみと微生物がこれを突破して感染症をおこすメカニズム、さらに感染症を防ぐための手段について学ぶ	岡田　忍（千葉大学准教授）	岡田　忍（千葉大学准教授）
7	中枢神経機能の障害	脳機能の障害を引きおこすいろいろな疾患（循環障害・変性疾患・脳腫瘍・痴呆・脳炎・外傷など）をあげて解説する。これらの脳機能の障害は視覚・聴覚・知覚などの機能障害として表れる。	仙波　純一	仙波　純一
8	生命の危機・呼吸機能の障害	生命維持機能の障害を引き起こす生命の危機状態（ショック、多臓器不全、損傷など）について述べる。また生命維持への呼吸の関与と呼吸機能の障害（気道・肺の炎症、急性および慢性の呼吸不全など）を取り上げる。	松尾ミヨ子	松尾ミヨ子
9	循環機能の障害・造血機能の障害	体内の隅々に栄養や酸素を運び、末梢から老廃物を肝臓や腎臓に運ぶ血液。この血液と、血液を循環させるシステムとその障害について学ぶ。また、造血細胞の機能と障害についても学ぶ。	北村　聖	北村　聖
10	栄養摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害1	消化管を通した食物の消化と吸収のしくみ、および消化吸収における肝臓の役割を説明する。摂取エネルギーの過不足や必須栄養素の不足の身体に与える影響、咀嚼・嚥下障害、代表的な消化管の器質的疾患の病態を説明する。	竹田津文俊（自治医科大学教授）	竹田津文俊（自治医科大学教授）
11	栄養摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害2	消化、吸収、代謝に関与する肝臓、胆嚢、膵臓の器質的疾患を説明する。糖代謝異常の代表例である糖尿病を説明する。排泄器官である腎臓の器質的疾患を説明し、最後に排便障害を説明する。	竹田津文俊	竹田津文俊

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	内部環境調節機能の障害	人体の内的環境は、微妙な変化を伴いながら維持されている。この変化は様々なメカニズムによってコントロールされている。この恒常性の維持という仕組みをつかさどる内分泌機能と自律神経機能とそれらの障害について学ぶ。	山内　豊明（名古屋大学教授）	山内　豊明（名古屋大学教授）
13	運動機能および皮膚の障害	人体は四肢や体幹を動かすことで生命を維持し、活動をしている。骨や筋肉を中心として、運動のメカニズムとその障害について学ぶ。また、体を覆っている皮膚は最大の臓器ともよばれ、外界と内的環境を隔てる重要な働きをしている。皮膚の働きと障害について学ぶ	太田　節子（滋賀医科大学教授）	太田　節子（滋賀医科大学教授）
14	生殖機能をつかさどる器官の障害	生命の連続性をつくりだすために用意されている仕組み、すなわち生殖という機能を成り立たせている条件と、それらの障害によりこれらの機能が十分に果たせなくなる場合のメカニズムについて学ぶ。	山内　豊明	山内　豊明
15	まとめ：持続的な学習のために	１４回の講義による学びを基盤に、学生は自主的な学習を行う段階へと向かうであろう。本回は持続的な学習のための方法と留意点などついて概説する。	松尾ミヨ子 北村　聖 仙波　純一	松尾ミヨ子 北村　聖 仙波　純一

＝　人体の構造と機能（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　菱沼　典子（聖路加看護大学教授）　〕
〔主任講師：　北村　　聖（東京大学教授）　〕

全体のねらい

毎日の生活の中で普通に行っている様々な生活行動は何のために、どのような仕組みで行われているのかの視点から、人体の構造と機能を学ぶ。からだに興味を持ち、理解を深めていく基礎力をつけることをねらいとするが、さらにからだの機能に適した生活を工夫し、病気を理解する土台になることを期待する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生命と日常生活行動のつながり	一個の受精卵から人間が誕生する過程を含め、個体が外部環境と関係を保ちながら、内部環境を整え生命を維持していることを解説する。日々の生活行動と生命維持の関わりを理解してもらいたい。	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）	菱沼　典子（聖路加看護大学教授）
2	食べる（1）摂食	生命維持のために外界から食物を取り入れる営みについて解説する。空腹感や食欲、摂食の過程（咀嚼、味覚、嚥下を含む）、消化・吸収について、消化器管・消化腺の名称、構造を含めて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子
3	食べる（2）消化・吸収と排泄	消化管の運動と消化腺の分泌活動、消化液の作用について、自律神経系とホルモンによる調節を含めて解説する。また便の排泄について、便意から排便行為までを解説する。	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）	佐伯　由香（筑波大学大学院教授）
4	食べる（3）栄養分の代謝	吸収された栄養分の代謝について、肝臓と膵臓の機能を中心に解説する。肝機能障害や糖尿病など身近な疾患を例にして、病態から正常な機能の理解を深められるようにする。	谷亀　光則（東海大学准教授）	谷亀　光則（東海大学准教授）
5	体内の流通システム（1）心臓と血管	多くの器官、細胞から成り立っている人体内部の物質の流通路である血管系を解説する。心臓と血管系の構造と役割、心臓収縮のメカニズムとその調節機構を解説する。	山本真千子（茨城キリスト教大学教授）	山本真千子（茨城キリスト教大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	体内の流通システム（2） 血圧	生体内の流通を確保するのに必要な血圧について、その意味、血圧の決定因子と調節機構を解説する。今日血圧は一般的な生体情報となっており、高血圧の意味と対策についても言及する。	沓沢　智子 （東海大学教授）	沓沢　智子 （東海大学教授）
7	体内の流通システム（3） 血液	血液の組成および働きを解説する。細胞成分である赤血球・白血球・血小板について、骨髄における幹細胞からの分化を解説し、その機能および障害について言及する。	北村　聖 （東京大学教授）	北村　聖 （東京大学教授）
8	身を守る	免疫反応は細菌やウィルスなど外敵から体を守るだけでなく、移植片の拒絶反応や自己免疫疾患でも重要な働きを演じている。細胞の自己認識、他者排除の機構、細胞性免疫と液性免疫の機序を解説し、自己免疫疾患や免疫不全症候群などにも言及する。	北村　聖	北村　聖
9	息をする	換気・ガス交換に関わる呼吸器の構造と機能について解説する。また血液の酸塩基平衡にかかわる呼吸の役割を解説する。様々な呼吸器疾患が呼吸機能のどこに障害を起こすのかにも言及する。	沓沢　智子	沓沢　智子
10	トイレに行く	腎臓での尿の生成過程を、生体内の体液の調節の意義を含めて解説する。次いで尿の排泄について、尿意を感じ、排泄に至までの尿路の構造と機能を解説する。	谷亀　光則	谷亀　光則
11	見る・聞く・感じる	神経系が外部環境からの刺激に対し、即時的に反応し、適応する過程を解説する。主に視覚、聴覚、体性感覚について、感覚器の構造と機能と神経系の反応を取りあげる。	深井喜代子 （岡山大学大学院教授）	深井喜代子 （岡山大学大学院教授）
12	考える	神経系の概要ならびに中枢神経系の構造と機能を解説し、中枢神経系における情報処理過程から、「考える」ことを意識付ける。睡眠の生理や脳死にも言及する。	深井喜代子	深井喜代子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	動く	骨格筋の運動における骨格と筋、関節の働き、ならびに筋の構造と収縮のメカニズムについて解説する。さらに運動に伴う心肺系の反応と調節機構を解説する。	山本真千子	山本真千子
14	ホルモン調節とストレス反応	内部環境の調節にホルモンがどのように関わっているかを、内分泌器官の構造を含めて解説する。また、常に個体が受けている刺激（ストレッサー）に対する反応について概説する。	佐伯　由香	佐伯　由香
15	ケアへの応用	1～14回までに学習した内容が、日常生活に結びついたかどうかを問いかけ、各人の健康生活や子ども、高齢者、病者の世話にどのように役立たすことができるか、例を挙げて解説する。	菱沼　典子	菱沼　典子

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1135104	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　疾病の回復を促進する薬（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：川原　礼子（東北大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：片野　由美（山形大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：仙波　純一（さいたま市立病院総合心療科部長）〕

講義概要

病気によって身体の正常な機能が障害されてしまった場合に，治療の一つとして薬物が使用される．薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し，身体を正常な状態にひきもどす．その一方，副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある．この講義では，薬物の働く仕組みだけでなく，薬物が医療の中でどのような役割を担っているか，また薬物がその有効な作用を発揮できるために医師・看護師・薬剤師などがどのように働いているかを学ぶ．この授業は，看護師学校養成所2年課程(通信制)に対応可能な科目としても作成されている．

授業の目標

疾病からの回復を促進する薬物について，その使用目的や作用機序に注目しながら，薬物についての一般的な知識と適切な使用法を学習する．また，そのために医療者が病院内でどのような働きをしているかについても学ぶことになる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	学習の進め方	この科目の目指すもの，学習の方法などについて主任講師全員によって説明する．	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	川原礼子（東北大学教授） 片野由美（山形大学教授） 仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
2	薬理学総論（1）	どんな薬でも用い方を誤ると毒にもなる．諸刃の剣であって，クスリはリスクにもなるのである．薬の効果や副作用は，用量，投与経路，年齢，体質，薬剤の併用などによって異なる．薬を正しく用いるために，まず薬理学の基本的な事項（毒薬，劇薬，普通薬とは，麻薬，覚醒剤とは，薬理作用に影響を与える因子など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
3	薬理学総論（2）	薬理学総論（1）に引き続き，薬理学の基本的な事項（薬物の投与経路，薬物と生体の相互作用，薬物の代謝など）について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	神経に作用する薬：その基本機序について	神経系に作用する薬は薬物治療に非常に大切である．その理由は第一に神経系は生命を維持するために必要な機能を巧みに調節する．第二に神経系の情報は，多くの神経伝達物質が関わる化学・液性シグナルとして隣の細胞に伝えられる．従って，数多くの薬物が，例えば神経伝達物質の生合成や分解および薬理学的受容体にそれぞれ特異的に作用する．本講義では，中枢および末梢神経系全体の構造と機能の概略を先ず学ぶ．さらに，神経機能の基本単位であるニューロンやシナプス伝達の基本過程とそれらに作用する薬物を幾つか取り上げ，その薬理作用の基本機序を学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)
5	末梢神経に作用する薬（喘息治療薬を含む）	末梢神経は体性神経（運動神経と知覚神経）と自律神経（交感神経と副交感神経）より成り立つ．運動神経の興奮は骨格筋収縮をもたらす．一方，d-ツボクラリンなどの骨格筋弛緩薬がどのように作用し，骨格筋の収縮を抑制するかを学ぶ．リドカインなどの局所麻酔薬がなぜ知覚神経のうち痛覚を伝導する神経をより選択的に抑制し，局所的無痛を生じさせ，外科手術や診断・検査の目的に使われるかについて学ぶ．広く医療に使われる交感神経および副交感神経の興奮（作動）薬や遮断（拮抗）薬についてその基本知識をまとめる．また，気管支喘息の治療に使われる薬物についても学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)
6	中枢神経に作用する薬	中枢神経系は脳と脊髄からなり，生命維持に重要な情報の受け取りと記憶や学習を含む情報処理や判断を行うコントロールセンターである．本講義では，神経機能を抑制することで作用する，モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬，全身麻酔薬，催眠薬および抗てんかん薬について学ぶ．さらに向精神薬について精神抑制的に作用する統合失調症治療薬や抗不安薬と精神賦活作用のある抗うつ薬などについて学ぶ．また，記憶・学習の障害である認知症などに使用される医薬，中枢神経に作用する日常嗜好品であり，医薬との相互作用のあるカフェイン，アルコールおよびニコチンなどについても基礎知識を学ぶ．	中山貢一(岩手医科大学教授)	中山貢一(岩手医科大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	循環器系に作用する薬	心血管系は循環系とも呼ばれ，心臓のポンプ機能により血液を全身に送り，組織に酸素や栄養素を供給する．ポンプ機能の異常や血液の通路ともいうべき血管の異常は，心不全，狭心症，不整脈，高血圧などをもたらす．本講義では，これらの疾患の病態生理とそれぞれの代表的治療薬（心不全治療薬，狭心症治療薬，不整脈治療薬，高血圧治療薬，高脂血症治療薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
8	血液に作用する薬	骨髄の造血幹細胞で作られる赤血球，白血球，血小板の機能について学ぶ．またこれらの機能異常はどのような疾患をもたらすかを学び，それらの疾患に用いられる代表的な薬物（貧血治療薬，血液凝固抑制薬と促進薬，血小板凝集抑制薬）を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	片野由美（山形大学教授）	片野由美（山形大学教授）
9	内分泌系に作用する薬（1）	ホルモンにはペプチド・蛋白質ホルモン，アミン系ホルモン，ステロイドホルモン等がある．そのホルモンの種類，作用等を簡単に紹介した後，甲状腺性ホルモン，ステロイドホルモン，性ホルモンについて生理・病態生理とその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
10	内分泌系に作用する薬（2）	糖代謝に関わるホルモンと糖尿病，腎臓の生理・病態生理と腎臓のホルモンであるアルドステロン・バソプレッシンとその治療薬について学ぶ．本講義ではいずれも代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）
11	抗炎症薬と化学療法	非ステロイド性抗炎症薬，抗菌薬，抗癌薬などの治療薬についてと多くの範囲にわたって学ぶ．非ステロイド性抗炎症薬については，非ステロイド性抗炎症薬の薬理作用機序，適応および副作用等の臨床上の注意事項について学ぶ．抗菌薬，抗癌薬について，薬物の薬理作用の標的が細菌，ウィルス，がん細胞となるため，他の薬物の薬理作用と比較しながら，抗菌薬，抗癌薬の代表的な薬物を取り上げ，その薬理作用機序，適応および臨床上の注意事項について学ぶ．	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）	渡邊泰秀（浜松医科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	消毒薬と外用薬	看護業務で使用する消毒液の種類や性質について、病院のみならず施設や在宅という看護の場を視野に入れながら紹介する。また、外用薬については、皮膚科外用薬と眼科外用薬および関節痛などに使用する非ステロイド消炎鎮痛薬の経皮用剤の種類、性質、適応疾患について紹介するが、皮膚外用薬については老人施設や在宅ケアの場での問題をも踏まえたものとする。	川原礼子（東北大学教授）	川原礼子（東北大学教授）
13	薬物中毒と救急医療	洗剤やタバコなどの家庭用品などを誤って摂取したり，故意に向精神薬などを大量服用したりすることにより，薬物中毒症状が引き起こされる．これはしばしば，症状が重篤となり，救急医療の対象となる．この章では，よく見られる薬物中毒の原因，引き起こされる症状や必要な処置法などについて述べる．	仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）	仙波純一（さいたま市立病院総合心療科部長）
14	薬の安全な使用と薬剤師（1）ー副作用の回避	薬が実際に使用される医療の場において、各職種が薬とどのような関わりをもっているのか、また、薬についてどのような問題があり、薬の有効性を最大限に生かすためにどのような対策がとられているのかを2回にわたって論じる。 医薬品をめぐる問題には、大別して医薬品そのものに起因する副作用と、誤った使用に起因する事故があるが、まず前者に関して、それを早期発見あるいは予防するための薬剤師の役割を中心に、処方の疑義照会、副作用モニター，薬物動態解析、薬剤管理指導などについて紹介する。	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）
15	薬の安全な使用と薬剤師（2）ー薬がかかわる医療事故の回避	前回に引き続き、医薬品をめぐる問題のうち、誤った使用に起因する事故を中心に取り上げる。病院内で医薬品はどのように使用されているのか、病院内の医薬品使用のプロセスと医師・看護師・薬剤師の関わり、および要注意薬について述べ、事故を予防するための薬剤管理指導、注射剤無菌調製など、薬剤師の業務を紹介する。	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）	村井ユリ子（東北大学病院医療安全推進室副室長）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1231502	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　情報科学の基礎（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　川合　慧（放送大学教授）〕

講義概要

身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動き方や実際の仕組みを導入として，情報機器を実際に実現しているのは手順を記述するプログラムであること，実際のプログラムの概略，及びその動作能力の源泉である数学的万能性を，平易な例を用いて解説する．さらに，現実的なコンピュータ処理の複雑さとそれを実現するプログラムの大きさを理解することによって，現代の情報システムの全体像とその限界を示す．

授業の目標

情報社会を生きるにあたって利用せざるを得ない各種の情報システムについて，単なるブラックボックスの従順な利用者の視点ではなく，その根本的な原理や仕組みの概略を知ることによって得られる批判的な視点をもつことができるようにする．これにより，今や一般的な社会人にも求められている変化の激しい情報環境への適切な対応や，複雑な問題への容易な対処が可能となる．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	活躍するコンピュータ	我々の生活が依存している身近な情報システムの機能を分解し，「計算するもの」が必要であることを認識する．その要素的な機能の単純さと情報システムが行う「計算」の規模とを対比し，コンピュータの高速性がそれを可能としていることを理解する．	川合　慧（放送大学教授）	川合　慧（放送大学教授）
2	ソフトウェア	単一の機械でさまざまな機能を実現するもの（ゲーム機，パーソナルコンピュータ（以後PC），ラジカセ，など）の振舞いを考える．PCにソフトウェアを導入する過程と結果とから，ソフトウェアが「記録され」かつ「実行される」ことを認識する．	同上	同上
3	動作指令書	レシピや楽譜を例として，操作指令書における用語と表現方法，および料理（音楽）を具体化するものについて考える．ソフトウェアは動作指令書であり，それが動く（効果を表す）ためには，PCのような実働部隊が必要であることを確認する．	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	実行する機構	「ソフトウェアが動く」ためには，それを解釈し実行する機構が必要であることを再確認する.「動く」ことの実態が，外界への働きかけ・外界からのデータの取込み・内部的な計算，であることをロボット等の例で調べる.	同上	同上
5	ソフトウェアの実態：プログラム	望みの結果を得るためのやり方として，状況を少しずつ変更してゆく方法を理解し，それを実現するための基本的な要素の例を学ぶ. 状況が時間の経過とともに変化してゆく様子を例を通じて把握し. 繰り返しやモジュール化の必要性も認識する.	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）	高岡　詠子（千歳科学技術大学准教授）
6	プログラムの本質へせまる	プログラムを作ること（プログラミング）の意味を確認し，要求される結果を得るための状態変化の系列の設計であることを学ぶ. グラフィックな結果が得られる例題を使って、条件分岐や再帰的定義について学ぶ.	同上	同上
7	本格的プログラミング	問題ごとの解決パターンに着目できるようにするための多数の例題を通じて，より複雑な設計を要求される問題についてのプログラム作成の様子を理解する.	同上	同上
8	プログラムと抽象化	副手続きをモジュール化あるいは抽象化という面から捉えなおし，その重要性を把握する. より系統的なプログラム構築法としての構造化手法に結びつける. 思考方法に沿った素直な再帰の使用法などを学ぶ.	同上	同上
9	アルゴリズム	手順の明確な記述のためには使用する計算モデルを正確に定義しておくことが重要であることを認識し，その上での「記述された手順」の概念を明確に把握する. データとして扱える程度の精密な記述が求められることを学ぶ.	並木美太郎（東京農工大学大学院准教授）	並木美太郎（東京農工大学大学院准教授）
10	計算の手間	代表的なアルゴリズムを使って計算の手間（計算量）の考え方を理解する. ここで探索・検索系は基本として重点的に扱う. 「問題の大きさ」という概念を理解し、計算量の見積もり方を明確に把握する. 計算量のオーダの概念を学ぶ.	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	計算量と実用計算	アルゴリズムを実用的にするための計算量的考慮を学ぶ．思いついただけの原理的な解法では現実的な時間内では解けない例の改良過程を通じて，高速化の一般的な手法（無駄な計算の除去，差分計算，表の利用など）を理解する．	同上	同上
12	万能計算システム	プログラムが符号化によりデータとして扱えること．この符号化を逆に解釈するのが解釈系であることを再確認した後，符号化の解釈をするプログラムが構成できることを見る．さらにこのプログラムがどのような性質をもつかを検討する．	筧　捷彦（早稲田大学教授）	筧　捷彦（早稲田大学教授）
13	コンピュータの万能性	前回の内容を再度確認した後，集合論のパラドックスの説明を経て，停止判定プログラムが作成不可能であることを理解する．これは原理的な不存在証明であり，ゲーデルの不完全性定理の情報科学版の一つであることを学ぶ．	同上	同上
14	ソフトウェアの作成	完全な仕様記述がいかに難しいかを簡単な例によって認識した後，人間の不完全さを確認し，ソフトウェア作成の困難さを把握する．プログラム言語，作成手法，テスト技法などによる対処方法を学ぶ．	同上	同上
15	情報科学と社会	コンピュータ（計算機構）の発展の歴史の学習を通じて，プログラム内臓方式がもたらした本質的な展開の道筋を見る．数学的な基礎の存在を再確認するとともに，コンピュータの万能性がもつ能力をきちんと認識する．	川合　慧（放送大学教授）	川合　慧（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1660705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　生物集団と地球環境（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：福田　正己（北海道大学教授）〕

講義概要

自然界における生物の存在様式は、家族、群れ、群体、群落、個体群、群集などといったさまざまなレベルでとらえることができる。そして、そのような生物集団は、環境とさまざまな関係をもって存在している。本講義では、そのような生物集団の形成および地球環境との関連について解説するとともに，それらに対する人間活動の影響も解説する。

授業の目標

本講義は、地球環境における生物集団の影響の強さ、そして現在の地球では、生物集団の中でもとりわけヒトの影響が甚大であることを知ってもらうことを目標としている。中学程度以上の生物学の知識があれば理解できるように基礎的な事柄から講義を順次進めていく。また、野外ロケーションの映像を各所に取り入れていて、生物集団の影響の強さをできるだけ実感してもらう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生物集団の形成	生物集団は、無機環境、食物環境そして他生物とどのような関係を持って生活し、子孫を残しているか？個体が集合して集団となった時、そこでの法則性にどのようなものがあるのか？そして、繁殖に関係した社会性の発達とはどのようなものか？などについて説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
2	生物集団の自己組織化	生物集団には、環境との関係で特有のパターン形成が見られる場合がある。そのパターン形成は、自己組織化の論理で説明できる場合が多い。特に、社会性昆虫の集団の統合においては、リーダー、青写真、レシピの存在と言ったものよりも、この自己組織化で説明できる場合が多いことを説明する。	松本忠夫（放送大学教授）	松本忠夫（放送大学教授）
3	いろいろな群集の成り立ち	群集は異なる種の個体群からなる生物集団であり、様々な種間関係がみられる。中でも食う・食われる関係は、エネルギーの流れを生み出し、群集構造を決める最も重要な関係である。また、限られた資源をめぐる競争もニッチ分化を通じてギルド構造を生み出している。ここでは、特に食物連鎖に沿ったエネルギーの流れを中心に、群集の遷移と構造について解説するとともに、近年、群集構造を決める上で重要とされている中規模撹乱説などの非平衡群集論についても言及する。	東　正剛（北海道大学大学院教授）	東　正剛（北海道大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	生物の地理的分布	世界の生物群集の地理的分布がどのようになっているのかを概観し、それを決めている要因、特に温度と降水量が重要であることをついて説明する。また、東アジアそして日本列島の生物相の特色はいかなるものか、さらに人間の影響がそれらの分布にどのような影響を与えているのかについても説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
5	島における生物	周囲の環境から孤立した島における生物相は、そこへの生物の侵入と、そこでの消失のバランスの上に成り立っていること、また、島においては大陸とは異なった固有の生物が進化しやすいことを説明する。さらに、島における生物の生態の理解は、生息地が分断された場所における生物群集の保全に役立つ知識となることを説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
6	熱帯域の生物	一年中、高温で多湿な熱帯域は、地球上で最も生物の種数が多く、また生物の生産活動が盛んなところである。そのような豊かな生物相はどのような要因で形成されてきたのであろうか？ここでは、熱帯域における生物生産と進化について説明する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
7	高山生態系のしくみと地球温暖化の影響	陸域生態系の末端部に位置している高山生態系の位置づけと構造について概説し、高山植物群落の成立要因や高山植物の環境適応と生活史特性について、主に積雪環境との関わりについて説明する。さらに、地球温暖化が高山生態系に及ぼす影響についても紹介する。	工藤岳(北海道大学大学院准教授)	工藤岳(北海道大学大学院准教授)
8	乾燥地の生物	現在の地球規模での砂漠化の現状を紹介する。高温で降雨量の少ない砂漠にも、多くの生物が生存していて、これらの生物は砂漠の厳しい環境に適応して特殊な外部形態及び生理学的な機能を持っている。ここでは、南アメリカとオーストラリアの砂漠を中心に、主として植物が極端な乾燥条件に適応している例を紹介し、それらがどのように環境と対応しているかを解説する。さらに、特殊な砂漠として、高山や高緯度にも砂漠が見られるため、それらの紹介も行なう。	増沢武弘(静岡大学教授)	増沢武弘(静岡大学教授)
9	淡水域の生物	陸地に焦点を当てた地球上での水循環を紹介する。陸上の淡水環境(湖沼、河川、湿原、地下水、氷河など)とその規模と分布、ならびに生物にとっての各々の環境の特徴、それぞれの淡水環境に分布する生物と生態系の特徴、魚類などの陸封現象や陸から海に運ばれた物質がサケなどの生物の回帰によって陸に戻される仕組みなども紹介する。自然度の高い四万十川とその流域の淡水環境を例にして取り上げる。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	海洋域の生物	海水環境の特徴を淡水と比較、地球上での海洋環境の分布とその規模ならびに生物にとっての環境の特徴を紹介する。沿岸と外洋の海洋環境の特徴とそこに分布する生物ならびに生態系の特徴を説明。また、深海生物ならびに化学合成に依存する熱水生物群集についても紹介する。本担当者が参加して相模湾で行っている海域の肥沃化実験の例なども紹介する。	高橋正征(高知大学大学院教授)	高橋正征(高知大学大学院教授)
11	光合成と地球環境	地球上の多様な生命が生み出されたのは、大気中に十分な酸素が存在したからである。約30億年前の原始地球では、海で始まった生物の活発な光合成により、大気への酸素の供給が始まった。植物が獲得した光合成機能の特性とはなにかを解説する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
12	生物の絶滅と地球環境	生物は過去の何度も大絶滅を起こしている。そして、近年における地球上の様々な生物の絶滅の様相はすさまじい。ここでは、地球史の中での生物の大量絶滅と進化の関係を説明する。また、人間活動が盛んになって以後の、世界の各地および日本における生物の絶滅の様相を解説する。	松本忠夫(放送大学教授)	松本忠夫(放送大学教授)
13	生物に対する人為の影響 -マンモスの絶滅の謎-	最終氷期が終わり地球の温暖化が進行しはじめ1万1千年前に、極北シベリアに生息していたマンモスが忽然といなくなった。温暖化に伴って先史人類は極北シベリアに進出し、やがて新大陸へと渡った。人類との遭遇がマンモス絶滅の原因なのか、について考察する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
14	生物集団に対する人為の影響 -森林火災の悲劇-	近年、世界各地で森林が消失している。その多くは多発する森林火災が原因である。地球の肺といわれたシベリアタイガやアマゾン熱帯雨林でなにが起こっているのか、また地球温暖化にどのような影響を及ぼしているのか、について考察する。	福田正己(北海道大学教授)	福田正己(北海道大学教授)
15	生態系のはたらきと保全	生物群集と、それを取り巻く土壌、水界、大気などの物理環境を含めたまとまりを生態系という。地球は閉じた生態系であり、生物を構成する窒素、リン、炭素などの栄養塩類は大気と水の流れに乗って地球生態系を循環している。近年における地球環境問題は、いずれも人間活動が地球生態系の物質循環を撹乱した結果発生したものである。ここでは、地球生態系における一次生産力の分布と物質循環について理解し、生態系機能の保全について考察する。	東正剛(北海道大学大学院教授)	東正剛(北海道大学大学院教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1137301	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　物理の世界（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：波田野　彰（神奈川大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：小形　正男（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

物理の世界('07)の精神は、敬遠され気味の物理を、少しでも身近なものに感じてもらえるよう、自然をとらえる「物語」として話を進めていく。物理を身近に感じ、理解を深めるためには、受け身な学習ではなく、普段から自然を良く観察し、なぜ、どうしてと問うことが要る。敬遠される主な理由が、記号や数式を使うからだ、と言うことは、かつて同じ大学で教鞭を執っていた担当講師３人の共通認識である。数式の使用は必要最小限にと努めるつもりだが、数式になじめないのは、いわゆる「食わず嫌い」から来ることも知っている。講義やテクストの流れの中に基本的な演習を組み込むので、自らの手で解くとともに、頭や目・耳だけで論理や数式を追うだけでなく、自ら手を動かしノートをとって、論理の展開や数式の扱いを再現したり、一歩進めたりして欲しい。さらに、実験も大切である。身の回りのものでやれる実験を用意するので、自分でやってほしい。そういう皆さんのなかから、自然の理解に新しい道を見いだす人が出ることが、我々の夢である。

授業の目標

経験や自分でやれる実験を通して、力やエネルギーなどの物理の基本的概念が、なぜ、どういう風に導入されるかを見ながら、それらの理解を深める。これによって、さらに高度な概念を把握するための素地や、未知の事柄を探求するための観察力と好奇心、またその際に必要な新しい考え方を自ら開拓する力を養う。さらに、現代物理の基礎をなす重要な考え方を示すことによって、現在までに物理によって解明されてきた自然観への道筋を示して、物理の世界への旅にいざなう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	物理は、何を相手にするか	物理は、自然科学の基礎と言われる。では、物理は一体何を相手にする科学なのだろうか。自然を相手にするとき、色々な切り口があるが、この講では、長さの尺度を変えていって、物理の世界を旅して見ていこう。もっとも小さい相手（素粒子）ともっとも大きい相手（宇宙）を比べると、10の後に何10個もの0がつくほどの違いがあることが判る。それほど大きな違いのある世界を、物理でどの程度理解できているかを、ざっと見て行こう。	生井澤　寛	生井澤　寛
2	力って何だろう	あの人は力持ちだとか、政界に力があるなどと、私たちは日常的に力という言葉を使っている。力は、物を結合させたり、動かしたり、仕事をする。では、物理で言う力とは何だろう。実は、物理の最も重要な目標は、自然界に存在する力（相互作用）が何かを探りその力の原因を追究することだと言ってよい。だから物理では、力についの定義は、きっちり定められている。この講では、力と運動について、もっとも基本的なことを学ぶ。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	力は何を産み出すか：運動と仕事	力が運動の何と結びつくかを、ボールにひもを結んでまわす実験で体感しながらつきとめる。そうすると、運動に関する基本法則が見えてくる。つぎに、力のする仕事について考える。仕事を物理の言葉できっちり定めると、エネルギーとその保存則という、物理でもっとも大切な概念に到達する。さらに、ニュートンによる力の基本法則とケプラーの惑星運動の観測結果から、万有引力の法則を導き、物体の落下の謎が解けることを見る。	生井澤　寛	生井澤　寛
4	熱とはなんだろう	「今日は風邪で熱がある」とか、「熱のこもった演説」などと言う。では、熱とは何だろう。「熱」には形容詞としての「熱い」と名詞としての「熱」という意味の二通りの使い方があることに気づく。つまり、程度と量としての使い方である。前者からは「温度」という概念が生まれ、後者は、第3講までに学んだ仕事と同じ、エネルギーの一形態としての「熱」という物理量であることが判る。この対応関係を追求すると、温度と熱について、みな当たり前と思われる性質がみえてくるとともに、その奥には、きわめて基本的な法則があることがわかる。	波田野　彰	波田野　彰
5	熱は全部仕事に変えられるか	第4講で熱は仕事と等価であることを知った。仕事は全部熱に変えられる。では，熱は全部仕事に変えられるのだろうか。実はこの答えは誰でも知っている。いかに燃費の良いエンジンを作り出すかというたゆみない努力が今日も続けられている。これは燃料の持つエネルギーのすべてを仕事に変えることができないために他ならない。熱を仕事に変える効率をより良くしようという努力が、熱についての重要な基本法則を導いた。そして、エントロピーという大切な概念の物理量を導き出した。	波田野　彰	波田野　彰
6	物体は夥しい数の分子からなる	物体は細かくしていくとやがて分子まで行き着く。逆に分子の世界から見ると物体は夥しい数の分子から成るといえる。第4講，第5講で熱の性質を学んだが，この熱の現象は分子の世界からたどって見るとどのようなものだろうか。「夥しい数」から何がどのように導き出されるかを、簡単な模型から出発して考えてみよう。さらに身近な例として水の水蒸気，水，氷という 3 つの姿を示す「相」についても考えてみよう。	波田野　彰	波田野　彰
7	波は場だ	バネに結んだ重りの運動をとくと、三角関数で表される振動となる（調和振動）。では、重りの数を増やし、その間をバネでつないでいったら全体ではどういう運動をするだろうか。答えは、重りの数がいくつであっても、波であることが判る。この波は、物体の形や性質を反映する固有の振動モードである。結合のバネの長さをどんどん短くして行くと、系は連続な場となり、波は場の時空の振動となる。振動や波は、物理に限らず自然界で、安定な状態を少し乱したときに必ず表れる普遍的な運動状態なのである。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	光も波	レーザー光のペンライトで見ると、光は空気中をまっすぐ進むように見える。鏡にあたれば反射するし、水に入ると曲がる（屈折）。光は目に見えないほど小さな粒のようなものだと言えそうである。一方、光を受ければ、シャボン玉は虹色に輝き、水面の油の膜もやはり虹色に見える。これらは光が波であることを示す。ここでは、回折、干渉などの波の基本性質を見ながら、光と音を中心に波の理解を深め、光が波長の短い波であることをつきとめる。さらに、たくさんの波長の異なる波を重ね合わせて行くと、あたかも粒子のように振る舞う存在が作れることを見る。粒子のような波は、量子の世界を理解するための基礎となる。	生井澤　寛	生井澤　寛
9	電気無しでは生きられない	電気がなければ、ふだんの生活のみならず、生産活動も情報交換も出来なくなる。それどころではなく、そもそも身の回りの物質や我々自身も存在できない。では、電気とは何か。目に見えないのでわかりにくいが、身の回りのものを工夫して実験しながら、電気に関わるいろいろの疑問を謎としてあげて正体を探って行く。そうすると、だんだんミクロの世界がかいま見えてくる。実際、電気力が物を作り上げる基本的な力の一つであることが判る。また電気は、磁気とも親戚であり、場（電磁場）と考えることで理解を深めていこう。	生井澤　寛	生井澤　寛
10	電気を作る	電流が磁気を産み、磁場の時間変化が電場を産み出すことを理解すると、どうやって電気を作るかや、電気からどうやって仕事を取り出すかが解る。この理解のもとに、発電機とモーターを作ってみよう。さらに、場としての電場と磁場の時間・空間変化が互いに相手を作りあうことから、電磁波が解り、さらに光が電磁波であることも解る。そして、ミクロの世界の理解の手がかりがつかめると同時に、これまでに出した電気と磁気に関する謎が解けていく。	生井澤　寛	生井澤　寛
11	量子って何	これまでの講に出てきた物理は、その骨格がすでに 19 世紀の末までできあがっていて、古典物理と言われる。20 世紀になると、この古典物理では理解できない現象が次々に見つかり、現代物理の世界に入ることになった。その代表的な例として、高温物体から出る光の色と温度の関係（黒体輻射）、光を当てたとき金属から出る電子と光の波長の関係（光電子効果）、温度の低いときの比熱と温度の関係（低温比熱）、放射能を取り上げて、量子が何かを突き詰めていく。そして、量子の世界では、これまで粒子と考えられていた存在が、むしろ波のように振る舞うことを見る。さらに、この奇妙な量子の性質から、原子がどうやってできるかを見ると、元素の周期律が理解できる。	生井澤　寛	生井澤　寛

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	電子無しでは生きられない	通常の固体では、原子が規則正しく並んで結晶格子を作っている。原子の質量を担う原子核は、格子点の周りで熱振動するが、電子はいろいろな振る舞いをして、固体の性質を決める。そのうち自由に動ける電子をもつものが金属であり、動けないものが絶縁体である。またその中間がシリコンなど半導体である。これらの違いがどのようにして生ずるのかを、量子力学を用いて理解しよう。この理解から望みの機能を持つ素子を作れるようになり、素子の中の電子を自在にコントロールすることにより、コンピュータなど電子機器を動かすことが可能となった。さらに、電子にはスピンという磁気モーメントを持つ量子力学的な自由度があり、集まった電子スピンの相互作用から日常見る磁石ができることを見る。これで第9講の磁石の謎がとけたことになる。	小形　正男	小形　正男
13	有限温度の状態とは何だろう	量子力学によって、ミクロな世界の多くのことが理解された。しかし量子力学だけでは、氷が水や水蒸気になる相転移現象は理解できない。相の変化をミクロに理解するためには、有限温度の状態を記述する方法が必要である。これが統計力学である。前の方で学んだ熱力学を、ここでもう一度ミクロに考え直す。とくにエントロピーの微視的な意味を捉え直す。さらに相転移現象を統計力学から理解するための道筋を示すことにする。相転移現象は、粒子同士が相互作用することによって起こる。分かり安い例として磁石の相転移を用いて、「自発的な対称性の破れ」という考え方を理解する。この考えは、現代物理の背景にある重要な概念である。	小形　正男	小形　正男
14	不思議な流れ：超伝導、超流動	超伝導は電子、超流動はヘリウム原子が抵抗なしに流れているという状態で、ともに極低温で生じる不思議な流れであり、量子効果の巨視的な出現である。金属に電流が流れているとき通常抵抗があるが、温度を下げていくとある温度を境に急に抵抗ゼロの状態になるものがある。この超伝導状態への転移も相転移の一種である。超伝導状態が持つ不思議な現象、とくに超伝導体から磁場がはじき出されるマイスナー効果と、永久電流について述べよう。つづいて、ボース粒子によるボース・アインシュタイン凝縮について説明し、これをもとに超流動を理解する。最近、レーザー光を用いて各種原子気体を冷却しボース・アインシュタイン凝縮を示す実験が行われている。そのきれいな結果を紹介しよう。	小形　正男	小形　正男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	ミクロの世界から宇宙へ	電子を通じて、ミクロの世界の一端を知り、電子が原子核とともに、原子や分子を作ることも見た。では、原子核は何で出来ているか。そして、この世界の究極の構成要素は何であり、どうやって、この世界が出来るのか。これらを突き詰めるのが素粒子の研究であり、これからの物理の大きな課題でもある。 20世紀に、量子とともに現代物理を作ったもう一つの物理が、相対論である。相対論は、光の速度に近い高速で運動する物体の振る舞いを理解することから始まった。そして、古典物理の世界では互いに独立と考えられていた時間と空間が、互いに離れがたい関係にあることを示してくれた。さらに時間と空間を、統一した場の入れ物と考えると、素粒子のみならず重さのある物の間に働く重力の起源が理解できそうである。宇宙規模での世界の理解がどこまで進んだかを見ていこう。	生井澤　寛	生井澤　寛

＝　基礎化学（‘０６）＝（TV）

〔主 任 講 師（現職名）：荻野　博　（放送大学副学長）　〕
〔主 任 講 師（現職名）：渡部　徳子（青山学院女子短期大学教授）〕
〔主 任 講 師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）　〕

全体のねらい

私達の身の回りで起こる自然現象は、すべて物質の性質と変化が関係している。見たり触れたりできるマクロの物質は、原子や分子というミクロの構造をもっている。これら物質の性質を理解し、コントロールし、新しい機能の物質を創るには、マクロとミクロの両方の観点から物質を理解する必要がある。これが化学の面白さであり、場合によると理解しにくい原因にもなっている。この科目では、現在の物質文明を支えている化学の基礎的な知識を提供するとともに、生命との関わりまでを紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	化学の成り立ち	物質の成り立ちを調べ、それを利用すること、そして望みの物質を作ることを目的として化学の知識と技術が発展してきた。化学が成立する歴史的な背景を科学および社会の進展のなかに位置づけて考える。	濱田	荻野、渡部、濱田
2	ミクロの世界 －原子と分子－	分子を作る素材は原子である。原子の大きさ、構造、性質を理解することが分子の理解に通じる。ミクロの粒子を理解するためのいくつかの基本的な考え方とその認識の歴史の過程を学ぶ。	濱田	渡部、荻野
3	原子から分子へ －化学結合の起源－	分子は原子が結合してできたものである。その化学結合力を生じさせる原因を学ぶ。化学結合力の大きさと方向が分子の形と大きさを決める。典型的な分子を取り上げ、結合の様相を調べてみる。	荻野	荻野、渡部
4	分子から物体へ －分子間力－	われわれが見たり触ったりする物体は分子の集合体であるが、これらの分子は単純に積み重なり、あるいは固まったものではない。１個の分子→複数の分子の集合体（クラスター）→マクロの物体となるには、分子同士を結びつける独特の力が働いている。この分子間力とそれによる物質の構造と性質について学ぶ。	濱田	濱田、荻野
5	物質の示す姿と性質 －気体・液体・固体－	物質は通常、気体・液体・固体のどれかの状態（相）で存在する。同じ分子であっても、その相によって性質が異なる。また、温度や圧力によって相の転移が起こる。地球上の水がその典型である。最近、液晶や超臨界も積極的に利用されるようになってきた。相の性質、その転移について学ぶ。	荻野	荻野、渡部

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	より複雑な物質の系へ －混合と濃度－	現実に存在する物質は、完全に単一の分子による純粋な系というより、何らかの異なる物質が混じっているものである。その混じり方、濃度によって純粋な物質にはない、新たな性質が生じる場合がある。物質の混合とその性質について学ぶ。	渡部	渡部、濱田
7	変化を起こす力 －エネルギーとエントロピー－	分子はどうして別の分子に変化するのであろうか。物質の変化とその方向を決めているエネルギーとエントロピーについて学ぶ。特に一定気圧のもとでの化学反応を扱うときにはエンタルピーという物理量を理解しておくことが有効である。これによって、反応に伴う熱量の大きさがわかる。	濱田	濱田、荻野
8	化学反応の仕組み	原子の組み換えが起こることが化学反応である。電子を仲立ちとする力が化学結合の原因であることを第３回で学んだ。したがって、電子の組み換えが起こることは原子と原子の結びつけを換えることにつながる。これが化学反応である。化学反応の典型として、酸・塩基および酸化・還元反応を学ぶ。	荻野	荻野、渡部
9	反応の方向と速さ	化学反応の駆動力は第７回で学んだエネルギーとエントロピーである。しかし、実際の反応には、分子の立体的な形や反応を起こすエネルギーの供給の仕方にもよる。反応を考察する場合には、どの方向に進行するかだけではなく、どのような速さで反応するかも重要である。さらに、反応を制御する触媒の役割も重要である。	渡部	渡部、荻野
10	金属元素の創る広い世界	周期表の大部分は金属元素である。人類は金属を道具や建造物の素材として利用してきた。また、金属元素には金属錯体とよばれる多くの化合物が知られている。これら金属錯体の特徴、性質および働きを学ぶ。	荻野	荻野、渡部
11	金属と有機物の結合	金属元素は、金属－炭素結合を介して有機化合物と結合し、有機金属化合物(あるいは有機金属錯体)とよばれる一連の化合物群を形成する。これら化合物の特徴と機能について学ぶ。	荻野	荻野、渡部
12	炭素の創る豊かな世界 －有機化合物－	炭素は結合の手が基本的に４本と考えてよい。このことが膨大な数の化合物を形成できる１つの原因になっている。有機化合物の分類、特徴、および性質を学ぶ。	荻野	渡部、荻野
13	生活を支える物質 －機能性高分子－	有機化合物は炭素数の多い高分子を形成することができる。プラスチックなど構造材としてだけではなく、さまざまな機能をもつ高分子が作られ利用されている。これらを通じて物質科学の中心としての化学の魅力を紹介する。	渡部	渡部、濱田

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	生命を支える物質 －蛋白質・核酸など－	蛋白質や核酸は生命活動の物質的基礎をなしている有機高分子化合物である。これらがどのようにして生命の基礎的反応、構造を担っているかを学び、生命科学の基盤としての化学の重要性を認識する。	渡部	渡部、荻野
15	化学の未来と課題	化学は人類のさまざまな希望を物質レベルで実現した。さらに有益な物質の探求が進展している。同時に、人類の活動はエネルギーおよび資源の枯渇や環境問題などを引き起こした。人類が自然と共生し持続的な発展をしていくために、化学にはどのような課題があるのかを考える。	荻野	荻野、渡部、濱田

＝　実験科学とその方法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：菊山　宗弘（新潟大学教授）〕

全体のねらい

自然科学は人間の行う知的活動の一つであり、現実に生起している自然現象を観察に基づく経験や実験によって得られた結果を整理し、複雑な現象の中から一定の規則を見出し、それらを総合して法則や原理を導き出し、さらにそれらを統合してより基本的な法則を見出そうとする。このようにして得られた法則からは、物質世界の示すべき現象の予測が可能になる。これを技術と結びつければ、新しい性質を示す物質や装置を創造することもできるようになる。一方では、自然現象の整理の仕方を間違たり相応しくない方法を適用すると、間違った結論を導き出す可能性もある。本講義では自然科学の考え方、観察や実験を行う際の基本的に重要な項目について考えることにする。また、情報を収集し、論文にまとめ、発表する方法についても考える。最後に自然科学は専門家のものだけではなく、すべての人々が関心をもつべき事柄であることを強調したい。これによって、現在の私たちが直面する環境問題などに正しく対処できるようになると考えるからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	実験・観察による自然現象の探求	自然科学がどのように発展してきたのか、何を探求の対象として何を対象としないのか、他の学問分野との関係はどのようになっているのかなどを考える。現在の自然科学の現状について考える。実験と理論、シミュレーションの関係について考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
2	自然科学の戦略・戦術	さまざまな自然現象は一見複雑に、あるいはばらばらに生起しているように見えるが、一定の規則に従っている。すなわち法則性がある。法則がわかれば予測も可能となる。また、複数の法則を分析することにより、より基本的な法則を導くこともできよう。一方で、法則の適用限界をはっきりさせておくことは、法則の誤った適用を避けるためにも重要な要件である。実験や観測から、科学的法則を導き出す過程を説明する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
3	自然科学の領域の拡大	自然科学は五感で捉えられる範囲の自然現象を対象として発達してきた。しかし、自然現象はわれわれの感覚を越えた広大な領域でも生起している。これらを考察の対象とするには、実験・観察する道具・装置を開発する必要がある。また、物事を統一的に解釈する理論をもつ必要がある。日常、目で見たり手で触れられる物質・物体の運動を理解するには、それらの物質の性質との関係を知ることが重要である。いくつかの例を示しながら、マクロとミクロの視点の重要性を述べる。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	測定結果から何を引き出すか	測定や観察をすれば、何らかの結果が得られる。この観測事実はそのまま、自然現象の示す真の姿であると言えるであろうか。事実と真実との関係を考える。また通常、観察や実験の結果は数値として得られるが、それにはさまざまな要因による誤差が含まれている。測定結果の数値的処理を正しく行わないと、間違った結論を引き出す可能性もある。実験精度と確度について考察する。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
5	自然科学における評価と判断、予測	実験結果は何らかの誤差を伴う。そのために統計的な考察をして実験の確からしさと誤差の範囲を決める。また、一定の法則が得られたならば、それに基づいて、新たな条件下での実験や観測の結果を予測することになる。統計や確率の基本的な考え方、扱い方を述べる。相関によって原因と結果を結びつける際の注意点を学ぶ。	林　譲	林　譲 濱田　嘉昭
6	自然現象の整理	実験や観察の結果から一定の法則が得られたならば、それらの法則をより基本的で統一的な原理にまで統合する必要がある。場合によると数理理論としてまとめる必要があろう。この統合化のプロセスと方法について考える。また、数式による表現がどういう意義を持つのかについても考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 菊山　宗弘
7	情報の蓄積と収集	新たな疑問や質問が生じ、実験や観察あるいは調査をする場合、その問題あるいは関連する問題に関して、既に研究がなされているか、どのような結論が得られているのかを事前に調査する必要がある。すなわち、情報の収集である。また、自分の研究経過あるいは結果もデータとして蓄積する必要があろう。有用な情報をどのようにして得るか、活用するかについて考察する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
8	発表と討論	科学研究の結果は何らかの公的な場で発表し、批判や支持を得る必要がある。そのためには、その目的に適したプロセスや技術などが必要である。学習結果や卒業研究のまとめと発表にも同様のことが期待される。研究のまとめ方、発表の仕方、討論の仕方について述べる。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭
9	論文のまとめ方	実験や観察の研究結果から何らかの有益な知見が得られたなら、報告書や論文としてまとめ、公開する必要がある。この場合、研究の背景、方法、結論を得た筋道とその推移の妥当性、関連する現象と対比、問題点の考察などを、読者にわかるような表現で要領良く書く必要がある。これらについて考察する。	菊山　宗弘	菊山　宗弘 濱田　嘉昭

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	未来をつくる科学 － 色素化学の場合 －	物質と色の関係は古代からの興味の対象であった。そして、現在でもさまざまな色を作り出すことに向けて多くの研究がなされている。特定の色をもつ新しい有機化合物を開発する場合に、理論計算が有力な導きとなりうる。実験と計算の融合の例として色素化学を取り上げ、色に関するいくつかの例を紹介する。	時田　澄男	時田　澄男 濱田　嘉昭
11	未来をつくる科学 － 脳科学の場合 －	観測・計測技術の発達によって自然科学の研究対象の拡大と深化が行われてきた。科学の進展がさらに新たな技術を生む。この例として脳科学の場合を考えた。脳機能のうち、味覚や嗅覚を取り上げ、従来の心理学的な手法を組み合わせ、どのような知見が得られつつあるかを紹介する。	小早川　達	小早川　達 濱田　嘉昭
12	未来をつくる科学 － 細胞生物学、分子生物学の場合 －	２１世紀は生命科学が最も発達する時代と考えられている。生命科学においては、化学物質としての分子のレベルと、生命の最小単位としての細胞レベルとを統合的に考察し、扱うことが重要である。発生・分化・癌化などのプロセスで細胞が自らの運命をどのように決定・変換するかの実験について解説する。従来のグローバルな生物学的観点から、ミクロの物質の構成的な観点から生命を考えて見たい。	帯刀　益夫	帯刀　益夫 濱田　嘉昭
13	科学を育てる教育	理科離れが現代の大きな問題になっている。市民が科学の成果を共有し、また次世代の科学を育てるためにも、年少期からの教育、特に実験・観察することが重要である。科学への眼はどのように開かれるのか、あるいは科学・技術教育はどのようになされるのかについて考察する。科学的視点・論理的考察は自然科学だけに適用されるものではない。広く社会生活の中での科学的視点の重要性を述べたい。	濱田　嘉昭 土井　康作	濱田　嘉昭 ゲスト： 土井　康作
14	科学的批判 － 科学ジャーナリズムの役割 －	自然環境問題は人類の生き残りと発展の可能性とをかけた問題と捉えられている。この問題の解決には自然科学の基礎的な研究と技術に関する専門家の活動は欠かせない。一方で、環境問題の解決には自然科学的な側面だけでなく、政治・経済・社会のさまざまな要因が関係している。そして、その解決には市民一般の合意や行動が不可欠である。その際、科学の動向や科学政策を正しくわかりやすく伝えることが重要である。科学ジャーナリズムの役割について考える。	濱田　嘉昭	濱田　嘉昭 ゲスト： 青野　友里

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	市民としての科学	現代の文明社会では科学・技術が急速かつ広範囲に発展している。そして、市民生活にはその結果が直接的に関係している。本来、人類の豊かな生活のために開発された新機能物質や装置が逆効果をもたらすこともある。この逆効果は、使用者の無理解や誤解による場合もある。したがって、現代の文明を生きる市民には、科学や技術の正しい理解が求められることになる。生涯学習の観点から市民としての科学について考察する。	濱田　嘉昭 菊山　宗弘	濱田　嘉昭 菊山　宗弘 ゲスト： 長尾　明美 垣谷　江里子

＝　変化する地球環境（‘０４）＝（TV）

〔主任講師：木村龍治（放送大学教授）〕

全体のねらい

グローバルな視点から地球の自然環境の仕組みを学習する。特に、自然環境の変化に着目して、変化のメカニズム、時間スケールに対する理解を深める。単に大気環境だけでなく、宇宙、海洋、地球内部、生物の作用など、大気環境を取り巻く世界にも目を向け、宇宙スケールから人間スケールまで、自然界の構造とその変化に関わる全体像を示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地球科学の視点	1988年以来、地球環境問題が大きな社会問題になった。特に「地球温暖化」に対しては、さまざまな議論を生み、地球環境と調和する社会体制はどうあるべきか、というような政治的な問題に発展している。しかし、「地球温暖化」が気候の変化である以上、地球科学的な視点が欠かせない。地球科学的な視点で環境の変化の意味を検討し、この講義全体のパースペクティブを示す。	木村　龍治（放送大学教授）	木村　龍治（放送大学教授）
2	惑星の大気環境	太陽系の惑星は、ほとんど大気をもち、それぞれ、独自の気象の営みがある。地球はそのひとつに過ぎない。比較惑星気象学の視点から、火星、金星、木星の大気環境と地球の大気環境の違いを考察する。	同　上	同　上
3	宇宙から見た地球環境	地球環境は、非常に複雑な構造をもつが、地球から遠く離れて地球を見ると、意外に簡単な物理環境にあり、地球環境は安定な状態に保たれている。地球が吸収する太陽放射エネルギーと、地球からの放射される赤外線のエネルギーのバランスで宇宙から見たときの地球の温度が決まる。また、大気に温室効果気体が含まれるために、宇宙から見た地球の温度と地表面温度との間に違いが生じる。これが温室効果である。	同　上	同　上
4	大気循環	大気と海水の循環によって、太陽放射による加熱の地域差が再分配され、地球が受ける太陽放射に大きな地域差があるにもかかわらず、気温は平滑化されている。このような熱の再配分に重要な役割を果たしている大気循環の構造を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	海水の循環	大気は地球全体を覆い、かつ、グローバルによく攪拌されている。一方、海洋は大陸によって仕切られているので、地域的な循環が卓越する。一方、全体の海水はひとつながりになっているので、長期的には、グローバルに海水が混合されている。海洋は、地球表層の貯熱槽として、気候の形成に大きな役割を果たしているのと同時に、エルニーニョ現象を発生させて、異常気象をもたらす。このような海水循環の構造を学ぶ。	木村　龍治	木村　龍治
6	水の循環	地球環境の最大の特徴は、水が大気中で気相から液相、固相に変化することであろう。そして、大気循環から分離して、地上にもどる。すなわち、降水現象が生じる。これに伴い、潜熱が解放され、大気が加熱される。また、地球の大気層の半分は、常に、雲に覆われ、太陽放射を反射するのと同時に、地球から宇宙に逃げる赤外線を吸収する。雲と降水の特徴は、きわめてゆらぎが大きいということである。そのメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
7	気候の形成	気候は地域によって大きく異なる。また、気候の変化にも地域性がある。気候の地域性は、降水量と気温に支配される。世界の気候区分は、主に植生によって分類されるが、植生は降水量と気温による所が大きい。気温は緯度と高度によって変化する。降水量は大陸の配置や大気循環の構造に支配される。また、都市域には、都市独特の局地的な気候がある。	同　上	同　上
8	地球環境のライフサイクル	生物の生活には、日変化、年変化などの環境の周期的な変化に対応したリズムがある。一方で、誕生、成長、成熟、死というような一過性のライフサイクルがある。地球環境も、生物と同じように、周期的な変化と一過性の変化が重なっている。ここでは、特に、約10万年周期の氷期と間氷期の交代を取り上げ、そのメカニズムについて考察する。	同　上	同　上
9	生物のいる惑星	地球の最大の特色は、生物が発生し、多様に進化してきたことである。過去の生物相は、従来、化石を基に再現されてきたが、DNAの発見以来、DNAの塩基配列の置換数を基に、生物の進化を論じられるようになった。生物に進化に関する最近の考え方を紹介する。	同　上	同　上
10	環境変化と生態系	生物の生存は環境の状態と密接に関連している。生物は進化の過程で、ある程度、環境に適応できる能力を獲得したが、限度を超えて環境が変化すると生物は絶滅する。ここでは、深海熱水系、エルニーニョなどの環境適応を例にして、環境変化と生態系の応答との関係を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	地球内部の変動	長い時間スケールでみると、地球内部も常に変化している。過去の変化を調べるためには、過去の時間を計ることが必要である。地質学は、地層の積み重なりや化石の種類によって過去の年代を決定してきた。それに対して、地球物理学的な手法で過去の年代を決定する方法が開発され、地球内部の変動の様子がよく分かるようになった。同位体年代測定法や古地磁気学に基づいた絶対年代のデータが蓄積された結果、プレートテクトニクスの概念が生まれたことを学ぶ。	木村　龍治	木村　龍治
12	地震と火山	日本列島は、プレートの沈み込み帯に形成された弧状列島で、地震帯と火山帯の真上にある。日本列島の地表面の環境は、地震と火山が作ったといっても過言ではないであろう。一方、地震と火山噴火は大きな自然災害を生むので、その予測が強く望まれるが、現在では、成功していない。日本では避けることのできない地震と火山のメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
13	日本の気象	日本列島は、中緯度帯（温帯）に存在するが、英国やフランスに比較すれば低緯度にあり、亜熱帯気候と亜寒帯気候の影響を受ける。また、ユーラシア大陸の東の端に位置しているために、アジアモンスーンの影響も大きい。そのため、四季によって気象の支配要因が交代し、四季の変化が顕著に現れる。このような日本の気象を特徴つける気象のメカニズムを学ぶ。	同　上	同　上
14	大規模な気候の変化	太陽活動はきわめて安定しているので、地球上には大規模な気候の変化は起こらないようにみえる。しかし、地球表層には、過去に大きな気候の変化があったことがわかっている。その原因は何だろうか。地球が吸収する太陽放射量を変化させる要因としては、雲が重要である。また、大規模な火山噴火によって、大量の火山灰が成層圏まで吹き上げられ、日射を遮る。もうひとつの要因として、海水の深層循環の変動がある。このような大規模な気候変化を起こす要因について考察する。	同　上	同　上
15	人為的な環境変化	人口が増加し、人類の活動が活発になるにつれて、人類の存在が自然環境に与えるインパクトが次第に増加している。具体的には、２つの問題がある。ひとつは、地表面の性状を人為的に変えることによって、自然の営みに影響を与えることである。都市、水田、砂漠の灌漑、ダムなどがその例である。もうひとつは、工業生産や日常生活に伴う廃棄物を自然界に捨てることによって、大気環境や水環境に影響を与えることである。一方で、人工降雨など、人為的な気象の制御が試みられている。このような人間社会と自然環境の関係について学ぶ。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1130900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 宇宙観の歴史と科学 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「宇宙像の変遷と科学（'04）」の一部改訂科目です。
改訂回は、8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：中村 士（帝京平成大学教授） 〕

講義概要

宇宙に対する見方を体系化した学問である天文学、宇宙論は、人類文明の発祥と共に生まれ発展した最も古い学問の一つである。その歴史には、現代科学の方法や思考の基礎になっている様々なアイデアがちりばめられている。また近年は、宇宙論の思想が他の科学に影響を及ぼすことも少なくない。本講義ではそれらを時代を追って説明すると共に、現代の天文学・宇宙観にどう連なっているかを見てゆく。

授業の目標

全15回の講義を通じて、今では私達が当たり前のように思っている天文学・宇宙論の基礎概念、例えば、地動説、太陽の熱源、天の川銀河、膨張宇宙論、ブラックホールなどの考え方がどのようにして誕生したかが理解できるようになることを目標とする。また、この講座を履修することにより、関連する現代天文学、宇宙科学に対する興味と理解がより深まることをめざす。天文学の予備知識はなくてもよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古代の宇宙観(1)	人類史上において、最初の宇宙観・世界観がどのようにして誕生したかをまず概観する。ついで、最も古く天文学が発達したメソポタミア、エジプトの天文学について述べ、インド、中国の古代宇宙観の特質にも触れる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
2	古代の宇宙観(2)	現在の天文学、宇宙観のアイデアの源泉はギリシアにある。古代ギリシアの自由な学問的伝統は、天動説、地動説など様々な理論を生んだ。それらの特徴を比較し、現代天文学への影響を論じる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
3	中世の宇宙観からルネッサンスへ	ローマ世界の没落後、古代ギリシアの華々しい天文学の成果は中世ヨーロッパでは忘れ去られた。しかし、ギリシア天文学はアラビア・イスラム世界の人々によって温存、発展させられた。西欧天文学とイスラム天文学との関係についても述べる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
4	コペルニクス革命と地動説	イスラムの科学を通してギリシア天文学を再発見し、ルネサンスによって人々は中世アリストテレス思想の呪縛から解き放たれた。その象徴はコペルニクスが提唱した地動説（太陽中心説）であり、自転する大地という考え方だった。地動説の受容についても述べる。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
5	精密観測と熟考の成果:ティコとケプラー	ティコとケプラーという二人の巨人が協力して明らかにした惑星運動の統一的解明は、近世天文学の出発点となった。改良した観測装置で精密なデータを蓄積し、そこから法則を見つけ出す近代科学の方法論を見てゆこう。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）
6	宇宙像の拡大:望遠鏡の発明と万有引力の法則の発見	17世紀のはじめ、望遠鏡を用いた天体についての様々な発見は、それまでの宇宙観を一変させた。また、ケプラーの仕事を元にしてニュートンが発見した運動法則と万有引力の法則は、地上の物体と天体の運動を統一的に説明することに成功した。そのために、ニュートン力学的宇宙観が広まった。	中村 士（帝京平成大学教授）	中村 士（帝京平成大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	地動説の検証から恒星天文学の誕生へ	地動説を検証する最も直接的な証拠は、星の年周視差の検出であると考えられた。年周視差検出の努力の過程で、天文学者の関心は徐々に変質し、太陽系を離れて恒星の世界に拡大していった。恒星天文学の誕生について述べる。 【キーワード】 年周視差	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
8	星の世界の物理学 (※改訂回)	それまでの星の空間的分布や運動の研究から、星の明るさ、色などに関心を転換することによって、天体物理学と呼ぶ新しい天文学が誕生した。太陽、星のスペクトルの組織的観測結果から、スペクトルの特徴に従って分類することが始まり、やがてヘルツシュプルング・ラッセル(HR)図によって、星には巨星、矮星などの区別があることが分かってきた。	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
9	星・太陽の物質の解明へ (※改訂回)	太陽大気中の元素とスペクトル線の対応から、恒星も太陽と似た元素からなることが確かめられた。やがて、量子力学、原子核物理学の進展によって、長年の謎だった太陽の熱源問題も解決され、星の進化に伴って重い原子核が次々に生成されるメカニズムも解明されていった。	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
10	銀河系と銀河の発見 (※改訂回)	宇宙の広がりと形を調べる研究は19世紀になってようやく銀河系の姿をおぼろげに描き出した。20世紀になると、銀河系と渦巻星雲の関係についての議論が起こり、渦巻き星雲は銀河系と同規模の星の集団(銀河)であることが判明して銀河からなる宇宙という現代の宇宙観の基礎ができた。この、銀河系と銀河の発見の歴史を解説する。	岡村定矩(東京大学・教授)	岡村定矩(東京大学・教授)
11	宇宙膨張の発見とビッグバン宇宙論 (※改訂回)	遠方の銀河ほど速い速度で我々から遠ざかるという「ハッブルの法則」は、宇宙全体が一様等方的に膨張していることを示す。膨張宇宙という概念と宇宙における元素の起源の研究から、ビッグバン宇宙論というパラダイムが誕生した。インフレーション理論を含めた現在の宇宙論への道のりを概観し、ダークマター、ダークエネルギーという新たな謎にもふれる。	岡村定矩(東京大学・教授)	岡村定矩(東京大学・教授)
12	太陽系像の変遷 (※改訂回)	天体物理学の隆盛に伴って太陽系研究はしばらく沈滞期に入る。しかしその後、惑星探査機の出現と新種の天体の発見によって、最近の太陽系像は一変しつつある。その有様を、近年急速に発展した科学的太陽系起源論と、系外惑星の探査の歴史と共に紹介する。	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
13	私たちはどこから来たか:地球外生命を求めて (※改訂回)	宇宙における生命の誕生と進化を理解することは、天文学、宇宙論研究の最終目標と言ってもよいテーマで、人間原理などにも関係している。電波天文学の誕生で始まった太陽系外生命の科学的探査の歴史についても述べる。	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
14	万物の尺度の探求:メートル法の制定と測地学の誕生 (※改訂回)	メートル法という統一した尺度が地球の大きさを基準にして18世紀末に生れた歴史的背景を探り、地球、太陽系の大きさの定量的把握にいかに影響したかを述べる。天文単位決定の歴史についても紹介する。 【キーワード】 天文単位	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)
15	宇宙像の表現法:星表と星図の歴史的変遷 (※改訂回)	恒星宇宙の広がりや構造を表示する方法として、星図・星表による表現が昔から行われてきた。その古代から現代に至る歴史的変遷を、、西洋と東洋の場合について見てゆく。銀河系や電波源の様々な表現法についても触れる。 【キーワード】 星図・星表	中村 士(帝京平成大学教授)	中村 士(帝京平成大学教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1660802	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　惑星地球の進化（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：松本　良　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：浦辺　徹郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：田近　英一（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

地球は火星や金星などと同じ太陽系の一つの惑星ですが、豊かな水の存在と生命活動が他の惑星との違いを際立たせています。しかし長い時間軸で見ると、地球環境はいつも穏やかだった訳ではありません。地球は太陽エネルギーや潮汐などの外因エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因エネルギーによって駆動されるシステムであり、これらのエネルギーやその他の原因（小天体の衝突など）により惑星地球はダイナミックに進化・変動してきました。　本講義では、知識の網羅ではなく、ダイナミックな地球を理解する上で特に重要な項目について詳しく解説します。　身近な地質現象の観察を手がかりとして、地球の成り立ちと進化について理解し、地球との共生について考えることを講義の目標とします。

授業の目標

講義は３つの章から構成されます。第１章「惑星地球の形成とダイナミクス」では、惑星地球の形成や地球の構成、地球を駆動するエネルギーについての解説を通じて、地球のダイナミクスを理解します。第２章「惑星地球システムを構成するもの」では、岩石、地層、化石から地球史を解読する方法を学びます。第３章「地球の変動と進化」では、生物の絶滅や劇的な環境変動に関する最新の成果から、地球変動のメカニズムを知り、資源や環境、地球の近未来について考えます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		第１章　惑星地球の形成とダイナミクス		
1	自分の地球観を持とう	講義が目指すもの、講義全体の構成、および学生諸君に望む事柄について説明する。人類社会と地球、環境問題、資源の問題、生物多様性の問題、持続的発展をテーマに、今日地球と人類が抱える課題について問題提起する。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一
2	太陽系と惑星地球の形成	地球と太陽系内の他の惑星との比較を通じ、それらの共通点や違いを明らかにすることによって、惑星地球の特徴を理解する。また、太陽系の形成過程を概観し、地球がどのように誕生したのかを理解する。	田近　英一	田近　英一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	地球環境の形成と進化	地球環境は太陽からのエネルギーと大気の温室効果によって支えられている。地球史を通じて温暖な地球環境が維持されるためには、大気の進化が重要であった。大気中の酸素は生物起源であり、地球史半ばに酸素濃度が増加したらしい。これらのことを紹介する。	田近　英一	田近　英一
4	固体地球の成立と分化	惑星地球は、主として内因的エネルギーによる熱、圧力、マグマ活動などさまざまな要因で成層構造を持ち、分化して行く。また、大陸と海の区別ができ、地球の原型が形成される。そのような成層構造をいかにして調べるのか、大陸と海の違いは何かを紹介する。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
5	地球内部ダイナミクス	現在の固体地球は内因的エネルギーに支えられてダイナミックに活動している。現在の地球の営みを規定しているのはプレートテクトニクスで、この理論により、それまで分からなかったさまざまな現象を統一的に理解することが出来るようになった。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
		第2章　惑星地球を構成するもの		
6	地球のサブシステムの成立	地球システム全体を考えた時、質量では固体地球が99%をしめるが、ものの“流れ”の大きさを比べると気圏、水圏、生物圏といったサブシステムの重要性が浮かび上がってくる。これらのサブシステム間の相互作用が、現在の地球を駆動している事を学ぶ。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
7	熱水活動と鉱物資源の生成	プレートの拡大境界／収束境界に多くのマグマ活動が集中している。その熱は、地殻中に熱水循環を引き起こす。この熱水活動は、重金属で代表される鉱物資源の生成のほか、地下生物圏のエネルギー源となるなど、新たな地球像を見せようとしている。	浦辺　徹郎	浦辺　徹郎
8	堆積岩はどこで出来たのか？	固体地球の最外郭は堆積岩で覆われる。堆積岩は、河床やデルタ、大陸斜面から深海底と様々な環境で形成され、それぞれ特徴的な構造や組成を持つ。野外での観察を通じて堆積岩がどのような環境で形成されたか判定する手法を学ぶ。	松本　良	松本　良
9	海洋環境と深海堆積物	氷床の発達による海水準の低下、深層水の循環、海洋の成層構造の発達など、海洋の物理的、化学的進化と変動は、地球環境を大きく変える。一方、地球表層環境の変動は深海堆積物によく記録される。深海掘削コアを例に、深海堆積物の特徴と海洋環境の変動について解説する。	松本　良	松本　良

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	地球史の編年	生物の進化に基づく生層序、古地磁気や海水の組成変動など、全地球的に同時に変動する現象を手がかりとして、遠く離れた場所の地層の新旧の関係が明らかにされる。一方、放射性元素の壊変を利用して数値年代を知る事ができる。これらに基づき詳細な地球史が編まれてきた。	松本　良	松本　良
		第3章　惑星地球の変動と進化		
11	生物の大量絶滅	5億4千万年以降の顕生代において生物は5回大量絶滅という危機を経験した。大量絶滅の要因としては、天体衝突のほか、寒冷化、海水面の低下、海洋の貧酸素化など、様々なモデルが提案されている。最近の研究成果から、地球表層環境の劇的変動と生物の大量絶滅について学ぶ。	松本　良	松本　良
12	地球表層環境の変動	地球史において、暖かい時代（温室期）と寒い時代（氷室期）が数億年の周期でくりかえされたことが堆積物に記録されている。こうした長期的な環境変動の要因について考察する。また、氷室期に見られる短周期の氷期ー間氷期サイクルを、炭酸塩の酸素同位体組成の変動から解読する。	田近　英一	田近　英一
13	全球凍結イベントと地球環境の安定性	最近の研究によって、地球全体が凍結するという破局的な環境変動が過去に何度か生じたらしいことが分かってきた。この全球凍結（スノーボールアース）仮説について紹介し、地球環境の安定性について考える。	田近　英一	田近　英一
14	メタンハイドレート：環境と資源へのインパクト	メタンガスと水から成るメタンハイドレートが堆積物中に大量に存在する。メタンハイドレートが分解すると海洋の貧酸素化を促進し生物圏に致命的な影響を与える。将来のエネルギー資源としても期待されるメタンハイドレートについて考える。	松本　良	松本　良
15	惑星地球と人類社会の共生	講義の締めくくりとして、人類と地球の共生について考える。人類が登場してほんの 100 万年ほどの間に、人類活動の影響は拡大し、直接地球環境の変動に介入するようになってきた。46 億年の地球進化のなかで、人類はいかに地球との共生を図れるのか、考えよう。	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一	松本　良 浦辺　徹郎 田近　英一

＝　初歩からの微積分（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：熊原　啓作（放送大学教授）　　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：押川　元重（放送大学特任教授）〕

全体のねらい

世の中を理解し積極的に対応しようとするとき，時間，長さ，広さ，重さ，物の量，価格などいくつもの変量を認識することは不可欠である。さらに一つの変量の値が決まれば，他の変量の値が決まるという関数関係を認識することも避けることは出来ない。二つの変量の間に関数関係があれば，それらの変化量の割合を記述するものとして，導関数を考える。微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが，その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数，関数，変量の間の関係を表現する微分方程式を解くことによって，それらを規定する関数関係を導くことができる。この授業科目では，高校で微分積分を学んでいることを前提としないで，大学レベルの微分積分を展開する。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	関数と導関数	関数とは何か，微積分を展開する準備として基本事項を解説する。 １．数から数への対応としての関数，２．関数の表し方，３．関数の定義域と値域，４．１対１関数，５．逆関数	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
2	上限・下限，関数の極限値	連続関数と極限値の基本性質を解説する。 １．数集合の上限と下限，２．有界な集合，３．実数の連続性の公理，４．関数の極限値，５．右極限値と左極限値，６．関数の連続性，７．関数の最大値と最小値	同上	同上
3	指数関数と対数関数	基本的な関数である指数関数・対数関数の導入とその性質を解説する。 １．指数関数 2^x．２．指数関数 a^x．３．対数関数 $\log_a x$．４．自然対数の底 e．５．指数関数 e^x と対数関数 $\log x$	同上	同上
4	三角関数と逆三角関数	基本的な関数である三角関数を複素数を用いて導入しその性質を解説する。 １．複素数の和と積，複素数平面，２．共役複素数と複素数の絶対値，３．$e^{i\theta}=\cos\theta+i\sin\theta$，４．サイン関数とコサイン関数のグラフ，５．サイン関数とコサイン関数の性質，６．タンジェント関数，７．アークサイン関数，アークコサイン関数，アークタンジェント関数	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	導関数	導関数の定義といくつかの関数の導関数の計算を解説する。 1．導関数とその表し方，2．導関数の値の意味，3．対数関数の導関数，4．三角関数の導関数，5．接線の傾きと「瞬間変化率」，6．単調増加関数と単調減少関数，7．逆関数の導関数，8．指数関数の導関数，9．逆三角間数の導関数	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
6	関数の生成	扱える関数を増やすため，関数の生成ということを解説する。 1．基本になる関数の性質 x^n, e^x, $\log x$, $\sin x$, $\cos x$, $\tan x$, $\sin^{-1}x$, $\cos^{-1}x$, $\tan^{-1}x$. 2．関数の和，定数倍，積，商による関数の生成，3．合成による関数の生成，4．和の関数 $f+g$，定数倍関数 cf，積関数 fg，商関数 f/g，合成関数 $f\circ g$	同上	同上
7	微分と２階導関数	導関数の性質と導関数の計算を解説する。 1．関数の和と定数倍，積，商の導関数，2．合成関数の導関数，3．複雑な関数の導関数の計算，4．２階導関数	同上	同上
8	平均値の定理とテーラーの定理	高次導関数を用いての関数の多項式による近似とその応用を解説する。 1．関数の１次近似と２次近似，2．平均値の定理とテーラーの定理（２次），3．関数の増加・減少，4．テーラーの定理（高次）	同上	同上
9	不定積分	微分の逆演算としての不定積分の計算法を解説する。 1．微分の逆演算としての不定積分，2．部分積分法，3．置換積分法，4．速度と加速度	同上	同上
10	１階微分方程式	多くの現象が微分方程式を用いて記述されるが、その第１歩として１階微分方程式を解説する。 1．微分方程式とは，2．変数分離形，3．同次形，4．１階線形微分方程式	同上	同上
11	２階線形微分方程式	運動を記述する２階線形微分方程式の基本性質と解法を解説する。 1．指数関数の導関数（続），2，定数係数同次２階線形微分方程式，3．定数係数非同次２階線形微分方程式	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	定積分	面積・体積を求めるときに使われる定積分の定義と意味，計算法を解説する。 1．定積分の意味と計算法，2．定積分の定義，3．連続関数の定積分の計算	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）	熊原啓作（放送大学教授） 押川元重（放送大学特任教授）
13	数列の極限値	数列の極限の議論を通して数学論理の展開の仕方を解説する。 1．正しい命題と正しくない命題，2．ε-N論法による数列の極限値の定義，3．ε-N論法の必要性，4．上に有界な単調増加数列は収束すること，5．数列の極限値と関数の極限値との関係	同上	同上
14	多変数関数への発展　I	複数の要因で決まる現象を扱うときに必要な多変数関数の入門第1歩を解説する。 1．2変数関数，2．2変数関数の偏導関数とその表し方，3．合成関数の偏微分，4．2次の偏導関数	同上	同上
15	多変数関数への発展　II	理工学のみならず社会科学でも必要な多変数関数の極値問題に行列と行列式を用いて迫る。 1．行列と行列式，2．固有値と固有ベクトル，3．実対称行列の対角化，4．2変数関数の極大，極小の判定	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目ｺｰﾄﾞ	1132709	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 入門線型代数 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：隈部正博（放送大学准教授） 〕

講義概要

線型代数を初めて学ぶ人向けの講義である。予備知識は特に仮定しない。平面や空間といった素朴な概念から初め、数ベクトル空間を定義する。その後行列の概念を導入する。このとき、連立方程式の解法といった親しみやすい事柄の復習を通して、行列の演算を解説する。そして行列式、逆行列の求め方を学ぶ。また空間から空間への線型写像、部分空間の種々の性質をみる。これらを通して、行列の階数、あるいは空間の基底、次元がどういうものか解説する。さらに固有値、固有ベクトルを定義し、基底の変換を解説する。いわゆる数ベクトル空間について講義し、抽象的、公理的な議論はなるべく避けるようにする。

授業の目標

平面や空間といった素朴な概念を、数ベクトル空間としてとらえることから始める。また連立方程式の解法を、行列を使って解く方法を学ぶ。また、行列式、逆行列の求め方を理解する。また、線型写像、線型空間とはどういうものか解説する。さらに、ベクトルの線型独立、そして空間を構成する基底を学び、さらに空間の大きさを測る次元とはどういうものか学ぶ。次に基底の変換を解説し、これにより、座標の表示がどのように変わるかを理解する。合わせて固有値、固有ベクトルを解説し、基底の変換に応用する。

履修上の留意点

この授業は初めて線型代数を学ぶ人向けの授業である。従って予備知識は特に要求しない。できれば数学にいくらかの親しみをもっていればありがたい。より入門的な数学の講義をとっていればなおさらいい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	数ベクトル空間	我々が日常目にする平面や空間と行った概念を、数ベクトル空間としてとらえる。 【キーワード】 平面、空間、数ベクトル、数ベクトル空間	隈部正博	隈部正博
2	行列	行列がどういうものか定義し、行列の和や積演算について解説する。 【キーワード】 行列、行列の型、行列の和、積	隈部正博	隈部正博
3	連立一次方程式の解法	連立一次方程式の消去法による解法を復習し、その後、これを行列を使って掃き出し法によって解くことを学ぶ。 【キーワード】 連立一次方程式、掃き出し法、行基本変形	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	階数	連立一次方程式の行列による解法を整理し、行基本変形、列基本変形、そして階段行列を定義する。さらに行列の階数を定義する。さらに逆行列の求め方を学ぶ。 【キーワード】 行列の基本変形、行列の階数、正則行列、逆行列	隈部正博	隈部正博
5	置換	行列式を定義するにあたって、必要な準備として、置換について解説する。 【キーワード】 置換、互換、巡回置換、偶置換、奇置換、置換の符号	隈部正博	隈部正博
6	行列式	二次や三次の正方行列の行列式の求め方からはじめ、一般の場合について定義する。 【キーワード】 行列式	隈部正博	隈部正博
7	行列式の性質	前章で定義した行列式のもつ種々の性質について学び、また行列式を特色づけを行う。また行列式の求め方を実際に練習する。 【キーワード】 行列式の展開	隈部正博	隈部正博
8	行列式の展開	行列式を列や行で展開する方法を学び、幾つかの性質を理解する。これを使って、行列の逆行列の求め方を学び、さらに連立方程式の解法についても再考する。 【キーワード】 逆行列、余因子行列、クラメルの公式	隈部正博	隈部正博
9	独立と従属	幾つかのベクトルをを使って他のベクトルを書き表す、線型結合について学ぶ。また線型独立や線型従属の意味することを理解する。 【キーワード】 線型結合、線型独立、線型従属	隈部正博	隈部正博
10	部分空間	数ベクトル空間の部分集合で、部分空間とよばれるものの定義をする。 【キーワード】 部分空間、生成する空間、基底、部分空間の和、共通部分	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	線型写像	数ベクトル空間から数ベクトル空間への線型写像を定義し、行列がどのように関わっているか学ぶ。また線型写像の像や核について学ぶ。 【キーワード】 線型写像、行列表現、像、核	隈部正博	隈部正博
12	次元	行列の階数と基本変形との関連について、より一般的に解説する。次に空間の大きさを測る次元を定義する。さらに次元と階数との関係について述べる。 【キーワード】 階数、基底、次元、次元公式	隈部正博	隈部正博
13	基底の変換	線型空間の基底が与えられた時、基底を変えることによって、与えられたベクトルの成分表示がどのように変わるかを見る。また線型写像を表す行列がどのように変わるかもみる。 【キーワード】 基底の変換、座標変換、線型写像の行列表示	隈部正博	隈部正博
14	固有値と固有ベクトル	固有値や固有ベクトルを定義し、その意味について解説する。 【キーワード】 固有値、固有ベクトル、固有方程式、不変部分空間、ケーリーハミルトンの定理	隈部正博	隈部正博
15	行列の対角化	固有値と固有ベクトルの求め方について幾つか練習する。またこれを使って、基底の変換を行い、線型変換の行列表示がどのように変わるかをみる。最後に授業のまとめをする。 【キーワード】 基底の変換、行列の対角化	隈部正博	隈部正博

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（自然系）	科目コード	1131001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 解析入門 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：熊原啓作（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河添　健（慶應義塾大学教授）〕

講義概要

偏微分と重積分は応用上重要であるにもかかわらず，1変数関数の微積分を仮定して講義されるため，取り付きにくいものになっている。この講義では常に1変数との対比をしながら出来るだけ平易に解説する。主として2変数関数を扱い，図などにより視覚化して偏微分と重積分の理解を深めるようにする。また平面を複素数平面と見ることにより複素関数を考えることは自然である。複素数や複素関数の簡単な性質についても解説する。全体にわたって出来るだけ実例，応用例，計算例を取り上げる。講義で扱う内容は理工系の自然科学ばかりではなく経済学・経営学などの社会科学でも重要な道具であることを明らかにする。

授業の目標

複数の要因から決まる関数関係－多変数関数－を理解すること，グラフや立体図形を理解し、空間概念を把握する能力を身につけること，偏微分と重積分の意味を知り簡単な計算が出来ること，複素数と複素変数関数の基礎的な性質を知ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ多変数関数なのか	複数の要因に依存する事象を探し、それらを数式－多変数関数－によって表示する。とくに空間座標を用いることにより、2変数関数を可視化する。いくつかの代表的な数式と可視化した曲面を解説する。多変数関数の連続性についても考える。 【キーワード】 多変数関数，座標，定義域，グラフ，等高線，連続，不連続	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
2	多変数関数の微分とは	1変数の微分係数を復習し、その多変数化を述べる。とくに2変数関数の微分可能性の意味を探り，1変数関数の微分との相違点を浮き彫りにする。2変数関数を可視化した曲面と接平面の関係を分かり易く解説する。それにより微分とその幾何学的意味を理解する。 【キーワード】 偏微分係数，偏導関数，全微分可能，接平面，方向微分，勾配ベクトル	熊原啓作放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
3	偏微分の計算	偏微分の計算に習熟することを目指す。とくに2次偏導関数とその計算方法を説明し，良い関数であれば連鎖法則が成り立つことを示す。また良い関数に対しては高次の偏微分係数は偏微分する順序によらないことを注意する。 【キーワード】 2次編導関数，高次偏導関数，微分の順序，連鎖法則，陰関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)
4	テイラー展開してみよう	2変数関数の1次近似、2次近似を説明する。1次近似は関数の線形化であり、グラフの接平面に他ならないこと理解する。さらに高次近似であるテイラーの定理を1変数のテイラーの定理を用いて導く。 【キーワード】 1次近似，接平面，2次近似，テイラーの定理，テイラー級数	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添　健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	極大・極小を探そう	2変数関数を2次関数で近似することによって、その極大・極小の判定、極大値・極小値を求めることが出来る。このとき極値を持つかどうか，極大か極小かの判定に使われるのがヘッシアンとよばれる2次偏導関数からなる行列式である。 【キーワード】 極大・極小，極大値・極小値，ヘッシアン，鞍点，楕円放物面，双曲放物面	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
6	制約条件があるときの極値を求める	経済・経営などの現実社会における極値問題は、特定の条件や制約の下において極値や最大値を求めるものである。いくつかの具体例とともに条件下で極値を探すのに有用なラグランジュの乗数法を解説する。 【キーワード】 近傍，開集合，閉集合，境界，連結，有界，条件付き極値，ラグランジュの乗数法	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
7	2変数関数の積分をどう考えるか	1変数関数の積分を定義する区分求積法を復習し、その手法を長方形領域で定義された2変数関数に拡張する。次に一般領域で定義された2変数関数の重積分を定義する。さらにこれらの重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められることを示す。 【キーワード】 長方形上の重積分，一般領域の重積分，繰り返し積分，積分の順序	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
8	極座標に変えて積分しよう	重積分は1変数の積分の繰り返しによって求められるが、ある場合には直交座標を極座標に変換することによって計算が容易になることを示す。さらに一般の座標変換によって積分がどのように変化され計算されるのかをみる。 【キーワード】 平面極座標，単純角領域，扇面形，面積要素，変数変換，ヤコビアン	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
9	面積と体積を求める	領域で1という関数を重積分することによって、その領域の面積が求まる。その計算は1変数の積分を繰り返すことによって求められることを示す。また同様の考え方が立体図形の体積を求める場合にも適用されることを示す。実際、2変数関数の重積分によって体積が求められることを示す。 【キーワード】 多重積分，体積を持つ図形，体積要素，空間極座標，円柱座標	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
10	平面と複素数	複素数の四則演算を復習し、その基本的な性質を複素数平面での表示を用いて説明する。とくに次章につながる複素数の基本概念を準備する。 【キーワード】 複素数，実部，虚部，複素数平面，偏角，絶対値	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
11	複素数を変数とする関数	複素数を変数とする関数を考えその導関数を定義する。実変数の関数と異なり、複素数変数の関数の微分可能性がコーシー・リーマンの方程式によって記述されることを述べる。 【キーワード】 複素変数関数，複素関数の微分，コーシー・リーマンの方程式，正則関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	級数と整級数	複素数列と級数の収束について基本的な性質を述べる。とくに各項が関数となった関数項級数の中で応用上もっとも重要な整級数について詳しく調べる。収束円、収束半径、一様収束、項別微分と項別積分など解析学の基礎に目を向ける。指数関数，対数関数，べき関数導入する。 【キーワード】 整級数、収束半径、ダランベールの定理、一様収束、指数関数、オイラーの公式、対数関数、べき関数	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
13	曲線の上で積分する	平面上の曲線に対して、その線上での2変数関数の積分を定義する。閉領域が与えられたとき、2変数関数の周上の積分と領域での積分の関係を表すグリーンの定理解説する。 【キーワード】 曲線の長さ，線積分，曲線に沿った積分，グリーンの定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
14	正則関数とコーシーの定理	正則関数は領域で微分可能な関数であるが、閉曲線上の積分によっても特徴付けられることを示す。コーシーの定理は解析学の中で最も美しい定理の一つである。 【キーワード】 単一閉曲線，コーシーの定理、コーシーの積分公式	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)
15	正則関数の不思議な性質	コーシーの定理から導かれる正則関数の性質を述べる。とくに正則関数の整級数展開や最大値の原理などを説明する。 【キーワード】 整級数展開定理、最大値の原理、一致の定理	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)	熊原啓作(放送大学教授)・河添 健(慶応義塾大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1310208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 英語講読 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：成田篤彦（了徳寺大学教授）〕

講義概要

Lafcadio Hearn の書いた作品の中から短いものを3編選び、それらを読みながら英語を学ぶ。毎回の授業を、本文の読解・訳・文法事項の説明及び背景説明・比較文化的解説の二部に分け、多角的な視点からのアプローチで英語を学習するよう工夫する。

授業の目標

文学作品をきちんと精読していくという作業を通して、書き言葉としての英語とじっくり向き合うことを目標とする。また、外国人である Lafcadio Hearn が見た日本の姿を学ぶことを通して、異文化に対する眼差しの一つの在り方に触れると共に、日本文化を客観的に捉え直す機会とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ubazakura 1.	『怪談』に収録されている「乳母桜」の前半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、著者の略歴などを紹介する。	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
2	Ubazakura 2.	「乳母桜」の後半を読みながら、本文中に出て来る文法項目を学習すると共に、「乳母」に関する日英の捉え方の比較などを解説する。	同上	同上
3	The Story of Aoyagi 1.	『怪談』に収録されている『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、英文学に出てくる「柳」の表象などを解説する。	同上	同上
4	The Story of Aoyagi 2.	『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嵐」の表象の日英比較などを解説する。	同上	同上
5	The Story of Aoyagi 3.	引き続き『青柳の物語』を読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「貧しいが美しい娘」というテーマの古今東西の共通性を論じる。	同上	同上
6	The Story of Aoyagi 4.	『青柳の物語』を更に読み進め読みながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「恋愛詩」の形を英詩と和歌の比較を通じて論じる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	The Story of Aoyagi 5.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、ハーンの周りの女性達について紹介する。	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）	成田篤彦（了徳寺大学教授） 大橋理枝（放送大学准教授）
8	The Story of Aoyagi 6.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の学習を続けると共に、「嫁入道具」(dowry)に関する日英の文化比較の解説を行う。	同上	同上
9	The Story of Aoyagi 7.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、日英の領主と臣下の関係を比較する。	同上	同上
10	The Story of Aoyagi 8.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、結婚式について日英の違いを紹介する。	同上	同上
11	The Story of Aoyagi 9.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、自然と人とのつながり（植物の精、という発想）について考えてみる。	同上	同上
12	The Story of Aoyagi 10.	引き続き『青柳の物語』を読み進めながら、本文中に出て来る文法項目の復習を続けると共に、「弔い」ということに対する日英の共通点を考える。	同上	同上
13	Common Sense 1.	『骨董』に収録されている「常識」を読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、ハーンが生活していた当時の日本の姿を紹介する。	同上	同上
14	Common Sense 2.	「常識」を読み進めながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、150年前の日本を見る外国人の目と現代人の目に共通点があるのではないかという観点から論じる。	同上	同上
15	Common Sense 3.	「常識」の最後の部分をを読みながら、引き続き英語の文法事項を復習すると共に、全体を通したまとめを行う。	同上	同上

＝　英語中級Ｂ（‘０６）＝（TV）
－BBC ドラマで学ぶ－

〔主任講師（現職名）：　内野　儀　　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　河合　祥一郎（東京大学准教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：　大石　和欣　（放送大学准教授）　　〕

全体のねらい

イギリスの前衛劇場ロイヤル・コート・シアターと BBC テレビが提携して製作したキャリル・チャーチル作の戯曲『トップ・ガールズ』のヴィデオを鑑賞し、演劇関係者へのインタビューを交えて、詳しい解説とともに生きた現代英語の核心に迫ります。英語表現の練習のための Useful Expressions のコーナーも加えて、親しみやすい授業を目指します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『トップ・ガールズ』①	作品の背景について簡単な紹介をしたあと、第１幕の最初の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	内野　儀（東京大学大学院教授） 河合祥一郎（東京大学准教授） 大石　和欣（放送大学准教授）	内野　儀（東京大学大学院教授） 河合祥一郎（東京大学准教授） 大石　和欣（放送大学准教授）
2	『トップ・ガールズ』②	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。演劇評論家を招いて、作品について語り合う。	同上	同上
3	『トップ・ガールズ』③	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。演劇評論家を招いて、作品について語り合う。	同上	同上
4	『トップ・ガールズ』④	第１幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出して Questions & Answers を行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともに Useful Expressions で英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	『トップ・ガールズ』⑤	第1幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
6	『トップ・ガールズ』⑥	第1幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
7	『トップ・ガールズ』⑦	第1幕の最後の部分と第2幕第1場を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
8	『トップ・ガールズ』⑧	第2幕第3場の前半を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。キャリル・チャーチルの戯曲を演出するために来日したイギリス人演出家へのインタビューを聴く。	同上	同上
9	『トップ・ガールズ』⑨	第2幕第3場の後半を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。キャリル・チャーチルの戯曲を演出するために来日したイギリス人演出家へのインタビューの続きを聴く。	同上	同上
10	『トップ・ガールズ』⑩	第3幕の最初の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
11	『トップ・ガールズ』⑪	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	『トップ・ガールズ』⑫	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。批評のコーナーでは作品を読み解く批評的視点について考察する。	同上	同上
13	『トップ・ガールズ』⑬	第3幕の続きを観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。イギリス人演劇評論家に、この戯曲について語ってもらう。	同上	同上
14	『トップ・ガールズ』⑭	第3幕の最後の部分を観て、特に注目すべき場面を抜き出してQuestions & Answersを行いながら解説を加える。場面から表現を抜き出してゲストとともにUseful Expressionsで英語表現の練習を行う。イギリス人演劇評論家に、この戯曲について語ってもらう。	同上	同上
15	『トップ・ガールズ』⑮	これまでのまとめとして、重要な部分を編集した総集編を通して観る。	同上	同上

＝ 英語総合Ａ（‘０５）＝（Ｒ）
～ 歴史・文化・社会 ～

〔主任講師：　草光　俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師：　大石　和欣（放送大学准教授）〕

全体のねらい

「英語総合Ａ（‘０５）～歴史・文化・社会」は、中級から上級レベルの学生を対象に、英語の歴史的・文化的な背景を理解しながら、英語を実際に運用することを学び、論理的な思考方法と議論の仕方を習得することを目標としています。講義では、英語の歴史、近世・近代の社会経済や思想哲学、ニュートンやダーウィンなどの自然科学思想、労働問題、都市と田園、英国紳士・、女性像の変遷など、歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマについてのテクストを読み、専門家へのインタビューを聞きながら、自由に問題を考え、意見を表現する方法を身につけることをねらいとしています。卒業研究や大学院進学を目指す学生にとっても有益な講義のはずです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	歴史の中の英語	英語を支えている歴史的・文化的な土台を探究する。英語は複雑な過去と背景をもった生き物のような言語であり、その発展と変化と多様性について考えてみる。	大石　和欣（放送大学准教授）	草光　俊雄（放送大学教授） 大石　和欣（放送大学准教授）
2	革命と進化	革命と進化という問題は歴史意識として重要である。本章では、エドマンド・バークの革命論やダーウィンの進化論などを読みながら、革命と進化の意味を探究する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
3	パックス・ブリタニカ	大英帝国は１７世紀から１９世紀にかけて全世界を股にかけ７つの海を支配した。財政軍事国家と呼ばれる国家構造の構築を経済史の視点を組み入れながら世界的視野で考える。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
4	商業と工業	消費革命と技術革新は20世紀だけではなく18世紀にも起こっていたのだろうか？商工業や消費についていろいろな問題を取り上げてみる。それは現代のビジネスの場面にも重要な知識であろう。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	都市と田園	近代英国は都市と田園という対比的環境を人為的に作り出した。現在でもその対比は国民生活意識において重要である。都市問題や西欧社会における田舎の歴史的・文化的・社会的意義を再考する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
6	慈善と福祉	世界に先駆けて福祉国家を築いたイギリスにおいては、現在でも慈善と福祉が重要な歴史的・文化的・社会的要素となっている。それは貧困問題などの社会問題とも不即離である。イギリスの慈善と福祉の実態を古今合わせて俯瞰しながら、その現代的意味を問う。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
7	労働と社会	19世紀以降、労働の社会経済的比重は加速度的に高まっていく。一方、労働組合の創設や労働運動などはイギリスにおいて特有の社会主義を生み出していくことになる。労働に関する様々な問題を取り上げて考えてみる。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
8	思想と哲学	経験主義が生まれたイギリスではさまざまな思想と哲学が展開した。経験主義とは何か、またその思想的系譜をスコットランドを中心とした啓蒙主義や道徳論に認めることができるか？そもそも英語でいう Philosophy とは何か？そうした問題を議論していく。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
9	科学と技術	産業革命が起きた背景には科学技術への関心の高まりがあった。ベーコンやニュートンといった科学者からメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』までをとりあげながら、科学と技術の歴史的・文化的位置づけを確認する。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
10	宗教と歴史	イギリスの歴史と文化の中で宗教はさまざまな対立をみた。ヘンリー8世の国教会設立からはじまった国教徒と非国教徒との対立は近代社会形成にとって不可避の過程であった。現代イギリス社会における宗教の意味まで追究する。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
11	スポーツの母国	イギリスは近代スポーツの母国である。それだけにスポーツに関する語彙や表現は多い。競馬、狩猟、フットボール、ボート、テニス、クリケット等が生まれた歴史的・文化的背景とその意義を、現代の視点を含んで考える。	大石　和欣 リチャード・ビアード	草光　俊雄 大石　和欣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	騎士と紳士	イギリスは紳士の国として有名であるが、一体「紳士」とは何者なのか？中世の騎士の時代からさまざまに変遷してきた紳士像を俯瞰することで、それぞれの時代の価値基準と人間観を明らかにし、近現代における紳士の意味を問う。	草光　俊雄 大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
13	女性とフェミニズム	紳士と同様、いやそれ以上に女性像は時代ごとの歴史的また社会的制約を受けてきた。中世、近代において女性はどのような生活をしていたのか、女性は社会的にどう位置づけられていたのか？フェミニスト的な議論を紹介しながら、古今のイギリスの女性像を追う。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
14	教育	イギリスの国家政策における教育の比重は高い。それだけに歴史的にも教育の問題は常に問題になってきた。本章では特に英語教育、現在施行されているナショナル・カリキュラムに焦点を当てて、イギリスにおける教育の歴史的･文化的意味を再考する。	大石　和欣	草光　俊雄 大石　和欣
15	戦争の悲哀	イギリスの歴史は戦争の歴史でもある。しかし、その裏には幾百万の人々の命が犠牲になってきたことも事実である。戦争に関する記述とそれへの民衆の反応、ウィルフレッド・オーウェンなどの戦争詩人の作品を読みながら、イギリス人の歴史的運命感、歴史意識を振り返って議論することで本講座の締めくくりとする。	草光　俊雄	草光　俊雄 大石　和欣

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目(外国語)	科目ｺｰﾄﾞ	1314416	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 英語総合Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）
～Poem into Song～

〔主任講師（現職名）：草光　俊雄　　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：ティモシィ・ハリス（上野学園大学准教授）〕

講義概要

英語の勉強で大切なのは言葉を好きになることですが、そのための一つの方法は詩を声に出して読む、そしてできれば暗唱してみることです。その時に美しいメロディがあればより楽しいでしょう。放送授業では、詩を読む喜びを、詩の朗読を聞きその詩に書かれた音楽を聴くこと、さらにその詩によって喚起され連想を促された作曲家の心を想像すること、またその詩や歌が作られた時代の背景などを学ぶことなどを通して味わっていただきたいと思います。

授業の目標

何よりも英詩を楽しむことが第一の目標ですが、英詩をよりよく理解するために、詩のさまざまな形式、決まり事、押韻の法則なども勉強します。また放送授業では，歌手や演奏家をゲストに招いて，演奏の喜びや苦労についても話してもらうつもりです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	A Round and a Dance	イギリスの詩を学ぶ上での基礎的な知識をまず講義する。また詩が音楽として新たな命をもって生まれ変わるときの読者の楽しみ方，演奏家の楽しい方などを紹介する。	草光　俊雄 ティモシィ・ハリス	草光　俊雄 ティモシィ・ハリス
2	Christianity: Carols and Hymns, Mediaeval to 17th century	古くから歌われてきた，宗教音楽の魅力を考える。詩と歌が宗教的な脈絡のなかでどのように密接な関係を持っているのか、またそれらが時代を経るにつれてどのように変遷してきたのかを考える。	同上	同上
3	The Classical Inheritance	ギリシャ、ローマの古典文学を題材にしたイギリス詩は多いが，それらのなかから主に１６，１７世紀の歌曲を味わう。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Song in Shakespeare	シェイクスピアの詩や劇のために作曲された歌曲は多い。ハムレット，十二夜などのために作られた歌曲を検討する。	同上	同上 ゲスト： 松岡　和子 （翻訳家）
5	Love and Time	イギリス近世の作曲家のなかでも，最も人気のあるJohn Dowlandを始め、Campion、Herrickなどの歌曲を味わう。	同上	同上 ゲスト： 櫻井　茂 （上野学園大学准教授）
6	The Baroque	１７世紀の偉大な詩人たちのなかでJohn DrydenとJohn Miltonの名前は落とせない。彼らの詩にHenry PurcellやGeorg Frideric Handelが曲をつけたものを聴いてみよう。	同上	同上 ゲスト： 有村　祐輔 （上野学園大学教授）
7	Towards Romanticism and the Bourgeois Song	シェイクスピア、BenJonsonなどルネサンスの劇作家、詩人に惹き付けられたのは同時代の作曲家ばかりではなかった。Joseph Haydonなど１８世紀に活躍した作曲家たちの曲を味わおう。	同上	同上
8	Romanticism and the Beginnings of the English Musical Renaissance	ロマン主義の時代の詩人たちの詩を１９世紀後半から２０世紀はじめにかけての作曲家たちがどのような歌曲に作っていったのか、ロマン主義と音楽についても見ていく。	同上	同上 ゲスト： 伊木　和子 （上野学園大学教授）
9	Two Trees and a Carol	ロマン派から１９世紀後半の象徴主義的な詩人（Christina Rossettiなど）の詩人たちの歌曲を聴く。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	Home and Empire	１９世紀から２０世紀にかけて活躍した詩人、Thomas Hardy や Rudyard Kipling、WilliamButler Yeats などの詩をそれらの歌とともに考える。	同上	同上
11	The Housman Phenomenon	同じく１９世紀の後半から２０世紀にかけてイギリス人に最も愛された詩人の一人、A.E.Housman の「シュロップシャーの若者」がさまざまな作曲家によって作られたが，作曲家の読みと感性の違いを楽しもう。	同上	同上
12	The First World War	第一次世界大戦では多くの詩人が命を落とすか，心に大きな傷を負った。また Ivor Gurney のように詩人であり，また作曲家もであったものは珍しくなかった。彼らの詩や歌を読み，聴きながら，戦争が芸術に与えた意味を考える。	同上	同上
13	Towards the Modern	第一次大戦後、モダニズムの時代が到来する。モダニズムを準備したと考えられる１９世紀の Emily Dickinson や Gerald Manley Hopkins などの詩を２０世紀の作曲を通して味わう。	同上	同上 ゲスト： なかにしあかね （宮城学院女子大学准教授）
14	Forms of the Modern	モダニズムを経た２０世紀の詩人たちの詩と歌を通して現代を考える。	同上	同上 ゲスト： なかにしあかね （宮城学院女子大学准教授）
15	Popular Hits	最後の回ではポップスやミュージカルなどを楽しみながら詩を味わい，ジャンルは違っても歌曲の魅力について熱く語りたい。	同上	同上

＝　ドイツ語入門Ｉ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：鍛治　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：識名　章喜（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい

ドイツ語の発音から始めて、動詞の現在形と命令形、名詞と冠詞、形容詞や前置詞など、文を構成する基本的な単位を学びながら、ドイツ語の文型の基礎を習得します。過去に関する時称はまだ出てきませんが、助動詞も学びますので、日常的な簡単な表現を理解でき、また平易な文を作ることもできるようになります。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地名と挨拶 ～アルファベット～	アルファベットの書き方と読み方を学びます。ドイツ語では文字と発音との関係は難しくありません。原則さえ覚えれば、他の外国語に比べて簡単です。母音の発音と文字との対応を学ぶことが、この回の二つ目のポイントです。	鍛治哲郎（東京大学教授）	鍛治哲郎（東京大学教授）
2	値段と時刻 ～発音～	子音と文字の対応を学びます。子音は数がたくさんあります。今回はドイツ語独特の発音をするものを中心に学びます。発音練習には日常的によく用いられる単語や表現、数字を用います。	同上	同上
3	自己紹介 ～動詞の現在人称変化（１）～	動詞は主語によって変化します。主語の違いによって生じる変化の基本的なパターンを、主語となる人称代名詞の種類と合わせて学びます。さらにドイツ語の基本的な語順についても説明します。	同上	同上
4	休日のミュラーさん ～名詞と冠詞～	今回は名詞と冠詞がテーマです。ドイツ語の名詞には、文法的な性があり、男性か女性か中性に分類されます。また名詞には格があり、格とは文のなかでの役割のことです。性や格は、おもに定冠詞や不定冠詞によって表示されます。	同上	同上
5	喫茶店で ～sein と haben～	もっともよく用いられる動詞 sein と haben の現在人称変化と用法について学びます。この二つの動詞を学ぶことによって、表現の幅が大きく広がります。また、もう一つの重要な動詞 werden の変化と用法についても説明します。	同上	同上
6	居間で ～名詞の複数形～	名詞の複数形の作り方を学びます。複数形になると性の区別はなくなりますが、格は存在します。そのほかに、よく用いられる不規則な変化をする名詞と、動詞と格との結びつきについても解説します。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	路上で ～冠詞類～	冠詞と同じように名詞の前に置かれ、性と数、格によって変化する冠詞類について学びます。冠詞類には定冠詞と同じような変化をするものと、不定冠詞と同じような変化をするものがあります。この回は冠詞の変化の復習でもあります。	同上	同上
8	来客 ～動詞の現在人称変化（2）～	動詞の現在人称変化の基本的なパターンはすでに学びましたが、今回は少し不規則な変化をする動詞について学びます。	同上	同上
9	誕生日 ～人称代名詞～	ドイツ語の代名詞は名詞と同じように格によって変化します。この回では、人称代名詞、疑問代名詞に加えて、不定代名詞 man の変化と用法について学びます。	識名章喜（慶應義塾大学教授）	識名章喜（慶應義塾大学教授）
10	オペラ鑑賞 ～前置詞～	ドイツ語の前置詞は、それぞれ名詞や代名詞の何格と結びつくかが決まっています。これを前置詞の格支配といいます。この回では主な前置詞の用法と格支配について学びます。	同上	同上
11	待ち合わせ ～命令・依頼の表現～	命令形の作り方を学びます。命令や依頼は２人称で呼びかける相手に対してなされますが、それ以外にも、この回では自分を含めた１人称複数に対する「...しましょう」という促しの表現についても学びます。	同上	同上
12	駅にて ～分離動詞とドイツ語の語順～	ドイツ語では文末には、その文の動詞と結びつきが強い語が置かれます。分離動詞とは、不定詞の前の部分が分離して文末に来る動詞のことです。この回ではドイツ語文の語順の原則である枠構造についても説明します。	同上	同上
13	日本語は難しい？ ～語法の助動詞～	話法の助動詞とは、英語での can や will などに相当する言葉で、日常会話では潤滑油の働きをします。この回では話法の助動詞の現在人称変化と用法を学びます。また確実な未来や推量をあらわす助動詞 werden についても解説します。	同上	同上
14	ひらがなと漢字 ～従属の接続詞～	ドイツ語の接続詞は、文と文とのつなぎ方の違いによって、並列接続詞、従属接続詞、副詞的接続詞の３種類に分類されます。この回では、文の二つの種類、主文と副文について学び、副文を導く従属の接続詞の使い方を練習します。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	ゆかたと漫画 ～形容詞の語尾変化～	形容詞には述語的、付加語的、副詞的の３通りの用法があります。付加語的、つまり名詞を修飾して用いられる場合には性と数、格によって語尾を付けねばなりません。その語尾の付け方を学びます。	同上	同上

＝　ドイツ語入門Ⅱ（‘０６）＝　（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：鍛治　哲郎（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：識名　章喜（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい
ドイツ語入門Ⅰの後を受けて、過去時称から始めます。過去形や完了形に続いて、受動文や関係文など、少し複雑な表現形態を学びますが、重要な事項に絞って解説します。
ドイツ語入門Ⅰと合わせて、ドイツ語の基本的な文法と表現パターンを習得することがねらいです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	動詞の３基本形	現在人称変化については、ドイツ語入門Ⅰで説明しました。この回では過去と完了を表す文をつくる際のもとになる過去の基本形と過去分詞の作り方について学びます。	識名　章喜（慶應義塾大学教授）	識名　章喜（慶應義塾大学教授）
2	現在完了	完了形は sein または haben を助動詞とし、文末に過去分詞をおいてつくられます。その作り方を学ぶとともに、日常会話で頻繁に用いられる現在完了の用法についても説明します。	同上	同上
3	過去形	過去の人称変化を学びます。この変化は現在人称変化をしっかり覚えていれば難しくありません。また、過去形がどのような場合に用いられるかについても説明します。	同上	同上
4	現在分詞と過去分詞	過去分詞の作り方については第１回で学びました、この回では現在分詞の作り方と、二つの分詞の用法について解説します。	同上	同上
5	形容詞の名詞化	形容詞の変化についてはドイツ語入門Ⅰで学びました。形容詞は名詞としても用いられます。この回では形容詞の復習をかねて、名詞化を学びます。また現在分詞と過去分詞も形容詞と同じように名詞化されます。	同上	同上
6	形容詞と副詞の比較級・最高級	形容詞と副詞の比較級・最高級の作り方と用法を学びます。	同上	同上
7	再帰代名詞と再帰動詞	文の主語と同一であることを示す３・４格の代名詞を再帰代名詞といいますが、この回では再帰代名詞とともに用いられる再帰動詞についても学びます。	同上	同上
8	非人称の es	特定のものを受けない非人称の es を主語とする文は日常的にも頻繁に用いられます。この回ではさまざまな非人称表現について学びます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	zu 不定詞の用法	不定詞が用いられる例としては、ドイツ語入門Ⅰ「話法の助動詞」の回で学びましたが、ここではおもに zu 不定詞の用法について学びます。	鍛治　哲郎（東京大学教授）	鍛治　哲郎（東京大学教授）
10	受動文	受動文は助動詞と過去分詞でつくられます。助動詞は werden か sein です。受動文の作り方、二つの助動詞の使い分け、能動文との違いについて説明します。	同上	同上
11	関係代名詞	関係代名詞は代名詞の一種ですので、性と数、格があります。その変化と関係文の作り方を学びます。	同上	同上
12	語順と構文	ドイツ語の基本的な文型が出そろいましたので、その復習をします。文中での動詞の位置、主文と副文などのほかに、今まで習ったよりも少し詳しい説明をします。	同上	同上
13	副詞と話法	話法とは、話し手や書き手が、話したり書いたりする内容に対して加える判断や考えです。話法の助動詞とはそのような意味合いを添える助動詞です。同じような役割を果たす言葉に、副詞類があります。この回は副詞類につていて学びます。	同上	同上
14	接続法（1）	接続法とは話法の一種です。用法によって接続法Ⅰ式とⅡ式に分かれます。今回は、おもに非現実のことを表す接続法Ⅱ式について学びます。	同上	同上
15	接続法（2）	今回は、間接話法や要求話法に用いられる接続法Ⅰ式についての説明をします。	同上	同上

＝　ドイツ語基礎（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　保坂　一夫　（日本大学教授）〕

全体のねらい

言語表現は文化そのものです。「ドイツ語基礎」はその観点に立って、単純な構造の文章から複雑なものへ、表現の仕方をたどりながら、段階的に徐々に高度な文章を理解するように組み立ててゆきます。採用する教材は、ドイツ文化の紹介をするもので、同時に、あまり難しくないものを選ぶ予定です。

ここでは、ドイツ語と日本語を比較しながら、言語の背後にひそむ文化の共通性と差異性について一般的に考え、それを通じて全体の導入とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	単純な文章（1）	ここでは単純な文章について基本的な考え方を学びます。ドイツ語では英語とも日本語とも異なって語順はかなり自由です。語順や構文の基準は動詞の位置ですが、平叙文を中心にしてそれを練習します。過去形はすでに学んでいますので説明の前提にします。	保坂　一夫（日本大学教授）	保坂　一夫（日本大学教授）
2	単純な文章（2）	ここでは前課の復習をしながら、疑問文や否定文における語順について学びます。特に否定の仕方の多様性についていくつか例を挙げて練習します。	同　上	同　上
3	名詞、代名詞と語順	ここではさらに一歩進んで、補足語を持つ動詞の使い方と、そうした動詞を用いて書く文章の語順について学びます。その際特に注意すべき点として補足語が名詞の場合と、代名詞の場合とを比較して練習します。	同　上	同　上
4	感嘆文と命令文	ここでは感嘆文と命令文の作り方を復習しながら感情表現について詳しく勉強し、あわせて動詞の現在形のさまざまな例外的変化についても詳しく学び直すことにします。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	表現のニューアンス（1）	表現を複雑かつ多様にするのは助動詞です。ここでは話法の助動詞の中から„wollen“ と „sollen“を取り上げて、その意味と方向の違いについて学び、練習します。さらにそのときに生じる語順の変化についても詳しく考えます。	同　上	同　上
6	表現のニューアンス（2）	ここでは残りの話法の助動詞 „dürfen“, „können“, „mögen“, „müssen“ を取り上げ、それらの持つ意味の違いと守備範囲について学び、練習します。	同　上	同　上
7	枠構造と分離動詞	分離動詞はドイツ語が好きになるか嫌いになるかの分岐点です。それだけに、ドイツ語の構文や語順を考えるときに分離動詞を素材にして勉強するとかえって分かりやすいように思われます。ここでは、その点について学び、練習します。	同　上	同　上
8	非分離動詞と前つづり	ここでは分離動詞と比較しながら非分離動詞について勉強します。非分離動詞そのものにつてはすでに学んでいますから、この課の重点は、ここで使われる前つづりの意味と機能について理解を深めることに置かれます。	同　上	同　上
9	完了形の用法と意味	ドイツ語の完了形は英語とは違い過去の表現に用います。では過去形と完了形とはどこが違うのでしょうか。ここではそれについて、語形と構文と語順を中心に、さらに詳しく学びます。	同　上	同　上
10	複雑な文章（1）接続詞と配語法	表現を拡げるためには、単純な文章だけでは足りません。そこで接続詞を使ってより複雑に考えを表現することになります。ここでは、並列の接続詞と副詞の接続詞的用法を材料に、語順、構文の観点から詳細に勉強します。	同　上	同　上
11	複雑な文章（2）関係代名詞と関係副詞	ここではさらに関係代名詞、関係副詞を含めて従属の接続詞の使い方からさらに語順、構文の理解を拡げ、深めます。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	能動態と受動態	文章表現には能動態と受動態がありますが、それらはどう使い分けられているのでしょうか。ここでは、それらの表現のヴァリエイションを紹介しながら、表現方法の使い分けについて学びます。	同上	同上
13	いろいろな動詞と不定詞	ドイツ語にはさらに再帰動詞、非人称動詞、不定詞などを用いてより表現を豊かにする途があります。ここでは、そのさまざまな表現とその異同についてもう少し詳しく学ぶことにします。	同上	同上
14	接続法第Ⅰ式の表現のいろいろ	接続法は表現をさらに豊かにするものです。ここでは第Ⅰ式の文章例を取り上げて、その可能性について学びます。願望や要求の表現だけでなく、間接話法についてもいろいろな例を取り上げて練習します。	同上	同上
15	接続法第Ⅱ式の表現のいろいろ	ここでは前課につづいて接続法第Ⅱ式の用例とその意味について学びます。含みの多い表現は理解しにくいものですが、逆に言うと、それがあって人間関係が潤滑に進むことになるわけです。その点を中心に接続法について考えて見ます。	同上	同上

＝　フランス語入門Ｉ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　鈴木　啓二　（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　原　和之　（東京大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）　〕

全体のねらい

毎回３分ほどのスケッチ、「セバスチアン、フィリップ、アリスとその仲間たち」（３人の子供たちが繰り広げる物語）を見ながら、そこで用いられている表現を中心にフランス語の基礎を学習する。文法はフランス語入門Ｉ、入門ＩＩ全体で一通り完結させる。

スケッチは各回３度、はじめに日本語字幕付き、次にフランス語字幕付き、最後に字幕のついていないものを流す。反復練習や文法の解説、イラストを使った会話表現の学習、練習問題などを通じて、45分の授業の中で、少しずつフランス語の理解を深めていけるように工夫してある。

また授業の途中に、「Ma ville, mon quartier」（わが町、わが界隈）というコーナーを設けてある。パリ、ディエップ、ストラスブールなどのフランス６都市を一住民の視点から紹介するこのコーナーの目的は、フランス語の学習を通じて、より広くフランス文化全般に親しんでもらうことにある。毎回、それぞれの町に関係の深いテクストの朗読も行なう。

なお文法に関しては、放送授業では要点を絞りこんで説明しているため、必ず印刷教材を参照し、放送授業で学習した内容をより確実なものにしておいていただきたい。また印刷教材にはスケッチの全訳も掲載されているので、これも適宜利用していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Colonie de vacances 林間学校	文法：様々なあいさつの表現（Bonjour, au revoir, merci, etc.）、alphabet、発音の基礎 「わが町わが界隈」：パリ、１回目 今日の会話表現："Pardon, je peux? "	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）	鈴木啓二（東京大学教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）
2	Devinettes 言葉あてクイズ	文法：名詞の性、不定冠詞、定冠詞 「わが町わが界隈」：パリ、２回目 今日の会話表現："Attention!"	同上	同上
3	Balade à vélo 自転車での遠出	文法：動詞 être, avoir の活用、形容詞の性数変化 「わが町わが界隈」：パリ、３回目 今日の会話表現："Ça y est!"	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Rodin ou Redon? ロダンかルドンか	文法：第一群規則動詞の活用(dessiner, donner, aimer など)、否定文の作り方 「わが町わが界隈」：ディエップ、1回目 今日の会話表現："On peut peut-être ...?"	同上	同上
5	Une recette très originale とてもユニークなレシピ	文法：部分冠詞、否定文中の不定冠詞・部分冠詞、第二群規則動詞の活用（finir, choisir など）、数字 「わが町わが界隈」：ディエップ、2回目 今日の会話表現："Ne t'en fais pas. ""Ne vous en faites pas."	同上	同上
6	Qui perd gagne! 負けるが勝ち	文法：動詞 aller, venir の活用, 近接未来、近接過去 「わが町わが界隈」：ディエップ、3回目 今日の会話表現："Ça te dit?""Ça ne te dit pas?"etc.	同上	同上
7	Départ groupé みな一緒の出発	文法：動詞 pouvoir, vouloir, partir, sortir の活用、付加形容詞の用法 「わが町わが界隈」：ストラスブール、1回目 今日の会話表現："Alors? — Ça va!" etc.	同上	同上
8	Retrouvailles inattendues 思いがけない再会	文法：疑問文の作り方、疑問副詞（où, quand, pourquoi, comment など）の使い方 「わが町わが界隈」：ストラスブール、2回目 今日の会話表現："Allons-y." etc.	原 和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）	原 和之（東京大学准教授） オディル・デュシュッド（早稲田大学教授）
9	Nostalgie ノスタルジー	文法：さまざまな動詞（faire, savoir, connaître, mettre, attendre, prendre, devoir）の活用と用法 「わが町わが界隈」：ストラスブール、3回目 今日の会話表現："C'est délicieux. — Tu trouves?" etc.	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	Objet perdu 忘れ物	文法：指示形容詞（ce, cette, ces など）、所有形容詞（mon, ma, mes　など） 「わが町わが界隈」：リヨン、第１回目 今日の会話表現："Ce n'est pas vrai!" etc.	同上	同上
11	Souvenir de vacances ヴァカンスの想い出	文法：疑問代名詞（qui, qui est-ce qui, qu'est-ce qui, qu'est-ce que など）の使い方 「わが町わが界隈」：リヨン、第２回目 今日の会話表現："Eh bien dites donc!" etc.	同上	同上
12	Quels enfants ! なんて子供たちでしょう	文法：疑問形容詞 quel 、非人称の主語 il の使い方、時間の表し方 「わが町わが界隈」：リヨン、第３回目 今日の会話表現："Quelle merveille! " etc.	同上	同上
13	Visite au jardin botanique 植物園見学	文法：関係代名詞　qui, que　関係副詞 où の使い方 「わが町わが界隈」：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第１回目 今日の会話表現："Qu'est-ce que c'est fatigant!" etc.	同上	同上
14	Un match de football サッカーの試合	文法：形容詞・副詞の比較級・最上級 「わが町わが界隈」：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第２回目 今日の会話表現："Ça va aller, tu vas voir – J'espère." etc.	同上	同上
15	Restons calmes ! 落ち着こう	文法：動詞の肯定命令形・否定命令形、代名詞の強勢形、強調構文 「わが町わが界隈」：エクス・アン・プロヴァンス、マルセイユ、第３回目 今日の会話表現："Ils ont une de ces chances!" etc.	同上	同上

＝　フランス語入門II（‘06）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　工藤　庸子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　原　　和之（東京大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　山上　浩嗣（関西学院大学准教授）〕

全体のねらい

パリのアパルトマンで共同生活を営む、さまざまな背景を持った４人の若者たち（アニェス、ブノワ、イザベラ、ジャン=リュック）を主人公にした会話のスケッチを題材として、フランス語入門Ⅰに引き続き、フランス語の基礎を学ぶ。文法はフランス語入門Ⅰ、Ⅱの全体でその主要な部分を完結させる。さらに文法的な知識を踏まえつつ、スケッチの登場人物の会話を解説することで、実践的なフランス語運用能力の基礎となる知識を身につける。

また毎回、10 分ほどの「シャンソン」コーナーを設け、よく知られたフランス語の歌を取り上げて歌詞を詳しく解説し、その正確な理解を助けると共に、フランス語の「音」に親しむことを目指す。

スケッチ、例文については、印刷教材に全訳が掲載されているので、これを適宜利用していただきたい。また放送教材、印刷教材の学習にあたって、つねに辞書を手元においてこれを参照することは必要不可欠なので、必ず準備すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Déménagement 引っ越し	文法：直説法複合過去 シャンソン：*Bonjour, madame Lundi*［『こんにちは、月曜婦人』］、*Bonjour, ma cousine*［『こんにちは、いとこさん』］	山上浩嗣（関西学院大学准教授）	山上浩嗣（関西学院大学准教授） 工藤庸子（放送大学教授）
2	Recherche d'un emploi 職さがし	文法：直説法半過去・大過去 シャンソン：*Meunier, tu dors*［『お眠りなさい、粉ひきさん』］	同上	同上
3	Reportage ルポルタージュ	文法：受動態 シャンソン：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir*（1）［ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』（1）］	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	Fête パーティ	文法：現在分詞、ジェロンディフ シャンソン：Juliette Greco, *Je suis seule ce soir* (2) [ジュリエット・グレコ、『今宵私はただひとり』(2)]	同上	同上
5	Clients ennuyeux 迷惑な客	文法：指示代名詞、疑問代名詞 シャンソン：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (1) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(1)]	同上	同上
6	Rencontre 出会い	文法：人称代名詞 I (直接目的、間接目的) シャンソン：Henri Salvador, *Chambre avec vue* (2) [アンリ・サルヴァドール、『眺めのよい部屋』(2)]	同上	同上
7	Des amis japonais 日本の友人	文法：人称代名詞 II (強勢形、命令文中の代名詞) シャンソン：*Au clair de la lune* (1) [『月明かりのもとで』(1)]	同上	同上
8	Un dimanche matin 日曜日の朝	文法：代名動詞 シャンソン：*Au clair de la lune* (2) [『月明かりのもとで』(2)]	同上	同上
9	Dans le métro 地下鉄で	文法：関係代名詞 dont、前置詞+関係代名詞 (lequel, laquelle, lesquels, lesquelles) の使い方 シャンソン： Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (1) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	原 和之(東京大学准教授)	原 和之(東京大学准教授) 工藤 庸子(放送大学教授)
10	Un jour de congé お休みの日	文法：直説法単純未来、前未来の活用と用法 シャンソン：Lucienne Boyer：*Parlez-moi d'amour* (2) [リュシエンヌ・ボワイエ『聞かせてよ愛の言葉を』(1)]	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	Courses 買い物	文法：代名詞 y, en, le、所有代名詞(le mien, la mienne)の使い方 シャンソン：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (1) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（1）]	同上	同上
12	Cadeaux de Noël クリスマスの贈り物	文法：使役動詞 faire、放任動詞 laisser、知覚動詞 voir, entendre などの使い方 シャンソン：Sylvie Vartan：*La plus belle pour aller danser* (2) [シルヴィー・ヴァルタン『アイドルを探せ』（2）]	同上	同上
13	Débat public 公開討論会	文法：条件法現在・条件法過去の活用と用法 シャンソン：Jacques Brel：*Les bonbons* [ジャック・ブレル『ボンボン』]	同上	同上
14	Un dossier oublié 書類の忘れ物	文法：接続法現在の活用と用法 シャンソン：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (1) [イヴ・モンタン『枯葉』（1）]	同上	同上
15	Amitié 友情	文法：直接話法・間接話法の使い方 シャンソン：Yves Montant：*Les feuilles mortes* (2) [イヴ・モンタン『枯葉』（2）]	同上	同上

＝　フランス語基礎（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師：工藤　庸子（放送大学教授）　〕
〔主任講師：エストレリータ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）〕

全体のねらい

文法中心の体系的な語学プログラムではなく、文化的なテーマによって導かれたモティヴェーション教育である。①書き下ろしのフランス語テクストや文学作品の講読＋文法解説＋表現練習＋簡単なフランス語会話　②日仏の交流の接点で活躍する方々のインタビュー・コーナー　③シャンソン・コーナーの３つの枠組みで展開される。放送授業ではメディアの特質を活かし、生きた言葉、多彩なフランス語の音声に触れる機会を可能なかぎり提供する。履修者は印刷教材のほかに、辞書を手元におき、常時参照すること。

「フランス語をスキルとして習得すること」「フランス語を通して異文化を学ぶこと」――２つの課題が共存し、また連動することで、学習者の意欲が高まることを願っている。想定される履修者は「フランス語入門Ⅱ」いわゆる「初級文法」を終えたレベルだが、かつてフランス語を学んだ方のリフレッシュや中級レベルの発展的な教材としても活用できるように工夫した。具体的な活用方法や、単位取得のための最小限の条件などは印刷教材に明示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食と文化Ⅰ	テクスト：*L'aventure d'un chef cuisinier français au Japon*「あるフランス人オーナーシェフの物語」―南仏出身のシェフと日本との幸福な出会い。 インタビュー：フランス料理オーナーシェフ André Pachon Ⅰ シャンソン：Henri Salvador: *Jardin d'hiver Ⅰ*	工藤　庸子（放送大学教授） Ｅ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤　庸子（放送大学教授） Ｅ・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
2	食と文化Ⅱ	テクスト：« *Dessine-moi un mouton !*»「羊の絵を描いて！」―文化としての食を考える。 インタビュー：André Pachon Ⅱ シャンソン：Henri Salvador: *Jardin d'hiver Ⅱ*	同上	同上
3	市民社会Ⅰ	テクスト：*Médecins sans frontières (MSF)*「国境なき医師団」―ノーベル平和賞を受賞したＮＧＯの成り立ちと活動について。 インタビュー：国境なき医師団日本　前会長　寺田朗子 シャンソン：Carla Bruni：*Le Ciel dans une chambre*	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	市民社会Ⅱ	テクスト：*Guérande, « pays de l'or blanc »*「白い黄金の国ゲランド」―伝統的な製塩技術の復興と環境問題、地場産業の振興など。 現地ルポルタージュ：美術家・フリーライター　コリン・コバヤシ シャンソン：Jacques Brel：*Madeleine　I*	工藤　庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤　庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
5	市民社会Ⅲ	テクスト：*Associations et vie associative en France*「フランスのアソシアシオンとその活動」―NPOに相当する多様な市民運動の歴史と現状。 現地ルポルタージュ：コリン・コバヤシⅡ シャンソン：Jacques Brel：*Madeleine　II*	同上	同上
6	童話を読むⅠ	テクスト：Pierre Gripari: *La sorcière de la rue Mouffetard　I*『ムフタール通りの魔女』―舞台はパリの市場、魔女にさらわれたベルベル人の少女を利発な弟が救出する物語。朗読は著者グリパリ。 インタビュー：ギタリスト　クロード・チアリⅠ シャンソン：Mistinguett/ Maurice Chevalier：*Ça, c'est Paris*	同上	同上
7	童話を読むⅡ	テクスト：*La sorcière de la rue Mouffetard　II* インタビュー：クロード・チアリⅡ シャンソン：Barbara, Moustaki：*La Dame brune　I*	同上	同上
8	童話を読むⅢ	テクスト：*La sorcière de la rue Mouffetard　III* （3回で童話を読了し、グリパリの朗読で全体を聴き直す。この回はインタビューなし） シャンソン：Barbara, Moustaki：*La Dame brune　II*	同上	同上
9	企業と女性とサイエンスⅠ	テクスト：*Le sexe des sciences*「科学には性差があるか」―女性科学者の進出を援助するUNESCOと企業の協同企画。 インタビュー：日本ロレアル　副社長　坪田秀子Ⅰ シャンソン：Camille：*Le sac des filles*	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	企業と女性とサイエンスII	テクスト：« *Le nez de Cléopâtre* » 「クレオパトラの鼻」―ルーブル美術館と企業の共同研究により甦った古代エジプトの香水と化粧品。 インタビュー：坪田秀子II シャンソン：Tété：*Flou*	工藤 庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）	工藤 庸子（放送大学教授） E・ヴァセルマン（東京大学外国人教師）
11	旅と空間のデザインI	テクスト：*Le jardin du château de Vaux-le-Vicomte*「ヴォー＝ル＝ヴィコント城の庭園」―ヴェルサイユをしのぐ名園の紹介。希少な水と広大な土地を劇的に演出する空間デザイン。 インタビュー：ランドスケープ・デザイナー 田中喜一I シャンソン：Georges Bizet, *Habanera [Carmen] I*	同上	同上
12	旅と空間のデザインII	テクスト：*La villa impériale Shûgakuin*「修学院」―同時代の造園技術と日仏のコンセプトの相違。ゆたかな水を利用した「借景」の技法。 インタビュー：田中喜一II シャンソン：Georges Bizet, *Habanera [Carmen] II*	同上	同上
13	芸術作品に親しむI	テクスト：Camus, *L'Étranger I*『異邦人』―平明な冒頭部分の読解。批評にも言及し文学テクストとは何かを考える。朗読はカミュ。 インタビュー：作曲家・ピアニスト 野平一郎I シャンソン：Jacques Dutronc：*Il est cinq heures, Paris s'éveille I*	同上	同上
14	芸術作品に親しむII	テクスト：*L'Étranger II*―「太陽のせい」で主人公が殺人の罪を犯す場面、そのクライマックスを読む。 インタビュー：野平一郎II シャンソン：Jacques Dutronc：*Il est cinq heures, Paris s'éveille II*	同上	同上
15	芸術作品に親しむIII	テクスト：*L'Étranger III*―獄中の主人公が反芻する「チェコスロヴァキア人の物語」を紹介。（3回分のカミュの朗読を聴き直す。インタビューなし） シャンソン：Salif Keita：*Je suis venu te dire que je m'en vais*	同上	同上

＝　中国語入門Ⅰ（‘０５）　＝（TV）

〔主任講師：　木村　英樹（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　宮本　　徹（放送大学准教授）〕

全体のねらい

平易な会話文を読みながら、中国語の発音と最も基本的な文法項目を学習する。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。

なお、この「入門Ⅰ」では、初修中国語で身につけるべき内容のおおよそ半分を学習したことになる。本科目を学習し終えた皆さんには、ぜひとも引き続き「中国語入門Ⅱ」を学習していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「オーバーコートを買いますか？」	1.1　“普通話” 1.2　ピンインと声調記号 1.3　簡体字 1.4　声調（*tone*） 1.5　第３声の変調 1.6　単母音 1.7　人称代名詞(1)――単数 1.8　動詞述語文 1.9　否定の副詞“不” 1.10　疑問文(1) ――語気助詞を用いる当否疑問文	木村　英樹（東京大学大学院教授） 宮本　　徹（放送大学准教授） 張　　麗群（日本大学専任講師）	宮本　　徹（放送大学准教授）
2	「革靴は一階にありますか？」	2.1　二重母音 2.2　軽声の発音 2.3　疑問文(2)――“呢”を用いる省略疑問文 2.4　副詞“也” 2.5　“不”の変調 2.6　所在動詞“在” 2.7　疑問文(3)――正反疑問文 2.8　数詞(1)――1から10まで	同　上	同　上
3	「スカーフは高いでしょ？」	3.1　三重母音 3.2　子音(1) 3.3　存在動詞“有” 3.4　形容詞述語文 3.5　語気助詞“吧”(1)――推量・確認を表す“吧” 3.6　数量詞からなる名詞句 3.7　“一”yiの変調	同　上	同　上
4	「これは何ですか？」	4.1　子音(2) 4.2　人称代名詞(2)――複数 4.3　指示詞(1)――場所を指し示す指示詞 4.4　“是”を用いる動詞述語文 4.5　指示詞(2) ――人や事物を指す指示詞 4.6　“的”を用いる名詞句(1)――「動詞＋“的”＋名詞」 4.7　疑問文(4)――疑問詞疑問文	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	「夕方六時半でどうですか？」	5.1 鼻音を伴う母音 5.2 “的”を用いる名詞句(2)――「名詞／代名詞＋“的”＋名詞」 5.3 受給者・受益者を表す前置詞 5.4 語気助詞“吧”(2)――勧誘・提案を表す“吧” 5.5 語気助詞“哇”⇒語気助詞“啊” 5.6 語気助詞“啊a”――増幅機能を果たす“啊” 5.7 疑問数詞“几” 5.8 前置詞“在”	木村 英樹 宮本 徹 張 麗群	宮本 徹
6	「彼は本を返しに図書館へ行きました」	6.1 新事態の出現を表す“了” 6.2 連動文 6.3 “一会儿” 6.4 “的”構文 6.5 副詞“就”(1)	同上	同上
7	「本は返しましたか？」	7.1 主題化構文 7.2 完了を表す“了” 7.3 数詞「2」 7.4 疑問文(5)――選択疑問文 7.5 名詞連接による名詞句(1)――「種類/属性＋人/事物」 7.6 結果補語 7.7 禁止を表す副詞“别” 7.8 能願動詞“想”	同上	同上
8	「今日は土曜日です」	8.1 名詞連接による名詞句(2)――「人/事物＋空間」 8.2 指示詞からなる名詞句――「指示詞＋数詞＋量詞＋名詞」 8.3 経験を表す動詞接尾辞“-guo” 8.4 副詞“很” 8.5 名詞述語文 8.6 “～するとき；～したとき” 8.7 動作量と回数の表現 8.8 動作の方式を問う疑問副詞	同上	同上
9	「味はどうですか？」	9.1 指示詞(3)――程度・度合いを指す指示詞 9.2 前置詞“比” 9.3 比較差の強調する“～多了” 9.4 “又～又…” 9.5 疑問詞“多少” 9.6 単価(価格)の表現 9.7 数詞 (2) ―― 11以上の数字	同上	木村 英樹（東京大学大学院教授）
10	「作るのはあまり得意ではありません」	10.1 経過時間の表現 10.2 概数を表す“～多” 10.3 “的”を用いる名詞句 (3) ――「形容詞＋“的”＋名詞」 10.4 語気助詞“呢” 10.5 “～じゃないか；～ではないですか” 10.6 譲歩的認定を表す“～是～” 10.7 様態補語 ――「動詞＋“得”＋形容詞(句)」 10.8 能願動詞“会” 10.9 未知・不明の事物を問う疑問名詞	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	「私は田中と申します」	11.1 積極性を表す“来” 11.2 動作の起点を表す前置詞 11.3 姓名の尋ね方、名乗り方 11.4 接続詞“和” 11.5 時間詞 11.6 方位詞 11.7 動詞の重ね型	木村 英樹 宮本 徹 張 麗群	木村 英樹
12	「東京は上海ほど蒸し暑くありません」	12.1 副詞“挺” 12.2 “没有”を用いる比較表現 12.3 感情等が向かう対象を表す前置詞 12.4 能願動詞“可以” 12.5 二重目的語構文 12.6 語気助詞“嘛”	同上	同上
13	「もうすぐ1時だよ」	13.1 近接未来“了” 13.2 能願動詞“得” 13.3 副詞“再” 13.4 副詞“就”(2) 13.5 持続を表す“着”	同上	同上
14	「今後何かあれば遠慮なく言ってください」	14.1 “有”を用いる連動文 14.2 疑問詞の不定称用法 14.3 副詞“太” 14.4 兼語文 14.5 「なにをする？；どうする？」という意味を表す疑問動詞	同上	同上
15	「どうしてちっとも聞いたことがないんだろう！」	15.1 能願動詞“能” 15.2 “把”構文 15.3 “的”を用いる名詞句（4）——「名詞/代名詞/動詞/形容詞＋“的”」 15.4 事物や情報の受け手を表す結果補語 15.5 前置詞“跟” 15.6 代名詞からなる名詞句——「代名詞＋親族名称/所属先」 15.7 理由・原因を問う疑問副詞 15.8 “一点儿＋都” 15.9 否定の副詞“没(有)”	同上	同上

＝　中国語入門Ⅱ（‘０５）　＝（Ｒ）

〔主任講師：　木村　英樹（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師：　宮本　　徹（放送大学准教授）〕

全体のねらい

「中国語入門Ⅰ」に引き続き、文法項目・語彙・表現の更なる習得を目指す。初修中国語として学ぶべき内容は、「入門Ⅱ」まで学ぶことによって初めて完結する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	「準備はできましたか？」	1.1　結果補語の“好” 1.2　副詞“都” 1.3　結果補語の“在” 1.4　語気助詞の融合	木村　英樹（東京大学大学院教授） 宮本　徹（放送大学准教授）	木村　英樹（東京大学大学院教授）
2	「もう時間になりました！」	2.1　“别～了” 2.2　仮定を表す接続詞“如果” 2.3　能願動詞“会” 2.4　前置詞“到” 2.5　強意断定の“是” 2.6　様態・性質・内容等を指し示す指示詞 2.7　疑問文に用いる“呢” 2.8　能願動詞“～すべきである”	同　上	同　上
3	「彼女は飛行機を乗り間違えないでしょうか？」	3.1　集合体を表す接尾辞“-men” 3.2　能願動詞“要”(1) 3.3　結果補語の“到”(1) 3.4　副詞“有点儿” 3.5　〈完了済み〉を表す動詞接尾辞“-guo” 3.6　僅差を示す“（一）点儿”	同　上	同　上
4	「私たちのところはすべて順調です」	4.1　程度強調の“了” 4.2　使役構文 4.3　方向動詞 4.4　切迫表現の“了”	同　上	同　上
5	「二三センチ伸びただけです」	5.1　二重主語文 5.2　副詞“只” 5.3　副詞“可” 5.4　量詞の重ね型	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	「私たちはそれでもまだ幸せな方です」	6.1 方向補語 6.2 受身を表す接頭辞“被” 6.3 方向補語“下来”の派生用法 6.4 指示詞がつなぐ名詞句	木村 英樹 宮本 徹	木村 英樹
7	「どうしようもありません」	7.1 動作・行為の目的を表す前置詞 7.2 副詞“在” 7.3 存現文	同 上	同 上
8	「本当に懐かしくなります」	8.1 指示詞“每” 8.2 列挙に用いる“啦” 8.3 比喩・比況を表す“像～似的” 8.4 否定強調に用いる“再也” 8.5 可能／不可能を表す動詞句構造	同 上	同 上
9	「あなた方に良い知らせを持ってきました」	9.1 不定・匿名の“有人～” 9.2 副詞“都” 9.3 確認要求の“是不是” 9.4 原因を示す前置詞	同 上	宮本 徹（放送大学准教授）
10	「これ以上嬉しいことはありません」	10.1 “一”の省略 10.2 方位詞“上”の派生用法 10.3 方向補語“出”の派生用法 10.4 方向補語“下去”の派生用法 10.5 疑問詞疑問文＋“好呢”	同 上	同 上
11	「数えてご覧なさい！」	11.1 状態詞“黄澄澄” 11.2 前置詞“从” 11.3 能願動詞“要”(2) 11.4 連用修飾語に用いる助詞“地” 11.5 直接引用の“～道” 11.6 伝聞の表現 11.7 試行を表す“～看”	同 上	同 上
12	「突然子供の泣き声が聞こえてきた」	12.1 方向補語“起来”の派生用法 12.2 「動詞＋“啊”」の重ね型 12.3 結果補語の“到”(2) 12.4 副詞“原来” 12.5 能願動詞“敢”	同 上	同 上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	「ちょっと待っていなさい」	13.1 結果補語“着” 13.2 前置詞“往” 13.3 部分否定に用いる“不大”	木村　英樹 宮本　徹	宮本　徹
14	「果物はみんなで食べてこそおいしいものです」	14.1 「“一”＋臨時量詞」 14.2 動詞＋“了”＋二音節方向補語 14.3 副詞“才” 14.4 能願動詞“要”(3)	同　上	同　上
15	「今年の杏もまた熟しました」	文法のまとめ	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目コード	1351001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 中国語基礎 ―ラブレターは書きますか― （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：代田　智明（東京大学大学院教授）　〕

講義概要

一通り中国語の基礎を学んだ方々のために、やさしいが本格的で、興味深い中国語の文章を読むことで、ステップアップのための機会を持ちたい。全15回の材料は、おもに近代中国知識人のラブレターから、一部を選りすぐり、当時の中国の背景やジェンダーの意識を探りながら、現代中国・現代日本との違いや、いまも変らぬ側面を確認する。題して「ラブレターは書きますか」。

授業の目標

全15回の講義を通じて、目標は第一に、中国語のことばに本格的触れる入り口となるような訓練の場とする。文章を読み解くとともに、簡単な表現力も身につくよう工夫したい。第二に、近代中国知識人について、初歩的な歴史的理解をもつとともに、恋愛・結婚という生身の出来事を通して彼らの生き方を考察する。そのことによって、時代の違いや共通点、文化的差異についても認識を深めたい。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	郁達夫と孫荃	中国近代文学形成期に貢献した文学グループ「創造社」の創立メンバーのひとりである郁達夫の小説『蔦羅行』の冒頭部分を読んで、当時の婚姻制度や父権的な家庭生活を垣間見る。小説ではあるが、現実を反映しているとも言われ、妻に暴力をふるっている「私」の悔悟が語られる。	代田智明（東京大学大学院教授、以下同じ）	代田智明
2	郁達夫から王映霞へ(1)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。	代田智明	代田智明
3	郁達夫から王映霞へ(2)	第1回では、親の決めた結婚に従わざるをえなかった郁の結婚生活を紹介するが、彼はその後、上海の親友の家に寄宿している令嬢、王映霞に一目惚れする。妻のいる男に気おくれしている王に郁がどんな弁解と口説き文句を語ったか。第2回のつづき。	代田智明	代田智明
4	胡適から江冬秀へ(1)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。	代田智明	代田智明
5	胡適から江冬秀へ(2)	中国近代の文化的著名人のひとりであり、文学革命に貢献した胡適も、旧式結婚をしたひとりであった。妻はいいところのお嬢さんであったが、何とか字が読める程度の教養しかなかった。1927年に講演のため渡米した胡適が妻の江冬秀に宛てた手紙を読む。1年前に病気で失った娘への悲しみが描かれている。第4回のつづき。	代田智明	代田智明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	ウィリアムスから胡適へ(1)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。	代田智明	代田智明
7	ウィリアムスから胡適へ(2)	胡適は結婚する前にアメリカに留学していた。留学先コーネル大学近くに住んでいた年上のクリフォード ウィリアムスと初恋を経験していた。ふたりは旧式結婚の慣例のため、引き裂かれたが、胡適が1933年に渡米した際に、恋心やみがたく、長い年月を隔てて結ばれる。しかし結婚はできない、そんな複雑な思いをウィリアムスが胡適に伝えた手紙を読む。第6回のつづき。	代田智明	代田智明
8	胡適からウィリアムスへ	第6・7回に見られるウィリアムスの矛盾した感情に対して、胡適はどう感じていたのだろう。その後胡適が、知的パートナーという親友として、ウィリアムスを受け入れようとすることばを、ウィリアムス宛ての手紙のなかから読み取る。	代田智明	代田智明
9	魯迅から許広平へ(Ⅰ)	近代中国の文学者として、日本でも最も知られた文学者魯迅も母親の決めた旧式結婚に苦しんでいた。しかし1925年ころ、北京女子師範の魯迅の授業を聞いていた学生の許広平との間で恋愛関係になっていく。広東と廈門で別々に暮らしていたとき、17歳も年下の許広平に将来の悩みをぶつけ、光りを求める魯迅の手紙を読む。	代田智明	代田智明
10	許広平から魯迅へ(1)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。	代田智明	代田智明
11	許広平から魯迅へ(2)	第9回の魯迅の手紙に対する許広平の返信。できるだけ早く、「遺産」(正妻の朱安のこと)を放棄して、新たに人生をやり直すべきだと勧める。その情熱的なことばを読み取る。第10回のつづき。	代田智明	代田智明
12	魯迅から許広平へ(Ⅱ)	最終的に許広平を受け入れ、新たな人生に踏み出そうとする魯迅の手紙。この部分は比較的知られた箇所である。様々な障害に悩みつつ、自分にも愛する資格があると宣言する魯迅の肉声を読み取る。	代田智明	代田智明
13	最後のラブレター	1980年代後半に書かれたと思われる、北京大学男子学生の手紙。彼が恋した女子学生はどうやら幼なじみのイケメンを彼氏にすることにして、この著者はふられてしまったらしい。将来きっと後悔するよと、食い下がる彼の気持ちは「女々しい」。	代田智明	代田智明
14	日中ジェンダー論の対話(1)	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。	代田智明	代田智明
15	日中ジェンダー論の対話(2)	社会学者であり、フェミニストで有名なふたりの日本と中国の研究者が自分の体験をもとに、それぞれの社会文化を問題にしながら日本と中国との意識の差異を語っている。最後に身近な現代的話題を考える。第14回のつづき。	代田智明	代田智明

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目（外国語）	科目ｺｰﾄﾞ	1363280	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　スペイン語入門Ⅰ（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：立岩　礼子　（京都外国語短期大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：丸田　千花子（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）〕

講義概要

スペイン語の美しい響きに親しみながら，初級文法の基礎を学ぶと同時に，スペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。各授業で学ぶ文法事項は、日本でスペイン語圏の人たちと接する場面を設定したオリジナルのスキットを通して身につけていく工夫がされています。練習問題は授業で解く基本的なものと余力のある人が解く自習用の２種類を用意しました。発音、リスニング、会話も十分に練習できるように随所にアドバイスを施しています。また、語学の習得のみならず、音楽を通じてスペイン語圏に親しむほか、ゲストを迎えてスペインやラテンアメリカの魅力について語っていただきます。

授業の目標

スペイン語の初級文法の基礎の習得を目指します。具体的には①自己紹介ができる、②日常の話題についてスペイン語圏の人たちとコミュニケーションを保つことができる、という２つを主たる目標とします。また、辞書の使い方に慣れ、応用力を養うことも視野に入れています。さらに、スペイン語文化圏について関心を広げていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「こんにちは。」	スペイン語のアルファベット、発音、イントネーションに慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno　（スペイン大使館商務部）	立岩礼子（京都外国語短期大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）	立岩礼子（京都外国語短期大学准教授） マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス（京都外国語大学講師）
2	「私は少しスペイン語が話せます。」	主語（主格人称代名詞）、基礎となる一般動詞（-ar動詞）の規則活用（直説法現在）、現在時制の用法を学ぶ。 歌：La bamba (メキシコ民謡)	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	「今日はてんぷらを食べましょう。」	基礎となる一般動詞（-er 動詞）の規則活用（直説法現在）、名詞の性数、（肯定・否定・疑問詞なしの疑問文）を学ぶ。 ゲスト：Jair Moreno (スペイン大使館商務部)	同上	同上
4	「どこで携帯電話を買ったらいいですか。」	疑問詞、疑問詞を含む疑問文、数詞（1~10）、所有形容詞を学ぶ。 歌：Bésame mucho （小野リサ）	同上	同上
5	「彼らにメールを書きます。」	スペイン語の性数一致に慣れながら，基礎となる一般動詞（-ir 動詞）の規則活用（直説法現在）、冠詞（定冠詞と不定冠詞）を学ぶ。 ゲスト：荒井夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済・大蔵省ガリシア州経済開発公社（IGAPE)産業・投資上級担当官）	同上	同上
6	「彼はスポーツマンです。」	動詞 ser の活用と形容詞を学ぶ。 歌：Soy （Willy Chirino）	同上	同上
7	「11 時半です。」	動詞 ser を使って時刻や日付の表現、数詞（1~31）と序数詞、接続詞を学ぶ。 ゲスト：荒井夏枝（スペイン・ガリシア州政府経済・大蔵省ガリシア州経済開発公社（IGAPE)産業・投資上級担当官）	同上	同上
8	「僕が暇なとき、君は忙しい。」	スペイン語の be 動詞である動詞 estar の活用（直説法現在）、指示形容詞、指示代名詞、指示副詞を学ぶ。 歌：La Cumparsita (Carlos Gardel)	同上	同上
9	「テレビの種類が豊富です。」	無主語動詞 hay、不定数量詞を学ぶ。 ゲスト：こじまかよこ（中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表）	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	「私はお寺に行きたいです。」	語幹母音変化動詞 (e→ ie)の動詞の活用(直説法現在)、直接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌： La llorona (Chavela Vargas)	丸田千花子(慶應義塾大学講師) マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス(京都外国語大学講師)	丸田千花子(慶應義塾大学講師) マリア・ホセ・ゴンサレス・ムニョス(京都外国語大学講師)
11	「一本いくらしますか。」	語幹母音変化動詞 (o→ ue)の動詞の活用(直説法現在)、40 から 1.000.000 までの数詞、前置詞を伴う直接目的語を学ぶ。 ゲスト:こじまかよこ(中南米文化交流考房「ケ・リーコ」代表)	同上	同上
12	「伝統料理を出すのですよね。」	語幹母音変化動詞 (e → i) の動詞の活用(直説法現在)、間接目的格人称代名詞を学ぶ。 歌:Te recuerdo, Amanda (Víctor Jara)	同上	同上
13	「今週土曜日、京都へ出発します。」	1人称のみ不規則動詞の活用(直説法現在)、間接目的格人称代名詞と直接目的人称代名詞の併用を学ぶ。 ゲスト:「オルティス・リベラ美由紀(コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当)	同上	同上
14	「久保田さんからのメッセージがあります。」	不規則動詞の活用(直説法現在)、前置詞格人称代名詞、代名詞の重複を学ぶ。 歌:Salsa no tiene frontera (オルケスタ・デ・ラ・ルス)	同上	同上
15	「私は野球が大好きです。」	gustar 表現や gustar 型構文を学ぶ。 ゲスト:オルティス・リベラ美由紀(コーヒー専門認証プログラム「ウツ・カフェ」日本市場担当)	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目(外国語)	科目ｺｰﾄﾞ	1363344	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　スペイン語入門II（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：丸田　千花子　（慶應義塾大学講師）　〕
〔主任講師（現職名）：久野　量一　（法政大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）〕

講義概要

「入門Ⅰ」で学んだ初級文法の基礎を修了させると同時に，引き続きスペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。文法解説、練習問題などで文法事項を確認したのち、オリジナルのスキットを通して，発音、リスニングを練習し、応用表現を学んでいきます。また「入門Ⅰ」に引き続き、さまざまな分野の専門家を迎えて，「入門Ⅰ」とは別の角度からスペイン語文化圏の文化にアプローチしていきます。

授業の目標

「入門Ⅱ」では様々な時制を習得することでスペイン語の表現に幅をもたせることを狙いとしています。時制それぞれの違いをきちんと認識し、活用の運用能力を高めていくこと、またネイティヴとのコミュニケーションを取れるようになることが授業の目標です。「入門Ⅰ」に引き続きさらにスペイン語文化圏についての関心を深めていくことにも重きをおいています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	「君は何時に起きるの。」	再帰動詞を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ大陸に渡ったバスク人」	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	丸田千花子（慶應義塾大学講師） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
2	「とてもおいしそうです。」	se を用いた無人称表現、感嘆文を学ぶ。 ゲスト：八嶋由香利（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ帰りのスペイン人～スペイン近代化に貢献した indianos」	同　上	同　上
3	「どのような製品を取り扱っているのですか。」	se を用いた再帰受身を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「『母をたずねて三千里』とブエノスアイレスのスペイン語」	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	「私はポップよりも伝統音楽が好きです。」	比較表現を学ぶ。 ゲスト：石井康史（慶應義塾大学経済学部准教授） 「アメリカ映画におけるメキシコ人のイメージ～パンチョ、ペドロと善隣外交」	同上	同上
5	「今朝、僕は忙しかったんだ。」	過去分詞、直説法現在完了を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカとメキシコの経済関係」	同上	同上
6	「自分の部屋を片付けているのよ。」	現在分詞、直説法現在進行形を学ぶ。 ゲスト：久松佳彰（東洋大学国際地域学部准教授） 「アメリカ合衆国のヒスパニック」	同上	同上
7	「どのくらい私たちのところにいる予定ですか。」	直説法未来を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「アルゼンチンにおける日本人のクリーニング屋 tintoría japonesa」	同上	同上
8	「彼らはもうレストランに着いているでしょう。」	直説法未来完了を学ぶ。 ゲスト：ヒガ・マルセーロ（フェリス女学院大学国際交流学部准教授） 「日本の中のスペイン語圏」	同上	同上
9	「昨晩、会社の近くで襲われた。」	直説法点過去の規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ラテンアメリカの輸出農産物」	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）	久野量一（法政大学准教授） サンドラ・モラーレス・ムニョス（早稲田大学講師）
10	「そのあたりの日本食レストランで食事をしましたか。」	直説法点過去の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：清水達也（アジア経済研究所） 「ペルーの輸出農産物アスパラガスについて」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	「夏休みになるとよく田舎に出かけたものです。」	直説法線過去を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「南米の日系人ー今と昔」	同　上	同　上
12	「タクシーを拾うことをお勧めいたします。」	直説法過去未来を学ぶ。 ゲスト：西成彦（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授） 「移民と文学ーアルゼンチンのガウチョ」	同　上	同　上
13	「その映画ならもう観たことがあると彼女は言った。」	直説法過去完了を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアにおける平和の意味」	同　上	同　上
14	「そんなに早起きするなんて信じられないわ。」	接続法現在の規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの国内問題」	同　上	同　上
15	「感想を言ってくれるのなら、本を貸してあげるよ。」	接続法現在の不規則活用を学ぶ。 ゲスト：杜将（フリージャーナリスト） 「コロンビアの環境、エネルギー問題」	同　上	同　上

＝　韓国語入門Ⅰ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになること，掲示や簡単な説明文を読めるようになることをめざす。まず，発音・文字（ハングル）の練習を十分に行ったのち，基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習を行っていく。あわせて，スキットなどを通して韓国の文化・習慣を紹介し，それらに対する理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文字と発音（1）－母音(1)，子音(1)	基本的な単母音６つとヤ行系の重母音の発音，子音の一部，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，出会ったときなどに使うあいさつを練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）
2	文字と発音（2）－母音(2)，子音(2)	子音（平音，激音，濃音）の発音，ワ行系の重母音の発音，およびそれを表す文字の練習を行う。さらに，別れの時などに使うあいさつ表現の練習を行う。	同上	生越直樹（東京大学教授）
3	文字と発音（3）－終声・連音化	音節末子音（終声）の発音，および終声に関わる連音化の練習を行う。さらに，呼びかけ，謝罪などのあいさつ表現を練習する。	同上	同上
4	高野由紀です。－名詞文の叙述・疑問・尊敬	初めて会う場面のスキットを使いながら，「～です，ですか」「～でいらっしゃいますか」にあたる名詞文の叙述形・疑問形・尊敬形と「は」にあたる助詞の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	どこにありますか。 ―存在文の叙述・疑問―	コンビニで物を探すスキットを使いながら，「ある，いる」「ない，いない」にあたる存在詞，「この，その，あの」にあたる指示詞の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	午後に何をしますか。 ―用言文の叙述・疑問，数詞(1)―	これからの予定を聞くスキットを使いながら，「～します(か)，～です(か)」にあたる用言文の叙述形・疑問形についての練習を行う。さらに，漢語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
7	タバコは吸いません。 ―否定形，数詞(2)―	喫茶店で話すスキットを使いながら，「～しません」にあたる用言文の否定形，「～ではありません」にあたる名詞文の否定形について練習する。さらに，固有語系の数詞とそれとともに使う助数詞の練習も行う。	同上	同上
8	ホテルで召し上がりますか。 ―尊敬形―	ホテルのロビーでのスキットを使いながら，用言の尊敬形の作り方と使い方，特殊な尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上
9	ドアを閉めてください。 ―連用形―	韓国料理店で食事をするスキットを使いながら，連用形の使い方と「～してください」にあたる依頼表現の使い方を練習する。	同上	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	9時に学校に行きます。 ―hayyo 体の叙述・疑問―	一日の生活を表すスキットを使いながら，「～します」にあたる文末の丁寧な形 hayyo 体の練習を行う。また，残りの連用形の縮約形の練習もする。	同上	同上
11	映画をよくご覧になりますか。 ―hayyo 体の尊敬―	映画館に行く場面のスキットを使いながら，hayyo 体の縮約形と hayyo 体の尊敬形の使い方を練習する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	先週何をしましたか。 —過去形—	友人の家で食事するスキットを使いながら，過去形の使い方を練習する。さらに過去形の縮約形，尊敬の過去形の練習もする。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	できるだけ早く行きます。 —進行形，未来意志形—	バス停で電話する場面のスキットを使いながら，話し手の意志や推測を表す未来意志形の使い方を練習する。さらに，「～している」にあたる進行形の作り方と使い方を練習する。	同上	同上
14	狭いですが，あちらへどうぞ。 —接続語尾—	インターネットカフェで話すスキットを使いながら，いくつかの接続語尾と希望を表す表現の使い方を練習する。	同上	同上
15	まとめと復習	これまで学習した表現を，スキットの確認しながら復習していく。	同上	同上

＝　韓国語入門Ⅱ（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：生越　直樹（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：根本　理恵（東京大学非常勤講師）〕

全体のねらい

韓国語Ⅰを終了した程度の実力を持つ学習者を対象とする。いろいろな表現を使って韓国の人とコミュニケーションができるようになること，新聞記事などを読めるようになることをめざす。基本的な表現のうち，韓国語Ⅰで学習しなかった事項について練習するとともに，スキットなどを通して，韓国の文化・習慣に対する理解をさらに深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	学校の前にあるレコード店　―動詞の連体形(1)―	ＣＤショップでのスキットを使いながら，用言の後ろに名詞が続くときの形，連体形の練習をする。この課ではまず動詞，存在詞の連体形のうち，現在連体形，過去連体形の作り方と使い方の練習を行う。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
2	以前の記録があるはずです　―動詞の連体形(2)―	薬局でのスキットを使いながら，動詞，存在詞の連体形のうち，未来連体形，回想連体形の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
3	簡単な韓国料理―形容詞の連体形―	市場で話すスキットを使いながら，形容詞，指定詞の連体形(現在，未来，過去)の作り方と使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
4	外国に住んでいる人　―ｒ語幹(1)―	屋台で食事しながら話すスキットを使いながら，特殊な活用をするｒ語幹の用言の使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	この近くにお住まいですか —r語幹(2)—	病院でのスキットを使って，引き続きr語幹の用言を使う練習をする。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
6	頭痛はすっかり治りましたか —s変則—	バスターミナルで話すスキットを使って，変則用言の一つ，s変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
7	尋ねてみましょう —t変則—	地下鉄駅，車内でのスキットを使って，t変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
8	発音がとても難しいです —p変則—	大学教室でのスキットを使って，p変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	生越直樹（東京大学教授）
9	白い看板が見えます —h変則—	観光地で話すスキットを使いながら，h変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
10	私が行って呼んで来ます —rwu変則—	列車の車内でのスキットを使って，rwu変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	どんなに忙しくても —wu 変則—	キャンプの場面のスキットを使いながら，wu 変則用言の活用と使い方を練習する。さらに接続語尾・慣用表現のいくつかについて，その使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
12	包装はしないでください —さまざまな表現—	デパートでおみやげを探すスキットを使いながら，よく使う熟語でまだ学習していない表現の使い方を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
13	ご飯は食べたの？ —hanta 体，hay 体—	空港で友だち同士が話すスキットを使いながら，文末の形式のうち，ぞんざいな表現である hay 体，hanta 体の叙述・疑問などの形を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
14	文章を読む —書き言葉の表現—	短い文章を読みながら，書き言葉でよく使われる表現を練習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）
15	まとめと復習	これまでのスキットを使いながら学習した表現を復習する。	生越直樹（東京大学教授） 根本理恵（東京大学非常勤講師）	根本理恵（東京大学非常勤講師）

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　　〕
〔 主 任 講 師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。目的は日本人の社会と文化を紹介である。外国人留学生による日本人へのインタビューを通し、日本人の生活や働く姿を伝える。日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成を図る。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座をめざす。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同　上	同　上
4	ドキュメンタリー「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授	同　上

5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビューと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎 （東京外国語大学教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上
11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり」「門がまえ」	荒川洋平 （東京外国語大学准教授） 姫野昌子 （放送大学教授）	同　上

		・日本の歌⑪「心の旅」		
12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「訓読みが２つある字」 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「音読みが２つある字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みがある字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	共通科目(外国語)	科目ｺｰﾄﾞ	1399535	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、２部に分かれている。第１部は、外国人学習者用の解説と課題、第２部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第１部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。コミュニケーション能力をつけるため、いろいろな会話の表現を勉強する。いろいろな国の人に日本に来てから経験したことを聞き、異文化コミュニケーションについて考える。日本の都市を 12 選んで、その地理や、文化・歴史的な特徴などを紹介し、日本理解を深める。そのほか日本の詩歌も紹介し、説明する。会話やナレーションの中に出てきた大切な文法事項についても勉強する。

授業の目標

日本語の会話の特徴を理解し、コミュニケーション能力をつける。異文化について考える力を養う。同時に日本の都市や詩歌の紹介を通じて日本の文化について知識を深める。そのほか、初級後半から中級前半の文法事項について理解力と表現力を養成することを目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子 伊東　祐郎 田山のり子（東京外国語大学教授） 藤森弘子（東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ（東京国際大学講師） 池田智子（桜美林大学准教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・　日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

＝ 初歩のアラビア語（‘０６）＝（TV）

～アラブ・イスラーム文化への招待～

〔主任講師（現職名）：　鷲見　朗子（京都ノートルダム女子大学准教授）〕

全体のねらい

アラビア語は中東・北アフリカを中心とする２０以上の国と地域の公用語として、また国連の公用語の一つとして、とても多くの人々が使っている言語です。この科目のねらいは、アラビア語の読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ・イスラーム文化に触れながら、楽しく習得することです。毎回、イスラームの文化事情やアラブの人々の暮らしを紹介した映像、インタビューなどを豊富に盛り込んで、アラブ・イスラーム文化について理解しながら、アラビア語の基本を学んでいきます。第１回から第６回では、28 文字からなるアラビア語のアルファベットをマスターします。同時に、簡単な表現も学習していきます。第７回から最終回までは、スキットに登場する基本フレーズを理解しながら、やさしいアラビア語の単語、表現、文法の学習を行います。練習問題にも挑戦して、応用力をつけていきます。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	開けゴマ！～アラブとは～	アラビア語の世界への扉を開く、文字と発音の第１回です。書き方（右から左へ）、28 文字からなるアルファベット、文字同士の結合の仕方など、アラビア語の特色を学びます。 【サカーファ】アラブ・イスラーム文化を楽しく紹介するコーナーです。第１回はアラブ、イスラーム、そして中東について、日本人アラブ研究者からやさしく紹介していただきます。	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学准教授） 依田純和（大阪大学特任助教）	鷲見朗子（京都ノートルダム女子大学准教授）
2	ハビービー～フスハーとアーンミーヤ～	アルファベットの最初から順に、発音、書き方、文字のつなげ方を学んでいきます。母音記号と無母音記号も導入します。また、「ハビービー」（私の恋人）という単語の発音と書き方を学習します。 【サカーファ】エジプト、レバノン、カタールを訪ねて、実際にそれぞれの土地のアラビア語方言を聴きます。アラビア語の書きことば「フスハー」と話しことば「アーンミーヤ」を比べてみます。	同上	同上
3	私は元気です～アラビア書道の芸術～	ひきつづき文字と発音を少しずつ確実に覚えていきます。文字ごとに発音、書き方、文字のつなげ方の練習をします。また、「私は元気です」という表現を学びます。 【サカーファ】きわめて高い芸術性を備えたアラビア書道を紹介します。著名なエジプト人アラビア書道家の工房を訪問して、さまざまな書体や書道具をみてみます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	おはよう～アラブ音楽の魅力～	アラビア文字を正しい発音でスムーズに読み・書きできるよう、繰り返し練習します。また、母音記号以外の補助記号の用法を学びます。今回は簡単な挨拶表現も学習します。 【サカーファ】リズミカルなアラブの歌の紹介です。レバノンの女性歌手にインタビューします。アラブの民族楽器「ウード」の演奏も鑑賞します。	同上	同上
5	元気ですか？～学校と教育事情～	文字と発音の第５回です。文字同士の結合の仕方と文字の発音をさらに練習します。「元気ですか？」の表現を覚え、書く練習をします。アラブの街角のカラフルな看板も読んでみます。 【サカーファ】カタールの高等学校を探訪した記録が素材です。男女別学も珍しくないカタールの学校の映像を通して、アラブの教育事情の一端をみてみます。	同上	同上
6	アッサラーム・アライクム～民衆のイスラーム信仰～	文字と発音の仕上げです。定冠詞の書き方と発音の仕方、アルファベット以外の文字や記号について学びます。「アッサラーム・アライクム」というイスラーム信徒がかわす挨拶表現を学習します。 【サカーファ】エジプトの庶民が集うモスクを通して、民衆のイスラーム信仰を紹介します。礼拝への呼びかけ「アザーン」の美しい響きがこだまします。	同上	同上
7	あなたの名前は？～コーヒー占いとヘンナ～	いよいよスキットの始まりです。スキットに出てくる基本フレーズを通して、文法と単語を学習していきます。アラビア語には男性と女性の２つの性があります。この使い分けも学びます。 【サカーファ】アラブ地域にみられるコーヒー占いと、ヘンナと呼ばれる植物染料を使った手足の装飾を紹介します。	同上	同上
8	僕はレバノン人です～アルハンブラ宮殿の美～	自分の出身を伝える表現を学びます。「○○人」という表現と独立人称代名詞を組み合わせて文章を作る練習をします。スキットでは、レバノン人男性が自分の出身を友人に伝えます。 【サカーファ】スペインにあるアルハンブラ宮殿の壮麗な建築装飾を紹介します。宮殿の壁面にアラビア書道で刻まれたアラブ詩にも注目してみます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	僕は日本にいます～アラブの青年ハーニーさんの生活～	今回は定冠詞と形容詞を学習します。定冠詞、名詞、形容詞で文を作る基本を学びます。スキットは放送大学本部のある幕張（千葉県）が舞台です。 【サカーファ】カイロ在住のエジプト人青年ハーニーさんの生活を、職場の様子を中心に紹介します。エジプトの人々はどのような日常を過ごしているのでしょうか。	同上	同上
10	僕の家族はベイルートにいます～家族の絆～	家族を紹介する基本フレーズを学びます。接尾人称代名詞も導入し、自分の家族を紹介する練習もします。スキットは、地中海沿岸の美しい景色をもつレバノンの首都ベイルートへ舞台を移します。 【サカーファ】エジプトの一家族を訪問します。アラブの家族の絆の強さと互いの思いやりの深さを感じてみましょう。	同上	同上
11	あなたの夢の国～結婚事情～	名詞＋名詞の形をとり、「～の～」という意味を表すイダーファの構造を学びます。スキットはレバノンと日本間の国際電話での友達同士の会話です。 【サカーファ】エジプトの人々に結婚観を語ってもらいます。インタビューを通じて、現代のエジプトの若者たちの夢と苦悩の一端を知ります。	同上	同上
12	幸運を祈っているわ！～アラブのテレビ局アルジャジーラ放送局～	今回は主に複数について学習します。アラビア語には語幹複数と語尾複数があります。反復練習でいろいろな単語の複数形を覚え、語彙力アップにも努めます。スキットは日本留学を希望する娘と母の会話です。 【サカーファ】日本の中東情勢報道でもおなじみの「アルジャジーラ放送局」カタール本局を訪問します。同局でのインタビューを通じて、その報道精神やアラブのメディアについて知ります。	同上	同上
13	私はアラブの小説を読むのが好きです～詩と小説～	いよいよ動詞です。まずは未完了形からです。動詞活用を繰り返し練習して、さまざまな動詞に応用できる力をつけます。今回は留学のための面接試験がスキットの場面です。 【サカーファ】アラブ古典文学と現代文学に詳しいエジプト人小説家を訪ねます。アラブ文学の魅力を語ってもらいます。詩を朗読していただき、アラビア語の美しい響きを味わいます。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	私の旅行かばんはどこ？～ヴェールの意味～	動詞完了形を学習します。各人称に対応する動詞の活用を繰り返し練習します。成田空港へ到着したアラブ人女性がスキットの主役です。 【サカーファ】イスラーム女性信徒のシンボルともいえるのがヴェール「ヒジャーブ」。エジプト、カタール、レバノンの女性たちにとってヒジャーブとは何かを探ります。	同上	同上
15	いつまでもみなさんがお元気でありますように～料理ともてなしの心～	最終回は指示代名詞を学びます。また、主な疑問詞と自己紹介の表現を学ぶことで、これまでの復習を行います。スキットは料理によるもてなしの場面です。 【サカーファ】アラブ料理で最もおいしいとされるレバノン料理やエジプトの大衆料理を映像によって味わいます。アラブ人がとても大切にするもてなしの精神を感じとってみましょう。	同上	同上

＝　情報と社会（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　柏倉　康夫（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　林　敏彦　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　天川　晃　（放送大学教授）〕

全体のねらい

デジタル技術と情報通信技術（ICT）が可能にする高度情報社会は、社会生活のさまざまな局面に大きな変化をもたらしつつある。この講義ではICTが及ぼす経済、産業、個人生活、公共政策、都市、ポップカルチャー、教育、子ども、福祉などへの社会的インパクトについて、多くの専門家が分野横断的に講義することによって、高度情報社会の光と影について理解を進め、新しい技術を人間の幸福に役立てるための方策について考えることを目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人・社会・技術	人類の誕生以来、人間と情報環境との相互作用は続けられてきた。情報通信技術の進展は社会のあり方を変えるのみではなく、人間そのものをも変える契機を宿しているのであろうか。	林　敏彦（放送大学教授）	＜ゲスト＞東倉　洋一（国立情報学研究所教授）
2	ユビキタス情報社会	通信技術とデジタル技術が可能にするユビキタス情報社会とは、どのような社会なのだろうか。経済、政治、教育、文化、生活などはどう変化し、社会はどのような潜在的な課題に直面するのだろうか。	林　敏彦（放送大学教授）	＜ゲスト＞今川　拓郎（総務省情報通信政策局調査官）
3	情報化と消費	情報財・サービスの消費がなぜ増大するのか、その現状と可能性について、主として消費者の側から考察する。家庭内への「情報機器の普及」などの家庭への情報化浸透現象の要因と問題点を展望する。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）
4	情報と消費社会	情報メディアは、人びとの消費行動をどのように変化させてきたか。消費社会のなかで、情報はどのように人びとと物財・サービスを結び付けてきたか。通信販売、ネット販売などを取り上げたい。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）
5	情報経済の構造	高度情報化社会において、市場の機能はどのような影響を受けるのであろうか。ネットワーク効果、デジタル・コンテンツ市場の問題などについて考える。	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
6	情報と民主主義	情報技術の発達が、民主的決定に与える影響を考察する。直接民主政と間接民主政をめぐる議論をとりあげ、決定、討議、知識といった政治的判断の諸要素を再考し、情報社会における「討議的デモクラシー」の可能性をさぐる。	山岡　龍一（放送大学准教授）	山岡　龍一（放送大学准教授）

7	情報の保存と利用	情報の保存と将来の利用を行うための制度としてアーカイブズがある。国立公文書館や自治体その他のアーカイブズの事例を中心に、日本における情報の保存と利用に関する現状と問題を検討する。	天川　晃（放送大学教授）	天川　晃（放送大学教授）
8	プライバシーと個人情報保護	情報化社会の進展に伴い個人情報保護の必要性が強く認識されるようになり、わが国においても「個人情報の保護に関する法律」が制定されるに至っている。情報化社会におけるプライバシーと個人情報保護のあり方を考える。	砂押以久子（立教大学講師）	砂押以久子（立教大学講師）
9	企業の情報管理をめぐる法律問題	企業の情報管理には、さまざまな局面があるが、なかでも、従業員の個人情報の取扱いに関する問題、企業情報の従業員による漏洩・通報などの問題を取り上げ検討する。	砂押以久子（立教大学講師）	砂押以久子（立教大学講師）
10	情報と都市	情報化の進展は、空間的に離れた都市に暮らす諸個人間の社会関係の形成・維持を促した。その反面、地域社会に暮らす人々の中に格差と社会的距離を生み出した。情報化が都市社会にもたらした変化とその意味を、社会地図も援用しつつ明らかにする。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
11	グロス・ナショナル・クール	日本のポップカルチャーは歴史的伝統と都市中産階級に根ざし、デジタル技術を得て国際的に注目されている。歴史上初めてクールな（カッコいい）国とされる日本のコンテンツ政策について考える。	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）
12	子どもの創造性	デジタル技術とインターネットは、子どもたちの学習および表現環境に大きな影響を及ぼしている。新しい表現方法を見につけた子どもたちは、どのような想像力を発揮するだろうか。いくつかのワークショップの実践を通じて考える。	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）	中村伊知哉（慶應義塾大学教授）
13	通信と放送の融合	地上波デジタル放送が始まり、通信と放送の融合が本格化する中で、社会生活にはどのような変化が生まれ、情報政策の課題はどのように変化するのであろうか。遠隔教育の新しいモデルの可能性についても考える。	柏倉　康夫（放送大学教授）	柏倉　康夫（放送大学教授）
14	情報と思想	電子信号としての情報は、人間の脳によって認識され、解釈されて知識となり、肉体に深く浸透して思想となる。今日、情報は物質、エネルギーと並んで社会を動かす要素となった。情報の社会的意味を問う。	柏倉　康夫（放送大学教授）	柏倉　康夫（放送大学教授）
15	情報社会の未来	それぞれの立場から高度情報社会の光と影について分析し、情報社会の未来へ向けての、技術、制度、経済、文化、国際関係などのガバナンスのあり方について討論する。	柏倉　康夫 林　敏彦 中村伊知哉	柏倉　康夫 林　敏彦 中村伊知哉

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1510118	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　生活知と科学知　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：奈良由美子（放送大学准教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）　　〕

講義概要

科学知（科学的手法によって獲得される客観的な知）と生活知（生活のなかに埋め込まれてきた経験的な知）とはこれまで別々に扱われることが多かった。むしろ、これらを切り離して論じることは、教える側と教えられる側、専門家と一般市民、生産者と消費者といった立場の分離がより明確になることで発展した近代・現代社会になじむものであった。しかし今日顕在化する様々な問題の解決には、異なる立場間の価値観・意見そして知のコミュニケーションが求められるようになってきている。この授業では、生活知と科学知の観点から、生活および生活者の課題を論究するものである。

授業の目標

人間は誰しも生活する主体（＝生活者）である。本科目では、生活を主体的にデザインし構築するてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。

履修上の留意点

「現代の生活問題（’07）」および「社会技術概論（’07）」を学んでおくことが望ましい。また、生活主体をめぐる現代的実態と課題をより深く学ぶため、「生活とリスク（’07）」および「変動する社会と暮らし（’07）」も履修するとよい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活知と科学知によるコミュニケーションの時代の到来	科目全体の導入回として、生活知と科学知のコミュニケーションの意義についての問題提起と、科目（学習）の到達点の提示を行う。同時に主要概念の定義を示しておく。 【キーワード】 知、生活、生活の主体、専門家、科学、科学技術、生活知、科学知	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
2	日常生活のなかの科学(1)	日常生活と科学は縁がないように感じられるだろうが、実は日々の家事、育児などは知らず知らずのうちに科学手知識、科学的思考法を駆使して行われているものである。生活者は上記のような科学に裏付けられた生活をしている、ということを家事、育児などの事例を交えて紹介する。 【キーワード】 日常生活、家事、育児、知恵、科学的知識、科学的思考	内田麻理香（東京大学特任教員）	内田麻理香（東京大学特任教員）
3	日常生活のなかの科学(2)	第2回では生活が科学に囲まれており、しかも生活することのひとつひとつが科学的思考そのものであることを説明した。この回では、科学リテラシーは多かれ少なかれ生活者である皆が持っているものだということを検討する。また、テレビというメディアを通した発信の経験から、科学リテラシーの欠如がいかに身の危険に結びつくということを考えていく。 【キーワード】 リテラシー、PISA、科学リテラシー、日常生活、メディア	内田麻理香（東京大学特任教員）	内田麻理香（東京大学特任教員）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	日常生活のなかの批判的思考法	科学知の中でも健康に関する情報は日々の生活と密接な関係を持つが、その分科学的な装いをもったあやしい情報が多いことも確かである。第四回ではそうした事例を例にとりつつ、批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考といった思考のツールについて学ぶ。 【キーワード】 批判的思考、メディアリテラシー、科学的思考、科学方法論	伊勢田哲治(京都大学大学院准教授)	伊勢田哲治(京都大学大学院准教授)
5	生活のマネジメント	生活が科学的な側面を持つ営為であることを示すひとつの考え方として、「生活のマネジメント(生活経営)」について、その概念や手法を紹介する。さらに生活経営のなかでの位置づけについても考える。 【キーワード】 生活、マネジメント、生活経営の構造と要素、PDSサイクル、リスクマネジメント、生活認識、生活実践	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
6	社会技術と生活	この回では、科学が広範な社会のなかで活用され、ひいては生活のよりよさに貢献していることを「社会技術」という考え方を用いて考えたい。まず社会技術の概念をおさえる。そのうえで社会技術の開発と実装の実例を見ていき、その開発・実装における課題を考察する。 【キーワード】 社会技術、社会の中の科学・社会のための科学、社会実装、社会問題、シーズとニーズ、協働	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
7	安全・安心をめぐる知	安全・安心について市民と技術者の双方の面から考える。技術者はこれまで安全を確保することばかりを考えて安心を産み出すコミュニケーションをなおざりにしてきた。市民の側も、ただ不安だと言うだけでなくどうすれば安心できるのかを技術者と一緒に考えて行く必要があるだろう。 【キーワード】 安全・安心、技術者倫理、リスク・コミュニケーション	札野 順(金沢工業大学教授)	札野 順(金沢工業大学教授)
8	科学技術コミュニケーション	近年世界的に盛んになっている科学技術コミュニケーションについて、その目的や方法論、歴史的・社会的背景、科学技術コミュニケーション教育の現状を理解するとともに、生活者としての市民の科学技術との関わり方を考える。 【キーワード】 科学技術コミュニケーション、欠如モデル、対話・参加モデル、サイエンスカフェ	平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)	平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)
9	生活における科学知の利用--サイエンスショップの取り組み--	日常生活や地域社会の問題解決に関する市民からの相談や依頼に基づいて、大学の学生や教員が調査・研究、専門的アドバイスを行うサイエンスショップは、生活知と科学知が交流する対話・参加型の科学技術コミュニケーションの重要な一例である。その理念と歴史、実際の運営について、大阪大学など国内の事例も含めて紹介し、サイエンスショップを通じた市民と科学および大学との新しい関わり方の可能性について考える。 【キーワード】 市民科学、サイエンスショップ、市民と大学の新しい関係	平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)	平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	科学知に対する市民からの支援	科学研究が資金面でどのように支えられてきたのかという歴史的な変遷について学ぶとともに、基礎科学への市民の支援のありかたについて考える。新しい関わり方の提案として、「市民的パトロネージ」という考え方と名古屋大学における具体的な事例を紹介する。 【キーワード】 大学、研究資金、市民的パトロネージ	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
11	生活者による科学技術の評価	自分たちの生活にかかわる科学技術に対して、生活者が主体的な評価を行い選択することの実態と課題を考える。具体的な素材として商品テストと商品開発をとりあげる。 【キーワード】 商品評価、商品テスト、商品開発、消費者主導型商品開発	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）
12	リスクガバナンスと生活知	不確実性と多様な価値観・利害のもとで、専門家、政策立案者、企業、市民・市民団体など多様な主体が相互作用しながら意思決定を行うリスクガバナンス。その基本的な考え方を紹介するとともに、市民がリスクガバナンスに主体的に関わり、生活知を活かしていくための方法論と、その可能性、課題について、生活者の視点から考える。 【キーワード】 リスクガバナンス、生活者の視点、市民参加の方法論	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）	平川秀幸（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）
13	ローカルな知識の活用	ローカルな知識という考え方に焦点をあて、ローカルな知識を科学知と対等な立場で問題解決に生かして行く可能性について、霞ヶ浦アサザプロジェクトなどの具体例を手がかりに考える。 【キーワード】 ローカルな知識、伝統的生態学的知識、自然再生事業	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
14	文化・価値と科学	この講義で紹介してきたような科学知の捉え直しの背景には、科学哲学や科学社会学における科学のイメージの変化がある。今回は、そうした理論的背景について、特に文化や価値が科学にどう影響してきたか、そしてそれが科学の合理性とどうかかわるかについて考える。 【キーワード】 合理主義、科学のエートス、社会構成主義、社会認識論	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）
15	知のコミュニケーションと生活者の主体性	知のコミュニケーションをめぐっての生活者と専門家の努力、とくに生活者の主体性という観点からこれまでの授業を総括する。 【キーワード】 知をめぐる努力、21世紀の科学者・技術者像、21世紀の生活者像、主体性、当事者意識、知識循環、交易圏	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）	奈良由美子（放送大学准教授） 伊勢田哲治（京都大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511009	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　家族のストレスとサポート　　（’０８）＝　（R）

※この科目は「家族のストレスとサポート(’04)」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，13，15回です。

〔主任講師（現職名）：石原　邦雄（成城大学教授）　　〕

講義概要

家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族のさまざまな局面を見ていく。それらの分析をふまえて、これからの家族像を多面的に描いてみる。

授業の目標

今日の家族の問題を、ストレスという観点から捉えなおし、家族の抱える困難や、直面する危機状況への対処の過程を検討するとともに、困難の克服あるいは危機の予防に働く各種のサポートのあり方を考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	家族への着目と社会学からの接近（**※改訂回**）	不況は脱したとされながら、各種の「格差」は拡大しているとも言われ、また国民的目標も拡散する中で、新しい世紀は不安な幕開けとなっている。人々は、家族を拠り所としようとするが、家族自体も変化し多様化しており、これもまた人々の不安材料になっている。家族の問題性を、社会学ではどのように捉えようとするのか。	石原　邦雄（成城大学教授）	石原　邦雄（成城大学教授）
2	ミクロ社会システムとしての家族	家族は、制度として、集団として、二者関係の複合として、さらには個人の意識や認知の次元など、様々なレベルで捉えられる。またこれを、動態的に捉える場合でも、社会全体の中での家族のあり方の変化、家族が示すある種の発達的・規則的な変化、さらには困難を抱えた家族が個別のケースとしてたどる変化過程など、様々な捉え方が錯綜することになる。これらを整理しておこう。	同　上	同　上
3	ストレス研究の諸概念	ストレス研究の諸概念（ストレッサー、ストレス、ディストレス、資源、対処など）を説明する。ディストレスの社会的パターンについて論じ、ストレッサーとしての家族、サポート源としての家族について説明する。	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）	稲葉　昭英（首都大学東京准教授）
4	ネットワーク論からみた家族関係	ネットワーク論の基本的考え方を示し、家族関係とそれ以外の人間関係ネットワークとの関連を論じる。とくに、サポート資源とストレス源、あるいは機会と拘束というネットワークの二面性に焦点をあてる。	野沢　慎司（明治学院大学教授）	野沢　慎司（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	ネットワークとサポート	育児する母親や父子家庭の父親などを対象にした研究例を紹介しながら、ネットワーク構造が個人の心理的な安寧にどのような効果を及ぼすかを検討する。最近のインターネット普及の社会的意義についても触れる。	野沢　慎司	野沢　慎司
6	家族ストレス論の形成	ストレスモデルの家族への適応としての家族ストレス論とはどのようなものであり、どのような背景の中で成立してきたのか。R. ヒルを中心とした、理論の形成を辿る。	石原　邦雄	石原　邦雄
7	家族ストレス論の展開	ヒルの家族ストレス論を継承発展させた、H.I.マッカバンの2重ABC・Xモデルを中心に解説し、併せて、これと異なる理論化の方向にも注目する。	同　上	同　上
8	自然災害の被災者家族	家族ストレス研究で早くから取り組まれ、日本でも各種の研究が行われている自然災害の例を中心に、多くの家族を巻き込む地域的な環境の急変にさらされた事態における家族の様相と対応形態について検討する。	同　上	同　上
9	難病・障害と家族の危機	家族メンバーの一人が回復の困難な難病や障害を持つことになった場合、家族は最も身近かな援助者、扶養者としてどのようにしてその困難に対処していくか。多くの研究例を見ながら考える。	同　上	同　上
10	経済的危機と家族	これも家族ストレス論の成立に関連の大きかった、世界大恐慌のもとでの家族生活の困難と、それへの対応過程について、G.H.エルダーの研究例を紹介するとともに、近年の不況とも重ね合わせながら見ていく。	同　上	同　上
11	結婚とディストレス	・婚姻上の地位とディストレスの関連を検討することで夫婦関係が男性にとって持つ意味と女性にとって持つ意味の差異を論じる。 ・配偶者からのサポートの性別非対称的な構造について論じる。	稲葉　昭英	稲葉　昭英

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	仕事と家庭の葛藤と調整	・育児期の女性のディストレス、学齢期の子を持つ時期の女性のディストレスに着目することで家族と職業の関連を考える。 ・crossover effect, spill over effectに関するアメリカの研究を紹介し、職業生活と家族生活がどのような関連にあるのかを考える。	稲葉　昭英	稲葉　昭英
13	ステップファミリーのストレスとサポート **（※改訂回）**	継親子関係を含む再婚家族（ステップファミリー）が日本でも増加していると推測される。血縁関係のない継親子関係、継きょうだい関係を意識的に構築しながら家族をつくることの困難とサポートの意義を探る。	野沢　慎司	野沢　慎司
14	親子関係のライフコースとストレス	家族規範が揺らぐなかで、なお多くの家族が高齢者の扶養を実際に担っており、世代間の扶養関係は、親族関係も巻き込んで家族生活上の困難を生じさせる大きな問題であり続けている。他方、初期の親子関係や青年期・中期の親子関係にも新たな問題が生じている。	石原　邦雄	石原　邦雄
15	家族する困難と家族の将来 **（※改訂回）**	家族が大きく変化しつつあり、家族の捉え方も多様化しているなかで、ストレス論による家族分析をふまえて、これからの家族像をどのように描けるだろうか。	同　上	同　上

＝　人口減少社会の生活像（‘０６）＝（Ｒ）

〔主 任 講 師（現職名）：宮本　みち子(放送大学教授)〕

全体のねらい

ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々の生涯、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを与えるであろう。その実態を、とくに世代とジェンダーという切り口から明らかにし、これからの暮らしと社会の新しい地平を展望する。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	変動する社会の生活像	少子・高齢化、人口減少への転換という現象に着目しながら、現代社会の動向を整理する。また、半世紀にわたる暮らしの変遷を整理し、現代における暮らしを、家族・世代・ジェンダーという切り口で概観する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
2	少子・高齢社会のライフコース	近年の社会変動が、人々のライフコースにどのような影響を及ぼしているかをみていく。また、主体性と選択性という価値観が重要性を帯びているが、人々のライフコースにおいてそれがどのように発揮され、あるいは阻害されているのかを検討する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
3	個人と家族	人々の暮らしにとって、家族は重要な構成要素となっている。しかし家族の変化は著しく、これまでの暮らしの前提の見直しが必要とされている。そこで家族の実態とその歴史的変化を整理する。とくに、近年の労働力の女性化、非婚化、少子・高齢化、性役割構造の変化などを中心に、家族をめぐる状況変化を概観する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
4	親子と世代	子どもを産むこと、育てることをめぐる意識と行動の変化を家族というレベルでみていく。また、長寿化と少子化が進むなかでの老親のケアをめぐる意識と行動の変化についてもみる。また、人口構造および産業構造の変化のなかで世代間関係の実態をみていく。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	仕事の世界と働き方	少子・高齢化や国際競争の激化するなかで、労働市場は激しく変化している。終身雇用制の崩壊、中高年者のリストラ、若年者の無業化やフリーター化、女性の就労化などがその例である。仕事の世界の変化は世代・階層・ジェンダーごとに、その暮らしとライフコースに大きな影響を及ぼしつつある。また、職業という形態をとらない有益な仕事の重要性も増している。これらの実態を整理し、これから時代の仕事と働き方を展望する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
6	仕事と家庭	少子化・高齢化にともなう社会の構造的変化は、(第1回から5回までで見てきたように)、家族と労働の場を貫くジェンダー関係の変化を促している。そこで、日本よりも早くからゆっくりと人口構造の高齢化を経験してきているヨーロッパの社会政策から、男も女も仕事も家庭もバランスよく生きられる社会へのヒントを探っていく。	舩橋　惠子（静岡大学教授）	舩橋　惠子（静岡大学教授）
7	男性の育児参加	急激な人口構造の高齢化を経験しつつある現代日本社会では、実際に、どのようにジェンダー関係の変化が生じているだろうか。早くも変わりつつある部分と変わりにくい部分に注目しながら、私たちのライフコースや暮らしのあり方が変わっていくとき、男女はどのような問題に直面し、いかなる課題があるのかを見ていく。	舩橋　惠子（静岡大学教授）	舩橋　惠子（静岡大学教授）
8	若者期の生活像	ライフサイクルの各段階でライフスタイルは多様化し、それにともなう問題や課題がある。若者期に関しては、高等教育の大衆化、若年労働市場の逼迫と流動化、若者の職業意識の変化、晩婚化・非婚化が著しい。そこで、若者期の暮らしの実態と意識や行動の特徴を検討し、そこでの問題や課題を探る。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
9	現役世代の生活像	現役世代を、前半期と後半期に分けてみていく。前半は30代から40代前半の家族形成期であるが、未婚者や離婚経験者も増加している。その実態と課題を総合的に探る。後半は40代後半から50代の中年期であるが、この世代の家庭、仕事、ライフスタイルの実態を述べ、そこでの問題や課題を探る。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）
10	向老期・高齢期の生活像	まもなく本格的な高齢社会に入るが、向老期と高齢期の実態を、家族、雇用、社会保障、福祉と医療，社会活動等の切り口でみていく。また、親子関係に焦点をあてて交差する世代間の関係性を検討し、家族、社会保障、地域社会において、既存の世代区分、対立を超えた新しい世代間共同を作る課題を検討する。	宮本みち子（放送大学教授）	宮本みち子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人口減少と生活リスク	人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、ハザードを多様化・増大化させ、生活リスクのあり方に影響を与える。ここでは、人口減少社会における生活リスクの特徴と実態を、生活経済、生活関係等の視点から考察する。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
12	生活課題とリスクへの対処	人口減少社会における生活リスクへの対処は、人口増加社会そして成長型社会におけるそれとは異なるものとなるだろう。この回では、高度経済成長期以降の生活環境の変化とその中での生活課題の変遷を概観しながら、人口減少社会におけるリスクへの対処を含めた生活の課題について検討する。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
13	人口減少と地域の変容	少子高齢化はグローバル化や情報化とあわさって大きなうねりとなり生活に影響を及ぼす。その動態のなかで、地域もまた変容していく。生活者にとって地域が果たしてきた、子育て・教育の機能、生活文化伝承の機能、安全確保・リスク管理の機能などが、人口減少社会においてどのように変わっていくのか、その実態と課題を考える。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
14	地域の価値と生活の質	人口減少社会における社会システムの設計には、パラダイムの転換と新たな合意形成手法の確立が求められることになる。このとき、生活価値も生活状況も異なる複数の個人の生活の範域である地域は、合意形成の行われる最も身近な社会実態となる。人口減少社会における地域を考えることで、新たな社会設計を考える手がかりを検討していく。	奈良由美子(放送大学准教授)	奈良由美子(放送大学准教授)
15	人口減少社会の生活の創造	高度経済成長を支えた基礎的条件の消滅によって、この時期に形成され定着した社会制度、社会意識、ライフスタイルは、標準的とはいえなくなった。新しい社会モデル、生活モデルとはどのようなものか、そのためにはどのような課題があるのかを考える。	宮本みち子(放送大学教授)	宮本みち子(放送大学教授)

＝　衣生活の科学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴（放送大学教授）〕

全体のねらい

私たちは衣服を習慣的に着用し、その構造や性質について特に意識することがなく取り扱っているが、衣服はさまざまな領域の科学技術と関連しており、それらの進歩が衣服の多くの部分に反映されている。衣服は、形態や色・柄のような顕在的品質と水分や熱の移動、伸縮性、縫製などの潜在的品質を有している。衣服購入の際には、前者が重視される傾向が強いけれども、後者も合理的な衣生活にとっては欠かすことができない。この科目では、衣服の材料、縫製、着心地、洗たく、染色加工、繊維製品のリサイクル等の各事項を科学的な視点から捉え、私たちのもっとも身近にある衣服に対する科学的理解を深めることをとおして資源や環境など生活にかかわる諸現象に対する科学的な思考、判断につなげたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	衣服の品質と表示	衣服の品質は、色、柄、形態、縫製仕上げなどの審美的品質、着用快適性、取り扱いやすさなどの機能的品質、ブランド、原産国などの外在的品質に大別される。審美的品質は、表示がなくてもその衣服を見てあるいは触れて評価でき、外在的品質は表示を見れば明確である。表示があっても複雑なのが機能的品質であり、使ってみてはじめてわかる品質、使ってもわからない品質がある。これらの品質と表示について概説する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
2	衣服および生活関連繊維製品の素材	化学繊維は、それが製造されるようになった当初は、衣料品に用いられている天然繊維の代替品であったが、製造技術の進歩によってさまざまな特性を持つ化学繊維が出現し、衣服はもとより、寝装品、インテリア用品、産業資材などに多く用いられている。今日の快適な生活を支えているこれらの各用品にどのような性能を持つ繊維がどのように用いられているかを概説する。	同上	同上
3	染色と染料	染色とは、染料を溶媒(通常は水)にとかして(分散させて)、繊維に色素を定着させることである。単に色のついた水がしみ込むこととは違うし、ペンキを塗ったり、紙に印刷することとも全く異なる現象である。染料とはどういう物質で、染色とはどういう現象なのかを明らかにする。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
4	縫製の科学と技術(1) －縫い合わせるとはどういうことか－	複数枚の布をつなぎ止める方法には、布同士の融着や接着剤により布をくっ付ける方法（接着縫製）が開発されているが、布の柔軟性を損なわないで縫い合わせるには縫糸を用いたミシン縫製が最も適している。ここでは、その通常の縫糸を用いたミシン縫製に限定して、縫いの原理と基本的構造、ミシン機構を概説する。	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）

5	縫製の科学と技術(2) －縫製上に発生する各種の問題－	ミシンで縫われた布は縫目の力学的強度や仕立て映えと言われる外観の美しさ、さらには縫い易さなどの消費性能を十分に満たさなければならない。その消費性能は一般に「可縫性」と呼ばれている。可縫性は、シームパッカリングを始めとする、地糸切れ、目とびなどの「縫いの不良現象」を評価する用語である。ここでは可縫性について概説する。	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）	鎌田　佳伸（実践女子大学教授）
6	衣料サイズと表示	既製服に対する消費者の不満の一つはサイズである。メーカーは着用者別、体型別にいくつかのサイズの衣服を提供しているが、適合しない場合も少なくない。この実態を解説するとともに、衣料サイズの JIS 規格を成人女子用の衣服について説明する。さらに、身体の三次元計測技術の最近の進歩とその計測結果と連動させた個人対応の衣服生産システムの概要を説明する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
7	人の体温調節と衣服	熱帯地方などの極高温環境（+40~+50℃）であっても、冬山や極地などの極低温環境（－40~－50℃）であっても、人が健康に生活を営むには恒体温を維持する必要がある。約 100℃もの温度範囲の中で人はどのようにして恒体温を維持しているのだろうか。ここでは、衣服による温熱的快適性を実現するための基礎となる人体－環境系の放熱メカニズムと体内における産熱、自律性体温調節のしくみについて解説する。	諸岡　晴美（富山大学教授）	諸岡　晴美（富山大学教授）
8	衣服の着心地(1) －快適な衣服内気候の形成－	人の行動性体温調節の一つである衣服による体温調節の観点から温熱的な快適性を実現するためには、人体と衣服との間の気候（衣服内気候）を快適域に維持することが重要である。ここでは、環境条件と人体側の条件を踏まえ、衣服素材、衣服構造、着衣形態との関わりから解説する。また、温熱的快適性に関わる最近の新素材についても述べる。	同上	同上
9	衣服の着心地(2) －圧的快適性と身体拘束－	コルセットや纏足など歴史を辿ってみると、身体を拘束して健康を害した例が多々見られる。現代においても、女性用の補整下着による過度の締め付けが原因の症状を訴える女性が少なくない。一方、弾力靴下やスポーツウェアによる圧迫の効用も報告されている。ここでは、日常的に身に着ける衣服による圧迫が健康と快適性に及ぼす影響について解説する。	同上	同上
10	衣服の汚れを落とす界面科学の力	衣服についた油汚れは水になじみにくく、その除去には、水と油を混じり合わせる力を持った界面活性剤が用いられる。この界面活性剤はさまざまな種類と特徴的機能を持っている。開発されてきた歴史的背景を学び、洗浄機能を理解するために必要な界面科学の基礎知識を学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）

11	洗たくに役立つ洗剤の知識	日々の暮らしに衣類の洗たくは欠かせない。全自動洗たく機の普及とともに、私たちは洗たく浴中で行われている現象への関心が薄れてきたことは否めない。しかしながら、市販の衣料用洗剤には役割に応じたさまざまな成分が配合されている。快適な衣生活に向けた洗剤における汚れおとしの工夫を学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）
12	漂白・増白	洗たく後や、繊維製品の生産の前段階として、繊維を白くするための漂白と増白が行われる。いずれも白くすることであるがその原理は異なる。白いとはどういうことかにも触れながらその原理およびそこに使われている薬剤について概説する。また、漂白・増白に関するトラブル事例についても触れる。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
13	洗剤の安全性の評価と環境への配慮	衣服の洗剤を含め、家庭用品は安全に安心して使用されることが大切である。そのために、市販される前に製品性能とともに、環境および人体安全性についても確かめられている。洗剤の環境動態と環境問題の経緯と現状について学ぶ。	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）	田村　隆光（ライオン㈱化学品研究所所長）
14	染色物の消費性能	衣服を選ぶ場合、色やデザインといった外観がまず重要な要素であるが、その色が簡単に褪せたり、変色したりしては困る。変退色の起こる要因や原理に触れるとともに、変退色のしにくさの尺度である「堅ろう度」について述べる。また、染色品にかかわるトラブル事例についても触れる。	牛田　智（武庫川女子大学教授）	牛田　智（武庫川女子大学教授）
15	繊維製品リサイクルの現状と課題	持続的な発展を可能とする循環型社会を構築するために、生活資材の再商品化、再資源化の推進を図る容器包装、食品、家電、建設、自動車リサイクル法が制定されている。しかし、衣服をはじめとした繊維製品については、リサイクル法は制定されていない。このような状況にあっても、繊維製品の３R(リデュース、リユース、リサイクル)は推進しなければならず、この現状と課題について考える。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）

＝　食と健康（‘０６）＝（TV）

－食品の成分と機能－

〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：清水　誠　（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（奈良女子大学教授）〕

全体のねらい

食品には栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能がある。これらの機能を発現する成分を概説する。免疫系、消化系、循環系、神経系など生体調節の機構、有効成分について論じ、これらの成分を含む機能性食品を通じて健康の維持、がん、動脈硬化などの生活習慣病の予防への挑戦を述べ、理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	食品の機能	食品には三つの機能がある。食品に求められる第一は生命活動の維持に不可欠な栄養素が含まれていること、これを栄養機能（一次機能）と呼ぶ。おいしさ，好みなどの嗜好性も求められる。二次機能の嗜好性にかかわる機能である。さらに生体リズムの調節、生体防御、疾病の予防・回復などの生体調節機能（三次機能）がある。高齢化社会における健康への関心が高い現在、食による疾病の予防を目指す食の科学を概説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
2	糖　質	糖質（炭水化物）は主たるエネルギー供給源として重要である。ヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素である。単糖類、少糖類（オリゴ糖）、多糖類の構造と化学特性を解説する。各種化合物の配糖体としても存在し機能性を発揮する。機能性オリゴ糖、機能性多糖類について多様な機能についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）
3	脂　質	脂質（脂肪）はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、エーテル、クロロホルムなどの有機溶媒で抽出されるものを粗脂肪と呼び植物ステロール、ワックス、脂溶性ビタミン、脂溶性色素なども含まれる。脂質の化学的特性と機能性を紹介し、代謝についても解説する。	中谷延二（放送大学教授）	中谷延二（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	タンパク質	ヒトの設計図である遺伝子に保存されている情報は、最初にアミノ酸の配列、即ちタンパク質に翻訳されるが、タンパク質は栄養素として摂取されたタンパク質の構成アミノ酸を基に構築される。生命活動の全てがそのタンパク質の機能に依存し、構造体、酵素として体成分の合成、代謝をつかさどり、免疫機能など多用で重要な機能を発揮する。タンパク質を構成するアミノ酸、ペプチド、タンパク質の化学、機能、栄養について解説する	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
5	微量成分(ビタミン・ミネラル)	これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。	小城勝相（奈良女子大学教授）	小城勝相（奈良女子大学教授）
6	食品の嗜好成分(呈味成分、香気成分、色素)	食品には、ヒトの感覚（味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚）を刺激して食欲やおいしさを左右する働きがある。ここでは、食品のおいしさを概説し、食品に含まれる嗜好性に関与する化学的因子に焦点をあて、味、香り、色の化学特性と機能性について解説する。	菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）
7	味覚のしくみの分子論	たべものの“おいしさ”の主要な原因となる味覚は、私たちの口中の味覚器官が食品中の味成分の刺激を受容することによって生じる感覚である。こうして生じた感覚は、次に神経を介して中枢に伝達され、“味”として認識されるのである。近年、味の受容から認識までの機構が分子レベルで詳しく解明され始めた。同時に、味覚の発生と連動して起こる生理応答についての研究もスタートした。これらに関する最新のトピックスをわかりやすく解説する。	阿部啓子（東京大学大学院教授）	阿部啓子（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	食品成分の免疫系調節機能	ヒトをはじめ高等な生物には外界の異物（自己以外の他己）の攻撃に対して多様な防御機構を備えており、その一つが免疫系と呼ばれる防御反応機構である。ヒトの摂取する食品（経口的に取り入れられ消化管を通過する物質）にはいわゆる栄養素以外に例えば乳酸菌、キノコ、食物繊維など多様な成分（生物体や非栄養素）が存在し、ヒトはその成分の機能を利用して、免疫系を調節したり、外界の異物（生物）を排除する能力を昂進したり賦活したりしている。そのようなヒトの免疫機能のメカニズムと食品成分の関わりについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
9	食品とアレルギー	食品はヒトの生命活動を維持するのに必要な種々の栄養素や機能成分を供給し、健康を維持する。しかし、食品素材はヒトにとってはすべて自己以外の生物（異物）である。従って、ある条件下でこれらの異物が消化されることなく消化管から（ある場合は気道や皮膚から）体内に入り、異物（抗原）として認識されて抗体（特にIgE抗体）の産生が誘導され、即時型と呼ばれるアレルギー症状を発症する場合がある。食品成分のタンパク質を原因物質として引き起こされるアレルギーについて、アレルゲンとそれによる感作、発症の機構、食品成分による抑制、防御などについて解説する。	小川　正（関西福祉科学大学教授）	小川　正（関西福祉科学大学教授）
10	消化系・代謝系・循環系調節機能（I）	生活習慣病等を予防する食品の多くが、栄養素の消化・代謝・循環を制御する機能を持った食品成分を利用して開発されている。腸管での糖質の消化吸収を阻害することによって血糖値上昇を抑制する食品、コレステロールや中性脂質の吸収を阻害することによって高脂血症を予防する食品など消化系を制御する食品に加えて、肝臓などでの代謝系を調節して肥満を抑制する食品を紹介し、その作用機構について説明する。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）
11	消化系・代謝系・循環系調節機能（II）	腸管でのミネラル吸収を促進する食品成分は骨の健康維持などに重要である。一方、骨の形成や溶解に関わる細胞を調節する食品成分など、骨代謝系を調節する食品成分も見出され、骨粗しょう症の予防効果が期待されている。また、食品成分の中には血圧を調節する作用を持っているものが多数見出されている。これらを題材に、消化系・代謝系・循環系そして食品成分が相互に関連しあいながら生体を維持していることを学ぶ。	清水　誠（東京大学大学院教授）	清水　誠（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	生体内酸化	地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。	小城勝相（奈良女子大学教授）	小城勝相（奈良女子大学教授）
13	がん予防に期待がもたれる成分	生活習慣によって大きく左右される疾病の一つに“がん”があり、近年、食品あるいは食品成分によるその予防が注目を浴びている。本講義では、いかなる食材に発がん抑制効果が期待できるかや、その効果を担う食品成分の化学的実体、さらには作用機序につき解説する。	大東肇（京都大学大学院教授）	大東肇（京都大学大学院教授）
14	動脈硬化・糖尿病と食品成分	現在、動脈硬化や糖尿病を根治する治療薬や治療法は確立されていない。当然、これら疾病の発症そのものを予防できたという食品成分の報告はまだない。よって、予防に関しては可能性の域を超えてないが、進展や合併症を抑制する食品成分については、すでに科学的な証明とともに実利用され始めている。食後の血糖値上昇を抑制する成分、中性脂肪やコレステロール値を下げる成分などの特定保健用食品をはじめ、直接的・間接的な抑制効果が期待される食品成分についても概説する。	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）	森光康次郎（お茶の水女子大学准教授）
15	食による健康維持・増進 これからの食生活（対談）	本講義を通じて食品の機能の理解が深められ、特に味覚の認識機構や生活習慣病発症の抑制など食品成分が生体に働く機能を学んだ。医食同源、薬食同源といわれる意味を食品の生体調節機能によって裏づけられている。高齢化の進んだわが国において、最も関心の高い健康に焦点をあて、「これからの食生活」をそれぞれの専門分野の講師から対談形式で考察していただく。	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）	中谷延二（放送大学教授） 清水誠（東京大学大学院教授） 小城勝相（奈良女子大学教授） 菊崎泰枝（大阪市立大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511106	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 食品の安全性を考える （’０８）＝ （R）

※この科目は「食品の安全性を考える(’04)」を一部改訂した科目です。
改訂回は5，7，8，9回です。

〔主任講師（現職名）：嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）　〕

講義概要

2001年9月に起きたBSE問題を契機として、私たちの食の安全・安心が揺らいできた。食の安全とは何であり、食料輸入大国である日本に求められる安全システムはいかにあるべきか。この講義では、欧米先進国での状況を踏まえつつ、食品リスクの現状と課題、食品の安全基準や表示のあり方、リスク管理とリスクコミュニケーションのあり方を論じ、農業や環境問題との関係性についても考える。

授業の目標

食品の安全・安心は私たちの暮らしの中で最も重要な価値のひとつであるが、食生活の変化や輸入の増加とともに大きく揺らいでいる。そこで本講義では、安全かつ健全な食料を確保するために何が必要なのかについて、わが国と諸外国を対象に食品リスク上の制度とリスク管理の実態の両面から学習する。とくに、リスク分析の考え方、食品安全の制度・政策、リスクコミュニケーションのあり方などについて、身近な食生活、食料・環境問題などの視点から捉えることを主な目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ今、食品の安全性を問うのか	BSE問題や食品偽装事件を契機として、食品の安全性に国民的関心が高まった。それは食品衛生上の科学的問題にとどまらず、消費者の安全意識や社会経済システムとも深くかかわっている。世界経済の国際化と規制緩和の中で食品安全は一体どうなるのか、そして今後どうあるべきかについて考える。 【キーワード】 食品安全性、規制緩和、グローバリゼーション	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）
2	食品事故の歴史に学ぶ	食品事故は古くて新しい問題である。わが国で起きた森永砒素ミルク事件、カネミ油症事件、O157などの主要な食品事故について、その経緯と背景、原因と対策などをたどりつつ、また、諸外国の経験を通して、食品安全問題の歴史から私たちが何を学べるのかについて考える。 【キーワード】 食品事故、輸入食品の安全性	同　上	同　左
3	わが国の食品安全行政の構図	これまで、わが国の食品安全政策は主に食品衛生法（厚生労働省）と農薬取締法（農林水産省と環境省）に基づいて残留基準や安全使用基準などが定められ、対策が講じられてきた。日本の食品安全にかかわるこれまでの制度的枠組みとその特徴や変遷、そして今日的な課題について論じる。 【キーワード】 食品安全行政、食品衛生法、農薬取締法	同　上	同　左
4	食品安全の国際基準	世界共通の食品安全基準として、国連のFAOとWHO合同の食品規格委員会により定められるコーデックス基準（規格）がある。科学的データの分析に基づいて食品添加物や汚染物質の許容摂取量が示されるのであるが、国際貿易上のさまざまな対立も根深い。食品安全の国際基準のあり方を問う。 【キーワード】 コーデックス基準、食品添加物、許容摂取量	同　上	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	遺伝子組換え食品の安全性をめぐる諸問題 （※改訂回）	輸出入をめぐる国際間の競争と対立が激化する中で、バイオテクノロジー技術の進歩による新しい問題が浮上してきた。そこで牛成長ホルモンの使用の是非および遺伝子組換え食品の安全性評価をめぐる諸問題を取り上げ、そこから浮かび上がってくる問題の構図とわが国のあり方について考えたい。 【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子組換え食品、安全性評価	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田　良平（横浜国立大学大学院教授）
6	HACCPとISOによる安全管理への取り組み	食品安全の確保のための国際的なハーモニゼション（整合化）にむけて、民間企業が自発的に取り組むHACCPという安全管理の手法、そしてISOにおける品質管理面や環境管理面での国際標準の取り組みが注目されている。本章ではこれらの現状と課題について述べる。 【キーワード】 HACCP、ISO、食品安全の国際標準	同　上	同　左
7	欧州におけるBSE対策と新たな食品安全政策 （※改訂回）	BSE問題は欧州全体に拡大し、パニックをもたらしたが、欧州連合（EU）はその反省と教訓から2002年1月、画期的な食品安全法を制定した。消費者保護を第一の目的とし、リスク評価を行う食品安全機関を設置し、新たなリスク管理を行ってきた。EUの食品安全対策における一連の改革の軌跡を追う。 【キーワード】 BSE問題、リスク評価、リスク管理	同　上	同　左
8	BSE事件とわが国食品安全政策の新たな展開 （※改訂回）	2001年9月に起きたBSE事件の後、食品安全への不信と大混乱が日本列島を覆った。安全管理体制の欠如、消費者軽視の姿勢などの反省から、政府は食の安全・安心づくりに向けて法制度と行政組織の抜本的な見直しをおこなった。わが国の食品安全管理体制の改革のプロセスと課題について論じる。 【キーワード】 食品安全委員会、食品安全基本法	同　上	同　左
9	食品表示問題と有機農産物の基準 （※改訂回）	BSE問題とともに、食品の不正・偽装表示も一大社会問題となり、企業のモラルの低下と行政の責任が問われるに至った。消費者の商品選択に役立つ適正な表示はいかにあるべきか、有機農産物の規格と表示の問題、さらにはJAS法の改正などについて論じる。 【キーワード】 食品表示問題、有機農産物基準	同　上	同　左
10	トレーサビリティー・システムの導入と課題	食品安全をより確かなものにするためには「農場から食卓まで」の顔の見える関係を構築することがきわめて重要である。そこで、わが国が牛肉を対象にはじめて導入したトレーサビリティー法、さらには原産地表示の意義と課題、そして米や野菜などへの各種表示の新たな潮流と問題点について論じる。 【キーワード】 トレーサビリティー、原産地表示	同　上	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	リスクコミュニケーションと企業・消費者の役割	食品安全政策においては、科学的分析に基づくリスク評価、食品衛生・表示等を実施するリスク管理に加えて、消費者や企業とのリスクコミュニケーションがきわめて重要である。リスクの評価・管理主体と消費者・企業との双方向の意見交換のあり方について、さまざまな事例を取り上げつつ考える。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、企業のCSR、消費者の役割	嘉田 良平（横浜国立大学大学院教授）	嘉田 良平（横浜国立大学大学院教授）
12	食品安全の経済学	交通事故などと同様に、絶対に安全な（ゼロリスクの）食品はありえない。実際，消費者は限られた情報のもとで、安全の質や程度とコスト（費用）とのバランスの中で選択行動を行っている。なぜ食品安全では「市場の失敗」が起きるのか、効率的・効果的な食品安全政策とは何かについて論じる。 【キーワード】 ゼロリスク、費用対効果、市場の失敗	同 上	同 左
13	食卓からの安全・安心―スローフードのすすめ―	ファストフードが世界の食卓を変えつつある中、スローフードと呼ばれるイタリア発の食文化運動が国際的に注目されている。地域食材と伝統食を見直し、現代食のもつひずみを栄養・健康面、安全面、そして環境面から見直そうという「地産地消」運動である。その背景と意義、今後の展望を探る。 【キーワード】 スローフード運動、地産地消、伝統食	同 上	同 左
14	国産か輸入か―日本農業への期待―	世界有数の食料輸入大国であるわが国にとって、輸入食料の水際でのチェックは食品安全の重要ポイントであるが、国産農産物の安全検査と環境負荷面からの農法の見直しも不可欠である。より確かな安全・安心を得るためにも、日本農業を環境保全型へと転換せねばならない。その道筋を検討する。 【キーワード】 輸入食品の安全管理、環境保全型農業	同 上	同 左
15	食の安全をより確かなものとするために	生命の基礎をなす自然環境の悪化が地球規模で進む中、食品や食卓を取り巻くリスクもますます増大している。食品安全は、単に制度や政策を改めれば解決できるものではなく、市場システムや私たちのライフスタイルの転換をも求めている。食は生命と健康の基礎という原点に立って、今後を展望する。 【キーワード】 食育、地球環境問題	同 上	同 左

＝　暮らしの防犯と防災（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：清永　賢二　（日本女子大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：大野　隆造　（東京工業大学大学院教授）〕

全体のねらい

我々の生活環境にはさまざまな犯罪や災害リスクが存在することを認識し、犯罪や災害の発生のメカニズムについての科学的な理解を通して、それらによる被害を防止あるいは減ずるための方法について考察し、それに基づく実践的な取り組みに向けて適切な行動ができるようにすることに本講義のねらいがある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	暮らし・安全・危機 ～今日的課題としての防犯・防災問題～	２１世紀は様々な意味で「危機」から始まった。特に、犯罪や地震などの危機には深刻なものがあり、安全・安心な暮らしの確保が極めて重要な問題となって浮上している。暮らしの危機とは何か。安全とは何か。具体的に、いかなる取り組みが求められるのか。暮らしの安全学の基礎的枠組みについて考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授） 大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト：警察庁警察政策研究センター所長
2	犯罪からの安全・安心確保の基本原理 ～犯罪からの安全・安心な暮らしの作法～	犯罪はいかにして発生するのか。犯罪からの安全確保は果たして現実的に可能なのか。犯罪防止のためにどのような基本的手法が考えられるのか。犯罪発生のメカニズムを踏まえつつ、犯罪防止における社会的環境設計と物理的環境設計の２つの理論を歴史的視点も踏まえつつ整理し、その大枠を通し、犯罪防止の基本的手法とそのための現実的ツールを考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授） ゲスト：後藤　久（早稲田大学客員教授）
3	犯罪者行動の諸相 ～犯罪行動生態学の展開～	犯罪者はどの様な心理で、どのような行動選択原理で犯罪行動を実行するのか。現実的犯罪防止論構築のための基礎教養である犯罪者の行動特性を考える。	清永　賢二（日本女子大学教授）	清永　賢二（日本女子大学教授）
4	安全・安心な家づくり ～安全な戸建て住宅づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい、逆にいえば、実行しにくい戸建て住宅は、どの様な特性を持っているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な戸建て住宅づくりの基本設計指針を考える。	篠原　惇理（積水ハートフル研究所長）	篠原　惇理（積水ハートフル研究所長） 清永　賢二（日本女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	安全・安心な住棟づくり ～安全な集合住宅(街)づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい、逆にいえば、実行しにくい中・高層集合住宅は、どの様な特性をもっているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な集合住宅づくりの基本設計指針を考える。	小出　治 (東京大学教授)	小出　治 (東京大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 高野　公男 (東北造形大学教授)
6	安全・安心な街づくり ～安全な市街地づくりを目的とした物理的環境設計論の新たな構築～	犯罪の実行しやすい市街地は、どの様な空間特性を持っているのか。 犯罪の脅威から守られた安全な市街地形成の基本原理を考える。	平井　邦彦 (長岡造形大学教授)	平井　邦彦 (長岡造形大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 尾田　清貴 (日本大学教授)
7	安全・安心と近隣社会 ～安全な近隣社会づくりを目的とした社会的環境設計論の新たな構築～	犯罪からの安全確保のため、「人」はどの様な心構えや生活態度で手を結び暮らして行くことが大切か。 地域社会の基本単位である近隣社会は、安全な生活確保にいかなる役割を果たし、現代社会に適合するようその近隣社会をどのように我々は構築して行くのか。 犯罪の脅威から守られた安全な生活確保を目的とした地域での日々の暮らしの作法と、それを支える近隣社会づくりについて考える。	重川希志依 (富士常葉大学教授)	重川希志依 (富士常葉大学教授) 清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 石附　弘 (日本市民安全学会会長)
8	犯罪の脅威から守られた安全・安心な暮らしづくりの現在そして将来 ～市民・自治体・警察の三位一体的取り組み～	犯罪からの安全確保に向けて、様々な取り組みが急速に進行しつつある。 それらの取り組みを整理すると同時に、市民（NPO・企業等も含む）、自治体、警察が共同して、いかなる取り組みを今後進めねばならないかについて考える。	清永　賢二 (日本女子大学教授)	清永　賢二 (日本女子大学教授) ゲスト： 伊藤　滋 (東京大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	災害の諸相	災害が自然および人間の活動の相互関係によって定義されることを述べ、国内外の災害事例を通覧してさまざまな自然災害および技術的災害の存在を再確認した上で、それらの種類と特徴を明らかにして、対処方法を考える基礎を学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)
10	地象による災害	地震や火山噴火など、地象による災害発生のメカニズムを科学的に捉えるための基本的な事項について理解を深めた上で、それらによる被害を最小限にするための対策として、物理的、社会的環境の整備がどのように行われているかについて学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 翠川　三郎（東京工業大学教授）
11	気象・海象による災害	台風、大雨、津波、高潮など、気象および海象による災害発生のメカニズムを科学的に捉えるための基本的な事項について理解を深めた上で、それらによる被害を最小限にするための対策として、継承されてきた伝統的知恵および最新技術による生活環境の整備の方法について学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 福島　駿介（琉球大学名誉教授）
12	火災	火災の発生および延焼拡大のメカニズムについて、燃焼の原理および熱や煙の挙動の現象を理解した上で、被害拡大の要因を考え、合理的な防火対策の基本について講じる。その上で、時代とともに変化してきている火災の様相について理解を深め、今後の防火安全への市民の取り組みについて学ぶ。	山田　常圭（消防研究センター研究企画部長）	山田　常圭（消防研究センター研究企画部長） 大野　隆造（東京工業大学大学院教授）
13	災害と情報	災害発生時に適切な行動により被害を最小限に抑えるための情報や、災害が発生する前にそれに備えるための情報として、どのような情報が必要とされ、それらが提供されるしくみについて理解を深め、災害に関わる情報を有効に正しく活用するための基本的な事項について学ぶ。	大野　隆造(東京工業大学大学院教授)	大野　隆造(東京工業大学大学院教授) ゲスト： 大月　一弘（神戸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	災害と人間行動	災害に関連して考慮すべき人間行動としては、災害に備えるための平常時における準備・対策行動や緊急時の対応行動などがある。本講義では、それらの行動に影響する私たちの心理的・行動的な特性の理解を通して、災害に対して適切な姿勢と行動を取るための基本的な事項を学ぶ。	大野　隆造（東京工業大学大学院教授）	大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト： 室崎　益輝（関西学院大学教授）
15	都市の現状と防犯・防災への取り組み	今日の大都市が抱える防災上の問題を具体的に指摘するとともに、今日行われている災害に対するハード面、ソフト面からのさまざまな取り組みについて紹介し、今後の防災的な社会のあるべき姿を考える。最後に、前半で扱った防犯についてのレビューを含めて、安全で安心な暮らしを定着させる道筋を考え、本講義全体のまとめとする。	大野　隆造（東京工業大学大学院教授）	大野　隆造（東京工業大学大学院教授） ゲスト： 翠川　三郎（東京工業大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1510916	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 失敗予防の住まい学 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：服部 岑生（千葉大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：上野 武 （千葉大学教授）〕
【担当専任講師：本間 博文（放送大学教授）】

講義概要

住まいづくりから住まいに住み続ける過程で住まいにかかわるいろいろな問題が発生する。これらの問題を解決しようとする受講者（市民）のためのハードからソフトに及ぶ知識を解説する。ハードの知識は、設計の方法、住宅の構法、設備の計画などと失敗予防の関係を扱い、ソフトの知識は、住宅の購入、賃借および管理の方法と失敗予防の関係を扱う。はじめの講義は、市民のための住居学の構成を解題し、最後の講義は近年のマンションの構造偽装問題に触れて、具体的な問題への適用とこれからの優良な住まいづくりの条件について述べる。。

1. 失敗と優れた住まいづくりの基本的な知識（1～4章）
2. 建物としての住まいの問題（5～10章）
3. 契約と住み続けるための知識（11～13章）
4. リフォーム・および今後の問題（14～15章）

授業の目標

住まいづくりでは、住まいを求める人が適切に自身の要求を優良な住まいとして実現できることが大切で、全15回の講義を通じて、トラブルや欠陥のない住まいづくりの知識を学ぶ。同時に、住まいの建築主の立場だけででなく、建築士や工事業者との関係、居住者と近隣に居住する人々との関係について学習し、バランス良く住まいを作っていく知識を学習する。さらに、いろいろな視点から日本の住まいづくりと英国の住まいづくりを比較し、失敗を予防する住まいの知識や政策について学び、失敗のない住まいづくりの深い考え方を学ぶ。

履修上の留意点

放送大学の関連授業科目を参照すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	失敗と予防	授業の理解に必要な住まいづくりの失敗の種類と用語、その予防法などの関係を紹介する。次に、住まいの失敗の発生頻度の多い種類と、事例により原因を推理することの難しさを明らかにし、失敗予防が最も重要な方法であることを理解する。終わりに住まいづくり守る社会制度を日英で比較考察する。 【キーワード】 住まいづくりの流れ、失敗、不具合、クレーム、トラブル、建築主、失敗の種類、失敗の頻度	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
2	優良な住まい	住まいは、強さ・使いやすさ・美しさが基本的に大切である。住宅政策で表示される10の性能－地震に対する強さ、火災時の安全性、劣化のしにくさなど－を解説するとともに、総合的に住まいと環境の性能の考えかたの変遷と今後有望な住まいのビジョンを考察する。 【キーワード】 住宅性能表示制度、地震に対する強さ、火災時の安全性、劣化のしにくさ、維持管理更新、住環境の性能、自立循環型住宅	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
3	建築主の失敗予防	住まいづくりのはじめにする設計の流れとそこで重要な設計図書について学ぶ。設計の専門家（建築士）から設計のポイントや失敗予防の知恵を聞く。次に失敗をサポートする弁護士の注意と公的なサポートの仕組みを学ぶ。 【キーワード】 建築士、弁護士、裁判所、設計図書、契約文書、住まいづくりの記録	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	住まいづくりへの参加	住まいの設計で決める住まいの特徴と性能の関係、これからの住まいに重要な生活のトラブル予防と住まいの特徴に合った暮らしの工夫について、建築主が参加できる失敗予防の知識を学ぶ。 【キーワード】 平面計画、間取り、環境計画、材料計画、規模、残響時間、共用部分、コミュニティ、住みこなし	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
5	戸建住宅の構法	自分の住まいは自分で守る。そのためには住まいの各部がどうなっているかを知る必要がある。ここでは最初に木造の構法の概要を、次いで戸建住宅に多い在来木造軸組構法の各部の造りと木造戸建住宅で問題となりがちな不具合について学ぶ。 【キーワード】 在来軸組、垂木、根太、間柱、野縁、雨漏り、傾斜、腐朽、経年劣化	大野隆司（東京工芸大学教授）	大野隆司（東京工芸大学教授）
6	共同住宅の構法	引き続き、住宅の各部構法を中心に学ぶ。最初に鉄筋コンクリート（RC）造の構法の概要を、次いで共同住宅に多いRC造による構法の各部の造りとRC造共同住宅で問題となりがちな不具合について学ぶ。 【キーワード】 RC造、スラブ、かぶり厚さ、外断熱、直張り、漏水、剥がれ、結露、ひび割れ、床衝撃音	大野隆司（東京工芸大学教授）	大野隆司（東京工芸大学教授）
7	住まいの設備	住宅設備を見るときに留意すべき点を述べた後に、住宅設備に関わる各種の不具合を紹介し、これらの不具合を避けたり不具合が生じたときに適切な対応をするための基礎知識を学ぶ。また、住宅設備に関わる新しい動向を知ることによって失敗を予防する。 【キーワード】 給水設備、換気設備、暖房設備、冷房設備、電気・情報設備、点検、メンテナンス、取扱説明書、設計図	川瀬貴晴（千葉大学教授）	川瀬貴晴（千葉大学教授）
8	住まいの環境	光、熱、音に関わる環境の中から、採光、断熱、気密、日射利用、日射遮蔽、通風、騒音など、快適に暮らすために必須の事項について、その評価手法を概説する。また、これらの環境に大きな影響を与える住宅設備の役割についても学ぶことにより、このような環境面での失敗を予防する。 【キーワード】 採光、断熱、気密、日射利用、日射遮蔽、通風、騒音、冷房、暖房、省エネルギー	川瀬貴晴（千葉大学教授）	川瀬貴晴（千葉大学教授）
9	住まいと健康	私たちの健康を阻害するおそれのある住宅とはどのようなものなのかについて解説し、健康に生活できる住まいを実現する方法を考察する。特に、住宅の気密性能向上に伴って近年増加しているシックハウス問題について詳しく紹介する。 【キーワード】 住宅内事故、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、24時間換気、アレルギー、シックハウス、VOC、F☆☆☆☆	上野武（千葉大学教授）	上野武（千葉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	持続可能な住まい	住まいを長持ちさせるにあたって重大な障害となる「雨漏り・漏水」と「結露」の問題を取り上げ、その原因と予防方法を勉強する。さらに、持続可能な住まいを実現していくために必要な考え方や、維持管理方法などについて解説する。 【キーワード】 社会資産、安全性、雨漏り、漏水、結露、持続可能性、SI住宅、維持管理、住宅カルテ、サステイナビリティ	上野武（千葉大学教授）	上野武（千葉大学教授）
11	住まいの購入	住まいについてのトラブル予防のために、住宅そのものではなく、住宅を購入する仕組みのなかで起こる失敗について解説し、トラブルや問題発生の予防、解消を目指す。最初に、住宅を購入する際の基本的な知識を学ぶ。住宅購入のプロセスと契約の意味と手続きなど、住宅および敷地の権利関係について説明する。 【キーワード】 住宅情報、契約、重要事項説明、宅地建物取引主任者、登記、瑕疵、クーリングオフ、アフターサービス	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
12	住まいを借りる	住まいを借りる場合、借りる手続きや居住中に起こる失敗について、トラブルや問題発生の予防、解消を目指すを取りあげ、住宅賃貸借契約などの基本的な知識を学ぶ。 【キーワード】 賃貸借契約、原状回復、定期借家	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
13	マンションの管理	住まいの管理問題発生の原因は、入居前から潜んでいる。区分所有型のマンションを取り上げ、予想しにくい問題発生のメカニズムをときあかし、失敗予防と解決のためのマンション管理の知識を学ぶ。マンションの所有と管理の仕組み、大規模修繕、マンション管理の支援体制について説明する。 【キーワード】 区分所有、マンション、管理、管理組合、理事会、総会、管理規約、長期修繕計画、大規模修繕、管理費、修繕積立金	斉藤広子（明海大学教授）	斉藤広子（明海大学教授）
14	リフォームから再生へ	住まいは、建物として古くなり寿命が来ると、リフォームや建替が必要になる。リフォームは事件が多く、失敗を防ぐ手続きを解説する。リフォームや建て替えの判断をどうするかなどのプロセスを学ぶ。次に、住民の合意によって行う共同住宅の建替や再生の課題やその住宅地の実態を解説する。 【キーワード】 寿命、物理的耐久性、機能的耐久性、模様替え、リフォーム、コンバージョン、リノベーション、建替、再生、合意形成	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）
15	失敗のない社会	構造偽装の問題を切り口にして、今後の住まいづくりで大切な良い住まいづくりの提案を述べる。また、住まいづくりをサポートし監視するために市民の目線の組織作り、および良い住まいづくりに必要な新しい住居学の発展を期待して終わる。英国の制度を紹介する。 【キーワード】 構造偽証、耐震補強、NPO、CABE、CAT、住教育、失敗学、調和のある街並み	服部岑生（千葉大学名誉教授）	服部岑生（千葉大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1512609	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　公衆衛生　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：多田羅 浩三（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：瀧澤 利行（茨城大学教授）〕

講義概要

公衆衛生制度は、産業革命が進む中で都市への人口集中を背景として生まれた、不衛生と疾病、貧困の悪循環という状況に対し、人間の健康を守るという観点から求められた、社会の関与の方式として生まれたものである。結果として、公衆衛生制度はカバーする領域は極めて広く、その事業のほとんどは自治体によって担われている。本科目では、公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学び、健康日本21、特定健診・保健指導などが実施されることになったことの意義などについて学ぶ。

授業の目標

現代では、人々の生活、そして健康は、広く社会の制度に支えられていることは明らかである。公衆衛生は、社会の制度の中の中核をなすものである。しかし公衆衛生の歴史や体制、内容、そして今日の新しい展開の意義を学ぶことによって、社会に管理されるのではなく、社会に参加し、自ら生活や健康を守り、向上を図るという実践をすすめるための知恵を培って欲しい。

履修上の留意点

公衆衛生を学ぶことは、自ら生活する自治体や仕事をする職場、あるいは所属する団体が、それぞれ地域や職域の健康増進や環境保護にどのような役割を果たすことができるか、それに対し各人がどのように参加することができるか、ということを学ぶことであるということに留意して履修して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	公衆衛生制度の誕生	公衆衛生制度は、不衛生と疾病と貧困の悪循環という課題に直面する社会環境の中にある人間の健康を守るという目的のために、自治体の機能を中核として多様な役割を果している。公衆衛生制度の母国であるイギリスにおけるあゆみを中心に、社会による防衛、予防の推進、福祉からの独立、衛生の規則と地方当局の規則などの点から、公衆衛生制度の成立、発展の系譜について考えてみたい。 【キーワード】 社会の関与，画一主義，公衆衛生法，国家医学，保健医官，自己制御という知恵	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
2	わが国の公衆衛生	わが国の公衆衛生は、ヨーロッパ諸国の例に学び、非常に充実した体制を有している。そのことが世界一の平均寿命や世界一低い乳児死亡率の記録に現われている。そのような輝かしい記録を達成したわが国の公衆衛生あゆみについて、医制の公布、伝染病予防、保健所の誕生、国民健康づくり計画、市町村の保健事業、保健福祉施策の新しい展開などを中心に学ぶ。 【キーワード】 衛生制度，「医制」，医務取締，保健所，アルマ・アータ宣言，老人保健法，健康日本21	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
3	健康水準・健康指標と衛生統計	公衆衛生を学ぶ者の基礎知識として、人口静態統計、人口動態統計（出生率、死亡率、再生産率など）、平均余命と平均寿命、将来人口、有病率、罹患率、国際疾病分類、国民の健康に関わる主要調査報告、衛生統計と疫学的方法の基礎について学ぶこととしたい。 【キーワード】 健康水準，健康指標，人口動態，衛生統計，疫学的研究	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	母子保健	わが国は今日、深刻な少子高齢化時代を迎えている。その中で働く女性の母性の保護をどのように確保していくか、子どもの健やかな成長をどのように保障していくか、重大な課題に直面している。それらの点をふまえ、母性の保護、乳幼児の保健、母子保健事業、エンゼルプラン、健やか親子21などの項目をもとに検討したい。 【キーワード】 発育発達，母子保健行政，母子保健サービス，健やか親子21	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）	菊田文夫（聖路加看護大学准教授）
5	感染症	多数の人々の生命を奪ってきた感染症と人類の医学の闘いについて考えることから始め、今日の激動する国際情勢の中での感染症対策まで、包括的に感染症予防の概要を見ていくことにする。特に新興・再興感染症の国内への侵入対策は、重要な社会防衛上の課題になっている。また、結核、性感染症についても、その対策の強化が望まれている。これらの動向をふまえ感染症の種類、感染症対策、結核、性感染症、健康危機管理などの項目について考えたい。 【キーワード】 疫学，ジョン・スノー，感染成立の原則，新興感染症，再興感染症	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
6	成人保健と疾病予防・健康管理	わが国は平均寿命世界一の記録を達成しているが、生活習慣病による死亡率、罹患率は激増している。また後期高齢者人口が今後20年間に1100万人の増加が予想されている。そのような動向をふまえ、生活習慣病対策、循環器病対策、がん対策、糖尿病対策、歯科保健、こころの健康、要介護高齢者、認知症高齢者、市町村の保健事業などを考えたい。 【キーワード】 疾病予防の段階，生活習慣病，がん予防，メタボリック・シンドローム，特定健診，特定保健指導	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
7	学校保健	近年、次代を担う、学童の健康状態や就学状況について、肥満、あるいはやせ願望、情緒不安、暴力など、深刻な課題に直面していることは周知のとおりである。これらの課題を念頭におきつつ、学校保健の歴史、学校保健の構造と機能、学校保健管理、学校保健教育、学校保健組織活動等について学ぶ。 【キーワード】 学校保健管理，学校保健教育，学校保健組織活動，学校健康診断，学校環境衛生	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
8	産業保健	厳しい経済環境、日進月歩の技術開発、市場競争の激化の中で、働く人たちの健康状態について、とくにメンタルヘルス面における課題は、年々深刻になっている。これらの認識に立って、産業保健の歴史、働く人たちの健康状態、職業病、作業環境、労働安全衛生対策などについて学んでいきたい。 【キーワード】 労働安全衛生，職業性疾病，作業管理，作業環境管理，健康管理	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	環境保健	温暖化の進行、都市開発、住宅造成、公共事業の強行など環境破壊につながる状況が続く中で、環境保健の確保は、きわめて深刻な課題となっている。これらの理解のために、環境の概念、環境刺激と生体、物理的・化学的・生物的環境条件、環境管理、公害と地球環境問題とその対策について学びたい。 【キーワード】 恒常性，量－影響関係，量－反応関係，公害・地球環境問題	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
10	生活環境	食品の外国産材料への全面依存、ファーストフード、外食産業への依存、多様な建材の使用、甚大な生活廃棄物の発生など、国民の生活は厳しい環境に取り巻かれている。より良い生活環境の確保は、公衆衛生の原点であり、生活衛生と健康、衣服の改良、食品の安全、住居の安全、生活廃棄物の処理などを中心に検討を加えたい。 【キーワード】 環境決定論，食品衛生，衣服下気候，室内環境，リサイクル社会	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
11	高齢者の保健福祉と介護保険制度	高齢人口の急増に対し、展開されてきた高齢者を対象とした保健福祉制度の特徴について考えたい。老人保健制度および高齢者介護を福祉制度から独立させ、保険制度による運営に転換された介護保険制度について、制度制定の意義、制度の仕組み、介護保険事業計画、介護保険施設、施設サービス、居宅サービス、保健事業などの面から、制度のあり方、将来の展望などについて検討したい。 【キーワード】 高齢社会，認知症，要介護状態，介護保険法，ノーマライゼーション	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
12	地域保健体制	プライマリケア体制の構築という位置づけのもとに、最も古く、教訓に満ちた取り組みをすすめてきたのはイギリスである。この国でのあゆみから、何を学ぶことができるか、そのことを、最初に考えたい。わが国の地域保健体制について、中核を担ってきた保健所の推移と現状、保健事業の保健所から市町村への移管などの動向をふまえわが国の地域保健体制の特徴について、その課題、展望について考えたい。 【キーワード】 プライマリケア，国民保健サービス（NHS），地域保健法，保健所，市町村保健センター	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）
13	医療制度	医療制度を担う専門職の中で、最も古い歴史を有しているのは医師であり、医師職の興隆の系譜と各国の医療制度のあり方は深い関連を有している。わが国では、医薬分業が行われてこなかったことが、わが国の医療制度を国際的にも、非常にユニークなものにしてきたという経過がある。これらの点をふまえ、わが国の医療制度について、医療法改正の推移、医療保険制度、医療施設、医療保健関係者、高齢者の保健と医療などの面から，その概要について学ぶ。 【キーワード】 フィジシャン，アポセカリー，医薬分業，医制，医療法改正，国民皆保険体制，老人保健法、高齢者医療確保法	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	健康日本21から特定健診・保健指導へ	平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。人々の多様な健康状態、とくに生活習慣病による罹患、死亡の増加ということに対し、従来の医慮保険制度や市町村の保健事業などへの制度依存型の対策では十分な成果をあげることが困難であることが、明らかになってきた。そして、国民を主役とする施策として実施されることになったのが、健康日本21である。さらに平成18年6月の高齢者医療確保法の制定にともない，20年4月に保険者による特定健診・保健指導が発足した。その推進には、大きな期待が寄せられている。こうして、健康日本21が発表され、特定健診・保健指導が実施されることになったことの意義を中心に考察したい。 【キーワード】 平均寿命，生活習慣病，市町村の保健事業，医療保険制度の限界，健康増進法，メタボリック・シンドローム	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
15	国際保健	国際交流の激増、開発途上国における政情不安、新興・再興感染症侵入の危険などの状況がある中で、 WHO、平均寿命の国際比較、死亡率の国際比較、国際保健上注目すべき疾病、AIDSの現状、大都市の保健事情、医療費の国際比較などについて検討し、国際保健のあり方について考えたい。 【キーワード】 世界保健機関（WHO）・プライマリ・ヘルス・ケア・ヘルスプロモーション・赤十字活動・NGO・NPO	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）	瀧澤利行（茨城大学教授・放送大学客員教授）

＝　脳科学の進歩（‘０６）＝（TV）

－分子から心まで－

〔主任講師（現職名）：田中　啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター領域ディレクター）〕
〔主任講師（現職名）：岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センターグループディレクター）〕

全体のねらい

私達が物を見る、考える、覚える、行動する、これらは全て脳の働きです。脳には１００億個以上の神経細胞があり、１０兆個以上の結合によって相互に情報をやり取りしています。この情報のやり取りの中から全ての精神作用が現れてきます。この講義では、神経細胞の働きに関するいろいろな分子の解説から始めて、人にしか現れない高次な認知機能の仕組みまで、平易に解説します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	脳神経系は行動を効率的に行うために情報の伝達、処理、記憶を行うために発達したシステムである。脳神経系の構造を概観し、脳の何が不思議かを考える。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト：糸原重美（理化学研究所脳科学総合研究センター）
2	神経細胞の働き（１）	神経系を構成する基本単位である神経細胞は、細胞の内外のイオン濃度の違いを巧みに利用して、電気的に興奮する。神経細胞が、電気的興奮によってどのように信号を伝達することができるのかについて学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）
3	神経細胞の働き（２）	神経細胞同士は、シナプスという特別な構造を介して連絡しあっている。シナプスでは信号が化学的に伝達される。シナプスにおける信号伝達効率の変化は脳神経系の学習の基礎である。シナプスにおける情報伝達の仕組みを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	脳の発達	脳は、神経細胞がつながってできた精巧なコンピューターである。しかし、コンピューターと違って、脳は受精卵が分裂してできた多数の細胞から、ひとりでにできてしまう。それがどのような仕組みでおこるのかを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 上口裕之（理化学研究所脳科学総合研究センター）
5	自律神経系とホルモン	我々はことさらに意識しなくても、呼吸数、心拍数、体温、血液のpHなどを環境の変化に応じて最適な値に調節することができる。このような生体機能が、自律神経系とホルモンによってどのように制御されているのかを学ぶ。更に脳内で分泌されるホルモン様の神経ペプチドが、食欲、睡眠、配偶者選択などの本能的行動にどのようにかかわっているのかを学ぶ。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 荒田晶子（理化学研究所脳科学総合研究センター）
6	随意運動の制御	随意的な運動は脊髄の神経回路を大脳皮質運動関連領野が駆動して行われる。大脳の運動関連領野には脊髄に直接結合する第一次運動野とこれを上位から制御する高次運動野がある。大脳が随意運動を実行し、制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）
7	小脳と大脳基底核	随意運動を行うときは大脳皮質ばかりでなく小脳と大脳基底核が働く。小脳は運動を予測制御する。大脳基底核はいくつもある行為の候補の中から状況にあった行為を選択したり、行為のスイッチを制御したりする。小脳と大脳基底核が運動を制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター）	田中啓治（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 永雄総一（理化学研究所脳科学総合研究センター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	知覚と認識	感覚器で受容された感覚刺激を知覚し、記憶と参照して認識が成立する。知覚と認識には大脳皮質の感覚関連領野が働く。視覚を例にとって、網膜および大脳皮質第一次視覚野での情報処理、高次視覚野での情報統合の仕組みを学ぶ。	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター) ゲスト:Dr. Kang Cheng(理化学研究所脳科学総合研究センター)
9	選択的注意	感覚器から入ってくるたくさんの情報を全て知覚することはできない。注意を向けた空間位置、感覚モダリティーの情報だけを選択的に知覚する。選択的注意には大脳皮質の頭頂連合野が重要な働きをしている。選択的注意の現象と仕組みを学ぶ。	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)
10	記憶・学習と神経系の可塑性	脳の神経回路は、生涯にわたって、おかれた環境に応じて柔軟に変化する。このような脳の可塑性が最も必要とされる学習と記憶に着目し、その仕組みを学ぶ。具体的には、条件反射や長期記憶において、神経系の結合の様式がどのように変化するか学ぶ。また、海馬が位置記憶や連想記憶とどのように関わっているのかを学ぶ。	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター)	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター)
11	行動の認知制御	行動が複雑になるにともない、時間を跨いで保持した情報を制御に用いる必要がある。後に遂行する行為のために特定の情報を選択して保持する機能を作業記憶と呼ぶ。作業記憶には前頭前野が重要である。作業記憶を中心に前頭前野が行動を計画し制御する仕組みを学ぶ。	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)	田中啓治(理化学研究所脳科学総合研究センター)
12	情動、本能	恐怖、喜び、怒りなどの情動が、神経系のどのような仕組みで制御されているのかを学ぶ。具体的には、恐怖刺激に対する反応や行動における、扁桃体の役割を学ぶ。さらに、情動的神経回路をモノアミンがどのように制御しているかを解説し、抗不安薬の作用機序や、情動と認知機能の相互作用についても学ぶ。	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター)	岡本仁(理化学研究所脳科学総合研究センター)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	脳と言語	言葉は脳が作る。しかし同時に、言葉は社会が作るとも言える。わたしたち人間を特徴づける性質である言葉について、神経細胞の活動から遺伝子の発現まで、社会との関連を考えながら学ぶ。	岡ノ谷一夫（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡ノ谷一夫（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 馬塚れい子（理化学研究所脳科学総合研究センター）
14	神経疾患、精神疾患	脳は一度破壊されると修復が非常に困難である。いまや長寿高齢化社会になりアルツハイマー病には誰もがなる可能性がある。狂牛病のようなまれな病気ですら我々の食事から感染の可能性が出てきた。ストレス社会で心の病にもかかりやすい。このような脳の病気の症状、発症メカニズムについての最近の知見について学ぶ。	貫名　信行（理化学研究所脳科学総合研究センター）	貫名　信行（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 加藤忠史（理化学研究所脳科学総合研究センター）
15	脳科学から社会へ	現代社会において、私たちを取り巻く生活環境はめまぐるしく変化し、その中で、よりよい生活を獲得するためには、私たちの脳には最大限の適応能力が要求されている。あるいは、脳の様々な疾患は、そのような環境への適応を困難にする。これまでに学んだ、脳が作られ働く仕組みに関する知識が、現代社会における私たちの生活の向上に今後どのように生かされるのかを学ぶ。 具体的には、神経発生の知識が、脳の再生治療にどのように利用されるのか？脳科学の発展は、精神疾患のより統一的な理解に結びつくのか？脳と環境との相互作用が神経回路の生後発達にどのような影響を及ぼすのか？さらに、そのような知識が教育の改善のために還元できるのか？脳科学は、コンピュータ科学とどのように関わり合いながら発展していくのか？などの疑問について、ゲスト出演者によるいくつかの実例を示しながら今後を展望する。	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター）	岡本　仁（理化学研究所脳科学総合研究センター） ゲスト： 笹井芳樹（理化学研究所発生・再生科学総合研究センター） Dr. Takao Hensch（理化学研究所脳科学総合研究センター） 谷　淳（理化学研究所脳科学総合研究センター）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 感染症と生体防御 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：岸本　忠三（大阪大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：岩本　愛吉（東京大学教授）〕

講義概要

本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。
健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核、プリオン病はもとよりSARS、新型インフルエンザ、ウエストナイル熱などの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。

授業の目標

交通機関の発達、生活様式の変化、そして医療技術の進歩や医療行為に伴い現代社会に脅威を及ぼしている感染症の特徴を正しく理解するとともに、これら感染症などに対処するためにヒトが有している免疫システムの特徴および多様性について理解を得るようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	感染症と免疫システム・生態防御機構総論	疫（感染症）を免れるという体の免疫のしくみ、免疫系を構成する要素とその働きについて解説する。抗体の構造と機能、抗体の種類とその生物学的活性、抗体の多様性を生み出す遺伝子の再構成、抗体を作り出すリンパ球の種類とその機能、リンパ球の働きを調節する分子等ついて述べる。 【キーワード】 自然免疫と獲得免疫、抗体、抗体遺伝子の再構成、Bリンパ球、Tリンパ球	岸本　忠三（大阪大学大学院教授）	岸本　忠三（大阪大学大学院教授）
2	現代社会と感染症	わが国の感染症対策は明治維新以降の国家体制の整備とともにはじまり、医学の進歩等により感染症は急速に制圧されていった。しかし交通機関の発達や医学の進歩により克服されたと思われていた感染症は、薬剤耐性を獲得するなどして、その様相を変えて再び現代社会の脅威となっている。また、これまで知られていなかった新たな感染症も出現している。感染症対策には医療体制の整備など発生時の的確な対応のみならず、法制度等の整備による事前対応型対策の展開、国際協力などの政策が重要となる。また、対策を講じるにあたり関係者や国民の理解の促進も図らねばならない。講義では国民に脅威を及ぼしてきた感染症の変遷、そして対策の変化を理解する。 【キーワード】 感染症対策の三原則、抗生剤、予防接種、感染症法、薬事法、事前対応、国際協力	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
3	新興・再興感染症：総論	20世紀後半には、「感染症は克服された」という認識が支配した時期がある。しかし、実際にはその後さまざまな感染症が出現している。講義では、新興・再興感染症という考え方が提唱された時代背景、大規模な感染症が成立するための条件に関する歴史的考察、グローバリゼーションと感染症などに関して情報を提供し、感染症に関する理解を深める 【キーワード】 人口、交通、食経済、人獣共通感染症、グローバリゼーション	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	ウイルス感染症を主とした新興・再興感染症：各論	ウイルス感染症を中心に新興感染症の各論を解説する。具体的には、高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群（SARS）、ニパウイルス脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症と子宮頸がんなどについて重要点を個別に解説する。また、制圧されたと考えられるウイルス感染症が再燃し、再興感染症となる用件について、麻疹ウイルス、肝炎ウイルス等を例に挙げて考察する。 【キーワード】 高病原性鳥インフルエンザ、ウエストナイルウイルス感染症、重症急性呼吸器症候群（SARS）、ニパウイルス脳炎、麻疹	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）	岩本　愛吉（東京大学医科学研究所教授）
5	寄生虫等感染症①	寄生虫感染症はウイルス、細菌などの感染症と比較して生物学的に、臨床的に、また公衆衛生学的にユニークな側面を有している。病原体自身が高度に進化した動物であるため、寄生適応にあたって複雑な宿主ー寄生虫相互作用を必要とするからである。この講義では寄生虫の中でも蠕虫と呼ばれる多細胞性寄生動物による感染と宿主応答に焦点をあてて解説する。蠕虫感染による宿主応答ではIgE抗体産生や好酸球などの白血球応答が特徴であるが、その誘導機構、生体防御における意義などを今日の知見を交えながら解説する予定である。 【キーワード】 蠕虫、人獣共通感染症、幼虫移行症、宿主ー寄生虫相互作用、Th2応答、免疫修飾	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）
6	寄生虫等感染症②	原虫は単細胞動物であり、ヒトの感染症としてマラリア、アメーバ赤痢、トキソプラズマ症など重篤なものの病原体となるものが含まれる。その感染様式は複雑であるが、マラリアのように昆虫媒介性のものは地球温暖化による流行域拡大が懸念されている。原虫感染による宿主応答は、同じ寄生虫でも蠕虫感染とは異なり、一般的にはTh1応答が排除の効果を担う。ここでは原虫感染の際の宿主応答を概説し、宿主応答の誘導機序やワクチン開発の現状などについて述べる予定である。 【キーワード】 原虫、宿主ー寄生虫相互作用、地球温暖化、Th1応答、ワクチン	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）	太田　伸生（東京医科歯科大学大学院教授）
7	結核①	人類とともに歩んできた結核が、現在もなお世界の大きな保健医療上の課題となっている現状を認識させるとともに、感染症としての結核についてその病原体、感染伝播の様式、発病にいたる経過などについて基本的な知識を習得させる。 【キーワード】 結核　、結核菌、コッホ、抗酸菌、非結核性抗酸菌、飛沫核、　空気感染、感染、　発病、	楠本　一生（さいたま市保健所長）	楠本　一生（さいたま市保健所長）
8	結核②	結核の発病、診断、治療そして予防について基本的な知識を習得させるとともに、世界、日本の結核問題の現状とその対策そして、特に日本の結核問題の特徴について理解を深めることによって結核は単なる一つの感染症というだけでなく、大きな公衆衛生課題であることを認識させる。 【キーワード】 発病、化学療法、抗結核薬、QFT(クウォンティフェロン)、多剤耐性菌結核　長多剤耐性菌結核　DOTS	楠本　一生（さいたま市保健所長）	楠本　一生（さいたま市保健所長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	HIV／AIDS① 世界流行の動向と背景	流行発覚後4半世紀の間に、HIV/AIDS流行は推定感染者数4千万人というパンデミックに発展し、現在東アジアで急速に拡大しつつある。流行は、医学的難題であると同時に、人類の抱える根深い社会矛盾(社会的脆弱性)を背景とする社会的難題でもあり、世界はまだ問題解決の展望を見出せずにいる。講義では、アジアを中心に流行の現状を説明し、HIV/AIDS流行があぶり出す社会矛盾に焦点を当てる。 【キーワード】 パンデミック、アフリカ、アジア、先進国、医学的困難、社会的脆弱性、流行予測	木原 正博(京都大学大学院教授)	木原 正博(京都大学大学院教授)
10	HIV／AIDS② 日本のHIV./AIDS流行の様相と背景	わが国は、多剤併用療法登場後も、HIV感染者とAIDS患者数が、未だに同時に増加を続けている稀な先進国である。アジア流行は周辺諸国に至り、近い将来にわが国への上陸が懸念されるが、それを防ぐ社会的力は貧弱に見える。講義では、流行の様相とともに、エイズ対策の遅れ、性感染症の蔓延、薬物蔓延、性産業の増殖など、わが国の今後のHIV/AIDS流行を左右する社会的脆弱性に焦点を当てる。 【キーワード】 東アジア、性感染、地域拡散、若者、社会的脆弱性、薬物、性産業、国際交流	木原 正博(京都大学大学院教授)	木原 正博(京都大学大学院教授)
11	プリオン病	プリオン病は、潜伏期間の長い致死性の感染症である。一度発病すれば、有効な治療法はない。この中でも、新興感染症として出てきた、ウシのBSEとそれがヒトに感染して起こるvCJDに関してどのような経緯でこの感染症が広がり、現在の対策上で問題になっている点に焦点をあてる。 【キーワード】 BSE(ウシ海綿状脳症)，vCJD(バリアント型クロイツフェルト・ヤコブ病)、プリオン蛋白	北本 哲之(東北大学大学院教授)	北本 哲之(東北大学大学院教授)
12	院内感染症	院内感染症とは、医療施設のおける入院患者が原疾患とは別に新たに罹患した感染症および医療従事者が病院内において罹患した感染症である。近年、人口の老齢化により、糖尿病、悪性腫瘍など慢性病の増加が免疫機能を低下させ日和見感染に易感染性となり、院内感染を起こしやすくしている。また、薬剤耐性菌の出現により、院内感染症はさらに重大な問題となっている。日和見感染、薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、ICTラウンドなどにつき概説する。 【キーワード】 薬剤耐性菌、院内感染対策、院内感染サーベイランス、ICTラウンド	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)
13	輸血などの生物由来製品に伴う感染症	輸血は、近代医学に大きく貢献してきたが、現在行われている献血を基本とした輸血は、本質的には同種移植であり、自己移植と異なり感染症を初めとする副反応の可能性を常に伴う。輸血には、成分輸血と、血漿分画製剤がある。過去には、本邦においても、いずれの国も通った輸血後肝炎などの問題が存在した。しかし、現在日本の献血制度の輸血感染症に対するスクリーニングの制度は世界でもっとも進んでいる。しかし、エイズウイルスのウインドウピリオドなどの問題はなお完全ではなく、未解決の問題である。血漿分画製剤についても、献血に頼らないですむ、合成アルブミンが開発され実用化されようとしている。現時点での輸血由来感染症の問題点と将来についてを概説する。 【キーワード】 輸血由来感染症、ウイルス肝炎、HIV感染症	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)	河野文夫(国立病院機構熊本医療センター副院長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	感染症と健康危機管理	さまざまな感染症の世界的規模での流行が危惧される今日、これらに起因する健康被害の発生予防、拡大防止、治療対策を迅速に講じ、初期段階で感染症を制圧することが極めて重要である。感染症対策における健康危機管理の概念を整理するとともに対象となる事象を示す。震災後の感染症、SARS、トリインフルエンザ、ウエストナイル熱、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病などの新興再興感染症、そして血液製剤や院内感染等の一部の医原性感染症が社会生活に及ぼす影響、国内外の対策、課題、今後の方向性を理解する。 【キーワード】 新興再興感染症、医原性感染症、感染症法、薬事法、移動手段の発達	河原　和夫	河原　和夫
15	感染症と生態防御機構の今後の展望	免疫系の調節機能が狂うことによって種々の病気(自己免疫疾患、癌、感染症)が誘発される。ここでは免疫調節機能の異常とその修復、今後の展望について述べる。特にアレルギーの発症機構、自己免疫疾患とその症状をひきおこすサイトカイン、抗体医薬という新しい治療法の出現、更に移植や再生医療についても述べる。 【キーワード】 アレルギー、自己免疫疾患、サイトカイン、抗体医薬、移植、再生医療	岸本　忠三	岸本　忠三

＝　がんの健康科学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：多田羅　浩三　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：門田　守人　（大阪大学副学長）〕
〔主任講師（現職名）：杉山　治夫　（大阪大学大学院教授）〕

全体のねらい

平成13年には、30万人の日本人の生命が、がんによって奪われた。がんは今日では、人類の最大の健康課題であり、各国の研究者や医療従事者が競って、がんの病態の解明、がんの発生と死亡の実態把握、予防の推進、新しい治療法の開発・普及、緩和ケアの充実に取り組んでいる。講義では、これらの取り組みの中で明らかになった知見について広く紹介し、がん克服に向けた展望を中心に話しをする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	がんの社会医学	悪性新生物による死亡数は、昭和25年には全死亡数の7.1%であったが、平成14年には30.3%にまで増加がみられた。このような傾向をつくった要因は何か。どのようながん研究が行なわれて来たか。国はどのような対策を行ってきたのか。人々の生活環境の状況と悪性新生物死亡の関連はどうか。健康日本21の推進とがん克服の展望。これらの視点から、社会の中にあるがんという病気について考えてみたい。	多田羅浩三（放送大学教授）	多田羅浩三（放送大学教授）
2	がんの生物学I	環境中に存在する種々のがん原性物質等により正常細胞ががん化する過程ではがん遺伝子やがん抑制遺伝子といった複数の遺伝子に異常が蓄積される。そして細胞は異常な増殖能を獲得し、アポトーシスによる細胞死の過程を回避して生存し続ける。発がんのしくみを細胞の増殖および生存のシグナル伝達異常に関与する種々の分子に焦点を当てながらながめてみたい。	濱岡　利之（大阪大学大学院名誉教授）	濱岡　利之（大阪大学大学院名誉教授）
3	がんの生物学 II	正常細胞のがん化過程では、複数の遺伝子に異常が蓄積され、結果として細胞は異常な増殖能を獲得し不死化する。そして細胞は更なる悪性化へと突き進み、ついにはがんの浸潤性・転移性を獲得するに至る。がん細胞の無限の増殖性、浸潤性・転移性の獲得など、がん細胞の示す、きわだった生物学的特徴をながめることによって、がんの診断、治療に至る情報を得ることにしたい。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	がんの疫学 I	疫学は「人間集団の生き様、特に疾病罹患者の過去における環境暴露特性を把握し、環境暴露と疾病罹患の関連性を解明し、さらに、環境暴露状況の改善による疾病予防を図り、その効果を科学的に評価し、疾病予防対策の策定に資する」ことを目的とする。人間集団に流行する悪性新生物（がん）を生活習慣病として捉えると、主な危険要因や防御要因は食・生活習慣、喫煙・飲酒習慣、慢性感染暴露などに集約される。本講義ではがん予防を睨んだ要因解明のための国内における疫学研究について解説する。	田島　和雄（愛知県がんセンター研究所副所長）	田島　和雄（愛知県がんセンター研究所副所長）
5	がんの疫学 II	がんの流行には地理的分布の特異性や同一集団であっても時間的変動が観察されるが、それは生活習慣の民族差や文化の時代的変遷などに密接に関連している。われわれは世界の各地域の文化的特異性に根ざしたがん予防を推進していくため、１０年前に新しい研究パラダイムとして「がんの民族疫学」を提唱した。そこでは「民族」を生活環境と宿主特性を共有する集団として捉え、その集団におけるがん流行の要因を解明していく。本講義ではがんの民族疫学、つまり地球レベルで取り組む疫学研究について解説する。	同　上	同　上
6	がんの予防 I	がんの予防の柱は、1次予防（発生予防）と2次予防(早期発見)である。1次予防の効果はがん罹患率の減少により測定される。がん罹患率の測定は、死亡統計からは不可能であり、地域がん登録のシステムが必須である。わが国の地域がん登録から得られるがん罹患率、がん患者の生存率データに基づき、わが国における主要部位のがん予防のあり方について考えるところを述べる。なお、わが国には33の地域がん登録が存在しているが、その登録精度は、残念ながら、国際的基準に照らして低くとどまっている。わが国の地域がん登録の問題点を次に述べ、さらに、これを改善する方策について考えるところを述べる。	大島　明（大阪府立成人病センター部長）	大島　明（大阪府立成人病センター部長）
7	がんの予防 II	日本においては、喫煙の健康影響に関する疫学研究は、欧米先進国に比べて、質、量ともに劣っていないにもかかわらず、たばこ規制の取り組みは大きく立ち遅れ、このためがん罹患率・死亡率の減少という成果は上がっていない。これは、たばこ業界の利益を国民の健康に優先させる日本政府の態度によるものと思われる。このような困難を切り拓く役割は、医師組織・団体、医学会が担わなければならない。2004年6月、日本政府はようやくWHOたばこ規制枠組み条約(FCTC)を批准した。今後は、FCTCの趣旨を十分活かすように、国内法等の整備に向けて、医師組織・団体、医学会は、政府、国会、メディアに働きかける必要がある。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	がんの早期発見と検診事業 I	昭和57年度に老人保健法が施行されて以来、わが国における主要ながんに対する検診事業は、この法に基づく保健事業として実施されてきた。厚生省（当時）は平成8年度に老人保健推進費等補助金をもって「がん検診の有効性評価に関する研究」班（主任研究者　久道　茂）を組織し、各がん検診の検診精度や有効性の評価等を行った。また、平成12年度に、再び同補助金により「新たながん検診手法の有効性の評価」班（主任研究者　久道　茂）を組織し、その後の研究成果を取り入れて、各がん検診の有効性を再評価した。これらの研究に分担研究者として参加した経験から、わが国における主要ながんに対する検診事業の現状、その検診精度、有効性などについて概要を紹介する。	鈴木隆一郎（大阪府立成人病センター研究所特別研究員）	鈴木隆一郎（大阪府立成人病センター研究所特別研究員）
9	がんの早期発見と検診事業 II	わが国において肺がん死亡は、平成10年に胃がん死亡を上回って以来、がん死亡の最多部位（男女合計）であり続けている。また、老人保健法に基づく保健事業として実施されているがん検診事業のなかでも、肺がん検診は、導入2年目の昭和63年度以降、最大の年間受診者数を擁する規模で実施されている。地域における肺がん検診の実践とその有効性評価研究とに従事してきた経験から、かつて米国において有効性を証明できなかった肺がん検診が、わが国ではどのようにして「現行の肺がん検診は、適切に行うならば、死亡率減少に寄与する可能性が高く、継続して実施する相応の根拠がある」と評価されるに至ったかを解説する。なお、さらなる有効性向上を求めて試行されつつある胸部ＣＴ検診についても若干の解説を加えたい。	同　上	同　上
10	がんの臨床（外科）I	消化器がんなどの固形がんの治療は、未だ外科手術が中心である。最近の外科治療は大きく2極化している。治癒しやすいがんに対する機能温存を目指した縮小手術と、難治性のがんに対する根治性を求めた拡大手術の2つの方向である。さらに、後者に様々な治療法を付加する集学的治療法の開発がされ、実施されているので、これら外科治療の概説を行う。	門田　守人（大阪大学副学長）	門田　守人（大阪大学副学長）
11	がんの臨床（外科）II	がん、特に消化器がんの外科治療には100年以上の歴史がある。そして、その間目覚ましい進歩があり、術後生存率も次第に向上している。しかし、同じ手術あるいは治療をしても、患者によってその成績は異なる。残念ながら、その違いがなぜ生じているか未だに殆どわかっていない。最近がん細胞あるいは患者の個性を遺伝子を用いて調べ、それぞれのがんや患者に最も適した治療を行おうとするオーダーメイド医療が現実のものになろうとしている。そこで、個別化医療ついて現状と今後の展望を概説する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	がんの臨床（内科）I	癌の治療は、外科療法、化学療法、放射線療法を中心にしてなされてきたが、これらの治療法には、副作用が伴う。そこで、この副作用を軽減させるため、正常細胞を傷めず、癌細胞のみを殺す、分子標的療法が注目を集めている。講義では、癌の内科的治療法と数々の分子標的療法の概略をお話しする。	杉山　治夫（大阪大学大学院教授）	杉山　治夫（大阪大学大学院教授）
13	がんの臨床（内科）II	分子標的療法のうち、最も有力視されています数々の免疫療法について、非特異的免疫療法と特異的免疫療法に分けて、それぞれの原理、方法、効果についてお話する。最後に、分子標的療法、免疫療法の将来展望についてお話する。	同　上	同　上
14	がんの緩和ケアI	がんは1981年に本邦の死因の第1位となり、現在、3人弱に1人が、がんで亡くなっている。 癌腫の変遷や高齢化社会を迎え、その数はさらに増加しているが、最大の課題は、痛みなど、がんに伴うこころやからだの苦痛に苛まれている患者数が、今この瞬間でも150万人以上という我が国の現状である。 今回の講義では、がんに伴う心身の苦痛の治療・ケアが、手術や化学療法などの抗腫瘍治療と同じウェイトを持つ重要な領域であることについて理解を得るために、がん緩和ケアの実際を分かり易く解説したい。 今回は、緩和ケア病棟や緩和ケアチームの活動と、疼痛、呼吸困難感、倦怠感などの身体症状のマネジメントに関してお話する。	向山　雄人（癌研究会有明病院部長）	向山　雄人（癌研究会有明病院部長）
15	がんの緩和ケアII	始めに身体症状のマネジメントに関する治療法の進歩に関して最新の情報を提示したい。 次に、がんに罹患した患者は、診断された時点、再発・転移した時点、さらには終末期など、様々な時期に、心理・精神的変調を伴う頻度が高く、これらの心の側面に対する治療・ケアが重要である。近年、本邦でも精神腫瘍学(サイコオンコロジー)の重要性が認識され、薬物療法、支持的精神療法が確立されつつあり、その現状を解説したい。 終わりに、我が国におけるがん緩和ケアの現状と課題に関して総括し、問題提起としたい。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1814702	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　リハビリテーション（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　里宇　明元（慶應義塾大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）　〕

講義概要

これまでリハビリテーションは理念的に語られることが多かったが、本来は優れて実践的かつ役に立つ学問、技術の体系である。少子高齢化の進行、疾病構造の変化、生活環境の変化が急速に進む中で、本講座では実学としてのリハビリテーションに焦点をあて、「障害を持った人々が、持てる能力を最大限に発揮し、人権が尊重され、生き甲斐を持った生活を送れるように、障害者やその家族を中心に共通の目標に向かってチームで援助する活動」としてのリハビリテーションについて実践的に考えてみたい。

授業の目標

1）リハビリテーション（リハ）に何ができるかを説明できる。
2）障害のとらえかたとアプローチの方法を説明できる。
3）早期からの予防的リハの重要性について説明できる。
4）回復期、維持期のリハについて説明できる。
5）高齢者、小児、運動器、内部障害のリハについて理解する。
6）摂食・嚥下障害、排尿障害のリハについて理解する。
7）義肢、装具、福祉機器について理解する。
8）リハ看護について説明できる。
9）リハの新たな展開について理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	リハビリテーションに何ができるか	実学としてのリハビリテーションの観点から、その概念、歴史、流れ、対象、評価とアプローチ、リハビリテーションチームについて解説し、本講座全体を鳥瞰するとともに、リハビリテーションに何ができるかを提示する。	里宇明元（慶應義塾大学教授）	里宇明元（慶應義塾大学教授）
2	障害をどのようにとらえるか？	適切かつ有効なリハビリテーションを提供するためには、障害を持った人々の複雑かつ多岐に渡る問題点を的確に把握することが出発点となる。そこで、評価の概念的枠組み、障害のレベルごとの評価のポイント、問題点の抽出と評価のまとめ方について解説し、実際のアプローチに活かせるようにする。	辻　哲也（慶應義塾大学講師）	辻　哲也（慶應義塾大学講師）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	障害にどのようにアプローチするか	評価に基づくゴールの設定、障害のレベルごとのアプローチのポイント、リハビリテーションで用いられる治療手段とその選択、リハビリテーションプログラムの組み立て方、などを解説し、実践的なアプローチを行う上での一助とする。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
4	早期からの予防的リハビリテーション	安静の取り過ぎにより生じる廃用症候群とその予防の重要性、早期からの予防的リハビリテーション介入により得られる効果、リハビリテーションを安全に行うためのリスク管理のノウハウなどについて解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
5	回復期のリハビリテーション	機能の回復を最大化するためのプログラムの組み方、高密度・高強度リハビリテーションの考え方、麻痺、失語症、嚥下障害、排尿障害、歩行障害など回復期で問題となる主な障害に対するアプローチのポイントを解説する。	園田茂(藤田保健衛生大学教授)	園田茂(藤田保健衛生大学教授)
6	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの考え方、システム、利用可能な資源を紹介するとともに、地域で生活する障害者の要介護状態の改善、獲得された機能の維持および本人と介護者の QOL 向上のためのノウハウを解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
7	高齢者のリハビリテーション	高齢化が急速に進行する中で、高齢者に対するリハビリテーションの重要性はますます高まっている。加齢、各種の疾病、環境など複合的な要因により要介護状態がもたらされるという高齢者特有の問題点を踏まえ、リハビリテーションを成功させるために押さえるべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	出江紳一(東北大学大学院教授)	出江紳一(東北大学大学院教授)
8	小児のリハビリテーション	小児は決して小さな大人ではなく、リハビリテーションにおいても、成長・発達途上にあることによりもたらされる特有の問題点がみられる。小児のリハビリテーションを成功させるために、ライフサイクルを通して押さえておくべきポイントとアプローチのノウハウを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
9	運動器のリハビリテーション	運動器とは、骨関節筋肉とそれにまつわる神経など、身体を支えたり、動かしたりする器官の総称であり、その疾病は、生活機能障害をもたらす重要な原因となる。転倒・骨折、関節疾患、骨粗鬆症、スポーツ外傷など運動器疾患のリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	花山耕三(東海大学准教授)	花山耕三(東海大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	内部障害のリハビリテーション	近年、呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病、悪性腫瘍などによる「内部障害」が増加しつつあり、近い将来、肢体不自由による障害を凌駕すると予想されている。これらの新たな領域としての内部障害に対するリハビリテーションの考え方とノウハウについて解説する。	辻　哲也(慶應義塾大学講師)	辻　哲也(慶應義塾大学講師)
11	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	食べることの障害は、誤嚥性肺炎、窒息、脱水などの医学的リスクだけでなく、食べる楽しみの喪失というQOLの観点からも重要である。ここでは近年、注目されている摂食・嚥下障害の評価とアプローチのポイントについて解説する。	辻　哲也(慶應義塾大学講師)	辻　哲也(慶應義塾大学講師)
12	排尿障害のリハビリテーション	排尿障害があると、尿失禁による皮膚汚染、切迫性尿意による転倒リスクの増大、介助量の増加、社会からの孤立、在宅生活継続困難など、さまざまな影響がもたらされる。膀胱機能だけでなく、排尿動作、生活環境も含めた排尿障害の評価とアプローチのポイントを解説する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)
13	義肢装具、福祉機器と最新テクノロジーの活用	リハビリテーションにおいては、失われた機能を補う手段として、さまざまな義肢装具、福祉機器等が活用され、障害を持った人々の機能の向上と社会参加の促進に役立っている。さらに、近年は、IT、ロボッティックスを駆使した先端的な機器も開発され、新たなブレークスルーをもたらすことが期待されている。これらの現状と今後の展望について解説する。	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)	長谷公隆(慶應義塾大学准教授)
14	リハビリテーション看護の展開	疾病や障害からの回復過程で実施される看護活動は、身体機能の回復のみならず、低下した自尊感情を高め、自己効力感を涵養させる役割・機能を持つリハビリテーション看護である。術後の回復を促進させる早期離床や乳房切除後の訓練プログラムなどを通して、患者と協働するリハビリテーション看護の理念とゴールについて解説する。	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)	佐藤禮子(兵庫医療大学副学長)
15	リハビリテーションの新たな挑戦	これまで回復は困難と考えられていた成人の脳における可塑性への働きかけの可能性、再生医療の進歩に伴う新たなリハビリテーション医療の展開、長期宇宙滞在の現実化に伴う宇宙滞在中および地球帰還後のリハビリテーションの重要性の高まりなど、リハビリテーションの新たな挑戦が始まりつつある。最終回は、これらの近未来のリハビリテーションについて展望する。	里宇明元(慶應義塾大学教授)	里宇明元(慶應義塾大学教授)

＝　看護学概説（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

全体のねらい

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	看護の本質となるもの	看護は、人が幸せにして健康な生活を営むことができることを目指す、生物－心理－社会的存在としての人間の健康生活に焦点を当てた働きをなす実践の科学である。このような科学的看護の本質について理解を深めるために、看護のｋｅｙ概念についてと看護実践とその基盤について詳述する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	看護学の発展とその方向性	看護学の専門分化が進んだ一方、看護学各分野の知見を共有することが困難になりつつある。今後の方向性を考える基盤として、医療の高度化と機能分化、人々の健康水準ともとめる健康の質、社会経済状況からの要請に対応しつつ、看護学が発展してきた過程について述べる。	吉本　照子（千葉大学大学院教授）	吉本　照子（千葉大学大学院教授）
3	生涯発達過程にある看護の対象者	人間はこの世に生を受けてから死に至るまで生涯発達の過程にある。看護は、人生のさまざまな局面にある人々に関わりながら、人々の健康や発達を支えることを目標としている。ここでは、看護の対象となる人々の健康との関連から、発達と看護について述べる。	岩﨑　弥生（千葉大学教授）	岩﨑　弥生（千葉大学教授）
4	健康を保つメカニズムと看護	健康とは何か、そして健康を保つために看護はどのような役割を果たしうるのかについて解説する。これにより健康のあらゆるレベルに対する看護の役割、機能について考察する。	宮﨑美砂子（千葉大学教授）	宮﨑美砂子（千葉大学教授）
5	環境との相互作用がもたらす健康問題	健康を支えるための環境づくりが地域、国、地球レベルで進みつつある。そうした活動の基盤となる概念として、物理化学生物的・社会的な外部環境と個人の内部環境、環境と人間の相互作用による適応、適応困難としての健康問題について述べ、看護職者の役割について述べる。	吉本　照子	吉本　照子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	看護情報と看護過程の展開	看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。	齋藤やよい(東京医科歯科大学大学院教授)	齋藤やよい(東京医科歯科大学大学院教授)
7	看護技術の意味	看護実践は対象との関わりの中で発展させていくものであり、対象にもっとも適した看護実践には、看護する者のしっかりした看護観とともに科学的根拠に基づいた看護技術が要求される。具体例とともに看護技術の意味と看護の実践力について説明する。	同上	同上
8	関わりと看護技術	看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関わりの中で変容する。看護する者が全体的存在として患者と共にあることの意味を述べ、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護技術について紹介する。	岩崎　弥生	岩崎　弥生
9	セルフケアを育てる看護	健康問題を解決し、健康を増進するために、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。	齋藤やよい	齋藤やよい
10	患者を含む一単位としての家族への看護	患者を含めた家族全体を一つの単位として看護の対象とする意義を概説し、個人の健康の回復と維持における家族の役割および家族成員の病気が家族全体に及ぼす影響について述べる。また家族全体を対象とした看護方法の概要を簡単に紹介する。	岩崎　弥生	岩崎　弥生
11	在宅療養を支える看護	在宅療養者及びその家族を支えるために、地域社会で機能している看護の諸活動の現状について説明する。また在宅療養を支える看護をさらに充実・発展させるための課題について述べる。	宮崎美砂子	宮崎美砂子
12	他職種との連携・協働と看護の継続	保健医療福祉における対象の多様なニーズに効率的に対応するために、多機関・多職種の連携・協働および看護の継続が重要になっている。各々の場の看護職者が調整的役割を遂行しながら、ケアシステムを発展させるための基盤として、連携・協働に関する概念と考え方について述べる。	吉本　照子	吉本　照子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	地域住民と共働する看護	人々は、地域生活共同体の一員として、多様な人とつながりを持ちながら生活している。人々の健康や生活の豊かさを追究するために、看護が創出してきた、地域住民と共働する看護活動の方法及び意義について説明する。	宮﨑美砂子	宮﨑美砂子
14	人の死と看護	人の死とはについて、生物学的な死の概念から導入し、人の死と死に行くことについて理解を深め、特に、人が人生途上において、突然に死に直面せざるをえない事態に陥った時の苦悩する人々および死に逝く人々にかかわる看護の働きについて説明する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子
15	看護における倫理	倫理とは何かという基本的な意味について、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的な原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。	同　上	同　上

＝　基礎看護学（‘０４）＝（TV）

〔主任講師　：佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）　〕
〔主任講師　：三上　れつ（慶應義塾大学教授）　〕

全体のねらい

看護実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大することを意図している。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	専門職として求められる看護の機能と役割	看護が自律した専門職として、人々の健康や幸福に貢献するには、看護サービス利用者や他職種者と協働して、ケア技術や保健医療福祉におけるケアシステムを変革していくことが必要である。看護の歴史を振り返り、人々のＱＯＬの向上をめざして、対象のもつ力を強める看護の機能と役割について説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	患者の権利を擁護する方法	看護職者は、患者がもつ基本的な人権を尊重し、患者が自らの意思に基づき自己決定できるよう支え守る重要な役割を担っている。看護実践の場における患者の人権擁護に対しての多様な倫理的課題と看護職員としてのその対応方法について説明する。	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）	大島　弓子（神奈川県立保健福祉大学教授）
3	看護行為と法の関係	看護は人の生命に関わる職業であり、法によって責任の在り方が問われる。どのような法令に基づき看護行為を遂行するのか、特に医事、薬事に関する法律を概説し、責任を問われる意味について述べる。また、看護行為の法的責任、看護師の医療行為の法的責任について具体的に説明する。	石井　範子（秋田大学教授）	石井　範子（秋田大学教授）
4	患者となった人の対象理解とは	看護における対象理解は、対象を全体的に統合された人間として理解することである。病気によって患者は新たな役割が付与され、制限された生活を余儀なくされるが、身体的・心理的・社会的・霊的存在として変化しつづける。人間の生命・生活・健康に関わる人間理解について、具体的な事例を通して説明する。	小松　万喜子（愛知県立看護大学教授）	小松　万喜子（愛知県立看護大学教授）
5	専門的援助関係を発展させるコミュニケーション技法	患者と看護師の関係は確かな意思によって結ばれる専門的援助関係である。このプロセスを通して看護師は自己理解と他者理解を深め、専門職者としての能力を高めていく。対人関係理論を概説し、患者との効果的なコミュニケーション技法を具体的に説明する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	看護判断の基盤となる身体的・心理社会的アセスメント	身体的・心理社会的アセスメントは、看護ケアの根拠と成果の測定、評価の指針となる情報を得るために欠かすことができない。身体的・心理社会的アセスメントの方法を概説し、特に身体的アセスメントの具体的方法について述べる。	三上　れつ（慶應義塾大学教授）	三上　れつ（慶應義塾大学教授）
7	エビデンスに基づく看護過程	看護過程は、看護師が対象の健康回復・維持・増進をめざして、意図的・系統的に行われる問題解決方法である。看護過程の6段階について説明し、エビデンス（根拠）に基づく看護ケアを実践するために、正確な診断・評価を方向づける患者情報の重要性と活用法について述べる。	同　上	同　上
8	セルフケアを促進させる教育指導方法	対象が健康的な日常生活を維持していくためには、看護師が一方的に援助するのではなく、患者・家族のセルフケア能力を高めていくことが不可欠である。セルフケア能力を促進するために必要な教育指導方法の実際について説明する。	佐藤　みつ子（山梨大学大学院教授）	佐藤　みつ子（山梨大学大学院教授）
9	看護基本技術：「食事」を支える口腔・嚥下ケア	口腔内汚染や誤嚥は、致命的な肺炎を引き起こす。 口腔の機能と嚥下のメカニズムから、体力の低下した高齢者や麻痺のある患者に対する「食事」を支える看護技術として、口腔ケアと嚥下ケアについて具体的に説明する。	三上　れつ	三上　れつ
10	看護基本技術：「自尊心」を守る失禁ケア	尿失禁には様々な種類があるが、そのメカニズムを知ることで、人々の排尿を適切にコントロールする介入が可能になる。これらの尿失禁のケアとして重要な「自尊心」を守る看護技術を中心に、トータルケアであるコンチネンスケアについて具体的に説明する。	大島　弓子	大島　弓子
11	看護基本技術：「自然治癒力」を促がす褥瘡ケア	新しい褥瘡ケアは、除圧、栄養、閉鎖式ドレッシング法、創の湿潤環境、デブリードメント法である。予防ケアの他、褥瘡の進行段階に応じた創の「自然治癒力」を増進するための看護技術として、創傷ケアについて具体的に説明する。	石井　範子	石井　範子
12	看護基本技術：「生命の危険」を回避する感染予防方法	医療・保健施設における院内感染に関する状況は厳しさを増しており、正しい知識の提供や予防手段を推進することが急務となっている。院内感染の現況と新しい感染管理の考え方について説明し、「生命の危険」を回避する看護技術として、具体的な感染予防方法について述べる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	看護の情報化から電子カルテまで	身近な存在となった医療情報のコンピュータ化社会を概観する。看護情報の意味、活用法について確認し、情報をどのように管理し保護するかについて説明する。さらに、電子カルテの本質と実際を紹介する。	大島　弓子	大島　弓子
14	チーム医療を発展させるリーダーシップのとり方	対象のニーズや疾病状況の変化に伴い、医療が専門分化し、看護師は他の専門職者とチームを組んでケアを提供している。チーム医療におけるリーダーシップについて概説し、看護独自の機能と看護師に期待される役割を説明する。	佐藤みつ子	佐藤みつ子
15	看護の質を保証するリスクマネジメントのあり方	看護が専門職として発展するために、提供する看護の質を保証し、組織全体のマネジメントの見直しを図ることについて概説する。また、臨床における看護のリスクマネジャーの活動を通して、看護管理として必須のリスクマネジメントのあり方を説明する。	佐藤　禮子	佐藤　禮子

＝　在宅看護論（‘０４）＝（TV）

〔 主 任 講 師：川村　佐和子（聖隷クリストファー大学教授）〕

全体のねらい

疾病や障害および虚弱なために看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、ＱＯＬを向上させる目的にそって、問題を解決するための方策をたて、その実施に必要な知識と看護技術を学習する。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第一部　　訪問看護の概要				
1	訪問看護の必要性と制度の概要	人々が居宅で医療を受けながら生活し、その生活の質を向上させられるように支援することが、在宅医療・看護の提供理念である。訪問看護は1992年から制度化され、診療報酬制度も整備されつつある。本回は、訪問看護の役割、訪問看護提供施設、問題の所在と解決策の考え方について概説する。	川村　佐和子（聖隷クリストファー大学教授）	川村　佐和子（聖隷クリストファー大学教授）
2	訪問看護提供の考え方と業務	訪問看護の提供は、利用者との契約に基づいて、主治医の指示を得て開始される。また、利用者の居宅に出向いて単独で看護を提供するものであるから、利用者やその家族との関係や、主治医との関係、ケア提供チームメンバーとの関係を信頼性の高いものにしておくことが重要であり、看護の提供においては倫理的な行動が求めれている。これら　従来の医療施設内における看護提供法や技術提供の相違と留意点について概説する。	同　上	同　上
3	訪問看護過程と必要な能力	訪問看護では、利用者の居宅で看護を提供するために　より利用者の立場に立った看護を提供する必要がある。そこで、医師から受ける指示や報告について、考慮すべき諸点やそこで用いるツールについて概説する。あわせて、施設内基準（プロトコール）の作成や活用についても概説する。	同　上	同　上
第二部　　基本的な訪問看護の技法				
4	訪問看護過程の展開：生活のニーズを中心に	在宅療養には、基礎となる生活の整備を必要とする。近年は少人数家族や子供の介護に依存しない在宅生活を希望する高齢者が多くなり、基礎的な生活の支援が重要となっている。そこで、在宅生活の実態を紹介し、そこから生じる支援課題について述べ、さらに、訪問看護師としての課題解決のための方策つまり、家族や福祉関係職員、ボランティア等との連携や共同活動について概説する。	近藤　紀子（元日本赤十字武蔵野短期大学教授）	近藤　紀子（元日本赤十字武蔵野短期大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	基本的な生活を支える	訪問看護は療養者の自立を支援する。そのためにはまず、日常生活動作（歩行、食事、保清、会話）が維持できるよう支援する。さらには、生命維持機能（循環、排泄、神経系、呼吸）が保たれるよう支援する。生活の中で療養者・家族が継続して実行可能な訪問看護技術について実演をまじえて概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
6	療養環境の整備を支える	介護保険、その他身体障害者福祉の適応となる各種サービス（住宅改修、介護福祉機器の導入、訪問サービス、通所サービス、給食サービス等）その他民間サービスについて、さらに医療資材・器材の調達方法について概説する。さらに、本人・家族に在宅療養環境整備のための情報提供・と導入向けた支援、緊急時対応の必要性と具体的な方法について概説する、	同　上	同　上
7	家族を支える	在宅医療を受けている人々の傍らに常時いる家族介護者の役割は大きい。しかし、家族介護者に介護・看護を大きく依存してしまうと、家族はその負担に耐えかねて健康や生活に破綻をきたしてしまう。訪問看護師が家族介護者に対して行うべき、健康や生活上の問題の考慮の仕方や支援方法について概説する。	川村　佐和子	川村　佐和子
		第三部　医療を必要とする人々に対する訪問看護技法		
8	医療継続を支える	近年の医療技術の発達、社会環境の変化にともなって、がんを病む人々やＡＬＳなどにより人工呼吸器を装着するなど高度な医療技術を用いて療養する人々も在宅療養するようになってきている。これらの人々が安全で安楽な療養生活を送るためには、在宅で医療を継続することが欠かせない。在宅療養生活の実態にふれ、医療継続上のニーズとそれに対応する支援法について概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
9	在宅ターミナルケア	在宅ターミナルケアとは何か概念について説明し、地域における在宅ターミナルケアの実際を紹介する。また在宅ターミナルケアにおける家族支援・チームケア・死の看取り・グリーフケアについて具体的に概説する。	川越　博美（聖路加看護大学教授）	川越　博美（聖路加看護大学教授）
10	症状をコントロールする	在宅ターミナルケアでは、症状のコントロールが重要なケアであり、在宅における症状コントロール、特に疼痛管理に焦点をあて、訪問看護師に必要な知識と技術について学ぶ。疼痛管理の原則・薬剤による疼痛管理・代替療法・モルヒネの使い方と管理・チームによる疼痛管理について概説する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	入退院を支える	療養生活中には本人の病状変化、家族の介護疲れ、時には支援者の再調整のために入院が必要となる。入院時には在宅での療養状況を引き継ぐ。退院時は病院に出向き病状の確認、本人家族の在宅療養の意思確認、在宅に向けて療養環境整備など入退院時の支援について概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
12	充実した日々を支える	生活の質（Quality Of Life:ＱＯＬ）とは何か？について概説する。また、訪問看護師がＱＯＬ向上のためにできることは何か？について概説し、利用者のさまざまな努力や工夫について紹介する。	川村　佐和子	川村　佐和子
		第四部　訪問看護師の地域社会活動		
13	在宅チームの一員として機能する	在宅療養は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、ホームヘルパー、理学療法士、作業療法士、栄養士、介護支援専門員など多くの機関に所属する多くの職種からなるチームで支援することになる。訪問看護は療養者本人・家族が混乱しないよう、他職種と連携し、チームの一員として機能する。そのために他職種の機能を理解でき、個別のケアプランの中で、療養者自身の思いが反映されるよう調整する。これらの方法をいくつかの事例で具体的に概説する。	近藤　紀子	近藤　紀子
14	地域看護と訪問看護	地域や集団を対象とする地域看護の考え方および、地域看護と訪問看護の関連について概説する。	川村　佐和子	川村　佐和子
15	在宅看護のこれから	今後　わが国で訪問看護が発展していくために直面している課題、例えば、問題報酬制度の複雑性、保険適用の限界、ケアの高度化への対応、訪問看護提供施設の経営問題など、について討論し、今後の展望について討論する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1511904	履修制限	無	単位数	2

＝　身体福祉論（‘07）＝（TV）
－身体運動と健康－

〔主任講師：　宮下　充正（東京大学名誉教授）　〕
〔主任講師：　臼井　永男（放送大学准教授）　〕

講義概要

福祉という言葉は、幸福な状態を意味する。近年、身体福祉論はからだに幸せをもたらす道筋を解き明かす領域として使われ始めた。本講義では、健康の保持・増進に重要な役目をはたす身体運動実践の理論と実際を解説する。特に実際面では、身体運動の中から、多くの人たちが興味を示す10種類の運動を取り上げ、それぞれの力学的、そして、生理学的特性を明らかにするとともに、実践の具体的方法を説明する。

授業の目標

身体運動は実践してこそ、健康に資するものである。この講義を通して、身体運動の重要性を理解し、運動を実践する習慣を日常生活の中に身につけることを願っている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	からだの理解を通して福祉を考える	介護に疲れて病に伏す例は、度々耳にする話である。また、介護者のアンケート調査によると、身体的負担が大きいことを訴える人が多い。介護の仕事が負担となるかどうかは、介護者の体力水準との相対的な問題である。トレーニングによって体力水準を高めることと、適切な休養をとって疲労からの回復をはかることは、介護者にとって有利な条件となる。これまでの福祉施策に欠けていたこの面について解説する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授
2	運動不足病から生活習慣病へ	機械化・省力化が顕著になり始めたのは、1950年代からであり“運動不足病”という言葉が広まった。そして、高齢化が進行するとともに“成人病”という言葉が使われるようになった。20世紀末になってそれらは“生活習慣病”という名称でまとめられるようになった。そのような経過について調査・研究データを基に解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
3	身体運動の生理学的基礎	身体運動が健康に資するためには、実施する運動の強度、頻度、継続期間が適正でなければならない。特に、運動強度は、強すぎれば障害をもたらすし、弱すぎれば効果が薄れる。この点について、心拍数、血中乳酸濃度、主観的運動強度という観点から解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	成長と老化からみた身体運動能力	からだを自由に動かせる能力は、日常生活を送る上で欠かせない。この身体運動能力は、遺伝的要因によって成長とともに向上し、成熟後は加齢とともに退行する。しかし、環境的要因（運動実践のあるなし）で、その向上や退行の度合いが異なる。これらの点について、最新の研究成果に基づいて解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
5	運動実践による健康度の改善	年齢にかかわらず運動不足がさまざまな疾病を引き起こすことは、すでに明らかにされている。しかし、運動不足の影響は直ちに自覚されず、“沈黙の病気”ともいわれる。そして、いわゆる健康診断によって発見されることが多い。その多くは、運動を実践するようになって改善される。運動実践と健康度の改善について研究報告に基づいて解説する。	樋口　満（早稲田大学教授）	樋口　満（早稲田大学教授）
6	ストレッチングとレジスタンス・エクササイズ	ストレッチング・エクササイズとは、筋肉を伸ばす運動である。筋肉自体は伸びることができないので、他から力が加えられなければならない。その方法と効用について解説する。また、レジスタンス・エクササイズとは、適当な抵抗を負荷された状態で筋肉が活動することである。その際抵抗の大きさ、そして動作の様式が重要となる。それらの点について具体的に解説する。	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）
7	手軽にできるウォーキングと山登り	運動不足が認められる人に対して、多くの医師は手軽にできるウォーキングをすすめる。しかし、どの程度のスピードで、どのくらいの時間歩けばよいかといった具体的な指示を与えることは少ない。ここでは、能力に合わせた歩き方を具体的に解説する。さらに、歩く能力に自信がつくと山登りを試みる人がでてくる。山登りは危険をともなうので、注意すべき点について解説する。	山本　正嘉（鹿屋体育大学教授）	山本　正嘉（鹿屋体育大学教授）
8	ジョッギングと市民マラソン	ジョッギングは自分のペースで走ることを指す。したがって、ジョッギング中に障害はそれほど発生しない。ジョッギングを継続し走能力が向上してくると、市民レベルのマラソン大会に参加する人がでてくる。市民マラソン大会といっても決められたルールに基づいて行われるため、ある種の緊張がもたらされマイペースを見失い、過度な疲労を招くことがある。どのような注意をすればよいのか解説する。	臼井　永男（放送大学准教授）	臼井　永男（放送大学准教授）
9	音楽と楽しむダンス・エクササイズ	エアロビック・ダンス、ジャズ・ダンス、民族舞踊など、さまざまなダンスが、健康の保持・増進のために実践されている。その中から、いくつかの種目を選んで、運動の強度、発生しやすい障害について解説する。	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）	水村真由美（お茶の水女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	冬の楽しみ雪上ウォーク	冬季になると雪が積もって、野外での運動ができなくなる地域がある。そのような地域に住む人はもちろん、そうでない人でも、雪上を歩くという運動（クロスカントリースキー、かんじきウォーク）を実践している。そのような雪上での運動の用具、方法、強度などについて解説する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
11	だれでもできるアクア・エクササイズ	水中での運動（スイミング、水中ウォーキング、アクアビックスなど）は、浮力が作用するため、過体重の人、下肢に障害のある人が実践しやすい。それらの運動について、力学的特性と、生理学的特性を解説し、具体的な方法について紹介する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
12	仲間と楽しめるテニスとゴルフ	テニスもゴルフも、ボールを打つ練習は１人でもできる。しかし、より楽しむためには、テニスは２人か４人でゲームするし、ゴルフは2〜4人でコースを回る。そして、ある程度技術が身につけば、高齢になっても仲間と楽しむことができる運動である。この２つの種目では、用具が重要な役目をはたすので、その点も含めて、解説する。	渋谷　隆良（東洋英和女学院大学准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
13	自然を楽しむフィッシング	フィッシングといってもいろいろあるが、そのなかでもからだ全体を動かす“川釣り”と海浜での“投げ釣り”を中心に、用具、技術、その他注意すべき点について、解説する。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
14	室内で行うマシン・エクササイズ	民間のフィットネス・クラブやアスレティック・クラブでは、さまざまなトレーニング・マシンが設置されていて、利用者はいろいろな運度が実践できる。また、地方自治体でも類似の施設を整備し始めている。これらのマシンの使い方と、利用上注意すべき点について解説する。	福崎　千穂（東京大学大学院客員准教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）
15	望ましい“次”を目指して努力しよう	子どもの体力の低下が指摘されているにもかかわらず、学校での体育の授業時間は短縮される。働き盛りの人たちは高度情報化社会の下で、これまでにないほどのストレスを受けることになる。加えて高齢者は増え続ける。このような時代に、各自が望ましい“次”を目指して努力していかなければ幸せな社会を持続できない。そのための方策について、指摘したい。	宮下　充正（東京大学名誉教授）	宮下　充正（東京大学名誉教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1881400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　少子化時代の児童福祉（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　松原　康雄（明治学院大学教授）〕

講義概要

２００５年日本は人口減少を経験することになった。この大きな原因は述べるまでもなく出生数の減少である。少子化が進行する現代社会における児童及び家族の状況と、子ども・子育てに関する社会的支援について学ぶことが本講義の目的である。子ども・子育てに関する社会的支援は、教育、保健医療など多分野からなされる必要があるが、本講義では社会福祉分野における社会的支援に焦点を当てる。

授業の目標

子どもや家族の状況とニーズを把握することが基礎となる。これに対する社会的施策、特に児童福祉分野の諸法律、制度を理解することに加えて、児童福祉分野における現場実践についても一定の理解を得ることを目標とする。子どもの生活や育ちを支援することは、子どもの養育者への支援も視野に入れることになる。今後の課題と展望についても学生が自ら検討することができる力を養うことを望みたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	児童福祉の視座	子どもや家族、養育者に対する社会的支援の必要性と、家族に対する社会的介入がどこまで可能かというとのバランスについて確認し、児童福祉施策の意義を検討する。さらに、社会福祉施策全体の動向を踏まえつつ、児童福祉施策を概観する。	松原康雄（明治学院大学教授）	松原康雄（明治学院大学教授）
2	現代の養育環境	出生数や出生率などを手がかりに、わが国の少子化状況を具体的に確認する。また、子どもや子育て中の親の状況、家族をめぐる地域社会の状況について学び、社会的支援に関するニーズを確認する。養育は、家族だけでは担いきれないことから、養育環境とは地域社会や子育て支援を実施する社会資源の状況にも連動する。	同上	同上
3	子どもの権利	権利主体としての子どもについて、子どもの権利条約に基づきながら学ぶ。子どもの権利条約は国連で採択され、日本も含めて各国が批准している。子どもの意見表明権、最善の利益の確保などが、実際の施策や実践の場面で実現されていくことが必要である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	児童福祉法と関連法制	児童福祉法、母子及び寡婦福祉法をはじめとして、児童と家族に関する法律について概観する。法上の「児童」に関する規定はかならずしも統一されていないが、子どもの権利を擁護するという点では共通である。	同上	同上
5	児童福祉の行財政	児童福祉分野の行政、財政システムについて概観する。行財政改革の動向は児童福祉分野にとっても無縁ではない。また、様々な実践は、行財政という背景が存在するからこそ展開できる。予算状況や、地方自治体の役割関係などについても学ぶことになる。	同上	同上
6	児童福祉の実施機関、施設	児童相談所、各種児童福祉施設などについて、その機能と役割を学ぶ。児童相談所は、措置権を有した児童福祉の第一線機関であり、その機能と役割を理解することは重要である。児童福祉施設には、入所、通所、利用型施設が存在する。ここでは、それぞれの施設概要について学ぶ。	同上	同上
7	地域における子どもの育ちと子育て支援	地域における子どもの育ちを支える児童館の役割や、子育て支援の意義と実態について学ぶ。児童館は、利用型の児童福祉施設である。また最近では乳幼児とその養育者への支援にもかかわっている。乳幼児とその養育者の支援、すなわち子育て支援は多様であり、この点についての学習も含まれる。	同上	同上
8	保育	保育ニーズとそれへの対応、保育所の現状と課題を学ぶ。保育は、養育者の就労にともなう子育ての補完とともに、子どもの成長にとっても大きな役割を果たしている。多様な保育ニーズにどのように対応するのか、幼稚園や「総合施設」との関係についても学ぶ。	同上	同上
9	児童虐待への取組	児童虐待の状況と予防、対応、アフターケアについて学ぶ。児童虐待の把握は年々増加の一途をたどっている。死にも至る可能性があり、子どもの成長発達に重大な影響を及ぼす権利侵害である虐待に関する理解は予防、対応などにとって欠かすことはできない。	同上	同上
10	非行問題とその対応	非行問題について、児童自立支援施設の状況や少年司法との関連を学ぶ。少年犯罪への司法的対応と対比させながら、児童福祉分野での対応の特徴やあり方を考えていく。非行という問題を子ども個々の責任に帰してしまうだけではなく、社会環境との関連で理解することも重要である。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	障害児とその家族への支援	障害児の状況、在宅・施設での支援を学ぶ。障害を有することが、社会的生活の障害にならないような施策や社会環境が整備されつつある。差別を無くすことだけではなく、ともに生きる「共生社会」実現という観点から、諸施策を点検していく。	同上	同上
12	ひとり親家庭への支援	ひとり親の状況と、福祉施策の構成・課題を学ぶ。ひとり親の経済状況、子育てに関する悩みなどを理解するとともに、子育て支援全般を基盤としながらもひとり親固有のニーズに対応する諸施策の現状を学ぶとともに、児童福祉施設である母子生活支援施設の現況についても学ぶ。	同上	同上
13	児童や家庭支援の方法	児童家庭福祉実践の体系化とその理論について学ぶ。実践にはさまざまな手法（レパートリー）がある。個別的な対応からグループへの対応など、これまで実践を通じて体系化されてきたソーシャルワークを中心に、その原則や展開方法を学ぶ。	同上	同上
14	児童福祉の担い手	児童福祉サービスの担い手について、専門職や地域住民の役割を学ぶ。児童相談所で働く児童福祉司、施設で働く児童指導員や保育士などに加えて、地域には児童委員や主任児童委員という地域住民でありながら、厚生労働大臣の委嘱を受けて活動する人々も存在することを学習する。	同上	同上
15	少子化時代の児童福祉の課題と展望	少子化時代にあって、豊かな生育環境と養育環境を児童福祉サービスはいかに提供できるか、社会的施策の動向を踏まえてそれを展望するとともに、今後の課題についても明らかにし、さらなる学習についての方向性を示す。	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1513508	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　高齢期を支える社会福祉システム（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　栃本　一三郎（上智大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　浅野　仁　（関西学院大学教授）〕

講義概要

人口減少社会における高齢期を支える社会福祉システムを高齢者、サービス、政策のそれぞれレベルから検討していく。特にわが国は国民の1/3が高齢者となる一方、人口そのものが激減することになる。そのような社会にあって高齢期を支える社会全体のシステムは従来の常識や施策の発想からは生まれない。すでに人口減少社会となり、かつそのようななかで高齢者がつつがなく生活する仕組みを先行して構築しているヨーロッパと対比しながら、広い視点に立ってわが国のこれからの福祉システムのあり方を学ぶ。

授業の目標

これからの日本社会の正確な未来像を描くとともに、高齢期を支える仕組みとして日本に欠けたものを諸外国の例から知るとともに、一方人口減少社会においてわが国に適した地域に高齢期を支える社会福祉システムを地域住民が自ら考え、作るあげるための知識、方法を学ぶ。又、高齢社会を支えるための継続教育の重要性についても理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人口減少社会のなかでの高齢社会の展望	すでに20世紀末に人口減少社会に転じたヨーロッパと対比しながら、世界に類を見ない大規模・急激な人口減少に直面するなかで迎える高齢社会の特殊性を明らかにする。3000万高齢者が定常的に数十年に渡って存在する社会のイメージとそのなかでいかなる社会システム・経済システムが求められるかを明らかにする。そして、そのシステムが構築されないと将来衰退する社会となろうことを指摘する	栃本一三郎（上智大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授）
2	高齢者に関する知識と誤解	高齢期における社会福祉システムの学習に先立って、その対象である高齢者に関する知識とイメージについて自己評価する。ここでの要点は、高齢者に対し誤解に基づく知識が多く、そのために否定的イメージをもつ傾向があることを解説する。さらに、高齢者自身の暦年齢よりも若い認知年齢についても紹介する。	浅野　仁（関西学院大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授）
3	高齢期の身体機能と介護予防	加齢に伴う心身機能の低下は老化と呼ばれるが、この機能低下をいかに先送りするかが「介護予防」として、現在重要な政策課題となっている。介護予防のためには、人々が老化の過程、特に要介護状態をもたらすことの多い病的老化や生活習慣病についての理解を深め、自ら介護予防の活動に参加することが重要である。要介護状態をもたらす脳血管障害、骨折、廃用症候群などについて学ぶと共に、介護予防の条件となる運動や食事の意義、人々が参加しやすい地域活動としての介護予防のあり方を考える。	黒田研二（大阪府立大学教授）	浅野　仁（関西学院大学教授） 黒田研二（大阪府立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	心理・精神的機能と加齢の関係	人の行動が加齢によってどのような影響を受けるかは、感覚・知覚、知能、記憶、学習能力、パーソナリティなどの心理的機能の変化とその人を囲む社会環境によって異なってくる。そこで、本講義では高齢期の行動特性を心理的機能の変化と社会的な関係から概観し、高齢期の社会適応のあり方を探る。	藤田綾子（大阪大学大学院教授）	浅野　仁（関西学院大学教授） 藤田綾子（大阪大学大学院教授）
5	高齢期のQOLとスピリチュアリティ	高齢期は、これまでの人生を振り返り、「これからどう生きるのか」、また「どのように人生を統合していくか」という課題に向かい合う時期である。高齢期のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）は、どのような内容か。まず、QOLの概念を整理した上で、QOLからみた高齢期の課題を明らかにし、さらにQOL概念を構成するスピリチュアリティの重要性を取り上げる。	藤井美和（関西学院大学准教授）	浅野　仁（関西学院大学教授） 藤井美和（関西学院大学准教授）
6	高齢者と世代間扶養	高齢者と子・孫世代との関係、さらに高齢者とその親世代との関係といった世代間関係は、経済的・身体的な扶養関係とともに世代間交流としても捉えていく必要がある。従来の私的扶養関係と社会保障などによる社会的扶養関係は家族を軸に、世代間交流は地域を軸に検討し、ヨーロッパにおいても日本においても今後とも高齢期を支える重要な社会システムであることを論じる	浅野　仁（関西学院大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授）
7	高齢社会と高齢社会政策	今後の高齢社会に対する施策は従来のような狭義の老人福祉や既存社会保障の枠組みを超えた政策的視点が求められる。本講で、あらためて高齢期を支える社会システム・生産労働システム・社会福祉システム構築のための高齢社会政策について論じ、6回までを総括するとともに8回以降の個別政策の橋渡しをおこなう	栃本一三郎（上智大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授）
8	高齢期を支える所得保障システム	年金が今後も公的な所得保障の中心として位置づけられるが、注目しなければならないのが最適生活を保障する全体的なシステムである。それには生活保護や就労なども含まれる。EUなどにおけるさまざまな制度、サービスを用いた最低生活保障の姿を明らかにするとともに、それらを基礎とした生活のあり方を展望する	栃本一三郎（上智大学教授）	栃本一三郎（上智大学教授） ゲスト：駒村康平（東洋大学准教授）
9	高齢期を支える医療と地域における保健医療システム	高齢者医療保険制度が新たに創設される。このシステムが介護保険制度とあわせて地域で高齢者が健康に過ごすための大きな柱となる。そこで行われるサービス、福祉との連携などについて論じるとともに、広くわが国の医療保険制度の課題と医療技術の先端についても紹介する	川渕孝一（東京医科歯科大学大学院教授）	栃本一三郎（上智大学教授） 川渕孝一（東京医科歯科大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	高齢期の居住支援	単に、高齢者の住宅について論じるだけではなく、高齢者の取り巻く空間設計がどのようなものとして形作られているのか、持続可能な適正規模の自治体が既に形成されているヨーロッパと比較しながら、高齢者がつつがなく生活できる空間のあり方、生活基盤について解説する。その際、高齢期にあっても住居地を大きく変える動きが出てきている。これらについても紹介する	園田眞理子(明治大学准教授)	園田眞理子(明治大学准教授)
11	高齢期を支援する社会福祉サービス(1)	まず、国が提供している在宅福祉サービス(要援護高齢者対策・社会活動促進対策)と地域において実施されている在宅福祉サービスについて概観し、次に高齢者が一方的にサービスを受ける対象としてではなく、地域で生活する市民として社会参加をとおして社会貢献する重要性について指摘する。	浅野　仁(関西学院大学教授)	浅野　仁(関西学院大学教授)
12	高齢期を支援する社会福祉サービス(2)	施設福祉対策は入所施設と利用施設に大別されるが、従来の大規模型入所施設は介護保険制度のもとで、ユニットケアの導入や地域密着型サービスへの転換が図られている。最新の施設サービスのケアの取組みや地域に根ざした施設サービスの今後の方向について考察する。	浅野　仁(関西学院大学教授)	浅野　仁(関西学院大学教授)
13	介護保険制度のあり方	ドイツ、オランダとともに介護保険制度による高齢者介護のシステムを構築したわが国の介護保険制度について、各国のその後の法律改正および現場におけるサービスの質の維持のための新しい試みなど改正以降のサービスの変化、現場での対応、新しい取り組み、課題などについて検討する。	栃本一三郎(上智大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授)
14	高齢者福祉サービスの提供組織と専門人材	高齢期を支える保健、医療、福祉、介護分野に従事する専門人材の現状と課題について解説する。介護保険制度の導入によって、サービスの質の向上が最重要課題となっていることから、より良いサービスを提供する専門職の養成に向けて、学校教育や現任訓練教育のあり方についても検討する。	浅野　仁(関西学院大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授) 浅野　仁(関西学院大学教授)
15	これからの社会福祉システム	最終回の本講義では、福祉先進国の社会福祉システムを参考にしながら、高齢期を地域で安心して、生き生きと生活できる条件について、社会福祉政策の立場から論じる。具体的には、少子高齢社会の課題、社会福祉システムにおける国と地方自治体の関係、公私の役割分担、地域社会における高齢者の役割などについて考える。	浅野　仁(関西学院大学教授)	栃本一三郎(上智大学教授) 浅野　仁(関西学院大学教授)

＝　地域福祉論（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師：　牧里　毎治（関西学院大学教授）〕

全体のねらい

地域福祉が住民主体を基本とする地域社会をベースにしたサービスとケアのシステムであることを理解する。この場合、地域住民は、サービスの受け手であるとともにサービスを創出する担い手でもあることを学ぶ。国から地方への中央集権的，上意下達的な縦割り型の法令や補助金に拘束された官僚的福祉行政ではなく、生活者である住民の目線から自治体を含む様々な専門職団体や住民団体とともに多様な生活支援サービスや市民活動を横につないでいく取り組みであることを理解する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域福祉の理念と概念	地域福祉とはなにか。その概念を説明します。 地域福祉の範囲と構成をアプローチの仕方によって説明します。大きくは社会構造の一つとしてとらえ、もう一つは社会的機能としてとらえるアプローチです。あわせてこれらの地域福祉システムを支えている理念、たとえばﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝやｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄ、あるいはｺﾐｭﾆﾃｨｹｱなどについても述べます。	牧里　毎治（関西学院大学教授）	牧里　毎治（関西学院大学教授）
2	地域福祉の源流	歴史的にみると、地域福祉はどのように進展してきたか。欧米での歴史的展開を含めて、とくに戦前日本の地域福祉の源流をたどります。地域福祉ではなじみの深いセツルメント運動や中央慈善協会、地方改良運動、方面委員制度など、日本的取り組みと欧米での歴史的展開を対比させながら説明をします。	永岡　正己（日本福祉大学教授）	永岡　正己（日本福祉大学教授）
3	戦後日本の地域福祉	戦後日本の社会福祉の歩みをみると、戦後復興から今日の地方分権まで、社会福祉体制の整備とともに地方自治体を中心とする地域福祉政策への指向が高まってきています。福祉政策の地域指向がどのように生じてきたのか、その変化と歩みおよび社会的背景を述べます。それとともになぜ地域福祉が台頭してきたのか理由をさぐります。	同　上	同　上
4	地域福祉の構成と範囲	地域福祉とは具体的にはどのような範囲と内容をもつシステムなのか、また、どのように構成されているのかを体系的に説明します。サービス体系としの在宅福祉サービスと施設福祉サービス、運営要件としての住民組織化活動、計画化機能などについて言及します。さらに地域福祉システムを支える自治体運営と住民参加の重要性につても述べます。	野口　定久（日本福祉大学教授）	野口　定久（日本福祉大学教授）
5	地域福祉におけるサービス供給組織	在宅福祉サービスおよび施設福祉サービスともに、これらのサービスは、様々な供給組織によって提供されている。この多元的なサービス供給の実態と課題について説明します。また、これらの多様なサービス供給組織の連携や統合の必要性についても言及します。特に介護保険の制度化にともなう地域福祉のあらたな政策・実践の課題についても述べます。	同　上	同　上
6	福祉施設と地域社会	施設福祉から在宅福祉へのシフトが地域福祉の主要な潮流とも言われてきましたが、施設建設反対運動のようなコンフリクトも起こっています。 地域福祉を実体として形づくっていくには、福祉施設が地域社会の福祉拠点にならなければならないことを述べます。福祉施設の社会化などをふりかえりながら今日的課題について説明します。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	社会福祉協議会 NPO	地域福祉推進の中核的機関である社会福祉協議会の特質および戦後50年の実践を振り返りながら民間組織としての役割と課題について説明します。福祉施設などの社会福祉法人とは異なる市民参加型の法人としての展望にも言及します。NPOなどの新しいタイプの公益法人との連携や社会福祉協議会のNPO的運営についても述べます。	藤井　博志（神戸学院大学准教授）	藤井　博志（神戸学院大学准教授）
8	ボランティア活動と福祉教育	福祉コミュニティの形成にはボランティア活動や地域での助け合い活動など市民参加型のまちづくりを欠かせません。福祉社会を構成する主体者としての住民やボランティアの成長が望まれています。地域福祉に密接に結びついている福祉教育や福祉学習について住民の主体形成を促進する視点からこれらの実態と課題について述べます。	同　上	同　上
9	民生委員・児童委員の現状と課題	民生委員・児童委員は歴史的にも日本的地域福祉の原点でもあり、今日の地域福祉の主要な担い手でもあります。これら民生委員・児童委員の地域福祉に果たしてきた役割や活動実績について評価するとともに、あわせて地域社会で独自に制度化されている福祉委員の実態についても現状を説明します。	同　上	同　上
10	住民主体形成と当事者組織	地域福祉の主体者として住民がサービスの受け手でもあり担い手でもあることを説明します。住民が福祉における住民自治の主役にならなければならないことの重要性について述べます。住民の主体形成だけでなく、福祉問題を抱える様々な当事者についても受益者でもあり担い手でもある主体者としての成長の必要性を述べます。	同　上	同　上
11	福祉の情報提供相談・苦情解決のシステム化	生活圏としての地域社会にねざした地域ケアシステムは、サービス供給の仕組みづくりだけでなく福祉情報の提供や情報公開、ニーズ把握の実態調査や継続的な相談体制づくり、苦情解決などのシステム化が必要です。ニーズ発見、問題把握から苦情解決などまで市民参加による取り組みが求められていることにも言及します。	牧里　毎治	牧里　毎治
12	コミュニティワークと福祉のまちづくり	住民参加は、地域福祉にとって重要な本質的要素です。その参加・参画を促進するには専門職であるコミュニティワーカーによる支援が必要となります。住民福祉活動や福祉のまちづくり活動を支援する専門的方法をコミュニティワークといいますが、その現状と課題を説明します。コミュニティワークは、地域福祉の方法といえます。	同　上	同　上
13	地方自治体の地域福祉財政	地域ケアシステムの構築であれ、住民の福祉活動支援であれ、これらの諸活動を支える人材や組織を確保するには公的な財源がなければ成り立ちません。これらの地域福祉にかかわる地方自治体の財源がどうなっているかを説明します。あわせてこれらの地方自治体における財政状況や課題についても地域福祉にかかわる範囲で言及します。	山本　隆（関西学院大学教授）	山本　隆（関西学院大学教授）
14	地域福祉の民間財源	税金以外の地域福祉を支える民間財源について現状と課題について説明します。伝統的で代表的な民間財源としては共同募金と福祉基金などがありますが、これらの寄付による方法以外の財源調達の方法、たとえば利用料(料金)方式やあバザーなどのイベント型資金獲得などについても現状と課題を述べます。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	地域福祉計画の策定と公私協働 ・官民協力	最後にまとめにかえて、これまでの社会福祉計画をふまえて新しい地域福祉計画の策定の意義と展望について説明します。地方分権時代の地域福祉にとっては地方自治をどのように発展させるかが重要な論点になりますが、その具体化には地域福祉計画をどう策定するかが大きな試金石になることを述べます。	牧里　毎治	牧里　毎治

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1511807	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　市民生活における社会保険　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：堤　修三（大阪大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：品田　充儀（神戸学院大学大学院教授）〕

講義概要

社会保険制度はあたかも生き物のごとく、様々な環境の変化に適応すべく変貌していく。そして、時代の変化が著しい昨今においては、その変貌の速度も加速している。本講義においては、市民が生活をしていくなかで、社会保険制度はいかなる機能を果たしているのか、またその本来の目的を達する上で何が障害となっているのかなど、変わり行く社会保険制度について、普遍的な部分と時代に適合していく部分の両方を意識しながら、その意義と将来像について検討していく。

授業の目標

わが国の社会保険制度の基本的な構造について理解するとともに、その本来の目的のためにあるべき姿や将来の展望について検討していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会保険を学ぶ意義	社会保険は、ライフサイクルのなかで生じてくる様々な事故に対して、事前に保険料を拠出することによって備えておこうという人間の英知の結晶である。少子高齢社会に突入し、将来の生活設計にかかる不安は高まりつつあるが、社会保険制度の現状とその可能性を知ることは現代を生きる市民にとって重要である。 【キーワード】 保険事故、保険者、被保険者、保険料	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）
2	社会保険の意義とその根拠	社会保険とは、社会＋保険という文字どおり、社会的要請と私的契約に発する保険という異質な2つの要素が組み合わされたものである。この講義では、社会保険とは何か、その意義や特性を、私的保険との対比によって明らかにしたうえで、それがいかなる理由によって根拠付けられるかを考察する。 【キーワード】 保険原理・強制加入・比例保険料・被保険者自治	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
3	社会保険制度の構造と体系	社会保険制度は、社会保障制度体系の中にあってどのような機能を有するのか。また、社会保険制度は年々拡張し、また複雑化する傾向を辿っているが、その構造において共通する部分は何処にあるのか、検討していく。 【キーワード】 所得保障、拠出、社会保障	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）
4	医療保険制度の構造	病気やけがをした時、私たちは健康保険や国民健康保険を利用して医師の診断や治療を受ける。今日では、医療保険は、私たちが健康に安心して社会生活を送るために欠かすことのできない制度となっている。第4回講義では、わが国の医療保険制度の基本的な構造を説明する。 【キーワード】 医療保障、健康保険、国民健康保険	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	保険診療の仕組み	医療保険の仕組みでは、保険医や指定医療機関は、健康保険法や療養担当規則に定められた様々なルールに従って患者に医療を提供する。また、診療をおこなった指定医療機関に対しては独自の審査体制に基づいて診療報酬が支払われる。今回の講義では、このような保険診療の仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 保険診療、診療報酬、療養担当規則	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）
6	高齢者医療制度と医療保険制度の課題	急速に進行する高齢化に対応するために、最近の医療制度改革では高齢者医療のあり方が重要な検討課題となっている。また、保険者の再編統合や生活習慣病への対応など医療保険制度には新たな課題が生じている。今回の講義では、新しい高齢者医療制度と今後の医療保険制度の課題を取り上げる。 【キーワード】 高齢者医療、老人保健制度、保健事業	石田道彦（金沢大学准教授）	石田道彦（金沢大学准教授）
7	介護保険制度の仕組み	2000年に誕生した最も新しい社会保険制度である介護保険制度は、どのような特徴を有するのか。変貌しながら発展していく介護保険制度の構造を学ぶ。 【キーワード】 介護保険、介護支援、居宅サービス、施設サービス	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）
8	介護保険制度の課題と将来像	介護保険制度は誕生まもない現状において、将来を不安視される状況にある。高齢者を見守る地域のあり方、介護状態にならないための予防、行政単位で決定していく保険料額など、社会保険制度でありながら、新たな手法をもって将来を築こうとする同制度を展望する。 【キーワード】 地域密着、新予防給付、地域支援、地域包括支援	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）	品田充儀（神戸学院大学大学院教授）
9	年金制度の成り立ちとその変容	年金制度は、同じ制度でありながら、給付と負担の関係を規定する基本構造が経済社会の変化に応じて変容していく不思議な制度である。年金制度の第1回目は、わが国の年金制度が、その基本構造をどのように変容させてきたかを辿り、給付と負担の関係はどうあるべきか、どう決められるべきかについて考察する。 【キーワード】 積立方式・賦課方式・給付建て・拠出建て	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）
10	年金制度の概要	この講義では、現在のわが国の年金制度の概要を学習する。全国民共通の国民年金（基礎年金）・サラリーマンの年金である厚生年金のそれぞれについて、被保険者資格・年金給付の種類・受給資格・年金額と計算方法・保険料水準などの概要を説明する 【キーワード】 国民年金・厚生年金・基礎年金・1号被保険者・2／3号被保険者・年金保険料	堤修三（大阪大学教授）	堤修三（大阪大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	年金制度を巡る諸問題	年金制度に関する国民の関心は極めて高い。少子高齢化の進行や国民年金(1号被保険者)の保険料未納などから、年金制度は将来とも大丈夫か、巨額の不良債務を負っているのではないかという疑問や、保険方式を止めて消費税を財源とする方式に改めたらどうかという意見もある。また、女性の年金と保険料負担を巡っても議論が続いている。この講義では、これらの問題について考えてみる。 【キーワード】 保険料の未納・年金の'不良債務'・保険料と税・3号被保険	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)
12	雇用保険制度の概要	雇用保険は、失業時の生活保障のほか、就職の支援や失業の予防、教育訓練といったより広い意味での雇用保障を目的としている。これらの目的を念頭におきつつ、保険給付とそのあり方について学習する。さらに、雇用保険と密接に関係する雇用政策の発展と今後の課題について検討する。 【キーワード】 雇用保障、雇用保険、求職者給付	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
13	労災保険における業務災害補償制度	労災保険は、労働者の業務上もしくは通勤による災害に対する補償を内容とするものである。まず業務上の概念を確認したうえで、大きな社会的問題にもなっている過労死や過労自殺を中心に、認定基準や補償のあり方について検討する。 【キーワード】 業務災害、労働者災害補償保険、過労死、過労自殺	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
14	通勤災害保護制度と労災保険制度の課題	引き続き労災保険をとりあげるが、第14回では通勤災害について学習する。第13回、第14回の講義をふまえて、なぜ労働者について、このような特別な補償がなされるのか、労災保険の意義・目的、発展経緯、さらには今後の課題について検討を加える。 【キーワード】 通勤災害、災害補償、労働福祉事業	水島郁子(大阪大学准教授)	水島郁子(大阪大学准教授)
15	福祉国家の現在と社会保険	最終回は、最近の社会保障改革を巡る動きについて考える。グローバリズムや規制改革などにより格差の拡大が言われる一方、制度の維持可能性の名の下に社会保障改革が進められている。その中で大きなウエイトを占めるのが社会保険の給付抑制である。給付抑制の限界はどこか、私たちの社会的安全ネットはどうあるべきか、これからの社会保障ー社会保険の在り方について考察する。 【キーワード】 保険料と税・制度の維持可能性・制度の一元化	堤修三(大阪大学教授)	堤修三(大阪大学教授)

＝　アジアの社会福祉（‘０６）＝　（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：萩原　康生（大正大学教授）〕

全体のねらい

アジアは政治的にも経済的にも変動の中にある。そして、その政治経済の変動の中で、社会福祉も大きく変わろうとしている。かつては、慈善救済的な福祉が主流であったが、現在は社会開発が重要な位置を占めつつある。また、社会保障もいくつかの国では、発展の段階に入っている。本科目では、これらのアジアの社会福祉の新しいうねりを学習する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	アジアの社会福祉・社会保障の特徴と問題点	アジア諸国は、大きな変動の中にある。躍動する経済がある一方で、その経済成長から取り残される人々が多くいる。国際機関・団体と各国政府は、大なり小なりそれらの問題に対応しようとしている。本章では、政治経済の変動によって生成された社会福祉諸問題へマクロの視点からアプローチする。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
2	貧困不平等と福祉	貧困と経済的不平等は経済的先進国であろうと発展途上国であろうと、国民生活を脅かす最大の問題である。特に社会的セーフティネットの十分整備されていないアジアの開発途上国では、多くの国民が貧困と不平等の重圧に喘いでいる。本章ではその実態を明らかにし、さまざまの対応策を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
3	子どもと福祉	本章では、アジアの子どもの権利条約に基づく国際協力や協働、開発の現状と課題に焦点を置きながら、１．国内外におけるアジアの子どもの状況はどうなっているか。２．子どもの権利を救済・保障していくために現行法や制度はどこまで有効か、そして３．アジアの子どもの権利保障において、子どもの権利条約はどのような可能性をもっているか、その課題と展望について考察してみたい。そして、21世紀こそ真の「子どもの福祉の世紀」にするための手立てについて、アジアにおける児童福祉の共通した問題点や課題等について整理してみたい。	桂　良太郎（立命館大学教授）	桂　良太郎（立命館大学教授）
4	ジェンダーと福祉	アジアの女性が置かれている状況を、女性の人口、女性観、男性との間の経済的社会的格差の点から考察する。そのような状況の中から女性がエンパワーされ、ジェンダーの問題が広く取り上げられ、政策策定への参加にまで至るようになった軌跡をたどり、ジェンダーと社会福祉を検討する。	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）

5	障害と福祉	アジアの途上国においても第１次、および２次のアジア太平洋障害者の十年によって障害分野で多くの発展がみうけられる。アジア各国での障害の社会的経済的状況をさまざまな観点から考察し、障害者をめぐる課題を論じる。また自助団体の育成、CBRや障害者条約など、障害者のエンパワーメントのための戦略にも言及する。	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）	中西由起子（アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表）
6	高齢者と福祉	高齢者の介護や福祉の問題は、社会的･文化的、歴史的背景の異なるアジアの国々においても共通した重要な社会問題となりつつある。本章では、急速に高齢化するそれぞれの国々の現状と、将来にむけてどのように対処しようとしているかについて、いくつかの国々(シンガポール、マレーシア、ベトナム、中国等)における取り組みを紹介しながら、特に多様な家族構造や機能および家族規範がどのように関わっているかという視点を加味し、アジアに共通した高齢者福祉の特徴や問題点について考察してみたい。	桂　良太郎（立命館大学教授）	桂　良太郎（立命館大学教授）
7	難民と福祉	人間の安全保障では、欠乏からの自由と恐怖からの自由が達成課題として掲げられている。これらの二つの課題を抱えて、最も危機的生活をおくっているのが難民である。本章では、それらの難民の実態と国際的な難民への対応の実態とあるべき姿を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
8	社会的排除と福祉	貧しい人たちは、単に経済的に貧しいというだけではなく、社会的に差別をされ社会から疎外されている。貧困者だけではなく、多くの問題を抱えた人々が、社会に参加することを拒否されている。社会福祉の課題は、社会的に排除された人々が再び社会の主流に乗る支援をすることである。本章では、エイズ、失業等のさまざまな社会的排除とそれらへの対応を学ぶ。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
9	エコロジーと福祉	経済開発の美名の下に、環境破壊が起こり、公害が人間を蝕む事態となっている。これを歪んだ発展という。人間の平和な生活＝福祉を阻害するのは経済開発を主眼として社会開発を取り入れなかった政策にある。本章では、歪んだ発展の結果もたらされる鉱害問題などを取り上げ、次世代に豊かな福祉を譲り渡す「持続的発展」のあり方を検討する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
10	社会開発と福祉	社会開発は、人々の生活を重視し、人間の生活環境を向上させる政策である。そこには、住民の参加や住民と政府との協力など、大きな政策課題がある。本章では、それらの政策課題を検討すると共に、社会開発の実践であるコミュニティ・ディベロップメントを検証する。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）

11	国際機関の活動と国際協力	本章では、国際援助に影響を与えた社会発展の考え方を考察し、今日の国際協力を行う上で重要な概念である「人間開発」を取り上げ、「人間の安全保障」の推進役であるユニセフ、難民高等弁務官事務所をはじめとする国際機関及び草の根の現場で活動するNGO のアジアにおける役割と課題を検討してみたい。	原島　博（ルーテル学院大学准教授	原島　博（ルーテル学院大学准教授
12	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策①中国	中国政府は近年、社会保障・福祉制度の構造改革に積極的に乗り出した。それを受けて社会保障・福祉の政策と実践はさまざまな展開を見せている。本章では、中国社会保障・福祉の展開過程および実施状況から見られる都市部と農村部の格差を指摘しつつ、具体的に最低生活保障、高齢者福祉、コミュニティ・サービスなどを考察してみたい。	王　文亮（金城学院大学教授）	王　文亮（金城学院大学教授）
13	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策②韓国	韓国での社会福祉・社会保障制度を概観し、その特徴と問題点などについて講義する。高齢化への対応、新しい公的扶助制度の整備、民主化と政策との関係など、韓国国内の状況についてだけでなく、在日コリアンへの福祉のような身近な問題にも触れたい。	株本千鶴（椙山女学園大学准教授）	株本千鶴（椙山女学園大学准教授）
14	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策③タイ	1990年代の経済危機を脱したタイは、社会開発を政策課題に掲げ人間の生活の充実を目指している。医療保険制度の整備などがその一例である。本章では、変動を遂げつつあるタイの社会福祉・社会保障制度を明らかにするとともに、依然として人権問題となっている児童売春などの社会福祉問題の解明を試みる。	萩原　康生（大正大学教授）	萩原　康生（大正大学教授）
15	アジアの社会福祉・社会保障の制度政策④フィリピン	フィリピンの今日の社会状況を理解した上で、フリピン社会が直面している社会福祉問題を取り上げ、政府の社会福祉政策を地方分権の流れでおさえ、行政及びNGOの役割と課題を考察していく。日本とフィリピン間で生じている福祉問題を女性と子どもの人権の視点から考察する。	原島　博（ルーテル学院大学准教授	原島　博（ルーテル学院大学准教授

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1512900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　障がいと共に暮らす　（’０９）＝（ＴＶ）
－自立と社会連帯－

〔主任講師（現職名）：河野正輝（熊本学園大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：東　俊裕（熊本学園大学教授）〕
【担当専任教員：大曽根　寛（放送大学教授）】

講義概要

本講義では、障害者福祉論で通常取り扱われる対象・範囲を超えて、新しい「障がい法」のあり方にまで踏み込んで考えてみよう。障がい法という新たな概念では、障害者福祉の法制に限らず、障がいにかかわるすべての法領域が含まれるとともに、それらの法領域が全体として障がいのある人の自立・社会参加を保障する差別禁止と社会連帯の基本原理に立って統一的に考察されることになる。なお、現行法を引用して説明する際の煩瑣をさけるため、本文では「障害」の表記を併用する。

授業の目標

①まず障害福祉サービスの提供の基盤である障害者福祉法制の仕組みや運用上のポイントを理解しよう。
②つぎに法制を執行する立場にとって必要な専門知識だけでなく、法制を活用して障害福祉サービスを利用する人々の立場に立った権利擁護のポイントを理解できるようにしよう。
③さらに障害福祉サービスだけを見るのではなく、障がいのある人の自立と社会参加の保障に関する全法制を視野に入れて、現状の問題点と解決策を考える力をつけよう。

履修上の留意点

受講生としては、福祉サービスの利用者、社会保障や社会福祉の専門職のほか、社会福祉に関心を持つすべての市民が対象である。
本講義の履修にあたって、基本的人権や国際人権規約、社会保障・社会福祉にかんする他の関連科目をあわせて履修すれば、理解をより深めることができるだろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会における障害	第1回は、本教材の導入であるので、現代社会における「障害」の位置と概念を明らかにしつつ、現代思想と経済社会が「障害」をめぐって揺れ動く様を描いてみよう。さらに、21世紀に入るころから一般的に使われるようになった「障がい」という言葉への転換と新たな概念についても学習しておこう。 【キーワード】 近代社会、人権、障害と障がい	大曽根　寛（放送大学教授）	大曽根　寛（放送大学教授）
2	障害者の権利条約	「障害者の権利条約」は、障害のある人に特別の権利を創設するものではないが、新しい考え方を取り入れることによって、障害者を保護の客体から権利の主体に転換するものである。条約に取り込まれた新しい考え方を学ぼう。 【キーワード】 障害、差別禁止、合理的配慮の欠如、間接差別、手話の言語性、アクセシビリティ、自立した生活、インクルーシブ教育	東　俊裕（熊本学園大学教授）	東　俊裕（熊本学園大学教授）

専門科目 生活と福祉

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	障がい法の沿革と体系	これまでの障害者福祉法制は、保護と隔離の観点から、対象者ごとにバラバラに定められてきたが(福祉モデル)、これからは障がいのある人の教育、就労、医療、福祉サービス、住まい、交通、情報その他社会生活への参加に関する法制が、自己決定の支援と社会連帯の観点から統一的に定められるべきこと(市民権モデル)を説明する。 【キーワード】 福祉モデルと市民権モデル、自己決定権、障がい法	河野正輝(熊本学園大学教授)	河野正輝(熊本学園大学教授) 東俊裕(熊本学園大学教授)
4	教育の保障	日本では、障害児の教育が普通学校から分離された形で行われてきたが、世界の流れは、分離からインテグレーション、さらにはインクルージョンへと変化してきている。ここでは、障害者の権利条約に示されたインクルーシブ教育の内容と日本の課題を学ぶことにする。 【キーワード】 分離教育、インテグレーション、サラマンカ宣言、インクルーシブ教育	東 俊裕(熊本学園大学教授)	東 俊裕(熊本学園大学教授)
5	医療の保障	日本には全国民を対象とする公的医療保険制度があるが、障害がある場合には自立支援医療によって医療保険給付を補完し、障がい者の健康を保障している。また、低所得の場合には生活保護法上の医療扶助を受けることになる。ここでは、主に自立支援医療および精神医療(入院)の手続・内容・課題について学ぶことにする。 【キーワード】 公的医療保険、自立支援医療、精神保健福祉法、医療扶助	西田和弘(岡山大学大学院教授)	西田和弘(岡山大学大学院教授)
6	就労の保障	近年、社会福祉は、大きな改革のさなかにあり、とりわけ「障がい」のある方への就労施策は急速に変動しつつある。2000年の「社会福祉基礎構造改革」から、2005年の障害者自立支援法の成立にいたる過程で、社会福祉制度における「就労」政策も、大きく変化した。まず、制度の変容について、学んでおこう。 【キーワード】 労働能力、就労移行支援、就労継続支援	大曽根 寛(放送大学教授)	大曽根 寛(放送大学教授)
7	雇用の促進	第7回では、2000年以降の障害者基本法および障害者雇用促進法の改正を概観しながら、企業と障がいのある方が出会う場面、つまり「労働市場」における問題点を明らかにしておこう。さらに、教育・医療や社会福祉から労働市場への移行がどのように行われていくのかについても考えてみよう。 【キーワード】 雇用率、納付金、職業リハビリテーション、雇用の差別禁止	大曽根 寛(放送大学教授)	大曽根 寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	所得の保障	障がいのある方に対する所得保障は、公的年金保険によるものを基本とし、それを社会手当や生活保護により補う形で行われている。実際に支給される給付には様々なものがあるが、ここでは、障がい者の尊厳にふさわしい生活を支えるに足るものかどうかという観点から、主な所得保障制度の内容、意義、相互関係、問題点等を学んでいこう。 【キーワード】 経済的自立、障害年金、社会手当	新田秀樹（大正大学教授）	新田秀樹（大正大学教授）
9	最低生活の保護	生活保護制度は、「健康で文化的な最低限度の生活」を全国民に保障するための最終的なセーフティネットである。障がいのある方で生活保護制度を活用する方も多く、その中から新たな自立の考え方も生まれてきた。ここでは、所得保障面を中心に生活保護制度の内容を学ぶとともに、「自立支援プログラム」の意義と問題点を考えていこう。 【キーワード】 生活扶助、自立の助長、積極的自立論、自立支援プログラム	新田秀樹（大正大学教授）	新田秀樹（大正大学教授）
10	障害福祉サービスの体系	①障害者自立支援法に基づいて、自立支援給付（介護給付費、訓練等給付費など）の対象となる障害福祉サービスの種類・内容、②施設・事業体系の見直し、③地域生活支援事業の種類・内容、④サービス提供体制の確保、⑤サービスの質の確保・向上について、法制度の仕組みと実態を学ぶ。 【キーワード】 自立支援給付、地域生活支援事業、福祉サービスの最低基準、障害福祉計画	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）
11	サービス利用をめぐる権利と義務	措置方式と契約方式の差異を理解した上で、障害者自立支援法に基づくサービス利用の流れにそって、①支給の申請から支給決定までの手続き、②支給決定の変更と取消し、③自立支援給付のケアマネジメント、および④審査請求に関する法制度の仕組みと実態を学ぶ。 【キーワード】 措置方式と契約利用方式、障害程度区分、市町村審査会	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）
12	サービスの費用負担	障害者自立支援法において、費用負担方式がどう改変されたかについて理解した上で、①利用者負担に関する原則と負担軽減措置の内容、②国・都道府県・市町村による公費負担の内容について、法制度の仕組みと問題点を学習する。 【キーワード】 応能負担と応益負担、利用者負担、補足給付、公費負担	河野正輝（熊本学園大学教授）	河野正輝（熊本学園大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	アクセシビリティ	障害のある人が社会参加する上で、現在の社会には大きな障壁が存在する。自立した社会生活を営めるようにするためには、一般社会に提供されている様々な設備、情報、サービスなどを同等に利用できるようにならなければならない。ここでは、障害者の権利条約が規定するアクセシビリティの内容と日本の課題を学ぶことにする。 【キーワード】 アクセシビリティ、バリアフリー法、情報保障	東　俊裕（熊本学園大学教授）	東　俊裕（熊本学園大学教授）
14	自立した生活と地域社会への統合	これまでノーマライゼーションという言葉で隔離された生活から地域社会での自立した生活への転換が語られてきたが、これを人権として認知したのが障害者の権利条約である。ここでは、施設処遇に軸足を置く日本の福祉サービスの問題点を学ぶことにする。 【キーワード】 パラダイムシフト、地域社会で生活する平等の権利、自立した生活、障害者自立支援法	東　俊裕（熊本学園大学教授）	東　俊裕（熊本学園大学教授）
15	権利の擁護と救済	判断能力の低下などでサービス給付や市民生活の場面で不利益を受けやすい障がい者のためにどのような権利擁護の仕組みがあるのか。権利侵害があった場合の救済手段はどのようになっているのか。ここでは障がい者の権利や利益を守る仕組み、侵害された場合の救済の仕組みと問題点を学ぶ。 【キーワード】 アドボカシー、虐待防止、成年後見、日常生活自立支援事業	西田和弘（岡山大学大学院教授）	西田和弘（岡山大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1520300	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 教育の社会史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：辻本　雅史（京都大学教授）〕

講義概要

現代の教育の問題群に、歴史学の方法によるアプローチをこころみる。そのために、学校に収斂させるのではなく、社会に埋め込まれた人間形成のあり方に視点をすえて「教育の社会史」を描く。おもに17世紀以後の日本の教育史をたどるが、なかでも知を伝達するメディア、身体や時間の近代化、試験の歴史、教育におけるジェンダー、移民社会にみる異文化教育の特質など、高度情報化とグローバル化を見通した主題に留意する。

授業の目標

近代は「学校教育の時代」であったが、今や「学校困難の時代」であるかに見える。歴史の側に視点をすえて、過去からのまなざしによって、今の教育の諸問題を考察してみたい。それは結局、近代学校教育が抱え込んだ歴史的特質を浮き彫りにすることになる。総じて日本教育を、歴史の視点からトータルに理解し、今後の展望を考えようとする学習者に、有益となることをめざしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「文字社会」の成立まで―古代・中世から近世へ―	まず歴史の視点から教育を考える意義を示す。次いで文字が生活の中に組み込まれた17世紀「文字社会」の成立を、日本の教育史を二分する画期ととらえ、そこに至る古代・中世の文字学習の歴史を概観する。さらに近世「文字社会」の要因とその特質を探ることで、近世の教育文化の諸相を明らかにする。 【キーワード】 文字社会、文字文化の共通化、書札礼、仮名文字	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）
2	日本の近世社会と人間形成	近世社会における、人間形成の在り方について講ずる。日本においては、村を中心とした地域社会が基本的な共同体となった。子どもが一人前になる過程は、すなわち、この地域社会に参画する過程でもあった。また近世社会においては、「小さな家」が民衆レベルで確立し、そのもとで子どもを育てていくことが常態化していった。地域社会と「小さな家」における人間形成について考える。 【キーワード】 村　地域社会　小さな家　子育て　人間形成	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）
3	文字を学ぶ人々	近世日本における民衆の文字学びについて講ずる。近世は、日本の歴史の中で、文字学習が広く社会に普及することになる時代でもある。また出版も盛んになり、ものを書き本を読むということが、人々の間に広く普及した時代でもあった。人々がどのようにして文字を学んでいたのか、またどれぐらいの人が文字を読むことをしたのかなどについて講ずる。 【キーワード】 文字学び　リテラシー　手習塾　出版	八鍬　友広（新潟大学准教授）	八鍬　友広（新潟大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	17世紀日本の「メディア革命」と教育	17世紀日本で、民衆層が不可欠のメディアとして文字を受容し、商業大量出版が始まったことは、一種の「メディア革命」と見なされる。メディア革命は、文字文化の共通化と知の商品化をもたらし、学習テキストや日本の「古典」を成立させ、近世人の「教養」を形作った。近世の教育をメディアの視点からとらえることで、近世人の学びの諸相を考える。 【キーワード】 メディア革命、出版書肆、学習テキスト、知の商品化	辻本 雅史(京都大学教授)	辻本 雅史(京都大学教授)
5	学びの文化とその思想—貝原益軒から考える—	「教え」よりも「学び」に視点をすえた「学びの文化」の源流を近世に探る。手習いと儒学の、身体を介した学びの原理に、近世教育の文化的特質を見いだし、それを貝原益軒の『和俗童子訓』の言説によって確認する。それと対比的に、近代学校の学習や教育の特質が明らかになるであろう。 【キーワード】 『和俗童子訓』、貝原益軒、素読、身体知、しつけ	辻本 雅史(京都大学教授)	辻本 雅史(京都大学教授)
6	民衆教化とそのメディア	18世紀以後、社会の動揺を前に、「政治」が「教育」を「発見」していった過程と、民衆の自己教育による困難克服の諸相を、とくに教化メディアの視点から探り、近代日本との関わりを展望する。 【キーワード】 閑谷学校、『六論衍義大意』、寛政異学の禁、石門心学	辻本 雅史(京都大学教授)	辻本 雅史(京都大学教授)
7	近代学校の身体と時間	近代学校がもとめる「近代的」な身体と時間の規律について考える。なぜ、日本の学校は隊列を組んだ「行進」を重視したのか。さらに時間割、運動会、学校儀式などについて考える。 【キーワード】 一斉教授法、行進、運動会、号令、学校毀焼事件	森川 輝紀(埼玉大学教授)	森川 輝紀(埼玉大学教授)
8	教育をめぐる自由と統制	国民教育の確立をめぐる自由(自治)主義と統制主義について考える。田中不二麿、森有礼の教育論、教科書の国定化、大正自由教育などについて、考える。 【キーワード】 教育令、森有礼、教育勅語、国定教科書、大正自由教育	森川 輝紀(埼玉大学教授)	森川 輝紀(埼玉大学教授)
9	試験と出席の社会史	日本の近代学校は、試験進級制=等級制を編成原理として出発した。それが、なぜ出席主義に変容したのかを考える。なかでも試験と考査、課程主義と年齢主義とは何か、となどの問題について考察する。 【キーワード】 等級制、課程主義、考査、立身出世	森川 輝紀(埼玉大学教授)	森川 輝紀(埼玉大学教授)
10	近代学校の表徴	擬似洋風学校、御真影、教育勅語、二宮金次郎、日の丸など、近代学校を表徴することがらについて考える。表徴の意味を検討することによって、近代学校の諸特質が明らかになるに違いない。 【キーワード】 擬洋風、御真影、日の丸、二宮金次郎	森川 輝紀(埼玉大学教授)	森川 輝紀(埼玉大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	教育の近代化とジェンダー	近代日本における教育という営みが、性別カテゴリーによってどのように差異化されているのか、それが階層性を伴いつつ、どのような関係性として構築されていたのかについて考える。 【キーワード】 ジェンダー、裁縫科、男女別学、良妻賢母、高等女学校	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
12	女学生の誕生	女子中等教育の制度的確立にともなって女学生が本格的に登場するが、女性が義務教育以上の教育を受けることにどのような社会的な意味があったのか、そして女学生はどのようにとらえられていたのか考える。 【キーワード】 学歴の地位形成機能、学歴の地位表示機能、学生服、女袴、女学生批判	小山　静子（京都大学教授）	小山　静子（京都大学教授）
13	移民教育と異文化理解(1)	民族や文化を異にする人々が共存し、相互に理解する際に、教育の果たす役割を探りたい。そのために、とくに日本人の海外移民の歴史と、海外へ移民する日本人のために行われた事前教育や移民教育論を取り上げて、この問題を考察する。 【キーワード】 官約移民、出稼ぎ移民、移民補習学校、	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
14	移民教育と異文化理解(2)	海外における日本人移民を対象とした日本人学校の創設と、排日運動期における日本人学校から日本語学校への変容を明らかにし、日本の文化を世界に開くことの意味を考える。 【キーワード】 日本語学校、外国語学校取締法、日系二世教育	沖田　行司（同志社大学教授）	沖田　行司（同志社大学教授）
15	歴史から教育を考える	20世紀を「学校教育の時代」と見、近世・近代を連続する「文字社会」と見ることで、現在進行中の「メディア革命」が内包する教育史上の意味をとらえ、あわせて21世紀の生涯学習社会への展望をこころみる。教育を、大きな歴史の眼で見ることの有効性を考えたい。 【キーワード】 国民教育、学校の世紀、学校化社会、学習社会	辻本　雅史（京都大学教授）	辻本　雅史（京都大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1524909	履修制限	有	単位数	2

＝ 教育社会学（’０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　岩永　雅也（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　稲垣　恭子（京都大学大学院教授）〕

講義概要

人は生まれながらにして人間であるわけではない。家族という基礎的な小集団の中に生まれ、親密な人間関係を通じて自我の基礎を形成し、やがて一般化された人間関係が縦横に展開する社会集団との接触を通してその社会の文化と規範を身に付けることにより、一個の自律的な人間となるのである。その意味で人間はすぐれて社会的な存在であるといえる。本講義では、人々が生まれ、育ち、学び、働き、さらに自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスを縦糸とし、人々がそのプロセスの各段階で関わっていくさまざまな教育の在りようを横糸として、社会的な営みとしての教育の意味と本質を解き明かす。あわせて最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望についても検討する。

授業の目標

まず何よりも、学校や家庭、地域社会といったさまざまな場面で展開する「教育」あるいは「社会化」を社会の中の他の事象と同じ社会事象として一般化して捉えていく姿勢を身につけて欲しい。そのためには、特定の価値観に偏った見方を排し、できうる限り客観的で柔軟な視点から教育事象を理解しようとする態度が不可欠である。その上で、現代社会が直面する教育上の諸問題について、その要因や背景、そして本質の的確な理解を目指して欲しい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育社会学の視座	教育社会学とはどんな学問領域なのか、どのような方法を用い、何を研究対象として研究を進めるのかといった、教育社会学をめぐる基本概念について考察する。あわせてこれまでの研究史や近年の研究動向にも概略的に言及する。	岩永　雅也	岩永　雅也
2	自己の形成と変容	人は生まれながらにして自分自身、つまり自我を持っているわけではない。人の成長の核となる自我の基礎は何を要素としてどのような背景と条件のもとに形成されるのか、Iとme、役割取得の概念などを手掛かりに自我の形成について考える。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
3	家族文化と社会化	子ども達がまず最初に出会う基礎的集団である家族がどのように彼らの自我を変容させ、社会化していくか、家族とはどのような機能を持ち、いかなる文化を伝達していく存在なのか、社会化の基礎概念とあわせて検討する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	仲間との関わり	学齢期にさしかかった子ども達は、家族という第一次集団から近隣の地域社会や幼稚園、保育園といった第二次集団へと生活空間を拡大していく。そこには家族とは異なる他者からなるピアグループが形成される。他者の拡大と仲間集団および就学前教育が持つ社会的意味について理解する。	住田正樹(放送大学教授)	住田正樹(放送大学教授)
5	学校教育への参加	近代化の進んだ社会において、すべての子どもが同質性の高い学校教育に参加していくということの意味を考える。特に初等段階の学校が持つ社会化機能の本質や内面化される規範の性格などについて詳しく検討する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
6	教師・生徒・カリキュラム	子ども達の生活空間としての教室を、教師役割と生徒(児童)役割との相互作用の場としてとらえ、教室という場が持つ社会化力の本質について動態的な視点から考察し、理解を深める。特に、カリキュラムと教師文化、生徒(児童)文化、保護者等の文化、およびそれらの関わりの中で形成される「隠れたカリキュラム」に注目する。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
7	分岐点としての中等教育	初等教育に続く中等教育は、社会化機能の上からも、発達段階においても、また社会的階層分化という点から考えても、あらゆる意味で「分岐点」というに相応しい存在である。ここではその構造と機能を体系的に考察する。	岩永　雅也	岩永　雅也
8	教育におけるジェンダー	「社会や文化がつくりあげる性」としての「ジェンダー」は、男女平等を前提とする学校教育にあっても「隠れたカリキュラム」という形をとって入り込んでしまう。ここではそのように「ジェンダー化」された学校教育と、これを克服しようとする試みを社会学的に考察してゆく。	稲垣　恭子	稲垣　恭子
9	教育の病理	現代の学校には、さまざまな形の逸脱現象が見られる。その中には恒常的に繰り返される「通常の」逸脱も、特殊な時代的背景を持つ現象もある。それを類型的に整理しつつ、今日の教育的病理現象を考える。	岩永　雅也	岩永　雅也
10	教育改革と公教育問題	今日、日本のみならず世界の各地において教育改革が論議され、実践に移されている。また、「学力」に関する論議も盛んである。その背景には、新自由主義という時代風潮および公教育の社会的意味と効果に対する理念の対立が共通して存在する。そうした教育改革と公教育に関する議論を整理し、理解した上で、現状を把握する。	岩永　雅也	岩永　雅也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	若者と職業をめぐる問題	近代社会におけるフォーマルな学校教育は、雇用市場への人材の提供を主要な機能の一つにしてきた。しかし、近年学校の持つ人材形成機能に関して種々の問題が生じてきている。若年失業やニート・フリーター問題、あるいは希望の格差といった問題について考えていく。	本田由紀(東京大学大学院准教授)	本田由紀(東京大学大学院准教授)
12	高等教育の現代像	初等・中等の学校システムとは異なる背景のもとに、職業的専門性との関わりの中で形成されてきた高等教育は、今日著しい大衆化の圧力にさらされている。そのことが高等教育機関を多様なものにし、また大学改革を促進する大きな要因ともなっている。ここでは、現代における大学大衆化とそれをうけた大学改革について考える。	米澤彰純(大学評価・学位授与機構准教授)	米澤彰純(大学評価・学位授与機構准教授)
13	メディアと教育	現代社会を解く鍵の一つがメディアである。教育という領域もその例外ではない。メディアと学校教育は現在どのように関わっているのか、それが現代の教育のあり方にどのような影響を与えているのか、また、今後その関係はどう変化していくのか、といった点について実証的に論じる。	田口真奈(メディア教育開発センター准教授)	田口真奈(メディア教育開発センター准教授)
14	生涯学習社会の展望	生涯学習社会は、あらゆる学習機会を統合し、有機的に結合することによって実現することができるとされている。生涯学習社会における教育、とりわけ学校教育はどのようなあり方を求められるのか、またそこに至るまでにはどのような問題点を解決し、課題を克服していく必要があるのか、総体的な視点から展望する。	三輪建二(お茶の水女子大学教授)	三輪建二(お茶の水女子大学教授)
15	現代の教育課題	今日の学校および教育そのものが直面する具体的な問題を実態に即して取り上げながら、その背景と解決への糸口を探る。あわせて今後わが国の教育がどのように展開していくのか、その近未来像を展望する。	岩永　雅也	岩永　雅也

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 大学と社会 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：安原　義仁(広島大学大学院教授)　〕
〔主任講師（現職名）：大塚　　豊(広島大学大学院教授)　〕
〔主任講師（現職名）：羽田　貴史(東北大学教授)　〕

講義概要

今日、大学は学問の研究や高等教育の場としてほとんどの社会に普及しており、いずれの社会のどの大学にも大学としての共通点がみられる。しかし、それぞれの社会に存在する大学は多種多様で、大学と社会との関係もさまざまである。本科目では、ヨーロッパ中世社会に誕生した大学が近代日本に導入される歴史的経緯をふまえ、現代日本における大学と社会との関係を、グローバル化や高度情報化、学習社会化など社会変化というマクロな観点から学ぶとともに、大学の活動と機能について理解を深める。大学の組織・運営や大学改革の動向と課題についても学習する。

授業の目標

中世ヨーロッパから現代日本に至る大学の歴史および社会制度としての大学に関する基本的知識を習得すること、大学が展開する諸活動ならびに大学が社会において果たす役割・機能について理解すること、そしてそのうえで、現代日本における大学と社会との関係について幅広い視野から批判的に考える力を涵養すること。この授業の目標は以上の三点である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	大学の誕生と発展	大学という社会制度は、高度な知識を学び教える人々の組合・団体(ウニヴェルシタス)としてヨーロッパ中世社会に誕生した。ボローニア大学とパリ大学がその嚆矢であった。やがて、この二つの大学を原型にして大学はヨーロッパ各地に拡がっていった。 【キーワード】 12世紀ルネサンス、ウニヴェルシタス、ストゥディウム、タウンとガウン、学部、国民団、学寮、学位、討論裁定	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
2	大学モデルの移植と伝播	大航海時代とそれに続く16世紀には、宗教改革や新大陸先住民の征服と植民の影響下に、大学はヨーロッパ世界からアメリカ新大陸へ移植されていった。さらに19世紀帝国主義の時代、ヨーロッパ大学モデルはアジア・アフリカ世界にも伝播していった。 【キーワード】 大航海時代、植民、宗教改革、イエズス会、修道会、サラマンカ大学、サントドミンゴ大学、ハーバード・カレッジ	安原義仁(広島大学大学院・教授)	安原義仁(広島大学大学院・教授)
3	アジアにおける高等教育の伝統	ヨーロッパの近代大学よりはるか以前に、古代文明の発祥地であるインド、中国では高度な学術研究・教育活動が展開され、ナーランダの学舎や国子監・太学・書院など当時の「大学」が花開いていた。 【キーワード】 ナーランダー、国子監、太学、書院、科挙、大学寮、寄宿制、サント・トーマス大学、アズハル大学	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)
4	アジアの近代化と大学の役割	アジア各国は近代化実現のために国家主導で大学を創設した。また、アジアに共通な特色である植民地経験の中で、各国は教育面でも列強の影響を受け、欧米や日本の大学モデルの伝播が起こった。 【キーワード】 外国大学モデル、宣教と大学、台北帝大、京城帝大、教授用語	大塚豊(広島大学大学院・教授)	大塚豊(広島大学大学院・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	日本の近代化と大学	日本の大学は，ドイツをモデルに創設された「帝国大学」が理想型といわれてきた。しかし，実際には多様な大学像とモデルがあり，様々な葛藤を経ながら成立した大学像が，現在の大学の基礎を形作っている。 【キーワード】 帝国大学、旧制高校、大学令、専門学校、高等教育計画	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
6	戦後日本社会と大学改革－大衆化への離陸－	戦後，占領軍と日本政府は，多様な高等教育機関を大学に一元化し，全国に配置した画期的な改革を行った。そして，団塊の世代が大学進学年齢を迎えた60年代に大衆化が進行し，世界でも稀な成長を遂げた。 【キーワード】 教育使節団報告書、一般教育、大学大衆化、大学紛争、46答申	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
7	戦後日本社会と大学改革－計画から規制緩和へ－	団塊の世代が通過した後の大学は，地方分散や質の充実を図る「計画の時代」を迎えた。その後，80年代から行政改革によって次第に規制緩和が進められ，大学は今「市場の時代」をどう生きるかを迫られている。 【キーワード】 臨時教育審議会、私学助成、大学審議会、国立大学法人化	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)
8	グローバル化する社会と大学	ヒト、モノ、カネが国境を越えて移動する自由度が飛躍的に増した近年、留学生の増加のみならず、複数国協働による人材養成や大学自体が国境を越えるなど、大学をめぐる環境も大きく変貌してきた。 【キーワード】 グローバリゼーション、ICT、英語教育、国境を越える教育	大塚豊(広島大学大学院教授)	大塚豊(広島大学大学院教授)
9	高度情報化社会と大学	高度情報化社会の到来によって、大学における研究・教育は、その形態はもとより、内容も変貌を迫られている。大学における研究は、他の研究機関と協働・競合を余儀なくされ、教育は知識基盤社会に適合したものとなるよう求められているのである。 【キーワード】 知のモード論(モード1とモード2)、オンライン・ジャーナル、eラーニング、大学資本主義(アカデミック・キャピタリズム)	成定薫(広島大学大学院・教授)	成定薫(広島大学大学院・教授)
10	生涯学習社会の中の大学	生涯学習社会においては、大学にも生涯学習機関としての役割が期待される。そこで、ひとつには、生涯学習者たるに必要な自己主導的学習能力の育成、他のひとつには、成人に対する継続学習機会の提供という観点から、大学のあり方を検討する。 【キーワード】 自己主導的学習、成人学生、リカレント教育、学習支援	小池源吾(広島大学大学院・教授)	小池源吾(広島大学大学院・教授)
11	大学の組織と運営	不思議なことに，大学は洋の東西，歴史を問わず，学長，評議会，教授会など似た組織と運営方式をとり，「企業とは異なる」といわれてきた。ところが，この20年間，各国の大学には企業モデルの運営方式が導入されてきた。 【キーワード】 大学の自治　教授会　理事会　学長	羽田貴史(東北大学・教授)	羽田貴史(東北大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	変貌する大学教師	大学教師はもともと教育者であったが、19世紀になって研究者としての役割が付加された。その後、国家や地域社会、企業などへのサービスも期待され、役割は多重となった。大学や教員の評価が行われるようになった今日、役割葛藤は増大し、役割分業も進んでいる。 【キーワード】 大学教師、教授、研究者、教育者、役割	山崎博敏(広島大学大学院・教授)	山崎博敏(広島大学大学院・教授)
13	多様化する学生	18歳人口の減少、進学率の上昇とバブル経済の崩壊を同時に経験した1990年代以降、学生の学習行動、職業への移行とキャリア形成の分化や多様化が一層進行し、大学は入口と出口の双方での対応に迫られている。 【キーワード】 学習行動、就職、キャリア形成	小方直幸(広島大学大学院・准教授)	小方直幸(広島大学大学院・准教授)
14	大学と社会貢献	いまや、社会とのパートナーシップなくして大学の存在意義はない。ここでは、大学の社会貢献という理念が成立をみる歴史と、社会貢献をめぐる今日的状況と課題、そして今後の展望について考察する。 【キーワード】 大学拡張、大学開放、大学の「第三の機能」、大学と社会のパートナーシップ	小池源吾(広島大学大学院・教授)	小池源吾(広島大学大学院・教授)
15	21世紀の大学ー政策的観点からー	大学と社会との関係変化を踏まえ、21世紀知識基盤社会における大学のあり方を展望する。その際、これに大きな影響を及ぼす現在の各種政策の動向を解説するとともに、その効果や今後の方向性にも触れることとする。 【キーワード】 生涯学習社会、大学の機能・役割、知識基盤社会、政策	山本眞一(広島大学大学院・教授)	山本眞一(広島大学大学院・教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520318	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 道徳教育論 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：林　泰成（上越教育大学大学院教授）〕

【担当専任教員：岩永　雅也（放送大学教授）】

講義概要

道徳教育とは、主として学齢期にある青少年に道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性の意味については、社会的、時代的背景によりさまざまに議論されてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりや、カウンセリングや人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討する。

授業の目標

15回の授業を通して、道徳の概念、歴史、指導要領、授業方法、家庭教育、諸外国の制度など、道徳教育に関連するさまざまな話題に言及する。それぞれの話題について理解することがねらいである。が、それだけにとどまらず、そうした理解をもとにして、自らが反省的考察を行い、道徳的に自律した人間として自らの道徳観を作り出すことが最終的な目標である。

履修上の留意点

なし

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	道徳教育とはなにか	道徳とは何か。道徳教育とは何をすることなのか。現代社会のなかで、道徳教育はどのような意味で重要なのか。道徳教育の諸問題の解明にはどんな学問分野が必要なのか。そうした基礎的な問題について説明する。 【キーワード】 道徳、道徳教育、倫理学、社会学、心理学、教育学	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
2	日本の道徳教育の歴史	明治時代に近代的な学校制度が始まって以降の日本の道徳教育の変遷について説明する。制度論や思想史などさまざまな観点から検討する。 【キーワード】 学制、教育勅語、修身、教科書国定制度、特設道徳、心のノート	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
3	学習指導要領と道徳教育	学校における道徳教育は、法的拘束力をもつと考えられている学習指導要領によってその目標や内容が定められている。その歴史的変遷と現行の学習指導要領の規定について考える。 【キーワード】 学習指導要領、目標、内容、評価	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	道徳性の発達	道徳性とは何か。また、それはどのように発達するのだろうか。ピアジェやコールバーグらの心理学的な研究に依拠して、そのメカニズムを説明する。 【キーワード】 心理学、発達段階、ピアジェ、コールバーグ	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
5	道徳的社会化	道徳的な成熟を、社会が望ましいと考える価値観や態度などを個々人が内面化する過程としてとらえ、そのメカニズムを社会学的な観点から検討する。 【キーワード】 社会学、社会化、デュルケム、フォークウェイズ	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
6	道徳授業の方法①～伝統主義的アプローチ～	道徳の授業にはさまざまなやり方があるが、まず、道徳的価値を伝達し、内面化するアプローチを取り上げ、検討する。 【キーワード】 インドクトリネーション、インカルケーション、道徳的価値、徳目	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
7	道徳授業の方法②～進歩主義的アプローチ～	前回に引き続き、道徳的価値の伝達というやり方以外の授業方法を取り上げ、概説する。それは、たとえば、モラルジレンマ授業や、価値明確化の授業である。 【キーワード】 モラルジレンマ、価値明確化、価値創造	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
8	教科教育と道徳教育	学校に限定して考えた場合でも、道徳教育は道徳の時間の中だけで行われているわけではない。教科の教育の中でも道徳教育は行われていると言うことができる。具体的にどのような形で行われているのかを説明する。 【キーワード】 国語科、社会科、実践三段論法、陶冶	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
9	特別活動と道徳教育	道徳教育は、学級活動や学校行事などの特別活動の領域でも行われている。そうした場で、いかにして人間関係を築いていくかということを考えながら、実践的指導としての道徳教育の在り方について考察する。 【キーワード】 学級活動、学校行事、クラブ活動、児童会活動、生徒会活動	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）
10	教育臨床と道徳教育	教師が学校で直接子どもと接する活動としては、学習指導と生徒指導の2つがある。このうちの生徒指導の場面を念頭に置きながら、子どもと教師のかかわりを検討する。 【キーワード】 生徒指導、カウンセリング、受容、共感、個別指導	林　泰成（上越教育大学大学院教授）	林　泰成（上越教育大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	家庭・地域社会における道徳教育	道徳教育は、学校の中だけで行われるのではない。家庭におけるしつけもまた道徳教育の一部である。ここでは、望ましい家庭教育の在り方や、母子関係、父子関係について、さらには地域の教育力について検討する。 【キーワード】 家庭教育、しつけ、地域社会、集団	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
12	諸外国の道徳教育	諸外国において道徳教育はどのように行われているのだろうか。学校では実施していない国もあれば、一教科として行われている国もある。それぞれの国の文化の違いに触れながら、道徳教育についてのさまざまな考え方を紹介する。 【キーワード】 西洋と東洋、アメリカ、イギリス、フランス、中国、韓国	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
13	道徳教育と宗教	道徳と宗教は無縁ではない。各宗教の教えの中にも、道徳の教えと言ってよいものがたくさんある。しかし、政教分離の原則によって国公立学校では宗教的な儀式を行うことはできない。法律や学習指導要領の規定にも触れながら、道徳教育と宗教のかかわりについて検討する。 【キーワード】 仏教、キリスト教、宗教性の発達、政教分離、畏敬の念、いのち	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
14	人権教育と道徳教育	学校現場では、人権・同和教育が、道徳の時間を利用して行われることもある。人権は、道徳教育を考える上で基礎となる概念であるが、その重要性を取り上げ、道徳教育とのかかわりについて検討する。 【キーワード】 人権教育、同和教育、いじめ、エンパワーメント	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)
15	道徳教育の課題	第1回から第14回までの考察・検討などを振り返りながら、道徳教育の課題を考え、これからの時代・社会における道徳教育の在り方を展望する。 【キーワード】 いのち教育、キャリア教育、公共性、私事性	林 泰成(上越教育大学大学院教授)	林 泰成(上越教育大学大学院教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520601	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 地域教育の創造と展開 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 岡崎友典（放送大学准教授） 〕
〔主任講師（現職名）： 高島秀樹（明星大学教授） 〕
〔主任講師（現職名）： 夏秋英房（國學院大學准教授） 〕

講義概要

学校・家庭・地域の連携・協力・融合が今日的な課題になっている。本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「地域教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様かつ深刻な問題の解決を探るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。学校の教員、教育行政担当者、PTAをはじめ地域の教育関係者の「生の話」を通してさまざまな教育問題の解決に向けての課題を展望する。放送メディア（ラジオ）の特性を生かして、受講者が自らの経験的実践を踏まえて、その経験的実践と教材を対比しつつ考え、地域住民としての生活実態・教育ニーズに即した形での実践的学習を深めてくれることを期待している。

授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではないのではなかろうか。

本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域社会」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに人間のもっとも基本的な教育環境である家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、どのような形で地域社会形成の担い手（主体）を生み出しているかについて、「地域の教育」を社会学の手法を用いて分析してきた「地域教育社会学」の研究成果・調査資料と、全国各地の具体的な事例（放送番組）を通して、現代日本の教育課題として提示することを目的としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	地域社会の変動と教育 －教育環境としての地域社会―	第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、そこに内在する学習上の課題について提起する。 【キーワード】 地域社会　都市化　地域開発　教育環境の構造　環境要因	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房
2	生涯学習と地域教育 －新たな教育概念の登場－	家庭教育、学校教育、社会教育が人々のライフステージによって、どのような形で展開していくか。生涯教育・学習といった視点とともに、日常生活場面で展開される教育を、「地域教育」といった新たな観点から考察する。 【キーワード】 家族周期　地域教育　郷土芸能の伝承　後継者と地域社会	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
3	家族・地域社会の変容と教育の機会	初等,中等、高等教育、それぞれの段階における教育機会について、学校選択の自由と機会の平等といった視点から、地域社会における教育政策上の課題を検討する。 【キーワード】 教育の機会　通学区　学校選択　学歴社会　学校階層	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
4	開かれた学校と地域社会	社会化・教育・学校教育と地域社会の概念を明らかにしたうえで、学校と地域社会の関係について、近代学校の成立過程における地域社会の関与と、現代的状況（通学区域弾力化、学校評議員制度、学校評価制度）の二つの側面から検討する。 【キーワード】 近代学校の成立と地域社会　学校と地域社会の連携　通学区域の弾力化　学校評議員　学校評価	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	学校教育の内容と地域社会	人間の発達段階に即して社会生活に必要な知識・技術,価値や態度・信念などの資質が形成されるが、それは地域社会の特性とどのように関連しているのか。学校教育の内容と教育課程のなかに地域社会がどのように取り込まれているかについて、その代表的な考え方や、具体的な実践事例を通して両者の関係について検討する。 【キーワード】 教育課程　コミュニティ・スクール　郷土教育	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
6	子どもの校外生活	急激に変動する社会にあって、子どものをめぐってさまざまな問題が引き起こされている。子どもの成長・発達にとって地域社会の果たす役割について明らかにするとともに、子どもの放課後の校外生活の実態と子どもを指導する地域住民組織の役割について検討する。 【キーワード】 仲間集団　子ども会　住民組織	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
7	PTAと地域住民組織―学校と地域を結ぶ役割―	保護者によって組織されるPTAを、子どもを媒介とに成立する成人の学習組織と捉え,さらに保護者が地域社会の中堅世代として地域社会形成に主要な役割を担うといった視点から、大人の教育責任について検討する。 【キーワード】 PTAの現代的役割　大人の教育責任　親父の会	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
8	地域福祉と教育－福祉社会をめざして－	福祉が社会的な課題となる社会（福祉社会）において、教育を成り立たせる条件としての福祉について、現代家族の特徴を踏まえたうえで、とくに児童に関わる福祉施設（児童養護施設、母子生活支援施設など）の地域レベルでの実践を通して考察する。 【キーワード】 地域福祉　ノーマライゼーション　自己変革　福祉教育　地域教育プラットフォーム　福祉コミュニティ	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
9	地域社会の活性化と教育事業	自然的・社会的条件を生かして地域社会を活性化する教育事業について考える。とくに、社会関係資本を醸成する「都市と農山村の交流事業」や、「環境学習による人材育成を中核とした観光事業」、「生涯学習によるまちづくり」など地域社会の教育機能を生かして行われている事例をとおして、持続可能な教育事業について考察する。 【キーワード】 地域共同体　ソーシャル・キャピタル（（社会）関係資本）　多元参加型コミュニティ　NPO　持続可能な開発	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
10	国際化と地域社会－多文化共生と教育－	国際化が急激に進展するなかで、地域住民にどのような教育と学習が求められているのだろうか。「内なる国際化」をキーワードにして、学校における国際教育や国籍の異なる児童・生徒への教育機会の保障、また自治体による多文化共生のまちづくりの実践を検討し、地域教育の課題を考察する。 【キーワード】 国際化　国際教育　内なる国際化　山村留学　外国人児童生徒　アメラジアン　多文化共生　ニューカマー	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	人材の養成と移動 ―職能形成の過程―	社会人としての能力とくに職業人としての能力（職能）京成が、学校教育を土台としてどのような過程を経て行われるかについて、義務教育終了後の個人のライフコースに知って具体的な携帯・内容について検討する。 【キーワード】 人口の地域分布変動　職種　移動と定住　　Uターン	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
12	地域社会の再編と学習運動	人口の流動性の高まり、また近年の地方自治体の再編（平成の大合併）など、地域住民の生活環境は大きく変化している。そのような状況の下で、地域コミュニティレベルにおける住民の「学習運動」が新たな地域社会の創造につながる可能性について考察する。 【キーワード】 居住区の再編　　新旧住民の交流　住民の学習運動	高島秀樹	高島秀樹 岡崎友典
13	コミュニティアートと地域スポーツ	学習活動として、アートとスポーツ活動が、地域住民の自主的な活動として諸機関と連携しながら展開されることにより，地域文化を創造し、人々が協働していく契機となって、新たな地域社会が形成される過程を考察する。 【キーワード】 地域文化　コミュニティ・アート　地域スポーツ　地域社会の活性化　文化学習活動　総合型地域スポーツクラブ	夏秋英房	夏秋英房 岡崎友典
14	地域文化の創造と継承 ―地域定住と文化活動―	地域生活のなかから生み出される「生活文化」について、文化の基本的な概念を押さえたうえで、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例、とくに新たに創造される文化の果たす役割を中心に考察する。 【キーワード】 伝統文化　伝統工芸　　ものづくり　　地場産業	岡崎友典	岡崎友典 夏秋英房
15	学習社会の成立と教育の課題 ―地域社会の教育的再編―	地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。 【キーワード】 学習社会　生涯教育　教育の再生　教育改革	岡崎友典	岡崎友典 高島秀樹 夏秋英房

＝　生涯学習と自己実現（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：堀　　薫夫（大阪教育大学教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：三輪　建二（お茶の水女子大学教授）〕

全体のねらい

生涯学習社会への移行が叫ばれる今日、生涯学習は、私たちをどこへ導いてくれるのだろうか。本講では、人間の自己実現というひとつの方向目標を手がかりとして、発達論と学習論を軸に、生涯学習をめぐる問題を考えていきたい。あわせて、生涯学習社会がかかえる今日の社会的な問題をもともに考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯学習の理念	生涯学習論や生涯教育論が、どのような学習観や教育観にささえられてきたのかを考えてみよう。また社会教育や成人教育、学習社会といった概念との関連も考えていこう。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
2	成熟からの生涯学習と経験からの生涯学習	生涯学習の原理的問題を、生物としての人間が環境に適応していく営みと経験によって行動が変容していくプロセスとにまでさかのぼって考えてみよう。生物的にみても、生涯学習は人間にとって本質的な営みであるということを述べていきたい。また、生活経験からの生涯学習の問題を、デューイや森有正らの経験論とともに考えていきたい。	同上	同上
3	生涯発達とエイジング	生涯学習は、生涯にわたる成長・発達や自己実現をめざす営みだといえる。ここでは、生涯発達の考え方を、エイジングの問題と重ね合わせつつ考えていく。そして、自己実現としての生涯発達の考え方に注目していく。	同上	同上
4	成人期における知的能力の変化	生涯発達と生涯学習を結ぶひとつの視点として、「成人期における学習能力の変化」の問題をあげることができる。流動性知力－結晶性知力論、多元的知能論、実用的知能論といった考え方をもとに、成人期以降の学習能力の変化に目を向けてみる。あわせて自己実現に近い概念でもある「知恵」の問題も考えていく。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	高齢者の学習の成立条件	生涯学習と生涯発達の完成期である高齢期における学習のあり方を考えていく。高齢期における学習は、人生の他の時期における学びとどこがちがうのであろうか。その特徴をいくつかのデータをもとに議論していく。	堀　薫夫（大阪教育大学教授）	堀　薫夫（大阪教育大学教授）
6	死への準備教育	生涯学習の問題をデス・エデュケーション（死への準備教育）の観点からとらえてみよう。人間の死は、大きく老いや病と結びついた死と社会や文化と結びついた死（事故死、他殺など）に分けられる。両方の視点と教育の視点とを結びつけるとどうなるのだろう。考えてみよう。	同上	同上
7	生きがいと自己実現（1）人間的欲求の解放	人間の自己実現の問題を「人間的欲求の解放」という視点から考えてみよう。人間に固有の欲求とは何か？という問いかけをつきつめていくことが、自己実現とは何か？への回答につながっていくのではないだろうか。	同上	同上
8	生きがいと自己実現（2）意味への意志	ここでは、ヴィクトール・フランクルの提唱した「意味への意志」という視点から人びとの自己実現の問題を考えていく。限界状況における人間的価値や生涯にわたって成就される価値、そして自己実現と生涯発達の関連についてもあわせてふれ、これらを統合した、人生の意味づけとしての自己実現の問題を考えていきたい。	同上	同上
9	成人の特性を活かした学習援助論	生涯学習の中核をしめるのは成人教育であろう。ここでは成人教育を成人の特性を活かした教育、あるいはアンドラゴジーととらえたうえで、リンデマン、ノールズらの理論が提起したこととその今日的意義を考えていく。	同上	同上
10	生涯学習における学習者像と学習支援	生涯学習の主な担い手は、社会人などの成人学習者であり、受講者であるあなた方である。成人学習者の特性を活かした学習支援について、アンドラゴジー論のその後の展開をもおさえつつ、自己決定性、経験、意識変容などをキーワードに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
11	生涯学習の国際的動向	諸外国の生涯学習について、基本理念や日本の社会教育・生涯学習に直接・間接に影響を及ぼしてきたものを検討してみよう。さらに、OECDやユネスコ、アジア諸国の動向についても概観してみよう。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地域社会と生涯学習	生涯学習は、地域社会によって規定されるとともに、地域社会の課題に取り組むものも多い。農山村や都市において生涯学習がどのように展開されているか、またそれぞれの課題についての学習・活動がどのように行われているか、事例を含めて考察したい。	上杉孝實（畿央大学教育学部長）	上杉孝實（畿央大学教育学部長）
13	人権問題と生涯学習	人権についての学習は、生涯学習において重要な位置を占める。具体的な人権問題に取り組むことによって、人権文化の構築が可能になる。生涯学習としての人権学習について学ぶとともに、人権としての生涯学習として、識字等をとりあげ、考察を深めたい。	同上	同上
14	生涯学習政策の動向	生涯学習の政策は、国をはじめ都道府県や市町村レベルでも展開を見せている。臨時教育審議会以降の政策動向を、生涯学習振興法や生涯学習審議会答申などを手がかりに概観してみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授）
15	生涯学習社会の近未来：キーワードをひもとく	わが国における生涯学習化の動向にはどのような道標があるのだろうか。学校教育の弾力化、職業教育・訓練制度の改革、IT化と高度情報化への対応、男女共同参画社会、NPOの役割などを手がかりに、ともに考えてみよう。	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授）	三輪建二（お茶の水女子大学教授） 堀薫夫（大阪教育大学教授） 上杉孝實（畿央大学教育学部長）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1525107	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　転換期の教師（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：　油布　佐和子（福岡教育大学教授）〕

講義概要

教育改革の進展に伴って、教師の資格や職場環境・役割、教師という職業も変容しつつある。本講義では、第一に、現代社会の中で、教師・教職がどのような状況に置かれているのか、教師が直面している諸問題について検討する（第1回～第5回<**第一部　問われる教師**>）。第二に、教育改革の中で教師という職業がどのような変容を遂げようとしているのか、教職の過去と、改革による課題や今後の方向を考える（第6回～第10回<**第二部　教師・教職の過去と現在**>）。さらに、改革が進行・定着する将来にむけて、教師を支援し、どのような新たな教職像を創り上げるべきかを考察する（第11回～第15回）<**第三部　教職の未来と教師への支援**>。

授業の目標

現在教職は、制度的に大きな転換点にある。本講義では、教師・教職が直面している問題を取り上げ、社会の変化や制度的改革を踏まえつつ、教師・教職が今後どのような方向に向かっていこうとしているのかについて、考察することを目的とする。また、「教師」を対象にした議論は、ややもすれば理念的で、現実の諸条件を度外視した理想像の「語り」に陥りがちであるが、教師の悩みや不安等に寄り添いながらも、データに即して、客観的に議論を展開する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第一部　問われる教師				
1	教師のストレス・教師の多忙	教師の多忙化と「病める」実態を紹介し、そうした問題を引き起こす教職生活についての理解を深める。また、近年の教育改革によって、教師の教育活動や教職生活がどのように変わってきたのかを検討する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
2	日本における教師の特徴	日本では、どのような人々が教師として働いているのだろうか。教師の年齢構成や性別構成とその変化、教職の職階や給与、雇用形態の特徴とその変化など、について、種々の統計データを示し、特に、諸外国との比較をとおして、日本の教師の特徴を浮き彫りにする。	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）
3	生徒指導の変化と困難	戦後の教師－児童・生徒関係の変化について概観し、近年の児童・生徒の変容と、指導に伴う諸問題について論じる。また、子どもの<心>に注目が集まり、カウンセラーが配置される中での教師の役割について検討する。さらに、今後必要とされる生徒指導の課題について考察する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	教師－地域・保護者の関係の現在と課題	職業威信調査を手がかりに、人々が教師をどのように見ているのかについて、また、社会の高学歴化が進む中で、保護者と教師の関係、地域社会と教師の関係がどのように変化しているかについて検討する。さらに学校運営協議会やコミュニティスクールなどの事例から、今後の学校・教師－地域・保護者の新しい関係を考える。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
5	教師の逸脱・マスメディアの中の教師	教師は法に守られ、法に縛られている。教師に対する社会のまなざしが厳しくなる中で、教育公務員としての服務管理を厳正に行うことが求められている。教師の服務にはどのような内容が課され、これを逸脱するとどのような処分が下されるかについて概観する。	元兼正浩（九州大学准教授）	元兼正浩（九州大学准教授）
	第二部　教師の過去と現在			
6	教師像の歴史的変遷	近代日本に教師が登場して以来今日までの歴史を、戦前～高度成長期～豊かな社会という区分に従って概観し、教師の地位・役割、生活がどのように変わったのかを検討する。時代ごとに社会的に要請されてきた教師像を考察し、その特徴を論じる。	陣内靖彦（東京学芸大学教授）	陣内靖彦（東京学芸大学教授）
7	教師を支える財政基盤とその行方	教員評価、専門職大学院、免許更新制、義務教育費の国庫負担問題など、近年の教育改革を概観する。特に、義務教育費の国庫負担、公務員制度の改革、人財確保法案の廃止など、教員を支える基盤となる財政的な側面を検討する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
8	教員養成のこれまで／これから	近年、教員養成が改革の激動期を迎えている。戦後60年の教員養成について概観し、また近年の変貌するその実態を示すとともに、専門職大学院の設置など、今後教員養成がどこに向かおうとしているのかについて考察する。	陣内靖彦（東京学芸大学教授）	陣内靖彦（東京学芸大学教授）
9	教員養成の国際比較	「優れた教師」はどうしたら養成できるのか。これは、世界中で長年模索されてきた問いである。本章では、日本の教員養成制度と免許制度について、過去の経緯をふまえて現在の制度の特徴と問題点を明らかにする。同時に、諸外国の動向も視野に入れながら今後の改革の方向性について論じる。	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	情報化社会の教師	情報メディアの発達は、専門家と素人のボーダーを消失させ、教師は今や知識の独占者でも、唯一の伝達者でもなくなった。一方、ITが普及する中で、子どもへの指導のあり方と、またその操作自体に苦しむ教師も少なくない。こうした情報社会において教師が抱える問題について考察する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
	第三部　教職の未来と教師への支援			
11	管理職の役割 ー校長のリーダーシップを考えるー	教育の今日的改革動向は国内外を問わずスクール・ベイスドな経営改革が中心をなし、改革のキーパーソンとして校長職の地位と役割に関心が集まっている。果たして校長にはどれほどの権限がもたらされ、どのようなリーダーシップが発揮可能なのかを考える。	元兼正浩（九州大学准教授）	元兼正浩（九州大学准教授）
12	教師集団の変容と組織化	職業集団としての教員団体について論じた後、教師の職場集団について検討する、その際、同僚性や教員文化に着目しながらその意義について考察し、またその変容を考える。さらに「教師評価」が導入され、教師組織の階層性が明確化されつつある現状での変化の実態を検討する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
13	「ゆとり」と「学力向上」の狭間	「総合的学習の時間」の導入に伴う教師の困惑と、「基礎学力の向上」という課題に直面している教師たちの実態を紹介しながら、「学力向上」の課題の中で、教師は「学力」をどのように捉えているのかを検討し、変容する時代の「知」の意味について考察する。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）
14	教師の学びとその支援 ーこれからの教員研修	教師の力量とは、いったいどのような力量のことだろうか。それは、どのような授業観と結びついているのか。本章では、教師の「指導力」や「専門性」をめぐる諸理念を、授業の具体的事例をもとに比較検討し、これからの教員研修の可能性を考察する	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）	佐久間亜紀（上越教育大学准教授）
15	学校の改革と教師役割の行方	教師の役割は、学校が社会において果たすべき役割と無関係ではない。学校機能についての諸説を整理しながら、教師の役割の諸類型を検討し、今後の教職・教師の在り様について論じる。	油布佐和子（福岡教育大学教授）	油布佐和子（福岡教育大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度第2学期	科目区分	専門科目	科目コード	1580400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 特別支援教育基礎論（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：大南　英明（帝京大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：緒方　明子（明治学院大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：吉田　昌義（帝京大学教授）〕

講義概要

特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD、ADHD、高機能自閉症等を対象とすることとなる。本科目においては、特別支援教育の意義、対象となる障害に対する理解、教育の現状について解説する。

授業の目標

特別支援教育の意義、在り方等を理解し、一人一人のニーズに応じた教育の実現を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の現状	特別支援教育の意義、学校教育法の一部改正による、特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置・活動の状況、個別の教育支援計画の作成と活用の状況等を解説する。	大南　英明（帝京大学教授）	大南　英明（帝京大学教授）
2	視覚障害児の理解	視覚障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	伊藤　鉄夫（淑徳大学非常勤講師）	伊藤　鉄夫（淑徳大学非常勤講師）
3	聴覚障害児の理解	聴覚障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	落合　勇（東京都就学相談室相談員）	落合　勇（東京都就学相談室相談員）
4	知的障害児の理解	知的障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	吉田　昌義（帝京大学教授）	吉田　昌義（帝京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	肢体不自由児の理解	肢体不自由児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	伊藤　鉄夫（淑徳大学教授）	伊藤　鉄夫（淑徳大学教授）
6	病弱児の理解	病弱児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	坂田　紀行（前東京都立田無養護学校長）	坂田　紀行（前東京都立田無養護学校長）
7	重複障害児の理解	重複障害の定義、重複障害児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	吉田　昌義（帝京大学教授）	吉田　昌義（帝京大学教授）
8	自閉症児の理解	自閉症児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。高機能自閉症等の理解についても解説する。 また、教育の実際について紹介する。	緒方　明子（明治学院大学教授）	緒方　明子（明治学院大学教授）
9	ＬＤ児の理解	ＬＤ児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	佐々木徳子（明治学院大学非常勤講師）	佐々木徳子（明治学院大学非常勤講師）
10	ＡＤＨＤ児の理解	ＡＤＨＤ児の指導を進める上で必要な理解の内容・方法等について解説する。 また、教育の実際について紹介する。	鳥居　深雪（植草学園短期大学准教授）	鳥居　深雪（植草学園短期大学准教授）
11	特別支援学校の教育の実際　Ⅰ	特別支援学校には、いろいろなタイプがある。 その例を紹介し、教育の実際を紹介する。	吉田　昌義（帝京大学教授）	吉田　昌義（帝京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	特別支援学校の教育の実際 II	特別支援学校の分校等を小学校、高等学校の中に設置している例がある。その実際を紹介する。 また、特別支援学校のセンター的機能の実際を紹介する。	吉田 昌義 (帝京大学教授)	吉田 昌義 (帝京大学教授)
13	特別支援学級の教育の実際 I	特別支援学級の現状、教育の実際について紹介する。	大南 英明 (帝京大学教授)	大南 英明 (帝京大学教授)
14	特別支援学級の教育の実際 II	特別支援学級と通常の学級における「交流及び共同学習」の実際、連携の実際について紹介する。	大南 英明 (帝京大学教授)	大南 英明 (帝京大学教授)
15	小学校、中学校等における特別支援教育の実際	小学校・中学校等において、特別支援学級、通級指導教室、特別支援学校と連携し、ＬＤ等の児童生徒への指導及び支援をしている実際を紹介する。	緒方 明子 (明治学院大学教授)	緒方 明子 (明治学院大学教授)

＝　発達障害の教育支援法（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：太田　俊己（植草学園大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：宮崎　英憲（東洋大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：中坪　晃一（植草学園短期大学教授）〕

全体のねらい

近年、障害のある児童生徒の教育は、一人ひとりのニーズに応じた教育支援を行う特別支援教育に移行しつつある。障害のある児童生徒の中でも、知的障害を中心とした発達障害の児童生徒の占める割合は高く、また多様な場において教育支援が行われている。本科目では、今後の特別支援教育への専門的対応も視野におき、種々の教育の場で、一人ひとりの多様な教育ニーズに応じて実践される発達障害のある児童生徒への教育支援法について、映像も用いた実際的な解説を行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達障害の教育と教育支援法	発達障害とはどのような状態で、学校教育では、どのようなニーズに応じた教育、教育支援が行われているかなど、発達障害の基本的な概念、学校・学級での教育の仕組み、またそこでの教育支援や指導の方法などについて解説する。	宮崎英憲（東洋大学教授）	宮崎英憲（東洋大学教授）
2	発達障害教育の教育課程と教育支援法	発達障害教育における学校・学級の教育課程（カリキュラム）はどのようであり、教育支援法・指導法はどのように役立てられているかなど、学習指導要領との関係も含め、発達障害の教育における教育課程と教育支援法のあり方およびその活用などについて解説する。	同上	同上
3	一人ひとりに応じた計画とその活用	発達障害の子どものもつ一人ひとりのニーズはどのようか、対応する教育支援の計画やその実践はどのようなものかなど、ニーズのとらえ方や個別の教育支援計画、個別の指導計画のあり方とその活用などについて解説する。	太田俊己（植草学園大学教授）	太田俊己（植草学園大学教授）
4	個のニーズへの教育支援	発達障害教育における一人ひとりに応じた教育支援の実際とはどのようか、個別の計画との関連はどうすべきかなど、種々の実践場面での個に応じた教育支援の意義と実際、またその実践の特徴などについて解説する。	同上	同上
5	発達障害の教育支援法（1）生活単元学習とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうちの生活単元学習をとり上げる。生活単元学習の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	中坪晃一（植草学園短期大学教授）	中坪晃一（植草学園短期大学教授）

6	発達障害の教育支援法（2） 作業学習とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうちの作業学習をとり上げる。作業学習の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
7	発達障害の教育支援法（3） 遊びの指導・日常生活の指導とその実際	知的障害教育を中心として実践される教育支援法のうち、遊びの指導および日常生活の指導をとり上げる。両者の意義、特色、実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
8	発達障害の教育支援法（4） 教科別の指導とその実際	知的障害教育や発達障害の児童生徒に実践される教科別の指導等をとり上げる。各教科とその目標・内容、発達障害教育の場と教科別の指導等に関する実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	大南英明（放送大学客員教授）	大南英明（放送大学客員教授）
9	発達障害の教育支援法（5） 自立活動とその支援の実際	障害児の教育における独自な領域である自立活動をとり上げる。自立活動とその考え方、知的障害および発達障害の教育における自立活動、自立活動の教育支援と実践上の留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
10	通常の学級における発達障害への教育支援（1）	通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒への教育支援・対応の基本をとり上げる。通常の学級にいる支援の必要な発達障害等の児童生徒の状況、教育支援のあり方やその留意点などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	緒方明子（明治学院大学教授）	緒方明子（明治学院大学教授）
11	通常の学級における発達障害への教育支援（2）	通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒への教育支援の実際をとり上げる。通常の学級で必要となる支援の具体、個別のニーズに応じた教育支援の実際などについて、実践の様子をおりまぜながら解説する。	同上	同上
12	固有のニーズへの教育支援（1） 自閉性障害を伴う場合	自閉性障害を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。自閉性障害とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	緒方明子（明治学院大学教授）	緒方明子（明治学院大学教授） （聞き手/太田俊己）

13	固有のニーズへの教育支援（2）肢体不自由を伴う場合	肢体不自由を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。肢体不自由とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	木舩憲幸（広島大学大学院教授）	木舩憲幸（広島大学大学院教授） （聞き手/太田俊己）
14	固有のニーズへの教育支援（3）感覚障害を伴う場合	視覚障害、聴覚障害を伴う場合に、特に必要となりやすい固有ニーズと支援についてとり上げる。視覚障害、聴覚障害とそれに伴いやすいニーズ、それに対する教育の場での教育支援の実際などについて解説する。	加藤元繁（日本医療科学大学教授） 林　安紀子（東京学芸大学准教授）	加藤元繁（日本医療科学大学教授） 林　安紀子（東京学芸大学准教授） （聞き手/太田俊己）
15	進路・移行支援への対応	発達障害教育における進路・移行支援の意義、あり方と現状、個別移行支援計画ならびに移行支援の実際などについて解説する。	宮﨑英憲（東洋大学教授）	宮﨑英憲（東洋大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1582402	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　特別支援教育総論（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　大南　英明　（帝京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　宮崎　英憲　（東洋大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　木舩　憲幸　（広島大学大学院教授）〕

講義概要

特殊教育から特別支援教育への転換が準備の段階から本格的な展開に向けての移行の段階へと推移しつつある。特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD,ADHD,高機能自閉症等の障害を対象とすることとなる。本科目では、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の教育内容・方法等について解説する。

授業の目標

特殊教育から特別支援教育への転換の意義、目的を理解し、一人一人のニーズに応じた教育が展開できるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	特別支援教育の意義、概要	特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の意義、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画（重複障害・ＬＤ等を含む）、校内支援体制、特別支援学校、特別支援学級、教員免許等について解説する。	大南　英明（帝京大学教授）	大南　英明（帝京大学教授）
2	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害Ⅰ－	視覚障害教育の歴史、視覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）
3	一人一人のニーズに応じた教育 －視覚障害Ⅱ－	特別支援教育における視覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）	千田　耕基（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員兼教育支援研究部長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害Ⅰ－	聴覚障害教育の歴史、聴覚障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)
5	一人一人のニーズに応じた教育 －聴覚障害Ⅱ－	特別支援教育における聴覚障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)	濱田　豊彦 (東京学芸大学准教授)
6	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害Ⅰ－	知的障害教育の歴史、知的障害児に対する教育の内容・方法等について解説する。	宮崎　英憲 (東洋大学教授)	宮崎　英憲 (東洋大学教授)
7	一人一人のニーズに応じた教育 －知的障害Ⅱ－	特別支援教育における知的障害児の教育、交流及び共同学習の在り方、等について解説する。	宮崎　英憲 (東洋大学教授)	宮崎　英憲 (東洋大学教授)
8	一人一人のニーズに応じた教育 －肢体不自由教育－	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における肢体不自由児の教育（重複障害への対応）等について解説する。	木舩　憲幸 (広島大学大学院教授)	木舩　憲幸 (広島大学大学院教授)
9	一人一人のニーズに応じた教育 －病弱教育－	病弱教育の歴史、病弱・身体虚弱児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における病弱児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	山本　昌邦 (横浜国立大学名誉教授)	山本　昌邦 (横浜国立大学名誉教授)
10	一人一人のニーズに応じた教育 －言語障害教育－	言語障害教育の歴史、言語障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における言語障害児の教育の在り方等について解説する。	松村　勘由 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)	松村　勘由 (国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	一人一人のニーズに応じた教育 －情緒障害教育－	情緒障害教育の歴史、情緒障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における情緒障害児の教育、交流及び共同学習の在り方等について解説する。	大南　英明（帝京大学教授）	大南　英明（帝京大学教授）
12	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅰ－	重複障害教育の歴史、重複障害児に対する教育の内容・方法、特別支援教育における重複障害児の教育の在り方等について解説する。	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）
13	一人一人のニーズに応じた教育 －重複障害教育Ⅱ－	特別支援学校(盲学校、聾学校、養護学校)における重複障害児に対する教育の現状及び指導の実際について紹介し、課題を明らかにして、今後の在り方について解説する。	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）	木舩　憲幸（広島大学大学院教授）
14	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅰ－	発達障害の定義、これまでの発達障害児に対する教育の経緯等について解説する。ここでいう発達障害とは、知的障害、自閉症、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、アスペルガー症候群を含むものとする。	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）
15	一人一人のニーズに応じた教育 －発達障害教育Ⅱ－	発達障害のうち、特に自閉症及び高機能自閉症について、現状を紹介し、課題と今後の在り方について解説する。	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）	柘植　雅義（兵庫教育大学大学院教授）

＝ 生徒指導（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　住田　正樹（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　新井　郁男（上越教育大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：　岡崎　友典（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

生徒指導は、学校教育において教科教育と同様、あるいは場合によってはそれ以上に重要視される不可欠の要素である。近年、学校内外で児童、生徒の問題行動が多発し、また内容的にも深刻化する中で、生徒指導の重要性はますます高まってきている。しかし、今日、わが国の学校で実際に行われている生徒指導が高い評価を得られているかといえば、それは疑問である。本講義では、生徒指導の特性と意義および機能を学校教育システム全体との関わりの中で明らかにし、問題行動の現状と生徒指導の実際とを理解した上で、生徒指導のあるべき姿を具体的に検討していく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生徒指導の理念と歴史	生徒指導とは何か、その概念はどのような背景のもとで、いつ、どのように形成されたのだろうか。また、その理念は学校教育の体系の中にどう位置付けられ、展開されてきたのだろうか。ここでは、まず生徒指導の概念を整理し、その形成の背景と理念の変遷を跡付けることで、生徒指導を学校教育全体の視点から積極的に検討し評価するという姿勢を明確にしていく。	新井　郁男（上越教育大学名誉教授）	新井　郁男（上越教育大学名誉教授）
2	学校機能としての生徒指導	学校の持つ諸機能の中にあって生徒指導が果たす基本的な役割とその意味、あるいは学校教育システム全体の中での位置付けについて、総合的な視点から明らかにしていく。	新井　郁男	新井　郁男
3	学校文化と生徒集団	生徒を理解するためには、生徒あるいは生徒集団に特有の行動様式や価値志向、つまり生徒文化を理解しなければならないが、さらに生徒の行動を規制したり、促進したりする学校文化をも理解しなければならない。この回では生徒理解の方法について考察していく。	住田　正樹（放送大学教授）	住田　正樹（放送大学教授）
4	教師生徒関係	教師と生徒の関係のあり方は生徒指導の内容や効果を左右する重要なファクターである。教師のどのような指導態度に生徒はどのように反応するのか、生徒指導の効果を高めるために教師はどのような立場に立ち、どのような態度をとればよいのかについて考察する。	住田　正樹	住田　正樹

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	学習指導と生徒指導	生徒指導の役割と意味に関して、特に教科教育（学習指導）との関係という観点から明らかにする。	新井　郁男	新井　郁男
6	キャリア教育	学校教育は職業生活への準備段階としてもきわめて重要な意味を持っている。キャリア教育あるいは職業教育という側面から、生徒指導を考える。	新井　郁男	新井　郁男
7	小学校における生徒指導	実際の生徒指導のあり方は、初等・中等の諸学校段階によっても異なる特性と内容を持っている。ここでは、まず小学校段階における生徒指導の実際を概観し、実践の具体的なあり方について検討する。	柳生　和男（文教大学教授）	柳生　和男（文教大学教授）
8	中学校における生徒指導	前回の小学校段階に続き、中学校における生徒指導の実際を概観して、その実践の具体的なあり方について検討する。	柳生　和男（文教大学教授）	柳生　和男（文教大学教授）
9	高等学校における生徒指導	前二回の概観と検討をうけ、高等学校における生徒指導の実際を紹介して、実践の具体的なあり方について考察する。とくに不本意就学、中途退学への対応について検討する。	岡崎　友典（放送大学准教授）	岡崎　友典（放送大学准教授）
10	生徒指導と家庭との連携	生徒指導は、十分な家庭との連携があってはじめて効果を発揮するものである。学校と家庭との間でどのような連携があり得るのか、擬似的な家族・親子関係の実践を検討する。	岡崎　友典	岡崎　友典
11	生徒指導と地域社会との関わり	教科教育と異なり、生徒指導にとっては地域社会との密接なつながりも非常に重要な意味を持っている。学校と地域の連携について大都市周辺地区の事例を検討する。	岡崎　友典	岡崎　友典

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	問題行動の現状	子どもたちの問題行動への対応は、生徒指導に不可欠の要素である。ここでは、まず生徒指導に先立つ子どもたちの問題行動の現状について、具体的な統計資料や事例をもとに理解を深める。	岩永　雅也	岩永　雅也
13	問題行動の理解とカウンセリング1	児童・生徒たちの問題行動は、どういう意味をもっているのだろうか。問題行動の提起している意味は何なのかを臨床心理学の立場から考察し、解決への方法を考える。	小野けい子（放送大学教授）	小野けい子（放送大学教授）
14	問題行動の理解とカウンセリング2	問題行動をめぐって、児童・生徒に、また父母に、どう接し、どうしてゆけばいいのか、教育相談とスクールカウンセリングの実際を通して、そのあるべき姿を考える。	小野けい子	小野けい子
15	生徒指導の課題	社会が急激に変化していくなかで生徒の考え方や行動も多様化し、またさまざまな問題行動が生じるようになった。こうした状況に対応していくために学校はどのような指導体制をとればよいのか、また教師はどのような指導活動をしていけばよいのか、また社会は学校や教師に対してどのような役割を期待しているのかについて考え、今後の生徒指導のあり方を考える。	住田　正樹	住田　正樹 新井　郁男 小野けい子 岡崎　友典 岩永　雅也

＝　授業研究と談話分析（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：秋田　喜代美（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

授業は児童期・青年期における教育と学習の場の中心である。授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	授業をとらえる視座	授業は学校教育において学習を形成する要である。授業はどのような視点から分析することができるのか。その概要と、授業をめぐる今日の教育課題をふまえて解説する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
2	授業研究の展開	授業を改善するために、教師たちの手によって、あるいは行政や研究者の手によって行われてきた授業研究にはどのようなアプローチがあるのか、授業研究の歴史と各アプローチの特色を考える。	同　上	同　上
3	カリキュラムと授業のデザイン	授業は教育課程に基づいて実施される。カリキュラムと授業のデザイン、学習環境のあり方について、学習科学が近年示してきている知見をもとにして、デザインの原理を考える。	同　上	同　上
4	教室談話の特徴	授業は話しことばのやりとりで成り立っている。そうしたやりとりは教室談話とよばれ，授業や教室，学校に独特の言い回しやルールをもつ。教室談話を捉える視点，コミュニケーションを切り口として授業を研究するための視点を考える。	藤江　康彦（関西大学准教授）	藤江　康彦（関西大学准教授）
5	教室談話と学習	教室での話し合いについて、学習や理解という認知活動の側面に関して考える。教室の中で話し合いを通して子どもたちはどのように学習を深めていくのか、構成主義や社会文化アプローチという視点から考察する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	リテラシーの習得と談話コミュニテイの形成	教科の授業では、その学問原理固有の考え方や概念、表現や表記方法といったリテラシー、たとえば読み書きリテラシー、科学リテラシー、数学リテラシー等を子どもたちは学んでいく。授業におけるリテラシーの習得過程について検討する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
7	テキストの理解過程	教科書など教材の文章を理解することは学習において重要だが、では「文章を理解する」とは、具体的にどういう状態なのだろうか。文章の理解には「文章を覚えている」「内容を活用できる」の両者があり、それぞれについて文章理解研究の近年の知見をもとに解説する。	深谷　優子（東北大学大学院准教授）	深谷　優子（東北大学大学院准教授）
8	テキストからの学習	前時間につづいて「内容を活用できる」という面について、考える。テキストから学習するために、心の中でどのような心理的活動が行われているのか、またテキストからの学習を支援するための学習環境のあり方について検討する。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
9	学習意欲を高めるテキストと活動	学習への意欲にはある教材や授業への興味関心を継続的に喚起していくことが必要である。興味や好奇心はどのようにして生じるのかという心理過程と、そのためにはどのような教材と配列の条件が必要なのか、どのような活動が好奇心をもたらすのかを考えていく。	同　上	同　上
10	協働学習の過程	多くの授業では、個人、小グループ、一斉学習が組み合わさって授業が実施される。仲間と共に学びあう学習の過程はどのように進むのか、授業においてどのように集団を組織すると有効であるのかを解説する。	同　上	同　上
11	メデイアを活用した授業	コンピュータやインターネットを活用した学習は、従来の教授・学習形態の代替物というよりも、むしろ選択の幅を増やし補うものだと考えられる。新しいツールによる学習の例を取り上げながら、紙媒体での文章からの学習との共通点および相違点を整理する。	深谷　優子（東北大学大学院准教授）	深谷　優子（東北大学大学院准教授）
12	授業における学習評価のあり方と方法	授業における評価は，教師には実践を省察するための，生徒には学習をモニタリングするための手がかりをもたらす。今日のカリキュラムの多様化に応じ，よりよい学習環境を創出するための評価活動のあり方やその方法を学ぶ。	藤江　康彦（関西大学准教授）	藤江　康彦（関西大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	教師の即興性と実践的知識	授業中の子どもたちの発言など、予期せぬできごとに教師はどのように対応しているのだろうか。教師の即興性を成り立たせている実践的知識のあり方について考え、教師の専門性とは何かを明らかにする。	秋田喜代美（東京大学大学院教授）	秋田喜代美（東京大学大学院教授）
14	授業研究と学校文化	教師の専門性開発としての授業研究のあり方について、アクションリサーチという概念を中心に考える。また学校全体で校内研修として授業研究を行う際にどのようなシステムを考えることができるのかを学校文化という視点から考えていく。	同上	同上
15	教師の生涯発達と授業づくり	授業を行うことに熟達化していくとはどのような変化が心理的に生じることだろうか、デザイン、実施、評価の過程における変化を考える。熟達化と生涯発達という視点から、授業と授業研究のあり方を考えていく。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520903	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心理学研究法 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：海保 博之（東京成徳大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大野木 裕明（福井大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：岡市 広成（同志社大学名誉教授）〕

講義概要

①人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、②1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、③今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介してみたい。

授業の目標

心理学の多彩な研究「技法」も個別研究も、事例として紹介されるが、それよりも、それらの背後にある、研究の方法論（論理）のほうに目を向けてほしい。自然科学と違って、心という科学的に非常に扱いにくい対象が、どうすれば科学になりうるのかを知ることが、受講生の方々みずからが、心についての妥当な認識を深めることにもつながると思うからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心理学研究法概説	心理学研究法の歴史と論理をたどりながら、心がどうすれば科学的な対象として研究できるのかを考えてみる。そこでは、自然科学ではごく当たり前の実証をめぐっての苦闘の歴史があることを紹介する。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
2	因果関係を探る ―実験室実験法	心理学における実験の論理について学ぶ。心理学実験は自然科学における実験と変わらないところもあるが、人を相手の実験ではそれなりの工夫が必要となる。実験室的な実験では厳密さが保たれるが、より現場的な実験を行なうにつれて実験法の長所と限界が明らかになる。その工夫の数々が、本章の学びのポイントになる。 【キーワード】 確率論的な因果関係、独立変数、従属変数、統制群、実験計画法	大野木 裕明（福井大学教授）	大野木 裕明（福井大学教授）
3	心を説明するモデルを探る ―モデル論的アプローチ	心にかかわるデータをいかに収集し処理するかに心理学は多彩な工夫をしてきたが、心のモデル化にはかなり慎重であった。20世紀後半、認知心理学がこれに果敢に挑戦してきた。記憶検索モデル、記憶貯蔵庫モデル、さらに情報処理モデルを事例として紹介しながら、モデル論的アプローチの仕組みを紹介してみる。	海保 博之（東京成徳大学教授）	海保 博之（東京成徳大学教授）
4	集団の意見や態度を探る ―質問紙調査法	いろいろな社会現象に対する意見や考えはさまざまであるが、これをたとえば世代別や性別にみると、かなりそれら集団の人びとに共通の考えや態度が見られる。それを調べる方法の1つが質問紙調査法である。言語的なインタビューや社会調査で使われる質問紙で何がわかるのかを、前章の実験法との違いを考えながら学ぶ。 【キーワード】 社会集団、質問紙、社会調査、標本抽出法、相関関係、因果関係	大野木 裕明（福井大学教授）	大野木 裕明（福井大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	心の特性を探る —心理尺度の構成法	心を測る最も一般的な手法として、使われているのが心理尺度である。心理尺度の作り方と、その背景にある論理、さらに、利用にあたっての留意点についても紹介する。	海保　博之 （東京成徳大学教授） 大野木　裕明 （福井大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
6	行動から心を探る —観察法一般	人間の心への接近方法は現在多様である。ここでは客観的に観察することが可能である行動から心へ接近する手法である観察法について、その種類、使用上の留意点、得られた心理学上の知見について検討する。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
7	現場から心を探る —エスノメソドロジーとグラウンディッド・セオリー	近年、フィールド・ワークを中心とした質的研究が注目されてきている。ここでは、フィールド・ワークを通して人間の心理のどのような側面をどのような理論上の立場・視点から、どのような方法によって明らかとしようとしているのか、エスノメソドロジーとグランウンデットセロリーを事例として検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
8	協働から心を探る —教育的介入法	研究者が現場で活動する人と協働して、具体的な問題解決に取り組むことで、問題の背後にある心的機能に関する知見を検討することが可能である。ここでは教育場面における教育的介入法の事例を取り上げ、理論的背景、成果と方法論上の問題について検討していきたい。	比留間　太白 （関西大学教授）	比留間　太白 （関西大学教授）
9	社会を動かす心を探る —アクションリサーチ	アクションリサーチは、社会問題を解決するために、それに関わる人々の意識や行動の規定因を解明し、それが望ましい方向に変わるように働きかける方法である。本章では、コミュニティでの環境保全の取り組みの事例を例にしながら、その方法の特徴を紹介する。	広瀬　幸雄 （名古屋大学大学院教授）	広瀬　幸雄 （名古屋大学大学院教授）
10	心の不具合を探る —事例介入研究	個別または少数の事例について、個性を追求する方法が事例研究法である。心理臨床においては、実際に対象に援助や介入を行いつつ、人間心理を探る方法として独自の意味をもつ方向に発展してきた。この章ではそうした事例介入研究について紹介したい。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）
11	心の深層を探る—心理検査法	人間行動における個人差を知る上で有用な方法としての心理検査について、信頼性や妥当性を高めるために標準化の手続きを経て作られた標準検査と、心の深層を探るために発展してきた投映法検査の両面から紹介する。	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）	小笠原　昭彦 （名古屋市立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	心の脳基盤を探る ―生理心理学的研究法	心は脳と神経系によって実現されると考えられる。この考えの基礎となる生理学的・解剖学的研究と環元主義的研究法を説明する。心の働きを脳と行動との関係からアプローチする3つの有力な研究方法―脳損傷法、脳活動記録法、脳刺激法―について説明する。	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）
13	動物から人の心を探る ―比較心理学的方法	「動物に心があるか」という問いに応える古典的研究から、ネコやラットでの行動学的研究、および、最近、発展の著しいサルに至る比較認知研究の成果に基づいて考えてみる。さらに、背景にある、進化論的な考えも吟味してみたい。	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）	岡市　広成 （同志社大学名誉教授）
14	心理学研究法；まとめと補足	13回にわたり、心理学研究法を網羅的に紹介してきた。この章では、それらの多彩な心理学研究法を類型化して知識の整理をしてもらうことが一つのねらいである。さらに、実証の意味を確認し、現在の心理学研究の一つの潮流ともなっている統計的推論の意義にも触れてみたい。	海保　博之 （東京成徳大学教授）	海保　博之 （東京成徳大学教授）
15	心理学研究法と心理学の研究の今後の展開	14回の講義を通じて、心理学研究の多様なアプローチとその論理や意義を理解していただいた。最後になる今回は、これらの研究法相互の働きかけによって、心の探究のためのあらたな方向が見つけ出され、いかに真理を究明する知的な好奇心がかき立てられるかを、3人の主任講師の対談を通じて考えていきたい。	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之	岡市　広成 大野木　裕明 海保　博之

＝　心理学史（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　西川　泰夫（放送大学教授）〕
〔主任講師：　高砂　美樹（東京国際大学教授）〕

全体のねらい

今あるような心理学はなぜそのようにあるのか。広く周知されている心理学であるがそもそも心理学とは何であり何でないのか。その起源をはじめどのような背景と経過の中で形成されてきたのか。またその立ち上げに直接間接にかかわる先達たちはどのような人物か。日本の心理学史に焦点を合わせ、その移入と定着、拡大展開の過程を世界の心理学の動向に重ね各役割を担った人物を通して紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
		Ⅰ　日本の心理学の起源－幕末から明治２１（１８８８）年まで―		
1	日本の「心理学史」への導入	主任講師、分担講師紹介。当科目受講に当たっての手引き。心理学史の位置づけ。全体の講義項目・概要紹介。 心理学成立前夜。哲学的心理学から新心理学（科学的心理学・実験心理学）へ。自然科学の興隆。擬人論から機械論へ。ものから生命へ、生命から心（意識・精神）へ。心をめぐって一二元論から一元論へ―。 日本の心理学の黎明期・前夜。幕末から明治初頭の海外留学生。西周の略歴（生育環境（島根県津和野）や森鴎外との関係）。西周の果たした役割。育英舎。百学連環。近代西洋科学の分類体系化。「心理学」という学名の起源と語源。その他の訳語。性理学と心理学。ジョセフ・ヘブンとその著作。大学教育制度の中の心理学。外山正一。お雇い外国人教師。哲学的心理学から科学的心理学へ。	西川　泰夫（放送大学教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 高砂　美樹（東京国際大学教授）
2	「新心理学」の導き手とわが国への移入と定着を担った先達たち	哲学的心理学から科学的心理学への移行を担った人々。デカルトの心身二元論と心身問題への取り組み。ホッブスの一元論。ウエーバーの触２点弁別実験。フェヒナーの精神物理学と対数法則。ヘルムホルツの神経伝導速度の計測。アニマル・スピリッツの正体。ドンダースの反応時間減算法による心的構成要素の解明。 新心理学（科学的心理学、実験心理学）の開祖。W.ヴント、W.ジェームズ。新心理学をわが国へもたらした日本の心理学の開祖、元良勇次郎。クラーク大学総長に就任したG.S.ホールとその下で学んだ日本人たち。新心理学のわが国における定着と拡大に大きな役割を担った大学教育制度。東京大学（帝国大学、東京帝国大学）と私学（同志社、東京英学校・東京英和学校（青山学院）、慶応義塾など）。 ヴント、ジェームズ、ホール、元良略歴紹介。	西川　泰夫	西川　泰夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	元良勇次郎―わが国最初の心理学者―	元良勇次郎の人物像と心理学への貢献。略歴（兵庫県三田市生まれ。生家跡と記念碑。幼少期の知的環境。キリスト者としての勇次郎）。同志社進学からアメリカ留学まで。アメリカ留学。ボストン大学からジョンズ・ホプキンズ大学へ。G．S．ホール。 元良の学位論文。留学中の交友関係（一葉の写真、佐藤昌介、新渡戸稲造、長瀬鳳輔、元良勇次郎）。 帰国後の活躍について（前期・中期・後期）。帝国大学講師に就任。精神物理学の担当。帝国大学教授就任。著作と研究紹介。心理学の制度化。 注意の研究。禅の研究。 「精神物理学実験場（実験室）」開設。建物の概観。 二度目の外遊。晩年の研究。心理学者としての位置づけと弟子の育成。	佐藤　達哉（立命館大学教授）	佐藤　達哉（立命館大学教授）
4	松本亦太郎と千葉胤成―心理学の定着と広がり―	松本亦太郎経歴。千葉胤成経歴。日本で二番目の京都帝国大学の設置と松本亦太郎による心理学実験室の開設。心理学出身者の増大と社会的な認識の広がり。応用心理学。 世界の心理学との接点。ヴント。ヴント文庫（東北大学ヴント文庫）。スクリプチュア。ラッド。	高砂　美樹	高砂　美樹
	Ⅱ　明治中期、大正期から昭和期前半―大学心理学の成立から日本心理学会設立まで―			
5	日本の心理学の広がり	大学心理学（アカデミック・サイコロジー）の確立から日本心理学会設立（１９２７（昭和２）年）のころまで。アカデミック・サイコロジーとフォーク・サイコロジー。帝国大学の拡充と整備。大学令（旧制、１９１８年公布）と私立大学の成立。心理学研究室（心理学実験室）開設拡大と整備。 大学制度の整備拡充に伴う心理学の拡大と担い手。 帝国大学制度の変遷と心理学。元良の弟子たち。松本亦太郎の略歴。東京大学文学部卒業生名簿から。 その他の海外留学生の役割。 日本心理学会設立の背景。機関誌の発行と研究大会（年次大会）の開催、会務の遂行。 名称としての「心理学会」などの変遷。「心理学会」、「心理学通俗講話会」（雑誌、心理学通俗講和）、「心理学研究会」（雑誌、心理研究）、「日本心理学会」（雑誌、日本心理学雑誌（京都大学版、東京大学版））、日本心理学会（雑誌、心理学研究。日本心理学雑誌と心理研究を廃止）。 「全日本心理学大会発起人有志者代表、松本亦太郎」 の呼びかけによる「全日本心理学大会」を改めて「日本心理学会」とする。 第１回日本心理学会大会の発表プログラム構成。 以後の簡単な変遷史。	西川　泰夫	西川　泰夫
6	久保良英、田中寛一、鈴木治太郎―知能検査と発達心理学の進展―	知能検査の日本への導入をめぐって。知能の操作的定義。知能検査法。知能指数。 ビネー。シュテルン。ターマンなど海外での知能研究を追い、その日本への導入者である久保良英、田中寛一、鈴木治太郎の経歴と考え方を追う。 発達心理学、教育心理学などの展開についても扱う。	佐藤　達哉	佐藤　達哉

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	森田正馬、中村古峡、寺田精一、内田勇三郎－異常・変態・犯罪への取り組み－	当時変態心理学と呼ばれていた臨床心理学の動向について。精神分析学、分析心理学、深層心理学など。クレペリン、フロイド、ユングなど海外の動向。 森田正馬、中村古峡、寺田精一、内田勇三郎の経歴と考え方を検討。内田・クレペリン・テストなどの検査法の開発。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
8	増田惟茂、黒田亮	比較心理学。学習心理学。行動の心理学的研究。日本における動物心理学の発展。東京帝国大学心理学研究室。京城帝国大学心理学研究室。動物心理学会。 ダーウイン。ロマーニズ。パヴロフ。ワトソン。 増田惟茂経歴。黒田亮経歴。ソーンダイク。モーガン。	高砂　美樹	高砂　美樹
9	佐久間鼎、小野島右左雄	ゲシュタルト心理学とは。グラーツ学派。ベルリン学派。C．シュトュンプ。ヴェルトハイマー。仮現限運動。プレグナンツの法則。ケーラー。レヴィン。トポロギー心理学、グループ・ダイナミックス。日本におけるゲシュタルト心理学の導入。 高木貞二。佐久間鼎経歴。小野島右左雄経歴。 九州帝国大学心理学研究室。建物の構造と概観。 レヴィン来日。	高砂　美樹	高砂　美樹
10	中島泰蔵、堀梅天、横山松三郎	クラーク大学で学位を取得した日本人たち。その他の海外留学生たち。 私立大学の心理学研究室（実験室）の創設者たち（その１）。実験心理学。実験機器。 早稲田大学の場合。中島泰蔵経歴。ミュンスターバーグ。ティチェナー。反応時間。情動反応の計測。 慶応義塾大学の場合。堀梅天経歴。横山松三郎経歴。 ホール。ボーリング。	西川　泰夫	西川　泰夫
11	城戸幡太郎、渡辺徹、今田恵―旧制私立大学における心理学の展開―	私立大学の心理学研究室創設者たち（その２）。そうした研究者が取り組んでいた応用領域、特に教育心理学、および障害とリハビリテーションの心理学の展開についても検討する。城戸幡太郎、渡辺徹、今田恵の経歴。また、戦争と心理学の関係についても考察を加える。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
Ⅲ　日本心理学会設立から第二次世界大戦後の心理学の復興と新たな展開―				
12	日本心理学会の変遷を通じて見た心理学の位置	日本心理学会の変遷。設立以降から、戦前、戦中、戦後の復興、そして現在へ。「日本心理学会」から「心理学会」へ。「心理学会」の組織形態。役員。第二次世界大戦後の日本の心理学の復興。「心理学会」から「日本心理学会」へ。 日本心理学会大会の変遷。機関誌「心理学研究」の中断と復活へ。京都アメリカ研究セミナー。 グレアム教授（コーネル大学）による京都実験心理学セミナー（１９５７）。日程、参加者リスト、セミナーのテーマ、ならびに文献リスト。セミナーの戦後の日本心理学へ果たした役割。一心理学徒のルーツ。日本心理学会以外の多彩な学会の設立と活動。	西川　泰夫	西川　泰夫

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
		Ⅳ　日本の新心理学の内外での制約と境界領域をめぐって		
13	日本の女性心理学者	戦前における女性の高等教育。 日本の教育制度の中の女子高等教育。 原口鶴子の場合。その経歴。高良とみの場合。その経歴。女子教育と松本亦太郎。 海外での受け入れ教員となったソーンダイクなどアメリカ心理学者について。 その他の女性心理学者。実生すぎ。久保（黒瀬）艶子。波多野（畠山）勤子。	高砂　美樹	高砂　美樹
14	日本の心理学の境界画定作業―それぞれにユニークな研究者：井上・福来・古川の活動―	血液型と性格、念写・透視、心霊現象、妖怪、超感覚現象などにチャレンジした心理学者たちを追う。彼らは何を目指しどのような研究を行ったのか。そしてその帰結はどうであったのか。井上円了、福来友吉、古川竹二の経歴と考え方を扱う。クレッチマー、ジェームズなどの当時の世界の心理学者についても検討する。	佐藤　達哉	佐藤　達哉
		Ⅴ　日本の心理学の位置づけ		
15	心理学史からのまとめと課題	世界の心理学の潮流からみた日本の心理学。 さまざまな心理学派。機能主義と構成主義。戦後の日本における心理学教育。心理学の資格をめぐる問題。心理学史の資料収集と保存。心理学史アーカイヴズ。心理学史の教育をめぐって。	高砂　美樹	西川　泰夫 高砂　美樹

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520806	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 認知科学の展開 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（放送大学・教授）〕

〔主任講師（現職名）：阿部　純一（北海道大学大学院・教授）〕

〔主任講師（現職名）：仲　真紀子（北海道大学大学院・教授）〕

講義概要

21世紀最大の課題の一つである、私たちの「心」をめぐる議論は、新たな局面を迎えている。その取り組みを包括して、認知科学（心の科学；cognitive science）とよぶ。当初、心の究明は、もっぱら哲学者の思索や思弁に委ねられていた。しかし、19世紀における生理学や物理学の興隆とともに、新たな現在の心理学（科学的・実験心理学）が立ち上げられたことに加え、以後、20世紀中頃からの情報理論、数理言語学、ならびにコンピュータの実現、さらには脳神経科学などの進展とともに、現在の認知科学がある。この分野の基本的なパラダイムの紹介とその広がりを代表的な心理事象をもとに紹介する。

授業の目標

「心」の探求は新たな段階を迎えている。その最先端では、多くの研究者を巻き込んで活発な実証研究、ならびに理論的整備が図られている。そして反証や理論をめぐって激しい論争が繰り広げられている。学問の最先端は、常に知的に過激で、興味尽きない。そうした新たな知の分野へ関心と興味をもたれる方々へ、自ら参加するためのまずこの分野の基本的な考え方をはじめ、その興味深い成果の一端を簡潔に紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	認知科学成立の背景	認知科学への道程を概観する。基本パラダイムである、心の記号論・計算論を中心に、その背景となる歴史的経緯を紹介する。記号論・計算論は、アリストテレスの形式論理学以降、ホッブス、ライプニッツ、ブール代数、そして現代論理学（命題論理学、述語論理学、フレーゲ、ラッセル、ヴィトゲンシュタインなど）の系譜をたどる。また、論理計算の機械化という観点からは、計算機の系譜をたどり、チューリング・マシン、現行のコンピュータへの概要の紹介を試みる。 【キーワード】 心の記号論・計算論。論理学。計算の機械化。コンピュータ。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左
2	心は計算機	認知科学における基本パラダイムの紹介。「心は計算機である」という主張をめぐって。3つの前提。派生する第4の前提と、「人工知能研究」。「知」の機械化。チューリング・マシン。チューリング・テスト。人間の思考、知性とは。記号処理システムとしての脳（形式的ニューラル・ネットワーク）。脳神経科学の知見から。論理学から。 【キーワード】 人間の思考、知性。記号処理システム。計算機。ニューラル・ネットワーク。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左
3	知識の利用と表象	人間の知（認知、cognition）の基盤を他の動物との比較で考えてみると、それが「nature」よりも「nurture」によって特徴づけられていることが分かる。つまり、人間の知の能力は、生まれた後の様々な経験や学習によって培われた（広い意味での）知識によって支えられているということである。この知識が、日常生活の中でどのように利用されているのか、また、脳内でどのように表象（represent）されているか、を知ることは、認知科学の基本的課題となっている。この回は、人間の知識の利用と表象について解説する。 【キーワード】 知の力、知識の利用、知識の表象	阿部純一（北海道大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	感覚	いわゆる五感と呼ばれる様々な情報をまとめて、効果的に外界を表現するのが感覚の役割である。感覚情報は相補的に機能するが、人間の感覚システムは視覚と聴覚を重視した設計になっている。たとえば視覚は限られた方位を精度良く処理するのに適するが、聴覚は全方位を粗くだが包括的に処理できるし障害物の影響も少ない。この視聴覚を中心にまわりの環境を認知しようとするのが、他の生物とは違う私たちなりの外界への接し方であり、捉え方なのだろう。ここでは私たち人間の感覚システムの特徴を中心に解説する。 【キーワード】 感覚、視覚、聴覚、環境	川端康弘（北海道大学・准教授）	同左
5	高次視知覚	視覚系を通じて、環境の中にある情報がどのようにして抽出されるか、その過程について考える。初期視覚過程や受容野を基盤としたエッジ検出のモデルや奥行知覚、運動知覚の計算モデル、更にはもっと高次の知覚過程としての物体認知や顔認知の過程を説明する認知モデルなどについて解説する。 【キーワード】 エッジ検出、奥行知覚、運動知覚、物体認知、顔認知	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
6	注意	注意とは、環境の中にある必要な情報を効率的に獲得するためのものであると考えられる。この注意の基本的な機能として、選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意などがあり、それらを説明する代表的なモデルや理論を取り上げる。また、意識とも関連した脳内の注意ネットワークに関する神経科学的知見について紹介する。 【キーワード】 選択的注意、空間的注意、視覚探索、分割的注意	田山忠行（北海道大学・教授）	同左
7	認知発達	ここでは時間軸に沿った認知的機能の変化を取りあげる。まず，認知的発達に関するいくつかのモデルを示し，その上で，特に言語的な側面に焦点を当てて発達的変化を見ていくことにしたい。ここで取り上げるモデルは，特定の事象を予測し説明するメカニズムというよりは，発達の過程をどのように捉えるかという視点あるいは理念に近いものである。どのような視点あるいは理念をもつかによって，見えてくる現象が異なってくることを示したい。 【キーワード】 発達のモデル，遺伝と環境，初期知識，領域固有性，語彙獲得	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左
8	記憶	ここでは記憶の過程を取りあげる。短期記憶と長期記憶，言語化できる記憶と言語化しにくい記憶，顕在的な記憶と潜在的な記憶，意味記憶やエピソード記憶といった長期記憶の特徴などを，そのモデルとともに見ていくことにしたい。近年では，偽りの記憶（実際には体験していないことが，あたかも体験したかのように想起される）や自伝的な記憶（自己に関する自伝的な記憶）が関心を呼んでいる。これらについても見ていくことにしよう。 【キーワード】 記憶のモデル，記憶の種類，偽りの記憶，自伝的記憶	仲真紀子（北海道大学・教授）	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	推理判断	われわれの日常生活の多くは推理判断に基づいているといえる。日常的な推理判断も基本的には論理学の演繹、帰納、類推などに対応するが、当たり前過ぎて意識されないような推理判断を詳しく調べると、論理学的な形式性や妥当性の判断とは大きく異なっている。そのようなわれわれの推理判断の具体的な特徴を論理学的な背景とともに概観し、現象を説明できそうな認知科学的なモデルを紹介していく。 【キーワード】 推理、判断、演繹、帰納、類推	瀧川哲夫(北海道大学・教授)	同左
10	言語理解	言語機能は人間という動物を特徴づける代表的認知機能といえる。この回は、人間の言語理解過程の基本的性質について解説する。単語の認知、文の理解、文章の理解と、より大きな言語単位を把握して、その意味内容を捉えていく過程を解説する。 【キーワード】 単語、文、文章(談話)、統語処理、意味処理	阿部純一(北海道大学・教授)	同左
11	言語コミュニケーション	ここでは音声言語によるコミュニケーション，特に会話を中心に認知科学的な研究を紹介する。まず，交互に話す，フィードバックを与える，文脈を共有するといった，会話の特徴を整理する。その上で，発話の理解について検討しよう。発話の研究は，言語学との接点で行われてきた。オースティン，グライス，サールによる理論的枠組みを示し，これらの研究に触発されたいくつかの実証的研究を示す。さらに，イントネーションなどのパラ言語情報についても見ていくことにしよう。 【キーワード】 会話，フィードバック，文脈，発話行為	仲真紀子(北海道大学・教授)	同左
12	音楽認知	音楽の心的機能は、言語と同様に、人間に特徴的なそれといえる。音楽は一般に“芸術”や“感性”に関わる機能として認識されがちではあるが、その基本はやはり“認知”的であるといえる。この回は、人間の音楽認知の基本的メカニズムを解説する。その中核は、拍節的体制化と調性的体制化である。また、音楽における認知と感情との関係についても触れる。 【キーワード】 音楽認知過程の計算モデル化、知覚的体制化、認知と感情	阿部純一(北海道大学・教授)	同左
13	感情	感情は心のシステムのどのようなはたらきによってもたらされるのか、心理学と脳科学の知見にもとづきながら、学際科学としての認知科学の見解を学習する。環境への適応システムとしての感情、認知と思考と動機づけの統合システムとしての感情、感性や価値観につながる高次システムとしての感情など、感情のもつ多彩な側面について学ぶ。また、進化の観点からみた感情、社会現象を通してみた感情についても議論する。 【キーワード】 一次感情、二次感情、情動、愛着	徃住彰文(東京工業大学・教授)	同左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
14	認知科学と認知工学	認知科学によって人間の知の仕組みが解明されるならば、その知見を効果的に使って、人間にやさしい機械の設計が可能となるはずである。このような考え方からうまれたのが、認知工学である。人間が環境を認知する仕組み、推論、感情が導きだされる仕組みが、機械の効果的な設計にどのように貢献できるかを学ぶ。さらに、医療現場や家庭内ロボットをとりあげながら、これからの社会の設計に、認知科学がどのように貢献できるのか、議論する。 【キーワード】 インターフェイス、アフォーダンス、医療認知工学、未来型ハウス	徃住彰文（東京工業大学・教授）	同左
15	認知科学再考	当科目のまとめ。心を問い直す。反記号論・計算論者たちの反論。その前提となるパラダイム。二元論対一元論。感性と理性。行為と心的表象系。身体性。文脈。意図・志向性。応用認知科学。ヒューマン・エラーと安全性。認知科学の将来への展望。 【キーワード】 心を問い直す。反記号論・計算論。	西川泰夫（放送大学・教授）	同左

＝　計量心理学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：西川　泰夫（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：沼野　元義（聖トマス大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大澤　　光（放送大学客員教授）〕

全体のねらい

心理学の抱えている根本的な難しさは、直接の対象である「心」が各自の自覚や確信に反して、直接見ることも触れることもできない（インビジブル）ことである（この点は、すべての科学に当てはまるといってよい）。そこで、目にみえる形あるもの（心の作用結果の行動など）から、もとにある心を捉えることが問われる。この逆分析（結果から原因や仕組みを明かすこと）を行う、逆推定問題を解くためには、一定の手続きによる行動観察とその結果である測定データに内在する論理構造の解析、ならびに心が持つはずの基本的な数理的論理構造を前提（理論やモデル）とした仮説演繹法的な取り組みが必須である。科学的心理学が立ち上げられた以降、実験心理学の中心を占める「計量心理学」を、確率論を前提基盤にすえ、いくつかの身近な心理事象をはじめ具体的な適応、応用事例を平易に紹介する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	Ⅰ計量心理学への導入。 計量心理学の位置づけ	はじめに。主任講師自己紹介。担当講義概要紹介。計量心理学への導入。カントの呪縛。第１論点。第２・３論点。計量心理学の役割と意義。観察と観測。観察と計測、数量化。不可視な心の可視化。観察、観測に内在する誤差と仮説検証の役割。個人差。個人内変動。自然科学での可視化の経緯。みたものに形を与える、量化と数値に意味。	西川　泰夫（放送大学教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 沼野　元義（聖トマス大学教授） 大澤　光（放送大学客員教授）
2	計量心理学への道程	精神物理学的測定法と精神物理学的関数。ウエーバーの触２点弁別閾の測定。精神物理学的測定法。閾値の操作的定義。確率分布（ガウスの誤差分布、正規確率分布）。極限法。調整法。恒常法。ウエーバーの法則。フェヒナーの精神物理学。フェヒナーの対数法則。新精神物理学。スティーブンスのベキ法則。量推定法。	同　上	西川　泰夫（放送大学教授）
3	心理学的測定法、心理尺度論、数の構造。	心理学的測定法。心理尺度論。名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度。数とは。数体系。自然数。整数。有理数。無理数。実数。虚数。複素数。演算子。数の論理関係構造。集合論。要素の間の関係構造。変換。写像。群論。群公理。	同　上	同　上
4	確率変数、確率分布。	確率変数、確率分布。測定に伴い変動する数。理論分布と抽出標本変数と度数分布。確率変数と確率分布。確率密度関数。確率の公理。確率の演算、加法、乗法。条件付け確率。（標準）正規確率分布。確率分布の系統図。正規確率分布の適応例（大数の法則、中心極限定理）。閾値の操作的定義、φ（γ）関数仮説。閾値の測定と計測値。絶対閾。刺激頂。弁別閾。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	正規確率分布モデルの適応―サーストンの１対比較法、および信号検出理論―	正規確率分布モデルの適応例。みえざる判断過程のリバース・エンジニアリング。サーストンの１対比較法。刺激対象次元、内的評価次元、比較判断時限。サーストンの解法、ケースＶ．論理的判断尺度の内的整合性の検討。信号検出理論。ミスとフォールス・アラーム。臨界点。ｄ‘、ｃ。ＲＯＣ曲線。補足。仮説検定法。帰無仮説。対立仮説。危険率。有意水準。棄却域。第１種の過誤。第２種の過誤。	同　上	同　上
6	Ⅱ計量心理学の基礎 測定の数理（１）―確率変数と期待値―	ひとり心理測定によらず、あらゆる測定理論の基礎となる確率変数と、その期待値について学ぶ。特に当科目後段で扱うテストの信頼性や妥当性については、基本的にすべて、確率変数の期待値に関わる議論となるから、その特性や操作にはよく習熟しておく必要がある。講義予定項目は、離散型及び連続型確率変数、分布関数と確率密度、期待値と平均、確率変数の関数、線形変換、分散と標準偏差、和と差の確率変数、平均の加法性などである。	沼野　元義（聖トマス大学教授）	沼野　元義（聖トマス大学教授）
7	測定の数理（２）―確率変数と独立性―	前回に引き続きまず、多くの測定が前提とする確率変数の独立性とその意味について概説した後、この独立性と不可分な関係にある事項について学ぶ。すなわち、測定の母集団と標本、母数と統計量、個人間変動の母集団、確率変数の積、相関と線型関係、相関と独立性、分散の加法定理などである。	同　上	同　上
8	測定の構造（１）―真値と誤差―	測定の信頼性に関わる議論の基礎となる測定誤差の問題を中心として、物理測定との対比において、心理測定に固有な条件について検討する。取り上げる項目は、真値と誤差、誤差分散と標準誤差、中心極限定理、大数の法則、履歴効果、テストの信頼性、信頼性係数と相関の希釈化などである。	同　上	同　上
9	測定の構造（２）―信頼性の評価―	前回までに学んだテストの信頼性に関する議論を踏まえて、信頼性の多様な評価法を、それぞれの理論的前提を基に展開する。具体的には、折半法とSpearman-Brown の公式、Cronbach のα係数、KR-20、ＫＲ-21、Guttman 係数、Rulon の公式、Flanagan の公式などである。	同　上	同　上
10	心理計量の現場―テスト臨床―	計量心理学が適用される最も重要で広汎な実践領域、すなわち心理テストについて、臨床の現場を探訪し、知能検査、投影法など、実際のテスト施行場面を見聞する。併せて心理テストにまつわる様々な現実問題について、第一線の臨床家から生の声を聴く。	同　上	同　上
11	Ⅲ計量心理学の応用 心理モデルのシミュレーション（１）	実験、モデル、シミュレーション。乱数のはなし。乱数を生成してみよう。シミュレーターを作ってみる。	大澤　光（放送大学客員教授）	大澤　光（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	心理モデルのシミュレーション（2）	モンテカルロ法とはなにか。モンテカルロ法によるシミュレーション。ランダムウオーク。製品の普及プロセス。サイコロを振って計算する(モンテカルロ積分)。乱数を利用した遺伝的アルゴリズム。	同上	同上
13	印象の工学	印象とはどのようなものか。「印象の工学」という試み。「印象の測定」はどう進めればよいか。「印象の測定」の限界（1）。「印象の測定」の限界（2）。	同上	同上
14	主観的確率とベイズの理論	主観的確率。ベイズの定理とベイズ推定。ベイジアンフィルター。シンプソンのパラドックス。モンティー・ホール問題。マルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC)。	同上	同上
15	不確実性と意思決定	不確実であるとはどんなことであるか。期待値基準による判断。期待効用による判断。不確実性の回避、損失回避。	大澤　光（放送大学客員教授）	西川　泰夫（放送大学教授） 沼野　元義（聖トマス大学教授） 大澤　光（放送大学客員教授）

＝　基礎発達心理学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：陳　　省仁（北海道大学教授）　　〕

全体のねらい

本講義は、発達心理学の基礎理論や研究を概説した上で、さまざまな研究領域における現状や新たな展開、実践への応用を展望することを目的とする。発達心理学の広い研究領域をできるだけ幅広くカバーし、生涯発達的展望に立って講義を行う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達心理学と関連領域	第１回の授業にあたって、この科目を担当する講師全員が、授業の概略や受講の視点などを解説する。後半は１回目の担当者が、発達心理学の歴史を紹介し、日本の心理学教育における心理学史や欧米心理学に対する批判的姿勢の欠如を指摘する。人間普遍的問題の外に、日本社会の人間発達の問題についての研究を独自の視点から展開する必要性を説く。	陳　省仁（北海道大学教授）	陳　省仁（北海道大学教授）
2	歴史・文化の中の発達	行動発達を歴史・文化の中で展開される現象と捉える。社会の変化や文化の違いが発達にどのような影響を及ぼすのかを考察する。文化心理学や民俗学、人類学の知見についても紹介する。	同上	同上
3	関係の中での発達	乳幼児の行動状態の調整者としての養育者との関係、親子の情動的コミュニケーション特に注視、共同注意、間主観性や自己感の発達を取り上げ、乳幼児期の心の発達における関係性の役割やその重要性を解説する。	同上	同上
4	遺伝子と行動発達	行動発達における遺伝子の役割を解説する。行動遺伝学の代表的な研究を紹介し、行動遺伝学の基本的考え方や手法を解説する。遺伝と経験がどのように相互作用して行動発達を生み出していくのかを考察する。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
5	脳と行動発達	行動発達と脳の関係を、最近の脳科学の成果にもとづいて解説する。発達心理学と脳科学とのコラボレーションといえる研究をいくつか紹介する。「脳科学で発達の問題を解く」という幻想についてもふれる。	星　詳子（東京都精神医学総合研究所・リサーチ・ディレクター） 陳　省仁（北海道大学教授）	陳　省仁（北海道大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	比較行動学と発達	霊長類の研究にもとづいて、人間の思考やことば、社会行動の起源をさぐる。発達の比較行動学研究を紹介し、行動発達の生物学的基礎を解説する。進化心理学についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
7	言語の発達	言語発達は生物学的基礎、認知的基礎、社会的基礎に支えられ、乳児期からの他者との相互関係の中で発達する。子どもがどのように語彙や構文を発達させ、会話や語りの世界に入っていくのかを学ぶ。	秦野　悦子（白百合女子大学教授）	秦野　悦子（白百合女子大学教授）
8	認知の発達	人間が育っていく中でどのように物事をとらえ、自分を取り巻く世界を知っていくのかを学ぶ。乳児期の情報選択、幼児期の未分化な思考から統合化された思考へ、また社会的認識の発達や心の理論について理解を深める。	同上	同上
9	情動の発達	情動の脳理論や機能主義的理論を紹介する。情動が他者とのコミュニケーションの中でいかに社会化されるかを解説する。情動制御の発達についての研究を紹介する。自己概念の発達と情動の関係についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
10	パーソナリティの発達	パーソナリティの定義、自己概念の発達、自我同一性の発達という３つの観点から解説する。また、知能の構造、多重知能について取り上げる。さらに、自己理解の発達モデルや自己受容性、自我同一性の発達とアイデンティティ・ステイタスについて詳しく説明する。	二宮　克美（愛知学院大学教授）	二宮　克美（愛知学院大学教授）
11	社会性の発達	社会性の発達、道徳性の発達、向社会性の発達という３つの観点から解説する。社会性の発達と遊び、道徳性の発達に関するピアジェやコールバーグの理論、社会的領域理論などを説明する。また、向社会性（思いやり）の発達について共感性や罪悪感との関連をまじえて取り上げる。	同上	同上
12	対人関係の発達	親子関係、仲間関係、対人関係能力の発達という３つの観点から解説する。アタッチメント（愛着）、社会的参照、親の養育態度を取り上げる。また、仲間関係の働きや友人関係の発達、社会的スキル、社会的情報処理モデル、対人交渉方略について説明する。	二宮　克美（愛知学院大学教授）	二宮　克美（愛知学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	成人発達とエイジング	成人発達を捉える理論的枠組みを紹介する。老化の生物学的モデルを紹介する。加齢に伴って何が変化するのか、その変化に対して人々がどのように適応するのかを考察する。サクセスフル・エイジングについてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）
14	発達障害と臨床発達	臨床発達とは何かについて理解を深めるとともに、発達障害についての最近の考え方を解説する。精神遅滞、広汎性発達障害、ADHDについての解説を行い、障害の種別や子どもの発達段階に応じた臨床発達のあり方について解説する。	秦野　悦子（白百合女子大学教授）	秦野　悦子（白百合女子大学教授）
15	発達の病理と可塑性	不適応や精神病理を発達的に捉える視点を提供する。疫学的研究や縦断研究の実例を紹介し、病理の発達プロセスについての研究法を解説する。リスクとレジリアンス、防御要因についてもふれる。	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）	氏家　達夫（名古屋大学大学院教授）

＝　神経心理学（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：八木　文雄（高知大学教授）〕

全体のねらい

神経心理学，あるいは認知・行動神経科学の領域においてこれまでに得られている，健常者および脳損傷者を対象とした基礎的・臨床的事実にもとづき，ヒトの日常生活における種々の行為をその背後で支えている，言語，認知，記憶などの高次機能を支配する大脳皮質連合野の神経機構，およびそれらの機能にもとづく種々の行為を支配する随意運動制御の中枢機構に関する最新の知識の獲得を目指す。そして次の段階では，こうした高次機能の形成・獲得・変容を支える可塑的神経機構に関する理解を深め，高次機能の形成・獲得・変容，脳損傷後におけるその再獲得，および発達過程におけるそのつまづきなどの支援について，学習者がその具体的な方策を自分自身の力で構築することができるようになるために不可欠となる，自己課題設定・自己問題解決能力の育成・獲得を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	大脳皮質における機能局在	大脳皮質における機能局在が科学的事実として明らかにされるに至った歴史的背景，および最近のブレインイメージング法による脳機能解析の現状について講述する。 １．言語野の発見　２．ジャクソンてんかん ３．てんかん患者における大脳皮質刺激実験 ４．ブレインイメージング法による脳機能局在の解析	八木　文雄（高知大学教授）	八木　文雄（高知大学教授）
2	大脳皮質連合野の構造と機能	高次神経機能を支配する大脳皮質連合野の定義，区分，機能的特性，およびその損傷により出現する基本的な高次機能障害の特徴について講述する。 １．大脳皮質の発生形態学的分類　２．大脳皮質連合野の高次神経機能　３．大脳皮質連合野の区分	同上	同上
3	頭頂連合野の高次神経機能（1）	頭頂連合野に損傷を受けた場合に出現する主な高次機能障害を取り上げることにより，頭頂連合野が担う第一の機能としての空間認知機能について論議する。 １．視空間認知障害　２．２つの視覚系	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	頭頂連合野の高次神経機能 (2)	頭頂連合野に損傷を受けた場合に出現する高次機能障害の特徴にもとづき，空間認知機能の半球間左右差について論議する。 1．左半側空間無視　2．方向性注意の神経機構 3．方向性注意の大脳半球間左右差	同上	同上
5	頭頂連合野の高次神経機能 (3)	頭頂連合野が担う高次神経機能が，頭頂連合野のどのようなニューロン活動により達成されるのかを，種々の課題遂行中のサルにおいてこれまでに得られている実験的事実にもとづいて考えてみる。 1．視覚性随意運動制御モデル　2．体性感覚情報処理ニューロン　3．空間的視覚情報処理ニューロン　4．異種感覚モダリティ情報統合ニューロン	同上	同上
6	頭頂連合野の高次神経機能 (4)	頭頂連合野が担う第二の機能としての視覚性随意運動制御機能について，脳損傷の事例から論議する。 1．到達運動障害　2．操作運動障害　3．腹側視覚情報伝達系損傷事例 D.F.　4．背側視覚情報系損傷事例 R.V.　5．新２つの視覚系	同上	同上
7	頭頂連合野の高次神経機能 (5)	頭頂連合野における視覚性随意運動制御機能の神経機構について講述する。 1．到達運動関連ニューロン　2．３次元的視覚対象の認知に関連するニューロン　3．操作運動関連ニューロン　4．到達運動と操作運動の視覚性制御機構	同上	同上
8	頭頂連合野の高次神経機能 (6)	ブレインイメージング法による頭頂連合野の機能解析について講述する。 1．PET による脳機能解析　2．ヒトにおける手の運動の視覚性制御　3．手の視覚性運動制御における左半球優位性　4．線分の視知覚における右半球優位性　5．頭頂連合野における半球間機能差の PET による解析	同上	同上
9	高次運動野の運動制御機能 (1)	運動前野における随意運動制御機能について，脳損傷の事例から論議する。 1．ヒトにおける把握運動制御機構　2．運動前野損傷による運動制御機能障害	同上	同上
10	高次運動野の運動制御機構 (2)	運動前野および補足運動野における随意運動制御機構について，ニューロン活動の側面から論議する。 1．運動前野の運動選択機能　2．Canonical-Neuron System　3．Mirror-Neuron System　4．補足運動野の運動制御機能	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	側頭連合野の高次神経機能 (1)	側頭連合野が担う第一の機能としての形態認知機能について，脳損傷事例とニューロン活動の側面から論議する。 1．形態認知機能障害　2．下部側頭葉のニューロン活動　3．おばあさん細胞仮説　4．パターン表現仮説	同上	同上
12	側頭連合野の高次神経機能 (2)	ヒトの腹側視覚路における対象認知の神経機構について，ブレインイメージング法による解析，および損傷による機能障害の側面から論議する。 1．ヒトの腹側視覚路における対象認知関連領域　2．紡錘状回顔領域の高次神経機能　3．海馬傍回場所領域の高次神経機能	同上	同上
13	側頭連合野の高次神経機能 (3)	上側頭溝領域における社会的認知機能について，ブレインイメージング法による解析，および自閉症患者における機能障害の側面から論議する。 1．社会的知覚　2．道徳的判断に関連する脳領域　3．心の理論　4．自閉症児は心の理論をもつか　5．心の理論に関連する脳領域	同上	同上
14	側頭連合野の高次神経機能 (4)	側頭連合野が担う第二の機能としての長期記憶機能について，脳損傷事例とニューロン活動の側面から論議する。 1．両側側頭葉内側部切除事例 H.M.　2．両側海馬 CA1 領域損傷事例 R.B.　3．てんかん患者における側頭葉皮質刺激実験　4．両側 TE 野破壊サルにおける同時的複式物体弁別学習　5．視覚的再認記憶の神経回路モデル　6．視覚性記憶の神経機構	同上	同上
15	前頭連合野の高次神経機能	前頭連合野に損傷を受けた代表的事例における高次機能障害，および前頭連合野のニューロン活動から，前頭連合野が担う高次神経機能について考えてみる。 1．前頭連合野損傷症例における高次機能障害　2．前頭連合野損傷による高次機能障害の神経心理学的検索　3．ワーキングメモリの神経機構　4．前頭連合野ニューロンの機能的可塑性　5．最高次中枢としての前頭連合野　6．中枢神経系の可塑性と補償作用（今後の展望）	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1628615	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 感情の心理学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：高橋 惠子（聖心女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合 優年（武庫川女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：仲 真紀子（北海道大学大学院教授）〕

講義概要

感情には喜怒哀楽から恥や罪，プライドなどまでさまざまな種類がある．感情は文化を超えて人間に共通なものもあれば，感じ方やその表現において，文化に固有なものもある．感情は人間の適応にとって不可欠である．とっさの感情の判断が命を救うこともあり，学習を動機付けたり，人々を結び付けたりもする．この講義では，このような感情を心理学だけではなく，脳神経科学や生物学，医学などの近接領域の成果をも援用しながら，理解していく．

授業の目標

感情をとおして人間の理解を深めてほしい．古今東西，哲学，芸術，思索の対象であった感情が科学的に解明され始めたのは1980年代である．この講義では感情の心理学の最先端の知見を紹介し，この新しい研究領域への知的関心を高めることをねらいとしている．各章では引用文献，参考文献をあげているので，原著にあたってさらに知識を広げてほしい．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	感情の心理学とは	感情の心理学は何を扱うかについて概観する．感情とはなにか．感情と認知の関連，感情の心理学の研究史にもふれながら，研究の課題を述べる．	高橋惠子（聖心女子大学教授）	高橋惠子（聖心女子大学教授）
2	感情の起源	感情がどのような生理的機能によって生じるか,その生物学的な起源について考える．感情の生物学的な適応力についても述べる．	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授）
3	感情の神経心理学	感情の処理に関与する扁桃体や前頭葉などの脳内メカニズムについて述べる．	大平英樹（名古屋大学大学院准教授）	大平英樹（名古屋大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	乳児の感情	発達初期の感情表出について行動レベルから考える．人間の感情は快と不快という生存にとって基本的な情報の表出から始まるとされる．乳児の泣き声でこれが区別できるかなど，発達初期の感情について述べる．	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授） ゲスト： 山本初実（三重中央医療センター部長）
5	表情	表情の認知や表出における発達差、文化差などをもとに，いわゆる基本情動に関する論争の現状について述べる．	山田寛（日本大学教授）	山田寛（日本大学教授）
6	感情と記憶	感情と記憶をめぐり実験室内で行われてきた知見を中心に，感情の強さや種類と記憶との関係や，感情が伴う自伝的記憶について述べる．	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）
7	目撃証言と感情	目撃記憶の信頼性に及ぼす感情の影響を中心に，証言時の感情の問題や，証言の信頼性を高めるための心理的配慮について述べる．	仲真紀子（北海道大学大学院教授）	仲真紀子（北海道大学大学院教授）
8	感情と心の理論	心の理論における感情の問題をめぐる，理論と実証的研究について述べる．	内藤美加（上越教育大学准教授）	内藤美加（上越教育大学准教授）
9	感情の理解の発達	感情についての理解の発達は、生得的な基盤のうえに、他者との感情のやりとりの経験に導かれ、対象について分析する力とともに展開していくプロセスであることを述べる。	久保ゆかり（東洋大学教授）	久保ゆかり（東洋大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	感情と自己	自己がいかに感情とかかわるかを，自己意識感情の発生，発達についての研究を紹介しながら述べる.	高橋恵子（聖心女子大学教授）	高橋恵子（聖心女子大学教授）
11	感情と人間関係	人間には他者と結びつきたいという感情が備わっている．そして，人間はソーシャル・ネットワークと呼ばれるような，人間関係の表象を持つようになる．それがどのような過程であるかを述べる.	高橋恵子（聖心女子大学教授）	高橋恵子（聖心女子大学教授）
12	感情と文化	生得的に準備されている感情の機構が，文化や社会という環境要因によってどのような影響を受けるかについて述べる.	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授）
13	感情と音楽	癒しの音楽というジャンルが定着してきた．音楽を聴くことによってストレスを解消できるのか．実際に音楽を聴きながらその仕組みなどについて述べる.	河合優年（武庫川女子大学教授）	河合優年（武庫川女子大学教授） ゲスト：マイケル ディスタシオ（NPO）
14	感情と家族内暴力	社会的背景とも関連づけながら、ドメスティック・バイオレンスと子ども虐待事例にみられる感情とその意味や機能について述べる.	内藤和美（群馬パース大学教授）	内藤和美（群馬パース大学教授）
15	「感情の心理学」の現在と課題	「感情の心理学研究」の現在について概観し、これからの課題について述べる.	高橋　恵子 河合　優年 仲　真紀子	高橋　恵子 河合　優年 仲　真紀子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1520709	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 記憶の心理学 （’０８）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：太田　信夫（学習院大学教授）〕

講義概要

人間の記憶に関する心理学の知見を基に、講義内容を組み立てる。ここでいう記憶とは、経験や出来事、あるいは知識やイメージなど、常識的意味での記憶のみならず、私たちが生まれてからこのかた、経験により獲得してきたすべての知識や技能をさす。すなわち、話したり、歩いたり、服を着たりする日常的行動は、本人は意識してはいないけれども、学習したことを記憶しているからできるのである。このようなさまざまな記憶に関する研究において、今日まで解明されてきた多くの知見のうち、基本的事項をわかりやすく講義する。記憶のメカニズムやその理論、あるいは現代社会の諸問題に直結する応用的研究などについて、データを示しながら講義を進める。

授業の目標

人間の記憶に関する心理学の基本的知見を習得し、私たちの日常的行動や認知活動（頭の働き）における記憶の重要性を理解することを目標とする。また、記憶の心理学における実証的研究法の基本についても、理解できるようになることを、本授業の目標としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	記憶の不思議	記憶には、常識的に考えるものだけでなく、さまざまな記憶があること、その記憶には個人差が存在することを通して、記憶の不思議に言及する。また、記憶の心理学の基本的枠組みとして、2貯蔵庫モデルについて解説する。 【キーワード】 系列位置曲線、2貯蔵庫モデル、記憶力、短期記憶、長期記憶	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
2	記憶のプロセス	プロセスを符号化、貯蔵、検索の3つの段階に分け、それぞれのプロセスで起きている認知活動（情報処理）と、それに影響を与えている諸要因について、説明をする。後半は、符号化特定性について、実験例を紹介しながら、解説をする。 【キーワード】 符号化、貯蔵、検索、符号化特定性、手がかり依存忘却、転移適切処理	太田信夫（学習院大学教授）	太田信夫（学習院大学教授）
3	ワーキングメモリ	ワーキングメモリのモデルにおける中央実行系や音韻ループ等の特徴と短期記憶との差異点を解説する。また、ワーキングメモリを測定するリーディングスパンテストや、日常生活におけるワーキングメモリの役割についても言及する。 【キーワード】 ワーキングメモリ、ワーキングメモリのモデル、リーディングスパンテスト、処理資源	豊田弘司（奈良教育大学教授）	豊田弘司（奈良教育大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）
4	記憶の測定 －再生と再認－	再生と再認のテストの手続きや、データの処理について説明する。次にいくつかの再認理論を、取り出し理論と生成理論に分けて紹介する。また再生理論についても、両理論に分け、意味ネットワーク理論やミネルバ2などについて解説する。 【キーワード】 再生、再認、信号検出理論、強度理論、意味ネットワーク理論、ミネルバ2、取り出し理論、生成理論	寺澤孝文（岡山大学教授）	寺澤孝文（岡山大学教授） 太田信夫（学習院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	エピソード記憶と意味記憶	エピソード記憶と意味記憶の特質に関する理論やモデルを解説する。また、エピソード記憶を規定する符号化特定性原理や処理水準、意味記憶における活性化拡散とそれを具体的に示したプライミング効果等について言及する。 【キーワード】 処理水準、符号化特定性、活性化拡散モデル、プライミング、精緻化	豊田弘司(奈良教育大学教授)	豊田弘司(奈良教育大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
6	潜在記憶と顕在記憶	顕在記憶と対比しながら、潜在記憶を中心に講義する。潜在記憶を測定する直接プライミングの実験について解説し、直接プライミングの諸特徴について、実験例を示しながら説明する。最後に、潜在記憶の理論を紹介する。 【キーワード】 潜在記憶、顕在記憶、直接プライミング、複数記憶システム、単語完成テスト	太田信夫(学習院大学教授)	太田信夫(学習院大学教授)
7	非言語情報の記憶	人間の記憶には、聴覚、味覚、空間、運動の記憶のように、「ことばの記憶」以外の記憶も存在する。そうした非言語的記憶の存在を知る実験を紹介しつつ、こうした非言語的記憶が言語的記憶とどのような相互作用をしているかを示す。 【キーワード】 感覚モダリティ、画像優位性効果、空間的記憶と視覚的記憶、運動の記憶、言語隠蔽効果	原田悦子(法政大学教授)	原田悦子(法政大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
8	学習と記憶	学習と記憶の関係について解説し、日々の学習や体験が、語彙習得や人間の理解・思考に与える影響を紹介する。また、ドリル学習の積み重ねを、個別にフィードバックする実践事例を踏まえ、記憶研究が教育に果たす役割に言及する。 【キーワード】 潜在記憶、実力の測定、マイクロステップ計測技術、感覚的記憶、深い理解	寺澤孝文(岡山大学教授)	寺澤孝文(岡山大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
9	自己と記憶	記憶という認知活動において、自己がどのように関わっているのかを、記憶における自己の特殊性、自己にとっての記憶の重要性、という二つの側面から解説する。記憶はアイデンティティーを形成し、保つために、必要不可欠である。 【キーワード】 自伝的記憶、自己参照効果、自己スキーマ、アイデンティティー、偽記憶	伊東裕司(慶応義塾大学教授)	伊東裕司(慶応義塾大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
10	日常記憶	私たちが日常用いている記憶は、従来実験室で研究されてきた記憶とは、異なったものである場合が多い。近年、記憶研究者たちは、さまざまな工夫をして日常記憶に迫っているが、そのようないくつかの記憶について説明する。 【キーワード】 展望記憶、ソース判断、記憶補助、記憶の更新、目撃証言	伊東裕司(慶応義塾大学教授)	伊東裕司(慶応義塾大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
11	記憶と感情	記憶と感情の関連について、感情が記憶に与える影響、記憶による感情のコントロール、という二つの側面から解説する。感情研究の方法、実験的に得られる記憶と感情の相互作用を示す現象を中心に検討を行う。 【キーワード】 気分、情動的ストレス、気分状態依存、気分一致効果、気分不一致効果、フラッシュバック	伊東裕司(慶応義塾大学教授)	伊東裕司(慶応義塾大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人物の記憶	人物の記憶を成立させるさまざまな要素の記憶の中から、ここでは特に、顔、名前、性格特性、行動の記憶に焦点をあて、理論やデータを示しながら、いくつかの基本的内容を解説する。 【キーワード】 顔の記憶、名前の忘却、顔認識モデル、対人認知、TOT(舌端現象)、ネットワークモデル	森津太子(放送大学准教授)	森津太子(放送大学准教授) 太田信夫(学習院大学教授)
13	記憶の生涯発達	人が生まれてから死ぬまでの生涯発達において、記憶の量や質、記憶方略及びメタ記憶が年齢と共にどのように変化するのか、そして、これらの要因が記憶成績に及ぼす影響について、データに基づいて講義する。 【キーワード】 記憶容量、メタ記憶、記憶方略、高齢者の記憶、生涯発達	豊田弘司(奈良教育大学教授)	豊田弘司(奈良教育大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
14	現代社会における記憶の問題	社会の高齢化、情報化、高密度化が進むなか、人にとっての記憶負担は大きくなってきている。一方、情報技術を用いた記憶支援の可能性も開かれてきている。こうした現代社会において、人の記憶とそれを取り巻く社会との関係についてた多角的に考える。 【キーワード】 超高齢社会、情報化、活動の高密度化、記憶支援、思い出	原田悦子(法政大学教授)	原田悦子(法政大学教授) 太田信夫(学習院大学教授)
15	記憶研究の大切さ、難しさ、面白さ	本講義のまとめとして、記憶研究の観点から、その歴史について、ず解説する。次に、研究の難しさ、面白さなどについて、一方では実験的研究の立場から、他方ではフィールド研究(応用研究)の立場から、今後の動向も含め、説明をする。 【キーワード】 記憶研究、研究の歴史、実験、フィールド、応用、今後の研究	太田信夫(学習院大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)	太田信夫(学習院大学教授) 伊東裕司(慶應義塾大学教授) 原田悦子(法政大学教授)

＝ 子ども・青年の生活と発達（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：藤崎　春代（昭和女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：武内　　清（上智大学教授）　　〕

全体のねらい

近年、子ども・青年のかかえる問題状況への関心が高まっている。保護者や教育関係者をはじめ大人全体が，子ども・青年をどう捉えればよいのか，どうかかわればよいのか，当惑している。そして、捉える枠組みの提供，かかわり方への示唆を求めて，心理学への関心・期待が急速に高まっている。こうした状況の中で，本番組では，HOW　TO の提供ではなく，改めて現代に生きる子ども・青年の生活を丁寧にとらえなおし，生活とかかわらせて発達を検討していくことを目指す。生活からとらえなおすということは、こころを個人の中だけで検討するのではなく，社会の中で生きている存在としてとらえることを意味する。本講義の第１の特徴は，心理学のみでなく，社会学特に教育社会学の視点も含みこみつつ、発達を考えることである。一方で、生活への注目は，人は生物学的存在でもあることに気付かせてくれる。系統発達的な視点，身体への注目なども含みこむのが第２の特徴である。講義を通して，周囲の子ども・青年の様子を丁寧に見、検討するきっかけとしてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生涯発達の中の子ども・青年期	発達という概念は，従来，子ども・青年期にのみ当てはめられてきていた。しかし、考えてみれば、子ども・青年期に人生のすべての事柄に対処できる準備が整うはずはなく、大人も，日々発達していかなければならないし、現に発達していることに気付く。生涯発達という視点からは，子ども・青年期はどのように位置付けられるのかを整理する。その上で，講義全体の内容・ねらいについてのガイダンスを行う。	藤崎　春代（昭和女子大学教授）	藤崎　春代（昭和女子大学教授）
2	動物の子どもと親子関係	ヒト以外の動物でも誕生から成体になるまでに、発達のための子ども期がある。ここでは、動物の子どもたちが、どのように親を識別し，仲間関係を築き、生息環境について学び，繁殖のために準備するかを説明する。	長谷川寿一（東京大学教授）	長谷川寿一（東京大学教授）
3	子どもが生まれるということ	子どもは，生物学的存在として誕生するとともに，親世代のさまざまな思いの中に誕生する。子どもが生まれるということは、かつてどのようにとらえられてきたのか，そして、現在とらえられているのかに注目する。	藤崎　春代（昭和女子大学教授）	藤崎　春代（昭和女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	母子関係・父子関係	母子関係は家族に関する研究の中心的テーマであるが、母親とは異なる身体的特徴や社会的役割を持つ父親もまた、子どもの発達に大きな影響を与えていることが明らかになっている。親子で遊ぶ様子や子育てインタビューのビデオを通して、以上の点について講義を進めていく。	新谷　和代(帝京大学助教)	新谷　和代(帝京大学助教)
5	社会への第一歩としての入園	家庭で，基本的な生活の成り立ちを身につけた子どもは，園というもう一つの生活の場を持ち始める。保護者も保育者も友達同士の楽しい関わり合いを園生活に期待するが，入園とは、親子共にとって不安なことでもある。園生活を開始する子どもの様子，それを支える保護者の様子から、社会への第一歩としての入園を検討する。	藤崎　春代(昭和女子大学教授)	藤崎　春代(昭和女子大学教授)
6	乳幼児の遊び	放っておいても，子どもは勝手に遊ぶと考える人は多い。しかし、保育の場では，遊べない子どものことが問題視されるし，乳幼児とどうやって遊べばよいのかと悩む保護者も多い。乳幼児の遊びを検討しつつ，遊びの意義や大人のかかわりについて考える。	同　上	同　上
7	友達関係	子ども・青年にとって，友達の存在は大きい。しかし、かかわりは最初からうまくいくわけではなく，乳幼児期から多くのいざこざを経験する。いざこざの中で何が起きているのかを検討しつつ、友達関係の発達を捉える。また、友達の存在と一口にいっても，その中身はさまざまなものが考えられる。個人と他者（集団）とのあり方も整理したい。	同　上	同　上
8	子どもの学校生活	子どもの生活の中心が家庭から学校に移行するのは、小・中学生の時期である。家庭と学校では、そこで働く原理が大きく違う。家庭とは違う学校という場に子どもはどのように適応し、何を学び、どのような成長をとげているのであろうか。子どもの学校への適応、学力形成、人間形成に焦点をあて、さらに校外生活や家庭生活との関連も考察参照しながら、小中学生の時期の生活と発達を考える。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	子どもの生活と遊びの歴史	戦後の子どもの生活史を中心に生活と遊びのウオッチングを行いたい。生活のリズムを１５年周期に捉え「遊び」「お手伝い」「勉強」がどのように変化していくか追っていく。そして今日的な放課後の世界はどうなっているかも合わせて子どもの姿を追う。なぜ子どもの放課後が失われ、それに対してどのような改革がなされているか映像を使って説明する。たとえば、通学合宿、シングルマザーの親子キャンプ、横浜のキッズクラブの姿を紹介する。	明石　要一(千葉大学教授	明石　要一(千葉大学教授)
10	高校生の生活とアイデンティティ	高校生の時期の生活と発達について考察する。高校生の生活をみると、勉強だけでなく、学校行事、部活動、友人関係と活動範囲は広がっている。心理的にも悩み、成長する時期である。同時に、自分とは何かというアイデンティティの探索や将来の進路を考える時期でもある。 高校生の学校生活を中心に、高校生の実際の生活の様子を映像でみると同時にさまざまな調査データからもみていく。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)
11	青年期の恋愛	現代では、恋愛を経験した上で配偶者選択に至るケースが多い。しかしながら、コミュニケーションの得手不得手や仕事との時間のやりくりの困難から、恋愛を経験しない（できない）20 代の青年たちも存在する。この回では、「大学生」の恋愛に関する意識や実態を、大学入学前の年代や社会人と比較していく。高校まではおもに調査データを使用し、社会人については複数の当事者の声などによって実態を捉えるとともに、恋愛しない（できない）青年の実情についても、インタビューによって把握する。	河野　銀子(山形大学准教授)	河野　銀子(山形大学准教授)
12	身体・ファッション	身体やファッションへの関心は、アイデンティティの確立と共に高まると考えられる。一方で、高校までの学校教育は、児童・生徒の「おしゃれ」などへの過度な関心や実践を規制する傾向がある。自己表現と統制の間で、どのようにして子どもや青少年が身体やファッションへの関心をもち、実践しているのか、考察する。女子学生を主たる読者層とする雑誌や、ジュニア向けコスメなどの実態も参考にしながら分析する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	キャンパスライフ	大学進学率は5割近くなり、青年の多くが青年期を大学で過ごすようになっている。授業、サークル活動、アルバイト、交際、趣味活動などの大学生の生活（キャンパスライフ）は、青年文化の主要な担い手になる。キャンパスライフの実際を、映像とデータから示し、大学教育や社会の文化と青年とのかかわりを考察する。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)
14	青年文化の変容	ここ４０年間ほどの青年文化の変化を、対抗・消費・自己という視点でおさえつつ、現代の青年たちの意識と行動を自他関係・メディア・社会観などから考察する。	藤村　正之(上智大学教授)	藤村　正之(上智大学教授)
15	青年期の社会的成長、自立（まとめ）	これまでの、子ども・青年の生活と成長に関する講義の要点をまとめる。青少年自身が、自立・成長するために何をなすべきかを考える。また、教育機関や子ども・青年にかかわる大人達は、どのような支援をすればいいのかを考察する。	武内　清(上智大学教授)	武内　清(上智大学教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1827103	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 乳幼児・児童の心理臨床（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 滝口 俊子（放送大学教授）〕

講義概要

人生の基盤となる乳幼児期・児童期に関する心理臨床の理論と実際を紹介する。親・親代理者、保育・教育に関わる人、地域社会の関係者、心理臨床を目差す学生など、子どもに関心のある多くの方々と、人間の成長発達の基盤である乳幼児期・児童期について考え合いたい。全ての回の講師は、子どもに関わる心理臨床の第一人者である。

授業の目標

乳幼児・児童の心理臨床の理論と実際を学び、子どもたちの健やかな成長に寄与する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	子どもの心理臨床の基盤	京都大学名誉教授河合隼雄先生をゲストにお迎えし、子どもの心理臨床の基盤であるクライエントと臨床家との関係性の理解を深めることを目差す。	滝口俊子（放送大学教授）	滝口俊子（放送大学教授）
2	成長と発達の臨床理論	子どもと臨床場面で接するために必要な、発達的な視点をもった代表的な臨床理論を紹介する。	妙木浩之（東京国際大学教授）	妙木浩之（東京国際大学教授）
3	子どものアセスメントの理論と実際	アセスメントの方法である、行動観察、面接、心理検査等を概観する。また実施上の留意点、目的に添った検査の選択、組み合わせ、医学的診断情報の活用、投影法的質問の仕方についても紹介する。	藤掛明（聖学院大学講師）	藤掛明（聖学院大学講師）
4	遊戯療法の理論と実際	遊戯療法（プレイセラピー）についての理論と、実際上の留意点について概説する。	妙木浩之（東京国際大学教授）	妙木浩之（東京国際大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	箱庭療法の理論と実際	岡田康伸教授をお訪ねして、我が国の心理臨床において効果を上げている箱庭療法について、紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
6	コラージュ療法の理論と実際	放送大学准教授佐藤仁美氏をゲストに、コラージュ療法の我が国における発展・工夫、現場での活用法を紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
7	動作法の理論と実際	鶴光代教授をゲストに、動作法の理論と実際、子どもへの適用について、紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
8	不登校の心理臨床	不登校の子どもたちへの新たなアプローチとして、従来の相談室モデルに基づく心理臨床に加えて、地域援助モデルに基づく訪問カウンセリングの可能性を探る。ゲストに京都文教大学准教授香川克氏を迎える。	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
9	保護者・関係者との関わり	専修大学教授吉田弘道氏をゲストに、乳幼児・児童の心理臨床において重要な保護者・関係者との関わりについて紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
10	赤ちゃんと家族の出会いの心理臨床	赤ちゃんのこころを育み、家族の発達を支える心理臨床について紹介する。	橋本洋子(山王教育研究所スタッフ)	橋本洋子(山王教育研究所スタッフ)
11	地域における子育て支援	福岡市の大学の生涯学習施設「みんな塾」における、心理臨床と保育をマッチした支援活動の展開を紹介する。	一ノ瀬節子(筑紫女学園大学教授)	一ノ瀬節子(筑紫女学園大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	児童養護施設における心理臨床	昨今増加している被虐待児を多数受け入れるようになって、児童養護施設は従来の生活支援に加えて、虐待治療の心理臨床機能を併せ持つ必要性が高まってきている。組織の中で、また生活の場で心理臨床をいかに行うか、原理的な面からその実際までを学習する。	高石浩一(京都文教大学教授)	高石浩一(京都文教大学教授)
13	スクールカウンセリング	東京都のスクールカウンセラー坂倉重雄氏をゲストに、教育現場における心理臨床であるスクールカウンセリング活動と課題について紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
14	保育カウンセリング	福岡市の保育カウンセラー村山尚子氏をゲストに、子どもが育つ基礎である乳幼児期に関わる保育カウンセリングの実際について紹介する。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)
15	たましいの働き	河合隼雄先生をお訪ねし、児童文学・音楽・絵画・映画など心理臨床の周辺に視野を拡げ、たましいの働きに目を向ける。	滝口俊子(放送大学教授)	滝口俊子(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1521403	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　思春期・青年期の心理臨床　　（’０９）＝　　（R）

〔主任講師（現職名）：　佐藤仁美　放送大学准教授　〕

〔主任講師（現職名）：　西村喜文　西九州大学教授　〕

講義概要

思春期・青年期について、発達的側面・医学（病理）的側面などから捉え、その対応について概説する。大きく分けて、家庭・学校・社会のなかでの若者の姿を多角度からアプローチしていく。

授業の目標

思春期・青年期について、発達的側面、医学（病理）的側面などから理解につとめる。家庭・学校・社会において、思春期・青年期年代の特徴を内面と外面から理解すること。

履修上の留意点

関連科目として、「心の健康と病理」「心理臨床の基礎」「心理カウンセリング序説」「スクールカウンセリング」「乳幼児・児童の心理臨床」をあわせて履修することをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	思春期・青年期を生きる －思春期・青年期の課題－	思春期・青年期を心と体の両側面から捉え、大人と子どもの境目にあるこの時期であるからこそ、生きている楽しみと、生きにくさに迫っていく。 【キーワード】 思春期・青年期・アイデンティティ・自己との出会い	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
2	思春期を生きる子どもたち	児童期後期より、親との距離をおき始め、親に向けられていた愛着がしだいに自分自身に向けられてくる。このように自意識（自分への関心）が高まる中、子どもたちは、それぞれの空間をどのように生きているのか学校（社会）、家庭での臨床像とその対応について考える。 【キーワード】 現代の子どもの姿　不適応行動　こころの理解と支援	西村　喜文（西九州大学教授）	西村　喜文（西九州大学教授）
3	青年期をいかに過ごすか	現代の高校生・大学生がおかれている社会的環境を視野に入れながら親からの分離、対人関係の問題等、子どもから大人への移行期における自我形成について考えていく。 【キーワード】 移行期　自分探し　対人援助	西村　喜文（西九州大学教授）	西村　喜文（西九州大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	軽度発達障害	学校現場において、心身に障害を持つ子どもの教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へと変わり、子どものニーズにあった支援が求められている。ここでは、中学、高校における軽度発達障害の現状とその対応について考えていく。 【キーワード】 軽度発達障害　特別支援教育　学校の現状　家族支援	西村　喜文（西九州大学教授）	西村　喜文（西九州大学教授）
5	学校コミュニティと心理臨床	学校現場において、事件、事故、被害など学校コミュニティの危機が問題となり、緊急支援の必要性が問われている。ここでは、学校コミュニティと心理臨床について考えていく。 【キーワード】 学校コミュニティ　緊急支援　危機介入　心のケア	西村　喜文（西九州大学教授）	西村　喜文（西九州大学教授）
6	異文化体験の中での思春期・青年期	自文化の中でも難しい思春期・青年期を、異文化を体験することの特徴をプラス・マイナス両視点から考える。 【キーワード】 異文化体験　文化的アイデンティティ　帰国子女	手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）	手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）
7	思春期・青年期の問題行動と課題　(1)－非行臨床・外に発散されるエネルギー－	なぜ飛び出してしまうのか？　自分でもてあましてしまうもの・あふれ出る爆発的なエネルギーと、その発散方法、そして、収束に向かう時とは？　非行臨床における少年たちの特徴と、彼・彼女たちとの付き合い方などを探求する。 ＊　ゲスト：田高誠（徳島家庭裁判所調査官） 【キーワード】 非行・つまづき・居場所・攻撃性	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
8	思春期・青年期の問題行動と課題　(2)思春期心性と行動	なぜ、内側に向かってしまうのか？自分でもてあましてしまうもの・繊細な心のひだにアプローチする。主に不登校、ひきこもりの問題をとおして、この時期特有の内側に向かう心を探求する。 【キーワード】 不登校・引きこもり・思春期内閉	北原知典（こどもの城小児保健部　臨床心理士）	北原知典（こどもの城小児保健部　臨床心理士）
9	ボディイメージと病理(1)	この時期特有の自己意識・ボディイメージから病理にかかわる全般について、歴史的見地も踏まえアプローチし、いくつかの精神疾患も取り上げ概説する。 【キーワード】 身体言語・思春期危機・疾病利得	佐藤　仁美（放送大学准教授）	佐藤　仁美（放送大学准教授）
10	ボディイメージと病理(2)	思春期・青年期の心と身体の問題の中でも身体で表現するものとして，摂食障害・自傷行為を中心に取り上げ，それらと関係している境界性パーソナリティ障害についても触れてみる。 ＊ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士） 【キーワード】 摂食障害・自傷・自殺	大前玲子（大阪大学助教）	大前玲子（大阪大学助教）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	思春期・青年期の心理療法（1） 総論と芸術療法・認知療法を中心に	ちょっとした工夫が必要とされる思春期・青年期の心理療法を取り上げる。一つは，イメージを使った芸術療法としての箱庭療法・コラージュ療法ともう一つは，現実志向で歪んだものの見方・考え方を修正することを目指す認知行動療法という大きく志向の違う心理療法を紹介する。 ＊ゲスト：川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき臨床心理士） 【キーワード】 芸術療法・認知療法・箱庭療法	大前玲子（大阪大学助教）	大前玲子（大阪大学助教）
12	思春期・青年期の心理療法（2） 遊戯療法的要素について	思春期・青年期の心の理解と付き合い方について、遊戯療法的な視点から考察し、「遊び」という表現方法の可能性について探求する。 【キーワード】 遊戯療法，遊び，イメージ	北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）	北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）
13	思春期・青年期とのつき合い方（1）－メディアの利用と直接性・間接性－	移行現象・移行対象をキーワードに、現代若者たちのコミュニケーションの形について探る。また、コミュニケーションツールの使用・メリットとデメリットなども取り上げる。 【キーワード】 インターネット・バーチャル-リアリティ・移行対象・移行現象	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
14	思春期・青年期とのつき合い方（2） 性別と組み合わせの問題を中心に	思春期・青年期像を性別に眺めるとともに、クライエント－セラピストの同性・異性の組み合わせをさまざまな面から考える。 ＊ゲスト：北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士） 田高誠（徳島家庭裁判所 調査官） 三輪小百合（関中央病院 臨床心理士） 鴨川由美江（滋賀県立精神保健福祉センター 臨床心理士） 【キーワード】 ジェンダー-アイデンティティ・獲得する・受け入れる	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤 仁美（放送大学准教授）
15	思春期・青年期を生きぬく	思春期・青年期をどう生き抜くか。思春期・青年期を生きる姿、親や先生をはじめとする大人の役割、そして協働をめざしての試みを語り、まとめとする。 【キーワード】 居場所・安心感・役割意識	佐藤 仁美（放送大学准教授）	佐藤仁美（放送大学准教授）・西村喜文（西九州大学教授）・手塚千鶴子（慶応義塾大学日本語・日本文化センター教授）・大前玲子（大阪大学助教）・北原知典（こどもの城小児保健部 臨床心理士）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1521209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 心の健康と病理 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅（放送大学教授）〕

講義概要

この講義では、心の健康と病理について、その基本的な概念と成り立ちに関する基礎知識と考え方について学習する。心の健康とは何かを知るためには、それが損なわれた状態、心の病いについて知ることが大切であり、翻って、健康な人間のもつ心の特性とその問題性が浮き彫りにできるものと考える。

授業の目標

生きていく上で心の健康は大切である。成長、発達につれ、社会生活上、さまざまな問題や障害が生じる。これらの問題解決に向けて、講義を通じて、心の健康と病気の意味について考えることを目標としたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	心の健康と病理について	心の健康と病理についての考え方、心の異常と正常、心が病むとはどういうことかを考える。 【キーワード】 心の健康、心の病理、正常と異常、疾病概念、精神保健（メンタルヘルス）	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
2	心のとらえ方への視座－発達論的理解と生活論的理解	人間の存在は、生物学的、心理学的、社会学的存在として捉えられる。人の一生をたどると、時間軸を中心とした発達論的視点と空間軸を中心とした生活論的視点から心の健康問題を捉えることができる。 【キーワード】 心のとらえ方、発達論的理解、生活論的理解	齋藤　高雅（放送大学教授）	齋藤　高雅（放送大学教授）
3	乳幼児期・児童期の心の健康と病理	乳幼児期・児童期に生じやすい心の健康問題とその病理、およびその対策について述べる。 【キーワード】 愛着性障害、ADHD、神経性習癖	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授）	上別府　圭子（東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授）
4	思春期・青年期の心の健康と病理	思春期、青年期に生じやすい心の健康問題とその病理、およびその対策について述べる。 【キーワード】 思春期、青年期、発達課題、不登校	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）	早川　東作（東京農工大学保健管理センター教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	高齢期の心の健康と病理	認知症とうつを中心に、高齢者に生じやすい心の健康問題とそれに対する実践的な対応を講義する。特に、認知症を抱えてなお残る心の正常性を踏まえた介護の仕方についても検討を加える。 【キーワード】 認知症、うつ、自殺	高橋 正雄(筑波大学大学院 障害科学系教授)	高橋 正雄(筑波大学大学院 障害科学系教授)
6	女性の心の健康と病理	現代の女性における心の健康と病理について述べる。思春期の摂食障害、周産期の産後うつ病、更年期の障害など女性のライフサイクルに沿って健康問題を考える。 【キーワード】 摂食障害、産後うつ病	上別府 圭子(東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授)	上別府 圭子(東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授)
7	家族の心の健康と病理	家族ライフサイクルの考え方を学習した上で、各段階で家族に課せられる課題や、課題につまずいた場合の家族の病理とその対応について、事例を通じて学習する。また家族の心の病理の一例として、社会問題にもなっているドメスティック・バイオレンスについて学習する。 【キーワード】 家族ライフサイクル、世代間伝達、ドメスティック・バイオレンス	上別府 圭子(東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授)	上別府 圭子(東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野准教授)
8	学校におけるメンタルヘルス	学校教育が子どもや教師のこころに適合できなくなってきたと言われている。学級崩壊、不登校、ひきこもり、非行、子どもの自殺、教師のうつ病など枚挙にいとまがない。一方、学校メンタルヘルス向上の様々な取り組みも試みられている。学校という場でこれらの問題を考えることで心の健康と病理を考えていきたい。 【キーワード】 学校メンタルヘルス、生徒のストレス、教師のメンタルヘルス	早川 東作(東京農工大学保健管理センター教授)	早川 東作(東京農工大学保健管理センター教授)
9	働く人の心の健康と病理－職場の精神保健	過労死、うつ病など、今日、働く人の心の健康問題が大きくとりあげられるようになってきている。また、休職者においても身体問題以上に心の健康問題の比重が増えてきている。これらの問題についてその対策を考えてみたい。 【キーワード】 職場の精神保健	川上 憲人(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授)	川上 憲人(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授)
10	地域における心の病－うつ病・自殺を中心に	地域における心の病(精神障害)の例としてうつ病をとりあげ、医学的視点から原因と対策について述べる。また、自殺をめぐる基本的な問題について概説する。 【キーワード】 地域精神保健、うつ病、自殺	川上 憲人(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授)	川上 憲人(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	病みながら生きるという生き方	「病みながら生きる存在としての人間」と「人間的な成長をもたらすものとしての病い」という概念を中心に、天才と呼ばれる人々の生き方や闘病記の記述に基づいて、病いを抱えて生きる人々の生き方や人生において病むことの意味、病いと創造性の関連などを検討する。 【キーワード】 病跡学、障害受容、創造性	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）
12	人格の病理、パーソナリティの理解	その人のひととなりがその個人もしくはそれをともなう人たちに破壊的影響をもたらすとき、パーソナリティの病理が問題となる。そのなりたち、その概念の臨床的な意義について検討する。 【キーワード】 パーソナリティ、パーソナリティ障害	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）
13	心の外傷と心の病理	内的な世界と外的な世界の交錯がひとのこころをかたちづくる。それは病理的な現象も同じである。人間が持って生まれた生得的なものとこころがこうむったさまざまの環境からの外傷的影響との相互作用で精神病理が生まれてくるのである。単純で浅い心因論を超えたところで、そうしたことを考えてみたい。 【キーワード】 心的外傷、病因論、環境と素因、PTSD	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）	藤山 直樹（上智大学総合人間科学部心理学科教授）
14	文学にみる老いと病い	「ブレーメンの音楽隊」や「ドン・キホーテ」などの文学的な作品を中心に、そこに描かれた高齢者や病者、障害者の生き方並びに周囲の対応を検討するとともに、人生における「障害」受容のあり方や「病みながら生きる者への畏敬」という概念についても考える。 【キーワード】 病跡学、障害受容、精神障害	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）	高橋 正雄（筑波大学大学院 障害科学系教授 ）
15	現代社会の病理との関係をめぐって－まとめにかえて	犯罪・非行などは社会病理ともいわれ、時代状況を写す鏡でもある。人の心の問題と病理を考えるにあたり、社会との関わりを抜きに論ずることは不可能である。まとめにあたり、これらの問題について考えてみたい。 【キーワード】 社会病理現象、犯罪・非行、時代による病像の変遷	齋藤 高雅（放送大学教授）	齋藤 高雅（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1522310	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　心理カウンセリング序説　　（’０９）＝　(R)

〔主任講師（現職名）：大場 登（放送大学教授）　　〕

講義概要

臨床心理学における「カウンセリング」について、もっとも基本的なことを検討する。現在の日本においては、カウンセリングという言葉は、「受容的に話を聞くこと」とか、ほとんど「ガイダンス」とか、「オリエンテーション」と言った意味で使われることも稀ではない。本講では、臨床心理学的な問題や症状を抱えた方々、すなわち、クライアントが自らの問題や課題と取りくむためにセラピスト(＝カウンセラー)の許を訪ねて開始される心理療法という意味での「心理カウンセリング」について系統的に学習する。

授業の目標

臨床心理学における「カウンセリング」、すなわち、「心理療法」というものは、長期間の専門的な研修を必要とするものであり、本学においても、大学院臨床心理プログラムでようやくその初期研修が行なわれることになる。それでも、学部の段階でも、一般心理学だけではなく、臨床心理学の基礎は身につけることが要請される。本講の印刷教材・放送授業両者と丹念に取り組んでいただければ、「臨床心理学におけるカウンセリング」のもっとも基礎的なことは理解することができるのではないだろうか？

履修上の留意点

「心理臨床の基礎('08)」受講は前提である。異なる立場から制作された「精神分析入門('07)」もぜひ受講していただき、比較検討していただきたい。なお、本講のアドヴァンスト・コースは大学院臨床心理プログラム開講の「臨床心理面接特論」となることも申し上げておきたい。いつか挑戦していただくことを期待したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	セラピストと「聴く」こと －「受けとめる」こと	カウンセリングの最重要な営みは、クライアントが「語ること」にセラピスト(カウンセラー)が耳を傾けることである。つまり、「聴く」こと。「聴く」ということは、クライアントによって語られる苦痛や訴えをセラピストの心身でもって「受けとめる」ことと言えよう。 【キーワード】 セラピスト、聴くこと、受けとめること	大場 登(放送大学教授)	大場 登
2	クライアントと「語る」こと －「表現する」こと	セラピストの「耳を傾ける」姿勢に支えられて、クラアントは自身が抱えている困難やいわゆる症状、そして、自らについて「語る」こととなる。「語る」こと、「表現する」ことは、そのこと自体に深い意味と働きがある。 【キーワード】 クライアント、語ること、表現すること、	大場 登	大場 登
3	カウンセリングの「器」	カウンセリングのとても重要な特徴のひとつは、第1章・第2章で述べられた営みが、独特の「器」の中で行なわれるということである。この「器」によって守られているからこそ、カウンセリングは成立する。 【キーワード】 「器」、守り、治療構造	石本伸子(恵泉女学園大学准教授)	石本伸子
4	出会いと見立て	面接室でのはじめての出会い。あるいは、電話予約時点から既にして始まる出会い。クライアントもセラピストも、カウンセリングが可能であるか、カウンセリングが適切な営みであるか、この人とやってゆけるか、慎重に「見立て」が行なわれる。 【キーワード】 出会い、見立て、契約	森さち子(慶應義塾大学医学部助教)	森さち子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	意識と無意識	カウンセリングには、様々の視点や立場、オリエンテーションがある。本講では、ロジャーズのクライアント・センタード・セラピーを尊重しながらも、人間の心には、意識されている領域の他に、深い無意識の領域が存在するとしたフロイトやユングの視点から学んでみることにしたい。 【キーワード】 意識、無意識、フロイト & ユング	石本伸子	石本伸子
6	クライアントとセラピストの「かかわり」	カウンセリングにおいては、クライアントの心の世界が次第次第に表現・展開されてゆくことになるが、この展開のプロセスは、あくまで「クライアントとセラピストの関係性」の中で生じることとなる。クライアントの意識と無意識、セラピストの意識と無意識、両者の深く、複雑なかかわりの中でカウンセリングは進行する。 【キーワード】 クライアントとセラピスト、関係性、転移 & 逆転移	森さち子	森さち子
7	セラピストの「読み」	カウンセリングにおいて、「耳を傾ける」ことは最重要なことではあるが、しかし、クライアントが抱えておられる問題やいわゆる症状が少し難しいものになるにしたがって、セラピスト側での「読み」がどうしても必要となってくる。しっかりと「耳を傾ける」ことができるためにこそ、「読み」が大切と言えよう。臨床心理学に関する、広範で、深い知識が必要となってくる所以（ゆえん）である。 【キーワード】 読み、仮説、カウンセリングと理論	大場 登	森さち子
8	「読み」と「問いかけ」「語りかけ」	前章で検討した「読み」に基づいて、セラピストは、必要に応じて、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこととなる。「問いかけ」に対するクライアントのレスポンスによっては、セラピストは自らの「読み」の微修正をしてゆく。クライアント側は、セラピストの「問いかけ」「語りかけ」によって、新たに、自らの問題・課題と取り組んでゆくことになるだろう。 【キーワード】 問いかけ、読みの修正、問題との取り組み	大場 登	森さち子
9	カウンセリングのプロセス	初回面接以降、カウンセリング終結まで、クライアントとセラピストの間で「変容のプロセス」が展開することになる。このプロセスは、「器」の中で進行するので、ちょうどレトルトの中で進行する化学的変容のプロセスに喩えることもできる。火加減やコルク栓の微調整には職人の「技」も必要である。只、「変容のプロセス」は自律的でもある。 【キーワード】 変容のプロセス、プロセスの自律性、プロセスとセラピスト	大場 登	大場 登
10	コンプレックス	第7章の「読み」にも通じるが、カウンセリングを行なうにあたっては、臨床心理学の幅広く、深い知識が不可欠である。カウンセリングにおいては、クライアントの心に渦巻くさまざまのコンプレックスと向き合うことになると表現することもできるだろう。臨床心理学において、コンプレックスとはどのようなものとして理解されているのか、本章ではその基本のあたりから検討してみることになる。 【キーワード】 コンプレックス、フロイト、ユング	石本伸子	石本伸子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	家族	カウンセリングにおいて向き合うことになるテーマとして、「家族」というものは、もっとも頻度が高いもののひとつと言えよう。必ずしも、母親コンプレックス、父親コンプレックス、カイン・コンプレックス、エディプス・コンプレックスといった表現をとらないとしても、「家族」がテーマになることは実に多い。 【キーワード】 家族、母親コンプレックス、父親コンプレックス	石本伸子	石本伸子
12	性	フロイトが人間の心における「性」の重要性を指摘して以来、既に1世紀になるが、現代においても、「性」が人間にとって扱いの困難なコンプレックスのひとつであること、そして、人間にとって最重要なテーマのひとつであることにまったく変わりはない。それぞれの個人にとって、「性」、そして、自らのセクシュアリティとどのように向き合うことになるのか、カウンセリングにおける永遠のテーマのひとつと言えよう。 【キーワード】 性、エロス、セクシュアリティ	森さち子	大場 登
13	力・権力・権威	人間にとって、「力・権力・権威」というものもまた永遠のテーマのひとつと表現できよう。フロイトが「性」に強い関心を向けたように、アドラーは「力・権力」の問題を取りあげた。只、アドラー心理学ならずとも、権威・権力コンプレックスもまた、カウンセリングにおいて登場する最重要なテーマのひとつである。もちろん、「父」と「息子」の間に限らず、そして、「男」と「男」の間に限らず、「女性」と「女性」との間においても、当然のことであるが、「力・権力」をめぐって、人間は古来、苦闘を続けている。 【キーワード】 力、権力、パワー	大場 登	大場 登
14	死	「性」や「力・権力」が、人間にとって、そして、「カウンセリング」にとって、最重要なテーマであるのとまったく同様に、「死」というものもまた、人間にとって、カウンセリングにとって、最重要テーマのひとつと言えよう。フロイトもユングも「死」と集中的に取り組んできたし、そして、カウンセリングの実際においても、「死」は常に私たち人間が「向き合う」ことを要請する。 【キーワード】 死、喪、彼岸	森さち子	大場 登
15	別れ	カウンセリングは、やがて終結を迎え、かつて出会ったクライアントとセラピストは、「別れ」を経験することになる。そして、「別れ」「分離」もまた、人間にとって、実に困難にして、永遠のテーマと表現できるであろう。個人的な「別れ」。親やパートナー、師との「別れ」。時代や役割、思想・信条、ある生き方との別れ。意識と無意識の「分離」…。 【キーワード】 別れ、分離、終結	大場 登	大場 登 石本伸子 森さち子

＝　スクールカウンセリング（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　滝口　俊子（放送大学教授）〕
〔主任講師：　倉光　　修（東京大学教授）〕

全体のねらい

学校において行われている、カウンセリングの実際を紹介する。公立の全中学校に配置されたスクールカウンセラーは、教師・親・地域と密接に連携しつつ、子どもたちの健やかな成長に取り組んでいる。スクールカウンセリングは決して密室のカウンセリングのみではなく、学校教育の中での児童・生徒に適する方法を模索しているのである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	カウンセリングと教育	京都大学名誉教授 河合隼雄先生をゲストにお迎えして、教育とカウンセリングの共通点と差異点をお話いただき、教師とカウンセラーと親と社会との協働について考える。	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
2	個と集団	教育におけるカウンセリングを考えるに当たって重要な視点である「個と集団」について、河合隼雄先生にお話いただき、スクールカウンセリングの意義を明確にする。	滝口　俊子	滝口　俊子
3	不登校	すでに紹介されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを素材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに西井恵子氏を迎え、不登校の事例を検討する。	倉光　修（東京大学教授）	倉光　修（東京大学教授） ゲスト 西井　恵子（谷町こどもセンターセラピスト）
4	問題行動	すでに発表されているケース、あるいはモデルとして提示されるケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。俳優によるロールプレイを交える予定である。ゲストに三船直子氏を迎え、問題行動の事例を検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 三船　直子（山口県立大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	発達障害	すでに発表されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに大島剛氏を迎え、ADHDの事例を検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 大島　剛 （神戸親和女子大学准教授）
6	保護者のカウンセリング	すでに発表されているケース、あるいはモデルとして提示されるケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。俳優やボランティアによるロールプレイを交える予定である。ゲストに鵜養啓子氏を迎え、保護者とのかかわりを検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 鵜養　啓子 （昭和女子大学教授）
7	教師のコンサルテーション	すでに発表されたケース、あるいはモデルとして提示されたケースを教材にして、カウンセリングの技法を説明する。ボランティアによるロールプレイを交える予定である。藪添隆一氏をゲストに迎え、教師に対するコンサルテーションを検討する。	倉光　修	倉光　修 ゲスト 藪添　隆一 （和歌山県立教育研究センター教育相談室長）
8	危機対応	学校の集団の中では、さまざまな危機が発生する。鹿児島大学教授久留一郎氏をゲストにお迎えして、学校におけるさまざまな危機への支援やPTSDについてとりあげ、スクールカウンセラーの役割について考える。	岡本　淳子 （立正大学教授）	岡本　淳子 （立正大学教授）
9	スクールカウンセラー配置の実際	東京都教育委員会への取材を通して、文部科学省によるスクールカウンセラー配置事業を地方自治体がどのように進めているのか、行政はスクールカウンセラーにどのようなことを期待しているのかなどについて明らかにする。また、臨床心理士会によるスクールカウンセラーへのサポートシステムについても紹介する。	岡本　淳子	岡本　淳子
10	外部関係機関の機能と連携	スクールカウンセラーの活動は、学校内部だけではなく、他の関係専門機関との連携を必要とする。児童相談所・子ども教育支援財団・スクーリングサポートセンター・こども心身医療研究所・少年鑑別所の元技官などをゲストに迎えて、連携のあり方を考え合う。	馬殿　禮子 （兵庫県立但馬やまびこの郷所長）	馬殿　禮子 （兵庫県立但馬やまびこの郷所長）
11	スクールカウンセラーのバックアップ体制	スクールカウンセラーが第一線の学校現場で十分に機能するには、後方におけるカウンセラーの教育と支援が不可欠である。スクールカウンセラーに対する研修会、スーパーヴィジョン、カンファレンス、サポートグループなどで、スクールカウンセラーの指導にあたってきた経験をもとに、バックアップ体制の必要性、その実際、その問題と課題のどについて知見を紹介する。	野島　一彦 （九州大学大学院教授）	野島　一彦 （九州大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	学級担任との連携	教師とスクールカウンセラーが互いに専門家として認め合い話し合うことが、連携の基本である。よりよい連携を築いてゆくために、スクールカウンセラーの活用、その内容や基本的態度、教師による教育相談、生徒指導における立場と基本的態度、善人・悪人を投影されることなどについて考えたい。	山下　一夫（鳴門教育大学教授）	山下　一夫（鳴門教育大学教授）
13	スクールカウンセラーの体験	スクールカウンセラーとして活動しておられる方々とその任務のやり甲斐や楽しさ、話し合う。子どもたちの成長に貢献できるスクールカウンセラーの任務を、明らかにすることを目ざす。	滝口　俊子	滝口　俊子
14	幼稚園（保育所）でのカウンセリング	幼稚園・保育園において子育て支援の一環として行われているカウンセラーの活動を取り上げ、その役割とこれからの可能性について、スクールカウンセリングと比較しながら紹介する。	菅野　信夫（天理大学教授）	菅野　信夫（天理大学教授）
15	今後の課題と展望	平成７年度以来、スクールカウンセリング事業を推進してきた三団体（日本臨床心理士資格認定協会・日本臨床心理士会・日本心理臨床学会）スクールカウンセラー（学校臨床心理士）ワーキンググループ代表村山正治先生をゲストに迎えて、これまでの活動を振り返り、スクールカウンセリングの意義と課題について話し合う。	滝口　俊子	滝口　俊子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1521004	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 保育カウンセリング （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：滝口　俊子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：山口　義枝（放送大学准教授）〕

講義概要

昨今、幼児の心身の問題に親も保育者も戸惑うことが多く、保育場面へのカウンセラーの配置が求められています。すでに大阪府私立幼稚園のキンダーカウンセラー、日野市の保育カウンセラーなどが活動しています。本講座では、保育カウンセリングの基本的知識と活動の実際を紹介します。

授業の目標

カウンセリングを学ぶためには、さまざまな学習を必要としますが、本講座では保育カウンセリングの理解に必要な情報を提供します。職業として保育カウンセリングに従事したいと望む方は、大学院において心理臨床学の全貌を学ぶことが必要です。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	保育カウンセリングとは	保育の場におけるカウンセリング活動を理解し、関係者（保護者・保育者・保育カウンセラー）の連携について考える。 【キーワード】 保育カウンセリング　保育カンファレンス、子どもの成長　保護者の子育て支援　保育者への支援　関係者の連携　関係性	滝口　俊子（放送大学教授）	滝口　俊子（放送大学教授）
2	今日の幼児教育	篠原孝子氏（国立教育政策研究所教育課程研究センター教育開発部教育課程調査官・文部科学省初等教育局幼児教育課教科調査官）をゲストに迎え、幼児教育に関する最新の情報を知り、幼児教育についての理解を深める。 【キーワード】 我が国の幼児教育　幼稚園教育要領　認定子ども園	同上	同上
3	日野市の取り組み	東京都日野市の保育カウンセラー事業を推進された渡邊明子氏（日野市立第5幼稚園園長）のお話から、日野市の取り組みについて学ぶ。 【キーワード】 保育カウンセラー事業　保育カウンセリング	同上	同上
4	乳幼児期の発達、発育、身体疾患	保育カウンセリングに必要な乳幼児の発育や発達、よくみかける身体疾患、予防接種に関する、基本的な知識を習得する。 【キーワード】 発育　発達　よくみかける身体疾患　予防接種	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）	平竹　晋也（梅花女子大学准教授）
5	いわゆる「軽度発達障害」をめぐって	保育カウンセリングに必要な、アスペルガー症候群や学習障害などいわゆる「軽度発達障害」と呼ばれる一連の障害に関する知識を学ぶ。 【キーワード】 軽度発達障害　アスペルガー症候群　注意欠陥多動性障害　学習障害　高機能自閉症	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	幼児理解 1 （乳幼児観察）	乳幼児観察とは、子どものもつ原始的心性や感情についての理解を深める方法の一つである。乳幼児観察を通して、乳幼児のコミュニケーションの特徴を理解する。 【キーワード】 乳幼児観察　心理療法家としての訓練　非言語的交流　原始的心性	山口　義枝 （放送大学准教授）	山口　義枝 （放送大学准教授）
7	幼児理解 2 （幼児の遊戯療法）	遊戯療法とは、遊びを使って交流する心理療法の一種である。幼児の遊戯療法を理解し、心理的援助について考える。 【キーワード】 心理療法　発達の視点　遊びの治癒力	同上	同上
8	幼児理解 3 （保育の場における幼児）	保育の場における子どもを理解し、特別支援を必要とする子どもの対応についても学ぶ。 【キーワード】 保育場面　気になる行動　幼児理解	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）	坂上　頼子 （日野市保育カウンセラー）
9	保護者との関わり	東京都日野市では保護者への多様な子育て支援が行われているが、そのひとつである保育カウンセリングにおける保護者との関わりについて学ぶ。 【キーワード】 個別相談　子育て懇談会　講演会　送迎時の関わり	同上	同上
10	保護者会の持ち方	保護者同士がつながり、共に学べる場として、「参加してよかった」と楽しみにできるような、保護者会のあり方について考える。 【キーワード】 出会いのワーク　共に成長する場	同上	同上
11	外部機関との連携	保育カウンセラー事業における外部機関との連携に関する現状と、今後の課題について考える。 【キーワード】 連携　子育て支援　発達支援　社会的支援　ネットワークづくり	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	保育現場の責任者との協働	渡邊明子氏(日野市立第5幼稚園園長)のお話をもとに、保育者と保育カウンセラーとの連携について考える。 【キーワード】 保育とカウンセリング　保育者と保育カウンセラーとの協働	滝口　俊子 (放送大学教授)	滝口　俊子 (放送大学教授)
13	保育臨床フィールドワーク	長年にわたって、保育相談活動に携わってこられた大場幸夫氏(大妻女子大学学長・教授)のお話を通して、保育臨床フィールドワークについて理解する。 【キーワード】 保育臨床フィールドワーク　保育者支援、保育相談、巡回相談	同上	同上
14	外国の保育カウンセリング	カナダで子育て支援を学んでこられた三林真弓氏(京都文教大学准教授)のお話から、外国の保育カウンセリングについて学び、保育カウンセラーの研修についても考える。 【キーワード】 カナダの状況　外国の保育カウンセリング	同上	同上
15	保育カウンセリングの展望	これまで学んできた基本的な知識をもとに、最終回では、保育カウンセリングの理解を深め、保育カウンセリングのさらなる課題について考える。 【キーワード】 保育カウンセラーの資質　保育カウンセリングの発展に向けて	滝口　俊子 (放送大学教授) 山口　義枝 (放送大学准教授)	滝口　俊子 (放送大学教授) 山口　義枝 (放送大学准教授)

＝　発達障害児の心と行動（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：太田　昌孝（心の発達研究所理事長）〕

全体のねらい

発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は脳機能障害にあり、知的障害、言語と学習障害、自閉症、注意欠陥／多動性障害（ADHD）等がある。本講座では知的障害等の発達障害を持つ子どもの心と行動を理解するために、発達的観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎となることをねらった。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	発達障害とはなにか	発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は脳機能障害にある。知的障害および言語と学習障害は認知機能に、自閉症、ADHDは行動に基づいて診断される。発達障害の概念、診断、支援についての概論を述べる。	太田昌孝（心の発達研究所理事長）	太田昌孝（心の発達研究所理事長）
2	アセスメント１心と行動の理解	発達障害児の心と行動は、子ども側の要因と環境的要因の相互作用として現れる。子どもの認知発達段階と固有の不均衡さ、それに相応する情緒などの把握の仕方、さらに働きかけとの関連で如何に心と行動を客観的に理解するかについて述べる。	永井洋子（静岡県立大学名誉教授）	永井洋子（静岡県立大学名誉教授）
3	アセスメント２心理機能と発達アセスメント	発達アセスメントをおこなう上で，心理機能の測定は不可欠である。知能、言語などの心理機能について、代表的な測定方法について論じる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）
4	アセスメント３脳の機能と生理	脳機能は、入力系、情報処理系、出力系に区分される。人の脳機能を無侵襲で評価可能な方法が、近年、種々開発されてきた。脳波、MRIなどの人の脳機能計測について触れ、発達障害に関する所見との関連で論ずる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）
5	学習理論と発達支援	学習理論は、教育的働きかけの組み立てを考える上で、その枠組みを与えてくれる。学習理論は、行動主義的立場と認知論的立場に大きく分かれるが、障害の程度や内容を考慮した働きかけを行うためには、各理論の主張を理解することが求められる。	小池敏英（東京学芸大学教授）	小池敏英（東京学芸大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	発達障害の早期発見と対応	出生時のマススクリーニングは、知的障害（精神遅滞)の予防に貢献している。発達障害については本態的な医学的治療が可能でないことが多いが、早期発見と早期からの適切な親に対するガイダンスと子ども自身に対する発達援助の意義は大きい。	太田昌孝（心の発達研究所理事長)	太田昌孝（心の発達研究所理事長)
7	行動障害の理解と支援	自閉症、ADHDなどは、とりわけ多くの行動障害を持ちやすく、その対処に苦慮することが多い。子どもの認知や情緒の特徴を捉えた上で、人間的な成長を促す中での基本的な対処の考え方、さらに個々の行動障害への直接的な対処法などについて述べる。	永井洋子（静岡県立大学名誉教授)	永井洋子（静岡県立大学名誉教授)
8	知的障害の理解と支援　1	知的障害（精神遅滞)の定義，診断と分類，原因と病理について説明する。	太田昌孝（心の発達研究所理事長)	太田昌孝（心の発達研究所理事長)
9	知的障害の理解と支援2	知的障害の一つの臨床型であるダウン症候群について取り上げる。定義、医学的原因、分類、運動特性、言語特性、健康上の問題等についてまとめ、支援のあり方を考える。	奥住秀之（東京学芸大学准教授)	奥住秀之（東京学芸大学准教授)
10	重症心身障害児の理解と支援	重症心身障害児は、重度肢体不自由とともに重度知的障害を伴う。指導に際しては、視覚機能と聴覚機能の他覚的評価が大切である。また、働きかけに対する期待反応を理解し、さらに期待反応を促進する働きかけの中で、コミュニケーション活動を形成することが重要な課題となる。	小池敏英（東京学芸大学教授)	小池敏英（東京学芸大学教授)
11	自閉症の理解と支援	自閉症は、対人関係の障害、相互的意思伝達の障害、興味や活動範囲の狭さと常同性の３つで診断される。その背後にある特有な認知の歪みと発達段階の観点から、自閉症の状態像と療育目標や課題、留意点など、理解と対応の仕方について述べる。	永井洋子（静岡県立大学名誉教授)	永井洋子（静岡県立大学名誉教授)
12	注意欠陥/多動性障害(AD/HD)の理解と支援	AD/HD とは不注意と多動と衝動性の３組の行動症状からなる症候群である。AD/HD の特徴、検査と評価について述べ、それにもとづいた働きかけを学際的な観点も含めて述べる。	太田昌孝（心の発達研究所理事長)	太田昌孝（心の発達研究所理事長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	学習障害の理解と支援	学習障害児は、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特徴を持つ。また、言語性LD、非言語性LD、包括性LD、注意・記憶性LDなどの分類があげられる。ここでは，定義、特徴，教育的配慮などについて述べる。	奥住秀之（東京学芸大学准教授）	奥住秀之（東京学芸大学准教授）
14	医学的治療1 精神医学的状態と薬物療法	発達障害の薬物療法の目的は、①本態的治療の為の薬物、②情緒障害、異常行動の改善を目的にする薬物　③経過で出現しやすい精神医学的状態に対する薬物に分けられる。行動の障害にしばしば使われる向精神薬について主として解説する。	太田昌孝（心の発達研究所理事長）	太田昌孝（心の発達研究所理事長）
15	医学的治療2 てんかんと関連する状態	発達障害にはしばしばてんかんが合併する。てんかんとその治療・対処法についての正しい理解は、発達障害児の教育的支援上不可欠である。	小林繁一（静岡県立子ども病院）	小林繁一（静岡県立子ども病院）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1531603	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代経済学 （’０９）＝ （ＴＶ）

※この科目は「現代経済学（’０５）」を一部改訂した科目です。
なお、改訂回は1, 5, 6, 11回です。

〔主任講師（現職名）：賀川　昭夫（東京経済大学教授）〕

【担当専任教員：林　敏彦（放送大学教授）】

講義概要

私達の欲望に限りはないが、資源には限りがある。その限られた資源を様々な欲望を充足するために配分しなければならないが、私達は市場経済という経済体制を用いることで、それを無意識のうちに行っている。市場経済とは多くのお金を支払う人が多くを購入できるという経済システムであり、ミクロ経済学とマクロ経済学という2つの分析手法を用いて、市場経済の果たす資源配分について考えていく。

授業の目標

価格の働きを分析するので価格理論ともよばれているミクロ経済学では、経済を構成する消費者や企業はかぎられた制約の下で自己の目的を最大限実現するように行動する、と考える。これを合理的行動とよぶが、消費者や企業の合理的行動を理解する必要がある。他方、一国全体の経済の動きを分析するので国民所得理論ともよばれているマクロ経済学では、政府が採用する経済政策の背後にある経済学的裏付けを理解する必要がある。これら2点を理解するようにしてほしい。

履修上の留意点

(1)この科目を履修するときには、「経済学入門」をあらかじめ履修しておくことが望ましい。(2)この講義では理論を中心に講義していくので、抽象的な議論になる。そこで、講義を理解するためには印刷教材を丁寧に読むことが必要となろう。(3)マクロ経済学では経済政策の効果を分析するので、新聞やTVで経済ニュースを日常的にチェックするということをすすめる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	資源配分と市場経済（**※改訂回**）	どのような社会にも「誰がどの資源を使ってどのような生産手段で何をいくら生産し、誰が何をいくら消費するか」という問題がある。市場経済では、価格を媒介にした市場取引を通じてその問題を解決している。このような市場経済の基本的性質について説明する。 【キーワード】 資源の希少性、市場経済、価格メカニズム、合理的行動、完全競争、効率性と公平性	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
2	需要・供給・市場均衡	簡単な例を用いて、需要曲線と供給曲線を導出する。需給がバランスするとき、市場は均衡しているというが、そこでは社会的余剰が最大になっている。これらについて説明する。 【キーワード】 費用・便益分析、限界効用と限界費用、需要曲線と供給曲線、市場均衡、消費者余剰と生産者余剰	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
3	消費者の合理的行動	消費者は、限られた予算の範囲内で、効用を最大にするように財の購入量を決定する。これが消費者の合理的行動仮説であり、これからどのような結論が得られ、それらが現実の観察結果と整合的かどうかについて説明する。 【キーワード】 選好順序、無差別曲線、限界代替率、需要関数、需要法則、スルツキー分解、代替効果、所得効果	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	企業の合理的行動	企業は、保有する生産技術の下で、利潤を最大にするように生産計画を立てる。これが企業の合理的行動仮説である。この仮説の下では、企業の生産要素に対する需要と生産物に対する供給がどのように決まるのかについて説明する。 【キーワード】 生産関数、等利潤線、労働の限界生産力、供給関数、費用関数、生産要素への需要	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
5	競争市場の均衡と効率性 （※改訂回）	財・サービスについての需要と供給が出会う市場で、需給のバランスした状況を均衡とよぶ。競争経済における市場均衡では、資源が効率的に配分されていて、市場経済が効率的であることを説明する。 【キーワード】 市場均衡、ワルラスの法則、パレート最適（パレート効率）、エッジワース・ボックス、効率性と公平性	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
6	不完全競争市場 （※改訂回）	価格をコントロールする経済主体がいれば、市場は独占、寡占、独占的競争など不完全競争市場となる。そこでは、資源配分の効率性が実現しないことなどを説明する。 【キーワード】 独占、デッドウエート・ロス、反応曲線，クールノー均衡、非協力ゲーム、ナッシュ均衡	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
7	市場の失敗	市場経済で資源が効率的に配分されないとき、市場が失敗するという。外部性、公共財、情報の偏在などは、市場の失敗を引き起こすので、それらを是正するために、政府は何らかの政策をとる。これらについて説明する。 【キーワード】 外部効果、公共財、フリー・ライダー、平均費用の逓減	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
8	経済循環と国内総生産	国内総生産（GDP）や失業率は、一国全体の経済活動を集約して表す変数である。マクロ経済学は、これらがどのような水準に定まるのかを明らかにする分野であるが、まずはGDPという基本概念を説明する。 【キーワード】 産業連関表、GDP、最終生産物と中間生産物、国民所得の三面等価、名目と実質	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
9	GDP水準の決定 －乗数分析－	現代マクロ経済学の創始者であるケインズは、生産水準は需要の大きさから定まると考えた。この考え方の下ではGDPがどのような水準に定まるのか、そのとき失業が存在するのかどうか、などを説明する。 【キーワード】 非自発的失業、消費関数、貯蓄関数、乗数、均衡財政乗数	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）
10	投資関数	企業が将来の生産能力を拡大するためにを行う設備投資で、たとえば、ある機械を購入するかしないかを、どのように判断するのか、そしてまた一国全体の投資量がどのように定まるのか、を説明する。 【キーワード】 割引現在価値、投資の限界効率，投資関数、加速度原理	賀川 昭夫（東京経済大学教授）	賀川 昭夫（東京経済大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	貨幣への需要と供給（※改訂回）	貨幣とは何か、現金を保有していても、それから収益を得ることはないもかかわらず、人々が現金を保有しようとするのは何故かなど、貨幣に関する基本的なことについて説明する。 【キーワード】 貨幣、貨幣数量説、取引動機、予備的動機、投機的動機、流動性のワナ、日本銀行の役割、金融政策の手段	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
12	財政政策と金融政策－IS-LM分析－	財市場と貨幣市場の2市場が同時に均衡する状況を考える。財政政策や金融政策の結果、その均衡はどう変化するのか、それらの比較から政策の有効性を説明する。 【キーワード】 IS曲線，LM曲線、政策の有効性、リカードの中立性命題、クラウディング・アウト	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
13	インフレーションと失業　－総需要・総供給分析－	財市場、貨幣市場、労働市場の3市場を考え、物価水準がどのように決まるのかを考える。そして、どのような状況にあるときに失業が存在するのか、どのような状況の時にインフレーションが生じるのか、などについて説明する。 【キーワード】 総需要曲線，総供給曲線、政策の有効性、フィリップス曲線	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
14	開放経済のマクロ分析	外国との取引を考えた開放経済を考える。外国通貨との交換比率である為替レートはどのように決まるのか、あるいは、開放経済における財政政策と金融政策の有効性などについて、説明する。 【キーワード】 国際収支表、マンデル＝フレミング・モデル、外国為替レート、購買力平価説	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）
15	経済変動と経済成長	時間と共に経済は変化している。経済動学は、時間の経過につれて経済がどのように変化していくかを分析するものである。この章では、経済変動や経済成長の代表的な考え方について説明する。 【キーワード】 景気循環の種類、加速度原理、適正成長率と自然成長率、ソロー・モデル	賀川　昭夫（東京経済大学教授）	賀川　昭夫（東京経済大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530305	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 労働経済 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松繁　寿和（大阪大学教授）　〕

講義概要

この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実に起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。

授業の目標

第一に、労働経済の基礎理論を理解し、労働問題に接近するための経済学的考え方を身につける。第二に、現実の問題に関する理解を深める。第三に、政府やエコノミストが唱える政策がどのような理論・実証的背景を持っているのかを理解する能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	労働力	労働力に関する用語の定義と労働市場の状況を捉えるための指標を紹介する。また、これらの指標は、生活のどのような側面を反映しているかを考える。 【キーワード】 労働力、失業、非労働力化	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
2	賃金と労働供給	労働市場の分析は、労働供給の動きと労働需要の動きによって決定されるので、まず、労働供給がどのように決定されるかを説明する。なかでも重要な要因である賃金と労働供給の関係を考える。 【キーワード】 労働供給曲線、余暇、名目賃金、実質賃金	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
3	賃金以外の要因と労働供給	勤労所得以外の所得の存在が、労働供給に与える影響を考える。例えば、宝くじに当たったような場合、労働者の働き方がどのように変化をするかを理論的に考える。 【キーワード】 非勤労所得、セーフティーネット	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）
4	労働需要	企業が利潤をもとめて行動することにより、労働への需要がどのように導きだされるかを理論的に説明する。労働供給の議論と対比しながら、賃金と労働需要の関係を考える。 【キーワード】 生産関数、利潤最大化、労働需要曲線	松繁寿和（大阪大学・教授）	松繁寿和（大阪大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	労働時間	労働時間の決定に影響をおよぼす要因を、経済的要因と制度的要因の両方から探る。また、それぞれの要因によってどのようなことが労働市場で起きているのかを分析する。 【キーワード】 長時間労働、超過勤務手当、裁量労働	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
6	機械と労働	生産要素としての労働と資本、すなわち労働と機械設備との関係を取り上げる。最初に基礎的な理論を紹介し、その後、機械化がそれぞれの需要にどのような影響を与えるかを議論する。例えば、IT化がどのような労働者への需要を増加させているかなどを議論する。 【キーワード】 労働生産性、生産要素間の代替、資本と技能の補完	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
7	海外との競争	企業が世界規模での競争を余儀なくされていることに注目し、日本企業の海外移転がどのような影響を日本の労働市場に与えているかを検討する。また、たとえ企業が海外に移転しなくても、生産物の競争によって、間接的に海外の労働価格が国内の労働価格に影響をおよぼすことを説明する。 【キーワード】 海外移転、産業空洞化、コストダウン、	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
8	若者と労働	若者の就労意識の変化や不安定な就労の恒常化などの問題を、労働経済学の視点から供給面での変化と需要面での変化に分けて整理し、どのような要因によってそれらが生じているかを検討する。 【キーワード】 ニート、フリーター、就職活動	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
9	女性と労働 I	男女間に存在する経済格差に注目し、それがどのように生じるかを考える。また、最近増加している非正規雇用の問題を、特に女性就労の点から取り上げる。 【キーワード】 男女間格差、統計的差別、非正規化	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
10	女性と労働 II	まず、結婚出産で仕事を辞め家庭に入るという現象を紹介する。また、少子化がどのように進んできたのかを観察し、女性の労働力化との関係を探る。さらに、近年注目されている均等施策や両立支援策を紹介し、どのような効果が期待されているのかを議論する。 【キーワード】 M字カーブ、少子化、103万と130万円の壁	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
11	高齢者と労働	年功に経済合理的意味を与えた労働経済学の理論も紹介する。一方、そのような人事・処遇制度において生じる高齢者雇用の問題を取り上げる。 【キーワード】 年功、定年、年金	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	人事制度と労働意欲	まず、人事・処遇制度の中身を説明し、年功的賃金や昇進がどのように生じるかを説明する。また、労働意欲を向上させるための、報酬・処遇制度における工夫も紹介する。その後、成果主義と言われる人事制度がどのような改革であったのかを考える。また、そのような施策の有効性と限界を考える。 【キーワード】 労働意欲、報酬、成果	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
13	中小企業、開・廃業	まず、日本における賃金の規模間格差を観察する。さらに、開業率や廃業率の推移をみることで、経済の新陳代謝の問題を考える。 【キーワード】 中小企業、開業、廃業	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
14	コーポレートガバナンスと労働組合	企業経営におけるさまざまなステークホルダーの存在をみることで、企業は一体誰のものであるかを考える。また、従業員の利益を守ってきた組合を取り上げ、その変遷と現在抱えている問題を議論する。 【キーワード】 コーポレートガバナンス、ステークホルダー、組合	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)
15	格差とセーフティーネット	これまでに見てきた各テーマを格差の視点から捉え直すことで、どのような側面で格差が問題とされているのかを整理し直す。また、セーフティーネットが政策的にどのように変更されたか知り、その影響を検討する。 【キーワード】 ジニ係数、格差拡大、機会の不平等、セーフティーネット	松繁寿和(大阪大学・教授)	松繁寿和(大阪大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530208	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本経済史 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）　〕

講義概要

江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。

授業の目標

全15回の講義を通じて、江戸初期以降今日までの約400年において、日本の経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような節目があったのか、そして、今日我々はどのような到達点に立っているのかについて、理解できるようになることを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の経済発展の長期的概観ー世界との比較ー	まず最初に、世界経済の歩みのなかでの日本経済の位置を明らかにすることを目的として、西暦1年～2001年における世界各国の人口、実質GDP（国内総生産）、1人当たりGDPの動きを観察し、その対比において日本の経済発展を長期の視点から展望します。次いで、有史以来の日本の人口動向とその地域分布を検討し、日本経済の発展の様相と地帯構造の変化を明らかにします。 【キーワード】 世界経済2000年史、人口、実質GDP、1人当たりGDP、人口変動の4つの波、人口重心	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
2	江戸時代の経済と社会	歴史学上「近世」と呼ばれる江戸時代が、古代・中世と比べてどのような歴史的特質をもっていたかを解説します。次に、人口、耕地面積、石高、物価などの動きから、江戸時代の経済発展の過程を観察し、江戸時代は大きく3つの局面に分けられることを明らかにします。また、この経済発展の過程で、農村や都市でどのような変化が生じたのかを検討することにしましょう。 【キーワード】 近世、人口爆発、大開墾、貨幣経済、物価、経済成長、三都	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）
3	近世から近代へ一幕末開港と明治維新	ペリー来航を契機に日本は開国し、開放経済体制へ移行しました。開港によりマクロ経済、ミクロ経済にどのようなことが生じたのか、それはその後の日本経済の進路にどのような影響を与えることになったのかを解説し、あわせて明治維新期の諸変革について論じます。 【キーワード】 日米修好通商条約、開港、「価格革命」、貿易と諸産業への影響、廃藩置県、秩禄処分、地租改正、藩債整理、金融制度改革、殖産興業政策	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）	宮本　又郎（関西学院大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近代経済成長	まず、「近代経済成長」(Modern Economic Growth、略してMEG)の概念と、日本のMEGの特徴について解説します。次いで、19世紀末以降今日にいたる日本の経済成長の過程と景気変動の様子を実質国内総生産(GDP)の成長率を観察して概観し、その後、第1次世界大戦前の時代に焦点を絞って、近代経済成長の要因を、国民総支出(GNE)の項目別寄与率、産業別寄与率、貿易の役割の点から検討します。 【キーワード】 近代経済成長(Modern Economic Growth)、相対的後進性の有利性、景気変動、経済成長の要因分析、貿易の役割	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)
5	近代化の進展と伝統的要素	江戸時代以来の伝統的要素が近現代の日本経済にいかに継承され、変容していったのかを考察します。それは衣食住などの個人消費や、企業経営のあり方などに大きな影響をもたらし、日本の経済発展に個性を加えました。 【キーワード】 工業化、在来産業、近代産業、農村工業、織物業、醸造業、工芸品的工業	阿部 武司(大阪大学大学院教授)	阿部 武司(大阪大学大学院教授)
6	産業革命	1880年代後半に始まる「企業勃興」以降、日本経済は資本主義的な企業が主導する経済発展を始めます。躍動的な資本主義経済を支えたのは資本市場、金融市場、労働市場といった市場制度と、効率的な生産組織でした。それらの形成と相互関係を検討します。 【キーワード】 製糸業, 紡績業, 鉄道業, 制度の効率性, 組織の効率性, 誘因の制御	中林 真幸(東京大学大学院准教授)	中林 真幸(東京大学大学院准教授)
7	戦間期における長期不況とその克服	第1次大戦期から戦間期の日本の経済発展をマクロ的側面から解明します。大戦中・後のバブル、その崩壊と長期不況、そこからの回復という景気動向、それと深く関わる政府の経済政策、長期不況下で顕在化した二重構造などが主なトピックです。 【キーワード】 第1次大戦、長期不況、関東大震災、金融恐慌、昭和恐慌、金解禁、井上準之助、高橋是清、二重構造	阿部 武司(大阪大学大学院教授)	阿部 武司(大阪大学大学院教授)
8	戦間期の産業と企業	第1次大戦期から戦間期のミクロ経済の動向を考察します。まずこの時代の重化学工業化の状況を解説し、次いで大企業体制とはどのようなものだったのか、財閥はどのような行動をとったのかを検討し、最後に電鉄・デパート・新消費財などの都市型ビジネスの台頭について論じます。 【キーワード】 重化学工業化、大企業体制、財閥の多角化、新興コンツェルン、都市型ビジネス、小林一三	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)
9	工業化の担い手―企業組織と企業家	まず会社制度、とくに株式会社制度が江戸時代から明治時代において、どのようにして生まれ、展開したかを明らかにします。次いで、明治期の株式会社の特質、企業統治のあり方を検討し、最後に、財閥と株式制度との関係について論じます。 【キーワード】 共同企業、株式会社、合資会社、合名会社、三井大元方、総有、所有と経営の分離、有限責任制、商法、専門経営者	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	戦前日本の技術発展	明治期から昭和戦前期にいたる技術と労働のあり方について、技術導入と自主開発の関係、技術教育の展開、技術者の技能形成、間接的管理から直接的管理への移行、労働運動の展開と協調的労使関係の形成などを中心に検討します。 【キーワード】 高等工業学校、研究開発、試験研究機関、間接的管理、直接的管理	沢井 実(大阪大学大学院教授)	沢井 実(大阪大学大学院教授)
11	戦時統制経済と戦後改革	日中戦争期から高度成長前夜までの経済統制の時代＝「動員」と「復員」および市場経済への復帰の時代を対象にして、日本経済と日本企業はいかに変貌したのか、その際にアメリカ主導で遂行された戦後改革がどのような影響を与えたのかを考察します。 【キーワード】 戦時統制経済、戦後経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮戦争ブーム、産業合理化政策	沢井 実(大阪大学大学院教授)	沢井 実(大阪大学大学院教授)
12	高度経済成長	1950年代なかごろから70年代初頭にかけて、日本は世界に類例をみない高度経済成長を達成しました。本章では、まず高度成長の過程とその間におきた景気循環を年代記的に振り返ります。ついで、高度経済成長の要因を需要サイドと供給サイドの両面から検討します。最後に、高度成長の帰結について考察することにしましょう。 【キーワード】 神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気、投資主導型成長、大衆消費社会、三種の神器、技術革新、エネルギー革命、成長のひずみ	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)
13	バブルから構造改革へ	産業政策に基づいて政府が資金配分の調整を行う間接金融体制は高度成長の終焉とともにその歴史的使命を終えました。1980年代に始まる金融自由化からバブルの崩壊、さらに橋本龍太郎政権下の金融制度改革を経て完結しつつある金融制度の変化を検討します。 【キーワード】 産業政策，橋本龍太郎内閣，金融制度改革，日本版ビッグバン	中林 真幸(東京大学大学院准教授)	中林 真幸(東京大学大学院准教授)
14	技術革新と労働の変化	国公立試験研究機関、大学、民間企業によって構成される研究開発体制の変化、科学技術政策の展開と通産省・科学技術庁の役割、技術導入から自主開発への動き、戦後労働運動の変遷、技術革新と労働内容の変化などについて論じます。 【キーワード】 科学技術政策、工業技術院、科学技術庁、技術導入、職務給、職能給	沢井 実(大阪大学大学院教授)	沢井 実(大阪大学大学院教授)
15	日本型経済システムのゆくえ	1970年代初めに終焉を迎えた高度経済成長以後、21世紀にいたるまでの日本経済の動向を解説します。高度成長は終わったといえども、80年代までは日本経済のパフォーマンスは国際比較上もすぐれたもので、日本型企業システムが全面開花したこと、しかし、それ以降90年代には長期の不況が続き、日本経済が構造的危機に直面したことを明らかにします。最後に、今日の日本経済が直面している問題は何かについて検討してみましょう。 【キーワード】 安定成長、ニクソン・ショック、オイル・ショック、日本型企業システム、トヨタ生産システム、バブル経済	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)	宮本 又郎(関西学院大学大学院教授)

＝　財政学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　井堀　利宏（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

本科目では財政学を初めて学ぶ人を対象として、財政学の基礎的な概念を説明する。また、単なる財政学の講義にとどまらず、今後の財政構造改革、税制改革上の重要な諸問題について、少子化対策、官と民の役割分担、民営化や地方分権、社会保障制度改革のあり方など、幅広い視点からわが国の現状をふまえながら政策的な議論することで、日本財政の基本的な解説も試みる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	財政学とは何か	財政学ではどのような内容の講義をするのか、実例を取り上げながら、これからの講義の構成を説明する。	井堀　利宏（東京大学大学院教授）	井堀　利宏（東京大学大学院教授）
2	予算の制度	財政制度の中心的な役割をもっている予算について、日本の制度を念頭に置きながら説明する。また、予算ができるプロセスについてもふれる。	同　上	同　上
3	政府支出の現状	政府の経済活動の役割を、支出面から説明する。財政の果たすべき機能を取り上げるとともに、日本の政府支出の概要を説明する。	同　上	同　上
4	財政運営のマクロ理論	財政運営のマクロ理論の考え方を、マクロ経済の安定化政策を中心として説明する。また、政府支出が経済成長の与える効果についてもふれる。	同　上	同　上
5	公共財の理論	市場では必ずしも適切に供給されない公共サービスである公共財の理論を説明するとともに、市場経済における政府の役割をまとめる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	民営化と財政	民営化がどのような経済的意味を持つのかについて、市場と政府を比較しながら、検討する。民営化が財政に与える影響も考える。	井堀　利宏	井堀　利宏
7	所得税	わが国の所得税の仕組みを説明するとともに、労働所得税、利子所得税の経済的な効果や、そのあるべき姿を検討する。	同　上	同　上
8	法人税	わが国における法人税の現状を説明するとともに、その経済的な効果を検討する。また、企業課税の役割にいても取り上げる。	同　上	同　上
9	消費税	個別消費税の負担と転嫁を説明するとともに、一般的な消費税の経済的な効果を検討する。	同　上	同　上
10	税制改革	わが国の税制改革の流れを説明するとともに、消費税と所得税の相対的なメリットとデメリットを比較検討する。	同　上	同　上
11	公債発行とその負担	公債発行がマクロ経済にどのような影響を与えるかを説明する。また、公債発行と世代間の負担の関係についてもふれる。	同　上	同　上
12	財政赤字と財政破綻	わが国における財政赤字の動向を説明するとともに、財政破綻を招かない財政運営のあり方を考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	社会保障	財政支出に占める社会保障の比重は大きい。日本の公的年金の概要を説明するとともに、高齢化社会での社会保障の問題点にふれる	井堀　利宏	井堀　利宏
14	地方財政	日本の地方財政制度の概要を説明する。地方交付税の役割や地方税の構成などもふれる。また、地方分権のあり方も取り上げる。	同　上	同　上
15	財政の課題と展望	２１世紀を展望したときの日本の財政問題を説明する。公共部門の規模と役割、公債発行の大きさ、社会資本整備のあり方、国際化、高齢化社会の財政問題などを論ずる。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530402	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ ジェンダーの社会学 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：伊藤　公雄（京都大学大学院教授）〕

講義概要

まず、生物学的な視点や歴史の展開、文化論などとの関連のなかで、ジェンダーという視点について整理します。続いて、性差別、性暴力、労働、家族、教育といった現代社会をめぐる諸問題を、ジェンダーという視点から考察していきます。最後に、国際社会の動きを見据えつつ、ジェンダーの視座からの21世紀前半の日本社会のゆくえについて考えていきたいと思います。

キーワード:ジェンダー、性差別、男女共同参画

授業の目標

ジェンダー問題は、身近な課題であるとともに、現代社会を生きる上で不可欠な諸問題と深くかかわりをもっています。授業を通じて、ジェンダーという視点を身につけていただくことで、現代社会のかかえている諸課題に対して、自分なりの観点からの問題点の発見とその解決策を見出していただきたいと思います。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ジェンダーと社会学の視点	まず、ジェンダー概念の登場およびこの概念が生み出した学問上の影響力について解説を行ないます。続いて、社会学におけるジェンダー研究の位置について説明を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
2	生物学的性差とジェンダー	ジェンダーの視点を生物学的性差との関連で位置づけます。なぜオス、メスがあるのかといった議論や性の多様性についてふれた上で、社会的に構築されたものであるジェンダー視点の意義について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
3	文化のなかのジェンダー	社会的な構築物であるジェンダーは、文化の違いによって変化をみせます。男が「文化」で女は「自然」といった議論も出されています。文化とジェンダーのかかわりについて考察を加えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
4	歴史のなかのジェンダー	ジェンダーは、歴史的変化にともなって、その様相を変化させます。前近代の日本社会のジェンダー構造や、近代社会が生み出したジェンダーの変容について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
5	性差別とジェンダー	現代社会において、性による差別は重要な人権問題です。ジェンダーと人権という課題を、フェミニズムの登場や性差別問題の議論を通じて考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
6	性暴力とジェンダー	ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなど主に女性に対する暴力の問題がクローズアップされたのは、ごく最近のことです。こうした性暴力の問題をジェンダーの観点から解剖します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	「女らしさ」という課題	「女らしさ」というジェンダーの縛りについて、その形成のされ方や、それがかかえてきた諸課題、さらに女性のエンパワーメントについて考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
8	「男らしさ」のゆくえ	現代社会におけるジェンダーのゆらぎのなかで、男性たちもまたさまざまな問題と直面しています。男性性の危機や男性学、さらに男性運動などにもふれるつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
9	労働とジェンダー	労働における男女間格差の問題や、男性の長時間労働の問題などを分析しながら、男女ともに社会参画と家庭参画が可能なワークライフバランス社会について問題提起したいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
10	家族のなかのジェンダー	家族というテーマにジェンダーの視点から光を当てます。多様な家族の形態や近代家族の成り立ち、さらに、少子高齢社会の中出の家族の変化について考察します。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
11	教育とジェンダー	学校教育や社会教育におけるジェンダー問題について考えます。隠れたカリキュラムの問題や女性研究者のかかえている課題などについても言及するつもりです。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
12	スポーツとジェンダー	基本的に男性主導で発展してきた近代スポーツが、今、大きく変わろうとしています。スポーツという身体文化とのかかわりのなかでジェンダー問題について分析していきます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
13	セクシュアリティとジェンダー	性的マイノリティの問題もまた、現代社会の重要な人権問題です。多様な性という視点をふまえて、セクシュアリティの問題を考えていきたいと思います。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
14	国際社会とジェンダー	1970年代以後、国際的に大きく広がったジェンダー平等の動きについて考えます。戦争と平和の問題、発展と平等の課題など、現代世界の大きな変化について考えます。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）
15	ジェンダー政策のゆくえ	戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動きもふまえつつ、日本社会におけるジェンダー政策の可能性を探ります。	伊藤公雄（京都大学大学院教授）	伊藤公雄（京都大学大学院教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530500	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会階層と不平等 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原　純輔（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　嘉倫（東北大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：大渕　憲一（東北大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、社会階層と不平等を実証的に研究することを目的としています。まず社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を概観した上で、(1)日本社会の階層と不平等、(2)アジア社会の階層と不平等、(3)エスニシティやジェンダーと階層・不平等との関係、(4)公正な社会のあり方に関する考察、という大きく4つのトピックを議論します。

授業の目標

社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を理解したうえで、階層と不平等の問題を歴史的にまた国際的に理解・把握できるようにします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会的不平等と人間・社会	現代日本社会および現代世界における不平等の状況を概観するとともに、「不平等」というものが人間と社会にとってどのような意味をもっているのかを検討します。また、不平等の研究が追求すべきことがらについても検討を加えます。 【キーワード】 貧困、基礎的平等化、新しい不平等	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
2	社会階層・不平等研究の歴史	不平等を社会の仕組と結びつけるための概念が「社会階層」です。具体的にどのように概念化されてきたのかを、思想史・研究史の中からさぐります。また、とくに第二次世界大戦後に社会科学としての研究がどのように進められてきたのかを理解します。 【キーワード】 身分、階級、階層、社会的分裂、社会移動	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
3	結果の不平等	不平等には結果の不平等と機会の不平等があります。この回では、前者に焦点を当て、特に所得と資産の不平等について現状とその要因を検討します。 【キーワード】 所得格差、資産格差、ジニ係数	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
4	機会の不平等	社会階層研究では、機会の不平等は主に世代間移動（親から子供への階層移動）の閉鎖性によって測定されます。測定に用いる指標を説明するとともに、現実の機会の不平等について考察します。 【キーワード】 社会の閉鎖性・開放性、オッズ比	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	不平等の国際比較	階層研究の主要研究テーマの一つが国際比較です。現代日本の結果の不平等や機会の不平等を見るだけでは、それらが世界の中でどの程度の不平等を示しているのか分かりません。このため、社会階層研究では国際比較が盛んです。この回では、国際比較の方法と問題点を検討します。 【キーワード】 国際比較の方法、国際比較の問題点	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
6	日本近世の身分・階層・ジェンダー	日本の近世（江戸時代）における身分制の仕組み、身分格差や経済格差にもとづく社会階層のあり方、およびジェンダー構造について述べ、この時代の社会の特質に迫ります。 【キーワード】 日本近世、身分、階層、ジェンダー	大藤　修（東北大学教授）	大藤　修（東北大学教授）
7	教育と階層・不平等	学校教育制度は機会の平等を達成するための近代における最大の社会的装置です。わが国における学校制度がどのようにその役割を果たしてきて現在に至っているのかを、歴史的資料とさまざまの調査データから検討します。 【キーワード】 近代化、大衆教育社会、学歴社会論	原　純輔（東北大学教授）	原　純輔（東北大学教授）
8	韓国社会の両極化と中間層	1997年の経済危機以降、韓国では社会階層の両極化が進行していると言われています。またもともと高かった雇用の流動性も高まっています。中間層に焦点を当てながら、韓国社会の階層と不平等を考察します。 【キーワード】 中間層、流動性	佐藤　嘉倫（東北大学教授）	佐藤　嘉倫（東北大学教授）
9	台湾の新しい不平等	90年代以降、グローバル化が急速に進むにつれて、台湾企業の国際化と海外進出、外国人労働者や外国籍花嫁の流入により、台湾社会の民族構成や階層構造も大きく変化し、新しい経済的・文化的不平等が生まれている様子を概観します。 【キーワード】 グローバル化、外国人労働者、国際結婚	沼崎　一郎（東北大学教授）	沼崎　一郎（東北大学教授）
10	現代中国の階層と不平等	社会主義体制を維持しながら急速に市場経済化している現代中国の階層と不平等の特徴について考えます。その際、他の東アジアでも見られる特徴と、中国でのみ見られる特徴を、国際比較の視点から見てみます。 【キーワード】 現代中国、社会主義、市場経済化	園田　茂人（早稲田大学教授）	園田　茂人（早稲田大学教授）
11	アジアメガシティ・ジャカルタの階層構造と不平等	ジャカルタをフィールドにして、アジア・メガシティが抱えている階層格差と不平等の問題を明らかにします。特に、スラムとかゲーテッドコミュニティのような空間形態のもつ社会的意味をさぐる中で問題の所在を明らかにします。 【キーワード】 アジア・メガシティ、スラム、ゲーテッドコミュニティ	吉原　直樹（東北大学教授）	吉原　直樹（東北大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	キャリア・ジェンダーと不平等	キャリアとジェンダーにかかわる日本人の行動と態度の近年の大きな変化と多様な問題について、社会制度、法制度、企業などと個人のマクローミクロの相互的な関係を検討しながら、国際比較のデータを交えて社会学的・社会心理学的に概観します。 【キーワード】 キャリア、 ジェンダー、 ワーク・ライフ・バランス	鈴木 淳子（東北大学教授）	鈴木 淳子（東北大学教授）
13	エスニシティと階層・不平等	日本における階層研究では、エスニシティの問題はほとんど扱われてきませんでした。しかしエスニシティは不平等を生み出す一つの要因です。この回では移民に焦点を当てながら、階層とエスニシティの問題を考察します。 【キーワード】 エスニック関係、移民	佐藤 嘉倫（東北大学教授）	佐藤 嘉倫（東北大学教授）
14	不平等と公正	不平等が常に不公正とされるわけではありません。どのような不平等を不公正とするか、人々の公正判断の仕組みを3種類の分配基準（衡平、平等、必要性）に基づいて論じます。また、基準の選択が社会理念を反映することや日本人の公正観についても考察します。 【キーワード】 公正判断、分配的公正、手続き的公正	大渕 憲一（東北大学教授）	大渕 憲一（東北大学教授）
15	公正な社会をめざして	公正な社会は個人間・集団間の差異と不平等をどのように包摂するべきでしょうか。階層、ジェンダー、エスニシティに関して蓄積されてきた社会科学的理論と知見を元に、この課題に対する提言を試みます。 【キーワード】 公正、階層、ジェンダー、エスニシティ	大渕 憲一（東北大学教授）	大渕 憲一（東北大学教授）

＝　現代コミュニティ論（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：船津　　衛（放送大学教授）　　〕
〔主任講師（現職名）：浅川　達人（明治学院大学教授）〕

全体のねらい

都市化、少子・高齢化、グローバル化、情報化などの大きな社会変動の中で、現代のコミュニティは日々変容を遂げている。その変容の内実を明らかにし、２１世紀のあるべきコミュニティのイメージを明示化し、新しいコミュニティ論の構築を目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	コミュニティとは	コミュニティの概念について、マッキーバーやパークなど、これまでの研究者の見解を検討しながら、「地域性」と「共同性」というコミュニティの特性について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授） 浅川達人（明治学院大学教授）
2	コミュニティの変容	1960年代に、日本社会が土着社会から流動社会に変化することによって、「コミュニティ」がどのように変容したのかを明らかにし、その上で、「コミュニティ」の再生のあり方について検討する。	同上	船津　衛（放送大学教授）
3	２１世紀のコミュニティ	少子・高齢化、グローバル化、情報化など、社会が変化・変容する中で、コミュニティは今後どうあるべきかを検討し、２１世紀のコミュニティのあり方について考察する。	同上	同上
4	大都市コミュニティの社会構造(1)	現代社会が経験している社会変動の多くは、手で触ることも直接目で見ることもできない。しかしながら、それらが社会構造に及ぼした影響は空間構造に刻み込まれている。それらを可視化する道具として東京圏の社会地図を用い、社会と空間の変容を読み解くことを試みる。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
5	大都市コミュニティの社会構造(2)	東京圏の社会地図を用い、職業階層・産業動態などの空間分布を描き出し、コミュニティの社会構造とその変容を明らかにする。その上で、構造変容が大都市コミュニティにどのような影響を及ぼしているのかを、比較都市研究という観点もあわせて検討する。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	コミュニティの社会関係(1)	社会構造および空間構造の変容は都市社会で暮らす人々の人間関係にどのような影響を及ぼしているのであろうか。都会人の人間関係に関する3つの仮説を検討した上で、東京のローカル・コミュニティで展開されてきた社会関係について紹介する。	同上	同上
7	コミュニティの社会関係(2)	地方中小都市においては中心市街地の衰退が大きな社会問題となっている。そのような現在、コミュニティの再生を目指すまちづくりが緊急の課題となっている。地方中小都市におけるコミュニティの社会関係を、このまちづくりという事例を通して考察する。	同上	同上
8	都市的相互作用	都市的相互作用について、親密でパーソナルな関係、買物客と店員との相互作用、そして、「ストレンジャー・インターアクション」について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
9	住民組織	コミュニティ活動の担い手である住民組織の代表は町内会・自治会である。ここでは、町内会についての先行研究を整理するとともに、東京下町の町内会活動について紹介する。また、イタリアの都市（シエナ）の住民組織を取り上げ、町内会との差異について検討する。	浅川　達人（明治学院大学教授）	浅川　達人（明治学院大学教授）
10	コミュニティ・イメージ	コミュニティ・イメージがどのように作られ、また変化しているのかを具体的に明らかにし、それがコミュニティづくりに果たす役割について考察する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
11	コミュニティ意識	コミュニティに住む人々のコミュニティ意識について問題とし、それを認識レベル、感情レベル、行為レベル、アイデンティティ・レベルにおいて把握する必要があることを明らかにする。	同上	同上
12	コミュニティ文化	コミュニティにおける文化のあり方を考察し、現在の「コミュニティ文化」の問題点と今後のあり方について検討する。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	コミュニティ・メディア	コミュニティ・メディアとして、CATVとコミュニティFM放送を主として取り上げ、その現実と問題点を明らかにする。	同上	同上
14	コミュニティ・コミュニケーション	コミュニティにおける日常的なコミュニケーションがどのようになされているのかについて考察するとともに、災害時におけるコミュニケーション過程の問題を明らかにする。	同上	同上
15	情報コミュニティ	情報化の進展に伴ない、新たに生み出されてきている「情報コミュニティ」のあり方について考察し、その意義と問題点を明らかにする。	同上	同上

＝　自我の社会学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　船津　衛（放送大学教授）〕

全体のねらい

現代人の自我について社会学的に考察する。人間の自我が孤立的ではなく、他者とのかかわりにおいて社会的に形成されることを「鏡に映った自我」、「役割取得」、「一般化された他者」などの概念を用いて明らかにし、「役割コンフリクト」、「役割距離」、「役割形成」などの現象を通じて現代人の自我の変容の様相について具体的に問題としていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「自我の社会学」とは	現代の若者において「自分が何であるのかわからない」という「アイデンティティの喪失」を訴える人が少なくない。このような自我のあり方について、従来のイメージである孤立的な「近代的自我」では十分に捉えられなくなってきている。自我は他者とのかかわりにおいて社会的に形成され、展開していくことを明らかにすることが「自我の社会学」である。	船津　衛（放送大学教授）	船津　衛（放送大学教授）
2	鏡に映った自我	アメリカの社会学者であるC・H・クーリーによると、人間の自我は他者を鏡として、鏡としての他者を通じて知ることができる。自我は「鏡に映った自我」として、①他の人がどのように認識しているかについての想像、②他の人がどのように評価しているかについての想像、③それらに対して自分がもつ感情から成り立っている。	同　上	同　上
3	自我の社会性	日本人の自我のあり方について、「柔らかい個人主義」（山崎正和）、「人と人との間」（木村　敏）、「間人主義」（浜口恵俊）などの概念によって特徴づけがなされてきている。いずれも、自我が他者の存在を前提として、自他の関係において自我を捉えているといえる。つまり、そこでは自我の社会性が強調されている。	同　上	同　上
4	親密な他者、疎遠な他者	自我にかかわる他者には親密な他者だけではなく、疎遠な他者も存在している。M・ブーバーによれば、他者には「汝」と「ソレ」が存在し、自他の関係は「ワレと汝」関係と「ワレとソレ」関係からなっている。したがって、自我は「ワレ―汝」的ワレと「ワレ―ソレ」的ワレの２つが存在することになる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	一般化された他者	アメリカの哲学者であり、社会心理学者であるG・H・ミードは自我の孤立説を否定して、自我の社会説を主張した。そして、人間の自我は他者の「役割取得」を通じて社会的に形成されることを明らかにした。とりわけ、子どもの自我は「プレイ」と「ゲーム」の段階を経て形成され、「ゲーム」段階において、複数の他者の期待が組織化された「一般化された他者」とのかかわりにおいて自我が最もよく発達することを主張している。	船津　衛	船津　衛
6	ホモ・ソシオロジクス	ドイツの社会学者R・ダーレンドルフによると、現代社会学の人間のイメージは「ホモ・ソシオロジクス」である。それは社会の期待に外から拘束されて、自己の行為を受け身的に行う人間を指している。しかし、それはあまりにも社会化過剰の人間観である。人間は社会的存在ではあるが、完全に社会化されてしまった存在ではないといえる。	同　上	同　上
7	役割コンフリクト	相異なる複数の、両立不可能な期待に直面して悩み、苦しむことを「役割コンフリクト」という。「役割コンフリクト」には役割内コンフリクト、役割間コンフリクト、パーソン・ロール・コンフリクトとの3つのタイプが存在する。このような「役割コンフリクト」の解決法として、①主要役割の選択、②役割調整、③役割コンパートメント化などが存在している。	同　上	同　上
8	ラベルされる自我	ひとが「犯罪者」や「逸脱者」などとレッテルを貼られることを「ラベリング」という。もともとは犯罪に関する事柄であったが、他者や社会によるレッテルによって人々の自我が大きく左右されることを表している。「ツッパリ」、「落ちこぼれ」、「優等生」などのマイナスやプラスのレッテルが自我に影響を与えている。	同　上	同　上
9	自己表現	自己表現は自分の意見、気持、また職業や地位を表現し、そのメディアとして言葉、身振り、手振り、顔の表情などがある。そして、自己表現は一定の表現形式に従う必要がある。また、こんにち、表現様式の学習や新しい表現形式の形成が必要とされてきている。	同　上	同　上
10	外見による表現	身振り、顔の表情、髪型、装飾品、携帯品など、言葉以外の外見は他者の視覚に訴えて、自己を意識的に表現することを可能とする。外見は言葉では十分表現できないときや言葉では不適切の場合に多く用いられ、言葉以上のものを表現し、言葉に代わる自己表現メディアとなりつつある。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	印象操作	アメリカの社会学者 E・ゴフマンによると、人間の行為は演技である。人間の行為は他の人間を意識してなされ、また、他の人間によい印象を与えるように行われる。印象操作には他者に対してよい印象を与える積極的・攻撃的タイプと悪い印象を回避する消極的・防衛的タイプとが存在する。	船津 衛	船津 衛
12	役割距離	人間は他者の期待に完全に同調し、それに全面的に従うわけではない。他者の期待から少しずれた形で行為することを役割距離という。そこに本当の自分を示そうとする気持が示される。役割距離行動は人間が他者の期待から相対的に自由であり、受け身的、消極的ではなく積極的、主体的存在であることを表している。	同 上	同 上
13	役割形成	従来、「全能のマスコミ、無力の大衆」といわれたように、人々は受け身的存在として考えられてきた。しかし、こんにち、マスコミに対して積極的にかかわり、情報を発信する積極的な送り手・作り手となっている。このように、既存の役割期待の枠を越えて新たに人間行為が展開することを「役割形成」(R・H・ターナー)という。	同 上	同 上
14	自我のコンストラクション	人間の自我は社会的に構築される。とりわけ言語的に構築される。そう主張するのが「構築主義」である。そして、自我は物語論的に捉え、自我の変容や再構成を行うのが「ナラティブ・セラピー」である。いずれも自我がコンストラクトされることを問題としている。その際、受け身的ではなく、自我の積極的コンストラクションを考えていく必要がある。	同 上	同 上
15	自我の社会学の課題	自我は社会的に形成され、同時に人間は主体的に行為を形成する。ミードは自我が「客我」と「主我」からなると考えた。「客我」は他者の期待をそのまま取り入れた自我の側面を表し、「主我」はそれに対する反応であるとした。この「主我」の解釈として、本能・能動説、残余説、行動的反応説、そして創発的内省説などが存在している。	同 上	同 上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1532405	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の犯罪と刑罰 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大越　義久（東京大学大学院教授）〕

【担当専任教員：原島　良成（放送大学准教授）】

講義概要

本講義は、犯罪と刑罰の現実の姿を、【犯罪→捜査→起訴→裁判→判決→刑務所→出所】とう一連のプロセスの下で明らかにした上で、我が国の刑事司法が抱える問題点を指摘し、それらに検討を加えようとするものである。多くの人が平成21年5月までに導入される裁判員制度に大きな不安を抱いていると新聞報道されているが、本講義がその不安を払拭するための一助になれば幸いである。

授業の目標

全15回の講義を通じて、我が国の刑事司法システムがどのようなものであり、どのように運用されているのか、を理解することを目標とする。我が国の刑事司法の問題点を批判的に検討できるようになることを最終の目標とする。

履修上の留意点

法律の条文は六法全書で確認し、可能であれば、検討の対象となっている判決に、判例集・判例時報・判例タイムズなどを紐解いて、直接あたってみることが、望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ガイダンス	犯罪の法的定義とその意義、罪刑法定主義の柱の一つである法律主義をめぐる問題、刑罰の定義と種類、刑事裁判はどのように進行するのか、という点について説明・検討する。 【キーワード】 罪刑法定主義、構成要件、刑事判決の確定、起訴前手続、公判手続	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
2	犯罪と刑罰の現状	捜査段階での処理件数・人員、地方裁判所の処理件数・人員、上級審での処理件数・人員、裁判確定人員を通じて、我が国の刑事司法システムにおける犯罪と刑罰の現実を確認する。 【キーワード】 認知件数、検挙件数、発生率、処理人員	同上	同上
3	刑事手続の基礎	捜査の柱である「証拠の収集」と「犯人の身柄確保」を説明し、私的な「当番弁護士」と公的な「起訴前国選弁護」、「起訴」、平成17年11月から施行されている「公判前・期日間整理手続」、平成18年10月から施行されている「即決裁判手続」について説明・検討する。 【キーワード】 令状主義、職務質問、強制捜査、逮捕、勾留、起訴便宜主義、検察審査会	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	事実の認定	刑事裁判での事実認定をめぐる主要な問題は、「証拠能力」、「自白の補強法則」、「事実の縮認定」でにある。これらについて、判例分析をしたりして、説明・検討を加える。 【キーワード】 自白の任意性、違法収集証拠、自由心証主義	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
5	刑法の解釈①	食器放尿事件、事務所ビラ貼り事件、ガソリンカー転覆事件、都教組事件、福岡県青少年保護育成条例違反事件の検討を通して、「拡張解釈」、「縮小解釈」について検討する。 【キーワード】 文言解釈、論理解釈、合意限定解釈	同上	同上
6	刑法の解釈②	公文書写真コピー事件、電気窃盗事件、車庫とばし事件、テレホンカード事件、熊本水俣病事件、梅田事件の検討を通して、「類推解釈」、「違法阻却事由についての解釈の歪み」、について検討する。 【キーワード】 類推解釈のいろいろ	同上	同上
7	刑法の解釈③	「窃盗罪」と「過失犯」の成立要件について、検討を加える。地方裁判所での処理件数で第1位を占めるのが窃盗罪であり、第2位につけるのが業務上過失致死傷罪であるからである。 【キーワード】 占有、旧過失論、新過失論、予見可能性、信頼の原則	同上	同上
8	死刑①	律令時代から現代にいたるまでの我が国における「死刑の歴史」と、現行法の死刑犯罪、死刑執行の手続、死刑の運用、死刑囚の実態など「死刑の現在」を説明する。 【キーワード】 死刑違憲論、死刑合憲論、死刑犯罪、死刑囚と無期囚	同上	同上
9	死刑②	死刑存置論の根拠、死刑廃止論の根拠、死刑を刑罰とすることの意味、「死刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は残虐な刑罰か」、「絞首刑は法定の手続か」、「死刑選択の基準は何か」を論じた最高裁判例に検討を加える。 【キーワード】 威嚇力、応報感情、誤判の恐れ	同上	同上
10	死刑③	死刑と社会契約説は調和するのか、社会契約説を批判する死功利主義は死刑をどのように捉えるのか、刑罰を科学的に捉えようと試みた立場は死刑をどのように考えたのか、について説明する。 【キーワード】 ベッカリーア、ルソー、カント、ラードブルフ、コーエン、ベンサム、ロンブローゾ、フェリー	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	自由刑①	明治時代の刑罰体系の中で自由刑はどのように捉えられていたのか、処遇制度は明治以降から現在に至るまでどのような歩みを辿ってきたのか、自由刑の現在（実態）はどのようなものか、について説明する。 【キーワード】 旧刑法、監獄則図式、監獄法、刑事施設・受刑者処遇法、刑事施設刑事被告人収容法、分類処遇、累進処遇	大越義久（東京大学大学院教授）	大越義久（東京大学大学院教授）
12	自由刑②	「無期懲役刑は残虐な刑罰か」、「禁錮刑は勤労の権利・義務に反するか」を問題にした最高裁判例に検討を加え、さらに現在の自由刑の課題をいくつか指摘する。 【キーワード】 単一刑論、過剰収容、高齢受刑者の増加	同上	同上
13	刑罰の理論	犯罪者に刑罰を科すのは何のためか、我が国の再犯防止教育はどのようなものか、それは効果的か、犯罪防止対策はどのような観点から考えるべきか、について検討を加える。 【キーワード】 追放、隔離、矯正、改善指導、性犯罪者、処遇プログラム	同上	同上
14	現代社会の犯罪と刑罰①	少年法は近時2度改正されたが、その経緯、内容について検討を加え、犯罪を犯した精神障害者についての新たな処遇制度を規定する心神喪失者等医療観察法に検討を加える。説明し、検討を加える。 【キーワード】 少年院、児童自立支援施設、精神障害犯罪者、措置入院	同上	同上
15	現代社会の犯罪と刑罰②	刑法の環境保護に果たす役割は何か、迷走を続ける共謀罪の新設の経緯とその問題点を明らかにし、近時の刑事立法ラッシュの意味するものは何か、について検討を加える。 【キーワード】 特別刑法、行政的措置、国際犯罪防止条約、治安の悪化	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1533002	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代環境法の諸相　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原島良成（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：北村喜宣（上智大学教授）〕

講義概要

本講義では、廃棄物問題を始めとする日本国内の身近なトピックを複数取り上げて、汚染者、近隣住民、政府、裁判所といった各アクターの「果たすべき役割」という観点から、現代環境法の姿を複眼的に浮かび上がらせる。具体的には、廃棄物処理法等個別の環境実体法のほか、環境リスクの探知と管理（環境計画法制、PRTR法制、環境影響評価法制）、行政的な義務付けとエンフォース（行政手続法制、行政強制法制）、司法的な義務付けとエンフォース（民事訴訟・執行法制、行政訴訟法制）を中心に、ケースを挙げて解説を加え、環境税制や景観保護といった最新の環境政策課題も含めて、今後の議論の方向を展望する。

授業の目標

20世紀後半、激甚公害の発生で一躍脚光を浴びることとなった環境法は、今日、一つの転換点を迎えている。気候変動のような複雑なメカニズムによる大規模な環境影響への対応を迫られるようになり、また、化学物質への微量・長期・複合暴露によるリスク評価のように、相当程度の不確実性を織り込んだ判断が求められるようになった。単純に環境破壊行為を取り締まる規制法システムでは、現代的環境問題の解決は望み難く、様々な経済活動に伴う環境影響を評価し汚染リスクを緩和する仕組み、すなわち「環境法政策」の発想が必要である。本講義では、現行法令の表面的理解にとどまらず、具体の法政策の策定・実施過程も視野に入れた、現代環境法の諸相への習熟を目指す。

履修上の留意点

「市民生活の財産法（’06）」「行政法と市民（’06）」と併せて履修することで、より効果的な学習が期待できる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境問題発生のメカニズムと法	環境法は、実定法の科目である。ただ、体系らしきものがないうえに、法律ばかり多い。その法律も、技術性の程度が高い。これまでの法律学習においては、こうした法律を対象にすることは少なかったために、いきなり環境実定法にふれると、理解にとまどうことがある。環境法とはどのようなもので、どのような特徴があるのだろうか。 【キーワード】 環境法の存在意義、環境法の存在形態、環境法の動態把握	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（放送大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
2	環境法が生まれる	環境法というのは、私たちが自由を満喫する過程で貴重な自然や風景が失われてしまうといった問題に直面し、持続可能な発展、また社会的に望ましい状態の実現に向けて悩む中で、生まれてくる。それは法律という形をとることもあれば、裁判や、あるいは難解な正議論の中に現れることもある。法はいかにして環境影響をコントロールしうるのか。民事訴訟や行政の仕組みを概観する。 【キーワード】 自然環境、人工環境、民事訴訟、行政法システム	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（放送大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）
3	環境法政策～政府の役割（1）	環境法政策は、環境に関する責任を、法律や条例として制度化している。その目指すところは、当初は経済発展を阻害しない限りでの環境保護であったが、やがて、持続可能な発展を目指す国際的潮流が意識されるようになり、また、環境権の議論と裁判の蓄積は、公益としての環境を保護する必要性を、強く印象付けることとなった。現代環境法の目標、責任の制度化の方向を解説する。 【キーワード】 持続可能な発展、環境公益の実現、PPP（汚染者支払原則）、EPR（拡大生産者責任）	北村喜宣（上智大学教授）	原島良成（放送大学准教授） 北村喜宣（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	環境法政策～政府の役割(2)	環境法政策を眺めるとき、そもそも対応しなければならない課題の性質が、公害国会の時代と持続可能な発展を追求する現代とでは、変わってきている。より複雑な因果関係による、不確実な環境被害を想定しなければならない。環境法政策は、環境リスクを管理する、という現代の困難にどう対処しているのか。またそうした法政策は、いかにして形成され、実施されているのか。 【キーワード】 未然防止的／予防的アプローチ、環境リスク、環境比例原則	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
5	環境法政策～政府の役割(3)	環境法政策の形成と実施を担当する組織に注目し、環境保護のどの部分を中央政府が担い地方政府が担うのか、また市民参画はどうあるべきかという、環境ガバナンスの大きな枠組に焦点を当てる。環境法政策概観の締めくくりとして、環境法がどういう仕組みでその目的を達成しようとしているのか、人の意思決定へのアプローチを、具体例に即して分類・整理する。 【キーワード】 地方分権、環境ガバナンス、市民参画	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
6	法は環境を守れるか～市民の役割(1)	環境汚染を通じてある人の健康が損なわれる、財産が失われるといったことを、正義・不正義の問題として捉え、裁判をつうじてその救済を図る法理論はないのか。環境法の理論は、「法政策」に関する理論と、法的に保護されるべき利益を析出しその救済を可能にする「法解釈」の理論と、両方相まって完成されるものと言える。今回から3回、訴訟の仕組みと現実の裁判例に注目する。 【キーワード】 不法行為責任、受忍限度、疫学的因果関係	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
7	法は環境を守れるか～市民の役割(2)	環境利益は個人的利益に集約されない側面がある。そこで、環境訴訟における「被害者救済」にとどまらない裁判の機能を俯瞰する。環境民事訴訟において発展してきた共同不法行為理論を取り上げ、民事訴訟による環境保護の可能性と困難性について考える。すると、環境行政訴訟の存在意義が浮かび上がってくる。 【キーワード】 関連共同性、違法性段階説、抽象的差止請求、原告適格、行政裁量	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
8	法は環境を守れるか～市民の役割(3)	裁判外の紛争処理制度について、解説する。訴訟に比べ利用者の負担が軽いなどの利点があり、その実態に注目してみたい。最後に、実体法解釈・訴訟法論の締めくくりとして重要な環境法判例を取り上げ、これまでに見てきた議論がどのように現実の環境紛争において立ち現れるのか、確認する。 【キーワード】 ADR、公害紛争処理制度、公害健康被害補償制度	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
9	環境法システムを設計する(1)	環境法システム設計の要点は、①目的、②規制対象、③規制内容、④規制手法である。それぞれの内容を具体的に理解することで、既存の環境法を分析するだけだなく新たに設計する力を身につけたい。法制度の目的設定、規制対象設定について概説した上で、規制内容としての基準設定のあり方を解説する。 【キーワード】 「不要物」、調和条項、環境基準、行政リソース	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
10	環境法システムを設計する(2)	規制というのは、国民の権利や自由に制限を課すものであるから、国会が制定する法律という形式、あるいは、地方議会が制定する条例という形式において、根拠づけられなければならない。では、環境規制を法律や条例として書き起こすとしたら、どういう内容の文書にしたらよいだろうか。義務付けの手法に注目する。 【キーワード】 届出制、許可制、誘導的手法、合意的手法	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	環境法システムを設計する(3)	前回の続きで、規制の手法について解説する。的確な環境行政実施のためには、情報の収集が不可欠である。そのような情報収集の仕組みも、法政策に組み込まれなければならない。そのほか、環境汚染・破壊を回復するための事業や基金の制度化、環境保護のため誰かに特別の犠牲を負わせる際の損失補償の仕組みも、必要となる。 【キーワード】 報告徴収、立入検査、指定法人、損失補償、受益者負担／原因者負担	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
12	環境法システムを設計する(4)	規制の最終局面、義務履行確保の手法について解説する。環境法規制についても、他の規制と同様、刑事罰を背景とした履行確保が中心となるが、そのほかに、許可取消や制裁的公表といった仕組みも、用いられている。さらに、市民参画も、義務履行確保において重要な意味を持つようになってきている。 【キーワード】 命令前置制／直罰制、行政罰、制裁的公表、権限発動促進制度	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
13	環境法の実施主体と活動の実際(1)	環境管理は、国、自治体、事業者、市民がそれぞれの役割を適切に果たすことで実現される。義務付けられる事業者のみの問題としてではなく、規制を運用する行政組織やその執行の実際にまで目を配って環境法を捉えなおすことは、より良い環境法システムの設計につながるであろう。まずは、環境法過程における各主体の位置づけを再確認する。 【キーワード】 自治体の事務、法律に基づく権限、環境コンプライアンス、環境行政手続法制	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
14	環境法の実施主体と活動の実際(2)	法律や条例に環境保護の仕組みを書き込んだとしても、それがどのようにエンフォース(enforce:執行、強制)されるかは、また別の問題である。水質汚濁防止法、廃棄物処理法等、環境法の執行実態に関するトピックを紹介することをつうじて、生きた環境法の姿に迫り、あるべき環境法システムの姿を展望する。 【キーワード】 行政指導志向、裁量基準(ガイドライン)、「外部の目」の制度化	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)
15	現代日本の環境法～その特徴と課題	外国の環境法と比較して、日本環境法は、強制的アプローチが中心となっている。また、行政裁量が広く、行政のエラーに対する手当てが乏しい。より良い環境法システムを構築するためには、こうした現代日本の環境法の特徴を実証的に明らかにする作業が必要となる。補論的に、日本環境法の特徴を指摘しその改善策を展望することで、本講義の総括とする。 【キーワード】 規制コストへの無配慮、行政無謬論、広範な行政裁量、財産権尊重の過剰、国と自治体の役割分担問題	北村喜宣(上智大学教授)	原島良成(放送大学准教授) 北村喜宣(上智大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1530801	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 裁判の法と手続 （’０８）＝（ＴＶ）

※この科目は「裁判と法の手続（'04）」の一部改訂科目です。
改訂回は2, 4, 5, 6, 9, 12, 14回です。

〔主任講師（現職名）：酒巻　匡（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本　和彦（一橋大学大学院教授）〕

講義概要

法と裁判、とくに司法制度に関する現代的な課題を中心にとりあげ、何が問題とされ、どのような改革の課題が提出されているか、これに対して、現在進行形の制度改革の動きを取り入れながら、その将来を展望する。新しい問題を扱う場合が多いが、その前提として、法と裁判制度の現状や歴史的な背景をも説明する。

授業の目標

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	法の解釈・適用と裁判	裁判はいわゆる法的三段論法によって行われるものであるが、その内容を理解するとともに、現代的訴訟等で特に明らかになるその限界を考える。	山本　和彦（一橋大学大学院教授）	山本　和彦（一橋大学大学院教授）
2	司法権の範囲と機能**（※改訂回）**	国家三権の1つである司法権の他の国家権力及び自治的団体等との関係を、いわゆる審判権の範囲に関する判例や違憲法令審査権等を中心に考える。	同　上	同　上
3	裁判の歴史と日本の司法制度の近代化	現代日本の裁判制度は、西欧近代の裁判制度を移植しこれを発展させてきたものである。その過程を跡付けると共に、母法とされた西欧諸国の裁判の歴史についても概観する。	酒巻　匡（京都大学大学院教授）	酒巻　匡（京都大学大学院教授）
4	裁判を受ける権利と民事裁判**（※改訂回）**	憲法32条が保障している裁判を受ける権利の意義について、特に欧州諸国における戦後の発展などを受けて、公開原則等とも関連づけながら考える。 民事訴訟制度に要するコストとその負担の問題について、司法予算のあり方、法律扶助、弁護士費用の敗訴者負担などの個別の論点にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
5	裁判所の種類と機能**（※改訂回）**	最高裁判所・高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所それぞれの役割と現代的な意義について、上告受理制度・人事訴訟の家裁移管・少額訴訟制度等の問題にふれながら考える。	山本　和彦	山本　和彦
6	裁判外紛争解決（ADR）**（※改訂回）**	仲裁・調停などADRと言われる制度の現状・課題を検討し、民事訴訟の機能との関係でその充実・活性化の必要について、立法化の動き等とともに考える。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	民事訴訟制度の現代的機能	民事訴訟の目的について従来の議論を紹介するとともに、行政改革・規制緩和が進む新たな日本社会において民事訴訟に期待されている役割について考える。	山本　和彦	山本　和彦
8	民事訴訟制度の改革と現代的課題	民事訴訟制度について、司法制度改革の中でも言及された様々な課題について、その迅速化・国際化・専門化などの要請に応える方策について考える。	同　上	同　上
9	刑事法の機能と司法制度－刑事司法制度(1) **(※改訂回)**	刑事司法制度全体の仕組みと流れを解説すると共に、そこで適用実現されることになる刑法の基本的な原則と働きについても触れる。合わせて少年非行に対する少年法の扱いについても言及する	酒巻　匡	酒巻　匡
10	犯罪と捜査－刑事司法制度(2)	犯罪捜査に関する手続の概要を解説すると共に、新しい捜査手法とその法的な統制に関する立法や議論についても検討する。	同　上	同　上
11	犯罪と裁判－刑事司法制度(3)	刑事裁判手続の基本的な流れについて解説すると共に証拠に基づく事実の認定や証拠法の基本原則と犯罪捜査手続との関連についても解説する。	同　上	同　上
12	刑事司法制度の改革と現代的課題 **(※改訂回)**	司法制度改革の中心の一つである「裁判員制度」の概要について説明すると共に、これに伴う刑事司法制度改革の全体像について説明する。 合わせて諸外国の国民の司法参加制度についても紹介する。	酒巻　匡	酒巻　匡
13	法律家の種類と機能	裁判官・検察官・弁護士のそれぞれの役割と現代的な意義について、司法制度改革における様々な制度改革にふれながら考えるとともに、その他の法律関係職種にもふれる。	山本　和彦	山本　和彦
14	法学教育の改革と法曹養成制度 **(※改訂回)**	司法制度改革の中で最大の争点の1つとされた法曹養成制度について、歴史的な経緯や諸外国の動向などにもふれながら、新たな法科大学院・司法試験・司法修習等の意義について考える。	同　上	同　上
15	司法制度の将来展望	講義の全体を踏まえて、司法制度改革と将来のあるべき司法の姿について、司法制度改革審議会委員であった方の参加を求める。	同　上	酒巻　匡 山本　和彦

事務局記載欄	開設年度	平成19年度第2学期	科目区分	専門科目	科目コード	1637401	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　雇用・福祉・家族と法（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：中嶋　士元也（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：堀　勝洋（上智大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：大村　敦志（東京大学教授）〕

講義概要

『雇用・福祉・家族と法』は、人間の営みを支える生活関係である雇用関係、社会保障関係、家族関係をとりあげ、それらを主として法律学の側面から考察しようとするものである。そこでは、企業、国家、家族という現代の代表的な集団のあり方とそこに暮らす人々との係わりあいが法制度ないし法思想を通して明らかにされていく。

授業の目標

２１世紀がもたらすと予測されている社会の変容、特に少子高齢化に伴う雇用社会、福祉国家そして家族共同体の変容は急激であり、かつ顕著であるとみられている。そしてその変容はいかなる姿をもって現われようとしているか。この講義では、雇用・福祉・家族というそれぞれ異なる集団を一つの流れの中で取り上げて勉強することによって、社会の変容と法の関係を学ぶことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	雇用・福祉・家族と法の課題	雇用社会、福祉国家そして家族共同体は、現代に暮らす人々が何らかの形で必然的に係わりを有する代表的な集団である。それらは、それぞれの固有の目的を有する社会であると同時に「生活の保全」という目的に向けて相互に関連性を有して展開されていく。その観点から行われる本講義の目標をそれぞれの講師が予め明らかにする。	中嶋士元也	中嶋士元也 堀　勝洋 大村　敦志
2	雇用関係の成立－就業形態の多様化と法規整	雇用（労働）関係は契約の締結から出発する。どういう契約を成立させるかによって、被用者（労働者）の雇用社会における法的地位や待遇に大きな差異を生ずる。ここでは、契約の成立段階ならびに就業形態の多様化に伴う法的規整につき考察する。	中嶋士元也	中嶋士元也
3	雇用関係の展開（１）－労働条件の決定と変更のルール	雇用は成立を経て展開段階に入る。展開過程においては、多くの課題が生ずるが、まず労働者の「適正な労働条件の決定」が行われなければならない。しかし、使用者は、しばしば労働条件の変更を行おうとする。それらの際のルールはどのようなものであるかを探る。	中嶋士元也	中嶋士元也
4	雇用関係の展開（２）－賃金・労働時間・労災補償	雇用関係も民法上の契約自由の原則に従いつつも、労働条件の中核をなす賃金・労働時間・労災補償に関しては、特に労働者保護の観点から強い法的規制を行っている。これらにつき考える。	中嶋士元也	中嶋士元也

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	雇用関係の展開（3）ー人事異動と企業内秩序	雇用関係は、契約に基づく使用者の指揮命令権の行使によって日常的に展開していく。雇用社会に一般的にみられる人事異動にはどのような根拠が必要であるか、その限界はどこにあるか。そのような課題を考察する。	中嶋士元也	中嶋士元也
6	雇用関係の終了ー失業の予防と救済	継続的に展開してきた雇用関係もいつかの時点で、退職・定年によって終了し、場合によっては解雇・倒産等によっても終了する。他方、法はできるだけ、雇用の継続をもくろみ、また失業者の救済措置を講ずる。それらのことを考えてみよう。	中嶋士元也	中嶋士元也
7	社会保障のあらまし	社会保障は、いまや人々が安心して暮らすために必要不可欠になっている。また、社会保障は医療、年金、福祉など非常に広い範囲をカバーし、それに要する費用も膨大な額にのぼっている。本章では、このような社会保障について、総論的な問題を考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
8	医療の保障	人々が病気やけがをした場合には、医療が必要となる。医療保障制度は、すべての人が安心して医療を受けられるようにする仕組みである。本章では、このような医療保障制度の意義などについて考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
9	所得保障の仕組み	人々が高齢者や障害者になったり、失業したりした場合には、働けなくなって給料がもらえなくなる。このようなときに金銭給付を行う仕組みとしての、年金保険制度、雇用保険制度などの所得保障制度について学ぶ。	堀　勝洋	堀　勝洋
10	高齢者の介護保障	人間は誰しも年をとると、老化や慢性疾患などにより、介護が必要となることが多い。介護保険制度は、高齢者が介護を受けやすくするための仕組みである。本章では、高齢者の介護保険制度などについて考察する。	堀　勝洋	堀　勝洋
11	最低生活の保障	憲法25条は、国民に健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障している。このため生活保護制度が設けられて、あらゆる手段を講じても生活できない人々に対し、最低生活を保障するその原理・原則や給付について説明する。	堀　勝洋	堀　勝洋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	家族の効果	親子・夫婦など家族関係にあることから生じる相互の権利義務について検討する。家族には、拘束的な側面があると同時に、生活保障的な側面があるが、この両面に留意する。	大村　敦志	大村　敦志
13	家族の成立	親子・夫婦などの家族関係がどのように成立するかについて検討する。あわせて、生殖補助医療による親子の形態についても言及する。	大村　敦志	大村　敦志
14	家族の病理	家族の病理・崩壊について検討する。一方で、児童虐待・DV、不貞、子どもの奪い合いなど人身・人格にかかわる問題を、他方、慰謝料や生活費・養育費など金銭にかかわる問題を取りあげる。	大村　敦志	大村　敦志
15	家族の変遷	カップルの多様なあり方について検討する。婚姻前の関係からスタートし、結婚・離婚・再婚と時系列にしたがって見ていく。	大村　敦志	大村　敦志

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1638009	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　企業の組織・取引と法（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　布井　千博（一橋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　福原　紀彦（中央大学大学院教授）〕

講義概要

本講義は、企業の組織を規律する会社法と、企業の取引を規制する商法を中心に講義を行う。この分野における法律は、近年の大改正により大きく変貌を遂げた。本講義では、企業組織法および企業取引法の分野で新たに生起している問題に焦点を当てつつ、これらの分野の体系的な理解を目的とする。

授業の目標

企業の組織と取引を規律する法律について、法律の具体的な内容を理解するとともに、各法律がどのような利益を保護しようとしているかについて理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	企業組織法としての会社法の対象と特徴並びに企業取引法としての商法その他の法律の対象と特徴を概観する。	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授） 福原紀彦（中央大学大学院教授）
2	会社法の基本構造	わが国における会社の種類と特徴を概観したうえで、会社法における基本原理である、法人性、債権者保護の法理、出資者保護の法理の検討を行う。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
3	株式会社の設立	株式会社の設立について、発起設立と募集設立の相違や、定款の作成からはじまり設立登記に終わる会社設立の過程について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	株式会社の経営機構（1）	株式会社の経営機構については多様な選択肢が設けられている。公開会社における経営機構と非公開会社における経営機構の異同について概観した後、取締役会・代表取締役・執行役の権限・組織・運営について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
5	株式会社の経営機構（2）	株式会社の経営が適切に行われるためには、経営を監督・監視する仕組みが重要である。株式会社の業務監査および会計監査を担う機関である、監査役（会）、委員会（監査委員会・指名委員会・報酬委員会）、会計監査人について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
6	株主総会	株式会社の最高意思決定機関である株主総会の権限および運営につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
7	コーポレート・ガバナンスにおける株主の役割	株式会社における経営の規律を確保する上で、株主の役割は重要性を増しつつある。株主が会社の経営についてどのようにして情報を収集し、株主に与えられた権限を行使するのかにつき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
8	会社の資金調達	株式会社の資金調達手段が間接金融から直接金融へと移行する中、株式や社債を用いた資金調達の重要性が高まっており、会社法は多様な株式や社債の発行を認めている。今回は、株式による資金調達について検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
9	会社の計算と剰余金の分配	会社の財務内容を正確に把握することは、会社を経営する上でも、株主が経営者に信任を与える上でも、さらには、債権者が会社と取引をする上でも重要である。会社の計算制度を概観した後、剰余金の分配規制や自己株式の取得規制につき検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）
10	組織変更と事業再編	企業は、その発展の過程において、持分会社から株式会社に組織を変更したり、合併や買収により規模を拡大する必要が生じる。会社法は、かかる需要に対応するために組織変更や事業再編について多様な規定を設けている。ここでは、そのような制度の仕組みについて検討する。	布井千博（一橋大学大学院教授）	布井千博（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	企業取引の主体と補助者	企業取引の主体と補助者に関する「商法」および「会社法総則」の主要な規定を対象にして、商人の名称としての商号に関する法制度と、商人の信用維持と企業取引の円滑化のための商業登記制度を検討するとともに、商法上の企業補助者制度を比較検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
12	各種の企業取引と法規制	企業取引の特色を明らかにして、伝統的な企業取引に関する商法(商行為編)上の諸規定を概観し、併せて、各種金融取引および現代的企業取引の法規制を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
13	企業取引の決済と手形・小切手	企業取引の決済の各場面における法律関係と法規制を明らかにするとともに、手形・小切手の意義・機能および法制度(手形法と小切手法)を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
14	消費者取引	消費者取引の特色と問題点を明らかにして、消費者取引をめぐる被害の予防と解決のために整備されてきた各種の法規制を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)
15	高度情報化社会の取引と支払決済	高度情報化社会において登場して普及しつつある新たな取引方法と支払決済手段を概観して、ＩＴ化に伴う課題を明らかにしつつ、その法的対応を検討する。	福原紀彦(中央大学大学院教授)	福原紀彦(中央大学大学院教授)

＝　市民生活の財産法（‘０６）＝（TV）

〔 主 任 講 師（現職名）：野村　豊弘（学習院大学教授）〕

全体のねらい

民法は、私人間の関係について規律する基本的な法である。民法全５編は、財産に関する総則、物権、債権の３編と家族に関する親族、相続の２編とに大別できる。本講義は、このうち、財産法について概観するものである。限られた時間で、民法の条文のすべてについて、詳細に説明することはできないので、重要な制度・仕組みを紹介するにとどまらざるを得ないが、民法以外の特別法についても、可能な限り、言及する。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	民法と民法典	まず、この講義全体の目的、民法の学び方などを述べる。次いで、民法の意義、民法の歴史、比較法の視点について述べる。	野村　豊弘（学習院大学教授）	野村　豊弘（学習院大学教授）
2	日本の民法典	明治期における民法の制定までの経緯(特に、ボアソナードによる旧民法および穂積・梅・富井による現行民法の起草に重点を置く)、その後現在に至るまでの主な民法改正・特別法の制定について述べる。特に、昭和22年の家族法改正、平成16年の現代語化に言及する。	同　上	同　上
3	人に関する法(1)～人と物～	人に関する法の第１回目として、民法における人と物の位置づけ、民法における人の扱いについて概観する。特に、民法が人を権利の主体、者を権利の客体としていることを述べるとともに、その２分法が科学・医学の発達によって揺らいでいることに言及する。	同　上	同　上
4	人に関する法(2)～権利の主体～	人に関する法の第２回目として、人が権利・義務の主体となることについて述べる。具体的に、権利能力、行為能力、制限能力者(未成年者・被後見人・被保佐人・被補助人)について解説する	同　上	同　上
5	団体に関する法	人(自然人)と並んで権利義務の主体となる法人について概観する。民法における社団法人・財団法人だけでなく、特別法による法人(中間法人法による中間法人など)も取り上げ、それらの違いについて明らかにする。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	物に関する法(1) ～物とは何か～	物に関する法の第1回目として、物の意義、物権と債権の区別について述べる。具体的には、民法では、有体物を物といい、不動産(土地およびその定着物)と動産(不動産以外の物)に分けられることなどについて述べる。	同上	同上
7	物に関する法(2) ～所有権とその他の物件～	物に関する法の第2回目として、物の所有権およびその他の物権について述べる。所有権は、目的物の使用・収益・処分をその内容とし、権利の中でも、もっとも完全な権利と観念されており、それ以外の物権が所有権を制限するものであることを説明する。	同上	同上
8	物に関する法(3) ～所有権の移転～	物に関する法の第3回目として、所有権の移転について述べる。すなわち、所有権が当事者間では合意のみによって移転するが、第三者に対してそのことを対抗するためには、登記(不動産について)、引渡し(動産について)を必要とすること(対抗要件主義)について説明する。	同上	同上
9	契約に関する法(1) ～契約の成立～	契約に関する法の第1回目として、契約の成立について述べる。具体的には、契約の意義(意思表示・法律行為・契約自由の原則など)、契約の成立(申込みと承諾)、契約の有効要件、契約の解釈、代理制度について説明する。	同上	同上
10	契約に関する法(2) ～契約の実現～	契約に関する法の第2回目として、契約の実現について述べる。具体的には、契約の履行、契約の不履行(債務不履行に基づく損害賠償・契約の解除)について説明する。	同上	同上
11	契約に関する法(3) ～契約の履行確保～	契約に関する法の第3回目として、契約の履行確保について述べる。具体的には、契約が確実に履行されることを確保する手段である物的担保(留置権・先取特権・質権・抵当権など)、人的担保(保証)について説明する。	同上	同上
12	契約に関する法(4) ～売買契約～	契約に関する法の第4回目として、売買契約について述べる。民法は、13種類の典型契約を定めているが、売買契約は、物の所有権を移転することを目的とし、有償・双務契約の最も代表的なものである。そこで、売買契約における売主と買主の権利義務関係について説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	契約に関する法(5) ～賃貸借契約～	契約に関する法の第5回目として、賃貸借契約について述べる。賃貸借契約は、物の貸し借りを目的とするものである。そして、借主が賃料を支払うことをその内容としている。そこで、賃貸借契約における賃借人と賃貸人の権利義務関係について説明する。特別法である借地借家法にも言及する。	同上	同上
14	不法行為に関する法(1) ～不法行為の基本原則～	不法行為に関する法の第1回目として、不法行為に関する基本原則について述べる。すなわち、不法行為制度の意義、不法行為の成立要件(故意・過失、因果関係、責任能力など)、効果(損害賠償、差止請求など)について説明する。	同上	同上
15	不法行為に関する法(2) ～不法行為の具体的類型～	不法行為に関する法の第2回目として、不法行為の具体的類型を取り上げて、それぞれについて説明する。民法に定める類型だけでなく、製造物責任法、自動車損害賠償保障法などについても言及する。	同上	同上

＝　行政法と市民（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：稲葉　馨（東北大学大学院教授）〕

全体のねらい

行政法（総論）の入門講義を行う。行政法は、行政組織法・行政作用法・行政救済法から成るが、後二者に重点をおいて、全体を概観する。特に、行政（役所とその仕事）抜きでは生活できないが、受動的な行政「客体」にとどまるわけではない私たち「市民」の目を大事にしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	行政法とは－序論	受講者の方に行政法に関するイメージを形成していただくための序論。行政法は、三大法分野のひとつであり、行政法自身も３つの分野からなること、また、行政法の代表的な定義によりながら行政法の特質を探り、憲法と行政法との関係についても考える。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
2	行政組織	行政組織法の基礎を学ぶ。まず、国の行政組織と地方公共団体の行政組織を概観し、地方自治の意義にふれる。ついで、行政主体・行政機関・行政庁など、これからの学習のためにもマスターしておかなければならない基礎概念と行政組織の基本法理について説明する。	同　上	同　上
3	行政活動の基礎原理	行政作用法の第一弾として、その基礎にある原理と行政活動に広く適用される一般的な原則について講ずる。法律（条例）に基づく行政、裁判による救済・行政統制、権限・権利濫用の禁止原則、公正・透明・説明責務、信頼保護などの諸原則をとりあげる。	同　上	同　上
4	行政活動の諸態様	私たちが社会・経済生活で接する役所（行政）の活動にはどのようなものがあるか。活動の基準づくり（ルール策定行為など）と具体的な活動とに分け、さらに後者については、準備的な行政調査のほか、行政契約・即時強制にふれる。	同　上	同　上
5	行政処分	各種の許可・免許・給付（資格）決定（その停止・取消）など、私たちの権利・義務を左右する具体的な行政決定を意味する「行政処分（行政行為）」は、様々な行政活動の中でも、きわめて重要な「行為形式」である。ここでは、その要点を学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	行政指導	行政処分とは異なり「任意の協力」によって行政目的を達成する手段である「行政指導」をとりあげる。「日本的行政スタイル」とも言われる行政指導がなぜ多用されるのか、法的統制のあり方をどのように考えたらよいか、検討する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
7	義務履行確保手段	私たち市民の中にも、税金を滞納したり、駐車違反をしたりと、行政上の義務を果たさない者がいる。行政（規制）の機能不全を防ぎ、市民間の公平性の担保にも資する義務履行確保手段にはどのようなものがあるか、概観しておく。	同　上	同　上
8	公正・透明な行政手続	今日、様々な場面で関係者や市民と行政とのコミュニケーションを密にすることが求められている。中でも、行政決定のプロセス自体の公正・「透明」化を図ることは、法治主義の徹底という点からも不可欠である。ここでは、行政手続法が定める処分手続を中心に、事前手続保障の基本を学ぶ。	同　上	同　上
9	情報公開・個人情報保護	今日、行政法でも重要なキーワードになっている「情報」をめぐる法制度について、行政機関情報公開法・個人情報保護法を中心に学習する。公開は、市民の行政参加・監視と信頼確保につながり、個人情報保護制度は、行政による個人情報の取扱いをコントロールしようとするもの。	同　上	同　上
10	行政過程における参加・監視・争訟	ここでは、これまでに学んだ制度のほかに、市民・関係者が行政に対して「もの申す」手段としてどのようなものがあるか、主要なものにふれる。とりあげるのは、行政過程への市民参加、行政監視制度、行政上の苦情処理、そして行政不服申立制度である。	同　上	同　上
11	行政事件訴訟（その１）	約４０年振りの行政事件訴訟法改正で、行政訴訟は変わるのだろうか。市民にとっても大きな関心事であろう。改正点も含め、行政事件訴訟にはどのようなタイプ（類型）があるかという点を中心に、行政訴訟の利・活用方法を考える。	同　上	同　上
12	行政事件訴訟（その２）	行政事件訴訟の主要類型である抗告訴訟について、これまで「狭き門」の要因となってきた訴訟要件（訴えの利益）、機能不備が指摘されてきた「仮の救済」制度をとりあげ、さらに、判決の種類・効力などにも言及する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	国家賠償法概説	これまでのところ、市民（私人）が行政相手に起こす訴訟としては、行政事件訴訟よりも国家賠償請求訴訟の方が多い。まず、制度の概要を理解していただくため、国家賠償法の条文（６カ条）に沿って、解説する。	稲葉　馨（東北大学大学院教授）	稲葉　馨（東北大学大学院教授）
14	国家賠償法の主要論点	前章の基礎編を踏まえ、その応用編として、国家賠償法１条と２条の重要論点のうち、３つのテーマ（１条の「違法性」をめぐる議論、行政の規制権限が適切に行使されない場合の問題、そして河川管理をめぐる責任のあり方）を中心に、検討する。	同　上	同　上
15	損失補償制度	国家賠償制度と共に「国家補償」制度の両輪をなす損失補償制度について、その要点を学ぶ。この制度の基礎にある理念、憲法２９条３項の意義、主要な論点である（憲法上の）補償要否の基準、補償の内容と方法についてふれる。	同　上	同　上

＝　国際関係法（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：横田　洋三（中央大学法科大学院教授）〕

全体のねらい

国境を越えた人々の活動を規律する法の総体である国際関係法を、国内法、国際法、国際機構法の三つの法体系に分けて論ずる。その中でも、もっとも国際社会において重要な地位を占める国際法について、詳しく検討する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際関係法の枠組み	国際関係における法の役割、国際関係法の種類、国際関係法の具体的作用について検討する。	横田洋三（中央大学法科大学院教授）	横田洋三（中央大学法科大学院教授）
2	国際法の成立	１６、７世紀のヨーロッパに形成された近代国際法の成立の経緯とその内容を、制度史と学説史の両面から考察する。	同上	同上
3	国際法の発展	１８、９世紀に産業革命と市民革命の影響を受けて地理的、内容的に発展した国際法を検討し、また、その時代に活躍した国際法学者についても考察する。	同上	同上
4	国際社会の組織化と法	２０世紀に入り、国際社会は組織化の時代を迎える。そこにおいて、国際法は、定立、執行、適用のいずれに関しても、国際機構の設立と発展の影響を受け、大きく変容する。その変容の内容と背景を考察する。	同上	同上
5	国際法と国内法の関係	人間活動のグローバル化に伴い、国際法と国内法が同一事象を同時に規律する場面が増えてきた。その場合、国際法と国内法の関係をどのようにとらえるかを、理論と実践の両面から考察する。	同上	同上
6	国際機構法の意義と役割	伝統的法理論によれば、法は国際法と国内法に二分される。しかし、近年、国連総会や安全保障理事会の決議のように、国際機構に独自の法文書がひんぱんに作られ、国際関係において重要な役割を果たすようになった。こうした法現象を国際機構法として体系化し、その固有の存在と役割を考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	戦争と法	国際関係において重要な問題である戦争について、国際法がどのように規律を及ぼしてきたかを歴史的に考察する。また、現代の戦争について、法による規律の実態と限界を指摘し、より有効な規律の可能性を検討する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
8	国連の平和活動と法	国連を通して行われるさまざまな平和活動を法的、実際的に考察し、その限界と改善の可能性を検討する。また、国連の平和活動に対する日本の貢献についても論ずる。	同上	同上
9	開発援助と法	今日国際社会が直面する大きな問題として、貧困や経済格差がある。この問題解決のために法が果たす役割を理論と実践の両面から考察する。	秋月弘子(亜細亜大学教授)	秋月弘子(亜細亜大学教授)
10	国際企業活動と法	国際企業活動を規律する法を、国内法、国際法、国際機構法の三つの体系に分けて論ずる。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
11	人権の国際的保障	人権の国際的保障の必要性を検討し、人権の促進と保護に関する国際的活動を、基準設定および監視を中心に論ずる。	滝澤美佐子(桜美林大学准教授)	滝澤美佐子(桜美林大学准教授)
12	人道的支援と法	難民や国内避難民など、人道的に支援する必要がある人たちに対する法的対応とその問題点を、検討する。	同上	同上
13	国際犯罪と法	集団殺害、大規模な人権侵害、テロなどの国際犯罪を取り締まり、責任者を処罰するための法および裁判について、検討する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)
14	地球環境と法	地球環境を保護するための国際的取組みについて、法的側面から検討する。	秋月弘子(亜細亜大学教授)	秋月弘子(亜細亜大学教授)
15	国際社会の将来と法	２１世紀に入り、国際社会はますます緊密化し、国境を越えた人々の活動も活発化するようになった。それに伴い、戦争、内戦、テロ、貧困、環境悪化、感染症などの人類の生存をおびやかす地球的課題に国際関係法がどのように効果的に取り組むことができるかを考察する。	横田洋三(中央大学法科大学院教授)	横田洋三(中央大学法科大学院教授)

＝　著作権法概論（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：作花　文雄　（国立教育政策研究所教育研究情報センター長）〕
〔主任講師（現職名）：吉田　大輔　（内閣官房教育再生懇談会担当室長）　　〕

全体のねらい

知的財産は社会の発展にとっても、また、人々の職業若しくは日常の活動にとっても重要なものであり、知的財産の創造を促進し、また、有効かつ適切に活用されるようにするためには、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たす。この講義では、知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、コンピュータ・プログラムなどの著作物等を保護する著作権法について、情報社会の進展やコンテンツ産業の振興という観点から重要性を増していることを踏まえつつ、制度を理解する上での基本的な事項及び実際的な課題について総合的に解説する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	著作権制度の仕組み	著作権法の目的や知的財産権制度全体における位置づけを解説するとともに、著作権制度において保護の対象となるものや権利の主体となる者、権利の内容、権利の制限など、第２回目以降の講義の導入として、制度全体の仕組みについて概説する。	作花　文雄（国立教育政策研究所教育研究情報センター長）	作花　文雄（国立教育政策研究所教育研究情報センター長）
2	著作物	知的成果物には文芸作品や学術作品、娯楽作品、あるいは産業技術関係のものなど様々なものがあるが、著作権法の保護対象となる「著作物」とは何か、保護の対象でないものは何かについて解説する。また、翻訳物や編曲などの二次的著作物や新聞や百科事典などの編集著作物の概念について解説する。	同　上	同　上
3	著作者	著作権法により権利の主体となる「著作者」とはいかなる者であるのかについて解説する。また、複数の者が共同して一つの作品を創作する場合があるが、共同著作者となる場合の要件や職務上作成される著作物について法人著作が成立する場合の要件について解説する。	同　上	同　上
4	著作者人格権	著作物は著作者の思想・感情の表現であり、著作権制度では著作物の利用にあたって著作者の人格的利益を保護するために著作者人格権を定めている。判例等にも触れながら、著作者人格権の内容、限界、その他の特色について解説する。	吉田　大輔（内閣官房教育再生懇談会担当室長）	吉田　大輔（内閣官房教育再生懇談会担当室長）
5	著作権(その１)	著作物の利用に関して著作者の経済的利益を確保するために設けられている財産権としての著作権のうち、複製権並びに複製物等の流通に関わる頒布権、譲渡権及び貸与権について、判例等にも触れながら、その具体的内容を解説する。	吉田　大輔（内閣官房教育再生懇談会担当室長）	吉田　大輔（内閣官房教育再生懇談会担当室長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	著作権(その2)	財産権としての著作権のうち、著作物の上演、演奏、上映等に関する諸権利、放送、有線放送、インターネット送信等に関する権利、著作物の翻訳・翻案等に関する権利、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利の具体的内容を解説する。	同上	同上
7	著作隣接権	著作者と並んで、著作権法では実演家、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者を著作隣接権制度によって保護を与えており、著作隣接権の重みは増しつつある。著作者の権利と比較しつつ、実演家等の権利の具体的内容を解説する。	同上	同上
8	権利の制限(その1)	著作権制度においては、著作物を権利者の許諾を得ることなく利用できる様々な場合が規定されており、それぞれの場合における適法な利用の要件や留意点について、2回にわけて解説する。この回では、私的使用のための複製、図書館での複製、引用、教育機関での複製などについて解説する。	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)
9	権利の制限(その2)	前回に続き、著作物の自由利用ができる場合として、非営利目的の上演等、裁判手続き等のための複製、公開の美術の著作物の利用、プログラムの所有者による複製などについて解説する。	同上	同上
10	著作権の保護期間と登録制度	著作権及び著作隣接権は法定の保護期間内に限って存続する。著作権・著作隣接権の保護期間とその算定方法、外国著作物に係る特例等について解説する。また、著作権法上の登録制度の趣旨、効果及び登録手続について解説する。	吉田　大輔(内閣官房教育再生懇談会担当室長)	吉田　大輔(内閣官房教育再生懇談会担当室長)
11	著作物の利用	著作物等の利用に際しては、利用許諾契約等により正当な利用権原を取得することが原則である。著作物等の利用に関する各種の方法を解説するとともに、著作権等の管理を業とする者を対象とする著作権等管理事業法の仕組みを解説する。	同上	同上
12	権利侵害に対する救済	著作権等が侵害された場合は、民事上の救済を受けることができるとともに、侵害者に対して刑事上の制裁も科せられる。著作権制度においては、民法に加えて、損害賠償や差止請求についての特別な規定が設けられており、その内容を解説するとともに、著作権制度上の刑事罰の内容について解説する。	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	著作権に関する条約	著作物等の国境を越えた利用に対応するため、国際的な保護規範を定めた条約の整備改善が続けられてきており、その流れは国内法制の整備にも大きな影響を与えている。著作権及び著作隣接権に関する主要な条約の経緯、内容等を解説する。	吉田　大輔(内閣官房教育再生懇談会担当室長)	吉田　大輔(内閣官房教育再生懇談会担当室長)
14	著作権制度の歴史	著作権制度の発展の歴史を全体的に捉えるとともに、近年において、貸レコード問題への対応やプログラム・データベースの保護、インターネット送信への対応、コピー・プロテクション回避への規制、還流レコードへの規制など、我が国の著作権制度は間断なく改正がなされてきているところから、これらの改正動向について解説する。	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)	作花　文雄(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)
15	現代社会における課題	現代社会においてはインターネットなど情報伝達技術の飛躍的な発展を背景として、また、中古ソフト販売や漫画喫茶など著作物の多様な利用形態が登場してきたことにより、著作権制度は様々な課題に直面している。これらの課題についての概況や論点について解説する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1591401	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　西洋政治理論の伝統　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山岡龍一（放送大学准教授）　　〕

講義概要

「政治とは何か？」「より善き政治を構想し、実現するためにはどうすればよいか？」といった問いを、本講義の基本的な関心として設定する。西洋の政治理論という営みの歴史を、「一つの伝統」としてとらえつつ、主要な思想家たちの理論を、いくつかの典型的な議論の原型ないしは範例として、検討する。古代ギリシアから始めて現代アメリカに至る政治理論のなかから、歴史的な影響と現代的な意義の観点から重要だと思われる議論をとりあげ、それらの歴史的、哲学的理解に努める。こうした試みによって、理論の解釈自体を理論化の営みとして提示し、政治理論の学習そのものを政治理論の伝統への参与として理解する。

授業の目標

「政治的なるもの」や「政治的な価値」の理解を深め、最終的には現代政治に関する認識力と判断力を涵養することを目指す。そのために、代表的な政治理論の議論や概念に馴染みをもつようにし、その結果、学生が自分自身の力で政治に関する批判的な意見をもてるようにする。政治的知識に限らず、現代社会を生きていく上で必要な「教養」の獲得に貢献するような講義としたい。

履修上の留意点

あらかじめ履修しておくべき科目はないが、政治学だけでなく、西洋の哲学や歴史学に関連する科目を学んでおくと、より充実した学習が望めるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	西洋政治理論という伝統	西洋政治思想史という学問を大学の学部レベルで学ぶ方法として、西洋における政治の理論化の営みを、複数の伝統からなる「一つの伝統」としてとらえる、という方法を本講義では採用する。学問的な方法としての歴史主義的アプローチと実在論的アプローチを紹介しながら、そうした方法と実践をいかにして有機的に総合するべきかを考える。その鍵概念として、「伝統」の概念そのものについても検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
2	政治哲学の起源――ソクラテスの問い	西洋における政治哲学の始原として、古代ギリシアの政治哲学、とりわけソクラテスの議論をとりあげる。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』の解釈から、政治哲学的な問いの原型を抽出する。特にソクラテスの政治観を、彼の哲学観との対比で考える。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
3	哲学と政治――プラトンの哲人王	プラトンの『国家』』を主に取り上げる。正義とは何か、正義と利益の関係はどうあるべきか、といった問題を中心に、プラトンの議論を再構成し、彼の教育論、イデア論、哲人王思想に関する解説を試みることで、プラトン主義的な政治理論の諸特徴を明らかにする。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	徳の政治――アリストテレスの倫理学	アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を主に取り上げる。徳(卓越性)をめぐる議論を中心に、道徳的完成に関するアリストテレスの議論を検討する。プラトンとの方法論的な対比によってアリストテレス主義と呼べる政治理論の諸特徴を明らかにし、特に慣習と政治の関係について考察することで、「徳の政治」論の原型を探る。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
5	ポリスの政治――アリストテレスの政治学	アリストテレスの『政治学』を主に取り上げる。ポリスの本性に関するアリストテレスの議論を検討し、「人間は本性的にポリス的動物である」という言葉の意味を、完成主義の立場から明らかにする。アリストテレスの正義論とともに、政体論、理想国家論も検討しながらアリストテレス主義政治理論のエッセンスを明らかにする。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
6	共和主義と自然法――キケロにおける政治の理想	キケロの『義務について』を主に取り上げる。古代ローマ共和主義思想の代表として、キケロを検討する。財産をもった有徳な政治家による政治という、キケロの政治観を明らかにしつつ、法や所有に関する彼の議論を検討する。同時に、後代へ多大な影響力をもつことになる自然法をめぐる議論も、キケロの徳論との関係を考慮しつつ検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
7	キリスト教と政治――アウグスティヌスの政治観	西洋政治理論の伝統における重要な要素として、キリスト教の政治観を紹介する。キリスト教政治思想の範例としてアウグスティヌスの政治思想を、彼の時代の文脈にそって理解し、キリスト教的な政治的現実主義と、政治権力の正当化原理を検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
8	信仰と理性――トマス・アクィナスと共通善の政治	キリスト教思想とアリストテレス主義を総合した思想家として、トマス・アクィナスの政治理論を検討する。『君主統治について』における政治論と、『神学大全』における自然法論を中心に、アクィナスの思想を、中世政治思想史のなかに位置づける仕方で検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
9	統治術と共和主義――マキアヴェッリと自由の政治	近代国家の維持に不可欠とされる「統治術」を弁証した著作として、マキアヴェッリの『君主論』を取り上げ、近代政治における権力と権威の問題を検討する。同時に近代共和主義思想の代表として、マキアヴェッリの『ディスコルシ』を取り上げる。「自由な国家」をめぐるマキアヴェッリの議論を検討し、彼の共和主義思想の特徴を理解する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	近代国家と個人の自由——ホッブズの社会契約論	近代国家の正当化の原理として、社会契約論の論理を検討する。ホッブズ思想を、その思想史的位置づけに留意しつつ、解釈することによって、近代的な個人主義の政治理論の論理を明らかにし、その主権論の意味を検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
11	自然法と抵抗権——ロックの社会契約論	ホッブズと対比する仕方で、ロックの社会契約論を検討する。ロック自身の文脈に留意しつつ、彼の政治理論を、自然法観念を中心に解釈し、その政治理論の方法的特質もあきらかにする。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
12	自由の喪失と回復——ルソーの社会批判と社会契約論	ルソーの『人間不平等起源論』を取り上げ、文明社会論に対する批判を、自由の喪失という観点から展開した思想家としてルソーを検討する。かかる問題に対するルソーの応答として『社会契約論』を、社会契約論と一般意志論によって、近代社会のなかに自由を回復させる試みとして検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
13	歴史と自由——ヘーゲルと人倫の構想	カントの義務論に対する批判を展開しながら、自律としての自由の原理を、歴史哲学のなかに新たな仕方で展開したし思想家として、ヘーゲルを取り上げる。主として『法の哲学』の議論を、ヘーゲルの政治論や論理学に目を配りつつ、自由の政治理論を提示した著作として検討する。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
14	功利主義と自由——J. S. ミルの葛藤	近代国家の政府と法に関する、最も影響力のある一般理論として、功利主義思想を取り上げる。ベンサムの議論を簡単に紹介し、それを批判的な仕方で発展させたものとして、J.S.ミルの『功利主義論』を検討する。同時にミルの『自由論』を取り上げ、功利の原理と自由の原理の関係を検討することによって、ミルによる自由の弁証の論理を明らかにする。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一
15	自由の政治理論——ロールズの契約論	功利主義批判という論点から、現代の契約論的政治理論を展開した著作として、ロールズの『正義の理論』を取り上げる。ロールズの正義論を概観し、それに対する批判であるコミュニタリアニズムを紹介し、それを踏まえて、後期ロールズが展開した『政治的リベラリズム』の議論を検討し、現代政治理論の方向性を探る。 【キーワード】	山岡龍一	山岡龍一

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1530704	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　比較政治－中南米　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：恒川惠市（政策研究大学院大学教授）　　〕

講義概要

かつて独裁と革命と軍事クーデタの代名詞だった中南米は、今日民主主義の大陸に変身している。しかし長期の経済停滞と市場経済化による格差の拡大や雇用不安のゆえに、市民の間に不満が広がり、選挙を通して左派的な政権が登場する国も出ている。この講義では、民主化が中南米の歴史上かつてないほど広がり、長く持続するようになったのはなぜなのかを、比較政治学の理論と中南米政治史の分析を組み合わせることで明らかにすると同時に、現代中南米の政治的特徴は何か、中南米の民主主義は今後も続きうるのかについて検討する。

授業の目標

民主主義体制から権威主義体制へ、逆に権威主義体制から民主主義体制へという政治変動を説明する比較政治学の理論を学び、それを中南米の経験にあてはめることで、中南米のこれまでの政治変動と、現代の民主化について、体系的に理解できるようにする。この授業は、中南米という地域の政治や経済についての知識を深めると同時に、比較政治学における体制変動についての理論を学ぶことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中南米の現状	70年代までは軍事政権や独裁的政権が多かった中南米で、80年代に大規模な民主化が起こったこと、それが決して有利とは言えない経済社会状況の中で長期に持続していること、同時に、不安定な生活への不満から抗議行動や犯罪が増えていることを明らかにした後、本講義を通して学ぶべき主要なポイントを指摘する。 【キーワード】 民主化　市場経済化　比較政治学	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
2	比較政治学の中の中南米(1)権威主義体制論	第二次世界大戦後の中南米は、一時民主化が進むかと思われたが、60年代以降次々に軍事クーデタが起こり、民主主義国は絶対的少数派に転落した。中南米が比較政治学の素材としてよくとりあげられるのはなぜなのかを明らかにした後、権威主義体制に共通する特色と3つの異なったタイプについて講義する。 【キーワード】 政治体制　権威主義体制	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
3	比較政治学の中の中南米(2)民主化論	比較政治学における大きな理論枠組みには、構造主義、合理主義、構成主義の3つがあり、それぞれに対応した民主化論がある。この3つのアプローチについて学ぶ中で、現在の中南米の民主化を説明する有力な理論として、構造主義・合理主義に属する「左派の敗北」仮説と構成主義に属する「紛争による学習」仮説の2つがあることを明らかにする。 【キーワード】 構造主義　合理主義　構成主義	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
4	ポピュリスト体制：起源・展開・崩壊	現在の民主化を理解するためには、第二次大戦前後から60年代にかけて各国に広がったポピュリズムと呼ばれる政治潮流を理解する必要がある。ポピュリズムはそれまでの寡頭支配に代わる民主主義の担い手としても期待されたが、工業化政策に行き詰まり、60年代から70年代にかけて、次々と軍事政権に代わられていった。中南米最初の民主化の試みの意義と限界について解説する。 【キーワード】 寡頭支配　ポピュリズム　輸入代替工業化	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	権威主義体制の時代	権威主義体制の時代と呼ばれる時期（60年代半ば～80年代半ば）に、どのような種類の権威主義体制があったのかをポピュリズムとの関係で探る。また各国の政府がどのような政策をとり、その経済的社会的結果は何だったのか、多くの国が累積債務危機に見舞われるようになったのかはなぜかを明らかにする。 【キーワード】 軍事政権　新安全保障原理　累積債務危機	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
6	ポピュリスト政権をもたなかった国々	中南米には、19世紀以来の寡頭支配層が、ポピュリズムの挑戦を退けて、軍部や独裁者の力を借りながら支配を続けた国がある。これらの国ではポピュリズムが下層階級の要求の受け皿になれなかったために、社会の中にストレスがたまり、左派ゲリラの勢力が伸長して内戦にまで至ることもあった。この間の経緯を、ポピュリスト政権以後に権威主義体制に至った国々と比較しながら分析する。 【キーワード】 個人独裁　中米紛争　ゲリラ	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
7	民主化の進展	80年代半ば以降中南米では、かつてポピュリスト政権を持った国でも、持たなかった国でも、おしなべて民主化が進展した。この時期に中南米地域に広く民主化現象がみられるようになった経緯を、民主化パターンの違いに留意しながら明らかにする。また同時期に起こった経済面での大変動である国家介入型から市場経済型への転換の意味と、民主化との関連にも触れる。 【キーワード】 民政移管　ｺﾝﾀﾄﾞｰﾗ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ　ﾍﾃﾛﾄﾞｯｸｽ政策	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
8	アルゼンチンの政治	寡頭支配からポピュリズム、軍事政権、そして民主化へという中南米で典型的な道を歩んだアルゼンチンに注目して、その政治史を跡づける。アルゼンチンのポピュリズムは労働組合と結びついたために右派の反発も強く、軍政と民政が交互に入れ替わるようになったこと、その中で民主主義的価値観の学習が進んだことを明らかにする。 【キーワード】 急進市民同盟　ペロン　アウストラル計画　ドル化	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
9	ブラジルの政治	ブラジルのポピュリズムは、寡頭支配層の内紛の結果、上から樹立されたという特徴をもつこと、したがって政策は穏健で、ポピュリズム後に登場した軍事政権も、選挙によって正当化を図るなどしたこと、民政移管も交渉により古い政治家が復活する形で進んだこと、しかし民主化後は労働組合や農民運動を基盤とする新しい政党が伸長したことを解説する。 【キーワード】 ヴァルガス　レアル計画　労働者党　ルーラ・ダ・シルバ	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）
10	メキシコの政治	メキシコは、ポピュリスト政権が崩壊して軍事政権に代わられることがなかった例外的な国である。メキシコではポピュリズム自体が権威主義的色彩が濃い形態をとっていた。このような特殊性がなぜ生まれたのかを明らかにすると同時に、そのメキシコでも90年代に民主化が進むようになった経緯について説明する。 【キーワード】 メキシコ革命　ラサロ・カルデナス　PRI　PAN　NAFTA	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）	恒川惠市（政策研究大学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ペルーの政治	ペルーは、軍事政権が自らポピュリズムを担おうとして短期間のうちに失敗したという意味で例外的な国である。ペルーでは民主化と累積債務危機を経た後に文民勢力によるポピュリスト政権が登場し、大混乱を引き起こした。そこに新しい政治指導者として登場したのがフジモリであった。こうしたペルー政治の動向を分析する。 【キーワード】 アヤ・デ・ラ・トーレ　アプラ党　フジモリ　アラン・ガルシア	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)
12	ニカラグアの政治	ニカラグアでは、寡頭支配層がソモサ一族の個人独裁の形で長期支配を続けたが、支配層の内紛に乗じた左翼ゲリラが勢力を伸ばしてソモサ打倒に成功した。80年代には左右が衝突する内戦が勃発したが、数万人が犠牲となった内戦を経て民主化を遂げた後は、右派と左派が選挙で競争するようになっている。この間の政治史を解説する。 【キーワード】 ソモサ　ｻﾝﾃﾞｨﾆｽﾀ民族解放軍　レーガン政権　ﾀﾞﾆｴﾙ・ｵﾙﾃｶﾞ	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)
13	現代の焦点(1):民主主義の持続	現代の中南米で決して良好とは言えない経済的社会的状況の中で民主主義体制が持続しているのはなぜかを、各国での長期世論調査のデータを用いて分析する。人々が経済状況と民主主義を直接結びつけるのではなく、民主主義のルールを遵守すること自体を重視していることや、過去の紛争と抑圧の経験が民主主義評価につながっていることなど、構成主義的な説明の有効性を確認する。 【キーワード】 ラティノバロメトロ　民主主義コミットメント　紛争	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)
14	現代の焦点(2):先住民の政治的復権	現代の中南米政治の特色の1つは、長い間社会の最下層に押し込められ、政治的にも時に反乱を起こす以外は受け身の存在であった先住民系国民の政治的覚醒である。彼らは絶望的な反乱にとどまるのではなく、合法的な先住民団体や政党を組織して政治参加をめざすにいたっている。エクアドルとボリビアを中心に、先住民の政治運動について解説する。 【キーワード】 先住民　CONAIE　MAS　エボ・モラレス	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)
15	現代の焦点(3)「左派」の復活	中南米では、選挙を通して左派寄りの勢力が政権に就く例が増えている。ベネズエラ、ブラジル、ウルグアイ、ボリビアなどの例に触れると同時に、なぜそのような現象が見られるのか、左派政権の登場は中南米の民主主義にとってプラスなのかマイナスなのか、そして今後中南米の民主主義は生き残れるのかといった問題を考察する。 【キーワード】 ｳｰｺﾞ・ﾁｬﾍﾞｽ　ﾀﾊﾞﾚ・ﾊﾞｽｹｽ　ﾗﾌｧｴﾙ・ｺﾚｱ　カラカス大暴動	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)	恒川惠市(政策研究大学院大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1530607	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代の国際政治 （’０８）＝（ＴＶ）

－９月１１日後の世界－

〔主任講師（現職名）：高橋 和夫（放送大学教授） 〕

講義概要

アメリカ、イスラム、アジア、欧州連合の拡大、エネルギー、環境というキーワードを使って現代の国際政治を描く。まず、唯一の超大国アメリカの外交に焦点を当てる。分析の第二の視点はイスラムである。アメリカが2001年以来の同時多発テロ以来アフガニスタンとイラクで二つの戦争を戦っている。いずれもイスラム地域である。アメリカの中東・イスラム地域への政策はいかに展開してきたのだろうか。いかなるメカニズムで動いてきたのだろうか。逆にイスラム地域からアメリカはどう見えるのだろうか。単に両者を対立の構図でとらえるのではなく、アメリカで進行するイスラム教徒の増大という現象にも目を向けよう。第三にアジアで台頭するインドと中国に注目する。両国はどのような関係を相互に打ちたてようとしているのだろうか。また超大国アメリカと両国はどのような関係を切り結ぼうとしているのだろうか。アメリカ、インド、中国の関係がアジアの構図を規定する大きな要因となろう。第四に冷戦後に拡大の勢いを強めるEU（欧州連合）の意味を考える。第五にエネルギーと環境という問題を国際政治という視点から分析する。つまり、複数の視点を交差させて国際政治の新しい風景を描き出す。

授業の目標

国際政治を理解するための基本的な構図を提示する。詳細ではなく、太いタッチで全体像を描く。したがって細密画ではなく、墨絵のような国際政治像となろう。強調したいのは、考えるという主体的な行為である。与えられる情報を批判的に分析する能力を獲得していただきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	テレビと国際政治/もうだまされないために	イラク戦争の報道で劇的な形で示されたように、テレビの映像は国際政治で大きな役割りを果たす。しかしながら、映像とは客観の顔をした主観に過ぎない。映像は、それを創り出し送り出す側の意図に左右されるからである。そうした視点から、テレビが国際政治に影響を与えるメカニズムの幾つかを提示する。 【キーワード】 部分と全体、主観と客観、ニクソンのワナ、衛星テレビ、アル・ジャジーラ	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
2	スーパー・パワーの世界戦略	世界の国々はアメリカとその他に分類できる。そのアメリカの世界戦略を歴史的な視野から振り返る。同時に、その力の源泉と外交の特徴を紹介する。つまり冷戦後の唯一の超大国の国際政治での姿を太いタッチで描写する。 【キーワード】 小国としてのアメリカ、第一次世界大戦、第二次世界大戦、5M	同上	同上
3	アメリカの中東政策	第二次世界大戦後のアメリカの中東政策の展開を跡付ける。またアメリカの中東政策を突き動かす国内政治のダイナミズムを分析する。 【キーワード】 三つの目標、ソ連の封じ込め、石油、イスラエルの安全保障、 AIPAC	同上	同上
4	アフガニスタン（1）大国のはざまで	1979年のソ連軍の侵攻、そして2001年のアメリカのターレバン攻撃など戦争の際に一瞬だけ光を浴びては、また忘れられる。現代史におけるアフガニスタンは、そのような運命を甘受してきた。光を浴びていない時期を含めたアフガニスタンの近現代史を解説する。 【キーワード】 ナポレオン、グレート・ゲーム、デュランド・ライン、パシュトゥーン	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	アフガニスタン(2)対ターレバン戦争	アフガニスタンの隣国パキスタンの置かれた位置は微妙である。アメリカの同盟者であると同時にかつてはターレバンの保護者でもあったパキスタンは、カシミールを巡ってインドと対立している。また同じようにアフガニスタンに隣接するイランは、この戦争においてアメリカに協力したにもかかわらず、「悪の枢軸」の一員とされた。周辺諸国の動向を視野に収めながら、1990年代のターレバンのアフガニスタン制圧、2001年のアメリカのアフガニスタン攻撃とターレバン政権の崩壊とその後の情勢を跡付ける。 【キーワード】 ターレバン、パイプ・ライン、中央アジア、アルカーエダ	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
6	イラク(1)同盟者サダム・フセイン	アメリカの対イラク政策は、フセイン政権の利用に始まり、その封じ込めに転じ、そして転覆へと帰結した。イラクの歴史から説き起こし、フセインの時代、そしてイラク戦争への道を振り返る。 【キーワード】 バース党、フセイン、イラン革命、イラン・イラク戦争、化学兵器、	同上	同上
7	イラク(2)「戦後」の風景	2003年のアメリカによるイラク攻撃は、フセイン政権の終わりではあってもイラク情勢の安定の始まりではなかった。イラク戦後のイラクの風景を描き、将来のシナリオを提示する。ポイントの一つはイラク北部のクルド地域の動向である。 【キーワード】 三分割、シーア派、スンニー派、クルド民族、バルカン、オスマン帝国	同上	同上
8	イラン／超大国と地域大国	イラクに影響力の強い国はアメリカとイランである。この両国関係の展開がイラクの将来を左右しかねない。そのアメリカ・イラン関係の核心にあるのが、イランの核開発である。平和利用を主張する地域大国とイランの軍事的野心を疑う超大国アメリカの間の緊張が高まっている。 【キーワード】 ウラン濃縮、軍事力行使、経済制裁、イスラエル、ヘズボッラー	同上	同上
9	アメリカのイスラム(1)9・11の影で	アメリカでイスラム教徒が急増している。その流れの一つは、黒人の間に広まった教えを広めたネーション・オブ・イスラムという組織である。第二の流れは白人の改宗者である。そして第三の、そして一番大きな流れはムスリム（イスラム教徒）の移民の急増である。アメリカのそのメンバーはブラック・ムスリムと呼ばれる。アメリカの多様なイスラムの姿を伝える。 【キーワード】 イライジャ・ムハマッド、マルコムX、ムハマッド・アリ、アビゼイド将軍	同上	同上
10	アメリカのイスラム(2)政治への衝撃	2000年の大統領選挙の勝敗を分けたのはフロリダ州であった。そのフロリダ州でのブッシュの「勝利」にイスラム教徒は大きな役割を果たした。また2006年にはイスラム教徒の連邦下院議員が誕生した。このようにムスリムの急増がアメリカの政治にインパクトを与え始めた。 【キーワード】 公開されない証拠、パレスチナ問題、エリソン議員、アラブ人とイスラム教徒	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヨーロッパのパラドックス／統合と分離	EU（欧州連合）の拡大が続いている。逆にスコットランドや北イタリアなどでは、現在の国家の枠組から離脱しようとの運動がある。国家の単位を超えた統合への希求と国家から離脱を目指す傾向が並存している。一見矛盾する二つの流れが何故に存在するのだろうか。ヨーロッパに典型的に観察される矛盾する二つの流れの背景を探る。 【キーワード】 マイクロ・ナショナリズム、グローバリゼーションの二つの顔	高橋 和夫（放送大学教授）	高橋 和夫（放送大学教授）
12	巨象と昇竜/インドと中国	アジアにおける大きな構図はインドと中国の台頭である。長期的には両者の関係がアジアの国際政治を規定する重要なベクトルとなるだろう。発展する両国の経済が世界の資源需給に殊にエネルギー供給に重い負担となりつつある。また両国の影響力が触れあい、摩擦を起こす場面も見えてきた。両国の発展の意味は何か、国際政治への影響は何か、昇竜と巨象の関係を見つめながら、将来への展望を探る。 【キーワード】 中印国境紛争、経済成長、製造業、ソフト、在米インド人	同上	同上
13	エネルギー	ペルシア湾岸が世界の心臓である。世界経済の血液に当たる石油を各国に輸出しているからである。また2000年代に入ってからのエネルギー価格の急騰は、ロシアの国際政治への大国としての復活をもたらした。ロシアがエネルギー大国だからだ。こうした例を取り上げながら、エネルギーが国際政治に与える意味を考える。 【キーワード】 GCC、北極海、カスピ海、新エネルギー、「爆食」	同上	同上
14	環境保護の政治力学	環境問題のエッセンスは、環境保全の費用を誰が、いつ、どのような形で負担するかにある。環境問題の難しさは、科学的な不確定さを背景として議論される点にある。環境問題の特徴は、NGOの果たす役割の大きさである。 【キーワード】 地球温暖化、CO2、環境技術の移転、	同上	同上
15	国際政治の新しい風景	外交とは国家が外務省を通じて行うとの通念が壊れて来た。「国内官庁」、自治体、企業、NGOさらには個人まで外交に関与する時代が到来している。また戦争は国家が軍によって行うという概念も過去のものとなった。イラクで展開する民間軍事会社の「企業戦士」は2万人と言われる。外交にも戦争にも種々のアクター（行動主体）が参加している。21世紀の国際政治の風景である。 【キーワード】 DN、アルカーエダ、インターネット	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1531000	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代行政分析 （’０８）＝ （R）

※この科目は「現代行政分析（'04）」の一部改訂科目です。
改訂回は3, 4, 5, 11, 12, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：真　渕　　勝（京都大学大学院教授）　　〕

講義概要

日本の行政に仕組みを概観すると同時に、それがどのように作動しているかを経験的な分析に基づいて明らかにする。

授業の目標

日本の行政の仕組みについて基本的な知識を身につけると同時に、それに関する理論的な疑問を提起し、それを解く能力を身につける。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会科学としての行政学	行政学は行政を研究対象とする社会科学である。それでは、どのようにアプローチすればよいのか。社会科学の研究の方法および行政学への適用の仕方について具体的な例を挙げながら検討する。	真渕　勝（京都大学大学院教授）	真渕　勝（京都大学大学院教授） ゲスト： 久米　郁男（早稲田大学教授）
2	国家公務員制度1－採用と昇進	「国家公務員制度」では採用から退職にいたるプロセスを追う。 2では、国家公務員の採用と昇進のプロセスを概観することを通じて、日本の国家公務員制度の特徴を明らかにする。キャリアとノンキャリア、事務官と技官、男性と女性などを対比させて論じる。	同　上	真渕　勝 ゲスト： 稲継　裕昭（早稲田大学教授）
3	国家公務員制度2－退職と再就職 **（※改訂回）**	天下りの実態を記述した後に、天下りがどのような機能を果たしているのかを分析する。批判されることの多い慣行であるが、一定のポジティブな機能を果たしていたことも明らかにする。	同　上	同　上
4	国家行政機構1－議院内閣制と省庁制 **（※改訂回）**	「国家行政機構」では狭義の行政機構だけでなく、民間との関係をも視野に入れた講義の行政機構について講義する。 4では、2001年の中央省庁再編の前後を比較して、何を変えようとしたのか、そして何が変わったのか、何が変わらなかったのかを検討する。首相のリーダーシップの限界、縦割り行政などが焦点になる。	同　上	真渕　勝
5	国家行政機構2－行政ネットワーク **（※改訂回）**	国家行政機構と特殊法人や民間団体との関係を明らかにすることによって、日本の行政のダイナミズムを明らかにする。特殊法人改革とエージェンシー化、官民関係の変容など最近の動きをどのように理解するかについても触れる。	真渕　勝	真渕　勝 ゲスト： 松並　潤（神戸大学大学院教授）
6	行政改革1－行政改革と行政管理	「行政改革」では、その意味や効果を、経験的側面ならびに理論的側面から検討する。 6では、行政管理はどのように行われているのかを記述した後に、これと行政改革の関係を経験的に分析する。行政改革は行政の実態にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするのが目的である。	同　上	真渕　勝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	行政改革2－改革の理論	行政改革を含む政治の仕組みの改革はどのような理由やタイミングで行われるのかを合理的選択論の視点から説明する。地方制度改革についても射程にいれる予定である。	同　上	同　上 ゲスト: 建林　正彦 （同志社大学教授）
8	政策過程1－議題設定と政策決定	「政策過程」では議題設定から評価にいたる流れを理論的に概観すると同時に、予算編成を素材にその実態を明らかにする。 8では、政策過程の理論の前半部分に関する諸理論を紹介する。ある潜在的な問題が政府の取り上げるところになるのはどのようなプロセスを経てであるか、なぜある問題は放置され続けるのかについて、マスメディアの役割に言及しながら、解明する。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 久米　郁男
9	政策過程2－実施と評価	政策過程の理論の後半部分に関する諸理論を紹介する。政策が期待された効果を発揮しないことがあるが、それはなぜか、それに対してどのような策が講じられているのかについて検討する。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 秋月　謙吾 （京都大学大学院教授）
10	政策過程3－予算編成過程	現実の政策過程のあり様を予算編成過程を概観することによって描く。政策の優先順位はどのようにつけられているのか、政治家や国民は予算編成にどのように係わっているのかを見る。	同　上	真渕　勝
11	官僚制論1－国民、政治家、官僚 **（※改訂回）**	「官僚論」では、官僚の役割を、官僚と国民・政治家との関係、上級及び下級官僚の行動様式という3つの観点から検討する。 11では、行政官の役割をいわゆる本人代理人論の観点から整理する。一方で官僚にその能力を十分に発揮させ、他方で官僚の行動を監視するにはどのような方法があるのかについて考えたい。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 久米　郁男
12	官僚制論2－上級官僚の機能と役割 **（※改訂回）**	キャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	真渕　勝	真渕　勝
13	官僚制論3－第一線公務員の行動様式	ノンキャリアの官僚に焦点をあてて、彼らの役割意識と行動様式について検討する。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 北山　俊哉 （関西学院大学教授）
14	中央地方関係1－法的関係 **（※改訂回）**	「中央地方関係」では、中央政府と地方政府との関係を法的関係、財政的関係、人的関係の3つの側面から検討する。 14では主に法的関係について検討する。中央政府はどのように地方政府を法的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 秋月　謙吾
15	中央地方関係2－財政的関係と人的関係 **（※改訂回）**	中央地方関係の残る2つの側面を見る。中央政府はどのように地方政府を財政的、人的に統制しているのか、地方はどのように独自性を発揮しようとしているのかが焦点である。市町村合併についても言及する。	同　上	真渕　勝 ゲスト: 北山　俊哉

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1538705	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　現代日本の政治（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：久米　郁男（早稲田大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：田中　愛治（早稲田大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　勝　（早稲田大学教授）〕

講義概要
現代日本の政治を理解するために、選挙制度や、政党、議会、官僚制など日本の政治制度と政治アクターについて説明を行った上で、それらの制度や政治アクターが、実際の政策過程においてどのような働きをし、どのような形で日本政治の特徴を形づくってきたのかを説明します。

授業の目標
現代日本の政治現象について、我々は新聞やテレビなどのマスメディアを通して簡単に情報を得ることができます。しかし、それらの現象を、単に評論するのではなく客観的に理解するには、政治学の理論の助けが必要です。この授業は、日本の政治を政治学の理論に基づいて体系的に理解することを目標とします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本政治を見る視点	現代日本政治を政治学の理論に従って理解することの意味について説明します。	久米　郁男	久米　郁男 田中　愛治 河野　勝
2	政府への期待	人々は政府にどのようなことを期待してきたのかを世論調査データを用いて説明した上で、政府の守備範囲に関する理論（小さな政府・大きな政府）について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
3	民意とは何か：世論と選挙	人々がどのようにして自分たちの代表としての政治家を選んできたのか、政治家はどの程度民意を反映してきたのかを説明します。	田中　愛治	田中　愛治
4	政党と政治	日本の政治における政党の役割、政党を支持しない無党派の出現が日本政治に及ぼしている影響について説明します。	田中　愛治	田中　愛治

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	選挙制度と政党システム	選挙制度のあり方と政党システムの関係を解説し、日本の選挙制度の変遷も詳しく述べます。	田中　愛治	田中　愛治
6	議会の役割	日本の政治における議会の役割について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
7	内閣と官僚制	日本の議員内閣制と官僚制の関係について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
8	マスメディアと政治	マスメディアの政治への影響について述べ、日本の政治におけるマスメディアの役割について解説します。	田中　愛治	田中　愛治
9	利益団体と政治	日本の政治における利益団体の役割について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
10	財政・金融政策	日本の政治アクターが、財政・金融政策にどのように関わってきたかを説明します。	久米　郁男	久米　郁男
11	福祉政策	日本の政治アクターが福祉政策にどのように関わってきたかを説明します。	久米　郁男	久米　郁男

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	地方分権と政治	地方分権をめぐる政治過程について説明します。	久米　郁男	久米　郁男
13	公共事業と政治	日本の政治において公共事業がどのような意味を持っていたのかを説明します。	河野　勝	河野　勝
14	外交政策	戦後日本の外交政策について説明します。	河野　勝	河野　勝
15	外交と内政	戦後日本に於いて外交と内政がどのような関係にあったかを説明します。	河野　勝	河野　勝

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1538802	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本政治外交史（‘０７）＝（TV）
—転換期の政治指導—

〔主任講師（現職名）：　天川　晃（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　御厨　貴（東京大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　牧原　出（東北大学大学院教授）〕

講義概要

近現代の日本政治外交史で大きな転換期をとりあげ、リーダーとそのパーソナリティ、集団とその性格を、指導者を取り巻く状況や行動を制約する制度などとの緊張関係の中で位置づけ、近代日本の政治指導の特質を考える。主任講師の講義に加えて、テーマに関する専門家をゲストに迎える予定。

授業の目標

日本政治外交史の大きな流れをつかむと共に、現代日本の政治的リーダーシップのあり方と特質について考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	転換期の政治指導	講義全体のイントロダクション。近現代の日本政治外交史のなかで大きな転換期をトピックとしてとりあげ、その時に直面した課題と解決方法の特質について概観する。	天川　晃	天川　晃 御厨　貴 牧原　出
2	明治の国づくり	幕末から維新政府の創設を経て、明治の国家体制を作り上げてゆく過程を、伊藤博文と山縣有朋らを中心に描いてゆく。	天川　晃	天川　晃
3	戦争と政治指導	明治中期の日本は、日清戦争、日露戦争、第一次大戦と、次々に戦争に乗り出してゆく。この過程での戦争と政治の関係を、陸奥宗光、小村寿太郎などの外交を中心に振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
4	転換期の大正	大正期に入ると、外では帝国主義的経営と内ではデモクラシー状況の展開という新たな課題に直面する。この転換期における内政と外交の舵取りを行った原敬と後藤新平を対比させつつ論じる。	御厨　貴	御厨　貴

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	軍縮と軍拡	大正期から昭和前期の政治の焦点は軍縮と軍拡をめぐる国内の動きであった。陸軍と海軍、それぞれの内部における集団と政党、世論が複雑に交錯する動きを跡付ける。	牧原　出	牧原　出
6	宮中と政治	政党が力を失い、軍部が力を持ち始めると、これに対抗する力を持ち始めたのが宮中の勢力である。最後の元老の西園寺公望、首相となった近衛文麿、内大臣の木戸幸一らの動きを中心に戦前・戦時の宮中と政治の動きを通観する。	御厨　貴	御厨　貴
7	天皇と天皇制	天皇に関する制度は明治憲法期と現行の日本国憲法期では大きく異なる。昭和天皇はこの大きく変貌した二つの憲法環境を一身で経験した。昭和天皇の役割を中心に昭和の時代を振り返る。	御厨　貴	御厨　貴
8	戦後体制の形成	敗戦から占領、そして講和条約と安保条約の締結。これらを通じて第二次大戦後の政治体制は作られた。この章では吉田茂と岸信介を中心に戦後体制の形成過程を検討する。	天川　晃	天川　晃
9	高度経済成長期の政治	１９５０年代から始まる高度経済成長は日本社会のあり方を大きく変えた。池田勇人内閣の「所得倍増」と佐藤栄作内閣の「社会開発」を中心に、高度経済成長期の政治家・官僚・ブレーンの役割について検討し、経済成長の政治的影響を考える。	牧原　出	牧原　出
10	民主政治の源流	日本政治の民主化の過程を、政治の舞台装置である議会の形成と議会・政党人の歩みを中心にフォローしつつ、戦前日本の議会と政党政治の特質を考える。	御厨　貴	御厨　貴
11	戦後政党システム	戦後の政党システムは戦前の遺産を引き継いで発展してきた。戦後の議会制度の枠組みの変化と政党の人的系譜をたどるとともに、諸外国の戦後政党システムとの比較をも試みる。	天川　晃	天川　晃

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	政治と司法	政治と司法のあり方も戦前と戦後で大きく異なる。司法の政治介入と政治の司法介入の歴史を辿りつつ司法権の独立の政治史的意義を考える。	牧原　出	牧原　出
13	自治体と改革	自治体首長の直接公選制度は多様な人材を自治体の首長に受け入れることを可能にした。１９６０年代以降、自治体におけるさまざまな実験が日本の政治に影響を与えてきた。「改革派」首長の役割を考える。	天川　晃	天川　晃
14	保革伯仲と派閥政治	高度成長以後、成長の成果の分配が政治の主題となり、成長と分配をめぐって与野党間でも与党の自民党内でも争いがあった。この保革伯仲期の派閥政治について、田中角栄内閣から大平正芳内閣について検討する。	牧原　出	牧原　出
15	大統領的首相	派閥抗争の展開は国民から政党への支持を低下させる。政党内の基盤の弱い指導者は直接に国民から支持を調達して政権の運営を図ろうとする。大統領的首相の登場の意義を中曽根康弘、小泉純一郎らの政治スタイルとともに考える。	牧原　出	牧原　出

＝　ヨーロッパ政治史（'０５）＝（Ｒ）

〔主任講師: 平島　健司(東京大学教授)〕
〔主任講師: 飯田　芳弘(学習院大学教授)〕

全体のねらい

近代から現在に至る西欧の政治発展を、国家の観点から考える。西欧における国家は、民主政治を実現する上での枠組みであると同時に、経済的繁栄と社会的公正を確立するための装置でもあった。しかし、第２次大戦後に開始され、グローバル化とともに加速された国家統合は、それを推進した国家を逆説的に相対化しつつある。西欧諸国家がたどった多様な歴史的発展と、グローバル化と国家統合の中で変容するその姿をたどる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	問題の設定と全体の構成	まず、講義全体の構成を時間軸に沿って確認する。民主化や産業化の過程において変化した国家と社会の関係の観点から、フランス革命から第１次大戦前後、戦間期、大恐慌とファシズム、第２次大戦後の復興と高度成長、70年代、80年代以降の時期に区分する。	平島　健司（東京大学教授）	平島　健司（東京大学教授） 飯田　芳弘（学習院大学教授）
2	ヨーロッパにおける国家建設と近代初期の国家	近代化開始までのヨーロッパにおける国家形成を概観する。ヨーロッパが一定の領域を支配する国家によって分割されていく過程を、国家構造の特徴（集権性や連邦制的性格）に注目しながら考察したのち、各国家に成立した政治体制を、議会や官僚制の地位・役割に着目して比較する。	飯田　芳弘（学習院大学教授）	飯田　芳弘
3	フランス革命と産業革命	フランス革命・ナポレオン改革と産業革命を、19 世紀の国家と社会の関係を形作る二つの重要な要因ととらえ、それらの各国への影響ー体制の議会化・国家官僚制による社会改革・ナショナリズムの動員や、産業化の時期に応じて異なった各地の国家の役割ーを比較考察する。	同　上	同　上
4	ブルジョワと自由主義の時代	国家と社会を改革する 19 世紀最大のプロジェクトとしての「市民社会」の理念が、「二重の革命」の影響下におかれた各国において、誰によって、またどの程度まで実現したのかを比較考察する。とくに、その最も重要な推進勢力となった、国ごとに多様な自由主義の台頭と変質に注目する。	同　上	同　上
5	「国民国家」の時代	19 世紀後半にショナリズムによって正統化されるようになった国家について、とくにナショナリズムと結びついた自由主義者が求めたドイツとイタリアの統一国家の性格を比較しながら考察する。両国の市場統合と国家統一の関係、国家構造と政治体制の連関、「国境」や「市民権」の概念の特徴に注目する。	同　上	同　上
6	自由主義国家の変質ー保護主義と初期社会政策	19 世紀後半の自由主義的国家の変容を考察する。1870 年代の大不況にともなう保護主義・干渉国家への転換、産業化の進展や労働者階級の台頭を背景とする福祉政策の開始などにみられた各国の対応を比較したのち、この時期の対応がその後の各国における国家と社会の関係に与えた影響を検討する。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	政治社会の変容と議院内閣制化	世紀転換期以降に急速に進捗した、政治の大衆化による国家と社会の関係の変化について考察する。各国における古典的議会政治の変容や議院内閣制化問題を比較検討したのち、市民社会における軍事的価値や急進的なナショナリズムの広がりに注目し、総力戦を準備した各国社会の変容について考える。	飯田　芳弘	飯田　芳弘
8	第一次世界大戦と戦後体制	第一次大戦後、ほぼすべてのヨーロッパの国は民主体制をもつようになった。大戦下の国家の社会への介入体制を概観したのち、戦後に生まれた各地の民主体制の特徴を、総動員体制の遺産、社会集団の政治過程への参入、「民意」と議会との関係、大統領制への期待、団体と議会との関係などに注目して検討する。	同　上	同　上
9	経済危機と政治	世界大恐慌への各国の対応を検討する。両大戦間期の各国の民主体制の命運を整理したのち、民主体制を維持しえた国々でみられたプラニスムやケインズ主義的政策による国家介入を検討する。また、農民や労働者を統合した連合体制が、戦後の民主体制を準備した事例を検討する。	同　上	同　上
10	戦後復興、高度成長と福祉国家の建設	戦争による破壊を克服した各国は、政治体制と政治経済の安定の上に、さまざまなタイプの福祉国家の建設を進めた。その類型に注目しつつ、さまざまな福祉国家体制の安定を可能にした共通の条件（冷戦やアメリカを基軸とする国際通貨、自由貿易体制など）について考える。	平島　健司	同　上
11	ローマ条約への道	ドイツやフランスなど西欧六カ国は、福祉国家体制を築く一方で、石炭鉄鋼の一セクターから経済統合そのもののへと共同体の建設に着手した。統合の条件、構想、制度について説明する。	同　上	同　上
12	1970 年代の国家と社会－オイルショックへの対応	1973 年の第 1 次オイルショックに直面した各国は、物価と雇用の安定を維持するための対応をせまられた。その対応の成否と、国家と社会団体の間に築かれたコーポラティズム的枠組みとの連関を比較検討する。また、低成長時代に入った各国で生じた、国家に対する社会の意識変化について考える。	飯田　芳弘	同　上
13	1980 年代の国家と社会－新自由主義の台頭	80 年代のイギリスのサッチャー政権下の新自由主義的改革は戦後福祉国家に対する最も大胆な挑戦であったが、大陸の右派政権は市場原理主義をイギリスほどに貫徹できなかった。この相違を、非社民陣営のイデオロギー的性格や政権の政策的行動半径を制約する制度的要因の違いに注目して検討する。	同　上	同　上
14	1990 年代の国家と社会－グローバル化と統合の中の福祉国家	進展する統合・冷戦の終焉・グローバル化という大きな変化の中でヨーロッパの国家・民主体制が経た変容について考察する。市場統合とその後の統合過程を概観したのち、各国の議会・政党政治の変容（それを補完するリンケージの模索の動き）と福祉国家の構造的な変容について考える。	同　上	同　上
15	総括と展望－国家とEU	西欧諸国は、少子高齢化やポスト産業社会への移行という長期的問題に加え、安全保障などの新たな問題にも直面している。その上、東欧を初めとする周辺諸国の加盟によって、EU も質的転換を遂げようとしている。近代以降の長期的歴史過程の中で形成されてきた国家の将来を展望して総括とする。	平島　健司	平島　健司 飯田　芳弘

＝　現代東アジアの政治（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　山田　　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）〕
〔主任講師：　小此木　政夫（慶應義塾大学教授）　　〕

全体のねらい

第二次世界大戦終結後の東アジアの政治発展の軌跡、現状、およびその構造的特徴を講義する。ここでは東アジアを狭義に定義し、中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮を中心とする。それは、いわば日本にとっても最も関係の深い近隣諸国・地域の政治の理解を目的とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代東アジアの政治を学ぶ	現代東アジアの政治は常に大きく変動している。この講義が目指すのは、変動を捉えるとともに、目前の変化にとらわれない東アジア政治理解の基本的枠組を提示することである。歴史・構造・比較・関係の 4 つの視角から東アジアの政治を見る。	山田　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）	山田　辰雄（慶應義塾大学名誉教授）
2	中国（1）中華人民共和国の成立	中華人民共和国成立当初の最大の課題は、政治・経済体制の確立であった。政治制度の樹立と正統性の確保、憲法の公布、共産党権力の浸透、反革命勢力の排除、経済の復興、社会主義経済への改造、国際的地位の確立などがそれである。	同　上	同　上
3	中国（2）毛沢東の時代	1958 年以来毛沢東は人民公社・大躍進・社会主義総路線からなる急進的「三面紅旗」を展開した。この政策の失敗を是正すべく劉少奇らは「調整政策」をとったが、権力の喪失を恐れる毛は 66 年からプロレタリア文化大革命を発動した。	小島　朗之（元慶應義塾大学教授）	小島　朗之（元慶應義塾大学教授）
4	中国（3）鄧小平の時代	1978 年 12 月中共 11 期 3 中全会は鄧小平の指導下に文革から現代化への路線転換を行った。改革は計画経済から市場経済への移行を、開放は先進諸国からの資金と技術の導入を意味した。しかし、経済は改革したものの政治的には党の指導は放棄されず、89 年の天安門事件はその現れであった。	同　上	同　上
5	中国（4）江沢民の時代	天安門事件直後党総書記に抜擢された江沢民は国家と軍の最高のポストも独占し、鄧小平の路線を継承した。彼は経済発展に伴う社会の多元化に直面し、2000 年に「三個代表」を提起、私営企業家まで取り込み、中華民族の偉大な復興をも鼓吹した。	同　上	同　上
6	韓国・北朝鮮（1）朝鮮解放と分断体制の成立	太平洋戦争終結後、日本の統治から解放された朝鮮は、即時独立ではなく、38 度線を境とする米ソの分割占領下に置かれた。冷戦の勃興につれ 1948 年朝鮮半島の南北に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国が誕生、50 年には朝鮮戦争を招来した。	小此木　政夫（慶應義塾大学教授）	小此木　政夫（慶應義塾大学教授）
7	韓国・北朝鮮（2）分断国家の二つの道	朝鮮戦争終結後南北朝鮮間で熾烈な建国競争、そして体制間の生存闘争が展開された。朴正熙将軍のクーデター後韓国では開発独裁体制下で輸出主導型の工業化が進展したが、社会主義の北朝鮮では「南朝鮮革命」を通じた朝鮮統一が追求された。	同　上	同　上

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	韓国・北朝鮮（3） 韓国の民主化と冷戦の終結	南北朝鮮の体制間競争は、冷戦が終結する1980年代末までに決着をみた。重化学工業化を達成した韓国が民主化に成功したのに対し、北朝鮮は経済的に破綻し、政治的にもますます硬直化した。ソ連・東欧諸国と中国は韓国と国交を樹立した。	小此木　政夫	小此木　政夫
9	台湾（1） 国民党一党独裁体制の成立と強化	中共との内戦に敗れた国民党は、冷戦の展開と米国の支援によって台湾で復活した。国民党は蒋介石の個人的権力を極端に強化し、党組織を社会の隅々まで浸透させ、市民を抑圧し、台湾本省人の政治的地位を低く抑えた一党独裁体制を実現した。	松田　康博（東京大学准教授）	松田　康博（東京大学准教授）
10	台湾（2） 民主化・台湾化と台湾問題の国際化	米中国交正常化の中で蒋経国政権は国際的孤独と民主化運動への対処に悩まされた。後の李登輝政権は台湾化、新大陸政策、民主的改革を推進した。以後内外政策における台湾独自路線が定着したため、中国の反発を招き台湾問題は国際問題化した。	同　上	同　上
11	香港－返還をめぐる政治	英領植民地香港が1997年中国に返還された。これを契機に香港の内政と外交は大きく変化した。返還を望まぬ香港、「一国二制度」の背景、イギリスの返還戦略、香港の民主化運動、中国の香港管理、中国式民主主義などの問題を取り上げる。	戸張　東夫（産能大学教授）	戸張　東夫（産能大学教授）
12	東アジアにおける日本	20世紀の東アジアと日本との関わりは1945年までの戦争期、冷戦期、冷戦後に分けられる。東アジアの経済発展における日本モデルの意味も比較の観点から重要である。近年の日本の対東アジア政策はグローバル化の中で重要性を増しつつある。	国分　良成（慶應義塾大学教授）	国分　良成（慶應義塾大学教授）
13	東アジアの国際関係とアメリカ	20世紀東アジア国際関係では日米中三国の関係が重要な要素であった。冷戦後のアメリカの東アジア戦略は、クリントン政権とブッシュ政権とで異なるところが目立つが、共通した部分はないのか。朝鮮半島・中台関係などを考える時アメリカの要素を抜きに考えることはできない。	同　上	同　上
14	東アジアの地域主義と日本	第二次世界大戦後の冷戦期にあって、1960年代ＡＳＥＡＮの誕生は地域主義の萌芽であった。冷戦後ＡＰＥＣ，ＡＲＦ、地域経済圏構想が注目されたが、最近ではＡＳＥＡＮ10カ国と日中韓3カ国の去就が今後のＦＴＡ（自由貿易協定）と絡んで重要である。	同　上	同　上
15	中国共産党第16回全国代表大会	放送期間における東アジアの主要な政治変動について述べる。今回は、中国ならびにアジアの政治に大きな影響を与える、2002年11月に開催された中国共産党第16回全国代表大会を取り上げて論じる。	山田　辰雄	山田　辰雄

＝　２１世紀の女性と仕事（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：大沢　真知子（日本女子大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：原田　順子　（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

経済のサービス化や経済の国際化が進むに従って、働き方や生き方も大きく変化する。なかでももっとも大きな変化は、女性の社会進出の進展だろう。女性が結婚しても就業を続けるようになれば、社会のしくみもそれにあわせて変わらざるをえない。なぜ経済が発展すると、女性の社会進出が進むのか。それが家族形成にどのような影響を与えるのか。そのような変化に女性や企業はどう対応しているのか。職場での男女の平等な扱いに対してどのような法制度を用いてそれを支えているのか。

９０年代に進展している経済のグローバル化は、従来とは違う多様な働き方を生み出している。このような仕事のなかには、家庭と仕事の両立がしやすい働き方も多い。２１世紀には共働き世帯が主流になる。そのなかで、わたしたちは、男性と女性がともに働き、家事や育児を分かち合える新しい働き方をしていく必要がある。

本講義では、同じような変化を経験している他の先進国の例などを紹介しながら、２１世紀の日本の女性の生き方と働き方について、１５回の講義をつうじて考えていきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	静かな革命―女性の社会進出はなぜおきたのか	経済の発展と女性の労働参加にはどのような関係があるのだろうか。どのような経済要因によって女性の社会進出は進展するのか。働く女性がふえるとなぜ出生率は低下するのか。少子高齢社会がもたらす経済社会への影響は何か。そのなかで社会はどのように制度を整えていったらいいのか。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
2	日本の近代化と女子労働	日本の近代化に伴う女子労働の歴史的変遷を概観する。明治の文明開化とともに、我が国の近代化が本格的に始まり、各地に工場が設立された。そんな中、農村出身の女性達が生糸を紡ぐ女工になるなど、女性の働き方にも大きな変化が訪れた。 明治から昭和まで、女子労働の場の変化を考える。	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
3	結婚の変容と少子化	女性の社会進出が進むについて、結婚のあり方も大きく変化する。夫婦の分業によって成り立っていた結婚から、夫婦が仕事と家事や育児を共に担う社会へと変化するなかで、晩婚化や結婚しない若者もふえている。経済学の分析をつうじて最近の結婚の変化がなぜおきたのか。また、少子化の経済要因について考察する。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
4	女性の就業と社会制度	戦後の日本の女性の就業パターンはどのように変化したのかその要因をさぐる。また、既婚女性が社会進出をしてくいなかで、社会制度をどのように整えていったのか、諸外国の実態を紹介する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	男女間賃金格差	日本は先進国のなかでもっとも男女間の賃金格差が大きい。なぜ賃金格差が生じるのか。その理由はなぜなのか。女性の社会進出が進む中で、それは改善されているのだろうか。 最近の研究成果から、男女間の賃金格差の実態を諸外国との比較で探る。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
6	男女の雇用機会均等と法	男女の雇用機会の均等と法について学ぶ。「女性」という集団的な属性ではなく個人として尊重されたいと思っても、女性労働者は、仕事につく前や就職したあとでも、さまざまな偏見やステレオタイプ化された差別に出会うことがある。法は、男女差別を是正しようという立場から、各種の方策を講じている。ここでは男女雇用機会均等法を中心に、男女差別を是正する現行の法規制の内容を検討し、さらに新しい差別是正の考え方も学ぶことにする。	浅倉むつ子（早稲田大学大学院教授）	浅倉むつ子（早稲田大学大学院教授）
7	職場のセクシュアル・ハラスメント防止と法	職場の中のセクシュアル・ハラスメントは、被害を受けた人の人格権を侵害して働く意欲を奪うだけでなく、職場の環境をこよなく悪化させて、企業組織の正常な運営や活力まで阻害してしまう。この授業では、法的な観点から、職場のハラスメントはなぜ起きるのか、これらを防止するにはどうしたらよいのか、使用者の責任の内容とは何か、などについて考えることにする。	同上	同上
8	仕事と社会	もし、女性が採用や昇進で平等に扱われたとしても、男女の教育水準が異なる限り、女性の平均賃金は男性並みにならないであろう。また、もし長時間仕事に集中できる人が望ましいというビジネス・カルチャーがあれば、結局、育児休業をとる男性は少なくなる。社会的背景の女性と仕事への影響を学ぶ。	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
9	女性の人事管理	男女雇用機会均等法が施行された頃から、総合職、一般職など、コースによる人事管理が大企業を中心に見られるようになった。しかし、現在でも女性総合職や管理職の比率は低い。女性の登用は産業によっても特色が見られる。コース別雇用管理を含め、民間企業における女性の人事管理の実態に迫る。	同上	同上
10	非典型雇用と法	パートタイム、派遣、有期など、非典型雇用の女性が増えている。非典型雇用は、正社員ではないという点でかなり似通った実態にあるが、法的には、それぞれが異なる内容をもつ契約であって、規制される法律も異なっている。この授業では、非典型雇用という働き方の実態に注目しつつ、労働者派遣法、パートタイム労働法などの内容を学びながら、この問題に法的な観点からアプローチする。	浅倉むつ子（早稲田大学大学院教授）	浅倉むつ子（早稲田大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	非典型雇用の戦力化	非典型雇用（パート、アルバイト、派遣社員など）は不況による人件費の圧縮、サービス産業化などにより飛躍的に増加したと言われている。このような雇用形態で雇われる人には女性が多いが、彼女達の年齢・仕事観等は多様である。その実態を明らかにする。加えて、パート・アルバイトの活用を図る企業の事情を探る。	原田順子（放送大学准教授）	原田順子（放送大学准教授）
12	非典型雇用と組織化	人事や賃金を論じる際に、労働組合の影響を考えることは必要である。労使の安定は日本の発展に寄与してきたと言われている。 従来、組合は正社員のものだった。パート・アルバイト等の非典型雇用には女性が多いので、その組織化について考える。	同上	同上
13	経済のグローバル化と多様化する雇用形態	９０年代に日本経済にもっとも大きな影響を与えたのは、経済のグローバル化であろう。この変化に先進国はどのように対応したのか。先進１０か国の比較研究の成果を通じて、雇用の柔軟化を働き方の多様化に結びつけるためにどうしたらいいのかを考える。	大沢真知子（日本女子大学教授）	大沢真知子（日本女子大学教授）
14	新しい働き方としてのNPO	９８年にNPO法が施行されて以来、NPOに認定される団体数がうなぎ上りである。NPOにはどのような可能性があるのか。NPOの発展の鍵となるのは、行政と対等な関係が作れるかということにある。それに成功しているデンマークやオランダの例を紹介しながら、この分野の日本での発展を展望する。	同上	同上
15	ワークライフバランス社会	最近は仕事中心社会からワークライフバランス社会へとしくみを変える国がふえている。とくにヨーロッパでは、雇用の保障や権利において雇用形態間の差をなくすことによって、多様な働き方が選べる社会を作ろうとしている。また、会社も両立支援策に力を入れている。そういった諸外国の実例を紹介する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1540807	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ マーケティング論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：恩藏　直人（早稲田大学教授）〕

講義概要

今日のビジネス活動を考える上で、マーケティングは欠くことの出来ないものとなっている。マーケティングの考え方やフレームワークは、営利企業だけではなく、大学、病院、自治体など、非営利組織においても注目を集めている。その一方、マーケティングを断片的に捉えたり、誤って理解している人々も少なくない。この講義では、マーケティングの基本的な概念から、実際のビジネス・ケースまでを体系的に解説し、マーケティングの全体像を明らかにしていく。また、必要に応じて実務家を招き、実際のビジネスにおけるマーケティングについて語ってもらう。

授業の目標

今日のビジネス環境において必要とされるマーケティングの知識を身につけることを目標としている。マーケティングとは何か、マーケティングの要素にはどのようなものがあるのか、といったマーケティングの本質を理解した上で、講義で紹介する概念やフレームワークを実際のビジネス・シーンに応用できるようになるのが理想的である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マーケティングの本質	マーケティングとは何か。生産や販売とどのように異なるのか。どのような課題を担っているのか。本章では、こういった疑問に答えることで、マーケティングの本質について解説する。また、マーケティング・ミックスの考え方を紹介する。 【キーワード】 マーケティング・コンセプト、マーケティング・ミックス、マーケティング・マイオピア	恩藏　直人（早稲田大学教授）	恩藏　直人（早稲田大学教授）
2	マーケティングのSTP	マーケティングでは、STPという骨子が広く知られている。企業は、マーケティング活動を展開する前にSTPに関して検討しておかなくてはならない。本章では、STPのそれぞれについて解説を加える。 【キーワード】 セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：トヨタ
3	顧客価値と顧客満足	顧客価値や顧客満足といった概念はマーケティングの基本的な概念である。本章では、マーケティングにおける顧客価値の重要性を説明するとともに、顧客価値を基礎に置いた企業活動を解説する。 【キーワード】 顧客価値、顧客満足、顧客育成	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：シンガポール航空
4	マーケティングと消費者	消費者を理解することはマーケティングにおける重要な課題である。本章では、マーケティングと消費者行動の関係を説明した後、消費者行動に関する基本的な概念を紹介する。 【キーワード】 関与、知覚、ブランド・カテゴライゼーション	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ミツカン

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	マーケティングと市場志向型戦略	マーケティングでは、常に市場と向き合わなくてはならない。したがって、市場に対応した全社的な戦略策定や資源配分が重要となる。本章では、市場を強く意識したマーケティング戦略について解説する。 【キーワード】 ミッション、SWOT分析、成長ベクトル、ポートフォリオ	恩藏　直人（早稲田大学教授）	恩藏　直人（早稲田大学教授）
6	マーケティングと競争戦略	市場の成長が見込めない成熟市場においては、常に競合他社へ目を向けなければならない。自社が成長するためには、他社のパイを奪わなければならないからである。本章では、特に競争を意識した戦略的マーケティングについて解説する。 【キーワード】 リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ハーレーダビッドソン・ジャパン
7	リサーチによる顧客価値の発見	顧客価値を発見するために、企業は消費者に対し、様々なリサーチを実施する。本章では、データの種類について説明した上で、リサーチに用いられる測定尺度、サンプリング、集計方法などについて説明する。 【キーワード】 1次データ、2次データ、質問法、観察法、実験法	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：ビデオリサーチ
8	製品による顧客価値の創造	製品は顧客価値の中核をなしている。マーケティングで考える製品とは何か。新製品開発はどのように進められるのか。本章では、これらの疑問に答えるとともに、製品ミックスの考え方や製品ライフサイクルの概念を紹介する。 【キーワード】 製品、製品ライン、製品ライフサイクル、計画的陳腐化	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：花王
9	ブランドによる顧客価値の創造	顧客価値をより一層高めるものとして、ブランドがある。ブランド戦略は今日のマーケティングにおける重要課題の一つともなっている。本章では、ブランド・エクイティ概念について整理し、ブランド拡張やブランド変更など、ブランド戦略の主要な課題について考察する。 【キーワード】 ブランド・エクイティ、ブランド・リポジショニング、ブランド拡張	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：東急エージェンシー
10	サービスによる顧客価値の創造	顧客価値を創造するのは、有形物だけではない。サービスも顧客価値を創造する重要な要因である。本章では、有形の製品と比較した場合のサービスの特性、サービス産業のマーケティング課題について検討する。 【キーワード】 無形性、品質の変動性、不可分性、消滅性、需要の変動性	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：日立製作所
11	流通による顧客価値の伝達	流通チャネルは顧客価値を企業から顧客へと伝達する。本章では、流通チャネルの存在理由やチャネルの段階数について整理する。また、チャネル設計やチャネル管理について説明する。 【キーワード】 取引数の削減、垂直的マーケティング・システム、パワーとコンフリクト	同上	恩藏　直人（早稲田大学教授） ゲスト：明治安田生命保険

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	営業による顧客価値の伝達	顧客価値は営業によっても伝達される。本章では、これまで科学的に議論されることの少なかった営業をマーケティングという大きな枠組みの中での検討する。その上で、営業管理や営業革新について考察する。 【キーワード】 営業、人的販売、企画提案、顧客満足	恩藏　直人 (早稲田大学教授)	恩藏　直人 (早稲田大学教授) ゲスト:カゴメ
13	価格による顧客価値の説得	価格は提供物のベネフィットに見合うだけのコストであるかどうかを示すことで、顧客に対しての価値を説得している。本章では、価格設定の基本方針について整理するとともに、消費者心理や製品ミックスを考慮した価格戦略について説明する。 【キーワード】 固定費、変動費、損益分岐点、需要の価格弾力性	同上	恩藏　直人 (早稲田大学教授) ゲスト:総合警備保障(ALSOK)
14	コミュニケーションによる顧客価値の説得	いくら優れた製品であっても、コミュニケーションによって価値を説得していかなくては売上げには結びつかない。本章では、マーケティングにおけるコミュニケーションの基本的な考え方について解説する。 【キーワード】 媒体、AIDAモデル、統合型マーケティング・コミュニケーション	同上	恩藏　直人 (早稲田大学教授) ゲスト:資生堂
15	広告、SPによる顧客価値の説得	広告やSPは顧客価値を説得していく上で、重要な手段となる。本章では、様々ある広告の種類を整理し、効果測定や予算の考え方を紹介する。SPについても、その種類や目的について解説する。 【キーワード】 広告、リーチ、フリークエンシー、セールス・プロモーション	同上	恩藏　直人 (早稲田大学教授) ゲスト:　D2コミュニケーションズ

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541218	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　国際経営　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：吉森　賢（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：原田　順子（放送大学准教授）　〕

講義概要

グローバル化は中国、インド、ロシア、ブラジルの新興工業国の台頭を迎え、ますます急速に地理的範囲を増大しつつある。本田宗一郎が喝破した「世界一にならなければ、日本一になれない」と言う言葉が今日ほど実感される時代はかってなかった。この科目はこの状況に対応するために日本企業はグローバル戦略と管理方法をいかに策定、実践すべきか、を実務的視点から理解することを目的として設計された。講義の内容は会計財務、人的資源、組織・文化、グローバル戦略、民営化企業および行政と国際化、など広範囲にわたる。

授業の目標

この科目の目標は履修者にグローバルな企業経営活動に従事する上で、最も重要と思われる問題について理論的知識と具体的な行動指針を提供することにある。この講義により履修者はグローバル企業の活動内容を理解し、職場において参考にしてもらえるように考えられた。

履修上の留意点

15回の講義でグローバル企業の活動をすべてを網羅することは困難である。履修者はラジオ放送の補足的解説、説明、ゲスト講師の体験や考えを聞くことが勧められる。また参考文献をも読まれることを希望する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	国際経営総論	この科目の講師を紹介し、科目の全体像を示す。急展開するグローバル化が企業に迫る問題を明らかにし、これらを解決するためにこの履修内容がどのように貢献できるかを説明する。講義の重点方針、講義方法、履修生の今後の職業上の進路、自己啓発の方法との関連性などについて述べる。 【キーワード】 国際経営、経済のグローバル化、ヒト・モノ・カネ・情報	放送大学 教授 吉森賢 放送大学 准教授 原田順子	放送大学 教授 吉森賢 放送大学 准教授 原田順子
2	金融市場（資金調達）の国際化	企業活動がグローバル化していくと、それに応じて資金調達もグローバル化してくる。つまり、金融市場のグローバル化である。各国の金融市場は真の国際化を余儀なく迫られる。金融市場の国際化の現状と将来について解説する。 【キーワード】 証券取引、金融規制、フリー・フェア・グローバル	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
3	会計の国際化	国際的金融市場へむけての整備は、企業活動の透明性・比較可能性を高めるための世界共通の会計基準の開発を必要とする。「単一の高品質な一組の会計基準」すなわち国際会計基準が必要とされる背景とその内容について解説する。 【キーワード】 国際財務報告基準(IFRS)、国際会計基準審議会(IASB)	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	移転価格	グローバル化していく経済活動により、日本企業とその国外関連者との間で生ずる移転価格に関する諸問題については、益々、大型化、複雑化していくことになるであろう。そこで、移転価格の問題を整理し、今後の対応について考察する。 【キーワード】 国際税務、移転価格税制、税務否認金	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
5	組織と文化	私達はしばしば他の組織の人と接して、組織文化の違いを認識することがある。民族、宗教、性別、世代などの要素が組織文化に影響を与えることは言うまでもない。さらに、国民文化と組織文化との関係も考え、文化という多面的なものについて包括的に学習する。 【キーワード】 組織、文化、民族	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
6	人材マネジメント①	人材の国際化が効果的に行われるか否かは、企業業績に密接に関連する重要なことがらである。人的資源管理の枠組みにおいて、日本企業の人的資源管理について触れる。 【キーワード】 人的資源管理、日本企業	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
7	人材マネジメント②	人材の国際化を考える上で、海外における人事管理の効果的な方法は何か、日本的手法は役立つのかという問題は重要である。これに関して、事例を示しながら学習する。 【キーワード】 人事管理、国際化、日本的人事管理	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
8	人材の国際移動	世界では多くの人材が国境を越えて移動している。単純労働者、中間管理職、高度なプロフェッショナルなど、バックグラウンドを問わず人材の国際移動が進行している。この状況は、経済のグローバル化が進展する中、日本人と日本の組織に影響を与える。人の国際移動について考える。 【キーワード】 人材、国際移動、プロフェッショナル	放送大学 准教授 原田順子	放送大学 准教授 原田順子
9	グローバル戦略-1 輸出入・OEM	グローバル市場参入戦略の基本知識を習得し、輸出と輸入、OEMの戦略的利点と限界を明らかにし、それぞれの規制、交渉、条件、契約、船積み、決済までの基本的な業務の流れを理解する。輸入品の品質が問題になっているので、その対応策を検討する。 【キーワード】 輸出・輸入、OEM、インコタームズ、船荷証券、決済、信用状	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
10	グローバル戦略－2 ライセンス契約	グローバルライセンシングの戦略的利点と限界を知的財産、法的規制、重要契約事項の解説、交渉過程、技術移転、紛争の類型と解決手段、国際商事仲裁、などの基礎知識を習得する。また貿易収支に示される日本の技術革新能力の状況を理解する。 【キーワード】 ライセンス契約、実施権、特許、ノウハウ、ロイヤルティ、技術収支	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	グローバル戦略－3 合弁会社	グローバル合弁会社の目的と戦略的利点と限界を検討し、合弁会社の類型、現地出資企業の選択基準、合弁会社設立契約の主要事項、出資比率、経営方針、親会社との取引関係、合弁会社契約の改定と解消について理解する。 【キーワード】 現地出資企業、親会社、出資比率、経営方針、契約条件	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
12	グローバル戦略－4 戦略提携	グローバル戦略提携の目的、性格、戦略的利点と限界、その実現手段、契約の主要事項、交渉における留意点、契約解消などについて理解を深める。新日鉄と欧州アルセロールとの戦略提携を取り上げ、インドのミタル社による敵対的買収による影響を検討する。 【キーワード】 競合企業、提携形態、契約期間、契約条件、提携相手、終結	放送大学 教授 吉森賢	放送大学 教授 吉森賢
13	M&A	合併・買収などによって他企業の経営権を取得する、いわゆる、M&A(mergers and acquisitions)がわが国の企業でも一般化している。その内容を理解する。新技術やノウハウなどの経営資源を自社開発する代わりに既にそれを保有している企業を買収することによって時間と労力を節約できるところにその積極的な意義が認められる。 【キーワード】 シナジー効果、パーチェス法、持分プーリング法	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	民営化企業による国際経営	民営化企業が国際経営に関与する場合がある。内外の事例を紹介しながら、その背景と課題について解説する。 【キーワード】 民営化企業、国際経営	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング、原田昌彦	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング、原田昌彦
15	行政と国際経営	民間企業の国際経営を促進するための行政の役割を包括的に論じる。さらに、地方(部分)と国(全体)の利益に関して空港・港湾の例を示しながら解説する。 【キーワード】 地方、国、企業、国際経営	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング、原田昌彦	三菱UFJリサーチ・アンド・コンサルティング、原田昌彦

＝　管理会計（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：佐藤　紘光（早稲田大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

全体のねらい

管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	管理会計概論（1） －管理会計とは－	①管理会計の意義と目的 ②企業の目的とエイジェンシー問題 ③経営管理プロセスと管理会計の実践主体 ④意思決定プロセスと管理会計の体系 ⑤会計情報基準 ⑥財務会計との相違点	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
2	管理会計概論（2） －財務諸表と財務業績の測定－	①財務諸表 （貸借対照表，損益計算書，キャッシュ・フロー計算書） ②財務業績の測定 ③原価の諸概念 ④機会原価と埋没原価	同上	同上
3	管理会計概論（3） ―意思決定とコントロールの組織―	①意思決定モデル ②予測情報の価値 ②決定権限の配分とコントロール・システム ③デシジョン・マネジメントとデシジョン・コントロール 付録：効用関数	同上	同上
4	資本予算（1） 投資決定ルール	①資本予算の意義と目的 ②貨幣の時間価値 ③将来価値と現在価値 ④現在価値法と内部利益率法 ⑤投資案の順位づけ ⑥その他の投資決定ルール	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
5	資本予算（2） 資本コスト	①資本コストの意義 ②源泉別資本コスト ③加重平均資本コスト ④部門別資本コスト	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	株主価値を高める事業戦略	①企業価値に適合する業績指標 ②EVA を増加させる４つの類型 ③M&Aの経済分析 ④リストラの経済分析	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
7	株主価値と経営計画	①長期計画による株主価値の創造 ②SVA モデルと FCF モデルによる分析 ③EVA モデルによる分析	同上	同上
8	原価の測定と原価情報の活用（1） －全部原価計算と直接原価計算－	①全部原価計算（形態別・部門別・製品別） ②直接原価計算 ③全部原価情報と直接原価情報	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
9	原価の測定と原価情報の活用（2） －CVP 分析とプロダクト・ミクス－	①CVP 分析 ②原価予測 ③不確実性下の CVP 分析 ④プロダクト・ミクス ⑤在庫管理 ⑥品質管理	同上	同上
10	原価の測定と原価情報の活用（3） －標準原価計算－	①標準原価計算の意義 ②標準原価計算の目的 ③標準原価計算の手続き ④標準原価の分類 ⑤原価差異の算定と分析	同上	同上
11	予算管理システム	①予算の意義と体系 ②予算編成のプロセス ③予算システムと組織設計 ④予算と実績の差異分析 ⑤予算の反機能とエイジェンシー・コスト	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
12	部門別業績管理	①責任会計と責任センター ②コスト･センターの業績管理 ③収益センターの業績管理 ④プロフィット･センターの業績管理 ⑤インベストメント･センターの業績管理 ⑥管理可能性原則と情報有用性原則	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	振替価格と原価配分	①事業部間取引と振替価格 ②振替価格の実務的ルール ③原価配分（本社費・共通費） ④原価配分（結合原価）	佐藤紘光（早稲田大学教授）	佐藤紘光（早稲田大学教授）
14	業績管理会計の理論（1） －業績管理会計の分析枠組み－	①分析の枠組み ②プリンシパル・エイジェント・モデル ③リスク・シェアリング ④動機づけ ⑤業績情報の価値	同上	同上
15	業績管理会計の理論（2） －インセンティブ・システム－	①予算参加の意義 ②部門業績評価と全社業績評価 ③業績の期間比較	同上	同上

＝　簿記入門（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

全体のねらい

簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	簿記の目的と基本概念	簿記の意義や役割、またその種類について解説する。併せて、簿記の基本構造を構成する資産・負債・純資産（資本）、収益・費用について説明する。また、貸借対照表と損益計算書についても簡単に触れる。	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
2	複式簿記の基礎	財産法と損益法という２つの利益計算法を明らかにする。 簿記における取引の定義を示し、勘定および勘定記入のルールについて述べる。さらに具体的な取引の記録方法である仕訳と転記について解説する。	同上	同上
3	帳簿記入と決算手続き	仕訳帳、元帳への記入方法について説明し、それらの記入が正しかったかどうかを確認するための合計残高試算表について解説し、続いて決算手続きまでの一連の流れについて説明する。	同上	同上
4	現金・預金に関する記帳処理	今回より具体的な勘定科目の記帳処理方法に関する解説を行う。まず、貸借対照表の資産項目である現金・預金の定義およびその記帳処理について説明する。	同上	同上
5	商品売買に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である商品の記帳処理方法である分記法、三分法、総記法について各方法の短所と長所の比較を行いながら説明する。	同上	同上
6	債権・債務に関する記帳処理	貸借対照表の資産の部に記載される債権と同じく負債の部に記載される債務の記帳処理について解説する。具体的には商品売買に関する売掛金と買掛金、営業外取引に関する未収金と未払金等についてである。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	手形に関する記帳処理	まず、手形について説明し、貸借対照表の資産の部に記載される受取手形と負債の部に記載される支払手形の記帳処理について解説する。その他、営業外手形や金融手形、手形の決済や不渡時の処理等についても言及する。	齋藤正章（放送大学准教授）	齋藤正章（放送大学准教授）
8	有価証券および固定資産に関する記帳処理	貸借対照表の資産項目である有価証券について、その分類、取得価額と評価方法、評価基準等について解説し、有価証券売買の記帳処理について説明する。また、固定資産の取得、減価償却、売却についても併せて解説する。	同上	同上
9	純資産（資本）および収益・費用に関する記帳処理	貸借対照表を構成する純資産（資本）に関する諸取引の記帳処理について解説する。また、損益計算書を構成する収益・費用の認識・測定についても説明する。	同上	同上
10	決算の簿記	第３回の決算手続きについて復習し、それから精算表の作成方法について述べ、一連の決算予備手続に関する説明する。また、決算本手続（決算仕訳と帳簿締切）について解説する。	同上	同上
11	財務諸表の作成	これまでの決算手続きを受けて、財務諸表の作成について解説する。また、財務諸表作成を取りまく会計諸法規についても説明する。	同上	同上
12	帳簿組織（１）	帳簿システムの意義について触れ、補助記入帳、補助元帳、伝票会計について解説する。	同上	同上
13	帳簿組織（２）	現金出納帳や仕入帳および売上帳等をもちいた特殊仕訳帳システムについて解説する。	同上	同上
14	株式会社の簿記（１）	今回から、２回にわたり、株式会社の簿記について解説する。 第１回目は、資本の分類、株式会社の設立、増資や減資の会計処理、利益処分の会計処理について説明する。	同上	同上
15	株式会社の簿記（２）	引き続き、株式会社の簿記について解説する。 第２回目は、自己株式の取得、社債の発行による資金調達等について説明する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1540700	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ビジネス・ファイナンス　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：菊 井 高 昭（上智大学教授）　　〕

〔主任講師（現職名）：宮 本 順 二 朗（帝塚山大学教授）　　〕

講義概要

ビジネス・ファイナンスに関する情報を収集・分析して、その意思決定・活動を合理的に行う過程を理論的に論じる。さらにわが国におけるさまざまなファイナンス環境の実状・変化にも配慮しつつ、各受講者が実践的にも応用が図れるように努める。ときおり、公共財政（パブリック・ファイナンス）や、家計ないし個人レベルでのお金の管理（パーソナル・ファイナンス）の場合の問題解決との相違にも触れながら、ビジネス・ファイナンス固有の問題に焦点を絞る。

授業の目標

授業の中では、より現実的なビジネス・ファイナンスを理解するのに役立つような具体的な例示により、受講生が各自に身近な問題と受け止めて、学べるように努める。説明のために用いる数式・記号・外国（来）語などは、不要なアレルギーが出ないように、必要最小限な程度に抑える工夫する。その上で、ビジネス・ファイナンス領域における問題解決方法を理解することによって、パブリック・パーソナル等その他のファイナンス領域においても通用するような考え方を習得出来るように目指す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ビジネス・ファイナンスの意義・目的	まず、パブリック・ファイナンス（公共財政）やパーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資産管理）との違いを明確にしていきながら、ビジネス・ファイナンスとは何かを説明し、さらにその目的について受講者の理解を促す。 【キーワード】 ビジネス・ファイナンス（企業ないし経営財務）、パブリック・ファイナンス（公共財政）、パーソナル・ファイナンス（家計ないし個人資金管理）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
2	ビジネス・ファイナンスの基礎（1）：キャッシュ・フローの概念とその計算	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である“キャッシュ・フロー”について、とくにビジネス・ファイナンスにおいてその必要な考え方と計算の仕方について述べる。その際、実践的にも応用可能なような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 キャッシュ・イン・フロー、キャッシュ・アウト・フロー、営業キャッシュフロー、財務キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、フリー・キャッシュフロー	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）
3	ビジネス・ファイナンスの基礎（2）：キャッシュ・フローの評価（将来価値と現在価値）	ビジネス・パブリック・パーソナルのいずれのファイナンスにおいても、キャッシュ・フローの把握が如何に重要であるかを学ぶ。すなわち、資金の調達・運用の両面においてキャッシュフローの評価・計算の方法とそれぞれの諸問題点を見ていく。 【キーワード】 時間価値、将来価値、現在価値、割引計算、割引率、資本コスト、目標利益率、内部収益率	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）	宮本順二朗（帝塚山大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ビジネス・ファイナンスの基礎:(3)リスク・リターン	ここでも、パブリック・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスの場合にも共通して、重要な概念である“リスク”・“リターン”について説明を行う。とくにビジネス・ファイナンスにおいて必要な考え方とそれぞれの把握方法について述べる。その際、実践的にも応用可能で身近に生じるような具体例に基づいた計算演習を行うように努める。 【キーワード】 不確実性、期待(平均)値、標準偏差(分散)、相関関係、共分散、システマティックリスク、アンシステマティック・リスク、リスク回避、リスク分散	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
5	ビジネス情報の収集:会計情報と市場情報	ビジネス・ファイナンスの情報源としての財務諸表の種類、構造、見方を説明し、さらに資本市場に関する各種データの種類・意味について説明する。 【キーワード】 財務諸表、会計的利益率(ROA, ROE)、株価、一株当たり利益(EPS)、株式市場指数、株式収益率	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
6	ビジネス情報の分析:会計情報と市場情報	企業の財政状態や経営成績を各種の財務指標(財務比率)を通して把握するための方法について説明する。いわゆる経営分析の知識の習得を目的とする。 【キーワード】 流動性、収益性、活動性、成長性、PER、PBR、PCFR	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
7	ビジネス情報の統合・評価	各種の財務指標(財務比率)を統合・評価するための方法について述べ、さらに実数分析としての損益分岐分析、企業評価の方法としてのEVA等について説明する。 【キーワード】 交差分析、レーダー・チャート分析、損益分岐分析、EVA、企業評価ランキング	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
8	ビジネス資金の運用(1):投資決定	実物資産に対する投資の観点から、投資案の経済性計算について学習する(第8回目と第9回目の2回)。第8回目では、経済性を評価するために必要な基礎データについて述べ、さらに、経済性計算の方法としての回収期間法と会計的利益率法について述べる。 【キーワード】 将来キャッシュフロー、複利現価係数、年金現価係数、回収期間法、会計的利益率法	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
9	ビジネス資金の運用(2):投資決定(続)	投資案の経済計算の方法としての正味現在価値法と内部収益率法について述べ、さらに各種方法の比較検討を行う。出来る限り具体的に、数値例を用いながら説明する。 【キーワード】 正味現在価値法、収益性指数法、内部収益率法、順位付け、再投資利益率	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
10	ビジネス資金の運用(3):ポートフォリオ理論とCAPM	金融資産に対する投資の観点から、ポートフォリオ理論についての基本的な考え方を説明し、さらに資本資産のリスクとリターンの関係を表す資本資産価格決定モデル(CAPM)について述べる。リスクとリターンに関する基本的知識(第4回目の講義)が十分理解されていることを前提に講義を進める。 【キーワード】 リスク(危険)回避、ポートフォリオ、分散投資、最適組み合わせ投資、リスク・プレミアム、CAPM、指数モデル	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ビジネス資金の調達(1):そのデータ収集と分析	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、如何に収集しかつそれらを分析していくのか、適切な処理手法について解説し、具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 金利(資本コスト)・長短期資金調達・デッドファイナンス(他人資本調達)・エクィティファイナンス(自己資本調達)・証券化	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
12	ビジネス資金の調達(2):そのデータ統合と評価	ビジネスの資金調達に関する意思決定のうえで必要なデータを、収集かつ分析したのちに、さらに行う適切な統合・評価手法について解説し、ここでも具体的・実際的な演習を試みる。 【キーワード】 混合資金調達(ミックス)、レバレッジ、加重平均資本コスト	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
13	ビジネス・ファイナンスの資本構成と成果配分	資本構成と企業価値の関係について述べ、さらに企業の成果配分という観点から、配当、株式分割、ストック・オプション、ESOPなどについて説明する。 【キーワード】 デッド・ファイナンス(他人資本調達)、エクイティ・ファイナンス(自己資本調達)、最適資本構成、企業価値、配当割引モデル、株式分割、ストック・オプション、ESOP	菊井高昭(上智大学・教授)	菊井高昭(上智大学・教授)
14	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(1):ベンチャー・ビジネス・と財務戦略	ベンチャー・ビジネス(起業)のために、とくに必要な資金調達の諸問題を中心に、かつ、その一面で資金運用の計画について述べる。さらに、わが国におけるベンチャービジネスの諸制度やそれらの活用上の諸問題などにも言及していこう。 【キーワード】 ベンチャーキャピタル、エンジェル、ジャンク・ボンド、セーフティ・ネット	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)
15	ビジネス・ファイナンスの特殊問題(2):企業再編・倒産と財務戦略	2000年代に入り、ますます活発になってきたM&Aをはじめ、さまざまな形態での企業再編について述べていく。まず、起業再編の諸方法につき解説した後、出来るだけ具体的な事例をいくつか取り上げ、実証的な分析にまで及ぶよう努める。 【キーワード】 M&A, TOB, 企業分割(セル・オフ、スピンアウト)、セグメント別資金管理	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)	宮本順二朗(帝塚山大学・教授)

＝ アーツ・マネジメント（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：清水　裕之（名古屋大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：菊池　誠　（元東京大学総合研究博物館客員教授）〕

全体のねらい

アーツマネジメントを「芸術と社会をむすぶ仕事」と位置づけ、特に公立文化施設、美術館、博物館とのかかわりを中心に、その意味や具体的な活動について考察する。文化施設と地域・住民との関係や具体的な展覧会制作活動、施設のハードウェアの側面にも光をあてる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入：アーツマネジメントとは	海外の大学教育のカリキュラムなどを参照しながらアーツマネジメントとはどんな概念か、どんな仕事なのかを概括する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
2	美術館の整備状況	公立美術館を中心に、我が国の文化施設の整備状況について概括する。	菊池　誠（元東京大学総合研究博物館客員教授）	同　左
3	公立文化施設の活動を見る	公立文化施設の根拠はなにか、我が国に特徴的な多目的ホールによる貸し館運営はどのように成立したか、地域にどのような活動を提供しているか、どんな人が働いているかを概括する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
4	公立文化施設におけるアーツマネジメントの実際	ドイツの劇場、イギリスの劇場と日本の公立文化施設の仕事を具体的に比較しながら、世界的な視野でアーツマネジメントの仕事を考察する。さらに、公立文化施設のアーツマネジメントとしてどのような業務があるか、カテゴライズして紹介する。 我が国の事例として長久手町文化の家と第一生命ホール（NPO法人トリトンネットワーク）の活動を具体的に観察する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左
5	公立文化施設とボランティア活動	近年、盛んになってきているホールボランティアの活動の活動実態を紹介しながら、ボランティアの意味、ホールスタッフとボランティアとの関係などを考察し、ボランティアの枠組みを理論化し、課題を取りまとめる。 具体的な事例として、喜多方プラザ文化センター、たんば篠山田園ホール、知立市民会館パティオウエーブ、武豊町民会館のボランティアの実際を紹介する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	美術館の活動と施設	美術館においては、どんな活動があるのか、どんな人々が働いているのかを概括する。またそのための建築施設について触れる。	菊池　誠(元東京大学総合研究博物館客員教授)	同　左
7	展覧会制作のマネジメント――『メディアとしての建築』展を例として	東京大学総合研究博物館で開催した『メディアとしての建築』展を例に引き、展覧会の企画から制作までのプロセスと展覧会制作のマネジメントを見る。	菊池　誠(元東京大学総合研究博物館客員教授)	同　左
8	美術館を巡る危機と新しい動き	美術館の閉鎖、事業の縮小など危機が訪れているが、それを転機として、どのような新しい美術館のあり方があるかについて考える。	菊池　誠(元東京大学総合研究博物館客員教授)	同　左
9	歴史的建造物を再生利用した大学博物館	東京大学総合研究博物館小石川分館を例にとり、歴史的建造物を博物館として新たに再生させた試み、またそこで行われている展覧会活動を紹介する。アーティストとミュージアム・スタッフ、ボランティアや学生まで含んだコラボレーションにも焦点をあてる。	菊池　誠(元東京大学総合研究博物館客員教授)	同　左
10	市民参加をファシリテートする	可児市文化創造センターの建設における市民参加を具体的に振り返りつつ、公立文化施設の建設を市民とともにおこなうことの意味を考察する。ＮＰＯ論、市民参加論もここで扱う。古い施設を市民の力で復活させた事例として NPO 法人福井芸術・文化フォーラムも考察する。	清水　裕之(名古屋大学大学院教授)	同　左
11	文化活動と地域コミュニティ	地域と文化活動とが連携してユニークなまちおこしを行っている事例を紹介し、文化活動と地域コミュニティの関わり、文化によるまちの活性化などについて論じる。 行政側からの町おこし、地域の組織からの町おこし、そして、アートＮＰＯ(都市型、事業体としてのアートＮＰＯ）のそれぞれの特徴を比較考察する。 岩手県湯田町銀河ホール、やまのて音楽祭、ＮＰＯ法人コンカリーニョ（札幌）、ＮＰＯ法人 Japan Contemporary Dance Network などを紹介する。	清水　裕之(名古屋大学大学院教授)	同　左
12	美術館と地域コミュニティ	地域とアーティストや美術館が連携してユニークなまちおこしを行っている事例を紹介しながら、アートによる町の活性化などについて論じる。	菊池　誠(元東京大学総合研究博物館客員教授)	同　左

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	国際交流とアーツマネージメント	海外との芸術文化交流をされている方をお招きして、その業務をアートマネージメントと言う観点から論じてもらう。 海外交流の理念と目的、意義 海外交流の手法（単独招聘、共同制作、合同制作、フェスティバルなど）	塩谷　陽子（ジャパン・ソサイエティー〔在ニューヨーク〕舞台公演部部長）	塩谷　陽子（ジャパン・ソサイエティー〔在ニューヨーク〕舞台公演部部長）
14	非営利投資とファンドレイジング	支援する側、支援される側 支援する立場から見たファンド・レイジングのキーポイントを説く。 非営利投資のリターンとは何かを考える。	加藤　種男（横浜市芸術文化振興財団専務理事）	加藤　種男（横浜市芸術文化振興財団専務理事）
15	文化政策の現状とこれから（国から地域から）	総括として、これまでの文化政策の流れを振り返り、地方分権時代の文化政策のあり方を示すとともに、官民市民協働の文化活動の要として公立文化施設のプラットフォーム機能の充実と、そのためのステップを考察する。	清水　裕之（名古屋大学大学院教授）	同左

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543300	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　企業統治と企業倫理（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　吉森　賢（放送大学教授）〕

講義概要

企業統治と企業倫理は続発する企業不祥事により日本において益々その重要性が強調されている。この講義は企業人あるいは企業に関心を有する受講生を対象とし、従業員が誇りとする企業、高い企業成果により他の利害関係者や株主が満足する企業を実現するために、企業統治と企業倫理が果す役割を究明する。米欧との比較により、日米英独仏の研究者とのインタビューにより、各国における企業統治と企業倫理の現状と問題点を理解し、その有効性を向上させるための諸改革の成果を分析、評価する。これにより日本企業が改善すべき問題は何かを明確にし、改善対策を考える手段を提供する。この講義は２００５年閉講した「日米欧の企業経営」を最新の状況に基づき、内容を更に発展させたものである。

授業の目標

この講義課目は現在または将来、日米欧において経営戦略、国際経営、法令順守・倫理規範の制度化、株主関係などを担当する社員、管理者を対象とする。また最高経営責任者や取締役会の補佐として、あるいは研究者として広い国際的視野により企業統治と企業倫理の現状とあるべき姿を設計するための実践的指針の提供を試みる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	企業統治と企業倫理 －ヘンリー・フォードの光と影	世界最大の自動車企業を創業したヘンリー・フォードの成功要因を企業理念、企業倫理、企業戦略の視点から分析し、１９２７年GMとの競争に敗れた原因を企業統治と企業倫理により説明する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	企業統治と企業倫理 －その意義と変革	日米欧における２０００年以降に生じた重大な企業不祥事の原因分析により、企業統治と企業倫理が重視されるようになった背景を理解し、日米欧における問題解決の方向を概観する。	同上	同上
3	企業は誰のものか －日本・アメリカ・イギリス	日本の従業員至上主義および米英の株主至上主義のそれぞれの建前と実態を実例により検討する。アメリカでも従業員至上主義により高業績を誇る企業があることを実例により紹介する。	同上	同上
4	企業は誰のものか －ドイツ・フランス	ドイツ、フランス、日本は従業員の雇用と会社自体の繁栄を重視するが、アメリカ・イギリスの株主利益至上主義による挑戦を受けている。いずれが企業価値を向上するのかを考察する。	同上	同上
5	所有構造と法的形態 －企業統治との関連性	大企業の所有構造は一国の歴史を反映し、異なる。それが会社の法的形態と中心的利害関係者にどのような影響を及ぼしたか、について５か国の比較による理解する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	取締役会改革 －アメリカ	サーベンス・オクスリー法に基づきアメリカの取締役会による企業統治有効性の改善成果とその限界を実証研究と研究者とのインタビューにより検証する。	同上	同上
7	取締役会改革 －イギリス	イギリスの取締役会改革の特質を概観し、アメリカとの相違を明確にし、それがドイツ、フランスに与えた影響を分析する。外取締役の独立性に関するヒッグス報告の意義を検討する。	同上	同上
8	取締役会改革 －ドイツ	ドイツの二層型取締役会と共同決定制度が企業統治の有効性に与える影響力を考察し、２００２年の「ドイツ企業統治規範」の実施状況とその有効性を評価する。	同上	同上
9	取締役会改革 －フランス	フランスの取締役会の固有性を単層型取締役会と二層型取締役会の選択性、最高経営責任者による取締役会会長職の兼務ないし分離の選択性と規定し、企業統治の有効性向上への影響を検証する。	同上	同上
10	取締役会改革 －日本	２００３年の商法改正による日本の取締役会改革の成果を検証すると同時に、その限界を指摘し、上記の米欧の改革の経験に照らして学ぶべき点と改善すべき点を提案する。	同上	同上
11	企業統治の効用 －有効性と経営成果	これまでの総括として、企業統治はどの程度その役割を果たすことができるのか、そして経営成果との間には関連性があるのか、という疑問について検討を加え、今後の課題を提示する。	同上	同上
12	内部統制制度 －目的と導入	企業統治の焦点は取締役会と同様に内部統制制度にも向けられつつある。その背景、目的、制度の内容そして実現の状況について概観し、今後の課題を展望する。	同上	同上
13	企業買収 －企業統治の視点	アメリカ的な企業買収が日本やドイツ、フランスにおいても増加しつつある。企業統治の視点から企業買収、特に敵対的買収が企業価値向上に果たす役割を考察する。	同上	同上
14	企業倫理 －その制度化	企業倫理の制度化は最高経営責任者の責任であるとの前提により倫理・行動規範の策定、企業倫理の担当部門の設置、教育と浸透、倫理監査、内部告発などに関する制度化の方法を提示する。	同上	同上
15	企業倫理 －実践と経営成果	企業倫理がどのように実践されているかをアメリカとドイツの企業の実例により示し、それが経営成果にどのような影響を与えるのかを理解し、魂のある企業とは何かを考える。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1541200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 企業戦略と企業文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉森　賢（放送大学教授）〕

講義概要

企業戦略は五つの経営者機能の中で長期的企業成果に重大な影響を及ぼす意思決定である。企業文化は企業理念と共に戦略の妥当性、策定と実施過程を決定付ける。この講義では経営環境の分析から、これに対応する事業領域の策定、企業活動の境界を決定する統合戦略、多角化、戦略提携、合併・買収、市場取引、グローバル戦略、そして企業文化と企業理念との関連を理解する。理解を容易にするため多くの日本および外国の事例、成功・失敗例を中心に説明する。この科目は開講中の「企業統治と企業倫理」(TV‘07)と関連性をもって設計されており、これにより経営者に要請されるすべての経営者機能の履修を完結する。

授業の目標

この科目は現在または将来、経営者の視点からグローバルな企業戦略の策定と実施、その推進母体としての企業文化と企業理念の形成と共有に活動に従事する経営者、管理者、戦略部門担当者、人的資源担当者、社員および研究者と社会人を対象とする。履修内容は企業戦略と企業文化における高度専門職業人のための実務上の指針として設計された。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	経営者機能	経営者機能における企業戦略と企業文化の意義と他の機能との関連性を理解する。長期的繁栄を実現してきた企業および破綻した企業の戦略と文化の共通性を解説する。	吉森　賢（放送大学教授）	吉森　賢（放送大学教授）
2	経営環境	企業戦略策定の第一歩は企業を取り巻く経営環境の分析と予測である。分析すべき環境要因を明らかにし、企業にとっての事業機会と脅威は何かを認識する技術を習得する。	同上	同上
3	事業領域	環境変化を事業機会に活用し、脅威を克服するために企業の人、物、金の現有資源の強み、弱みを把握し、特に中核技術を中心とする対応策を決定する過程を理解する。	同上	同上
4	垂直統合	最初に統合戦略の一般論を提示し、その諸形態を説明し、その一形態である垂直統合とそれから派生する上方統合と下方統合の戦略的利点とリスクを理解する。	同上	同上
5	準統合	準統合は日本の自動車、電気産業において多用される統合形態であり、垂直統合と市場取引の中間に位置する統合戦略である。その利点とリスクを理解する。	同上	同上
6	水平統合	水平統合は盛んになりつつある同業社間の合併、統合であり、これを規模の経済の実現、過剰設備の統合、廃棄そして敵対的買収に対する防衛対策などの視点から考察する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	競争戦略	企業間の競争が生じる要因を新規参入、代替品の出現、売手と買手の交渉能力その他の視点から分析し、企業が策定すべき競争戦略を事例により説明する。	吉森 賢(放送大学教授)	吉森 賢(放送大学教授)
8	多角化	多角化戦略とは製品・事業の寿命と企業の寿命を絶縁することである。多角化を成功させる要因を現有中核技術その他の経営資源と新規分野との関連性の視点から考察する。	同上	同上
9	戦略提携	戦略提携は競合企業間の協力関係という特異な戦略である。国際的にも国内でも多く生じている。その形態を理解し、戦略的利点とリスクをトヨタとGMの戦略提携により分析する。	同上	同上
10	合併・買収	企業買収は他社の経営資源と市場地位を迅速に自社に取込む手段として多用される。しかしこれは多くのリスクを内包する。成功するための企業買収戦略の要因を理解する。	同上	同上
11	市場取引	OEM、ライセンス、フランチャイジング、アウトソーシング、生産委託など契約により事業機会を捉え、費用を低減する戦略についてその利点と限界を理解する。	同上	同上
12	グローバル戦略	グローバル戦略を輸出、OEM, 国際ライセンス契約、合弁会社、子会社設立、現地企業買収などの視点からその選択基準とそれぞれの戦略的利点およびリスクを考察する。	同上	同上
13	企業文化と企業理念	企業文化と企業理念の関連性を明らかにし、企業文化を実例により説明する。官僚制化により危機的状況に至った企業の実例を通じて企業文化の重要性を理解する。	同上	同上
14	企業文化ー策定と共有	環境変化と企業の大規模化により革新的企業文化にも風化が生じる。これに対応するため企業文化はいかに刷新され、組織内に浸透されるかを成功事例により理解する。	同上	同上
15	最高経営責任者	企業戦略と企業文化における最高経営責任者の役割を整理し、これまでに取り上げた企業の事例から何を学ぶかを最高経営責任者の視点から総括する。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1542605	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　官民の人的資源論　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：原田順子　放送大学准教授　〕

〔主任講師（現職名）：奥林康司　摂南大学教授　〕

講義概要

日本の経済は、民間部門と公的部門に大きく分類される。それぞれの部門で働く人々の雇用管理がどのようになされているかは大きな関心事であると考えられる。しかしながら、一般的な人的資源管理論は民間部門を対象に解説されてきた。そこで、この授業では公的部門の人的資源管理が付け加えられている。さらに、日本の人材育成に関する行政の役割にも言及する。

授業の目標

授業は、人的資源管理を初めて学ぶ人が、この分野の体系を理解できるように構成されている。勤労者のみならず、人を雇う立場の人々も知るべきことがらが含まれている。この授業を通じて、自らが所属する組織の人的資源管理や、政策を評価する視点を養うことを目標とする。

履修上の留意点

印刷教材とテレビ放送教材は補完的な関係にある。テレビ放送の解説、ゲストのインタビューからも学ぶことが多いので、放送も視聴していただきたい。また、15回の講義ですべてを網羅することは困難であるから、深く知りたい人は参考文献にも手を広げることをお勧めする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人的資源管理とは	人的資源管理とはどのようなことを意味するのか。民間企業の人的資源管理と行政組織における人的資源管理はどのよに異なり、あるいはどのよな共通性がるのか。それらは相互に全く違うものか、あるいは相互に接近しうるものか。相互の関係を検討する。 【キーワード】 人的資源、終身雇用、人的資源管理の3機能、独立行政法人	奥林康司（摂南大学教授）	原田順子（放送大学准教授） 奥林康司（摂南大学教授）
2	企業の雇用管理	民間企業において雇用形態はいかに多様化しているか。行政組織のそれと比較した場合に、それはどのような特徴があるのか。企業は雇用の多様化をどのように考えているのか。雇用継続と一体化した管理職昇進に対し、企業はどのように考えているのか。エンプロイヤビリティはどのよに考えられるのか。 【キーワード】 雇用形態の多様化、年次管理、フラット型組織、エンプロイヤビリティ	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）
3	教育訓練の新動向	1990年代において昇進の頭打ちを示す「キャリア・プラトー」は現実にどのような状態であるのか。社内公募制度はどのように運営されているのか。キャリアを自分で選択していく自立型キャリア制度は現実にどのように実行されているのか。 【キーワード】 キャリア・プラトー、社内公募制、自立的キャリア制度	奥林康司（摂南大学教授）	奥林康司（摂南大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	新しい人事考課の動向	従来の職能資格制度の下ではどのような人事考課制度が行われていたか。目標管理制度は業績評価の仕組みとしてどのように利用されているか。目標管理制度はどのように運営されているか。業績評価が公平になるようにどのような配慮がなされているか。評価の公平性についてどのような議論がなされてきたか。 【キーワード】 人事考課、職能資格制度、目標管理制度、評価の公平性	奥林康司(摂南大学教授)	奥林康司(摂南大学教授)
5	報酬制度	成果主義賃金はなぜ普及しているのか。年功賃金にはどのような限界が在ったのか。成果主義賃金としての役割給制度は具体的にどのように運営されているのか。目標管理制度と成果主義賃金はどのような関係にあるのか。成果主義賃金に社員は納得しているのか。成果主義賃金の逆効果としてどのようなものが出てきているのか。 【キーワード】 年功賃金、成果主義賃金、管理職年俸制、役割給、職務価値	奥林康司(摂南大学教授)	奥林康司(摂南大学教授)
6	モチベーションとリーダーシップ	人的資源管理が前提としていた人間モデルにはどのようなものがあるのか。モチベーションの理論として従来ではどのようなものが開発されてきたか。リーダーの役割としてどのような行動が求められているか。リーダーシップの理論としてのPM理論はどのようなものか。 【キーワード】 経済人モデル、自己実現人モデル、欲求5段階理論、PM理論	奥林康司(摂南大学教授)	奥林康司(摂南大学教授)
7	ダイバーシティ・マネジメント	従来、フルタイムで働く日本人男性正社員(職員)が組織の中心に据えられてきた。ところが近年になり、男性とは異なるライフ・サイクルをもつ女性を無視することはできなくなってきた。また、雇用形態の多様化が進展し、パート、派遣社員などの戦力化が真剣に行われ始めた。多種・多様な人材の管理(ダイバーシティ・マネジメント)を解説する。 【キーワード】 正社員、非正社員、ダイバーシティ・マネジメント	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
8	公的部門で働く人々	わが国の公的部門には、どのような種別があり、どれくらいの人数が働いているのだろうか。公的部門で働く人々の全体像をとらえる。また、公務員に関する歴史、公的組織の特徴についても触れる。 【キーワード】 公的部門、職種、人数	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
9	国家公務員の人的資源管理	国家公務員の採用・昇進・異動はどのような体系と慣行をもつのか。他組織との人事交流の現状はどうなっているのか。採用試験別に管理体系が異なるのか。国家公務員の人事管理について多面的に学習する。 【キーワード】 国家公務員、採用試験、人事管理	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
10	地方公務員の人的資源管理	地方公務員の特徴と最近の動向について解説する。たとえば、先進的自治体の人事施策を例に、採用・昇進・異動の新しい動向をみる。 【キーワード】 地方公務員、先進的とりくみ	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	独立行政法人における人的資源管理	独立行政法人の1つとして平成17年より施行された(独)大阪府立大学および平成18年より施行された大阪府立病院機構は、行政組織とは異なり、どのような仕組みで運営されているのか。そこには経営効率を高めるどのよな仕組みが導入されているのか。人的資源管理の新しい仕組みとしてどのような制度が導入されているのか。 【キーワード】 独立行政法人、ニュー・パブリック・マネジメント、評価委員会、業績評価制度	奥林康司(摂南大学)	奥林康司(摂南大学)
12	労使関係	労働組合とは何か、その影響力、組織率など、労使関係の基礎を学習する。わが国の特徴である企業別組合や、産業別組合など労働組合の全体像を把握する。また、公務員の労使関係も学ぶ。 【キーワード】 労働組合、労使関係	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
13	世界の公務員	外国の事例を紹介しながら、公務員制度改革、公務員の人事管理について学ぶ。 【キーワード】 外国、公務員制度改革、公務員人事管理	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
14	日本の人的資源政策(1)	日本における人材の育成に関して行政が担うべき役割を考える。特に、公的職業訓練、公的職業資格の整備について学習する。ニート対策事業、若者の職業訓練についても触れる。 【キーワード】 公的職業訓練、公的職業資格、ニート対策事業	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)
15	日本の人的資源政策(2)	官民の連携による人材育成の事例として、船員の養成をとりあげる。現在、日本の海運は多くの外国人船員によっている。船員養成の仕組みに関して、独立行政法人航海訓練所、民間企業がどのように連携しているかを紹介する。 【キーワード】 官民の連携、人材育成、外国人船員、海運	原田順子(放送大学准教授)	原田順子(放送大学准教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543407	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ NPOマネジメント（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：齋藤　正章（放送大学准教授）〕

講義概要

今日、今までにない速度で社会が変化し、明治近代国家誕生後に形成された既存のシステムでは対処できない様々な問題が生まれている。なかでも政府・自治体がこの変化に対応できず、公的サービスの提供に限界が見え、担い手の多様化が強く求められている。こうした中で地域社会における福祉施設の経営等のサービス供給、まちづくりや環境保全、国際協力等を進める民間非営利組織(NPO：Non-Profit Organization)の活動が活発に展開されてきている。こうした背景と組織経営の実態及び課題を理解する。

授業の目標

公的サービスの担い手として日々に重要性を増しているNPOの設立、経営、業績評価等について、具体例の紹介を通して説明する。住み易く豊かな地域社会が多数の住民の参加によって実現する道筋を考えてみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	民間非営利組織とは	わたし達の生活は、法律に基づいて国や自治体が実施する行政や司法の大きな枠組の中で営まれている。各世帯は町内会や自治会等の地縁組織を媒介して行政が提供する様々なサービスを受け取ってきている。一方、こうした既成の枠組に囚われずに、ボランティア活動や、市民（住民）活動を進める組織が誕生し、時には行政と連携し様々な活動を行い、その存在感が大きくなっている。こうした市民（住民）活動が生まれる背景を述べる。	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）
2	法人格を取得した非営利組織の活動	わが国においてボランティア活動が育ってきた背景を社会福祉協議会との関連で説明する。次に、行政と連携した活動を行うNPO法人の事例として環境ネットワーク埼玉を取り上げ、事業内容や組織運営について述べる。	同上	同上
3	非営利組織のアカウンタビリティ	非営利組織が社会に広く受け容れられるには、その目的（活動理念）を明確にし、その活動の成果を開示する説明責任があると考えられる。また、非営利組織といえども必要経費をカバーする位の採算性が求められるであろう。 会計学のアプローチを用いて非営利組織の特徴をカネの面から明らかにしていく。	齋藤　正章（放送大学准教授）	齋藤　正章（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	特定非営利活動法人の経営と事業評価(1)	特定非営利活動促進法(いわゆる NPO 法)に基づく狭義の NPO 法人の特徴を捉える。NPO 法が定める非営利の内容、NPO 法人の設立、組織構成、人材の確保等組織の経営や税法上の特色について述べる。また、認定 NPO 法人についても学ぶ。	齋藤 正章(放送大学准教授)	齋藤 正章(放送大学准教授)
5	特定非営利活動法人の経営と事業評価(2)	第4回の議論を受けて、内閣府国民生活局のデータ等を使いながら、経営内容の分析を行う。 また、申請受理数の推移、組織の規模、活動領域別法人数、活動内容、社員数の規模、及び情報公開の状況等の分析も併せて行う。	同上	同上
6	非営利組織支援のためのインフラ整備	NPO 支援のためのインフラ整備の概要を述べる。活動に資金を提供する助成団体として公益法人や NPO を支援する NPO の目的、運営、経営、財政等の要点を述べる。	同上	同上
7	まちづくり等地域に密着した活動	7回から 10 回までは、主たる活動分野別に具体例を通して、組織の経営、運営の課題を考える。身近な生活の場において NPO 法人が設立された背景、自治体や他の組織との連携等を見る。 7回では、景観の保全やまちづくり、地域の活性化等を主たる活動分野とする NPO を扱う。また、NPO と行政との連携を考える。	河合 明宣(放送大学教授)	河合 明宣(放送大学教授)
8	保健・医療・福祉の増進	社会教育の推進、子どもの健全育成や福祉施設等を経営するサービス供給型等の NPO について概略を述べる。 地域における生活支援活動に携わる福祉 NPO を取り上げ、理念、経営のあり方や課題について考察する。	同上	同上
9	環境の保全を図る NPO	環境の保全活動を行う二つの任意団体を紹介する。環境と調和した適正技術や社会技術の研究・普及等を主要活動分野とする NPO について経営の課題を探る。 地域の中小規模水道に対する水道技術サービス提供や運営支援を行う NPO を取り上げる。	同上	同上
10	国際協力	発展途上国を対象とした国際協力では、NGO(非政府組織)と呼ばれる民間非営利組織の活動がある。 農村貧困層の組織づくり、人づくりの観点からバングラデシュ、ネパールで活動している NGO・シャプラニール等を中心に、国際協力の分野での組織運営の課題を検討する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ボランティア・グループ、市民(住民)活動団体	11回から13回までは、NPO法により法人組織化されたものとは別の組織形態による非営利組織の特色を考える。 11回は、主に住民の日常生活の範囲で生活に根ざした活動を行う任意団体を取り上げる。佐渡において、トキとその生息地の保護活動を目的とするボランティア・グループについて、地域住民組織の特徴と意義を述べる。	河合　明宣(放送大学教授)	河合　明宣(放送大学教授)
12	公益法人の活動とその特徴	社団法人は、「一定の目的のもとに結合した人の集合体で団体としての意思、組織を持ち、社員と別個の社会的存在として団体の名において行動するもの」である。財団法人は、「一定の目的のもとに拠出され、結合されている財産の集まりで公益を目的に管理運営されるもの」である。日本山学会(自然保護委員会)と日本自然保護協会を事例として取り上げる。	同上	同上
13	生活協同組合	消費者が自らの生活向上を目指し、資金を出し合い生活物資の購買等の事業を運営する協同組合組織がある。これは1948年施行の消費生活協同組合法により設立された。地域生協と職域生協がある。協同組合組織の概略を述べ、生協の課題について検討する。	齋藤　正章(放送大学准教授)	齋藤　正章(放送大学准教授)
14	非営利組織の経営改革	任意団体であれ、法人格を取得した組織であれ、構成員が主体的に参加し、組織が目的としている活動を持続させるのは容易ではない。構成員が生き生きと活動し、組織が再生産されるために財政上の安定と魅力ある理念を掲げるリーダーシップが必要である 今日の非営利組織経営改革の課題について述べる。	同上	同上
15	民間非営利組織が目指すもの	日本の町内会や自治会等の既成の住民組織とか地縁組織でなく、非営利で社会貢献を目的とする新しい組織の凝集力や永続性は何に依存するのか。事例のまとめを通して非営利組織経営の課題を整理し、地域社会と国際社会の展望を考える。	河合　明宣(放送大学教授)	河合　明宣(放送大学教授)

＝　アグリビジネスと農業・農村（‘０６）＝（Ｒ）

—多様な生活への貢献—

〔主任講師（現職名）：稲本　志良（龍谷大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：桂　　瑛一（信州大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）　〕

全体のねらい

一方で経済のグローバル化、他方で食料消費の多様化・高度化、新しいライフスタイルへの期待を背景として、様々な観点からアグリビジネスの重要性が増大している。そのアグリビジネスは、農業、資材産業、食品加工業、流通業、外食産業などの各種の生産及びサービス産業を包摂し、それらは相互の連関を密接にしている。

また、豊かな食生活や心の豊かさを育むグリーンライフにも貢献するアグリビジネスは、農業を核とした展開が求められている。しかし、そのために解決すべき課題も少なくない。

本講義は、以上の諸点を体系的に述べることを内容とするが、アグリビジネスを構成する個々の産業の実体、なかでも農村の実体にも立ち入り、生活実感にも結びつくよう配慮するとともに、国際的な視点も交えて論じることを狙いとしている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代のアグリビジネスを考える	現代社会における食生活は多くの産業によって支えられており、それらをアグリビジネスという総体として捉えることが重要になっている。この間、アグリビジネスは、それを構成する国内産業の発展とそれらの間の連関を深め、国際的次元では競争と連携を強めてきている。また、アグリビジネスにおける農業・農村の役割に注目することが重要になってきている。これらのことに注目して、消費者の安心・安全で多様な食生活を持続的に実現していくという観点から基本的問題を取り上げて解説する。	稲本・志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
2	統計でみるアグリビジネスの世界	先ず、広範な産業領域を含むアグリビジネスの世界を統計によって把握する方法について概説する。その上で、アグリビジネスを川上（農業資材産業）、川中（農業）、川下（農産物及び食品の通・加工、外食産業）の流れに沿って把握し、実際の公表統計から得られる具体的な統計数値・指標を基にアグリビジネスにおける産業の有り様と連関とを経済計算に着目しつつ概観する。	小田　滋晃（京都大学教授）	小田　滋晃（京都大学教授）
3	アグリビジネスのなかの農業	アグリビジネスのなかで、農業はどのような産業的特質を有し、川上・川下産業とどのような産業的連関をもって展開しているか、更に、農業はそのなかでどのような役割を担っているか。また、アグリビジネスのなかで農業が有するこれらの産業的特質、産業的連関、産業的役割は時代とともにどのように変化してきているのだろうか。これらのことについて現実を示しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	技術革新と新しい農業の展開	品種、栽培・飼養技術、肥料・機械施設などの開発・改良といった技術革新は、農業の発展にとって最も重要な要因の１つである。その技術革新は、公的機関、農業者自身、川上・川下産業による技術開発など、多様な形態で行われている。このような技術革新が契機になって、多様な方向の新しい農業が展開している。これらの諸点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
5	多角化と新しい農業の展開	農産物の生産を中心に農業経営を行ってきた農家は、近年になって、農産物の生産だけでなく、加工、直売、農家レストラン・民宿など、事業の多角化を進めている。また、このような事業の多角化は、大規模な共同農業法人が登場し、これらと食品加工産業、食品流通産業、外食産業との連携が契機になって進められている。これらの点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
6	多様な新規参入と新しい農業の展開	従来、農家においては、その長子による経営継承が一般的であった。しかし、近年、農家における非長子子弟、子女による経営継承、非農家子弟の農業参入による農業経営の創設、大規模な共同農業法人における雇用という形態での農業参入などの新規参入も進んでおり、新しい農業の展開がみられる。これらの点について具体的事例に注目しながら概説する。	稲本　志良（龍谷大学教授）	稲本　志良（龍谷大学教授）
7	グリーン・ツーリズムと農村振興	グリーン・ツーリズムを楽しむ人にモノやサービスを供給するのがアグリビジネスとしてのグリーン・ツーリズムである。農村の文化や自然に触れ、心豊かなものを育もうとする気運の高まりを背景に台頭してきた。ここでは、グリーン・ツーリズムとは何であるかを考え、わが国におけるグリーン・ツーリズムの動向を概観し、農村振興に貢献するグリーン・ツーリズムのあり方について検討を加える。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）
8	アグリビジネスのなかの農協	農協は、農業者の共同経済活動の事業体であり、農業者の競争力を強化し、取引相手と対等に取引することを可能にし、必要に応じて経済活動を垂直的に統合することを目的とする。農業者自らが出資し、経営する仕組みになっており、一般企業とは相対的に異質の機能を発揮する存在である。農協の歴史と現状を概観し、農協の特質や直面する問題点、今後の方向について概説する。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	産地のマーケティングと消費者	消費者のニーズに応え、高い評価を得るために、農業者が個別または共同で営む活動が産地のマーケティングである。マーケティングを適切に行うには、ニーズを正しく把握するだけでなく、産地の情報を消費者に的確に伝えることが重要である。産地マーケティングの現状を検討し、産地マーケティングの特質と戦略課題を明らかにするとともに、産地と消費者の利害関係について解説する。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）
10	食品流通業の発展と取引活動	食品流通業は、卸売業と小売業に大別され、両者は取引関係を形成している。流通業は、生産者、消費者とも取引で結ばれており、取引活動を通して食品を流通させることに貢献している。ここでは、食品流通において流通の段階が果たしている役割を明らかにし、小売業者と卸売業者の取引活動の現状と特質ならびに今後の課題について述べる。	桂　瑛一（信州大学名誉教授）	桂　瑛一（信州大学名誉教授）
11	食品製造業の発展と食品の多様化	食品製造業は、品目により大企業寡占と多数小企業の原子的な競争構造にわかれ、技術の状態も異なる。そして、各部門間の結びつきも多様である。このような産業組織下での、製品の多様化や高付加価値化、衛生・安全性などの品質問題、原料生産者との取引関係、さらに輸入原料への依存構造について述べる。	新山　陽子（京都大学教授） 清原　昭子（中国学園大学講師）	新山　陽子（京都大学教授）
12	外食産業の発展と食生活の変貌	一大産業となった外食産業には、個人経営による食堂・喫茶店のような小規模な飲食店と、ファストフード、ファミリーレストランチェーンにみられるような国内外の大規模資本とそのノウハウによって発展したチェーン店がある。近年は弁当・惣菜業に代表される中食部門の伸長が著しい。このような部門や業態の拡大と食生活の変化、食材の調達にみる農業とのつながりについて述べる。	清原　昭子（中国学園大学講師） 新山　陽子（京都大学教授）	清原　昭子（中国学園大学講師）
13	食の安全とフードシステム	現代社会では、病原性微生物による食中毒、人畜共通感染症、化学物質による食品汚染など、食品由来の人間の健康へのリスクが著しく高くなっており、農場から食卓までの一貫した食の安全確保システムの構築が求められている。そうしたリスクへの対処の考え方や必要なシステムについて説明する。	新山　陽子（京都大学教授） 清原　昭子（中国学園大学講師）	新山　陽子（京都大学教授
14	アグリビジネスの展開と国際化―欧米諸国の場合―	わが国のアグリビジネスが発展する過程で、欧米諸国のアグリビジネス、特に多国籍企業との間で、一方では競争関係の激化、他方では業務の連携関係の強化が進んでいる。こうした欧米諸国におけるアグリビジネスの動向と特質について述べる。	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	アグリビジネスの展開と国際化ーアジア諸国の場合ー	わが国のアグリビジネスが発展する過程で、アジア諸国への食品産業の工場進出が活発に展開しており、現地諸国の農業や食品産業との競争や連携が強まっている。こうしたアジア諸国におけるアグリビジネスの動向と特質について述べる。	河合　明宣（放送大学教授）	河合　明宣（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1543113	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　組織運営と内部監査　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：放送大学准教授　齋藤正章　〕

〔主任講師（現職名）：北海道大学教授　蟹江章　〕

講義概要

組織運営の成否を決めるのは内部監査の成否であると言っても過言ではない。本講義では、組織の外にいてはなかなか実感する機会がない内部監査について、その目的や手続きの実際について多面的に検討することによって、内部監査の重要性を理解することを目的とする。また、すでに組織運営に携わっている人には、内部監査についての再整理と新たなる知見を与えるものと期待される。

授業の目標

内部監査は会計と同様、「縁の下の力持ち」的な存在である。組織運営が順調な時には、改めてそれを意識することはないが、一旦、不祥事等問題が生じたときには、その存在がクローズアップされるのである。しかし、問題が生じてからでは遅いのである。日頃から内部監査に対する意識を高め、それに磨きをかけることが大切である。本講義の目標は、内部監査の意義と役割を踏まえ、様々な組織における内部監査のあり方について理解を深めることにある。

履修上の留意点

本講義は経営や法律、会計、技術といった多面的な要素を含んでいるため、関連科目についても広く学ぶことが重要である。よって、「経営学入門」、「企業統治と企業倫理」、「会社法」、「NPOマネジメント」、「現代の会計」といった科目の履修が望まれる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	組織運営における内部監査の重要性の高まり	組織は、活動後、その運営が目的に適ったものであったかどうかを確かめなくてはならない。あるいは、より積極的に事前にレールを踏み外すことがないような仕組みを作ることが重要である。これらの機能を担う内部監査の意義・内容について解説する。 【キーワード】 経営者の役割、コーポレート・ガバナンス、内部監査、経営環境の変化	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章 北海道大学 教授 蟹江章
2	内部監査の歴史と内部監査基準	内部監査はいつ発生し、どのように発展してきたか。内部監査の歴史について解説する。また、内部監査の指針となる国内外の内部監査基準についても説明する。 【キーワード】 内部監査人協会、国際基準、日本内部監査協会、内部監査基準	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
3	内部監査と法定監査	内部監査の役割を鮮明にするために、内部監査と法定監査（外部監査、監査役監査）の異同について考察する。また、この三様監査の役割と関係の変化について解説する。 【キーワード】 内部監査、外部監査、監査役監査	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	内部統制と内部監査	内部統制概念の変遷と法制化された財務報告に係る内部統制評価・監査基準について解説し、それと内部監査との関わりについて考察する。 【キーワード】 内部統制、SOX法、金融商品取引法	早稲田大学 教授 鳥羽至英	早稲田大学 教授 鳥羽至英
5	内部監査の要件	内部監査の要件とは何か。内部監査人の備えるべき資質、責任と権限、専門的能力、品質評価といったの切り口から多面的に検討する。 【キーワード】 倫理, 独立性、客観性、品質評価	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
6	内部監査の手続①	内部監査の手続きについて、内部監査の構成要素と流れについて解説し、リスクの評価 、監査計画の策定について紹介する。 【キーワード】 制度設計、リスクの評価、監査計画	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
7	内部監査の手続②	内部監査の手続きについて、前回の流れを受けて、事前準備、往査、現地講評会といった各種手続きの実際について解説する。 【キーワード】 事前準備、往査、現地講評会	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
8	内部監査のケース・スタディー多国籍企業編	前2回の内部監査の手続をもとに、多国籍企業における内部監査のケース・スタディを行う。成功事例・失敗事例を通じて内部監査のあり方を検討する。 【キーワード】 多国籍企業、国際経営、アカウンタビリティ、ディスクロージャー、コンプライアンス	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
9	内部監査のケース・スタディー大企業編	国内の大企業における内部監査のケース・スタディを行う。成功事例・失敗事例を通じて内部監査のあり方を検討する。 【キーワード】 大会社、会社法、アカウンタビリティ、ディスクロージャー、コンプライアンス	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
10	内部監査のケース・スタディー中小企業編	中小企業の内部監査と、大企業の内部監査は基本的な思考は共有しつつも、規模等の違いによって手続面で大きく異なってくる。そこで、中小企業の内部監査はどうあるべきかについて中小企業の内部監査についてケーススタディを行う。 【キーワード】 中小企業、コーポレート・ガバナンス、会計参与、アカウンタビリティ、利害調整	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	情報システム監査	情報システムに係るリスクとコントロールを明らかにし、情報システム監査の必要性・意義・目的および情報システム監査の実施方法と要点について解説する。 【キーワード】 情報システム、情報システム監査、リスクとコントロール	日本ユニシス シニア・ マネージャー 吉武　一	日本ユニシス シニア・ マネージャー 吉武　一
12	コンプライアンスと内部監査	国内外を問わず、企業の違法行為が後を絶たない。こうした行為を未然に防ぐにはどうしたよいのであろうか。コンプライアンス概念の変化について解説し、コンプライアンスに係る内部監査の役割について明らかにする。 【キーワード】 コンプライアンス（法令遵守）、CSR（企業の社会的責任）、社会的規範、企業倫理	北海道大学 教授 蟹江章	北海道大学 教授 蟹江章
13	リスク・マネジメントと内部監査	組織は様々なリスクに晒されている。組織運営上の様々なリスクについて明らかにし、危機管理の思考とビジネス・リスク・マネジメントについて検討する。 【キーワード】 組織運営上の様々なリスク、危機管理、ビジネス・リスク・マネジメント	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章
14	非営利組織における内部監査	営利組織同様、非営利組織についても内部監査は重要である。営利組織と非営利組織の内部監査の異同を明らかにしながら、非営利組織の内部監査について検討する。 【キーワード】 国、官公庁、自治体、学校、NPO	早稲田大学 教授 大塚宗春	早稲田大学 教授 大塚宗春
15	組織運営と内部監査の将来像	今後、組織運営における内部監査はますます重要になってくると考えられる。そこで内部監査の課題や国際的潮流、職業的専門家としての内部監査人の養成等について検討する。 【キーワード】 内部監査の課題、国際的潮流、内部監査人	放送大学 准教授 齋藤正章	放送大学 准教授 齋藤正章 北海道大学 教授 蟹江章

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1548808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　社会技術概論（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：小林　信一（筑波大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：小林　傳司（大阪大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：藤垣　裕子（東京大学大学院准教授）〕

講義概要

科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究ための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。

授業の目標

いくつかの事例や歴史の理解を通じて「社会のための科学技術」の考え方を学ぶとともに、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー、科学技術と市民参加、科学技術と倫理などの横軸となる視点を理解する。また、これらの基盤となる理論側面についても理解を促す。これらのテーマを通じて、社会技術の基本的事項について理解することを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会の中の科学技術、社会のための科学技術	科学技術は人々に利便性をもたらすと同時に、生活や環境に悪影響を及ぼす可能性もある。また、社会的問題の解決に科学技術の貢献が求められる場合も少なくない。ここに「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」が登場する。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）
2	BSEの経験	科学技術と社会の相互関係の事例として、1990年代にイギリスで発生したBSE問題を取り上げる。BSE問題において科学者・行政はどのような役割を演じたのであろうか。また、その後、日本で発生したBSEについての対応にも触れることにする。	小林傳司（大阪大学教授）	小林傳司（大阪大学教授）
3	安全な社会をデザインする	人々が安全に生活する上で、食品、医薬品、化学物質の安全、交通安全、災害対策、感染症対策など多様な安全対策のためのシステムが必要である。これらのシステムを構築するために科学技術はどのような形で貢献しているのだろうか。	小林信一（筑波大学大学院教授）	小林信一（筑波大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	先端科学技術と社会	先端的な科学技術は、ときとして人々の価値観とのあいだで葛藤を引き起こす。ナノテク、バイオ、脳科学、ユビキタス技術などの分野で危惧されていることは何か。それらの問題に対して科学技術自身、社会はいかに対処すべきか。遺伝子組換え食品、ナノテクノロジーを例に考える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
5	社会のための科学技術−その歴史	冷戦の終焉により、社会における科学技術の位置づけは大きく変わった。1999年の世界科学会議では科学技術者自身が「社会の中の／社会のための科学」を提唱するにいたった。社会技術の考え方を歴史的に捉える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
6	科学技術と社会のコミュニケーションをデザインする	科学技術は高度な研究活動であるが、同時に多くの人々の生活に大きな影響を与える。専門家は社会とどのようなコミュニケーションを図っていくべきであろうか。日本で始まったいくつかの取り組みを具体的に紹介する。	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
7	これからの科学技術リテラシー	科学技術が生活に浸透した社会で一般市民にはどのような科学技術リテラシーが求められるだろうか。それは従来のリテラシー観とどこが異なるのか。これからの科学技術リテラシーを考えることは、どのような市民社会を標榜するかということと強い関係があることも含めて考える。	小川正賢(神戸大学教授)	小川正賢(神戸大学教授)
8	科学技術と市民参加	科学技術が社会で利用される際に、市民はどのような関わり方をすべきであろうか。日本で行われたコンセンサス会議や市民と専門家の間のさまざまな対話の試みを紹介し、その現状と課題を考える。	小林傳司(大阪大学教授)	小林傳司(大阪大学教授)
9	科学技術と民主主義	科学および技術と民主主義がそもそもどのような関係にあるのかを理論的に考えてみる。さまざまな利害関係者によって構築される「公共空間」の考え方を示し、第8回の授業で扱った「市民参加」の意味をもう一度とらえ直す。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
10	知識・権力・政治	科学者にとっても解明途中であり、科学者にも長期影響が予測できないようなグレーゾーンで、何らかの公共的意思決定を行う必要がでてきている。知識が権力として作用することの意味、知識政治学について概説する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	社会に役立つ知識とは	グレーゾーンにおける社会の意思決定において役立つ知識とは、どのようなものなのか。モード論、社会的に頑強な知識、サービス科学、規制科学、といったいくつかの概念を紹介しながら考え、これら知識のもつ責任についても考察する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
12	科学技術と公共政策	社会技術と政策との関係について検討する。社会技術の実現のためには、従来の科学技術振興政策とは別に、「政策のための科学技術」の振興や「社会の中の／社会のための科学技術」そのものの振興が必要になってくる。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
13	海外の社会技術	「社会の中の／社会のための科学技術」を指向したさまざまな活動が世界中で展開されている。それらを紹介しながら、「社会の中の／社会のための科学技術」の意味を再評価する。	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)	藤垣裕子(東京大学大学院准教授)
14	科学技術と倫理の新次元	科学技術の発展と人々の価値観や倫理観とのあいだの葛藤は科学技術の発展に抑制的に働くこともあれば、新しい倫理観の構築が必要になる場合もある。科学技術と社会の調整過程に出現する新しいタイプの倫理問題とその実現のための方策について考える。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)
15	社会技術のこれから	これまでに紹介されなかった論点について概観するほか、「科学技術は誰のものか」「誰が専門家か」といった、社会技術が既存の科学技術活動、社会経済活動に投げかける問題について総合的に論ずる。あわせて残された課題を指摘する。	小林信一(筑波大学大学院教授)	小林信一(筑波大学大学院教授)

＝　エネルギー工学と社会（‘０６）　＝（TV）

〔主任講師（現職名）：内山　洋司（筑波大学大学院教授）〕

全体のねらい

産業活動と人々の生活を支えているエネルギー。私たちは、普段、エネルギーを空気や水のように無意識に使っている。世界のエネルギー消費は20世紀に入って急増し、過去100年間で15倍以上にまで増大している。そのエネルギーの大半は化石燃料で供給されており、燃料価格の高騰や将来の資源枯渇、それに燃焼による大気汚染や地球温暖化が懸念されている。増加の勢いが止まらない経済発展と世界人口、21世紀の世界が持続可能な発展を遂げていくには、原子力や再生可能エネルギーといった代替エネルギーの開発、それにエネルギーの供給と消費において無駄のない工夫が求められている。本講義は、エネルギーに関心のある人々を対象にエネルギー工学の立場から社会のエネルギー問題について理解を深めてもらうことを目的としている。

Ⅰ．総論

第１章　人類とエネルギー

Ⅱ．エネルギー需要

第２章　社会のエネルギー消費

第３章　エネルギー消費構造と省エネルギー

Ⅲ．エネルギー供給

Ⅲ－１　供給の要件と変換理論

第４章　エネルギー供給の基本要件

第５章　エネルギー変換と熱力学

Ⅲ－２　資源と技術・システム

第６章　資源分類と化石燃料資源

第７章　化石燃料の特性と転換技術

第８章　核燃料と原子力発電

第９章　核燃料サイクルと放射線

第10章　再生可能エネルギーと発電技術

第11章　エネルギーの輸送と貯蔵

第12章　新エネルギーと分散型技術

第13章　エネルギーシステムの総合的分析

Ⅳ．エネルギー問題と将来展望

第14章　地球環境問題と温暖化対策

第15章　エネルギーと持続可能な発展

回	テーマ	内容	執筆担当講師名 （所属・職名）	放送担当講師名 （所属・職名）
1	人類と エネルギー	エネルギーは、社会の産業活動と人々の生活に不可欠となっている。産業革命以降の経済発展はエネルギーの大量消費に依存している。人類はその長い歴史の中で、エネルギーをどのように利用して社会を発展してきたか、エネルギーの歴史について述べる。また増加し続けるエネルギー消費によって現代社会が直面しているトリレンマ問題について解説する。	内山　洋司 （筑波大学大学院教授）	内山　洋司 （筑波大学大学院教授）
2	社会の エネルギー消費	エネルギーは現代社会の物質的豊かさと快適さを維持する源となっている。機械化、自動化、情報化など省力化が進む工場や事務所、車、ジェット機など高速化が進む輸送機関、冷蔵庫、エアコン、テレビなど電気製品の普及・・・。現代社会の発展のほとんどが、エネルギーに依存している。今日の経済活動は、こういった技術や製品の進歩によって営まれており、経済の発展は社会のエネルギー消費の増大につながっている。私たちの身近な生活で使われているエネルギーと、わが国のエネルギー消費の実態について説明する。	同上	同上
3	エネルギー消費構造と省エネルギー	第２回目の講義に引き続き、わが国のエネルギー消費構造を産業、民生、運輸の各部門について詳しく説明する。エネルギーの無駄を少なくしていくためには、省エネルギー型の社会基盤施設の整備、高効率機器の普及、そして人々のライフスタイル変化が必要になる。また、産業、運輸、民生の各部門における省エネルギー対策と実現の可能性について解説する。	同上	同上
4	エネルギー供給の基本要件	エネルギー資源には化石燃料、核燃料、再生可能エネルギーがある。それらを使って社会に安心できるエネルギーを供給していくためには、資源の採掘、輸送、貯蔵、変換、利用、さらに廃棄物処理などの工程で安全かつ効率的な技術を開発していかなければならない。ここでは、各種エネルギー資源についてエネルギーの基本要件からそれぞれの特徴を解説する。	同上	同上

5	エネルギー変換と熱力学	エネルギー資源は、熱、動力、電気など二次エネルギーに変換され利用されている。社会で利用されている動力機械の多くは熱機関である。ここでは、エネルギー変換の基礎的な物理法則と熱力学を学び、各種熱機関の熱サイクルと熱効率の求め方を理解する。	同上	同上
6	資源分類と化石燃料資源	エネルギーは資源面から化石燃料、核燃料、再生可能エネルギーに大別できる。化石燃料と核燃料は枯渇性資源であるが、再生可能エネルギーは非枯渇性資源である。エネルギー資源の中で、化石燃料は現在、主要なエネルギー供給源となっており、その資源の分布や埋蔵量、あるいは可採年数などを理解することが大切である。ここでは、エネルギー資源の分類方法を説明するとともに、枯渇性資源である化石燃料の埋蔵量と枯渇問題について解説する。年々増加し続けている世界のエネルギー消費。また、石油、天然ガス、石炭について世界の消費、生産、貿易の現状を理解する。	同上	同上
7	化石燃料の特性と転換技術	世界のエネルギー消費の約９割は化石燃料である石炭、石油、天然ガスによって供給されている。化石燃料は、今後とも社会の主要燃料として位置づけられている。ここでは、化石燃料の変換・転換技術について、技術の特徴と開発動向を説明する。また、脱硫、脱硝など環境対策技術について解説し、エネルギー効率の向上を図る具体的な技術開発について展望する。	同上	同上
8	核燃料と原子力発電	原子力発電はわが国の電力量の約３割を供給する主要な電源である。ここでは、最初に核燃料の特徴と資源量を説明する。次に、核分裂の簡単な基本原理を学び、軽水炉発電技術とその安全対策について説明する。また、将来の原子力技術として期待されている高速増殖炉と核融合炉を紹介する。	同上	同上
9	核燃料サイクルと放射線	天然ウランの 99.3%を占めるウラン(238)を有効に使っていくためにはプルトニウムの利用が不可欠となる。ここではプルトニウムを有効に使う核燃料サイクルの仕組みと開発動向について解説す	同上	同上

		る。また、使用済燃料に含まれている放射性物質から放出される放射線とその取り扱い方法についても解説する。		
10	再生可能エネルギーと発電技術	地球に降り注ぐ太陽エネルギーの量は、世界が消費しているエネルギー消費量の約１万倍にもなる。太陽エネルギーは、水力、風力、太陽光などの形でエネルギー源として利用されているが、その利用量はまだわずかである。環境問題から太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど再生可能エネルギーの利用に関心が高まっている。ここでは、再生可能エネルギーの発電技術について、技術特性と開発状況、それに普及方策と将来の展望を解説する。	同上	同上
11	エネルギーの輸送と貯蔵	石炭、石油、ガス、電気、熱といったエネルギーについて輸送と貯蔵の役割を考えてみる。石油、天然ガス、石炭といった化石燃料、および電力の輸送について説明する。電力貯蔵については、揚水発電、圧縮空気貯蔵、蓄電池、フライホイール、超電導の特徴と開発動向を紹介し、貯蔵効率や経済性について解説する。	同上	同上
12	新エネルギーと分散型技術	新エネルギーは環境面にすぐれたエネルギーとしてその導入が期待されている。その多くは分散型技術であり、エネルギーを消費している地域に大量に普及されれば新産業を創出することにもなる。ここでは新エネルギーと分散型技術についてその種類と特徴を紹介し、どのような導入方法が望ましいかについて解説する。	同上	同上
13	エネルギーシステムの総合的分析	エネルギーは、資源の採掘、精製、輸送、貯蔵、利用、廃棄物の処理処分など一連のシステムから成り立っている。安心できる社会を築いていくためには、エネルギーシステムを効率性、環境性、経済性などから総合的に評価していく必要がある。ここでは、エネルギーシステムの総合評価手法であるエネルギー収支、ライフサイクル評価、産業連関分析法、経済評価法について解説し、それぞれのエネルギーシステムの課題がどこにあるあるのかを理解する。	同上	同上

14	地球環境問題と温暖化対策	化石燃料の大量消費によって二酸化炭素の排出量が増大し、地球温暖化が問題となっている。ここでは、地球温暖化のメカニズム、温室効果ガスと発生源、気候変動の影響、対策方法について解説する。また、地球温暖化問題の経緯と防止に向けて制定された京都議定書と京都メカニズムについて説明する。	同上	同上
15	エネルギーと持続可能な発展	２１世紀は、開発途上国、特にアジア地域の経済成長と人口増加によってエネルギー消費が急増すると予測されている。世界のエネルギー消費の増加によって、化石燃料の価格高騰や供給途絶不安、それに酸性雨や温暖化といった地球環境問題が懸念されている。ここでは、世界の将来のエネルギー需給を展望し、世界が持続可能な発展である「経済成長」、「エネルギーセキュリティ」、「環境保全」を同時に達成していくためには、今後どのような対策が必要になるのか、そして日本が果たす役割は何かについて考えてみる。	同上	同上

＝　物質･材料工学と社会（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　岸　　輝雄（独立行政法人 物質・材料研究機構理事長）　　〕
〔主任講師：　小口　信行（ミラノ大学ビコッカ・L-NESS 研究所プロジェクトディレクター）〕
〔主任講師：　塙　　隆夫（東京医科歯科大学教授）　　〕

全体のねらい

材料は身の周りのあらゆる所で利用され、今日の豊かな社会生活を築く上での基盤となっている。しかしながら、通常、人が実生活の中で材料の価値を意識することは殆どないのが現状であろう。本科目では、材料がどのようなところでどのように使用され、役立っているかを知ることで、材料の重要性と面白さを認識することを目指す。

全１５回講義のうち、前半では、材料を金属、セラミックス、高分子、半導体、複合材料の５つに大別し、材料の基礎的事項を学ぶ。後半では、材料を情報通信、環境、資源・エネルギー、安心・安全などの用途に分け、材料の機能と利用方法について学ぶ。特に、次世代の究極の材料技術として注目されているナノテクノロジーなど、最先端の材料研究開発の現状も知る。講義全体を通じ、社会の中での材料の役割について考える。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属･職名)	放送担当講師名(所属･職名)
1	材料開発と人類の歴史、持続的社会との関わり	人類文明の歴史は材料開発の歴史とも言える。人類は材料を自在に加工し役立てることで、今日の豊かな社会生活を築いてきた。人類が将来に渡り、持続的に発展するには、新しい材料の高度利用が不可欠である。材料開発の歴史を振り返り、今日のナノテクノロジーに辿り着くまでの道のりを概説する。	岸　輝雄（物質・材料研究機構・理事長）	岸　輝雄（物質・材料研究機構・理事長）
2	物質の構造、材料の特性と信頼性	物質は多数の原子と電子から構成されている。そして、物質の性質（物性）は、元素種、原子の結合様式、結晶構造、高次構造の違い、さらには、その結果として生じる電子状態の違いなどにより決定される。材料の特性と信頼性を、物質の微視的な構造と性質に立ち返り、解説する。	同　上	同　上
3	金属材料、セラミックス材料	金属材料とセラミックス材料は社会のさまざまなところで広く使われている代表的な工業材料である。金属やセラミックスの製造方法やその性質を学習し、巨大な建造物から身近にある品物まで、多様な工業生産物が金属やセラミックスの持つ特徴を上手に利用して製造され、使われていることや、リサイクルされることを学ぶ。	吉原　一紘（物質・材料研究機構・名誉顧問）	吉原　一紘（物質・材料研究機構・名誉顧問）
4	高分子材料、複合材料	身近な繊維・プラスチック・ゴムから半導体集積回路を作製するためのフォトレジストまで、高分子材料の範疇は極めて広い。蛋白質や核酸も高分子の一種である。本講義では、低分子化合物とは異なる高分子物質の特徴や性質を解説する。さらに、高分子をベースとした同種・異種材料との複合化による多彩な機能についても触れる。	岸　輝雄	岸　輝雄 及川　英俊（東北大学准教授）
5	半導体材料	半導体材料は、現在の高度情報化社会を支えている重要な材料である。本講義では、シリコン、ゲルマニウム等の単元素半導体、およびガリウムヒ素、窒化ガリウム等の化合物半導体を中心に、これらの材料の特徴や性質を説明し、半導体を用いる基本的な各種電子デバイスの構造、動作原理について概説する。	小口　信行（ミラノ大学ビコッカ・L-NESS 研究所プロジェクトディレクター）	小口　信行（ミラノ大学ビコッカ・L-NESS 研究所プロジェクトディレクター）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	セメント、コンクリート、木材	コンクリートとは、骨材と呼ばれる岩石・砂などをセメントで固めた材料である。任意の形状に作ることができ、硬化に水のみを用いる安定性の高い材料で、古くから使用されてきた。木材は日本史を代表する建設材で、大規模建造物や橋梁などへの適用で再び注目を浴びている。いずれも社会資本の整備に不可欠な材料として使用され、環境との共生や維持管理への取り組みも行われている。これらの歴史と現状を紹介する。	岸　輝雄	岸　輝雄 大津　政康（熊本大学大学院教授）
7	情報化社会を支える材料技術	シリコンを基盤とした半導体デバイスとそれを用いたコンピュータの発展は、２０世紀における社会の変革に多大な役割を果たしてきた。しかし、これらの性能をさらに向上させていくことは、既に限界に近づいているとも言われている。本講義では、高度情報化社会を支える材料技術の歴史と現状、および今後の展望について概説する。	小口　信行	小口　信行
8	ナノ材料と原子・分子レベル加工	物質・材料はナノメートル（10億分の１メートル）まで寸法を小さくすると一変して新規な性質を見せ始めるが、それは何故だろうか。それらの新規な性質を積極的に利用すると、どのようなナノテクノロジーの未来が拓けるだろうか。これらについて述べると共に、ナノメートル寸法の構造を原子・分子レベルの精度で構築する最近の先端技術について解説する。	青野　正和（物質・材料研究機構・フェロー）	青野　正和（物質・材料研究機構・フェロー）
9	地球環境と資源循環	物質や材料は人間社会を支えてきたが、逆に地球環境にはどれほどの影響を与えてきたのか、また、その影響を低減させながら持続可能な社会を支えるために材料技術に何ができるかについて概説する。特に、わが国の目指している循環型社会を、自然との物質の循環の観点からいかにとらえ、いかに進めていくべきかについて考察する。	原田　幸明（物質・材料研究機構材料ラボ・ラボ長）	原田　幸明（物質・材料研究機構材料ラボ・ラボ長）
10	環境とエネルギー材料　－光触媒、電池材料－	社会にとって道具やエネルギーは不可欠である。しかし、それらを作り出すことが地球環境に負担を掛け、我々生き物の安全への脅威となりつつある。本項では我々の最も身近なところで、環境浄化やクリーンエネルギー創出に貢献している光触媒や電池材料の開発とそれらの具体的応用について説明する。	渡辺　遵（物質・材料研究機構・監事）	渡辺　遵（物質・材料研究機構・監事）
11	未来のエネルギー材料　－超伝導材料－	超伝導材料を一定の温度以下に冷却すると、電気抵抗が完全に消失し、ロスなしで大電流を流すことが可能になる。このような特異な性質ゆえに、超伝導材料は２１世紀のエネルギー関連技術において重要な役割を果たすものと期待されている。超伝導の基礎を踏まえた上で、超伝導材料の具体的応用について説明する。	室町　英治（物質・材料研究機構ナノスケール物質領域・コーディネータ）	室町　英治（物質・材料研究機構ナノスケール物質領域・コーディネータ）
12	安心な生活空間のための材料　－構造材料－	生活空間に安心をもたらすために構造材料に必要な性質と技術をまとめる。わが国は、地震、台風、高温多湿など、欧米と比べて厳しい地理的条件にある。また、乗り物には、軽量化、衝突安全性が要求される。材料の強さと寿命を延ばす技術、材料を成形する技術、部材同士を接合する技術などの基本と応用例を述べる。	岸　輝雄	岸　輝雄 長井　寿（物質・材料研究機構環境・エネルギー材料領域・コーディネータ）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	医療診断・治療と材料工学	DNA、タンパク質などの人体の中にある分子を利用した新しい材料技術と、これらの分子を利用した新しい診断技術、ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）による遺伝子治療など、ナノテクノロジーと材料の進歩によって可能になった医療技術について考える。	塙　隆夫（東京医科歯科大学教授）	塙　隆夫（東京医科歯科大学教授）
14	人工臓器・再生医学と材料工学	加齢、事故、疾病などによって失われた身体機能を回復させるための治療や臓器を再生させる技術には、多くの材料が貢献している。これらの材料の問題点を学び将来を展望する。	同　上	同　上
15	材料・環境・社会、これからの材料開発の方向	前回までの講義で、材料を理解する上での基礎的事項と材料の用途・機能を学んだ。最終回では、今後の材料開発はどうあるべきかについて考える。特に、環境や資源、安全など、地球規模での問題の解決には新規材料の開発と利用が不可欠であろう。２１世紀社会における材料の果たすべき役割について考える。	岸　輝雄	岸　輝雄

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1544420	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　バイオテクノロジーと社会　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：武田　穣（名古屋大学教授）　　〕

【担当専任教員：鈴木　基之（放送大学教授）　　】

講義概要

基礎生物学の急速な進展に伴い、生命現象の理解が進んだ。その研究成果を人類社会のために活用する試み、特に、長寿社会に向けた医療・健康産業、環境に配慮した産業構造への変革等に対する期待はきわめて大きいものがある。その一方で、先端科学技術に対する不安が一般社会に広まっている。一般消費者としても、科学的根拠に基づく、自己責任による判断が必要とされる時代になっていると言える。本科目では、遺伝子組換え作物と遺伝子診断という具体的事例に基づき、自己責任で判断するための情報提供を行う.

授業の目標

遺伝子組換え作物と遺伝子診断について、基本的な技術を理解する。更に、その技術のもたらすメリット・デメリットを十分に理解し、科学的根拠に基づいて、自分としての判断を下すことができるようになる。また、科学以外の分野でも、この科目での学んだ経験を活かし科学的根拠を基にした情報を選択・収集し、論理的に考え、意思決定の場面で応用できるようになる。。

履修上の留意点

高校生物程度の知識は必要である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	はじめに	バイオテクノロジー周辺の事例を提示して、今何が問題になっているのか、個人として何を判断しなければならないのか について考える。もっとも身近な例として、食品の表示を見て選択できること、遺伝子診断の同意書に署名できることの2点については、以後の講義で具体的に検討するが、ここではそれ以外の事例を挙げ、簡単に説明する。 [事例] 健康食品・化粧品の効能、生殖補助医療 【キーワード】 バイオテクノロジー、パブリックエンゲージメント	武田　穣(名古屋大学教授)	武田　穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
2	育種と遺伝子組換え技術への期待	途上国での人口増加・食糧不足が指摘されており、農業不適地の増加とあいまって、世界全体として、食糧不足を補うための技術開発が必要である。遺伝子組換え技術と従来の育種方法を比較して、なぜ、遺伝子お組換え技術に期待が集まるか について開設する。 【キーワード】 食糧生産、耕作不適地、人口増加、従来型育種	田部井　豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井　豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
3	植物における遺伝子組換え技術	植物の遺伝子組換えに関する基本技術を理解する。外来遺伝子の発現の調べ方やその影響についても説明する。 【キーワード】 アグロバクテリウム、Tiプラスミド、パーティクルガン、カルス、体細胞突然変異、外来遺伝子の発現	武田　穣(名古屋大学教授)	武田　穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	遺伝子組換え作物の栽培の現状	世界にいて、遺伝子組換え作物の栽培面積が急増している現状について理解させる。遺伝子組換え作物が生産者にもたらす利益について説明する。更に、EU・インド・ブラジル・中国等で遺伝子組換え作物の認可が始まっていることを説明し、国際貿易の枠組み内で、日本だけが遺伝子組換え作物を排除することはできないことを理解する。 【キーワード】 除草剤耐性、害虫抵抗性、トウモロコシ、ダイズ、ナタネ、ワタ	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
5	遺伝子組換え作物の開発の現状	ウイルス抵抗性、多収性、ストレス耐性等、生産者にメリットをもたらす遺伝子組換え作物の開発に加えて、消費者にメリットをもたらす第2世代の遺伝子組換え作物の開発が進んでいる。その事例について紹介する。 【キーワード】 食中毒予防バナナ、ゴールデンライス、花粉症緩和米	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
6	遺伝子組換え作物・食品に対する市民の反応	遺伝子組換え作物に反対するグループの論点について整理し、よく引用される科学的根拠といわれるものの信頼性について説明する。食品としての安全性についてはレクチンジャガイモを食べたネズミの免疫不全、英国食品規準庁の発表、環境安全性についてはオオカバマダラ蝶の話、次世代への影響についてはネズミの生殖実験等がよく引用されているが、科学的に信頼できるのかどうか検証が必要である。 【キーワード】 食品安全性、環境安全性、次世代への影響、パブリックエンゲージメント	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
7	遺伝子組換え食品の安全性	食品の安全性がどのように担保されているか 食品安全委員会等の議論を基に説明する。天然物や国産品だからと言って安全とは限らないこと、個人差があること 等を説明し、実質的同等性が認められていることの意味を理解させる。 【キーワード】 食品安全委員会、コンフリー、実質的同等性	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
8	遺伝子組換え農作物の生物多様性影響評価	遺伝子組換え作物が認可されるために必要な実験結果および認可システムについて、理解させる。 【キーワード】 隔離栽培、開放系栽培、花粉飛散距離、自生種との交雑、カルタヘナ法	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長)	田部井 豊(独立行政法人農業生物資源研究所室長) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	ヒトゲノムと遺伝子診断技術	ヒトゲノムの解読に伴い、多くの突然変異の持つ意味が理解されるようになってきた。その中でも、先天性遺伝病に関する原因遺伝子が数多く発見されている。こうした遺伝病等に関連する遺伝子を受精卵や胎児の段階で診断する基本技術について説明する。 【キーワード】 ヒトゲノム、突然変異、遺伝子疾患、疾患原因遺伝子	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
10	遺伝子診断Ⅰ	髄様ガンは、遺伝的に起きる甲状腺ガンであり、思春期までにほぼ確実に発病する。発見後、甲状腺摘出手術によって治癒するが、転移・再発の危険は残る。遺伝子診断により、原因遺伝子を持つことが明らかになれば、発病前に甲状腺摘出手術を行うことで、発病を防ぐことができる。 【キーワード】 遺伝子診断、髄様ガン、発症前診断	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
11	遺伝子診断Ⅱ	出生前診断(羊水診断・絨毛診断)によって、ダウン症等の診断が可能になっているが、すべての遺伝病で治癒の可能性があるわけではない。また、羊水診断等は母体に悪影響を与える可能性もある。女性の見地を加え、ダウン症等を対象とした出生前診断について考察する。 【キーワード】 出生前診断、ダウン症、着床前診断、遺伝カウンセリング	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
12	遺伝子診断の現状	一般市民も遺伝子診断で用いる個人遺伝情報の持つ意味と特徴を理解し、身近になりつつある体質検査、親子鑑定などに対しても、適切な利用と判断ができなくてはならない。特に、遺伝情報は個人だけでなくその家族と本人の将来の健康情報も含んでいる。究極のプライバシーといわれる個人遺伝情報の意味と特徴と理解し、インターネットなどで安易に入手できる体質検査、親子鑑定などに対しても適切な判断ができるようになることが重要である。 【キーワード】 罹患性診断、体質診断、個人遺伝情報保護	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
13	科学・技術と市民の関わり(パブリックエンゲージメント)	科学・技術の進歩とそれを応用した産業の発展には、それを支える市民の理解がなくてはならない。そして、政策決定プロセスにも市民が関わり、議論することが重要である。新しい科学・技術と社会が健全な関係を築くためには、科学者だけでなく様々な人々の関与の中で透明性のある議論が行われなくてならない。情報提供と透明性のある議論の中で、パブリックアンダースタンディングが高められていくと考えられる。 【キーワード】 リスクとベネフィット、パブリックアンダースタンディング、安全と安心	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	サイエンスコミュニケーション	市民が科学・技術に関わる政策決定に関与していくには、学校教育ばかりでなく、サイエンスコミュニケーションを通じ、市民のサイエンスリテラシーの向上が求められる。 【キーワード】 コンセンサス会議、サイエンスカフェ、サイエンスリテラシー、サイエンスコミュニケーション	佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)	田部井 豊(独立行政法人 農業生物資源研究所) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)
15	まとめ	今までの講義を受け、バイオテクノロジー関連の問題について、最近の事例を基に、総括的討論を行う。特に、消費者個人による自己責任、そのための専門家による情報の提供、橋渡しをするサイエンスコミュニケーションの必要性等について強調したい。 【キーワード】 リスクコミュニケーション、サイエンスコミュニケーション、パブリックエンゲージメント	武田 穣(名古屋大学教授)	武田 穣(名古屋大学教授) 佐々義子(NPOくらしとバイオプラザ21主任研究員)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541803	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の技術革新 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：清水　慶一（国立科学博物館 産業技術史資料情報センター参事）〕

〔主任講師（現職名）：三上　喜貴（長岡技術科学大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：野城　智也（東京大学教授）〕

講義概要

明治期から現在に至るまでの日本の技術革新経験について全15回にわたり講義する。日本の技術革新は世界史的にみても稀有に属するテンポと広がりを持っており、この過程を総論（1－3回），人的・組織的要因（4－7回），生活・社会・環境との相互作用（8－12回）といった各側面から紹介するとともに，技術革新史研究の方法論と成果の活用（13，14回）について学習する。

授業の目標

全15回の講義を通じて，日本の技術革新経験の特徴やこれを支えた人的・組織的諸要因、生活・社会・環境との相互作用、技術革新史研究の方法論などについての基本的な理解を得ることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	日本の技術革新経験-世界史の中で-	日本の技術革新経験を世界史的な視野から位置づけて，その特徴を紹介するとともに，産業革命との関係，国際環境との関係などの各側面から論じる。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
2	日本の技術革新の特徴1	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
3	日本の技術革新の特徴2	技術革新過程における日本の特色－現場と研究者の密接な連携、市場重視、長期的視野、技術統合等－を具体的な事例、当事者へのインタビューなどを通じて解説する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）
4	工学教育	日本の技術革新を人的・組織的側面から特色付ける。まず、技術革新を支えた技術者像を、事例紹介、当事者へのインタビューなどを通じて理解する。	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）	清水　慶一（国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	技術革新と技術者	技術革新を生み出す最大の資源は人材である。開国・明治期におけるお雇い外人にはじまる人材育成の歴史をたどりつつ，技術革新を支えた技術者教育の歩みと，技術革新を支えた技術者像について紹介する。	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)
6	大規模プロジェクト	ダム、高層建築、新幹線などの大規模プロジェクトの実例を紹介しつつ、技術の統合、プロジェクトマネジメントなどの側面から大規模プロジェクトが日本の技術革新に及ぼした影響について解説する。	野城 智也(東京大学教授)	野城 智也(東京大学教授)
7	技術革新と知的財産権	技術革新の過程における知的財産権制度の意義について理解するとともに、日本の技術革新において特許制度や著作権制度の果たした役割について具体的事例に沿って紹介する。 【キーワード】 知的創造、知的財産権、特許権、著作権	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)
8	日本の伝統・文化と技術革新	近代技術の体系はグローバルな性格を有し，それぞれの社会における伝統的技術や文化を平準化し，収斂させる作用も持つが，他方で伝統的技術思想や文化的背景は技術革新の方向に影響も与える。これを陶磁器や繊維等の実例を紹介しつつ論じる。 【キーワード】 ワグネル，万国博覧会，石炭窯、洋食器、日本陶器	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター)	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター)
9	技術革新と生活の変容	技術革新は様々な形でわれわれの生活の変化と深く結びついている。そこで、本講義では家庭生活の中心となる台所に注目し、戦前戦後の台所の変化の過程を概観し、とりわけ、戦後に台所がダイニング・キッチンという新しい生活の場に変容するなかで、大きな力となったステンレス流し台の誕生の過程を技術革新の事例として紹介している。 【キーワード】 台所、ダイニング・キッチン、ステンレスの流し台、大量生産	内田青蔵(埼玉大学・教授)	内田青蔵(埼玉大学・教授)
10	日本の自然・風土と技術革新	新しく開発された技術が、どのように社会で受け入れられ、どのように展開していくのかは、国や地域ごとに違いがある。この違いを生む原因のひとつに、自然・風土との関係がある。日本の自然・風土と関わりの深い具体的な技術を例に、海外との比較も行いながら、日本の技術革新の特徴を学ぶ。 【キーワード】 外来技術、伝統技術、開発、普及、社会受容	後藤治(工学院大学・教授)	後藤治(工学院大学・教授)
11	技術革新と環境	技術革新の過程で日本もさまざまな環境汚染を経験したが，逆にこれを乗り越える努力は新たな技術革新を生み出す原動力ともなった。いくつかの事例を通じて，こうした技術革新と環境問題のかかわりについてのダイナミックな関連を紹介する。 【キーワード】 水俣病、国の規制、苛性ソーダ、水銀法、イオン交換膜法	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター)	亀山哲也(財)名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	安全と技術革新	日本がフロントランナーとして安全技術の革新に取り組んできた事例として大型タービン技術と新幹線技術を取り上げ、安全と技術革新のダイナミックな相互作用について理解する。 【キーワード】 安全、事故、危険源、フロントランナー	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)	三上喜貴(長岡技術科学大学・教授)
13	技術革新史研究のさまざまな方法	技術革新史に関する基本的な研究アプローチの考え方を，技術の内在的変化，社会的コンテクストでの分析，経済学や経営学の見方など，多面的に紹介し，あわせて，技術史研究に必要な各種史料の位置づけや調査方法などについて紹介する。	竺 覚暁(金沢工業大学教授)	竺 覚暁(金沢工業大学教授)
14	技術革新史研究の成果の活用	技術革新史研究の成果を如何にして社会に還元するかについて論じる。欧米における技術史博物館のあり方，企業における技術史資料の保存や展示，初等教育から技術者教育，生涯教育における活用事例などを具体例を示しつつ紹介する。	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)
15	(未定)	15回の講義のまとめとして各回のポイントを整理するとともに，考察すべき論点を提示して課題を与える。	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)	清水 慶一(国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1542001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　デザイン工学　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）〕

講義概要

多様化、知の時代となり、工学設計も大きく変化してきている。その最大の変化は、モノから人への焦点の移動である。これまでは、いかに必要なモノを提供するかが主眼であったが、これからは、いかに満足を提供できるかが重要となってくる。そのため、人の欲求、個性、感情、感覚、相性、コミュニケーション、など、これまで、あまり工学設計では考慮されてこなかった人間の特性に関する考慮が重要となってきた。
本講義では、大きく変貌しつつある工学設計の動向を紹介し、それを実現する技術について述べる。

授業の目標

本講義では、大きく変貌する設計とその技法について基本を理解する。とくに、グローバル化する市場に対応するための設計、新しい産業創出のための設計についての理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜ人間は設計するのか？	創造は、人間の本質であり、それが文化を生んだ。デザインは人間の創造したい欲求に基づいている。人間の欲求とは？人間とは？について考察し、そこからデザインを考える。 【キーワード】 創造、文化、Homo Faber、人間の定義、人間の欲求(Maslow)	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
2	21世紀は「こころ」の時代	21世紀は知の時代と言われるが、無味乾燥な知識の時代ではない。こころの時代であり、いかに感動を呼び、同じ価値感をもつ仲間を増やすかが問われる。自然物を加工した20世紀との相違について社会、デザインの視点で考える。 【キーワード】 価値観の多様性、こころの時代、感覚、感性	同上	同上
3	個性とデザイン	多様化の時代となり、個性の追求がデザインの課題となった。既存マーケット対象ではなく、同じ価値感を持つ仲間を増やし、新マーケットを創造することが、これから重要となる。そのためには、専門領域を超えた協調が必要となる。 【キーワード】 価値感、感性、マーケット創造、チームデザイン、性格	同上	同上
4	意図理解	設計においては、まず目標を明確にする必要がある。とくに多様化、チームの時代となり、設計意図の明確化が不可欠となってきた。スケッチ、アニメ、QFD、CADなどの方法を紹介する。 【キーワード】 設計意図、コミュニケーション、スケッチ、アニメーション、物語、QFD(品質機能展開)、CAD	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	CADとプロトタイピング	設計は、意図をかたちに変換する行為である。かたちを計算機で処理する方法 CAD, かたちが適切かを検討する手法 プロトタイピングについて解説する。さらに、プロトタイピングを基本とする製品開発方式PBLについて紹介する。 【キーワード】 CAD、形状モデル、ラピッドプロトタイピング、ペーパープロトタイピング、PBL	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田 収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
6	かたち、寸法の決定	ハードウエアの設計においては、かたちを決めても、外力により壊れないか、変形が大きすぎないかを検討する必要がある。その検討を行う代表的な方法である有限要素法の基本的考え方を説明する。 【キーワード】 詳細設計、有限要素法、バネの原理、強さ、変形	同上	同上
7	「うごき」とデザイン	機能はうごきとして動詞で表現される場合が多い。望むうごきを実現するための方法QFDなどを紹介する。さらに、うごきは身体知の視点からも重要である。また、このような物理的うごき以外の最近の非物理的うごきについても考える。 【キーワード】 機能、物理的うごき、QFD、動詞、身体知、非物理的動き、通信、イメージトレーニング、シミュレーション	同上	同上
8	触覚とデザイン	物理的世界は作用－反作用の世界である。最近、触覚に関する技術が発達し、仮想現実(VR)で利用され、加工、医療などで活用されている。触覚は身体知の視点からも重要である。 【キーワード】 作用－反作用、触覚、加工、医療、VR、認識、身体知	同上	同上
9	音とデザイン	これまでの設計は、製図、CADに代表されるように、論理的、左脳的であった。しかし、日本語は、擬音語が多い。また画像の代わりに音を利用する方法も出現している。音をいかにデザインに取り入れるかを考える。 【キーワード】 欧米と日本の相違、擬音語、右脳、VR、視覚と聴覚	同上	同上
10	未体験の体験化	技術の進歩が急速であり、未経験、未体験技術が多く出現してきている。これが社会に受け入れられるためには、技術の可視化が重要となる。またそのための技術は、技術伝承、新しい世界への導入などにも役立つ。 【キーワード】 未体験技術の体験化、技術伝承、新世界への導入、 ナノの世界、VR、気付き	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	コミュニケーションとデザイン	社会が広域化、多様化し、状況理解がきわめて重要となってきた。これまでは、「考えてから歩く」時代であったが、今後は「歩きながら考える」必要があり、コミュニケーションが重要となる。コミュニケーションは人と人の間だけではなく、人とモノ、人と環境の間にも存在する。 【キーワード】 人と人、人とモノ、人と環境のコミュニケーション、状況理解、協調活動の重要化	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）	福田　収一（スタンフォード大学コンサルティング教授）
12	感情とデザイン	感情は知性を構成する重要な要素として最近注目されている。とくにコミュニケーションにおいて大きな役割を果たし、人間ーシステム系の設計が大きく変化する可能性がある。感情抽出、感情表現の研究を紹介し、さらに、愛着の問題も考える。 【キーワード】 Emotional Intelligence、コミュニケーション、感情理解、人間ーシステム系、感情抽出、感情表現、愛着	同上	同上
13	自己実現とデザイン	人間の最大の欲求は、自己実現にある。芸術は自己実現であり、工学と芸術の融合が進んでいる。自己実現は、挑戦への欲求でもある。ゲーム、登山、F1、スポーツの世界と設計について考える。ハンディキャップへの対応も自己実現への対応である。 【キーワード】 自己実現、芸術、ゲーム、登山、スポーツ、ハンディキャップ	同上	同上
14	ライフとデザイン	これまでの工学設計は、生活を便利にすることに主眼があった。しかし、今後は、豊かな人生が焦点となる。すなわち、物質から精神へと対象が大きく変化する。そのような時代を迎え、新しく期待される産業について考える。 【キーワード】 便利な生活、豊かな生活、Life Science, 思い出産業、物語産業、街づくり	同上	同上
15	将来のデザイン	「モノ」から「こころ」へと設計対象が大きく変化したので、これからは社会も含め、人工物、人間、社会、環境の視点から考えてゆく必要がある。これからの課題と将来のデザインの方向を考える。 【キーワード】 「こころ」の時代、21世紀のデザイン	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1541706	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 都市と防災 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：目黒　公郎（東京大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：村尾　修（筑波大学大学院准教授）〕

講義概要

都市災害とは日々進化しつづける都市を映した鏡のようなものである．本講義は，都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について全15回にわたって講義する．包括的に都市防災の体系を修得するための総論（第1回から第5回），災害発生のメカニズムとその対策について学ぶ「都市災害の事例」（第6回から第10回），都市防災上の取り組みと事例について学ぶ「各論」（第11回から第15回）の3部から構成される．

授業の目標

都市と災害・防災に焦点をあてた全15回の講義を通じて，都市防災対策を進めるうえで最低限必要な用語を理解し，かつ各種の都市災害のメカニズムと対策の基本を学ぶ．また，この講義を通じて過去に発生した災害とそこから得られた教訓がその後の都市防災対策にどのように反映されてきたのかを把握できることを目標とする．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
第1部　総論：包括的に体系を修得させる				
1	講義の概要紹介と我が国の都市防災	我が国は，その地球科学的な立地特性から，地震や火山，台風など，多種多様な災害の多発国であり，歴史的にも甚大な被害を受けてきた。しかし過去の災害経験に学び，技術開発と社会制度や体制の充実をはかることで，災害に強い環境を実現させ，世界の経済大国になった。本章では、「都市と防災」の講義内容の概要と第1章から第15章までの全体構成について紹介する。その上で、適切な防災対策を講じる上で欠くことのできない「災害イマジネーション」の意味とその重要性について説明する。 【キーワード】 災害のデパート，火山大国，地震列島，台風，津波，火災，紙と木の建築文化，防災技術，災害イマジネーション，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
2	都市・災害・都市防災	都市は市民が安心して生活できる環境整備のために造られてきた。この都市の歴史をふりかえり，安らぎの場としての都市の意味を考える。さらに，現在我々の生活環境を脅かす都市災害の特徴についてもふれ，都市防災の概要について習得する。 【キーワード】 都市，安らぎの場，都市防衛，災害，自然災害，産業災害，都市災害，都市防災ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）
3	都市災害の歴史と法制度の変遷	都市の進展や時代によって災害の様相がどのように変化してきたのだろうか。日本の首都として位置づけられてきた江戸・東京の近代化の歴史を振り返り，時代ごとの災害の特徴と災害後の都市の変化を理解する。また災害が発生することにより進展してきた法制度の変遷について学ぶ。 【キーワード】 江戸，東京，関東大震災，東京大空襲，伊勢湾台風，防災法制度，災害対策基本法，ほか	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）	目黒公郎（東京大学教授） 村尾　修（筑波大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	我が国の防災体制	効率的な防災対策や対応は，組織に応じた適切な体制や仕組みがあって初めて機能する。本章では，過去の災害経験を踏まえてわが国が整備した，中央政府から末端市町村にいたる現在のわが国の防災体制の基本について学ぶ。 【キーワード】 中央防災会議，災害対策基本法，内閣府(防災)組織，防災計画，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
5	防災対策の基本と災害対応の循環体系	発災ー緊急対応(Response)ー復旧・復興(Recovery/Reconstruction)ー被害抑止(Mitigation)ー事前準備(Preparedness)という災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)を説明し，防災対策の基本を習得する。 【キーワード】 災害対応の循環体系，緊急対応，復旧，復興，被害抑止，事前準備，リスクマネージメント，クライシスマネージメント，災害予知，早期警報，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
第2部　都市災害の事例：災害発生のメカニズムとその対策				
6	気象災害とその対策	古来から，人間の生活に影響を及ぼしてきた気象災害の事例を通して，その発生メカニズムと被害，そして各種災害への対応策について学ぶ. 【キーワード】 気象災害、風水害、洪水災害、高潮災害、土砂災害、風害、大雨、台風、外水・内水氾濫，斜面崩壊・地すべり・土石流，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
7	地震と地震災害の基本	地震災害はわが国の代表的な自然災害であるが，この原因である地震や津波の発生メカニズム，マグニチュードと震度の関係，地震動の特徴と被害の関係などの基本を理解する。またわが国における過去の地震被害事例の紹介と，現在の地震学的な環境についても紹介する。 【キーワード】 プレートテクトニクス，地震，津波，震源，震央，断層，前震・本震・余震，マグニチュード，震度，地震動，過去の地震災害事例，現在のわが国の地震学的な環境，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
8	進化する地震災害と被害相互の連鎖関係	大地震の発生によって引き起こされる各種の被害の形態と特徴、それらの連鎖的反応のメカニズムについて学ぶ。すなわち、断層破壊による影響が地震動となって伝播し、地盤災害や構造物被害をもたらし、これが人的被害や延焼火災、ライフライン障害や情報障害を引き起こし、最終的に大きな社会・経済的被害等を引き起こすこと、またこのメカニズムを踏まえた対応法に関しても学ぶ。 【キーワード】 進化する災害、地震災害の分類(地盤災害、津波災害、揺れによる構造物被害、延焼火災、ライフライン被害、情報災害ほか)、災害連鎖、人的被害の主因、ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)
9	火山災害とその対策	日本には数多くの火山が存在しており、これらの活動が各地に温泉をもたらし、観光名所をつくり出している．しかしその一方で、ひとたび噴火などの活発な活動を始めると、火山災害とも隣合わせの環境になる。本章では火山災害の発生メカニズムと被害の特徴を理解するとともに，火山災害を軽減する対策について学ぶ。 【キーワード】 温泉，観光，雲仙普賢岳，有珠山噴火，三宅島噴火，火砕流，降灰被害，火山ハザードマップ，ほか	目黒公郎(東京大学教授)	目黒公郎(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	延焼火災とその対策	日本はその気候風土により，紙と木の建築文化を築いてきた。一方で建物が密集する市街地が多く，これらの要因により，都市大火は日本の都市災害の一つの特徴でもあった。本章では、わが国における都市大火の歴史，江戸時代の火災の文化，火災が発生するメカニズム，そして延焼火災に対する対策について学ぶ。 【キーワード】 延焼火災，都市大火，災害文化，白鬚東防災拠点，延焼遮断，防災都市構造，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
第3部 各論：都市防災上の取り組みと事例の紹介				
11	都市の被害抑止対策	災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の被害抑止について，その意義と方策(①構造物による制御，②土地利用規制，③ハザード認知とハザードマップ，④構造物の設計指針，⑤財政補助，⑥保険)を理解する。 【キーワード】 被害抑止(Mitigation)，建築基準法，耐震対策，活断層上の建築規制，脆弱性評価，被害想定と地域危険度評価，地震・災害保険，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
12	被害軽減のための事前準備	災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の事前準備の事例を通じて，その意義について理解する. 【キーワード】 防災教育，防災訓練，防災マニュアル，研修，自主防災組織，各地での取り組み，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
13	都市の復旧と復興	数百年という都市の歴史の中で災害・復興という過程は劇的な意味を持つ．ここでは災害対応の循環体系(Disaster Life Cycle)の中の復旧・復興の事例を通じて，その意義について理解する．1999年台湾集集地震，1923年関東大震災の復興事例をとりあげ，東京の事前復興，神戸などの復興事例と難しさについても学ぶ. 【キーワード】 避難所，仮設住宅，住宅再建，復興住宅，震災復興，帝都復興計画，事前復興計画，1999年台湾集集地震，1923年関東大地震、ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
14	情報とコミュニケーション	災害時には適切な情報伝達の仕組みが重要である．また来るべき災害に備えるうえで各レベルでのコミュニケーションが欠かせない．ここでは情報伝達の仕組み，リスクコミュニケーションの必要性，情報技術を用いた各地での取り込みについて習得する. 【キーワード】 災害情報システム，リスクコミュニケーション，ハザードマップ，情報技術，GIS，GPS，啓発活動，行政無線，デジタル地上波，緊急地震速報，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)
15	これからの都市防災	都市災害は都市の成長，社会の成長とともに進化する．21世紀を迎えた今，我々が考慮しておかなければいけない新たな災害とその対応について考える．また全15回にわたって行われた講義を総括する. 【キーワード】 地震動予測地図，テロ，静かな災害，地球温暖化，異常気象，海面上昇による影響，地球シミュレーター，ほか	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)	目黒公郎(東京大学教授) 村尾 修(筑波大学大学院准教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1545809	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 環境デザイン論 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：仙田　満（放送大学教授）〕

講義概要

環境デザインの視点から建築、造園、都市設計にまたがる新たな分析手法、デザイン手法を解説し、その応用例を示しながら、展開例について論述する。

第１編　環境デザインとは　　第１章～第２章　環境デザインの座標について
第２編　歴史から学ぶ環境デザイン　　第３章～第５章　歴史から学ぶ環境デザインの伝統について
第３編　行動から学ぶ環境デザイン　　第６章～第10章　人間行動の環境デザイン論について
第４編　地域から学ぶ環境デザイン　　第11章～第15章　地域からの文脈をとらえた現代的な課題であるｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙな環境ﾃﾞｻﾞｲﾝについて

授業の目標

従来の建築計画、建築空間デザインから環境デザイン学への展開を学術的な展開過程を示しながら、新たな都市、地域、建築の計画・設計の視点を獲得することを目標とする。分野横断的な考え方により、新たな分析能力と総合調整力を育てると同時に、高度技術化した複合的プロジェクトの価値を見出し、批評性を養い、21世紀のサスティナブルな環境建築と環境デザインへの興味を高め、基礎学力をつける。

履修上の留意点

都市デザイン論（’06）、人間活動と環境影響（’05）を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	環境デザインとは何か	環境デザインとは何か、環境デザイン学とは何かということについて、歴史的に考察する。環境心理学、環境行動学、環境工学との関係性について、環境デザイン学の位置づけを示す。環境デザインの視点を明確に方向づける。 【キーワード】 環境の意匠、関係のデザイン、境界と関係、環境デザインの座標、地球環境デザイン、環境工学、環境デザイン学	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
2	環境デザインの方法	環境デザインの手法、あるいは方法について論ずる。環境デザインにおけるデザイン組織論、及び環境デザインのプロセス論として3段階論、その中で環境デザイナーあるいは環境建築家としての統括者としての役割について論じ、環境デザインの実践としての具体例を挙げながら、コンセプトから都市デザイン、建築、造園、ディスプレイデザインの流れと統合化して環境デザインを論じる。 【キーワード】 設計仮説、設計の3段階、か・かた・かたち、KJ法、ワークデザイン手法	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）
3	伝統住居から学ぶ環境デザイン	日本の建築はアジアの中でも極めて特異な構造的進化を遂げてきた。それが環境に対する応答性である。床、天井、可動間仕切り等による空間構成体の二重性は極めて現代的である。もてなしと労働と子育ての空間としての伝統住居を学ぶ。 【キーワード】 竪穴と高床、土間と板敷、軸組と組積、床座とイス座、二重性、母屋と庇、間面記法、建具、天井、もてなしと労働、室礼、床の間	仙田　満（放送大学教授）	仙田　満（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	日本の環境デザインの伝統	江戸期における日本は庭園都市と言われて、園芸文化が興り、100万を超える人口をもちながら、清潔で循環型の社会を実現できたと言われる。そのサスティナブルなシステムと文化から現代我々が学ぶべき事象について探る。 【キーワード】 風水、陰陽五行法、家相、環水都市、循環都市、庭園都市、回遊都市、名所性、愛でる文化	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
5	環境をデザインした人たち	日本の近世以前の建築家、環境建築家的存在について論述し、日本の環境建築家としての存在の有様について概観する。近代デザイン、現代デザインの中で環境デザインという新しいデザイン領域が生まれてきた流れと、そこで活躍した人々を論じる。 【キーワード】 建築家的存在、重源、小堀遠州、夢想疎石、クリストファー・アレキザンダー、ローレンス・ハルプリン、ケンブリッジセブン	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
6	子どものあそび環境	子どものための環境デザイン領域について論ずる。子どもの成育環境、あそび環境とは何か、子どもの原風景の調査をもとに、子ども達の成育空間について6つの原空間を示す。またあそびを体験することによって、獲得する能力について考察し、子どものあそび環境における多様性の重要性について論ずる。 【キーワード】 子ども、遊び環境、原風景、6つの原空間	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
7	あそびやすい空間の構造ー遊環構造ー	遊具のデザインを通して子ども達の遊びやすい空間の構造があることを示す。その遊環構造を応用した遊具、建築、造園について例示し、その展開性を学ぶ。 【キーワード】 遊び空間、遊具における遊びの発展段階、遊環構造	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
8	子どもの成育環境の変化と環境デザイン	子どもの成育環境の時代的変化及び国際的比較調査によって、現代日本の子どもの成育環境が極めて貧しく、そのためさまざまな子どもの劣化現象が現れている危機的状況について論じ、その成育環境の悪化の循環を断ち切るための戦略について論じる。 【キーワード】 あそび環境の悪化の循環、意欲の低下、群れる場、多くの大人によって育まれる場、自然体験の場、コレクティブハウジング、プレーパーク、中低層中庭型住宅、あそび道の復活、長期自然体験、自然学校、学社融合型学校	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
9	歩行線形と街路・廊下のデザイン	歩きやすいということが、町のデザインにとっていかに重要か、歩行しやすい歩道の断面形状、平面形状について論じ、ストリートファニチャー、ベンチ、植栽の配置についても学ぶ。 【キーワード】 歩行線形、歩きやすさ、近道、廊下の形状、滞留、待ち合わせ、パフォーマンス	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	建築の個体距離と景観デザイン	建築には個体距離があり、その個体距離と緑とデザインが相互に関連して景観を形成している。この関係性を明らかにした上で、都市におけるより良い景観形成のための手法を提示する。 【キーワード】 個体距離、景観、十字式設計法、社会距離	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
11	内部空間と外部空間の中間	環境デザイン領域において重要な領域である、内部空間と外部空間の中間体としての廊空間について論じる。廊下の出現はどのようになされたのか、廊下とはどのような役割をもつ空間なのか、歴史的、地理的な廊空間の展開を踏まえて、環境デザインの重要なツールとしての廊空間を論じる。 【キーワード】 廊、廊空間、廊下、廊の公私性、庇、縁、簀子	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
12	都市における廊空間の展開	廊空間は主体的な空間に付属的な位置であったが、それが公共性をもつことによって、その主従関係が逆転していく。世界における廊空間の展開から、現代都市における廊空間のあり方について分析的に論述する。 【キーワード】 都市廊、雁木、こみせ、亭仔脚、騎楼、ポルチコ、ベランダウェイ、ショップハウス、スーク、パサージュ	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
13	満足度のデザイン	人間は満足という尺度によって選択し、行動する。満足を与えるためには空間的な質と量、デザイン、サービスが必要である。満足度という視点からデザイン、計画を検証する。 【キーワード】 満足度、満足を与える空間の量と質、科学館、集客効率、入館者数予測	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
14	環境調和と建築形態	自然環境の中で現代建築がその環境的調和を破壊しているときがある。自然環境の中でいかに建築景観はあらねばならないかを事例を挙げながら、分析、論述する。 【キーワード】 斜面緑地、屋根と環境、景観形成、周辺環境とのおさまり、水景、おちつきとにぎわい	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）
15	地球環境建築と5つの目標	現代において最も重要な環境デザインの課題は、サスティナビリティー（持続可能性）である。それを実現するため、地球環境に配慮したビルドエンバイロンメントの構築が求められる。長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、安全性、継承という5＋1の課題について論述し、これからの環境デザインの目標とする。 【キーワード】 建築の長寿命、自然共生、省エネルギー、省資源循環、継承、安全、風の道、ダブルスキン、気候同調建築	仙田 満（放送大学教授）	仙田 満（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1550209	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本の思想 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：清水　正之（聖学院大学教授）〕

講義概要

日本の思想は、大陸あるいは朝鮮半島を経由して、受容されたその時々の先進文明や文化を、自らのものとするという宿命をもって、作り上げられてきた。そこにはおのずから、異文化をとりこみ独自の形で、展開させるという事態をともなった。古来の習俗は、仏教・儒教の受容、あるいはまたキリスト教や蘭学という西洋の文化とも対峙しながら、近代化へとつづく。本授業は、この日本を場として展開してきた諸思想を、哲学・倫理思想史的な観点から総覧し、日本の思想とはなにか、その展開、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえた過去の参照によっておりなされてもいる。その点もとくに学びの対象としたい。

授業の目標

日本の思想という領域で知っておくべき基本的な文献、あるいは思想の基本的な知識を得ると共に、それらを素材に、思想史的な観点から、日本の思想の歴史を見る眼を育てる。本授業では、この日本を場といして展開してきた諸思想を、哲学あるいは倫理の観点から広く学び、日本の思想とはなにか、その内容、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえて過去の思想を参照することで作り上げられてきた。私たちの現在を考えるためにも、日本の思想の歴史から多くの手がかりをえられる。とくにその点を重視してみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	神話の思想 －日本の地理的位置と自己意識の成立－	日本の思想の研究といわれるものは、明治期に始まったといえる。日本の思想を学問的に研究することの意味、なにを対象とするかを考える。また、中国史書等、他者のまなざしによって描かれた日本という状況から、自らの自己意識をもつにいたった経緯を古代の思想、とくにいわゆる神話の思想から考える。 【キーワード】 倭、古事記、日本書紀、古神道	清水　正之（聖学院大学教授）	清水　正之（聖学院大学教授）
2	上代歌謡と『万葉集』にみる「古代の思想」	古代の思想を、記紀の歌謡、また万葉集の歌を中心に考える。また神道の祭祀・祝詞等にもふれる。 【キーワード】 記紀歌謡・万葉集	同上	同上
3	仏教の受容とその展開 －古代の仏教－	公式の仏教の伝来よりも前に、渡来人によって私的な信仰の対象として伝わっていた仏教。この異国の「神」をめぐって、日本の思想は新たな展開を示す。東アジアのなかでの日本仏教の特質、仏教以前の日本の宗教などとの関係も含め考察する。また奈良平城京の南都仏教、民間布教をした行基などの事績から古代仏教の展開と思想をみる。 【キーワード】 聖徳太子、排仏と崇仏、日本霊異記、南都仏教	同上	同上
4	平安仏教の思想 －最澄と空海－	平安仏教の基礎を築いた最澄と空海をとりあげ、奈良仏教との対立の意味、古代仏教のあらたな展開とその思想をみる。 【キーワード】 最澄、空海、密教	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	王朝の文化と思想 —国風文化と感性の表現—	遣唐使の廃止は、日本の国風文化の発達をうながす。その時代を背景に和歌等を通じて美意識が形成される。それは後世にも影響を与えている。その背景と思想を考える。 【キーワード】 和歌と漢詩、仮名の発明、土佐日記、紫式部、源信	清水 正之 (聖学院大学教授)	清水 正之 (聖学院大学教授)
6	歴史物語と中世歴史書にみる思想 —貴族の栄華と武士の登場—	武士の歴史への登場は、貴族に変わるあらたな時代の担い手の登場を意味した。そうした王朝から武士の時代の転換をしめす時代の変化をうかがうことの出来る作品から、思想史の論点をさぐる。 【キーワード】 大鏡、四鏡、愚管抄、神皇正統記	同上	同上
7	浄土教と鎌倉仏教の思想	平安人の心に徐又に浄土への希求がめばえる。浄土教の浸透とその中から芽生えるあらたな仏教思想の展開の意味を考える。浄土信仰をきっかけに展開した鎌倉仏教の思想を、その祖師たちに焦点をあててみていく。 【キーワード】 浄土信仰、念仏、法華信仰、禅、鎌倉仏教	同上	同上
8	室町文化と芸道論	室町時代の文化の背景にあるものは禅などの仏教的世界観の新たな受けとめ方と、その芸術等への影響であった。歌道・能楽・茶道の背景にある思想、室町文化の諸相を探る。 【キーワード】 無常観、幽玄、わび・さび、徒然草、能狂言	同上	同上
9	近世の学問と思想 —切支丹の伝来・朱子学の興隆・武士の思想—	日本と西洋文化の出会いは、中国的な文化の圏内にあった日本文化への衝撃でもあった。キリシタンの伝来とその意味、また武士的なものの時代変化、近世学問の生成の背景などを考えてみる。 【キーワード】 デウスの信仰、切支丹、朱子学、林羅山、武士と近世	同上	同上
10	儒教の展開:朱子学と反朱子学	江戸幕府は儒教の一派朱子学をもって公式の学問とした。他方ではやくも17世紀には朱子学への批判的立場をとる思想が形成される。その後の儒教は多彩な展開をとげる。その思想的展開の概略を学び、その意味を考える。 【キーワード】 貝原益軒、伊藤仁斎、徂徠	同上	同上
11	国学の思想	国学という思想の形態は、本居宣長でまずは完成するが、その淵源と展開を追いながら、主要な学問であった儒教あるいは仏教との関係を考える。 【キーワード】 国学、本居宣長、賀茂真淵、平田篤胤	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	町人・農民の思想および蘭学・幕末の諸思想	支配階級である武士の思想に対して、身分制度の上では下位におかれた農民・町民からも独自の思想がうまれた。それらから代表的な思想を概観する。一方、蘭書の解禁によって、知的好奇心は西洋の文物にむかう。蘭学の知識は、日本の近代化に貢献した。 【キーワード】 心学、二宮尊徳、新井白石、蘭学、水戸学、佐久間象山	清水 正之(聖学院大学教授)	清水 正之(聖学院大学教授)
13	近代日本の思想(一)―明治啓蒙思想の思想的展開	開国は、西洋化という近代化を目標としたあらたな文化・思想の構築の開始であった。啓蒙主義をはじめ、西洋に範をとる思想を受容することで、思想史はあらたな展開をしていく。その過程を振りかえる。 【キーワード】 文明開化の思想、明六社、福沢諭吉、学問のすゝめ	同上	同上
14	近代日本の思想(二)―その深まりと公と私の相克―	明治及び明治以降の思想は、公と私の相克という視点からとらえることができる。キリスト教、社会主義、大正デモクラシーと、その中での個人の思想家を中心に学ぶ。 【キーワード】 キリスト教、社会主義、大正デモクラシー、国民道徳論	同上	同上
15	近代日本の哲学	とくにこの回では、近代日本の哲学的思索・思想を代表的思想家をとりあげて、ふりかえってみたい。また、これまで学んだ日本の思想史と哲学の関係を、考え、日本の思想を学ぶ意味をあらためてふりかえっておきたい。 【キーワード】 西田幾多郎、和辻哲郎、日本思想史研究の意味と方法	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1551906	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　実存と現象学の哲学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山口　一郎（東洋大学教授）　　〕

【担当専任教員：佐藤　康邦（放送大学教授）

講義概要

人が生きることは、さまざまな問いとともに生きることです。具体的な生活上の諸問題、そのなかでも、家族や学校や職場などでの人間関係は、日々の生活の中で、もっとも重要な問題として、生きる喜びや苦しみの根源となっています。この講義では、人と人との応対の仕方に重点を置き、他の人といかに喜びや悲しみを共にしながら生きていくのか、その現実と理想を、多角的に考察してみたいと思います。現代哲学の中でも、「実存主義」や「現象学」という哲学は、この問題について考える上で、もっとも豊かな内容をわたしたちに与えてくれます。「他者の痛みに触れることができるのか」、「人と人との真の出会いは可能か」といった問題をめぐり、二つの哲学から多くを学びたいと思います。

授業の目標

日々かかえて悩み、解決をさぐっているいろいろな諸問題を、「自分の心の痛み」を解消せずには、一時間をも耐え切れない場合の痛切さで、徹底して考えつくそうとする哲学者達と共に、問題解決を求めて、その歩みを共にすること、これが、この授業の目的です。考えるとは、もともと全身全霊でおこなうものです。しかし、思い悩んでいるときは、えてして、周りがみえなくなるものです。同じように悩んでいる人にはまったく気づかず、一人、暗闇の穴の中でもがくものです。現象学とそれを基礎にした実存主義の哲学は、一人一人の暗闇のただなかで苦しんでいる、まさにそのことが、他の人と、生きる最も深い根源において結びついていることを指し示しています。明らかにすべきは、このことです。

履修上の留意点

この講義で解決が求められる諸問題は、人それぞれによって、関心の持ち方が異なっているのは当然のことです。いわゆる、人間関係の問題に何の悩みもない人がいたり、それは自分個人の問題として、学問として公に論ずるべきものではない、とする人もいるでしょう。しかし、「人と人との応対の仕方」を問うとは、人生相談への解答とは違います。公の学問研究をすすめる自然科学者であれ、精神科学者であれ、どんな職業についている人であれ、また、子供であれ、大人であれ、人が生きることの、多くの場合、隠れて働いている秩序というものがあります。生きることそのものの自覚としての哲学の探求は、いままでの自分の生き方に、気づかずに働いてた構造や規則性に気づける、自覚できるものにしていきます。履修上の留意点は、まさに、それに気づけるようになるには、それ相応の忍耐が必要とされるということです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	出会いについて問う	この講義全体で取り上げられる問題は、簡単にいえば、「人と人との真の出会いは可能であるか」という問題です。いったい「真の出会い」とは何か、生存競争の現実において、出会いなど幻想ではないのか、いったい、現実とはなにか、感覚は確かといえるか、知覚、想起、時間、空間、身体、心、人格、他者、社会といったテーマのつながりの中で出会いの可能性が問われることになります。 【キーワード】 出会い、疑いえないこと（明証性）、「汝」と「それ」としての相手、実存と現象学の哲学の方法	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
2	「ただただ感じること」と「自分の感覚」、そして知覚	私の感じるあなたの手の温かみは、私が感じる温かさであって、人は、各自、触覚において、自分の皮膚感覚の内に閉ざされていて、他者が受け取る触感覚との間には、超えられない深淵が横たわり、他者との触れ合いとは、結局、自分の思い込みなのでしょうか。人との出会いの可能性を、感覚をどう理解するか、レヴィナスとブーバーの見解の違いを通して問いの形にしてみます。 【キーワード】 自分の感覚、他者の感覚、共感、確かとはどういうことか（明証性）、意識作用と意識内容の相関関係	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
3	「過ぎ去りつつ残るもの」と「気づかれない予感」	「現実、確実、幻想、思い込み、真実と偽り」など、いったい確かということの絶対的な保証は、どこにあるのでしょう。これがはっきりしていなければ、つまり、お互いに確かと思える基準が見当たらなければ、結局、何を論じても、終着点は、みつからず、結論を導きだせません。その基準をはっきりさせ、瞬間に限られていた意識の明証性は、生き生きした現在の幅をもつことになります。 【キーワード】 感覚の変化と時の経過、気づかない以前が残ること（「過去把持」）、気づかずに予感する「未来予持」	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
4	「出会いのとき」から生まれる心の時間と時計の時間	いわゆる誰もが基準にしている「時計の時間（客観的な時間）」は、学ばれて共有されるようになった時間です。約束のときに使える時間ですが、自分の体験に即した時間ではありません。自分にとっての今、過ぎ去るとき、まだ来ていない未来のとき、これらの自分の時間は、どのように感じられ、意識されているのでしょうか。これが明らかになれば、他者と共有する時間の確かさも確信できます。 【キーワード】 客観的時間、体験の時間、いきいきした現在、瞬時という幻想、ゼノンのパラドクス（逆説）	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
5	身体をめぐる脳科学と現象学、因果と志向性	同じ場所に居合わせるときに身体を介して広がっている雰囲気や気分は、人と人との応対の状況をまえもって決めています。この場の雰囲気を感じる敏感さは人それぞれです。歩く、走る、座る、道具を手にする、などなど、身体の動きに即して広がっている身の回りの空間はどのように生きられ、意識されているのでしょうか。現象学の「志向性」による身体の解明と脳科学の「因果性」による身体の解明の違いを明らかにしたいと思います。 【キーワード】 触れる身体と触れられる身体、随意運動と不随意運動、脳科学と現象学の方法	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
6	心と身体の相互関係：過去の記憶と現在の知覚の関係から考える	物から見た身体と心から見た身体の関係を、「幻影肢」という事例ではっきりさせてみたいと思います。その際、手術して、もうないはずの腕が痛むという幻影肢と、その幻影肢の痛みが取れた症例を通して、身体は、物とも心とも単純に理解できないことが示されます。身体の痛みは、今感じる痛みであっても、過去の記憶と密接に繋がっていることが明らかにされます。そして過去の記憶というのは、視覚や聴覚など他の感覚野との繋がり（リンク）という相互作用において「痛んでいた」ということが明らかにされます。 【キーワード】 幻影肢、感覚野の間の相互作用の記憶、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	現象学の方法と自然科学の方法	現代哲学は、単に自然科学の研究成果をまとめてる論理にかなったまとめ役なのではありません。現象学は、各自の意識に疑いきれない必然性において与えられている明らかさ「必当然的な明証性」を真理基準とし、さらに、どのようにしてそのような必当然的な与えられ方になっているのか、その「いかに」を問い、その「どのように」が、十分に明らかになる「十全的明証性」を目指します。この回では、このような現象学の探求方法が、脳科学の最近の研究成果をどのように受け止め、現象学の真理基準に照らし合わせて、どのように統合しているかを論述します。 【キーワード】 必当然的明証性、十全的明証性、、「記憶のリンク」と感覚入力の相互作用、感覚の空虚な形態と感覚印象との相互覚起	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
8	無意識の現象学への導入	意識された過去把持と無意識に働いている過去把持の疑いきれなさ、つまり、必当然的明証性の関係を十全的明証性にもたらそうとするのが、今回の重要な課題です。意識の明証性の中心に置かれる「自分が自分であること」の明白性は、実は、無意識に働く「身体の自己中心性」を前提にしてのみ、働きうるのです。しかし、無意識の身体性は、物の因果によって説明できない、生命の生きる動機、無意識の生命の動機によって、目的づけられて働いています。今回は、無意識の現象学に入る導入の役割を果たします。 【キーワード】 現実の世界と論理の世界、無意識的及び意識的動機づけ、無意識の過去把持の疑いのなさ、自我の同一性と身体の自己中心性	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
9	感情・本能・衝動：無意識の現象学の課題	現象学は、通常「意識の明証性」に即した、また、その領域だけに限られた哲学であるという誤解が広がっています。この誤解は、無意識に働く過去把持や、その過去把持の内容が、無意識の受動的綜合を通して成立していることを論証することを通して、完全に払拭されます。わたしたちにそのつどの現在に与えられている無数の感覚内容は、無意識の受動的綜合の規則性である連合や触発に即して働く本能や衝動や感情を通して、選択されつつ与えられています。ここに、無意識の現象学の領域を確定することができます。 【キーワード】 ミラー・ニューロン、感情、本能、衝動、連合と触発、無意識に働く受動的綜合	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
10	わたしの感覚とあなたの感覚の区別の源泉としての間身体性	この回の講義で、初めてに立てた出会いの可能性の問いに明確な解答が与えられます。自分と他の人の感覚という超えられない断絶が、各自の感覚が感覚になった源泉に遡って、自他の身体の区別が生成する以前の幼児と養育者との情動的コミュニケーションの場が、現象学の反省にもたらされることを通して、根底から克服されるからです。共有体験は、共有する時間と空間において共に生きられる人と人との根源的コミュニケーションが成立している領域なのです。しかし、この領域の獲得と、大人の出会いの実現そのものとは、同じではありません。 【キーワード】 母と子の間の情動的コミュニケーションと言語を介したコミュニケーション（能動的相互主観性）、原共感覚からの個別的感覚野の生成、自他の身体の区別の成立、感覚内容の形態化	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	客観的時間と空間の成り立ち	前章の講義を通して、母子関係においてどのように乳幼児の身体感覚の世界が形成されてくるのかが明らかにされてきました。本章では、このことを基礎にして、乳幼児が、他の人々とともに、周りの世界の中を生きることで、どのようにして、共有する時間と空間を自覚できるようになるか、そのプロセスを考えます。そのさい、自分のしたことを覚えておける、再び思い起こす「再想起」の働きが働きだすのでなければなりません。同じものが同じものであるという事物の同一性が分かるようになり、言葉が使え、数を数えることができるようになることも、必要とされます。 【キーワード】 母と子の間の共有体験と情動交換、再想起（長期記憶）の働き、言語使用、事物の同一性、客観的時間と空間の意識の成立	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
12	幼児期の「生得的汝」との関係と成人の「我汝関係」	出会いは、まず、幼児期に幼児が養育者を中心にした世界に対して、「生まれながらに与えられている生得的汝」として直向きに関わるとき、生成します。次に出会いは、自我が形成され、知覚や言語使用という能動的能力が発展してのち、世界を利用する対象とみなす「われ-それ」関係が中心となる成人の生活の中で、「我汝関係」として実現します。この幼児期の出会いと成人の出会いとの共通性は、自我に囚われないその「無私性」にあります。フッサールの語る「我汝関係」は、受動的綜合を通して、その基礎が確定され、人格的態度において実現されます。 【キーワード】 受動的綜合としての対化、幼児期の生得的汝との出会い、自己中心性から解放された無私性、人格的態度と出会い	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
13	出会いと倫理	日常生活において社会のルールに即して生きている私たちにとって、常に社会倫理に対応した生活が求められています。その社会倫理の基礎は、人々の間の「思いやりや支え合い」を中心にした人間関係の基盤です。この倫理の基礎は、親子間の情動的コミュニケーションを通して形成されてきます。人生の節目にあって、自分の全体をかけた倫理的決断の際、人は、自分の感性と知性の全体をかけて、その問題に取り組むことが求められます。自分に気づいていることだけでなく、気づかれていない無意識の自分にまで遡ってはじめて、自分の全体が問いへの「答え」となるのです。 【キーワード】 幼児の対人関係、倫理の基礎の形成、間身体的感覚と感情、感情の自覚と言語化、人間の全体が問われる倫理的な問い	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。
14	異文化に育った人々の出会いの可能性	第2次大戦後、実存哲学とマルクス主義の哲学とが互いに拮抗する現代哲学の二大思潮となった際、人間を具体的で歴史性を担う全体として捉える「実存の哲学」は、意識主体としての個我ではなく、全体的な人格として理解しようとしました。フッサール現象学が他者経験に哲学的根拠を与えようとして、受動的綜合としての「対化」を提示しました。この論点をめぐり論議された人格と、仏教倫理における無我の「無私性」とは、自己中心性から解放されているという共通性を持っていることが明らかにされます。 【キーワード】 異文化に育つこと、人格と実存、受動的志向性としの対化、人格的態度、「我-汝-関係」と仏教の無我（無私性）	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
15	問いの道筋を振り返って（まとめ）	これまでの、感覚、時間、空間、知覚、心身関係、間身体性、相互主観性等々考察の歩みを振り返り、出会いの可能性の問いがどこまで明らかになったのか、確認してみます。そのさい、「出会いの問い」、「現象学と実存の哲学の真理の基準」、「時間の意識の解明」、「身体的実存の現象学」、「現象学の方法と自然科学の方法」、「自・他の身体の区別の成立と自他の感覚の区別の源泉」、「幼児期における「生得的汝」への関係と成人における我汝関係、という順番でまとめていきたいと思います。 【キーワード】 上記、参照。	山口一郎（東洋大学、文学部哲学科教授）	左に同じ。

＝　芸術の理論と歴史（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：青山　昌文（放送大学教授）〕

全体のねらい

芸術は、人類の文明の深い意味での美的な結晶の一つですが、それは、一見すると天才的な芸術家が一人で生み出したように見えるものであっても、実は長大な文化的伝統と重層的な社会的諸関係のただなかで受胎し産み落とされたものにほかなりません。この講義では、芸術のこのような文化的・社会的な生成の構造に焦点を当てて、各時代の美学芸術理論を振り返り、各時代の芸術作品がいかにその時代の文化と社会に深く根ざしていたかを美学的・芸術学的に考察するものです。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	芸術の見方	1　全体への序論 2　芸術の豊かな意味の世界―ルネサンス美術やバロック美術などを例にして 3　原始美術・エジプト美術・ミュケナイ美術・ギリシアクラシック美術 4　建築芸術の政治的表象性	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
2	プラトンとギリシア文芸	1　ヨーロッパ美学の源流としてのプラトン美学 2　プラトンにおける美と芸術 3　ギリシア文芸とりわけホメロスの叙事詩の政治的・社会的役割 4　文学芸術の政治的表象性とプラトン美学	同上	同上
3	アリストテレスとギリシア演劇	1　ヨーロッパ芸術理論の源流としてのアリストテレス芸術学 2　アリストテレスにおける美と芸術 3　ギリシア演劇とりわけ悲劇の構造と上演の政治的・社会的機能 4　演劇芸術の政治的表象性とアリストテレス芸術学	同上	同上
4	修道院の神学者とロマネスク美術	1　クレルヴォーのベルナールの美学 2　ロマネスク建築芸術のプラトン的超越性 3　モワサックのサン・ピエール教会 4　建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上
5	死と再生の連続的世界観とロマネスク美術	1　民衆的世界観と異形なるもの 2　ショーヴィニーのサン・ピエール教会 3　サン・サヴァン教会 4　建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	サン・ドニのシュジェールとゴシック美術	1 サン・ドニのシュジェールの美学と哲学 2 ゴシック建築芸術のアリストテレス的内在性 3 アミアン大聖堂 4 建築芸術の宗教性と社会性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
7	ルネサンスの哲学とイタリア・ルネサンス美術	1 ルネサンスの新プラトン主義哲学 2 フィチーノの美学 3 ボッティチェリとミケランジェロ 4 絵画・彫刻芸術の哲学性と社会性	同上	同上
8	ルネサンスの政治とイタリア・ルネサンス美術	1 フィレンツェの共和制とメディチ家 2 ドナテッロとミケランジェロ 3 ミケランジェロの『ダヴィデ』の意味 4 絵画・彫刻芸術の政治性と社会性	同上	同上
9	宗教改革と北方ルネサンス美術	1 聖像破壊思想と宗教芸術 2 ルターの宗教思想と芸術思想 3 デューラーとクラーナハ 4 絵画芸術の宗教性と社会性	同上	同上
10	対抗宗教改革とバロック美術	1 トレント宗教会議の宗教思想と芸術思想 2 カトリックにおける芸術の意義 3 ベルニーニ 4 絵画・彫刻・建築芸術の宗教性と社会性	同上	同上
11	ディドロとロココ美術	1 ディドロの美学と芸術理論 2 美術批評の祖としてのディドロ 3 グルーズとシャルダン 4 絵画芸術の世俗性と社会性	同上	同上
12	革命の時代と19世紀美術	1 産業革命と芸術の変貌 2 芸術家と社会 3 クールベとマネ 4 絵画芸術の政治性と社会性	同上	同上
13	戦争の世紀と20世紀美術	1 芸術の理論化と時代批判 2 ピカソとシャガール 3 現代芸術の理論性と批判性	同上	同上
14	死の影と現代芸術	1 現代社会批判としての現代芸術 2 ウォーホル 3 キーファー 4 現代芸術の現代性	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	環境芸術と現代社会	1　環境破壊問題と芸術 2　スミッソン・タレル・ロング 3　クリスト	同上	同上

＝　芸術・文化・社会（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　徳丸　吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：　青山　昌文（放送大学教授）　　〕

全体のねらい

芸術を文化・社会的脈絡において考察する。また、芸術の範囲を拡大し、現代の社会に焦点を合わせて論じる。個別的な芸術を扱う場合も、身体性、伝承、異文化との接触、グローバリゼーションといった大きな枠組みの中で考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化・社会的脈絡における芸術	芸術を文化・社会から切り離すことなく考察する理由を提示し、さらに新しい課題として、身体性、伝承・伝播の過程、感覚間の関係、異文化との接触等を重視する必要を論じる。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 青山昌文（放送大学教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授） 青山昌文（放送大学教授）
2	イメージと表面	身体と文化、身体と芸術の関係を中心に考察するために、化粧文化を中心に、身体の表面に現れるイメージを手がかりとして論じる。	鷲田清一（大阪大学総長）	鷲田清一（大阪大学総長）
3	モード化される身体	身体と文化、身体と芸術の関係を、服飾におけるモードを手がかりに論じる。ここでも、服飾を孤立した作品としてではなく、文化・社会的脈絡に置き、その中にいる人間との関係で論じる。	同上	同上
4	音楽がつくる身体とテクノロジーの音楽	身体と文化、身体と芸術の関係を中心に考察する。具体的にはマレーシアの少数民族のプナンの人々にとって、排泄行為も歌をうたうことも、ともに身体から出すという行為であることを説明して、そこから現代の芸術行為の根源的な問題に進む。	卜田隆嗣（大阪教育大学准教授）	卜田隆嗣（大阪教育大学准教授）
5	諸感覚の共動とイエログリフ	芸術の創造と享受における、複数の感覚の共動性・同時性・重層性について考察する。具体的には、ディドロの「目で見るためのクラヴサン」についての美学論とイエログリフ論を詳しく見てゆく。	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
6	芸術としての料理	複数の感覚の共動性の典型的な例として、料理芸術を採り上げる。そもそも、料理を芸術として捉えることの妥当性を論じることから始めて、味覚・嗅覚の復権を論じる。また、日本料理とフランス料理の、芸術としての特質を対比的に明らかにする。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	道具と芸術経験	芸術としての料理を享受する道具である、器・箸・ナイフ・フォーク・ワイングラス等の意味について考察する。道具の違いが、芸術享受経験にどのような違いをもたらすのかを、具体的に考察する。	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
8	伝承のしかけ	芸術が文化・社会の中に置かれるための重要な契機として、伝承を考え、それが、どのように行われるかを論じる。記すことによる伝承とともに、口頭伝承を扱う。	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）	徳丸吉彦（お茶の水女子大学名誉教授）
9	伝播のしかけ	芸術を伝播の観点から考察する。その中で、特定の芸術を重視する正典化の役割とともに、具体的なしかけとしての録音・楽譜印刷・放送を扱い、アマチュアの役割を考察する。	同上	同上
10	伝統音楽における変化	音楽を例にして、伝統における変化と固定、内発的変化と異文化接触による文化触変を扱い、それらを近世邦楽を例にして説明する。	同上	同上
11	「境界」の音楽ー近代日本における「日本音楽」ー	明治から第二次大戦までの日本音楽のうち、伝統音楽とも西洋音楽ともいえない「境界的」な音楽の試みを、東儀鐵笛と近衛直麿を中心に考察する。	寺内直子（神戸大学教授）	寺内直子（神戸大学教授）
12	越境する文学	ある文化圏で生み出された文学作品が、別の文化圏に受容される際に生じる、様々な変容の芸術哲学的・比較文化論的諸問題を考察する。	青山昌文（放送大学教授）	青山昌文（放送大学教授）
13	映画にみるグローバリゼーションと地域性	映画芸術をグローバリゼーションと地域性の観点から考察する。グローバリゼーションという強い流れの中で、地域性がいかに発現しているかを考える。	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）	加藤厚子（映画専門大学院大学准教授）
14	音楽にみるグローバリゼーションと地域性	グローバリゼーションは音楽においても目立つ傾向であり、そこから新しい音楽様式も生まれている。インドネシアのスンダを例にして、インドネシア全体と地方の関係、伝統音楽とポピュラー音楽の交流を具体的に扱う。	福岡正太（国立民族学博物館准教授）	福岡正太（国立民族学博物館准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	芸術概念の拡大	多様な感覚と身体性の重視を出発点にして、芸術概念を拡大する必要を論じ、また、芸術の受け手の創造的な役割を論じ、本講義全体の総括を行う。	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授)	徳丸吉彦(お茶の水女子大学名誉教授) 青山昌文(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1551000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本美術史 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：佐藤康宏（東京大学教授） 〕

講義概要

人間の作る物の形、イメージのありさまは、時代とともに変わり、地域によっても違う。どう変わり、なぜ違うのか、と美術史学は問いかける。日本の美術史についてその問題を考えてみよう。原始から現代まで、縄文土器から戦争画まで、日本列島で作られたさまざまな造形と関連する歴史事象とをたどる。主要な作例について映像を活用しながらその特徴を明らかにし、どのような力の働く場で造形が生きていたのかを考察する。

授業の目標

過去の日本美術というのは、いまの私たちにとってはどうかすると西洋美術よりもなじみのない、しかし新鮮な魅力に富んだ対象だといえる。その魅力を発見し、ただ美しさを讃嘆するだけでなく、それが抱える問題を冷静に理解してもらうことを目標にする。造形について、形や色に着目するところから始めて歴史的に考えていく――そういうおもしろさを知ってもらいたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	形の生命 ――縄文時代・弥生時代	縄文土器と土偶の美に触れ、日本列島で独自に発生し展開したその造形の特徴を特に中期の作例について瞥見する。次に弥生土器と銅鐸を例に、農耕の開始が社会のあり方を変え、それに伴い別の種類の造形感覚が普及した様子をたどる。 【キーワード】 縄文土器と土偶、弥生土器と銅鐸	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
2	権力の形象 ――古墳時代・飛鳥時代	社会の中で身分格差が拡大し、大きな権力を持つ者に奉仕する造形が発達していったありさまを、古墳とその副葬品に見る。6世紀になって仏教の受容が日本の視覚文化を大きく変えたことを、法隆寺を中心とする仏教美術をもとに考える。 【キーワード】 古墳の造形、視覚文化としての仏教、高松塚古墳壁画	同上	同上
3	シルクロードの終点にて ――奈良時代	遣唐使や鑑真の来日によって当時の国際様式というべき唐の美術の刺激が日本に伝わり、仏像や絵画の様式を変えていった軌跡を、3つの時期に分けて振り返る。特に正倉院の「鳥毛立女屏風」について、中国の美人画の歴史と関連させて論じる。 【キーワード】 薬師寺と興福寺、東大寺と正倉院、唐招提寺	同上	同上
4	異形の神の立つ場所 ――平安時代前期	平安時代を3期に分け、この回は8世紀末から9世紀を扱う。まず、奈良時代からの伝統を引いて作られた一木造の仏像の彫刻的な魅力と信仰上の意義を神護寺の「薬師如来立像」を中心に論じ、次に空海らがもたらした真言密教美術の特色について考える。 【キーワード】 神護寺の「薬師如来立像」、真言密教美術の開花、神像	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	浄土の顕現 ——平安時代中期	10世紀と11世紀を対象にする。日本が輸入し蓄積してきた唐の文化を編集する作業を通じて、いわゆる国風文化は形成された。「平等院鳳凰堂」というモニュメントを中心に、その前後の柔和な表現に傾いていった造形の様子を観察し、やまと絵の発生を論じる。 【キーワード】 平明な意匠、平等院鳳凰堂、唐絵とやまと絵	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
6	装飾への耽溺と離反 ——平安時代後期①	古代から中世への転換期として興味深い性格を持つ12世紀を話題にする。繊細優美な仏像、仏画、料紙装飾、装飾経、工芸品を概観するとともに、運慶の初期作品「大日如来坐像」（円成寺）などに見られるそれらと異質な傾向を指摘する。 【キーワード】 院政期の優美と機知、風流、新様式の胎動	同上	同上
7	絵巻は語る ——平安時代後期②	院政期は最もすぐれた絵巻が作られた時代でもある。「源氏物語絵巻」（五島美術館・徳川美術館）、「信貴山縁起」（朝護孫子寺）、「伴大納言絵巻」（出光美術館）、「病草紙」（京都国立博物館ほか）などの表現の特色を分析する。 【キーワード】 源氏物語絵巻、信貴山縁起、後白河法皇をめぐる絵巻群	同上	同上
8	新しい現実感 ——鎌倉時代	武家政権となっても、文化の主たる担い手は貴族や社寺だった。だが、貴族たちの美意識も変質する。世俗画が前代とは異質な造形感覚を宿し、宗教画は聖域を実際の場所らしく描写し始める。「一遍聖絵」（清浄光寺）などの新しい種類の現実感を考察する。 【キーワード】 仏教美術の復古と新様、やまと絵と絵巻の展開、現実の人間と土地の姿	同上	同上
9	描かれた都市 ——室町時代	宋元画の刺激が漢画を発達させるとともに大和絵のあり方も変えていった。禅宗寺院や将軍邸の建築とその室内を飾った絵画・工芸品の様相を概観し、そこから登場した都市を主題とする絵画、雪舟「天橋立図」（京都国立博物館）や洛中洛外図へと議論を進める。 【キーワード】 墨色の空間、装飾の領分、都を描く	同上	同上
10	かぶきのデザイン ——桃山時代	戦国武将の過剰なエネルギーは、城郭と障屏画、変わり兜や奇抜な衣装に発現した。侘び茶の空間もそれと拮抗すべく設えられ、異様な風体は陶磁器の姿にも及ぶ。イエズス会の布教活動や南蛮貿易に伴って作られた絵画や南蛮ファッションも話題にする。 【キーワード】 金色／黒色、〈傾く〉造形、南蛮ファッション	同上	同上
11	転形期の精神 ——江戸時代前期	江戸時代を3期に分け、この回は17世紀から18世紀初めまでを扱う。桃山の遺風と、秩序を重んじる新体制の嗜好とが衝突するところに生まれた魅力的な造形のうち、特に狩野山雪、岩佐又兵衛、俵屋宗達らの絵画に焦点を合わせる。 【キーワード】 桃山から江戸へ、浮世絵の誕生、町衆の意匠、造仏聖	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	市民たちの美的欲望 ——江戸時代中期①	18世紀には、長崎を通じてもたらされた明清の文化が新たな刺激となって、絵画を刷新した。南画では池大雅、与謝蕪村、その周囲では伊藤若冲、曾我蕭白、円山応挙、長澤蘆雪など、町人出身の画家たちが創造力を競い合った京都画壇を中心に論じる。 【キーワード】 明清文化の流入、18世紀京都画壇の革新、洋風技法の広がり	佐藤康宏（東京大学教授）	佐藤康宏（東京大学教授）
13	早過ぎた近代 ——江戸時代中期②・後期①	この時期の江戸では、多色刷り木版画を媒体に浮世絵の表現の幅が広がった。春信、清長、歌麿、写楽、北斎、国芳、広重らの画業を一覧する。そこに導入された洋風技法とともに洋風画・銅版画に触れ、浦上玉堂など後期の関西の南画にまで言及する。 【キーワード】 錦絵の展開、武士と町人の自己表現、19世紀江戸画壇	同上	同上
14	美術の明治維新 ——江戸時代後期②・明治期	渡辺崋山らの絵画、文化財調査や画史画伝の編纂といった明治期への遺産ともなった江戸後期のできごとを検討する。江戸時代の枠組をもとに作られ、西洋風の表現を加えた軋みから生まれる明治美術のおもしろさについて考察する。 【キーワード】 文化の大衆化と浮世絵・工芸、江戸の残照、国家のための美術	同上	同上
15	現代の視覚文化 ——大正・昭和期（戦中）	ヨーロッパの芸術運動がただちに伝わるようになった時代に、それらに同調し、あるいは反発して、注目すべき造形が作られた。代表的な作例を論じ、版画・写真・ポスターといった大衆向けのメディアの発達、そして十五年戦争と美術との関わりについて説く。 【キーワード】 大正アヴァンギャルド、複製技術の時代、自由の希求とその敗北	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551108	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　現代日本社会における音楽　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：月溪　恒子　（大阪芸術大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：北川　純子　（大阪教育大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：小塩　さとみ（宮城教育大学准教授）　〕

講義概要

こんにちの日本で実践されている多彩な音楽の姿を、全15回にわたって講義する。伝承と創造、声と楽器、地域や教育や産業、音楽を提供する側と実践する側といった複眼的な視座のもとに、新しく創作された作品を含むさまざまな伝統音楽、オーケストラや吹奏楽、各種のポピュラー音楽、世界の多様な音楽などの日本での在りかたを、史的経緯もふまえて解説する。講義は曲例を紹介しながら進め、音楽を考える手がかりとなる理論的な問題にも随所で触れる。

授業の目標

全15回の授業を通して、こんにちの日本の音楽状況を把握するさいに必要な用語や概念を理解できるようになることを目標とする。また、この講義を通じて、明治期以降さまざまな要因による変化を経験してきた日本社会において、人びとがどのように「音楽してきた」か・「音楽している」かについて、自分なりの思考ができるようになることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「現代日本社会」への道程	全体への導入として、明治期から現代に至る日本社会での音楽状況の変化を歴史的に概観する。音楽状況に大きな転換をもたらした①明治維新と②第二次世界大戦終結を時代区分の主軸に捉え、②以後の「現代日本社会」における音楽実践の諸相を理解するための指針を示す。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
2	学校教育のなかの音楽	明治期以降の学校における音楽教育の成果を、学校音楽文化の創出とその社会への影響力という観点から解説する。西洋音楽受容と伝統的な音楽性との相克を、これまでの教材と指導法のなかに探り、その融合をめざした新たな学校音楽文化の可能性を示す。	加藤富美子（東京学芸大学教授）	加藤富美子（東京学芸大学教授）
3	吹奏楽の広がり	日本において、西洋音楽の移入を先導する役割を担ってきた吹奏楽について、明治期からこんにちに至る史的経緯を概観する。吹奏楽を支えてきた人びと、レパートリー、演奏の場などの諸側面を、音楽的観点と社会的観点の両方から整理し、21世紀の新しい動向について解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
4	現代社会における伝統音楽	明治期以降の日本の社会における伝統音楽の状況を紹介する。古典曲の継承と、西洋音楽からの刺激を受けて生まれた新曲創作の動きの両面をとりあげ、現代社会での「伝統」のあり方を考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
5	オーケストラとその音楽	西洋の産物であるオーケストラの日本でのあり方について、組織としての管弦楽団と、奏でられる管弦楽作品の両面から、史的概観をおこなう。レパートリーの傾向や、日本の作曲家による管弦楽作品の特徴についても考える。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	楽器にみる音楽観	明治期以降の日本社会は、楽器を近代化の象徴と考えてきた。その結果、日本で作られた楽器には、日本人の創意工夫とともに、西洋の楽器を同化しようとする人々の営為が明確な形で現れている。明治から昭和前期における楽器開発の試行と、戦後、その反動として起こった和楽器における「伝統への回帰」などについて考える。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
7	音楽産業と現代日本社会における音楽	音楽産業を研究する意味と音楽産業の全体像を概説したうえで、楽器産業を例にとり、日本独特の産業発展の経緯と音楽産業と現代日本の音楽文化とのかかわりについて扱う。	田中健次（茨城大学教授）	田中健次（茨城大学教授）
8	音楽を伝える	音楽の覚え方、教え方、楽譜や教習制度など、音楽を伝え広めるための方法を扱う。古くから行われている伝承方法、明治期以後に西洋音楽の影響を受けて生まれた変化、現代の日本社会における新たな動向について解説する。	月溪恒子（大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授） 小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
9	音楽とジェンダー	音楽にまつわる視覚的要素、歌謡曲の歌詞、「男性が女歌を歌い、女性が男歌を歌う」ジェンダー交差歌唱、楽器と演奏者といった問題をとりあげ、音楽とジェンダーについて解説する。「ジェンダー」が就労や生活だけでなく、音楽にも深く浸み込んでいることの理解をめざす。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
10	地域がつくる芸能	現代日本社会でも、地域がつくる芸能は大きな役割を果たしている。大阪の伝統芸能・民俗芸能や現代的な祭り文化を事例として、風土を含めた地域性が音楽に対して与える影響や、地域を越えて広がる音楽といった観点から考察する。また、行政や研究者の役割にも触れる。	月溪恒子（大阪芸術大学教授）	月溪恒子（大阪芸術大学教授）
11	声から考える日本の音楽	日本の音楽における声の多様性と、ジャンルを越えた声の共通点を紹介する。また、西洋音楽が日本の声に与えた影響など、時代による声の音楽の変化についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
12	ポピュラー音楽の諸相	「ポピュラー音楽」概念を検討するとともに、日本のポピュラー音楽の史的概観をおこなう。海外からの影響とその消化、音楽的諸要素の変化、メディアなど、複数の側面から解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
13	映像を聴く・音を観る―日本映画と音楽―	サイレント期からの日本映画と音楽とのかかわりについて概観する。映像と音楽をめぐる理論、映画主題歌と映像とのかかわり、芸術音楽作曲家と映画、アニメーション映画の音楽などを素材に、「観る」ものである映画が「聴かれて」もきていることについて解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）
14	日本で響く世界の音楽	「和洋」対概念では捉えきれない、こんにちの日本での多彩な音楽実践について紹介するとともに、世界のさまざまな地域の音楽が日本で鳴り響くようになった背景についても考える。	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）	小塩さとみ（宮城教育大学准教授）
15	音楽からみる現代日本社会	明治期以降の日本の音楽状況の変化を概観し、音楽から現代日本社会を見たときに浮かび上がる諸相について、整理・解説する。	北川純子（大阪教育大学准教授）	北川純子（大阪教育大学准教授）

＝　演劇入門（‘０６）＝（TV）

－古典劇と現代劇－

〔主任講師（現職名）：　渡辺　保（演劇評論家）〕

全体のねらい

日本の四つの古典劇――能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎を新しい視点から見るにはどうしたらいいか。そのためには第一にこの四つの古典劇を一つのものとして見ること。第二に他の現代演劇と比較しながら見ること。この二つの視点――つまり、デジタルとアナログの視点からみることが大切である。そうすれば容易に伝統演劇を理解できるだろう。そのために今回の番組はできるだけ、作品中心、俳優中心、一番組読みきりを原則とした。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代演劇の展望	新しい演劇の見方を提案する。提案の骨子は二点。第一に、能、狂言、文楽、歌舞伎の四つの古典劇を一つの流れとして捉え、これを現代劇と対比して日本演劇の全体像を捉えること。第二にこれらの日本演劇の流れを世界の演劇と対比すること。以上の二点によって現代演劇の生きた姿の全体を分析する。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
2	能「自然居士」	能の「自然居士」の演劇的な構造を分析する。この作品は、これまで言われてきたような単なる芸尽くしのドラマではない。一人の青年宗教家が人買いに買われる少女を救うことによって、真の宗教家として目覚め成長していく過程を描くドラマである。この構造を捉えることが、能を現代に生きる演劇として捉えることであることを立証する。梅若六郎主演。	同上	同上
3	能「松風」	能は「自然居士」のように一つのドラマであると同時に一方ではきわめて舞踊的な、音楽的な要素の強い曲もある。その代表的な「松風」の分析。松風はなぜ行平の遺品の衣裳を着て男装して舞を舞うのか。その演劇的な構造、変身の意味を分析することによって能のドラマを考える。故後藤得三主演。	同上	同上
4	狂言「釣狐」	ある山里で起きた事件。猟師に狐狩りをやめさせようと、猟師の伯父伯蔵主に化けた老狐が猟師の家を訪れる。狐の物語は実は人間の物語なのだ。この物語の陰に隠されている世代交替、自然と対立して自然を破壊していく人間の世界観を分析する。狂言はおおらかな喜劇であると同時に、人間に対する風刺劇でもある。その演劇的な意味を分析する。野村万作主演。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	人形浄瑠璃（文楽）「道明寺」	文楽の代表的な作品「菅原伝授手習鑑」の二段目河内の国の郡領屋敷で起きる奇蹟劇を通して、文楽が人形劇として獲得した高い演劇的表現の意味を分析する。人形劇だからこそ表現される奇蹟、そして菅原道真が生きながら神に変身する神話の構造を問う。吉田玉男主演。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
6	文楽と歌舞伎「すし屋」	文楽から歌舞伎に輸入された名作の一つ「義経千本桜」三段目「すし屋」を題材に、歌舞伎に輸入されることによってどういう演出上の工夫が施されたか。それによって歌舞伎の様式的な演技術の基礎がどのように作られたかを探る。いわゆる歌舞伎の「型」というものの面白さの研究である。中村富十郎主演。	同上	同上
7	歌舞伎「助六」	歌舞伎十八番の一つ「助六由縁江戸桜」を分析。「助六」は歌舞伎の歴史のなかでももっとも古い演目のひとつであり、それだけに多くの歌舞伎の本質を示している作品。たとえば江戸時代の二大「悪所場」であった芝居町と遊廓との関係もその一つである。市川団十郎主演。	同上	同上
8	歌舞伎「髪結新三」	河竹黙阿弥の代表作「梅雨小袖昔八丈（髪結新三）」を題材に歌舞伎の世話狂言の面白さ、その近代的な自然主義リアリズムに接近した世話物の芸の面白さを分析する。黙阿弥とチェーホフは年齢的に親子ほど違うが実は同時代人である。黙阿弥はチェーホフとどう違うのか。そこに歌舞伎の芸の秘密があり、限界もある。中村勘三郎主演。	同上	同上
9	歌舞伎舞踊「道成寺」と「鏡獅子」	歌舞伎全体の演目のなかでも舞踊は大きな比重を占める。そればかりではなく歌舞伎の芸あるいは歌舞伎役者の身体には舞踊の要素が強い。能の身体の伝統を含めて歌舞伎の身体とは何かを問う。歌舞伎舞踊の二大名曲「京鹿子娘道成寺」と「春興鏡獅子」を題材に、歌舞伎舞踊とは何かを分析する。故中村歌右衛門主演。	同上	同上
10	芸の構造――武原はんと井上八千代	能、狂言、文楽、歌舞伎の四つの古典劇に共通している芸の構造の背景には「素」という特別な思想がある。能の仕舞、文楽の素浄瑠璃、舞踏の素踊り。これらは演者が素顔で行うものであり、全ての芸の根底にはこの「素」の思想がある。素踊りに近い座敷舞の名人二人を題材にその思想の意味を問う。故武原はん、故四代目井上八千代主演。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	リアリズム演劇「炎の人――ゴッホ小伝」	近代劇は自然主義リアリズムをその出発点としている。その代表的な作品の一つである三好十郎作の画家ゴッホの伝記劇を扱う。この作品において名優滝沢修がそのリアリズム演技の頂点に立ったからである。その名演技を題材に近代劇の原点、それから発展した現代劇の一つリアリズム演劇の世界観、人間の捉え方、表現の仕方が古典劇とは方法論的に違うことを分析する。故滝沢修主演。	渡辺　保（演劇評論家）	渡辺　保（演劇評論家）
12	現代劇「別冊谷崎潤一郎」	現代劇の代表作の一つとして鈴木忠志構成演出の「別冊　谷崎潤一郎」を取り上げ、世界的な演出家の一人鈴木忠志独特の方法と思想、そして演劇的に極めてレベルの高いこの舞台の構造を分析する。そのことによって今日の演劇の持つ意味、対社会的な役割――いかに演劇が現代社会を写し出しているかを検証する。	同上	同上
13	現代喜劇「笑いの大学」	三谷幸喜の傑作であり、かつ現代喜劇の代表作でもある「笑いの大学」を題材に、演劇の基本構造、そして喜劇がどのようにして作られるかを分析する。さらにこの問題は人間にとって果たして笑いとは何か、笑いは人間が生きていく上に必要なものかにまで進展する。西村雅彦、近藤芳正主演。	同上	同上
14	ミュージカル「マイ・フェア・レディ」	「マイ・フェア・レディ」は日本ではじめて上演された翻訳ミュージカル。イギリスの劇作家バーナード・ショウが大正元年に書いた近代劇「ピグマリオン」を原作としている。近代劇がミュージカルになることによってなにを得、なにを失ったかを分析することによって、ミュージカルの特性を研究すると同時に日本の古典劇との違いを明らかにする。	同上	同上
15	２１世紀の演劇	古典劇と現代劇との比較を通して、演劇の本質を分析する。近代劇を超えるために東洋の古典劇に注目した三人――アルトー、ブレヒト、ヤン・コットの三人の業績を考えながら、彼等が東洋――とりわけ日本の古典劇に発見した演劇の構造こそが将来の２１世紀の演劇の指針になるのではないか。その可能性を探る。	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1553607	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 考古学 （’０９）＝（ＴＶ）

－その方法と現状－

〔主任講師（現職名）：泉　拓良（京都大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：上原　真人（京都大学大学院教授）〕

【担当専任教員：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）】

講義概要

考古学とは、過去の人類が残した行動の痕跡を調査・研究し、過去の出来事や社会、文化、歴史を明らかにしようとする学問である。フィールドにおいては考古資料を注意深く取得することが必要である。考古学は、取得した資料の実測や分析を行い、関連する様々な学問の支援を得て、遺跡や遺物に残された「行動の痕跡」を解釈する。本講義では、それらの研究方法について具体的事例を示して講義する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、地面に刻まれた遺構や残された遺物から、どのようにして過去の出来事や社会、文化、歴史を復元するのかという方法を、具体的な事例をまじえて学ぶ。本講義で学ぶ考古学の研究方法は、日本だけではなく世界中の考古学に共通し、また、旧石器時代から近世に至るまでに応用が可能である。本講義で学んだことが、個別の歴史事例の理解に止まらず、時代や地域を超えての人間の理解に役立つことを期待する。

履修上の留意点

「人類の歴史・地球の現在」を学んでおくことが望ましい。また、「日本の古代」「古代地中海世界の歴史」「文化人類学」をあわせて履修すると、より本講義の理解が深まる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	考古学とは何か	本講座を始めるに当たって講義全体の構成を示し、考古学研究に必要な方法を、年代論、機能論、分布論に分けて講義するかを解説する。次に考古学の定義を述べ、関連する諸科学に触れるとともに、研究史を概観する。 【キーワード】 考古学、先史学、歴史学、人類学、年代、機能、分布、研究史	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院、教授）
2	発掘調査の歴史と実際	発掘調査とは、考古学にとって最も重要な資料取得の手段であり、自然科学における実験に当たる仮説の検証手段でもある。国内外での代表的発掘調査を紹介し、発掘調査の歴史が考古学の発展と不可分の関係にあることを述べる。 【キーワード】 遺跡、遺構、層位、ポンペイ、トロヤ、真脇遺跡、狭山池遺跡	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院、教授）
3	考古学があつかう年代	遺跡・遺物の年代は考古学研究の基本であるが、日本では、倭製の鏡や刀剣の年代は5世紀以降、年紀をもつ木簡の増加は7世紀後半以降である。それ以前の年代を知るには、型式学・層位学などの考古学的方法と、自然科学的年代測定法とを熟知せねばならない。 【キーワード】 干支、年紀、年輪年代、放射性炭素年代、絶対年代、相対年代	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	年代の理化学的測定法	考古資料の中には、規則的に時の変化を刻んだ痕跡が残されている。それらの測定から年代を明らかにする方法を解説するとともに、結果の有効性と限界などを検討する。 【キーワード】 年代測定、放射性炭素法、年輪年代法、暦年代	清水芳裕（京都大学大学院・准教授）	清水芳裕（京都大学大学院・准教授）
5	層位学と年代	文化層および出土遺物の新旧や年代を決定する基本的な原理である、層位学について学ぶ。縄文土器の編年研究の歴史、旧石器文化の年代と火山灰層、発掘調査における層序など、層位学的方法を解説する。 【キーワード】 地質学の原理、火山灰年代学、ペリゴールの洞穴群、山内清男	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
6	型式学と年代	遺物の形や文様の変化をとらえ、その年代を考える方法が型式学である。この方法をあみだしたモンテリウスの仕事を紹介し、いま日本考古学でどのように継承されているのかを、弥生時代の土器や青銅器などの研究例をふまえて解説する。 【キーワード】 モンテリウス、進化論、痕跡器官、交差年代決定法、形と文様	岡村秀典（京都大学・教授）	岡村秀典（京都大学・教授）
7	セリエーションとは何か	遺物の特徴ある形・製作技術・装飾などの諸要素の増減を、数量的・視覚的に把握するのがセリエーションである。諸要素の増減変化には、政治的・経済的なモーメントが働く場合が多く、重要な歴史背景が指摘できることを述べる。 【キーワード】 ペトリー、ディーツ、鈴木公雄、弥生土器様式論、フラクチュアション	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）
8	遺物の機能をさぐる	発掘で出土した遺構や遺物の中には、何に使ったのか見当がつかないモノが少なくない。考古資料の機能を知るには、民俗資料や民族資料との比較対照、製作実験や使用実験、出土情況の確認、使用痕分析、同種の出土品を集成した分類・分析、などの各種方法がある。 【キーワード】 民俗学、民族学、実験考古学、使用痕研究、原位置論	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）
9	使用痕分析と実験考古学	道具の機能を実証的に推定する方法について学ぶ。使用によって残された形跡を観察し、実験によって確かめる使用痕分析は重要な研究法である。石器の微細使用痕分析、土器の使い方の実験考古学などを解説する。 【キーワード】 セミョノフ、顕微鏡観察、ミドルレンジセオリー、実験考古学、微細使用痕	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
10	民具と考古学	近年、急速に資料が増加した弥生・古墳時代の木器から、おもに農具を取り上げて、弥生時代から古墳時代に至る農業技術の変遷とその画期を解説する。考古資料の機能認定において、各種の機能認定法をどのようにバランス良く駆使できるかの応用問題である。 【キーワード】 機能認定法、木器、農具、農業技術	上原真人（京都大学大学院・教授）	上原真人（京都大学大学院・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	考古学と分布	遺構や遺物、もしくはその組み合わせの空間的広がりを明らかにすることは、古くから、物資の流通や、文化の交流や伝播を考える上で重要であった。最近では自然科学的分析や空間情報科学的手法の支援を受けて、新たな展開がみられる。 【キーワード】 産地同定、原位置論、伝播、流通・交易、人の移動、文化圏	泉拓良（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院・教授）
12	産地同定と流通	石器、土器、青銅器の材料にあらわれる地域的な特徴を理化学的な分析によって識別し、流通の実体を探る研究がおこなわれているが、いくつかの分析法と具体的な成果を解説しながら問題点にもふれる。 【キーワード】 物資の流通、材料の産地、胎土分析、鉛同位体比	清水芳裕（京都大学大学院・准教授）	清水芳裕（京都大学大学院・准教授）
13	東アジア古代の青銅器分布	弥生時代に朝鮮半島から伝えられた銅剣・銅矛・銅戈・銅鐸などの分布から製作地と流通を考え、つづいて中国王朝から大量にもたらされた銅鏡と中国の歴史書とを照らしあわせて、弥生・古墳時代の対外交渉を検討する。 【キーワード】 銅剣、銅矛、銅鐸、漢鏡、三角縁神獣鏡、同笵鏡、同型鏡、邪馬台国	岡村秀典（京都大学・教授）	岡村秀典（京都大学・教授）
14	遺跡内での遺物分布	遺跡の内部における遺物の分布状況を検討することで、人間活動の具体的内容について知ることができる。遺跡構造分析、原位置論、形成過程研究などの事例を通じて、遺物の空間的な分布と人間行動の復元について解説する。 【キーワード】 遺跡構造、ビンフォード、パンスバン遺跡、形成過程	阿子島香（東北大学大学院・教授）	阿子島香（東北大学大学院・教授）
15	考古学の多様性	今回の講座に中心に据えた伝統的考古学の手法に対し、プロセス考古学とポストプロセス考古学の立場から問題の提起をおこない、海外での考古学の現状として、アメリカでの考古学、イギリスでの考古学、中東での考古学、中国での考古学を紹介して、日本の考古学の現状を議論し、まとめにする。 【キーワード】 プロセス考古学、ポストプロセス考古学、世界の考古学、文化財学	泉拓良（京都大学大学院・教授） 上原真人（京都大学大学院・教授）	泉拓良（京都大学大学院・教授） 上原真人（京都大学大学院・教授）

＝　日本の古代（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　佐藤　信（東京大学大学院教授）　〕

全体のねらい

日本列島の古代史像は、様々な新資料の発見によって変わりつつある。活発に越境した国際関係、掘り起こされた各地域の歴史や古代都市の実像が明らかになり、多元的に古代史が見直されている。こうした研究動向をふまえ、東アジアの国際関係のもと史料と史跡に焦点をあてながら、あたらしい日本列島の古代史をたどりたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	史料と史跡が語る古代史	文献・出土文字史料や遺跡・遺物など古代史が対象とする多様な歴史資料を紹介し、考古学など学際的な視野の必要性を語る。また、国際関係、中央と地方の関係、古代都市像などをめぐり、一元的にとらえられない日本列島の古代史像の新動向を整理する。	佐藤　信（東京大学大学院教授）	佐藤　信（東京大学大学院教授）
2	邪馬台国の時代	『漢書』『後漢書』「魏志倭人伝」が伝える古代社会像と、集落・祭祀・戦いをめぐる弥生時代の新しい発掘調査成果とをつき合わせ、弥生時代の列島の社会像を提示する。「魏志倭人伝」・吉野ヶ里遺跡・加茂岩倉遺跡などの史料と史跡に焦点をあてる。	倉本一宏（駒沢女子大学教授）	倉本一宏（駒沢女子大学教授）
3	地方豪族と倭国の大王	古墳時代の鉄剣銘文や「宋書倭国伝」が語る列島世界を明らかにし、磐井の戦いにも焦点をあて、５～６世紀の地方豪族と大王の関係を、国際関係の中で複眼的に見直す。稲荷山古墳鉄剣・「宋書倭国伝」・大山古墳・三ツ寺遺跡などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
4	飛鳥の王権	７世紀前半の大王推古時代を中心に、隋・唐が成立する国際関係の中で、蘇我氏や厩戸王（聖徳太子）の政治像や、仏教受容（寺院の建立）などの文化動向を明らかにし、倭王権の支配構造を整理する。『隋書』・飛鳥寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
5	律令国家の形成	７世紀後半の緊張する国際関係下、「大化改新」、白村江の敗戦、壬申の乱を経て天武・持統天皇により藤原京・律令が作られ律令国家が形成される過程を、地方豪族の動向と併せたどる。『日本霊異記』・木簡・藤原京・寺町廃寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐藤　信	佐藤　信

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	奈良時代の政治史	奈良時代の変乱があいつぐ政治史を、皇位継承を軸にしながら藤原氏や他氏族の動向をたどり、この時代が貴族たちにとって決して安穏な時代ではなかったことを明らかにする。『続日本紀』・恭仁京・紫香楽宮・難波宮などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐藤　信	佐藤　信
7	古代の宮都と地方官衙	平城宮・平城京や長屋王邸宅の生活やその経済基盤を、木簡や発掘成果から明らかにし、国司による地方支配に注目しつつ、国府・郡家などの地方官衙と在地の社会との関係について整理する。長屋王家木簡や平城宮・国府・郡家などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
8	遣唐使と天平文化	遣唐使の困難な行程を吉備真備などの人物からたどり、彼らがもたらした政治・文化を位置づけ、中央の東大寺大仏・正倉院や地方寺院遺跡などの文物から文化的広がりを考える。『東大寺要録』・正倉院・大宰府跡・国分寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
9	平安王朝への道	奈良時代の天武系にかわる天智系の新しい皇統の登場、桓武天皇による対蝦夷戦争と新都造営、そして桓武晩年の徳政論争による両者の停止など、平安新王朝確立への歩みを概観する。『続日本紀』・多賀城・長岡京などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
10	平安京とその文化	嵯峨天皇による新たな政治・文化の展開と平安京の確立を整理し、都市平安京の成熟や平安新仏教やカナの展開など、その後の日本文化に影響を与えた平安初期の文化について明らかにする。『池亭記』・平安京・東寺などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
11	藤原北家の台頭	9世紀半ばからの藤原北家の台頭を、相次ぐ他氏排斥事件とともに整理する。天皇と「前期摂関」との関係を軸としつつ、宇多天皇時代の政権構造や菅原道真左遷事件など、摂関政治に至る政治過程を整理する。『伴大納言絵巻』などの史料と史跡に焦点をあてる。	同　上	同　上
12	摂関時代の貴族の生活	摂関政治の構造を地方支配のあり方をふくめて概観し、摂関時代の貴族の政務や生活のあり方を紹介する。摂関と天皇との関係の実情や、国風文化の意義についても明らかにする。『小右記』・『源氏物語絵巻』・平等院（寝殿造り）などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐々木恵介（聖心女子大学教授）	佐々木恵介（聖心女子大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	受領と地方社会	１０世紀から地方支配の要となった受領に焦点をあて、受領の任国支配、受領と地方豪族との関係などについて明らかにしつつ、承平天慶の乱など中央と地方との関係も概観する。尾張国郡司百姓等解・『時範記』・『将門記』・国府などの史料と史跡に焦点をあてる。	佐々木恵介	佐々木恵介
14	院政の時代	後三条天皇から院政に至る政治過程を整理し、院政期の院・天皇・摂関・受領たちの関係に焦点をあてて政治構造を明らかにするとともに、浄土教・平泉などこの時代の文化について考える。『今昔物語』・鳥羽・平泉などの史料と史跡に焦点をあてる。	同上	同上
15	日本列島の古代史	日本列島の古代史を律令国家一元論で見るのではなく、蝦夷・北海道の歴史や琉球における統一国家の形成を視野に入れた上でとらえ直す観点を提示する。そして、講義全体のまとめを行う。	佐藤　信	佐藤　信

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1553909	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本の中世（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：五味　文彦（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：本郷　和人（東京大学大学院准教授）〕
〔主任講師（現職名）：中島　圭一（慶應義塾大学准教授）〕

講義概要

日本の中世は古代や現代とは違って権力が中央に集中していなかった。その歴史を、成り立ちや展開の姿、特に列島の各地の動きや対外関係に注目しながら考えることにする。そのためには中世史の研究を行うための主な材料や研究方法などを吟味するとともに、列島の各地からのレポートを載せて、多様な地域、多彩な人物のあり方を浮き彫りにすることにしたい。

授業の目標

単に受け身で視聴して学ぶのではなく、自らの手で調べて考え、各地に赴いて実感したくなるような授業をめざしたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	中世を考える	日本の中世史を考えるうえでの方法や、時代区分、研究の現状などを解説して、中世社会への誘いとする。	五味　文彦（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学教授）
2	中世のかたち	中世社会のかたちがどのように形成されてきたのか、その成立期を中心にして考える。院政という政治形態や、家という社会の単位、また宗教や文化の形成について考える。	同上	同上
3	武士政権の誕生	東国の武士たちは、朝廷や国衙の苛酷な要求から自分たちの利益を守ってくれる存在を欲するようになった。その求めにもっとも良く応じた者こそが源頼朝であった。武士たちは頼朝のもとに集結し、新しい権力を構成する。鎌倉幕府の誕生である。	本郷　和人（東京大学大学院准教授）	本郷　和人（東京大学大学院准教授）
4	中世前期の国家像	鎌倉時代に国家の存在を想定するならば、その担い手としては幕府と朝廷の名を挙げるのが妥当であり穏当である。では、両者はどのように関わっていたか。具体的な史実を挙げながら、分かり易く説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	統治の行方	関東に政権を立ち上げた武士たちは、否応なく「統治」を担う存在として成長していくことになる。そうした動向の中心にあったのが、源頼朝の妻、政子の実家である北条氏であった。北条氏の盛衰と統治の進展とを学習する。	同上	同上
6	中世の仏と神	鎌倉時代において、仏教とは何だったのか。「顕密体制」という考え方を紹介しながら、「易しい」仏教としての浄土の教えと、「武士の」仏教である禅の位相を探る。また仏と共に歩んだ神のすがた、さらに公家と武家に共有された思想についても述べる。	同上	同上
7	古文書を読む	古文書には定められた形式があり、その形式及び変遷を学んでおかないと、古文書の正偽さえ判断できないし、歴史学研究に役立てることができない。武家様文書の大まかな約束事を勉強しよう。	同上	同上
8	二人の天皇がいた時代	足利尊氏は武士たちを率いて京都に新たな幕府を開き、北朝の天皇を戴いて全国の統治を試みた。しかし、勢力は衰えながらも、吉野の南朝も抵抗を続けていた。南北朝の相克を追いながら、当時の天皇の存在を問い直す。	同上	同上
9	室町殿の王権	3代将軍義満の下、室町将軍家は日本全体に君臨する「唯一の王権」としての立場を固めていった。ここでは、義満による覇権確立の過程を押さえながら、公武それぞれに対する室町幕府の支配体制の実像を見てゆく。	中島　圭一(慶應義塾大学准教授)	中島　圭一(慶應義塾大学准教授)
10	自立する村、繁栄する都市	室町時代から戦国時代にかけて、村や町の住人が団結してしばしば一揆を起こすようになる。その基盤となったのは、村や町における住人相互の結びつきや日常生活のあり方であり、その等身大の姿を探ってみたい。	同上	同上
11	東アジアの海の道	中世は東アジア世界との海上交通が盛んに行われた時代であった。ここでは沈没船や港町の遺跡を手がかりに、宋／元／明、高麗／朝鮮、琉球、北方などの諸地域との交流の実態を明らかにしてゆく。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	応仁の乱―近世への第一歩	応仁の乱は、単に政治史的な意味でだけ、戦国時代が幕を開ける契機であったのではない。中世的秩序の行き詰まりの結果として起こった、より広汎な社会変動の一つの表出として、この戦乱をとらえ直してみる。	同上	同上
13	文化からみた戦国社会	戦国時代の文化の水平的な広がり（地方への普及）と垂直的な広がり（都市における町衆への普及）という二つの特徴を通じて、この時代の社会の動向を考えてみたい。	同上	同上
14	戦国大名の領国支配	中世的秩序の解体とともに成立し、近世的権力へとつながる戦国大名が、領国の支配においてどのような課題に直面し、どのような方策を打ち出したのか、具体例に即して見ていく。	同上	同上
15	中世社会と現代	中世社会と現代社会の関わりを通じて、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、中世社会の位置づけを改めて考えてみたい。	五味　文彦（放送大学教授）	五味　文彦（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554000	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本の近世（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　杉森　哲也（放送大学准教授）〕

講義概要

日本の近世（16～19世紀）とはどのような時代なのか、その特質について講義することを基本的な課題とする。５つの分野（政権論および国家論、朝廷論および朝幕関係論、村落論、商業・流通論、都市論）を取り上げ、各分野毎に、①研究状況の概観、②高校教科書の記述に代表される一般的な理解と現在の研究状況の違い、③各分野の最先端の研究成果、などについて講義する。

授業の目標

日本の歴史の中で、近世（16～19世紀）という時代がいかなる特質をもつ時代なのかについて理解することを基本的な目標とする。教科書的な通史による講義ではなく、近世史研究の中の５つの分野を取り上げるという方法で、講義を構成する。近世史研究がどのように進展してきたのか、そして現在の最新の研究がどのようなものであるのかについて、分かり易くかつ高水準の内容となる講義を行いたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	近世という時代	近世（16～19世紀）という時代は、日本の歴史の中でどのような位置にあるのだろうか。日本国内のみならず、隣接する東アジアさらにヨーロッパとの関係も視野に入れながら、この時代の特質について考える。また、本講義の序論としても位置づける。	杉森哲也（放送大学准教授）	杉森哲也（放送大学准教授）
2	信長・秀吉の国家構想	長く続いた戦国の世に終止符を打った織田信長・豊臣秀吉の諸政策を、彼らの国家構想に重点を置いて考える。特に、(1)天皇・朝廷との関係、(2)朝鮮侵略を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）
3	幕藩制国家の成立	関ヶ原の戦いから「鎖国」の成立までの幕府の諸政策を中心に説明する。特に、(1)幕政・藩政の成立、(2)「鎖国」の成立を取り上げる。	堀新（共立女子大学准教授）	堀新（共立女子大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近世武家官位	誰でも知っているけれども詳しいことはあまり知られていない武家官位。その詳細を説明するとともに、武家官位から見た幕府・藩・朝廷の関係について説明する。	堀新(共立女子大学准教授)	堀新(共立女子大学准教授)
5	統一政権の成立と朝廷の近世化	京都の朝廷は、天皇・公家衆等により構成され、日本の古代・中世・近世を通じて存在し、王政復古と明治維新を経て近代に解体された集団である。本章では、豊臣政権から江戸幕府の成立に至る近世前期(16世紀末～17世紀)の政治過程を、朝廷との関係に即して検証し、①朝幕藩体制の基本的枠組、②天皇・朝廷の政治的宗教的機能、③天皇・公家集団の近世化の特質について考察する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
6	朝廷と公家社会	近世の権力の成立に寄与し、編成を受容して存続した天皇・公家身分集団について、①構成員(人、家)、②組織(機構、職制、結合)、③洛中の公家町や洛外の知行地(空間、場)、④活動(朝儀、神事、仏事、人事、配分、組織編制、規範)等の諸要素の実態を復元し、近世中期(17世紀半ば～18世紀)以降の通時的な変容を再構成する試みを事例紹介する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
7	近世朝幕関係の論じ方	①諸事件から朝幕間の対立・確執や天皇・院(上皇・法皇)の反幕府感情や行動を重視する古典的で今日なお踏襲される見解、霊元天皇(院)と摂家近衛基熙(左大臣、関白)との二つの路線の相克を主張する学説、朝幕関係の変化・逆転の画期を検出・提唱しようとする動向等の研究史を整理し、②朝廷を主導した天皇・院・摂家たちが朝廷・幕府観を示した諸史料を検討し、③幕府・将軍への期待・依存の共通性と、近世朝廷の幕府との不可分な関係と構造・体制の強固さを再確認する。	山口和夫(東京大学准教授)	山口和夫(東京大学准教授)
8	兵と農の分離	兵農分離をどのように捉えるか。近年の研究成果をふまえて、在地社会においてどのように兵と農が分離していったか、山城国(現、京都府)を事例として、その歴史的事実を明らかにしていく。そして、近世の村に居住し続けた「武士」、武士を志向し続けた「百姓」の意識について考察する。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)
9	村の形成	近世の村はどのようにして形成されていくのか。中世－近世移行期の村落史研究の動向を紹介しながら、村切り、村の自律性について説明する。その上で、戦国時代の村から近世の村が形成されていく過程を、村人の精神的支柱であった神社と村との関係に注目しながら、山城国や信濃国(現、長野県)を事例として述べていく。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	村と身分的周縁	近世の村は、百姓身分の人々から構成されていると考えてよいのか。近年注目されている身分的周縁に関する研究動向を紹介しながら、こうした身分的周縁に注目することで明らかになる地域社会像を、具体的に信濃国下伊那郡を取り上げて述べていく。	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)	吉田ゆり子(東京外国語大学教授)
11	新興流通勢力の登場	18世紀中期、全国的な流通再編の動きのなかから登場してくる新しい海運流通勢力があった。江戸と上方を結んだ「尾州廻船(びしゅうかいせん)」、北海道と上方を結んだ「北前船(きたまえぶね)」、そして北海道・東北と江戸を結んだ「奥筋廻船(おくすじかいせん)」がそれである。ここではそれぞれの船・船主の実像とそれらを生んだ地域の特徴を紹介しつつ、こうした新興勢力を必要とするに至った近世後期の経済的背景を考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
12	新興海運勢力と全国市場	尾州廻船・北前船・奥筋廻船は、いかなる積荷を、どこからどこへ運んでいたのか。それらの相互の関係はどうなっていたのか。こうした疑問に答えることで、新たな港町のネットワークの展開を検証し、近代に国際貿易港として発展する函館・神戸・横浜がここから生まれてくる必然性を明らかにするとともに、新興海運勢力が作り出した商品流通市場の全国的な構造を考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
13	新興海運勢力をめぐる技術と文化	新興海運勢力の展開は、近世後期の様々な技術の成熟によって支えられていた。例えば大型船(千石船)の建造技術、それを運航するための航海術や通信手段などは、いずれも伝統的な技術ではあるが、絶え間ない改良によって長足の進歩を遂げた結果、新興海運勢力を成立させる重要な基礎になった。いっぽう新興海運勢力によって安く大量にもたらされた新たな商品は、庶民生活に革新をもたらし、和風を代表する近世後期の成熟した生活文化を生み出していった。ここではそのような新興海運勢力を支えた技術と、それが近世社会にもたらした影響を生活文化の成熟といった側面から考える。	斎藤善之(東北学院大学教授)	斎藤善之(東北学院大学教授)
14	東アジアの「首都」	近世の日本の周囲には、清(中国)、朝鮮、琉球という三ヵ国が存在した。日本とこれら三ヵ国の都市、具体的には「首都」の比較を通して、東アジアという視点から日本の近世都市について検討する。	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	近世から近代へ	19世紀は、日本の歴史が近世から近代へと大きく転換する時期である。近世の都市がどのようにして近代を迎えたのかについて、この回では開国という視点から論じる。具体的には京都を取り上げ、そこに展開していた大規模な手工業である西陣機業の動向を通して、近世から近代へという時代の転換について検討する。	杉森哲也(放送大学准教授)	杉森哲也(放送大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1555006	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　北東アジアの歴史と朝鮮半島　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：吉田　光男（放送大学教授）　〕

講義概要

日本にとってもっとも密接な関係をもってきた北東アジア地域の歴史を、朝鮮半島を中心にして、古代から現代までを15回にわたって通史的に講義していく。とりわけ政治の動きに注目して、諸国家・諸民族の興亡や相互の関係などを中心としてこの地域の歴史を読み解いていく。また、あわせて経済・社会・文化など人間活動の諸側面に注意を払いながら、総合的な学習を行っていく。

授業の目標

古代から現代までという2000年におよぶ長い時代をあつかい、この地域の歴史がどのように展開して現代にまで至っているかという理解を作りだす。諸国家・諸民族の興亡や相互の関係など、地域史理解の基礎的知識を朝鮮半島の歴史を中心として習得する。日本史や中国史の学習と総合することにより、この地域史のみならず、東アジア史を全体的に理解する基盤を形成することを目標とする。

履修上の留意点

日本史・中国史なども合わせて学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総説：北東アジアの中の朝鮮半島	北東アジアの中で朝鮮半島の存在を歴史的にどのように考えるのかについて総説的にあつかい、学習の指針を与える。古代から現代までの歴史の流れと自然環境などを概観し、朝鮮半島の歴史的位置づけを東アジアの国際関係の中でとらえる視点を提示する。 【キーワード】 東アジア、韓国、朝鮮	吉田光男（放送大学教授）	吉田光男（放送大学教授）
2	北東アジアにおける古代国家の形成	扶余・三韓・加耶諸国・高句麗・新羅・百済・など、古代の北東アジアで形成発展した諸国家を中心として、古代の歴史の特質について考察する。各地域・国家の歴史を、一国的ではなく、北東アジアのみならず、アジア史・世界史の中で意味づけ、この地域の歴史的特色を考えていく。 【キーワード】 古代国家、高句麗、新羅、百済	李成市（早稲田大学教授）	李成市（早稲田大学教授）
3	古代の朝鮮半島と北東アジアの変動	隋・唐国家の発展という中国におけると北東アジアの変化とを、国家や民族・種族の動きを中心として考察する。高句麗・百済・新羅・渤海という諸王国の興亡と中国や日本との関係を、域内交流に注目しながら分析していく。 【キーワード】 国家、民族、高句麗、新羅、百済、渤海	李成市（早稲田大学教授）	李成市（早稲田大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	古代北東アジアの社会と文化	古代朝鮮半島三国や渤海の社会と文化について考える。高句麗・新羅・百済の古代社会の様相や文化がもっている特色を考察し、古代北東アジアの社会と文化の特質を浮き彫りにして、古代日本との比較の視点を提示する。 【キーワード】 社会、文化、高句麗、新羅、百済	李成市(早稲田大学教授)	李成市(早稲田大学教授)
5	高麗と北東アジア	中世の北東アジアの歴史について、朝鮮半島の国家である高麗の動きを中心として概観する。10世紀に成立した高麗ははじめて朝鮮半島全体を掌握した国家であり、金・遼という遊牧民族国家が興亡し、宋を圧迫する北東アジアの新しい秩序に参加した。これらの動きを検討する。 【キーワード】 高麗、金、遼、宋	吉田光男(放送大学教授)	吉田光男(放送大学教授)
6	モンゴル勢力と北東アジア・高麗	チンギス・カンによるモンゴル帝国の建設から、13世紀に大都(現北京)を都として元王朝が成立することによって朝鮮半島で起きた変化を北東アジア的視点から考察する。 【キーワード】 モンゴル、元、高麗	吉田光男(放送大学教授)	吉田光男(放送大学教授)
7	朝鮮王朝の成立と北東アジア	1368年、中国で元と明の王朝交替があった。この影響は北東アジア全体に及んだが、とりわけ朝鮮半島では、元と深い関係にあった高麗の滅亡から新たな王朝としての朝鮮の成立へと結びつく大きな変動をもたらす要因の一つとなった。この章では14世紀末から、15世紀ころまでの北東アジアの動きを背景として朝鮮半島の歴史を考える。 【キーワード】 元、明、高麗、朝鮮王朝、儒教	吉田光男(放送大学教授)	吉田光男(放送大学教授)
8	近世の北東アジアと朝鮮半島	北東アジアでは、中国も含めて古代から盛んな地域間交流が行われ、政治・経済・文化・社会の諸分野に大きな影響を与えてきた。16世紀末から17世紀初頭にかけて、日本軍による朝鮮侵略、明から清への王朝交代、徳川政権の成立など、北東アジアにおきた大きな政治変動を背景にした交流について、その実態を検討する。 【キーワード】 通信使、燕行使、冊封、豊臣秀吉、江戸幕府、明、清	吉田光男(放送大学教授)	吉田光男(放送大学教授)
9	朝鮮半島の近世社会	朝鮮近世(17～19世紀)の社会と文化の様相について、総合的な考察を加える。身分・血縁・地域などに焦点をあてて、住民の生活像と意識を探る。朝鮮半島の人々が作りだしてきた文化をうかがうことにより、北東アジアの中で歩んできた独特の歴史を検討する。 【キーワード】 身分、血縁、氏族、士族、両班	吉田光男(放送大学教授)	吉田光男(放送大学教授)
10	開化政策と近代世界への編入	19世紀のウエスタン・インパクトによる北東アジアの変化を、朝鮮半島を中心として考える。アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・ドイツなど西欧列強による圧迫に対して、中国や日本と比較しながら朝鮮がどのような対応をしたのか、その歩みを追いかけて、「近代化」の意味を考える。 【キーワード】 開国、開化、文明、近代化、西欧列強	橋谷弘(東京経済大学教授)	橋谷弘(東京経済大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	植民地帝国日本と朝鮮半島	1910年8月、日本は韓国との間で「併合条約」を締結し、台湾につづいて朝鮮半島を植民地にした。この植民地帝国日本が、朝鮮半島においていかなる目的と方法によって植民地支配を行ったのか、また北東アジア全体でその支配がどのような位置づけにあったのか、考察を行う。 【キーワード】 植民地、台湾、帝国主義	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
12	戦時下の朝鮮と冷戦下の朝鮮	1945年8月15日、朝鮮は日本の敗戦によって植民地からの独立（解放）を果たした。しかし、現在、世界唯一の分断国家と称されるように、南北二つの国家が分立している。このような状況をもたらした歴史的背景を、第二次世界大戦前後の朝鮮をめぐる国際関係の中から歴史的に考察してみる。 【キーワード】 解放、分断国家、東西冷戦	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
13	北朝鮮社会主義のアジア的特徴	第二次世界大戦後のアジア各地で社会主義政権が生まれたことの背景を考え、その一つとして北朝鮮の社会主義を位置づける。アジア社会主義の世界史的意味や金日成と北朝鮮の社会主義建設を検討し、主体思想と金正日体制への移行の歴史的意味について考察する。 【キーワード】 社会主義、北朝鮮、主体思想、金日成、金正日	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
14	アジアNIESとしての韓国	1960・70年代の工業化による経済成長で、韓国がアジアNIESの一つとして注目された経緯と、80・90年代に入って民主化など先進国化への変化が生まれた背景について考察する。アジアNIESとしての韓国が成長してきた要因を分析し、民主化と先進国化の内容を検討する。 【キーワード】 工業化、韓国、アジアNIES、民主化	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）
15	現代の朝鮮半島と北東アジア	21世紀の東アジアの中で、朝鮮半島がどのように変化していくかを論じる。『世界の工場』としての東アジア、97年危機と韓国経済のグローバル化、IT化の進展と韓国経済、北朝鮮の食糧問題と核開発など、この時期の重要な歴史的トピックを考察する。 【キーワード】 グローバル化、韓国経済、北朝鮮経済	橋谷弘（東京経済大学教授）	橋谷弘（東京経済大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1555308	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　中国社会の歴史的展開（‘０７）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：岸本　美緒（お茶の水女子大学教授）〕

講義概要

中国史の概説であるが、中国社会の特質、及び東アジア的視点に留意する点を本講義の特色としたい。「中国」の意味を考える第一回を除き、時期を追って論じてゆくが、長期にわたり存続していく中国の社会や文化の特質――例えば「家」や「儒教」「士大夫」「民衆反乱」など――は時期を追った記述のみではつかみにくいと思うので、そうした点はコラムのなかで適宜論じる。また、毎回の講義において関連する史料を挙げ、具体的なイメージをつかむことをめざす。

授業の目標

① 中国史の流れを、政治のみならず社会の変遷に重点を置いて大局的に理解する。
② 中国社会の動きを、東アジアや世界日本など、広い視点から把握する。
③ 現代中国の社会状況を長期の歴史的視野のもとでとらえる。

専門科目 人間と文化

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「中国」とは何か	・現在の中華人民共和国の地理的概況と民族構成 ・「中国」観念の形成 ・華夷思想の世界像 ・近代ナショナリズムと「中国」観念 （焦点）中国文化とは？ （史料）梁啓超の「中国」論	岸本美緒（お茶の水女子大学教授）	岸本美緒（お茶の水女子大学教授）
2	中国初期王朝の形成	・中国文明の多元性 ・地域統合と初期国家の成立 ・初期王朝の形成 ・周王朝と封建制 （焦点）「革命」とは何か （史料）『書経』にみる殷周革命	同上	同上
3	春秋戦国から秦の統一へ	・春秋・戦国の動乱 ・小農経済と都市・商業の発達 ・「諸子百家」と秩序問題 ・秦の統一と皇帝政治の始まり （焦点）「封建」と「郡県」 （史料）『史記』秦始皇本紀	同上	同上
4	漢帝国と周辺地域	・前漢初期の政治 ・漢代の匈奴問題 ・武帝の拡張政策と財政問題 ・後漢の国家と社会 （焦点）封建と郡県 （史料）『史記』匈奴列伝	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	分裂と融合の時代	・ 中国の分裂と北方民族の進出 ・ 北朝における胡漢の融合 ・ 六朝政権と江南の開発 ・ 魏晋南北朝期の東アジア (焦点) 東アジア世界論 (史料) 陶潜「桃花源記」	同上	同上
6	隋唐帝国の形成	・ 南北の再統一 ・ 国家制度の整備 ・ 唐と周辺諸地域 ・ 国都長安と外来文化 (焦点) 新しい生活文化の定着 (史料) 李白の詩にみる唐代社会	同上	同上
7	宋と北方諸民族	・ 北方諸民族の動向 ・ 唐宋変革とは何か ・ 対外危機と宋代社会 ・ モンゴルの登場 (焦点) 士大夫の倫理と生活 (史料) 『東京夢華録』に見る開封の繁栄	同上	同上
8	元から明へ	・ 元朝の中国統治 ・ 明の建国 ・ 明王朝と周辺地域 ・ 「北虜南倭」の時代 (焦点) 銀と中国経済 (史料) 鄭若曽『籌海図編』	同上	同上
9	清朝の平和	・ 東アジアの新興勢力 ・ 清朝の中国占領 ・ 清朝と周辺地域 ・ 清代の社会と経済 (焦点) 宗教と民衆反乱 (史料) 雍正帝『大義覚迷録』	同上	同上
10	清末の動乱と社会の変容	・ 清代中期までの中国と欧米勢力 ・ アヘン戦争 ・ 太平天国と列強 ・ 洋務運動 (焦点) 上海の発展 (史料) 魏源『海国図志』	同上	同上
11	中国ナショナリズムの形成	・ 中国分割の危機と戊戌変法 ・ 義和団事件 ・ 改革と革命 ・ 辛亥革命 (焦点) 清末の風俗改革 (史料) 康有為「京師保国会での演説」	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	五四運動と中国社会	・辛亥革命後の状況 ・第一次世界大戦と中国 ・五四運動と革命の広がり ・北伐と中国統一 (焦点) 新文化運動と「家」批判 (史料) 李大釗「庶民の勝利」	同上	同上
13	抗日戦争と中国革命	・国民政府の近代化政策 ・共産党と農村社会 ・抗日民族統一戦線 ・抗日戦争と社会変容 (焦点) 中国農村と地主制度 (史料) 毛沢東の農村調査	同上	同上
14	社会主義建設の時代	・中華人民共和国の成立 ・農業集団化 ・大躍進政策と人民公社 ・文化大革命 (焦点) 社会主義と中国伝統思想 (史料) 文革期の少女の日記	同上	同上
15	現代中国の直面する諸問題	・改革開放政策への転換 ・民主化の課題 ・国家統合 ・社会主義市場経済のゆくえ (焦点) 都市と農村 (史料) 鄧小平「南巡講話」	同上	同上

＝　前近代の東南アジア（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：桜井　由躬雄（東京大学名誉教授）〕

全体のねらい

かつて東南アジアは石油やゴムなどの第一次産品の輸出地域として知られ、近年ではその政治的な不安定にもかかわらず、急速な経済発展をした地域、また日本から一番近い熱帯観光地と、あるいは“エスニック”料理の故郷として知られる。そこには、一貫して東南アジアに住んでいる人々の姿がない。あったとしても、それは“癒し”とか“醇朴”とか、実態とはかけはなれた思いこみのイメージでしか語られない。本講義は、東南アジアの近代以前の歴史を解説することを通じて、東南アジアの人々が経てきた二千年の経験と、その結果としての現代を考える。それは東南アジアをモノとしてはなく、人の世界として、認識する。あたりまえであって、忘れられていた方法である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	東南アジアとは	文明と文化の相違について考える。文化とは、生態環境に対応して生まれた人々の生活システムである。東南アジアの人々は、高温多湿で植物が卓越する生態環境のもとに、文化的統一性をもっている。東南アジアの生態環境は熱帯の海の世界―海域東南アジアと、サヴァナや照葉樹林帯からなる陸の世界―陸域東南アジアからなる。東南アジアの陸は長く入り組んだ海岸線、深く山中にまで食い込んだ河川によって、どこでも海と関係づけられる。その海は島々や半島によって、複数の海区に分けられ、それぞれに特色ある文化と歴史を形作っている。	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）
2	文化と文明	東南アジアの「熱帯の海」の中に、アルプスヒマラヤ造山運動が陸地を盛り上げる。陸の東南アジアである。その延長は東南アジア島嶼部をつくりあげる。陸地の北には雲南山地が広がる。山地の盆地、盆地を下って平原、デルタ、そして島嶼部へと、陸はさまざまな景観を示し、その景観に対応する農業、社会を作っていく。陸の東南アジアの文化はドンソン文化が代表する。	同上	同上
3	海の熱帯	海は東南アジアの外の世界とつながる。世界史の中に東南アジアを位置づける。２世紀ごろ、東西の海の交渉が始まる。東西両世界での都市文明の発展とともに、海の東南アジアが第一には東西交渉の中継地として、第二には熱帯産物の供給地として世界史の中に登場してくる。世界と東南アジアを結ぶ政体が最初の「港市国家」としての都市文明を作り上げる。それが、現在の南ベトナムにあって南シナ海とタイ湾を結んだ扶南、また南シナ海の中央にあって、沈香を供給した林邑が出現する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	陸の東南アジア	海の東南アジアの発展は、自給的な農業社会だった陸の東南アジアを海に近づけ、海を核とするネットワークを作り上げた。それぞれの陸のネットワークは、固有の言語集団、固有の文化をもった集団によって担われた。陸の東南アジアの民族的な分割が始まった。	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）
5	原史時代の東南アジア	世界史は１１世紀から海の時代に突入する。本来、海を核として形成された東南アジアの陸海域は、いっせいに活性化する。海の国際化を保障するシステムが生まれてくる。陸では集配システムが帝国的に編成される。しかし、海域の国家群は中国など外の文明世界との関係を強化し、一方、陸域の国家群は在地の文化性を強める。両者の対立が激しくなる。海と陸が分裂する。独立した海の国家群は、人口と領域をもった陸域の国家に統合されようとする。アンコール、ハノイ、パガン、マジャパヒトのような陸域国家群が、東南アジアの分割を開始する。	同上	同上
6	初期国家の成立	１５世紀はじめ、鄭和の遠征を境に、東南アジアの海の交易は沸騰する。中国の対南海政策の基本は海域の国家群との関係を強化し、海の力が陸を圧倒する。マラッカ、パガン、アヨドヤ、チャンパなど海の国家群が陸の国家群を圧倒する。海の沸騰の中に、新たに西方のポルトガル勢力が参入し、海の中心、マラッカ王国のネットワークを崩壊させる。この結果、中心性は拡散し、海の交易活動が多角化する。	同上	同上
7	古代的歴史圏の成立	１６世紀後半、ポルトガルは、東シナ海に進出する。折から日本の金銀生産が急成長する。メキシコ銀がアジアにもたらされる。対東アジア交易はアユタヤ、プノンペン、クアンナムを中心に、また対西アジア、欧州交易は島嶼部を中心に発展する。１７世紀、商業に沸騰する海の世界に、オランダ東インド会社が参入する。オランダはその軍事力と商業力で東南アジアの海を独占しようとする。しかし、１７世紀の後半、欧州市場での南海産物の大暴落にともない、交易の時代は終焉する。	同上	同上
8	海の時代	１７世紀の末から、欧州でコーヒー、サトウキビなどの新しい商品市場が生まれる。オランダ東インド会社は、交易中心の機構から、陸の生産地の支配に転ずる。生産物の収集と強制的な生産調整を兼ねた供出制度が展開され、強制栽培制度に発展していく。東インド会社は１８世紀を通じて、ジャワ・マドゥラの支配地を拡大する。スペイン領フィリピンでも、ガレオン交易から、タバコなど諸島内生産物の輸出に移行していく。海の市場経済が直接、陸の人々の生活を規定していく。陸でも海でも東南アジアの諸地域が、その特性を主張して歴史に参加してくる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	大建築の時代	東インド会社が対欧州渡洋(トランスオーシャン)交易を担ったのに対し、スラウエシのブギス人たちが域内交易を担ってオランダと対抗した。ブギス人はマラッカ海峡やマレー半島の諸港市国家の建設に関与した。また東南アジア産品の最大の市場である中国との交易は華人商人に担われた。さらに華人移民は商品生産を開始した。華人たちは各地に華人港市国家を建設した。華人の経済力が優越する東南アジア経済の原型が生まれる。	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）
10	大交易の時代前期	１８世紀後半、海の復興が始まる。イギリス東インド会社の船がインド、中国、欧州を結んで走り回る。東南アジアには会社の委託を受けた私商人(カントリー・トレーダー)が活躍する。ブギス、華人、カントリートレーダー達の多角的な活動は、東南アジアの各地方を活性化させ、その中から新しい統合運動が生まれた。東インド会社の統合運動はその一つと考えられる。同時期にアユタヤ、ペグー、クアンナムなどの港市国家群の陸域への拡大運動が始まる。この流れの中にイギリス東インド会社は、東南アジア進出の拠点としてシンガポールを建設する。	同上	同上
11	大交易の時代後期	しかし、諸港市国家の拡大運動は生産地を支配する陸の国家群に阻止される。この結果、農民を基盤とし、卓越した軍事力と官僚群を保持し、環境圏をこえた広い領域を中央集権的に支配する「大国」が、諸港市を支配する。ベトナムのタイソン阮朝、阮朝とビルマのコンバウン朝で始まったこの拡大運動の結果が、現在の陸域東南アジアの各領域を決定している。	同上	同上
12	ポスト大交易時代の海	アユタヤ朝シャムは熱帯産物の対中交易に基礎をおきながら、チャオプラヤ水系、メコン水系、マレー半島に領域、支配圏を拡大していく。アユタヤはコンバウン朝ビルマによって一度、崩壊するが、トンブリ朝が再興し、これを継いだラタナコーシン朝が、港市バンコクを中心として、それぞれの陸域を結ぶ支配圏をつくりだした。この支配圏が現在のタイ領域の基盤になっている。１９世紀後半以降、米価が高騰し、米が重要な国際商品になるとともに、チャオプラヤデルタの米生産が拡大し、シャムの王権じはデルタの生産と海の交易が複合する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	大国の形成	１８世紀末、オランダ東インド会社は解体し、オランダ領東インドが生まれた。１９世紀に入ると、オランダはジャワ戦争によって、ほぼジャワ全域を支配下におさめ、パドリ戦争によってスマトラ山地に介入する。１８３０年代からジャワを中心に強制栽培制度が施行され、全土が商品経済に組み込まれた。１９世紀を通じて、カリマンタン、バリ、アチェなどがオランダの支配下に入り、オランダ領東インドが完成した。オランダ領東インドの領域が現在のインドネシアの領域である。	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）	桜井由躬雄（東京大学名誉教授）
14	海の植民地	中国インドルートの確保と、東南アジアの進出をはかるイギリスはベンガル湾の内海化をはかり、三次にわたる英緬戦争によってコンバウン朝ビルマを滅ぼし、インド帝国の１州に組み込む。このときの英領ビルマ州の領域がほぼ現在のミャンマーにあたる。折からの米価高騰はイラワジデルタを巨大な米生産地に変え、ヤンゴンは海の交易とデルタの生産を統合する拠点となった。	同上	同上
15	陸の植民地	一方、フランスは二度の戦争を通じてベトナム南部、北部を占領し、中部を保護国化した。ラオス、カンボジアも保護国化され、仏領インドシナ連邦が成立した。仏領インドシナ内部の諸国家・地域が現在のラオス、カンボジア、ベトナム三国の領域のもととなっている。折からの米価高騰は南部のメコンデルタを米生産地に変え、サイゴン（現ホーチミン）がデルタと海の交易を結んだ。	同上	同上

＝　中央アジアの歴史・社会・文化（‘０４）＝（Ｒ）

〔主任講師：　間野　英二（龍谷大学教授）〕
〔主任講師：　堀川　　徹（京都外国語大学教授）〕

全体のねらい

日本ではシルクロードなどの名で知られる中央アジアの歴史について、Ⅰ 中央アジアの歴史、Ⅱ 中央アジアの社会、Ⅲ 中央アジアの文化、という３つの大きな枠組みにそって概観し、中央アジア史の総合的な理解を深めたい。また最後に、Ⅳ 中央アジア史研究の課題について述べ、今後の研究の進むべき方向を探りたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
Ⅰ 中央アジアの歴史		この放送の最初の５回は、中央アジアの歴史の大勢について概観する。		
1	中央アジアとは？	第１回は、この放送で取り上げる「歴史的中央アジア」の概念、その地理的特徴、民族、時代区分、研究方法などについて述べ、この放送全体への導論としたい。	間野　英二（龍谷大学教授）	間野　英二（龍谷大学教授）
2	アーリア時代（前イスラーム時代）の中央アジア	９世紀頃までの中央アジアでは、現在と異なりアーリア系の人々が活躍したので、この時代を「アーリア時代」とも呼ぶ。中央アジアの草原地帯における遊牧民の活動の開始、遊牧国家の誕生、農耕地帯におけるオアシス城郭都市国家の形成、ペルシア、中国など周辺諸勢力の進出などについて述べる。	同　上	同　上
3	テュルク・イスラーム時代の中央アジア テュルク化とイスラーム化	９世紀頃を境に、中央アジアは徐々に、主にテュルク人のイスラーム教徒が住む「テュルク・イスラーム世界」へと変貌して、そのまま現代を迎える。中央アジアに「テュルク・イスラーム時代」を出現させた「テュルク化」「イスラーム化」と呼ばれる現象について、天山ウイグル王国、カラ・ハーン朝の歴史、それに遊牧民の定住民化の問題とも関連づけて説明する。	同　上	同　上
4	中央アジアの隆盛 モンゴル帝国とティムール帝国	13 世紀にチンギス・ハーンに率いられたモンゴル遊牧民はモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の大半を支配した。また 14 世紀、テュルク化しイスラーム化したモンゴル人の子孫であるティムールは、東方イスラーム世界と北インド、南ロシアを支配した。これら２帝国およびその継承国家について述べ、このような強力な国家成立の要因と意義について考える。	堀川　徹（京都外国語大学教授）	堀川　徹（京都外国語大学教授）
5	「近代」への胎動 植民地（経験、革命、）（民族）	17-18 世紀以降停滞期を迎えた中央アジアは、やがて帝政ロシアおよび清朝の支配下に置かれることとなり、そのもとで「近代」に直面する。大国による中央アジア統治の実態とそれに対する中央アジアの人々の反応、大国の存在を前にして生じた民族的覚醒と社会的プロテスト、さらに 20 世紀のロシア革命がこの地域にもたらした影響、そして社会主義体制下における現在の民族と国家の原型の成立までを概説する。	帯谷　知可（京都大学准教授）	帯谷　知可（京都大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
Ⅱ	中央アジアの社会	この回から、5回にわたって中央アジアの社会について概観する。最初の3回では、中央アジアを特徴的づける草原の遊牧社会と砂漠のオアシス農耕社会、そして中央アジアにおける陸上交通路（シルクロード）の意義について述べる。		
6	遊牧社会	中央アジア北部の草原地帯に成立し、モンゴル帝国などの大帝国を建設して世界史上に大きな足跡を残した遊牧民の社会について解説する。遊牧という生活様式、部族制、遊牧国家の特徴などについて述べ、また口承文学など遊牧民独自の文化についても触れる。	堀川　徹	堀川　徹
7	オアシス農耕社会	中央アジア北部の草原地帯を本拠とした遊牧社会とは対照的に、南部の砂漠地帯には、オアシス（砂漠の中で水の得られる沃地）が造営され、そこでは定住民によって、農耕を中心に交易、産業が営まれた。ここでは、オアシスの種類、オアシスの住民、オアシス城郭都市の形態、オアシス国家の性格、遊牧社会との関係などについて述べる。	同　上	同　上
8	シルクロードと中央アジア	古来、中央アジアには「草原の道」「砂漠の道」などと呼ばれる陸上交通の幹線路（シルクロード）が存在し、東西文物の交流に大きな役割を果たした。これらの道の歴史的変遷と中央アジア社会との関わりについて、特にこの道を用いて旅を行ったのがどのような人々で、彼らが何を運んだのかという点に焦点をあてつつ検討する。	稲葉　穣（京都大学准教授）	稲葉　穣（京都大学准教授）
9	テュルク・イスラーム社会の成熟 ワクフ制度、タリーカ	9世紀頃から中央アジアは徐々にイスラーム世界に組み入れられた。そこではイスラーム法に基づいた生活が営まれ、その社会は、時代と共に、イスラーム的諸制度を成熟させてきた。本章では、王朝の交代に関わりなく、常に中央アジア・イスラーム社会の中で重要な位置を占め続けたワクフ制度（一種の寄進・喜捨の制度）とタリーカ（イスラーム神秘主義教団）を取り上げて説明する。	堀川　徹	堀川　徹
10	現代の中央アジア社会 社会主義時代からグローバル化時代へ	中央アジアにとって 20 世紀の社会主義時代とは何だったのか、その正負の遺産について検討する。そして、ソ連解体と中央アジア諸国の独立を経て、グローバル化の大きなうねりにもまれる中央アジアの市場経済化、そこに見られるイスラーム復興、新たなナショナリズムの高揚、カスピ海のエネルギー問題、環境問題など、重要な現代の諸問題について概観する。また9.11事件後の中央アジア情勢の変化にも言及する。	帯谷　知可	帯谷　知可
Ⅲ	中央アジアの文化	この回から、4回にわたって多彩な中央アジアの文化について述べる。		
11	アーリア時代中央アジアの文化 諸文化の伝播と融合	アーリア時代の中央アジアは、周辺文化圏の先進的文化を受け入れ、それらを融合し、さらにこの融合文化を周辺諸地域に伝える役割を果たした。仏教などの諸宗教、石窟寺院などの宗教芸術、製紙法などの科学技術などについて述べ、古代の中央アジアが東西文化交流の上で果たした重要な役割について考える。	稲葉　穣	稲葉　穣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	テュルク・イスラーム文化	10世紀ころイスラームを受容した中央アジアのテュルク民族は、テュルク語とイスラームを核とする独自のテュルク・イスラーム文化を創出した。カラ・ハーン朝時代に出現したマフムード・アル・カーシュガリーによる世界最初のテュルク語・アラブ語辞典や大侍従ユースフによる君主のための道徳指南書を例に、この文化の成立について述べ、テュルク民族にとってのこの文化の意義について考える。	間野　英二	間野　英二
13	ティムール朝文化	中央アジアのイスラーム文化は、15世紀、ティムール帝国の２つの首都であるサマルカンド、ヘラートを中心に、中央アジア史上最高の水準に達した。建築、庭園、細密画、書道、製本技術、天文学などを例に、「ティムール朝文化」と呼ばれるその華麗な文化の諸相を探り、この文化の特徴と、この時代に何故このような高度の文化が誕生したかについて考える。	同　上	同　上
14	中央アジアの文学遺産 『バーブル・ナーマ』と『デデ・コルクトの書』	中央アジアの文学遺産の中から二つの代表的な作品について説明する。まず16世紀のバーブルが著した回想録『バーブル・ナーマ』を取り上げ、そこに見られる率直な記述や豊富な内容など、この書物の魅力について紹介する。次に遊牧民の間に語り伝えられた口承文学の一つである『デデ・コルクトの書』について紹介し、そこに反映された遊牧民の世界観や価値観などについて考える。	同　上	同　上
Ⅳ　中央アジア史研究の課題		この最終回では、中央アジア史研究の課題と今後の研究の進むべき方向について考えてみたい。		
15	中央アジア史研究の残された課題	以上、14回にわたって概観した中央アジアの歴史については、実はなお不明の点も多い。この放送でも紹介したイスラームの諸制度や現代の中央アジアに関する研究など、新しい研究も近年積み重ねられつつあるとはいえ、中央アジア社会史や文化史の面における研究の不足は否めない。このような中央アジア史研究の残された課題について考える。	堀川　徹	堀川　徹

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1557203	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　ヨーロッパの歴史と文化　　（’０９）＝（ＴＶ）
－中世から近代－

〔主任講師（現職名）：草光　俊雄（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：河原　温　（首都大学東京教授）　〕

講義概要

ヨーロッパの歴史を中世から現代まで概観する。各講義はそれぞれテーマをたてて（「城」、「都市」、「キリスト教」、「帝国」など）今日のヨーロッパを築いてきた道のりが理解できるように工夫されている。

授業の目標

現代に生きる私たちが一体どのような過程を経て今ある姿になったのか。またこの日本という国が近代に大きな影響を受けたヨーロッパがどのような歩みをたどってきたのか。私たち自身を理解するために歴史は多くのことを教えてくれる。ヨーロッパの歴史を中世から現代に至るまで学ぶことによって今という時代を考えることを目標とする。

履修上の留意点

他の歴史科目、例えば「地中海世界の歴史（’09）」「歴史と人間（08）」などを学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ヨーロッパの歴史と文化：序論	イントロダクションと問題意識を提示 【キーワード】 森、キリスト教	草光　俊雄 河原　温	草光　俊雄 河原　温
2	古代から中世へ	西ヨーロッパでは、古代ローマ手国が5世紀後半に崩壊する一方、同時期のガリアでは、フランク王国というゲルマン人国家が成立し、西ヨーロッパ世界の中核地域を形成するとともに、次第に中世独自の社会制度や文化を生み出していった。この時代のキリスト教の定着の問題も合わせて概観する。 【キーワード】 ローマ帝国、民族大移動、フランク王国、教会国家体制、キリスト教	堀越　宏一（東洋大学教授）	堀越　宏一（東洋大学教授）
3	封建社会の形成とヨーロッパ世界の拡大	10世紀末以降、ヨーロッパ世界では、城の建設が進み、社会支配のあり方は一変した。城は周辺農村支配の拠点となると同時に、城を媒介にして、貴族間で封建的主従関係が取り結ばれたからである。また、このような時代である11～13世紀の西ヨーロッパ諸王国の統治を概観すると同時に、レコンキスタや十字軍運動を通してヨーロッパ世界が周辺部に拡大していく様子を確認する。 【キーワード】 城、城主支配領域、封建制、貴族、十字軍	堀越　宏一	堀越　宏一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	中世ヨーロッパの農村	11世紀以降、西欧の農業は『中世農業革命」と呼ばれる発展を遂げて、人口も耕地も農業生産も拡大していった。一方、農民もまた農業生産の発展を受けて、村落共同体と呼びうる組織を生み出し、現在に至る農村景観を作り出していく。このような11～15世紀の中世ヨーロッパ農村の変遷を辿る。また農村では、農作物以外の様々な物資が生産されて、中世社会を支えていたことも重要である。 【キーワード】 中世農業革命、農村、村落共同体、牧畜、階層分化	堀越　宏一	堀越　宏一
5	都市の発展と文化	中世農村社会の中に現れた中心地としての都市はどのような経済的、政治的、文化的機能を果たし、近世以降のヨーロッパ社会に何をもたらしたのか考える。 【キーワード】 司教座、中心地機能、自由と自治、仲間団体、文字文化	河原　温	河原　温
6	キリスト教と教会・修道院	中世中期以降のヨーロッパ社会におけるキリスト教を支えた修道院とカトリック教会の活動をたどるなかで、異端運動や聖人崇敬など人びとの信仰の在り方を考える。 【キーワード】 クリュニー、シトー、托鉢修道会、異端、ゴシック建築、公会議	河原　温	河原　温
7	中世後期の社会変動	14～15世紀(中世後期)のヨーロッパ社会が、ペストや百年戦争などの災厄を通じていかに変容していったか、政治、経済、人々の心性の各側面から考える。 【キーワード】 ペスト、死の舞踏、一揆、身分制議会	河原　温	河原　温
8	ルネサンスとヨーロッパ	中世後期の社会変動の中でイタリアを中心に生じ、やがて全ヨーロッパに広がったルネサンスの文化運動を中世社会との関係でとらえなおす。特に北仏・ネーデルラントにおける「北方ルネサンス」の意義を再考する。 【キーワード】 人文主義、万能人、遠近法、ブルゴーニュ公国、宮廷文化	河原　温	河原　温
9	ルネサンスの終焉と近代の始まり	ルネサンスはある意味で中世の延長であった。確かに新しいヨーロッパを準備したが、ルネサンス的な枠組みが終わらなければ近代は始まらない。近代の始まりを告げる新しい枠組みが何かを考える。 【キーワード】 ルネサンス、大航海時代、文芸復興、人文主義、宗教改革、軍事革命、主権国家、全般的危機、新旧論争	草光　俊雄	草光　俊雄
10	宗教改革以降のヨーロッパの宗教と政治	カトリックが支配してきた中世ヨーロッパはプロテスタントの登場によって分断される。そして宗教を巡る地域的あるいは国家的な争いがその後のヨーロッパの歴史に大きな陰をもたらすことになる。16世紀から20世紀にいたる宗教紛争などを概観しながら宗教を巡る言説や政治を考える。 【キーワード】 ウィクリフ、フス、宗教改革、プロテスタント、カトリック、宗教戦争、ルター、カルヴァン、三十年戦争	草光　俊雄	草光　俊雄

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	海洋帝国とヨーロッパの海外膨張	ローマ帝国は基本的に陸地の帝国であった。大航海時代以降のヨーロッパは海に出て行くことによって覇権を競うものとなった。人びとの目はヨーロッパ大陸だけではなく、アジアやアメリカそしてアフリカに向けられていった。ヨーロッパと非ヨーロッパとの関係がどのように展開したかを概観する。 【キーワード】 海洋帝国、大航海時代、東洋の富、	草光　俊雄	草光　俊雄
12	新しい学問:科学、技術、商業	16世紀に始まった科学革命は自然認識についての新しい知見をもたらしたが、また科学や技術を社会や国家の繁栄に貢献させようとする意識が出てきた。豊かで強い国作りが求められ、商業や工業が発展し、新たな社会構造が創出された。このことによって現代まで続く西欧優位の世界が成立したといってよい。 【キーワード】 科学革命、商業革命、産業革命	草光　俊雄	草光　俊雄
13	啓蒙思想と近代ヨーロッパ	新しい学問はまた新しい人間についての考え方をもたらした。政治を誰が担当するのか、信仰についてどう考えるのか、人間社会はいかに関係を作っていくべきか、などが議論され、学問が専門化し、細分化されていく。 【キーワード】 啓蒙主義、経済学、フランス革命	草光　俊雄	草光　俊雄
14	新しい帝国意識と非ヨーロッパとの関係	ヨーロッパの覇権は19世紀にはいると新たな段階に到達する。帝国主義が世界を分割し植民地が増大する。20世紀になるとヨーロッパから始まる世界を巻き込む戦争が起こり、社会主義革命が拡がる。 【キーワード】 帝国主義、世界大戦、全体主義、民主主義	草光　俊雄	草光　俊雄
15	まとめ:ヨーロッパにおける統合と分離	まとめ。新しい歴史学によってヨーロッパの歴史がどのように書きかえられてきたか、いくつかの例を紹介しながら歴史の方法について話す。またヨーロッパの統合の問題についても長いスパンで見るとどうなるか、検討する。 【キーワード】 新しい歴史学、グローバル・ヒストリー、統合、分離、EU	草光　俊雄 河原　温	草光　俊雄 河原　温

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551302	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ アメリカの歴史と文化 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：遠藤泰生（東京大学教授） 〕

講義概要

アメリカの歴史と文化を理解するにあたって最低限必要な基本的知識を15回にわたって講義する。抽象的な政治理念や争いの説明に終始することなく、人々の生活規範や民族集団の変成を具体的事例にそくして説明する。また、毎回の講義においては、歴史図像や時代の証人たちの声を数多く紹介し、アメリカ人の自己理解が多様で陰影に富むことをより深く理解させる。

授業の目標

全15回の講義を通じて、世界の超大国となったアメリカ合衆国の歴史を、その光と影の両面から理解する。世界に類をみないその多元的文化の生成と変容をさまざまな角度から紹介し、アメリカ礼賛、アメリカ批判のいずれにも安易に組しない、均衡のとれたアメリカ理解を取得させることを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	なぜアメリカ合衆国の歴史を学ぶのか？	アメリカ合衆国は植民地開闢以来400年の歴史を有する。世界の超大国として政治・経済・文化の各分野に圧倒的な力をもつにいたったアメリカの歴史を学ぶ意味は何なのか。多元国家の歴史に迫る意義を考える。 【キーワード】 北アメリカ大陸、多民族社会、アメリカニゼーション、グローバリゼーション	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
2	「新世界」の異文化接触	ヨーロッパ植民者と北米先住民（アメリカ・インディアン）は、異なる価値観や生活スタイルといった文化の接触と対立を経験した。両者の関係がアメリカ文化の形成にそののちどのように作用したのかを考える。 【キーワード】 北米先住民、植民者、インディアン戦争、野蛮と文明	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
3	「自由な社会」の光と影：南部奴隷制社会の成立	植民地時代から南北戦争まで続いた黒人奴隷制度は、アメリカ社会の拡大と発展に大きな影響を与えた。政治・社会・文化の幅広い側面からその歴史を振り返り、あわせて、現代のアメリカにおける「人種」の問題を考える手掛かりを探る。 【キーワード】 南部植民地、プランテーション農業、黒人奴隷制度、人種主義	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
4	独立戦争と建国の時代	アメリカ独立戦争は世界で初めての共和主義の革命であった。政治思想を共有した13の植民地が、新たに連邦国家を形成するまでの波乱の歴史を振り返り、あわせて、アメリカ建国の歴史が世界史に占める意味を考える。 【キーワード】 七年戦争、共和主義、独立宣言、合衆国憲法、啓蒙思想	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	民主主義を可能にする社会	19世紀の南北戦争前の時代は、民主主義が本格的に実現した時代であった。その社会秩序実現に関して、第2次大覚醒と呼ばれた宗教運動、女性が主宰した家庭、及び、彼女たちが展開した様々な改革運動が互いに関連しつつ、どのような役割を果たしたかを考える。 【キーワード】 第2次大覚醒、近代家族、ヴィクトリアニズム、女性参政権運動	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
6	大陸国家の形成：光と影	19世紀は、アメリカが領土を太平洋岸に拡大した時代でもあった。先住民の強制移住を伴いながら展開した西漸運動が、アメリカの社会に与えた影響を、国内と国外の二つの視点から検討する。最後にC. ペリー来航の背景を探る。 【キーワード】 西漸運動、明白なる運命、カリフォルニア、C. ペリー	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
7	「アメリカ国民」の創造：南北戦争と再建の時代	南北戦争と再建の時代から、20世紀初頭までの歴史を扱い、奴隷制度の廃止と人種隔離制度の確立、インディアンの強制的同化、中国系移民の排斥だけでなく、連邦政府の権限の強化などを通して、「アメリカ国民」という存在が、政治的、文化的に規定されてゆくプロセスを描く。 【キーワード】 南北戦争、再建、ジムクロウ、国民国家	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
8	帝国の縁：ハワイとアメリカ史における「周縁」	ハワイは1898年の米西戦争を契機にアメリカへ併合された。独立国家であったハワイを、なぜアメリカは領土としたのか。ハワイの歴史をクローズアップしながら、世紀転換期のアメリカ社会について考える。 【キーワード】 太平洋、先住民、プエルトリコ、帝国主義	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）
9	産業社会の到来：都市と農村	南北戦争後のアメリカでは、急激に資本主義的商工業が発達し、新移民が押し寄せ、民族・人種、文化的多様性に拍車をかけた。新たに出現した都市的アメリカと伝統的な農村的アメリカの相克、その間に立って、新しい社会秩序を構築しようとした革新主義の試みを紹介する。 【キーワード】 資本主義、新移民、ポピュリズム、革新主義	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
10	ジャズ・エイジ：繁栄から恐慌へ	第一次大戦への参戦によって世界の大国の一つとなったアメリカは、ジャズ・エイジとも呼ばれた20年代に、空前の経済的繁栄を謳歌した。だが、その繁栄は世界恐慌の到来とともにあっけなく崩壊し、連邦政府が主導する新たな福祉国家の導入を余儀なくされた。その時代の政治と文化を学ぶ。 【キーワード】 大衆消費社会、ヘンリーフォード、大恐慌、ニューディール	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）
11	第二次世界大戦と日本	日米間の戦争が一般市民に与えた影響について学ぶ。とくに女性や人種・民族的マイノリティの人々にとって、この戦争がどのような意味を持ったのか、日系移民の運命などに焦点をあてながら考える。 【キーワード】 真珠湾、日系人、強制収容所、銃後の女性	矢口祐人（東京大学准教授）	矢口祐人（東京大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	シクシティーズ：社会抵抗運動と「新たな統合」の模索	第二次世界大戦後の「豊かな社会」から、公民権運動を主とする1960年代の社会抵抗運動を通じて、アメリカ合衆国が、国家的、社会的にあらたな統合を確立する過程を考える。 【キーワード】 公民権運動、M.L.キング、エスニック・リヴァイヴァル	中條献（桜美林大学教授）	中條献（桜美林大学教授）
13	ベトナム戦争とアメリカ社会	ベトナム戦争は、アメリカ社会に何をもたらしたのか。戦争評価をめぐる国論の分裂や反戦運動、帰還兵士の直面した問題、戦後建設された多様な戦没者記念碑などに触れながら、どのような価値観の変化があったのかを探る。 【キーワード】 ベトナム、反戦運動、帰還兵士、対抗文化、戦没者記念碑	白井洋子（日本女子大学教授）	白井洋子（日本女子大学教授）
14	アメリカ女性と20世紀	第一次世界大戦を境に、アメリカの女性の政治的立場と生活は大きく変わったが、女性たちがヴィクトリアニズム的近代の枠組みを最終的に打破したのは、1960年代以降の第2派フェミニズムを通じてであった。20世紀後半、アメリカの女性たちは何を求め、それはアメリカ社会をどのように変えてきたのかを考える。 【キーワード】 第2派フェミニズム、平等権修正、人工妊娠中絶、差異	小檜山ルイ（東京女子大学教授）	小檜山ルイ（東京女子大学教授）
15	9．11以後のアメリカと世界	冷戦の終焉を迎えたアメリカでは、1980年代以来、新たな保守主義の台頭が目立つ。21世紀における多元国家の行方をその象徴とも言えるニューヨークの歴史を取り上げながら、いま一度考える。 【キーワード】 9.11、ニューヨーク、多文化主義、保守主義、反米	遠藤泰生（東京大学教授）	遠藤泰生（東京大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551507	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文化人類学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：内堀　基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕

講義概要

専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1章ごとにテーマに沿って学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。

授業の目標

全15回の講義をとおして、文化人類学の諸概念と用語が理解できるようにする。それをとおして文化人類学に特有の調査法を学ぶ。それとともに、世界の諸地域に暮らす民族集団の生活の多様性を知り、地球大的な諸問題と地域的な諸問題の関わりを人類的視野で見る素養を養うことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文化人類学の導入	本講義の導入では、文化人類学という学問に特有の現実を見る眼とはどういうものか、文化人類学が今日の世界のなかで実践的に果たしうる役割にはどのようなものがあるか、という問題から出発し、この学問の対象としてきた人類の文化と社会の研究法、民族誌という報告の形態、フィールドワークの意義と実際について、学史の背景として概括的に見ていく。 【キーワード】 文化、社会、フィールドワーク、民族誌	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授） 内堀基光（放送大学教授）
2	人種、そして民族	この章では、概念として一義的にとらえることが難しい「人種」と「民族」を概観する。この2つの概念に関して次の輪郭が浮かんでくる。すなわち、生物学的な根拠に基づいて分類されると思われる「人種」は、19世紀の欧米において確立した、植民地支配と搾取、他者の差別を正当化する社会的に構築されたドグマであること。また民族も社会的に構築される概念であり、民族のあり方は状況次第に変わることを認識する必要がある。状況によって民族集団は生成・消滅・融合、分離するのである。 【キーワード】 人種、民族、民族集団、ネーション、エスニック・グループ	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）	本多俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）
3	生態と文化	人類社会の基礎には、自然を利用して生存し、社会を再生産していくという過程がある。人類史をつうじて、自然をどのように認識し、またその資源をどのように利用するかは、文化の核ともいえるものであった。サブシステンス（自給的経済）における生業のあり方を見ることをつうじて、生態系の変化に適応しつつ生きる文化の様相を探る。 【キーワード】 生態、文化－生態系、資源、サブシステンス	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	世界の見方	私たちは、現実をそのままの形で見ていると思っているかもしれないが、けっしてそうではない。それぞれの社会文化には、自分たちを取り囲む世界をどのように認識しているか、という認識の仕方がそれぞれに存在する。ここでいう世界とは、人だけでなく、自然や宇宙、超自然的な神や霊、死後の世界、そして過去や未来など、あらゆるものを含み、それらをどのように意味づけるかが、「世界の見方」、すなわち世界観である。私たちは、この世界観をとおして、それぞれの現実を見ているのである。この世界観が最も凝縮した形で蓄積され表出されている領域が、宗教である。ゆえに本章は、宗教を足がかりにしながら、「世界の見方」という問題の一端を考えていくことにする。 【キーワード】 現実、世界観、宗教、自然と超自然	宇田川妙子(国立民族学博物館准教授)	宇田川妙子(国立民族学博物館准教授)
5	人間の見方	文化人類学では、人はそれぞれの社会文化によって多様であるという見方をしているが、この見方は、一つの社会文化の中でも通用する。一つの社会の中でも、民族が異なることは少なくない。また地域や階層による差もある。そして、男性と女性は、身体的に異なっているだけでなく、ものの見方や知識のあり方も違うことも多々ある。同様に年齢や世代によっても人は異なる。このように人は多様であるという立場から、その多様性の一端を、男性と女性という性の差異に着目しながら見ていくことにする。男性と女性という問題は、家族という領域に深くかかわっているため、今回の議論は、家族や性という問題にも展開していく。 【キーワード】 ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、家族、階層	宇田川妙子(国立民族学博物館准教授)	宇田川妙子(国立民族学博物館准教授)
6	環境のなかでの人間	「環境」にはさまざまな側面があり、「環境」のとらえ方は民族によって、そして時代によってとらえ方が異なっている。また異なる環境において類似する文化と社会が営まれていることもある。グローバル化が進んでいる現在、環境への関心が地球的な規模で広がっている。最近の動向として、環境権が注目されている。環境権とは、公害に脅かされずに人間は健康的な生活を維持する権利である。一方、先住民族にとっての環境は大地を基盤に伝統文化を営み、自律的な自治を保障する包括的な概念である。環境をどのように利用し管理するのかは、グローバル的な視点が必要であると同時に、先住民族をはじめ少数民族の伝統文化と社会が保持され、環境に対する独自の利用と管理の仕方をどう保証するのかが現代の課題である。本講義では、こうした開発と環境問題、環境知識、開発に伴う資源管理など、人間と環境の関わり合いに関するトピックを扱う。 【キーワード】 環境権、自然、先住民、環境知識、社会環境	本多俊和(スチュアート ヘンリ)	本多俊和(スチュアート ヘンリ)
7	文化相対主義と他者を見る眼括弧以下削除	文化人類学の中心的な考え方である文化相対主義の意義、その歴史的背景と効果、現代におけるその語り方の問題と普遍主義的価値観との関係などを概観し、さらにポストコロニアルあるいはポストモダンと特徴づけられる現代人類学における「他者を見る眼」はどのようにして可能か、多文化共存の可能性をどこに見るか、民主主義と人権などのトピックを現代世界、とりわけ周辺社会の状況に照らして考察していく。 【キーワード】 文化相対主義、普遍主義、人権、民主主義	内堀基光	内堀基光

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	グローバリゼーションと文化括弧以下削除	人の移動が活発化するとともに、ものも情報も世界を巡るようになった。世界は次第にひとつに収斂していくようにも見える。その一方で、文化は容易に変化しない部分がある。グローバルな仕組を取り入れても、社会の中でそれが持つ意味にはしばしば独特なものがみられる。さらにナショナルな文化やローカルな文化を守り、新たな意味を付与することで差異を作りだす力学も存在している。本講義では、こうしたグローバリゼーション時代の文化のダイナミクスと行方を考察する。 【キーワード】 移動、グローバリゼーション、ナショナル文化、ローカル文化	山本真鳥（法政大学教授）	山本真鳥（法政大学教授）
9	人とモノ	私たちの身のまわりにあふれるモノのなかには、誰によって、どのような過程を経てつくられているのか、あるいはどのような仕組みによって動いているのか分からないものの、私たちの生活には不可欠だというモノも多々存在する。この講義では、人類史的な観点から、人間社会が生み出してきたモノをめぐる多様な文化（＝物質文化）と多様なモノづくりの技術（＝生産技術）について取り上げ、文化人類学の立場から現代社会における物質文化や生産技術にどのようにアプローチするのか、という点について論じる。 【キーワード】 ホモ・ファーベル（工作人）、労働／制作、ホモ・コンシュマンス（消費人）、近代世界システム、消費社会（高度消費社会）	原知章（静岡大学准教授）	原知章（静岡大学准教授）
10	人とメディア	多様なメディアがせめぎあい、融合しながら地球上の多くの人びとの生活のなかに深く浸透しつつあることは、現代世界の顕著な特徴である。個々のメディアは互いに錯綜した、そして重層的な関係にあることが分かる。この講義では、メディアとは何かをあらためて問うことからはじめて、近年、勃興しつつあるメディア人類学や隣接諸分野の知見にもとづいて、現代のメディア社会をマクロな視点とミクロな視点の双方から複眼的に捉えていく。 【キーワード】 メディア（口頭～、文字～、印刷～、電子～）、コミュニケーション、文化表象	同上	同上
11	人と人のやりとり	ものを買うときも、贈り物の贈答も、ものをやりとりするという意味では同じだが、そこにどんな違いがあるのだろうか。われわれの贈答慣習とともに、西太平洋トロブリアンド社会の贈答慣習としてのクラ交換をとりあげてみよう。クラ交換に用いられている贈り物は、人から人へと手渡されていくものであるが、それとわれわれの用いている貨幣とはどう異なるのだろうか。異なる社会での慣習をとりあげ、この主の交換の媒体について考察しよう。 【キーワード】 贈答（贈与）、クラ交換、貨幣、経済人類学、互酬性	山本真鳥	山本真鳥
12	社会の構成	社会は多様な集団や組織から構成され、特定の社会構造をなしている。社会構造は固定化され変化が乏しいものではなく、ときには集団や組織が既存の社会構造からはみでて反構造的な動きや、構造が流動性をみせる場合もある。また社会の反構造的な側面を特定の空間で表出させることもある。この回では、新居浜市の太鼓祭りと山形の高畠町の有機農業運動の2例をあげ、構造と反構造の相互作用の一端を考察する。 【キーワード】 構造、反構造、集団、祭り、有機農業、行政、近代化	足羽與志子（一橋大学大学院教授）	足羽與志子（一橋大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	平和と戦争	20世紀は戦争の世紀でもある。その前半は世界を巻き込んだ戦争に明け暮れ、後半は数多くの部族戦争や民族対立、内戦が表面化した。人類学研究は対象のほとんどが「敵」や「支配すべき文化」であった事実を無視できず、その意味では暴力的対立とともに成長してきた他者理解の学ともいえる。こうした人類学研究と戦争の関係史をふまえたうえで、ウガンダとスリランカの現在の民族紛争を例に、人類学が追求可能な理論的関心と実践的貢献の両方を考える。 【キーワード】 戦争、平和、暴力、犠牲者、記憶	同上	同上
14	周辺からの声	現代世界において周辺とされる社会に生きる人びとのダイナミックな動きと声を、東アフリカを例に取り、地方から都市社会への移住者の生活、都市と地方との力関係、地方のなかでの新たな生計の確保への努力などを具体例として取りあげつつ、日常的な「抵抗」などの概念の有効性を検討する。 【キーワード】 都市、農村、移動、抵抗、共同性、生きる技法	松田素二（京都大学大学院教授）	松田素二（京都大学大学院教授）
15	人類の将来	最終回（章）では、本講義全体に関わるまとめと合わせて、進化と文化・社会、サステナビリティの射程など、人類史的観点から現代文化を総括する。21世紀という時代の文化と人類社会の将来を見据えるために、20世紀という時代の特性を見る。植民地、大戦争、ジェノサイドの時代であり、かつ世界平和希求の時代としての20世紀の総括から、グローバル化の意味するもの、人類社会における暴力とその克服の可能性などについて語る。 【キーワード】 20世紀、人類の将来、グローバル化、進化	内堀基光	内堀基光 本多俊和（スチュアート ヘンリ）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1857207	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　資源人類学（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：内堀　基光（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：菅原　和孝（京都大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：印東　道子（国立民族学博物館教授）〕

講義概要

「資源」という語は日常的に使われているが、学問的概念としてはなかなか定義の難しい概念である。この科目では、人類学の視点から資源と人間社会、文化との関わりについてアプローチする。資源そのものよりも、「人間にとって」という観点に重点が置かれる。天然資源とならんで、通常では資源とは考えられていない知識や身体なども、これに含まれる。包括的な理論とともに、資源と人間の関わりの全地球的な多様性を、具体的な生活舞台にそくしながら探求することにしたい。

授業の目標

この科目は、学問的に新しい分野であるので、講義を通じて新しい見方の発見、知的なおどろきを経験できるものとしたい。受講生にも、既成の体系を求めるのではなく、人間と生態系、人間の文化について、新たな疑問をもち、みずから考えてゆくという態度を期待する。したがって、受講に関してとくに前提となる特殊な知識はない。資源を軸にして見ることにより、現代の人間のおかれた状況を相対化して考え、そこから喫緊の人類的課題に迫ろうとする態度を涵養することが目標となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「資源人類学」の導入	「資源人類学」の可能性と基本的な視点を講義する。資源という語のさまざまな用語法。資源をめぐる諸学問、とくに経済学的視点との異同。人類学全体にとっての意義。講義の構成についての紹介。	内堀基光（放送大学教授）	内堀基光（放送大学教授）
2	資源の問題群の構成	象徴資源と生態資源の組み合わせで人間社会が成り立っていること、共有される資源と分配される資源の相違について論じる。また天然資源の分類と現代的グローバルな課題が生じてきた経緯、解決の可能性、およびサブシステンス経済について触れる。	内堀　基光	内堀　基光
3	生態資源と象徴資源	生態的資源が象徴資源として認識された過程を、歴史資料を用いて検討する。象徴資源の存在が社会構造の存立にいかに重要な役割を果たしたか、異なる環境条件にある社会を例にとって論じる。	印東道子（国立民族学博物館教授）	印東道子（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	文化資源の考え方	文化が資源でありうるとはどういうことか。文化が資源化されるとき、社会はそれをどう活用するか。社会間および社会内の文化資源の分布をどう見るか。ブルデューのいう文化資本とはどう異なるか。	森山　工（東京大学大学院准教授）	森山　工（東京大学大学院准教授）
5	観光資源と知的資源	観光資源・知的資源に代表される文化資源の生成と消費、また現代国家におけるその蓄積などについて、主としてマダガスカルおよび、その対称軸としてのフランスを例に取り、具体的に分析する。	森山　工	森山　工
6	地域再生運動と資源	日本における地域再生運動の例を静岡県の一商店街に取る。そこでは運動のための活用資源の一つとして地域通貨を導入しているが、この講義ではその効果を計りつつ、地域限定的な資源利用、「通貨」の意味などを考える。	湖中真哉（静岡県立大学准教授）	湖中真哉（静岡県立大学准教授）
7	再生資源の活用	廃棄されたもののさまざまなかたちでの再利用のあり方を、東アフリカの牧畜民サンブルを主要例にとって見る。廃棄物の再資源化をめぐる現在的な在地の知恵をとおして、資源の再利用という課題に迫る。	湖中　真哉	湖中　真哉
8	資源の循環過程	資源の循環過程とは、あるものが資源として生成することからはじまり、資源として利用されつつ維持されることを経て、資源であることを終えるという過程である。これまでの講義を、この観点から中間的にまとめることで、人間社会と資源の関わりの全体像を見通す。	内堀　基光	内堀　基光
9	身体資源の考え方	人間が身体的存在であることを資源（リソース）の観点から論じる。人間が身体を用いて、他の人間と交渉し、また世界と関わるということは、この交渉のための資源として身体を見ることができるということである。このことを日常生活の基礎論として位置づける。	菅原和孝（京都大学大学院教授）	菅原和孝（京都大学大学院教授）
10	資源としての身体のふるまい	身体の具体的な振る舞い方、扱い方をとおして、身体がいかにコミュニケーションと表現のための資源となっているかを探る。具体例は舞踏における身体、過去語りにおける身体、および民俗的な医療における身体の扱いにとる。	菅原　和孝	菅原　和孝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	人体の部品化	臓器移植や新生殖技術によってゆらぐ人格アイデンティティの問題を中心として、商品化を含み資源としての利用が進む人体部品と現代の人間観、生命観のあり方を考える。	出口　顯（島根大学教授）	出口　顯（島根大学教授）
12	生態資源の広がり	遊牧の民にとっての資源の意味を、モンゴルの牧草地とその利用の現状をもとに探る。季節的移牧のあり方、過放牧と呼ばれる事象の原因、現代モンゴル人の生活資源の領域拡大などを取りあげる。	小長谷有紀（国立民族学博物館教授）	小長谷有紀（国立民族学博物館教授）
13	資源のマネージメント	熱帯林の商業伐採や換金作物農地への転換によって、かつては更新可能だった資源の利用法が、更新不可能な資源に転じつつある。これによって共有と分配のあり方も変化する。ここでは適切な資源マネージメントについて、政治生態学の手法を導入しつつ論じる。	阿部健一（京都大学准教授）	阿部健一（京都大学准教授）
14	資源と環境	環境問題と資源問題は密接に関係している。この関係の多重なありようを、グローバルな全体像のなかでとらえる。歴史的には植民地の問題、現在的には南北問題が中心的な議論の対象となる。	阿部　健一 内堀　基光	阿部　健一 内堀　基光
15	資源の人間的意味	複数講師によるディスカッション形式により、象徴資源と生態資源の関係と比較、相互転換の論理などをまとめ、同時に新たな資源の可能性について考える。	内堀　基光	内堀　基光 菅原　和孝 印東　道子

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	専門科目	科目コード	1551604	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館資料論 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：佐々木　利和（国立民族学博物館教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多　俊和（スチュアート　ヘンリ）（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：湯山　賢一（奈良国立博物館長）〕

講義概要

博物館には、博物館法によって資料を保管し、後世に伝えることが決められている。いってみれば博物館の基本は収蔵している資料にあるといっていい。そしてそれは博物館が拠って立つ所以ともなる重要な存在である。資料はまた「モノ」ともいい、「文化財」でもある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場でしかない。こうした観点にたって、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した資料のあり方について考える。

授業の目標

資料とは博物館の根幹を成す存在で「モノ」と称され、近年では「文化財」と呼称される場合が多い。「文化財」は宝物であったり骨董、珍物であったりもするが、博物館ではこれらのほかに実際の生活に根ざした品々も「文化財」である。こうした観点から博物館の資料について考えていく。講義にあたってはそれぞれの博物館・研究所の学芸員、研究者の先生方をゲストにお招きしお話をうかがう。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	博物館における資料とは	博物館における資料の多様性について考える。 各地の特色ある博物館の例で考える。第一回目は日銀貨幣博物館が所蔵する貨幣関係資料と旧大塚盲学校が保管する近世・近代の視覚障害者教育資料について考察する。	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）
2	博物館資料を展示する	あらたに出発する沖縄県立博物館において、旧来の資料をいかに陳列するかについて学ぶ。	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）
3	博物館資料の修復	博物館で収蔵する資料は損傷があるものが少なくない。装潢師（そうこうし）連盟関西支部にお邪魔して修理の実態に触れ、資料にとっての修理とはいかなることかを学ぶ。	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）
4	大学における博物館	近年旧帝国大学系を中心に大学博物館が設立されている。大学博物館はその教育の中で蒐集された資料類が多くある。それらはどのように整理され、博物館教育に役立てているか、京都大学総合博物館の例で学ぶ。	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）	佐々木　利和（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	博物館資料としての古文書	古文書をいかに調べ、展示するかは大きな課題である。ここでは京都・醍醐寺における資料調査の実態に触れ、あわせて古代・中世の文書について考える。	湯山 賢一（奈良国立博物館長）	湯山 賢一（奈良国立博物館長）
6	博物館資料としての絵画	絵画資料から何を読み取るか、そしてそれを展示にいかに生かしていくかを考える。	湊信幸（東京国立博物館副館長）	湊信幸（東京国立博物館副館長）
7	博物館資料としての個人	幕末の蝦夷地探検家である松浦武四郎が収集した資料と同じ幕末の鷹見泉石収集の資料を中心に個人の収集品と博物館について考える。	佐々木 利和（国立民族学博物館教授）	佐々木 利和（国立民族学博物館教授）
8	博物館資料としての近代化遺産	近年、大きな問題となりつつある近代化遺産の資料性、保存の問題をNHK放送博物館の例で考えてみる。	小林健一郎（NHK放送博物館副館長）	小林健一郎（NHK放送博物館副館長）
9	博物館資料としての考古遺物－小規模展示施設の模型作り－	考古遺物は発掘されたままか、それを復元した形での展示が多いが、羅臼町立郷土資料館は非常にユニークな展示法を試みている。その方法について学ぶ。	涌坂 周一（羅臼郷土資料館長）	涌坂 周一（羅臼郷土資料館長）
10	博物館資料としての写真	博物館には古い写真類を収蔵するところが少なくない。それの保存、複写、展示等の方法について学ぶ。	岡塚 章子（江戸東京博物館）	岡塚 章子（江戸東京博物館）
11	博物館資料の写真撮影法と情報処理	博物館資料は多岐におよぶ。そしてそれぞれにあった撮影の方法について学ぶ。併せて、博物館における資料整理とコンピュータの関係について学ぶ。	佐々木 利和（国立民族学博物館教授）	佐々木 利和（国立民族学博物館教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	博物館資料の調査	日本国内におけるアイヌ民族資料の調査法および近世資料の調査法について学ぶ。	佐々木 利和(国立民族学博物館教授)	佐々木 利和(国立民族学博物館教授)
13	博物館収蔵庫論	資料を安全に収めるための博物館における収蔵庫はいかにあるべきかについて考える。	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)	森田 稔(九州国立博物館学芸部長)
14	博物館資料としての民俗	民俗資料は種類や数が多いだけにその整理や保存法は多岐にわたる。民俗資料の特徴や展示方法について学ぶ。	佐々木 利和(国立民族学博物館教授)	佐々木 利和(国立民族学博物館教授)
15	民族資料論－博物館における民族表象－	博物館とは 1. ものを展示する→イメージを醸し出す 2. アイヌ民族をめぐる展示を中心に講義を進める 【キーワード】 表象、展示、イメージ	本多 俊和(スチュアート ヘンリ)(放送大学教授)	本多 俊和(スチュアート ヘンリ)(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551701	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 博物館経営・情報論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）： 佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授） 〕

〔主任講師（現職名）： 亀井 修（国立科学博物館 展示・学習部 学習課 ボランティア活動・人材育成推進室 室長） 〕

〔主任講師（現職名）： 竹内 有理（長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー） 〕

講義概要

この科目は，3つの内容から成り立っている。
①経営論：博物館の使命達成に向けて，資源をどのように活用していくかについて
②情報論：博物館が収集した1次・2次資料に関する情報，経営戦略を策定するために必要な情報などについて
③教育論：博物館展示とともに活動の重要な柱の1つとなる博物館教育の歴史，理論，動向などについて

授業の目標

博物館は建物と資料が存在するだけでは，十分な価値は生まれない。
博物館運営のソフトウエアである「経営」，「情報」，「教育活動」に関する基本的な知識を身につけることを目標とする。
また，自分の地域にある博物館の活動にいままで以上に関心を持ち，さらに積極的に利用・参加するようになることを目指す。

専門科目 人間と文化

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	＜はじめに＞ ミュージアムになぜ経営が必要か	博物館にとって「経営」は必要不可欠な概念であることを、いくつかの側面から説明するとともに、博物館の使命、経営資源、ステークホルダーという、経営を考える際に必須となる基本的な要素について考察する。また最後に、この科目全体の構成について紹介する。 【キーワード】 経営，ニュー・パブリック・マネージメント，使命，経営資源，ステークホルダー	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）
2	博物館の人材・組織・財政・各種団体	館長や学芸員をはじめとするスタッフ，その組織化，運営予算，博物館関連の各種団体など，館種や規模に拠らない博物館経営に必須の要素について，また、博物館の全国組織、学会についても紹介する。 【キーワード】 博物館法，学芸員，館長，ボランティア，組織，施設，財政	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）
3	博物館経営の手法①：マーケティングと利用者調査	民間企業ではその導入が一般的になっている「マーケティング」に関して概説を行う。それとともに，マーケティングを計画する際，重要な情報となる博物館利用者の実態やニーズ・期待を把握するための調査方法について，実際の事例を用いて紹介する。 【キーワード】 マーケティング，非営利組織，利用者調査，観察法，質問紙法	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）
4	博物館経営の手法②： 事業評価の手法とシステム	最近では，公共サービスにおいて評価は必須の活動となっている。博物館に関しても多様な手法で評価が行われている。評価が必要となってきた背景を理解し，博物館の事業を評価する手法およびその全体システムについて具体的に紹介する。さらに，評価システム導入の際，必要となる環境についても検討する。 【キーワード】 評価，自己点検，外部評価，静岡県立美術館	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授）	佐々木 亨（北海道大学大学院文学研究科教授） 泰井 良（(財)地域創造総務部振興助成課副参事）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	公立博物館の経営形態: 指定管理者制度	地方自治法第244条が2003(平成15)年に改正され,博物館にとってもさまざまな変化が生まれた。同法改正以前の博物館経営の実態を紹介したのち,改正で導入された指定管理者制度の現状を,具体的な博物館の事例を通して説明する。さらに,指定管理者制度の課題などについて考察する。 【キーワード】 指定管理者制度,地方自治法,長崎歴史文化博物館,島根県立美術館	佐々木 亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木 亨 (北海道大学大学院文学研究科教授) 佐々木 秀彦 ((財)東京都歴史文化財団事務局 総務課企画広報係長)
6	博物館とそれを取り巻く人々・社会	博物館における広報活動の現状をみた上で,広報の役割の一つである組織の目的と価値をどのように開示しているのかを,博物館の「年報」と企業の「CSRレポート」とを対比しながら考察する。また,博物館が地域と密接に関係し合い,地域を活性化している事例を紹介する。 【キーワード】 広報,CSR(Corporate social responsibility),ステークホルダー(利益関係者),公益性,博物館と地域,創造都市	佐々木 亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)	佐々木 亨 (北海道大学大学院文学研究科教授)
7	博物館教育の歴史と今後の方向性	博物館教育に対する理解と関心が近年高まってきているが,日本の博物館の歴史の中で,博物館教育がどのように位置づけられ,実践されてきたかを,明治期の教育博物館の事例や博物館法における位置づけなどを通して紹介し,博物館教育の今後の方向性について展望する。 【キーワード】 利用者,市民,教育博物館,地域博物館,「対話と連携」	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)
8	博物館教育の理論	特に欧米を中心に発達した、今日の博物館教育を理念面で支え、大きな影響を与えたとされる構成主義や学習スタイル、コミュニケーション論などの教育(学習)理論について、ポストモダンという大きな歴史の流れを前提として紹介する。 【キーワード】 ポストモダン,構成主義,ホリスティック,インフォーマルな学習,学習スタイル,博物館体験,コミュニケーション	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)
9	博物館教育の実践1:展示へのアプローチ	展示が内包する問題について理解したうえで、それらを読み解くための方法として試みられている参加体験型(ハンズ・オン)展示やワークシート,ギャラリートーク、ワークショップなどの教育プログラムについて紹介する。また展示の作り手と受け手の間の意識や理解の差を埋めるための展示評価についても触れる。 【キーワード】 展示,文脈,参加体験,ハンズ・オン,演劇,学習評価,ギャラリートーク,ワークショップ,展示評価	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)
10	博物館教育の実践2:地域連携とボランティア	博物館教育の具体的な実践例として,学校と地域住民,ボランティアの3つの側面から地域社会と連携した様々な博物館活動について,具体的事例を交えながら紹介し、地域との連携がこれからの博物館にとっていかに重要かを考える。 【キーワード】 博学連携,ボランティア,地域連携,市民参加,生涯学習,大学,企業	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)	竹内 有理 (長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	博物館における情報	博物館における情報提供は,近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり,その意義はますます重要となっている。その今日的な状況をさまざまな博物館活動の中でとらえる。あわせて,「情報」の展示化や「情報」の展示事例を紹介する。 【キーワード】 情報, 機能, コミュニケーション, 情報の展示	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)
12	博物館活動の情報化	博物館活動における情報化の進展とその今日的状況を図書館や文書館の社会的役割を視野に入れて構造的に考える。 【キーワード】 情報化, MAL, 図書館, アーカイブス, 経営	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)
13	情報技術と博物館	博物館に関係する情報技術発展の概要と活用の流れを紹介するとともに, 博物館でのICTの意義を考える。また, 学びや社会貢献の視点から, 博物館におけるICTの可能性について考える。 【キーワード】 ICT インターネット IpV6 GIS ホスピタリティ 展示 学習	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)
14	博物館経営と情報論	博物館に限らず現代社会における情報の重要性はますます増している。博物館の経営を戦略的に構築するためのICTの考え方や技法について紹介する。 【キーワード】 ミッション メディア ソーシャル・サービス GBIF 疾病予防	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)	亀井 修(国立科学博物館展示・学習部学習課ボランティア活動・人材育成推進室長)
15	<おわりに> 博物館にとって本当に必要なものは何か	博物館運営のソフトウエアである「経営」,「情報」,「教育活動」に関する学習をこれまでしてきた。ここでは, それぞれの領域においてキーワードとなる事柄はいったい何であるのかを, あらためて整理してみる。その上で, 博物館にとって本当に必要なものは何であるかについて考える。 【キーワード】 経営, 情報, 教育活動	佐々木 亨(北海道大学大学院文学研究科教授) 亀井 修(国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長) 竹内 有理(長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)	佐々木 亨(北海道大学大学院文学研究科教授) 亀井 修(国立科学博物館ボランティア活動・人材育成推進室長) 竹内 有理(長崎歴史文化博物館教育・研究グループリーダー)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1559117	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 日本語学～母語のすがたと歴史～ （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：杉浦克己（放送大学准教授） 〕

講義概要

普段日用していながら改めて意識することのない母語としての日本語を分析しその構造を明らかにしていく方途を、音韻、文字、文法、語彙、文章など様々な観点から概説し、日本語の特色とその歴史的な変遷を示す。言葉の学としてだけでなく、日本文学、歴史、日本文化など幅広い分野にわたって、母語としての日本語という観点から考えていくための一端緒を提供することにも配慮する。

授業の目標

普段省みることのほとんどない母語について、敢えてそれを分析するための手法とその意義を考えるための視点の一端を提供する。
日本語の特色とその歴史的な変遷についての知見を養う。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	言語・日本語・国語	言語学の対象としての言語の基本的な定義とその性質を概説する。 世界の言語の中での日本語の位置付けを概説する。 言語特に母語を分析・研究する考え方と手法を、内省、共時的な視点、通時的な視点などを中心に概説する。 本講義全15回の内容の概略とねらいを説明する。 【キーワード】 言語学、話し言葉、書き言葉、語族、母語、内省、共時的、通時的	杉浦克己（放送大学・准教授）	杉浦克己（放送大学・准教授）
2	音韻	言語音のとらえ方として、言語音の定義、音声と音韻の違いを概説する。 日本語の音韻を、音節及び拍を単位として分析し、その構造や性質を、五十音図を用いて整理する形で概説する。 日本語のイントネーション及びアクセントの基本的な性質を概説する。 【キーワード】 言語音、音声、音韻、単音、音素、有声音、無声音、子音、母音、音節、拍、モーラ音節、五十音図、イントネーション、アクセント、アクセントの型の対応	同上	同上
3	音韻史	日本語の音韻の歴史的な変遷を上代から順次概説する。個々の音の変化を通時的に述べるだけではなく、各時代における共時的な音韻相互の関係、漢字音の日本語への定着の過程、等について併せて説明を加える。 【キーワード】 上代特殊仮名遣、音節結合、ヤ行のエ、いろは歌、ハ行転呼、ワ行音、長母音、四つ仮名、撥音、促音、拗音	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	文字	言語における文字の機能の基本的なとらえ方について概説する。 日本語の文字を、漢字の移入と使用、平仮名の成立とその用いられ方、片仮名の成立とその用いられ方、の各項について概説し、それぞれの文字としての特性を明らかにし、用いられ方との関係を示す。 【キーワード】 表音文字、表意文字、漢字、音読み、訓読み、平仮名、片仮名	杉浦克己（放送大学・准教授）	杉浦克己（放送大学・准教授）
5	表記	現代の日本語の表記方法の特色を概説する。 漢字仮名交じり文の表記方法の変遷を、音韻の変化と関係助付けながら概説し、併せて漢字音の仮名表記についても上代を中心とした、漢字のみを用いた表記方法を、日本語における漢字使用の質的な変化と関係づけながら概説する。 【キーワード】 仮名遣い、現代仮名遣い、歴史的仮名遣い、定家仮名遣い、書記方向	同上	同上
6	語法	文法をとらえる基本として、規範文法と記述文法、語法と構文、の各々の観点を概説する。 日本語の品詞についていくつかの異なる学説を紹介し、その考え方の違いを示す。 日本語の自立語と付属語の本質的な違いや語形変化の規則性とその背景を概説する。 【キーワード】 文法、語法、規範文法、記述文法、学校文法、橋本文法、山田文法、時枝文法、品詞、自立語、付属語、詞と辞	同上	同上
7	構文	日本語の構文を考える上でのいくつかの視点を紹介し、それぞれの基盤となる考え方を概説する。 構文の要となる陳述と発話者の主観との関係を、いくつかの異なる視点から概説する。 述部を形成する諸要素の相互承接とその構文上の役割について概説する。 【キーワード】 連文節、喚体の句、述体の句、入れ子型構造、主語と述語	同上	同上
8	文法史	いわゆる学校文法の知見を基盤に、日本語の文法の変遷の概略を、上代（奈良時代）・中古（平安時代）・中世（鎌倉・室町時代）・近世（江戸時代）にわたって、用言の活用や助詞・助動詞の変遷や働きなどを主な例として概説する。 【キーワード】 学校文法、活用、活用語尾、ク語法、ミ語法、補助動詞、助動詞、助詞	同上	同上
9	語彙	単語とその意味の関係を、一般意味論的な観点から概説し、そこから明らかになる語の性質と、意味論の限界について述べる。 語と語の意味を記述するための様々な観点を紹介し、その本質的な違いについて述べる。 【キーワード】 単語、語彙、意味、一般意味論、形態素、意義素、意味特性、意味素性、	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	語誌	日本語の語彙を形成している和語、漢語、外来語について、それぞれの性質と背景を概説する。 語とその意味の変化をとらえる上での基本的な考え方を紹介する。 語とその意味の変化について、実例を挙げてその要因となる事項の代表的な例を概説する。 【キーワード】 和語、漢語、外来語、語誌、語史、語源、意味変化	杉浦克己（放送大学・准教授）	杉浦克己（放送大学・准教授）
11	待遇表現	対人的な配慮に基づく表現として待遇表現を位置付け、その例を紹介する。 日本語の敬語表現を、尊敬語、謙譲語、丁寧語に分類し、各々の性質を概説する。 実際の言語運用における待遇表現の役割について概説する。 【キーワード】 待遇表現、敬語、尊敬語、謙譲語、丁寧語、敬譲語、荘重語	同上	同上
12	文章・文体	言葉の単位としての文章と、文章を考える学である文章論について概説する。 分析対象としての文体の定義について述べ、文体を考える上での基本的な視点と文体を構成する要素について概説する。 日本語の主な文体と歴史的な変遷について概説する。 【キーワード】 文章論、修辞学、漢文体、漢文訓読体、和文体、和漢混淆文、口語体、言文一致、普通文、	同上	同上
13	方言・位相	方言というとらえ方を定義し、共通語、標準語と対置して概説する。 これまでの日本語の方言研究の概略を紹介し、日本語の方言区画について述べる。 方言を考える上でのいくつかの視点を紹介する。 日本語の位相の実態とそのとらえ方の一端を紹介する。 【キーワード】 方言、位相、共通語、標準語、俚言、方言区画、『日本言語地図』、方言周圏論、新方言、	同上	同上
14	日本語学史	日本語研究の歴史的な変遷を、中世の歌学、近世の国学、近代の西欧言語学移入以降、の三つに大きく区分し、各々の概略と背景、その成果について概説する。 近代以降の日本語研究について、代表的な学説を紹介し、その基本的な考え方の特色と主な成果について概説する。 【キーワード】 梵語学、歌学、てにをは、キリシタン資料、国学、玉緒学派、博言学	同上	同上
15	国語問題・国語教育	実際に活きて使われている日本の抱える国語問題の諸相として、漢字制限、仮名遣い、表記、話し言葉と書き言葉などの諸点を概説し、それらへの対応の現状と歴史的な変遷を示す。 国語教育の諸相の概略を示し、その中心となる国語科教育について、主に近代以降変遷を概説し、現状を位置付けその問題点や今後のあり方を示す。 【キーワード】 国語問題、国字問題、国字改良論、漢字制限、国語問題施策、言語生活、国語科教育、学習指導要領	同上	同上

＝　日本語基礎Ａ（‘０６）＝（TV）

－文法指導法と学習－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

全体のねらい

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。内容は、日本の社会と文化の紹介、日本人の生活や働く姿の紹介、日本語能力試験３，４級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成である。マルチメデイアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座を目指す。授業風景、実際的な練習場面、スキットやドキュメンタリーの視聴覚教材などを通して日本語指導法を示す。媒介語を使用しない直接法による授業、教材作成、学生の誤用の分析など、日本語教育学に関し、豊富な研究資料を提供する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	楽しい文法教室①	授業風景 ・動詞、形容詞、形容動詞の活用形 ・アスペクト、テンス ・「～て」形の用法 ・格助詞の用法「を」「で」「に」 ・漢字①線の形 ・日本の歌①「夏の思い出」	姫野昌子（放送大学教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	スキット「発表の授業－準備－」	授業風景 ・自動詞と他動詞 ・変化「～くなる」「～になる」 ・変化「～くする」「～にする」 ・設置と処置　補助動詞「～ておく」 ・留学生によるインタビュー「漫画家　咲坂芽亜氏」 ・漢字②線と点の形 ・日本の歌②「だれもいない海」	藤村知子（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同上
3	スキット「発表の授業－漫画やアニメの始まり－」	授業風景 ・設置と処置の結果の状態　補助動詞「～てある」 ・単なる結果の状態　補助動詞「～ている」 ・誘発　感情動詞の他動詞化「人を～させる」 ・留学生によるインタビューと報告 ・漢字③構成要素 ・日本の歌③「雪の降る街を」	同上	同上

4	ドキュメンタリー 「東京の森－人工林で木を育てる－」	授業風景 ・可能表現「～することができる」 ・動詞可能形「行ける」 ・留学生によるインタビュー「あきる野市　製材所経営者　田中定男氏」 ・漢字④「さんずい偏」 ・日本の歌④「北国の春」	小林幸江（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
5	ドキュメンタリー 「東京の森－東京の木で家を造る－」	・引用表現「～と言う」「～と思う」 ・伝聞形「～そうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑤「人偏」 ・日本の歌⑤「この広い野原いっぱい」	同　上	同　上
6	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－太陽の熱や光などの利用」	授業風景 ・条件「～と」「～たら」 ・留学生によるインタビュー「自然食店　富士山の野菜塾店長　佐藤環氏」 ・漢字⑥「木偏」 ・日本の歌⑥「この空を飛べたら」	鈴木美加（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
7	ドキュメンタリー 「自然の力を利用した家－雨水の利用－」	授業風景 ・条件「～ば」「～ても」 ・留学生によるインタビュと報告「朝霧高原の牧場」 ・漢字⑦「手偏」 ・日本の歌⑦「恋人よ」	同　上	同　上
8	楽しい文法教室② 復習	授業風景 ・文法事項復習（１～７回） ・留学生によるインタビュー「江戸紙切り名人　桃川忠氏」 ・漢字⑧「日偏」 ・日本の歌⑧「忘れな草をあなたに」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上
9	スキット 「お見合い－若い２人と仲人さん」	授業風景 ・様態　形容詞、形容動詞＋「～そうだ」 「痛そうだ、元気そうだ」 ・留学生によるインタビュー「大学生の結婚観」 ・漢字⑨「しんにゅう偏」 ・日本の歌⑨「冬が来る前に」	伊東祐郎（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
10	ドキュメンタリー 「お見合い－結婚相手紹介サービス会社」	授業風景 ・様態　動詞＋「～そうだ」「降りそうだ」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑩「草かんむり、雨かんむり」 ・日本の歌⑩「旅人よ」	同　上	同　上

11	ドキュメンタリー 「文化を守る－丸岡の町－」	授業風景 ・授受動詞「もらう、あげる、くれる」 ・推移、変化　補助動詞「～てくる」「～ていく」 ・留学生によるインタビュー「歌舞伎役者　市川男女蔵氏」 ・漢字⑪「ウかんむり「門がまえ」 ・日本の歌⑪「心の旅」	荒川洋平（東京外国語大学准教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
12	ドキュメンタリー 「文化を守る－子ども歌舞伎」	授業風景 ・待遇表現「～てくれる」「～てもらう」「～てあげる」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑫「 ・日本の歌⑫「恋人もいないのに」	同　上	同　上
13	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に届ける－」	授業風景 ・直接の受身「人を対象とする動詞」 ・非情主の受身 ・留学生によるインタビュー「岐阜県高山　オークヴィレッジ」 ・漢字⑬「２つの訓読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑬「みずいろの雨」	柏崎雅世（東京外国語大学教授） 姫野昌子（放送大学教授）	同　上
14	ドキュメンタリー 「東京の水道－水を安全に守る－」	授業風景 ・「持ち主の受身」「迷惑の受身」 ・留学生によるインタビュー報告 ・漢字⑭「訓読みと音読みを持つ漢字」 ・日本の歌⑭「あのすばらしい愛をもう一度」	同　上	同　上
15	楽しい文法教室③ 総復習	授業風景 ・文法事項復習（１～14回） ・留学生の司会による「桃川忠氏江戸紙切り実演会」 ・漢字⑮「熟語」 ・日本の歌⑮「さとうきび畑」	姫野昌子（放送大学教授）	同　上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1554204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本語基礎Ｂ（‘０７）＝（Ｒ）
－コミュニケーションと異文化理解－

〔主任講師（現職名）：姫野　昌子（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：伊東　祐郎（東京外国語大学教授）〕

講義概要

対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、２部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。放送教材は、機能別モデル会話、外国人の異文化体験談インタビューと解説、日本の代表的な都市と紹介、日本の詩歌の朗読と解説から構成されている。

授業の目標

外国人日本語学習者のコミュニケーション能力と異文化理解能力を養成する教授法を示す。会話能力の養成、異文化コミュニケーションに関する考察、代表的都市の地理的条件、文化・歴史的特徴などの理解、詩歌紹介を通した日本人の感性理解、初級から中級前半にかけての文法習得など諸事項の指導法提示を目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	導入 各課の内容と全体の流れの説明	・「挨拶や会話」導入 ・「異文化コミュニケーションインタビュー」導入 ・「異文化メモ」導入 ・「地方紹介」導入 ・日本の詩歌：俵万智の短歌『サラダ記念日』所収 ・音楽：神山純一「旅立ちの時」	姫野　昌子 伊東　祐郎 田山のり子（東京外国語大学教授） 藤森弘子（東京外国語大学教授） 初鹿野阿れ（東京国際大学講師） 池田智子（桜美林大学准教授）	姫野昌子（放送大学教授） 伊東祐郎（東京外国語大学教授）
2	会話① 異文化コミュニケーション① 北の街　札幌	・出会いの挨拶と会話の開始 ・外国人へのインタビュー①：出会いの表現 ・異文化メモ：出会いの挨拶 ・札幌の紹介 ・日本の詩歌：三好達治の詩「雪」『測量船』所収 ・音楽：さだまさし「北の国から」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	会話② 異文化コミュニケーション② 森の都　仙台	・別れの挨拶 ・外国人へのインタビュー②：別れの表現 ・異文化メモ：別れる時の表現 ・仙台の紹介 ・日本の詩歌：石川啄木の短歌『一握の砂』所収 ・音楽：さとう宗幸「青葉城恋唄」	同	同
4	会話③ 異文化コミュニケーション③ 首都　東京	・電話の終了 ・外国人へのインタビュー③：電話で話した経験 ・異文化メモ：電話での話し方 ・東京の紹介 ・日本の詩歌：高村光太郎の詩「あどけない話」『智恵子抄』所収 ・音楽：喜多郎「キャラバンサライ」	同	同
5	会話④ 異文化コミュニケーション④ 北の小京都 金沢	・謝罪の会話 ・外国人へのインタビュー④：謝罪の経験 ・異文化メモ：謝罪の表現と態度 ・金沢の紹介 ・日本の詩歌：室生犀星「小景異情」『抒情小曲集』所収 ・音楽：倉本悠基「哀しみの空」	同	同
6	会話⑤ 異文化コミュニケーション⑤ 商業都市 名古屋	・言い訳の会話 ・外国人へのインタビュー⑤：言い訳の経験 ・異文化メモ：言い訳の表現と態度 ・名古屋の紹介 ・日本の詩歌：寺山修司「故郷の母のことを思い出したら」『人生処方詩集』所収 ・音楽：苫米地義久「ほのかな夜明け」	同	同
7	会話⑥ 異文化コミュニケーション⑥ 古都　京都	・依頼と承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑥：依頼の経験 ・異文化メモ：依頼の心遣い ・京都の紹介 ・日本の詩歌：与謝野晶子の短歌『みだれ髪』『恋衣』所収 ・音楽：城乃内ミサ「京の小道」	同	同
8	復習	復習 ・音楽：宗次郎「エンサールの森」	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	会話⑦ 異文化コミュニケーション⑦ 商業の街 大阪	・誘いと承諾の会話 ・外国人へのインタビュー⑦：間接的な誘いの経験 ・異文化メモ：誘いの表現法 ・大阪の紹介 ・日本の詩歌：茨木のり子の詩「六月」『見えない配達夫』所収 ・音楽：「宵待ち草」	同	同
10	会話⑧ 異文化コミュニケーション⑧ 平和を願う街 広島	・断りの会話 ・外国人へのインタビュー⑧：間接的に断られた経験 ・異文化メモ：断りの表現法 ・広島の紹介 ・日本の詩歌：峠三吉『原爆詩集』序 ・音楽：中国地方の子守歌	同	同
11	会話⑨ 異文化コミュニケーショ⑨ 俳句と温泉の街 松山	・感謝の会話 ・外国人へのインタビュー⑨：感謝の表現に関する経験 ・異文化メモ：感謝の表現法と習慣 ・松山の紹介 ・日本の詩歌：正岡子規の俳句『寒山落木』所収 ・音楽：宮城道雄「春の海」	同	同
12	会話⑩ 異文化コミュニケーション⑩ 異国への窓 長崎	・贈答の会話 ・外国人へのインタビュー⑩：贈答の経験 ・異文化メモ：贈答の習慣 ・長崎の紹介 ・　日本の詩歌：金子みすゞの詩「大漁」『金子みすゞ全集』所収 ・音楽：島原地方の子守歌	同	同
13	会話⑪ 異文化コミュニケーション⑪ 南国　鹿児島	・ほめやねぎらいの会話 ・外国人へのインタビュー⑪：ほめとねぎらいの経験 ・異文化メモ：ほめやねぎらいの表現と態度 ・鹿児島の紹介 ・日本の詩歌：若山牧水の短歌『海の声』所収 ・音楽：五木の子守唄	同	同
14	会話⑫ 異文化コミュニケーション⑫ 南の島々 沖縄	・苦情・不満の会話 ・外国人へのインタビュー⑫：会社勤めの体験と苦情の経験 ・異文化メモ：苦情・不満の表現法 ・沖縄の紹介 ・日本の詩歌：谷川俊太郎の詩「かなしみ」『二十億光年の孤独』所収 ・音楽：安里屋ユンタ	同	同

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	総復習	総復習 ・音楽：姫神「海道を行く」	同	同

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1571001	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本の古典―古代編　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：藤原克己（東京大学大学院教授）　〕
〔主任講師（現職名）：多田一臣（東京大学大学院教授）　〕
【担当専任教員：島内裕子（放送大学准教授）　】

講義概要

言葉によって世界を把握する過程で、人々が文学の言葉の力を発見したその始原から、漢文学の受容をも重要な契機・触媒として、和歌・物語・日記・説話などの文芸が形成され、それらが相互に交流しながら展開した様相を明らかにする。また、古典の言葉がもつ力、その豊かさとこまやかさが忘れられかけているこんにち、古典を読むよろこびを再発見できるような講義にしたい。

授業の目標

(1)和歌・物語・日記・漢詩文・説話といったジャンルが、相互に没交渉であったのではなく、互いに交流しながら、その思想・表現を深化させていった、そのようなダイナミックなものとして、日本の古典文学を理解すること。
(2)生きること、愛することのよろこびとかなしみ、花や月や、現実のくびきから解放された世界へのあこがれ、また時代・社会に対する観察などが、古典文学作品においてどのように表現されているかを知り、味わい、古典を読むよろこびを、より深く再認識すること。

履修上の留意点

とくに専門的な予備知識は必要としないが、柔軟な思考力、鑑賞力、想像力をはたらかせながら講義を聴き、また印刷教材を熟読すること。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文学の発生	文学の発生は、混沌とした未分化の中にある祭式のさまざまな表現の中から自立してくる過程といってもよい。ここでは、言霊信仰を糸口とすることで、古代の文学の発生と展開の諸相について考えていく。 【キーワード】	多田　一臣（東京大学大学院教授）	多田　一臣（東京大学大学院教授）
2	フルコトの世界―『古事記』とその周辺	古来共同体の語りの場で伝えられてきた聖なる詞章をフルコトと呼ぶ。古代の叙事文学は、このフルコトを基本に成立している。ここでは、『古事記』を中心に、フルコトから展開した語りごとの世界をながめていく。 【キーワード】	同　上	同　上
3	『万葉集』の世界（1）	歌謡から和歌への流れをたどりながら、初期万葉から柿本人麻呂あたりの歌までを概観する。旋頭歌と短歌、長歌謡と長歌の関係について考察していく。表現史的な視点が中心となる。 【キーワード】	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『万葉集』の世界(2)	柿本人麻呂以後の和歌の歴史を概観してみたい。人麻呂以後の和歌がどのように変化していったのかを、山上憶良、高橋虫麻呂、大伴家持などの作を中心に考える。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣
5	古代説話の誕生—『日本霊異記』の世界	古代説話は仏教説話として誕生した。それは仏教が律令制度に見合う普遍性をそなえた宗教だったからである。わが国最古の説話集『日本霊異記』の世界をながめることで、そこに表現された古代の人びとの生活意識について考えてみたい。 【キーワード】	同　上	同　上
6	古代漢文学の形成と展開	日本の古典文学は、漢文学の受容によって生成展開したと言っても過言ではない。この章では、『懐風藻』から菅原道真の詩までを扱い、反俗的な精神や唯美主義的な美意識の形成に注目し、古今集歌風との関連についても考える。 【キーワード】	藤原　克己（東京大学大学院教授）	藤原　克己（東京大学大学院教授）
7	『古今和歌集』の世界	古代漢文学において形成された反俗的な精神と唯美主義が、古今集時代の和歌にどのように継承されたのかということを明らかにしながら、『古今集』の恋歌や雑歌が、平安朝の日記や物語の主題とその表現の基盤になってゆく様相を見通す。 【キーワード】	同　上	同　上
8	物語文学の形成	『伊勢物語』『竹取物語』を通して、物語文学における色好みと愛の主題が形成されてくる様相を考察する。また古代漢文学や古今集歌に見られたような反俗的な精神が、物語文学にはどのように継承されているのかを明らかにする。 【キーワード】	同　上	同　上
9	物語文学の展開	主として『うつほ物語』『落窪物語』を通して、物語文学における色好みと愛の主題および反俗的な精神の主題が展開する様相を考察し、『源氏物語』への流れを浮かびあがらせる。 【キーワード】	藤原　克己	藤原　克己
10	女流日記文学の成立と展開	平安中期以降の文学は、女流作家の活動によって特徴づけられる。ここでは、女流日記の系譜をながめることで、その文学的な特質について検討する。『蜻蛉日記』『紫式部日記』『更級日記』などを取り上げ、物語文学との接点についても考える。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	『枕草子』の世界	『枕草子』には、それまでの和歌には見られなかった景物や感覚の表現が生まれていることに注目し、それが平安後期の和歌の革新とも相通ずる現象であることを明らかにする。 【キーワード】	藤原　克己	藤原　克己
12	王朝漢文学の熟成	主として10世紀の源順、源為憲、菅原文時、慶滋保胤、そして紫式部の父藤原為時らの漢文学を扱い、『うつほ物語』や『源氏物語』の世界形成にも深く関わった平安朝漢文学の意義を明らかにする。また王朝漢詩における句題詩から無題詩への変化についても解説する。 【キーワード】	同　上	同　上
13	『源氏物語』の世界(1)	『源氏物語』第一部を扱い、光源氏の造型に、いかに古代漢文学や初期物語の思想が息づいているか、またこの物語は時代社会をどのように写し取っているのか、といったことを考察する。また、この物語の心理描写、人間観察の深さ、こまやかさにも注目したい。 【キーワード】	同　上	同　上
14	『源氏物語』の世界(2)	物語の第二部・第三部においては、男女間の愛情は永続しうるのかという問いが深刻に追求され、互いに思い交わしていながら、その思いが相手に伝わらないという事態が繰り返し描かれる。そのような愛のかなしみの物語を、深く味読したい。 【キーワード】	同　上	同　上
15	王朝の光と闇―『大鏡』と『今昔物語集』	王朝の栄光がしだいに薄れていく中、しだいにその闇の部分がせり出してくる。とくに「怪シキ」者たちが登場してきたことの意味は大きい。光と闇とが交錯するそのありようを、『大鏡』と『今昔物語集』の世界を通じて明らかにしてみたい。 【キーワード】	多田　一臣	多田　一臣

＝　日本の古典 ―散文編（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：　三角　洋一（東京大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：　松尾　葦江（國學院大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　島内　裕子（放送大学准教授）　〕

全体のねらい

日本の中世文学の散文作品の展開を、より広く前後の時代を含めて遠望したり、文学を産み出す土台や背景にまで遡って観察したり、新しい枠組みや系譜の中で検討するなどして、ユニークな中世文学史の試みを提示する。幅広く多くの作品を取り上げ、代表的な作品についてはその内容も紹介していきたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	平仮名文とその散文作品	平仮名文の特性と、平仮名文の文体の四タイプにつき考察し、代表的な作品を鑑賞していく。	三角洋一（東京大学大学院教授）	三角洋一（東京大学大学院教授）
2	片仮名文とその散文作品	片仮名文の特性について考察したのち、片仮名文による文学作品や学問の書について展望し、さまざまな表記法による片仮名文の作品にふれてみる。	同上	同上
3	和文と漢文の交流と散文作品	中世になると、仮名文と漢字文との間に互換性さえ生じている。このような事例に注目して、文学と文体と表記の関係について考察するとともに、和漢混淆文体の作品を鑑賞する。	同上	同上
4	平家物語の文体	中世の和漢混淆文の代表といわれる平家物語の文体について見ていく。諸本による相違、平曲との関連などを見ながら、平家物語の文体の魅力の淵源を考えたい。	松尾葦江（國學院大学教授）	松尾葦江（國學院大学教授）
5	平家物語の構造	平家物語の世界を支える叙述の骨格と、歴史を語る論理構造、批評性について分析する。歴史文学の説得力は何によってもたらされるかについて覚一本巻四を例として述べる。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	二つの平家物語	中世の軍記物語の流れには二つの傾向があることなど、基本的な問題を概説した上で、同じ作品でありながら、異方向の文学の可能性を諸本群の中に抱え込むという、平家物語の特性について、延慶本巻四を例としてふれる。	松尾葦江(國學院大学教授)	松尾葦江(國學院大学教授)
7	紀行文学の系譜	中世の時代にとりわけ盛んになった紀行文学を、前後の時代も視野に入れて概観する。	島内裕子(放送大学准教授)	島内裕子(放送大学准教授)
8	伝記文学の系譜	個人の人生が文学作品の中でどのように描かれるのか、「伝記」という視点から、さまざまな作品を取り上げて概観する。	同上	同上
9	書簡文学の系譜	文学作品にあらわれる書簡(手紙)とその役割、さらには書簡体の作品などを取り上げ、文学における手紙の機能を概観する。	同上	同上
10	説得の文学	武力闘争と滅亡の文学と考えられがちな平家物語であるが、じつはことばの力によって人を動かし、事態を変える名場面も少なからず含まれている。それらの例を挙げながら、説得の文学という側面を見ていき、物語中の漢文体の機能を延慶本巻四で見ておく。平曲についても概説する。	松尾葦江(國學院大学教授)	松尾葦江(國學院大学教授)
11	鎮魂の文学	鎮魂とは何か。平家物語の鎮魂は、現代の我々にどう関わってくるのかを、覚一本巻四と灌頂巻とを例として考える。平家物語の成立と鎮魂との関係についてもふれる。	同上	同上
12	『嵯峨のかよひ』に見る王朝の残照	飛鳥井雅有の日記に描かれた王朝古典文学習得の様子を中心に、王朝文化が中世の時代にどのように受け継がれていったかを概観する。	島内裕子(放送大学准教授)	島内裕子(放送大学准教授)
13	『徒然草』に見る批評の誕生	『徒然草』において、どのような文学の領域が新たに切り開かれたか、「批評」という観点から概観する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	女性の教養と幼学の書	平安朝の女性の教養と娯楽について概観し、中世にいたる女流文学の流れとそれを支えた知識、思考について見ていく。	三角洋一(東京大学大学院教授)	三角洋一(東京大学大学院教授)
15	学問と有職故実	平安朝貴族や中世知識人の精神的基盤となった学問と、特に初学者の教科書類について概観し、文学と関連するさまざまな問題を考察する。	同上	同上

＝　日本の古典 ―江戸文学編（‘０６）＝（Ｒ）

〔主任講師（現職名）：揖斐　高　　（成蹊大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：鈴木　健一　（学習院大学教授）〕

全体のねらい

従来の枠組みにとらわれず、長い射程距離を持った上で、新たに近世（江戸）文学を概観することを目標とする。そのため、各章はトピック的な表題とし、これまで以上に近世文学の面白さを自由に伝えられるようにする反面、テキストとしての性格も考慮して、最低限の重要な文学史の流れは盛り込むように配慮したい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	総論	近世文学全般の大まかな流れと特徴について述べ、以下の各論に対する導入とする。出版との関連や、雅俗の問題もここで論じる。章立ての意味についても、ここで触れる。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）
2	花鳥風月―俳諧	芭蕉・蕪村・一茶の俳諧作品を取り上げて、近世が描いた「花鳥風月」の特徴について論述する。発句や俳文を具体的に掲げ、丁寧に分析するよう、心掛けたい。	鈴木健一（学習院大学教授）	鈴木健一（学習院大学教授）
3	花鳥風月―和歌・漢詩	後水尾天皇・加藤千蔭などの和歌や服部南郭・六如などの漢詩作品を取り上げて、近世が描いた「花鳥風月」の特徴について論述する。具体的な作品を何首か掲げ、丁寧に分析するよう、心掛けたい。	同上	同上
4	旅	『おくのほそ道』や『東海道中膝栗毛』、その他の紀行文（たとえば大田南畝・菅江真澄）などを題材として、「旅」の描かれ方について論述していく。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）
5	恋	仮名草子、西鶴の好色物（『好色五人女』）、人情本などを題材として、「市井」の「愛と性」の描かれ方について論述していく。	篠原　進（青山学院大学教授）	篠原　進（青山学院大学教授）
6	遊里	仮名草子、西鶴の好色物（『好色一代男』『好色一代女』）、洒落本、人情本などを題材として、「遊里」の「愛と性」の描かれ方について論述していく。	篠原　進（青山学院大学教授）	篠原　進（青山学院大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
7	怪異と伝奇Ⅰ	仮名草子(『伽婢子』『狗張子』)、『西鶴諸国はなし』などを題材として、「怪異と伝奇」の描かれ方について論述していく。	木越　治(金沢大学教授)	木越　治(金沢大学教授)
8	怪異と伝奇Ⅱ	『西山物語』、『雨月物語』『春雨物語』、『南総里見八犬伝』『桜姫全伝曙草紙』などの読本の世界を題材として、「怪異と伝奇」の描かれ方について論述していく。	同上	同上
9	笑い	黄表紙(『孔子縞于時藍染』『無益委記』)や笑話集『醒睡笑』、狂歌・狂詩などを題材として、「笑い」の描かれ方について論述していく。	鈴木健一(学習院大学教授)	鈴木健一(学習院大学教授)
10	学問と思想	国学(契沖、賀茂真淵、本居宣長ら)と儒学(林羅山、荻生徂徠ら)の展開を軸に近世における「学問と思想」の特質を論述していく。	同上	同上
11	町人と経済	西鶴の町人物(『日本永代蔵』『世間胸算用』)を題材として、「商人と経済」の描かれ方について論述する。	白石　良夫(文部科学省主任教科書調査官)	白石　良夫(文部科学省主任教科書調査官)
12	武士と忠義	武士道における忠義とは何か。朱子学者室鳩巣著作の教訓書『明君家訓』から読み解く。そして、それが和文の随筆『駿台雑話』にどのように作品化されているかを論述する。	同上	同上
13	ノンフィクション	仮名草子のルポルタージュ物や伝記・日記・回想録・随想などを取り上げて、「ノンフィクション」の特質を論述していく。	揖斐　高(成蹊大学教授)	揖斐　高(成蹊大学教授)
14	絵画と江戸文学	画賛・題画詩(俳諧・和歌・漢詩・狂歌など)や黄表紙・合巻、小説の挿絵・見立絵本などを通して、近世文学における「絵画との関わり」を論述していく。	鈴木健一(学習院大学教授)	鈴木健一(学習院大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	異国	中国や朝鮮、西洋などとの関係のなかで「異国」はどのようにとらえられていったのかを、さまざまなジャンルの作品を題材として論述する。	揖斐　高（成蹊大学教授）	揖斐　高（成蹊大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1574400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　日本文学の読み方　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：島内裕子（放送大学准教授）　　〕

講義概要

この講義は、次の2点に重点を置いて構成している。すなわち、ほぼ年代順に作品を配列することによって、コンパクトな日本文学史としての側面を持つこと。と同時に、原文や歌句の選択に意を用いて、名文選・名歌選・名句選としてのアンソロジー的な側面を持つことの2点である。さらに、以上の2点に加え、個々の作品をいかに読み解き、研究するか、その方法論や研究史にも触れて、日本文学を総合的に、かつ深く読み込むことを目指す内容になっている。

授業の目標

第1に、比較的長い分量で抄出した文学作品の原文を通して、その文体・表記・表現を十分に会得することを目標とする。第2に、古代から現代にいたる日本文学の消長と潮流を、巨視的に把握することを目指す。第3に、外国文学も含めた他の作品との影響関係や、思想・絵画・音楽なども視野に入れて、作品の読み方や研究法を提示し、卒業研究に向けての準備学習も兼ねる。

履修上の留意点

国語・国文学関係の他の科目を受講すれば、相互補完的に幅広く学習できるので、ぜひとも勧めたい。さらに、外国文学・哲学・思想・美学・歴史など、どの分野も日本文学と直接・間接に関わるので、これらの科目も広く学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	『古事記』『万葉集』と現代	『古事記』と『万葉集』を中心に、文学の始発としての上代作品を取り上げる。『古事記』の名場面や万葉名歌選を通して、原初の文学表現に触れるとともに、それらが近現代にも繋がっていることを再認識し、本科目の序章としての役割も担う。 【キーワード】 『古事記』、『万葉集』、本居宣長、正岡子規	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
2	『古今和歌集』の影響力	最初の敕撰和歌集である『古今和歌集』が、日本の文学・文化に与えた影響力を概説するとともに、『古今和歌集』の名歌を鑑賞する。さらに、和歌の表現や技法、歌の贈答と独詠など、和歌文学の全体像を視野に納め、『百人一首』や中世和歌にも触れる内容である。 【キーワード】 『古今和歌集』、『新古今和歌集』、和歌の技法、詩歌アンソロジー	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
3	『枕草子』の優雅と辛辣	名文・名場面の宝庫である『枕草子』。その中から、「優雅と辛辣」という観点で、選りすぐりの原文を読む。さらに、『枕草子』の作品としての画期性や影響力にも触れ、随筆文学の内実を検討し直す。 【キーワード】 『枕草子』、清少納言、あはれ、をかし、随筆文学	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	『源氏物語』と日本文化	今や『源氏物語』は、日本文学の傑作にとどまらず、翻訳研究も盛んな世界文学である。国内外での評価、日本文化における位置づけなど、巨視的にその全体像を把握し、ぜひ原文で読んでみたい名場面を収める。本科目の眼目となる章の一つである。 【キーワード】 『源氏物語』、紫式部、物語文学、翻訳	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
5	『和泉式部日記』と『更級日記』の近代性	平安時代の日記文学を、堀辰雄・室生犀星など近代文学との響映の観点から読む読み方を概説する。歌日記としての『和泉式部日記』では恋歌を、『更級日記』では人生の各時代の感慨に焦点を当てて、原文を講読する。 【キーワード】 『和泉式部日記』、『更級日記』、堀辰雄、室生犀星、古典と近代	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
6	『方丈記』を読み直す	『方丈記』とは、本当に無常観の文学なのだろうか。近代の文学者たちによる『方丈記』の読み方を通して、近現代にまで強く息づく『方丈記』の本質を見きわめる。「行く川の流れは絶えずして」以下、『方丈記』の名調子を堪能しつつ、鴨長明の内奥を追体験する。 【キーワード】 『方丈記』、鴨長明、夏目漱石、評論文学	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
7	『徒然草』の表現力	現代まで広く読み継がれ、高い人気を誇る『徒然草』の魅力とは何か。『徒然草』こそは、和歌・俳句に匹敵する、「瞬間記憶型名短文」の宝庫である。多様なスタイルの原文を豊富に収め、『徒然草』の本質が、抒情性に裏打ちされた思想性にあるという読み方を提示する。 【キーワード】 『徒然草』、兼好、韻文と散文、思想と抒情	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
8	『平家物語』の人間観	『平家物語』の名場面を取り上げながら、その表現と構造のダイナミズムに触れる。無常観や人間観、戦さと鎮魂の文学は、『平家物語』の前後の時代で、どのように展開してゆくのか、近代にいたるまでの長い射程で考える。 【キーワード】 『平家物語』、軍記物、『太平記』、戦記文学	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
9	謡曲というスタイル	先行文学との関わりに力点を置きながら、謡曲の原文に特有な重層的表現や、深い心情の発露を味読する。和歌・『伊勢物語』、『源氏物語』、『平家物語』などが謡曲の中でどのように変容したか、さらには近代文学者や外国における謡曲の受容にも射程に入れる。 【キーワード】 謡曲、世阿弥、『風姿花伝』、幽玄、三島由紀夫	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
10	連歌と連歌師の世界	中世の時代に隆盛を極めた連歌の世界を概観する。古典文化の伝播者としての宗祇やその弟子たちの活動や、各地の武士たちと文学の関わりに注目する。さらに、中世から近世への時代の転換を俯瞰し、この時代に古典学が集大成されたことの意義を考察する。 【キーワード】 連歌、宗祇、武士と文学、注釈書、古典学	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	松尾芭蕉の旅と人生	現代人にとって、芭蕉の人間性と文学性は、単なる古典の世界を越えて、今を生きる指針とさえなっている。その魅力と親しみは、どこから来るのか。芭蕉における発句・俳文・紀行文など、ジャンルの多様性、外国における受容なども絡めて、幅広く考察する。 【キーワード】 松尾芭蕉、『おくのほそ道』、旅と草庵、俳文	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
12	近松と西鶴に見る文学の変容	近松門左衛門と井原西鶴は、元禄時代のみならず、近代日本文学への影響も無視できない文学者である。彼らの文学世界に表れた、大きな変容に焦点を当て、人間を見る目の確かさや、現代にも通ずる文学観などを概観しながら、近松と西鶴の名文・名場面を取り上げる。 【キーワード】 近松門左衛門、井原西鶴、写実、武士と町人	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
13	本居宣長の文学と学問	『古事記伝』や「もののあはれ」論によって名高い国学者・本居宣長を中心に取り上げ、文学研究とは何であるかを考える。宣長が提起した『源氏物語』の読み方の画期性や、彼の和歌論を原文で読むことは、新鮮な感動と驚きを体感させてくれることだろう。 【キーワード】 本居宣長、『古事記伝』、『玉の小櫛』、「もののあはれ」	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
14	和漢洋の体現者・森鷗外	森鷗外は、和漢の教養と、留学体験によって世界に開かれた学識を兼備した文学者である。日本と西洋の文学・芸術のせめぎ合いから生まれた近代文学の始発を、鷗外の翻訳と創作の双方を視野に入れつつ、原文の味読によって捉え直す。 【キーワード】 森鷗外、ドイツ三部作、『即興詩人』、史伝	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）
15	夏目漱石と近代文学のゆくえ	夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは、何であったのか。彼の文学的閲歴や交友、人生など、さまざまの側面からのアプローチを通して考える。現代でも多くの人々の心をとらえてやまぬ漱石文学の淵源とゆくえを見きわめ、本科目の総まとめを兼ねる。 【キーワード】 夏目漱石、『硝子戸の中』、書簡、英国体験、『草枕』	島内裕子（放送大学准教授）	島内裕子（放送大学准教授）

＝　20世紀の中国文学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　藤井　省三（東京大学大学院教授）〕

全体のねらい

中国文学は中国における近代的国民国家建設と歩を同じくして誕生した。上海・北京の南北二都を手がかりに近代中国および20世紀中国文学を読み解いてみよう。その際、キーワードはメディア＝知の媒体と都市の社会学である。中国本土だけではなく、広く中国語圏を視野に入れて、香港・台湾でのアイデンティティ形成と文学との関わりや、明治・大正・昭和の日本や現代東アジアにとっての中国文学についても考えてみたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代中国文学を学ぶ、ということ	3500年の歴史を持つ中国の文学を、温泉饅頭に喩えてみよう。饅頭のあんこに当たるのは詩文、つまり唐詩や『史記』など文語文の古典で、その外側の小麦粉の皮が古典俗文学、主に宋代12世紀以後の講談や演劇の台本として発展した。そしていちばん外側のつるっとした薄皮が現代文学なのである。近代史は約1世紀にすぎないが、「国民〔ルビ：ネーション〕」としての「中国」、それを人々に想像させる「文学」という2つの概念を焼き付けた薄皮が本体を覆ってこそはじめて、美味しい温泉まんじゅう、すなわち国民文学としての中国文学が成立するのである。	藤井　省三（東京大学大学院教授）	藤井　省三（東京大学大学院教授）
2	租界都市上海の誕生とジャーナリズムの出現	上海・北京を手がかりに近代中国およびその文学を読み解いていく際、キーワードはメディア＝知の媒体と都市の社会学である。すなわち新聞・雑誌などのマスメディア、学校・留学などの教育制度と、このメディアを構築するとともに作家や編集者、評論家そしてほかならぬ読者を培養した都市の諸制度に注目したい。	同　上	同　上
3	上海の変法運動から東京の革命運動へ――梁啓超の『新小説』と魯迅・蘇曼殊のロマン主義文学	上海ジャーナリズムは1890年代には清朝改革派のメディアに成長した。戊戌政変（1898）後に維新派のリーダー梁啓超は東京に亡命して明治日本の影響を受け、一国の民を新たにするには一国の小説を新たにすべし、と論じた。それまでは暇つぶしのための読み物と見なされてきた小説が、世紀の転換期に改革・革命のための社会的・政治的効用という視点から再評価されたのだ。やがて魯迅の欧州ロマン派詩論などを経て、内面と自我が発見されていく。	同　上	同　上
4	“文化城”北京と文学革命	辛亥〔ルビ：しんがい〕革命（1911）後に成立した中華民国は混迷を続ける。かつて皇帝の都として全国に君臨した北京は、“文化城”に変身して全土の青年の前に姿を現わし、この文化城の頂点に立ったのが北京大学であった。アメリカ留学中に恋愛と文学とを身を以て体験してきた胡適がこの北京大学に教授として着任し、中国の文学革命が始まるのである。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	5・4 時期の新興知識階級	1917年の文学革命から20年代後半の国民革命までを、反日反軍閥の国民的政治運動である5・4運動（1919）にちなんで5・4時期と称す。新文化運動の中心的役割を果たした『新青年』雑誌およびブルジョワ派の新月社、魯迅ら辛亥革命世代の語絲派、民国初期の日本留学生による創造社という3大サロンを通じて、5・4文学における恋愛と革命というテーマを考えてみたい。	藤井　省三	藤井　省三
6	国民革命と狂熱の30年代上海	中華民国では辛亥革命後も袁世凱の帝政復活、軍閥割拠などの混乱が続いていたが、20年代半ばには国民革命の上げ潮に乗って国民党が北伐戦争（1926～28）により中国統一に成功する。同党指導者の蒋介石は南京に遷都し、一党独裁体制下で経済建設を押し進めたため、新聞雑誌の発行量が激増し、文芸を愛好する知識層・市民層が増大、職業作家、職業批評家が続々と登場して、上海が北京を遥かに凌ぐ出版文化の中心となった。映画もまたサイレントからトーキーへと変身して上海映画の黄金時代を迎えている。	同　上	同　上
7	30年代文学の爛熟――京派、新感覚派、東北エミグラント文学から中国の『風と共に去りぬ』まで	30年代文学を考えるとき、政治経済から強い影響を受ける上海文化界と異なり、5・4時期以来の“文化城”の伝統を持つ北京の文壇も忘れてはならない。また雲南や東北地方（旧満州）など、辺境を舞台にしたローカル・カラー文学が上海文壇に登場したのも特徴的である。	同　上	同　上
8	共和国の興亡と文学成熟期の40年代文学	中国ナショナリズム勃興による既得権益喪失を恐れた日本は、満州事変（1931）を経て37年にはついに中国への全面侵略を開始する。これにより30年代中華民国の繁栄の夢は打ち砕かれ、中国は国民党支配の“大後方”（だいこうほう）、共産党支配の“解放区”そして日本占領下の“淪陥区”（りんかんく）の3つに分かれ、戦時下ながらも大後方と淪陥区では30年代の繁栄を受けて文学が成熟していく。その淪陥区上海に彗星のように現れた女性作家が張愛玲であった。	同　上	同　上
9	毛沢東時代と文化大革命	日本の敗戦（1945）、国共内戦を経て1949年に共産党が大陸を統一し中華人民共和国を建国、暗黒の30年が始まる。独裁党である共産党のそのまた独裁者であった毛沢東は、反右派闘争（1957）から文化大革命（1966～76）まで次々と政治キャンペーンを発動し、文学・芸術には毛沢東賛美を任務として与えたのである。	同　上	同　上
10	鄧小平時代の文芸復興	文革が終息し80年代の鄧小平体制下で改革・開放政策が本格化するにつれ、文学・芸術は再生し、世界的レベルを回復していく。最初に登場したのが北島ら『今天（チンティエン）』派の若き詩人たちであり、80年代半ばには文革世代の若い作家たちが一斉に「ルーツ探求の文学」を唱え始め、莫言のような中国の魔術的リアリズムが出現している。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	6・4「血の日曜日」事件からオルターナティヴ作家まで	1989年にはあの悲惨な「血の日曜日」事件が勃発、鄭義ら大量の作家が海外に亡命し、世界各地で中国エミグラント文学が出現している。そのいっぽうで、鄧小平の大号令で90年代に再び改革・開放政策が推進され高度経済成長が実現されると、旧来の共産党統制下の“単位”社会は崩壊し始め「新富（ニューリッチ）」階級が台頭し、インターネットを駆使する衛慧らオルターナティヴ作家が続々と登場している。	藤井　省三	藤井　省三
12	香港文学史概説	アヘン戦争以来イギリスの植民地であった香港では、中国返還（1997）が現実化し始める80年代から、香港アイデンティティが急速に形成され、李碧華の恋愛歴史小説、也斯のポスト・コロニアルな詩と小説などを中核として香港文学が形成されている。香港映画との関わりも重視すべきであろう。	同　上	同　上
13	台湾文学史概説	台湾は日本統治期（1895～1945）と国民党統治期（1945～90頃）という2つの外来政権の支配を体験したため、戦前は日本語、戦後は北京語という2つの「国語」を、統治者に対し抵抗しつつ主体的に受容してきた。北京語文学のばあい、美麗島事件（1979）を契機に“台湾意識”を全面に押し出した作品が多くなったが、その中でも政治とエスニシティとセックスとをテーマに描き続けている李昂ら女性作家の活躍は、日本や欧米でも注目を集めている。	同　上	同　上
14	日本人はいかにして現代中国を読んできたのか――20世紀の中国文学読書史	中国・香港・台湾という中国語圏の文学を、日本人はどのように受容してきたのだろうか。5・4新文学から40年代文学までを同時代文学として紹介した東京外語グループと中国文学研究会、あるいは日本占領下の上海で張愛玲を翻訳していた室伏クララ、同時期に東京・仙台で魯迅の伝記を書いていた太宰治らにスポットを当ててみたい。	同　上	同　上
15	村上春樹と中国語圏――日本文学が国境を越える時	20世紀東アジアの3大作家といえば、魯迅（1881～1936）・張愛玲（1920～95）・村上春樹（1949～）を挙げられよう。台湾では『ノルウェイの森』（1987）が大流行して「村上春樹現象」が生じ、やがて「村上現象」は90年代初頭の香港、90年代末の上海・北京へと伝播した。上海の衛慧、台湾の絵本作家幾米（ジミー）らは中国の「村上チルドレン」といえよう。都市と農村という視点からこの3大作家を考察し、中国語圏文学における村上春樹の受容のされかたを考えてみたい。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1542109	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　コンピュータのしくみ　　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡部　洋一　（放送大学副学長）　　〕

講義概要

現在、コンピュータは、各種電算機処理のみならず、インターネット上のサーバーや一般家庭にもパソコン、家電製品内のマイコンという形で、オールマイティの情報処理を行う正に頭脳の役割をしているが、その内容についてはあまり理解されていない。ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシークエンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。

授業の目標

全15回の講義を通じ、一見複雑そうに見える情報処理機械が実は簡単な回路の大規模な合成によって構成されていることを理解し、またコンピュータを動かすプログラムとの関連を理解することを目標とする。コンピュータを単なるブラックボックスとして理解するのではなく、その原理を理解することにより、どんな情報処理機械でも設計できるようになることを最終の目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ディジタルとアナログ（第1章）	わかっているようでわかっていない「ディジタル」という用語を「アナログ」との比較から説明し、ディジタルでは各種の物理的情報をどう表現し、どう処理するかについて概念的な理解を深める。さらに、現在、急速にディジタル処理が増えてきた理由、ディジタル処理の歴史について説明する。 【キーワード】 ディジタルとアナログ、連続量と不連続量、トランジスタとLSIの発展	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
2	スイッチ素子（第2章 - 第3章 3.2節）	論理回路の要素となるスイッチ素子について紹介し、現在のコンピュータがトランジスタの集合体である集積回路で構成されていることを学ぶ。さらに、論理を作るための基本構成要素であるNOT、AND、ORについて、その動作を理解し、基本論理回路でもっとも重要なNOTをトランジスタを使ってどう実現するかを示す。 【キーワード】 スイッチ素子、トランジスタ、集積回路、基本論理、NOT、AND、OR	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
3	基本論理回路と組合せ論理回路(第3章 3.3節 - 第4章 4.3節)	ANDとORに対し、トランジスタで実現しやすいNAND、NORの回路の動作と構成を学ぶ。さらに、こうした機能要素を組み合せて実現できる組合せ論理回路という概念をEORや加算器を例に理解する。 【キーワード】 基本論理回路、NAND、NOR、組合せ論理回路、EOR、加算器	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）
4	組合せ論理回路の構成法（第4章 残り）	多入力多出力を持った任意の論理回路を実現する一般的方法を示し、これらがNOT、AND、ORの組合せだけで構成できることを示す。さらにAND、ORをNANDで置き換えることにより、どんな組合せ論理回路もNANDだけで構成できることを示す。 【キーワード】 ドモーガンの法則、組合せ論理回路、真理値表、AND-OR回路、NAND-NAND回路	岡部　洋一（放送大学副学長）	岡部　洋一（放送大学副学長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	状態遷移図、状態遷移表とシークエンス回路(第5章 5.2節まで)	回路が内部状態を持ち、出力が入力のみでなくその内部状態に依存して決定される回路をシークエンス回路と呼ぶが、その原理を理解する。またどんなシークエンス回路も状態遷移図および状態遷移表を作成することにより、組合せ論理回路および遅延回路の組み合せで実現できることを示す。 【キーワード】 シークエンス回路、内部状態、遅延回路、状態遷移図、状態遷移表	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
6	遅延回路とパストランジスタ(第5章 残り)	1クロックだけ遅延させる遅延回路として、Dフリップフロップの動作原理を学ぶ。また、Dフリップフロップと同じような原理で動作する記憶回路である各種レジスタ、プリチャージ論理回路などについても説明する。 【キーワード】 Dフリップフロップ、パストランジスタ、レジスタ、プリチャージ論理回路	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
7	二進加減算(第6章 6.3節まで)	コンピュータの中では数値データはどう扱われるのか。また加減算といった算術計算は二進数でどうなされるのか、それに必要なコンピュータのしくみについて学ぶ。 【キーワード】 内部表現、二進表現、符号なし整数、符号あり整数、算術計算、加算、減算	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
8	二進乗除算とデータの内部表現(第6章 残り)	前回に引き続いて、算術計算の乗除算が二進数でどうなされるのか、それに必要なしくみについて学ぶ。さらに小数、文字、文字列はどうように扱われるのかを理解する。 【キーワード】 乗算、除算、小数、文字、文字列	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
9	コンピュータの概要(第7章)	コンピュータの構成の概要について学び、中央処理装置を中心に、外部メモリー、周辺装置のあることを学ぶ。また中央処理装置の中にはデータ処理部と制御部があるが、データ処理部に必要な部分回路、データ処理部と制御部の関係について理解する。 【キーワード】 コンピュータの構成、中央処理装置、外部メモリー、周辺装置、データ処理部、制御部	岡部 洋一(放送大学教授)	岡部 洋一(放送大学副学長)
10	プログラム(第8章)	コンピュータの動作になくてはならない機械語のプログラムとは何か。それを構成している命令にはどのようなものがあるか。コンピュータはこれら命令をどのように実行していくのか。現在のコンピュータの基本である蓄積プログラム方式とは何か、その特長と合せて説明する。 【キーワード】 プログラム、機械語、命令、蓄積プログラム方式、高水準プログラム言語	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)
11	データ処理部1(第9章 9.5節まで)	コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造について学ぶ。バス、レジスタ、入出力、シフタといった部分回路について詳細な説明を行う。 【キーワード】 バス、レジスタ、入出力回路、シフタ	岡部 洋一(放送大学副学長)	岡部 洋一(放送大学副学長)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	データ処理部2（第9章 残り）	前回に引き続き、コンピュータのデータ処理部の具体的な回路の構造、特にその中核となる算術論理回路ALUの構成法や構造について詳細な説明を行う。 【キーワード】 算術論理回路、ALU	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
13	制御部1（第10章 10.3節まで）	コンピュータ全体の頭脳ともいうべきデータ処理部を動かす制御部の役割について学ぶ。特に歴史的進化を追って、電卓の動作までを説明する。 【キーワード】 命令レジスタ、プログラムカウンタ、フェッチ、電卓	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
14	制御部2（第10章 残り）	コンピュータを大きく進化させた蓄積プログラム方式について、その動作を学ぶ。さらに、その後のコンピュータに大きな影響を与えたマイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMDといった概念とともにアーキテクチャの意味を習得する。 【キーワード】 蓄積プログラム方式、マイクロプログラム、RISC、パイプライン処理、SIMD、アーキテクチャ	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）
15	今後の発展（第11章）	コンピュータは今までのようにどんどん進化していくのか。何らかの限界があるのかといったコンピュータの進化論と合わせて、将来のコンピュータについて概説する。 【キーワード】 コンピュータ、進化、スケール則、汎用コンピュータ、専用コンピュータ	岡部 洋一（放送大学副学長）	岡部 洋一（放送大学副学長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1551400	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 文献学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：杉浦　克己（放送大学准教授）〕

講義概要

現存する様々な文献資料類を、実際例を掲げて紹介しながら、その特質を概説し、それをふまえた読み取り方の実際を概説する。書写者の意図が、資料上の様々な点に表されていることを、その多様な工夫の跡たどることによって指摘し、意図を的確に読み取っていくことの重要性を考える。さらに、資料の保存・伝承の実際を紹介し、資料を利用する者としての基本的な考え方を概説する。

授業の目標

古文献資料類の文字・文を読み取るための基本的な知見を概説し、実際の資料例に基づいて読むための練習を行う。
料紙や装丁など文献資料の外形上の特質やその変遷を紹介し、資料を扱う上での基本的な考え方と実際の配慮事項を概説する。
資料から書写者の意図を的確に読み取るための考え方を、様々な資料実態に基づいて考える。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	文献学の世界	「文献学」という学問領域の概要とその手法を紹介し、書誌学、文献言語学、古典学などを比較しながらその性格と目的を概説する。文献学的な資料の見方の基盤として、文字のとらえ方を、「字形」「字体」「書体」に整理して説明し、全15回の講義の端緒となる視点を確立する。 【キーワード】 文献学　書誌学　文献言語学　古典学　字形　字体　書体　翻字	杉浦克己（放送大学・准教授）	杉浦克己（放送大学・准教授）
2	平仮名資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい変体仮名資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の平仮名資料を取り上げ、平仮名一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた物語や読本類を例示資料とすることで、古文献資料により親しみやすくなるように配慮する。 【キーワード】 平仮名　変体仮名　物語　読本	同上	同上
3	平仮名資料(2)	平仮名資料として手写本の例を取り上げ、平仮名の成り立ちとその元になった字母漢字に着目した読み方を概説する。字母漢字の違いによる異字体の仮名の使い分けが存在することを、実例を挙げて示し、そこに表された書写者の意図を読みとことの意義を考える。 【キーワード】 字母漢字　字体　変字法　語頭　語末	同上	同上
4	平仮名資料(3)	平仮名資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢字平仮名交じり文の散文資料を例にして解説する。特に、文の切れ続きや構造を明示するための工夫の跡をたどることによって、そこに表された書写者の意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 漢字平仮名交じり文　文節　構文	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	漢字資料(1)	現代の文字資料に慣れた目では読むことが難しい行書・草書漢字の資料を読み取る最も初歩的な例として、版本の漢字平仮名交じり資料を取り上げ、漢字一文字一文字を読む上での基本的は知識と着眼点を示す。内容的に広く知られた読本類を例示資料とすることで、平仮名書きの部分を手がかりにして、漢字に取り組みやすくなるように配慮する。 【キーワード】 漢字　行書　草書　漢字平仮名交じり文　振り仮名	同上	同上
6	漢字資料(2)	実際の資料例を掲げて、手写資料に見られる草・行書漢字を、部首の類型や頻用文字に着目することで確実に読み取る方途を概説する。特に、現代では理解されにくい漢字・漢文と日本語との密接な関係について、多様な漢字の用法の実際の資料例を上げて紹介し、漢字を使って書き表すことの意義について考える。 【キーワード】 漢字　部首　漢語　漢語　音読み　訓読み　万葉仮名	同上	同上
7	漢文資料	漢字書き資料を、文字の単位ではなく文の単位でとらえ、読み取っていくことを、漢文資料を例にして解説する。特に、文頭の文字で表される定型句や頻用される助字類に着目することで、漢文の文構手がかりとして内容解釈する方途を概説する。また古典席からの引用の用いられ方なども併せ、漢文で書き表された意図を読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 定型句　助字　対句　引用　類書	同上	同上
8	漢文訓読資料	漢文を訓読した資料の実際例を示し、訓点類の実相とその読み取り方を概説する。併せて漢文訓読の中で発達した片仮名と片仮名書き資料の実際例を紹介する。漢文を敢えて訓読することの日本語の変遷との関わりと変遷をふまえ、加点者の意図がどのように実際の訓点類に表されているかを探り、それを読み取ることの意義を考える。 【キーワード】 訓読　訓点　返り点　ヲコト点　片仮名　抄物　漢文訓読体	同上	同上
9	辞書	古辞書類の実際例をその性格や年代で分類して紹介し、文献資料としての辞書の位置づけを考える。編著者の意図を、形態や配列、注記の内容や表記方法から探り、それを十分にふまえた上での辞書類の利用法を考える。 【キーワード】 古辞書　部立て　出典　注記	同上	同上
10	歴史文書	公式令様式の文書類の典型例を掲げてその様式を概説する。漢文、和文の書状の実際例を上げて、その様式の実態や変遷を概説する。これらによって、実用文書類が、送り手と受け手の間であらかじめ了解された定型性に従うことで円滑な伝達を図っていることを示し、定型的な表現の意義を考える。 【キーワード】 文書　公式令　書状　書札令　散らし書き　懐紙　往来物	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	本文校訂	諸伝本間の本文の異動を精査し、あるべき本文の姿を見極めていく本文校訂作業の実際を、実例を挙げて紹介し、著名な大規模校本を紹介してその編纂の意図を概説する。原著者、書写者の意図が校訂作業の中でどのように読み取られていったのかを、校訂本文を利用する者の立場で考える。 【キーワード】 校合　校訂本文　校本　本文　異本	同上	同上
12	文献資料の外形	文献資料を構成する要素として、紙や書紀材料について、その製法や各種材質の特質を紹介する。紙の製法の実際を、工房を訪ねて紹介し、その促成と製法との関係を概説する。書籍の形態を取る文献資料類について、その形態を装丁の実際を実物や図解を用いて概説する。これらの知見に基づき、その特質を考え、書紀内容と相俟ってある意図を表していることを示す。 【キーワード】 紙　料紙　書紀材料　装飾　装丁	同上	同上
13	資料の保存・修補	資料の損傷の実態を、実例を掲げて示し、損傷を最小限に防ぐための保存上の配慮の実際を紹介する。また損傷を修補する技術の実際を、それに従事する専門家の工房を訪ねて概説する。それらをふまえ、資料を取り扱う際の注意事項を指摘すると共に、資料利用の基本的な考え方を示す。 【キーワード】 損傷　保存　修補	同上	同上
14	古筆	文字資料類を芸術作品としての書としての観点から考える。実際の古筆の名品類を紹介し、日本美術史の観点から位置づけ、その特色を解説すると共に、伝達媒体としての文字の高度に昇華したすがたである書作品としての文献資料を鑑賞する意義について考える。 【キーワード】 古筆　古筆切れ　古筆手鏡　料紙装飾　古筆家　極め書き	同上	同上
15	情報伝達媒体としての文献資料	本講義で取り上げてきた様々な文献資料類を改めて振り返り、それが単純に一定の音や意味を表す文字としてだけではなく、様々な文字種のきめ細かい使い分けや、微細な字形の違い、筆致や墨継ぎ、字配り、余白、さらには料紙や装飾、装丁など様々要素が、筆者者の意図を表す役割を担い、それらがまとまって一つの情報伝達媒体として機能していることを改めて考える。 【キーワード】 情報　表現　媒体　筆致　字配り　余白　墨継ぎ	同上	同上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1561200	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　分子生物学　　（’０９）＝（ＴＶ）

※この科目は「分子生物学(’05)」の部分改訂科目です。
改訂回は1，3，4，11回です。

〔主任講師（現職名）：星　元紀　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学准教授）　〕

講義概要

分子生物学のおもな目的は，さまざまな生物たちが共通に示す現象を，核酸とタンパク質という分子の挙動を通じて理解することである．本講義では，分子生物学のエキスパートがそれぞれの分野の基礎をわかりやすく説明する．

授業の目標

目標は、遺伝子とはどういうものか、遺伝子の情報から細胞は何を作っているのか、その作り出されたもの(タンパク質やRNA)がどのように働いて細胞や生物個体の活動が維持されているのかを理解することにある。これらの基礎的な知識の習得を通して、遺伝子診断や遺伝子組み換え作物といった新たな科学技術に対して、自分自身で考える力を身につけることを目指す。

履修上の留意点

初歩からの生物学('08)を学んでおくことが望ましい。細胞生物学('07)もあわせて学ぶことにより、分子や細胞が働くことによって生物個体が維持されていることを総合的に理解できる。バイオサイエンスで豊かな暮らし('08)、分析によって知る世界('07)、バイオテクノロジーと社会('05)などを理解する基礎となる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	分子生物学とは何か **(※改訂回)**	分子生物学の起源と歴史，生物科学全体に及ぼす分子生物学の影響，分子生物学の変貌，分子生物学は発展的に解消しつつあるという見解等々をテーマに，分子生物学全体を概観する 【キーワード】 分子生物学、分子生物学への道、生化学と遺伝学、ファージグループ	星　元紀 (放送大学教授)	星　元紀 (放送大学教授)
2	核酸とタンパク質の構造	生命現象は、さまざまな分子の働きによって営まれているが，分子生物学の対象として最も重要なのは，遺伝情報を担う核酸と，遺伝情報が翻訳された機能的分子のタンパク質である．核酸とタンパク質の構造と機能の全体像を概説する 【キーワード】 核酸、DNA、RNA、タンパク質、アミノ酸、生体高分子	藤原　晴彦 (東京大学大学院教授)	藤原　晴彦 (東京大学大学院教授)
3	遺伝と遺伝情報 **(※改訂回)**	メンデルの遺伝の法則を説明し，それらの法則性の基礎となっている分子生物学について説明する．さらに，その説明を通じて，遺伝情報とは何であるかを考察する 【キーワード】 遺伝の法則、メンデル、遺伝子、形質転換	星　元紀	星　元紀

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	遺伝子と染色体 (※改訂回)	遺伝子はDNAでできているが，すべてのDNAが遺伝子ではないこと，遺伝子の座である染色体の構造，染色体を通じて遺伝子が子孫に伝えられるしくみなどを説明する 【キーワード】 染色体、遺伝子、対立遺伝子、減数分裂、連鎖	二河 成男 (放送大学准教授)	二河 成男 (放送大学准教授)
5	DNAの複製	生物が親から子に，種としての遺伝情報をつたえる分子機構を概観する．原核生物での理解をもとに真核生物での遺伝子複製もみる．複製反応とならび、校正反応についてものべる 【キーワード】 半保存的複製、DNAポリメラーゼ、テロメア	渡辺 雄一郎 (東京大学大学院教授)	渡辺 雄一郎 (東京大学大学院教授)
6	遺伝情報の発現 1．転写	遺伝情報が生体で利用されるためには，核内でDNAがいったんRNAにコピーされる必要がある．この過程は転写と呼ばれ，遺伝情報の発現量や発現時期を調節する重要なステップである．転写機構，転写に関わる酵素，転写を調節する因子などについて述 べる 【キーワード】 転写、メッセンジャーRNA(mRNA)、RNAポリメラーゼ	藤原 晴彦	藤原 晴彦
7	遺伝情報の発現 2．プロセシング	真核細胞では，転写されたRNAがそのまま働くことは少なく，核の中で様々な修飾・加工(プロセシング)を受ける．スプライシングやキャッピングなどの真核細胞のmRNAに特有なプロセシング，さらにrRNAやtRNAのプロセシングのしくみについて解説する 【キーワード】 エキソン、イントロン、スプライシング、キャッピング反応、ポリA付加	藤原 晴彦	藤原 晴彦
8	遺伝情報の発現 3．翻訳と翻訳後修飾	遺伝情報がタンパク質に変換される最後の過程が翻訳である。mRNAを鋳型にして正しくタンパク質が作られるしくみを学ぶ．またその後，翻訳されたタンパク質が機能を持つように修飾される機構や，翻訳を阻害することによって働く抗生物質の働きも付け加える 【キーワード】 翻訳、リボソーム、転移RNA(tRNA)、翻訳後修飾	石浦 章一 (東京大学大学院教授)	石浦 章一 (東京大学大学院教授)
9	ゲノムとプロテオーム	多くの生物の遺伝子情報があきらかとなってきた．ゲノムとはなにか．そこから何がわかるか．プロテオームとはなにか．そこから何がわかるかについて解説する 【キーワード】 ゲノム、ゲノム解析、プロテオーム	渡辺 雄一郎 (東京大学大学院教授)	渡辺 雄一郎 (東京大学大学院教授)
10	タンパク質の機能 1．酵素と膜タンパク質	生体内触媒である酵素反応のしくみを学ぶ．また，酵素阻害のメカニズムを調べ，阻害反応の実際の応用例としての薬剤の働きを検討する．さらに，生体膜に埋め込まれたタンパク質の特殊な機能(受容体，チャネル等)についてもまとめる 【キーワード】 酵素、膜タンパク質、受容体	石浦 章一	石浦 章一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	タンパク質の機能 2. 免疫のしくみ （※改訂回）	哺乳類で高度に発達している，自己と非自己を識別するしくみについて説明し，そのしくみの基礎にある抗体の多様性を生みだす機構を考察する．また，液性免疫と細胞性免疫の間の役割分担についてのべる 【キーワード】 自然免疫、獲得免疫、抗体、T細胞受容体	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）
12	突然変異と分子進化	個々の個体に生じた突然変異が集団全体に広まること，これが進化である．分子生物学の発展により，分子レベルで進化を理解できるようになった．ここでは，分子レベルの進化のしくみとその特徴について解説する 【キーワード】 突然変異、中立説、分子進化、分子時計	二河　成男	二河　成男
13	RNAの多様な機能	RNAは，単に遺伝情報の仲介物質と思われがちである．しかし，現在では，触媒や制御因子といった多様な活性をもつ機能性高分子であることが明らかになってきた．これらの機能性RNAの構造と反応のしくみについて解説する 【キーワード】 リボザイム、RNA編集、RNA干渉	二河　成男	二河　成男
14	遺伝子操作	遺伝子操作とはどのような技術か．可能になった実例，将来の可能性を紹介し，研究を行うための法律的な基準についても紹介する 【キーワード】 遺伝子操作技術、遺伝子組換え、カルタヘナ議定書	渡辺　雄一郎	渡辺　雄一郎
15	今後の社会と分子生物学	21世紀は生命科学の時代であり，分子生物学はその基礎として重要性を増すにいたっている．ここでは，ゲノムから明らかになった生命のしくみ，病気の治療法の開発，遺伝子改変食品，など私たちのまわりの問題と，それにまつわる生命倫理について講義する 【キーワード】 分子生物学と社会、遺伝素因、遺伝子診断	石浦　章一	石浦　章一

＝　生物界の変遷（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　松本　忠夫（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　西田　治文（中央大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：　二河　成男（放送大学准教授）〕

全体のねらい

生命体は様々な地球環境のもとで、４０億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そもそも生命はどのようにして誕生したのであろうか。そして、いかにして進化し変遷していったのであろうか。また、生物体の姿はゲノムの中の遺伝情報が、発生過程を経て表現型として現れたものであるが、その仕組みは進化とどのように関係しているであろうか。さらに、分子レベルの進化はどのようであろうか。本講義では、多様な生物界の変遷を、総合的にみることにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	「生物界の変遷」のねらい	地球上に生命体が誕生して約４０億年、その間に実に様々な生物が進化し、今日に至っている。 この回ではそれらの様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。また、生物の進化はどのようにして調べられてきたのかの方法、さらに、生物が進化するに至った原動力などを説明する理論を紹介する。さらに、生物界の分類の方法についても考察する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
2	生命の誕生、そのメカニズム	今から約40億年前に、地球上で生命は誕生した。現在の最も複雑な細胞であっても非常に複雑である。どのように生命は準備され、誕生したのであろうか。まず生体を構成する物質が無生物的に合成され、地球上に蓄積した。それが集合して、やがて最初の細胞が誕生した。それが誕生するまでの過程を概観する。	山岸　明彦（東京薬科大学教授）	山岸　明彦（東京薬科大学教授）
3	単細胞生物の進化	地球上の生物は、細胞構造に着目すると原核生物と真核生物に分けることができる。細胞内に細胞小器官を持たない単純な構造の原核生物から、どのように真核生物が誕生してきたかについて解説する。	伊藤　元己（東京大学大学院教授）	伊藤　元己（東京大学大学院教授）
4	藻類と菌類の進化	真核生物の誕生後、水中では単細胞の生物群―いわゆる原生生物の爆発的な多様化が起きた。その結果、光合成を行う藻類、おもに捕食をして生活する原生動物、有機物を分解して生活する菌類などが生まれてきた。ここでは原生生物界での多様化を、真核生物間の細胞内共生に関連させて解説する。	伊藤　元己（東京大学大学院教授）	伊藤　元己（東京大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	多細胞生物の進化	真核生物の誕生後、水中では多細胞生物が現れ、先カンブリア紀末からカンブリア紀初期には動物の爆発的な多様化がみられた。地球環境にもその間に様々な変動があった。動物の多様化を中心に、このような時代の生物界を概観する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
6	植物の上陸と多様化	最初に陸上に進出した生物は何か、現在の陸上生態系を支える生産者である植物はいつどのようにして上陸したのか、祖先は何か、上陸によって地球はどのように変化したのかなどについて解説する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
7	動物の上陸と多様化	植物による陸上での物質生産が始まり、動物が成育する空間も地上に拡大した。動物はどのようにして陸上に進出したのか、初期の多様化はどのようであったかについて解説する。	西田　治文（中央大学教授）	西田　治文（中央大学教授）
8	昆虫類の適応放散	昆虫類は現在の地球の陸上においてもっとも種類数が多く、特に熱帯域において種数、現存量ともに大繁栄している。その昆虫類の起源は古生代にさかのぼるが、現生の昆虫類は被子植物の進化と共に適応放散した系統が大勢を占めている。この回では、昆虫類の特徴を見ると共に、その適応放散の様相を解説する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
9	脊椎動物の適応放散	現在の陸上における脊椎動物は、生活型の歩行型として哺乳類が、飛翔型として鳥類が、そして海洋などの水界においては、遊泳型の硬骨魚類が大勢を占めている。しかし、哺乳類にも飛翔型のコウモリ類そして遊泳型のクジラ類がいるし、鳥類には歩行型のダチョウ類、遊泳型のペンギン類などがいるように脊椎動物は多様である。この回ではその適応放散の様相を解説する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）
10	分子レベルの進化	分子生物学の進展により、生命現象をDNAやタンパク質といった分子から説明できるようになった。この結果、生命の進化における形や性質の変化や多様化を分子レベルで説明する試みが注目を集めている。この回ではDNAやタンパク質の進化と多様化のしくみについて解説する。	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	分子で探る生物の系統関係	約４０億年前に地球上に現れた祖先生物が種分化を繰り返してきた結果、多種多様な生物種が進化してきた。この生物進化の歴史は系統樹として表現される。系統樹とは何か、分子データから系統樹をどのように推定するかについて説明する。	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）
12	ゲノムの進化	多数の生物種においてそのゲノム情報が解読されたことにより、生物進化に伴いゲノム自身も大きく変化してきたことが明らかになってきた。様々なゲノム進化の様式について説明する。	二河　成男（放送大学准教授）	二河　成男（放送大学准教授）
13	発生と進化（植物）	生物の多様な形はどのように進化したのだろうか。形は多くの遺伝子によって制御される発生過程の結果できあがる。従って、発生過程に関わる遺伝子の進化が生物の多様な形を生み出す原因である。植物の生殖器官である「花」の進化を題材に、生物の形の多様性がどんな遺伝子の変化によって引き起こされるのかを探求する。	長谷部光泰（基礎生物学研究所教授）	長谷部光泰（基礎生物学研究所教授）
14	発生と進化（動物）	動物が植物と異なる点は、なんと言っても「行動」を行えることであろう。その行動を可能にするためには、筋肉や神経などを用いて機能的な運動を可能とするためのボディプランの構築が必須である。そのような精巧なボディプランがどのようなメカニズムの上に成り立ち、そしてそれがいかにして進化してきたかについて概説する。	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）	三浦　徹（北海道大学大学院准教授）
15	生物界の変遷と人類	人類は約５百万年前に誕生し、つい数万年前から地球上に大きく拡散した。そして、現在では地球上において極めて大きな影響力を持つに至った。類人猿の祖先から人類が誕生した道筋、そして他の生物に与える影響の大きさを様々な側面から説明する。	松本　忠夫（放送大学教授）	松本　忠夫（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1564900	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 植物の科学 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：塚谷　裕一（東京大学・教授）〕
〔主任講師（現職名）：荒木　崇　（京都大学・教授）〕
【担当専任教員：松本　忠夫（放送大学・教授）】

講義概要

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、他の生物との相互作用について説明する。さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。『動物の科学』とペアになる講義である。

授業の目標

生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、動物や微生物など他の生物との相互作用について説明する。
さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など、人間の暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。

履修上の留意点

『動物の科学』とペアになる講義である。『動物の科学』と合わせて履修することで、生物界全体に対する理解を深める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	さまざまな植物たち	この講義全体を通じて、植物の暮らしそのものの理解と共に、私たち人との関わりにも理解を深めてもらうことを目指している。その最初の導入として、いかにさまざまな植物が、地球上で私たちの身の回りにいるかを紹介し、生物多様性の理解を進める。 【キーワード】 生物多様性、形態多様性、植物学の概観	塚谷　裕一（東京大学・教授）	塚谷　裕一（東京大学・教授）
2	光合成と一次代謝	植物の生の営みの特色の1つは、光のエネルギーを化学エネルギーに変換する光合成過程である。植物が光エネルギーを受け取り、化学エネルギーに変換するしくみとその多様性、さらに、光合成産物が呼吸等の一次代謝により利用されていく関係を学ぶ。 【キーワード】 光合成、光合成の電子伝達系（光化学系）、カルビン・ベンソン回路（還元的ペントースリン酸回路）、C3植物、C4植物、一次代謝	佐藤　文彦（京都大学・教授）	佐藤　文彦（京都大学・教授）
3	発生・成長（1） ～胚発生～	植物の発生と成長について、この回から6回にわたって紹介する。第1回は、種子の中にあって外からはうかがい知ることがむずかしい胚発生の仕組みについて学ぶ。胚発生の過程で形成される植物体のおおまかな体制（ボディープラン）やその形成に関わる植物ホルモンについて紹介する。 【キーワード】 種子、胚発生、ボディープラン、分裂組織、植物ホルモン	荒木　崇（京都大学・教授）	荒木　崇（京都大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	発生・成長（2） ～発芽と伸長～	完成した胚を含む種子は、水分を失い乾燥種子として休眠状態に入るが、水、酸素、光といった適切な環境刺激のもとで発芽が可能になる。発芽した芽生えは光環境に応じた成長をおこなう。種子の休眠と発芽の仕組み、それに関わる植物ホルモン、芽生えの伸長成長、種子や芽生えが光を感じる仕組みなどについて学ぶ。 【キーワード】 種子休眠、発芽、伸長成長、植物ホルモン、光受容体	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
5	発生・成長（3） ～根～	根は土壌から水分や養分を吸収して植物の地上部に与えている。その発生と成長は独特のものであり、重力や栄養欠乏を感知して形を変化させる可塑性や、土壌中の障害物を巧みに回避して成長する特性等を備えている。それらの仕組みを、関連の深い植物ホルモンとあわせて紹介する。 【キーワード】 根、根端分裂組織、可塑性、重力屈性、植物ホルモン	川口　正代司 （東京大学・准教授）	川口　正代司 （東京大学・准教授）
6	発生・成長（4） ～シュート～	植物の地上部は、茎の周りを葉が取り巻く「シュート」という構造から成っている。その形作りの仕組みを紹介し、どのようにして植物のシュートが発達していくのかを学ぶ。特に、シュート頂分裂組織から葉ができる仕組み、その配置のルール、さらに葉の形態の多様性とその遺伝的な仕組みなどについても紹介する。 【キーワード】 SAM（シュート頂分裂組織）、葉序、葉、花	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）
7	発生・成長（5） ～花芽形成～	植物は適切な環境条件におかれると、シュートを変形させて花を作り出す。その切り換えを花芽形成という。特に日の長さは花芽形成を促す重要な環境要因である。植物が日の長さを感じて花芽形成を開始する仕組みや花を構成する器官、ABCモデルと呼ばれる花の形づくりのしくみなどについて学ぶ。 【キーワード】 花芽形成、日長、光受容体、生物時計、フロリゲン、ABCモデル	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
8	発生・成長（6） ～受粉と受精～	花は生殖器官を含み、受粉と受精の場として機能する。生殖器官の形成、自己と他者の花粉を区別する仕組みや卵細胞を含む胚嚢まで花粉管を導く仕組みなど、受粉から受精にいたる過程を紹介し、このシリーズの初回で学んだ胚発生の出発点である受精卵ができるまでを学ぶ。 【キーワード】 花粉、胚嚢、受粉、花粉管、受精、自家不和合性	荒木　崇 （京都大学・教授）	荒木　崇 （京都大学・教授）
9	形態の可塑性 ～環境適応～	植物は固着性の生活をしているため、予め決められた発生プログラムの他に、環境に合わせて随時、可塑的に形態を変化させる仕組みを持っている。その仕組みとその生態学的意味について学ぶ。さらに、外界の環境に応じてどのようにその姿を変えるのかについて、重力応答や頂芽優勢など、具体例を紹介する。 【キーワード】 可塑性、環境適応、重力、光環境、頂芽優勢	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	動物との相互作用 ～食害・送粉・種子散布～	植物はさまざまな動物とかかわり合って生きている。植物は多様な植食性昆虫の食害を受けており、一方でそれに対する対抗進化を遂げている。また、多くの植物は報酬を支払って、動物に送粉（受粉や授粉）や種子散布を託している。植物と動物との間に見られるこのような搾取や共生の関係について俯瞰する。 【キーワード】 食植性昆虫、化学防衛、送粉共生、ハナバチ、種子散布共生	加藤　真 （京都大学・教授）	加藤　真 （京都大学・教授）
11	植物間の相互作用 ～競争・寄生・交雑～	隣接する植物同士は、光や水をめぐって競争関係にある。寄生植物や着生植物のように、他の植物に依存して生きる植物もあれば、アレロパシーによって他の植物の生育を阻害するものもある。このような植物間の多様な相互作用を概観したのち、近縁種間に見られる生殖隔離の強化や、交雑を介した種分化についても紹介する。 【キーワード】 競争、寄生植物、着生植物、生殖隔離、交雑	加藤　真 （京都大学・教授）	加藤　真 （京都大学・教授）
12	微生物との相互作用 ～病害・共生・寄生～	動くことのできない植物は、菌類やバクテリア、ウイルスなどの病原微生物から身を守るために、独自のシステムを進化させてきた。一方で、アーバスキュラー菌根菌という不思議な生命体や根粒菌と共生し、地球の生態系を変えてきた。植物と微生物の多様な相互作用の仕組みとともに、その進化史を紹介する。 【キーワード】 病原抵抗性、共生、根粒菌、アーバスキュラー菌根菌	川口　正代司 （東京大学・准教授）	川口　正代司 （東京大学・准教授）
13	暮らしと植物（1） ～二次代謝～	植物はもちろん、我々人間とも密接な関係にある。最後の3回にわたるシリーズでは、その詳細を見ていく。第1回は、食料やパルプ繊維、燃料としての利用とともに、香辛料、染料、医薬品など、植物がつくり出す様々な低分子量の二次代謝産物を通して人間の暮らしに関わる面について学ぶ。 【キーワード】 二次代謝産物、フラボノイド、テルペノイド、アルカロイド、医薬品、機能性食品成分、工業原料	佐藤　文彦 （京都大学・教授）	佐藤　文彦 （京都大学・教授）
14	暮らしと植物（2） ～作物の未来～	植物を人間の役に立つよう品種改良するという作物育種の歴史は古い。育種の歴史と最近開発されつつあるゲノム育種、遺伝子組換え技術について、その実例を紹介しつつ、その利点と可能性、特に、環境保全あるいは環境修復において植物が持つ可能性に関する正確な理解を目指す。 【キーワード】 育種の歴史、作物、ゲノム育種、遺伝子組換え、環境修復	佐藤　文彦 （京都大学・教授）	佐藤　文彦 （京都大学・教授）
15	暮らしと植物（3） ～園芸と植物学～	ふだんの市民生活において、最も身近な植物のあり方の一つは、園芸であろう。最後に、私たちの暮らしに最も近い植物の素顔を、原産地あるいは街中におけるそのあり方として振り返る。ここまで学んできたことを復習しつつ、私たちと植物との関係を、もう一度まとめて理解し直すことをめざす。 【キーワード】 園芸、品種改良、相互作用、適応、人との関わり	塚谷　裕一 （東京大学・教授）	塚谷　裕一 （東京大学・教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1565419	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 動物の科学 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松本忠夫（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：星　元紀（放送大学教授）〕

講義概要

動物とは、他の生物が作った有機物を摂食して生きている多細胞生物の総称である。生物界を構成している6界の生物の中で、もっとも後に進化したものたちで、極めて多様な生活様式が見られる。本講義では、私たち人間を含めての動物たちの基本的な生活様式を見るとともに、生殖、発生、運動、行動、内分泌、生体防御、感覚などのメカニズムを紹介する。そして、動物の姿を科学することは、人間自身の理解の上で極めて有用であることを知っていただく。

授業の目標

現代における生物科学あるいは生命科学は、極めて大きく発展してきている。そして、生命現象の解明で明らかにされてきたことは、非常に複雑かつ高度な物質系であって、全面的な理解のためにはまだまだ多くの謎解きをしなければならないことである。生物以外の他の物質系にはない特徴として、生命の設計図であるゲノム情報の伝達とその変革（進化）があるが、動物ではその様相は複雑きわまりない。本講義は、自らが動物である限り、動物に関しての知識をもっておくことは、現代人の素養であり生活を豊かにしていく上で必須であると考えて作成されている。

履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、共通科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。本講義と専門科目の「植物の科学」は、いわば姉妹講義の関係となっている。さらには、共通科目の「生物集団と地球環境」、専門科目の「分子生物学」、「細胞生物学」、「生物界の変遷」、そして総合科目の「バイオサイエンスで豊かな暮らし」は、生物科学関係の関連した科目として設置されている。

	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	多様な動物の世界	動物とはどのような生物をさすのか、その生活メカニズムの基本的な様相、そして進化上の変遷を説明する。また、現在の地球上での動物たちの適応放散と過去での適応放散を比べることにより、動物の生活の本質を考える。さらには、島嶼に隔離された鳥類における特異的な適応について紹介し、動物の進化において捕食・被食関係の重要性をする。 【キーワード】 動物の定義、動物の誕生、系統分類、捕食・被食関係、適応放散、ニュージーランドの生物	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）
2	野外における動物集団	動物は従属栄養の生物であり、野外における生活の基本として食物資源の獲得がある。また、さまざまな無機環境に適応している。本章ではその基本的な姿を説明する。さらに、人間活動によって絶滅ないし絶滅危惧に至った動物たち、絶滅危惧動物の保全、そして有害動物の防除など具体例を紹介する。 【キーワード】 従属栄養、ニッチ、絶滅危惧動物、動物の保全、有害動物の除去、ニュージーランドの固有鳥類	松本忠夫（放送大学・教授）	松本忠夫（放送大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	飼育、養殖される動物たち	人間は自然界の様々な動物を、自身の生活向上のために様々に改変してきた。その改変は品種改良としてとらえることができるが、ヒツジ、ウシ、ウマ、イヌ、ネコ、カイコ、ミツバチ、魚類など多数種がいて、家畜動物、愛玩動物、実験動物等に分類される。これら品種改良のポイントはどのようなことだったのか、動物の本性との対比で考えてみることにする。また、養殖される魚介類の様相に関しても説明する。 【キーワード】 家畜動物、養殖、品種改良、遺伝学の応用、ニュージーランドの家畜	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
4	動物の子孫の残し方	生殖は種の存続を保証する営みである。生殖には、遺伝子の混合を伴わない無性生殖と、遺伝子の混合を伴う有性生殖とに大別される。それぞれの仕組みの概略と、有性生殖の鍵となる減数分裂および受精について述べるとともに、生殖医療の現状について検討する。 【キーワード】 無性生殖、有性生殖、減数分裂、受精、生殖医療	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
5	個体形成のメカニズム	受精卵という1個の細胞が、胚、幼生を経て成体となり、やがて老化して死に至るまでの複雑な過程が、どのようにして営まれているのか述べる。また、この過程に大きな影響を与える薬剤等について触れるとともに、再生医療の現状について検討する。 【キーワード】 初期発生、細胞の増殖と分化、体軸の決定、形態形成、幹細胞、再生医療	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
6	動物の発生様式と進化	発生様式の変更は進化の重要な要因である。ここでは、進化とのかかわりにおいて、発生を制御する主要な遺伝子群について述べるとともに、遺伝子レベルでのわずかな変化がもたらす形態の変化について概観する。 【キーワード】 進化発生学、発生関連遺伝子、Hox遺伝子、モジュール、大進化	星 元紀(放送大学・教授)	星 元紀(放送大学・教授)
7	動物における表現型可塑性と進化	動物は生存や繁殖のために、変動する環境の中で多様な戦略をとり，適応している．このような環境適応は，動物の成長過程をいかにして修飾するかに依存する．このような適応的な表現型の変化を「表現型可塑性」というが，本講義ではその仕組みと進化過程について概説する。 【キーワード】 表現型可塑性、環境応答、反応基準、表現型多型、発生拘束、進化	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)
8	動物の感覚生理	動物は生存・繁殖のため、外界の環境を視覚や聴覚、嗅覚、味覚、触覚等(「五感」)の感覚受容により感知し、適応的な応答や行動を示す。本章では神経細胞(ニューロン)の構造と機能、主要な感覚を担う感覚受容器と動物による多様性、感覚情報を処理する脳の構造、一部の動物に見られる特殊な感覚の例について解説する。 【キーワード】 感覚受容、メカニズム、脳の構造、種による多様性	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	個体間のコミュニケーション	同種または異種の動物が交信のために用いるコミュニケーションには、フェロモン等による化学コミュニケーション(嗅覚)、音声(聴覚)や色彩(視覚)を用いたコミュニケーションの他、ヒトの言語に代表される記号的コミュニケーションなどがある。特に社会性動物では、様々なコミュニケーションが発達している。それらのコミュニケーションの神経的基盤や生物学的意義を解説する。 【キーワード】 化学コミュニケーション、視覚や聴覚によるコミュニケーション、ミツバチの尻振りダンス、弱電気魚のコミュニケーション	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)	久保 健雄(東京大学大学院理学系研究科・教授)
10	親子関係と性選択	動物界には多様な繁殖戦略が見られる。動物の親子関係においては、子を生みっぱなしで何ら世話をしないものから、少数の子を極めて親密に養育するものまで多様である。また、親子関係とともに繁殖をめぐる雌雄の関係も多様である。一般に雌は子を残すにあたって、雄を慎重に選好することから性選択が起こっている。この回では、そのような子孫を残すにあたっての性行動、子の養育に関する形質の進化を説明する。 【キーワード】 生殖様式、繁殖戦略、親による子の保護、育児行動、雌の選好性、ニュージーランドの鳥類	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)
11	動物の社会生態	動物には集団を形成し、その個体間で様々な協力行動をするものたちがいる。そのような協力行動はいかなる背景の元に成立しているのであろうか。そして、協力行動の結果、それぞれの種固有の社会生態が成立しているが、その進化はどのようなものだろうか。ここでは、最近、大きく進展をとげた社会生物学の要点を講義する。 【キーワード】 協力行動、利他行動、社会進化、血縁選択、分業、カースト分化	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)	三浦 徹(北海道大学大学院地球環境科学院・准教授)
12	動物の脳とその機能	脳が大きくなることによって、動物は知能や行動というすばらしい能力を獲得してきた。また、サルからヒトに進化することによって「精神」と呼ばれるものも兼ね備えてきた。この章では、神経の機能、ヒトが持つ特殊な能力、モデル動物を用いた遺伝子と各能力との関係などについて、例とともにわかりやすく紹介する。 【キーワード】 神経細胞、脳機能、精神活動、言語野、記憶	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)
13	動物の行動とホルモン	動物の行動は、ホルモンと呼ばれる細胞が分泌した物質によって規定される場合がある。性に応じた行動や、ストレス応答などがその代表例である。脊椎動物を例にとって、内分泌器官のはたらきと動物の行動との関係を紹介する。 【キーワード】 ホルモン、自律神経、神経伝達物質、ヒトの行動、アセチルコリン、ドーパミン	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	動物と感染症	動物は、傷を負ったり、微生物の攻撃を受けることがあるが、それらを軽減するしくみを持っている。この生体防御のはたらきをヒトを例にとって説明するとともに、それを回避するしくみや薬剤についても紹介する。 【キーワード】 感染症、鳥インフルエンザ、プリオン病、ワクチン、薬剤耐性菌、免疫、抗生物質	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)	石浦 章一(東京大学大学院総合文化研究科・教授)
15	応用動物科学の課題	動物の科学を学ぶことは、現代人の生活に取って必須となっている。それは、人間自身が動物であることから自明であり、また、応用生命科学が高度に進展してきていて、現代人の生活のあらゆるところで、それらは関係してきているからである。この回では、最近の応用動物科学のいくつかのトピックスに関して、ゲストと座談する。 【キーワード】 畜産革命、スーパーカウ、人工授精、 人畜共通症、食肉の安全性、昆虫機能、カイコ、有用物の生産	松本忠夫(放送大学・教授)	松本忠夫(放送大学・教授)、ゲスト(唐木英明、竹田敏先生)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1564404	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア）＝　細胞生物学（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：森　　正敬（崇城大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：永田　和宏（京都大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河野　憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）〕

講義概要

生命の基本単位である細胞は、それ自体ひとつのミクロコスモスである。おどろくべき巧妙な仕組みで、生命維持に必要なすべての装置を備えている。細胞の内部のさまざまの装置と、それらがいかに連絡しながら細胞の働きを支え、細胞社会を形成し、一個の個体を作っているか。また、細胞は分裂し、移動し、分化し、さらにがん化したり、細胞死さえプログラムされている。そのようなダイナミックで美しい細胞の世界をかたちや分子のレベルで覗いてみよう。

授業の目標

真核細胞の生命活動を細胞レベルで理解するために、細胞内部の構築、生体分子、タンパク質の合成と翻訳後修飾、生体膜、エネルギー変換、細胞の増殖・分化・死の制御などに関する基本的知識を習得する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	細胞とは何か	細胞には大きくわけて、原核細胞、真核細胞の区別がある。我々人間には、200 種類以上の細胞がそれぞれの組織や器官を形作っている。植物にはまた植物特有の細胞が存在する。それらの細胞の起源は何だったのか、どのように進化してきたのか、またどのようにして遺伝というメカニズムを獲得してきたのか。主として、細胞の種類と構造、そして進化について学ぶ。	永田和宏（京都大学教授）	永田和宏（京都大学教授）
2	細胞内部の構築	真核細胞の内部には細胞膜と同じような膜が種々の構造をつくり、動物の器官のようにいろいろな働きをしている。これらは細胞小器官またはオルガネラとよばれ、お互い助け合いながら細胞の見事な生命活動が営まれている。これらの細胞小器官の構造と働きについて学ぶ。	森　正敬（崇城大学教授）	森　正敬（崇城大学教授）
3	細胞で働く分子たち	細胞の中には多くの分子が存在し、細胞の働きはもとをただせばこれらの分子の働きによる。主要な生体高分子であるタンパク質や核酸(DNA と RNA)、多糖類や低分子物質（グルコースやアミノ酸、脂肪酸、リン脂質、ATP、無機イオンなど）の構造と働きについて学ぶ。	同　上	同　上

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	タンパク質の合成	生命活動の基本はタンパク質である。一個の細胞内には数万種類のタンパク質が全部で百万個程度存在して、それぞれの働きをしている。遺伝子に組み込まれたタンパク質の情報が、いかに読み出されてタンパク質という分子が作られるのか。DNAに書き込まれた情報はRNAに変換されて読み出され、それは最終的にアミノ酸の鎖であるポリペプチド（タンパク質の前駆体）に翻訳される。これらのタンパク質誕生までの過程を、細胞という場の中でリアルに体験してみよう。	永田和宏	永田和宏
5	タンパク質の構造・機能と品質管理	タンパク質は、遺伝情報に従って、ポリペプチドに翻訳されただけでは機能を持つことができない。ポリペプチドは、正しく折り畳まれて正しい構造をとる。そして正しい場に運ばれて初めて、本来の機能を発揮する。細胞は、もしタンパク質が正しい構造をとりえなかった場合に、それらを処分したり、再生したりするような品質管理の機構を備えていることが明らかになってきた。	同　上	同　上
6	膜の構造と膜透過	細胞は細胞膜に囲まれることによって一個の生命を維持している。細胞内部においてもさまざまな細胞小器官が膜によって区画されている。細胞が生き続けるためには膜を通して種々の物質を出し入れせねばならない。これらの生体膜の構造と、膜を通して分子の透過のしくみについて学ぶ。	森　正敬	森　正敬
7	タンパク質の細胞内輸送と局在	タンパク質は合成されたのち、機能する場へと輸送される。個々のタンパク質にはタグ（荷札）が付けられており、輸送先は指定され、細胞内の各オルガネラや細胞膜へと輸送される。また細胞はこれらのタンパク質輸送を担う配達システムも持っている。このようなタンパク質の輸送と輸送に関わる細胞側の装置について学ぶ。	河野憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）	河野憲二（奈良先端科学技術大学院大学教授）
8	エネルギー変換とミトコンドリア	生物が生命活動を営むためにはエネルギーが必要である。細胞は外部から栄養物質を取り入れ、これを酸化して生体の“エネルギー通貨”であるアデノシン三リン酸（ATP）を合成するが、その主要な部分はミトコンドリアで行われる。このエネルギー変換のしくみをミトコンドリアの構造と関連させつつ学ぶ。またミトコンドリアDNAについても学ぶ。	森　正敬	森　正敬
9	細胞骨格と細胞運動	細胞内には複雑な繊維状骨格のネットワークが張りめぐらされている。これらを細胞骨格と呼ぶ。細胞には３種類の太さの異なる繊維があり微細繊維、中間径繊維、微小管と呼ばれている。これらは細胞の形を維持するだけでなく、細胞同士の接着や、細胞の移動や貪食など、さまざまの機能を分担している。また、筋肉細胞においては筋収縮などを行っている。これらのしくみを学んでみよう。	永田和宏	永田和宏

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	細胞のシグナル伝達	細胞は、増殖、分化、がん化、細胞死など様々なシグナルを受け取り、それに応答する。シグナルは何段階ものカスケードを経て、最終的には遺伝子の発現を制御する。これらのシグナル伝達には、GTP結合タンパク質やタンパク質のリン酸化が大きな役割を果たしている。このシグナル伝達のプロセスについて学ぶ。	河野憲二	河野憲二
11	細胞周期	生体中の細胞には、盛んに分裂している細胞と休止している細胞がある。分裂細胞では、DNA合成と細胞分裂が繰り返され、その周期は厳密に調節されている。細胞周期は、それに関わるタンパク質のリン酸化や分解により極めて巧妙に制御されていることがわかってきた。その調節機構について学ぶ。	同　上	同　上
12	細胞分裂	細胞分裂は、細胞増殖時におこる体細胞分裂と、２倍体の生殖細胞から１倍体の配偶子を生ずる減数分裂がある。これらの違いを学ぶと共に、分裂時の染色体の分配機構や細胞質分裂の分子機構について学ぶ。	同　上	同　上
13	細胞間のコミュニケーション	我々の体内では、多くの細胞が集まって組織や器官を作り生理機能が発揮される。細胞は隣接する細胞とさまざまなコミュニケーションを交わしている。ここでは主に、細胞間接着因子や細胞–基質接着因子などを中心に、それらの分子の機能について学ぶ。	高橋淑子（奈良先端科学技術大学院大学教授）	高橋淑子（奈良先端科学技術大学院大学教授）
14	発生と分化	受精卵からさまざまな形が作られる際、細胞は実にさまざまなふるまいをみせる。ここでは主に脊椎動物の発生現象のあらましについて学び、かたちづくりにおける細胞の挙動の基礎を理解する。	高橋淑子	高橋淑子
15	がんと細胞死	細胞の増殖・分化の制御機構に乱れが生じ、細胞が異常な分裂を示すようになったものががんである。一方、細胞はその役割を終えた時、またある種の刺激が加わったとき、自らを殺すアポトーシスとよばれるしくみを持っている。あるいは、発生の途中で不要になった細胞は死ぬようにあらかじめプログラムされている。がんと細胞死という細胞の生死に関わるふたつの側面について学ぶ。	森　正敬	森　正敬

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560204	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 現代物理 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：吉岡　大二郎（東京大学大学院教授）〕

講義概要

現代物理は、物理に限らず生命や脳の働き、宇宙の進化など広い範囲で豊な自然観をもたらすだけでなく、技術・産業開発の基礎をなしている。ここではまず、力学、電磁気学、熱統計力学などの古典物理学を、現代物理の理解につながるように復習する。そして、現代物理の柱の一つである相対性理論に進み、時・空、エネルギー・運動量と電磁場の変換性を理解する。つづいて、もうひとつの柱である量子力学が、古典物理と矛盾する現象をどう克服して導かれたかを見ながら、量子の論理に焦点を当てて基礎的理解を深める。この理解のもとに、多様な物質の構造や振る舞いを解きほぐし、新しい物質の開発やナノメートルの世界を切り拓く論理を獲得するとともに、マクロな世界の相転移現象を支配した対称性の自発的破れが、素粒子の世界をも支配する論理であることを示して、現代の自然観の基礎を提示する。最後に、大きな世界へ目を転じて、宇宙を支配する重力と一般相対性理論について学ぶ。これらの世界にはまだまだ未解決の問題がたくさんある。それらの解決を目指して、研究が日々続けられているが、この講義を取る皆さんの中から、新しい道を見いだす人が出ること期待したい。

授業の目標

現代物理の理解を通して、これまでに得られた自然観を展望し、ミクロな世界から宇宙とその起源や元素の起源の理解をうるとともに、これから拓かれる新物質や新技術の開発への基礎を提示する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	古典物理学のおさらいⅠ	古典物理学の2本の柱である力学と電磁気学を、復習をかねて、現代物理学を理解するために有効な形式に書き換える。これらは、量子力学と相対性理論を理解するための準備となる。また、光が、電磁波の仲間であり、真空中を伝わる波であることを見る。 【キーワード】 運動方程式、エネルギー・運動量・角運動量保存則、最小作用の原理、解析力学、電場・磁場、マックスウェル方程式、電磁波、エネルギー・運動量テンソル	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	古典物理学のおさらいⅡ	物質の姿＝相の理解には、温度と熱の理解が基礎となる。そして、物質は多数の原子・分子から出来ているから、統計的な理解が要る。そこで、熱の物理学と、統計力学を復習し物質の構造と性質を理解するための準備としよう。この際対称性の自発的破れという考え方が後の理解にも不可欠となる。さらに、場と波の理解は量子力学に欠かせないから、振動・波動の復習をしよう。 【キーワード】 温度、熱、比熱、熱力学基本法則、相、相転移、対称性の自発的破れ、統計力学、振動・波動、固有モード、フーリエ分解	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	真空と光：特殊相対性理論	相対論は、真空中の光速が、観測者の座標系の運動によらないという発見から始まり、古典物理の世界では互いに独立と考えられていた時間と空間が、互いに離れがたい関係にあることを示し、現代物理の柱のひとつとなった。光は媒質無しで真空中を伝わるが、ドップラー効果を示すことも相対論から示され、宇宙の構造や誕生の謎に強力な手がかりを与えた。 【キーワード】 ガリレイ相対性、慣性系、光速不変、ローレンツ変換、特殊相対性、エネルギー・運動量と電磁場の変換性、ドップラー効果、赤方偏移	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	深まる謎:古典物理学の限界	20世紀の変わり目に、電子や放射能の発見とともに、古典物理学で理解できない謎が相次いで出てきた。太陽や原子からの光が、とびとびである謎。熱放射の強さが、温度上昇とともに振動数の高い方に(赤から青へ)移る謎。絶対零度に近づくと、比熱がゼロになる謎。金属に光を当てると、光の強さによらず振動数が大きいときだけ電子が飛び出す謎。これらが古典物理とどう矛盾するかを見て行こう。 【キーワード】 電子、とびとびの光、低温比熱、温度と色、光電効果、放射能、原子核、原子の構造、電子の電荷	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
5	謎を解く手がかり:エネルギーの量子化	前講の謎は、熱放射の謎を解いたプランクによるエネルギーの量子の考え(光のエネルギーは連続でなく、とびとびとなる)により、光電効果(アインシュタイン)、低温比熱についても解けることを見よう。とびとびの光の謎も、原子にエネルギー量子の考えを当てはめると解決する(ボーア)。さらに、電子に角運動量とスピンという自由度を導入し、量子化すれば、原子の規則性を表す周期表も理解でき、磁石の起源もわかる。 【キーワード】 熱放射のスペクトル、プランクの放射式、エネルギー量子、光(量)子、定常状態、対応原理、ボーアの原子模型、スピン、周期表、磁石の起源	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
6	ミクロの論理:量子力学	謎の鍵が量子にあることを見た。では、量子として振る舞う光や電子はどういう論理に従うか。この基本的な謎を解くふたつの流れを見て行こう。ひとつは、物理量を、状態間を結ぶ行列として扱う(ハイゼンベルグ)。もうひとつは、光だけでなく電子も波のような存在と考え、すべての量子的存在を、波動関数として扱う(シュレーディンガー)。これらは同等であるだけでなく、量子力学という体系としてミクロの世界の基本論理をなすことを見る。さらに、物質のミクロな性質を理解するために、第2講で学んだ統計力学を量子の世界に拡張しよう。 【キーワード】 状態の遷移、行列力学、交換関係、正準量子化、固有状態、ドブロイ波、電子の波動性、波動方程式、確率振幅、不確定性関係、量子統計、フェルミ統計、ボース統計	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
7	固体の結晶構造と電子状態	固体には良く電流を流す導体即ち金属と、電流を流さない絶縁体がある。この違いはどこから来るのだろうか?この違いの理解には、固体中の電子がどう振る舞うかを量子力学を用いて調べなければならない。固体では原子が規則正しく並んで、結晶構造を作っている。この周期的な構造中での電子状態はエネルギーバンドという概念で理解され、これによって、導体である金属と絶縁体の違いが明らかになることを見よう。 【キーワード】 固体、導体、絶縁体、結晶構造、トンネリング、ブロッホの定理、フェルミ面、エネルギーバンド、伝導帯、価電子帯、エネルギーギャップ	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
8	半導体:現代文明を支える石器	金属と絶縁体の中間の性質を示す半導体は、電子回路の素子として現代の生活を根底から支えている。半導体の電子構造を明らかにし、それによって半導体素子がどういう動作・特性を示すかを理解し、ダイオードがどのように電流を整流するか、トランジスターがどのように増幅作用をするかを見て行く。さらに、高密度集積回路においては2次元的な電子系が用いられ、そこでは量子ホール効果といわれる現象が観測されることを見る。これらの理解から、新しい素子や回路の開発も可能となる。 【キーワード】 半導体、不純物準位、正孔(ホール)、ドーピング,n型、p型、ダイオード、トランジスター、LSI、2次元電子系、量子ホール効果	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
9	磁性:永久磁石が解き明かす相互作用の効果	ビデオテープやハードディスクで情報を記録するのは、微小な磁石であり、ほかにも磁石の応用は広い。磁石の起源は電子にあることを見たが、量子力学により、まずなぜ原子に磁気モーメントが生ずるかを見て、次に結晶中で、それらがどの様に相互作用するのかをさぐると、原子間の磁気モーメントの方向をそろえようとする力が生ずることがわかる。全体の磁気モーメントが揃って永久磁石が出来るのである。温度が上がってこの相互作用のエネルギーを越すと、磁性が消えることも見る。 【キーワード】 磁石、電子スピン、交換相互作用、原子の磁気モーメント、磁気相互作用、強磁性、常磁性、キュリー温度、磁気相転移	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
10	相転移	前項で見た温度による永久磁石の性質の消滅は、相転移の一例である。ここでは、相転移にはどの様なものがあるかを詳しく見て行く。第1種と第2種の相転移について説明し、統計力学による理解を目指す。第2種の相転移では秩序変数という概念が重要であること、また、自発的な対称性の破れという概念について説明する。 【キーワード】 相転移、相図、第1種相転移、潜熱、第2種相転移、秩序変数、自発的な対称性の破れ、	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
11	超流動:凍らない液体の示す奇妙な現象	水などの普通の液体は冷やすことにより固化する。それは典型的な第一種の相転移である。ところが、ヘリウムの場合には普通の圧力下ではいくら冷やしても凍らない。それどころではなく、超流動という奇妙な液体になる。超流体は粘性のない流体であるが、それ以外にもおもしろい性質を示す。超流体が示す現象を見てそれがどの様に説明されるかを見てゆこう。 【キーワード】 液体ヘリウム、超流動、噴水効果、壁を登るヘリウム、ボースアインシュタイン凝縮、巨視的量子効果、2流体モデル	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
12	超伝導	温度を下げてゆくと、電気抵抗が突然消失するものを超伝導体という。超伝導は超流動とともに20世紀初頭に発見されたが、その理論的解明には半世紀を要した。超伝導体は電気抵抗を示さないだけでなく、磁場を排除するマイスナー効果と呼ばれる性質を持つ。超伝導体による磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID等について見て行き、これらの現象をもたらす電子状態がどの様なものであるかを解明する。 【キーワード】 超伝導体、マイスナー効果、完全反磁性、磁束の量子化、ジョセフソン効果、SQUID、クーパー対、フォノン	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	メゾスコピック系:日常の世界と量子の世界をつなぐもの	日常手にする物質はアボガドロ数程度のマクロな数の粒子からなり、古典物理が主役をなす。一方、量子力学が支配するミクロな世界で扱うのは少数個の原子・分子である。この中間の世界(メゾスコピック世界)を支配するのはどういう論理だろう。そこでは、人工的に作った構造を用いて実験が行われ、原子分子より遥かに大きな系での量子効果やサイズ効果などが見える。ナノテクノロジーの舞台でもあるこの世界を探検しよう。 【キーワード】 メゾスコピック系、非局所抵抗、永久電流、粒子性と波動性、電子ドット、単電子トランジスター	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)	吉岡 大二郎(東京大学大学院教授)
14	ミクロの世界は何で出来ているか	量子力学により、電子が原子核に束縛されて、原子や分子を作ることを見た。では、原子核は何で出来ているか。そして、この世界の究極の構成要素は何であり、どうやって、この世界が出来るのかを見て行こう。この際に、場の考えと物性物理学で学んだ対称性の自発的破れという考えが重要となることを見るだろう。素粒子の研究は、まだ多くの謎に包まれている。それらの解決がこれからの物理の大きな課題でもある。 【キーワード】 原子核、素粒子、クォーク、レプトン、ゲージ粒子、基本相互作用、保存量、対称性の自発的破れ、大統一理論	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
15	時空が歪む:一般相対性理論	慣性系の間の基本法則の不変性は、特殊相対性理論で扱った。では、加速度運動する系の間での相対性はどうなるか。この疑問は一般相対性理論で解かれる(アインシュタイン)。加速度系の質量には力が働き、重力が作用したと考えることもできる。逆に重力場を、加速度の場で置き換えることもできる。重力場によって時間と空間が変化し座標軸が曲線となるのである。ここでは、一般相対性理論についてざっと見て行き、宇宙の中に現れるその効果に触れよう。最後にまとめとして、自然における階層性を、これまでに得た現代物理学のいくつかの切り口で眺める。 【キーワード】 慣性質量、重力質量、等価原理、重力場、曲がった空間、重力場方程式、重力波、ブラックホール、ハッブルの法則、宇宙の進化	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1566610	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 力と運動の物理 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛(放送大学教授)　〕

〔主任講師（現職名）：毛利　信男(放送大学特任教授)　〕

講義概要

力学は最も古い自然科学の体系であるが、今でも生きている。暦や日食など天体の 運動は力学できわめて精度よく予測され、日常的に利用されるし、ロケットや人工 衛星の軌道計算も力学のおかげで可能となる。古典物理の柱をなすこの力学を中心に、力とは何か、という問いかけから始め、ベクトルとしての力の性質を体得した後に、力が運動の何を変えるかを、実験を通して発見させながら、運動の基本法則を導く。落下、放物運動、バネなどの基本的運動を解きながら、エネルギーと運動量 の概念と保存則を示し、ケプラーの観測結果により万有引力の法則を導き、角運動量とその保存則を理解する。質点系や広がった系(剛体)、束縛運動についても基 本的な例を中心に運動方程式を解いて見せ、振動波動の基本を示して場の概念を導 入し、解析力学(ラグランジュ、ハミルトンの定式化)への一般化を行う。現代 物理学、特に量子力学への橋渡しをする。

授業の目標

物理の基本概念がどのように作られていったかを具体的な例に沿って、履修者とともに探るという姿勢でたどり、現代物理の理解の基本を与える。現代物理学、特に量子力学への橋渡しをする。

履修上の留意点

手に入る材料を使った実験もするので、自分でやってみること。「初歩からの物理学」、「物理の世界」をあらかじめ履修すると理解も容易で、楽しく学べることだろう。課題は、ぜひ自力でやるように。

専門科目 自然と環境

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	いろいろな運動	日常生活で何気なく見ているいろいろな運動をビデオや高速度カメラを通して観察し、ものの運動の実態を捉え、直線運動、放物線運動、円運動、振動、波動、回転運動など基本的な運動の形態を説明する。さらに、地動説がなかなか受け入れられなかった理由としての見かけの運動、すなわち相対運動についてビデオ映像による運動の観察から説明する。 【キーワード】 直線運動、放物運動、円運動、振動、波動、回転運動、相対運動	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)
2	力って何？	運動に変化を与えるには力の作用が必要であることを映像で示し、運動の変化と力の作用の関係をバネの力を用いて説明し、日常の経験のなかのいろいろな力、弾性力、摩擦力、重力、クーロン力、ローレンツ力、そして見かけ上の力、慣性力について学ぶ。 【キーワード】 弾性力、抵抗力(摩擦力)、重力、クーロン力(静電気力、静磁気力)、ローレンツ力、慣性力	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)
3	運動の法則	身近な重力下の物体の運動(放物運動、単振り子の運動、斜面での台車運動)をビデオや高速度カメラで観察し、力と速度、加速度といった物理量が時間、距離、質量という基本単位とどのような関係にあるのかを導き、ニュートンの運動の第1、第2法則を説明する。 【キーワード】 ニュートンの運動の第1、第2法則、速度、加速度	毛利　信男(放送大学特任教授)	毛利　信男(放送大学特任教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	衝突と運動	平面を運動する二つの物体の衝突や単振り子同士の衝突、壁や床にボールを衝突 させたときの運動状況を高速度カメラで観察し、衝突直前、直後の速度を測定 し、ニュートンの運動の第3法則、運動量、運動エネルギー、位置エネルギーにつ いて学び、運動量保存の法則、エネルギー保存則について説明する。 【キーワード】 ニュートンの運動の第3法則、作用反作用、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、運動量保存則、エネルギー保存則、撃力	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
5	運動の持続と減衰	斜面をすべる物体、振り子やバネの運動の振幅をビデオや高速度カメラ で観察する。次第に速度や振幅が減衰していく状況を制動力の大きさを変えてどのようになるかを学ぶ。その原因がエネルギーの散逸にあることを理解させる。特に、緩和時間についての概念を考察し、雨粒の終速度など他の物理現象との関係へも言及する。さらには弱いばねで繋がっている連成振動子の運動状況を観察し、エネルギー交換と伝播を学ぶ。 【キーワード】 抵抗力、減衰運動、減衰振動、臨界減衰、緩和時間、強制振動、固有振動、エネルギー散逸	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
6	万有引力と惑星の運動	チコ・ブラーエによる惑星の運動の観測結果からケプラーが導きだした惑星の運動の法則を解説し、この法則とニュートンの運動の第3法則を適用して万有引力の法則を導き、われわれの体重の原因となっている地球の重力の起源が万有引力定数にあることを説明する。さらに、中心力場における運動では角運動量が保存されること、すなわちケプラーの第2法則、面積速度が一定になることを示す。 【キーワード】 ケプラーの法則、万有引力の法則、万有引力定数、角運動量	毛利 信男(放送大学特任教授)	毛利 信男(放送大学特任教授)
7	形のある物体の運動	実体振り子や斜面を転がる円筒、円柱の運動、こまの運動、形のいびつな物体の 落下運動をビデオや高速度カメラで観察し、形のある物体を剛体として取り扱い、その運動が並進運動と回転運動の重なったものであることを知り、運動の自由度、重心の意味、力のモーメント、偶力、慣性モーメント、剛体での力のつりあいについて考える。 【キーワード】 重心、力のモーメント、偶力、慣性モーメント、歳差運動、章動	毛利 信男(放送大学教授)	毛利 信男(放送大学教授)
8	身近な運動を解いてみる	5章と7章で見た、身近な運動には、抵抗力や外力が非斉次項として加わる。こういう場合の運動方程式の解法を調べ、実際に解いてみよう。指数が虚数になるときの扱いとして、オイラーの公式を学び、三角関数の拡張を行う。外力に対する応答という形に解をまとめよう。具体的には、雨粒の落下と摩擦と外力の加わったばねの系についてみる。共鳴現象も調べよう。 【キーワード】 斉次解、特殊解、オイラーの公式、粘性抵抗、過渡項、応答関数	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	運動と座標系	物体の運動を記述するためには、各時刻でのその位置を知ることが必要で、そのために座標系を指定する。では、座標系をどう選んだらよいか。異なる座標系で、運動の基本法則は同じだろうか。力は座標系でどう変わるでだろうか。運動とは相対的なものだから、座標系で相対性はどうなるか。重要な点について考える。 【キーワード】 いろいろな座標系　ガリレイ相対性、ローレンツ変換、加速度系	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
10	力と運動方程式の拡張	9章で見たように、座標系によっては、加速度の表式が複雑になり、拘束条件や、加速運動する系では、力の定義や運動方程式の拡張が要る。加速度による力を、慣性力として取り入れ運動方程式を力のつりあいに一般化し、仮想仕事の原理によって扱う定式化を導入する。この定式化により、一般的普遍的に力と運動を扱う道を開く。 【キーワード】 慣性力、一般化された力のつりあい、仮想仕事の原理	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
11	運動方程式を最小値問題に	10章の仮想仕事の原理を、有限時間の運動の軌道に拡張し、軌道に沿う仮想仕事の積分量(作用積分)が、最小となる条件から、運動方程式が定まることを導く(ハミルトンの原理)。得られたラグランジュ方程式を、今までの例について立て、ニュートンの結果と比較する。加速度を直接扱わないので座標系の選択が楽になる。 【キーワード】 作用積分、ハミルトンの原理(変分法)、ラグランジュ方程式	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
12	ラグランジュの方法	ラグランジアンに含まれない変数(循環座標)に対応する運動量が保存することから、保存則と対称性について調べる。ラグランジュの方法を、拘束条件のある一般の場合に拡張して、一般化座標・運動量、一般化力を定義する。外力の仕事率とのエネルギーバランスから、エネルギーの拡張であるハミルトニアンと正準方程式を導いてみよう。 【キーワード】 循環座標と保存則、一般化座標・運動量、ハミルトニアン	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
13	微小振動	ラグランジュ方程式の応用として、安定点の周りでの微小振動について考える。分子の振動からはじめ、自由度を多くすると、微小振動の固有方程式の解である固有モードが波のように振る舞うことを見る。固有モードは、単振動と等価な基準座標として調和的になる。固有モードの関数によって、同じ凶器条件を満たす任意の関数が展開できることがわかる。 【キーワード】 微小振動、固有モード、基準座標、固有関数展開、フーリエ展開	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)
14	正準形式	ラグランジュ形式では、運動量は速度に従属する量として、座標と対等ではない。運動量を対等に扱うために、座標変換(ルジャンドル変換)すると、正準形式とハミルトンの運動方程式をうる。量子化の準備rとなる、ポアッソンの括弧式についても学ぶ。 【キーワード】 ルジャンドル変換、正準形式、ハミルトン方程式、ポアッソンの括弧	生井澤　寛(放送大学教授)	生井澤　寛(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	位相空間と正準理論	運動量と座標を同等に扱うことにより、正準形式の基本方程式は、それらの1階微分方程式の連立方程式となり、運動量と座標の空間(位相空間)の点が、次の瞬間にどの方向に動くかを示す。位相空間の性質を調べ、正準変換、断熱定理などを示し量子論への橋渡しを試みる。 【キーワード】 位相空間、正準変換、リウビルの定理、断熱定理、ビリアル定理、作用変数、	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

＝　光と電磁場（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：中山　正敏（九州大学名誉教授）〕
〔主任講師：櫻井　捷海（東京大学名誉教授）〕

全体のねらい

現代文明は、光、電波、電流、磁気などによって支えられている。光は実は電気と磁気の波、すなわち電磁波の一種である。本講義では、光や電磁気現象を電場と磁場という２種類の場と、その基本法則によって理解することを目指す。身近な例から出発して電磁場のイメージを作り、さまざまな現象や応用例を体系的に説明する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と電磁気学	現代の豊かな高度情報化社会は、電磁気学と物性物理学の成果である電機技術・電子技術・コンピューター技術の上に成り立っている、と言っても過言ではないであろう。動力・輸送機関と情報・通信の発達史の視点から電磁気学の歴史をひも解いてみよう。この章では、電磁力、電気エネルギー、電波、光がわれわれの生活を支えていることを学ぶ。	櫻井　捷海（東京大学名誉教授）	櫻井　捷海（東京大学名誉教授）
2	波の性質	光や電波などを波として捉える準備として、波の一般的な性質を学ぶ。水面波を例として、波と振動の関係、位相、正弦波を説明する。波の重ね合わせの原理、干渉、回折格子について述べる。波の伝播についてのホイヘンスの原理を紹介する。	中山　正敏（九州大学名誉教授）	中山　正敏（九州大学名誉教授）
3	光の波	ＣＤが色づいて見えることから、光が波であることを理解する。回折格子により、光の色と波長の関係を知る。光の伝播について、光線の意味を知り、光線の直進、反射、屈折の諸法則をホイヘンスの原理によって説明する。レンズの原理と簡単な応用について述べる。	同　上	同　上
4	電波と光	はじめに電気振動を持続的に発生させる発振器について考える。アンテナを流れる振動電流からどのように電波が放射されるかについて定性的に説明する。原子のエネルギー準位ついて簡単に説明した後、原子からの発光やレーザーについても初歩的な説明を行う。	櫻井　捷海	櫻井　捷海
5	電荷と電場	静電気現象の基本概念を説明する。電荷間のクーロン力と、それを媒介する電場について述べる。電場を電気力線で表わし、それがガウスの法則にしたがうことを示す。ガウスの法則から、対称性のよい場合の電場を計算する。	中山　正敏	波田野　彰（神奈川大学教授）
6	電位と電気エネルギー	静電気現象を、エネルギーの観点から考える。電気力のなす仕事は、電位を用いて表わされる。電位と電場の関係を説明する。応用として、導体の静電誘導、コンデンサーについて述べる。静電気エネルギーが、電場によって担われていることを示す。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	誘電体と電場	不導体である誘電体と電気現象の関係を述べる。微視的な電気双極子の集まりによる巨視的な電場が、分極電荷を用いて表わされることを説明する。電気分極の場、電束密度の場を導入し、それを用いて誘電体がある場合のガウスの法則を表わす。	中山　正敏	波田野　彰
8	電流	電流は電荷粒子の流れであることを説明する。オームの法則について述べる。ジュール熱、電池の起電力を、エネルギーの転換過程として説明する。空間に分布している電流を、電流密度の場で表わす。電荷の保存則から、電流密度の場の形が決まる場合があることを示す。	同　上	同　上
9	磁石と磁場	磁石による静磁気現象について述べる。磁石は単独の磁荷に分けられず、磁気双極子が要素となる。磁気のクーロンの法則、ガウスの法則が成立ち、誘電体の場合と平行した記述ができる。磁束線は源を持たず、閉曲線としてのみ存在することを示す。	同　上	同　上
10	電流と磁場	運動している荷電粒子は磁場から力（ローレンツの磁気力）を受けることから電流に働く力を導く。磁気力を用いた機械・器機について説明する。電流と磁場とを結ぶ「ビオ・サバールの法則」、「アンペールの法則」を導く。	櫻井　捷海	櫻井　捷海
11	電磁誘導	コイルを貫く磁束が時間的に変化すると、電磁誘導によりコイルに起電力が生ずる。このファラデーの電磁誘導の法則を数学的に表現する。電磁誘導を用いた器機・機械について説明する。コイルの自己インダクタンス、コイル流れる電流が蓄えるエネルギーや磁場のエネルギーについても触れる。	同　上	同　上
12	ベクトル解析と静電磁場の法則の微分形	はじめにベクトル解析について説明する。これまでに電磁場の法則を積分形式で説明してきた。同じ法則を各点での場の微分量の関係として記述できると、接近作用の立場からより理解が深まる。手始めとして、静電磁場の場合を考える。	同　上	同　上
13	マクスウェル方程式の導出	ポアソン方程式を解く。また、ベクトルポテンシャルを導入し、それについて考えてみる。変位電流の導入により拡張されたアンペールの法則の微分形式を説明し、これまで述べてきた電磁場の法則をマクスウェル方程式としてまとめる。	同　上	同　上
14	マクスウェル方程式と電磁場	波が伝わる様を記述した波動方程式について調べたあとで、マクスウェル方程式から電磁波の波動方程式を導く。導かれた波動方程式を解くとき必要な境界条件や電磁波の反射、屈折などにも触れる。	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	電磁波の発生と検出	電磁場のエネルギーの流れを表すポインティングベクトルを導入する。時間変化のある電流や電荷が波源となって電磁場が発生・伝搬することをマクスウェル方程式から波源のある波動方程式とその遅延ポテンシャルの解を導き出すことによって示す。電磁波の伝搬やケーブル中の電気信号の伝搬についても考える。	櫻井　捷海	櫻井　捷海

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560301	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 熱と温度 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：堂寺 知成（京都大学大学院准教授）〕

講義概要

私たちの暮しの中で，熱を仕事に変える機械としてのエンジンを利用し，温度をコントロールするためにエアコンや冷蔵庫を利用している．また，環境問題や地球温暖化の問題で，熱と温度はキーワードである．この講義は，このような熱と温度の本性をミクロとマクロの立場から理解することを目的としている．

授業の目標

共通科目程度の準備を終えた学生のための統計力学と熱力学の入門講義を行う．物理と化学の両分野にわたるので，両分野にバランスのとれた内容になっている．身近な現象をとりあげたり，簡単な実験，シミュレーションなどを取り入れ，多様なバックグラウンドを持つ学生にも理解しやすい講義を目標としている．より進んだ物質科学．工学，情報科学，環境科学などの学習に必須の基礎教養を与える．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	熱と温度	熱と温度という言葉は日常的にもよく使われるが，サイエンスの立場からそれらの概念を正確にとらえる必要がある．熱現象をミクロから説明する立場と，マクロな現象としてとらえる2つの立場の関連を理解する．さらに温度測定について詳しく学ぶ． 【キーワード】 熱，温度、ミクロ、マクロ	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（京都大学大学院准教授）	齋藤一弥（筑波大学大学院教授） 堂寺 知成（京都大学大学院准教授）
2	分子の熱運動	箱の中の気体はマクロには静止していても，ミクロには分子は絶え間なく運動している．それを分子の熱運動という．この章では，分子の熱運動の証拠であるブラウン運動と，分子の熱運動と温度の関係を学び，あなたが呼吸している酸素分子の速度を計算する． 【キーワード】 分子運動論、ブラウン運動	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）
3	マクスウェルの速度分布	マクロな体系に含まれる分子は多数あり，それら全ての運動状態を把握することは不可能である．しかし，いかなる運動状態がどれほどあるかという統計集団として情報は知ることができる．分子運動が無秩序であることによって，かえって単純な統計法則が浮かび上がってくる．このことをシミュレーションによっても確かめる． 【キーワード】 マクスウェルの速度分布、確率分布	同上	同上
4	統計力学の考え方	多数の粒子から成る体系の熱的な性質をミクロな粒子の力学法則から出発して理解する統計力学の基本的な考え方を学ぶ．エルゴード仮説に基づき，エネルギー配分の確率について学習する．理解のために手作りボルツマン分布の実験を行う． 【キーワード】 統計力学、ボルツマン分布	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	マクスウェルーボルツマン分布と応用	前章で導いた統計力学の基本法則に基づいて，いくつかの系の統計力学的な性質を調べる．個々の粒子が2つのエネルギー値だけをとる2準位系，多数の調和振動子から成る系などを取り上げ，それらの系の温度を上げるのに必要な熱量である比熱を計算する． 【キーワード】 2準位系、調和振動子、比熱	堂寺 知成 (京都大学大学院准教授)	堂寺 知成 (京都大学大学院准教授)
6	相転移	水が固体，液体，気体の三態をとるような状態の変化を相転移という．統計力学的には相転移を多数のミクロな粒子の相互作用がもたらす協力現象として理解できる．具体的には，磁性の相転移を調べるイジング模型とよばれる模型を学び，シミュレーションを使って理解を深める． 【キーワード】 相転移，イジング模型	同上	同上
7	量子統計	電子や陽子などの同種の素粒子の集りを量子力学で考える場合には，粒子が区別できないことによる素粒子の統計性を考慮する必要がある．波動関数の対称性からボース粒子とフェルミ粒子に区別され，ボーズ分布とフェルミ分布という全く異なる分布が生ずる．具体例として，理想フェルミ気体の自由電子模型を学ぶ． 【キーワード】 量子統計，ボーズ分布，フェルミ分布	同上	同上
8	熱力学の法則	多数の粒子から成る系(巨視的系)の振る舞いは熱力学という現象論で整理できる．前章までで統計力学的に導いた性質を熱力学の法則としてまとめ，化学的な問題へ応用する準備を行う． 【キーワード】 熱力学，第1法則，第2法則	齋藤 一弥 (筑波大学大学院教授)	齋藤 一弥 (筑波大学大学院教授)
9	熱力学平衡の条件と変化の向き	状態を指定して長時間待つと，巨視的系はやがて変化の無い平衡状態に到達する．温度と圧力を指定した状態ではギブズエネルギーという熱力学量が最小になっている．これを理解することは，化学的な問題に熱力学を応用する上でのキーポイントである． 【キーワード】 ギブズエネルギー	同上	同上
10	物質の三態と相平衡	水は1気圧において固体，液体，気体の三態をとるが，二酸化炭素は気体と固体しかとらない．ギブズエネルギー最小の原理に基づいて純物質の相図(相安定図)を考え，様々な物質の性質の違いを理解する． 【キーワード】 相図	同上	同上
11	化学ポテンシャルと混合物のギブズエネルギー	混合物の平衡状態を議論するために，混合物中で各成分が持つモルあたりのギブズエネルギーである化学ポテンシャルについて学ぶ．混合物が平衡に共存するための条件を理解する． 【キーワード】 化学ポテンシャル，相律	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	溶液の性質	溶液について化学ポテンシャルを決める方法について学ぶ．このようにして決めた化学ポテンシャルを用いると，溶液の示す凝固点降下，沸点上昇，蒸気圧降下，浸透圧などの性質は前章で学んだ混合物の平衡の条件から説明できる． 【キーワード】 理想溶液，束一的性質	齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）	齋藤 一弥（筑波大学大学院教授）
13	化学反応への応用1：反応熱	化学反応に熱力学を応用するには，物質が反応で変化した場合でも意味のある「基準の状態」を決めなければならない．これを決めれば化学反応に伴う熱の出入りを．実際に実験することなく計算することができる．コンピュータの発達の意義についても考える． 【キーワード】 熱化学，熱力学データベース	同上	同上
14	化学反応への応用2：化学平衡	ギブズエネルギー最小という平衡の条件を利用すると，「反応が進んだらどれだけ発熱するか」にとどまらず，「反応がどれだけ進むか」を予測することができる．「質量作用の法則」が混合系の化学ポテンシャルから導かれることを学ぶ． 【キーワード】 化学平衡，平衡定数	同上	同上
15	熱伝導	断熱材の有無で冷暖房費が大きく異なり，寒冷地などでは衣服の耐寒性が問題となってくる．このように熱伝導の問題は生活に関わりが深い．この章では，環境問題を例としながら，熱伝導，対流，放射など熱の伝わる仕組みと法則を学ぶ． 【キーワード】 熱伝導，対流，放射	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）	堂寺 知成（京都大学大学院准教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1663402	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 量子物理 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：生井澤　寛(放送大学教授)　〕

〔主任講師（現職名）：小形　正男(東京大学教授)　〕

講義概要

古典的な世界で成り立った物理法則が、ミクロの世界で、成り立たないことを見て行きながら、なぞを解く鍵を探る。鍵は、エネルギーが飛び飛びになることにあった。さらに、波と考えられた光に粒子性が現れ、粒子とみなされた電子に波動性が発見された。これらのなぞを解く鍵は、ミクロの世界の論理である量子力学によって解かれることを見てゆく。そして、実験と量子力学を用いて、さらにミクロの世界を探ると、基本粒子としてのクォークとレプトンおよび力の媒介粒子からこの世界が成り立つという、自然観に行き着く。この自然観は、宇宙の初期の世界とも密接に結びつくことを示そう。さらに、量子力学は、半導体などの日常生活に欠かせない量子素子の開発にこれからも活躍するに違いない。関連科目:「物理の世界」、「現代物理」

授業の目標

現代物理の中核をなす量子力学の基本を理解させる。少し数学を使うが、順に説明してゆく。量子の論理は、演習無しではなかなか理解できないので、基本的な課題を用意する。ぜひ自分で汗を流して解いていってほしい。履修者が、課題を解き、悩みながら進むことを、励ましてゆきたい。

履修上の留意点

物理の基礎、とくに力学、電磁気学、熱力学・統計力学を核とする古典物理をある程度学んでいることを前提にする。そのために、「初歩からの物理学」、「物理の世界」、「現代物理」を履修することが望ましい。

専門科目 自然と環境

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ことの始まり	人間が培ってきた、自然界で起こる現象や法則性について振りかえり、20世紀末前後にかんせいした古典物理の主要な考え方をまとめる。そして、古典物理では理解できない謎のいくつかに触れる。 【キーワード】 科学的考えの芽生え、ニュートン力学、光をどう捉えたか、電磁気学、熱の物理　陰極線の発見	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
2	深まる謎:古典物理の限界	実験技術の進歩と精度の上昇により、低温現象や、溶鉱炉の温度と光の色の関係、光電子効果などが、前回のなぞをさらに深める内容を持つことを示す。 【キーワード】 電子の発見、放射能と原子の崩壊、線スペクトル、熱力学第3法則と低温比熱、物体の温度と色、光電子効果	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）
3	謎を解く鍵:エネルギーがとびとび	なぞを解くきっかけとなった、プランクの大胆な発想、飛び飛びのエネルギー(エネルギーの量子化)を導入し、温度と色の関係を解く。エネルギー量子の概念は、光電効果のなぞも解き、光は、量子(光量子、光子)として粒子のように振舞うことを見る。 【キーワード】 プランクの放射式、エネルギー量子、光量子、コンプトン効果	生井澤　寛（放送大学教授）	生井澤　寛（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	量子の考えが広がる	エネルギー量子の考えはさらに、音の振動しにも適用され、低温比熱のなぞが解ける。また、原子にも適用されて、古典論との対応をつけながら、原子の飛び飛びのスペクトルのなぞが解け、周期表と原子の構造がだんだんに明らかになる。 【キーワード】 低温比熱、ボーアの原子模型、対応原理、電子スピン、排他原理、周期表	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
5	ミクロの世界の論理:量子力学 I:波動的見方	量子の世界で、状態はどうあるべきか。光が波であると同時に粒子のように振舞えば、粒子である電子も波として振舞ってよいだろう。この考えに立って、波としての電子が従う波動方程式を立て、水素原子の問題が解かれ、実験を見事に説明した。波動力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ドブロイの考え、シュレーディンガーの見方、波動方程式	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
6	ミクロの世界の論理:量子力学 II:粒子的見方	エネルギー量子によって開かれた量子の世界における物理量の時間変化はどう決まるのだろう。振動数が時間変化を与える古典物理のフーリエ成分に注目すると、物理量は、状態の間を結ぶ行列と考えることができる。行列力学による量子力学の誕生である。 【キーワード】 ハイゼンベルグの見方、物理量は行列、行列力学と固有値問題、	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
7	平面波とその性質	シュレディンガー方程式の最も基本的な解である平面波を調べ、波動関数の基本的性質を見てゆく。平面波によって表される粒子(例えば電子)がどのような振る舞いをするかについて、いくつかの特徴的な現象を調べる。平面波の直交関係から、δ関数を導入する。 【キーワード】 平面波、干渉、波の重ね合わせ、運動量演算子、δ関数	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)
8	平面波の反射や透過	前回調べた平面波を用いて、それが壁で反射した場合にどのようなことが起こるか具体的にシュレーディンガー方程式を解いて考える。また、透過するときの、反射波・透過波などについて量子力学の特徴をみる。 【キーワード】 壁による反射、壁での境界条件、位相、反射波と透過波、確率流れの密度、	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)
9	トンネル効果、束縛状態	前回に引き続いて量子力学の奇妙な現象を平面波を例に考える。 とくに量子力学特有のトンネル効果について調べる。さらに井戸型のポテンシャル中に束縛された状態など、いくつかの典型的な例について考える。また特異性がある場合の波動関数の境界条件についても説明し、それを用いてδ関数のポテンシャルの場合のシュレーディンガー方程式を解く。 【キーワード】 トンネル効果、井戸型ポテンシャル、束縛状態、零点振動、波動関数の対称性、δ関数ポテンシャル	小形正男(東京大学教授)	小形正男(東京大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	調和振動子	今までは直線運動に対応する平面波を調べた。今回は、もう1つの代表的な運動である単振動の量子力学を調べる。単振動（調和振動子）は、古典力学でいろいろな場面において基準振動として現れた。量子力学においても様々な局面で調和振動子が重要な役割を果たす。とくに調和振動子のエネルギーは、とびとびの値だけを持つという非常に特徴的な振舞いをする。これをエネルギーの量子化という。 【キーワード】 調和振動子、エルミート多項式、エネルギーの量子化、調和振動子の波動関数、零点振動と不確定性原理、期待値の計算	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
11	粒子のように振舞う波	実験では、粒子は波と同じような性質を示すとともに、その名の通り粒子的な性質も示す。たとえば電子が電場・磁場中で運動する様子を調べるときには、質量m 電荷-eを持つ粒子がニュートン方程式に従って運動するとして実験をうまく説明することができる。実は平面波を重ね合わせることによって"粒子的な振舞いを示す波"というものを作ることができる。これを一般に波束という。電子や素粒子が粒子的に振る舞うように見えるときは、この波束状態となっていると考えればよい。 【キーワード】 波束、重ね合わせ、不確定性原理、波数空間、波束の広がり、波束の時間発展、エーレンフェストの定理	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
12	角運動量	実際には3次元空間でのシュレーディンガー方程式を解く必要がある。この回から、球対称ポテンシャルがある場合のシュレーディンガー方程式を解く。とくに水素原子についてシュレーディンガー方程式を正確に解くことができ、その結果、原子構造での1s, 2s, 2pなど物質を構成する基本的な量子力学状態がわかる。まず今回は、角度方向の波動関数を調べる。 【キーワード】 ラプラシアン、角運動量演算子、球面調和関数、磁気量子数。方位量子数	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
13	水素原子の波動関数	前回、角運動量の2乗の固有値は量子化されて、とびとびの値しか持たないことを示した。これを用いてシュレディンガー方程式の動径方向の波動関数を調べることができる。この結果、水素原子の波動関数がすべてわかったことになる。 【キーワード】 遠心力ポテンシャル。ラゲール多項式。主量子数。さまざまな電子の軌道。水素原子のスペクトル線。	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）
14	角運動量の代数とスピン	微分演算子として角運動量演算子を表すと、演算子間の交換関係に非常に単純な関係がある。これを角運動量の代数という。この関係を使うと、微分方程式を解かなくてもいろいろと有益な事柄が代数計算によって得られることがわかる。さらに、この性質を一般化することによって、新たにスピンという量子力学特有の物理量が理解できることも示す。 【キーワード】 交換関係、昇降演算子、角運動量の一般化、スピン、フェルミ粒子とボース粒子	小形正男（東京大学教授）	小形正男（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	深まる量子の世界	量子力学は、ミクロの世界で、どこまで通用するのだろう。原子から、原子核、素粒子とどんどん小さい世界の物理を、量子力学と相対性理論で探求してゆこう。量子力学は、ごく小さな世界でも成り立つことがわかる。しかし、実験的には、素粒子がいっぱい現れて、手に負えない。では、基本粒子はないか。これらを探ると、ミクロの世界が、宇宙というマクロな世界とつながることが見えてくる。また量子力学は、半導体など日常に欠かせない量子素子の開発を可能にした。 【キーワード】 原子核、いろいろな素粒子、相互作用の階層性と保存則、複合粒子模型、標準模型、ビッグバンと宇宙の初期、物質の性質	生井澤 寛(放送大学教授)	生井澤 寛(放送大学教授)

＝　物質の科学・有機化学（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：太田　博道（慶應義塾大学名誉教授）〕

全体のねらい

私達の身の回りにある物質は多くが有機化合物であり，我々生き物の構成成分も水以外はほとんどが有機化合物である．私達は太陽のエネルギーがなければ生きていくことはできないが，そのエネルギーは二酸化炭素の還元に使われ，有機化合物が蓄積される．本講義では，これら有機化合物の基礎的性質を理解するとともに，どのような物質がどんな働きをしているか理解することを目的とする．

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	有機化学の歴史	有機化学は無機化学と対をなす言葉で，「生物がつくる化合物の化学」として始まった．やがて尿素が無機化合物から合成されて，この定義が意味を失い，以後「炭素化合物の化学」として発展して来た．現在では私達の生活を支えると共に再び生命科学と密接に関係していることを概観したい．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
2	有機化合物はなぜ多いか	有機化合物（炭素を含む化合物）の数は他の元素を骨格に含む化合物に比べて極端に多い．分子の成り立ち，結合エネルギー，結合の極性，反応によるエネルギーの出入り，反応が進む条件等について学び，有機化合物が膨大な数存在し得ることを理解する．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
3	有機化合物のかたち	有機化合物は結合の仕方によって様々な形をとる．そしてその形の違い故に同じ構造でも性質がまるで違うことがある．何故いろいろな形になるのか，どんな種類があるのか，性質としてどんな違いがあるのか，化合物の右手型と左手型とはどういうものなのかについて学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
4	有機化合物の反応の種類と駆動力	そもそも「化学反応」とは何か，有機化学反応と無機イオンの反応はどこが違うのか，何故反応が起こるのか，反応の方向を決めるものは何か，等々について学ぶ．また，反応溶媒という観点から見ると，私達が日常的に接している水が極めて変わった性質を有する物質であることも理解したい．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
5	石油からエチレン，そして化学工業へ	我々の生活を支えている物質の多くは元をたどると石油と石炭からできている．中でも石油への依存は高いが，石油化学の基幹物質は原油から製造されるエチレン，プロピレン等の二重結合を有する化合物である．この章ではこのような不飽和結合への付加反応，付加重合について学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	飽和化合物の反応−置換反応と脱離反応	5章の付加反応と並んで重要なのは，飽和炭化水素上で官能基が入れ替わる置換反応である．アルコールとハロゲン化物の相互変換，エポキシドの開環反応，反応に伴う形の変化等について学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
7	食物の代謝と酸化還元反応	我々も含めて動物は炭水化物や油脂を酸化してエネルギーや生体成分をつくっている．その意味で酸化反応とその逆反応である還元反応は極めて重要な反応である．また，自動車を走らせる等のエネルギーも酸化反応によって得られる．反応に伴うエネルギーの出入りについてもこの章で理解したい．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
8	諸刃の剣−酸素と有機化合物そして生き物	7章で述べたように我々は酸素がなければ生きていけない．では，酸素濃度が高い程良いかと言うと決してそんなことはない．酸素は反応性が高いので，様々な有機化合物に対して「有害」でもある．酸素が原因である老化，物質の劣化，そして大気圏で重要なオゾン層の破壊とは何かについて学ぶ．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
9	カルボン酸とアミン	カルボン酸は代表的酸であり，アミンは塩基性である．これらに関連する化合物は極めて多い．我々の体をつくるタンパク質，絹・ナイロン・ポリエステル等の繊維，界面活性剤，食品添加物等挙げればきりがない．これらについて学ぶと同時に，酸や塩基とは何かについても学ぶこととしたい．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
10	石炭から染料の合成−芳香族化合物の化学	染料を天然の花の色素に頼っていた時代には，赤や紫の服は貴族や富裕階級だけのものであった．これを一変させたのが石炭を原料とする染料の合成である．他にも石炭の乾留でとれるベンゼン，トルエン，キシレンを原料とする工業製品は日常生活に欠かせない．どのようにつくられるか概観する．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
11	光・電子機能材料−エレクトロニクスを支える有機機能材料	20世紀特に後半に入ってからは、実に多彩な新物質、特に機能材料がつくられ、それらが人類生活と社会文化の向上に果した役割は誠に目覚しい。今や人工物質を除いては人間の暮らしそのものが成立たなくなって来ている。最新の有機機能材料に焦点を絞り、分子設計と機能について学ぶ。	山元公寿（慶應義塾大学教授）	山元公寿（慶應義塾大学教授）
12	キラリティと医薬	分子の形には，結合軸のまわりの回転で変化するものと変化しないものがあることは既に学んだ．タンパク質は光学活性体であるため，これと相互作用する医薬品や農薬では形は決定的に重要である．どのような例があるか見てみたい．また一方の形の化合物だけつくるにはどうするか考えてみよう．	西山繁（慶應義塾大学教授）	西山繁（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	天然有機化合物と生理活性	天然に得られる有機化合物は、それぞれを産生する動植物あるいは他の生体に対して特徴的な働きを示す。それらは、多岐にわたる化学構造をもち、微量でも大変強い活性を持つことが知られている。性ホルモンとして知られるステロイド類などをはじめ様々な天然有機化合物を学んでいく。	西山　繁（慶應義塾大学教授）	西山　繁（慶應義塾大学教授）
14	生体内の有機化学反応−神様の仕掛けを有機化学で種明かし	植物は二酸化炭素から炭水化物を合成し，動物は逆である．ここでは多くの炭素−炭素結合生成反応と開裂反応が活用されている．これらを中心に解糖系，ＴＣＡサイクル，脂肪酸の生合成と代謝，メバロン酸経路等生合成や代謝に重要な役割を果たしている反応を有機化学的観点から概観する．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）
15	生体の機能を利用する有機化学	これまでに光学活性体の重要性，生体内の反応の機構について学んだ．生体反応を触媒するものは酵素であるが，今日ではこの酵素が物質変換に利用され，生体触媒と呼ばれている．洗剤にも入っているし，酵素は決して細胞内だけで作用するものではないのである．この点を具体的に学びたい．	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）	太田博道（慶應義塾大学名誉教授）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目ｺｰﾄﾞ	1666002	履修制限		単位数	2

科目名（メディア） ＝ 量子化学 （’０９）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：濱田　嘉昭（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：大野　公一（東北大学大学院教授）〕

講義概要

自然現象は物質の示す性質と変化の現われである。したがって、物質のミクロの単位である分子の性質と運動を理解することは自然現象の基本法則を理解することにも通じる。さまざまな原子からどのように作られるのか。その結果、どのような性質を発現することになるのかについて、量子論に基づいて解説する。また、そのような分子の運動や性質をどのようにして観測するのかについて解説する。

授業の目標

量子力学の初歩的な事柄を復習し、さらに分子へ応用する場合の理論の基礎について学ぶ。分子の見せる量子的な性質と分子を観測する実験方法との間にどのような理論的基礎があり、観測によって何がわかるのかについて理解する。

履修上の留意点

量子力学（放送大学の教材では「量子物理」）、微分積分学や線形代数学などの基礎を理解しておくことが望まれるが、本教材の道筋と結果の概要を知った上で、前記の関連の科目を履修することも可能と思われる。分子の形状や性質については「基礎化学」などで学んでおくことが重要である。簡単な計算問題などを解きながら勉強することが理解を深める上で有効である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1．ミクロの世界への導入				
1	量子の世界(1)：量子性の現れ	われわれの日常生活ではさまざまな物質を使うことで成り立っている。生体も、タンパク質や核酸、脂質など多くの物質の成す複雑な系である。目にする自然現象すべてが物質の生々流転である。これらの物質は固有の性質をもっているのであるが、その物質の性質の源泉として最小単位としての分子に至る。この章では物質、特に分子の性質を理解する量子化学の立場を解説する。 【キーワード】 水の特徴、量子性、トンネル効果、水素結合、量子論の言葉	濱田　嘉昭（放送大学教授）	濱田　嘉昭（放送大学教授） 大野公一（東北大学大学院教授）
2．ミクロの世界の記述				
2	量子の世界(2)：粒子性と波動性	熱放射、光電効果、原子スペクトル、電子回折などの実験結果から、どのようにして量子論が誕生したかを概観する。物質中の電子が授受するエネルギーと電磁波のエネルギー量子とが、どのような関係にあるかを学ぶとともに、ミクロの世界の粒子性と波動性について代表的な実験事実を通して理解する。 【キーワード】 熱放射、エネルギー量子、原子スペクトル、電子波、電子回折	大野　公一（東北大学大学院教授）	大野　公一（東北大学大学院教授）
3	量子の世界(3)：シュレーディンガー方程式	ミクロの世界の基礎方程式、シュレーディンガー方程式（波動方程式）がどのようにして発見され、それをどのように解くのか、そして解いた結果から、どのようなことがわかるのかについて学ぶ。ハミルトニアンの作り方を学んで、箱の中の粒子について、波動方程式の解き方を詳しく学ぶ。また、調和振動子や剛体回転子の量子論的取り扱いや量子状態の特徴を理解する。 【キーワード】 シュレーディンガー方程式、定常状態、演算子、固有値	大野　公一（東北大学大学院教授）	大野　公一（東北大学大学院教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	電子の役割(1):原子中の電子	原子核とそれを取り巻く電子からできている原子において、電子がどのような役割を担うのか、シュレーディンガー方程式の解についてふれ、原子軌道のエネルギーおよび空間的な形の特徴を学ぶ。また、原子番号とともに電子配置がどのように変わるかを調べ、原子の化学的個性の量子論的由来を探求する。 【キーワード】 原子軌道、量子数、電子配置、周期性	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授)
5	電子の役割(2):分子中の電子	分子中の電子がどのような役割を担い、化学結合ができるのか、その量子論的な由来を知るとともに、シュレーディンガー方程式から出発して、どのように分子の問題が取り扱われるのか、主な近似法を学び、分子軌道法の基礎を習得する。 【キーワード】 電子密度、分子軌道、結合性軌道、反結合性軌道	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授)
6	二原子分子	軌道どうしが互いに近づいて分子軌道を形成する仕組みを、永年方程式の解に基づいて理解し、分子軌道の定性的な組み立て方を学ぶ。二個の原子からなる分子について、その化学結合が形成される仕組みを系統的に学び、結合の強さや、分子の磁性の量子論的由来を明らかにする。 【キーワード】 軌道の重なり、σとπ、結合の強さ、極性、磁性	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授)
7	多原子分子	3個以上の原子の集団から、どのようにして多原子分子ができるのか、その仕組みを学ぶとともに、分子構造がどのようにして決まるのか、その量子論的由来を学ぶ。 【キーワード】 多原子分子、結合角、混成軌道、原子価	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授)
8	電子配置と反応性	化学的反応性は何に支配されているのか、電子配置と関連付けて学ぶとともに、結合の形成や組み換えが起こる量子論的仕組みを探求する。 【キーワード】 遊離基、HOMO-LUMOの原理、フロンティア軌道、結合の組み換え	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授)
3．ミクロの世界の観察				
9	電子の分光	化学結合の形成や組み換えを担う電子の役割を実験で観測する研究手法の例として、電子分光について学び、光電子スペクトルの実験結果と分子軌道法による計算結果とを比較考察する。また、原子の励起状態とスペクトル項について学習し、電子エネルギー損失スペクトルとの比較を行う。 【キーワード】 光電子分光、解離エネルギー、スペクトル項、選択則	大野 公一(東北大学大学院教授)	大野 公一(東北大学大学院教授) 濱田 嘉昭(放送大学教授)
10	ミクロの世界の観測	原子や分子の形や運動は、目で直接に観測できない。このようなミクロの世界を観測する方法として、回折法、電子顕微鏡および分光法がある。それぞれ、電磁波の干渉効果、電子という粒子の示す波動性および電磁波と物質の相互作用を利用したもので、後の2つは量子性に深く関わっている。この章では、後の章に関わる分光法に関する一般的な事柄を学んでおく。 【キーワード】 計測における分解、電子顕微鏡、回折法、分光法、ボルツマン分布、遷移モーメント、選択律	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	分子の回転	気体状態になっている分子は、他の分子と衝突する前には一定速度の直線運動と回転運動を行っている。このうち、回転運動は量子化され、分子固有の飛び飛びのエネルギー準位が生じる。このエネルギー準位の間の遷移に対応する電磁波はマイクロ波から遠赤外線である。この回転スペクトルを測定することによって何がわかるのかを学ぶ。 【キーワード】 角運動量、マイクロ波、慣性モーメント、回転定数、分子構造	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授)
12	分子の振動	化学結合は結合長の数%から10%近くの大きさで伸縮しており、結合角は変形する。これらの分子振動のエネルギー準位は結合に関係する原子の質量とその化学結合の強さによって決まる。このエネルギー準位の間隔は赤外分光法およびラマン分光法で調べられ、分子の結合に関する情報を得ることができる。また分子振動は分析の目的に使用することができる。 【キーワード】 調和振動、赤外吸収、ラマン散乱、化学結合	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授)
13	電子スピンと核スピン	量子化学で扱う粒子の運動である電子スピン・核スピンに伴うエネルギーは、振動や回転、電子遷移などに比べて圧倒的に小さいにも拘らず、スピンの状態は粒子の存在に関わる本質的に重要な役割を果たしている。またスピンは物質の示す磁性の原因でもある。この章ではスピンと磁気モーメントの関係、スピンが化学の分野で果たす挙動について解説する。 【キーワード】 角運動量演算子、磁気モーメント、Zeeman効果、NMR	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授)
4．分子の量子性の応用				
14	レーザー	レーザーは20世紀に人類が発明した新しい光であり、これなくして現代の生活は成り立たない。CDやDVDのデータを取り出しているのはレーザーであり、その高い空間分解能を利用している。高速・大容量の通信システムは、その高い時間分解能を利用している。レーザーは原子や分子のもつエネルギーの量子性を利用したものである。本章ではレーザーの発振原理と化学への応用について学ぶ。 【キーワード】 誘導放出、レーザー光の特徴	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授)
5．分子から物体へ				
15	分子間相互作用	われわれが日常、目にしたり触れたりする物体は膨大な数の分子が集合したものである。これらの分子の間には分子間相互作用と総称される力が働いており、その結果、集合した分子は独特の構造と性質をもつことになる。分子集合体を扱う量子化学の現状を紹介する。 【キーワード】分子間相互作用、ファンデルワールス力、クラ	濱田 嘉昭(放送大学教授)	濱田 嘉昭(放送大学教授) 大野 公一(東北大学大学院教授)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1894218	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　分析によって知る世界（‘07）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：中村　洋（東京理科大学教授）〕

講義概要

分析科学は、新しい分析・解析法を創造する学問分野である。その成果は、他の実験科学のブレイクスルーに不可欠の強力なツールを提供すると共に、豊かで円滑な人間社会を維持する要素として随所に活用されている。本講義では、分析科学で培われた知識と技術が、実社会でどのように活かされているかを紹介する。

授業の目標

毎回、冒頭に社会で話題となった事柄を取り挙げ、そこで中心的な役割を果たした分析法の原理と分析技術のポイントを平易に解説する。その際、可能な限り原理の異なる分析法を盛り込めるように内容を構成し、分析法の特徴を通じてその有効な活用法について考察する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	分析で知るロマン ① ～化石は語る～	古代人が何を食べ、どんな植物を栽培していたか、など古代人の生活の一端を明らかにする分析法について解説する。例えば、三内丸山遺跡の「クリの実」化石のDNAを分析することで、クリが栽培されていた可能性が分った。また、動物の体内脂肪酸は動物種によって異なるので、糞石中の脂肪酸を分析することにより肉食した動物種がある程度推定できる。（遺伝子解析法、GC-MS、分析化学の進化）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
2	分析で知るロマン ② ～金属は語る～	考古分析科学は考古学的な試料を研究する分析科学であり、各種の機器分析法を駆使して試料の年代定、目に見えない図形・文字情報の解明、材料の産地特定などが可能となる。稲荷山古墳から出土した鉄剣、銅鐸中の鉛分析などにつき解説する。（X線撮影法、鉛同位体比測定法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
3	分析で知るロマン ③ ～美術品の鑑定～	古代人の絵に使われた絵の具は何か、有名な絵画が完成するまでに試行錯誤はあったのか、発掘品は本物か、などの疑問も分析手段の進歩で解明できる時代が来ている。高松塚古墳壁画の顔料分析、有名絵画の下絵などを例にとり考察する。（蛍光X線分析法、赤外線反射法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
4	分析で知るロマン ④ ～人類のルーツ～	人類はアフリカで生まれ、世界各地に広がって色々な人種ができたとする説があり、日本人のルーツについても研究が進んでいる。アルプスで発見されたアイスマンの子孫探し、母系遺伝を示すミトコンドリアDNAの分析結果に基づく、ブライアン・サイクス教授（英国）の報告などを解説する。（放射性炭素年代測定法、加速器質量分析法、DNA配列解析法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	分析で知る健康・病気 ① ～DNA 診断と遺伝子治療～	米国が中心になって進めたヒトゲノム計画の遂行に伴い、ヒトゲノムの DNA 解析技術の進歩は各方面に劇的な進展をもたらし、医学にも大きく貢献している。遺伝子検査、特定疾患の DNA 配列による診断、遺伝子治療を行うストラテジーを学習する。（遺伝子解析法、ゲル電気泳動法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
6	分析で知る健康・病気 ② ～乱用薬物の分析～	医薬品は健康の維持と疾病の治療に欠かせないが、悪用すると重篤な薬理作用を惹き起こし、社会問題となる。生体試料（毛髪、血液、尿など）中の覚醒剤、麻薬、LSD、脱法ドラッグ、シンナーなどの乱用薬物を正確に検出・定量する方法について学ぶ。（固相抽出、GC/MS）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
7	分析で知る健康・病気 ③ ～バイオマーカー～	疾病の早期診断法として、疾病の前兆または初期に生体が発する情報（バイオマーカー）をいち早く検出する研究の一端を紹介する。この目的には、様々な物質からなる生体試料中に出現する疾病に特有の微量物質を高感度で選択的に検出できる方法が求められる。（二次元電気泳動法、等電点電気泳動法、SDS-PAGE、二次元 HPLC）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
8	分析で知る健康・病気 ④ ～薬害事故～	医薬品は患者の症状に合わせて適正に使われることが重要である。用法・用量を誤ったり、予測できない副作用が現れた場合には、使用者は重篤な状態に陥る。前者の例として薬害キノホルム、後者の例としてサリドマイド被害を取り挙げ、その分析例を紹介する。（薄層クロマトグラフィー、キラル分離法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
9	分析で知る食の安全 ① ～残留農薬、遺伝子組み換え食品～	地球人口の増加に伴って、食料増産は世界的な課題となっているが、その半面では食品中に含まれる残留農薬、食品添加物、動物用医薬品、成長ホルモン、抗生物質、養殖うなぎ中の残留水銀、あるいは遺伝子組換え食品の流通などが社会的な問題となっている。その実情と対象物質の分析法を紹介する。（GC/MS、LC/MS、イムノアッセイ、原子吸光法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
10	分析で知る食の安全 ② ～環境ホルモン～	産業革命以降、人類は莫大な数の化学物質を合成し生活に役立ててきた半面、その一部が生態系を破壊している弊害が明らかになってきた。ここでは、所謂環境ホルモンとダイオキシンを中心に、それらがどのようにして分析されているかを学ぶ。（GC/MS、LC/MS）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
11	分析で知る食の安全 ③ ～BSE（牛海綿状脳症）～	家畜や人間の脳神経系が侵される病気として、スクレイピー（ヒツジ）、BSE（牛海綿状脳症）（ウシ）、クロイツフェルト・ヤコブ病（ヒト）などが知られている。このうち、BSE の検査には異常プリオンタンパク質の検出が行われており、本講義でその概要を解説する。（ウエスタンブロッティング法、イムノアッセイ）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	分析で知る食の安全 ④ ～食中毒～	食中毒は腐敗した料理や食品を摂取することで起きる。多くの場合は、病原性細菌（大腸菌、サルモネラ菌、ボツリヌス菌、など）が消化管内で産生した毒素（O157ではベロ毒素）が原因となるが、生牡蠣などの二枚貝による食中毒ではノロウイルスが原因と考えられている。原因微生物・毒素の検出法を解説する。（微生物検査法、毒素検出法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
13	分析で知る犯罪捜査 ① ～鑑識科学～	鑑識科学では現場に残された繊維、塗料、着衣に付着した口紅、花粉など様々な物品が検査対象となるが、中心は体内の化学物質である。ここでは、地下鉄サリン事件、和歌山毒入りカレー事件などを取り挙げ、鑑識化学の基本を考える。（SPring-8での蛍光X線分析法、イオンクロマトグラフィー）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
14	分析で知る犯罪捜査 ② ～DNA鑑定～	従来の化学操作は血液型、指紋などを大きな拠り所にしていたが、DNA解析による個人情報を採り入れたことにより、最近の犯罪捜査は著しく信頼性を増した。DNA鑑定は犯人の特定のみならず、親子鑑定、兄弟鑑定などにも有効である。現在、日本の警察で採用されている方法、研究段階にある方法などの原理と精度を解説する。（DNAによる個人識別法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）
15	分析の現状と将来 ～課題と可能性～	分析化学は、物質の分離と検出に関わる学問であり、それぞれ高選択性化と高感度化を目標に掲げ発展してきた。その過程で、成果としての新規原理や方法論は他の分野に待望されるツールとなり、その発展を促進してきた。最終講では、分析科学・分析技術の最新動向を紹介すると共に、将来の課題を考える。（レーザー励起蛍光検出キャピラリー電気泳動法、マイクロチップ法、個人認証法、非分離多成分定量法）	中村　洋（東京理科大学教授）	中村　洋（東京理科大学教授）

＝ 進化する宇宙（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　杉本　大一郎（放送大学名誉教授）〕
〔主任講師：　吉岡　一男（放送大学准教授）〕

全体のねらい

宇宙とその進化について、最新の知見に重点をおきながら論じる専門科目。宇宙がどのようにして始まり、進化して現在の多様性に富む宇宙になったかについて、その概要は共通科目の「宇宙とその歴史('04)」で述べられている。そこでは、そのような事柄を研究し解明することの意味と意義に重点がおかれているのに対し、この専門科目では宇宙の進化過程に現われるいろいろな天文現象についてその本性を解明すること、そこで起こっている物理過程を考慮しながら進化のドラマを構成することに重点をおく。そのため、全体の構成を星、銀河、宇宙の３つの階層に分け、それぞれの最先端における研究者が分担して講義する。天文現象を観測してそこから情報を読み取ることについては、これと並行して開設される「宇宙からの情報('05)」で詳しく議論される。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	進化する宇宙	宇宙がどのように始まり、進化してきたかを時間経過に沿って考える。それは宇宙に天体の階層構造が形成されてくる過程である。それをとおして、宇宙の構成について描像をつくり、それぞれの過程において何が問題になるかを述べ、この講義全体のための導入とする。	杉本大一郎（放送大学名誉教授）	杉本大一郎（放送大学名誉教授）
2	宇宙の進化を論ずるための基礎法則	宇宙の進化を論ずるための基礎的な法則のうち、放射とミクロの世界に関する法則、運動に関わる法則等を解説する。また観測結果の整理によく使われる図表についても解説する。	吉岡　一男（放送大学准教授）	吉岡　一男（放送大学准教授）
3	星の誕生と主系列星	恒星はどのようにして誕生するのか。また、太陽系のような惑星系や２つの星からなる連星系がどのようにして生まれるのかを解説し、恒星の光り輝く原因が水素の核融合反応によることを示す。見えない恒星の内部をどのようにして理解することができるかについても触れる。	蜂巣　泉（東京大学大学院准教授）	蜂巣　泉（東京大学大学院准教授）
4	恒星の進化と終末	恒星は時間が経つにつれてどのように進化するのか、その基礎を解説する。とくに、質量の比較的小さい中小質量星が赤色巨星へと進化し、ガスの一部を放出し、最終的に白色わい星になることが、散開星団や球状星団などの観測によって検証されることを示す。赤色巨星や白色わい星がどのような構造を持つかについても解説する。	同上	同上
5	超新星爆発と元素の進化	質量の大きい大質量星の進化とその最終段階としての超新星爆発について解説する。恒星の進化の過程をとおして恒星内部で合成された重元素が、超新星爆発をとおして宇宙空間に供給される。それが新しい星に取り込まれて現在の地球などで見られる元素組成になった。このような元素の化学進化について解説する。	同上	同上
6	連星の進化と終末	連星系は、その進化の途中で相手の星へガスを供給したり、また、相手の星からガスを受け取ったりすることで、単独星とは異なる進化の道を歩む。連星系における質量の交換を説明し、それが連星系の進化にどのような影響を及ぼすかを解説する。その結果、活動的な天体の多くが、ガスをやりとりする連星系であるとして説明可能なことを示す。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	われわれの銀河系	私たちの住んでいる天の川銀河がどのような天体なのかをまず理解する。天の川銀河に存在する星やガス星雲、星団などの性質を合わせて理解する。銀河系の中心部に何があるかについても考える。近傍の銀河と比較して、天の川銀河の理解を深める。銀河までの距離測定の方法を理解する。	谷口　義明（愛媛大学大学院教授）	谷口　義明（愛媛大学大学院教授）
8	一般の銀河	いろいろな形を持つ銀河の世界を探訪し、宇宙に存在する多様な銀河を理解する。銀河の力学的性質を理解し、銀河の構造の多様性について理解する。銀河の年齢について考え、銀河の進化について理解する。	同上	同上
9	活動銀河	銀河の中で起こる高エネルギー現象の現場を調べる。大質量星がバースト的に生まれている銀河を調べ、それが銀河の進化に与える影響について考える。銀河中心核に何があるかを考え、超大質量ブラックホールの存在を理解する。超大質量ブラックホールを起源とするさまざまな高エネルギー現象を概観する。	同上	同上
10	銀河団	銀河が集団になって存在している様子を調べる。連銀河（バイナリ銀河）、銀河群、銀河団などを例にとり、銀河の集団としての特性について理解する。また、銀河の性質がどのような影響を受けるかについて考える。さらに、宇宙における銀河の空間分布の様子を一般的に調べ、宇宙における構造形成について考える。	同上	同上
11	膨張宇宙	1915年の一般相対性理論の誕生によって、宇宙全体の進化を数式によって記述することが初めて可能になった。一般相対性理論に基づくフリードマン宇宙モデルについて解説し、その進化が宇宙の物質の量などによって、どのように異なることになるかを見る。併せて、膨張宇宙の特徴である赤方偏移やハッブルの法則などについても述べ、宇宙膨張の観測的証拠についても紹介する。	杉山　直（名古屋大学大学院教授）	杉山　直（名古屋大学大学院教授）
12	ビッグバン	膨張宇宙を逆に辿っていくと、非常に高密度な初期宇宙であったことが想像される。ガモフによって考え出された高温、高密度であった宇宙初期の状態こそビッグバンである。ビッグバンとその観測的証拠である宇宙マイクロ波背景放射について解説し、宇宙の辿ってきた熱史を紹介する。	同上	同上
13	宇宙の階層構造	現在の宇宙は、惑星、星、銀河、銀河群、銀河団、そして宇宙の大規模構造と、非常に多様かつ階層的な構造を示している。ここでは、銀河より大きいスケールの構造がいつ、どのように膨張宇宙の中で形成されてきたかについて、数値シミュレーションの結果も交えて解説する。それらを、最新の観測成果と比較する。	同上	同上
14	宇宙の進化と運命	膨張宇宙の進化を決定づける物質密度、空間曲率、宇宙項などがどのように決められてきたかを解説する。とくに、宇宙マイクロ波背景放射の温度揺らぎや、遠方の超新星の探査などについて述べる。その結果、私たちの宇宙が今後どのような運命をたどるのかについて、見ていく。	同上	同上
15	宇宙はなぜ進化する	これまでの講義では、宇宙がどのように進化し、現在の宇宙にどのような階層構造と多様性が実現されているかを見てきた。いっぽう物理学の一般的な理論によると、閉じたシステムのエントロピーは増大し、構造や多様性は消失する、すなわち物事は「進化」とは逆の方向に進むことになる。それにも関わらず宇宙が進化してきたのは何故であろうか、そこでどういうメカニズムが役割を果たしているのであろうか。このことに関する反省をとおして、非線形・非平衡の世界観に至る。	杉本大一郎	杉本大一郎

＝　宇宙からの情報（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　吉岡　一男（放送大学准教授）〕
〔主任講師：　杉本　大一郎（放送大学名誉教授）〕

全体のねらい

宇宙に関する科学は実証科学であるから、現実世界としての宇宙を対象とする。そのためには、宇宙と天体から微弱なシグナルとしてもたらされる情報を、観測をとおして読み取らなければならない。それには広く物理系分野にわたる高度な技術と科学が用いられる。情報を担ってくる電磁波や粒子は、最近ではあらゆる波長帯や特性にわたって観測され、それぞれに固有な側面に対応して、広くかつ深く情報が取得される。この講義ではそれらに関する最新の手段と方法、それによって得られた知見について、それぞれの最先端における研究者に論じてもらう。ここで取り上げられる天体現象が宇宙の進化という文脈において持つ位置と意味については、これと並行して開設される「進化する宇宙('05)」の講義を参照されたい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	宇宙の観測	宇宙を観測する際に、どのように広い物理パラメターの範囲と広いアスペクトから情報を得ようとしているか、また得られているかについて概観する。またそれらの特質について実験室科学の方法とも対比しながら論じ、この講義全体への導入とする。	杉本大一郎（放送大学名誉教授）	杉本大一郎（放送大学名誉教授）
2	観測のエネルギーバンド	宇宙からの情報を得るために、可視光だけではなく、電波からＸ線・ガンマ線に至る広範囲の電磁波が観測される。それは異なる波長が異なるエネルギーの光子に対応し、宇宙の異なる側面を示しているからである。ここでは、それぞれの波長の観測が宇宙のどのような側面について情報をもたらすかを、黒体放射の場合について解説する。	吉岡　一男（放送大学准教授）	吉岡　一男（放送大学准教授）
3	観測の分解能	宇宙の観測は、空間・時間・波長等のいろいろな分解能のもとで行なわれる。本章では、それぞれの分解能がどのような意味をもち、また、観測装置のどのような性能によって決定されるかを解説する。さらに、分解能とＳＮ比等との関係についても述べる。	同上	同上
4	光と赤外線で宇宙を見る	可視光から赤外線で宇宙からの情報を得るのに必要な基本的な概念として、望遠鏡の集光力や分解能、赤道儀や経緯儀、シーイングなど説明する。光の検出等について、眼視から写真へ、さらに２次元半導体検出器への発展を振り返り、現在の大型光学望遠鏡で使用されている最先端技術について、すばる望遠鏡の例をふんだんに取り入れて解説する。	林　正彦（自然科学研究機構国立天文台教授）	林　正彦（自然科学研究機構国立天文台教授）
5	天体物理学の発展	星の色とスペクトル線など分光学的性質を述べ、スペクトル分類、ＨＲ図などを解説する。続いて銀河の説明に入り、ハッブルによる銀河の「発見」、銀河の分類、活動する銀河について解説する。具体的な観測例をもとに、銀河の色、渦巻と星の形成など、基本的事項を解説し、そこで新しい観測技術が果たす役割を強調する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
6	星と惑星系	星の物理的性質がその質量によって決まることから始めて、星の質量分布、最大質量、最小質量、褐色矮星について説明し、観測の視点から重要となるパラメータについて検討する。星と惑星系の形成に関するさまざまな現象とその観測について紹介して解説し、最後に太陽系外惑星の探査に触れる。	林　正彦	林　正彦
7	宇宙の構造	ハーシェルの銀河系宇宙モデルから、銀河が遠方の星の集団だと認識され、宇宙の大規模構造の発見に至るまでの、人類の宇宙認識の発展について、すばる望遠鏡の成果を交えて解説する。その際、それぞれの段階で新しい観測と観測技術がもたらした役割を強調する。ハッブルによる宇宙膨張の発見と、ビッグバン宇宙論への発展について解説し、最近の新しい技術による超遠方銀河の探索から分かってきた成果を紹介する。	同上	同上
8	電波を見る宇宙	電波による宇宙の観測が始まってから70年が経過した。この間の電波の観測によって数多くの発見がなされ、宇宙の新たな描像が明らかになり、認識が格段に深まった。この歴史を振り返りながら、電波による観測の特長や、観測の原理について解説する。	川辺　良平（自然科学研究機構国立天文台教授）	川辺　良平（自然科学研究機構国立天文台教授）
9	電波で探る宇宙の爆発・活動現象	電波の観測により、宇宙におけるさまざまな爆発現象、活動的な現象が明らかにされ、ダイナミックな宇宙の姿が解明されてきた。ビッグバン宇宙の証拠となる宇宙背景放射や、巨大ブラックホールの電波観測や、電波銀河、超新星残骸、さらには、太陽活動などについて解説する。	同上	同上
10	電波で探る星間物質	星間物質の中でも低温ガス雲の構造や進化について概観する。とくに、星や惑星の材料となる、塵や分子ガスからなる低温の分子雲やその化学的な性質、分子雲の銀河系内部での分布などについて得られている知見を述べる。このような知見は高分解能による電波スペクトルの観測をとおして得られたものであることを強調する。	同上	同上
11	電波で探る天体の形成史	最近の電波観測により、星・惑星系の形成領域の観測や原始銀河の観測が飛躍的に発展してきた。ここでは、電波観測によって得られた天体形成の描像について解説する。このように比較的密度の高いガス雲の内部までの観測は同位元素を含む分子の電波スペクトル観測によって可能になった。	同上	同上
12	X線で宇宙を見る	可視光の千分の1以下の波長のX線は、高いエネルギーを持った粒子や1千万度を超える高温の領域から放射される。X線は地球大気に遮られるため、こうした高エネルギー天体からのX線放射が発見されてから、まだ40年間である。その間のX線観測の歴史を観測技術の進歩とともに辿る。	國枝　秀世（名古屋大学大学院教授）	國枝　秀世（名古屋大学大学院教授）

回	テ ー マ	内 容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
13	X線で輝く激動する宇宙Ⅰ	X線で見た太陽は可視光では想像もできないもので、高温のコロナが激しく吹き出すものである。一般の恒星でも超新星爆発でできた高温ガスや、中性子星／ブラックホールに落ちていくガスがX線で光り輝くことが知られてきた。われわれの近傍にある天体で、X線というバンドからの観測によって初めて見えてきた激しい現象と、それを可能にした技術について解説する。	國枝　秀世	國枝　秀世
14	X線で輝く激動する宇宙Ⅱ	銀河や銀河団などという大きいスケールの天体を考える。個々の銀河ではその中心核にある巨大なブラックホールから、また銀河の集団では銀河間空間を埋める高温のガスから、強烈なX線が放射されている。その観測ではX線による画像を得ることが重要である。X線よりもエネルギーの高いガンマ線についても、きわめてエネルギーの大きい爆発現象が知られており、これらについても言及する。	同　上	同　上
15	光（電磁波）以外の宇宙からの情報	宇宙を知る手がかりは電磁波だけとは限らない。宇宙のどこかで加速された高エネルギーの粒子が地上にも降り注いでいる。また、物質とほとんど相互作用しないニュートリノを直接に観測することも可能になってきた。ブラックホールが生まれる時などに現れる、強い重力場の変化に伴う重力波についても、その観測を目ざした計画も紹介する。	同　上	同　上

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1860704	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 空間とベクトル （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：松本　幸夫（学習院大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：川崎　徹郎（学習院大学教授）〕

講義概要

幾何であつかう長さや角度はベクトルの内積を用いて記述することができる。内積を変えない変換として合同変換が捉えられる。このように、ベクトルの内積は幾何学において重要な役割を演じている。この講義では、内積を基本的なキーワードとして、合同変換の分類、曲線論、曲面論を展開する。さらに、ベクトル場の微分積分、いわゆる「ベクトル解析」でも、やはり内積が不可欠であることを見る。最後に、通常の内積と異なる「擬内積」を伴ったミンコフスキー空間を考えることにより、非ユークリッド幾何と相対性理論の入口まで誘う。

授業の目標

ユークリッド空間の概念に親しむことにより、合同変換が鏡映変換の合成で書けることを理解する。合同変換で移りあう曲線の形は「曲率」と「捩率」で決まること、また、曲面に伴って、自然に第1基本形式、第2基本形式が定義され、それらが曲面の形と深く関わることを理解する。ベクトル場の基本的な操作である「勾配」「発散」「回転」などの微分操作とその幾何学的な意味を学び、種々の積分定理を理解する。「擬内積」を導入することにより、非ユークリッド幾何や相対論がすっきりと記述できることが分ると思う。

履修上の留意点

線形代数学(04)、初歩からの微積分(06)を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	ユークリッド空間と合同変換	平面幾何学を中学、高校で学んだ。そこでは，長さや角度などの計量，また平行移動や回転などの合同変換を考えた。合同変換は長さや角度を変えない。ここでは座標とベクトルの考えを使って空間で同様のことを考えてみよう。 【キーワード】 ベクトル、長さ、内積、ユークリッド空間、合同、鏡映	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）
2	合同変換の分類	3次元ユークリッド空間の合同変換にはどのようなものがあるだろうか。鏡映、回転、平行移動、などさまざまなものがあるが、それらは全て鏡映を合成することによって表せる。この事実を使って合同変換の分類ができる。 【キーワード】 鏡映、回転、平行移動、写像の合成、螺旋運動	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）
3	ベクトルと行列	合同変換は行列を使って表すことができる。そのような行列はどんな特徴を持っているだろうか。ベクトルと内積を用いて考えてみよう。それらの行列には「標準形」がある。標準形を用いると回転角などを求めることができる。 【キーワード】 行列、内積、外積、直交行列、回転行列	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）	松本　幸夫（学習院大学・教授） 川崎　徹郎（学習院大学・教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	標準形の応用	標準形を用いて、いろいろな合同変換を表す行列を求める。応用として、立方体の対称性を調べよう。対称軸や、対称面にはどんなものがあるだろうか。それらを行列を用いて調べることができる。 【キーワード】 回転軸、回転角、対称面	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
5	空間内の曲線	空間内の点が動くと曲線ができる。空間の合同変換で移りあう2つの曲線を同じ形と見て，曲線の形を分類することを考える。その準備として、曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、向きの変化、及び曲率について説明する。 【キーワード】 曲線のパラメーター表示、速度ベクトル、弧長、曲率	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
6	フレネ・セレーの公式	前回の続き。曲率のみでは曲線の形は決まらない。曲線の捩れ具合を表す量として「捩率」が定まる。曲線の形は、曲率と捩率を含んだフレネ・セレーの公式で記述され、この式を調べると、曲率と捩率の二つで曲線の形が決まることが分る。 【キーワード】 捩率、フレネ・セレーの公式	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
7	いろいろな曲面	曲線は1個のパラメーターで表されるが、曲面は2個のパラメーターで表すことができる。ここでは、球面を始めとする空間内のいろいろな曲面の例について考えてみよう。 【キーワード】 曲面のパラメーター表示、球面、2次曲面、トーラス	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
8	接平面と第1基本形式	空間内の曲面の各点に対して，その点で曲面に接する平面が定まる。この平面内のベクトルには自然に長さがあり、二つのベクトルには内積がある。各点でこの内積を考えたもの(第1基本形式)と曲面の形との関係を調べる。 【キーワード】 接ベクトル、接平面、第1基本形式、懸垂面、螺旋面	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
9	第2基本形式	曲面の形状は第1基本形式だけでは決まらない。曲面の各点において曲面に直交するベクトル(法ベクトル)の変化を調べることが重要である。法ベクトルの変化と曲面の曲がり方の関係を記述するために第2基本形式を考える。 【キーワード】 法ベクトル、ガウス写像、第2基本形式	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)
10	曲面の種々の曲率	曲面の1点において、その点における法ベクトルを含む平面で曲面を切ると、曲線が現れる。この曲線の曲率は第2基本形式で表せる。この曲率から主曲率、ガウス曲率、平均曲率など種々の曲率が導かれる。 【キーワード】 主曲率、ガウス曲率、平均曲率、楕円点、双曲点、放物点	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)	松本　幸夫 (学習院大学・教授) 川崎　徹郎 (学習院大学・教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	ベクトル場	例えば、平面の上の水の流れを数学的に記述しようとすると、各点ごとに流れの向きと速さを考えなければならない。これは、平面の各点にベクトルを対応させること相当する。このようなベクトルの対応をベクトル場という。この回では、関数やベクトル場についての種々の微分操作を考える。 【キーワード】 ベクトル場、勾配、発散、回転	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)
12	ベクトル場の線積分	前回学んだ種々の微分操作は互いに密接に関連している。例えば、勾配ベクトル場には「渦」がない。逆に、渦のないベクトル場は勾配ベクトル場である、などの事実が示される。この事実は「線積分」の考えを使って証明されます。 【キーワード】 線積分、ガウスの発散定理、グリーンの定理	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)
13	空間のベクトル場	前回までは平面上のベクトル場について学んできた。 今回は3次元のユークリッド空間内のベクトル場について考える。例えば、空間内の空気の流れは空間内のベクトル場で記述される。平面のベクトル場についての微分操作はほぼそのまま空間のベクトル場に拡張される。後半でベクトル場の面積分への準備として、曲面の面積について考える。 【キーワード】 空間のベクトル場の勾配、発散、回転、曲面の面積	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)
14	ベクトル場の面積分	ベクトル場に渦があるかないかは、「風」を背にうけたまま1周できるかどうかで判断される。また、空気の湧き出しがあるかどうかは、その点を囲む面を通過する風の総量で分かる。このような事実は、空間のベクトル場の積分に関する定理として記述される。 【キーワード】 面積分、ストークスの定理、ガウスの定理	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)
15	「擬内積」とミンコフスキー空間	これまで考えてきた内積は、ゼロでないベクトルについて、それ自身の内積がつねに正であった。このような内積は「正定値内積」と呼ばれている。ミンコフスキー空間は正定値ではない「擬内積」を伴った空間で、双曲幾何や相対性理論の枠組みとなる。 【キーワード】 擬内積、ミンコフスキー空間、双曲幾何、相対性理論	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)	松本　幸夫(学習院大学・教授) 川崎　徹郎(学習院大学・教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	専門科目	科目コード	1560409	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 数学基礎論 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博（放送大学准教授）〕

講義概要

論理学の基礎を数学的立場から解説する。授業では予備知識は特に要求しない。自然の理解専攻以外の学生向けでもある。数学を初めて学ぶ人たちのための予備知識の解説から始める。数学には独特の言葉使いがある。これを一から学んでいく。例えるなら、外国語である英語を a,b,c から学ぶ姿勢である。その後は意味をなす英文を作るための英文法を学ぶように、数学的文章（論理式という）を作るための規則を学んでいき、「正しい文章」とは何かを学ぶ。また数学的推論あるいは証明がどのように行われるかを掘り下げて考える。その後自然数とはどういうものか、について体系的に学び、最終的にゲーテルの不完全性定理を理解する。またこの分野は情報科学の基礎理論との関わりも深い。従って情報科学への応用として論理回路（デジタル回路）やリレーショナルデータベースについて学ぶ。

授業の目標

数学を言語という観点から基本的立場に戻り、基本概念を掘り下げて理解する。数学は述語論理という言語の論理体系から成り立っているが、その一部である命題論理、から順次学んでいく。その後我々に最も身近な自然数について、その論理構造について学ぶ。数学の問題は、正しいとか誤りであるとかどちらか白黒つけることができるものなのか。そもそも正しいとか間違い、あるいは証明するとはどういうことであろうか。その他数学に関する基本事項に関する（幼い頃に抱く）素朴な疑問対する論理的根拠も見ていく。そんな中で日常言語と数学との違いや、また数学は論理的正確性を大切にするということを理解したい。最終目標はゲーデルの不完全性定理の理解である。数学のみならず、哲学や社会学にも大きな影響を与えたこの定理の意味することを理解していきたい。また、この分野と情報科学とがいかに関わっているかを見ていく。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	準備	これから学ぶにあたって必要な予備知識についてのべる。数学的帰納法とはどういうものか。集合とは何か、その基本演算。数学における「関係」とはどういうことか。これらについて学ぶ。 【キーワード】 数学的帰納法、集合、関係	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
2	命題論理	数学独特の言葉使いとして、「かつ、または、ならば、でない」というものがある。これらの言葉の、日常的な理解と数学的な理解との違いを強調しながら意味を考える。これらをまとめて命題論理というものがある。その命題論理とは何かについて考える。そして数学的な文章（論理式）を作るための手続きを定義し、その文章が正しいとか誤りであるといった真偽値について考える。 【キーワード】 命題論理、論理式、文章記号、真偽値	同上	同上
3	トートロジー	論理式の真偽値についてさらに考察し、命題論理におけるトートロジーの概念について考える。 【キーワード】 真偽値の代入、トートロジー	同上	同上
4	論理記号について	論理記号の完全性について述べる。 【キーワード】 論理記号の完全性	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	命題論理の情報科学への応用	命題論理の情報科学への応用として、論理回路（デジタル回路）について学ぶ。これはコンピューターの設計における基本的な概念の一つである。このとき命題論理の論理式がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 論理回路、基本ゲート、回路図	隈部　正博（放送大学准教授）	隈部　正博（放送大学准教授）
6	述語論理	命題論理にさらに「全ての、、、についてある事柄が成り立つ」や「ある、、、が存在してある事柄が成り立つ」といった言い回しなどを付け加えて拡張した、述語論理を定義する。そして述語論理のもとで、ある対象を指し示す対象式の定義をし、論理式の定義をする。 【キーワード】 述語論理、存在記号、対象式、論理式	同上	同上
7	構造	述語論理の論理式の真偽を決めるには、命題論理のようには行かない。そのため構造という概念が必要である。構造の定義をし、その上で論理式の真偽値を考える。 【キーワード】 構造、論理式の真偽値、	同上	同上
8	ロジカルな満足性と演繹計算	述語論理におけるロジカルな満足性という概念について考える。演繹計算とは数学的推論をする上で必要な概念である。これがどのようなものか概略を述べる。これに関連して、ゲーデルの完全性定理の持つ意味について述べる。 【キーワード】 ロジカルな満足性、演繹計算、完全性定理	同上	同上
9	論理公理	演繹計算についてさらに深く考える。公理とは証明する必要のないほど明らかなものである。論理公理とはどういうものか定義する。また証明とはどういうことか、について正確に考える。 【キーワード】 論理公理、証明図	同上	同上
10	述語論理の情報科学への応用	述語論理の情報科学への応用として、リレーショナルデータベースについて述べる。これはデータベース理論において最もインパクトを与えたものの一つである。このとき述語論理がどのように関わっているかをみる。 【キーワード】 リレーショナルデータベース、関係、論理式	同上	同上
11	自然数論	自然数とはどういうものか、自然数論を体系的に学ぶ。また1+1=2となることの論理的根拠についても述べたい。 【キーワード】 自然数論、モデル、ペアノの公理系	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	表現可能性と計算可能性	ある事柄が「計算可能」であるといった極めて一般的な概念について、どういうことか数学的定義を試みる。また、関数や関係の自然数論における表現可能性や計算可能性について述べる。 【キーワード】 表現可能性、計算可能性、帰納的関数、チャーチの提唱	隈部 正博(放送大学准教授)	隈部 正博(放送大学准教授)
13	ゲーデル数と証明の算術化	ゲーデル数とはどういうものかについて述べ、それを使って証明の算術化について述べる。この概念は不完全性定理の証明において重要である。 【キーワード】 ゲーデル数、算術化	同上	同上
14	不完全性定理その1	ゲーデルの第1不完全性定理とは(非常に簡単に言えば)、ある文章で、それが正しいとも誤りであるとも証明できないようなもの(白黒つけられないもの)があるということである。この文章を決定不能な文章という。まず、対角化定理というものを証明して、それを使って不完全性定理を証明する。 【キーワード】 対角化定理、第一不完全性定理	同上	同上
15	不完全性定理その2	第1不完全性定理を再考する。次に、我々がある体系(世界)のなかで物事を考えるとき、その体系が矛盾をはらんでいては何もならない。その意味で無矛盾性を確認することは重要である。そんな観点から第2不完全性定理について考える。 【キーワード】 無矛盾性、第2不完全性定理	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	専門科目	科目コード	1891901	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　自然と社会を貫く数学（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：岡本　和夫（東京大学教授）〕

講義概要

数学がどのように発展し、現在のような形を作ってきたのかを概観した上で、自然と社会を貫く数学について具体的な事例に沿って紹介する。題材としては簡単な数学史、微分方程式、暗号と符号の理論を扱う。対談形式なども導入して数学の新しい形の授業を組み立てていくが、予備知識として、共通科目から、数学の歴史、微分積分学、線型代数などを履修していることが望ましい。

授業の目標

微分方程式は自然を記述するために不可欠な数学的道具であるが、ここでは微分方程式そのものについて学ぶのではなく、これがどのように使われているか、その意味は何か、ということを理解してほしい。また、暗号と符号の理論はコンピュータ・ネットワークの安全性を保証する数学である。いずれもこの授業を契機として、さらに深く数学を学ぶ意欲と関心を持っていただくことを目標として選ばれた題材である。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	生活と数学	数学が誕生したきっかけを、「測ること」と「記録すること」をテーマに考えてみる。土地の面積の測定や暦の策定は古代の王達の義務であり、権力の象徴であった。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
2	数学の形	数学には三つの形がある。「言葉としての数学」、「道具としての数学」、「対象としての数学」がそれである。具体的な事例を交えて数学の働きを見ながら数学がどのような学問であるのか考えてみたい。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
3	自然の表現	微分方程式の意味をニュートンの運動法則や万有引力の法則を題材として学ぶ。微分積分学はむしろ微分方程式の理解から生まれてきたとも言える。微分積分学について一応の学習が済んでいることを期待する。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	振動の方程式	簡単な微分方程式として、調和振動の方程式を扱う。これは2階の線型常微分方程式で表される現象で、解は sin x、cos x、等の三角関数で表される。簡単な行列と行列式の知識があれば十分である。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
5	自然と数学	現在の数学がどのような形で発展してきたのか考える。主任講師と、分担協力講師の薩摩順吉教授（青山学院大学）の対談で、これから授業で扱う課題の意味を整理して紹介する。「連続と離散」ということも一つのテーマとしたい。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）
6	現象の数理	自然を数学で表現するためには偏微分方程式が必要である。自然現象に沿って、偏微分方程式の意味を考えてみよう。ここから4回の授業は分担協力講師の薩摩順吉教授（青山学院大学）が担当する。	薩摩順吉（青山学院大学教授）	薩摩順吉（青山学院大学教授）
7	拡散方程式と調和方程式	熱は熱い部分から冷たい部分に流れる。決して逆の向きには伝わらない。これを記述するのが熱方程式である。これを題材にして簡単な偏微分方程式を数学的に扱ってみよう	薩摩順吉（青山学院大学教授）	薩摩順吉（青山学院大学教授）
8	波動方程式	波はあらゆる方向に均等に伝わっていく。波動方程式は線型偏微分方程式であり、数学的にきれいな構造を持っている。一方海流や気象は非線型の波である。	薩摩順吉（青山学院大学教授）	薩摩順吉（青山学院大学教授）
9	非線型現象	私達の身近にあるのは非線型微分方程式で記述される自然現象である。例えば大きな被害をもたらす津波は海のソリトンと呼ばれる非線型の波である。このような話題を紹介したい。	薩摩順吉（青山学院大学教授）	薩摩順吉（青山学院大学教授）
10	社会と数学	これまでの授業は自然を対象としてきたが、後半では社会の中にどのように数学が活かされているかを扱う。その初めとして、次回から4回の授業を担当する分担協力講師の桂利行教授（東京大学）と主任講師がいろいろな問題を対談形式で考える。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	数の世界	以下必要となる数学は整数、つまり1、2、3、・・・の世界である。大切な数学であるのになじみが少ないと思われるので、基本的な事柄をまとめることから始める。さらに一般に、数学の基礎である「数」にまつわる興味ある事柄を紹介する。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
12	有限の世界	デジタルの世界の基礎となる有限を扱う数学についてお話しする。19世紀にガロアによって発見された「有限体」が中心的な役割を果たす。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
13	セキュリティーと数学	暗号の歴史は古い。特定の二者がお互いに秘密の鍵を持って通信する手段としてギリシア時代から使われてきた。現在の暗号は不特定多数の間で、プライバシーの保護と通信の安全性の確保に使われている。公開鍵暗号をテーマに、私達の生活の中に活かされている数学を考える。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
14	デジタルと数学	現在はデジタル機器の時代である。通信を初め、コンピュータ、CD、カメラ、DVD、テレビなど様々なところでデジタルが用いられている。そこで重要な役割を果たすのが「誤り訂正符号」である。ここではその数学的原理をお話しする。	桂　利行（東京大学教授）	桂　利行（東京大学教授）
15	文化と数学	全体のまとめとして、授業のテーマである「自然と社会を貫く数学」について、主任講師と、分担協力講師の薩摩順吉教授（青山学院大学）、桂利行教授（東京大学）の3者で話し合う。さらにこの先を学ぶための入門を目指す。	岡本和夫（東京大学教授）	岡本和夫（東京大学教授）

＝　数学とコンピュータ（‘０６）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：岡本　久　（京都大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：長岡　亮介（放送大学客員教授）〕

全体のねらい

PC（パーソナル・コンピュータ）の能力は、つい一昔前の大型計算機の能力を超えるほど発展し、他方、価格の低下は限度を知らぬ勢いで進行し、それによって人々の間に爆発的に普及してきている。しかしこのようなPCの‘電子文房具’化や‘情報家電’化の進行とは逆に、“電子計算機の高速計算能力”が、十分に利用されなくなるという逆説も生まれている。

本講義は、身近になったPCの高速計算性能を活用することで拡がる数学の世界を入門的かつ包括的に講義するものである。

微積分と線型代数に関する基本的な知識を仮定して講義するが、その知識があやふやである諸君も本講義を通じて確実な理解へとつなげてもらえれば、と希っている。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	講義の概要と学生諸君の準備	本講義の趣旨と学習目標を、全体の講義を俯瞰する形で詳しく紹介し、あわせて講義の中で利用されるコンピュータソフトウエアについて、その入手方法や設定方法などについて簡単に紹介する。	長岡　亮介（放送大学客員教授）	長岡　亮介（放送大学客員教授） 平尾　淳一（大東文化大学教授）
2	ビジュアリゼーション(1) 可視化で見えること	グラフを描くことは数学的な理解の基本的手法の一つである。フリーのグラフ作成ツールGnuplotを利用して「正確なグラフ」を描くことで見えてくる様々な話題(重ね合わせ、極限値、曲線、軌跡、2変数の関数の性質）や、3Dのグラフの基本概念(等高線、濃淡グラフなど）について取り上げる。	平尾　淳一	長岡　亮介 平尾　淳一
3	ビジュアリゼーション(2) データの科学的処理	フィッティング(fitting）をはじめ、データの整理、統計分析において必須の可視化技法について、背景となる数学的な理論と実践的な利用法、限界について論ずる。	平尾　淳一	平尾　淳一
4	ビジュアリゼーション(3) 3Dグラフィクスとアニメーション	Ray Tracingやアニメーションを数学の立場から考える。	平尾　淳一	長岡　亮介 平尾　淳一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	グラフィクスと数式の出版 TEX (1)	数学における文書作成の実際上の世界標準である TEX あるいは LATEX について、その基礎概念と基本的な利用法を紹介する。	奥村 晴彦(三重大学教授)	奥村 晴彦(三重大学教授) 長岡 亮介
6	グラフィクスと数式の出版 TEX (2)	LATEX を利用する上で必須の LATEX のマクロ機能の概念を実践的に理解し、さらに LATEX での表、図版の利用その他について述べる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦
7	コンピュータ代数(1)	高機能な「コンピュータ代数システム」MuPAD を利用して煩雑な計算処理を要する数学の問題(微積分や線型代数の話題(級数展開、線型微分方程式行列のさまざまな計算) が簡単に処理できることを示す。	長岡 亮介	長岡 亮介
8	コンピュータ代数(2)	CAS の提供する高級言語を利用することで、プログラミングの効率があげられることを学ぶ。インターネット時代にますますその重要性を増している公開鍵式暗号への応用を視野におき、平方剰余など、初等整数論のやや進んだ話題を取り上げる。	長岡 亮介	長岡 亮介
9	プログラミングの基本概念	数学の複雑な計算を行うとき、プログラミングはしばしば不可欠である。BASIC, C ,C++, Perl, などいくつかのコンピュータ言語によるプログラミングの簡単で実際的な例を紹介する。図さえプログラム言語で表されることを Postscript 言語を例にとって学ぶ。	長岡 亮介	長岡 亮介 ゲスト: 渡辺 浩(日本医科大学准教授)
10	プログラミングの実際(1)	Java という近年話題のプログラミング言語を利用して、数学的な概念のインタラクティブな理解へのアプローチを試みる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦 長岡 亮介
11	プログラミングの実際(2)	前回を踏まえて Java のより進んだ利用法を講ずる。	奥村 晴彦	奥村 晴彦 長岡 亮介

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	数値計算のサブルーチン(1)	科学や工学において実際に必要とされる問題を数値的に解くときには様々な小さい問題に分解し、それぞれを解いて最後にまとめ上げることをおこなう。ここで重要なのがサブルーティーン化の考え方である。たくさん存在する数値計算のサブルーティーンの中で、もっとも典型的な例として数値積分を取り上げる。具体的な言語を離れ、理論的な問題 — たとえば安直なアルゴリズムで計算をするとどれほどひどい失敗になるか — 例を使って説明する。	岡本　久 (京都大学教授)	岡本　久 (京都大学教授) 長岡　亮介
13	数値計算のサブルーチン(2)	前回に引き続き数値積分の具体例を考察する。特に精度を上げるためのさまざまな工夫について少し突っ込んだ議論を紹介する。そして、日本人によって発見され、「IMT 公式」や「DE 公式」の名で親しまれている高精度の数値積分アルゴリズムの数学的な原理のポイントとその実際をわかりやすく紹介する。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介
14	差分近似の数理	差分近似と呼ばれる微分方程式の数値解法はコンピュータ・シュミレーションでもっとも重要な分野であるが、「正しい近似解」を求めるのは意外に難しい。差分近似の方法とその問題について理解してもらうために、コンピュータの父と呼ばれているフォン・ノイマンが発見した“安定性” という概念を中心に、その重要性を具体例を使って示す。有限のコンピュータ資源のもとで、精度や安定性を向上させるための数学的な工夫についても紹介する。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介
15	数学研究にとってのコンピュータ	数学の研究においてコンピュータがどのように活用されているか、具体的な例を示す。	岡本　久	岡本　久 長岡　亮介 平尾　淳一 その他ゲスト

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	専門科目	科目コード	1861905	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 統計学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：藤井良宜（宮崎大学教授） 〕

講義概要

現在社会においては，情報通信技術や測定技術の進展によって，大量のデータが収集され，蓄積されています。この蓄積されたデータの中にはさまざまなバラツキが含まれており，バラツキを持ったデータの中から本質的な特徴を把握する能力が，現在を生きる私たちには必要とされています。本講義では，確率的なモデルの基本的な特徴を解説し，それを利用した基本的な統計手法を紹介します。また，複雑な現象を把握するために必要となる，回帰分析を中心とした統計手法についても説明していきます。

授業の目標

確率の基本的な性質や確率モデルの特徴を把握し，それらが統計解析のなかでどのように利用されているのかを理解することを目標とします。また，統計モデルを積極的に活用し，複雑な現象の中から，特徴的な性質を見出すことができるようになることを最終的な目標とします。

履修上の留意点

「身近な統計(’07)」を学んでおくことが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	データのバラツキとモデル化	統計データを分析するには，バラツキを調べる確率分布モデルと傾向を表す統計モデルを上手に利用することが重要です。ここでは，講義全体の目標について詳しく解説し，全体の見通しを立てることを目的とします。 【キーワード】 確率分布モデル，統計モデル，問題解決	藤井 良宜（宮崎大学教授）	藤井 良宜（宮崎大学教授）
2	確率の基本性質	データのバラツキを把握する方法の1つは，データを確率的な現象としてみることです。ここでは，サイコロやトランプを例として挙げながら，確率の基本性質を解説します。細かな組み合わせ計算ではなく，基本的な性質を理解することが目標です。 【キーワード】 排反事象，余事象，独立性，条件付き確率	同上	同上
3	確率分布と期待値	統計データは，量的なデータ(数値として表されるもの)がほとんどです。量的なデータでは，各値をとる確率だけではなく，分布として見ていくことが大切です．ここでは，確率分布やその平均や分散といった確率分布の特徴量について解説します。 【キーワード】 確率変数、累積分布関数，平均，分散	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	2項分布モデル	確率モデルの中で，もっともシンプルなモデルが2項分布モデルです。ここでは，2項分布の基本的な性質を解説します。また，内閣支持率調査を例に2項分布モデルの有用性や信頼区間の構成法についても解説します。 【キーワード】 2値データ，2項分布，比率の推定，信頼区間	藤井　良宜 (宮崎大学教授)	藤井　良宜 (宮崎大学教授)
5	多項分布とクロス表解析	2項分布モデルの1つの拡張として，多項分布モデルがあります。多項分布に拡張することによって，2項分布の基本的な性質を満足しながらも，適用できる範囲は急激に広げることができます。多項分布の適用例の一つとして，クロス表解析を取り上げ，統計的検定について解説します。 【キーワード】 共分散，2x2表，独立性の検定	同上	同上
6	ポアソン分布モデル	ポアソン分布モデルは，計数(数をかぞえたもの)データに対してよく用いられるモデルです。計数データを使った統計解析は，実は非常に適用範囲の広い方法です。ここでは，特に医学データの中でのポアソン分布モデルを使う例について，解説します。 【キーワード】 散布度の検定，カイ2乗分布，罹患率，標準化死亡率化	同上	同上
7	正規分布モデル	正規分布モデルは，測定値データに対するモデルとして最もよく使われるモデルです。統計手法のうち，正規分布モデルを仮定したものが最も多く提案されています。ここでは，正規分布の基本的な性質を把握することを目標とします。 【キーワード】 密度関数，標準化，独立な確率変数の和，偏差値	同上	同上
8	正規分布モデルでの統計的推測	正規分布はある意味で非常に扱いやすい分布です。特に，複数のデータを要約する際に，きれいな性質を持っています。ここでは，正規母集団からの標本の分布を調べることによって，正規分布の平均に対する信頼区間を構成します。また，中心極限定理を使って，正規分布以外のモデルに対しても近似的に信頼区間を構成できることを説明します。 【キーワード】 標本分布，2標本問題，中心極限定理，信頼区間	同上	同上
9	単回帰分析	2つの変数の間の関係を直線を使って表現する方法は，単回帰分析と呼ばれています。ここでは，直線の式の推定法・データに対しての直線の当てはまりのよさを調べる方法について解説します。 【キーワード】 相関係数，回帰直線，3つの平方和	同上	同上
10	重回帰分析	ある結果に対する原因を調べる場合には，1つの変数だけで説明できる場合はそれほど多くありません。そこで複数の変数を使って，興味ある結果に対する原因を表現する重回帰分析について解説します。しかし，重回帰分析の場合には結果を解釈する上で気をつけることが多くなります。それらの注意についても説明します。 【キーワード】 偏回帰係数，寄与率，多重共線性，分散分析表	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	モデル選択	重回帰分析の場合には，どの変数を用いるかによって，さまざまな統計モデルを考えることができます。そのため，考えられるモデルから最も良いモデルを選択することが重要となります。ここでは，モデルの選択方法について，解説します。 【キーワード】 ステップワイズ法，情報量規準，AIC，最尤法，クロスバリデーション	藤井　良宜(宮崎大学教授)	藤井　良宜(宮崎大学教授)
12	分散分析	重回帰分析の適用例の一つとして，一元配置分散分析について解説します。一元配置分散分析は実験データの解析において非常によく用いられる統計解析方法です。また，関連する手法として，群間の比較を行うための多重比較法についても解説します。 【キーワード】 分散分析表，群内変動，群間変動，F分布，多重比較	同上	同上
13	ロジスティック回帰分析	重回帰分析は，結果を表す変数が連続的なデータを取ることが前提になっています。病気の発生のように，結果が2値で表される場合への拡張として，ロジスティック回帰分析を説明します。ロジスティック回帰分析も非常によく用いられる統計手法の一つです。 【キーワード】 ロジット変換，オッズ比，モデルの適合度	同上	同上
14	主成分分析と因子分析	統計的な調査では，各対象者に対していろいろな変数を調べる場合も多くあります。調べる変数が多いときには，それらの関係を見ることは容易ではありません。そこで，多くの変数からある程度少ない変数に減らして行くことが重要です。ここでは，その方法として主成分分析と因子分析の基本的な考え方について解説します。 【キーワード】 主成分，因子，固有値，共分散行列，相関行列，因子数の選択	同上	同上
15	複雑なデータと統計モデル	複雑なデータの中から，主要な特徴を見出すためには，バラツキを現す確率モデルと傾向を調べる統計的なモデルをうまく活用することが重要です。ここでは，これまでのまとめとして，いくつかの問題に対して，どのような解析を行えばよいのかについて説明をします。 【キーワード】 解析例，要点のまとめ	同上	同上

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1511602	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　変動する社会と暮らし（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学教授）〕

講義概要

科学技術の高度化，情報化，急激な少子高齢化，経済社会のグローバル化など，社会の大きな変革のもとで私たちはどのような生活設計が可能であるのか。科学技術，情報技術の進展によって利便性，快適性がもたらされている反面，暮らしのさまざまな領域におけるリスクが大きくなっている。こうした状況下にあって，「消費者保護基本法」が改正されて，「消費者基本法」が施行され，消費者を保護する立場から自立を支援する方向に重点が移されているなど，自己責任の比重がますます大きくなっている。この実態を，食品，生活用品，住居，契約・取引，貯蓄と投資，働き方，健康および保健・福祉などの暮らしの各分野から解説する。

授業の目標

急激な社会の変動にさらされている暮らしの諸課題に対して，消費者個々人の自己責任がどのようにかかわっているかの理解を深め，生活の質の向上につながる生活設計ができる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	変動する社会と消費生活	科学や情報技術の進展，少子高齢化，労働形態の多様化，家事労働の社会化，省資源・省エネルギー社会形成の推進などに伴う社会の変動に私たちの暮らしがさらされている。暮らしに対して光と影をもたらすこうした社会の変動の実態と消費生活への影響について全般的な観点から概説する。	藤原　康晴（放送大学教授）	藤原　康晴（放送大学教授）
2	消費者トラブルと消費者が直面する課題	現代の私たちは誰もが、市場を通じて事業者が提供する商品・サービスを購入することによって生活を営む「消費者」であらざるをえない。そのため消費者が抱える問題は，現代人が直面する重要な生活問題となっている。経済社会の変化とともに急増する消費者トラブルの実態を理解するとともに，消費者の権利が実現される経済社会を創り出すために，消費者に期待される役割と課題を考える。	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）	安田　憲司（国民生活センター教育研修部）
3	暮らしの中のリスクを探る	暮らしのなかのリスク発生に対して，安全・信頼確保は，いかに行われるのだろうか。日本における家計の金融資産などに関する経済生活の不確実性が少子高齢化の進展で増大してきている。リスクは自己責任によって処理すべきなのか，それともリスク移転によって担うべき人に負担をシフトすべきなのか。経済生活のリスクと安全・信頼の重要性について，この章で考えていく。	坂井　素思（放送大学准教授）	坂井　素思（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	近年の食生活の変化	我が国の食生活は，第２次世界大戦後の極度の食糧難の時代から飽食と呼ばれる豊かな時代を迎えている。世界でも類を見ない速度で最長寿国の一つになった現在，“日本型食生活”への評価が高い。この６０年間を中心に我が国の食生活の変遷を考察する。	中谷　延二(放送大学教授)	中谷　延二(放送大学教授)
5	食品の安全性	高齢社会を迎えた我が国では健康に対する関心が極めて高い。健全な食生活を営むことによって健康の維持・増進が期待される今日，O157, BSE などの食生活を脅かす深刻な問題が続発している。食生活における「安全・安心の確保」は大前提である。食品の安全性に関わる最近の事故，事件を概説し，その対策，安全管理について考察する。	中谷　延二(放送大学教授)	中谷　延二(放送大学教授)
6	生活用品の品質に関する情報とその収集	生活用品等の品質に関する情報は，マスコミ，口コミ，インターネットによる情報交換などをとおして得ることが多いが，この種の情報は科学的に正確なものばかりとは限らない。情報が伝達媒体間を行き来する間に次第にその内容が変容していく傾向にある。ここでは，生活用品の品質に関する表示の実態と品質に関する情報の収集を取りあげ，リスクコミュニケーションへのつながりを考える。	藤原　康晴(放送大学教授)	藤原　康晴(放送大学教授)
7	生活系ごみのリサイクル推進に向けた取り組み	「資源有効利用促進法」のもとに，容器包装，食品，家電，自動車，建設資材リサイクル法が制定され，多くの物品に対するリサイクルが推進されている。これを効果的に進めるためには，行政，企業，消費者の連携した取り組みが必要であるが，ここでは，生活系ごみのリサイクルを対象として，特に消費者としての取り組みに焦点を合わせ，その現状と課題を考える。	藤原　康晴(放送大学教授)	藤原　康晴(放送大学教授)
8	21 世紀の都市居住	２１世紀の都市居住を支えているのは様々な形態のマンションであり、その大半は区分所有法に基づき居住者が権利を共有する分譲マンションで占められている。分譲マンションはこの３０年ほどの間に急速に広がった新しい居住形態だが、それが老朽化し、建替えを検討する時期にどのようなプロセスでそれが可能なのか、ほとんど配慮されないままに大量に市場で流通している。居住者間の建替え合意が成立しないまま老朽化が加速し、管理が行き届かなくなった分譲マンションのスラム化の危険性が憂慮される。ここでは今世紀最大の都市居住の懸念材料であるマンション建替えについて考える。	本間　博文(放送大学教授)	本間　博文(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	環境と共生する住まいづくり	環境問題は決して他人事ではない。我々市民も被害者であり，加害者でもある。とりわけ住居に関わるエネルギー問題は深刻であり，周辺への負荷の軽減と消費エネルギーの軽減の両面から検討しなければならない。課題解決のための先端的な取り組みを紹介し，そのような取り組みを普及させるための困難な道筋を探る。	本間　博文(放送大学教授)	本間　博文(放送大学教授)
10	人びとの働き方に何が起こっているか	現代における人びとの働き方は，どのように変化してきているのか。今日の社会では，サービス経済化・情報経済化などに見られるように，産業構造が変化してきている。このことは企業労働のあり方や，家庭と職場との時間配分に影響を与え，非正規労働や女性労働の増大をもたらしている。この章では，このような労働の変質について考えたい。	坂井　素思(放送大学准教授)	坂井　素思(放送大学准教授)
11	機械化・省力化社会での健康の保持	睡眠中でもときどき寝返りをするなど，からだ自体は，ほとんど無意識のうちに動くことを要求する。他方で，からだは”疲れる”という状態を嫌うため，人間は筋肉の代替物である自動車など便利な機器を考案し運動不足に陥った。運動不足がもたらす障害から健康を守る方策について，身体運動を中心に解説する。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
12	医療費・介護費負担を軽減する運動実践	少子高齢化がもたらす悪影響は容易に想像されるだろう。その中で，医療費・介護費の負担が最重要問題である。そのため壮年には”自立して生活が送れる高齢者”を，高齢者には”他人の手助けをできる　だけ短くして天寿を全うする”ことが求められる。それには運動実践が不可欠であることを強調したい。	宮下　充正(東京大学名誉教授)	宮下　充正(東京大学名誉教授)
13	改革期にある医療と保健と福祉(1)医療の動向	わが国は平均寿命世界一の記録を達成し，維持している。平均寿命世界一の社会は，世界一多様な健康状態の人々が生活する社会である。これに対して，これまでの医療保険制度では，症状のある人しか利用できないという限界があり，新しい視点に立った改革が余儀なくされている。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)
14	改革期にある医療と保健と福祉(2)保健と福祉の動向	人々の健康の増進に向けて平成 14 年に国民健康増進法が制定され，介護の社会化を理念として平成12年からは介護保険法が施行されている。ともに与えられるサービスではなく，自ら選択し，自らつくっていくサービスの推進を目指しているといえる。その方向と内容について考えてみたい。	多田羅浩三(放送大学教授)	多田羅浩三(放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
15	変動する社会で消費者に求められるもの	消費者の自立支援は,「消費者基本法」の基本理念の一つであり,これを推進する課題として「学校や社会教育施設における消費者教育の推進」があげられている。この消費者教育の狙いが,本科目の「授業の目標」と同じ方向であることを,食品,住居,経済生活,健康,福祉,就業などのかかわる暮らしのなかで指摘し,消費者に求められているものを考える。	藤原 康晴(放送大学教授)	藤原 康晴(放送大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512005	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　国際共生に向けた健康への挑戦　（’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅　浩三（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：篠崎　英夫（国立保健医療科学院長）〕

講義概要

今日、人々の生活は不可避的に地球規模で展開する経済環境の中で営まれている。世界中の人間がまさに、国境という枠を超えて「共生」しているといえるであろう。そのような中で、とくに健康の維持・増進、および感染症予防は、最も共通の重要な課題になっているはずである。そして、各国ともに取り組みの推進に固有の施策を続けていることは明らかである。しかし、そこには課題に共通したところがあり、学び合うことが可能な状況が生まれているのではないかと思われる。

アジア各国を対象として、「共生」しているという観点から、人々がどのようなヘルスケア・システムの中で生活しているのか。どのように課題に挑戦しているのか。また、経済、政治の各面でわが国との関係がとくに深いアメリカにおける健康づくりはどのような現状にあるのか。国際保健推進の世界の拠点機関であるWHOでは、どのような挑戦がすすめられているのか。

講義は、そのような観点をもとに、現地取材をふくめ、現状の報告を中心にすすめたい。

授業の目標

世界中の人間が、今日、国境という枠を超えて、共生しているという観点に立って、人々の健康増進、疾病の予防を目的にすすめられてきたヘルスケア・システム拡充の取り組みについて、国々の現状を紹介し、どのような課題に対し、どのような挑戦をしているか、その内容について理解を得るようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
	アジア各国におけるプライマリケア			
1	タイ－健康増進へのあゆみ	タイでは、人々のヘルスケアの推進に対し、WHOが示した理念を受けて、ボトムアップを基本としたプライマリケア体制の充実につとめ、その実績をもとに総合ヘルスケア保障制度を実施し、さらに健康タイ政策によって、人々の健康増進計画をすすめている。そのような タイのヘルスケアの実績、健康増進に向けた取り組みについて、現地における訪問、その収録をもとに、講義する。 【キーワード】 ヘルスセンター、ヘルスボランティア、総合ヘルスケア保障制度、健康タイ政策	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
2	ベトナム－予防と治療・公と民・西洋医学と東洋医学の連携	ベトナムは、国のヘルスケア政策をもとに、計画的に地域のケア体制の充実を基盤とした施策が推進されてきた。そうした中で、予防医学と治療医学の連携、公的部門と民間部門の協力、西洋医学と伝統医学の連結の確保という課題に直面してきた。ここでは、現地を訪問して、ベトナムのヘルスケアの現状、課題に向けた取り組みの実態について、現地での収録をもとに、講義する。 【キーワード】 予防と治療、公的部門と民間部門 、西洋医学と東洋医学、コミューン・ヘルスステーション、ビレッジ・ヘルスワーカ	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
3	インド－人口との闘い	インドは、世界第2位という大きな人口、その人口の大きな増加と都市集中という極めて深刻な課題を背景に、人々のヘルスケア・システムを構築することが余儀なくされてきた。結果として、多様な課題に直面しているというのが現状である。それらの現状について紹介し、とくに人口増の推移、ヘルスケア体制の特徴、またヘルスケアを支えるべき健康保険制度の現状などを中心に、講義する。 【キーワード】 人口の増加、プライマリ・ヘルスセンター、アンガンワディ・ワーカ、健康保険制度	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	インドネシアーマラリアの現状と対策を中心に	マラリアは単に熱帯の貧困層に多いというだけでなく、地域の環境に適したハマダラカによって媒介されるため、地域によりマラリア流行状況は大きく異なる。インドネシアは多民族国家であり、自然環境、生物相も島によって異なるため多様なマラリア流行状況が存在する。この多様性と私の行ったマラリアコントロールを中心に話を進める。 【キーワード】 マラリア、流行の地域特性、マラリア・コントロール、地域保健	神原　廣二（長崎大学名誉教授）	神原　廣二（長崎大学名誉教授）
5	アフガニスタンー目下の急務：公衆衛生分野の人材育成	様々な国の実例のなかから、本章ではアフガニスタンをとりあげ、以下のポイントを学習目標とする。①アフガニスタンの公衆衛生の現状をひとつの事例として、世界の多様性を現実として受け入れ、経済的・社会的・文化的多様性を、国際共生に向けた基礎知識として共有する。②人々の健康（パブリック・ヘルス）の向上のためには、保健医療分野だけでなく、人々の生活にかかわるあらゆる分野が相互に関係しているという広い視点を獲得する。③課題を解決し、将来への方向性を具体的に計画するには、統計や疫学的事実を積み重ね、それに基づいて問題の本質にせまり、限られた資源を効果的・効率的に活用して、現実を変えていくという公衆衛生手法を学ぶ。④以上をふまえたうえで、健康水準向上のための基礎として、公衆衛生の専門的人材育成が不可欠な要素であることを理解する。 【キーワード】 衛生統計、疫学調査、公衆衛生、予防接種、人材育成	高野　健人（東京医科歯科大学大学院教授）	高野　健人（東京医科歯科大学大学院教授）
6	フィリピンー医療制度改革とプライマリケア	フィリピンの医療提供体制などの問題点、医療制度改革の特徴およびその進捗状況を述べる。そして医療制度改革を行う上で必要となるプライマリ・ケアの位置づけ、行政組織の特徴、プライマリ・ケアの面からみた同国の健康指標の特徴や問題点についても述べる。 【キーワード】 HSRA（Health Sector Reform Agenda）、Fourmula ONE、プライマリ・ケア、DOH、LGUs、バランガイ	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）	河原　和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
7	日本ー長寿社会における取り組み	わが国のプライマリ・ケアは、国民皆保険体制、老人保健法による保健事業などを基盤に優れた成果を収めてきた。そのことの成果は、平均寿命世界一の記録を達成していることが最も端的に現している。結果として、極めて多様な健康状態の人たちを包摂する社会に直面することになり、わが国のプライマリケア体制は、根本的な改革期を迎えている。わが国のプライマリ・ヘルスケア体制の特徴、健康日本21、医療制度改革の意義を中心に講義する。 【キーワード】 人口の高齢化、プライマリケア体制、平均寿命世界一、健康日本21、医療制度改革	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）	多田羅　浩三（放送大学教授） 福田　英輝（長崎大学大学院助手）
アメリカにおける健康づくり				
8	アメリカの公衆衛生システム：母子保健活動を例に	アメリカの公衆衛生事業は、連邦制度という枠組みの中で、州や地方自治体が個別に展開してきた背景がある。この章では、アメリカの公衆衛生の歴史全般と母子保健に関する歴史を四期に分けて紹介し、ニューヨーク州の例を織り交ぜながら、現在に至るまでの母子保健に対する概念とシステムの発展を解説する。 【キーワード】 アメリカ公衆衛生史　防疫政策　母子保健政策　補助金制度　連邦政府　ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
9	生活習慣病予防とコントロールの方法	この章では、アメリカにおける糖尿病治療の歴史的背景、および現在の治療法、早期発見、予防法を紹介する。そして、ニューヨーク州の糖尿病への取り組みを紹介し、一次、二次、三次予防という公衆衛生の基本的枠組みや、地域、学校、医療組織、政策、といった「影響のレベル」の概念を織り交ぜて解説する。 【キーワード】 糖尿病の歴史、集中治療法、早期発見、一次予防、ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
10	大規模緊急災害に対する公衆衛生の危機管理	大規模緊急災害に対する危機管理は、アメリカが最も発達していると考えられているが、過去10年を振り返ると不備な面もあり、政治的な思惑や、突発的な大災害によって対策の焦点が移り変わっていった。この章ではアメリカの公衆衛生の危機管理のあらましを2001年9月の同時多発テロ以前の準備期と、その後の拡大期に分けて解説し、現在の取り組みと問題点を紹介する。 【キーワード】 対生物テロ、大規模緊急災害、危機管理、疾病管理予防センター,ニューヨーク州	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
11	マネジドケアの成果と今後	アメリカの増え続ける無保険人口と医療費高騰の打開策として、より多くの人々が加入できる低価格の医療保険制度をめざしたのがマネジドケアである。しかしながら市場経済の原理をもとに、商業ベースで展開するマネジドケアは未だに過渡期の中で、非常に流動的である。この章では、複雑なマネジドケアの仕組みを、歴史的な背景を交えて解説し、さらに公衆衛生とのかかわりをニューヨーク州を例に紹介する。 【キーワード】 政府医療保険、民間医療保険、マネジドケア、HMO，PPO	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）	ホスラー晃子（ニューヨーク州立大学オルバニー校公衆衛生大学院准教授）
WHOにおける挑戦				
12	健康課題の現状	WHOの幅広い活動を母子保健、ターミナルケア等、子供から老人までのライフステージの視点や、国際疾病規則（IHR）、ICD、高血圧基準等、規則・基準づくりの視点等から解説する。また三大感染症であるエイズ・結核・マラリアや慢性疾患について世界の現状とWHOの取り組みついて解説する。さらにMDG（ミレニアム開発目標）についても解説する。 【キーワード】 三大感染症、たばこの規制に関する世界保健機関枠組み条約、MDG	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）
13	健康課題への挑戦－その体制	WHOの活動を支える、組織や予算の仕組みや、WHOの政策が立案から実行に至る過程を政治的な側面も含めて解説する。またWHOに対する日本の貢献（財政的、政策的、人的）についても講義する。 【キーワード】 国連社会経済理事会、世界保健デー、世界保健総会、執行理事会、地域委員会	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）	篠崎　英夫（国立保健医療科学院長） 遠藤　弘良（国立国際医療センター国際医療協力局長）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
国際共生に向けた健康への挑戦				
14	エイズへの挑戦－ベトナム・タイ・インド・日本における現状	近年、新興感染症、あるいは再興感染症への対応は、国際共生という観点からも、極めて重要な課題となっている。とくにエイズへの対応は、各国において固有の取り組みが推進され、成果が挙げられてきた。タイ、ベトナム、インド、日本における実態について、現地訪問による調査、収録を含め講義する。 【キーワード】 同性間性的接触、異性間性的接触、静注薬物濫用、母子感染、	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）
15	国際共生に向けて－到達水準と課題	タイ、ベトナム、インド、日本などにおけるヘルスケアの中で、それぞれの到達水準の中で、国々が直面している課題について、人口の増加、制度の充実、プライマリ・ケア体制、健康増進などの面から、国際共生という点に立って考察し、講義する。 【キーワード】 人口政策、ヘルスケアを支える体制、プライマリケア体制、健康増進計画	多田羅　浩三（放送大学教授）	多田羅　浩三（放送大学教授）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1512200	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会福祉における権利擁護 （’０８） ＝ （R）

〔主任講師（現職名）：大曽根 寛（放送大学教授） 〕

講義概要

本教材は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防に役立つ実践的な課題にも応えようとする。介護保険法について2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と事業者、国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論する。この教材は、社会福祉利用者・従事者ばかりでなく、看護職、法律職などの関連職種、一般市民にも役に立つものとなるだろう。

授業の目標

本教材は、社会福祉の世界における当事者や家族、市民の声を正面から取り上げ教材に反映させるという手法を用いる。また、本教材は、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする目的をもっている。第1の柱は、社会福祉の権利構造に関する。第2の柱は、権利擁護の実践に関する。第3の柱は、生活者としての市民の権利と国家・自治体の責任に関する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	社会福祉と基本的人権	第1回は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創りだすという視点から、人権概念・権利概念を再検討することによって権利概念を理論的に再構築するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとする。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛
2	現代社会にみる権利侵害の実態	第2回は、福祉施設や病院で起きる拘束や虐待などの問題を取り上げる。ただ、生存権だけでなく、自由権・人格権や平等権など市民にとっての基本的な権利も侵される事態が頻発していることを踏まえ、元ハンセン病患者への権利侵害の実例をとりあげつつ、歴史的な経過を追うだけでなく、現代における社会的排除の実情についても検討する。	放送大学教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 准教授 三好禎之	放送大学教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 准教授 三好禎之
3	社会・経済の構造変動と権利擁護	第3回は、施設で起きる虐待、いじめなどの人権侵害だけでなく、地域社会・在宅においても生起している問題を、高齢者の生活実態を通して考える。たとえば、都市部におけるホームレスの実情、島嶼部における住民の暮らしを見ながら、近時急激に変化しつつある社会・経済の変容と社会福祉の関係をとらえ、人権侵害の構造について考える。	放送大学 教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 准教授 三好禎之	放送大学 教授 大曽根寛 愛知新城大谷大学 准教授 三好禎之
4	社会福祉構造改革と権利擁護の位置	第4回は、社会福祉政策の改革の動きと関連させながら、権利擁護システムの新しい動向を知ることは学習にとって不可欠となっている。介護保険法については、2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論しておく必要がある。	明治学院大学教授 山田 晋	明治学院大学教授 山田 晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	福祉契約	第5回は、新しい社会福祉体系の基礎となる、福祉契約の概念、特徴、問題点などについて検討する。契約論もまた、歴史的に形成されてきたものであることを確認するとともに、権利擁護の現代的な課題との関連を考える。ここでは、情報の開示、説明と同意など消費者保護の観点も必要となるだろう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
6	社会的後見	第6回は、判断能力の不十分な高齢者、障害者、児童などへの支援の方向を模索する。現在は、成年後見制度、未成年後見制度が用意されているが、社会によって支援される制度としては多くの問題を抱えている。また福祉法制上、福祉サービス利用援助事業がある。これらについて学習しよう。	放送大学教授 大曽根寛	放送大学教授 大曽根寛
7	福祉サービスの外部評価	福祉サービスを対象とする外部評価は制度化されたばかりであり、福祉従事者にも外部評価の趣旨が浸透していない。第7回は、福祉サービスの外部評価が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や外部評価の種類について学習する。福祉サービスの特徴を踏まえた、実効性のある評価手法とは何かについて考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
8	苦情解決システム	福祉施設では、苦情が少ないことがサービスの質が高いことの証明には必ずしもならない。第8回では、苦情解決が権利擁護のひとつとして位置づけられる意味や苦情解決体制、苦情の実情について学習する。苦情をめぐる、サービス提供者と利用者のそれぞれの課題と相互の関係について考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
9	福祉労働者の権利の実現	要介護者の重度化やサービス提供の多様化などによって、今日、福祉労働者の労働環境は厳しい状況にある。なかでも、長時間に及ぶ労働や、夜間一人で数十人の利用者を見守らなければならないなど、福祉労働者に掛かる負担は大きい。利用者が安心して、快適な生活を得るためには、福祉労働者の労働環境を整備する必要があろう。第9回では、介護保険施設で働く福祉労働者らに着目する。	愛知新城大谷大学准教授 三好禎之	愛知新城大谷大学准教授 三好禎之
10	虐待とDV	第10回は、すでに防止法が制定されている児童虐待、高齢者虐待、DVの実情を中心に学習する。どんな暴力も許さないという社会的認識を高め、虐待やDVに対する周囲の無関心をなくすことが必要である。そのためには、どのような方法があるのか考えてみよう。	愛知県立大学准教授 吉川雅博	愛知県立大学准教授 吉川雅博
11	最低生活保障の権利	第11回は、生活保護制度や国民年金など、市民の最低生活を保障するシステムがどこまで機能しているかを確かめるとともに、基本所得、ベイシックインカムなど理論的問題にも言及する。権利としての最低生活保障の意味を考えてみよう。	明治学院大学教授 山田　晋	明治学院大学教授 山田　晋

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
12	社会福祉と行政法制	第12回は、社会福祉と行政法制の関係について概観する。種々の社会福祉サービスと行政手続法に基づく申請に関するプロセス、申請に対して行政によってなされた処分に対する不服申立てや行政訴訟の仕組みについて見ていこう。生活保護支給決定や介護保険に基づく要介護認定等の各種の行政決定が適切になされることが、人々の権利保障にとって重要であることを理解しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
13	社会福祉と国家賠償	第13回は、人々の権利保障にとって重要な国家賠償の仕組みについて学ぶ。公営の施設において生じた事故に対する国・都道府県・市町村の責任の問題もあるが、民間事業者に対する監督責任が問われることもある。また、民間事業者が行政から委託を受けている場合などは、民間の職員が国家賠償法上「公務員」として責任を問われることもある。誰が、どのような場合に、誰に対して、損害賠償請求を行うことができるのか、実例を通して検証しよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
14	行政の公的責任	第14回は、「措置から契約へ」の流れの中で、行政の果たすべき公的責任のあり方に変化が生じている。措置制度と契約制度とで は、そこにおける行政の果たすべき役割にどのような違いが見られるのだろうか。また最近、行政の民営化の法的適否についての裁判が提起されており、これらの実例をもとに、サービス供給主体としての行政という観点からも、行政が果たすべき役割について考えてみよう。	南山大学 准教授 豊島明子	南山大学 准教授 豊島明子
15	課題と展望	第15回は本教材のまとめである。変容し続ける社会福祉制度との関係で、市民の権利はどのように守られていくか今後の課題が論じられる。福祉の産業化と行政責任の問題までを含め、総括する。これら権利擁護の新しい動向を知ることは社会福祉の学習にとって不可欠であることを確認する。	放送大学 教授 大曽根寛	放送大学 教授 大曽根寛

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1618504	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝ 欧米の社会福祉（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）： 松村 祥子（放送大学教授）〕

講義概要

少子高齢化の進行による福祉ニーズの拡大と経済停滞下の財政難に直面して、欧米の社会福祉は大きな転換をせまられている。福祉国家体制を越えた社会福祉システムの構築を目指す欧米各国の現状と課題を明らかにする。更にヨーロッパ連合等でとりくまれている国をこえた福祉政策の動向についてもとり上げる。

授業の目標

従来わが国では欧米の社会福祉制度を部分的、表面的に取り入れる傾向が強かったが、自前の福祉改革を成功させるためには新たな姿勢で欧米から学ぶ必要がある。この講義では狭義の社会福祉だけでなく、広義の生活保障を視野に入れ、社会福祉を点検、評価、改善するための新しい視点と総合的方法を示す。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	欧米福祉社会の直面する課題 －揺らぎと代替－	経済的格差だけでなく、世代、男女、人種、雇用形態、地域等に多様な格差が広がり、そこに新しい形の生活困難が発生している。ここでは、福祉国家体制の限界に対する欧米諸国の福祉改革への取り組みと国を越えた社会福祉問題への対応について取り上げる。	松村 祥子（放送大学教授）	松村 祥子（放送大学教授）
2	貧困・社会的排除への対応	欧米諸国における貧困のとらえ方と貧困対策の歴史的展開を概観した上で、社会的排除に関する研究と政策の動向を紹介する。その上で、ワークフェアやベーシックインカムなど新たな視点からの貧困問題に関する政策的対応や政策構想の意義を検討する。	平岡 公一（お茶の水女子大学教授）	平岡 公一（お茶の水女子大学教授）
3	障害のある人への対応	多くの国で障害給付受給率が高まっている。しかし増大し多様化するニーズへの充足率は低い。差別禁止法の導入、雇用者責任の拡大等を含めた障害者福祉政策の改革と今後のあり方を検討する。	丸山 一郎（埼玉県立大学教授）	丸山 一郎（埼玉県立大学教授）
4	子ども期を支える社会福祉	欧米諸国における子どもの生活変化に対応する社会福祉をテーマとする。特に女性の雇用労働者化が進み、都市的小家族が一般化している欧米諸国において子育て支援の大きな柱とされている児童手当と保育サービスに関してスウェーデンとフランスの状況を中心に検討する。	松村 祥子（放送大学教授）	松村 祥子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	高齢期を支える社会福祉	アメリカ、ドイツ、スウェーデンの高齢者介護政策について、比較福祉国家研究の視点から比較検討を行う。具体的にはそれぞれの国の制度概要を示し、特徴を明らかにする。また各国が抱える最近の課題をあげながら、日本の制度を点検する上での材料を提供したい。	斉藤　弥生（大阪大学准教授）	斉藤　弥生（大阪大学准教授）
6	雇用と社会福祉	多くの先進諸国が「福祉受給者に給付と引き換えに何らかの勤労を要求する」ワークフェア（workfare）政策を実施している。社会福祉が雇用政策と益々強く結びつけられるようになっている現状を国際比較しながら明らかにする。	新井　光吉（埼玉大学経済学部教授）	新井　光吉（埼玉大学経済学部教授）
7	地域と社会福祉	社会福祉にとって地域社会の意義を検討した上で、主にイギリスでの政策展開を紹介しながら、コミュニティケアの意義と発展段階について検討し、コミュニティケアの将来像を考える。	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）
8	アメリカの社会福祉の現状と課題	1996 年福祉改革法は権利給付(AFDC)の廃止、期限付給付、勤労義務などを導入してアメリカの社会福祉を劇的に変化させた。そこで、主たる受給者であった母子家庭がどのような影響を被り、いかなる問題に直面しているのかを明らかにする。	新井　光吉（埼玉大学教授）	新井　光吉（埼玉大学教授）
9	スウェーデンの社会福祉の現状と課題	社民主義福祉国家レジームに分類されるスウェーデンの社会福祉制度の特徴を述べ、また分野ごとに制度の概要を整理する。また社会福祉制度をめぐる昨今の課題について論じる。	斉藤　弥生（大阪大学准教授）	斉藤　弥生（大阪大学准教授）
10	イギリスの社会福祉の現状と課題	1970年代に確立したイギリスの社会福祉サービスの提供体制の特徴を明らかにした上で、1990 年代初等のコミュニティケア改革と 1997 年以降のブレア政権下の改革で、それがどのように変化してきたのかを検討する。	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）	平岡　公一（お茶の水女子大学教授）
11	フランスの社会福祉の現状と課題	年金・医療部門での財政難、高失業社会への対応の必要さらに家族政策への要望の高まり等に直面して、システム転換を試行する社会福祉の組織、方法、教育について述べる。	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	ドイツの社会福祉の現状と課題	介護保険制度など世界に先駆けた政策を実施しているドイツにおいても社会保障財政難や少子社会への対応上問題も多い。日本の社会保険のモデルとなったドイツの社会福祉・社会保障の特徴や課題の比較分析を通じて共通の課題を考察する。家族と社会福祉のあり方についても介護保険の例を通じて検討する。	田中耕太郎（山口県立大学教授）	田中耕太郎（山口県立大学教授）
13	障害に関する国連や専門機関・団体の動向	国連総会での「障害者の権利に関する国際条約」によって、新たな展開がなされることになった。障害問題解決における国連の役割は益々重要となったのであるが、国連専門機関や国際団体の活動とあわせてこのような前進がもたらされた経過を紹介したい。	丸山　一郎（埼玉県立大学教授）	丸山　一郎（埼玉県立大学教授）
14	新しい生活保障システムの構築（1） －最低生活保障と生活の質－	ライフステージの各段階で発生する生活困難を予防、緩和、解決する基盤的政策としての最低生活保障に関し、公的扶助の役割とその他の制度、とりわけ公的年金や失業扶助との役割分担やあり方について、ドイツの近年の改革動向の分析を通じて考察を行う。	田中耕太郎（山口県立大学教授）	田中耕太郎（山口県立大学教授）
15	新しい生活保障システムの構築（2） －家族、雇用、住宅、教育、文化領域との連携強化－	分断的、閉鎖的な社会福祉から横断的、開放的な方向へ転換するためには、雇用、住宅等の関連諸施策を含めた総合的施策が必要である。欧米諸国のとりくみと日本を比較して、今後の課題を明らかにする。	松村　祥子（放送大学教授）	松村　祥子（放送大学教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1628216	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　進化と人間行動（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　長谷川　眞理子（総合研究大学院大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　長谷川　寿一　（東京大学大学院教授）　〕

講義概要

人間は明らかに生物界の一員であり、霊長類の中の一種である。しかし、社会通念としては、人間は他の動物とは異質な、あるいは超越した存在であるとみなされる場合がほとんどである。しかし、実際のところ、人間と他の動物との間の断絶はどれほど深いのか？　われわれが進化的な存在であるとすれば、現代人は進化的過去をどのように背負っているのか？　この講義では、一介のサルにすぎない「ヒト」と、テクノロジーを携え無数の文化を花開かせて、地球の征服者にのし上がった「人間」の間に横たわる諸問題を、進化と適応という観点から考えていきたい。

授業の目標

この講義では、次の事項について学ぶ。１）進化生物学の基本的な考え方と代表的な理論、特に自然淘汰と適応について。２）霊長類と人類の進化史、ヒトの心が進化した環境について。３）血縁関係の進化理論とヒトの家族関係をめぐる実証的研究。４）協力行動の進化理論、ヒトの社会的交換・公正感情・倫理観の生物的基盤。５）性淘汰の理論と実証的研究、ヒトの繁殖システムについて。６）言語と文化の起源と進化、ヒトはどのように特別なチンパンジーなのか。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	人間の本性の探求	人間の心理や行動に対して、伝統的な人文社会科学だけでなく、自然科学からアプローチすることの意義について解説する。「人間の本性」を巡る考え方の中では、「氏か育ちか」ということがくり返し問題にされてきたが、ここでは両極端の誤りを示し、二分法を越えた人間理解の道筋を示す。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）
2	進化と適応	進化とは生物の遺伝的な性質が時間と共に変化する過程である。ここでは中立進化と自然淘汰の２つの進化メカニズムを説明し、特に適応的な性質を生み出す自然淘汰について実例を挙げながら解説する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
3	行動の進化	行動を規定したり行動に影響したりする遺伝子について、行動遺伝学の研究例を示しながら解説する。行動はどのようにして進化するのか、行動と遺伝子の関係、またそこに作用する環境要因について考える。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	「種の保存」論と「利己的遺伝子」	動物の行動がなぜ進化するのかという問いに対して、しばしば「種の保存のため」という説明がなされてきた。ここでは種の保存論がなぜ誤りであるかを示し、自然淘汰が遺伝子とその乗り物である個体に対して作用することを説明する。	同上	同上
5	霊長類の進化と適応	ここではヒトを含む分類群である霊長類の進化、生態、適応について説明する。具体的には手足、眼（立体視・色覚）、生活史、脳の進化について解説する。脳の進化をめぐっては「社会脳仮説」を紹介する。	長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川寿一（東京大学大学院教授）
6	ヒトの心を生んだ進化環境	人類はチンパンジーの祖先と約 600 万年前に分岐した。ここではこの 600 万年間を、1）猿人の時代、2）初期のヒト属とエレクトスの時代、3）ネアンデルタールとサピエンスの時代に分けて説明し、我々の心の進化適応を生み出した環境について考察する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
7	血縁淘汰	近縁者間の協力行動の進化を考える理論的枠組みである血縁淘汰説について説明する。具体例としてアリやハチなどの社会性昆虫、鳥類や哺乳類のヘルパー行動を紹介する。	長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川寿一（東京大学大学院教授）
8	ヒトにおける血縁淘汰と家族関係	ヒトにおいて血縁淘汰は働くか？　家族、親族のきずなが血縁淘汰説でどこまで説明できるのか、さまざまな時代、社会、民族の援助行動や利他行動について、例を挙げながら説明する。また家族の間で生じる資源をめぐる対立関係についても述べる	同上	同上
9	協力行動の進化	ヒト以外の動物でも非血縁者どうしの間でしばしば協力行動がみられる。非血縁者間の協力行動の進化の枠組みを、相互扶助、共生、互恵的利他行動の観点から解説する。協力行動の代表的な進化ゲームとして、囚人のジレンマを用いた研究についても説明する。	同上	同上
10	ヒトの協力行動を支える心理	ヒトはどの動物にもまして非血縁者の間で協力行動が見られる。そのような協力行動がどのように築かれ、維持されるのか。また、裏切り者や社会的寄生にどう対抗するのか。ヒトの協力行動を支える心理や社会感情について説明する。	同上	同上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	ヒトにおける生活史パターンの進化	ヒトという生物は、子どもの成長期間が非常に長く、寿命も長い。多くの他の霊長類と異なり、離乳したあとも、ヒトの子どもが一人前になるまでには多くの世話を必要とする。また、ヒトの寿命は非常に長く、女性は、繁殖可能性がなくなったあとも長く生きる。このような生活史のパターンの変化と、ヒトの社会性や文化の発達との関連を考える。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）
12	性淘汰の理論	雄と雌はなぜ違うのか。性差はダーウィン以来、性淘汰の問題として取り上げられてきた。ここでは繁殖をめぐる競争関係を、配偶者獲得競争、配偶者選択、配偶者防衛行動などの観点から論じ、同性どうし、雌雄間の対立について説明する。	同上	同上
13	ヒトの繁殖と配偶システム	ここでは、他の動物との比較を通してヒトの繁殖行動の特徴を考察する。ヒトの配偶システムとして、一夫一妻、一夫多妻、（まれに）一妻多夫がみられるが、それぞれの生態学的要因について説明する。ヒトの子育ての特殊性についても論じる。	同上	同上
14	ヒトの配偶者選択と配偶者防衛	ヒトの配偶（夫婦、恋人）関係をめぐっては協力と対立が多様な形で現れる。ここではヒトの配偶者選択、恋愛感情、配偶者防衛、男女の対立と権力関係、性的嫉妬などについてみていく。	同上	同上
15	言語と文化	ヒトは遺伝的にはチンパンジーに非常に近いが、社会、文化的には両種の間には著しい隔たりがある。この違いをもたらす人間性の本質は、とくに言語と文化にあると言われる。では言語や文化はどのよう誕生し、進化したのか。近年の知見に基づき説明する。	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）	長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授） 長谷川寿一（東京大学大学院教授）

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1533304	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　消費者と証券投資（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：　林　　敏彦（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：　坂井　素思（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：　佐賀　卓雄（㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員）〕

講義概要

日本の金融システムは１９９０年代以降、グローバル化と度重なる制度変更によって大きな変化を遂げてきました。他方、日本の家計部門は安定的な経済成長の中で高貯蓄率を維持しながら、金融資産の蓄積を進めてきました。いま少子高齢社会の到来を迎え、社会保障制度も改革が迫られている中、消費者はどのような金融市場を活用した資産運用を心がければよいのでしょうか。この科目では、社会人にとって不可欠な証券投資の問題を、消費者の生活設計の視点から考えてみることにします。

授業の目標

２００７年から２０１０年にかけて退職する「団塊の世代」のみならず、成熟社会の消費者家計にとって、退職金や貯蓄などの金融資産をいかに運用するかは重大な関心事です。この科目では、消費者の視点から見た賢明な資金運用のあり方、中でも証券投資に関する知識を習得すると共に、消費者の行動が経済社会全体の中でどのような役割をはたすのかについても学習します。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	証券とは何か	証券にはどのような形と種類があり、どのような金融機関が取り扱っているのでしょうか。ネット証券で買った株式の株券を見たことがありますか。証券を売買するとき、私たちは、本当は何を売買しているのでしょう。	林　敏彦（放送大学教授）	林　敏彦（放送大学教授）
2	日本の家計資産に何が起こっているのか	１４００兆円とも言われる日本の家計金融資産で、いま何が変化しているのでしょうか。少子高齢化、金融経済の浸透などの社会変化によって、日本人の貯蓄意識は変化し、そのため資産の保有状況も変わってきています。この回では、金融資産保有と循環の現状と問題点について、家計の視点から見てみましょう。	坂井素思（放送大学准教授）	坂井素思（放送大学准教授）
3	生活に潜むリスクに向かい合う	消費生活は多種多様な純粋リスク・投機的リスクを伴っています。資産運用だけでなく資金調達にもリスクは生じます。また、様々な消費者被害も社会問題化しています。この回では、生活の諸場面で消費者がどのようなリスクに直面するのかを考えると同時に、リスクの管理局面における課題についても検討します。	奈良由美子（放送大学准教授）	奈良由美子（放送大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	ライフプランと資産運用	個人や家計は人生設計をどのように行い、それを実現するためにはどのような資金的裏付けを必要とするのでしょうか。豊かな暮らしを実現するための資金調整のあり方を、資産運用の視点から考えてみましょう。	戸井佳奈子(安田女子大学准教授)	戸井佳奈子(安田女子大学准教授)
5	投資を考える基礎	資金を投下し、一定期間後にその成果を回収しようとする行為が、投資です。投資には、リスクが伴いますが、そのリスクをどう把握し、いかに対処したらよいのでしょう。こうした点を考える基礎となる視点と概念の枠組みを説明します。	池尾和人(慶應義塾大学教授)	池尾和人(慶應義塾大学教授)
6	投資と証券市場	それぞれの個人が投資をすることは、社会や経済全体の中でどんな役割を果たすことになるのでしょう。一人一人は自覚していなくても、投資を通じた経済活動への貢献があることと、それを実現する仕組みについて説明します。	池尾和人(慶應義塾大学教授)	池尾和人(慶應義塾大学教授)
7	バブルの教訓	株式や土地などの資産の価格は、１００年に一度ぐらいの割合でバブルと呼ばれる異常な動きを示すことがあります。バブルには功罪があるのでしょうか。現代の金融市場のルールには、過去のどのようなバブルの教訓が生かされているのでしょうか。	林敏彦(放送大学教授)	林敏彦(放送大学教授)
8	証券販売チャネルの拡大と投資者保護	今や、個人投資家の株式売買注文の８０％以上がインターネット経由で行われています。また、証券仲介業の導入により、会計事務所、フィナンシャル・プランナーに止まらず、コンビニエンス・ストア、自動車ディラーなど、あらゆる業態が証券販売に参入し始めています。郵便局での投資信託の販売も始まりました。他方では、チャネルの拡大に伴い、悪質な業者の参入も予想されます。証券取引に対する投資者保護の制度・仕組みの整備・強化が必要であることはもちろんですが、投資家は正確な金融・投資知識を身につけ自己防衛に努める必要性も高まっています。	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)
9	株式投資の魅力を考える	株式に投資すると、他の金融商品と比べて、どのようなメリットがあるでしょうか。株価はなぜ大きく変動するのでしょうか。株価は企業の業績とどのように関係しているのでしょうか。株式投資の基本的な特徴を説明し、株式投資の魅力について考えます。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
10	どのような株式に投資すべきか	株式投資には長期的に高いリターンが得られるという魅力とともに、株価が低下するリスクもあります。価格変動のリスクを必要以上にとらずに、高いリターンを得るためには、どのような点に着目して銘柄を選択すべきかについて考えます。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
11	債券投資の基礎	国債や社債などの債券は、預金や株式と並んで、個人投資家にとって重要な投資対象の一つです。債券価格はどのような要因によって決まるのか、債券の利回りはどのように計算されるのか等、債券投資の基礎知識について説明します。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
12	債券投資のリスクとは	債券投資は株式投資に比べると安全性が高いと言えますが、それでも景気や金利の影響を受けて債券価格は変動します。また、個々の債券の安全性が違えば、価格や利回りの水準が異なります。債券投資のリスクをどのように考えるべきかについて説明します。	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)	髙橋文郎(青山学院大学大学院教授)
13	投資信託の基礎	投資信託は、共同投資により少額の資金にも分散投資の機会を提供します。近年は販売チャネルが拡大し、私たちにとって身近な存在となりつつあります。今回は投資信託の歴史、制度、仕組み、商品の種類や選択基準などを眺め、その国民経済的な意義を考えてみましょう。	髙橋元(作新学院大学大学院教授)	髙橋元(作新学院大学大学院教授)
14	新しい金融商品の登場	金融の自由化を背景に、多様な金融商品が出現しています。その多くは金融理論の進歩や投資技術の高度化などを背景としていることから、一般には仕組みを理解することが難しく、思わぬリスク負担を伴うものもあります。それらに投資する際の留意点を考えてみましょう。	髙橋元(作新学院大学大学院教授)	髙橋元(作新学院大学大学院教授)
15	証券投資を取り巻く新たな動き	証券投資に関する法律や制度は時代やテクノロジーとともに変化を続けます。取引ルール、商品開発、販売チャネルなど、最新の動きはどうなっているのでしょうか。消費者が証券投資のことをもっと良く知るためには、どうすればよいでしょうか。	佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)	林敏彦(放送大学教授) 坂井素思(放送大学准教授) 佐賀卓雄(㈶日本証券経済研究所理事兼主任研究員)

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	1599380	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　途上国の開発（‘０７）＝（TV）

〔主任講師（現職名）：髙木　保興（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：河合　明宣（放送大学教授）〕

講義概要

この講義の目的は、開発途上国と呼ばれる生活水準の低い国が未だに世界に100カ国以上存在し、いろいろな問題に直面していることを理解し、途上国に興味を持ってもらうことです。講義は、途上国の現実の紹介とどうすれば生活水準がベターになるかの解説を平行して進めます。どちらが欠けても望ましい理解は期待できないからです。

授業の目標

途上国問題を理解し対策を議論するには、途上国を知り興味を持つことが早道です。授業では、現実を紹介するコーナーを河合先生が担当し、途上国が直面する問題の解説コーナーを髙木が担当します。現実を見ながら問題を理解できるように、二つのコーナーを平行して進めます。机上の空論にならないように、経験だけで理解できると思わないように、現実と理論のバランスをとることを目標にします。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	途上国の生活水準	途上国の貧困はなぜ国際問題になるのでしょうか。貧しさの程度は何を見てどれくらいと判断できるのでしょうか。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣
2	経済的貧困と政治・社会的貧困	経済的貧困はどのようにして計測されるのでしょうか、経済的要因以外でも命を落とす人が途上国では少なくないが、人間の安全保障とはどのように考えればいいのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
3	食糧不足段階の開発	不足する食糧はどのようにして確保すればいいのでしょうか。一次産品輸出や食糧価格支持政策は農民の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。食糧自給体制の確立に向けて考えられる政策とは。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	マイクロ・ファイナンス	農村の高利貸しは農民が貧困から抜け出せない一因になっているのでしょうか。グラミン銀行の成功の原因は。マイクロ・ファイナンスに問題はないのでしょうか。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
5	食糧充足後の開発	農業のポテンシャルは開発すべきでしょうか、それとも、工業化のほうがベターなのでしょうか。農業開発と工業化の比較検討は重要になってくる。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
6	工業化の基本方針	発展の原動力は資本蓄積か輸出か、それとも何か外に考えられるのでしょうか。政府の望ましいサイズは、バランスの取れた発展か、アンバランスでも早い発展のほうがベターか、工業化に際して必要な検討事項を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
7	工業化の体制整備	工業化にとって必要な組織は何か、途上国が活用できる資源とは何か、工業化をスタートさせるにはどうすればいいか、工業化に際して必要な体制整備を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
8	工業化戦略	自国企業と外国企業の差は、輸入代替と輸出指向の相違点は、多国籍企業の誘致に問題はないのか、低金利政策は工業化にベターか、具体的な工業化戦略が課題となります。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
9	農業から工業への資源移動	途上国で余っている資源とは、農業と工業の間に見られる二重構造とは、工業化過程で発生する副産物のスラム問題とは、工業化をマクロの視点から眺めます。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
10	政府主導の落とし穴	政府主導は理想に流されやすいか、理想と現実のギャップが生み出すものは何か、現実に発生した債務問題とは、大きな政府の問題がなぜ発生したのかを検討します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	産業構造高度化への障害	後発途上国に軽工業から締め出され、先進国に重化学工業への進出を邪魔される。軽工業で工業化に成功した途上国は、この難関をどうすれば突破できるのでしょうか。東アジアの奇跡と通貨危機とはどんな教訓を与えてくれるのか、スタートに成功した途上国の問題を議論します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
12	経済共同体構想	冷戦後の安全保障を途上国はいかにすれば確保できるか、東アジア地域の共同体構想は生きているか、FTA（自由貿易協定）と地域共同体との違いはどこにあるのか、工業化と安全保障との関係を検討します。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
13	社会の変容と社会（関係）資本	農業社会から工業社会への移行は何をもたらしたのか、社会（関係）資本の変容は人々の暮らしを豊かにしたか、工業化の過程で変容する社会に光を当て、工業化によってわれわれが目指していたものは何であったかを問い直してみることにします。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
14	「小さな政府」と「賢明な政府」	政府の役割として議論された代表例として、債務問題発生後に展開された「小さな政府」と東アジアの奇跡で評価された「賢明な政府」を紹介し、途上国政府の役割として何が期待されているか探ってみます。	髙木　保興 河合　明宣	髙木　保興 河合　明宣
15	政府の役割－発展段階に応じた優先順位	政府の役割は段階ごとに変化してくる。変化しないベストな体制は存在しないからです。途上国政府は何をどの段階ですればいいのか議論してみます。	髙木　保興	髙木　保興 河合　明宣

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目ｺｰﾄﾞ	1531409	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　幸福の社会理論　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：髙坂　健次（関西学院大学教授）　　〕

講義概要

現代社会に生きる人間の「幸福」および「不幸」のあり方について、こんにち、さまざまな論議がなされています。本講義では、「幸福」と「不幸」の客観的状況と主観的状況、ならびにそれら相互の間の関係について具体的に明らかにし、その問題点を明らかにするとともに、将来のあり方について考察しながら、「幸福の社会理論」の構築を目指します。

授業の目標

全15回の講義を通じて、「幸福」と「不幸」に関する過去と現代の理論としてどのようなものがあったか、過去の時代や他の民族社会においてどのように捉えられてきたか、現代日本社会の状況と具体的現象や事例を念頭に置いたときの幸福の条件とは何か、グローバル化した世界における私たちは何をなすべきか、について概略が分かるようになることを目標としています。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	幸福の理論史	功利主義批判として出発した社会学がいちはやく幸福について考えようとしていたこと、それにもかかわらずその後の動きが頓挫した事情について述べます。また、現代における「幸福の社会理論」の復活の兆しについてさまざまな研究動向を通して言及します。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
2	不幸の減算	「幸福の加算」だけを考えていると常に不幸な人々が残ってしまうことに着目し、人類の進歩を幸福の加算にではなく、「不幸の減算」の側から見ていくことも大切であることを市井三郎の議論を手がかりに考えます。また、客観的幸福と主観的幸福の関係について論じます。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
3	幸福の民俗理論	伝統社会における幸福観や、幸福を得るために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。社会的ネットワークを築くための婚姻の規則や、儀礼の役割、昔話に表現された幸福観などについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
4	不幸の民俗理論	伝統社会における不幸観や、不幸に対処するために人々が発達させてきた知恵や工夫について学習します。災害や病気の説明システムや、社会的不均衡がもたらす葛藤を解消し、社会的紐帯を維持するシステムについて考えます。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
5	死者の幸福	伝統的社会における幸福や不幸の捉え方は、死後の霊魂の行方、あり方と密接に関係しています。死後の世界をどのようなものとして思い描き、死後に幸福を得るために、人びとはどのような生き方をしてきたのかについて学習します。	山泰幸（関西学院大学准教授）	山泰幸（関西学院大学准教授）
6	幸福の測り方	幸福の測り方を「主観的な意識」に注目する方法、「客観的な状態」に注目する方法、「主観的な意識」と「客観的な状態」をつなぐ中間項としての「生き方の幅」に注目する方法、の三つに分けて解説します。また社会状態を比較する基準であるパレート最適という考え方を学びます。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
7	幸福感の現状	心理学や経済学や社会学における幸福感の計量調査の代表的な知見を紹介します。個人や国家のあいだで主観的幸福感がどのように異なっているのかを比較しつつ、幸福感がどのような要素から形成されているのかを解明します。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）
8	幸福な社会のデザイン	幸福な社会をわれわれ自身の手で作りあげることができるのか、という問題を「ユートピア」というキーワードを手がかりに考えます。社会的選択理論や映画作品で描かれたユートピア像を参考にして、幸福な社会をデザインすることの可能性を検討します。	浜田宏（東北大学大学院准教授）	浜田宏（東北大学大学院准教授）
9	承認と幸福	自分らしさ＝アイデンティティの確立にとって「他者からの承認」が持つ意義について、今日的な社会・文化現象を交えながら論じます。現代社会に生きる私たちが「自分らしくある幸せ」を実感するうえで、他者による承認が二重の意義を持っている点を明らかにします。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
10	監視と自由	現代社会では、「安全・安心」が至上命令と化しています。そうした社会情勢のもとで、人々の「自由」にはどのような制約が課されているのでしょうか。セキュリティ確保を目指す監視社会に潜む問題点を明らかにすることを通して、「自由である幸せ」をめぐる課題について考えます。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
11	公共圏と他者	現在、社会問題への解決策として「公共性の復権」が叫ばれています。ですが、そこで目指される「公共性」の内実は、必ずしも明らかではありません。誰にとっての／どのような公共性が求められているかについて、「他者とともにいる幸せ」という視座から考えます。	阿部潔（関西学院大学教授）	阿部潔（関西学院大学教授）
12	災害の不幸	阪神・淡路大震災を例にとって、災害のもたらすさまざまな不幸について、どうすれば回避ないし軽減できたかという視点で振り返ってみます。とくに、震災の事前、事後の「想定外」がもたらした結果に着目し、社会科学が果たしうる貢献について論じます。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
13	グローバル化	グローバル化の意味について理解を深めながら、その時代に特有の不幸について述べます。とくに、「圧倒的な非対称（格差）」の増大、世界的な暴力の拡大、科学技術の発展がもたらした「取り返しのつかない」不幸など、21世紀型の不幸について分析します。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
14	取り逃がした機会	「自己に責任のない不条理な苦痛」としての不幸を回避ないし軽減しうる可能性を、「取り逃がした機会」として概念化します。その上で、ベトナム戦争やJR福知山線列車事故の具体例を通して本研究分野を将来に向けての社会学的救済論として確立します。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂健次（関西学院大学教授）
15	理論と実践	「幸福の社会理論」で学んだ事柄を理論、歴史、経験、方法のそれぞれの側面からさらに理解を深めるとともに、私たちが、社会の幸福に向けて具体的にできることは何か、また何をなすべきかについて、講師全員で議論します。 ＊最終回は、主任講師と分担協力講師の全員（4名）でディスカッション形式をとります。	髙坂健次（関西学院大学教授）	髙坂・阿部・山・浜田

事務局記載欄	開設年度	平成19年度	科目区分	総合科目	科目コード	看護1545302 その他1644408	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア）＝　日本のマスメディア（‘07）＝（R）

〔主任講師（現職名）：柏倉　康夫　（放送大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　卓己　（京都大学大学院准教授）〕
〔主任講師（現職名）：小室　広佐子（東京国際大学准教授）〕

講義概要

『日本のマスメディア』では19世紀以降に発展をとげた日本の新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマス・コミュニケーション手段の特質と、それが日本の社会にもたらした変革に焦点をあてて論じる。各メデイアが発達した現在、マスメディアが社会にとって重要なことがらを決定する力、いわゆる「アジェンダ決定能力」の大きな部分を担っているといわれる。私たちの社会のあり方を考察する上で、マスメディアの本質を理解することは決定的に重要である。授業では歴史的視点を重視しつつ、マスメディアの過去と現在を分析する。

授業の目標

私たちは日々、情報の洪水にさらされている。その多くはマスメディアを通して流されるもので、そうした情報の真偽を検証するには、個々の「メディア・リテラシー（メディアを読み解く能力）」、とりわけ新聞やテレビが伝える内容を批判的に読み解く能力を高める必要がある。
１５回の授業では、日本社会のあり方を左右した歴史状況を取り上げて、そこにメディアがどうかかわったかを検証する。この作業を通して「マスメディアに強くなる」ことを目標とする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	マスメディアの現在	20世紀後半に登場したパーソナル・コンピュータとそれをつなぐネットの発展は、私たちの情報環境を一変させた。これによってパーソナル・コンピュータはコミュニケーションの道具と考えられるようになり、閉鎖的な空間は一気に世界と結びつくことになった。当然こうした変化は、19世紀以来発展し続けてきた新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマスメディアの機能と役割に大きな変化をもたらさずにはいない。講義の第一回は、21世紀の情報環境を概観し、今日マスメディアが直面する課題を検討する。	柏倉康夫（放送大学教授）	柏倉康夫（放送大学教授） 佐藤卓己（京都大学大学院准教授） 小室広佐子（東京国際大学准教授）
2	新聞の誕生―「かわら版」から「新聞」へ	江戸時代末期、世の中の情報は口から口へと流布され、一方で「かわら版」が事件や災害、奇譚などを伝えて庶民の好奇心を満たした。こうした「書きジャーナリズム」は、明治になって登場した英字新聞や日刊新聞の誕生で一変する。この回は黎明期の新聞のあり方を検証する。	柏倉康夫（放送大学教授）	柏倉康夫（放送大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
3	ジャーナリズムの成立―報道か論説か	ジャーナリズムとしての新聞は、英国人ジョン・ブラックが創刊した「ジャパン・ヘラルド」や「日新真事誌」がさきがけとなり、やがて自由民権運動の台頭とともに新聞も隆盛をみた。その間、新聞の機能をめぐって「報道」か「論説」かの議論がおき、加えて権力の側は「新聞紙条例」で表現の自由を制限しようとした。言論機関としての新聞の役割を考える。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
4	多メディア時代の新聞―ライバル・メディアの出現	日本の新聞は戦争とともに読者を増やした。日露戦争の結果、新聞社は積極的に戦争報道に乗り出し、その結果1924年には発行部数が100万部をこす新聞が出現した。だがその翌年のラジオの出現は、新聞にとって速報競争の点で大きな脅威となった。多メディア時代を迎えた新聞の戦略をとりあげる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
5	戦時下の新聞報道	第二次世界大戦は、国民すべてを巻き込んだ総力戦であり、影響力の大きいマスメディアは当然のことながら、戦時体制に組み込まれることになった。情報は統制され、新聞各社の記事の独自性は次第に狭められていった。この回では、新聞を含めた戦時下の日本の言論体制を論じる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
6	新聞は誰のものか	戦後日本のマスメディアは、アメリカの占領政策のもとで大きくさま変わりした。GHQの関心は新聞、雑誌、ラジオなど、あらゆるメディアに及んだが、とりわけ影響力の大きい新聞のあり方が問題とされた。その過程で「編集権」をめぐる論議が起き、これをきっかけに新聞の経営主体が明確化され、新聞社の寡占体制が確立された。この経緯を取りあげる。	柏倉康夫(放送大学教授)	柏倉康夫(放送大学教授)
7	雑誌メディアの成立―国民化と広告化	マス・メディアとは「広告媒体」の意味で使われ始めた言葉である。新聞や放送と比べて広告規制が少ない雑誌は、大衆社会において純粋メディアの性格を備えている。新聞と雑誌の曖昧な関係を新聞紙法と出版法の定義から考察し、日本における雑誌の源流『西洋雑誌』(1867年創刊)にさかのぼって概観する。明治期に雑誌が国民文化形成に果たした役割を、近代的出版社・博文館と広告代理店・博報堂を通じて検討したい。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
8	国民雑誌の公共性―動員＝参加のメディア	第一次世界大戦後、都市的な大衆文化が花開いた。普通選挙法が成立し、ラジオ放送が始まった1925年(大正14年)、日本初の百万雑誌『キング』が大日本雄弁会講談社によって創刊された。「大衆」という言葉が「マス」の意味で使われるようになったのも、同じ時代である。この国民雑誌を中核とする「講談社文化」が大衆政治に与えた影響は絶大である。大衆雑誌が担った大衆ナショナリズムの機能を、「岩波文化」と称された教養主義エリート文化との関係から考察する。	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
9	戦時体制と言論統制	15年戦争の時代は「出版暗黒時代」とみなされている。確かに、左翼機関誌は姿を消し、自由主義雑誌も厳しい検閲にさらされた。しかし、日中戦争勃発による戦争景気の中で婦人雑誌や少年少女雑誌を含む雑誌の売り上げは急増を続けた。1941年（昭和16年）の対米戦争は「出版バブル」に沸く高揚感の中で開始された。雑誌メディアの戦争責任を考えるならば、「言論弾圧」のみを強調するだけでは不十分である。言論統制の実態を直視することで、女性の社会参加や少国民の政治化も促進した戦時雑誌の機能も再検討しなければならない。	佐藤卓己（京都大学大学院准教授）	佐藤卓己（京都大学大学院准教授）
10	情報化の中の細分化メディア	敗戦直後、総合雑誌とともに数多くの「カストリ雑誌」が生まれた。しかし、戦後の世論を組織したのは、新たに台頭した大衆週刊誌であった。激しい社会変動は雑誌刊行の主流を月刊から週刊へと加速化し、また高度経済成長が実現した消費社会の中でカタログ雑誌が続々と創刊された。しかし、インターネット普及とともに、戦後拡大の一途をたどった雑誌市場も衰退局面を抑えている。電子ジャーナルやメール・マガジンなど新しい試みも注目されている。	佐藤卓己（京都大学大学院准教授）	佐藤卓己（京都大学大学院准教授）
11	ラジオが主役だった時代	大正天皇の大葬儀、昭和天皇の御大礼などのメディア・イベントを通じて、ラジオ放送は国民に広く普及した。2.26事件の「兵に告ぐ」、戦時中の大本営発表、終戦の「玉音放送」などがラジオ史の一こまとして記憶されるが、ラジオは必ずしも誕生時に報道としての機能が期待されたわけではなかった。ラジオが主役だった時代に持ち合わせた役割を検証する。	小室広佐子（東京国際大学准教授）	小室広佐子（東京国際大学准教授）
12	テレビ―現実を映す鏡という神話	テレビ報道の一面性を、戦争報道を通して描く。ベトナム戦争は、「テレビに映し出された最初の戦争」といわれたが、のちの湾岸戦争では開戦の模様が衛星生中継され、戦闘を同時進行で体験したような錯覚を視聴者に与えた。さらに10年後のイラク戦争ではアメリカ発の映像だけでなく、中東のもう一方の側から見た映像が送られ、日本で見ているテレビ映像は一方的にきりとられた映像であったことを私たちに気づかせた。	小室広佐子（東京国際大学准教授）	柏倉康夫（放送大学教授） 小室広佐子（東京国際大学准教授）
13	ゆらぐ取材倫理	記事の捏造、倒錯、語法、過剰な映像演出による「やらせ」、集中的な過熱取材など、新聞記事や放送番組、ひいてはマスメディアそのものの信頼性をそこなう事態が相ついでいる。背景には、取材機材の進化も手伝い、マスメディアにますます速報性がもとめられ競争が激化し、「特ダネ」が伝え手の大きな関心事になっているという事情もある。そうした時代に求められる取材倫理について考える。	小室広佐子（東京国際大学准教授）	小室広佐子（東京国際大学准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
14	放送と通信の融合	放送と通信は別の技術体系として異なる産業が担って発展し、異なる法律・役所の預かるところで、研究領域としても別個のものであった。しかし道具(ツール)としての放送と通信の融合は現実のものとなっている。マスメディアとしての放送とパーソナルなメディアとしての通信の融合は、日本のマスメディアにどのような変革をもたらすのか、マスメディアの将来像を論じる。	小室広佐子(東京国際大学准教授)	小室広佐子(東京国際大学准教授)
15	マスメディアとどう向き合う―メディア・リテラシー―	これまでの講義で明らかになった、マスメディアには語法や捏造という個々の記事、番組レベルの誤りがあるだけでなく、時の権力による統制があり、あるいはメディア自身による自己規制がある。またメディアはそもそも現実の一部しか伝えることができないことも見てきた。こうした幾重にも重なる制限の中で表現されたマスメディアを読み解くにあたり、私たちはどうしたら賢い読者、視聴者になれるのかを、3人の講師とともに考える。	小室広佐子(東京国大大学准教授)	柏倉康夫(放送大学教授) 佐藤卓己(京都大学大学院准教授) 小室広佐子(東京国際大学准教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度（第2学期）	科目区分	総合科目	科目コード	1551809	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 社会の中の科学 （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：中島　秀人（東京工業大学大学院准教授）　〕

講義概要

今日、科学・技術が私たちの生活の圧倒的な影響力をふるっていることは改めて語るまでもない。本講義は、哲学領域の中で、この科学の問題に対応する科目である。ここでは、科学を成立させる社会的基盤の検討を行うとともに、科学のもたらす社会的影響についても検討を行う。

授業の目標

全15回の講義を通じて、科学や技術がどのように発展したか、また現代社会における科学技術とは何か、それは社会にどのような道筋で強い影響を与えるようになったのかを理解できるようになることを目標等する。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代社会と科学・技術	現代科学・技術の種々の話題に触れながら、現実社会で営まれている科学・技術が、通常思われている以上の多様性を持つことを解説する。このことによって、受講者が、科学とは何か、技術とは何か、これと社会はどういう関係にあるのかを考えるきっかけとする。 【キーワード】 科学と技術、科学・技術、科学技術、科学者、技術者	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）
2	古代の自然科学	自然科学はいつ始まったのか、とい問いかけを通じて、科学とは何か、それは他の人間の営みとどう異なるのかを考える。具体的な事例として、古代の人々の自然観を、アリストテレスの自然学を中心に取り上げる。 【キーワード】 科学の始め、神話、合理性、四元素説、天動説	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）
3	技術の始め	石器時代からローマ時代までの西欧技術史をごく大まかに概説し、古代世界の技術の特徴を考える。また、プラトンやアリストテレスらの古代の哲学者が、技術についてどのように考えていたのかを解説する。 【キーワード】 技術の時代区分、ギリシャ・ローマの技術、古代の技術観	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）
4	科学革命	17世紀に起きた科学の大発展「科学革命」について、天文学を事例に、歴史をたどって解説する。その上で、科学革命後の科学が、それ以前の科学とどのように違っていたのかを考える。 【キーワード】 コペルニクス、地動説、血液循環の学説	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）	中島秀人（東京工業大学大学院准教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	中世の産業革命	8世紀以降の欧州で起こった技術の大発展について解説する。その後に現れたルネッサンス期の天才技術者の活動について紹介する。産業発展に伴って登場した大学の成立についても触れたい。 【キーワード】 水車、馬力、三圃制、レオナルド・ダ・ヴィンチ、12世紀ルネサンス	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
6	近代科学とは何か	実験や観測、数学の利用などに関係づけて、近代科学とは何かを考える。加えて、近代における科学と技術の関係、科学の登場と錬金術や魔術の関係についても論じる。 【キーワード】 実験、観測、ガリレオ、新プラトン主義、経験主義	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
7	科学の制度化と専門職業化	科学の社会制度的なありかたの変化に着目し、科学の「制度化」、「専門職業化」とは何かを解説する。最初に登場した科学者はどのような人々であったのか、彼らは科学と技術の関係をどのように捉えていたのかを紹介する。 【キーワード】 学会、学会誌、ロンドン王立協会、科学と宗教、エコール・ポリテクニク、啓蒙思想	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
8	産業革命の時代の科学と技術	イギリス産業革命を事例として、この時代の技術に科学がどのような寄与をしたかを考える。また、技術者の教育がイギリスでどのように行われてきたのかを紹介する。 【キーワード】 ワット、蒸気機関、職人、メカニクス・インスティテュート、工部大学校	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
9	アメリカ型大量生産システムの誕生	1851年のロンドン万国博覧会について紹介し、そこで話題となった互換性生産方式と、アメリカの技術の発展について解説する。 【キーワード】 ロンドン万国博覧会、互換性生産、フォード、産業社会、アメリカンシステム	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
10	エンジニア:企業の中の科学者	19世紀に登場した「科学に基礎を置く技術」について、電気および化学を事例として解説する。この新しい技術を支えるために設置された企業の研究所に触れ、近代的な意味でのエンジニアがそこで初めて登場したことを紹介する。 【キーワード】 エジソン、電力技術、有機化学、合成染料、ナイロン	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
11	国家と科学技術	ドイツの科学・技術と国家の関係を紹介する。また、20世紀の二つの大戦における科学・技術の役割を考える。 【キーワード】 ベルリン大学、毒ガス、帝国物理工学研究所	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	科学論の展開	20世紀に科学が本格的に社会制度に組み込まれるにしたがって、科学に対する考察として、科学史や科学哲学の分野が発展する。その道筋を、ごく大まかに概観する。さらに、世紀末に、科学社会学のアプローチが科学論に影響を与えたことを説明する。 【キーワード】 論理実証主義、反証主義、パラダイム論、科学の社会的構成、サイエンス・ウォーズ	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
13	冷戦型科学技術研究システムの形成	冷戦型科学の基礎となったマンハッタン計画をみる。また、冷戦構造が確立した1950年代以降の時期の科学・技術のあり方について、リニア・モデルを例にして考える。さらに、これに反対した流れが、現在の知的所有権の重視、ベンチャー企業のブームなどにつながってことを紹介する。 【キーワード】 マンハッタン計画、V. ブッシュ、リニア・モデル、核軍拡競争、アポロ計画、ヤングレポート、バイ=ドール法、技術移転機関	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
14	科学技術に関する問題の噴出	1960年代の公害問題、70年代以降激化した地球環境問題などを紹介し、科学・技術から見た両者の性格の相違について考える。 【キーワード】 四大公害、グローバル化、冷戦の終結、被害者と加害者、科学的不確実性、レギュラトリー・サイエンス	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)
15	科学技術社会論への道	21世紀に入って注目を集め始めた科学・技術への一般人の参加について、その事例を紹介する。さらに、その理論的根拠を、科学・技術の歴史的変化という立場から分析し、21世紀の科学・技術が進むべき方向を考える。 【キーワード】 コンセンサス会議、社会のための科学、科学技術社会論(STS)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)	中島秀人(東京工業大学大学院准教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560808	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　数理ファイナンス　　（’０８）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：津野　義道（上智大学教授）　　〕

講義概要

数理ファイナンスの分野から、２つの話題をとりあげる。１つは「効率的な株式投資の手法」である。これは多くの証券へ分散投資をする事により、投資に伴う「リスク」を小さくする方法である。他の1つは「証券市場の構造」である。証券価格が多くの投資家による均衡価格で決定されるならば、株式投資で「ただ儲け（自己資金なしである収益を得る事）」の機会は存在しない。この事を基礎にして、各種の金融派生商品(デリバティブ)の価格評価を考える。

授業の目標

前半(8回)で「分散投資によるリスク軽減効果」を学ぶ。リスクの最小化問題では、多変数の2次関数の極値問題を用いる。‘‘微積分’’を修得している事を期待するが、並行して微積分を学んでもよい。後半(7回)で、「ただ儲けの無い証券市場(無裁定証券市場)」の基本的な性質を学ぶ。ここでは、「ベクトルと行列」の知識が活用される。未修の人は、並行して学ぶ事を薦める。最終目標は「デリバティブの価格評価」である。

	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	株価データの収集と統計的処理	ある証券へ投資した場合の「収益率」を定式化する。収益率は‘‘直近の株価データ’’を用いて導入される。それらの収益率の平均値をとることで、近い将来の「期待収益率」が決定される。さらに、株価変動の大きさを測る「収益率の分散値」を求める。 【キーワード】 株価データの収集、 収益率、 収益率の平均値、収益率の分散値	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
2	単独銘柄への投資 ―― リスクの指標	株式投資における「リスク」を、どのように定式化すればよいのか という問題を考える。‘‘リスクの大小’’を、感覚ではなく数値で評価する問題である。リスクの指標として、収益率の分散値を採用する。「期待収益率」と「収益率の分散値」を基準にして、投資の効率性を判定する。 【キーワード】 リスクの指標、投資の効率性、リスク回避性	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
3	2 銘柄への分散投資	2つの銘柄への分散投資における「期待収益率」と、「収益率の分散値」を求める。分散投資における「リスク軽減効果」を学ぶ。 【キーワード】 多次元データにおける共分散、 相関係数	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
4	3 銘柄への分散投資	一般に、多証券への分散投資を考える。考え方は2証券の場合と同様である。期待収益率(平均値)と収益率の分散値を求める事になる。線形代数学(行列とベクトルの理論)が活用される。 【キーワード】 分散共分散行列、 対称行列、 多変数の2次形式(2次の斉次多項式)	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
5	最小分散ポートフォリオ ―― 効率的な境界	問題の定式化と、その解決方針を説明する。解決方針は、期待収益率が一定になるように「条件を付けたポートフォリオ」のなかで、リスクが最小になるものを決定する事である。ここでは、解析学で学ぶ「条件付極値問題」が応用される。 【キーワード】 条件付極値問題（Lagrange の未定乗数法）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
6	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 I）	3銘柄への分散投資における問題点は、第 5 回で学んだ。今回は、『期待収益率が与えられた場合』に、リスクを最小化するようなポートフォリオを求める。2回に分ける。今回は、次回（第7回）の準備である。 【キーワード】 条件付極値問題、 Lagrange の未定乗数法	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
7	最小分散ポートフォリオ（一般的な解法 II）	今回で、『3 証券（多証券）への分散投資によるリスク軽減効果』の問題の結論が得られる。 【キーワード】 クラーメルの公式、 2次方程式の判別式、 2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
8	銀行預金と株式投資の効率な比率	手持ちの投資資金を、銀行預金と株式投資に分散して運用する場合を考える。このとき、ある特別なポートフォリオ（接点ポートフォリオ）が出現して、効率的な資金運用は『銀行預金と接点ポートフォリオへの投資比率を決めること』になる。 【キーワード】 標準偏差、接点ポートフォリオ、2ファンド分離定理	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
9	1期間モデルにおける不確実性の表現	明日の株価を「確率変数」として捉える。すなわち、k 個の‘‘経済状態’’からなる「状態空間」を導入し、明日の株価は、そのときの経済状態で決まる仮定とする。1個の証券の現在値 S_0 は確定値であるが、明日の価格 S_1 は k 次元の数ベクトルになる。証券数が N ならば、S_0 は数ベクトルになり、S_1 は行列で表示される。 【キーワード】 確率変数、状態空間、価格ベクトル、配当行列	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
10	証券市場の無裁定条件	株式投資における「ただ儲け（Arbitrage）」の定義を解説する。単独の商品に関しては「一物一価の法則」がある。保有する株数の組み合わせ（ポートフォリオ）では、t=0 での投資資金と t=1 での「投資成果」を比較する問題になる。 【キーワード】 一物一価の法則、取引戦略、グラフによる解法、ベクトル不等号	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）
11	無裁定条件と状態価格 ―― Stiemke の補題	「無裁定条件」のグラフによる解法は、2証券の場合しか役に立たない。今回で、n 証券からなる証券市場が「無裁定」であるための必要十分条件（状態価格の存在）を求める。「状態価格の存在」は、数理ファイナンス理論における『基本定理』である。 【キーワード】 状態価格、 Stiemke の補題（凸解析の分離定理）	津野　義道（上智大学教授）	津野　義道（上智大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	無裁定条件の応用問題	「状態価格の存在」で、証券市場の無裁定条件が判明した。状態価格は、各種のデリバティブの価格評価で中心的な役割を演ずる。今回は、「状態価格の存在」に関する応用問題を取り上げる。状態価格は、連立一次方程式の解である。連立一次方程式を解く手法も重要になる。 【キーワード】 無裁定条件と状態価格の存在(証券市場の基本定理)、連立一次方程式の解法	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
13	証券市場の完備性――状態価格の一意性	連立一次方程式における一般論を活用する。連立一次方程式に解が存在するとき、解に含まれる任意定数の個数(解の自由度)は、「線形代数学」の理論で得られていた。それを応用すれば、「状態価格」の一意性と、「証券市場の完備性」との関係が求まる。 【キーワード】 行列の階数(rank)、 複製可能性、証券市場の完備性	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
14	リスク中立確率測度	債券(銀行預金)を導入すれば、現在割引率を考えることにより、‘‘状態価格の和’’が1に基準化できる。この基準化で得られる状態価格は、状態空間における確率測度とみなせる。これを「リスク中立確率測度」という。 【キーワード】 無リスク債券、証券市場の利子率、リスク中立的な確率測度	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)
15	金融派生商品の適正な価格評価	1期間の離散的な証券市場における「金融派生商品(デリバティブ)」の‘‘現在価格’’を決める問題を考える。その手法の本質は、デリバティブを‘‘複製(replicate)’’するような取引戦略を考える事である。デリバティブの価格評価では、‘‘証券市場の完備性’’が重要な意味をもつ。 【キーワード】 金融派生商品、コール・オプション、プット・オプション、プット/コール・オプションの関係式	津野　義道(上智大学教授)	津野　義道(上智大学教授)

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560603	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 技術革新を支える物質の科学 （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：飯田　汎（放送大学客員教授）〕
〔主任講師（現職名）：雀部博之（千歳科学技術大学長）〕

講義概要

人的資源によって成り立つ以外にない日本は、「ものつくり」を一つの基盤とする科学技術立国を標榜している。科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によってもたらされる。この技術革新をもたらす先端材料はそのもととなる物質の科学から生まれる。この科目では、そのような視点のもとに物質の科学がどのように技術革新を支えているのか、多分野の科学技術の課題を新しい時代を形成する知識社会、環境調和社会、生活文化社会という3つの社会的側面から理解できるよう講義を進める。

授業の目標

持続可能な未来社会の構築のために、技術革新につながる物質の科学が支える先端技術に焦点を絞り、「技術革新を支える物質の科学」について、豊富な具体例を映像で表現する。それは、科学技術立国日本の知的基盤を強化するために、広い世代を対象とする「技術と経営」の総合科目として、活用されることを期待するからである。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	I. 技術革新 1. 物質の科学と技術革新	科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によりもたらされ、それは、また物質の科学から生まれる。技術革新のための新知識をどう創造するか、生活文化と環境調和のための科学技術の役割、科学技術をイノベーションに結びつけるための技術経営を背景に物質の科学と技術革新の関係を学習する。 【キーワード】 技術革新、物質の科学、新知識の創造、生活文化、環境調和、技術経営	東　千秋（放送大学教授）	東　千秋（放送大学教授） 飯田　汎（放送大学客員教授） 雀部博之（千歳科学技術大学長）
2	I. 技術革新 2. イノベーションとパラダイムの転換	歴史的な転換期にある現代社会では科学技術のみならず、経済、産業を巡り大きな変革に迫られている。多くのパラダイムの転換を経て進歩発展してきた現代社会における物質観から、未来に向けた科学技術の進化発展の様子を探り、イノベーションの役割とパラダイム転換の意義について学習する。 【キーワード】 パラダイムの転換、イノベーション、物質・エネルギー、科学技術、経済、産業	飯田　汎（放送大学客員教授）	飯田　汎（放送大学客員教授）
3	I. 技術革新 3. 科学技術のシーズと産業展開	「電気を通すプラスチックス」すなわち導電性高分子を例にとり、発明・発見を生む精神と背景、基礎的なサイエンスからデバイスへの展開、さらには産業化への道程を辿る。ノーベル化学賞受賞のヒーガー教授のインタビューを交えながら具体的に解説する。 【キーワード】 導電性高分子、二次電池、有機EL、ソフトマテリアル	雀部博之（千歳科学技術大学長）	雀部博之（千歳科学技術大学長） 飯田　汎（放送大学客員教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	II. 知識社会の創造 1. 知識社会を支える記録・記憶技術	記録技術は記録の高速化、記録密度の大容量化を目指して半導体デバイス開発、さらには分子メモリ・光メモリへの取組みが盛んに行なわれている。また複雑にネットワーク化された記録の検索の高速化が求められ、脳機能の模倣が重要視されている。これらの経緯を踏まえながら物質の果たす役割を解説する。 【キーワード】 DRAM、フラッシュメモリ、分子メモリ、光記録、パターン記録	雀部博之 (千歳科学技術大学長)	雀部博之 (千歳科学技術大学長) 飯田 汎 (放送大学客員教授)
5	II. 知識社会の創造 2. バイオ・ゲノム科学とイノベーション	進化発展するライフサイエンスの中で、21世紀社会を支える一つの中心的な課題であるゲノム科学の進歩の様子を知り、その応用分野が医薬、食料、工業へと拡大発展している様子を学習することで、研究から産業発展の道につながる知識主導型の産業分野の例を通じてイノベーションのあり方を学習する。 【キーワード】 ゲノム、DNA、遺伝子操作、細胞、医療、食料、工業	飯田 汎 (放送大学客員教授)	飯田 汎 (放送大学客員教授)
6	II. 知識社会の創造 3. 科学の統合で開くナノテクノロジー	ナノサイズの物質がもたらすナノテクノロジーは、電子情報、化学素材、マシーン、バイオテクノロジーなど多岐の分野にわたる21世紀の基幹技術と考えられる。そこでは多分野の科学の統合が必要である。そのような統合で開かれるナノテクノロジーについて展望し、このテクノロジーのビジネス展開に何が必要かを考える。 【キーワード】 ナノテクノロジー、ナノマテリアル、科学の統合、ビジネス展開	東 千秋 (放送大学教授)	東 千秋 (放送大学教授) 飯田 汎 (放送大学客員教授)
7	III. 環境調和社会 1. 物質の循環とプロセス・イノベーション	環境調和社会を形成する要素である物質・エネルギーの循環を通して、地球資源の有効活用の意義を循環社会の骨組みから理解し、プロセスイノベーションが世界規模で不可欠な課題であることを学習する。 【キーワード】 循環型社会、プロセスイノベーション、ゼロエミッション、地球資源、インバース・マニュファクチャリング	飯田 汎 (放送大学客員教授)	飯田 汎 (放送大学客員教授)
8	III. 環境調和社会 2. 未来のエネルギー資源とその利用	再生不可能なエネルギー資源の枯渇と地球温暖化が深刻な問題となっている。未来のエネルギー資源をどう利用すべきか、太陽電池、バイオマス、水素エネルギー、核融合エネルギーなどの利用の可能性などについて学ぶ。さらに、これらのエネルギー技術が市場の制約とどう関係しているのかを理解する。 【キーワード】 有限な地球の資源の枯渇、地球温暖化、未来のエネルギー資源、エネルギー技術と市場	東 千秋 (放送大学教授)	東 千秋 (放送大学教授) 飯田 汎 (放送大学客員教授)
9	III. 環境調和社会 3. 社会基盤を支える高分子材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、高分子材料、複合材料の性能と機能で理解する。また、これら高性能・機能材料の産業的利用を通じて、地球資源の視点から物質を理解しながら、技術と市場を通じてプロダクトイノベーションの意義を学習する。 【キーワード】 高分子材料、複合材料、機能性材料、高性能材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎 (放送大学客員教授)	飯田 汎 (放送大学客員教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
10	III. 環境調和社会 4. 社会基盤を支える金属・無機材料の高性能・高機能化	現代社会の基盤をになう材料を、金属材料およびセラミックスなど無機材料を通じて、高性能・高機能材料の物質としての理解と機能の価値を学習し、あわせて技術と市場からプロダクト・イノベーションへの理解を深める。 【キーワード】 金属材料、セラミックス材料、無機材料、プロダクト・イノベーション	飯田 汎 （放送大学客員教授）	飯田 汎 （放送大学客員教授）
11	IV. 生活文化社会 1. ユビキタス社会と光ネットワーク	「いつでも、どこでも」情報を入手・発信できるユビキタス社会において光通信技術の高度化及び光ネットワークの充実は不可欠であり、携帯文化を作り上げている。またICタグがいたるところで活用される社会となり、生活様式にも影響を与えている。物質の側面からこの現状を眺める。 【キーワード】 光ネットワーク、携帯文化、U-City、ICタグ	雀部博之 （千歳科学技術大学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
12	IV. 生活文化社会 2. 安心・安全社会を支えるロボットの科学技術	鉄腕アトムを理想とするロボットが人間社会と共存するために求められる機能とは何かを念頭において、ロボットの機能を制御するためのセンサ技術、人にやさしいロボットの動きとソフトマテリアルの役割について解説する。 【キーワード】 ロボット制御技術、センサ技術、ソフトマテリアル	雀部博之 （千歳科学技術大学長）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
13	IV. 生活文化社会 3. 先進医療を支えるライフサイエンス	学際領域に広がるライフサイエンスが支える先進医療の現状と展望を標的治療の再生医療とドラッグデリバリーを例に知る。そして、そこでの物質の科学の役割とイノベーションがどのように展開しているのかを理解する。 【キーワード】 先進医療の現状と展望、標的治療、再生医療、ドラッグデリバリー、物質の科学の役割とイノベーション	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授）
14	IV. 生活文化社会 4. 映像の文化とディスプレイの科学	フラットパネルディスプレイ（FPD）開発の歴史を振り返り、液晶、プラズマ、有機EL，電界放射の各ディスプレイの基礎および現状分析と将来について解説。また、映像、画像表示技術の進化発展を通じてパラダイムの転換について考察し、電子ペーパーの機能と役割への理解を通して、ユビキタス情報社会における表示技術のあり方を学ぶ。 【キーワード】 フラットパネルディプレイ、フレキシブルディスプレイ、映像・画像文化、表示技術、電子ペーパー、パラダイムの転換	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田汎 （放送大学客員教授）	雀部博之 （千歳科学技術大学長） 飯田汎 （放送大学客員教授）
15	V. 物質の科学と未来の展望	物質の特性解析や機能設計にコンピュータ・シミュレーションが活用され、研究の効率化や環境調和の観点から重要な手段になっている。また、実験が不可能な現象を予測する上でもそれは有効な手段となっている。物質の科学と未来の展望では、物質の科学とその関わりについて学ぶとともに物質の科学の未来を展望する。 【キーワード】 コンピュータ・シミュレーション、物質の特性解析、物質の機能設計、環境調和、未来の展望	東 千秋 （放送大学教授）	東 千秋 （放送大学教授） 飯田 汎 （放送大学客員教授） 雀部博之 （千歳科学技術大学長）

事務局記載欄	開講年度	平成20年度	科目区分	総合科目	科目コード	1560506	履修制限	無	単位数	2

科目名（メディア） ＝ バイオサイエンスで豊かな暮らし （’０８）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：冨田 房男（放送大学特任教授）〕

〔主任講師（現職名）：塚越 規弘（放送大学特任教授）〕

講義概要

有史以前より人類はいわゆる”バイオサイエンス”を利用して生活を豊かにしてきた。20世紀後半にその本質がわかり、意図的に利用されだし21世紀はバイオサイエンスの時代と言われるようになった。バイオサイエンスの主役を演じてきた微生物とその優れた潜在能力の開発・利用について暮らしの観点から講義する。また、バイオサイエンスを基礎・応用の両面から講義し、バイオサイエンスの大いなる可能性を述べ、21世紀のバイオサイエンスを展望する。

授業の目標

我々の身の回りには、空気中にも、水中にも、土中にも無数の微生物が生息し、我々は食生活をはじめとして多方面で多様な微生物の恩恵に浴して暮らしていることを理解する。また、微生物がバイオサイエンスの根幹となり、如何に重要な役割を演じ、暮らしの中で生か(利用)されてるかを理解できるようにする。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	バイオサイエンスの世紀	有史以前より人類がバイオサイエンスを利用して生活を豊かにしてきているが、その本質が20世紀の後半に解明され始め、その本質を意図的に利用できるようになり、更にその利活用が期待できるようになり、21世紀は、バイオサイエンスの時代であるとのことを概説する。バイオの基本から未来予測までを、講義の狙いを各章の極短い要旨と海外の方の解説も入れながら本講義の全容を解説する。 【キーワード】 バイオサイエンスの基本、バイオサイエンスの歴史とこれから	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
2	微生物とはどんな生物か	微生物は肉眼で見えない微小な生物の総称であり、あらゆる地球環境に棲息し生態系を維持している。その数は無限に近く系統的に分類することが必須である。これからの授業との関連で暮しを豊かにする微生物に焦点を当て、その分類学的特徴を解説する。 【キーワード】 原核生物、真核生物、大腸菌、枯草菌、放線菌、酵母、コウジ菌、バクテリオファージ(細菌ウィルス)	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
3	微生物の利用〈I〉 伝統的発酵食品と酵素生産	伝統的な発酵食品工業における微生物の役割の解明、その機能を利用した発酵食品や有機酸の生産への応用、さらに食品用、工業用の酵素生産への応用を解説する。 【キーワード】 微生物の発見、発酵食品、有機酸、酵素	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
4	微生物の利用〈II〉 アミノ酸の生産(1)	アミノ酸発酵工業を拓いたグルタミン酸生産菌の発見と工業化について、発見と時代背景を解説する。また、アミノ酸の代謝制御の研究を基盤に開発された代謝制御発酵の成功例であるリシンとトレオニンの発酵生産についても解説する。 【キーワード】 アミノ酸発酵、グルタミン酸、リシン、トレオニン	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	微生物の利用<III> アミノ酸の生産(2)	グルタミン酸、リシン、トレオニン以外のアミノ酸の発酵生産について説明するとともに、酵素を利用したアミノ酸生産(酵素法)についても解説する。最後にアミノ酸生産についてまとめ、わが国で発展した優れた発酵技術を解説する。 【キーワード】 発酵法(バリン、ロイシン、イソロイシン、トリプトファン、フェニールアラニン)、酵素法(アスパラギン酸)、低カロリー甘味料アスパラテーム	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
6	微生物の利用<IV> 核酸関連物質の生産	アミノ酸発酵の成功に刺激されて、うま味調味料や化学品として重要な核酸関連物質も酵素分解法、直接発酵法、半合成法などで生産することに成功した。さらにはATPやNAD(P)Hの発酵生産について解説する。 【キーワード】 イノシン酸、グアニル酸、ATP、FAD、NAD、CoA	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
7	微生物の利用<V> 化学品の生産	微生物による物質生産は、リサイクル可能な資源を用いる利点から様々な化学品が製造されている。アルコール類、脂質、化学品(アクリルアミド、光学異性体等)の発酵生産と今後の展開について解説する。 【キーワード】 アルコール類、アクリルアミド、PUFA、光学異性体	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)
8	微生物の利用<VI> 抗生物質と医薬品の生産	ペニシリン、ストレプトマイシンを始めとする抗生物質は、人類に大きな福音をもたらした。その他抗ガン剤などが微生物で多数生産されている。これら医薬品生産菌の探索方法、生産方法の今後の展開について解説する。 【キーワード】 ペニシリン、ストレプトマイシン、抗ガン抗生物質、免疫調節物質	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
9	バイオサイエンス<I> 遺伝子組換え技術の誕生	遺伝子組換え技術とは、自律複製能を有するプラスミドと種々の生物に由来するDNA断片を連結させて組換え体DNAを作製し、宿主細胞に導入し複製させる技術である。組換え体DNA作製は、アーバー博士の発見した制限酵素により初めて可能となり、今日のバイオサイエンスの根幹となった。この極めて重要な発見の経緯についてアーバー博士直接話して頂く。また、遺伝子組換えの成功例を示す。 【キーワード】 アーバー博士、制限酵素、プラスミド、DNA連結酵素、形質転換	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
10	バイオサイエンス<II> 遺伝子のクローニング	異種遺伝子産物の生産には異種遺伝子をクローニング(単離)して生産宿主細胞中で発現させなければならない。大腸菌を宿主にした遺伝子のクローン化方法を解説する。さらに、cDNA(相補的DNA)の合成とクローン化ならびにPCR法についても解説する。 【キーワード】 クローニング、イントロン、エキソン、逆転写酵素、cDNA、PCR	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	バイオサイエンス<III>組換えタンパク質の生産	効率の良い異種遺伝子発現とタンパク質の分泌生産には、最適なプロモーターとシグナルペプチドの利用が必須である。遺伝子の発現調節、タンパク質分泌機構および組換えタンパク質生産について解説する。 【キーワード】 遺伝子発現制御、プロモーター、シグナルペプチド、各種宿主と異種タンパク質生産	塚越規弘(放送大学特任教授)	塚越規弘(放送大学特任教授)
12	バイオサイエンス<IV>食糧への応用	組換えDNA技術の進歩によって、大豆、トウモロコシ、ナタネなどを意図的でしかも短時間に育種できるようになった。これらを利用した組換え食品の生産はもとより、バイオマスエネルギーへの利用も可能になりつつあることを解説する。 【キーワード】 作物育種、組換え食品、機能性食品、エネルギー作物	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
13	バイオサイエンス<V>医薬品への応用	ヒトの希少タンパク質(インシュリン、インターフェロンなど)を組換えDNA技術を用いて微生物で大量生産することができるようになった。また、タンパク質工学技術で既存のタンパク質を改良し、これまでにない治療が可能となった。具体例をあげて解説する。 【キーワード】 タンパク質工学、インシュリン、ヒト成長ホルモン、インターフェロン、ワクチン	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
14	バイオサイエンス<VI>エコシステムの保全と環境浄化	微生物は地球上における元素の循環を行っている。環境浄化(廃棄物処理、廃水処理など)、タンカー事故による原油汚染の処理にも微生物が利用されている。また、非天然難分解物(合成樹脂、ポリ塩化物など)の浄化にも役立っていることを解説する。 【キーワード】 物質循環、金属処理(回収)、廃水処理、コンポスト、バイオレメディエーション	冨田房男(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)
15	バイオサイエンスの新たな可能性	バイオサイエンスに基づいた新しい技術が色々な分野で開発されている。これまでにヒトの活動で引き起こされた環境破壊などの問題解決、食糧確保や新しい医療法の開発などによって、「生活の質」(クオリティオブライフ)を持続することへのバイオサイエンスの可能性を展望する。 また、外国の有識者の考え方もインタビュー形式で紹介する。 【キーワード】 バイオサイエンスの未来像	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)	冨田房男(放送大学特任教授)、塚越規弘(放送大学特任教授)

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1291912	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝ 学校経営と学校図書館 （’０９）＝ （R）

※この科目は「学校経営と学校図書館（’04）」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，2，3，7，9，11，12，13，15回です。

〔主任講師（現職名）：天道　佐津子（（社）全国学校図書館協議会参与）〕

〔主任講師（現職名）：柴田　正美（帝塚山大学教授）〕

講義概要

学校図書館にかかわる基本的な事柄について理解をはかる。司書教諭の資格取得に資する科目、5科目のうちで最初に履修すべき、入門的で幅広い内容をめざす。すなわち、学校図書館のもつ理念を明らかにし、その沿革の流れの中で学校図書館法の制定と改正の意義を取り上げ、さらに教育行政と学校図書館、学校図書館の管理と運営、学校図書館活動、学校図書館メディアとその選択・提供、学校図書館の施設・設備と備品、そして学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と役割、司書教諭の養成と研修などについて概観し、全般的な理解を深める。また、倫理綱領や知的自由、学校司書、公共図書館との連携協力やネットワーク、学校図書館とコンピュータ、評価と改善などにも言及する。同時に今日的な課題にも触れ、将来への展望から発展へと導きたい。

授業の目標

学校図書館の理念、教育的意義と学校経営など、学校図書館の全般的事項についての理解を深める。まず、「学校教育において欠くことのできない」ものとされる学校図書館の本質について着実に理解し、それをもとに、学校図書館は、単に図書や雑誌を置いてある部屋という意識を改める。学校教育が、その目的を遂行するために、なくてはならない機能を果たす組織であり、その中核的存在としての司書教諭の任務と役割を深く理解する。

履修上の留意点

これまで経験してきた学校図書館が、どのように教育に係わってきたかを確認するとともに、その姿が今後とも同様で良いのかを考えることのできる柔軟な思考を求める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館の理念と教育的意義 **（※改訂回）**	学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の教育的意義と理念など、学校図書館に関する基本的な理解を深める。 【キーワード】 学校図書館の理念、学校図書館の定義、学校図書館の役割	野口　武悟（専修大学准教授）	野口　武悟（専修大学准教授）
2	わが国の学校図書館：その歴史的経緯 **（※改訂回）**	わが国の学校図書館について、その沿革と歴史的経緯について述べる。特に戦後における学校図書館法について、その成立と改正に言及する。 【キーワード】 日本の学校図書館史	野口　武悟	野口　武悟
3	教育行政と学校図書館 **（※改訂回）**	学校教育法と学校図書館法、社会教育法・図書館法と学校図書館、教育サービスとしての学校図書館施策（国・地方自治体）など、学校経営と学校図書館を取り巻く行政上、法制上のかかわりや仕組みについて、またその基本的な理念や法解釈、そして現実の課題もとりあげて論じる。 【キーワード】 教育基本法、学校図書館法、学校図書館行政	前田　稔（東京学芸大学講師）	前田　稔（東京学芸大学講師）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	学校図書館の経営	校内組織の中の学校図書館の位置づけ、学校図書館経営のための組織及び経営方針、経営計画の立案と実施、学校図書館担当の教職員、予算、施設と設備、メディアサービス、学校図書館環境の整備、情報ネットワークの中の学校図書館経営などについて論じる。 【キーワード】 学校図書館の経営、学校図書館の経理	天道佐津子 ((社)全国学校図書館協議会参与)	天道佐津子 ((社)全国学校図書館協議会参与)
5	学校図書館の施設、設備および備品	施設、設備、備品の重要性について述べる。児童・生徒にとって学校図書館が快適に学べる環境であるよう、基本的理念の裏打ちと利用する立場からの視点を重視して、楽しく読書し、心地よく効果的に学習できるスペースを取り上げる。 【キーワード】 学校図書館の設備、学校図書館の環境	岩崎 れい (京都ノートルダム女子大学准教授)	岩崎 れい (京都ノートルダム女子大学准教授)
6	学校図書館メディアの選択と管理、提供ー印刷メディアを中心に	学校図書館におけるメディアとは何か、をまず取り上げ、学校図書館メディアの教育的意義、学校図書館メディアの内容と構成、学校図書館メディアの選択と収集、学校図書館メディアの管理と提供など、学校図書館の経営的視点から論じる。なお、ここでは印刷メディアを中心に論じる。 【キーワード】 印刷メディアの選択、印刷メディアの提供、印刷メディアの管理	天道佐津子	天道佐津子
7	学校図書館メディアの選択と管理、提供ー視聴覚メディアおよび電子メディアを中心に **(※改訂回)**	上記(1)に加えて、ここでは非印刷メディアを中心に論じる。 【キーワード】 視聴覚メディアと電子メディアの選択・管理・提供	前田 稔	前田 稔
8	司書教諭の任務と役割	司書教諭は、メディアの専門家、学校図書館活動の推進者、学校図書館経営の中核としての活動が求められる。さらに、司書教諭の最も重要な任務は、児童生徒が自ら学ぶ力を獲得するような教育の全校的な展開に、立案の段階から参画することであり、学校図書館内外における全校的な活動が求められる。それら司書教諭の広範な任務と職務について論じる。 【キーワード】 司書教諭の役割、司書教諭の任務、司書教諭の仕事	天道佐津子	天道佐津子
9	司書教諭の養成と研修 **(※改訂回)**	学校図書館においては、とりわけ人とその養成が大切な基盤となる。そのような観点で養成と研修、その現状と課題、そして学校図書館職員の使命とその倫理についても論じる。 【キーワード】 司書教諭の養成、司書教諭の日常的研修、司書経論等の倫理性	柴田正美 (帝塚山大学教授)	柴田正美 (帝塚山大学教授)
10	学校図書館の活動	学校図書館活動は教職員、児童・生徒を主な対象とする。ここでは教育計画と学校図書館、学校図書館活動の内容と方法、学校図書館活動の拡大などを論じる。併せて学校図書館の地域開放や著作権問題にも触れる。 【キーワード】 学校図書館活動、学校図書館と地域	天道佐津子	天道佐津子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	司書教諭／図書館担当職員の活動（小・中学校） （※改訂回）	学校図書館スタッフの構成と分担、学習指導的な活動、読書指導的な活動、図書館が学校全体に働きかける活動、調べ学習、ストーリーテリング・絵本の読み聞かせ・ブックトークなどのほか、小学校特有の活動や課題について論じる。 【キーワード】 小学校の図書館、中学校の図書館	野口武悟	野口武悟
12	司書教諭／学校図書館担当職員の活動（高校・特別支援学校） （※改訂回）	学校図書館の授業に対する支援を中心に学校図書館活動を紹介する。問題解決学習の導入により学校図書館が重要性を増す課程をたどり、司書教諭の役割や司書教諭によって行われる活動内容の変容を中心に論じる。 【キーワード】 高校の図書館、特別支援学校の図書館	野口武悟	野口武悟
13	図書館協力とネットワーク （※改訂回）	高度情報通信社会においては、情報ネットワークを組んだ図書館間の相互協力による資料や情報の提供が重視される。図書館相互協力／ネットワークの理念と学校図書館、情報ネットワークの形成とリソースシェアリングの重要性、そして学校図書館と公共図書館との連携・協力について論じる。 【キーワード】 図書館間協力、図書館ネットワーク	柴田　正美	柴田　正美
14	学校図書館の評価と改善	学校図書館の評価の意義とその方法、経営・活動・管理・調査・統計などの評価の実際、および改善計画など、学校図書館経営全般の評価と改善について論じる。 【キーワード】 学校図書館の評価、学校図書館の改善計画	天道佐津子	天道佐津子
15	研究および課題と展望 （※改訂回）	学校図書館の研究の領域や方法、そして、専門職として社会的評価につながるという観点からも不断の研修や研究の必要性、そして課題と展望、研究に必要な基本的文献についても言及する。 【キーワード】 学校図書館の課題、学校図書館関係基本文献	柴田　正美	柴田　正美

＝学校図書館メディアの構成（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　高鷲　忠美（八洲学園大学教授）〕
〔主任講師：　志保田　務（桃山学院大学教授）〕
〔主任講師：　北　　克一（大阪市立大学教授）〕

全体のねらい

学校図書館の「読書センター」機能、「学習情報センター」機能を十分に発揮するためには、図書を初めとする印刷メディア、CD,ビデオなどの視聴覚メディア、電子メディアなどが十分に備えられ、検索可能な状況であることが不可欠である。このために、世の中に存在するメディアの中から学校図書館活動にとって必要なものを選択、収集し、これらを有効・適切に利用者（児童生徒、教職員）に利用してもらうための資料・メディア組織の活動を行う。本科目では、この活動をなるべく具体的に述べる。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	学校図書館メディアの構成：資料の選択・収集・組織化	学校図書館の活動が十分に行われるためには、十分な数の質の良いメディアの存在が不可欠である。構築のための様々な作業や、メディアを生かすメディア組織化の業務を図書館活動全体の視点から概説する。	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学教授）	高鷲　忠美（八洲学園大学教授） 志保田　務（桃山学院大学教授）
2	学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディアの種類と、それぞれの特性およびそれらを学習にどう生かすかを述べる。	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務	平井　尊士（兵庫大学情報科学センター専任講師） 志保田　務
3	学校図書館メディアの選択と収集	学校図書館メディアの選択と選択のための情報源の種別とその活用について述べる。続けて、学校図書館におけるその収集方針と選択方針について述べる。	志保田　務 平井　尊士	志保田　務 平井　尊士
4	メディアの配列１：書架（配架）への案内	学校図書館でのサイン計画や所在記号や別置記号の役割と実際を取り上げる。図書館入り口には館内各コーナーへの案内が掲示される。また、書架ごとに、配架されているメディアの分野などが表示される。各メディアには保管されている書架などを示す記号（所在記号，別置記号）をラベルなどを添付して表示する。	志保田　務	志保田　務

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	メディアの配列2：主題別配架：分類配架	通常の図書に対して採用の主題別配架、分類別配架の意義を考え、図書分類表の各種について概観する。その上で現在日本の分類作業で標準的に使用されている『日本十進分類法』（NDC 新訂9版、1995）について詳しく説明する。	志保田　務	志保田　務
6	メディアの配列3：日本十進分類法	NDC新訂9版における第一次区分（類）、第二次区分（綱）の全部と第三次区分（目）の一部を示し、簡略な分類作業の演習を行う。学校図書館での分類の精粗についても検討する。	志保田　務	志保田　務
7	メディアの配列4：所在記号の表示から配架作業へ	分類記号、図書記号などから構成される所在記号の決定と資料・メディアおよび目録記入への表示の実際を説明し、利用しやすい配架作業の実際を検討する。	志保田　務	志保田　務
8	目録の意義・種類と機能	学校図書館活動において「目録」がどのような意義を有しているのか、また物理的形態、アクセス・ポイントからみた目録の種類を説明する。さらに、現在図書館の多くは、目録作業に使用するデータを図書館外の機関に依存しているが、その実態について概説する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
9	目録規則と記述、アクセス・ポイントの実際	目録作業の基礎となる目録規則の歴史などを簡略に説明し、日本の代表的な目録規則である『日本目録規則1987年版改訂2版』(NCR1987R2)による記述の作成、アクセス・ポイント（標目）の選択について説明する。また、目録の配列の原則を簡単に説明する。	高鷲　忠美	高鷲　忠美
10	コンピュータ目録1：書誌レコードの作成	コンピュータ目録における書誌レコード(目録記入)の内容とその実際を取り上げる。併せて、書誌レコードから用意される検索用索引について取り上げる。	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)	志保田　務 北　克一(大阪市立大学教授)
11	コンピュータ目録2:コンピュータ目録の検索	コンピュータ目録検索法を解説する。一般にコンピュータ目録が提供する「簡易検索」と「詳細検索」について述べる。併せて、検索結果の表示方法や結果の加工などの機能についても述べる。	志保田　務 北　克一	志保田　務 北　克一

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	主題からの目録検索1：分類目録	主題からメディアを検索することの意義を説明し、分類記号からの検索の特徴と限界を述べる。	北　克一	北　克一
13	主題からの目録検索2：件名目録作成作業	主題を言葉から検索する手段としての件名目録の意義、特性を「調べ学習」などと関連づけて概説する。件名作業には『基本件名標目表』(BSH第4版、1999)を用いるので、この表の適用法について述べる。	北　克一	北　克一
14	コンピュータ目録と地域の図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携による地域総合目録の構築や資料の物流体制も整ってきた。現状と将来のあり方を展望する。	北　克一	北　克一
15	学校図書館の機能を支えるメディア組織化の役割	現代の学校図書館メディアおよびメディア組織化について総合的に考察する。以上によって、学校教育に活用される図書館メディアの選択・収集・組織化についてまとめる。	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一	高鷲　忠美 志保田　務 北　克一

＝　学習指導と学校図書館（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　髙橋　元夫　（元慶應義塾大学非常勤講師）〕
〔主任講師：　堀川　照代　（島根県立大学短期大学部教授）〕
〔主任講師：　平久江　祐司（筑波大学大学院准教授）〕

全体のねらい

教育課程の展開に寄与し、児童生徒が学ぶ力を育むことが学校図書館の重要な目的であることを認識し、そのために学校図書館が実施しなければならないことを具体的に把握する。

本科目では、まず、教育課程と学校図書館のかかわりを縦覧し、図書館活用教育のあるべき姿を検証する。次に、図書館と図書館メディア活用能力育成の意義を知り、指導内容、指導方法を学習する。

さらに、総合的な学習、および、特別支援教育における学校図書館メディアの活用や、教授・学習活動を支援する情報サービスについて、多くの事例を通して理解を深める。

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	教育課程と学校図書館	学校図書館の意義、目的を確認し、学校図書館の教育課程の編成へのかかわり、学校指導の展開に寄与する姿を明らかにする。また、学校図書館メディアの選択に際し留意すべきことを検討する。	高鷲　忠美（八洲学園大学教授）	高鷲　忠美（八洲学園大学教授）
2	図書館活用教育と学校図書館	主体的な学習者を育てるためには、図書館活用教育が必要である。では、図書館活用教育はどのように実施されるのか。そのありようを検証し、学校図書館の果たす役割を把握する。	同　上	同　上
3	学校図書館メディア活用能力の育成	図書館活用教育の核となるのは、メディア活用能力の育成である。では、メディア活用能力とは何か。その育成はどのように行われるのか。実践を踏まえてメディア活用能力の育成過程を検証する。	平久江　祐司（筑波大学大学院准教授）	平久江　祐司（筑波大学大学院准教授）
4	学校図書館メディア活用能力の育成計画	学校図書館メディア活用能力の育成は、学校の教育目標に基づいて計画的に進められる。その計画は、学校全体の計画として作成され実行される。ここでは計画立案の具体的過程を学習する。	同　上	同　上
5	学校図書館メディア活用能力育成計画の実施	できあがった計画案は、どのように実施されるか。ここでは実施の機会、時間のとり方、指導方法や手段、などについて学習する。また実施にあたっては、多くの人々の協力が必要である。その協働のようすも見てもらう。	髙橋　元夫（元慶應義塾大学非常勤講師）	髙橋　元夫（元慶應義塾大学非常勤講師）
6	図書館および図書館メディアの使い方とその指導	児童生徒には図書館になれてもらうとともに、図書館のしくみや使い方を指導することになる。そこで、図書館や図書館メディアを上手に使ってもらうために指導すべきこととその方法を学習する。	同　上	同　上
7	情報メディアの探索と収集	情報・資料を効率よく探索するためには、テーマの絞込みやキーワードの設定の仕方を学ぶことが必要である。ここでは、それらの指導方法に触れ、情報・資料を探すためのいろいろな道具（書誌や索引）について学ぶ。	堀川　照代（島根県立大学短期大学部教授）	堀川　照代（島根県立大学短期大学部教授）

夏季集中科目

回	テーマ	内　　容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
8	情報メディアの利用	入手した情報・資料のなかから、必要な情報を取り出す方法（要約、抜き書き、引用）の指導について考え、辞書、事典、図鑑、年鑑などの参考図書の使い方、インタビューの仕方やインターネットの利用法について学ぶ。	堀川　照代	堀川　照代
9	情報のまとめ方および伝達と評価	取り出した情報を整理・分析して組み合わせ、自分の考えを加えて新たな情報として発信するという、情報活用の最終段階について考える。さらに、情報活用のプロセスとその成果を評価することを学ぶ。	同　上	同　上
10	学習指導における学校図書館の活用	実際の学習指導の中での学校図書館の活用法を学習する。まず、図書館メディアと学習指導のかかわりを検証する。そのあとで、学習指導における支援活動を紹介する。	平久江　祐司	平久江　祐司
11	小学校における総合的な学習と情報メディア	小学校における総合的な学習と学校図書館のかかわりを検証する。学校図書館は総合的な学習の展開に欠くことのできないサービス機関である。一方学校図書館メディア活用能力育成指導の立場からしても、学校図書館は重要な役割を果たす場となる。低学年の場合は、生活科として取り上げる。	高橋　元夫	高橋　元夫
12	中学・高等学校における総合的な学習と情報メディア	中学校と高等学校における総合的な学習と学校図書館のかかわりを検証する。	同　上	同　上
13	特別支援教育と学校図書館	特別な支援を必要とする児童生徒への学習支援も学校図書館の重要な役割である。ここでは、特別支援教育における学校図書館の役割、意義を把握する。そして、優れた実践例を検証し、その全体像を理解できるようにする。	野口　武悟（専修大学准教授） 平久江　祐司	平久江　祐司
14	教授・学習活動を支援する情報サービス	学校図書館は、児童生徒の学習活動に対しても、教職員の教育活動に対しても、必要な情報を提供している。レファレンスサービスをはじめ、どのような情報サービスが行なわれているかを検証し、児童生徒に対する情報提供で留意すべき点について考える。	堀川　照代	堀川　照代
15	図書館活用教育の課題と展望	印刷教材では、14 回の講義を振り返り、学習指導と学校図書館にかかわる課題をとり出してみることにする。 放送教材では、本講義にかかわった 4 人の教員でそれらの課題について映像資料を見ながら話し合うことにする。	高橋　元夫	高橋　元夫 堀川　照代 平久江　祐司 高鷲　忠美

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（司書教諭）	科目ｺｰﾄﾞ	1291858	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　読書と豊かな人間性　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：朝比奈　大作（横浜市立大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：米谷　茂則（明治大学非常勤講師）　〕

講義概要

子どもの読書活動の推進は、現在では最も重要な文教政策のひとつとなっており、都道府県、市町村、それぞれのレベルで、多くの読書推進計画が立案されている。が、肝心の学校図書館が貧弱なままではそれらも画餅に帰すであろう。ここでは有効な読書推進活動を行うための学校図書館のあり方を考え、司書教諭の果たす役割を理解すると共に、実際の読書指導の内容と方法について具体的に学習していく。

授業の目標

「本を読むことは面白い」と子どもたちに思ってもらえることを前提に、そのためには、どのような学校図書館が必要か、どのような学校図書館活動が有効かを理解した上で、具体的な発達段階に合わせた読書指導の方法を学習する。狭義の読書指導を自己完結的に捉えるのではなく、学習指導との関わりをも重視し、また、家庭や地域との連携をも考えて、子どもたちをむしろ学外の社会へ送り出すような学校図書館のあり方を考えたい。

履修上の留意点

自分なりに子どもの本に興味を持ち、実際の読書材を数多く見ておいてほしい。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	読書活動の意義と目的	読書は人間形成に重要な意味を持つ。読書の喜びを知ってもらうために、教科教育とは異なる観点から、適書に出合う機会を作ること、良好な読書環境を整備することなどが読書指導の第一歩である。 【キーワード】 教科書、一斉授業、直接経験と間接経験、読書と人間形成、読書指導、適書・不適書、除籍・廃棄・更新、読書環境の整備	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）
2	読書能力の発達	読書能力とは、ことば（書かれた言葉）からイメージを喚起する想像力のことである。一般的な読書能力の発達をおさえた上で、その発達を刺激しうる指導のあり方を考えてみる。 【キーワード】 識字（リテラシー）、機能的不識字、イメージ化、レディネス、ストーリー、社会化、発達段階、読書能力	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）
3	読書興味の発達	読書指導の中心は、児童生徒の読書興味の発達に応じて、読書への動機付けを行うことにある。一定の年齢までは共通性が高いといわれる読書興味の発達段階を理解しておく。 【キーワード】 読書興味の発達、動機付け、読書材、ヤングアダルト、自由読書、軽読書	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
4	読書の導入的な指導－楽しむ読書を中心に－	健全な読書活動のために、各校種ごと、学校全体として読書環境を整え、児童生徒の読書の効果ある指導法を考えて、まず読書を楽しめるような具体的な指導内容を解説する。 【キーワード】 児童生徒と本を結ぶ、学校図書館の整備、読書の時間の確保、読書の習慣化、朝の読書、読書活動集会	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
5	読書の展開的な指導－調べ学習を中心に－	各教科や総合的な学習における調べ学習は、本来的な意味での児童生徒の学習の中心となる活動である。その自主的な学習を進めていくための具体的な指導内容について解説する。 【キーワード】 自分の学習目標、参考図書等の整備、調べ学習の具体的学習過程、教科・総合における調べ学習	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
6	読書の発展的な指導－考える読書を中心に－	主体的な読書活動を展開するためには、児童生徒自身が読書の目標や計画を持てるようにできるとよい。読書によって自らの考えを深め、質を高めていく具体的な方法について解説する。 【キーワード】 絵本の絵を読む読書、テーマ読書、複数の資料の比較、読書レポート、読書感想を深める指導、読書会	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
7	発達段階に対応した読書	小学校、中学校、高等学校の児童生徒は、戦後において、どのような作品を中心に読書してきたのかを提示し、校種ごとに、児童生徒が読み継いできた作品の傾向を解説する。 【キーワード】 自由読書で読み継いできた作品、考える読書で読み継いできた作品、ノンフィクション読書、自然科学分野の読書のすすめ	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
8	集団読書と個人別読書	集団読書では、集団で思考を高めていくことによって、各個人が読書により興味を増し、目的を持って読書に励んでいく態度を培うことができるようにしたい。個人読書として、絵本読書、マンガ読書についても解説する。 【キーワード】 小学校下学年の読書会、集団読書の意義と目的、読書発表会、絵本読書、マンガ読書	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
9	読書資料の多様化と活用	読書の本質は想像力を駆使した結果、「ああ面白かった」という感動を得る点にある。とすれば、現代においては類似の活動は多様に存在する。マルチメディア時代における読書活動の問題を、本質的に整理し直しておく。 【キーワード】 克己と勉強、童心主義、通俗書、マルチメディア化、子どもの読書傾向、不読児、娯楽としての読書	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）
10	図書資料の選択	司書教諭の最も重要な仕事の一つは「子どもたちに新しい本を沢山買ってあげる」ことである。出版界の実状や問題点を把握し、地域の実態や児童生徒の要望をもふまえて、選択・収集していくことが重要である。 【キーワード】 現代の出版流通、多品種少量生産、委託販売、読書の習慣化、ブラウジングブックリスト、図書の紹介、フロアワーク	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	読書体験の表現	「豊かな人間性」を培うための読書の観点とそのための作品を提示する。また、小学校上学年と中学校における読書会をどのように進めていったらよいのかを具体作品で解説する。 【キーワード】 読書体験の表現の方法、読書感想画、『何をどう読ませるか』、豊かな人間性の育成、読書会の進め方、読書会における教師の役割	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
12	読書体験の交流	読書活動を活発にするために、読書体験の交流を多くしていきたい。「読書週間」「読書会」など、全校、学年、学級レベルでの交流について解説する。また「読書クラブ」の活動の実践例についても解説する。 【キーワード】 読書週間の活動内容、読書集会、読書週間設定の意義、親子読書、ボランティア読書活動	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）
13	家庭読書との連携	児童生徒の読書活動を発展させ、豊かな人間形成を図っていくためには、家庭や地域との連携が欠かせない。日頃から積極的、継続的な協力関係を取っていくことが司書教諭には求められる。 【キーワード】 読解から通読・多読へ、選択能力、読書調査、家庭への働きかけ、地域との連携、ボランティア総合的な学習	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）
14	公共図書館などの活用	子どもの読書活動を学校の中だけで豊かにすることはできない。公共図書館を利用し、自ら図書を選択購入するなど、学外の活動に誘い、卒業後も豊かな読書活動を継続させていくことが、読書指導の本質である。 【キーワード】 社会教育、生涯学習、公共図書館、公民館、博物館、子どもの読書活動の推進に関する法律（子どもの読書活動推進法）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）	朝比奈　大作（横浜市立大学教授）
15	今後の司書教諭の役割	現状の司書教諭の実態を明らかにし、そこから、どのように教育課程の編成に関わる専門性を高めていくのかについて提示し、司書教諭への期待について考察していく。 【キーワード】 教育課程編成と司書教諭、読書に関連した業務、児童生徒を共にある司書教諭、学校司書との連携、読書相談	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）	米谷　茂則（明治大学非常勤講師）

＝　情報メディアの活用（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　山本　順一（桃山学院大学教授）〕
〔主任講師：　村山　　功（静岡大学教授）　　〕
〔主任講師：　岸田　和明（慶應義塾大学教授）〕

全体のねらい

学校図書館は、主体的に学習する児童生徒に対して、伝統的な紙媒体資料からデジタル・コンテンツにいたるまで、多種多様な情報メディアに関して、その歴史を踏まえたうえで、それぞれのメディアの特性を認識し、一定の自律的ルールに則り、効果的に利用する技法を身につけさせなければならない。本講義のねらいは、まさにそのような知識と技術の基礎を与えようとするところにある。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	現代生活と情報メディア	わたしたちは、デジカメ機能まで付加されたケータイ（携帯電話）がなければ一日として生きていけないかのような錯覚を持たされている。ケータイが開く情報環境はサイバー・スペースにつながり、生活構造全体が従来とはまったく異なるものに変貌しつつあるとの強迫観念にとりつかれている。	山本　順一（桃山学院大学教授）	山本　順一（桃山学院大学教授）
2	情報メディアの歴史	人類社会は言葉と文字を作り出し、様々なコミュニケーション手段を編み出し、科学技術の進展を通じ多様な記録媒体を活用し、情報知識の伝達、共有の仕組みを整備してきた。古代から21世紀の現代にいたるまでの情報メディアの歴史を振り返り、またデジタル情報が飛び交う近未来を展望したい。	山本　順一	山本　順一
3	伝統的情報メディアとデジタルメディア	伝統的情報メディアである書籍は、利便性の向上のために、目次・索引・脚注など、様々な仕組みを作り上げてきた。しかし、デジタルメディアは、それらの工夫を越える利便性を持っている。情報の利用という観点から、伝統的情報メディアとデジタルメディアについて考える。	村山　功（静岡大学教授）	村山　功（静岡大学教授）
4	学習メディアとしての利点と選択	これまでの学校教育では、教科書とわずかな資料を除いて、メディアはあまり利用されてこなかった。しかし、様々なメディアを適切に利用することで、よりよい学習を実現することができる。学習メディアを選択するために必要な、メディアの特性とその利用方法、指導方法について考える。	村山　功	村山　功
5	インターネットのしくみと活用	1990年代に急速に普及したインターネットは、情報資源の検索・利用に欠かせない存在となっている。学校図書館においても、インターネットを活用した、情報の収集・提供が重要である。このようなインターネットの発達の歴史や基本的なしくみ、図書館における活用法について学ぶ。	岸田　和明（慶應義塾大学教授）	岸田　和明（慶應義塾大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	データベースの検索と利用	現在、さまざまなデータベースが開発・作成されており、そこから有用な情報を検索・入手することができる。データベースの種類とそれぞれの特徴について整理する。また、データベースを検索するための基本的な原理としくみ、および、検索のプロセスや評価方法を学ぶ。	岸田　和明	岸田　和明
7	ソフトウェアとその利用	コンピュータ上でプログラムやソフトウェアが動作するしくみについて学ぶ。また、学校図書館の場面でよく活用される、ワープロ、表計算、データベース管理、プレゼンテーションのための各ソフトウェアについて、基本的な特徴・使い方を、具体例を交えて説明する。	岸田　和明	岸田　和明
8	個別学習のための教育用ソフトウェア	学習情報センターとしての学校図書館は、児童・生徒一人一人の学習進度に応じた個別学習の場でもある。個別学習のための教育用ソフトウェアとして、ドリル、チュートリアル、インタラクティブな学習環境を取り上げ、それがどのような学習を支援するかを示し、その効果的な利用方法を論じる。	村山　功	村山　功
9	問題解決学習のための情報探索	いわゆる「調べ学習」のような、児童・生徒が自ら課題を設定・解決していくタイプの学習においては、学校図書館やインターネット等を駆使して、必要な情報を探索することが重要である。そのための方法や、児童・生徒の情報探索行動の性質についての理解を深める。	岸田　和明	岸田　和明
10	学びの共同体と協調学習支援環境	個人がメディアから知識を獲得するのは、学習の一つの側面にすぎない。人は仲間との情報交換や討論を繰り返しつつ、自分たちの理解を作り上げていく。このような学習共同体を作り、よりよい学習を支援していくための、協調学習支援環境について紹介する。	村山　功	村山　功
11	校内における学校図書館メディアの選択と構成	学習者を取り巻くメディア環境と比較して、学校図書館にはデジタル・メディアが十分に整備されているとは言えない。これまでの講義で紹介されてきた学習とメディアの関係を踏まえて、これからの社会を生きる児童・生徒にふさわしい学校図書館メディアの選択と構成について考える。	村山　功	村山　功
12	学校図書館と情報技術	情報化社会の進展に伴って、コンピュータおよびそのネットワークを経由して入手可能な情報の種類と量はますます増加することが予想される。このような状況において、学校図書館が情報技術をいかに取り込んで、高度化していくべきかを、情報技術の発展動向を踏まえて考えてみる。	岸田　和明	岸田　和明

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	知的財産権と著作権制度の概要	モノの生産が中進国、発展途上国にシフトし、先進諸国は付加価値の源泉である知的財産権に依存する産業構造の高度化に向かう。学校教育においても、知的財産権ルールに対する意識を啓発することが期待され、情報資料とのかかわりでとくに著作権制度の基本的構造について理解する必要がある。	山本　順一	山本　順一
14	デジタル・ネットワーク社会の陥穽	高度情報通信社会は、デジタル・コンテンツのコピーが地球規模で拡散増殖する社会にほかならない。匿名性を備えた非接触型のサイバー・コミュニティには様々な反社会的行為が蔓延し、しかも拡大の様相を呈している。児童生徒はサイバー・スペースにおける人権の意義を認識しなければならない。	山本　順一	山本　順一
15	学校図書館と情報メディアーこれまで、そしてこれから	伝統的メディア、デジタルメディアと拡散する多種多様な情報メディアを一定の自律的なルールに則り、効果的に利用する技法を小学校低学年・中学年・高学年、中学校、高等学校の学習の場でどのように身につけ活用し生かしていくか、その指導体系を考察し、情報の的確な取り扱い方について検討する。	渡部　満彦（大妻女子大学短期大学部教授）	渡部　満彦（大妻女子大学短期大学部教授）

＝　成人看護学（‘０５）＝（Ｒ）

〔主任講師：　佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）〕

全体のねらい

青年期以降およそ50年間に渡る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護について学ぶ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	成人期の特徴と生じやすい健康問題	人の生涯発達過程における成人期は、思春期から向老期に至る、特徴的な各期から成る。個々に営む生活は、成人期に特有の健康問題と密接に関係している。これらを充分踏まえた上で、成人個別の援助を行うことが重要であり、成人看護の役割・機能や目的にわたって説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）
2	手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助	手術療法を受ける患者は、その選択までの意思決定、術前の心身の準備や術後の侵襲からの回復、さらには家庭や社会への復帰、術後の自己管理や定期受診など、治療や生活の過程で多くの課題に直面する。それぞれの時期や患者の状態に応じた援助の内容と方法は多岐にわたるが、これらについて説明する。	井上　智子（東京医科歯科大学教授）	井上　智子（東京医科歯科大学教授）
3	慢性的な経過をたどる健康障害とセルフケア	成人期に発症する病気や受傷による健康障害は、多くの場合慢性に経過する。慢性疾患や障害を受けた患者は、自分で生命の危機を予防したり、療養法を身につけたり、社会資源を求めたり、生活上の調整をしながら病気に対処している。そこで、障害受容、社会復帰、自己管理などのセルフケアについて説明する。	野並　葉子（兵庫県立大学教授）	野並　葉子（兵庫県立大学教授）
4	呼吸機能障害に伴う成人への援助	呼吸機能障害を引き起こす要因および日常生活に及ぼす影響について説明する。また、呼吸機能の検査や呼吸機能障害の治療に伴う看護援助および機能障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに、呼吸機能障害が現れる疾患をもつ患者の看護問題と、セルフケアについて説明する。	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
5	循環機能障害に伴う成人への援助	循環機能障害は、生命の危機的状態から日常生活における生活調整の必要性といった様々な健康問題に影響を及ぼす。そこで、循環機能障害に伴う症状や検査・治療に関連する健康問題と合併症の予防のための生活調整に向けた援助について説明する。	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
6	栄養摂取障害に伴う成人への援助	消化器疾患に伴う栄養摂取障害は、身体の諸機能や心理的側面に影響をもたらし、また「食べる」という生活の営みにも大きな影響を与える。そこで、栄養摂取障害によって生じる症状、必要とされる検査について説明し、さらに消化器外科治療を受ける成人に特有の看護問題とアセスメント方法および患者の取り組みを支援する方法を説明する。	眞嶋　朋子（千葉大学教授）	眞嶋　朋子（千葉大学教授）
7	生体防御機能障害に伴う成人への援助	生体防御機能は、免疫応答に関わる機能と感染・炎症に関わる機能の 2 つに分かれる。この機能障害として、免疫機能低下と感染症に伴う成人への援助を説明する。免疫機能低下に伴う成人への援助では、造血幹細胞移植術時の看護とその倫理的配慮、膠原病などの生活指導を述べる。また、感染症に伴う成人への援助では、疾患と治療の特性を踏まえた感染防御を説明する。	稲吉　光子（北里大学教授）	稲吉　光子（北里大学教授）
8	感覚機能障害に伴う成人への援助	感覚機能の障害は、人間の身体面、心理面に大きな影響をもたらす。また、感覚機能の障害は一見して他者からはわかりにくく、このため様々な心理社会的問題を引き起こす。感覚機能障害がもたらす様々な影響を概説し、機能障害を抱える人々に対するアセスメント方法を説明する。さらに、治療に取り組む人々を援助する方法、および、機能障害と共存する人々を支援する方法を説明する。	佐藤まゆみ（千葉大学准教授）	佐藤まゆみ（千葉大学准教授）
9	糖・脂質代謝障害に伴う成人への療養支援	糖・脂質代謝障害は、生活習慣に起因する疾患の発症や糖尿病や心疾患などの増悪・合併症の出現に大きく関連している。そこで、食生活、喫煙、飲酒、運動、休息といった生活習慣の変容を支援するための生活指導やインスリン自己注射や血糖測定法など療養支援技術について説明する。	野並　葉子（兵庫県立大学教授）	野並　葉子（兵庫県立大学教授）
10	内部環境調節障害に伴う成人への援助	水・電解質の調整やホルモンの分泌調節など内部環境調節障害を引き起こす要因および日常生活に及ぼす影響について説明する。また、水・電解質の調整や調節障害の治療に伴う援助および調節障害によって生じる症状と援助について説明する。さらに内部環境調節障害が現れる疾患を持つ患者の看護問題とセルフケアについて説明する。	林　優子（京都大学教授）	林　優子（京都大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
11	認知機能・コミュニケーション障害に伴う成人への援助	認知機能やコミュニケーション障害は、日常生活上の困難性や、意欲の低下ならびに社会生活における不安や孤立といった影響をもたらす。そこで、機能障害の原因、機能や能力の評価方法、心理社会的特徴、ならびに患者の能力を最大限に生かす援助について説明する。	野澤　明子（浜松医科大学教授）	野澤　明子（浜松医科大学教授）
12	運動機能障害に伴う成人への援助	運動機能障害は、骨折や先天性異常など様々な原因から発症し、人の「活動と休息」に影響を与える。人の活動性が低下すると心肺機能の低下をはじめ、身体の諸機能に悪影響をもたらす、そこで運動機能障害を抱える人の検査、治療、日常生活上の問題について述べ、これらの人々への援助方法について説明する。	眞嶋　朋子（千葉大学教授）	眞嶋　朋子（千葉大学教授）
13	排便機能障害に伴う成人への援助	日常生活行動としての排便に焦点を当て、消化器疾患、脳卒中、脊髄損傷による排便機能障害に伴う成人への援助について説明する。大腸ファイバースコープによる検査・治療時の援助、人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導、および脳卒中や脊髄損傷による排便機能への対応について述べる。また、機能障害の原因となるイレウスの予防と改善についても説明する。	稲吉　光子（北里大学教授）	稲吉　光子（北里大学教授）
14	生殖器疾患と性機能障害に伴う成人への援助	前立腺や精巣、子宮・卵巣などの生殖器の疾患を持つ人々は、その治療過程のみならず治療終了後にも様々な心身の苦痛や生活上の困難に遭遇する。特に生殖器は性行動・性機能を司る重要な機能を有し、その障害はセクシュアリティの障害として広く人々の生活や人生に影響を及ぼす。そこでこれらの人々への援助について説明する。	井上　智子（東京医科歯科大学教授）	井上　智子（東京医科歯科大学教授）
15	がん罹患及び人生の終末期を生きる人への援助	がんに罹患した人は、発生部位や種類などによって異なるが、概ね病名と予後の告知、がん治療、癌と共に生きるといった問題を抱え、援助を必要とする。また、人生途上で死に直面し、終末段階を生きる人には、家族を含んで特別な援助を行う必要がある。以上について説明する。	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）	佐藤　禮子（兵庫医療大学副学長）

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1886908	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　老年看護学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：正木　治恵（千葉大学教授）　　〕

講義概要

本科目は、生物学的な老化や高齢者政策としての社会的な変化の中で高齢者を捉え、老いて生きる人々を看護する立場から組み立てる。構成としては、まず老年看護学の目標を確認したうえで、加齢に伴う変化の特徴を理解し、身体的機能・精神的機能・社会的機能の変化について、その一般的変化と多様性の観点から学ぶ。そして、老年看護の目標に照らして、健康生活の維持とセルフケア、健康維持のためのマネジメント、老年期に多い疾病・治療とリハビリテーション、認知症高齢者のケア、要介護高齢者と家族への支援、ならびに高齢者の終末期看護について学ぶ。最後に老年看護学の今後の課題について考察する。

授業の目標

全15回の講義を通じ、ステレオタイプな高齢者像から脱却し、個性豊かな高齢者を捉える視点を学ぶ。また、人は老年期までの長い人生を生き抜くものであること、老化により体力・気力が衰えてなお、人間的に豊かに暮らすことができること、看護はそれにいかに答えることができるか、という視点に立ち、高齢者の健康生活を支える看護を実践していくための基本的知識・技術を習得することを目的とする。

履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	老年期を生きる人々の特徴と老年看護の目標	社会の変化の中で高齢者を捉え、看護する立場から、老年期を生きる人々とその生活を理解する方法について解説する。また、老年看護における対象の特性、ならびに老年看護の目標と基本姿勢について述べる。 【キーワード】 老いの個別性、老年期、人生の統合、健康維持、生命の尊厳	正木治恵（千葉大学教授）	正木治恵（千葉大学教授）
2	高齢者保健施策と高齢者ケア施設	高齢者ケアを方向付ける法規として老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン、介護保険法を概説する。高齢者ケアを支える諸施設および職種とその役割について述べる。また、高齢者をとりまく社会の変化とそれに対応した看護師の役割を考察する。 【キーワード】 ゴールドプラン、介護保険法、高齢者ケアの場と役割、高齢者ケアにかかわる他職種	勝野とわ子（首都大学東京教授）	勝野とわ子（首都大学東京教授）
3	加齢に伴う諸機能の変化と健康生活への支援	高齢者の身体的機能、精神的機能、社会的機能について、加齢に伴う変化の特徴を概説する。高齢者看護の目標とそれを達成するためのヘルスアセスメント方法の原則とポイントを述べる。また、高齢者への効果的なコミュニケーション技術と感覚器（聴覚、視覚など）のアセスメントの重要性について解説する。 【キーワード】 加齢に伴う諸変化、ヘルスアセスメント、コミュニケーションの方法	同　上	同　上

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	老年期の健康生活の維持とセルフケア	高齢者の健康やセルフケアの意味について概説し、その人らしくセルフケアを行い健康生活を維持するための援助のあり方について述べる。 その上で、健康生活維持のために重要となる、活動と休息のバランスの保持、食事や排泄の調整、社会生活の維持に関するセルフケアとその支援方法について解説する。 【キーワード】 健康生活、セルフケア、健康生活維持のための支援方法	清水安子(大阪大学大学院教授)	清水安子(大阪大学大学院教授)
5	老年期の健康維持のためのマネジメント1 ー呼吸・感染管理	高齢者の呼吸機能とその障害ならびに影響要因について解説し、呼吸機能のアセスメント方法について述べる。また、高齢者に起こりやすい呼吸障害や感染症、ならびに予防のための方法について述べる。 【キーワード】 呼吸機能の加齢変化・障害のアセスメント、呼吸ケアと感染管理	正木治恵(千葉大学教授)	正木治恵(千葉大学教授)
6	老年期の健康維持のためのマネジメント2 ー摂食・栄養管理	高齢者の食事摂取がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、栄養状態、摂食のアセスメント方法、健康維持のためのマネジメントについて述べる。また、嚥下障害等障害に応じた栄養摂取と食にまつわる心理・社会的側面を考慮した援助方法について述べる。 【キーワード】 栄養状態、摂食のアセスメント、摂食・栄養管理	清水安子(大阪大学大学院教授)	清水安子(大阪大学大学院教授)
7	老年期の健康維持のためのマネジメント3 ー排泄・皮膚管理	高齢者の排泄(排便・排尿)能力がどのように障害されていくか、その影響要因は何かについて解説し、アセスメント方法と薬物管理を含めた援助方法について述べる。また、高齢者の皮膚とその特徴について解説し、スキンケア、褥瘡対策の方法について述べる。 【キーワード】 排泄機能の加齢変化・障害のアセスメント、排泄ケア、スキンケア	同上	同上
8	老年期の疾病・治療とリハビリテーション1 ー身体運動機能の障害と看護	老年期に生じがちな身体運動機能の障害について説明する。またその影響として現れる行動範囲の縮小および、活動性の低下、廃用性変化、転倒・骨折の危険性等に関するアセスメントと看護、および予防について説明する。 【キーワード】 リハビリテーション, 身体運動機能, 廃用性変化, 転倒	酒井郁子(千葉大学大学院教授)	酒井郁子(千葉大学大学院教授)
9	老年期の疾病・治療とリハビリテーション2 ー日常生活活動と自立支援	老年期におけるADLと生活意欲の捉え方について述べる。次にいきいきとリハビリテーション取り組むために必要な看護の方法について説明する。 【キーワード】 リハビリテーション, 生活機能障害, ADL, 意欲, QOL	同上	同上
10	老年期の疾病・治療とリハビリテーション3 ー周手術期の看護	手術を受ける高齢者に特有の、痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また手術に伴う苦痛を軽減し周手術期を高齢者が乗り越えるための看護の方法について述べる。 【キーワード】 周手術期, 合併症予防, せん妄, 急性疼痛	同上	同上

夏季集中科目

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	認知症高齢者の理解とケアの変遷	認知症高齢者のケアの変遷を説明し、認知症高齢者が急増する時代の中で看護師が果たす役割とあるべきケアの方向性を確認する。認知症高齢者の全人的ケアを展開していくための基礎として、当事者体験をベースにしながら複合的な障害と潜在力の理解、それらを活かした先進的なケアの実例を紹介する。 【キーワード】 新しい認知症ケア、中核症状と周辺症状、認知症のステージ別アプローチ方法	永田久美子（認知症介護研究研修東京センター主任研究主幹）	永田久美子（認知症介護研究研修東京センター主任研究主幹）
12	認知症ケアの実践とチームアプローチ	認知症高齢者のケアの基盤となる環境作りとコミュニケーション、日常生活支援・地域支援に関する考え方と技術を説明しながら、現場で遭遇する認知症高齢者の課題への取り組み方を示す。あわせて認知症高齢者のケアで不可欠なチームアプローチを説明し看護師の活躍例を紹介する。 【キーワード】 なじみの関係作り、なじみの環境作り、日常生活支援、地域支援、チームアプローチ	同　上	同　上
13	在宅における要介護高齢者と家族の支援	要介護高齢者、特に認知症高齢者と家族への看護活動の重要性を理解する。さらに、質の高い看護ケアを提供するためのアセスメント方法などの援助方法について述べる。また、事例を通して家族への看護援助の過程を理解すると共に他機関、他職種と協働しながら支援していく援助方法について考察する。 【キーワード】 認知症高齢者と家族への支援、家族アセスメント、他職種との協働	勝野とわ子（首都大学東京教授）	勝野とわ子（首都大学東京教授）
14	終末期を迎える高齢者と家族への支援	高齢者の「老いて死ぬ」人生の最終段階をより豊かに生きることを支援すること、そして看とる家族を支える方法について述べる。また、高齢者の終末期看護について考察する。 【キーワード】 人生の終焉、リビングウイル、看取り、終末期ケア	正木治恵（千葉大学教授）	正木治恵（千葉大学教授）
15	老年看護学の課題	保健医療福祉制度の変革の中にある高齢者ケアについて、看護師の果たす役割の変化をとらえ、倫理的課題を含む老年看護実践の発展と老年看護学の今後の展望について考察する。 【キーワード】 高齢者の尊厳、高齢者虐待の防止、地域包括ケアシステム	同　上	同　上

＝　小児看護学（‘０５）＝（TV）

〔 主 任 講 師：筒井　真優美（日本赤十字看護大学教授）〕

全体のねらい

近年の子どもと家族を取り巻く社会環境の変化は子どもの心身の健康状態に影響を及ぼし、また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で入院している子ども達の病気は重症化している。

こうした状況の中で、21 世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学び、さらに、子どもと家族に対する今後の課題や私達の役割について考える。

回	テ　ー　マ	内　　容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
1	小児看護の動向と看護の役割	子どもと家族が置かれている状況を、社会環境と医療環境から考える。子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護の役割を説明する。	筒井真優美（日本赤十字看護大学講師）	筒井真優美（日本赤十字看護大学講師）
2	乳児と家族	乳児は生理的適応過程にあり、身体機能が著しく成長発達しながら栄養・睡眠・排泄リズムや言語を獲得し、基本的信頼関係を築く過程でもある。この成長発達を育む家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。	江本リナ（日本赤十字看護大学准教授）	江本リナ（日本赤十字看護大学准教授）
3	幼児と家族	幼児期は心身の発達が著しく、基本的生活習慣を習得していくプロセスでもある。運動機能の発達により行動範囲が広がり、認知や言語の発達によりコミュニケーション能力が向上する。この発達プロセスと子どもを育むための家族の役割、子どもと家族への支援について説明する。	筒井真優美	筒井真優美
4	学童期・思春期の子どもと家族	学童期は学校生活を中心として友達との関わりの中で達成感や有能感を獲得していく時期である。また、思春期は身体の劇的な成長や性的な変化を体験し、精神的な動揺の大きい時期であるが、その中で自我同一性を模索し、獲得していく。こうした子どもの成長発達の特徴と家族関係の変化について述べる。	飯村直子（東邦大学教授）	飯村直子（東邦大学教授）
5	病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	病気や入院が子どもと家族に与える影響は大きく、様々な因子によって変化する。子どもの発達段階別、入院形態別などによる援助、および面会や付き添いについて説明する。	筒井真優美	筒井真優美

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	急性期にある子どもと家族 その①	急性期疾患を抱える子どもの場合、症状の悪化を防ぎ、安定した状態になることを目指す。そこで、発熱・脱水・呼吸困難・けいれんなど急性期の主な症状とその病態、観察ポイント、症状緩和に対する援助、家族への支援について説明する。また、乳幼児に多くみられる乳幼児突然死症候群についても触れる。	江本　リナ	江本　リナ
7	急性期にある子どもと家族 その②	小児期に発症する主な感染症の特徴、観察ポイント、発症と伝播を防ぐ予防接種について説明し、感染症の子どもと家族への援助について述べる。また、緊急度の把握、受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減に対する援助についても説明する。	江本　リナ	江本　リナ
8	慢性期にある子どもと家族／外来における看護	現在、小児特定慢性疾患治療研究事業の対象となっている疾患群は11疾患群である。慢性疾患を抱えながら学校や幼稚園・保育園に通い、地域で生活している子どもと家族に対して必要とされる継続的な援助について説明する。さらに、外来の3つの役割(日常的な疾患への対応、継続的なケアを必要とする子どもへの援助、健康増進活動)について述べる。	飯村　直子	飯村　直子
9	子どもへの説明	子どもが医療を受ける際、説明を受けることで自ら取り組むことが出来るようになる。そのためには、子ども自身が納得して同意すること（ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｱｾﾝﾄ）が重要である。ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｱｾﾝﾄに必要な子どもの能力、ｱｾﾝﾄの要素、家族や医療者の役割について、説明する。	筒井真優美	筒井真優美
10	先天性の疾患を持つ子どもと家族	子どもの先天性の疾患は、その発生機序にしたがって遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病に分けられる。それぞれの代表的な疾患を挙げ、その治療、予後、また、子どもと家族への援助について述べる。	飯村　直子	飯村　直子
11	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助について述べる。また、近年増加している日帰り手術について説明する。	飯村　直子	飯村　直子
12	子どもの事故と救急	不慮の事故は常に乳幼児死亡の原因の上位を占めている。発達段階別に子どもの事故の特徴を概観し、その予防策について述べる。また、気管内異物、誤飲、溺水、熱傷などの際の救急法について説明する。	飯村　直子	飯村　直子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
13	障害を持つ子どもと家族／在宅ケア	障害児のなかでも特に、医療的ケアを必要とする長期入院児とその家族が置かれている状況を考え、生活場所の意思決定、在宅に移行するための準備など、退院に向けた支援について説明する。さらに、子どもが成長発達に応じた通常の生活をするために、在宅ケアにおける看護師の役割を説明する。	鈴木真知子（京都大学大学院教授）	鈴木真知子（京都大学大学院教授）
14	隔離・活動制限／痛み	子ども自身や周囲の人を感染から防ぐために隔離が必要な場合や、治療・検査のために一時的に体動が制限される場合の子どもへの影響と、子どもと家族への支援について説明する。また、子どもが体験する痛み、影響する要因、痛みの客観的評価、痛みの緩和への援助について説明する。	江本　リナ	江本　リナ
15	子どもの死と家族への看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族にどのような援助が必要かを考える。死に対する子どもの反応や、他人の死を子どもにどのように伝えるかなど、死をめぐる課題を説明する。また、災害（自然災害及び人為的災害）時の子どもと家族への援助について考える。	筒井真優美	筒井真優美

＝　母性看護学（‘０５）＝（TV）

〔主任講師：　小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）〕

全体のねらい

女性の健康について思春期から老年期までの身体的、心理・社会的変化プロセスからとり上げ、それらの変化にスムーズに適応するための支援について理解を深める。さらに焦点を子どもを生み、育てる時期にある女性と男性・家族に置き、かれらが安全で満足する生活をおくるための健康支援について学ぶ。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	母性看護学の概要	母性看護学を支える主なる概念として母性（女性）の健康観、関連する諸理論を説明し、母性看護の役割とこれからの方向性について考える。具体的にはリプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアリテイ、セルフケア、家族発達などが主要概念となる。また女性ライフサイクルからみた健康問題や母子の健康上のニーズについて統計指標から説明し、現状の課題について考える。	小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）	小松　美穂子（茨城キリスト教大学教授）
2	女性の健康と保健医療システム	ウィメンズヘルスという概念がどのような経緯で生まれてきたのか、さらにジェンダー概念の導入で、性差医療がクローズアップされようしているが、その中で女性の健康をどのように考えていくべきかを学習する。さらに現在の保健医療システムが女性の健康をカバーするものになっているかを検証しながら、今後の女性特有の保健医療システムあり方を考察する。	吉沢　豊予子（東北大学大学院教授）	吉沢　豊予子（東北大学大学院教授）
3	女性の健康に関する意思決定	インフォームドコンセント等の普及で様々な健康にかかわる場面で、女性たちは意思決定が迫られている。 最初に女性たちの意思決定の特徴について解説する。次に女性たちはどのような場面で意思決定をするのかについて、例えば、子どもを産む、産まないの選択、どのような避妊方法を用いるのかの選択、治療の選択など多々ある。これらを取り上げ女性の意思決定の方法とそれを看護者はどのように支えるか、さらに自ら意思決定する重要性について説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子
4	性と生殖のメカニズム	「性とは何か？」と問われれば、返答に苦慮するほどの意味が含まれているだろう。今回はその「性」に含まれる意味や、ヒトの発生、さらには妊娠成立の前提となる卵子と精子の成熟（いわゆる性周期とホルモン動態）、並びに受胎のメカニズムについて説明する。	佐藤　喜根子（東北大学大学院教授）	佐藤　喜根子（東北大学大学院教授）
5	妊娠期の看護　Ⅰ 妊婦と家族のアセスメント	妊娠は、生理的かつ健康的な現象であるが、妊娠により生じる様々な変化への適応がうまくいかない場合には心身の異常や生活障害、あるいは家族の危機を引き起こす可能性がある。いわば「半健康状態」と捉えられる。妊娠経過は順調か、快適な日常生活を過ごせているか、新たに子どもを迎える家族としての準備は進んでいるか等、妊婦とその家族を理解する上で必要な身体的・社会的アセスメントの視点と具体的方法について説明する。	坂間　伊津美（茨城キリスト教大学准教授） 小松　美穂子	坂間　伊津美（茨城キリスト教大学准教授） 小松　美穂子

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
6	妊娠期の看護 II 妊婦と家族のケア	妊娠期には、妊婦の多くが家庭で生活している。したがって、外来での健康診査や健康教育は、看護職が妊婦や家族に出会える重要な機会であり、そこでなされる看護は妊婦の健康を方向付けるという意味合いをもつ。「セルフケア」「主体性」をキーワードとしながら、母子と家族が、安全に快適に妊娠期を過ごし、分娩・育児に向けての準備を行えるための看護ケアについて説明する。	坂間　伊津美 小松　美穂子	坂間　伊津美 小松　美穂子
7	分娩期の看護 産婦と家族のアセスメントとケア	現在の出産を取り巻く環境は、非常に多岐にわたり、それゆえに出産する産婦のみならず家族の出産に対するニーズも多様化している。出産場所も病院のみならず助産所や自宅へと拡大している。また、高度医療化に伴う分娩管理も行われている。今回は、このような日本の出産事情について広く理解を深めながら、産婦と家族が自分の分娩に満足しながら新しい家族を迎えていくための分娩期の看護について説明する。	跡上　富美 (東北大学大学院准教授)	跡上　富美 (東北大学大学院准教授)
8	産褥期の看護 I 産褥早期(入院中)の褥婦と家族のアセスメントとそのケア	産褥早期の褥婦は、妊娠・出産の経過からの回復過程にあると同時に、新生児に慣れ授乳など育児の方法を獲得するなど多くの項目を学習する過程にある。初産・経産の別や妊娠・出産の経過などの相違から産褥期の褥婦の状況は個々に大きく異なっており、産褥早期の褥婦のケアにあたってはこのような個人差を踏まえた丁寧なアセスメントが必要である。本章では、このような産褥早期の褥婦のアセスメントとケアについて説明する。	成田　伸 (自治医科大学教授)	成田　伸 (自治医科大学教授)
9	産褥期の看護 II 家庭での褥婦と家族のアセスメントとそのケア	出産で入院していた施設から退院した子どもと共に退院した褥婦は、家族の協力を得ながら、子どもの育児を自力で行うまでに自立していく。家庭での褥婦と家族のアセスメントにあたっては、褥婦と家族のセルフケア能力を十分アセスメントし、必要なケア計画を立てていく必要がある。また家族の関係性をアセスメントし、母子が家族に十分サポートされているかどうか判断することが必要となる。本章では、このような家庭での褥婦と家族のアセスメントとケアについて説明する。	成田　伸	成田　伸
10	新生児期の看護 I 新生児のアセスメント	新生児は、出生直後から子宮外生活への適応に向けた複雑な過程を開始する。新生児のアセスメントは、看護の重要な機能である。アセスメントの目的は、①健康状態に関する出生前の影響を明らかにし、リスク状態を確認すること、②新生児の基本情報を提供すること、③異常や現在の健康問題または潜在的健康問題を明らかにすること、④新生児への適切な看護ケアを立案し、両親の教育ニーズを明確にすることである。また、アセスメントには、母親の既往歴や妊娠・分娩歴、身体的・行動学的評価が含まれる。ここでは、アセスメントの視点について説明する。	近藤　好枝 (慶應義塾大学教授)	近藤　好枝 (慶應義塾大学教授)
11	新生児期の看護 II 新生児のケア	正常新生児のケアの目標は、①子宮内生活から子宮外生活への生理学的適応を支援する、②感染を避けることによって安全な環境を提供する、③両親とのアタッチメントを促進するための機会を提供する、④両親が知識や技術を修得し、新生児のケアに自信がもてるように支援することなどである。ここではそれに加えて、新生児の健康を維持促進するための介入および低出生体重児のケアについても概説する。	近藤　好枝	近藤　好枝

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
12	健康障害のある妊産婦へのケア	かつては母体管理を第一に考え、如何に無事に妊産褥期を過ごさせるかが優先された。しかし最近の医療現場は、超音波診断技術等の進歩により、母体の安全を確保しつつ、胎児に生存のチャンスと可能な限りの Quality of Life を与えようと日々努力している。 今回は妊娠期に健康障害として多い切迫流早産を中心に、その他の合併疾患も交えつつ、妊娠初期・中期・末期それぞれに健康障害としてチェックすべき観察ポイントを挙げながら、いかに看護ケアを実施していけばよいかを、具体的に症例を示しながら展開していく。	佐藤　喜根子	佐藤　喜根子
13	不妊と看護	「不妊」は、リプロダクティブヘルスの問題であり、女性だけの問題ではない。しかし、女性は不妊であることや不妊治療に伴い、身体的・心理社会的に多くのストレスを受けているとされる。不妊症の原因、不妊治療の種類を概観し、不妊治療を受ける夫婦の心理および看護の役割について、生殖をめぐる倫理も含め説明する。	森　恵美（千葉大学教授）	森　恵美（千葉大学教授）
14	女性のライフサイクルと健康　I －思春期・成熟期の健康－	14回、15回では一生涯を通じた女性の健康について、各ライフステージにある女性たちの身体的、心理社会的、そして文化的背景を考慮した健康のあり方を考える。思春期は初経から始まり、月経に関する健康問題、栄養に関する健康問題、性に関する健康問題、メンタルな健康問題について、成熟期では月経にまつわる PMS、女性特有の生殖器系の健康問題、性感染症、DV に関する問題、さらに健康問題に女性たちはどのように取り組み、セルフケア力をつけていくのか、看護職はそれをどのように援助するかについて説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子
15	女性のライフサイクルと健康　II －更年期・老年期の健康－	更年期にある女性は身体的に閉経という体験をする。これに伴い今後どのような身体的健康問題を抱えるようになるのか、心理社会的にどのような変化が出てくるのかを学習する。また、それに対し女性たちはどのように対処すべきであるのか、看護職はどのように援助するかについても学習する。次に老年期にある女性の特徴を身体的、心理社会的な側面から学習する。さらに中高年女性の特徴的な健康問題として、骨粗鬆症、尿失禁、生殖系の健康問題、乳がん、メンタルな健康問題についても説明する。	吉沢　豊予子	吉沢　豊予子

事務局記載欄	開講年度	２００９年度	科目区分	夏季集中（看護師）	科目ｺｰﾄﾞ	1886916	履修制限	有	単位数	2

科目名（メディア） ＝　　精神看護学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：出口　禎子（北里大学教授）　〕

【担当専任教員：高崎　絹子（放送大学教授）　】

講義概要

精神看護の対象は精神疾患を持った人に限らず、年齢も発達段階も多様である。最近では精神看護学は、広く人間を理解するための精神保健と、精神疾患を持った人へのケアの方法を学習する精神看護学の2領域で構成されている。ここでは、ライフサイクルに伴うストレスやその対処法、家族内の人間関係、歴史や法律、人権擁護などについての基礎知識を習得した上で、主な精神疾患の理解とケアの方法を学習する。さらに日本の精神医療における課題となっているリハビリテーションの現状や触法医療についても学習を進める。

授業の目標

精神看護学は看護の対象である人間の心理と行動を理解するための基礎となる科目である。その基礎知識をもとに疾患や障害を持っている人とその家族をめぐる人間関係を理解し、精神疾患患者と看護師との援助関係を築きながら、彼らが自分らしく生きるために看護が果たす役割と支援方法について理解する。

履修上の留意点

最近の精神医療の動向や法律の改正などにも関心を持ち、メディアからの情報にも注目しながら学習を進める。

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
1	精神看護学の考え方	単に病気や障害のあるなしに関わらず、すべての人に自己実現を目指して自分らしく生きる権利がある。精神看護はそのような生き方を支援する役割を持つ。また人は人と人との関わりの中で傷つくことも多いが人との関わりと通して癒されるという対人関係の基本的な考え方を学習する。 【キーワード】 健康の概念　自己理解	出口禎子（北里大学教授）	出口禎子（北里大学教授）
2	人間の精神活動と防衛機制	危機状況下で自然に起こる感情反応である不安は、解決への道筋で、人間の心的生活にポジティブな影響を与えるものでもある。精神活動を精神機能と身体の観点から捉えた上で、不安や脅威が生じたときに無意識的に働く自我の防衛機制に焦点を当て学習する。 【キーワード】 精神活動　不安　防衛機制	榊惠子（北里大学准教授）	榊惠子（北里大学准教授）
3	ライフサイクルとメンタルヘルス	人はそれぞれ成長に伴う発達課題を乗り越えながら生きている。私達の人生とメンタルヘルスは切り離せないものであるが、各年代の発達課題の特徴とそれらが人生に与える影響を説明する。 【キーワード】 ライフサイクル、発達課題、メンタルヘルス	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）

回	テーマ	内容	執筆担当講師名(所属・職名)	放送担当講師名(所属・職名)
4	精神医療の歴史	精神医療は、精神障害者に対する隔離や拘束の時代からノーマライゼーションが推進される時代へと変遷をとげている。ここでは、欧米・日本の精神医療について解説する。 【キーワード】 欧米の歴史、日本の歴史、精神障害者の処遇	岡田佳詠(淑徳大学准教授)	岡田佳詠(淑徳大学准教授)
5	人権擁護と法律	精神医療には、入院形態や施錠、拘束など強制的な行為が伴う。だからこそ精神医療には人権擁護の考えが必要性である。様々な制約が患者の心理や生活に与える影響を、インフォームドコンセントや自己決定の視点から考える。 【キーワード】 精神保健医療福祉に関連する法律、精神保健医療福祉施策、精神科看護師の倫理的役割	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)
6	精神障害をもつ人の生活	心を病む体験は、精神症状、日常生活、個々の生活史、家族や地域あるいは看護師を含む医療者との人間関係などから、さまざまな影響を受けている。こうした視点から体験を捉えながら、精神障害者の生活理解を図る。 【キーワード】 精神症状　生活史　人間関係	榊惠子(北里大学准教授)	榊惠子(北里大学准教授)
7	精神障害者と家族	家族関係は、精神障害者の生活や生きる困難さに直接関与している。そのため、障害者を支える家族への心理・社会的支援が必要である。家族の障害者への影響、障害者の家族が置かれている状況を知り、さらには家族支援のあり方を学習する。 【キーワード】 家族関係　家族の抱える困難　心理・社会的支援	榊惠子(北里大学准教授)	榊惠子(北里大学准教授)
8	精神科におけるケアの方法	入浴の介助や洗髪など日常生活行動やプログラム参加への支援は重要なケアである。それぞれの援助は精神療法的な関わりの場となり、対人関係を深める機会となる。その役割と根拠について説明する。 【キーワード】 日常生活行動　プログラム学習　社会学習	出口禎子(北里大学教授)	出口禎子(北里大学教授)
9	精神科における治療の概要とケア①	精神科では、薬物以外にも精神療法、社会療法など多くの治療がある。ここでは、特に精神療法のなかでも、近年うつ病や統合失調症などに効果があるとされる認知行動療法について解説する。 【キーワード】 精神療法、認知行動療法、社会療法、	岡田佳詠(淑徳大学准教授)	岡田佳詠(淑徳大学准教授)
10	精神科における治療の概要とケア②	薬物療法が導入されて以後、精神障害者を苦しめる精神症状はコントロールできるようになった。特に急性期における薬物療法の意義は大きいが、その一方で向精神薬には深刻な副作用もあり、患者の日常生活や予後にも大きな影響を与えている。ここでは薬物療法の考え方と援助方法の基本を学習する。 【キーワード】 精神科における薬物療法、服薬を支える看護、服薬自己管理	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)	荻野雅(国際医療福祉大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当講師名（所属・職名）	放送担当講師名（所属・職名）
11	統合失調症の人への援助	統合失調症は、現在、人口の0.5～2%の有病率と決して珍しい疾患ではなく、精神病院の入院患者のうち最も多くを占める。ここでは、統合失調症の症状、病因、診断、予後、治療、看護等について解説する。 【キーワード】 統合失調症、セルフケア援助、服薬・症状管理	岡田佳詠（淑徳大学准教授）	岡田佳詠（淑徳大学准教授）
12	気分障害の人への援助	近年、うつ病や躁うつ病等の気分障害で悩む人々が増加する傾向にある。病気の特徴を理解した上で、より患者の状況に適した治療および看護援助について学習するとともに、気分障害の人々が社会の中で自分らしさを保ちながら回復過程を歩むことができるように、社会資源の活用や予防対策について学習する。 【キーワード】 うつ病、躁うつ病、セルフケア援助	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）
13	精神科リハビリテーションの考え方	精神科におけるリハビリテーションは、社会復帰という意味に留まらず、全人的復権を意味する。就労の機会や自分で自分の住む場所を選択し、自分らしい生き方を支援する看護の役割と、現在のリハビリテーションの課題について学習する。 【キーワード】 精神科リハビリテーションの概念、施設で行われる精神科リハビリテーション、地域で行われる精神科リハビリテーション	荻野雅（国際医療福祉大学准教授）	荻野雅（国際医療福祉大学准教授）
14	地域ケアとソーシャルサポート	障害を持ちながら社会の中で生きるためには、様々な居宅支援や就労支援に関するソーシャルサポートの方法がある。その種類と実際の活用の実態、および社会生活を支援する看護師の役割について学習する。 【キーワード】 ソーシャルサポート　居宅生活支援　就労支援	出口禎子（北里大学教授）	ゲスト：千葉信子さん 出口禎子（北里大学教授）
15	精神看護専門看護師と看護活動	精神看護および精神科看護における、より高度な知識と技術を用いて看護ケアの質の向上を図る目的で専門看護師／認定看護師が誕生し、看護現場で活躍している。ここでは、認定看護師／専門看護師に関する教育・制度・看護活動の実際について学習する。 【キーワード】 精神看護、認定看護師、専門看護師	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）	若狭紅子（国際医療福祉大学教授）

夏季集中科目

この冊子に掲載した平成21年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています